神奈川県環境影響評価条例に基づく東京南線3,4号線改修工事の環境影響予測評価書案の縦覧と説明会の実施について

神奈川県環境影響評価条例に基づき，送電線路の東京南線3,4号線改修工事の環境への影響を調査・予測・評価した結果を記載した環境影響予測評価書案の縦覧と説明会を実施します。

１．事業者の氏名及び住所
名　称：東京電力パワーグリッド株式会社
代表者：代表取締役社長　金子　禎則
住　所：東京都千代田区内幸町１丁目１番３号

２．対象事業の名称，種類及び規模
名　称：東京南線3,4号線改修工事
種　類：電気工作物の建設
要　件：内容　電線路
規模実施地域等：乙地域　延長1㎞以上かつ電圧17万Ｖ以上の架空送電線

３．対象事業実施区域
横須賀市，逗子市，葉山町

４．縦覧の方法及び期間
方　　法：インターネットによる縦覧
期　　間：２０２６年１月２０日（火）～３月　５日（木）
https://www.tepco.co.jp/pg/company/summary/office/kanagawa/index-j.html

５．予測評価書案の説明会の場所と日時
葉山町　：福祉文化会館（大会議室）
２０２６年　２月　５日(木）午後７時００分～
逗子市　：逗子文化プラザホール（さざなみホール）
２０２６年　２月　９日(月）午後７時００分～
横須賀市：衣笠コミュニティセンター（多目的室）
２０２６年　２月１６日(月）午後７時００分～

６．お問い合わせ先
東京電力パワーグリッド㈱送変電建設センター送電整備第三グループ
（代表番号）０３－６３７４－１０８０
２０２６年１月２０日（火）～３月　５日（木）（土曜日、日曜日、祭日を除く）午前9時～午後5時

以　上

東京南線 3，4 号線改修工事
環境影響予測評価書案

令和 7 年 12 月

東京電力パワーグリッド株式会社

第３号様式（条例第13条及び第23条、規則第11条及び第31条関係）

環 境 影 響 予 測 評 価 書 案

令和７年１２月１６日

神 奈 川 県 知 事 殿

郵便番号　100－8560
住　　所　東京都千代田区内幸町１丁目１番３号
氏　　名　東京電力パワーグリッド株式会社
　　代表取締役社長　金子 禎則
電話番号　03－6373－1111
（問い合わせ先）送変電建設センター 送電整備第三グループ
　　03－6374－1080

神奈川県環境影響評価条例第13条の規定により次のとおり提出します。

対象事業等の名称	名称	東京南線3,4号線改修工事	
	種類	電気工作物の建設（電線路）	
	目的又は実施を必要とする理由	別添1　参照	
手続等を行う前に、対象事業の実施に関し環境に配慮した内容		別添2　参照	
対象事業等の位置	位置又は実施区域	別添3-1　参照	
	位置又は実施区域及び周辺地域の環境の特性	別添3-2　参照	
対象事業等の内容	規模	別添4-1　参照	
	実施方法	別添4-2　参照	
	その他の内容	別添4-3　参照	
調査等の結果等	評価項目の選定	別添5-1　参照	
	環境影響予測評価	別添5-2　参照	
	配慮事項の選定及び環境保全上の見地から講じようとする措置	別添5-3　参照	
	事後調査の計画	別添5-4　参照	
	審査意見書に基づく実施計画書の変更内容又は変更しない場合は、その理由	別添5-5　参照	
その他	調査等の受託者	住所　神奈川県横浜市金沢区幸浦２丁目１－１３ 氏名　ユーロフィン日本環境株式会社 代表取締役社長　木村 克年	
	対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容	別添6　参照	
	対象事業の実施予定期間	着手予定年月	2026年8月
		完了予定年月	2029年12月
	備考		

総　目　次

別添 1　対象事業の目的又は実施を必要とする理由 ····· 1-1-1

第 1 章　対象事業の目的又は実施を必要とする理由 ····· 1-1-1

別添 2　手続きを行う前に、対象事業の実施に関し環境に配慮した内容 ····· 2-1-1

第 1 章　手続きを行う前に、対象事業の実施に関し環境に配慮した内容 ····· 2-1-1

別添 3　対象事業の位置等 ····· 3-1-1

別添 3-1　位置又は実施区域 ····· 3-1-1

第 1 章　実施区域 ····· 3-1-1

第 2 章　神奈川県環境影響評価条例に係る地域区分 ····· 3-1-2

別添 3-2　位置又は実施区域及び周辺地域の環境の特性 ····· 3-2-1

第 1 章　社会的状況 ····· 3-2-1

第 1 節　行政区画 ····· 3-2-1
第 2 節　人口 ····· 3-2-3
第 3 節　産業 ····· 3-2-4
第 4 節　土地利用 ····· 3-2-6
第 5 節　交通 ····· 3-2-10
第 6 節　水利用 ····· 3-2-17
第 7 節　環境保全に留意を要する施設 ····· 3-2-19
第 8 節　環境関連の社会資本の状況 ····· 3-2-29
第 9 節　公害の状況 ····· 3-2-40
第 10 節　公害苦情の状況 ····· 3-2-63
第 11 節　関係法令の指定・規制等 ····· 3-2-63

第 2 章　自然的状況 ····· 3-2-80
第 1 節　気象 ····· 3-2-80
第 2 節　水象 ····· 3-2-81
第 3 節　地象 ····· 3-2-82
第 4 節　生物 ····· 3-2-85
第 3 章　その他の状況 ····· 3-2-123
第 1 節　文化財 ····· 3-2-123
第 2 節　レクリエーション資源 ····· 3-2-134
第 3 節　地域景観の特性 ····· 3-2-137

別添 4　対象事業の内容 ····· 4-1-1
別添 4-1　規模 ····· 4-1-1
第 1 章　事業計画全体の概要 ····· 4-1-1
第 2 章　実施区域の規模 ····· 4-1-2
第 3 章　工事計画 ····· 4-1-4
別添 4-2　実施方法 ····· 4-2-1
第 1 章　工事工程 ····· 4-2-1
第 2 章　鉄塔及び基礎の概要 ····· 4-2-3
第 3 章　施工計画 ····· 4-2-4
第 1 節　仮設工事 ····· 4-2-4
第 2 節　基礎工事 ····· 4-2-12
第 3 節　鉄塔組立工事 ····· 4-2-14
第 4 節　既設鉄塔撤去工事 ····· 4-2-16
第 5 節　電線移線工事 ····· 4-2-17
第 6 節　既設基礎部分撤去工事 ····· 4-2-17
第 7 節　その他工事 ····· 4-2-18
第 4 章　使用建設機械等 ····· 4-2-19
第 1 節　使用建設機械及び台数等 ····· 4-2-19
第 2 節　工事用車両 ····· 4-2-20
第 3 節　資材運搬ヘリコプター ····· 4-2-25
第 4 節　運搬する資機材 ····· 4-2-27

別添 4-3　その他の内容 ····· 4-3-1

第 1 章　廃棄物 ····· 4-3-1

第 2 章　発生土 ····· 4-3-1

別添 5　調査等の結果等 ····· 5-1-1

別添 5-1　評価項目の選定 ····· 5-1-1

第 1 章　環境要因の把握 ····· 5-1-1

第 2 章　評価項目の選定 ····· 5-1-2

第 1 節　評価項目選定表 ····· 5-1-2
第 2 節　評価項目の選定もしくは非選定の理由 ····· 5-1-3

別添 5-2　環境影響予測評価 ····· 5-2-1

別添 5-2-1　調査結果 ····· 5-2-1

第 1 章　調査結果 ····· 5-2-1

第 1 節　騒音・低周波音 ····· 5-2-1
第 2 節　振動 ····· 5-2-10
第 3 節　廃棄物・発生土 ····· 5-2-16
第 4 節　植物・動物・生態系 ····· 5-2-19
第 5 節　景観 ····· 5-2-232
第 6 節　レクリエーション資源 ····· 5-2-267
第 7 節　安全 ····· 5-2-274

別添 5-2-2　予測評価 ····· 5-2-284

第 1 章　予測評価 ····· 5-2-284

第 1 節　騒音・低周波音 ····· 5-2-284
第 2 節　振動 ····· 5-2-308
第 3 節　廃棄物・発生土 ····· 5-2-318
第 4 節　植物・動物・生態系 ····· 5-2-323
第 5 節　景観 ····· 5-2-392
第 6 節　レクリエーション資源 ····· 5-2-404
第 7 節　安全 ····· 5-2-408

別添 5-3　配慮事項の選定及び環境保全上の見地から講じようとする措置 ····· 5-3-1

第 1 章　配慮事項の選定 ····· 5-3-1

第 2 章　環境保全上の見地から講じようとする措置 ····· 5-3-1

別添 5-4　事後調査の計画 ····· 5-4-1

第 1 章　事後調査項目の選定 ····· 5-4-1

第 2 章　事後調査の計画 ····· 5-4-2

第 1 節　騒音・低周波音 ····· 5-4-2

第 2 節　振動 ····· 5-4-3

第 3 節　植物・動物・生態系 ····· 5-4-4

第 4 節　景観 ····· 5-4-8

第 3 章　事後調査報告書の提出時期 ····· 5-4-8

別添 5-5　審査書に基づく予測評価書案の変更内容又は変更しない場合は、その理由 ····· 5-5-1

第 1 章　審査意見書に基づく実施計画書の変更内容又は変更しない場合は、その理由　5-5-1

別添 6　対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容 ····· 6-1-1

第 1 章　対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容 ····· 6-1-1

別添１　対象事業の目的又は実施を必要とする理由

第１章　対象事業の目的又は実施を必要とする理由 ····· 1-1-1

第１章　対象事業の目的又は実施を必要とする理由

東京南線 3,4 号線は、南横須賀変電所と逗子変電所を結ぶ送電線路であり、昭和 39 年に建設されてから概ね 50 年以上経過した設備である。送電線設備の劣化によっては、損壊による公衆災害の発生や電力の供給障害が発生するおそれがあることから、今後も電力の安定供給を図るため、計画的にこれらのリスクを回避する必要がある。

設備の経年による劣化状況については、最新の知見に基づき鉄塔毎に診断を行っており、今回その診断結果を反映し、鉄塔毎に必要な改修工事（建替・鉄塔補修・基礎補強）を実施するものである。

なお、三浦丘陵を縦断する形で立地する東京南線 3,4 号線の地域特性を踏まえ、緑豊かな丘陵地への良好な眺望を保全するため、鉄塔の建替位置は既設鉄塔と同じ位置に計画した。また、これにより、新たな改変による自然環境への負荷も最小化することが可能である。

別添 2　手続きを行う前に、対象事業の実施に関し環境に配慮した内容

第 1 章　手続きを行う前に、対象事業の実施に関し環境に配慮した内容 ･･･ 2-1-1

第１章　手続きを行う前に、対象事業の実施に関し環境に配慮した内容

実施区域及び周辺地域の大半は市街化調整区域の森林であるが、北側と南側には、第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域が分布し、閑静な住宅地となっている。

実施区域は衣笠・大楠山、逗子・葉山近郊緑地保全区域内に位置するとともに、周辺には田浦大作自然環境保全地域、衣笠・大楠山近郊緑地特別保全地区も存在するなど自然豊かな環境である。また、実施区域は、大楠山、衣笠山、武山にかけた三浦半島の中央部に連なる丘陵地を南北に連なるように位置している。

以上のような地域特性から、以下の内容について配慮することとする（実施区域に該当する鉄塔及び仮設ヘリポートの位置等は、図 4.1-2、図 4.1-3(1)～(7) p.4-1-5～12 参照)。

＜生活環境への配慮＞

・工事時間はゴルフ場に立地する鉄塔（No.28、No.29）の周辺を除き 9 時から 17 時とする。
・ゴルフ場に立地する鉄塔（No.28、No.29）は、来場者の車両通行及び駐車に支障を与えることを回避するため、資機材の搬入を 17 時から 22 時の間で行う。
・建設機械は日々点検整備を行う。
・工事用車両及び建設機械のアイドリングストップの遵守を徹底する。
・施工方法や工程を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。
・最新規格の低騒音・低振動型建設機械を採用するよう努める。
・工事用車両が集中しないよう、通勤車両と資機材運搬車両の時間別の運行（資機材運搬は通勤・通学時間を回避した時間帯で計画）を計画し、運行時間の分散化に努める。
・鉄塔 No.32 及び No.33 への通行路は、道路幅員が狭いことから小型車（２ｔ車以下）で資機材積替え用地（モノレール基地）へ運搬を行い、仮設道路の構築や既存道路の拡幅を回避する。また、ヘリコプター運搬と、モノレール運搬（小型車による資機材運搬）を併用し、ヘリコプターの飛行回数と工事車両の通行回数の削減を計画する。
・工事用車両は規制速度・法定速度を遵守するとともに、急発進を行わないなどエコドライブを推進する。
・上山口小学校至近の工事車両の通行は、9 時から 13 時までと 16 時以降とする。また、資機材の運搬で通行頻度が多くなる場合は、学校周辺に交通誘導員を配置し交通安全に努める。
・長柄小学校至近の道路で資機材の運搬で通行頻度が多くなる場合は、仮設ヘリポート進入路入口に交通誘導員を配置し交通安全に努める。
・工事用地周辺に住居が存在する鉄塔 No.32 及び No.33 共用の資機材積替え用地(モノレール基地)は防音パネルを設置する。
・ヘリコプターの飛行は飛行時間帯を 10 時から 16 時までのうち、4 時間前後の飛行とし、早朝・夕方の時間帯を回避する。
・ヘリコプターの運行前にテスト飛行（令和 8 年 12 月～令和 9 年 1 月予定）を行い、騒音・低周波音調査を自主的に実施する。その結果を踏まえて、各学校(上山口小学校・長柄小学校・葉山中学校)において、窓を閉め切る等の対応を行う場合は、空気清浄機のリースなどの対策を検討し実施する。

・ヘリコプターの使用期間は事前に周辺地域に周知する。

＜土砂流出への配慮＞

・基礎の掘削に伴う発生土はフレコンバッグ等に入れ、速やかに場外へ搬出する。
・鉄塔工事用地、及び仮設ヘリポートは、地盤の傾斜に合わせ仮設ステージを構築し、原地盤の造成を回避する。

＜自然環境への配慮＞

・工事用地については、過去に実施した工事用地を再度調査し使用することとし、既存樹木の伐採を必要最小限にとどめる。
・運搬設備として、キャリアや索道等と比較した結果、樹木の伐採範囲が比較的小さいモノレールを優先的に使用することで、伐採範囲の縮小を図る。
・実施区域近傍で重要な猛禽類の営巣が確認された場合は、営巣期間中の工事は回避し、営巣地及び繁殖期に配慮した工程・工法を検討する。
・現場で使用する油類については保管場所を決め取り扱いには十分注意するとともに、廃棄する場合には適正な処分計画で実施する。

＜レクリエーション資源への配慮＞

・「大楠山ハイキングコース」を横断するモノレール（No.24）は、ハイキングコースの上空を横過させ、ハイキングコース利用者に対する影響を回避する。
・逗子葉山近郊緑地保全区域内にある「二子山山系山道」を横断するモノレール（No.33）については、一部通行止めを行い、既存の通路を利用して迂回路を設置することを検討しており、関係箇所と協議のうえで決定する。
・「大楠山ハイキングコース」を横断するモノレール（No.24）では、モノレール橋には落下防護のネットを設置する。また、モノレール運搬時、ハイキングコース及び山道に歩行者を確認した場合は、モノレールをハイキングコース及び山道の手前で停止し、歩行者が通過後に運搬を再開する。運搬頻度が多い場合は、横断箇所に誘導員を配置し歩行者の誘導を行う。
・市道 7732 号線はハイキング利用者、横須賀ごみ処理施設「エコミル」利用者等が通行し交通量が比較的多いため、時間帯を考慮して工事車両の通行を制限するなどを検討する。

＜景観への配慮＞

・建替鉄塔の外部意匠や色彩について、横須賀市、逗子市、葉山町の景観計画等の基準を遵守し、景観への影響を低減する。
・６０m以上の鉄塔(No.25 及び No.33)は、航空法による航空標識（赤白塗色）が必要となるが、鉄塔周囲２km以内に鉄塔頂部より高い山があるため、航空標識設置の免除を協議する。

別添 3　対象事業の位置等

別添 3-1　位置又は実施区域 ····· 3-1-1

別添 3-2　位置又は実施区域及び周辺地域の環境の特性 ····· 3-2-1

別添 3-1　位置又は実施区域

第 1 章　実施区域 ····· 3-1-1

第 2 章　神奈川県環境影響評価条例に係る地域区分 ····· 3-1-2

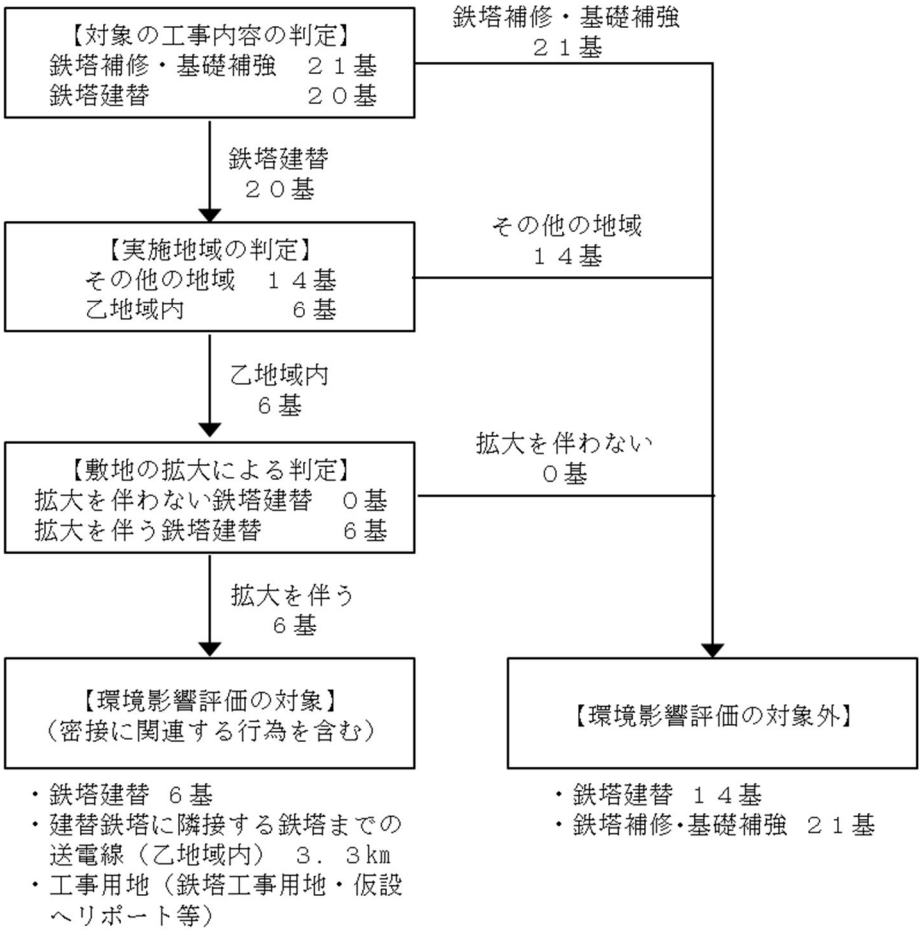
第１章　実施区域

本事業は、神奈川県環境影響評価条例に基づき、図 3.1-1 に示すフロー図により、環境影響評価の対象として判断される。

実施区域の位置は図 3.1-2 及び図 3.1-3(1)～(4)に示すとおりである。対象事業は現在の送電線（東京南線 3,4 号線）について、乙地域である「逗子・葉山近郊緑地保全区域」及び「衣笠・大楠山近郊緑地保全区域」に含まれる鉄塔 6 基（図中の赤丸（鉄塔）箇所）の建替を行うものであり、該当する建替鉄塔及び隣接する鉄塔までの送電線（乙地域内）が「実施区域」に該当し、鉄塔工事用地、資機材の運搬に必要なモノレールルート、仮設道路等の運搬設備用地のほか、資機材の積替えや仮置き、コンクリートの圧送に使用する工事用地も含まれる。また、工事に付随するヘリコプターの発着場として整備する仮設ヘリポートについても、工事用地として「実施区域」に含まれる。実施区域は横須賀市、逗子市及び三浦郡葉山町（以下、葉山町と省略する）の 3 市町に位置する。

環境の特性を把握した「実施区域及び周辺地域」は図 3.1-2 に示す範囲を基本とした。なお、文献資料等が市町村単位で示されているものについては、横須賀市、逗子市及び葉山町の 3 市町の全域を対象とした。

実施区域及び周辺地域を撮影した航空写真は図 3.1-4 及び図 3.1-5 に示すとおりである。



[補足]仮設ヘリポートは環境影響評価の対象鉄塔工事に付随するものとし対象となる近郊緑地保全区域は、表 3.1-2 参照。

図 3.1-1　環境影響評価対象の判断フロー図

第 2 章　神奈川県環境影響評価条例に係る地域区分

実施区域は、表 3.1-1 及び表 3.1-2 に示すとおり「神奈川県環境影響評価条例に係る地域区分」の「乙地域」に該当する。

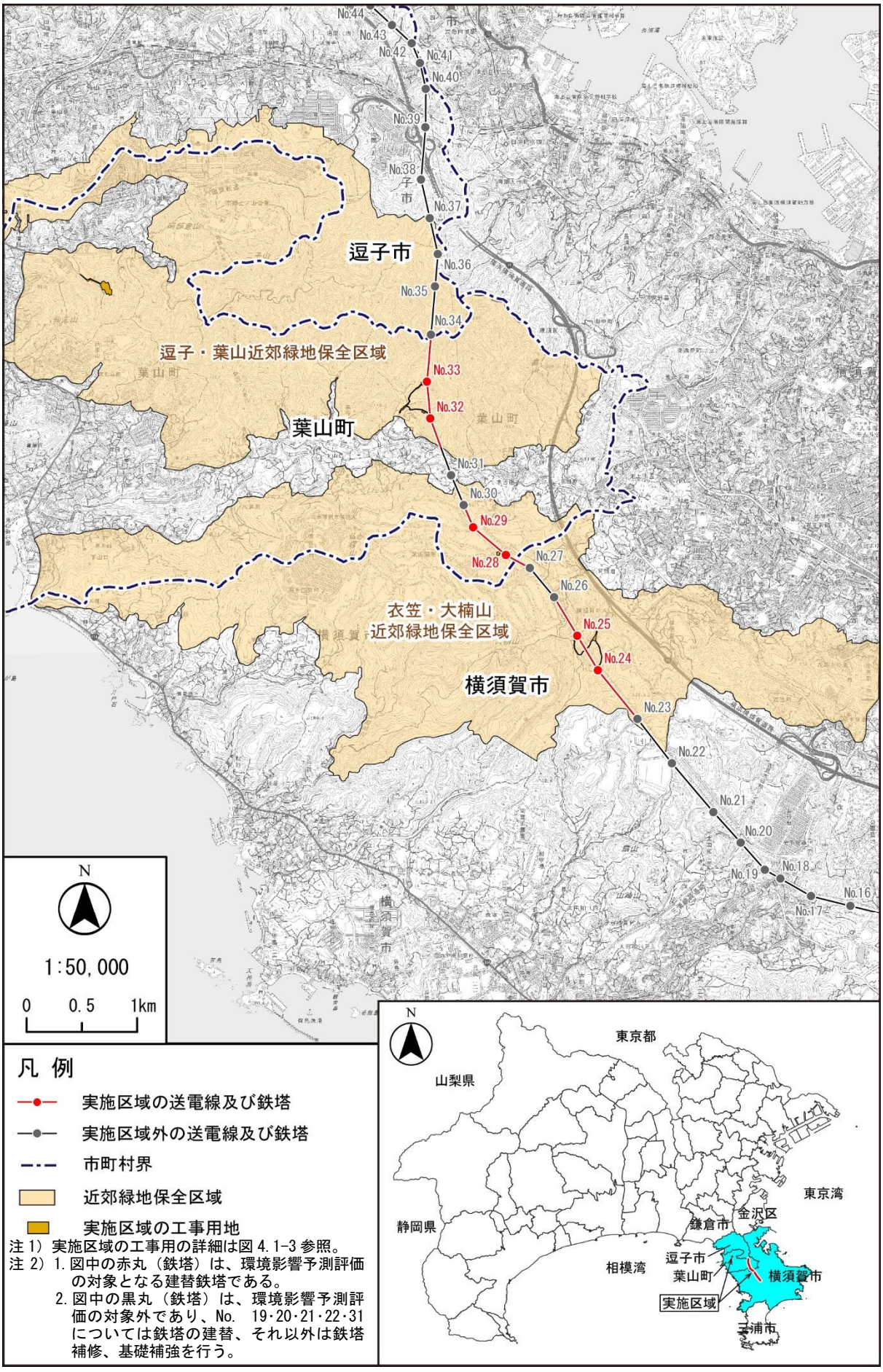
表 3.1-1　本事業が該当する条例上の位置づけ

番号	事業の種類	要　件			
		内容	規模、実施される地域等		
			甲地域	乙地域	その他地域
7	電気工作物の建設	電線路	延長 1km 以上かつ電圧 17 万Ｖ以上の架空送電線	延長 1 km以上かつ電圧 17 万Ｖ以上の架空送電線	－

資料：「神奈川県環境影響評価条例施行規則（昭和 56 年 1 月 31 日規則第 11 号）別表第１（第１条関係）

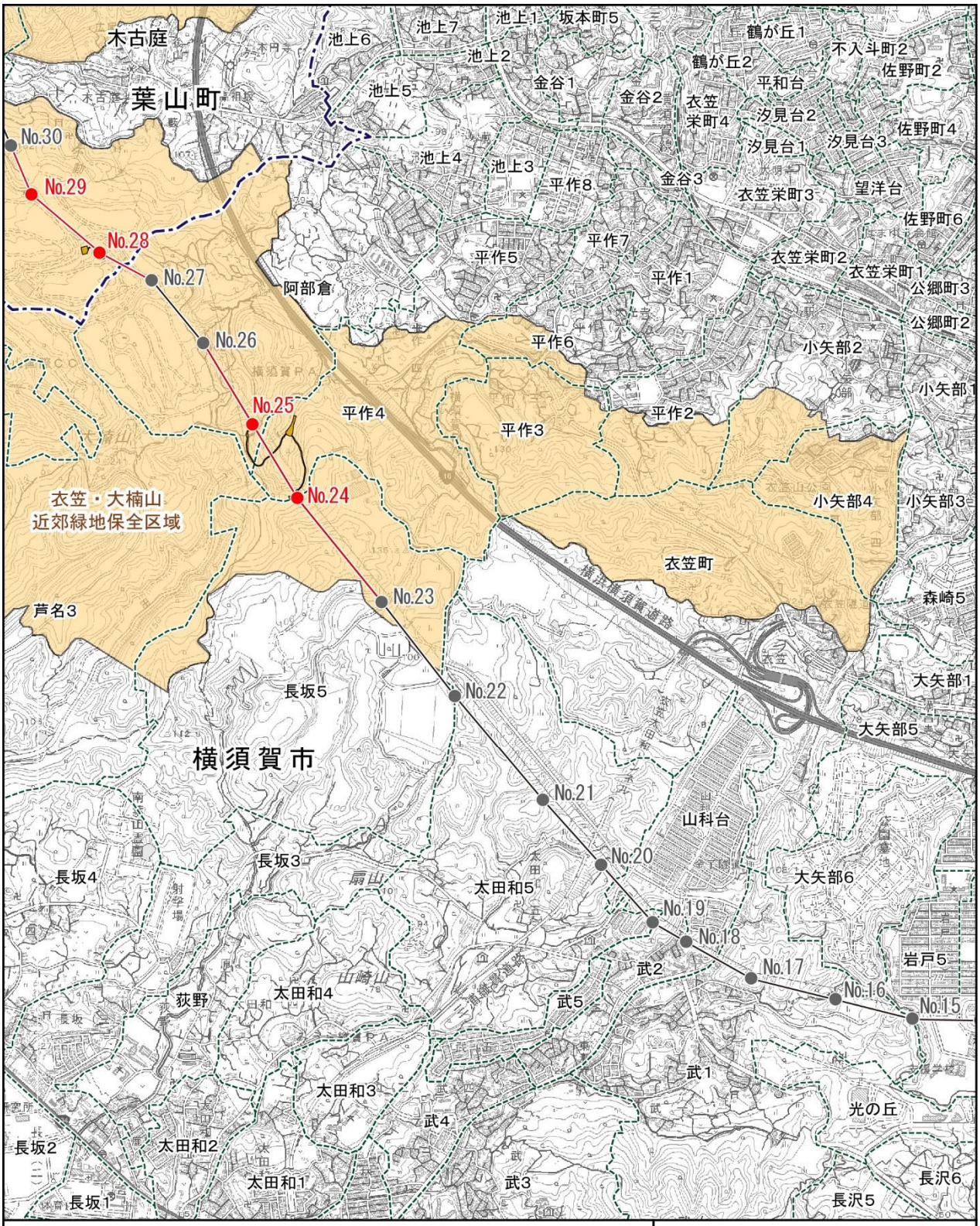
表 3.1-2　神奈川県環境影響評価条例に係る地域区分

区分	指定地域	本事業の該当地域
甲地域	1.国立公園特別地域	－
	2.国定公園特別地域	－
	3.県立自然公園特別地域	－
	4.歴史的風土特別保存地区	－
	5.自然環境保全地域特別地区	－
	6.県自然環境保全特別地区	－
	7.近郊緑地特別保全区域	－
乙地域	1.国立公園（甲地域を除く）	－
	2.国定公園（甲地域を除く）	－
	3.県立自然公園（甲地域を除く）	－
	4.歴史的風土保存区域（甲地域を除く）	－
	5.自然環境保全地区（甲地域を除く）	－
	6.県自然環境保全地域（甲地域を除く）	－
	7.近郊緑地保全区域（甲地域を除く）	○
その他の地域	甲地域及び乙地域以外の地域	－



注 1）実施区域の工事用の詳細は図 4.1-3 参照。
注 2）1. 図中の赤丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象となる建替鉄塔である。
2. 図中の黒丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象外であり、No. 19･20･21･22･31については鉄塔の建替、それ以外は鉄塔補修、基礎補強を行う。

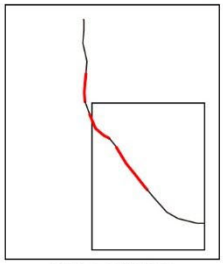
図 3.1-2　実施区域の位置



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 字界
- 近郊緑地保全区域
- 実施区域の工事用地

注）1. 図中の赤丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象となる建替鉄塔である。
2. 図中の黒丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象外であり、No.19・20・21・22・31については鉄塔の建替、それ以外は鉄塔補修、基礎補強を行う。



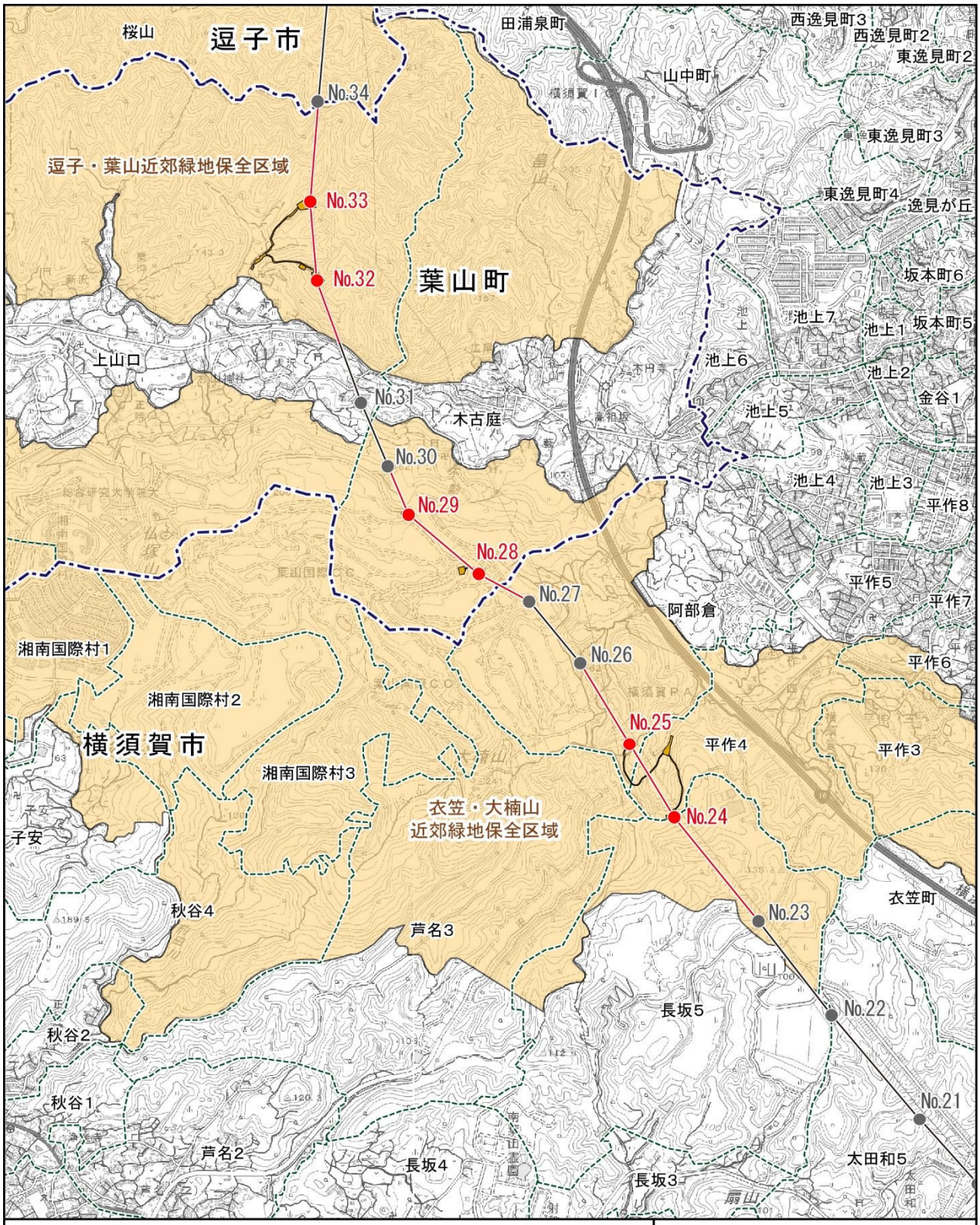
当図の範囲

N

1:25,000

0 250 500 750 1000m

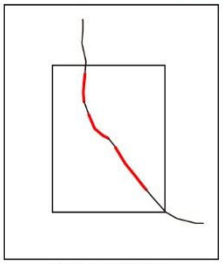
図 3.1-3(1) 実施区域の拡大図



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 字界
- 近郊緑地保全区域
- 実施区域の工事用地

注）1. 図中の赤丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象となる建替鉄塔である。
2. 図中の黒丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象外であり、No.19･20･21･22･31については鉄塔の建替、それ以外は鉄塔補修、基礎補強を行う。



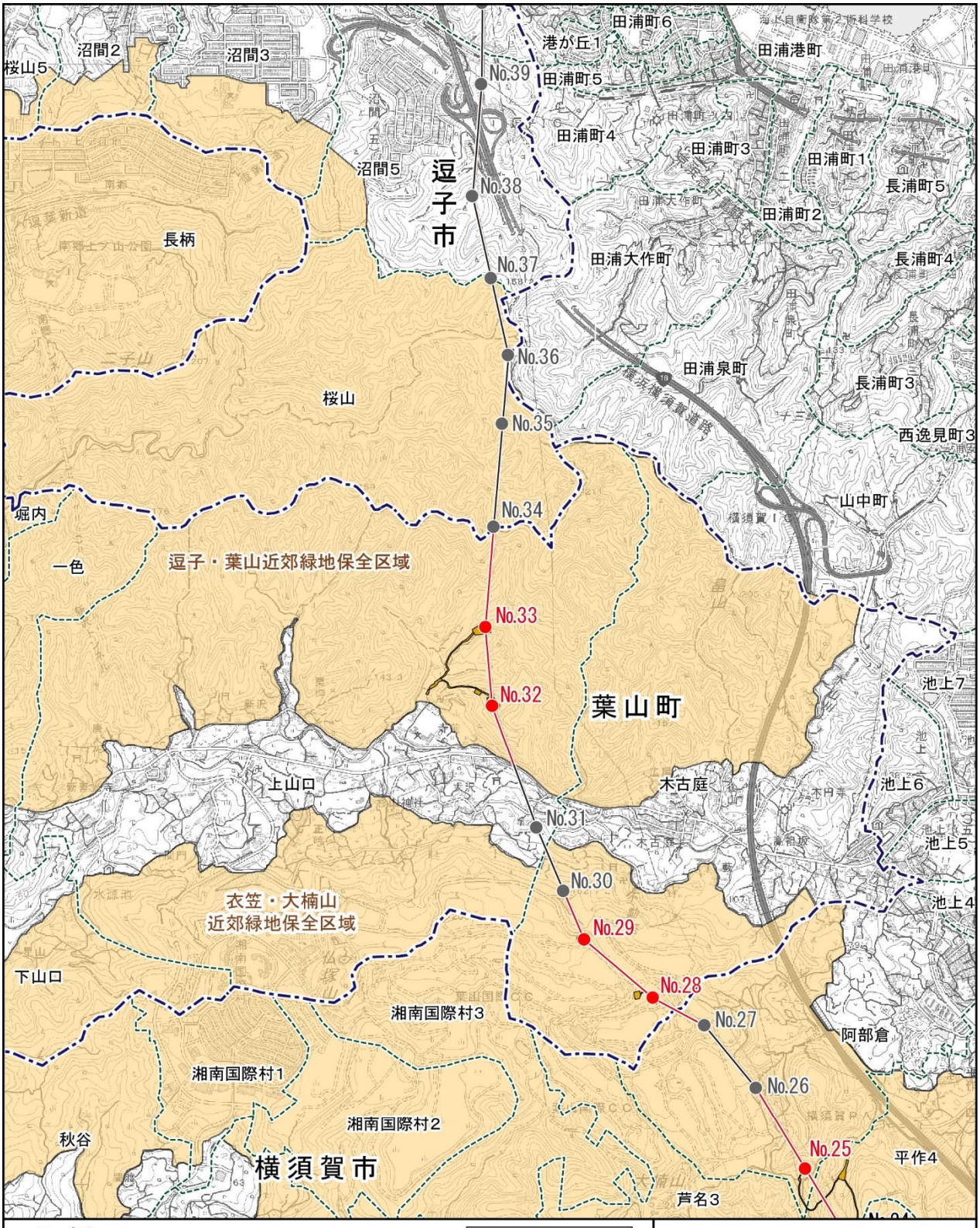
当図の範囲

N

1:25,000

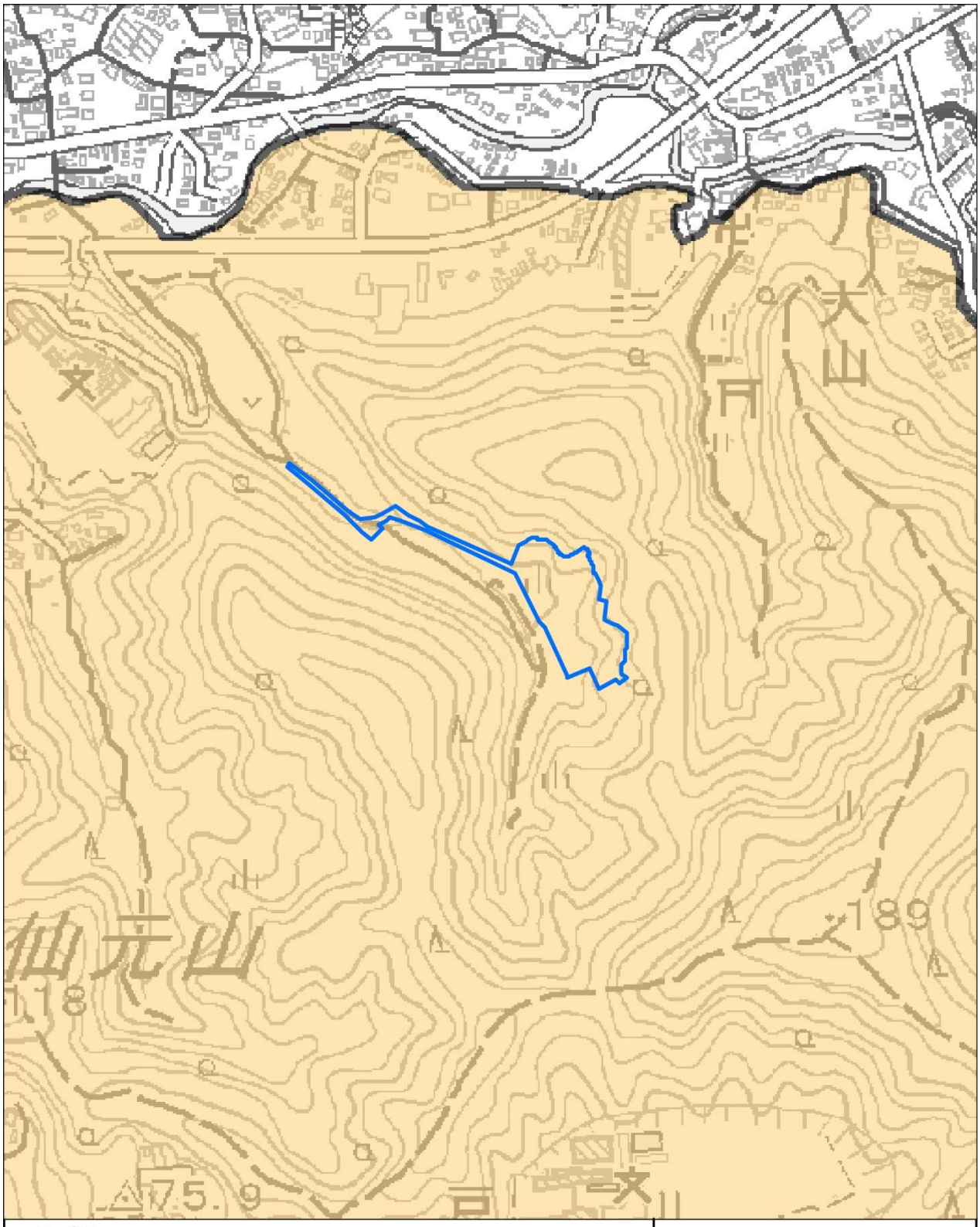
0 250 500 750 1000m

図 3.1-3(2) 実施区域の拡大図



注）1. 図中の赤丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象となる建替鉄塔である。
2. 図中の黒丸（鉄塔）は、環境影響予測評価の対象外であり、No.19･20･21･22･31については鉄塔の建替、それ以外は鉄塔補修、基礎補強を行う。

図 3.1-3(3) 実施区域の拡大図



凡 例

近郊緑地保全区域

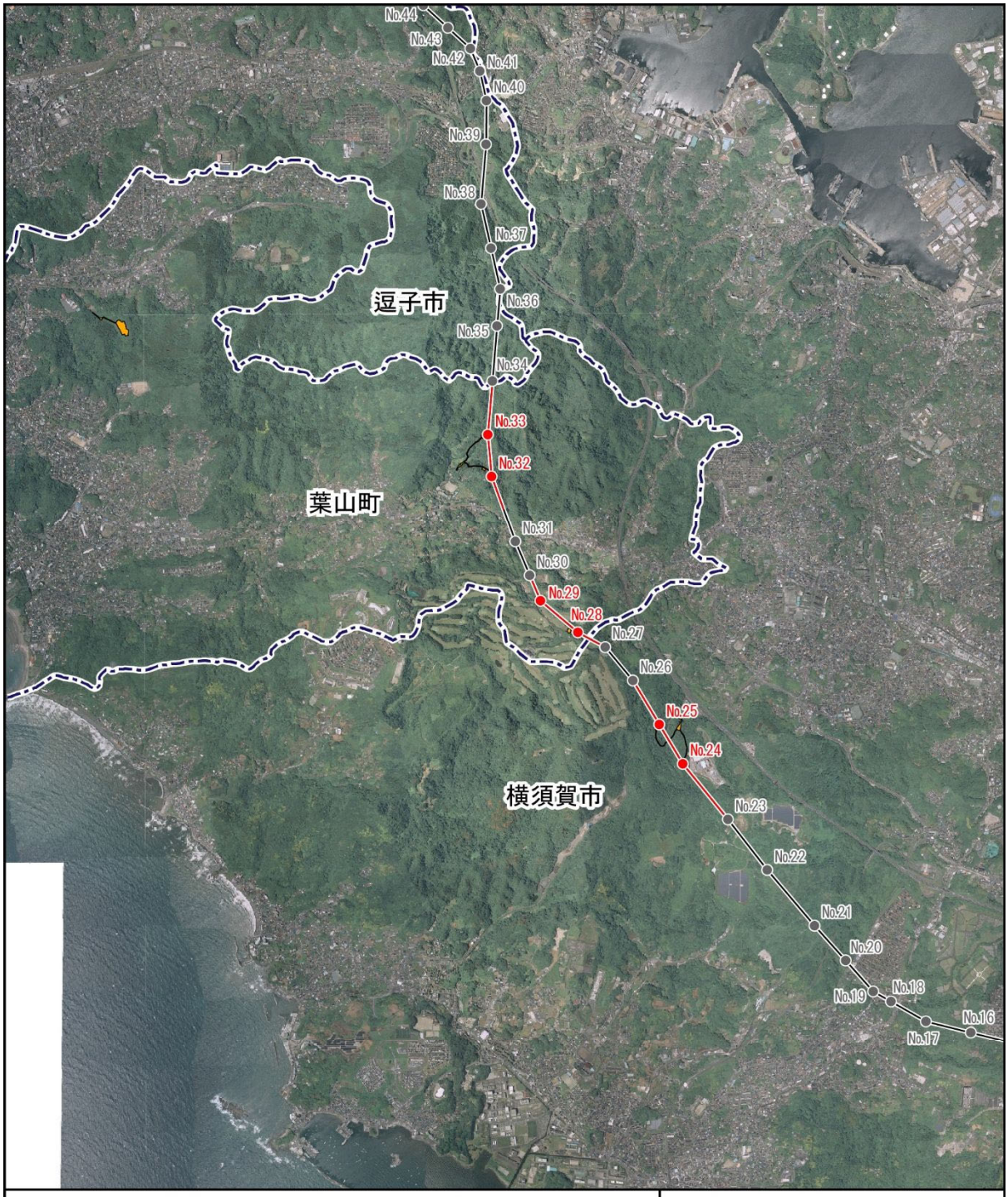
実施区域の工事用地

N

1:5,000

0 50 100 150 200m

図 3.1-3(4) 実施区域の拡大図



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

図 3.1-4 実施区域及び周辺地域の航空写真

注 1) 実施区域の工事用の詳細は図 4.1-3 参照。
注 2) この航空写真は、国土地理院撮影(2019 年)を使用したものである。

凡　例

実施区域の工事用地

N

1:5,000

0　50　100　150　200m

注）この航空写真は、Google map（2022 年撮影）を使用したものである。）

図 3.1-5　実施区域
（仮設ヘリポート）の航空写真

別添 3-2　位置又は実施区域及び周辺地域の環境の特性

第 1 章　社会的状況 ····· 3-2-1

第 2 章　自然的状況 ····· 3-2-80

第 3 章　その他の状況 ····· 3-2-123

第１章　社会的状況

第１節　行政区画

実施区域が位置する横須賀市、逗子市及び葉山町は、神奈川県の南東部に位置している(図 3.2-1 参照)。

横須賀市は、北は横浜市金沢区、南は三浦市に接している。逗子市は、北に横浜市と鎌倉市と接している。各市町の面積は表 3.2-1 に示すとおり、横須賀市の面積は 100.8km^2、逗子市は 17.3km^2、葉山町は 17.0km^2 である。実施区域は、横須賀市長坂、平作、阿部倉、逗子市桜山、葉山町木古庭、上山口にまたがって位置している(図 3.2-2 参照)。

図 3.2-1　行政区画の状況

表 3.2-1　面積及び広がり

市町村	面積(km^2)	広がり(km)	
		東西	南北
横須賀市	100.8	15.3	15.8
逗　子　市	17.3	7.0	4.5
葉　山　町	17.0	6.8	4.3

資料：「全国都道府県市区町村別面積調」（令和７年、国土地理院）

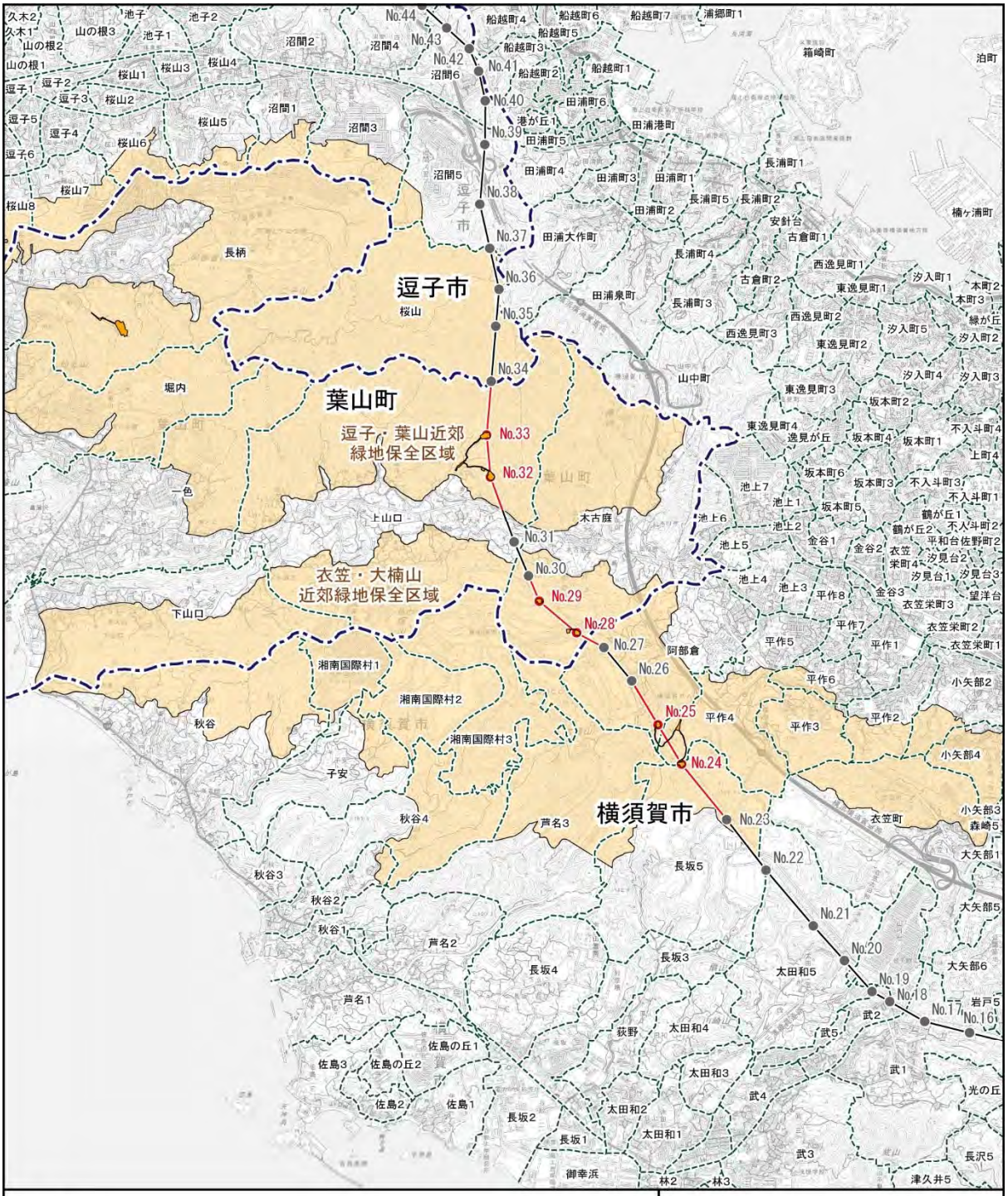

No.44
No.43
No.42
No.41
No.40
No.39
No.38
No.37
No.36
No.35
No.34
No.33
No.32
No.31
No.30
No.29
No.28
No.27
No.26
No.25
No.24
No.23
No.22
No.21
No.20
No.19
No.18
No.17
No.16
逗子市
葉山町
横須賀市
逗子・葉山近郊
緑地保全区域
衣笠・大楠山
近郊緑地保全区域
凡 例
実施区域の送電線及び鉄塔
実施区域外の送電線及び鉄塔
市町村界
字界
近郊緑地保全区域
実施区域の工事用地
N
1:50,000
0 0.5 1 1.5 2km

図 3.2-2　地区界

第 2 節　人　口

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 3 年から令和 7 年の人口及び世帯数の推移は、表 3.2-2 に示すとおりである。また、本事業の送電線が通過する町丁別の人口及び世帯数は表 3.2-3 に示すとおりである。

いずれの市町も人口は緩やかな減少傾向にあるが、世帯数は、横ばい傾向にある。

表 3.2-2　人口及び世帯数の状況

市町村名		令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
横須賀市	人口	387,289	383,260	378,814	374,325	370,000
	世帯数	165,410	165,671	165,814	165,952	165,983
逗子市	人口	57,076	56,869	56,437	55,988	55,305
	世帯数	24,913	25,094	25,064	25,104	25,030
葉山町	人口	31,705	31,651	31,414	31,063	30,591
	世帯数	12,987	13,105	13,132	13,089	13,014

注）各年 1 月 1 日現在の値を示す。

資料：「神奈川県人口統計調査結果報告(令和 2 年 1 月から 12 月)」（令和 4 年 2 月、神奈川県）
「神奈川県人口統計調査結果報告(令和 3 年 1 月から 12 月)」（令和 4 年 2 月、神奈川県）
「神奈川県人口統計調査結果報告(令和 4 年 1 月から 12 月)」（令和 5 年 2 月、神奈川県）
「神奈川県人口統計調査結果報告(令和 5 年 1 月から 12 月)」（令和 6 年 2 月、神奈川県）
「神奈川県人口統計調査結果報告(令和 6 年 1 月から 12 月)」（令和 7 年 2 月、神奈川県）

表 3.2-3　本事業の送電線が通過する町丁の人口及び世帯数

町丁目別		世帯数	人　口　（人）		
			計	男	女
横須賀市	田浦大作町	199	373	203	170
	阿部倉	788	1,514	725	789
	平作 4 丁目	96	184	90	94
	武 1 丁目	1,081	1,987	1,004	983
	武 2 丁目	577	1,111	545	566
	太田和 5 丁目	174	288	121	167
	長坂 5 丁目	－	－	－	－
逗子市	沼間 5 丁目	500	1,168	555	613
	大字桜山	－	－	－	－
葉山町	上山口	799	1,633	790	843

注）表中の「－」は人が居住していないことを示す。

資料：「住民基本台帳登載人口　町丁目別人口」（令和 7 年 4 月 1 日、横須賀市）
「町丁字別人口、世帯数調」（令和 7 年 4 月 1 日、逗子市）
「男女・行政区別人口」（令和 7 年 4 月 1 日、葉山町）

第 3 節　産　業

横須賀市、逗子市及び葉山町における産業分類別事業所数及び従業者数の状況は表 3.2-4 に示すとおりである。いずれの市町も第三次産業が最も多く、産業分類別では逗子市の従業者数を除き卸売業、小売業が最も多くなっている。

表 3.2-4　産業分類別事業所数及び従業者数の状況

分類＼市町名		横須賀市		逗子市		葉山町	
		事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）
総　　数（公務を除く）		8,086	107,774	1,295	11,907	732	6,701
第一次産　業	農業,林業,漁業	32	326	2	47	4	10
第二次産　業	鉱業,採石業,砂利採取業	－	－	－	－	－	－
	建設業	1,033	6,474	79	337	73	389
	製造業	345	13,652	42	225	27	230
小　　計		1,378	20,126	121	562	100	619
第三次産　業	電気・ガス・熱供給・水道業	27	517	1	17	2	6
	情報通信業	124	990	32	80	24	63
	運輸業,郵便業	165	5,240	11	322	13	231
	卸売業,小売業	1,783	19,606	250	2,368	160	1,218
	金融業,保険業	160	2,465	16	219	2	19
	不動産業,物品賃貸業	604	2,757	147	534	64	181
	学術研究,専門・技術サービス業	364	4,948	117	381	69	212
	宿泊業,飲食サービス業	767	10,654	121	1,275	91	938
	生活関連サービス業,娯楽業	611	4,139	92	883	47	505
	教育,学習支援業	242	4,040	62	781	24	323
	医療,福祉	1,193	24,608	234	3,553	74	1,471
	複合サービス事業	55	868	7	150	4	122
	サービス業(他に分類されないもの)	581	6,490	82	735	54	783
小　　計		6,676	87,322	1,172	11,298	628	6,072

注）表中の「－」は該当産業の事業所がなく、従業者がいないことを示す。
資料：「令和 6 年経済センサス-基礎調査　速報集計」（政府統計の総合窓口（e-Stat）、令和 7 年 7 月閲覧）

1. 農林業

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 2 年の農林業の状況は、表 3.2-5 に示すとおりである。

横須賀市は農家数 571、面積は 381ha、逗子市は農家数 6、面積は 1ha、葉山町は農家数 101、面積は 23ha となっている。

表 3.2-5　農林業の状況

	総 農 家					
	計		販売農家		自給的農家	
	農家数	面積(ha)	農家数	面積(ha)	農家数	面積(ha)
横 須 賀 市	571	381	310	342	261	39
逗　子　市	6	1	2	1	4	0
葉　山　町	101	23	13	9	88	14

資料：「2020 年農林業センサス」（令和 7 年 7 月閲覧、農林水産省）

2. 工業

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 5 年の工業の状況は、表 3.2-6 に示すとおりである。

横須賀市は事業所数 272、従業者数 13,697 人、製造品出荷額等は 755,258 百万円、逗子市は事業所数 23、従業者数 125 人、製造品出荷額等は 1,612 百万円、葉山町は事業所数 11、従業者数 148 人、製造品出荷額等は 1,700 百万円となっている。

表 3.2-6　工業の状況（従業者 4 人以上の事業所）

市町村別	事業所数（事業所）	従業者数（人）	製造品出荷額等（百万円）
横 須 賀 市	272	13,697	755,258
逗　子　市	23	125	1,612
葉　山　町	11	148	1,700

資料：「2023 年経済構造実態調査（製造業事業所調査）」（令和 7 年 7 月閲覧、経済産業省）

3. 商業

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 3 年の商業の状況は、表 3.2-7 に示すとおりである。横須賀市は事業所数 2,160、従業者数 19,864 人、年間商品販売額は 502,168 百万円、逗子市は事業所数 321、従業者数 2,457 人、年間商品販売額は 43,481 百万円、葉山町は事業所数 195、従業者数 1,228 人、年間商品販売額は 22,446 百万円となっている。

表 3.2-7　商業の状況（令和 3 年 6 月 1 日現在）

市町村別	事業所数（事業所）	従業者数（人）	年間商品販売額（百万円）	売場面積（㎡）
横 須 賀 市	2,160	19,864	502,168	307,927
逗　子　市	321	2,457	43,481	22,113
葉　山　町	195	1,228	22,446	13,501

資料：「令和３年経済センサス - 活動調査　産業別集計（卸売業，小売業に関する集計）」（令和 7 年 7 月閲覧、経済産業省）

第 4 節　土地利用

1. 土地利用状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 6 年の土地利用の現況は、表 3.2-8 に示すとおりである。また、実施区域及び周辺地域の土地利用の現況を図 3.2-3 に示す。

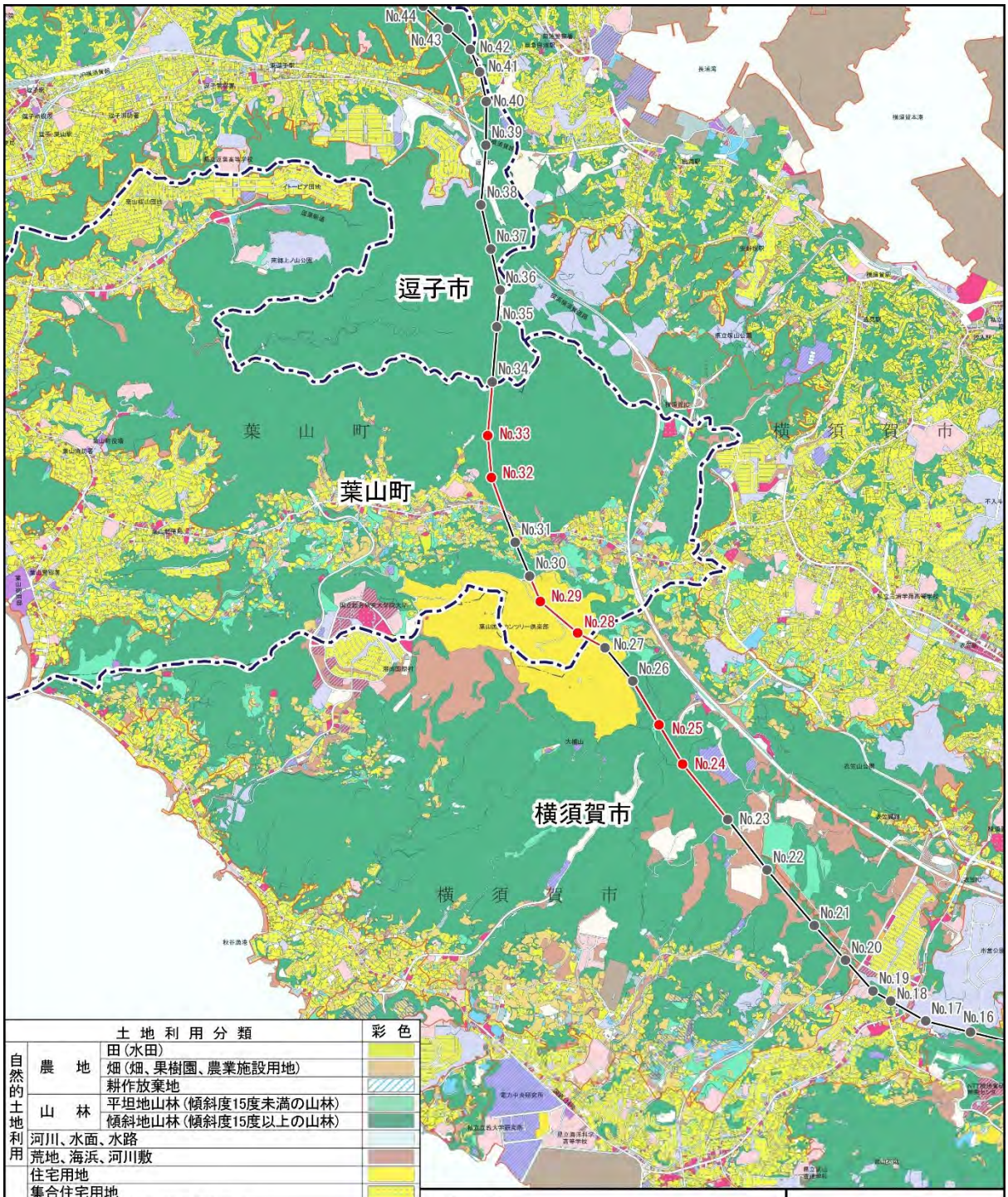
横須賀市は宅地が約 54.1%と最も多く、次いで山林が約 24.2%となっている。逗子市も宅地が約 60.6%と最も多く、次いで山林が約 32.7%となっている。葉山町は山林が約 44.5%と最も多く、次いで宅地が約 34.8%となっている。

実施区域及び周辺地域は、そのほとんどが傾斜地山林となっているが、一部は民間空地や畑、住宅用地となっている。

表 3.2-8　土地利用の状況（令和 6 年 1 月 1 日）

市町村 種別	横須賀市		逗子市		葉山町	
	面積(㎡)	構成比(%)	面積(㎡)	構成比(%)	面積(㎡)	構成比(%)
田	1,553,284	2.7	－	－	419,014	4.3
畑	5,450,470	9.6	38,867	0.5	558,040	5.7
宅地	30,733,490	54.1	4,317,112	60.6	3,404,164	34.8
鉱泉地	－	－	－	－	－	－
池沼	2,777	0.0	－	－	－	－
山林	13,740,115	24.2	2,333,281	32.7	4,343,118	44.5
牧場	－	－	－	－	2,360	0.0
原野	288,358	0.5	－	－	177,786	1.8
雑種地	5,009,891	8.8	439,741	6.2	864,712	8.9
合　計	56,778,385	100.0	7,129,001	100.0	9,769,194	100.0

資料：「県勢要覧 2024（令和 6 年度版）」（令和 7 年 3 月、神奈川県）



土地利用分類			彩色
自然的土地利用	農地	田(水田)	
		畑(畑、果樹園、農業施設用地)	
		耕作放棄地	
	山林	平坦地山林(傾斜度15度未満の山林)	
		傾斜地山林(傾斜度15度以上の山林)	
	河川、水面、水路		
	荒地、海浜、河川敷		
都市的土地利用	住宅用地		
	集合住宅用地		
	併用住宅用地	店舗併用住宅用地	
		作業所併用住宅用地	
	併用集合住宅用地		
	業務施設用地		
	商業用地		
	宿泊娯楽施設用地		
	重化学工業用地		
	軽工業用地		
	運輸施設用地		
	公共用地		
	供給処理施設用地		
	文教・厚生用地(学校、病院、図書館、公民館、寺院)		
	公共空地(都市公園、広場、緑地、運動場等)		
	民間空地(ゴルフ場、企業・大学等のグラウンド、民地の広場等)		
	その他の空地(未建築宅地、用途改変中の土地、屋外利用地)		
	防衛施設(自衛隊、米軍提供施設)		
	道路用地(駅前広場、道路(私道、農道、林道を含む))		
	鉄道用地		
	農振農用地		
	市街化区域と市街化調整区域の境界		

凡例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界

N

1:50,000

0 0.5 1km

図 3.2-3　土地利用の現況

注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料：「神奈川県土地利用現況図（DVD）」（神奈川県県土整備局、令和 2 年）

2. 法令に基づく用途区分の状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 7 年 4 月 1 日現在の用途地域の指定状況は、表 3.2-9 に示すとおりである。また、実施区域及び周辺地域の用途地域の指定状況は図 3.2-4 に示すとおりである。

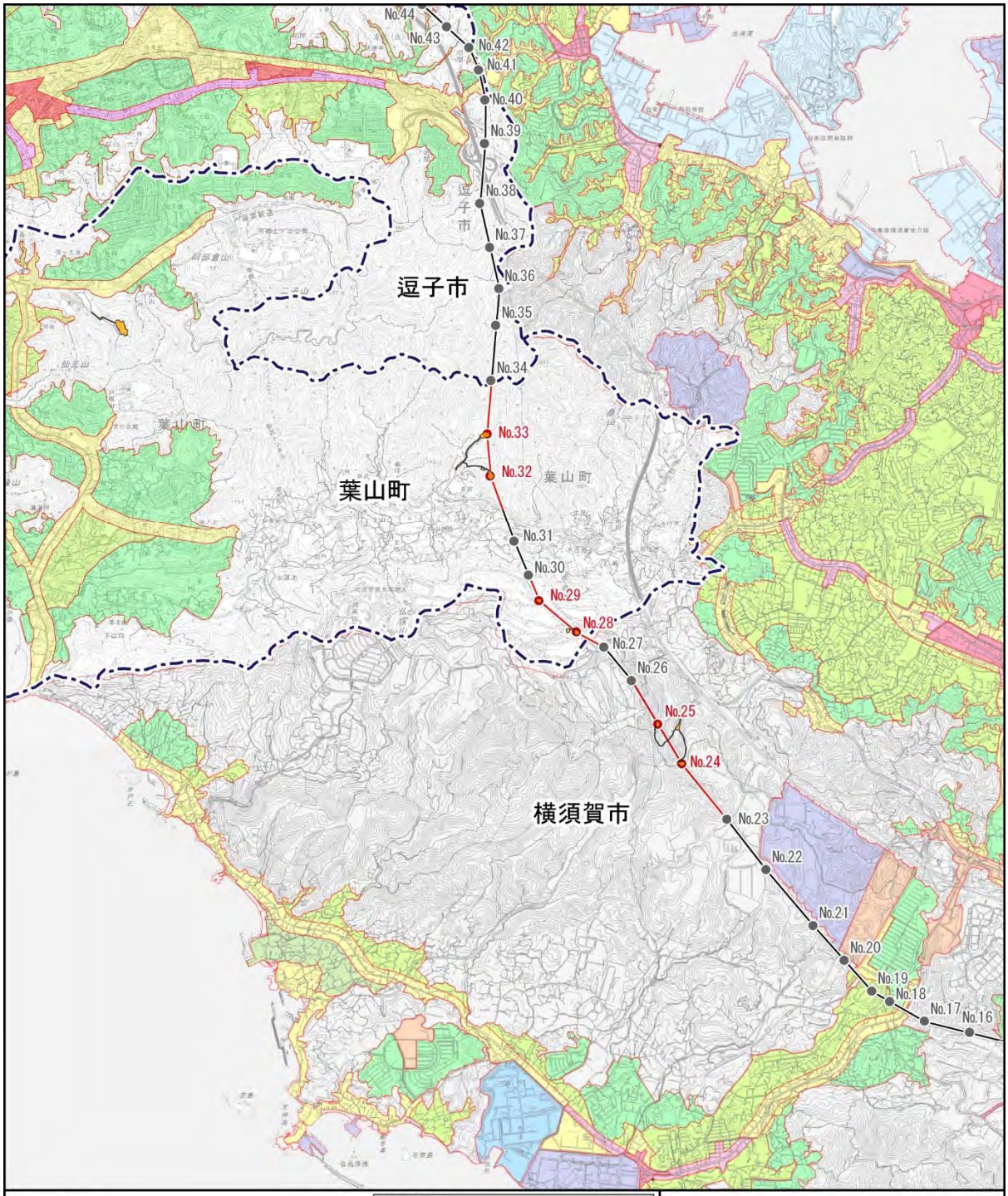
令和 5 年 4 月 1 日現在、横須賀市の行政区域面積は 10,082ha、逗子市の行政区域面積は 1,728ha、葉山町の行政区域面積は 1,704ha であり、いずれも全てが都市計画区域となっている。なお、実施区域は全て市街化調整区域に指定されている。

表 3.2-9　用途地域の指定状況（令和 7 年 4 月 1 日現在）

（単位：ha）

市町村		横須賀市	逗子市	葉山町
都市計画区域		10,082	1,728	1,704
	市街化区域	6,627	832	513
	市街化調整区域	3,456	896	1,191
	非線引区域	－	－	－
	計	10,082	1,728	1,704
用途地域	第一種低層住居専用地域	1,740	499	296
	第二種低層住居専用地域	11	－	－
	第一種中高層住居専用地域	1,968	59	80
	第二種中高層住居専用地域	60	1	2.4
	第一種住居地域	741	200	128
	第二種住居地域	106	15	－
	準住居地域	－	－	－
	田園住居地域	－	－	－
	近隣商業地域	180	38	7
	商業地域	160	18	－
	準工業地域	713	1.9	－
	工業地域	457	－	－
	工業専用地域	491	－	－
	計	6,627	832	513

資料：「県勢要覧 2024（令和 6 年度版）」（令和 7 年 3 月、神奈川県）
「用途地域の指定状況一覧」（令和 7 年 7 月閲覧、神奈川県）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地

用途地域
第一種低層住居専用地域
第一種中高層住居専用地域
第二種中高層住居専用地域
第一種住居地域
第二種住居地域
近隣商業地域
商業地域
準工業地域
工業地域
工業専用地域

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

資料：「よこすかわが街ガイド（地図検索）」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「逗子都市計画図」（平成 29 年 3 月、逗子市）
「葉山都市計画図」（平成 28 年 3 月、葉山町）

図 3.2-4　用途地域の指定状況

第5節　交　通

1. 道路交通状況

実施区域及び周辺地域における主要な道路は、図 3.2-5 に示すとおりである。また、これらの道路の令和 3 年度の交通量は表 3.2-10 に示すとおりである。

実施区域の東側には一般国道 16 号（横浜横須賀道路）が南北に通り、北側に逗子 IC 及び横須賀 IC、南側に衣笠 IC が位置している。また、東西方向の道路として、実施区域のほぼ中央に横須賀葉山線、南側に横須賀三崎線と三浦縦貫道路が通っている。

表 3.2-10　道路交通量の状況

No.	国道県道番号	対象道路	観測地点名	観測日	歩行者類（人/12 時間）	自転車類（台/12 時間）	動力付き二輪車類（台/12 時間）	小型車類合計（台/12 時間）	大型車類（台/12 時間）	大型車混入率（%）
1	16	一般国道 16 号（横浜横須賀道路）	朝比奈IC～逗子IC	平日	－	－	－	35,234 (45,499)	5,066 (6,714)	12.6 (12.9)
2			逗子IC～横須賀IC	平日	－	－	－	33,731 (43,657)	4,946 (6,491)	12.8 (12.9)
3			横須賀IC～衣笠IC	平日	－	－	－	22,426 (29,158)	3,656 (4,714)	14.0 (13.9)
4	16	一般国道 16 号	横須賀市追浜町 1	平日	－	－	－	15,604 (22,153)	2,766 (3,664)	15.1 (14.2)
5	134	一般国道 134 号	葉山町堀内 731	平日	464	588	1,401	13,131	901	6.4
				休日	520	456	1,300	12,023	445	3.6
6	134		横須賀市秋谷 5596	平日	215	176	837	6,652	591	8.2
				休日	478	512	1102	8633	455	5.0
7	134		横須賀市芦名 1-2-17	平日	247	157	895	11,970	1,151	8.8
				休日	120	481	1,152	11,698	748	6.0
8	24	横須賀逗子線	横須賀市船越町 3-21-2	平日	475	161	654	8,803	1,164	11.7
				休日	1,163	259	676	9,619	220	2.2
9			逗子市沼間 1-3-8	平日	1,319	365	877	9,670	506	5.0
10	25	横須賀停車場	（推計値）	平日	－	－	－	2,406	1,017	29.7
11	26	横須賀三崎線	横須賀市武 2-2-17	平日	759	304	1,184	14,970	1226	7.6
				休日	609	228	1,068	14,649	490	3.2
12	26	横須賀三崎線（三浦縦貫道路）	横須賀市太田和 3	平日	－	－	－	4,049 (4,773)	351 (422)	8.0 (8.1)
13	27	横須賀葉山線	横須賀市平作 3-7	平日	253	165	1,036	14,532	1,205	7.7
			横須賀市公郷町 1-43	休日	348	165	1,034	14,036	632	4.3
14	27		横須賀市池上 6-5-25	平日	198	80	872	11,280	890	7.3
				休日	137	114	884	10,534	253	2.3
15	28	本町山中線	横須賀市吉倉町2	平日	－	－	－	6,429 (7,808)	301 (408)	4.5 (5.0)
16	213	佐島港線	横須賀市長坂2-9-10	平日	102	38	168	2,809	364	11.5
17	311	鎌倉葉山線	葉山町長柄 890	平日	663	151	665	11706	965	7.6
18	217	逗子葉山横須賀線	葉山町上山口 1087	平日	3	59	703	10,693	580	5.1
19			横須賀市湘南国際村 1-3-1	平日	59	20	345	5,167	353	6.4
20	311	鎌倉葉山線	逗子市逗子 6-6-24	平日	2,079	1,510	1,286	11,221	724	6.1
				休日	2,161	1,157	1,152	9,464	441	4.5
21	－	市道 7566 号線	横須賀市平作 4	平日	－	－	－	6,278	443	6.6
22	－	市道 7027 号線	横須賀市山科台 1	平日	－	－	－	4,053	396	8.9

注）1. 表中のNo.は図 3.2-5 に対応する。
2. －は、資料に記載無し。
3. 小型車類は乗用車と小型貨物車の合計、大型車類はバスと普通貨物車の合計である。
4. 大型車混入率は、昼間 12 時間の大型車購入率をいう。
5. ( )内は、24 時間観測の数値である。

資料：「令和 3 年度　全国道路・街路交通情勢調査」（令和 5 年、国土交通省）
「令和 3 年度道路・街路交通情勢調査・交通量調査結果総括表」（令和 5 年、神奈川県）
「横須賀ごみ処理施設環境影響予測評価書」（横須賀市、平成 26 年 7 月）

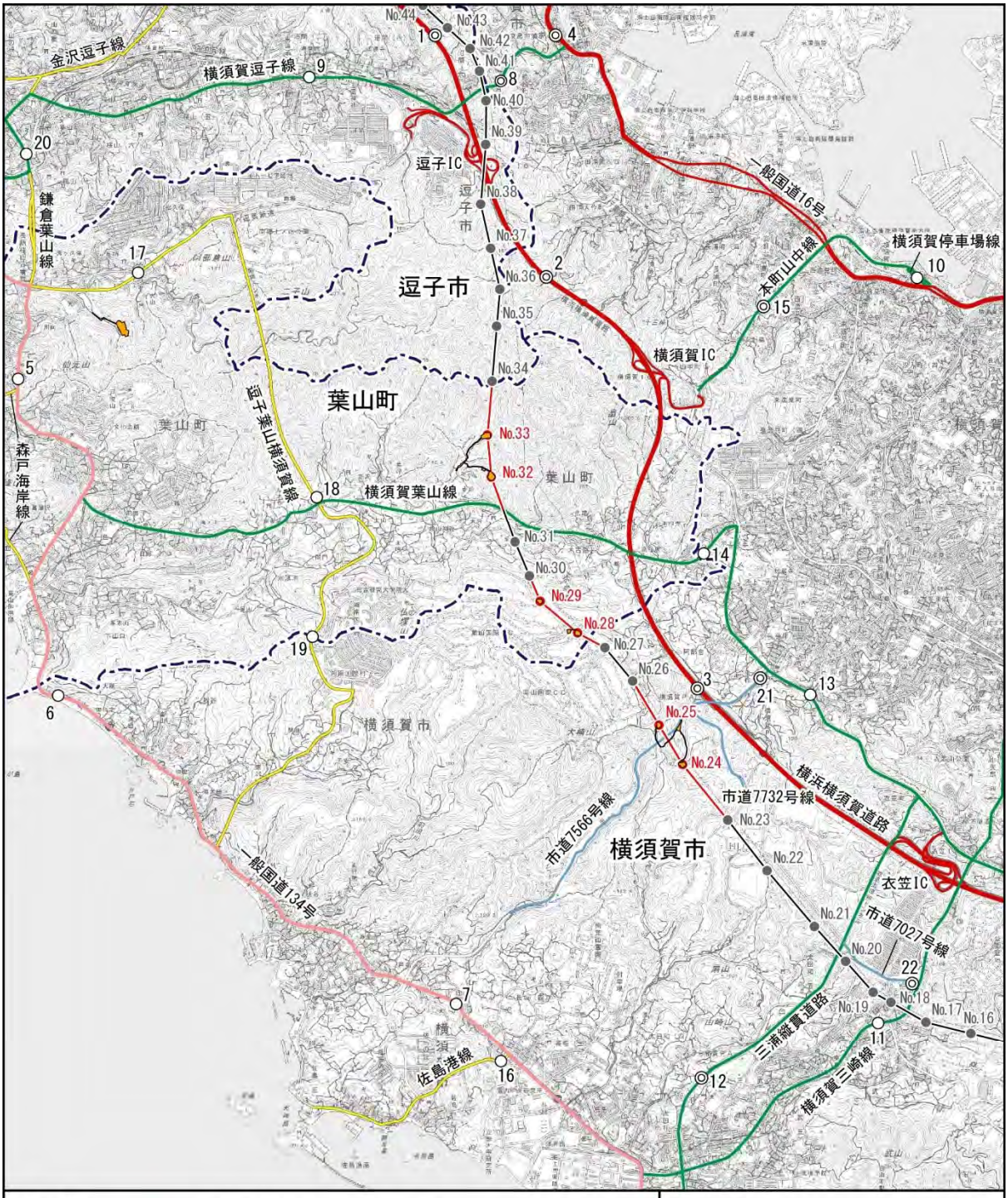


図 3.2-5　主要な道路の状況

資料：「令和 3 年度　全国道路・街路交通情勢調査」（令和 5 年、国土交通省）
「横須賀ごみ処理施設環境影響予測評価書」（横須賀市、平成 26 年 7 月）

2. 交通事故の状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における交通事故の発生状況は、表 3.2-11 に示すとおりである。

表 3.2-11　交通事故の発生状況

市町村	区分	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
横須賀市	件数(件)	1,174	970	1,069	1,053	1,130
	死者(人)	8	7	9	4	4
	傷者(人)	1,373	1,143	1,226	1,221	1,329
逗子市	件数(件)	183	137	159	156	145
	死者(人)	1	－	2	－	－
	傷者(人)	206	152	180	169	176
葉山町	件数(件)	114	77	112	108	110
	死者(人)	－	1	1	－	－
	傷者(人)	144	91	134	121	126

資料：「県勢要覧 2024（令和 6 年度版）」（令和 7 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2023（令和 5 年度版）」（令和 6 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2022（令和 4 年度版）」（令和 5 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2021（令和 3 年度版）」（令和 4 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2020（令和 2 年度版）」（令和 3 年 3 月、神奈川県）

3. 鉄道の状況

実施区域及び周辺地域の鉄道網及び駅の立地状況は、図 3.2-6 に示すとおりである。

実施区域の北から東側にかけて、JR 東日本横須賀線及び京浜急行本線が通っている。鉄道駅は、横須賀線が東逗子、田浦、横須賀、衣笠の 4 駅が、京浜急行本線は、京急田浦、安針塚、逸見、汐入、横須賀中央の 5 駅が位置している。

各鉄道駅の利用状況は表 3.2-12 に示すとおりである。

表 3.2-12　主な鉄道駅の利用状況(1 日平均乗車人員)

鉄道名称		駅名	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
JR 東日本	横須賀線	逗子	28,798	20,786	22,287	24,071	25,184
		横須賀	4,845	3,796	4,196	4,513	4,591
		衣笠	8,369	6,475	6,874	7,155	7,405
京浜急行電鉄	京浜急行本線	京急田浦	6,482	4,959	5,202	5,588	4,959
		安針塚	2,296	1,801	1,913	2,040	1,801
		逸見	2,650	1,941	2,037	2,238	1,941
		汐入	8,846	7,892	8,699	9,655	7,892
		横須賀中央	33,879	24,816	26,906	28,911	24,816

注 1)JR 東日本の乗車人員が 1 日平均表記のため、他の鉄道駅も年間乗車人員を 365 で除して表記した。
資料：「県勢要覧 2024（令和 6 年度版）」（令和 7 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2023（令和 5 年度版）」（令和 6 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2022（令和 4 年度版）」（令和 5 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2021（令和 3 年度版）」（令和 4 年 3 月、神奈川県）
「県勢要覧 2020（令和 2 年度版）」（令和 3 年 3 月、神奈川県）

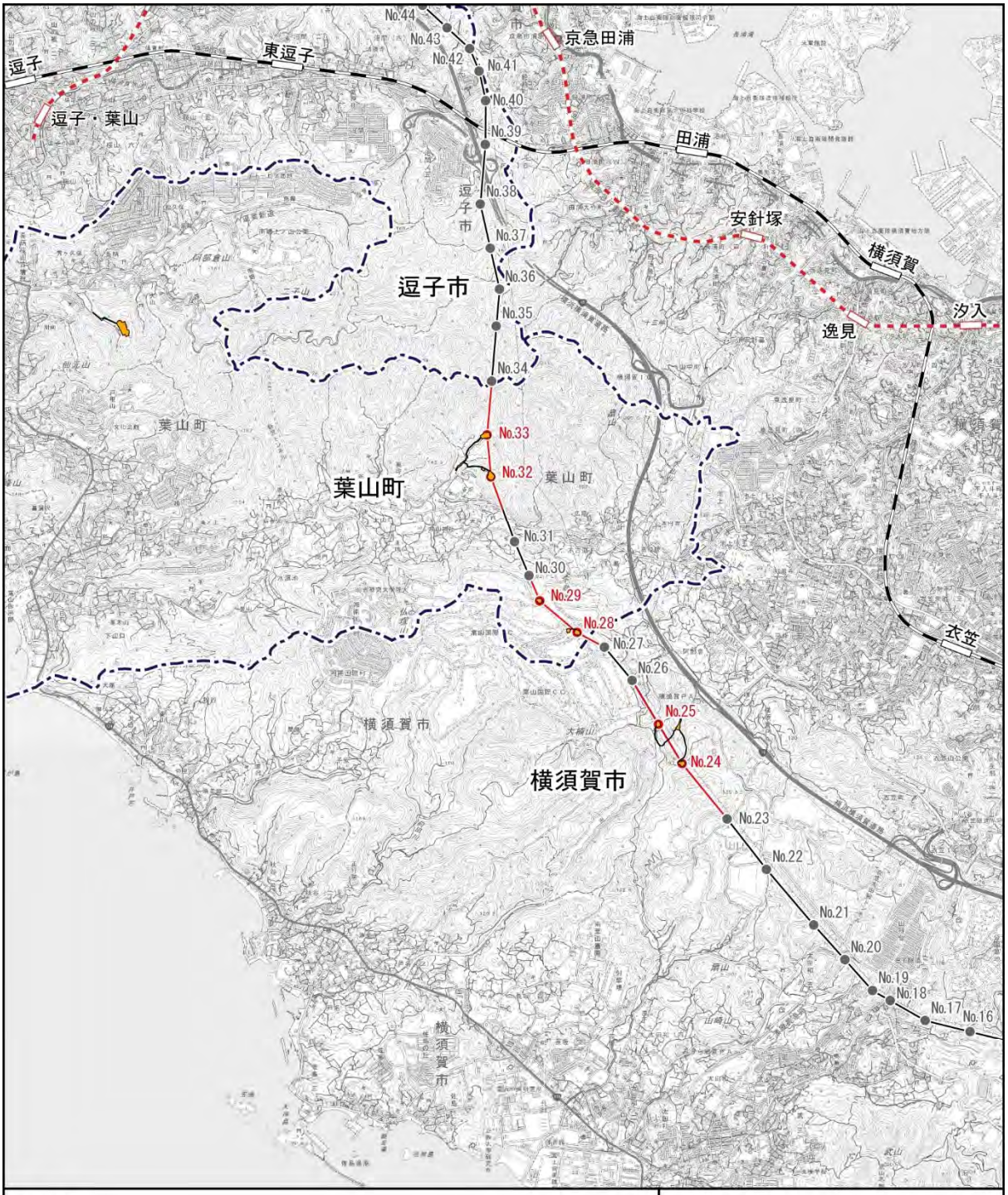


図 3.2-6
鉄道網及び主な駅の立地状況

4. バス路線の状況

実施区域及び周辺地域のバス路線の状況は、図 3.2-7 に示すとおりである。また、営業所別バス乗客数の推移は表 3.2-13 に示すとおりである。

実施区域及び周辺地域の路線バスは、すべて京浜急行バスの運行となっている。バス乗客数は、令和 5 年の衣笠営業所が 10,321,568 人/年と最も多い。

また、逗子市が高齢者センター（図 3.2-7 の範囲外、東逗子駅の北約 1.5km）の利用のため、60 歳以上の利用者限定の「福祉バス」を 3 路線運行しており、そのうち 1 路線が実施区域の北側の沼間地区を通っている。

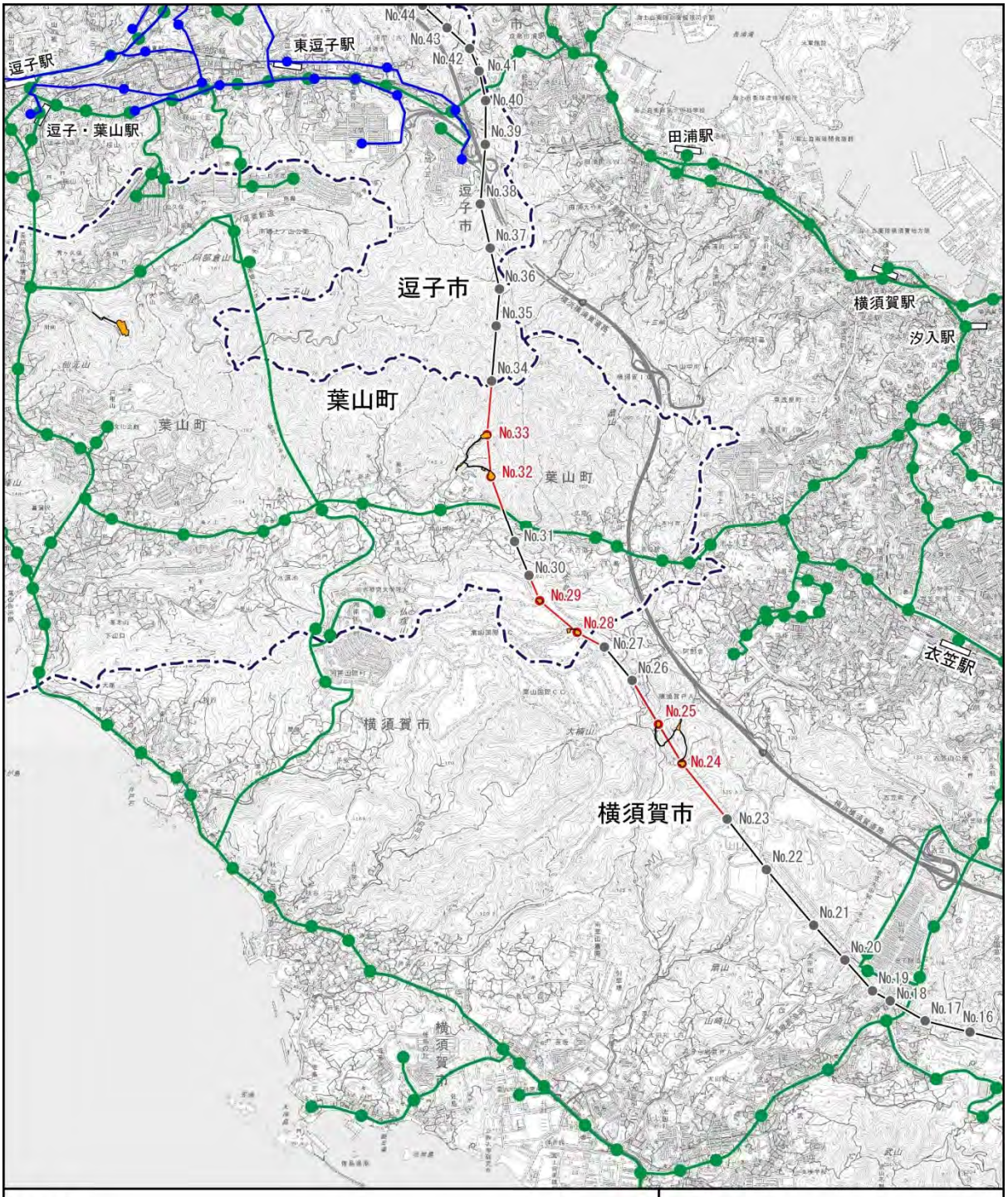
なお、横須賀市が運営するコミュニティバスは、浜東団地から 3 路線を運行しているが、図 3.2-7 の範囲外である。

表 3.2-13　営業所別バス乗客数の推移

単位：人/年

営業所	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
堀 内	1,018,252	－	－
衣 笠	9,360,455	10,321,568	10,234,226
逗 子	7,542,618	8,115,784	8,237,082

注）堀内営業所は令和 4 年 3 月 12 日で閉鎖したため、データは令和 4 年までである。
資料：「よこすかデータベース」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 路線バス（京浜急行バス）
- 逗子市福祉バス（高齢者センター行）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2km

図 3.2-7　バス路線の状況

第 6 節　水利用

1. 湧水の利用状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における主な湧水は、表 3.2-14 に示すとおりであり、いずれも実施区域及び周辺地域の範囲外である。

走水水源地は、現在も水道水源として利用されており、1 日約 1,000㎥の水量がある。

また、葉山町の水源地は、以前は御用邸において飲用として利用されていたが、現在は利用していない。

表 3.2-14　主な湧水の状況

湧水名	所在地	実施区域からの距離	備　考
走水水源地	横須賀市走水 1-2-1	東約　7km	水道水源として利用されている。
亀の泉	逗子市小坪 1-9	北西約 5km	地元自治会が管理。
水源地	葉山町下山口 1548 付近	西約　4km	以前は御用邸において飲用として利用。現在は利用していない。

資料：「湧水保全ポータルサイト」（環境省 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「走水水源地」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

2. 河川の利水状況

実施区域及び周辺地域の主な河川の状況は、表 3.2-15 及び図 3.2-8 に示すとおりである。

松越川水系、平作川水系、田越川水系、下山川水系の二級河川等が存在しており、横須賀市、逗子市及び葉山町では水道水源としての利水はない。

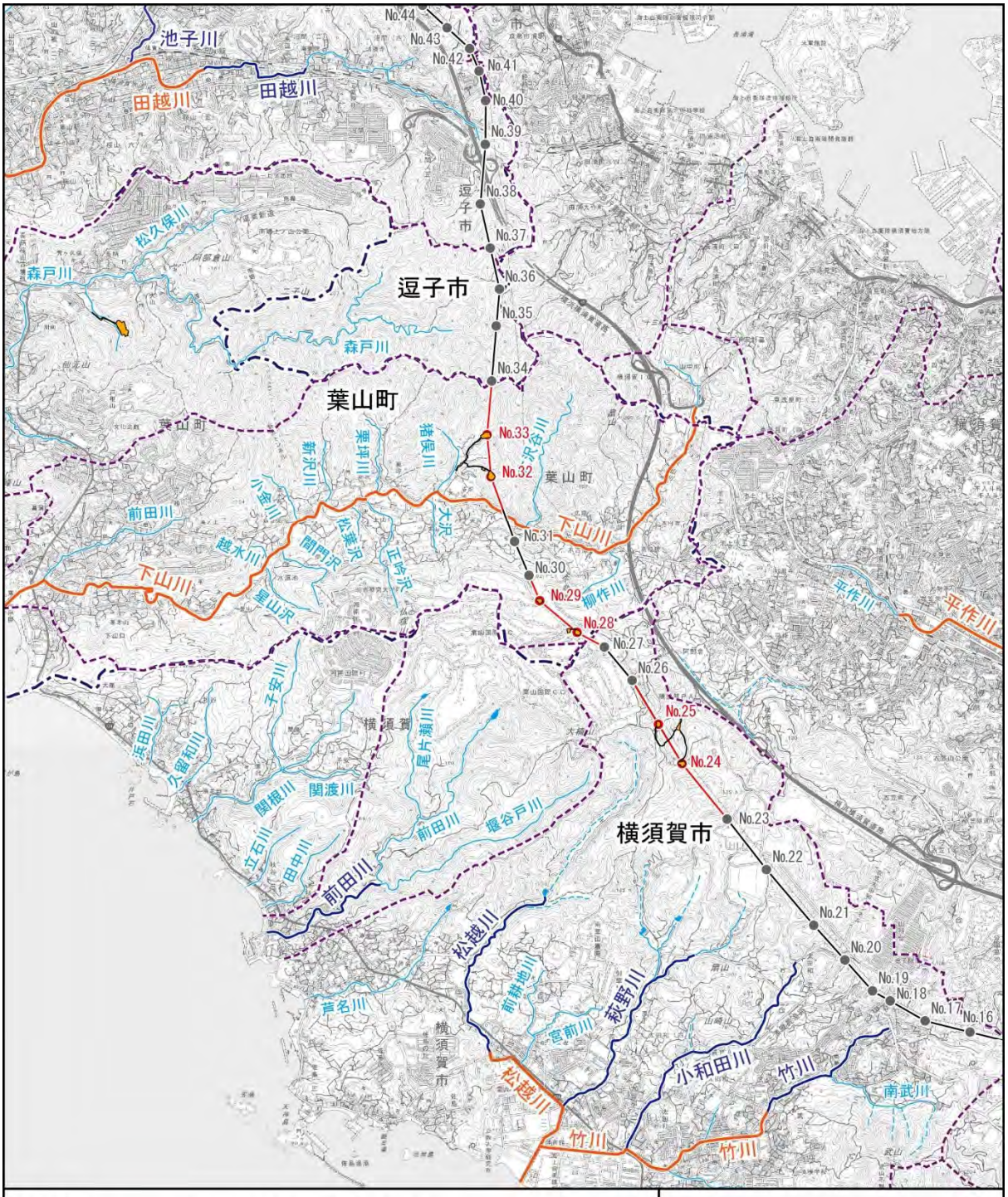
表 3.2-15　主な河川の状況

区分	水系名	河川名	河川延長(m)	流域面積(km²)
二級河川	松越川	松越川	1,550	11.92
		竹川	1,940	6.73
	平作川	平作川	7,070	26.08
	田越川	田越川	3,000	13.14
	下山川	下山川	2,000	10.37
準用河川	松越川	松越川	1,580	1.44
		竹川	1,430	2.07
		小和田川	2,300	2.45
		荻野川	1,910	2.26
	長沢川	長沢川	1,580	3.07
	前田川	前田川	1,120	3.78
	田越川	田越川	1,120	3.90
		池子川	1,860	3.60

注）下山川は県管理区間の数値であり、葉山町管理区間は含まれていない。
資料：「令和 4 年度土地統計資料集」（令和 5 年 3 月、神奈川県）

3. 河川の漁業権の設定状況

「神奈川県内水面の漁業権全図」によると、実施区域及び周辺地域の松越川水系、平作川水系、田越川水系、下山川水系には、内水面漁業権は設定されていない。



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 二級河川区間
- 準用河川
- 普通河川
- 溜池
- 水路
- 流域界

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

資料：「国土数値情報 河川データ」（国土交通省 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「横須賀市河川網図」（平成 31 年 3 月）

図 3.2-8　主な河川の状況

第 7 節　環境保全に留意を要する施設

実施区域及び周辺地域の環境保全に留意を要する施設の状況は、表 3.2-16(1)～(7)及び図 3.2-9(1)～(3)に示すとおりである。なお、表中の環境保全に留意を要する施設は、図 3.2-9(1)～(3)の範囲のものを示している。

実施区域及び周辺地域には、教育施設が 46 施設、医療施設が 4 施設、福祉施設が 77 施設、その他の施設が 49 施設存在している。なお、実施区域の鉄塔№32 の約 300m 西側に上山口小学校が位置している。

表 3.2-16(1)　環境保全に留意を要する施設(教育・医療施設)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
教育施設	幼稚園	横須賀市	1	城北幼稚園	横須賀市平作 6-3-10
			2	深愛幼稚園	横須賀市衣笠栄町 3-79
			3	田浦幼稚園	横須賀市田浦町 5-51
			4	武山幼稚園	横須賀市太田和 1-12-1
		逗子市	5	かぐのみ幼稚園	逗子市沼間 4-1-1
		葉山町	6	あおぞら幼稚園	葉山町木古庭 1333
			7	御国幼稚園	葉山町木古庭 1768
			8	あけの星幼稚園	葉山町堀内 1968
			9	どれみ幼稚園	葉山町一色 1862-1
			10	明照幼稚園	葉山町堀内 570-4
	小学校	横須賀市	1	船越小学校	横須賀市船越町 5-34
			2	長浦小学校	横須賀市安針台 3-1
			3	逸見小学校	横須賀市西逸見町 1-14
			4	沢山小学校	横須賀市東逸見町 3-35
			5	桜小学校	横須賀市坂本町 1-19
			6	汐入小学校	横須賀市汐入町 2-53
			7	池上小学校	横須賀市池上 3-5-1
			8	城北小学校	横須賀市平作 1-6-1
			9	衣笠小学校	横須賀市小矢部 2-16-1
			10	富士見小学校	横須賀市武 3-19-1
			11	武山小学校	横須賀市太田和 3-1-1
			12	荻野小学校	横須賀市荻野 8-1
			13	大楠小学校	横須賀市芦名 1-29-18
		逗子市	14	逗子小学校	逗子市逗子 4-2-45
			15	沼間小学校	逗子市沼間 1-7-18
		葉山町	16	上山口小学校	葉山町上山口 158
			17	長柄小学校	葉山町長柄 130
			18	葉山小学校	葉山町堀内 2050-1
			19	一色小学校	葉山町一色 1060

注）表中の№は、図 3.2-9(1)の番号に対応する。

資料：「施設案内」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「市内の幼稚園情報」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「小学校一覧」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「保育園・幼稚園」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「小学校・中学校」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-16(2)　環境保全に留意を要する施設(教育・医療施設)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
教育施設	中学校	横須賀市	1	田浦中学校	横須賀市船越町 7-66
			2	坂本中学校	横須賀市坂本町 1-19
			3	不入斗中学校	横須賀市坂本町 1-19
			4	私立緑ヶ丘女子中学校	横須賀市緑が丘 39
			5	池上中学校	横須賀市池上 3-5-1
			6	衣笠中学校	横須賀市平作 2-31-1
			7	大楠中学校	横須賀市芦名 1-2-1
		逗子市	8	沼間中学校	逗子市沼間 3-21-2
		葉山町	9	葉山中学校	葉山町堀内 2247-2
			10	南郷中学校	葉山町長柄 1835
	特別支援学校	横須賀市	1	県立武山養護学校(小・中・高)	横須賀市武 3-35-1
	高等学校	横須賀市	1	私立緑ヶ丘女子高等学校	横須賀市緑が丘 39
			2	私立三浦学苑高等学校	横須賀市衣笠栄町 3-80
			3	海洋科学高等学校	横須賀市長坂 1-2-1
		逗子市	4	神奈川県立逗子葉山高等学校	逗子市桜山 5-24-1
	大学･専門学校	横須賀市	1	ヨコスカ調理製菓専門学校	横須賀市汐入町 2-9
		葉山町	2	総合研究大学院大学	葉山町上山口 1560-35
医療施設	病院	横須賀市	1	横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2
		逗子市	2	逗子病院	逗子市桜山 4-1-20
			3	青木病院	逗子市桜山 6-1336
		葉山町	4	葉山ハートセンター	葉山町下山口 1898-1

注) 表中のNo.は、図 3.2-9(1)の番号に対応する。

資料：「施設案内」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「よこすかわが街ガイドオープンデータ」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「中学校一覧」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「神奈川県立高等学校の一覧」(神奈川県 HP、令和 7 年 7 月)
「逗葉医師会所属医療機関一覧」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「施設を探す」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-16(3)　環境保全に留意を要する施設(福祉施設)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
福祉施設	保育園 ・保育所等	横須賀市	1	船越保育園	横須賀市船越町 6-69
			2	田浦保育園	横須賀市長浦町 1-1597
			3	武山保育園	横須賀市武 4-17-1
			4	池上愛育園	横須賀市池上 7-6-6
			5	衣笠愛児園	横須賀市平作 8-14-1
			6	平作保育園	横須賀市平作 6-4-33
			7	大楠愛児園	横須賀市芦名 1-31-17
			8	ベネッセ汐入保育園	横須賀市本町 3-23-7
			9	ベネッセ逸見保育園	横須賀市西逸見町 1-37
			10	認定こども園善隣園	横須賀市田浦町 2-80-1
			11	認定こども園善隣園分園 こばと園	横須賀市東逸見町 1-1
			12	太田和こども園	横須賀市太田和 3-733
			13	聖佳幼稚園	横須賀市坂本町 1-29
			14	相武幼稚園	横須賀市太田和 5-2665
			15	太田和こども園分園	横須賀市太田和3-1177-3
			16	聖心第三幼稚園	横須賀市汐見台 2-16-15
			17	認定こども園横須賀若葉幼稚園	横須賀市金谷 1-5-8
			18	葉山インターナショナルスクール	横須賀市秋谷 4427－１
			19	よこすか大楠まなびの村 おひさまえん	横須賀市秋谷 1-6-3-5
			20	ほいくるーむ　こぐまざ	横須賀市衣笠栄町 2-60
			21	リーベリー保育園	横須賀市東逸見町 1-30
			22	よこすか保育園	横須賀市東逸見町 2-6-1
			23	ヨコスカインターナショナルスクール プリスクール&キンダーガーテン	横須賀市東逸見町 4-16-70
			24	baby&tot place　結-Ｙｕｉ-	横須賀市本町 2-1-12
			25	チャイルドケアーひまわり	横須賀市太田和 5-266-1
		逗子市	26	沼間愛児園	逗子市沼間 1-21-10
			27	桜山保育園	逗子市桜山 5-15-2
			28	逗子ないろ保育園	逗子市桜山 6-18-22
			29	かぐのみ保育園	逗子市沼間 2-21-26-7
		葉山町	30	葉山にこにこ保育園	葉山町長柄 991-1
			31	風の子保育園	葉山町上山口 1658-2
			32	おひさま保育室	葉山町一色 1531-11
			33	葉山保育園	葉山町堀内 2050-9
			34	芽ぐみ保育室	葉山町堀内 670
			35	みんくいナーサリー	葉山町堀内 718-2
			36	かもめと風保育園	葉山町長柄 62-4

注）表中のNo.は、図 3.2-9(2)の番号に対応する。

資料：「施設案内」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「市内保育施設一覧」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「施設を探す」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-16(4)　環境保全に留意を要する施設(福祉施設)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
福祉施設	老人福祉施設	横須賀市	1	特別養護老人ホーム やまびこ荘 ケアハウス　あっとホーム	横須賀市武 3-39-2
			2	養護老人ホーム共楽荘	横須賀市衣笠栄町 4-14
			3	ヴィンテージ・ヴィラ横須賀	横須賀市西逸見町 1-38
			4	有料老人ホーム サニーライフ横須賀	横須賀市長坂 3-9-20
			5	ラ・ナシカ　よこすか	横須賀市平作 5-7-8
			6	介護付き有料老人ホーム アシステッドリビング湘南佐島	横須賀市佐島の丘 1-2-10
			7	すみれ	横須賀市長坂 3-6-35
			8	Ｍｙ・Ｈｏｍｅ	横須賀市東逸見町 4-36-1
			9	しんわホーム武山館	横須賀市武 1-30-24
			10	福寿よこすか池上	横須賀市池上 4-4-1
			11	葉山湘南国際村 シニアライフセンター	横須賀市湘南国際村 1-5-3
			12	福寿よこすか武	横須賀市武 1-20-18
			13	しんわホーム長坂	横須賀市長坂 3-3-5
			14	交欒　湘南佐島	横須賀市佐島 1-14-1
			15	サービス付き高齢者向け住宅 はなことば横須賀衣笠	横須賀市衣笠町 44-5
			16	住まいるＣｌａｓｓ池上	横須賀市池上 3-3－3
			17	衣笠ホーム	横須賀市芦名 2-4-1
			18	介護老人福祉施設　玉成苑	横須賀市長浦町 5-80-1
			19	特別養護老人ホーム　興寿苑	横須賀市池上 6-5-21
			20	さくらの里山科	横須賀市太田和 5-86-1
			21	特別養護老人ホーム 湘南ホーム	横須賀市太田和 5-500
			22	特別養護老人ホーム 塚山ホーム	横須賀市吉倉町 2-24-1
			23	高齢者総合福祉センター ヒューマン	横須賀市佐島 3-12-15
			24	特別養護老人ホーム ゆうあいの郷 衣笠	横須賀市衣笠町 44-7
			25	介護老人福祉施設 横須賀愛光園	横須賀市武 3-39-1
				介護老人福祉施設 横須賀愛光園（ユニット型）	横須賀市武 3-39-1
			26	特別養護老人ホーム 横須賀椿園	横須賀市太田和 2-3-21

注）表中のNo.は、図 3.2-9(2)の番号に対応する。

資料：「老人福祉施設基本情報」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「横須賀市介護付有料老人ホーム一覧」（令和 7 年 6 月 1 日、横須賀市）
「介護事業所・生活関連情報検索」（厚生労働省 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「高齢者福祉施設」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「介護保険事業所一覧」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-16(5)　環境保全に留意を要する施設(福祉施設)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
福祉施設	老人福祉施設	逗子市	27	ＳＯＭＰＯケア ラヴィーレ東逗子	逗子市沼間 3-6-10
			28	けいすい one ｓホームゆるりと	逗子市桜山 3-4-45
			29	ベストライフ逗子	逗子市桜山 3-23-16
			30	医療法人社団　柏信会　介護老人保健施設グリーンハウス逗子	逗子市桜山 6-1355
			31	特別養護老人ホーム 逗子杜の郷	逗子市沼間 1-23-1
				特別養護老人ホーム 逗子杜の郷（ユニット型）	
			32	桜山ハイム結生	逗子市桜山 5-1-1
			33	ショウエイナーシングレジデンス逗子桜山	逗子市桜山 5-46-17
			34	グリーンハウス逗子	逗子市桜山 6-1355
		葉山町	35	葉山の丘	葉山町一色 408
			36	介護老人福祉施設　葉山清寿苑	葉山町上山口 1669
			37	ライフコミューン葉山	葉山町一色 1957
			38	HAYAMA 銀の杜	葉山町堀内 1788-1
			39	オハナの家 Hale 一色	葉山町一色 1962-1
			40	アンコール葉山	葉山町長柄 264
			41	グループホーム葉山の里	葉山町長柄 253-1

注）表中のNo.は、図 3.2-9(2)の番号に対応する。

資料：「老人福祉施設基本情報」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「横須賀市介護付有料老人ホーム一覧」（令和 7 年 6 月 1 日、横須賀市）
「介護事業所・生活関連情報検索」（厚生労働省 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「高齢者福祉施設」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「介護保険事業所一覧」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-16(6)　環境保全に留意を要する施設(その他)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
その他	コミュニティセンター・自治会館	横須賀市	1	田浦コミュニティセンター	横須賀市船越町 6-77
			2	長浦コミュニティセンター	横須賀市長浦町 2-45
			3	逸見コミュニティセンター	横須賀市東逸見町 2-29
			4	本町コミュニティセンター	横須賀市本町 2-1
			5	坂本コミュニティセンター	横須賀市坂本町 1-19
			6	池上コミュニティセンター	横須賀市池上 4-6-1
			7	武山コミュニティセンター	横須賀市武 3-5-1
			8	西コミュニティセンター	横須賀市長坂 1-2-2
		逗子市	9	沼間小学校区コミュニティセンター	逗子市沼間 3-16-32
			10	東逗子会館	逗子市沼間 2-1-1
			11	アーデンヒル自治会館	逗子市沼間 3-21-1
			12	グリーンヒル自治会館	逗子市沼間 5-17-1
			13	興人東逗子自治会館	逗子市沼間 6-7-1
			14	逗子桜山コンフォートガーデン自治会館	逗子市桜山 5-40-1
			15	逗子市福祉会館	逗子市桜山 5-32-1
		葉山町	16	木古庭会館	葉山町木古庭 605-1
			17	上山口会館	葉山町上山口 2627
			18	一色岡会館	葉山町一色 473-5
			19	一色第二岡会館	葉山町一色 488-15
			20	葉桜会館	葉山町長柄 1413-154
			21	イトーピア会館	葉山町長柄 1642-275
			22	木の下会館	葉山町堀内 673-2
			23	福祉文化会館	葉山町堀内 2220
			24	一色町民いこいの家	葉山町一色 1779-6
			25	堀内町民いこいの家	葉山町堀内 1768-1
	児童館他	横須賀市	1	逸見青少年の家(逸見みんなの家)	横須賀市西逸見町 1-38-1
			2	大楠青少年の家(大楠みんなの家)	横須賀市芦名 2-30-4
		葉山町	3	木古庭児童館	葉山町木古庭 605
			4	上山口児童館	葉山町上山口 2627
			5	葉桜児童館	葉山町長柄 1413-154
			6	下山口児童館	葉山町下山口 1705-1
			7	青少年会館	葉山町堀内 1735-112
	図書館・博物館等	横須賀市	1	生涯学習センター	横須賀市西逸見町 1-38-11
			2	天神島臨海自然教育園	横須賀市佐島 3-7-2
			3	天神島ビジターセンター	横須賀市佐島 3-7-3
			4	ヴェルニー記念館	横須賀市東逸見町 1-1
			5	よこすか近代遺産ミュージアム ティボディエ邸	横須賀市汐入町 1-1
		葉山町	6	葉山町立図書館	葉山町堀内 1874

注) 表中のNo.は、図 3.2-9(3)の番号に対応する。

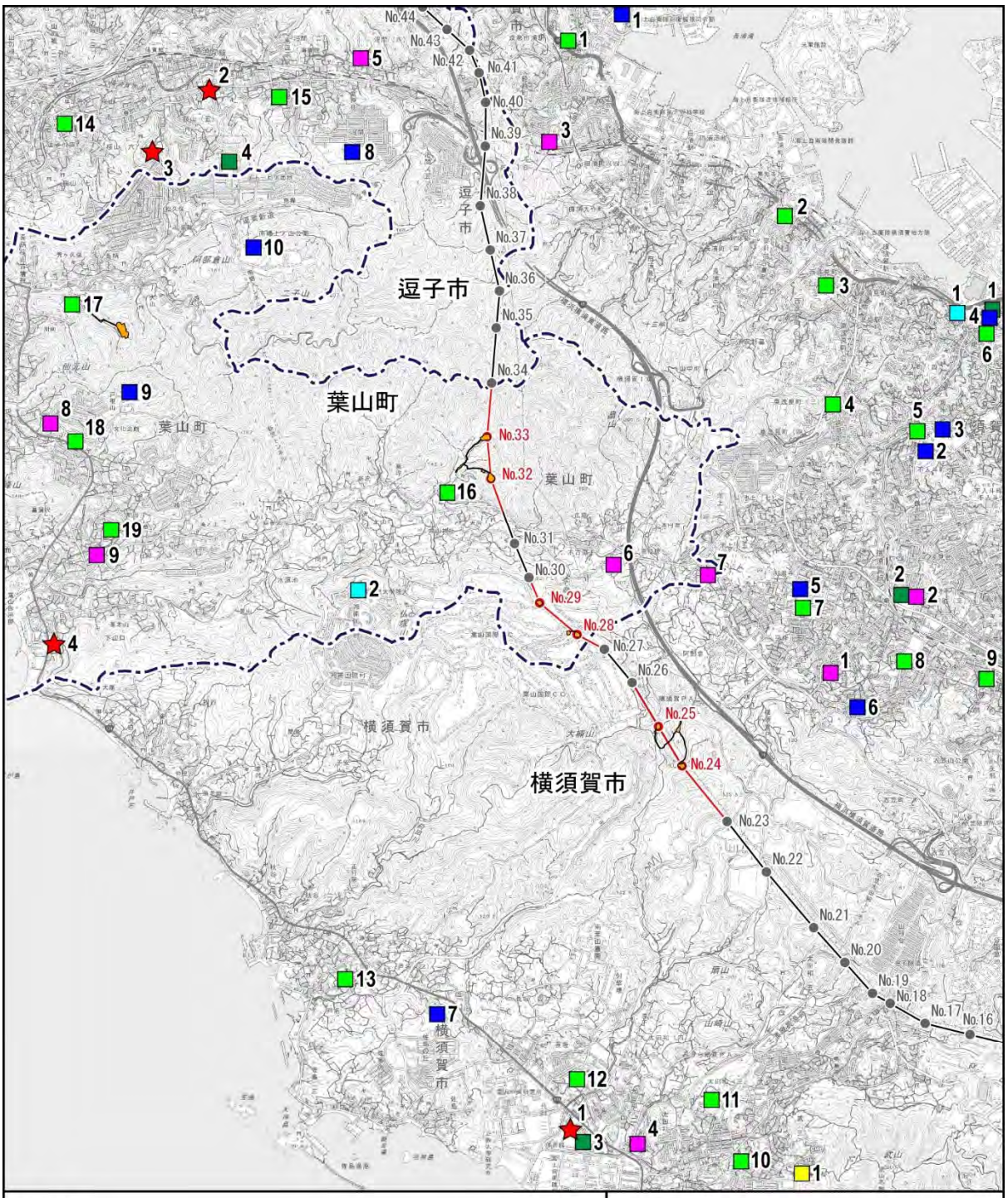
資料：「施設案内」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「市内の地域活動センター」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「施設を探す」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「スポーツ施設」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「南郷上ノ山公園」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-16(7)　環境保全に留意を要する施設(その他)

区　分		市町村	No.	名　称	所在地
その他	スポーツ施設	横須賀市	1	はまゆう公園	横須賀市不入斗町 4-25
			2	不入斗公園	横須賀市不入斗町 1-2-1
			3	サブアリーナ温水プール 総合体育館	横須賀市不入斗町 1-2
			4	衣笠公園	横須賀市平作 1-6-2
			5	佐島の丘温水プール	横須賀市佐島の丘 1-1-1
			6	西体育会館	横須賀市長坂 1-2-3
			7	西公園	横須賀市武 3-33-1
			8	健康増進センター (すこやかん)	横須賀市西逸見町 1-38-11
			9	湘南国際村西公園	横須賀市湘南国際村 1-2-5
		逗子市	10	第一運動公園	逗子市池子 1-275-1
		葉山町	11	南郷上ノ山公園	葉山町長柄 1888-1

注) 表中のNo.は、図 3.2-9(3)の番号に対応する。

資料：「施設案内」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「市内の地域活動センター」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「施設を探す」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「スポーツ施設」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「南郷上ノ山公園」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 特別支援学校
- 大学・専門学校
- 医療施設

N

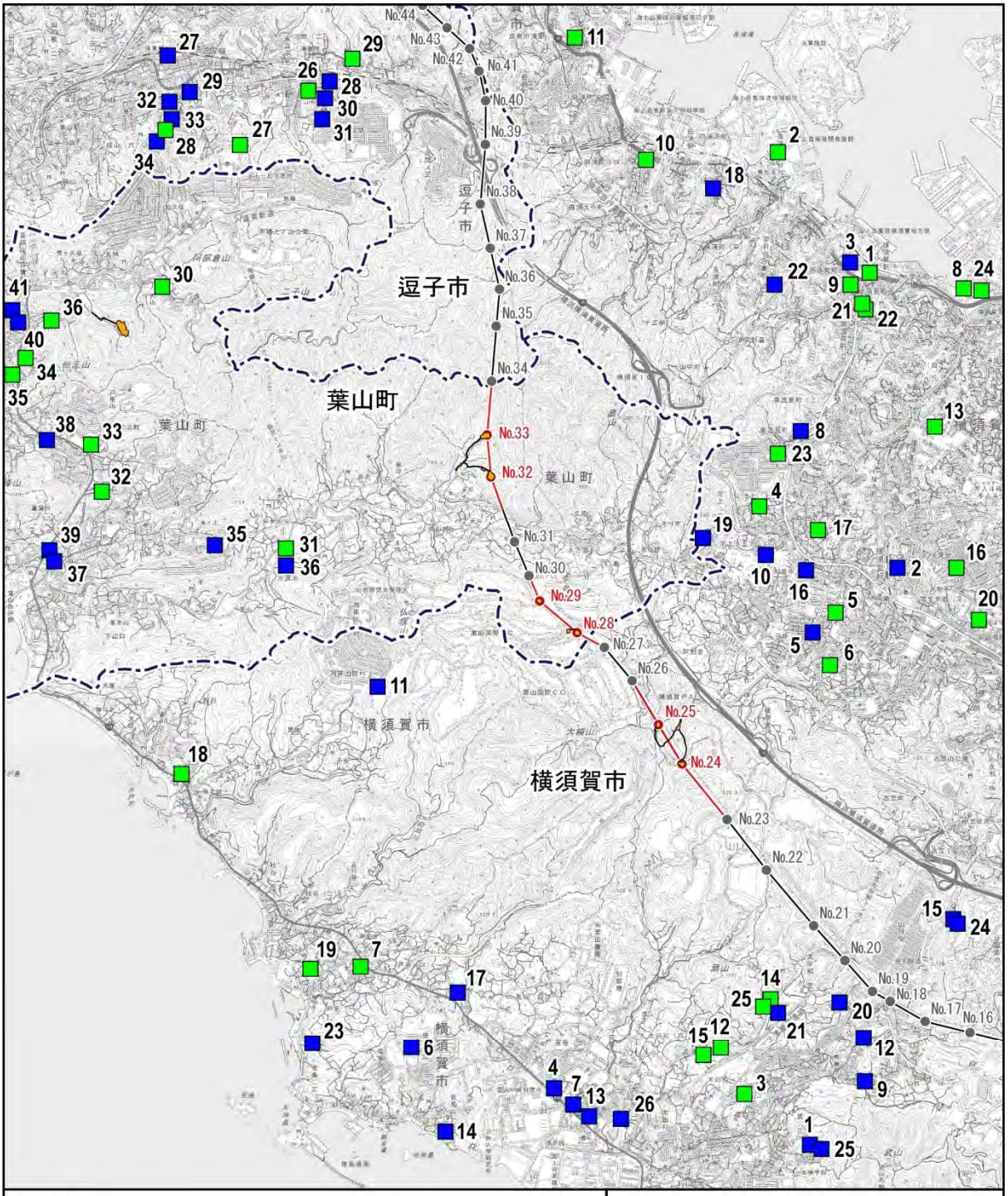
1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注)図中の番号は、表 3.2-16(1)、(2)に対応する。

資料：「施設案内」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「小学校一覧」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「中学校一覧」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「神奈川県立高等学校の一覧」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月）
「逗葉医師会所属医療機関一覧」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「施設を探す」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）　等

図 3.2-9(1)
環境保全に留意を要する施設の分布
（教育・医療施設）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 保育園・保育所
- 老人福祉施設

注）図中の番号は、表 3.2-16(3)に対応する。

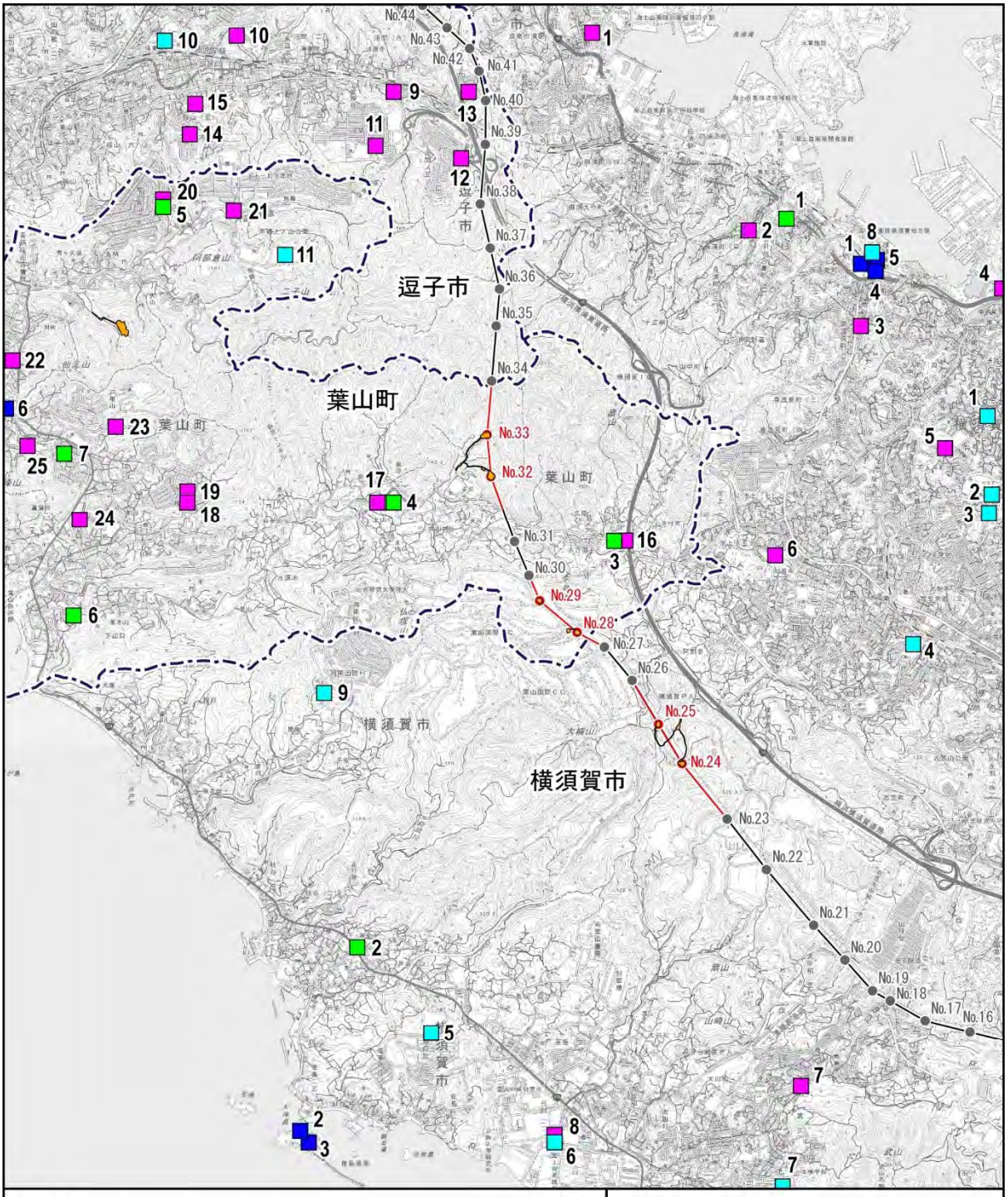
資料：「施設案内」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「よこすかわが街ガイドオープンデータ」
（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「市内保育施設一覧」
（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「施設を探す」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧） 等

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

図 3.2-9(2)
環境保全に留意を要する施設の分布
（福祉施設）



注)図中の番号は、表 3.2-16(4)に対応する。
資料：「施設案内」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）　等

図 3.2-9(3)
環境保全に留意を要する施設の分布
（その他施設）

第 8 節　環境関連の社会資本の状況

1. 上水道の普及状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における上水道の普及状況は、表 3.2-17 に示すとおりである。

3 市町とも上水道の普及率は 100%である。なお、逗子市と葉山町は、鎌倉市の上水道施設から供給を受けている。また、専用水道は、横須賀市が施設数 6、逗子市が施設数 1、葉山町が施設数 1 である。

表 3.2-17　上水道の普及状況(令和 5 年度)

市町村	行政区域内人口(人)	現在給水人口(人)	普及率(人口比)	上水道			専用水道		
				施設数	現在給水人口(人)	給水量(千m³)	施設数	現在給水人口(自己水源)	現在給水人口(浄水受水)
横須賀市	371,930	371,921	100.0	1	371,921	51,085	6	−	3,485
逗子市	55,771	55,769	100.0	−	55,769	6,858	1	−	980
葉山町	30,898	30,893	100.0	−	30,893	3,767	1	−	5

資料：「県勢要覧 2024（令和 6 年度版)」(令和 7 年 3 月、神奈川県)

2. 下水道の普及状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における下水道の整備状況は、表 3.2-18 に、汚水処理整備区域は、図 3.2-10 に示すとおりである。

下水道処理人口普及率は、横須賀市が 98.3%、逗子市は 100.0%、葉山町は 76.5%となっている。

なお、葉山町では、令和 7 年度を目標年度として、公共下水道の整備及び合併処理浄化槽への転換により生活排水処理率 100%を目標に「葉山町生活排水処理基本計画」に基づく施策を推進している。

表 3.2-18　下水道の整備状況(令和 5 年度)

市町村	行政区域面積(ha)	下水道法全体計画区域面積(ha)	下水道法事業計画区域面積(ha)	処理区域面積(ha)	行政人口(千人)	下水道処理人口(千人)	下水道処理人口普及率(%)
横須賀市	10,081	6,463	6,169	5,888	381.1	374.7	98.3
逗子市	1,728	864	864	864	58.3	58.3	100.0
葉山町	1,704	513	513	513	32.1	24.6	76.5

資料：「神奈川県の下水道事業」(令和 6 年、神奈川県)

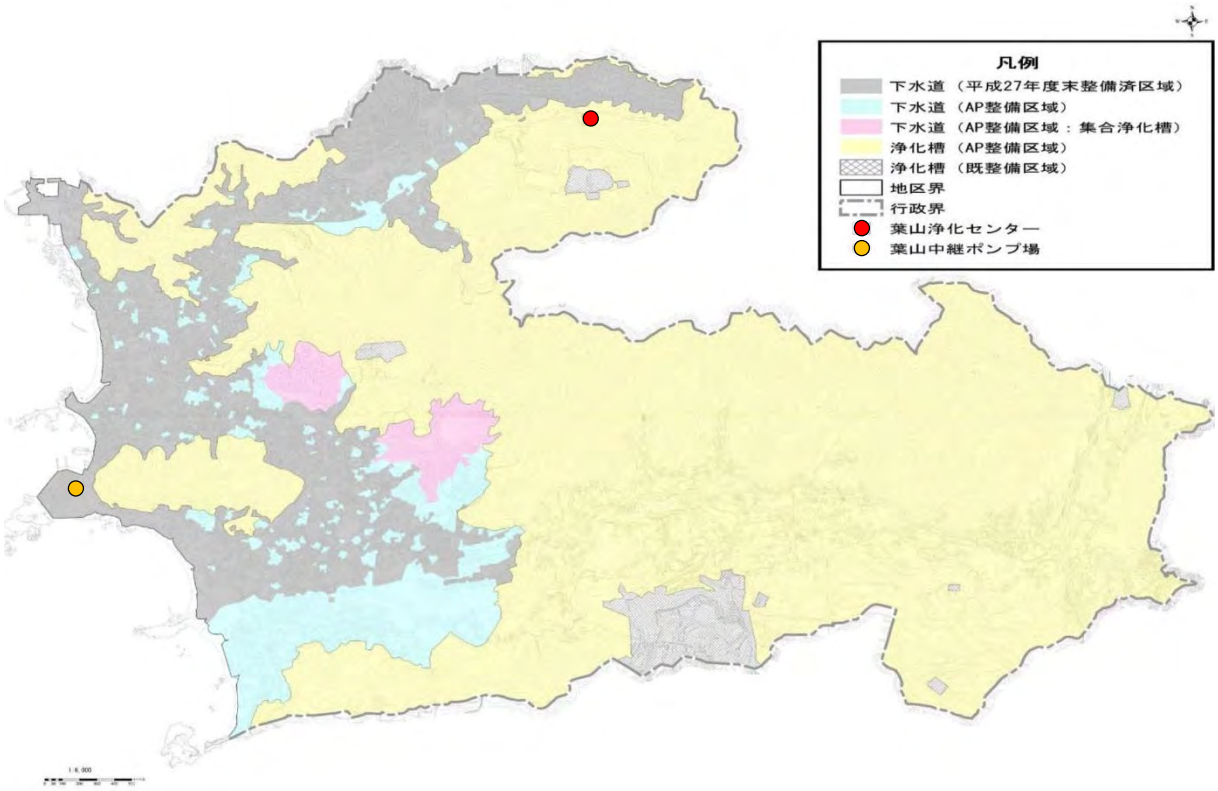


図 3.2-10　汚水処理整備区域図(令和 7 年度計画)

資料：「葉山町生活排水処理基本計画」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

3. 公園緑地の分布状況

実施区域及び周辺地域の公園・緑地の状況は、表 3.2-19(1)～(6)及び図 3.2-11 に示すとおりである。なお、表中の環境保全に留意を要する施設は、図 3.2-11 の範囲のものを示している。

実施区域及び周辺地域には、公園・緑地が 248 箇所存在している。

表 3.2-19(1)　公園・緑地の状況(1)

市町村	No.	公園種別	名　称	所在地	面積(㎡)
横須賀市	1	街区	南郷公園	横須賀市船越町 4-6	4,430
	2		船越 6 丁目第 2 公園	横須賀市船越町 6-47-42	1,717
	3		船越 7 丁目公園	横須賀市船越町 7-12-31	883
	4		梅田公園	横須賀市船越町 7-58-22	2,454
	5		船越 1 丁目公園	横須賀市船越町 1-5-8	6,241
	6		船越 3 丁目第 2 公園	横須賀市船越町 3-33-3	622
	7		板取公園	横須賀市船越町 2-31-9	2,472
	8		港が丘公園	横須賀市港が丘 1-1-91	5,584
	9		田浦公園	横須賀市田浦町 4-7-1	847
	10		田浦 1 丁目公園	横須賀市田浦町 1-49-1	411
	11		田の浦公園	横須賀市長浦町 1-20-1	2,600
	12		安針台公園	横須賀市安針台 31-35	6,031
	13		吉倉公園	横須賀市吉倉町 1-104	3,215
	14		長浦 2 丁目公園	横須賀市長浦町 2-45-9	227
	15		長浦 3 丁目第 2 公園	横須賀市長浦町 3-106-1	517
	16		長浦 3 丁目公園	横須賀市長浦町 3-60-3	428
	17		十三峠公園	横須賀市山中町 133-1	484
	18		安針台第 2 公園	横須賀市安針台 17-16	6,692
	19		西逸見公園	横須賀市西逸見町 2-9-5	259
	20		逸見小学校前公園	横須賀市西逸見町 1-32	874
	21		ｳｪﾙｼﾃｨ公園	横須賀市西逸見町 1-38-26	2,313
	22		東逸見 2 丁目公園	横須賀市東逸見町 2-6-3	407
	23		汐入 5 丁目第 2 公園	横須賀市汐入町 5-45-12	1,380
	24		港町公園	横須賀市汐入町 2-10-11	606
	25		汐入 5 丁目公園	横須賀市汐入町 5-23-11	1,114
	26		汐入公園	横須賀市汐入町 2-38-5	136
	27		坂本 1 丁目第 2 公園	横須賀市坂本町 1-68	1,844
	28		東逸見 3 丁目公園	横須賀市東逸見町 3-14-32	434
	29		坂本公園	横須賀市坂本町 1-19	5,838
	30		坂本 1 丁目公園	横須賀市坂本町 1-44-14	492
	31		坂本 3 丁目公園	横須賀市坂本町 3-10-27	2,277
	32		逸見が丘公園	横須賀市逸見が丘 50-29	3,255
	33		逸見が丘第 3 公園	横須賀市逸見が丘 6-23	1,633
	34		東逸見 4 丁目公園	横須賀市東逸見町 4-16-76	536
	35		逸見が丘第 2 公園	横須賀市逸見が丘 11-2	4,673
	36		池上 7 丁目第 2 公園	横須賀市池上 7 地内	4,145
	37		池上 7 丁目公園	横須賀市池上 7-31	3,352
	38		池上 1 丁目公園	横須賀市池上 1-3988	1,929
	39		桜が丘公園	横須賀市坂本町 5-7-74	4,551
	40		池上公園	横須賀市池上 5-3950-9	999

資料：「横須賀市公園一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園マップ」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園一覧表」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「はやまキッズ&ベビーガイド「葉みんぐ」」（令和 7 年 7 月閲覧）
「はやま三ヶ岡山緑地」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「塚山公園」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-19(2)　公園・緑地の状況(2)

市町村	No.	公園種別	名　称	所在地	面積(㎡)
横須賀市	41	街区	金谷第 2 公園	横須賀市金谷 1-630-1	1,031
	42		金谷公園	横須賀市金谷 1-487-2	578
	43		不入斗 3 丁目公園	横須賀市不入斗町 3-18-14	1,640
	44		鶴が丘 2 丁目公園	横須賀市鶴が丘 2-13-4	318
	45		坂本台公園	横須賀市鶴が丘 2-31-152	5,809
	46		衣笠栄町 4 丁目公園	横須賀市衣笠栄町 4-4	2,609
	47		金谷 2 丁目第 3 公園	横須賀市金谷 2-409-48	905
	48		金谷 2 丁目第 2 公園	横須賀市金谷 2-409-47	959
	49		金谷 2 丁目公園	横須賀市金谷 2-409-44	2,044
	50		衣笠栄町 4 丁目第 2 公園	横須賀市衣笠栄町 4-5	573
	51		汐見台 3 丁目公園	横須賀市汐見台 3-24-58	371
	52		汐見台公園	横須賀市汐見台 3-1-13	1,156
	53		衣笠栄町第 2 公園	横須賀市衣笠栄町 3-67	305
	54		衣笠栄町 2 丁目公園	横須賀市衣笠栄町 2-56	946
	55		衣笠栄町 1 丁目公園	横須賀市衣笠栄町 1-45	1,174
	56		衣笠栄町公園	横須賀市衣笠栄町 3-1-1	3,571
	57		平作公園	横須賀市平作 7-3120-1	3,926
	58		平作 1 丁目たぶのき公園	横須賀市平作 1-2953	1,423
	59		平作第 2 公園	横須賀市平作 8-3461	1,254
	60		すみれ公園	横須賀市平作 8-3535	1,854
	61		池上 3 丁目公園	横須賀市池上 3-3629-2	815
	62		栄地谷公園	横須賀市平作 5-1544-65	1,261
	63		阿部倉公園	横須賀市阿部倉 1506-1	657
	64		衣笠町公園	横須賀市衣笠町 28	146
	65		衣笠住吉公園	横須賀市衣笠町 74	2,192
	66		大矢部中尾公園	横須賀市大矢部 5-25-13	751
	67		武 1 丁目第 4 公園	横須賀市武 1-2044	178
	68		武 1 丁目第 5 公園	横須賀市武 1-1281	302
	69		武 1 丁目第 2 公園	横須賀市武 1-1843	404
	70		武 1 丁目第 3 公園	横須賀市武 1-1317	168
	71		武 5 丁目第 3 公園	横須賀市武 5-1142	4,960
	72		武 1 丁目公園	横須賀市武 1-1520	755
	73		武 5 丁目第 2 公園	横須賀市武 5-1108	1,516
	74		武 5 丁目公園	横須賀市武 5-1033	1,160
	75		武 4 丁目第 2 公園	横須賀市武 4-971	789
	76		武 4 丁目第 3 公園	横須賀市武 4-971	993
	77		武 4 丁目公園	横須賀市武 4-1011	330
	78		武 3 丁目公園	横須賀市武 3-138	1,421
	79		武山公園	横須賀市林 1-2209	2,413
	80		一騎塚公園	横須賀市武 3-4	50
	81		林 2 丁目公園	横須賀市林 2-1151	973
	82		太田和 1 丁目公園	横須賀市太田和 1-1071	1,466
	83		太田和 1 丁目第 2 公園	横須賀市太田和 1-1071	3,231
	84		太田和 1 丁目第 3 公園	横須賀市太田和 1-1465	1,175
	85		太田和 1 丁目第 4 公園	横須賀市太田和 1-1465	1,572

資料：「横須賀市公園一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園マップ」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園一覧表」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「はやまキッズ&ベビーガイド「葉みんぐ」」（令和 7 年 7 月閲覧）
「はやま三ヶ岡山緑地」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「塚山公園」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-19(3)　公園・緑地の状況(3)

市町村	No.	公園種別	名　称	所在地	面積(㎡)
横須賀市	86	街区	林 1 丁目公園	横須賀市林 1-2455	460
	87		林 2 丁目第 2 公園	横須賀市林 2-1303	1,029
	88		太田和 2 丁目公園	横須賀市太田和 2-1962	2,051
	89		荻野公園	横須賀市荻野 230	1,376
	90		長坂公園	横須賀市長坂 3-2035	4,541
	91		長坂第 2 公園	横須賀市長坂 3-790	1,827
	92		長坂第 3 公園	横須賀市長坂 3-790	1,874
	93		佐島の丘第 2 公園	横須賀市佐島の丘 1-249	2,401
	94		佐島の丘第 3 公園	横須賀市佐島の丘 2-757	1,072
	95		芦名 1 丁目公園	横須賀市芦名 1-375	197
	96		秋谷 1 丁目公園	横須賀市秋谷 1-724	243
	97		秋谷 1 丁目きらきら公園	横須賀市秋谷 1-90-2	4,259
	98		秋谷 2 丁目公園	横須賀市秋谷 2-280	285
	99		久留和公園	横須賀市秋谷 4424	1,173
	100		秋谷公園	横須賀市秋谷 4540	625
	101		秋谷第 2 公園	横須賀市秋谷 5260	1,037
	102		湘南国際村 1 丁目公園	横須賀市湘南国際村 1-3209	8,500
逗子市	103		下田公園	逗子市逗子 2-75-8	384
	104		柳原公園	逗子市桜山 1-70-1	626
	105		亀井児童公園	逗子市逗子 5-976	687
	106		向原西公園	逗子市桜山 3-85-36	261
	107		向原東公園	逗子市桜山 4-49-2	462
	108		中里児童公園	逗子市桜山 4-287-1	532
	109		桜山上公園	逗子市桜山 5-327	229
	110		みどりヶ丘公園	逗子市桜山 5-375-15	424
	111		持田公園	逗子市桜山 5-419	317
	112		桜山公園	逗子市桜山 6-1097-71	2,785
	113		才戸児童公園	逗子市桜山 6-1289	418
	114		葉桜公園	逗子市桜山 6-1326-29	325
	115		南台児童公園	逗子市沼間 1-137-15	191
	116		エルデ公園	逗子市沼間 2-1519-21	2,440
	117		アーデンヒルやまびこ公園	逗子市沼間 3-301-6	5,205
	118		アーデンヒル中央公園	逗子市沼間 3-301-106	3,627
	119		アーデンヒルつどいの広場	逗子市沼間 3-301-148	5,894
	120		アーデンヒル花の森公園	逗子市沼間 3-301-227	8,672
	121		柚沢公園	逗子市沼間 4-1174	212
	122		グリーンヒル見晴公園	逗子市沼間 5-759-52	1,020
	123		グリーンヒルピッチング広場公園	逗子市沼間 5-759-78	954
	124		グリーンヒル砂場公園	逗子市沼間 5-765-150	700
	125		グリーンヒルフラワー公園	逗子市沼間 5-765-252	567
	126		グリーンヒルテニス公園	逗子市沼間 5-765-283	-
	127		グリーンヒルこかげ公園	逗子市沼間 5-848-2	651
	128		グリーンヒルつばき公園	逗子市沼間 5-848-157	2,120
	129		篠山公園	逗子市沼間 6-1092-2	379
	130		池子児童公園	逗子市池子 1-51	763

注)「-」は面積のデータが無いことを示す。

資料：「横須賀市公園一覧」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「公園マップ」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「公園一覧表」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「はやまキッズ&ベビーガイド「葉みんぐ」」(令和 7 年 7 月閲覧)
「はやま三ヶ岡山緑地」(神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「塚山公園」(神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-19(4)　公園・緑地の状況(4)

市町村	No.	公園種別	名　称	所在地	面積(㎡)
逗子市	131	街区	アザリエ南公園	逗子市池子 2-283-486	1,236
	132		アザリエ望洋公園	逗子市池子 2-283-536	467
	133		廻り倉児童公園	逗子市池子 2-2350	1,028
	134		ファミール逗子公園	逗子市山の根 1-435-13	165
	135		山の根松本公園	逗子市山の根 3-92-2	405
	136		松本谷戸公園	逗子市山の根 3-159-39	681
	137		沼間大山公園	逗子市沼間 5-847-74	690
	138		アザリエやまゆり公園	逗子市池子 2-283-549	964
	139		なごみの丘公園	逗子市桜山 5-533-3	2,467
葉山町	140		あらく児童遊園	葉山町木古庭 1696-5	209
	141		木古庭公園	葉山町木古庭 1652-1	3,096
	142		ふれあい公園	葉山町木古庭 1366	1,612
	143		沢田児童遊園	葉山町木古庭 645-6	605
	144		上山口公園	葉山町上山口 2626	457
	145		日影一色丘公園	葉山町一色 738-7、8	297
	146		一色台中央公園	葉山町一色 720-55	565
	147		一色台西公園	葉山町一色 720-60	519
	148		砂場公園	葉山町一色 530-145	1,552
	149		一色岡公園	葉山町一色 489-4、61	2,815
	150		丘の上公園	葉山町一色 488-14	535
	151		四ツ角公園	葉山町一色 178-4、71-75	864
	152		谷公園	葉山町一色 63-33	616
	153		サワラ公園	葉山町一色 59-26	1,077
	154		パーゴラ公園	葉山町一色 59-37	962
	155		ヒマラヤスギ公園	葉山町一色 71-80	1,259
	156		菖蒲沢公園	葉山町一色 1750-9	1,030
	157		上原公園	葉山町一色 1854-16	109
	158		芝公園	葉山町堀内 2184-43	1,429
	159		戸根山児童遊園	葉山町堀内 2184-11	730
	160		花の木公園	葉山町堀内 2145	4,318
	161		つつじヶ丘児童遊園	葉山町堀内 1735-88	575
	162		東伏見東公園	葉山町堀内 2100-196	2,439
	163		東伏見中央公園	葉山町堀内 1950-66	312
	164		東伏見西公園	葉山町堀内 1950-105	2,968
	165		ヤシノキ公園	葉山町長柄 634-14	276
	166		芳ケ久保児童遊園	葉山町長柄 768-8	189
	167		松久保公園	葉山町長柄 1387-3	1,615
	168		汐見児童遊園	葉山町長柄 677-32	241
	169		富士見児童遊園	葉山町長柄 705-11	539
	170		葉桜中央児童遊園	葉山町長柄 1461-154	745
	171		ジャングルジム公園	葉山町長柄 1601-179	640
	172		ケヤキ公園	葉山町長柄 1601-157	303
	173		あやめ公園	葉山町長柄 1601-219	1,052
	174		すみれ公園	葉山町長柄 1642-23	523
	175		象さん公園	葉山町長柄 1642-118、119	1,241

資料：「横須賀市公園一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園マップ」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園一覧表」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「はやまキッズ&ベビーガイド「葉みんぐ」」（令和 7 年 7 月閲覧）
「はやま三ヶ岡山緑地」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「塚山公園」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-19(5)　公園・緑地の状況(5)

市町村	No.	公園種別	名　称	所在地	面積(㎡)
葉山町	176	街区	山ゆり公園	葉山町長柄 1642-177	312
	177		イトーピア児童遊園	葉山町長柄 1642-276	245
	178		プラタナス公園	葉山町長柄 1642-220	325
	179		さつき公園	葉山町長柄 1642-477	238
	180		アベリア公園	葉山町長柄 1642-462	395
	181		主馬寮公園	葉山町一色 1945-29	1,668
横須賀市	182	近隣	池の谷戸公園	横須賀市田浦町 6-1-28	16,960
	183		諏訪公園	横須賀市緑が丘 33	14,884
	184		はまゆう公園	横須賀市不入斗町 4-25	24,664
	185		ヴェルニー公園	横須賀市汐入町 1-1-1	27,457
	186		万葉公園	横須賀市平作 3-1971	4,529
	187		池上 7 丁目第 3 公園	横須賀市池上 7 地内	14,879
	188		立石公園	横須賀市秋谷 3-1584	4,840
	189		湘南国際村西公園	横須賀市湘南国際村 1-3509-5	20,000
	190		山科台公園	横須賀市山科台 23-14	23,035
	191		佐島の丘公園	横須賀市佐島の丘 2-856	14,347
	192		佐島の丘第 4 公園	横須賀市佐島の丘 1-1-3	14,066
逗子市	193		桜山中央公園	逗子市桜山 5-375-11	31,823
	194		久木大池公園	逗子市久木 8-1287-2	17,209
	195		大崎公園	逗子市小坪 4-739	21,371
葉山町	196		イトーピア中央公園	葉山町長柄 1642-276	5,083
葉山町	197	総合	南郷上ノ山公園	葉山町長柄 1888-1	288,351
横須賀市	198	運動	不入斗公園	横須賀市不入斗町 1-2-1	136,504
	199		衣笠公園	横須賀市平作 1-2712-1	12,124
	200		西公園	横須賀市武 3-458-1	53,348
横須賀市	201	地区	県立塚山公園	横須賀市西逸見町・山中町・長浦町	47,000
逗子市	202		第一運動公園	逗子市池子 1-11	55,576
逗子市	203	特殊	披露山公園	逗子市新宿 5-4-1	-
横須賀市	204	風致	衣笠山公園	横須賀市小矢部 4-922	253,755
横須賀市	205	緑地	田浦梅の里	横須賀市田浦泉町 92	544,286
	206		船越 3 丁目都市緑地	横須賀市船越町 3-10-2	8,287
	207		安針台都市緑地	横須賀市安針台 4-9	2,551
	208		池上緑地	横須賀市池上 3-3567	2,155
	209		太田和つつじの丘	横須賀市太田和 5-2638	33,399
	210		湘南国際村緑地	横須賀市湘南国際村 2-3242	9,118
	211		秋谷緑地	横須賀市秋谷 1818	36,414
	212		長坂緑地	横須賀市横須賀市芦名 3-1460	778,306
逗子市	213		沼間大山緑地	逗子市沼間 5-847-1	-
葉山町	214	都市緑地	湘南国際村グリーンパーク 1 号	葉山町上山口 1560-91	12,587
	215		湘南国際村グリーンパーク 2 号	葉山町下山口 7-9	9,987
横須賀市	216	動植物	しょうぶ園	横須賀市阿部倉 546	37,597
横須賀市	217	緑道	佐島の丘緑道緑地	横須賀市佐島の丘 2-1089	613
横須賀市	218	都市林	長浦 1 丁目都市林	横須賀市長浦町 1-38	2,225
	219		船越 2 丁目都市林	横須賀市船越町 2-29-18	976
	220		船越 1 丁目都市林	横須賀市船越町 1-22	630

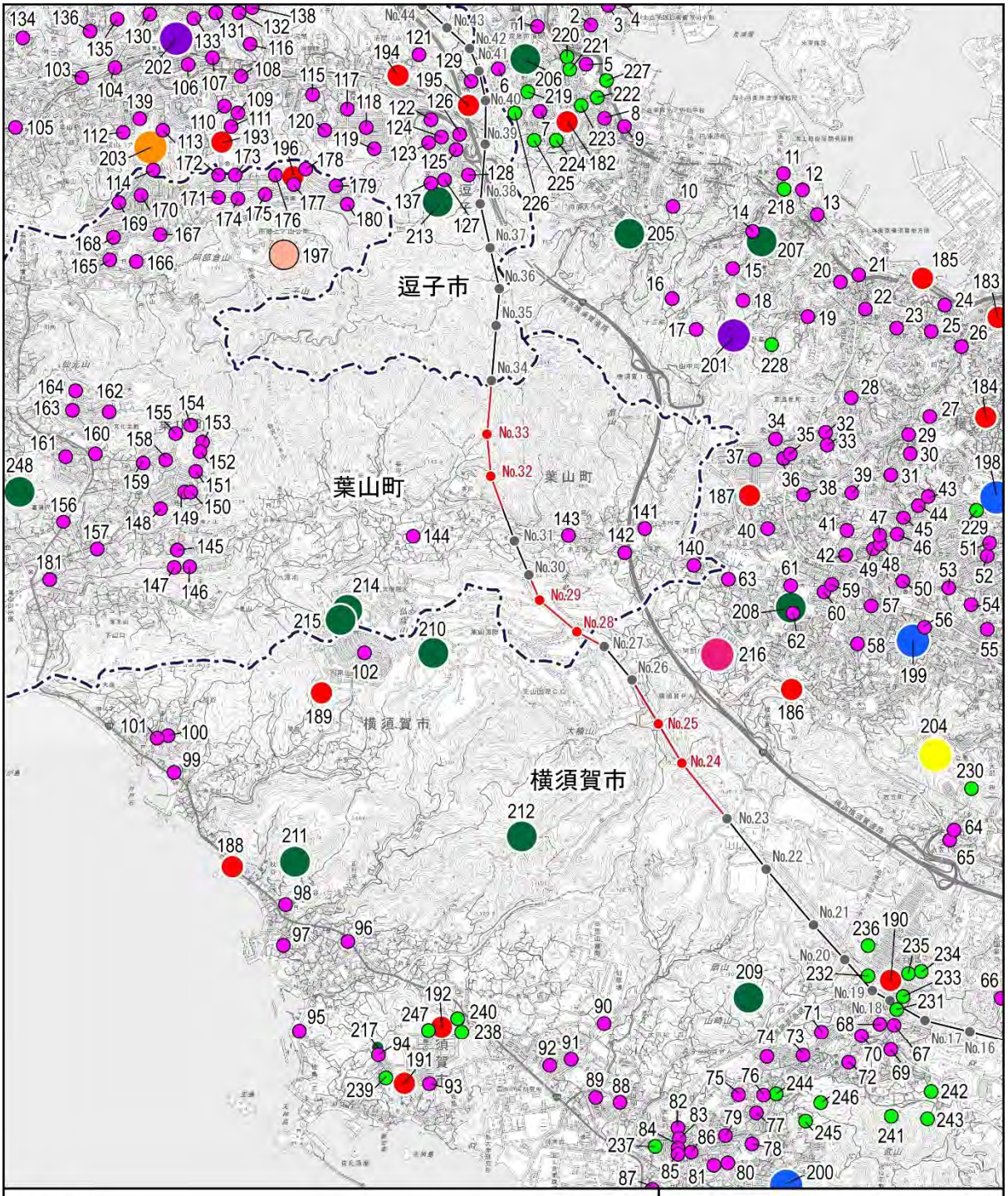
注)「-」は面積のデータが無いことを示す。

資料：「横須賀市公園一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園マップ」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園一覧表」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「はやまキッズ&ベビーガイド「葉みんぐ」」（令和 7 年 7 月閲覧）
「はやま三ヶ岡山緑地」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「塚山公園」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-19(6)　公園・緑地の状況(6)

市町村	No.	公園種別	名　称	所在地	面積(㎡)
横須賀市	221	都市林	船越 1 目第 2 都市林	横須賀市船越町 1-30-2	1,028
	222		田浦 6 丁目都市林	横須賀市田浦町 6-37	1,400
	223		田浦 6 丁目第 2 都市林	横須賀市田浦町 6-30	3,452
	224		田浦町 5 丁目都市林	横須賀市田浦町 5-21	9,465
	225		田浦町 5 丁目第 2 都市林	横須賀市田浦町 5-56	5,724
	226		船越 2 丁目第 2 都市林	横須賀市船越町 2-5-1	15,372
	227		船越 1 丁目第 2 都市林	横須賀市船越町 1-30-2	1,028
	228		西逸見 3 丁目都市林	横須賀市西逸見町 3-38	2,480
	229		不入斗 2 丁目都市林	横須賀市不入斗町 2-1	1,046
	230		小矢部 4 丁目都市林	横須賀市小矢部 4-1203-2	31,037
	231		武 2 丁目都市林	横須賀市武 2-1940	2,439
	232		山科台都市林	横須賀市山科台 7-10	12,989
	233		山科台第 2 都市林	横須賀市山科台 5-14	11,066
	234		山科台第 3 都市林	横須賀市山科台 52-23	2,921
	235		山科台第 4 都市林	横須賀市山科台 52-20	2,563
	236		山科台第 5 都市林	横須賀市山科台 9-15	4,956
	237		太田和 1 丁目都市林	横須賀市太田和 1-1465	442
	238		佐島の丘 1 丁目都市林	横須賀市佐島の丘 1-1-1	69,250
	239		佐島の丘 2 丁目都市林	横須賀市佐島の丘 2-757-1	30,977
	240		佐島の丘 1 丁目第 2 都市林	横須賀市佐島の丘 1-681	9,860
	241		武 1 丁目都市林	横須賀市武 1-2933-1	81,698
	242		武 1 丁目第 2 都市林	横須賀市武 1-3043-1	42,367
	243		武 1 丁目第 3 都市林	横須賀市武 1-3277-2	21,352
	244		武4丁目都市林	横須賀市武 4-235-6	4,183
	245		武3丁目第3都市林	横須賀市武 3-4203	2,683
	246		武3丁目第2都市林	横須賀市武 3-3369	73,716
	247		佐島の丘 2 丁目第 2 都市林	横須賀市佐島の丘 1-92-14	6,911
葉山町	248		はやま三ヶ岡山緑地	葉山町一色 1600	295,663

資料：「横須賀市公園一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園マップ」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園一覧表」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「はやまキッズ&ベビーガイド「葉みんぐ」」（令和 7 年 7 月閲覧）
「はやま三ヶ岡山緑地」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「塚山公園」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料：「横須賀市公園一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「公園一覧」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）　等

図 3.2-11　公園・緑地の状況

4. 廃棄物処理施設の状況

(1) 一般廃棄物

① 一般廃棄物

令和 5 年度の横須賀市、逗子市及び葉山町における一般廃棄物の状況は、表 3.2-20 に示すとおりである。

3 市町とも焼却処理施設、粗大ごみ処理施設、資源化施設、最終処分場があり、発生する廃棄物は一括して処理を行っている。

令和 5 年度の総排出量は、横須賀市 112,088t、逗子市 16,665t、葉山町 10,172t であり、焼却量は横須賀市 81,038t、逗子市 10,205t、葉山町 5,637t、資源化量は横須賀市 14,840t、逗子市 3,706t、葉山町 2,888t である。

表 3.2-20　一般廃棄物の状況(令和 5 年度)

市町村	計画収集量(t)	直接搬入量(t)	総処理量(t)				集団回収量(t)	総排出量(t)	1 人 1 日当たりごみ排出量(g/日)
			焼却量	埋立量	資源化量	減量化量			
横須賀市	89,947	6,628	81,038	697	14,840	−	15,513	112,088	816
逗子市	11,963	1,948	10,205	−	3,706	−	2,754	16,665	771
葉山町	7,449	1,103	5,637	26	2,888	1	1,620	10,172	893

「令和 5 年度　一般廃棄物処理事業の概要」(令和 7 年 3 月、神奈川県環境農政局)

② し尿処理

令和 5 年度の横須賀市、逗子市及び葉山町におけるし尿処理の状況は、表 3.2-21 に示すとおりである。

令和 5 年度のし尿、浄化槽汚泥の収集量は、横須賀市 12,411kL、逗子市 273kL、葉山町 8,177kL であり、3 市町ともすべて下水道に投入されている。

表 3.2-21　し尿処理の状況(令和 5 年度)

単位：kL/年

市町村	し尿収集量	浄化槽汚泥収集量	計	下水道投入量	1 日当たり処理施設処理量
横須賀市	1,843	10,568	12,411	12,411	34.0
逗子市	168	105	273	273	0.7
葉山町	78	8,099	8,177	8,177	22.4

「令和 5 年度　一般廃棄物処理事業の概要」(令和 7 年 3 月、神奈川県環境農政局)

(2) 産業廃棄物処理

令和 5 年度の神奈川県における産業廃棄物処理の状況は、表 3.2-22 に示すとおりである。

令和 5 年度の処理量は 9,383,515t、そのうち再生利用量は 6,675,280(71%)、最終処分量は 278,045(3%)、減量化量は 2,430,190(26%)である。

表 3.2-22　産業廃棄物処理の状況(令和 5 年度)

単位：t

	廃棄物の種類	処理量	再生利用量	最終処分量	減量化量
通常産廃	燃え殻	36,897	36,975 (100%)	4,231 (11%)	-4,309 (-12%)
	汚泥	1,915,752	871,837 (46%)	20,151 (1%)	1,023,765 (53%)
	廃油	38,671	10,865 (28%)	505 (1%)	27,301 (71%)
	廃酸	46,624	10,735 (23%)	857 (2%)	35,033 (75%)
	廃アルカリ	77,560	665 (1%)	2,075 (3%)	74,820 (96%)	
	廃プラスチック類	521,941	159,491 (31%)	78,450 (15%)	284,001 (54%)
	紙くず	51,670	22,842 (44%)	8,881 (17%)	19,947 (39%)
	木くず	683,143	558,223 (82%)	10,766 (2%)	114,154 (17%)
	繊維くず	23,390	3,226 (14%)	3,201 (14%)	16,963 (73%)
	動植物性残さ	49,901	26,435 (53%)	929 (2%)	22,538 (45%)
	動物系固形不要物	0	0 -	0 -	0 -
	ゴムくず	41	17 (42%)	11 (28%)	12 (30%)
	金属くず	123,300	109,920 (89%)	3,496 (3%)	9,883 (8%)
	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	349,598	166,106 (48%)	48,064 (14%)	135,428 (39%)
	鉱さい	17,288	15,431 (89%)	944 (5%)	913 (5%)
	がれき類	4,923,587	4,451,213 (90%)	29,396 (1%)	442,978 (9%)
	動物のふん尿	4	3 (75%)	0 (0%)	1 (25%)
	動物の死体	1	0 -	0 (14%)	1 (86%)
	ばいじん	238,776	202,725 (85%)	15,115 (6%)	20,937 (9%)
	混合廃棄物その他	179,778	26,686 (15%)	24,805 (14%)	128,287 (71%)
	計	9,277,922	6,673,395(72%)	251,877(3%)	2,352,653(25%)
特管産廃	特管廃油	4,861	1,660 (34%)	19 (0%)	3,182 (65%)
	特管廃酸	21,464	25 (0%)	753 (4%)	20,686 (96%)
	特管廃アルカリ	9,304	5 (0%)	357 (4%)	8,941 (96%)
	感染性廃棄物	29,450	16 (0%)	3,073 (10%)	26,360 (90%)
	廃 PCB 等	0	0 -	0 -	0 -
	PCB 汚染物	0	0 -	0 -	0 -
	PCB 処理物	0	0 -	0 -	0 -
	廃水銀等	1	1 (60%)	0 (28%)	0 (12%)
	指定汚泥排水	0	0 -	0 -	0 -
	有害鉱さい	1,624	0 (0%)	1,638 (101%)	-14 (-1%)
	廃石綿等	0	0 -	0 -	0 -
	有害燃え殻	10,026	0 (0%)	11,178 (111%)	-1,152 (-11%)
	有害ばいじん	4,519	0 (0%)	4,799 (106%)	-280 (-6%)
	有害廃油	330	51 (15%)	2 (1%)	276 (84%)
	有害汚泥	5,963	116 (2%)	3,700 (62%)	2,147 (36%)
	有害廃酸	5,748	9 (0%)	174 (3%)	5,565 (97%)
	有害廃アルカリ	12,303	2 (0%)	475 (4%)	11,826 (96%)
	計	105,593	1,885(2%)	26,168(25%)	77,537(73%)
合　計		9,383,515	6,675,280(71%)	278,045(3%)	2,430,190(26%)

注) 1. 減量化量が負の値になっているのはコンクリート固形化処理により受入時よりも処理後の重量が増えているためである。
2. ここでの処理量は排出事業者から一次処理を委託された廃棄物の処理量であり、他の処理業者から二次処理を委託された廃棄物の処理量は含まれていない。

資料：「令和 6 年度 神奈川県産業廃棄物処理実態調査報告書(令和 5 年度実績)」(神奈川県、令和 6 年 10 月)

第 9 節　公害の状況

1. 大気汚染

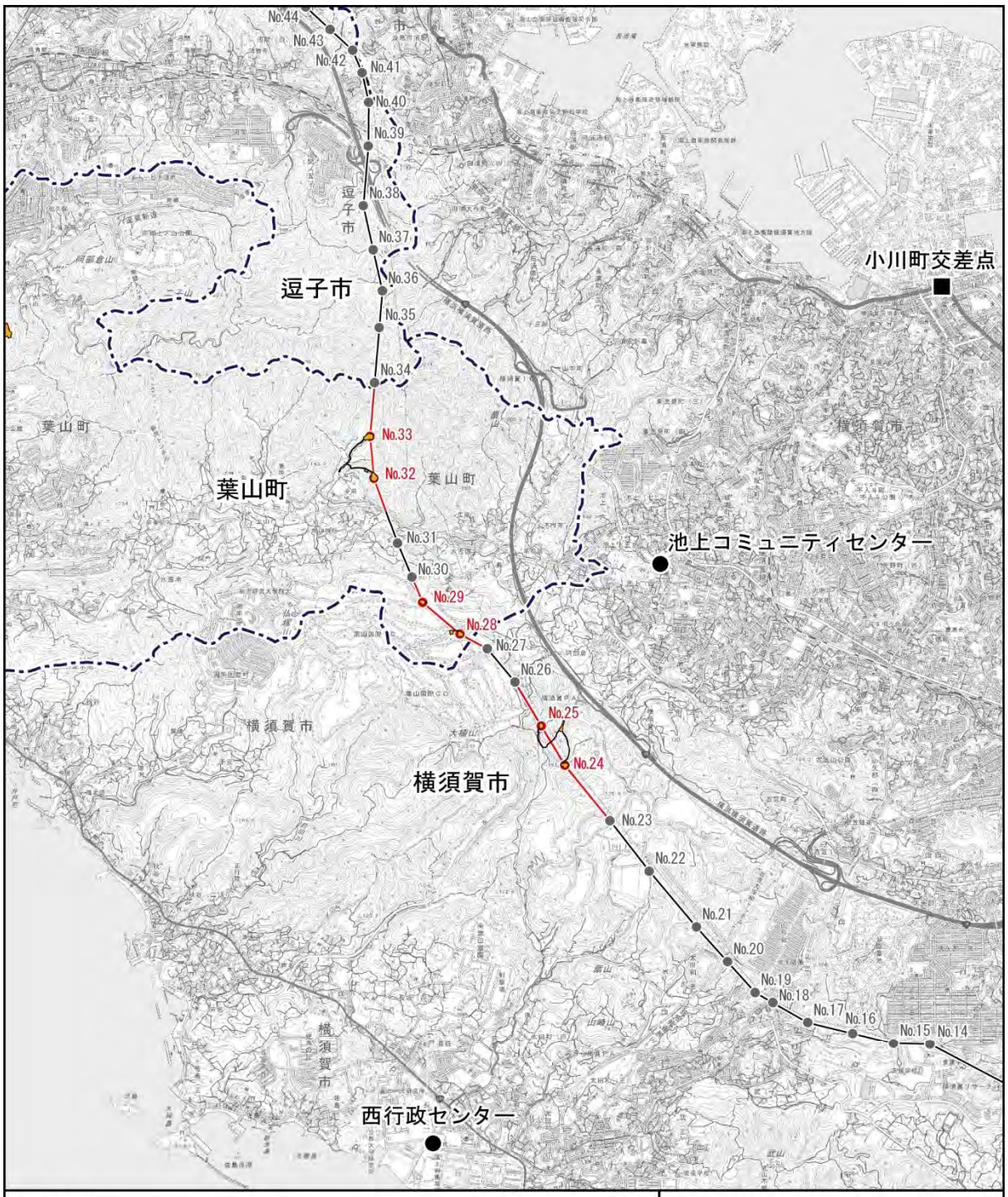
実施区域及び周辺地域の大気汚染常時監視測定局の概要と測定項目は、表 3.2-23 及び図 3.2-12 に示すとおりである。

一般環境大気測定局（以下、「一般局」という。）の西行政センター局が実施区域の南西約 3km に、池上コミュニティセンター局が東約 1.5km に、自動車排出ガス測定局（以下、「自排局」という）の小川町交差点局が東約 4km にそれぞれ位置している。

表 3.2-23　大気汚染常時監視測定局の概要及び測定項目

区分	市町村名	測定局名	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	光化学オキシダント	二酸化硫黄	一酸化炭素	炭化水素
一般局	横須賀市	西行政センター	●	●	●	●	－	－	●
一般局	横須賀市	池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	●	●	●	●	●	－	●
自排局	横須賀市	小川町交差点	●	●	●	－	－	●	－

注）「●」は測定が行われている項目、「－」は測定が行われていない項目を示す。
資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 大気汚染常時監視測定局(一般局)
- 大気汚染常時監視測定局(自排局)

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-12 大気汚染常時監視測定局の位置

(1) 二酸化窒素

二酸化窒素の令和 5 年度の測定結果は表 3.2-24 に示すとおりであり、すべての測定局で環境基準を達成している。

また、年平均値の過去 5 年間の経年変化は表 3.2-25 に示すとおりであり、横ばい傾向である。

※環境基準と評価

環 境 基 準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

環境基準の評価：日平均値の年間 98%値が 0.06ppm を超えないこと。

表 3.2-24　二酸化窒素の測定結果（令和 5 年度）

区分	市町村名	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値の年間 98%値	98%評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数
			日	時間	ppm	ppm	時間	%	日	%	ppm	日
一般局	横須賀市	西行政センター	354	8,440	0.007	0.062	0	0.0	0	0.0	0.022	0
一般局		池上コミュニティセンター	361	8,593	0.009	0.061	0	0.0	0	0.0	0.026	0
自排局		小川町交差点	364	8,583	0.013	0.108	0	0.0	3	0.8	0.034	0

注）「環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数」とは、日平均値の高い方から 2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値が 0.04ppm を超えた日数である。ただし、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続した延日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-25　二酸化窒素の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	年平均値(ppm)				
			令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	横須賀市	西行政センター	0.010	0.009	0.008	0.009	0.007
一般局		池上コミュニティセンター	―	(0.014)	0.010	0.010	0.009
自排局		小川町交差点	0.016	0.016	0.015	0.015	0.013

注）池上コミュニティセンター局は令和 2 年度の測定開始であり、環境基準の評価に必要な測定時間(6,000 時間)を満たしていないため、参考として測定値をかっこ書きで示した。

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(2) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の令和 5 年度の測定結果は表 3.2-26 に示すとおりであり、すべての測定局で環境基準を達成している。また、年平均値の過去 5 年間の経年変化は表 3.2-27 に示すとおりであり、横ばい傾向である。

※環境基準と評価

環 境 基 準：1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

短期的評価：日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 2%除外値が 0.10mg/m³ 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3.2-26　浮遊粒子状物質の測定結果（令和 5 年度）

区分	市町村名	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m³を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m³を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m³を超えた日数
			日	時間	mg/m³	時間	%	日	%	mg/m³	mg/m³	有・無	日
一般局	横須賀市	西行政センター	364	8,722	0.014	0	0.0	0	0.0	0.118	0.033	無	0
一般局		池上コミュニティセンター	363	8,726	0.012	0	0.0	0	0.0	0.087	0.027	無	0
自排局		小川町交差点	364	8,733	0.016	0	0.0	0	0.0	0.173	0.033	無	0

注）「環境基準の長期的評価による日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日数」とは、日平均値の高い方から 2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち 0.10mg/m³ を超えた日数である。ただし、日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続した延日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-27　浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	年平均値（mg/m³）				
			令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	横須賀市	西行政センター	0.017	0.017	0.015	0.015	0.014
一般局		池上コミュニティセンター	―	(0.012)	0.011	0.011	0.012
自排局		小川町交差点	0.019	0.017	0.015	0.015	0.016

注）池上コミュニティセンター局は令和 2 年度の測定開始であり、環境基準の評価に必要な測定時間(6,000 時間)を満たしていないため、参考として測定値をかっこ書きで示した。

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(3) 微小粒子状物質(PM2.5)

微小粒子状物質の令和 5 年度の測定結果は、表 3.2-28 に示すとおりであり、すべての局で環境基準を達成している。また、年平均値の過去 5 年間の経年変化は表 3.2-29 に示すとおりであり、横ばい傾向である。

※環境基準と評価

環境基準：1 年平均値が 15μg/m³以下であり、かつ、1 日平均値が 35μg/m³以下であること。
短期基準：日平均値のうち年間 98%値が 35μg/m³以下であること。
長期基準：年平均値が 15μg/m³以下であること。

表 3.2-28　微小粒子状物質(PM2.5)の測定結果（令和 5 年度）

区分	市町村名	測定局名	有効測定日数	年平均値	日平均値 年間98%値	日平均値が35μg/m³を越えた日数とその割合		年間98%値評価による日平均値が35μg/m³を超えた日数
			日	μg/m³	μg/m³	日	%	日
一般局	横須賀市	西行政センター	358	8.5	19.3	0	0.0	0
一般局		池上コミュニティセンター	359	7.6	17.8	0	0.0	0
自排局		小川町交差点	359	8.3	21.0	0	0.0	0

注）「年間 98%値評価による日平均値が 35μg/m³を超えた日数」とは、1 年間の日平均値のうち低い方から 98%の範囲にあって、かつ 35μg/m³を超えた日数である。
資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-29　微小粒子状物質(PM2.5)の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	年平均値（μg/m³）				
			令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	横須賀市	西行政センター	9.7	8.9	8.1	8.0	8.5
一般局		池上コミュニティセンター	―	(8.6)	7.2	7.4	7.6
自排局		小川町交差点	10.4	10.5	8.8	8.3	8.3

注）池上コミュニティセンター局は令和 2 年度の測定開始であり、環境基準の評価に必要な測定時間(6,000 時間)を満たしていないため、参考として測定値をかっこ書きで示した。
資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(4) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの令和 5 年度の測定結果は、表 3.2-30 に示すとおりであり、すべての局で環境基準を達成している。また、日最高 1 時間値の年平均値の過去 5 年間の経年変化は表 3.2-31 に示すとおりであり、横ばい傾向である。

※環境基準と評価

環 境 基 準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

環境基準の評価：昼間（午前 5 時から午後 8 時まで）の 1 時間が 0.06ppm 以下であること。

表 3.2-30　光化学オキシダントの測定結果（令和 5 年度）

区分	市町村名	測定局名	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の 1 時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の 1 時間値の最高値	昼間の日最高 1 時間値の年平均値
			日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般局	横須賀市	西行政センター	366	5,405	0.036	82	397	0	0	0.105	0.049
一般局		池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	366	5,414	0.032	54	245	0	0	0.097	0.045

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-31　光化学オキシダントの日最高 1 時間値の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	年平均値（ppm）				
			令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	横須賀市	西行政センター	0.048	0.047	0.049	0.047	0.049
一般局		池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	―	0.043	0.046	0.043	0.045

注）池上コミュニティセンター局は令和 2 年度の測定開始である。

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(5) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の令和 5 年度の測定結果は、表 3.2-32 に示すとおりであり、環境基準を達成している。また、年平均値の過去 5 年間の経年変化は表 3.2-33 に示すとおりであり、横ばい傾向である。

※環境基準と評価

環 境 基 準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

短期的評価：平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価：日平均値の年間2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3.2-32　二酸化硫黄の測定結果（令和 5 年度）

区分	市町村名	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
			日	時間	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有･無	日
一般局	横須賀市	池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	364	8,576	0.001	0	0.0	0	0.0	0.021	0.002	無	0

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-33　二酸化硫黄の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	年平均値（ppm）				
			令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	横須賀市	池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	―	(0.001)	0.001	0.001	0.001

注）池上コミュニティセンター局は令和 2 年度の測定開始であり、環境基準の評価に必要な測定時間(6,000 時間)を満たしていないため、参考として測定値をかっこ書きで示した。

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(6) 一酸化炭素

一酸化炭素の令和 5 年度の測定結果は表 3.2-34 に示すとおりであり、環境基準を達成している。また、年平均値の過去 5 年間の経年変化は表 3.2-35 に示すとおりであり、横ばい傾向である。

※環境基準と評価

環 境 基 準：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

環境基準の評価：日平均値の年間 2%除外値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3.2-34　一酸化炭素の測定結果（令和 5 年度）

区分	市町村名	測定局名	測定日数	測定時間	年平均値	8時間値が20ppmを超えた回数とその割合		日平均値が10ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が10ppm超えた日数
			日	時間	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有・無	日
自排局	横須賀市	小川町交差点	364	8,704	0.2	0	0.0	0	0.0	1.3	0.5	無	0

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-35　一酸化炭素の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	年平均値(ppm)				
			令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
自排局	横須賀市	小川町交差点	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2

資料：「令和 5 年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(7) 炭化水素

非メタン系炭化水素の令和5年度の測定結果は表3.2-36に示すとおりである。

なお、非メタン系炭化水素には環境基準は設定されておらず、中央公害対策審議会答申(昭和51年8月13日)による指針値が示されている。

令和5年度は、西行政センターで0.20ppmCを超えた日数は28日、0.31ppmCを超えた日数は8日、池上コミュニティセンターで0.20ppmCを超えた日数は52日、0.31ppmCを超えた日数は12日であった。

また、年平均値の過去5年間の経年変化は表3.2-37に示すとおりであり、減少傾向にある。

※指針値

光化学オキシダントの環境基準である1時間値の0.06ppmに対応する非メタン炭化水素の濃度として、「午前6時～9時の3時間平均値が0.20ppmC～0.31ppmC」

表3.2-36　非メタン系炭化水素の測定結果（令和5年度）

区分	市町村名	測定局名	測定時間	年平均値	6時～9時における年平均値	6時～9時測定日数	6時～9時3時間平均値		6時～9時の3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数とその割合		6時～9時の3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数とその割合	
							最高値	最低値				
			時間	ppmC	ppmC	日	ppmC	ppmC	日	%	日	%
一般局	横須賀市	西行政センター	8,468	0.08	0.09	356	0.48	0.01	28	7.9	8	2.2
一般局		池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	8,602	0.11	0.13	365	0.46	0.01	52	14.2	12	3.3

資料：「令和5年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県HP、令和7年7月閲覧）

表3.2-37　非メタン系炭化水素の年平均値の経年変化

区分	市町村名	測定局名	6時～9時における年平均値(ppmC)				
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	横須賀市	西行政センター	0.10	0.09	0.09	0.08	0.08
一般局		池上ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	－	(0.16)	0.13	0.11	0.11

注）池上コミュニティセンター局は令和2年度の測定開始であり、環境基準の評価に必要な測定時間(6,000時間)を満たしていないため、参考として測定値をかっこ書きで示した。

資料：「令和5年度 神奈川の大気汚染」（神奈川県HP、令和7年7月閲覧）

2. 水質汚濁

(1) 公共用水域の水質

実施区域及び周辺地域の公共用水域の水質測定地点は、表 3.2-38 及び図 3.2-13 に示すとおりである。水質測定は、鷹取川、平作川、松越川、下山川、森戸川、田越川にそれぞれ 1 地点ずつの計 6 地点で行われている。

令和 5 年度の測定結果は、表 3.2-39 に示すとおりである。また、BOD75%値の経年変化は表 3.2-40 に示すとおりであり、森戸川森戸橋以外の地点で横ばい傾向にある。

なお、人の健康の保護に関する項目等については、表 3.2-41 に示すとおりである。

表 3.2-38　公共用水域の水質測定地点

水域名	河川名	水質測定地点	類型区分
鷹取川	鷹取川	1. 追浜橋	B
平作川	平作川	2. 夫婦橋	B
松越川	松越川	3. 竹川合流後	C
下山川	下山川	4. 下山橋	C
森戸川	森戸川	5. 森戸橋	C
田越川	田越川	6. 渚橋	B

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和 6 年 12 月、神奈川県）

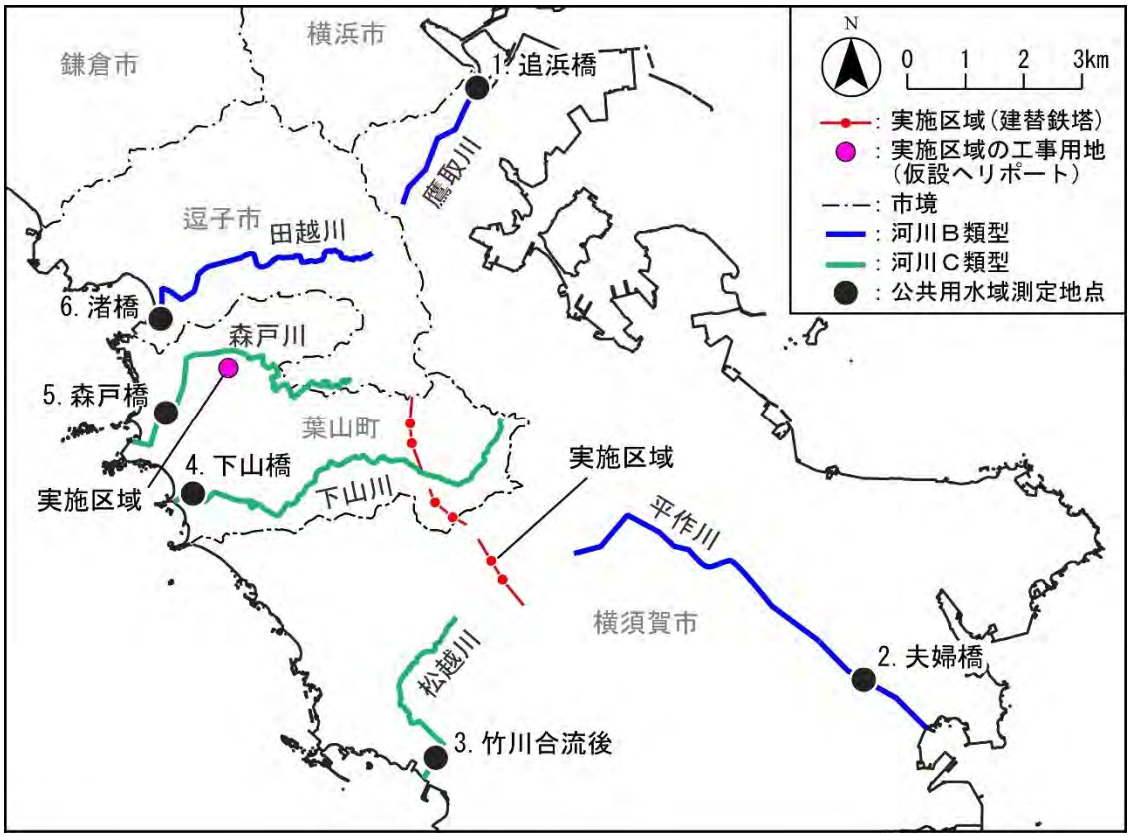


図 3.2-13　公共用水域の水質調査地点

表 3.2-39　公共用水域の水質測定結果(令和 5 年度)

河 川 名	鷹取川	平作川	松越川	下山川	森戸川	田越川	環境基準
測定地点	1.追浜橋	2.夫婦橋	3.竹川合流後	4.下山橋	5.森戸橋	6.渚橋	
類型指定	B	B	C	C	C	B	
水素イオン濃度(pH)	7.6～8.3	7.7～8.2	7.7～8.8	7.7～8.7	7.7～8.1	7.9～8.1	6.5 以上 8.5 以下
生物化学的酸素要求量 (BOD)(mg/L)	1.9	1.3	1.5	2.1	3.8	1.3	B:3 以下 C:5 以下
化学的酸素要求量(COD) (mg/L)	3.4	2.8	6.1	7.0	8.8	4.0	－
浮遊物質量(SS)(mg/L)	3	3	9	9	6	4	B:25 以下 C:50 以下
溶存酸素量(DO)(mg/L)	7.7	7.6	8.5	8.4	7.0	7.8	5 以上
大腸菌数(CFU/100mL)	2200	3600	3700	2800	6800	5800	B:1000以下 C:－
ｎ－ヘキサン抽出物質(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
全窒素(mg/L)	0.91	0.95	2.8	3.4	6.5	0.81	－
全燐(mg/L)	0.094	0.080	0.29	0.47	0.61	0.072	－
全亜鉛(mg/L)	0.021	0.025	0.017	0.009	0.018	0.006	0.03 以下
ノニルフェノール(mg/L)	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0.002 以下
ＬＡＳ(mg/L)	0.0063	0.0027	0.0084	0.0087	0.011	<0.0006	0.05 以下

注) 表中の網掛けは、基準値を上回っていることを示す。

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和 6 年 12 月、神奈川県)

表 3.2-40　公共用水域の BOD75%値の経年変化

河川名	水質測定地点	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和4年度	令和5年度
鷹取川	1.追浜橋	1.3	1.8	2.0	1.9	1.9
平作川	2.夫婦橋	2.1	1.8	2.7	1.7	1.3
松越川	3.竹川合流後	1.6	2.0	1.4	1.6	1.5
下山川	4.下山橋	2.1	2.4	2.0	1.5	2.1
森戸川	5.森戸橋	2.2	3.7	5.9	11	3.8
田越川	6.渚橋	1.1	1.1	1.3	1.2	1.3

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和 6 年 12 月、神奈川県)

表 3.2-41　公共用水域の水質測定結果（令和 5 年度/人の健康の保護に関する項目等）

項　目	単位	鷹取川 1. 追浜橋	平作川 2. 夫婦橋	松越川 3. 竹川合流後	下山川 4. 下山橋	森戸川 5. 森戸橋	田越川 6. 渚橋	基準値等
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと。
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと。
ジクロロメタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.1mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.002mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
ふっ素	mg/L	－	－	0.32	0.18	0.24	－	0.8mg/L 以下
ほう素	mg/L	－	－	1.2	0.45	0.81	－	1mg/L 以下
亜硝酸性窒素	mg/L	<0.05	<0.05	0.07	0.09	0.30	<0.05	0.04mg/L 以下[注2]
硝酸性窒素	mg/L	0.40	0.63	1.9	2.4	2.6	0.38	－
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.4	0.6	1.9	2.4	2.9	0.4	10mg/L 以下
フェノール類	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.08mg/L 以下[注1]
銅	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
溶解製鉄	mg/L	0.03	<0.02	0.02	0.04	0.04	<0.02	0.3mg/L 以下[注2]
溶解性マンガン	mg/L	0.19	0.05	0.36	0.01	0.01	0.03	0.05mg/L 以下[注2]
総クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	－
EPN	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下[注1]
ニッケル	mg/L	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008	－
アンモニア性窒素	mg/L	0.14	0.09	0.11	0.29	2.0	0.09	－
燐酸態燐	mg/L	0.071	0.064	0.24	0.43	0.56	0.056	－
電気伝導率	mS/m	－	－	1298	478	1034	3583	－
塩化物イオン	mg/L	－	－	4875	3320	4275	12730	200mg/L 以下[注2]
陰イオン界面活性剤	mg/L	<0.03	0.03	0.04	<0.03	<0.03	<0.03	0.2mg/L 以下[注2]

注）1.「水質汚濁に係る要監視項目」の指針値
　　2.「水道法」の「水道水質基準」
　　表中の網掛けは、基準値を上回っていることを示す。

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和 6 年 12 月、神奈川県）

(2) 地下水汚染

実施区域及び周辺地域の地下水の令和 5 年度の水質測定結果は、表 3.2-42(1)～(2)に示すとおりである。

表 3.2-42(1)　地下水の水質測定結果(令和 5 年度)

測定区分	定点調査		メッシュ調査		基準値等
測定機関	横須賀市	神奈川県	横須賀市	横須賀市	
測定地点	小原台	葉山町一色	走水	三春町	
深度区分	浅井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	
用途区分	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水	
測定年月	R5.10	R5.10	R5.10	R5.10	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと。
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
PCB	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
クロロエチレン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.002mg/L 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
ベンゼン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	2.7	<0.10	0.16	4.6	10mg/L 以下
ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
ほう素	0.02	0.053	0.02	0.03	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
電気伝導率(mS/m)	43	29	49	20	－
pH	7.1	6.8	8.1	7.0	－
水温	22.0	18.5	20.0	21.0	－
臭気	無臭	腐敗臭	無臭	無臭	－
外観	無色	有色	無色	無色	－

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和 6 年 12 月、神奈川県）

表 3.2-42(2)　地下水の水質測定結果(令和 5 年度)

測定区分	継続監視調査					基準値等
測定機関	横須賀市	横須賀市	横須賀市	横須賀市	神奈川県	
測定地点	長井	長井	津久井	佐島	逗子市小坪	
深度区分	浅井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	
用途区分	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水	
測定年月	R5.10	R5.10	R5.10	R5.10	R5.10	
カドミウム	－	－	－	－	－	0.003mg/L 以下
全シアン	－	－	－	－	－	検出されないこと。
鉛	－	－	－	－	－	0.01mg/L 以下
六価クロム	－	－	－	－	－	0.02mg/L 以下
砒素	－	－	－	－	0.011	0.01mg/L 以下
総水銀	－	－	－	－	－	0.0005mg/L 以下
PCB	－	－	－	－	－	検出されないこと。
ジクロロメタン	－	－	－	－	－	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	－	－	－	－	－	0.002mg/L 以下
クロロエチレン	－	－	－	－	－	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	－	－	－	－	－	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	－	－	－	－	－	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	－	－	－	－	－	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	－	－	－	－	－	0.002mg/L 以下
チウラム	－	－	－	－	－	0.006mg/L 以下
シマジン	－	－	－	－	－	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	－	－	－	－	－	0.02mg/L 以下
ベンゼン	－	－	－	－	－	0.01mg/L 以下
セレン	－	－	－	－	－	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	23	21	53	16	－	10mg/L 以下
ふっ素	－	－	－	－	－	0.8mg/L 以下
ほう素	－	－	－	－	－	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	－	－	－	－	－	0.05mg/L 以下
電気伝導率(mS/m)	55	52	92	78	38	－
pH	7.1	7.4	6.8	7.7	7.1	－
水温	20.0	21.2	16.5	18.3	18.2	－
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	－
外観	無色	無色	無色	無色	無色	－

注）表中の網掛けは、基準値を上回っていることを示す。

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和 6 年 12 月、神奈川県）

3. 土壌汚染

「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」（横須賀市ホームページ、令和 7 年 7 月閲覧）によると、横須賀市内には要措置区域はないが、形質変更時要届出区域は表 3.2-43 に示す 28 件が存在する。「神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく公表について」（横須賀市ホームページ、令和 7 年 9 月閲覧）によると、横須賀市内には土壌の汚染状態が基準に適合していないと認める土地が 2 件存在する。

なお、「神奈川県内の汚染された区域の指定情報」（神奈川県ホームページ、令和 7 年 7 月閲覧）によると、令和 7 年 7 月現在、逗子市と葉山町には要措置区域及び形質変更時要届出区域は存在しない。「県条例に基づく汚染された土地の公表状況」（神奈川県ホームページ、令和 7 年 9 月閲覧）によると、令和 7 年 7 月現在、逗子市と葉山町には土壌の汚染状態が基準に適合していないと認める土地は存在しない。

表 3.2-43　形質変更時要届出区域の状況(横須賀市)

指定番号	指定年月日	形質変更時要届出区域の所在地	形質変更時要届出区域の概況	面積(m^2)	環境省令で定める基準に適合しない特定有害物質			第14条申請に基づく指定	試料採取等における深さの限定	調査の省略の有無	汚染の除去等の措置の状況	区域の種類※
					溶出量基準に適合しない特定有害物質	第二溶出量基準に適合しない特定有害物質	含有量基準に適合しない特定有害物質					
指-03号	平成18年6月12日 平成28年12月26日	米が浜通2丁目7番25、深田台97番2及び同97番6の各一部	駐車場(分析機関跡地)	926.86	砒素及びその化合物	－	－	○	－	－	一部実施済み	自然
指-06号	平成19年2月13日	内川1丁目117番2、117番7、176番10、327番2、327番3、328番1、328番5、331番1、331番4、387番21及び403番19	工場跡地	695.6	－	テトラクロロエチレン	－	－	－	－	未実施	－
指-08号	平成23年4月25日	東浦賀2丁目65番6及び67番16の各一部	事業場跡地	2,218	－	砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	鉛及びその化合物 ふっ素及びその化合物	○	－	○	一部実施済み	－
指-09号	平成23年9月26日 平成25年2月12日	長沢3丁目2913番3ほか86筆 ※筆の詳細については別表参照	農地、宅地、道路他	11,947.95	セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	－	－	○	－	○	未実施	自然
指-10号	平成23年9月26日 令和02年2月25日	久里浜1丁目381番4の一部	公園	1,400	鉛及びその化合物 ふっ素及びその化合物	－	鉛及びその化合物	○	－	－	未実施	－
指-11号	平成24年1月25日	衣笠町564番5ほか74筆 ※筆の詳細については別表参照	山林、畑他	20,730.2	セレン及びその化合物 砒素及びその化合物	－	－	○	－	○	未実施	自然
指-13号	平成24年7月10日 平成25年11月11日	船越町7丁目72番3及び72番5の各一部	事業場敷地	3,832.39	セレン及びその化合物 砒素及びその化合物	－	－	○	－	－	未実施	自然
指-14号	平成25年3月25日	田浦港町無番地の一部、1275番、1276番の一部、1277番、1278番の一部、1279番1の一部、1280番1、1281番1の一部、1281番12、1288番及び1289番	事業場跡地	4,802.7	－	カドミウム及びその化合物 六価クロム化合物 シアン化合物 水銀及びその化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 ほう素及びその化合物	カドミウム及びその化合物 六価クロム化合物 シアン化合物 水銀及びその化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 ほう素及びその化合物	－	－	○	未実施	－
指-17号	平成27年1月26日	衣笠町542番5、548番2、549番2、550番、551番2、552番2、558番7、558番8、559番2、587番2、589番2、589番3の一部、594番2、598番2、605番2、612番2、613番2	山林	4,738.9	セレン及びその化合物 砒素及びその化合物	－	－	○	－	○	未実施	－
指-18号	平成27年3月25日	平作3丁目2172番2、2173番2、2174番2、2175番2、2179番4、2180番3、2181番2、2182番7、2182番8、2182番17、2182番18、2182番19、2182番20、2191番3、2194番4	山林	3,849.5	セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物	－	－	○	－	○	未実施	－
指-19号	平成27年5月25日 平成28年7月25日 平成30年5月25日	船越町一丁目284番1、287番、289番、290番、317番及び318番の各一部並びに同315番及び316番	事業場跡地	8,855.99	鉛及びその化合物 水銀及びその化合物	－	鉛及びその化合物	○	－	－	一部実施済み	－
指-20号	平成27年7月10日 平成29年7月25日	浦郷町5丁目2931番15、2931番33、2931番34、2931番35及び2931番36	事業場跡地	12,299.64	六価クロム化合物 ふっ素及びその化合物 ポリ塩化ビフェニル	シアン化合物 砒素及びその化合物	カドミウム及びその化合物 鉛及びその化合物	○	－	○	一部実施済み	－
指-21号	平成28年6月10日	西浦賀4丁目25番1の一部	事業場跡地	2,032.47	－	水銀及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物	水銀及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物	－	－	○	未実施	－
指-22号	平成29年3月10日	浦郷町5丁目2931番14、2931番31及び2931番47の各一部	事業場	2,197.03	－	砒素及びその化合物	鉛及びその化合物	○	－	－	未実施	－
指-23号	平成29年3月10日 平成29年9月25日 平成29年12月11日 平成31年3月25日 平成31年4月25日 令和2年2月25日 令和2年12月25日	久里浜9丁目2260番3、2260番10 、2260番13、2260番14及び2260番27の各一部	事業場	11,950.6	六価クロム化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 ほう素及びその化合物	－	鉛及びその化合物	○	－	－	一部実施済み	埋管
指-24号	平成29年11月27日 令和6年11月25日 令和6年12月25日	船越町1丁目284番3、284番8、田浦港町446番2、446番14、446番22、446番23、446番24、田浦町6丁目50番1及び50番2の各一部	事業場跡地	12,375.9	六価クロム化合物 シアン化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	水銀及びその化合物	鉛及びその化合物	○	－	－	未実施	－
指-25号	平成30年2月13日	久里浜1丁目381番23の一部	未利用地	407.5	ふっ素及びその化合物	－	－	○	－	－	未実施	－
指-26号	平成31年1月10日	長井6丁目5359番2の一部	事業場	2,956.3	鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 ほう素及びその化合物	水銀及びその化合物	鉛及びその化合物	－	－	－	未実施	－
指-27号	平成31年4月10日	走水2丁目1069番17の一部	未利用地	74.1	鉛及びその化合物	－	－	○	－	－	未実施	－
指-29号	令和2年12月25日	浦賀4丁目7番1、7番11、7番13及び8番1の各一部並びに浦賀4丁目8番1地先	事業場	20,692.9	六価クロム化合物 シアン化合物 水銀及びその化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 ほう素及びその化合物	クロロエチレン 1,1-ジクロロエチレン 1,2-ジクロロエチレン トリクロロエチレン	鉛及びその化合物	○	－	○	未実施	－
指-30号	令和3年7月12日 令和5年2月10日	走水1丁目930番及び1997番の各一部	事業場	116.6	六価クロム化合物	－	鉛及びその化合物	－	○	－	未実施	－
指-32号	令和3年11月25日 令和4年3月25日 令和4年9月26日	稲岡町82番6の一部	事業場	1,227.9	砒素及びその化合物 鉛及びその化合物	水銀及びその化合物	－	－	－	－	未実施	－
指-34号	令和4年12月12日 令和5年9月11日 令和7年7月25日	夏島町19番2、20番2及び20番4の一部	事業場	5,647.5	－	ふっ素及びその化合物	鉛及びその化合物	－	－	○	未実施	埋管
指-35号	令和5年8月10日	汐見台2丁目9番34の一部及び9番76	事業場	142.77	－	クロロエチレン 1,1-ジクロロエチレン 1,2-ジクロロエチレン テトラクロロエチレン トリクロロエチレン	－	－	－	○	未実施	－
指-36号	令和5年9月25日 令和6年5月10日	夏島町1番1の一部	事業場	4,226.2	鉛及びその化合物	六価クロム化合物 ふっ素及びその化合物	鉛及びその化合物 ふっ素及びその化合物	－	－	○	未実施	－
指-37号	令和5年11月27日	緑が丘28番1の一部	事業場	141.88	水銀及びその化合物	－	－	－	－	－	未実施	－
指-38号	令和6年12月25日	神明町58番7の一部	事業場	2,465.58	六価クロム化合物 セレン及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	鉛及びその化合物	鉛及びその化合物	－	－	－	未実施	－
指-39号	令和7年8月12日	船越町1丁目201番1及び201番3の各一部	事業場	19,801.71	カドミウム及びその化合物 シアン化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 ほう素及びその化合物	六価クロム化合物 クロロエチレン 1,1-ジクロロエチレン 1,2-ジクロロエチレン 水銀及びその化合物 トリクロロエチレン 鉛及びその化合物	カドミウム及びその化合物 鉛及びその化合物	－	－	○	未実施	－

※土壌汚染対策法規則第58条第5項第10号から第13号の区域のうち該当するものについて記載。 自然…自然由来特例区域、埋特…埋立地特例区域、埋管…埋立地管理区域、臨海…臨海部特例区域。

別表

指定番号	形質変更時要届出区域の所在地の詳細
指-09号	長沢3丁目2119番2の一部、2120番1、2120番3の一部、2122番3、2123番3、2125番3、2913番3並びに 長沢6丁目1467番1、1467番3の一部、1468番1、1468番4の一部、1469番、1472番の一部、1472番2の一部、1473番1の一部、2120番2、2121番、2122番2、2123番2、2125番2、2161番1の一部、2178番2、2178番4、2178番5、2178番6、2178番7、2178番8の一部、2179番2、2180番2、2181番1、2182番、2182番2、2183番、2183番2、2184番、2185番2の一部、2187番2、2913番3、2914番3、2914番4、2915番3、2916番3の一部、2917番3の一部、2917番4、2918番2、2918番3の一部、2918番4、2919番2、2919番3の一部、2920番2、2920番3の一部、2921番2、2921番3、2921番4、2922番1、2922番2、2924番9、2924番9、2925番5、2933番3の一部、2933番5、2933番6、2934番5の一部、2935番4の一部、2935番7の一部、2936番、2937番4、2937番5、2937番6、2937番7、2937番8、2939番9、2939番18の一部、2941番1の一部、2941番2、2941番3、2941番4、2941番6、2941番7、2941番8、2941番9、2941番11、2941番12の一部、2941番13の一部、2941番14の一部、2942番3の一部及び2944番3の一部
指-11号	衣笠町 564番5、565番2、567番2、569番2、576番2、586番2、586番3、587番3の一部及び 589番3の一部、 平作2丁目2322番2、2324番2、2324番3、2326番2、2330番2、2331番2、2337番2、2338番2、2338番3、2339番2、2340番2、2341番2、2343番2、2343番3、2343番4、2344番2、2345番2、2346番3、2347番3、2351番3、2352番2及び2458番5並びに 平作3丁目2074番2、2077番2、2086番3、2087番3、2087番4、2088番3、2089番3、2094番8、2096番26、2114番5、2114番8、2114番9、2114番10、2114番11、2114番12、2114番13、2115番1、2115番2、2115番3、2115番4、2116番1、2117番3、2118番3、2118番4、2118番5、2118番6、2118番7、2120番2、2124番4、2152番2、2154番2、2155番4、2156番4、2157番2、2166番3、2166番8、2167番1、2167番2、2168番2、2168番5、2169番1、2170番5、2171番3及び2172番2の一部

資料：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」（横須賀市ホームページ、令和７年７月閲覧）

4. 騒音・振動

横須賀市では、市内の幹線道路 7 路線 7 地点（年 1 回）で道路交通騒音及び振動の測定を実施している。また、逗子市では毎年 2 路線について自動車騒音の常時監視を行っている。なお、葉山町では、騒音・振動の調査は公表されていない。

横須賀市の道路交通騒音・振動の測定地点及び逗子市の令和 2 年～令和 6 年度の自動車騒音の常時監視路線は図 3.2-14 に、また、横須賀市の測定結果は表 3.2-44(1)～(3)に、逗子市の環境基準の達成状況は表 3.2-45 にそれぞれ示すとおりである。

なお、騒音に係る環境基準、道路交通音の要請限度及び道路交通振動の要請限度は、表 3.2-46(1)～(3)に示すとおりである。

道路交通振動については、すべての測定地点で要請限度を下回っている。

図 3.2-14　道路交通騒音・振動及び自動車騒音監視地点

表 3.2-44(1)　道路交通騒音・振動調査及び面的評価の結果(横須賀市/騒音レベル/令和 2～令和 6 年度)

単位：デシベル

No.	路線名	測定場所	測定年度	用途地域及び車線数	時間区分	測定値(等価騒音レベル)	環境基準		要請限度	
							適否	基準値	適否	限度値
1	県道横須賀三崎線	武1-21-1地先	令和6年度	第一種住居地域	昼間	68	○	70	○	75
				2車線	夜間	64	○	65	○	70
2	県道横須賀葉山線	大矢部2-6-20地先	令和6年度	準工業地域	昼間	70	○	70	○	75
				4車線	夜間	65	○	65	○	70
3	県道横須賀逗子線	船越町3-1地先	令和5年度	第一種住居地域	昼間	68	○	70	○	75
				2車線	夜間	65	○	65	○	70
4	横浜横須賀道路	阿部倉32地先	令和4年度	市街化調整区域	昼間	67	○	70	○	75
				4車線	夜間	61	○	65	○	70
5	県道横須賀三崎線	小矢部3-3-4地先	令和4年度	第一種住居地域	昼間	68	○	70	○	75
				4車線	夜間	63	○	65	○	70
6	三浦縦貫道路	太田和3-797-1地先	令和4年度	市街化調整区域	昼間	55	○	70	○	75
				2車線	夜間	49	○	65	○	70
7	市道 6836 号	池上6-2-5地先	令和4年度	第一種住居地域	昼間	70	○	70	○	75
				4車線	夜間	64	○	65	○	70
8	一般国道 134 号	秋谷2丁目21-1先	令和3年度	第一種住居地域	昼間	65	○	70	○	75
				2車線	夜間	60	○	65	○	70
9	県道 逗子葉山横須賀線	秋谷4021先	令和3年度	市街化調整区域	昼間	60	○	70	○	75
				2車線	夜間	51	○	65	○	70
10	県道佐島港線	佐島2丁目3-14先	令和3年度	第一種低層住居専用地域	昼間	64	○	70	○	75
				2車線	夜間	59	○	65	○	70
11	本町山中有料道路	西逸見町3丁目109先	令和2年度	第一種低層住居専用地域	昼間	67	○	70	○	75
				2車線	夜間	59	○	65	○	70
12	県道横須賀三崎線	武1丁目20先	令和2年度	第一種住居地域	昼間	70	○	70	○	75
				2車線	夜間	65	○	65	○	70
13	県道横須賀葉山線	阿部倉14先	令和2年度	第一種住居地域	昼間	68	○	70	○	75
				4車線	夜間	61	○	65	○	70

注 1)［時間区分］　昼間：6 時～22 時　夜間：22 時～6 時

注 2)［環境基準達成状況］　○：達成

資料：「よこすかの環境測定結果」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-44(2)　令和 5 年度 道路交通騒音・振動調査及び面的評価の結果(横須賀市/面的評価/令和 2～令和 5 年度)

No.	路線名	測定年度	評価対象住居等戸数	昼間・夜間とも基準値以下		昼間のみ基準値以下		夜間のみ基準値以下		昼間･夜間とも基準値超過	
				戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数	%
1	県道横須賀三崎線	R6	1,113	1,111	99.8	0	0.0	2	0.2	0	0.0
2	県道横須賀葉山線	R6	613	613	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	県道横須賀逗子線	R5	499	452	90.6	45	9.0	0	0.0	2	0.4
4	横浜横須賀道路	R4	7	4	57.1	2	28.6	0	0.0	1	14.3
5	県道横浜三崎線	R4	513	513	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	三浦縦貫道路	R4	419	386	92.1	21	5.0	7	1.7	5	1.2
7	市道 6836 号	R4	206	206	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8	一般国道 134 号	R3	1,687	1,687	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9	県道 逗子葉山横須賀線	R3	20	20	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10	県道佐島港線	R3	196	196	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11	本町山中有料道路	R2	77	77	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12	県道横須賀三崎線	R2	1,087	977	89.9	110	10.1	0	0.0	0	0.0
13	県道横須賀葉山線	R2	476	473	99.4	0	0.0	3	0.6	0	0.0
合　計			6,913	6,715	97.1	178	2.6	12	0.2	8	0.1

注 1)［時間区分］　昼間：6 時～22 時　夜間：22 時～6 時
注 2)合計値は各年度の結果から再計算をおこなった。
資料：「よこすかの環境測定結果」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-44(3)　道路交通騒音・振動調査及び面的評価の結果(横須賀市/振動レベル/令和 2～令和 5 年度)

単位：デシベル

No.	路線名	測定場所	測定年度	用途地域	時間区分	振動レベル測定値 80%レンジの上端値	要請限度 適否	要請限度 限度値
1	県道横須賀三崎線	武 1-21-1 地先	令和 6 年度	第一種住居地域	昼間	43	○	65
					夜間	37	○	60
2	県道横須賀葉山線	大矢部 2-6-20 地先	令和 6 年度	準工業地域	昼間	44	○	70
					夜間	37	○	65
3	県道横須賀逗子線	船越町 3-1 地先	令和 5 年度	第一種住居地域	昼間	27	○	65
					夜間	24	○	60
4	横浜横須賀道路	阿部倉32地先	令和 4 年度	市街化調整区域	昼間	35	○	65
					夜間	27	○	60
5	県道横須賀三崎線	小矢部 3-3-4 地先	令和 4 年度	第一種住居地域	昼間	19	○	65
					夜間	17	○	60
6	三浦縦貫道路	太田和 3-797-1 地先	令和 4 年度	市街化調整区域	昼間	24	○	65
					夜間	15	○	60
7	市道 6836 号	池上 6-2-5 地先	令和 4 年度	第一種住居地域	昼間	36	○	65
					夜間	27	○	60
8	一般国道 134 号	秋谷 2 丁目 21-1 先	令和 3 年度	第一種住居地域	昼間	34	○	65
					夜間	26	○	60
9	県道 逗子葉山横須賀線	秋谷 4021 先	令和 3 年度	市街化調整区域	昼間	25	○	65
					夜間	25	○	60
10	県道佐島港線	佐島 2 丁目 3-14 先	令和 3 年度	第一種低層住居専用地域	昼間	30	○	65
					夜間	25	○	60
11	本町山中有料道路	西逸見町 3 丁目 109 先	令和 2 年度	第一種低層住居専用地域	昼間	33	○	65
					夜間	25	○	60
12	県道横須賀三崎線	武 1 丁目 20 先	令和 2 年度	第一種住居地域	昼間	42	○	65
					夜間	38	○	60
13	県道横須賀葉山線	阿部倉 14 先	令和 2 年度	第一種住居地域	昼間	41	○	65
					夜間	39	○	60

注 1)［時間区分］　昼間：8 時～19 時　夜間：19 時～8 時

注 2)［要請限度適否状況］　○：要請限度を下回る　　×：要請限度を上回る

資料：「よこすかの環境測定結果」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-45　環境基準達成状況の評価結果(逗子市)

評価区間に関する情報							残留騒音		評価結果				
番号	評価の実施年度	評価対象道路		評価区間の始点の住所	評価区間の終点の住所	評価区間の延長	残留騒音レベル		評価区間全体　①＋②				
		路線名	車線数				昼間(dB)	夜間(dB)	評価対象住居等戸数 a=b+c+d+e (戸)	昼間・夜間とも基準値以下 b (戸)	昼間のみ基準値以下 c (戸)	夜間のみ基準値以下 d (戸)	昼間・夜間とも基準値超過 e (戸)
11	R01	森戸海岸線	2	逗子市桜山9丁目2	逗子市桜山9丁目1	0.5	46	38	123	123	0	0	0
12	R01	鎌倉葉山線	2	逗子市小坪7丁目2	逗子市逗子7丁目1	2.2	37	35	789	789	0	0	0
13	H30	金沢逗子線	2	逗子市逗子2丁目6-31	逗子市久木4丁目25	1.9	39	39	706	706	0	0	0
14	H30	一般国道 16 号	4	逗子市沼間4丁目14-8	逗子市沼間5丁目18-29	2.3	45	37	129	129	0	0	0
15	H29	一般国道 134 号	2	逗子市桜山8丁目16	逗子市小坪4丁目24	2.0	45	42	463	402	40	0	21
15	H29	一般国道 134 号	2	逗子市小坪4丁目1	逗子市小坪5丁目15	0.5	43	41	112	98	0	0	14
16	H28	横須賀逗子線	2	逗子市沼間6丁目14-4	逗子市逗子2丁目6-31	3.8	37	35	1,662	1,662	0	0	0
16	H28	横須賀逗子線	2	逗子市逗子5丁目2-1	逗子市桜山8丁目11-11	1.5	39	29	574	573	0	0	1

資料：「自動車騒音常時監視調査結果」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-46(1)　騒音に係る環境基準

【一般地域】

地域の類型		昼間（6 時～22 時）	夜間（22 時～6 時）
A	第一種低層住居専用地域 第二種低層住居専用地域 第一種中高層住居専用地域 第二種中高層住居専用地域	55 デシベル以下	45 デシベル以下
B	第一種住居地域 第二種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域	55 デシベル以下	45 デシベル以下
C	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	60 デシベル以下	50 デシベル以下

【道路に面する地域】

地域の類型	昼間（6 時～22 時）	夜間（22 時～6 時）
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60 デシベル以下	55 デシベル以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65 デシベル以下	60 デシベル以下

幹線交通を担う道路(注 2)に近接する空間(注 3)については、上表にかかわらず、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

【幹線交通を担う道路に近接する空間】

基　準　値	
昼　間	夜　間
70 デシベル以下	65 デシベル以下
備考：個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準（昼間にあっては 45 デシベル以下、夜間にあっては 40 デシベル以下）によることができる。	

注 1）時間区分は次のとおりとする。
　　昼間：午前 6 時～午後 10 時、夜間：午後 10 時～午前 6 時
　2）「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び 4 車線以上の市町村道等
　3）「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは以下のとおりとする。
　　2 車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路：道路端から 15ｍまで
　　2 車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路：道路端から 20ｍまで
資料：「騒音に係る環境基準について」（平成 10 年 9 月 30 日環境庁告示第 64 号）

表 3.2-46(2)　自動車騒音の要請限度

区域の区分＼時間の区分	昼間 (6:00～22:00)	夜間 (22:00～6:00)
A地域のうちのうち１車線を有する道路に面する区域	65dB	55dB
A地域のうち２車線以上の車線を有する道路に面する区域	70dB	65dB
B地域のうち２車線以上の車線を有する道路に面する区域及びC地域のうち車線を有する道路に面する区域	75dB	70dB
幹線交通を担う道路に近接する区域	75dB	70dB

資料)「騒音規制法第 17 条第 1 項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める環境省令」(平成 12 年総理府令第 15 号)
「騒音規制法に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める命令に基づく区域」(平成 12 年神奈川県告示第 250 号)

表 3.2-46(3)　道路交通振動の要請限度

区域の区分＼時間の区分	昼間 (8:00～19:00)	夜間 (19:00～8:00)
第一種・第二種低層住居専用地域 第一種・第二種中高層住居専用地域 第一種・第二種住居地域 田園住居地域 準住居地域、その他の地域	65dB	60dB
近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域	70dB	65dB

資料)「振動規制法施行規則」(昭和 51 年総理府令第 10 号)
「振動規制法施行規則別表第 2 の備考 1 の規定に基づく区域の区分及び時間の区分」(昭和 52 年神奈川県告示第 704 号)

5. 地盤沈下

「令和 5 年神奈川県地盤沈下調査結果」(令和 6 年 9 月、神奈川県環境課)によると、横須賀市、逗子市及び葉山町において、地盤沈下に係る調査は行われていない。

また、横須賀市、逗子市及び葉山町は、「工業用水法」(昭和 31 年法律第 146 号)及び「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」(平成 9 年 10 月 17 日条例第 35 号)による地下水の採取規制指定地域外となっている。

第 10 節　公害苦情の状況

横須賀市、逗子市及び葉山町における令和 5 年度の公害苦情件数は、表 3.2-47 に示すとおりである。

横須賀市では、騒音 29 件と最も多く、次いで大気汚染 7 件、悪臭 6 件、振動 3 件の計 45 件、逗子市は、騒音が 11 件、悪臭 5 件等の計 24 件であった。葉山町では、大気汚染 8 件、低周波音を含む騒音が 1 件となっている。

表 3.2-47　公害苦情件数(令和 5 年度)

区分	計	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音(低周波騒音) 注1	振動	地盤沈下	悪臭	その他
横須賀市	45	7	－	－	29(－)	3	－	6	－
逗 子 市	24	3	3	－	11(－)	－	－	5	2
葉 山 町	9	8	－	－	1(1)	－	－	－	－

注 1)騒音の公害苦情件数のうち()の値は低周波騒音の公害苦情件数を示す。
資料:「県勢要覧 2024（令和 6 年度版)」(令和 7 年 3 月、神奈川県)

第 11 節　関係法令の指定・規制等

実施区域または本事業に係る関係法令による指定・規制等の一覧は、表 3.2-48(1)～(2)に示すとおりである。

表 3.2-48(1)　関係法令による指定・規制一覧

分類		法令等	地域地区等の名称	指定又は規制	図番号
自然環境保全		自然環境保全法(昭和 47 年法律第 85 号)	自然環境保全地域の指定	－	
		神奈川県自然環境保全条例(昭和 47 年条例第 52 号)	自然環境保全地域の指定	○	図 3.2-15
		首都圏近郊緑地保全法(昭和 41 年法律第 101 号)	近郊緑地保全区域等の指定	○	図 3.2-15
		自然公園法(昭和 32 年法律第 16 号)	自然公園区域の指定	－	
		神奈川県立自然公園条例(昭和 34 年条例第 6 号)	県立自然公園区域の指定	－	
		鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(平成 14 年法律第 88 号)	鳥獣保護区域等の指定	○	図 3.2-16
		古都における歴史的風土の保全に関する特別措置法(昭和 41 年法律第 1 号)	歴史的風土保存区域の指定等	－	
		都市計画法(昭和 43 年法律第 100 号)	風致地区の指定	○	図 3.2-17
		神奈川県風致地区条例(昭和 45 年条例第 5 号)	風致地区の種別に係る区域の指定	○	図 3.2-17
公害防止	大気汚染	大気汚染防止法(昭和 43 年条例第 97 号)	ばい煙等の排出の規制、揮発性有機化合物の排出の規制、粉じんに関する規制、自動車排出ガスに関わる許容限度等	○	
		自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(平成 4 年法律第 70 号)	重点対策地区の指定	－	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	排煙の排出規制、粉じんに関する規制	○	
		ダイオキシン類対策特別措置法(平成11年法律第105号)	排出ガスに関する規制	○	
	水質汚濁	水質汚濁防止法(昭和 45 年法律第 138 号)	公共用水域に排出される排出水の規制、排水の地下浸透の規制	○	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	公共用水域に排出される排出水の規制、排水の地下浸透の規制	○	
		ダイオキシン類対策特別措置法(平成11年法律第105号)	排出水に関する規制	○	
	土壌汚染	農用地の土壌の汚染防止等に関する法律(昭和 45 年法律第 139 号)	農用地土壌汚染対策地域の指定	－	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	土地の区画形質の変更に伴う公害の防止等	－	
		ダイオキシン類対策特別措置法(平成 11 年法律第 105 号)	ダイオキシン類土壌汚染対策地域の指定	－	
		土壌汚染対策法(平成 14 年条例第 53 号)	土壌の特定有害物質による汚染の規制	－	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	土壌の汚染状態の基準、土壌の汚染状態が基準に適合していないと認める土地	－	
	騒音	騒音規制法(昭和 43 年法律第 98 号)	特定工場等に関する騒音規制、特定建設作業に関する騒音規制	○	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	騒音及び振動の低減、低周波音に関する配慮	○	
	振動	振動規制法(昭和 51 年法律第 64 号)	特定工場等に関する振動規制、特定建設作業に関する振動規制	○	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	騒音及び振動の低減、低周波音に関する配慮	○	
	地盤沈下	工業用水法(昭和 31 年法律第 146 号)	地下水の水源の保全、特定の地域の地盤沈下の防止等	－	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	地下水採取の規制地域の指定、地下水採取規制	－	
	悪臭	悪臭防止法(昭和 46 年法律第 91 号)	悪臭原因物質の排出規制	○	
		神奈川県生活環境の保全等に関する条例(平成 9 年条例第 35 号)	悪臭発生作業に関する規制	○	

表 3.2-48(2)　関係法令による指定・規制一覧

分類	法令等		地域地区等の名称	指定又は規制	図番号
公害防止	廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和 45 年法律第 137 号)	事業者の責務及び適正な処理等	○	
文化財	文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)		国の文化財等、史跡名勝天然記念物の指定	―	
	神奈川県文化財保護条例(昭和 30 年条例第 13 号)		県の文化財等、史跡名勝天然記念物の指定	―	
	文化財保護条例(昭和 39 年横須賀市条例第 41 号)		市の文化財等、史跡名勝天然記念物の指定	―	
	逗子市文化財保護条例(昭和 43 年逗子市条例第 11 号)		市の文化財等、史跡名勝天然記念物の指定	―	
	葉山町文化財保護条例(昭和 42 年葉山町条例第 7 号)		町の文化財等、史跡名勝天然記念物の指定	―	
防災	砂防法(明治 30 年法律第 29 号)		砂防指定地の指定	○	図 3.2-18
	地すべり等防止法(昭和 33 年法律第 30 号)		地すべり防止区域の指定	○	図 3.2-18
	宅地造成及び特定盛土等規制法(昭和 36 年法律第 191 号)		宅地造成工事規制区域の指定	―	図 3.2-18
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律(昭和 44 年法律第 57 号)		急傾斜地崩壊危険区域の指定	○	図 3.2-18
	土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(平成 12 年法律第 57 号)		土砂災害警戒区域の指定、土砂災害特別警戒区域の指定	○	図 3.2-18
	神奈川県土砂の適正処理に関する条例(平成 11 年条例第 3 号)		土砂の搬出、搬入、埋立等に関する規制等	○	
その他	森林法(昭和 26 年律第 249 号)		地域森林計画対象民有林の指定、保安林の指定など	○	
	景観法(平成 16 年 法律第 110 号)		景観計画区域の指定、開発行為等の規制	○	
	産業振興地域の整備に関する法律(昭和 44 年法律第 58 号)		農業振興地域の指定	―	
	横須賀市土地利用基本条例(平成 17 年横須賀市条例第 47 号)		土地利用の調整に係る基本方針、個別条例との連携	○	
	開発許可等の基準及び手続きに関する条例(平成 17 年横須賀市条例第 49 号)		開発行為に伴う許可に係る基準及び手続き等	○	
	横須賀市景観条例 (平成 16 年横須賀市条例第 24 号)		眺望景観保全区域、眺望景観保全基準の指定等	―	
	環境基本条例 (平成 8 年横須賀市条例第 26 号)		環境の保全及び創造に関する基本事項等	○	
	逗子市まちづくり条例(平成 14 年逗子市条例第 4 号)		まちづくりの基本原則、適正な土地利用に関する手続及び基準	○	
	逗子市の良好な都市環境をつくる条例(平成 4 年逗子市条例第 18 号)		環境影響評価等の手続その他必要な事項等	○	
	逗子市景観条例(平成 18 年逗子市条例第 6 号)		景観形成重点地区、景観資産の指定等	○	
	葉山町まちづくり条例(平成 14 年葉山町条例第 17 号)		まちづくりの基本理念、建築物の建築、開発行為等の手続き及び基準等	○	
	葉山町景観法施行条例・景観計画(平成 23 年葉山町条例第 1 号)		景観法の施行に関し必要な事項と景観重要建造物及び景観重要樹木の指定等	○	

注) 指定又は規制の欄に○のある項目は、該当する関係法令等による指定又は規制が実施区域または本事業に係ることを示す。

1. 自然環境保全に係る関係法令の指定状況

(1) 自然環境保全地域

実施区域及び周辺地域における神奈川県自然環境保全条例による自然環境保全地域の指定状況は、表 3.2-49 及び図 3.2-15 に示すとおりである。

実施区域及び周辺地域には、2 箇所の自然環境保全地域(普通地域)が存在している。

表 3.2-49　自然環境保全地域の指定状況

番号	名称	指定年月日	市町村名	面積(ha)	地域の特色（植生等）
1	田浦大作	昭和 49 年 3 月 15 日	横須賀市	4.9	クスノキ、タブ、マテバシイ、カヤ等の自然植生とクヌギ、コナラ等の二次林との混交
2	神武寺	平成 10 年 3 月 31 日 平成 11 年 3 月 31 日 (拡大)	逗子市	18	スダジイ、ケヤキを主体とした自然林の周囲にコナラ、スギ等の二次林が広がっている。林床にエビネ、サイハイラン、ニリンソウ等が自生している。

資料：「神奈川県自然環境保全地域の指定状況」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧、神奈川県）

(2) 近郊緑地保全区域等

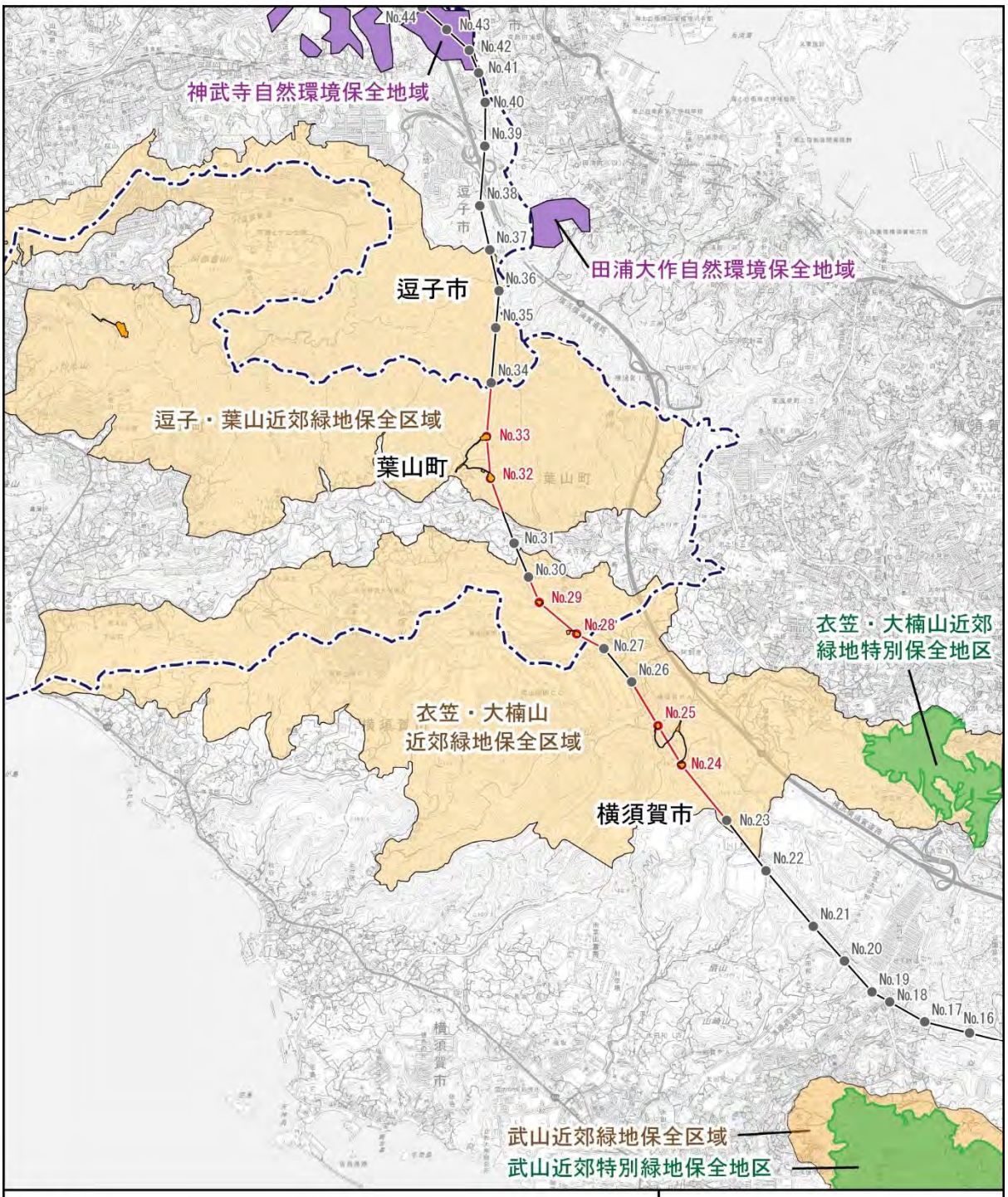
実施区域及び周辺地域における近郊緑地保全区域及び近郊緑地特別保全地区の指定状況は、表 3.2-50 及び図 3.2-15 に示すとおりである。

実施区域及び周辺地域には、3 箇所の近郊緑地保全区域及び 2 箇所の近郊緑地特別保全地区が存在しており、実施区域は衣笠・大楠山、逗子・葉山近郊緑地保全区域内に位置している。

表 3.2-50　近郊緑地保全区域等の指定状況

近郊緑地保全区域			
区域名	面積(ha)	区域	指定年月日
武山	327.0	横須賀市	S42.2.16
衣笠・大楠山	958.0 (うち葉山町分 273)	横須賀市 葉山町	S42.2.16
逗子・葉山	1,087.0 (うち葉山町分 805.0)	逗子市 葉山町	S42.2.16
近郊緑地特別保全地区			
地区名	面積(ha)	区域	指定年月日
武山	194.5	横須賀市津久井、長沢、須軽谷、武 1～2 丁目	S42.3.29 変 S47.11.17
衣笠・大楠山	49.5	横須賀市小矢部町 2、4 丁目、平作 2 丁目、衣笠町	S47.11.17

資料：「近郊緑地保全区域・特別保全地区指定状況」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



資料：「かながわの公園緑地マップ」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-15　自然環境保全地域等の指定状況

(3) 自然公園

実施区域及び周辺地域には、自然公園法に基づく国立・国定の自然公園及び神奈川県立自然公園条例に基づく県立自然公園は存在しない。

(4) 鳥獣保護区等

実施区域及び周辺地域における鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区等の指定状況は、表 3.2-51 及び図 3.2-16 に示すとおりである。

5 箇所の鳥獣保護区が存在しており、実施区域の一部は大楠山鳥獣保護区内に位置している。

また、3 箇所の特定猟具使用禁止区域(銃器)が存在しており、実施区域は三浦半島、湘南国際村特定猟具使用禁止区域に位置している。

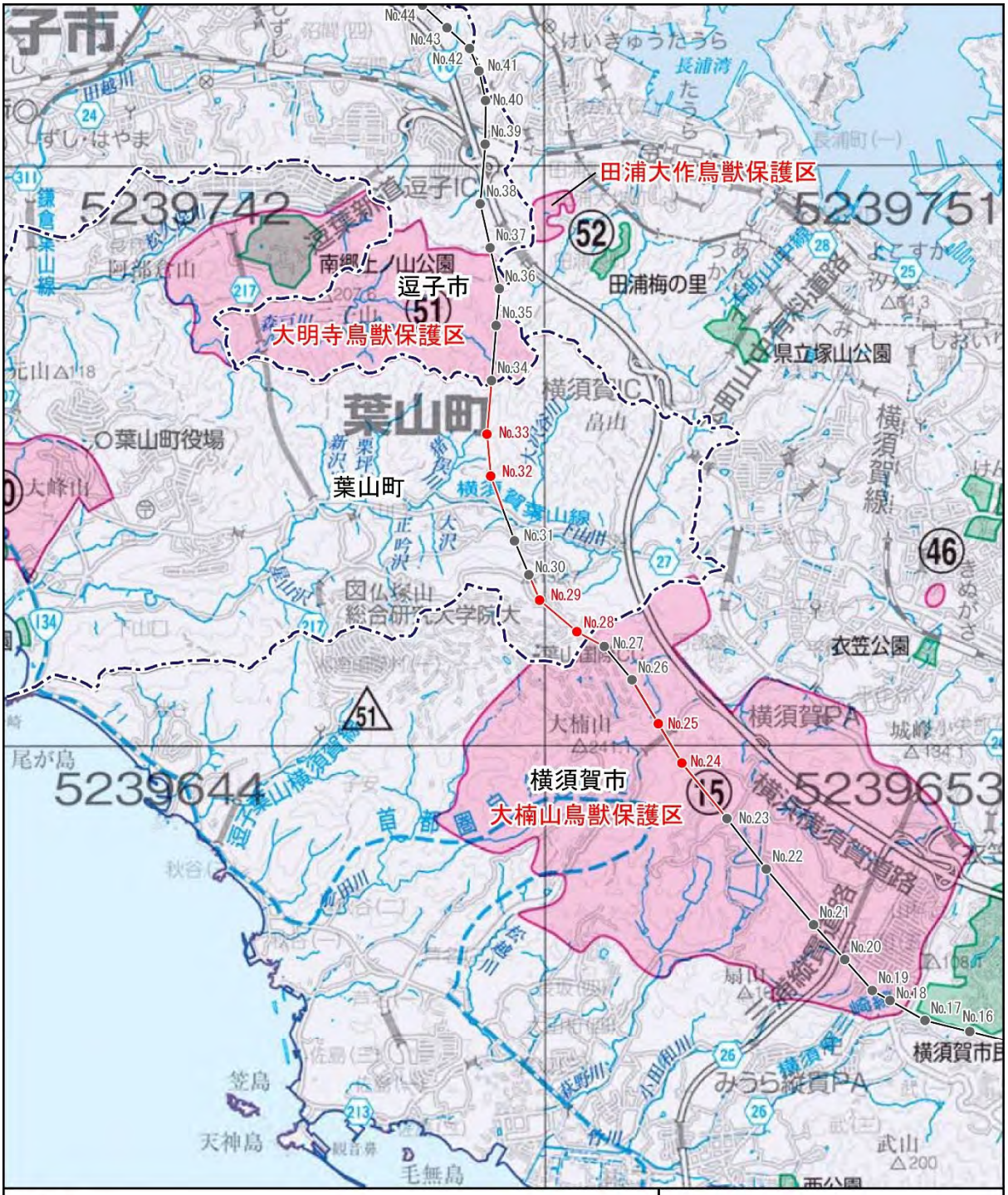
表 3.2-51　鳥獣保護区等の指定状況

名称	期間	場所	面積(ha)	種類
大　楠　山	令元.11.1 から 令 11.10.31 まで	横須賀市の一部	827.0	身近な 鳥獣生息地
大　明　寺	令　2.11.1 から 令 12.10.31 まで	横須賀市衣笠栄町の一部	2.9	身近な 鳥獣生息地
田浦大作	平 27.11.1 から 令　7.10.31 まで	横須賀市田浦大作町の一部	5.0	身近な 鳥獣生息地
神　武　寺	平 29.11.1 から 令 9.10.31 まで	逗子市沼間山王山神武寺所有地全域	14.0	身近な 鳥獣生息地
二　子　山	平 27.11.1 から 令 7.10.31 まで	逗子市、三浦郡葉山町の各一部	319.0	森林鳥獣生息地
一　　色	令元.11.1 から 令 11.10.31 まで	三浦郡葉山町の一部	96.0	身近な 鳥獣生息地
東京湾岸	令 3.11.1 から 令 13.10.31 まで	横浜市、川崎市、横須賀市の一部及び東京湾海面上の一部	16,131.4	特定猟具使用 禁止区域(銃器)
三浦半島	令　3.11.1　から 令 13.10.31 まで	横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町の一部	10,382.0	特定猟具使用 禁止区域(銃器)
湘南国際村	令 3.11.1 から 令 13.10.31 まで	横須賀市秋谷の一部	306.6	特定猟具使用 禁止区域(銃器)

資料：「鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区一覧」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「特定猟具使用禁止区域（銃器）、猟区、指定猟法禁止区域（鉛散弾規制区域）一覧」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

(5) 歴史的風土保存区域

実施区域及び周辺地域には、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法に基づく歴史的風土保存区域は存在しない。



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界

①～⑩②	鳥獣保護区 Wildlife Protection Area
△1～△73	特定猟具使用禁止区域(銃器) Certain Hunting Equipment Prohibited Area
1	指定猟法禁止区域(鉛散弾規制地域) Lead Shot Hunting Prohibited Area
	主な都市公園(整備中のものを含む) Town Park

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。

図 3.2-16 鳥獣保護区等の指定状況

資料：「令和 6 年度鳥獣保護区等位置図」（令和 6 年 10 月、神奈川県）

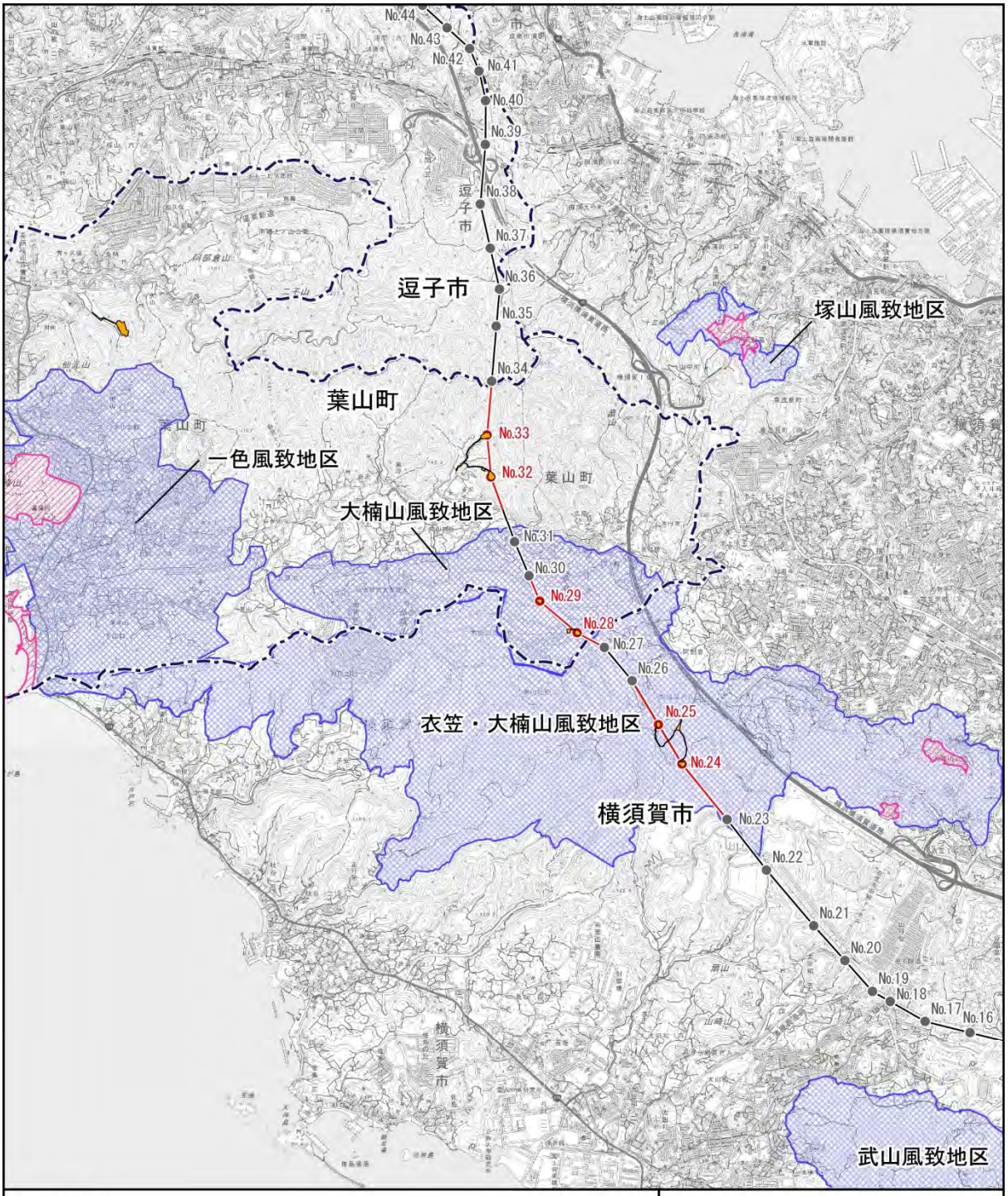
(6) 風致地区

横須賀市、逗子市及び葉山町における都市計画法に基づく風致地区の指定状況は表 3.2-52 及び図 3.2-17 に示すとおりである。実施区域及び周辺地域には、5 箇所の風致地区が存在しており、実施区域は衣笠・大楠山、大楠山風致地区内に位置している。

表 3.2-52　風致地区の指定状況

市町	風致地区名	面積(ha)		指定年月日 変更年月日
横須賀	塚山	26.8	西逸見町、山中町、長浦町	S6.7.22　変更 S45.9.18
	衣笠・大楠山	682.0	小矢部、衣笠町、阿部倉町、秋谷、芦名、長坂ほか	S6.7.22　変更 S45.9.18
	武山	326.7	武、須軽谷、津久井、長沢	S41.9.14 変更 S45.9.18
葉山	一色	307.8	下山口、一色、堀内	S16.9.4　変更 S45.9.18
	大楠山	98.7	上山口、木古庭	S13.3.26

資料：「風致地区指定状況」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



資料：「よこすかわが街ガイド」（横須賀市 HP、令和７年７月閲覧）
「葉山町風致地区区域図」（葉山町 HP、令和７年７月閲覧）

図 3.2-17 風致地区の指定状況

2. 公害防止に係る関係法令の指定状況

(1) 大気汚染

硫黄酸化物の一般排出基準については、「大気汚染防止法」に基づき、地域の区分ごとに排出基準（K値）が定められている。また、ばいじん、有害物質の一般排出基準については、「大気汚染防止法」に基づき、発生施設の種類、規模ごとに排出基準値が定められているが、本事業ではそれらが適用されるばい煙発生施設は設置しない。

なお、「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」及び「ダイオキシン類対策特別措置法」の対象となる施設等も設置しない。

(2) 水質汚濁

実施区域及び周辺地域における工場及び事業場からの排出水については、「水質汚濁防止法」に基づき、全国一律の排水基準（有害物質 28 物質、その他の項目 15 項目）が定められている。また、神奈川県では、条例に基づき上乗せの排水基準が定めている。

なお、本事業ではこれらが適用される施設は設置しない。

(3) 土壌汚染

横須賀市内には、「土壌汚染対策法」に基づく要措置区域はないが、形質変更時要届出区域が指定されている。なお、実施区域及び周囲地域に形質変更時要届出区域は存在しない。

また、「令和 5 年度農用地土壌汚染防止法の施行状況」（環境省、令和 5 年）によると、令和元年度末現在、実施区域及び周辺地域には「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」に基づく「農用地土壌汚染対策地域」の指定はない。

(4) 騒音

騒音の規制に関しては、「騒音規制法」に基づき、特定工場騒音に関する規制基準、特定建設作業に伴って発生する騒音に関する規制基準が、「騒音規制法」に基づき道路交通騒音の要請限度がそれぞれ定められており、それらの基準は表 3.2-53～表 3.2-55 に示すとおりである。

表 3.2-53　特定工場等において発生する騒音の規制基準

	午前 8 時から 午後 6 時まで	午前 6 時から午前 8 時まで 午後 6 時から午後 11 時まで	午後 11 時から 午前 6 時まで
第一種低層住居専用地域 第二種低層住居専用地域 第一種中高層住居専用地域 第二種中高層住居専用地域 田園住居地域	50 デシベル	45 デシベル	40 デシベル
第一種住居地域 第二種住居地域 準住居地域	55 デシベル	50 デシベル	45 デシベル
近隣商業地域 商業地域 準工業地域	65 デシベル	60 デシベル	50 デシベル
工業地域	70 デシベル	65 デシベル	55 デシベル
その他の地域	55 デシベル	50 デシベル	45 デシベル

資料：「騒音・振動の指定地域・規制基準」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-54　特定建設作業騒音に係る基準

規制種別 / 地域の区分	基準値	作業時刻	1日当たりの作業時間	作業期間	作業日
1号区域	85デシベル	午後7時からの午後7時の時間内でないこと	10 時間を超えないこと	連続 6 日を超えないこと	日曜日その他の休日でないこと
2号区域		午後 10 時からの午後 6 時の時間内でないこと	14 時間を超えないこと		

注）1 号区域：第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、田園住居地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、用途地域として定められていない地域、工業地域のうち学校、病院等の周囲 80m以内の地域

2 号区域：工業地域のうち学校、病院等の周囲 80m以外の地域

資料：「騒音・振動の指定地域・規制基準」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

「特定建設作業に伴つて発生する騒音の規制に関する基準を定める件に基づく静穏の保持を必要とする区域等として知事が指定する区域」（昭和 49 年 5 月 10 日　神奈川県告示第 431 号）

表 3.2-55　指定地域内における自動車騒音の要請限度

区域の区分 / 時間の区分		昼間 (6:00～22:00)	夜間 (22:00～6:00)
1	a 区域及び b 区域のうち 1 車線を有する道路に面する区域	65 デシベル	55 デシベル
2	a 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域	70 デシベル	65 デシベル
3	b 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域及び c 区域のうち車線を有する道路に面する区域	75 デシベル	70 デシベル

※上表に掲げる区域のうち幹線交通を担う道路に近接する区域（2 車線以下の車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 15m、2 車線を超える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 20mまでの範囲をいう。）に係る限度は上表にかかわらず、昼間においては 75 デシベル、夜間においては 70 デシベルとする。

注）a 区域、b 区域、c 区域とは、それぞれ次の各号に掲げる区域として都道府県知事又は市長が定めた区域をいう。

1 a 区域:専ら住居の用に供される区域

2 b 区域:主として住居の用に供される区域

3 c 区域:相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域。

資料：「騒音・振動の指定地域・規制基準」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

「騒音規制法第 17 条第 1 項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」（平成 12 年　総理府令第 15 号）

(5) 振動

振動の規制に関しては、「振動規制法」に基づき、特定工場振動に関する規制基準、特定建設作業に伴って発生する振動に関する規制基準及び道路交通振動の要請限度が定められている。それら規制基準及び要請限度は表 3.2-56～表 3.2-58 に示すとおりである。

表 3.2-56　特定工場等において発生する振動の規制に関する基準

	午前 8 時から午後 7 時まで	午後 7 時から翌日午前 8 時まで
第一種低層住居専用地域 第二種低層住居専用地域 第一種中高層住居専用地域 第二種中高層住居専用地域 田園住居地域	60 デシベル	55 デシベル
第一種住居地域 第二種住居地域 準住居地域	65 デシベル	55 デシベル
近隣商業地域 商業地域 準工業地域	65 デシベル	60 デシベル
工業地域	70 デシベル	60 デシベル
その他の地域	65 デシベル	55 デシベル

※ただし、学校・病院等特に静穏を必要とする施設の周囲 50m以内では、表の値から 5 デシベル減じた値
資料：「騒音・振動の指定地域・規制基準（法律)」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-57　特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準

規制種別 / 地域の区分	基準値	作業時間	1 日当たりの作業時間	作業日数	作業日
1 号区域	75 デシベル	午後 7 時からの午後 7 時の時間内でないこと	10 時間を超えないこと	連続 6 日を超えないこと	日曜日その他の休日でないこと
2 号区域		午後 10 時からの午後 6 時の時間内でないこと	14 時間を超えないこと		

注）1 号区域：第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、田園住居地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、用途地域として定められていない地域、工業地域のうち学校、病院等の周囲 80m以内の地域
2 号区域：工業地域のうち学校、病院等の周囲 80m以外の地域
資料：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年厚生省・建設省告示第 1 号）
「特定建設作業（法律)」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-58　道路交通振動の要請限度

時間の区分 / 区域の区分	昼間	夜間	備　考
第 1 種区域	65 デシベル	60 デシベル	昼間及び夜間とは、それぞれ以下の時間の範囲内において、都道府県知事又は市長が定めた時間をいう。 昼間：午前 5 時、6、7 時又は 8 時から 午後 7 時、8 時、9 時又は 10 時まで 夜間：午後 7 時、8 時、9 時又は 10 時から 翌日の午前 5 時、6 時、7 時又は 8 時まで
第 2 種区域	70 デシベル	65 デシベル	

注）第１種区域及び第２種区域と、それぞれ次の各号に掲げる区域として都道府県知事が定めた区域をいう。
1. 第１種区域　良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域及び住民の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域
2. 第２種区域　住居の用に合わせて商業・工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全するため、振動の発生を防止する必要がある区域及び主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい振動の発生を防止する必要がある区域
資料：「道路交通振動測定マニュアル」（環境省、令和 4 年 6 月）

(6) 地盤沈下

横須賀市、逗子市及び葉山町は、「工業用水法」(昭和 31 年法律第 146 号)及び「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」(平成 9 年 10 月 17 日条例第 35 号)による地下水の採取規制指定地域外となっている。

(7) 悪臭

横須賀市、逗子市及び葉山町における悪臭の規制基準は、「臭気指数」を採用しており、敷地境界線上における規制基準（1 号基準)、気体排出口の規制基準（2 号基準)、排出水における規制基準（3 号基準）が定められている。

なお、本事業では、悪臭防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例の対象となる施設や作業はない。

(8) 廃棄物

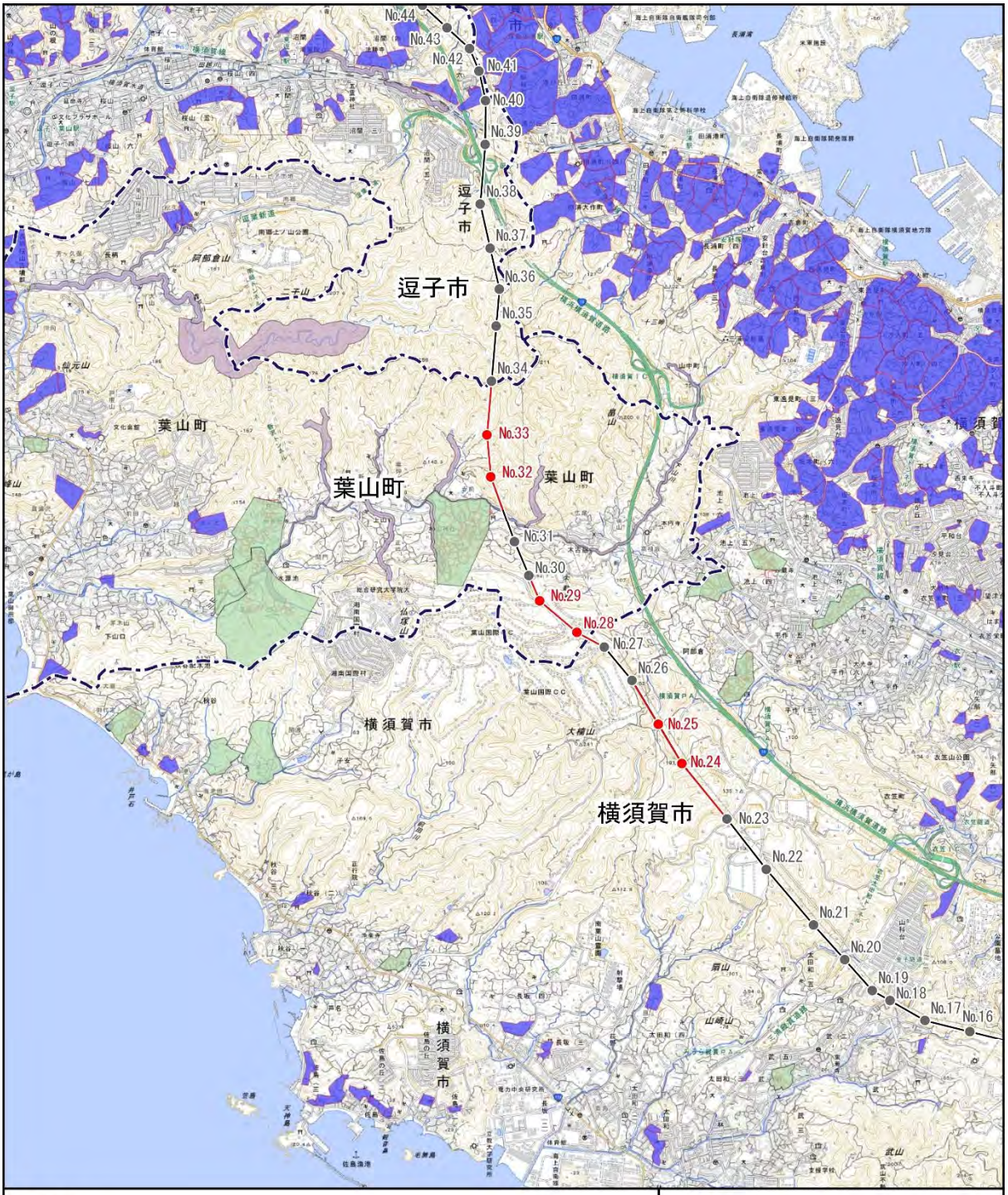
産業廃棄物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、事業活動等に伴って発生した廃棄物は事業者自らの責任において適正に処理することが定められている。

3. 防災に係る関係法令の指定状況

砂防法による砂防指定地、地すべり防止法による地すべり防止区域、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律による急傾斜地の崩壊危険区域の指定状況は、図 3.2-18(1)に示すとおりである。周辺地域には砂防指定地等が分布しているが、実施区域にこれらの区域は存在していない。

土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律による警戒区域及び特別警戒区域は、図 3.2-18(2)に示すとおりである。実施区域の一部に警戒区域及び特別警戒区域が存在している。

宅地造成及び特定盛土等規制法に基づく宅地造成等工事規制区域及び特定盛土等規制区域は、図 3.2-18(3)に示すとおりである。横須賀市、逗子市及び葉山町の全域が宅地造成等工事規制区域に指定されている。



注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料：「神奈川県土砂災害警戒情報システム」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-18(1)
防災に係る地域指定状況(1)

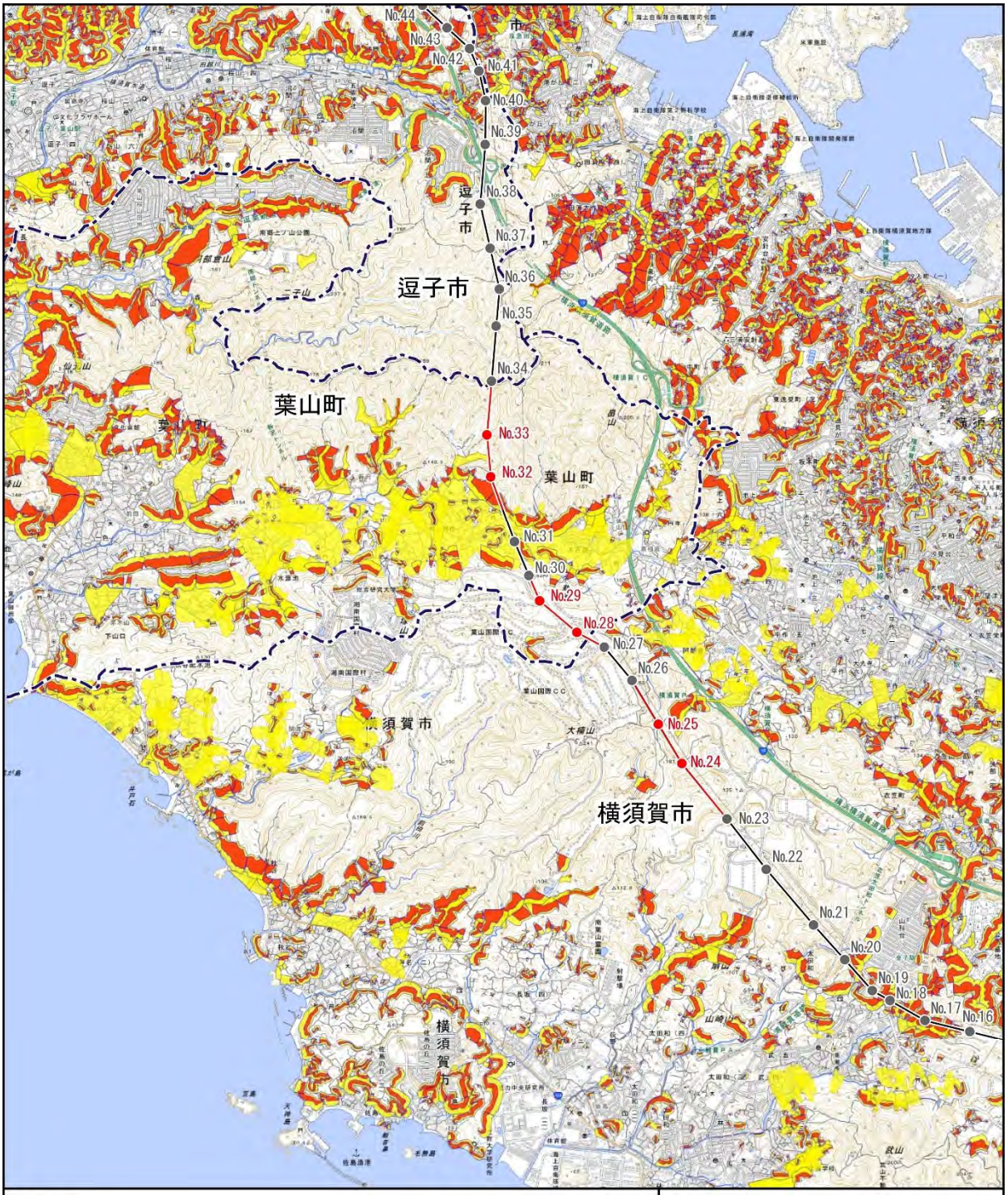
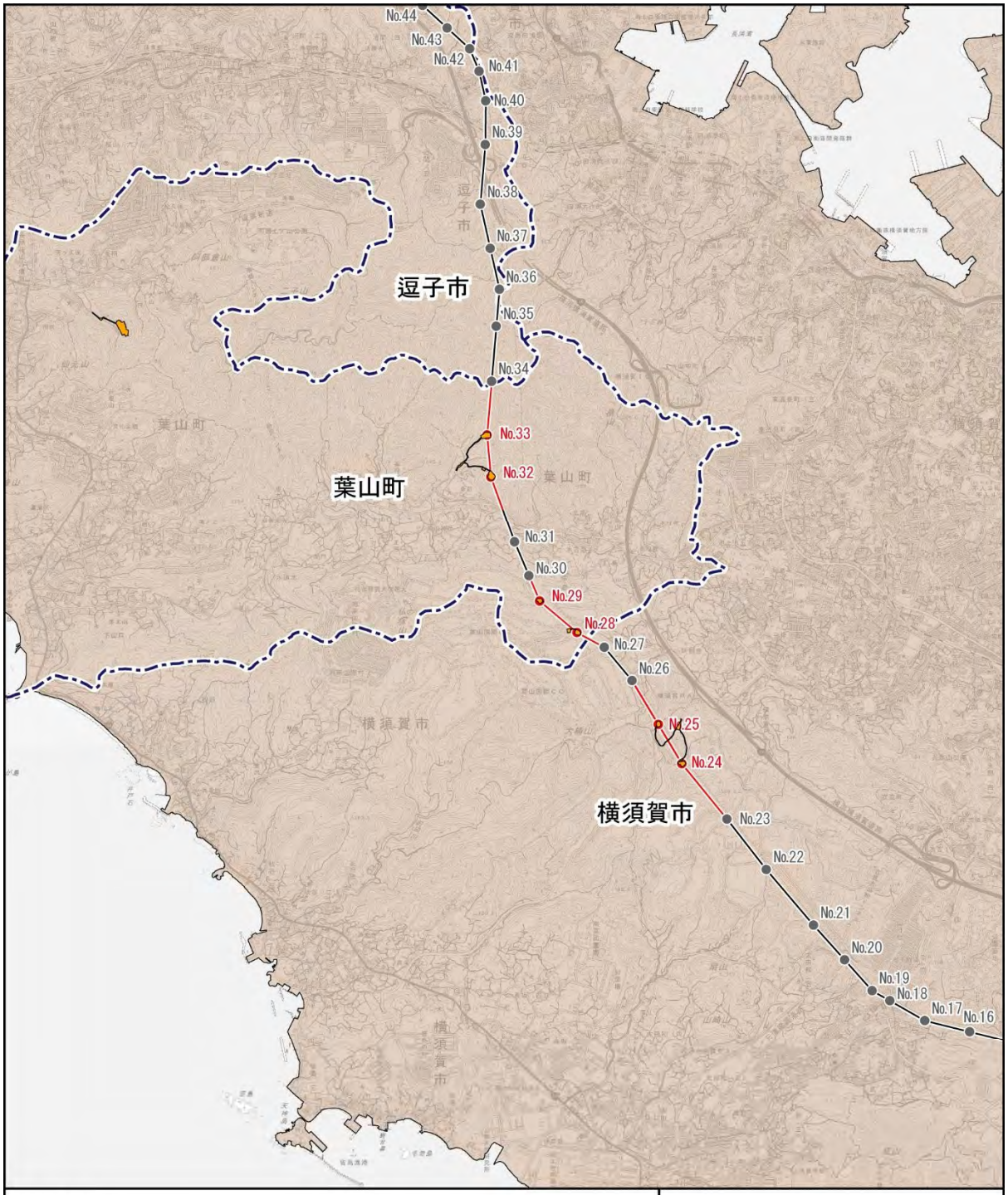


図 3.2-18(2)
防災に係る地域指定状況(2)

注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料：「神奈川県土砂災害警戒情報システム」（神奈川県 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 宅地造成等工事規制区域

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

資料：「神奈川県の盛土規制法に基づく規制について」
（神奈川県 HP、令和 7 年 9 月閲覧）
「盛土規制法について」（横須賀市 HP、令和 7 年 9 月閲覧）

図 3.2-18(3)
防災に係る地域指定状況(3)

第 2 章　自然的状況

第 1 節　気象

1. 気温、降水量

横須賀市における過去 5 年間の気象概況は、表 3.2-59 に示すとおりであり、平均気温は 16.9～18.0℃、降水量は 1,281.5～2,130.8㎜ となっている。

また、逗子市の過去3年間の気象概況は、表3.2-60に示すとおりであり、平均気温は16.0～17.4℃、降水量は 1,336.5～1,707.0㎜ となっており、横須賀市よりもやや気温が低く、降水量も少なくなっている。

表 3.2-59　横須賀市の気象概況

年次別	気温(℃)			天気日数（日）					降水量	湿度
	平均	最高	最低	晴	曇	雨	雪	暴風	(㎜)	(%)
令和元年　(2019 年)	17.2	35.9	0.6	210	41	113	1	48	2,002.9	75
令和 2 年　(2020 年)	17.4	34.2	0.9	204	58	104	0	43	2,130.8	74
令和 3 年　(2021 年)	17.2	35.8	-1.9	210	47	107	1	3	2,115.1	66
令和 4 年　(2022 年)	16.9	35.5	-2.1	226	39	99	1	11	1,565.0	67
令和 5 年　(2023 年)	18.0	38.1	-2.9	236	47	81	1	8	1,281.5	66

注）海上自衛隊横須賀地方総監部調べ
資料：「令和 6 年度版横須賀市統計書」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-60　逗子市の気象概況

年次別	平均温度(℃)	最高温度(℃)	最低温度(℃)	天　候（日）					降雨量(㎜)	平均湿度(%)
				晴	雨	曇	雪	みぞれ		
令和 3 年　(2021 年)	16.0	33.7	-3.5	227	18	119	－	－	1,707.0	78.8
令和 4 年　(2022 年)	16.7	34.4	-4.2	207	17	141	－	－	1,362.0	80.7
令和 5 年　(2023 年)	17.4	35.5	-2.1	210	22	134	－	－	1,336.5	76.4

注）逗子市消防本部調べ
資料：「令和 5 年度統計ずし」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

2. 風向・風速

横須賀市における風向風速の状況は、図 3.2-19 に示すとおりである。

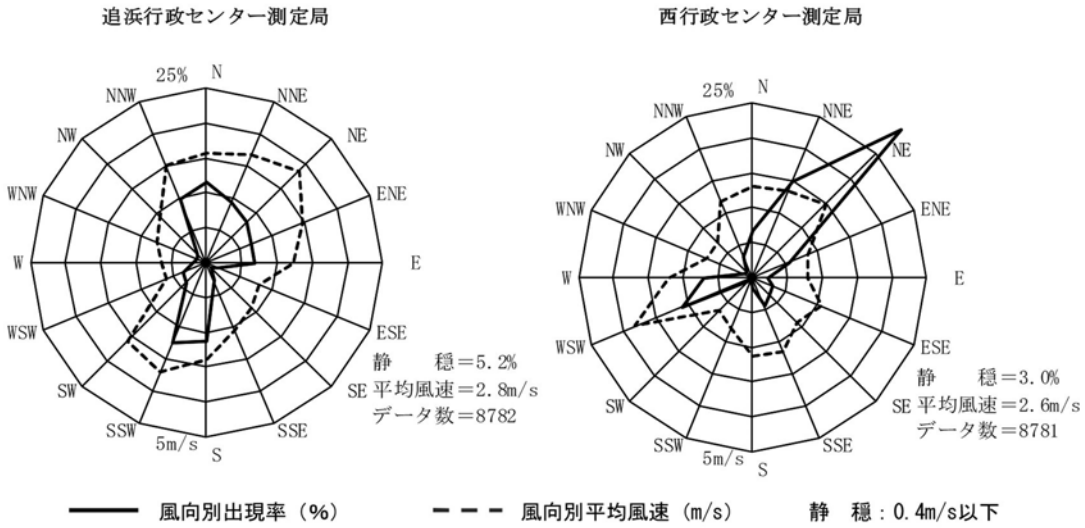


図 3.2-19　年間風配図(令和元年度)

資料：「令和元年度環境基本計画年次報告書」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

第 2 節　水象

1. 河川及び水路の分布状況

実施区域及び周辺地域の主要な河川の状況は、「第 6 節　水利用　2. 河川の利水状況」に示したとおりである(表 3.2-15 主な河川の状況、図 3.2-8 主な河川の状況　p.3-2-17～3-2-18 参照)。

2. 河川の流量

実施区域及び周辺地域の河川流量の状況は、表 3.2-61 に示すとおりである。

表 3.2-61　河川流量の状況(令和 5 年度)

河川名	地点名	流量(m^3/s)			調査回数
		平均	最小	最大	
鷹取川	追浜橋	0.25	-0.66	1.53	24
平作川	夫婦橋	2.62	-8.46	11.23	24
松越川	竹川合流後	0.17	-0.43	0.83	24
下山川	下山橋	0.25	-0.37	1.44	24
森戸川	森戸橋	0.34	-0.09	1.32	24
田越川	渚橋	3.60	-5.18	11.36	24

資料：「令和 5 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和 6 年 12 月、神奈川県)

3. 地下水

実施区域及び周辺地域では、継続的な地下水位の観測は行われていない。

なお、実施区域の東約 7km に位置する走水水源地は、現在も水道水源として利用されており、1 日約 1,000m^3 の水量がある。

第 3 節　地象

1. 地形

実施区域及び周辺地域の地形分類図は、図 3.2-20 に示すとおりである。

実施区域のほとんどは大起伏丘陵地または小起伏山地に位置している。

2. 地質

実施区域及び周辺地域の表層地質図は、図 3.2-21 に示すとおりである。

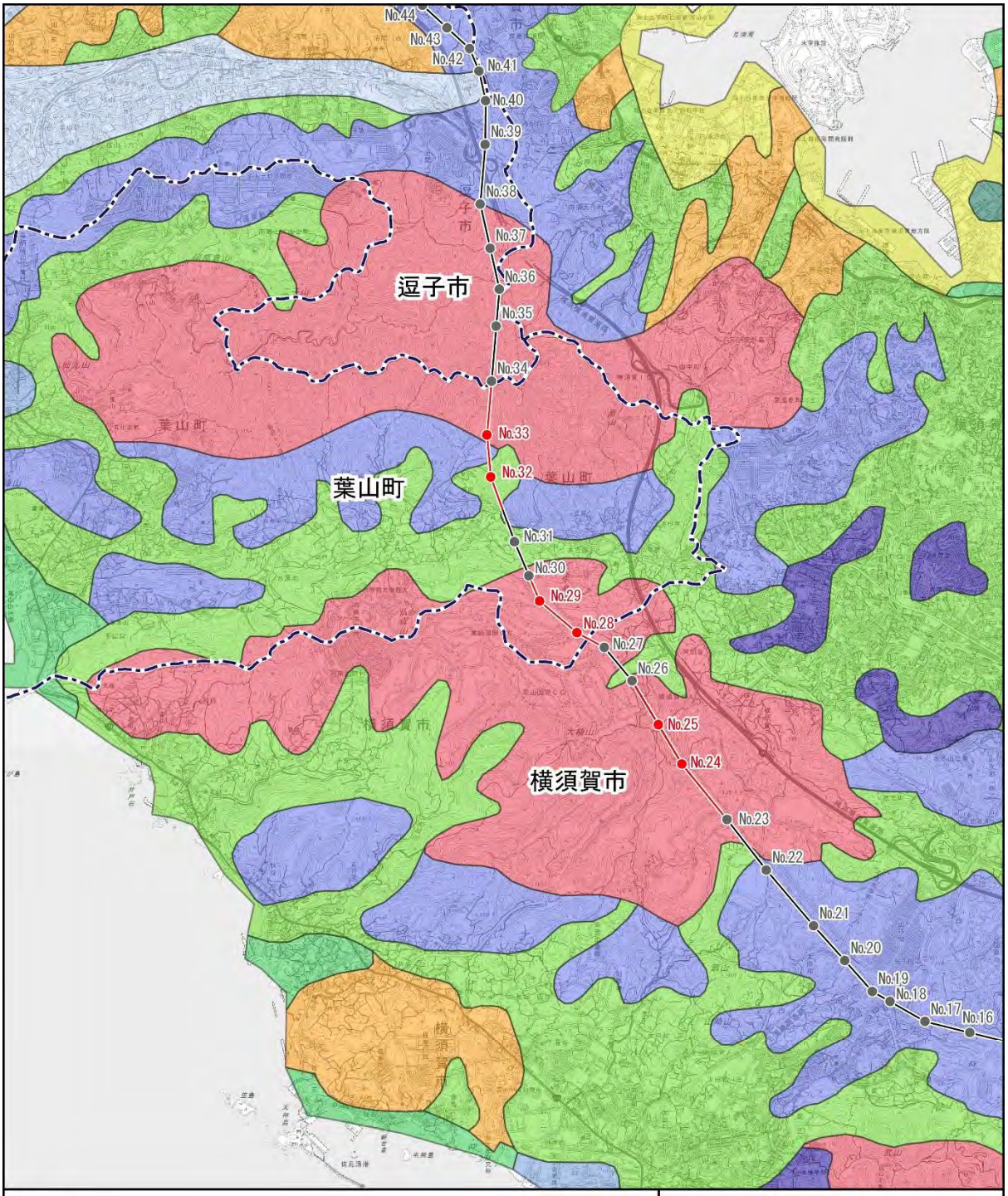
実施区域の地質は、砂岩・泥岩・凝灰岩互層と砂岩・泥岩互層からなっており、一部に礫岩もみられる。

3. 重要な地形・地質

実施区域及び周辺地域には、重要な地形・地質として、森戸川上流の穿入蛇行が指定されている。穿入蛇行とは自由蛇行に対する言葉で、蛇行状に屈曲する谷の中を流れる河川を指す。隆起ないし侵食基準面の低下のため、曲流していた川が下方侵食を復活し、曲流を保ちながら河床を基盤岩中に深く掘り込んで生じる。

名称	地形項目	所在地
森戸川上流	穿入蛇行	逗子市、三浦郡葉山町

資料：「日本の典型地形について」（国土地理院 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界

- ローム台地（上位）
- ローム台地（中位）
- 三角州性低地
- 自然堤防・砂州・砂丘
- 大起伏丘陵地
- 小起伏丘陵地
- 小起伏山地
- 扇状地性低地
- 埋立地

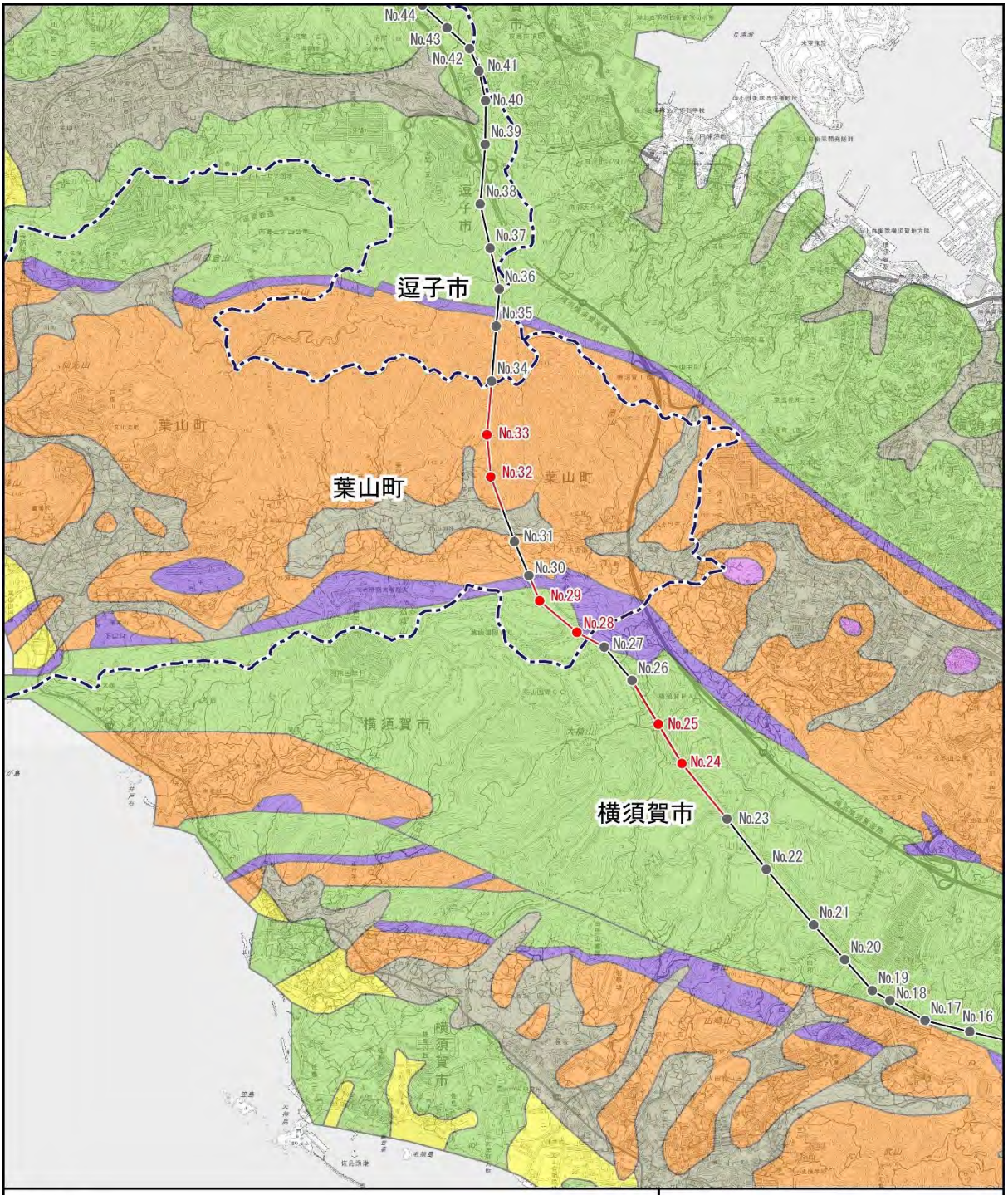
N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料：「国土数値情報ダウンロードサービス（国土調査（土地分類調査））」
（国道交通省 HP、令和７年７月閲覧）

図 3.2-20　地形分類図



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界

- 砂
- 砂岩･泥岩･凝灰岩互層
- 砂岩・泥岩互層
- 蛇紋岩質岩石
- 泥
- 礫岩

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注）資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料：「国土数値情報ダウンロードサービス（国土調査（土地分類調査））」
（国道交通省 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-21　表層地質図

第 4 節　生物

1. 植物

実施区域及び周辺地域の植物相、植生等の状況把握に用いた既存資料は、表 3.2-62 に示すとおりである。また、重要種の選定は、表 3.2-63 に示す基準により行った。

表 3.2-62　既存資料一覧（植物）

No.	資料名	抽出範囲
①	「自然環境保全基礎調査　植生調査（第 6 回～第 7 回)」 (生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 6 年 11 月閲覧)	実施区域及び周辺地域
②	「自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査（第 2,3,5 回)」 (生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 6 年 11 月閲覧)	実施区域及び周辺地域
③	「自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木調査（第 4,6 回)」 (生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 6 年 11 月閲覧)	実施区域及び周辺地域
④	「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」 (神奈川県立生命の星・地球博物館、令和 4 年)	該当市町村
⑤	「神奈川県史 各論編 4（自然）」 (神奈川県民部県史編集室、昭和 53 年)	該当市町村
⑥	「郷土誌葉山　第 15 号　葉山町の歴史とくらし」 (葉山町、令和 3 年)	掲載種全て
⑦	「逗子市史　別編１　（民俗編・自然編)」 (逗子市、昭和 62 年)	掲載種全て
⑧	「新横須賀市史　通史編◇自然・原始・古代・中世」 (横須賀市、平成 24 年)	掲載種全て
⑨	「地域環境評価書（資料編）-三浦半島北部地域-、-高座丘陵地域-」 (神奈川県環境部、平成 2 年)	該当市町村
⑩	「地域環境評価書（資料編）-三浦半島南部地域-」 (神奈川県環境部、平成 2 年)	該当市町村
⑪	「神奈川県植物誌 2018」 (神奈川県植物誌調査会、令和元年)	該当市町村
⑫	「逗子の自然（改訂 6 版)」 (逗子市教育委員会 教育研究所、平成 29 年)	掲載種全て
⑬	「三浦半島の水辺-身近な生物と私たちの暮らし-」 (横須賀市自然博物館、平成 8 年)	掲載種全て
⑭	「三浦半島の自然環境 -5 万分の 1 自然環境図説明書-」 (横須賀市自然博物館、平成 3 年)	掲載種全て
⑮	「三浦半島の野生植物」 (横須賀市自然博物館、平成 16 年)	掲載種全て
⑯	「神奈川自然誌資料　第 1 号～第 45 号」 (神奈川県立生命の星・地球博物館、令和 6 年 11 月閲覧)	該当市町村
⑰	「逗子市文化財調査報告書　第十一集　植物」 (逗子市教育委員会、昭和 57 年)	掲載種全て

表 3.2-63　重要種の選定基準（植物）

	法令・文献・資料名	区　分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和 30 年条例第 13 号)、「横須賀市文化財保護条例」(昭和 39 年条例第 41 号)、「葉山町文化財保護条例」(昭和 42 年条例第 7 号)、「逗子市文化財保護条例」(昭和 43 年条例第 11 号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：神奈川県指定天然記念物 横天：横須賀市指定天然記念物 葉天：葉山町指定天然記念物 逗天：逗子市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省第５次レッドリスト（維管束植物)」 (環境省、令和 7 年 3 月)	EX:絶滅。我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 CR:絶滅危惧 IA 類。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN:絶滅危惧 IB 類。IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU:絶滅危惧Ⅱ類。絶滅の危険が増大している種。 NT:準絶滅危惧。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD:情報不足。評価するだけの情報が不足している種。 LP:地域個体群。地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
④	「神奈川県レッドデータブック 2022［植物編］」 (神奈川県、令和 4 年)	EX：県内では、すでに絶滅したと考えられる種。 EW：県内において、過去に生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、本来の自然の生息地ではすでに絶滅したと考えられる種 CR：絶滅危惧 IA 類。県内において、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN：絶滅危惧 IB 類。県内において、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU：絶滅危惧Ⅱ類。県内において、絶滅の危険が増大している種。 NT：準絶滅危惧。県内において、存続基盤が脆弱な種。 DD：情報不足。県内において、評価するだけの情報が不足している種。

(1) 植物相

実施区域及び周辺地域の植物種は表 3.2-64 に、重要種は表 3.2-65(1)～(6)に示すとおりである。178 科 2,016 種の植物種が確認されており、このうち重要種に該当する種は 265 種である。なお、既存資料により確認された植物種（全種）は、資料編に示した。

表 3.2-64　既存資料により確認された植物種

分類		科数	種数
シダ植物		25 科	205 種
裸子植物		5 科	20 種
被子植物	基部被子植物	2 科	6 種
	―	1 科	4 種
	モクレン類	6 科	22 種
	単子葉類	27 科	510 種
	真正双子葉類	112 科	1,249 種
合計		178 科	2,016 種

注 1）植物の分類体系は、国際基準の分類体系 APGⅢに準拠した。
注 2）表中の「―」は、被子植物の分類の中で他の分類に属さないもの（センリョウ目）を示す。

表 3.2-65(1)　既存資料により確認された重要種（植物）

分類	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
シダ植物	ハナヤスリ	シチトウハナワラビ				NT
		コヒロハハナヤスリ				NT
	マツバラン	マツバラン			NT	NT
	コケシノブ	コケシノブ				VU
		ホクリクハイホラゴケ				CR
		ミウラハイホラゴケ			EN	EN
		イズハイホラゴケ				CR
	デンジソウ	デンジソウ			VU	VU
	サンショウモ	オオアカウキクサ			EN	VU
		サンショウモ			VU	CR
	キジノオシダ	オオキジノオ				NT
		キジノオシダ				NT
	ホングウシダ	ハマホラシノブ				EN
	コバノイシカグマ	イシカグマ				VU
		ウスバイシカグマ			NT	CR
	イノモトソウ	タキミシダ			EN	EN
		ヒメミズワラビ				NT
		ハチジョウシダ				EN
		ハチジョウシダモドキ				VU
	チャセンシダ	ヌリトラノオ				CR
		コタニワタリ				NT
		チャセンシダ				VU
		ホウビシダ				VU
	ヒメシダ	イワハリガネワラビ				EN
		ケホシダ				EN
	シシガシラ	オサシダ				NT
		ハチジョウカグマ				CR
	メシダ	タニイヌワラビ				NT
		ムクゲシケシダ				VU
		オニヒカゲワラビ				VU

表 3.2-65(2)　既存資料により確認された重要種（植物）

分類	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
シダ植物	メシダ	コクモウクジャク				VU
	オシダ	ミドリカナワラビ				VU
		ヒロハヤブソテツ				VU
		ハチジョウベニシダ				VU
		ミヤマベニシダ				CR
		タニヘゴ				EN
裸子植物	ヒノキ	イブキ				EN
		ハイネズ				CR
		ネズミサシ				NT
		オキナワハイネズ				CR
基部被子植物	スイレン	コウホネ				CR
		ヒツジグサ				EX
単子葉類	オモダカ	アギナシ			NT	CR
	トチカガミ	ヤナギスブタ				CR
		ヤマトウミヒルモ				CR
		ウミヒルモ			NT	
		トチカガミ			NT	EX
		ヒロハトリゲモ			VU	NT
		イトトリゲモ			NT	NT
		トリゲモ			VU	CR
		ミズオオバコ			VU	VU
	アマモ	エビアマモ			NT	VU
		オオアマモ			VU	
		タチアマモ			VU	VU
		コアマモ				VU
	ヒルムシロ	リュウノヒゲモ			NT	VU
		イトクズモ			VU	EX
	キンコウカ	ソクシンラン				CR
	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ			VU	EX
	ユリ	キバナノアマナ				EX
		ヤマジノホトトギス				EN
		アマナ				NT
	ラン	ムギラン			NT	EN
		エビネ			NT	NT
		キンセイラン			VU	CR
		キンラン			VU	NT
		クゲヌマラン			VU	
		ユウシュンラン			VU	EN
		ヒメノヤガラ			VU	VU
		マヤラン			VU	
		ナギラン			VU	VU
		クマガイソウ			VU	VU
		ハマカキラン			VU	
		カキラン				VU
		タシロラン			NT	
		ベニシュスラン				NT
		アケボノシュスラン				VU
		ハチジョウシュスラン				EN
		シュスラン				VU
		オオハクウンラン			VU	CR

表 3.2-65(3)　既存資料により確認された重要種（植物）

分類	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
単子葉類	ラン	ムヨウラン				VU
		トサノクロムヨウラン				NT
		ジガバチソウ				CR
		フウラン			VU	EN
		ムカゴサイシン			EN	EN
		ヨウラクラン				VU
		コケイラン				CR
		サギソウ			NT	
		コバノトンボソウ				EX
		クモラン				CR
		カヤラン				NT
		カゲロウラン			NT	VU
	アヤメ	ヒオウギ				VU
		アヤメ				EX
	ヒガンバナ	タマムラサキ				EN
		イズアサツキ			EN	CR
		ハマオモト				EN
	クサスギカズラ	キジカクシ				VU
		キヨスミギボウシ				CR
		ヤマアマドコロ				NT
	ガマ	ミクリ			NT	NT
		ヒメミクリ			VU	CR
	ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ				NT
	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ				VU
	カヤツリグサ	イセウキヤガラ				EN
		トダスゲ			CR	
		クロカワズスゲ				NT
		ハリガネスゲ				VU
		アワボスゲ				EN
		アイノコシラスゲ				CR
		シオクグ				NT
		センダイスゲ				VU
		ヒトモトススキ				VU
		ヒメアオガヤツリ				CR
		ツルナシコアゼガヤツリ				VU
		シロガヤツリ				VU
		オニガヤツリ				EX
		セイタカハリイ				VU
		ハリイ				VU
		イヌクログワイ				EX
		ヒメハリイ				EX
		シカクイ				NT
		クグテンツキ				EN
		アオテンツキ				CR
		ナガボテンツキ				EN
		ヤリテンツキ			NT	CR
		ビロードテンツキ				EN
		アゼテンツキ				VU
		メアゼテンツキ				VU
		ヒメホタルイ				EN

表 3.2-65(4)　既存資料により確認された重要種（植物）

分類	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
単子葉類	イネ	スズメガヤ				VU
		ウシノケグサ				VU
		ハイチゴザサ				NT
		ケカモノハシ				VU
		カモノハシ				EN
		キダチノネズミガヤ				VU
		アイアシ				VU
		アワガエリ				EX
		セイタカヨシ				NT
		ヨコハマダケ				EN
		ハマヒエガエリ				VU
		ワセオバナ				VU
		ケスズ				CR
		オニシバ				VU
		ナガミノオニシバ				EN
真正双子葉類	キンポウゲ	オオバショウマ				VU
		スハマソウ			NT	EN
		ヒキノカサ			VU	CR
	ユズリハ	スルガヒメユズリハ				DD
	ユキノシタ	ムカゴネコノメソウ			NT	
		イズノシマダイモンジソウ				EX
	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ				EN
		メノマンネングサ				EN
	タコノアシ	タコノアシ			NT	
	ハマビシ	ハマビシ			EN	EX
	マメ	ハマナタマメ				CR
		ノアズキ				VU
		イタチササゲ				EN
		レンリソウ				EN
		サガミメドハギ			EX	EX
		イヌハギ			VU	VU
	イラクサ	トキホコリ			VU	VU
	バラ	エドヒガン				NT
		オオダイコンソウ				VU
		リンボク				CR
		ヒロハノカワラサイコ			VU	VU
	ブナ	ツブラジイ				DD
		ウバメガシ				CR
	ニシキギ	ウメバチソウ				EN
	トウダイグサ	イワタイゲキ				CR
	スミレ	ヒカゲスミレ				NT
	オトギリソウ	ハマオトギリ				EN
	ミソハギ	ミズキカシグサ			VU	EX
		ヒメビシ			VU	
		ヒシ				VU
	アカバナ	ウスゲチョウジタデ			NT	
		ミズユキノシタ				CR
		ミズキンバイ			VU	VU
	アオイ	ハマボウ				EN
	ジンチョウゲ	コガンピ				VU

表 3.2-65(5)　既存資料により確認された重要種（植物）

分類	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
真正双子葉類	アブラナ	ハクサンハタザオ				EX
		ハマハタザオ				EX
		コンロンソウ				VU
	タデ	ヌカボタデ			VU	EX
		アキノミチヤナギ				VU
	ナデシコ	フシグロセンノウ				VU
	ヒユ	ホソバハマアカザ				VU
		ハマアカザ				EX
		カワラアカザ				CR
		ハママツナ				EN
	サクラソウ	ヌマトラノオ				VU
		タイミンタチバナ				EX
	ツツジ	シャクジョウソウ				NT
		ヒカゲツツジ				EN
		レンゲツツジ				EX
		ハコネコメツツジ			VU	VU
		シャシャンボ				CR
	アカネ	ヤブムグラ			VU	VU
		ホソバノヨツバムグラ				VU
	リンドウ	コケリンドウ				VU
		ムラサキセンブリ			NT	EN
	マチン	アイナエ				VU
	キョウチクトウ	サカキカズラ				CR
		コイケマ				VU
		シタキソウ				EN
		コカモメヅル				EN
		スズサイコ			NT	VU
	ナス	ヤマホオズキ			EN	NT
	ムラサキ	スナビキソウ				CR
	モクセイ	ミウライボタ				NT
	オオバコ	シソクサ				VU
		キクモ				NT
		ウンラン				EN
		トウオオバコ				VU
		イヌノフグリ			VU	VU
		カワヂシャ			NT	
	シソ	ケブカツルカコソウ			VU	
		タニジャコウソウ			NT	
		シマクサギ				EN
		キセワタ			VU	CR
		マネキグサ			NT	EN
		シロネ				EX
		ミゾコウジュ			NT	
		ヒメナミキ				VU
		カリガネソウ				VU
	ハマウツボ	ハマウツボ			VU	EX
		ヒキヨモギ				VU
	キキョウ	ハマシャジン				VU
		ツルギキョウ			VU	VU
		バアソブ			VU	VU

表 3.2-65(6)　既存資料により確認された重要種（植物）

分類	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
真正双子葉類	キキョウ	キキョウ			VU	EN
		ヒナギキョウ				VU
	ミツガシワ	ガガブタ			NT	EX
		アサザ			NT	EX
	キク	ノコギリソウ				EN
		ヌマダイコン				VU
		ヤマハハコ				VU
		カワラハハコ				VU
		ユキヨモギ			EN	EN
		タテヤマギク			NT	
		ヒメシオン				EN
		カワラノギク			VU	EN
		アキハギク				VU
		ヨメナ				VU
		ホソバガンクビソウ				VU
		ハマアザミ				CR
		タカアザミ				EN
		ワダン				VU
		フジバカマ			NT	EX
		サワヒヨドリ				EN
		ハマサワヒヨドリ			VU	CR
		オグルマ				NT
		カセンソウ				VU
		ハマニガナ				VU
		ヤマタバコ			CR	CR
		キクアザミ				EN
		ハマアキノキリンソウ				EN
		ハチジョウナ				VU
		ウラギク			NT	EN
		オナモミ			VU	EN
	セリ	ミシマサイコ			VU	CR
		ホタルサイコ				CR
		イブキボウフウ				EN
	スイカズラ	マツムシソウ				EN
		ソナレマツムシソウ			VU	
合計	71 科	265 種	0 種	0 種	84 種	247 種

注）重要種の選定基準は、表 3.2-63 を参照。

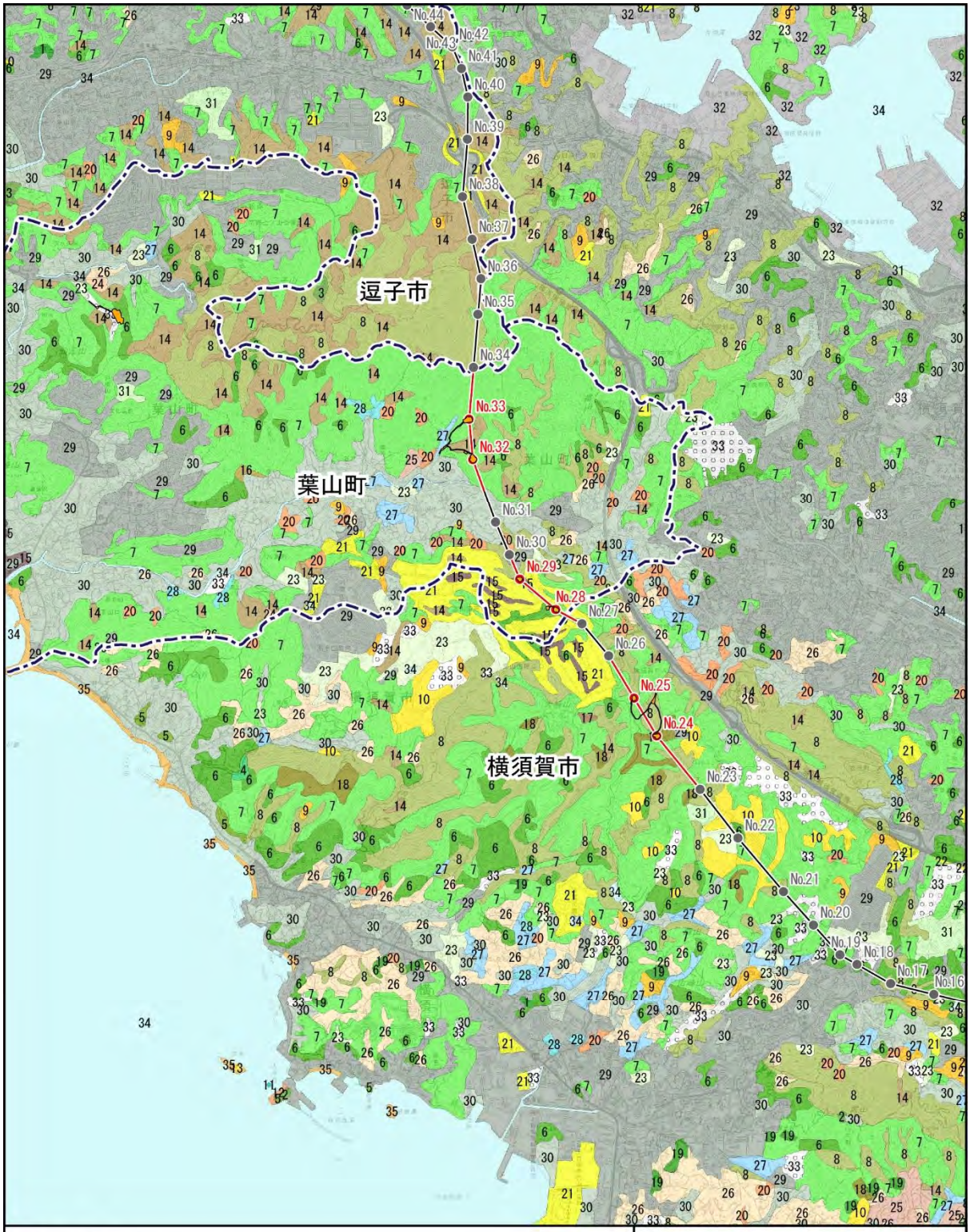
(2) 植生

実施区域及び周辺地域の植生は、表 3.2-66 及び図 3.2-22 に示すとおりであり、シイ・カシ二次林、オニシバリ－コナラ群集、アカメガシワ－カラスザンショウ群落等により構成されている。

表 3.2-66　現存植生図の凡例

植生区分	図中色	統一凡例No.	群落名
ヤブツバキクラス域自然植生	1	271201	ヤブコウジ－スダジイ群集
	2	271600	タブノキ群落
	3	271601	イノデ－タブノキ群集
	4	300100	ケヤキ群落（Ⅵ）
	5	340101	マサキ－トベラ群集
ヤブツバキクラス域代償植生	6	400100	シイ・カシ二次林
	7	410103	オニシバリ－コナラ群集
	8	410700	アカメガシワ－カラスザンショウ群落
	9	440000	低木樹林
	10	450100	ススキ群団（Ⅶ）
河辺・湿原・沼沢地・砂丘植生	11	480400	アマモクラス
	12	490000	砂丘植生
	13	500302	イソギク－ハチジョウススキ群集
植林地・耕作地植生	14	540100	スギ・ヒノキ・サワラ植林
	15	540300	クロマツ植林
	16	540900	外国産樹種植林
	17	541000	その他植林
	18	541205	オオシマザクラ植林
	19	541304	マテバシイ植林
	20	550000	竹林
	21	560100	ゴルフ場・芝地
	22	560200	牧草地
	23	570100	路傍・空地雑草群落
	24	570101	放棄畑雑草群落
	25	570200	果樹園
	26	570300	畑雑草群落
	27	570400	水田雑草群落
	28	570500	放棄水田雑草群落
市街地等	29	580100	市街地
	30	580101	緑の多い住宅地
	31	580200	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
	32	580300	工場地帯
	33	580400	造成地
	34	580600	開放水域
	35	580700	自然裸地

資料：「自然環境保全基礎調査　植生調査（第６回～第７回）」（生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）



凡　例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

資料：「自然環境保全基礎調査　植生調査（第 6 回～第 7 回）」
（生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-22　現存植生図

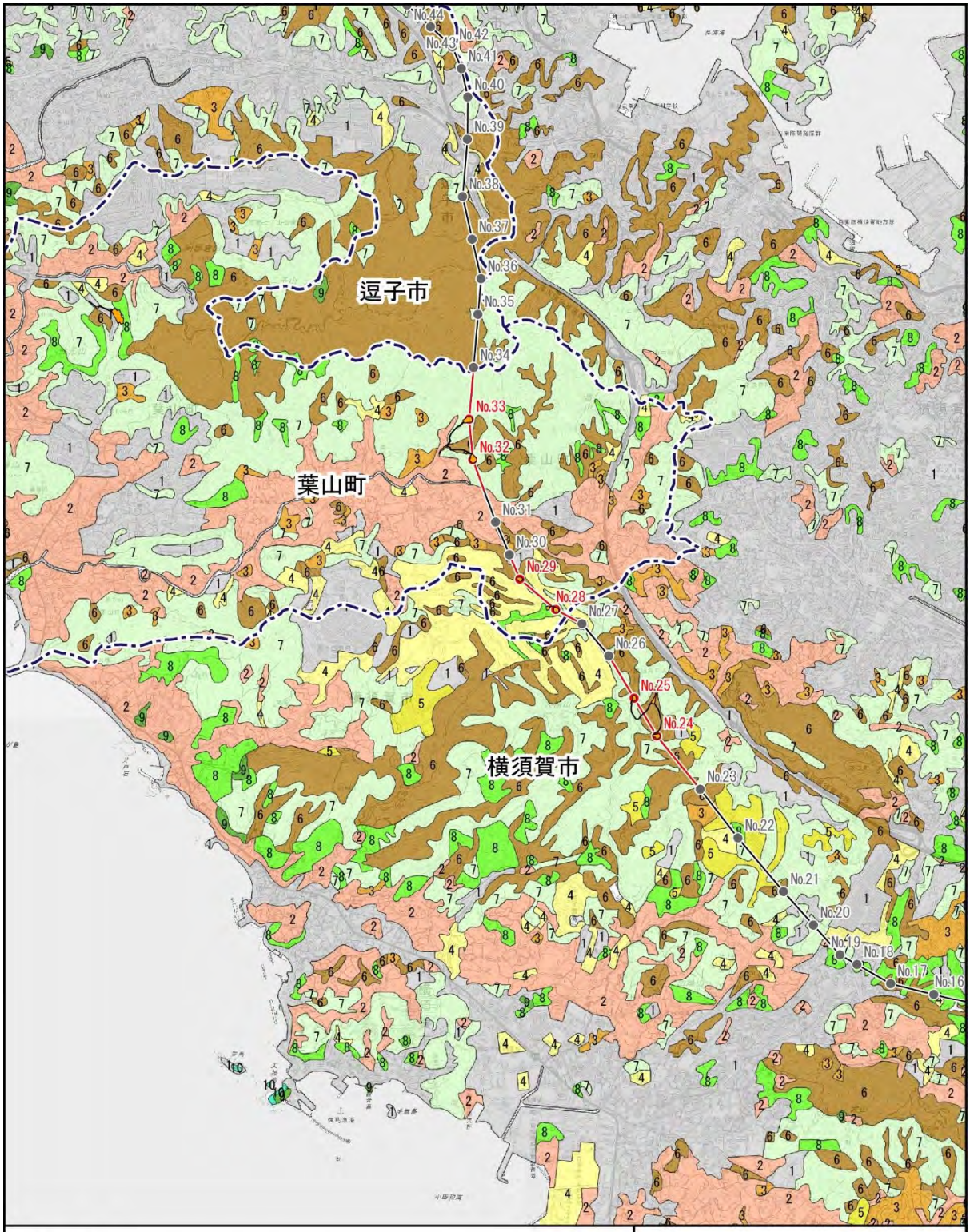
(3) 植生自然度

実施区域及び周辺地域の植生自然度は、表 3.2-67 及び図 3.2-23 に示すとおりであり、主に自然度 7 の二次林、自然度 6 の植林地、自然度 2 の外来種草原農耕地（水田・畑）により構成されている。

表 3.2-67　植生自然度の凡例

図中色 植生自然度	区分内容	該当する植生
10	自然草原	アマモクラス、砂丘植生、イソギクーハチジョウススキ群集
9	自然林	ヤブコウジースダジイ群集、タブノキ群落、イノデータブノキ群集、ケヤキ群落（Ⅵ）、マサキートベラ群集
8	二次林(自然林に近いもの)	シイ・カシ二次林
7	二次林	オニシバリーコナラ群集
6	植林地	アカメガシワーカラスザンショウ群落、低木群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クロマツ植林、オオシマザクラ植林、マテバシイ植林、その他植林
5	二次草原(背の高い草原)	ススキ群団(Ⅶ)
4	二次草原(背の低い草原)	ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、放棄水田雑草群落
3	外来種植林農耕地(樹園地)	外国産樹種植林、竹林、果樹園、残存植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来種草原農耕地(水田・畑)	牧草地、畑雑草群落、水田雑草群落、緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地、造成地、工場地帯、自然裸地

注）植生区分で開放水域に該当する箇所は除く。
資料：「(お知らせ) 1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」（生物多様性センター、平成 28 年）



凡　例

—●— 実施区域の送電線及び鉄塔

—●— 実施区域外の送電線及び鉄塔

－－－ 市町村界

実施区域の工事用地

資料：「自然環境保全基礎調査　植生調査（第 6 回～第 7 回）」
（生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 7 年 7 月閲覧）
「（お知らせ）1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」
（生物多様性センター、平成 28 年）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図 3.2-23　植生自然度

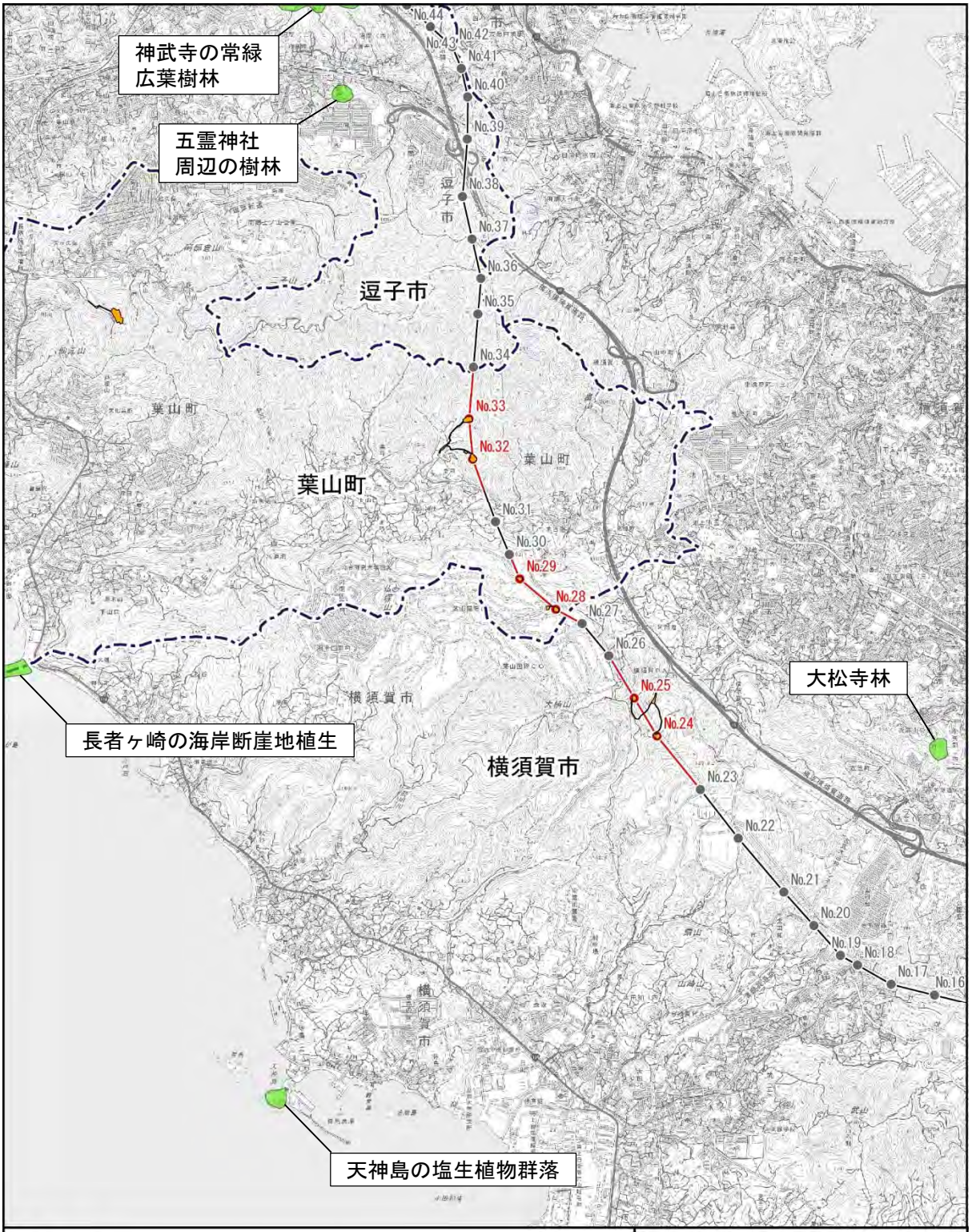
(4) 特定植物群落

実施区域及び周辺地域の特定植物群落は、表3.2-68及び図3.2-24に示すとおりであり、5件の特定植物群落が存在している。

表3.2-68　特定植物群落の概要

名称	選定基準	相観区分	面積(ha)
天神島の塩生植物群落	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群	暖温帯植生	0.02
大松寺林	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの	暖温帯常緑広葉高木林	1.2
長者ヶ崎の海岸断崖地植生	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの	海浜植生	3.0
五霊神社周辺の樹林	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの	暖温帯常緑広葉高木林	0.23
神武寺の常緑広葉樹林	その他、学術上重要な植物群落または個体群	暖温帯常緑広葉高木林	5.0

資料：「自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査（第2,3,5回）」（生物多様性センター 自然環境調査Web-GIS）



凡　例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 特定植物群落
- 実施区域の工事用地

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

資料：「自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査（第 2,3,5 回）」
（生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-24　特定植物群落

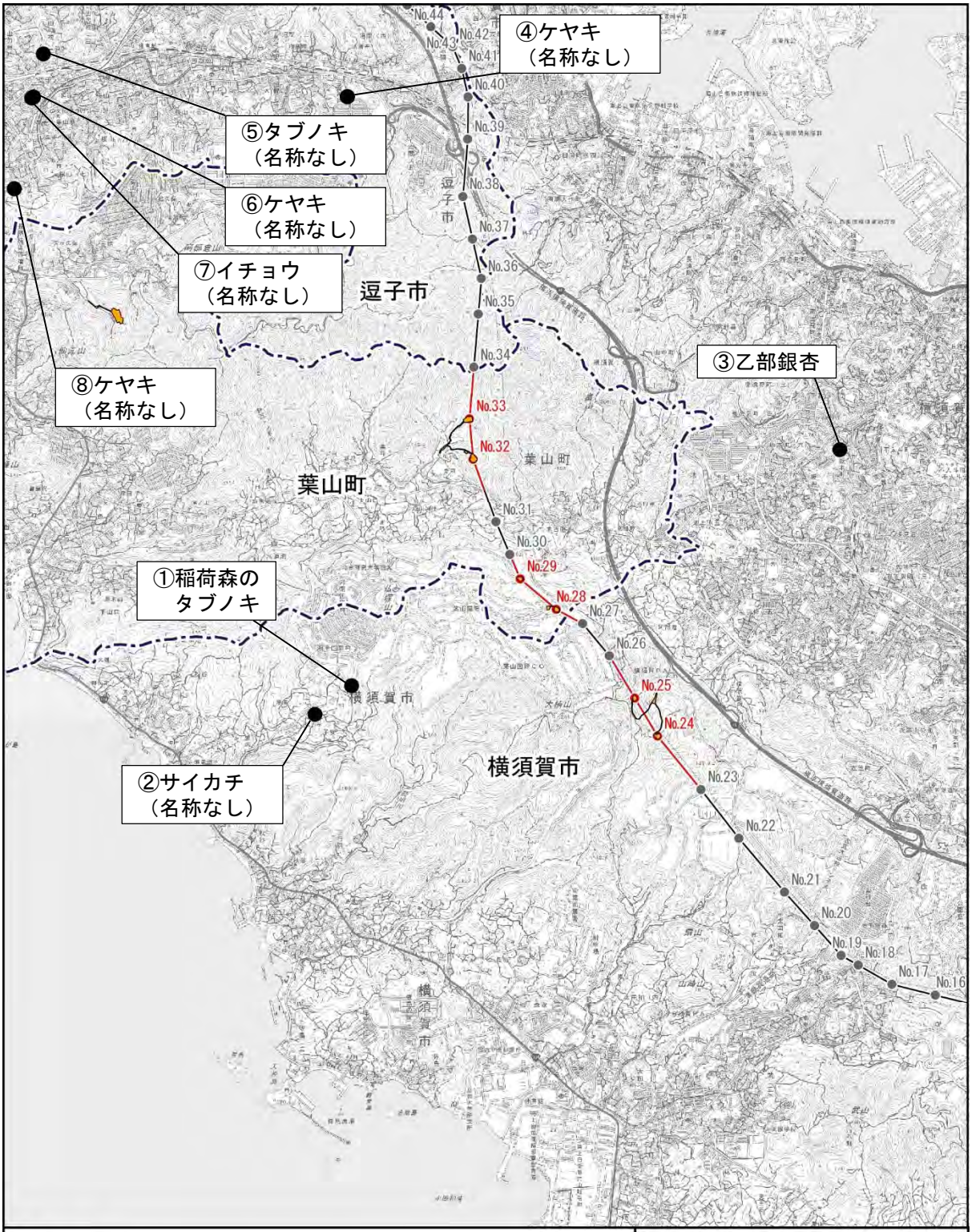
(5) 巨樹・巨木林

実施区域及び周辺地域の巨樹・巨木林は表 3.2-69 及び図 3.2-25 に示すとおりであり、8 件の巨樹・巨木林が存在している。

表 3.2-69　巨樹・巨木林の概要

番号	名称	樹種	幹周（cm）	樹高（m）
①	稲荷森のタブノキ	タブノキ	520cm	7m
②	サイカチ	サイカチ	790cm	15m
③	乙部銀杏	イチョウ	370cm	15m
④	（名称なし）	ケヤキ	320cm	17m
⑤	（名称なし）	タブノキ	350cm	25m
⑥	（名称なし）	ケヤキ	369cm	18m
⑦	（名称なし）	イチョウ	310cm	25m
⑧	（名称なし）	ケヤキ	430cm	10m

資料：「自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木調査（第 4,6 回）」（生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS）



凡　例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 巨樹・巨木林
- 実施区域の工事用地

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

資料：「自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木調査（第4,6回）」
（生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和7年7月閲覧）

図 3.2-25　巨樹・巨木林

2. 動物

実施区域及び周辺地域の動物の状況把握に用いた既存資料は、表 3.2-70(1)～(2)に示すとおりである。また、重要種の選定は、表 3.2-71 に示す基準により行った。

表 3.2-70(1)　既存資料一覧（動物）

No.	資料名	抽出範囲
①	「自然環境保全基礎調査　動植物分布調査（第 2 回～第 6 回)」 (生物多様性情報システム 自然環境調査 Web-GIS、令和 6 年 11 月閲覧)	該当市町村
②	「ガンカモ類の生息調査（平成 23 年度～令和 2 年度調査)」 (生物多様性センター、　平成 24 年～令和 3 年)	該当市町村
③	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」 (神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)	該当市町村
④	「神奈川県史 各論編 4（自然）」 (神奈川県民部県史編集室、昭和 53 年)	該当市町村
⑤	「郷土誌葉山　第 15 号　葉山町の歴史とくらし」 (葉山町、令和 3 年)	掲載種全て
⑥	「逗子市史　別編 1　（民俗編・自然編)」 (逗子市、昭和 62 年)	掲載種全て
⑦	「新横須賀市史　通史編◇自然・原始・古代・中世」 (横須賀市、平成 24 年)	掲載種全て
⑧	「地域環境評価書（資料編）　-三浦半島北部地域-、-高座丘陵地域-」 (神奈川県環境部、平成 2 年)	該当市町村
⑨	「地域環境評価書（資料編）　-三浦半島南部地域-」 (神奈川県環境部、平成 2 年)	該当市町村
⑩	「神奈川県内河川の底生動物－Ⅱ」 (神奈川県環境科学センター、平成 26 年)	実施区域及び周辺地域
⑪	「神奈川県内河川の魚類」 (神奈川県環境科学センター、平成 26 年)	実施区域及び周辺地域
⑫	「神奈川県の動物相　神奈川県昆虫調査報告書」 (神奈川県教育委員会、昭和 56 年)	該当市町村
⑬	「下山川水系の魚類相について」 (三井 翔太・手良村 知功・三井 修、平成 30 年)	実施区域及び周辺地域
⑭	「逗子の自然（改訂 6 版)」 (逗子市教育委員会 教育研究所、平成 29 年)	掲載種全て
⑮	「三浦半島の哺乳類」 (横須賀市自然博物館、昭和 63 年)	掲載種全て
⑯	「三浦半島の野鳥 -人と共に生きて-」 (横須賀市自然博物館、平成 3 年)	掲載種全て
⑰	「三浦半島の両生類－カエルやイモリのなかまー」 (横須賀市自然博物館、昭和 54 年)	掲載種全て
⑱	「三浦半島の爬虫類－その 1.トカゲとカメのなかまー」 (横須賀市自然博物館、昭和 60 年)	掲載種全て
⑲	「三浦半島の爬虫類－その 2.ヘビのなかまー」 (横須賀市自然博物館、昭和 56 年)	掲載種全て
⑳	「三浦半島の蝶」 (横須賀市自然博物館、昭和 59 年)	掲載種全て

表 3.2-70(2)　既存資料一覧（動物）

No.	資料名	抽出範囲
㉑	「三浦半島のトンボ」 （横須賀市自然博物館、昭和 62 年）	掲載種全て
㉒	「三浦半島の水生昆虫」 （横須賀市自然博物館、昭和 61 年）	掲載種全て
㉓	「三浦半島の帰化動物」 （横須賀市自然博物館、昭和 62 年）	掲載種全て
㉔	「三浦半島の水辺-身近な生物と私たちの暮らし-」 （横須賀市自然博物館、平成 8 年）	掲載種全て
㉕	「三浦半島の淡水魚」 （横須賀市自然博物館、昭和 58 年）	掲載種全て
㉖	「三浦半島の自然環境 -5 万分の 1 自然環境図説明書-」 （横須賀市自然博物館、平成 3 年）	掲載種全て
㉗	「神奈川の鳥　2011-15　-神奈川県鳥類目録Ⅶ-」 （日本野鳥の会神奈川支部、令和 2 年）	該当市町村
㉘	「神奈川県昆虫誌 2018」 （神奈川昆虫談話会、平成 30 年）	該当市町村、 三浦半島
㉙	「神奈川自然誌資料　第 1 号～第 45 号」 （神奈川県立生命の星・地球博物館、令和 6 年 11 月閲覧）	該当市町村
㉚	「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）　第 1 号～第 53 号」 （神奈川県立生命の星・地球博物館、令和 6 年 11 月閲覧）	該当市町村
㉛	「逗子市文化財調査報告書　第十三集　水生生物」 （逗子市教育委員会、平成 2 年）	掲載種全て

表 3.2-71　重要種の選定基準（動物）

	法令・文献・資料名	区　分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）、「神奈川県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 13 号）、「横須賀市文化財保護条例」（昭和 39 年条例第 41 号）、「葉山町文化財保護条例」（昭和 42 年条例第 7 号）、「逗子市文化財保護条例」（昭和 43 年条例第 11 号）	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：神奈川県指定天然記念物 横天：横須賀市指定天然記念物 葉天：葉山町指定天然記念物 逗天：逗子市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成 4 年法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020」 （環境省、令和 2 年 3 月）	EX:絶滅。我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 CR:絶滅危惧 IA 類。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN:絶滅危惧 IB 類。IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU:絶滅危惧Ⅱ類。絶滅の危険が増大している種。 NT:準絶滅危惧。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD:情報不足。評価するだけの情報が不足している種。 LP:地域個体群。地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」 （神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年）	EX：県内では、すでに絶滅したと考えられる種。 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類。県内において、絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧 IA 類。県内において、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN：絶滅危惧 IB 類。県内において、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU：絶滅危惧Ⅱ類。県内において、絶滅の危険が増大している種。 NT：準絶滅危惧。県内において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD：情報不足。県内において、評価するだけの情報が不足している種。 減少：減少種。かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種。 希少：希少種。生息域が狭域であるなど生息環境が脆弱なもののうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地の環境悪化によっては絶滅が危惧される種。 要注意：要注意種。前回、減少種又は希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地又は生息個体数が明らかに減少傾向にある種。 注目：注目種。生息環境が特殊なもののうち、県内における衰退は目立たないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種。 不明種：過去に不確実な記録だけが残されている種。

(1) 哺乳類

実施区域及び周辺地域の哺乳類相は、表 3.2-72 に示すとおりである。7 目 14 科 27 種の哺乳類が確認されており、このうち重要種に該当する種は 8 種である。

表 3.2-72　既存資料により確認された哺乳類

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
モグラ目	トガリネズミ科	ジネズミ				
	モグラ科	ヒミズ				
		アズマモグラ				
コウモリ目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ				VU
		キクガシラコウモリ				CR+EN
	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ				NT
		アブラコウモリ				
		ユビナガコウモリ				VU
サル目	オナガザル科	ニホンザル				
ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ				
ネズミ目	リス科	クリハラリス				
		ムササビ				
	ネズミ科	ハタネズミ				NT
		アカネズミ				
		ヒメネズミ				
		カヤネズミ				NT
		ハツカネズミ				
		クマネズミ				
		ドブネズミ				
	ヌートリア科	ヌートリア				
ネコ目	アライグマ科	アライグマ				
	イヌ科	タヌキ				
		キツネ				NT
	イタチ科	イタチ				NT
		ニホンアナグマ				
	ジャコウネコ科	ハクビシン				
ウシ目	イノシシ科	イノシシ				
7 目	14 科	27 種	0 種	0 種	0 種	8 種
			8 種			

注）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

(2) 鳥類

実施区域及び周辺地域の鳥類相は、表 3.2-73(1)～(6)に示すとおりである。22 目 68 科 281 種の鳥類が確認されており、このうち重要種に該当する種は 127 種である。

なお、山間部に鉄塔の建て替えを行うという事業特性から重要な猛禽類に配慮するため、「猛禽類保護の進め方（改訂版）－特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて－」（平成 24 年. 環境省自然環境局野生生物課）に準じて、先行して現地調査を実施している。令和 3 年及び令和 4 年の現地調査における重要な猛禽類の確認状況は、表 3.2-74 に示すとおりである。

表 3.2-73(1)　既存資料により確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						非繁殖期	繁殖期
キジ目	キジ科	ウズラ			VU	VU	
		コジュケイ					
		ヤマドリ				VU	VU
		キジ					
		コウライキジ					
カモ目	カモ科	シナガチョウ					
		コクガン	国天		VU		
		コブハクチョウ					
		コハクチョウ					
		オオハクチョウ					
		バリケン					
		オシドリ			DD	減少	希少
		オカヨシガモ					
		ヨシガモ					
		ヒドリガモ					
		アメリカヒドリ					
		マガモ					
		アヒル					
		カルガモ					
		ハシビロガモ					
		オナガガモ					
		コガモ					
		ホシハジロ					
		キンクロハジロ					
		スズガモ					
		シノリガモ					
		ビロードキンクロ					
		クロガモ					
		ホオジロガモ					
		ウミアイサ				NT	
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ					
		アカエリカイツブリ					
		カンムリカイツブリ					
		ミミカイツブリ					
		ハジロカイツブリ					
ネッタイチョウ目	ネッタイチョウ科	アカオネッタイチョウ			EN		
ハト目	ハト科	カラスバト	国天		NT	EX	EX
		カワラバト(ドバト)					

表 3.2-73(2)　既存資料により確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						非繁殖期	繁殖期
ハト目	ハト科	キジバト					
		アオバト				注目	注目
アビ目	アビ科	アビ					
		オオハム					
		シロエリオオハム					
ミズナギドリ目	アホウドリ科	コアホウドリ			EN		
		クロアシアホウドリ					
	ミズナギドリ科	フルマカモメ					
		シロハラミズナギドリ			DD		
		オオミズナギドリ					
		ハイイロミズナギドリ					
		ハシボソミズナギドリ					
		アカアシミズナギドリ					
	ウミツバメ科	クロコシジロウミツバメ		国内	CR		
		コシジロウミツバメ					
		オーストンウミツバメ			NT		
		ハイイロウミツバメ					
カツオドリ目	グンカンドリ科	コグンカンドリ					
	ウ科	ヒメウ			EN	NT	
		カワウ					
		ウミウ				NT	
ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ			NT		VU
		オオヨシゴイ		国内	CR	VU	
		ミゾゴイ			VU		CR+EN
		ゴイサギ					
		ササゴイ					VU
		アカガシラサギ					
		アマサギ					減少
		アオサギ					
		ダイサギ					
		チュウサギ			NT		
		コサギ					
		クロサギ					VU
	トキ科	ヘラサギ			DD		
ツル目	クイナ科	シマクイナ		国内	EN		
		クイナ				VU	
		ヒクイナ			NT		CR+EN
		バン					
		オオバン					
カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ					NT
		ホトトギス					
		ツツドリ					
		カッコウ					VU
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			NT		VU
アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ					
		アマツバメ					
		ヒメアマツバメ					減少
チドリ目	チドリ科	タゲリ				VU	
		ケリ			DD	NT	希少
		ムナグロ				減少	

表 3.2-73(3)　既存資料により確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						非繁殖期	繁殖期
チドリ目	チドリ科	ダイゼン				減少	
		ハジロコチドリ					
		イカルチドリ				注目	NT
		コチドリ					注目
		シロチドリ			VU	NT	VU
		メダイチドリ				NT	
		オオメダイチドリ					
	ミヤコドリ科	ミヤコドリ					
	セイタカシギ科	セイタカシギ			VU		
	シギ科	ヤマシギ				希少	
		オオジシギ			NT		EX
		タシギ				注目	
		オオソリハシシギ			VU	VU	
		チュウシャクシギ				VU	
		ダイシャクシギ				CR+EN	
		ホウロクシギ			VU	CR+EN	
		ツルシギ			VU	NT	
		アカアシシギ			VU	NT	
		アオアシシギ				NT	
		クサシギ				NT	
		タカブシギ			VU	NT	
		キアシシギ				VU	
		メリケンキアシシギ					
		ソリハシシギ				VU	
		イソシギ				注目	希少
		キョウジョシギ				VU	
		オバシギ				VU	
		ミユビシギ				CR+EN	
		トウネン				VU	
		ハマシギ			NT	VU	
		キリアイ					
		アカエリヒレアシシギ					
		ハイイロヒレアシシギ					
	タマシギ科	タマシギ			VU	希少	CR+EN
	ツバメチドリ科	ツバメチドリ			VU		
	カモメ科	ミツユビカモメ					
		ユリカモメ					
		ウミネコ					
		カモメ					
		ワシカモメ					
		シロカモメ					
		セグロカモメ					
		オオセグロカモメ			NT		
		オオアジサシ			VU		
		コアジサシ			VU		CR+EN
		コシジロアジサシ					
		アジサシ					
		クロハラアジサシ					
	トウゾクカモメ科	オオトウゾクカモメ					
		トウゾクカモメ					

表 3.2-73(4)　既存資料により確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						非繁殖期	繁殖期
チドリ目	トウゾクカモメ科	クロトウゾクカモメ					
		シロハラトウゾクカモメ					
	ウミスズメ科	ウミバト					
		ケイマフリ			VU		
		マダラウミスズメ			DD		
		ウミスズメ			CR		
		カンムリウミスズメ	国天		VU		
		ウトウ					
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ			NT	NT	VU
	タカ科	ハチクマ			NT		CR+EN
		トビ					
		オジロワシ	国天	国内	VU		
		オオワシ	国天	国内	VU		
		チュウヒ		国内	EN	VU	
		ハイイロチュウヒ					
		アカハラダカ					
		ツミ				希少	VU
		ハイタカ			NT	希少	DD
		オオタカ			NT	希少	VU
		サシバ			VU		CR+EN
		ノスリ				希少	VU
		ケアシノスリ					
フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク				希少	CR+EN
		コノハズク					CR+EN
		フクロウ					NT
		アオバズク					VU
サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ					
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン					VU
		カワセミ					
		ヤマセミ					希少
	ブッポウソウ科	ブッポウソウ			EN		CR+EN
キツツキ目	キツツキ科	アリスイ					
		コゲラ					
		アカゲラ					
		アオゲラ					
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ					
		アカアシチョウゲンボウ					
		コチョウゲンボウ					
		チゴハヤブサ					
		ハヤブサ		国内	VU	希少	CR+EN
インコ目	インコ科	セキセイインコ					
		ホンセイインコ					
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ			VU		VU
	オウチュウ科	ハイイロオウチュウ					
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ					VU
	モズ科	チゴモズ			CR		CR+EN
		モズ					減少
	カラス科	カケス					
		オナガ					
		ミヤマガラス					

表 3.2-73(5)　既存資料により確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						非繁殖期	繁殖期
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス					
		ハシブトガラス					
	キクイタダキ科	キクイタダキ					希少
	シジュウカラ科	コガラ				NT	VU
		ヤマガラ					
		ヒガラ					
		シジュウカラ					
	ヒバリ科	ヒバリ					減少
	ツバメ科	ショウドウツバメ					
		ツバメ					減少
		コシアカツバメ					減少
		イワツバメ					
	ヒヨドリ科	コウラウン					
		ヒヨドリ					
	ウグイス科	ウグイス					
		ヤブサメ					NT
	エナガ科	エナガ					
	ムシクイ科	オオムシクイ			DD		
		メボソムシクイ					VU
		エゾムシクイ					NT
		センダイムシクイ					NT
		イイジマムシクイ	国天		VU		
	チメドリ科	ガビチョウ					
		ソウシチョウ					
	メジロ科	メジロ					
	センニュウ科	シマセンニュウ					
		オオセッカ		国内	EN		
		エゾセンニュウ					
	ヨシキリ科	オオヨシキリ					VU
		コヨシキリ					CR+EN
	セッカ科	セッカ				減少	減少
	レンジャク科	キレンジャク					
		ヒレンジャク					
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ					NT
	ミソサザイ科	ミソサザイ					
	ムクドリ科	ムクドリ					
		コムクドリ					
	カワガラス科	カワガラス				減少	減少
	ヒタキ科	マミジロ					希少
		トラツグミ					減少
		クロツグミ					VU
		マミチャジナイ					
		シロハラ					
		アカハラ					減少
		アカコッコ	国天	国内	EN		
		ツグミ					
		コマドリ					CR+EN
		ノゴマ					
		コルリ					VU
		ルリビタキ					VU

表 3.2-73(6)　既存資料により確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						非繁殖期	繁殖期
スズメ目	ヒタキ科	ジョウビタキ					
		ノビタキ					
		イソヒヨドリ					
		ヒメイソヒヨ					
		エゾビタキ					
		サメビタキ					
		コサメビタキ					CR+EN
		キビタキ					減少
		オジロビタキ					
		オオルリ					NT
	イワヒバリ科	カヤクグリ					
	スズメ科	ニュウナイスズメ				CR+EN	
		スズメ					
	ハタオリドリ科	ベニビタイキンランチョウ					
	カエデチョウ科	ベニスズメ					
		ヘキチョウ					
		ブンチョウ					
	セキレイ科	イワミセキレイ					
		キセキレイ					減少
		ハクセキレイ					
		セグロセキレイ					減少
		ビンズイ					VU
		タヒバリ					
	アトリ科	アトリ					
		カワラヒワ					減少
		マヒワ					
		ハギマシコ					
		ベニマシコ					
		オオマシコ					
		ウソ					
		シメ					
		イカル					
		カナリア					
	アメリカムシクイ科	キヅタアメリカムシクイ					
	ホオジロ科	シラガホオジロ					
		ホオジロ					
		カシラダカ					
		ミヤマホオジロ					
		ノジコ			NT		希少
		アオジ					VU
		クロジ				減少	CR+EN
		オオジュリン				VU	
	フウキンチョウ科	コウカンチョウ					
22 目	68 科	281 種	7 種	9 種	54 種	51 種	72 種
			127 種				

注）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

表 3.2-74　現地調査における重要な猛禽類の確認状況

種和名	確認回数		合計	選定基準			
	調査年			①	②	③	④
	令和 3 年	令和 4 年					
ミサゴ	9	9	18			NT	VU
ハチクマ	3	2	5			NT	CR+EN
ツミ	2	1	3				VU
ハイタカ	4	4	8			NT	DD
オオタカ	31	60	91			NT	VU
サシバ	1	1	2			VU	CR+EN
ノスリ	10	12	22				VU
ハヤブサ	3	8	11		国内	VU	CR+EN

注）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

(3) 両生類

実施区域及び周辺地域の両生類相は、表 3.2-75 に示すとおりである。2 目 7 科 14 種の両生類が確認されており、このうち重要種に該当する種は 7 種である。

表 3.2-75　既存資料により確認された両生類

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
有尾目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ		特二	VU	CR+EN
	イモリ科	アカハライモリ			NT	CR+EN
無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル				要注意
	アマガエル科	ニホンアマガエル				
	アカガエル科	タゴガエル				
		ニホンアカガエル				VU
		ヤマアカガエル				
		トウキョウダルマガエル			NT	VU
		ウシガエル				
		ムカシツチガエル				要注意
	ヌマガエル科	ヌマガエル				
	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル				要注意
		モリアオガエル				
		カジカガエル				
2 目	7 科	14 種	0 種	1 種	3 種	7 種
			7 種			

注 1）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。
注 2）モリアオガエルは選定基準④の重要種に該当するが、調査地域では国内移入種であるため重要種から除外した。国内移入種の定義は以下のとおり。
・国内には分布するが、調査地域には自然分布しない種
注 3）ムカシツチガエルは、既存資料及び選定基準では旧名であるツチガエルで記載されている種である。

(4) 爬虫類

実施区域及び周辺地域の爬虫類相は表 3.2-76 に示すとおりである。2 目 10 科 17 種の爬虫類が確認されており、このうち重要種に該当する種は 8 種である。

表 3.2-76　既存資料により確認された爬虫類

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ			NT	CR+EN
		クサガメ				
		ハナガメ				
	ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ				
	スッポン科	ニホンスッポン			DD	
	カミツキガメ科	カミツキガメ				
有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ				
	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ				要注意
	カナヘビ科	ニホンカナヘビ				
	タカチホヘビ科	タカチホヘビ				
	ナミヘビ科	シマヘビ				要注意
		アオダイショウ				要注意
		ジムグリ				
		シロマダラ				
		ヒバカリ				NT
		ヤマカガシ				要注意
	クサリヘビ科	ニホンマムシ				要注意
2 目	10 科	17 種	0 種	0 種	2 種	7 種
			8 種			

注）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

(5) 昆虫類

実施区域及び周辺地域の昆虫類相は表 3.2-77 に、重要種は表 3.2-78(1)～(6)に示すとおりである。25 目 384 科 4,468 種の昆虫類が確認されており、このうち重要種に該当する種は 286 種である。

なお、既存資料により確認された昆虫類（全種）は、資料編に示した。

表 3.2-77　既存資料により確認された昆虫類

目名	科数	種数
トビムシ目（粘管目）	10 科	22 種
カマアシムシ目	2 科	14 種
イシノミ目（古顎目）	2 科	2 種
カゲロウ目（蜉蝣目）	10 科	25 種
トンボ目（蜻蛉目）	9 科	64 種
ゴキブリ目（網翅目）	2 科	4 種
カマキリ目（螳螂目）	2 科	6 種
シロアリ目（等翅目）	2 科	2 種
ハサミムシ目（革翅目）	2 科	2 種
カワゲラ目（セキ翅目）	4 科	7 種
バッタ目（直翅目）	15 科	81 種
ナナフシ目（竹節虫目）	1 科	5 種
カジリムシ目（咀顎目）	2 科	3 種
カメムシ目（半翅目）	62 科	453 種
ヘビトンボ目	2 科	3 種
ラクダムシ目	1 科	1 種
アザミウマ目（総翅目）	4 科	94 種
アミメカゲロウ目（脈翅目）	7 科	24 種
シリアゲムシ目（長翅目）	2 科	2 種
ノミ目（隠翅目）	2 科	2 種
トビケラ目（毛翅目）	15 科	27 種
チョウ目（鱗翅目）	46 科	1,056 種
ハエ目（双翅目）	49 科	384 種
コウチュウ目（鞘翅目）	93 科	1,673 種
ハチ目（膜翅目）	38 科	512 種
合計：25 目 384 科 4,468 種		

表 3.2-78(1)　既存資料により確認された昆虫類の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ				要注意
		オツネントンボ				VU
	イトトンボ科	ホソミイトトンボ				DD
		キイトトンボ				EN
		ベニイトトンボ			NT	CR
		クロイトトンボ				要注意
		セスジイトトンボ				要注意
		オオイトトンボ				CR
	モノサシトンボ科	モノサシトンボ				NT
	カワトンボ科	ハグロトンボ				要注意
		アオハダトンボ			NT	VU
		ニホンカワトンボ				NT
	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ			NT	CR
		コシボソヤンマ				要注意
		カトリヤンマ				NT
		ミルンヤンマ				要注意
		サラサヤンマ				EN
	サナエトンボ科	ヤマサナエ				要注意
		キイロサナエ			NT	CR
		タイワンウチワヤンマ				DD
		ホンサナエ				VU
		コサナエ				EN
	エゾトンボ科	コヤマトンボ				NT
		ハネビロエゾトンボ			VU	EX
		タカネトンボ				要注意
	トンボ科	コフキトンボ				要注意
		ヨツボシトンボ				VU
		ハラビロトンボ				要注意
		シオヤトンボ				要注意
		チョウトンボ				EN
		ナツアカネ				要注意
		マユタテアカネ				要注意
		マイコアカネ				DD
		ヒメアカネ				要注意
		ミヤマアカネ				NT
		リスアカネ				要注意
バッタ目（直翅目）	クツワムシ科	クツワムシ				要注意
	キリギリス科	オナガササキリ				要注意
		ヒガシキリギリス				要注意
		ササキリモドキ				希少
	ケラ科	ケラ				要注意
	マツムシ科	スズムシ				要注意
		ヒロバネカンタン				NT
		マツムシ				要注意
	カネタタキ科	アシジマカネタタキ				CR+EN
		イソカネタタキ				NT
	ヒバリモドキ科	ウミコオロギ				VU
		ウスモンウミコオロギ				CR+EN
		ヒメスズ				希少
	バッタ科	カワラバッタ				CR+EN

表 3.2-78(2)　既存資料により確認された昆虫類の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
バッタ目（直翅目）	バッタ科	ショウリョウバッタモドキ				要注意
		イナゴモドキ				NT
		ツマグロバッタ				NT
カメムシ目（半翅目）	セミ科	ハルゼミ				要注意
	ヨコバイ科	フクロクヨコバイ			NT	
	クビナガカメムシ科	クロクビナガカメムシ				DD
	サシガメ科	アシマダラアカサシガメ				DD
		アカヘリサシガメ				DD
	グンバイムシ科	ヤブガラシグンバイ				DD
	トコジラミ科	トコジラミ				DD
	ヘリカメムシ科	アズキヘリカメムシ				DD
		ミナミトゲヘリカメムシ				DD
	ナガカメムシ科	ヒメマダラナガカメムシ				DD
	カメムシ科	アヤナミカメムシ				注目
		キュウシュウクチブトカメムシ				注目
		フタテンカメムシ				DD
		イネカメムシ				DD
	アメンボ科	オオアメンボ				NT
		エサキアメンボ			NT	CR
		ババアメンボ			NT	EN
		ハネナシアメンボ				CR
	イトアメンボ科	イトアメンボ			VU	CR
	カタビロアメンボ科	ケシウミアメンボ				DD
	ミズムシ科（昆）	ミヤケミズムシ			NT	CR
	コオイムシ科	コオイムシ			NT	EN
		タガメ		特二	VU	EX
トビケラ目（毛翅目）	ヒゲナガトビケラ科	ミサキツノトビケラ				EX
チョウ目（鱗翅目）	ミノガ科	オオミノガ				VU
	セセリチョウ科	アオバセセリ本土亜種				要注意
		ホソバセセリ				VU
		ギンイチモンジセセリ			NT	NT
		オオチャバネセセリ				VU
	シジミチョウ科	ミドリシジミ				NT
		シルビアシジミ			EN	CR
	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン			VU	EN
		オオウラギンスジヒョウモン				NT
		ヒョウモンチョウ本州中部亜種			VU	
		スミナガシ本土亜種				要注意
		ウラギンヒョウモン				VU
		クジャクチョウ				VU
		アサマイチモンジ				VU
		クモガタヒョウモン				EN
		オオムラサキ			NT	NT
	シロチョウ科	ツマグロキチョウ			EN	EX
	メイガ科	ミサキクシヒゲシマメイガ				CR+EN
	シャクガ科	ヒメウコンエダシャク				不明種
		クロモンチビヒメシャク				CR+EN
		ギフウスキナミシャク				希少
	ヤママユガ科	オナガミズアオ本土亜種			NT	
	スズメガ科	スキバホウジャク			VU	

表 3.2-78(3)　既存資料により確認された昆虫類の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
チョウ目（鱗翅目）	シャチホコガ科	カバイロシャチホコ			NT	
	ヒトリガ科	マエアカヒトリ			NT	CR+EN
		ヤネホソバ			NT	
	ドクガ科	スゲドクガ			NT	
	ヤガ科	ナミグルマアツバ				NT
		シロミミハイイロヨトウ				DD
		ハマオモトヨトウ				NT
		シロエグリコヤガ				CR+EN
		オオチャバネヨトウ			VU	CR+EN
		ニセトガリヨトウ			NT	
	コブガ科	サラサリンガ				NT
ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	ヒトエグサガガンボ				DD
	ミズアブ科	コガタミズアブ				DD
	アブ科	ウシアブ				DD
	ツルギアブ科	ナギサツルギアブ				希少
	ハナアブ科	ミツオビヒゲナガハナアブ				DD
	ミバエ科	ミカドハマダラミバエ				DD
		ミサキオナガミバエ				VU
コウチュウ目（鞘翅目）	ホソクビゴミムシ科	ヒメホソクビゴミムシ				VU
	オサムシ科	オオヨツボシゴミムシ				VU
		アシミゾヒメヒラタゴミムシ				NT
		クロズカタキバゴミムシ				NT
		ヨツモンカタキバゴミムシ				NT
		アオヘリミズギワゴミムシ				NT
		オオズミズギワゴミムシ				DD
		ハマベミズギワゴミムシ				NT
		ウミミズギワゴミムシ			NT	VU
		アカガネアオゴミムシ				NT
		ヒトツメアオゴミムシ			NT	EX
		コアトワアオゴミムシ				NT
		ツヤヒメヒョウタンゴミムシ				DD
		クロヒメヒョウタンゴミムシ				NT
		オサムシモドキ				VU
		オオアオホソゴミムシ				CR+EN
		コハンミョウモドキ			EN	VU
		ヤノホソコミズギワゴミムシ				DD
		イマイチビアトキリゴミムシ				DD
		キベリマルクビゴミムシ			EN	CR+EN
		ナカグロキバネクビナガゴミムシ				VU
		オオトックリゴミムシ			NT	NT
		ヨツボシゴミムシ				NT
		トカラコミズギワゴミムシ				DD
		オオホソチビゴミムシ				DD
		イグチケブカゴミムシ			NT	NT
		オオナガゴミムシ				NT
		コホソナガゴミムシ				NT
		アシミゾナガゴミムシ				NT
		ヒョウタンゴミムシ				VU
		セグロマメゴモクムシ				NT
		クロサマメゴモクムシ				NT

表 3.2-78(4)　既存資料により確認された昆虫類の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	タオマメゴモクムシ				NT
		キアシツヤヒラタゴミムシ				NT
		オビモンコミズギワゴミムシ				NT
		クビナガヨツボシゴミムシ			DD	VU
		ミウラメクラチビゴミムシ				CR+EN
		コバヤシツヤゴモクムシ				VU
	ハンミョウ科	シロヘリハンミョウ			NT	VU
		カワラハンミョウ			EN	EX
	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ				VU
		キボシケシゲンゴロウ			DD	EN
		クロゲンゴロウ			NT	CR
		ゲンゴロウ		特二	VU	EX
		マルガタゲンゴロウ		特二	VU	CR
		シマゲンゴロウ			NT	EN
		ウスイロシマゲンゴロウ				DD
		ケシゲンゴロウ			NT	CR
		ヒメケシゲンゴロウ			VU	EX
		ツブゲンゴロウ				EX
		コウベツブゲンゴロウ			NT	DD
		ルイスツブゲンゴロウ			VU	EX
	ミズスマシ科	オオミズスマシ			NT	CR
		コミズスマシ			EN	VU
		ミズスマシ			VU	NT
	コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ			VU	EX
		カミヤコガシラミズムシ			EN	EX
		マダラコガシラミズムシ			VU	DD
		コガシラミズムシ				EN
	コツブゲンゴロウ科	コツブゲンゴロウ				VU
	カワラゴミムシ科	カワラゴミムシ				VU
	ダルマガムシ科	クロコブセスジダルマガムシ				NT
	ガムシ科	タマガムシ				EN
		チビヒラタガムシ				DD
		ルイスヒラタガムシ				DD
		コガムシ			DD	NT
		ガムシ			NT	CR
	エンマムシ科	ツヤハマベエンマムシ				CR+EN
		ヒメハマベエンマムシ				CR+EN
		カラカネハマベエンマムシ				CR+EN
		ルリエンマムシ				VU
	シデムシ科	ヤマトモンシデムシ			NT	VU
		ヒメヒラタシデムシ				VU
	ハネカクシ科	オオズウミハネカクシ			EN	NT
		カタモンハネカクシ				CR+EN
	クワガタムシ科	ネブトクワガタ本土亜種				EX
		オオクワガタ			VU	CR+EN
		ヒラタクワガタ本土亜種				VU
		ミヤマクワガタ				要注意
	アカマダラセンチコガネ科	アカマダラセンチコガネ				NT
	コガネムシ科	アカマダラハナムグリ			DD	NT
		オオフタホシマグソコガネ				NT

表 3.2-78(5)　既存資料により確認された昆虫類の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
コウチュウ目（鞘翅目）	コガネムシ科	ヒメキイロマグソコガネ			NT	VU
		ヤマトケシマグソコガネ				NT
		マルエンマコガネ				CR+EN
		シロスジコガネ				VU
		ヒゲコガネ				VU
		シラホシハナムグリ				EX
		ムラサキツヤハナムグリ				VU
		アイヌケシマグソコガネ				NT
		トラハナムグリ				CR+EN
	タマムシ科	ウバタマムシ				NT
		タマムシ				要注意
		クロマダラタマムシ				EX
		アヤムナビロタマムシ				VU
	コメツキムシ科	イズヒメサビキコリ				VU
		ウバタマコメツキ				NT
	ホタル科	ヘイケボタル				NT
		スジグロボタル				NT
	カッコウムシ科	ヤマトヒメメダカカッコウムシ				VU
	ジョウカイモドキ科	クロキオビジョウカイモドキ				VU
		ルリキオビジョウカイモドキ				NT
		イソジョウカイモドキ			DD	VU
	テントウムシ科	ヤマトヒメテントウ				NT
	ヒラタムシ科	カギヒゲチビヒラタムシ				VU
	ヒメハナムシ科	チャイロズマルヒメハナムシ				NT
	アリモドキ科	ヒゲブトホソアリモドキ				VU
	ナガクチキムシ科	ヒゲブトナガクチキ				NT
	ツチハンミョウ科	マメハンミョウ				要注意
	カミキリモドキ科	サタカミキリモドキ				VU
	ゴミムシダマシ科	ヤマトオサムシダマシ			NT	EX
		オオマルチビゴミムシダマシ				VU
		シナスナゴミムシダマシ				CR+EN
		ハネナシセスジナガキマワリ				DD
		ニセマグソコガネダマシ				CR+EN
	カミキリムシ科	ヒメビロウドカミキリ			NT	CR+EN
		ヒゲナガモモブトカミキリ				NT
		トゲヒゲトビイロカミキリ				希少
		ルリカミキリ				VU
		シロスジカミキリ				要注意
		アカネトラカミキリ				NT
		ハンノキカミキリ				VU
		ケブトハナカミキリ				希少
		アカアシオオアオカミキリ				CR+EN
		オオアオカミキリ				DD
		ミドリカミキリ				NT
		クロトラカミキリ				VU
		ベーツヒラタカミキリ				VU
		キイロトラカミキリ				要注意
		ナカバヤシモモブトカミキリ				VU
		ムネアカクロハナカミキリ				NT
		コゲチャサビカミキリ				希少

表 3.2-78(6)　既存資料により確認された昆虫類の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
コウチュウ目（鞘翅目）	カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ			EN	CR+EN
		アサカミキリ			VU	CR+EN
		モモグロハナカミキリ				NT
		マルクビケマダラカミキリ				NT
		トラフカミキリ				要注意
		ムネマダラトラカミキリ				NT
		ブドウトラカミキリ				NT
		アオスジカミキリ				VU
	ハムシ科	スジカミナリハムシ本州以南亜種				DD
		クロマメゾウムシ				VU
		イネネクイハムシ				VU
		ジュンサイハムシ				CR+EN
		スイバトビハムシ				DD
		セスジクビボソハムシ				NT
		キアシクビボソハムシ				CR+EN
		シリダコグミトビハムシ				DD
	ゾウムシ科	ヨツホシハナコブヒメゾウムシ				CR+EN
		ハマベキクイゾウムシ				NT
	チビゾウムシ科	ヒシチビゾウムシ				VU
	キクイムシ科	ビローシマコキクイムシ				NT
ハチ目（膜翅目）	コンボウハバチ科	ホシアシブトハバチ			DD	
	ヒメバチ科	コンボウアメバチ				VU
	セイボウ科	オオセイボウ			DD	
	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ			DD	VU
		モンスズメバチ			DD	
	クモバチ科	ムツボシクモバチ			NT	EX
		キオビクモバチ				CR+EN
		フタモンクモバチ			NT	VU
		アオスジクモバチ			DD	
	ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ本土亜種			DD	
		ニッポンハナダカバチ			VU	VU
		キアシハナダカバチモドキ			VU	CR+EN
	ミツバチ科	クロマルハナバチ			NT	EX
		ナミルリモンハナバチ			DD	
	ハキリバチ科	クズハキリバチ			DD	
		キバラハキリバチ			NT	
8 目	92 科	286 種	0 種	3 種	76 種	270 種

注）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

(6) 魚類

実施区域及び周辺地域の魚類相は、表 3.2-79 に示すとおりである。9 目 15 科 40 種の魚類が確認されており、このうち重要種に該当する種は 16 種である。

表 3.2-79　既存資料により確認された魚類

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
レピソステウス目	レピソステウス科	アリゲーターガー				
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ			EN	
コイ目	コイ科	コイ（型不明）				
		ゲンゴロウブナ				
		キンギョ				
		キンブナ			VU	EN
		フナ類				
		ギンブナ				
		オイカワ				
		ソウギョ				
		アオウオ				
		アブラハヤ				NT
		マルタ				VU
		ウグイ				NT
		モツゴ				
		タモロコ				
		アカヒレ				
	ドジョウ科	ドジョウ			NT	
	フクドジョウ科	ホトケドジョウ			EN	EN
ナマズ目	ナマズ科	ナマズ				注目
サケ目	アユ科	アユ				
	サケ科	サクラマス（ヤマメ）			NT	CR
ボラ目	ボラ科	ボラ				
カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ				
		グッピー				
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ			VU	CR
スズキ目	スズキ科	スズキ				
	サンフィッシュ科	ブルーギル				
		オオクチバス				
	ハゼ科	ボウズハゼ				NT
		ヌマチチブ				
		チチブ				
		シマヨシノボリ				
		ルリヨシノボリ				NT
		オオヨシノボリ				NT
		クロヨシノボリ				NT
		ゴクラクハゼ				NT
		トウヨシノボリ類				
		スミウキゴリ				NT
		ウキゴリ				
	タイワンドジョウ科	カムルチー				
9 目	15 科	40 種	0 種	0 種	6 種	14 種
			16 種			

注 1）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

注 2）ゲンゴロウブナは選定基準③の重要種に該当するが、県内では国内移入種であるため重要種から除外した。国内移入種の定義は以下のとおり。

・国内には分布するが、調査地域には自然分布しない種

(7) 底生生物

実施区域及び周辺地域の底生生物相は表 3.2-80 に、重要種は表 3.2-81 に示すとおりである。9 綱 23 目 76 科 177 種の種が確認されており、このうち重要種に該当する種は 47 種である。

なお、既存資料により確認された底生生物（全種）は、資料編に示した。

表 3.2-80　既存資料により確認された底生生物

綱名	目名	科数	種数
有棒状体綱	三岐腸目	1 科	2 種
	テムノケファーラ目	1 科	1 種
腹足綱	新生腹足目	4 科	6 種
	汎有肺目	3 科	6 種
二枚貝綱	イシガイ目	1 科	1 種
	マルスダレガイ目	2 科	3 種
ミミズ綱	オヨギミミズ目	1 科	1 種
	イトミミズ目	2 科	3 種
	厚環帯目	1 科	1 種
ヒル綱	吻無蛭目	1 科	2 種
クモ綱（蛛形綱）	ダニ目	1 科	1 種
軟甲綱	ヨコエビ目	2 科	2 種
	ワラジムシ目	2 科	2 種
	エビ目	5 科	12 種
昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	8 科	16 種
	トンボ目（蜻蛉目）	7 科	27 種
	カワゲラ目（セキ翅目）	1 科	2 種
	カメムシ目（半翅目）	5 科	13 種
	ヘビトンボ目	1 科	2 種
	トビケラ目（毛翅目）	7 科	9 種
	ハエ目（双翅目）	10 科	36 種
	コウチュウ目（鞘翅目）	9 科	28 種
被喉綱	ハネコケムシ目	1 科	1 種
合計： 9 綱 23 目 76 科 177 種			

表 3.2-81　既存資料により確認された底生生物の重要種

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
新生腹足目	タニシ科	マルタニシ			VU	
		オオタニシ			NT	
	エゾマメタニシ科	マメタニシ			CR	
汎有肺目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ			DD	
		モノアラガイ			NT	
	ヒラマキガイ科	カワコザラガイ			CR	
		ヒラマキガイモドキ			NT	
トンボ目（蜻蛉目）	イトトンボ科	キイトトンボ				EN
	カワトンボ科	ハグロトンボ				要注意
		ニホンカワトンボ				NT
	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ			NT	CR
		コシボソヤンマ				要注意
		カトリヤンマ				NT
		ミルンヤンマ				要注意
		サラサヤンマ				EN
	サナエトンボ科	ヤマサナエ				要注意
		ホンサナエ				VU
		コサナエ				EN
	エゾトンボ科	コヤマトンボ				NT
	トンボ科	コフキトンボ				要注意
カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	オオアメンボ				NT
		ババアメンボ			NT	EN
		ハネナシアメンボ				CR
	ミズムシ科（昆）	ミヤケミズムシ			NT	CR
	コオイムシ科	コオイムシ			NT	EN
ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	ヒトエグサガガンボ				DD
	アブ科	ウシアブ				DD
コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ				VU
		キボシケシゲンゴロウ			DD	EN
		クロゲンゴロウ			NT	CR
		マルガタゲンゴロウ		特二	VU	CR
		ウスイロシマゲンゴロウ				DD
		ケシゲンゴロウ			NT	CR
		ヒメケシゲンゴロウ			VU	EX
		ツブゲンゴロウ				EX
		ルイスツブゲンゴロウ			VU	EX
	ミズスマシ科	オオミズスマシ			NT	CR
		コミズスマシ			EN	VU
		ミズスマシ			VU	NT
	コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ			VU	EX
		カミヤコガシラミズムシ			EN	EX
		マダラコガシラミズムシ			VU	DD
	コツブゲンゴロウ科	コツブゲンゴロウ				VU
	ダルマガムシ科	クロコブセスジダルマガムシ				NT
	ガムシ科	タマガムシ				EN
		ルイスヒラタガムシ				DD
	ホタル科	ヘイケボタル				NT
6 目	22 科	47 種	0 種	1 種	23 種	40 種

注）重要種の選定基準は、表 3.2-71 を参照。

第 3 章　その他の状況

第 1 節　文化財

1. 指定文化財

実施区域及び周辺地域の指定文化財は、表 3.2-82(1)～(3)及び図 3.2-26 に示すとおりである。実施区域に最も近い文化財は、葉山町指定の天然記念物「木古庭滝不動尊常緑樹林及び境内樹林」である。

表 3.2-82(1)　指定文化財

No.	名称	指定	種別	所在地
1	木造　阿弥陀如来及び両脇侍像（運慶作）	国	有形文化財(彫刻)	横須賀市芦名 2 丁目 30-5
	木造　不動明王・毘沙門天立像（運慶作）	国	有形文化財(彫刻)	横須賀市芦名 2 丁目 30-5
	紙本著色板貼付釈迦三尊図附蓮池図板戸	横須賀市	有形文化財(絵画)	横須賀市芦名 2 丁目 30-5
2	スチームハンマー	国	有形文化財(歴史資料)	横須賀市東逸見町 1 丁目 1
	ＪＲ横須賀駅	横須賀市	有形文化財(建造物)	横須賀市東逸見町 1 丁目 1
3	三浦安針墓	国	記念物(史跡)	横須賀市西逸見町 3 丁目 57
4	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅰ	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅱ	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅲ	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅳ	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
	横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池東入口	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
	横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池西入口	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
	横須賀市上下水道局逸見浄水場ベンチュリーメーター室	国	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 2 丁目 10
5	髙橋家住宅	国	有形文化財(建造物)	横須賀市本町 2 丁目
6	西崎家住宅（船越町洋館付き住宅）主屋	国	有形文化財(建造物)	横須賀市船越町 3 丁目
7	長柄桜山古墳群	国	記念物(史跡)	葉山町長柄 691-5
8	イエズス孝女会修道院旧館（旧東伏見宮葉山別邸）	国	有形文化財(建造物)	葉山町堀内 1968
9	旧加地邸	国	有形文化財(建造物)	葉山町一色 1706
10	旧足立家別邸主屋	国	有形文化財(建造物)	葉山町堀内 2019
11	旧平野家住宅主屋	国	有形文化財(建造物)	葉山町堀内字牛ヶ谷 1834
12	天神島、笠島及び周辺水域	県	記念物（天然記念物及び名勝）	横須賀市佐島 3 丁目 1457-1～3、1458、1457-1 先、公有海面
13	はまおもと	県	記念物(天然記念物)	横須賀市佐島 3 丁目 1457
14	三島社の社叢林	県	記念物(天然記念物)	横須賀市武 1 丁目 2749-1 他
15	銅鐘（応永十年銘）	県	有形文化財(工芸)	逗子市沼間 2 丁目 12-15
	四脚門	横須賀市	有形文化財(建造物)	逗子市沼間 2 丁目 12-15
	木造 十一面観音菩薩坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	逗子市沼間 2 丁目 12-15

注）表中の番号は、図 3.2-26 に対応する。
資料:「指定文化財一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「逗子市内所在の重要文化財指定物件」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「指定・登録文化財」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-82(2)　指定文化財

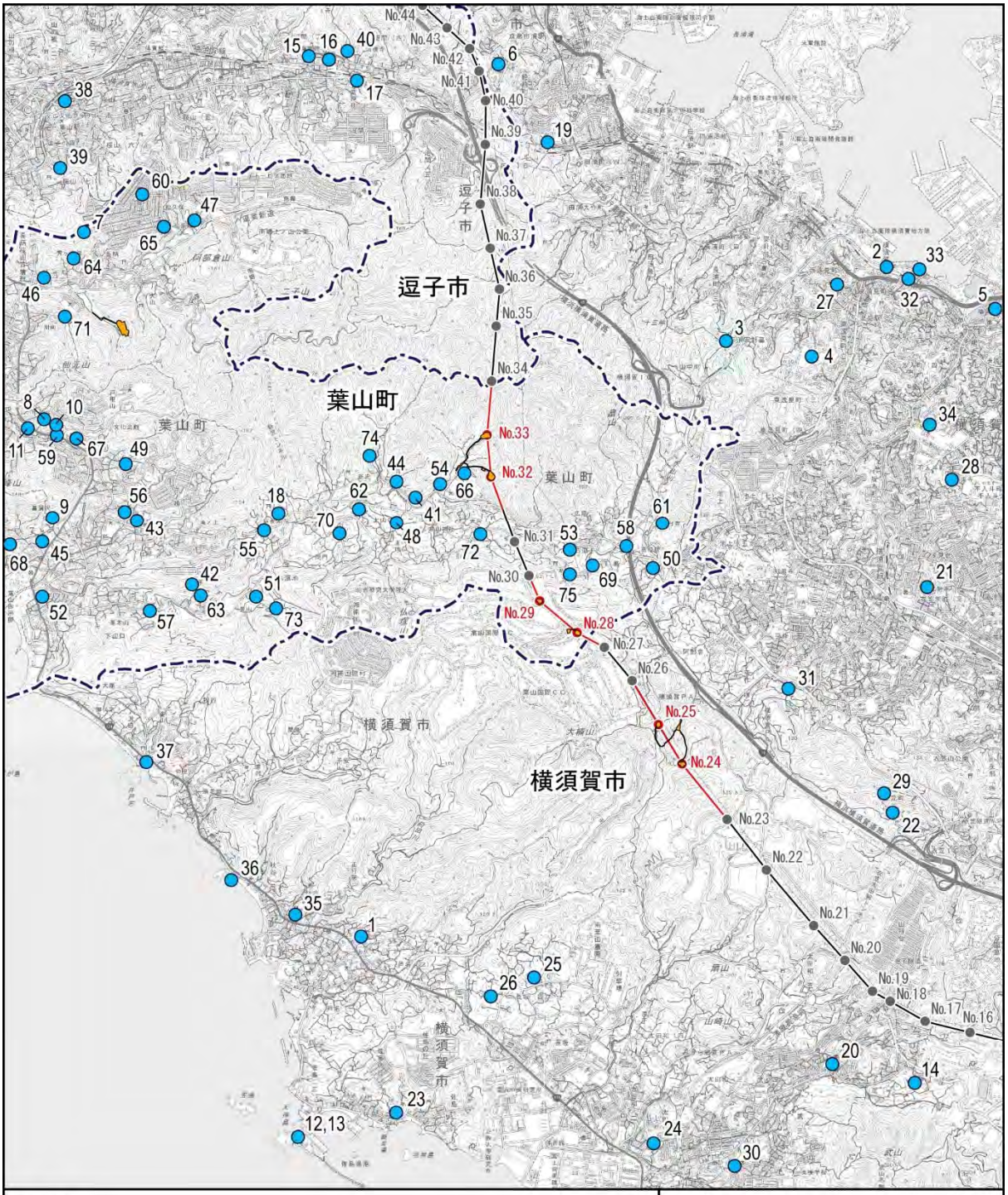
No.	名称	指定	種別	所在地
16	木造 阿弥陀如来立像	県	有形文化財(彫刻)	逗子市沼間 2 丁目 20-17
17	五霊神社の大イチョウと その周辺の樹木	県	記念物(天然記念物)	逗子市沼間 3 丁目 10-34
18	新善光寺四脚門	県	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 1368
	新善光寺本堂 附) 厨子 1 基	県	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 1368
	室内庚申塔	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町上山口 1368
	阿弥陀三尊立像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町上山口 1368
	新善光寺常緑樹林	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町上山口 1368
19	盛福寺山門	横須賀市	有形文化財(建造物)	横須賀市田浦町 5 丁目 51
20	木造 地蔵菩薩半跏像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市武 2 丁目 12-13
21	木造 三宝本尊像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市衣笠栄町 3-77
	木造 石渡則次夫妻坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市衣笠栄町 3-77
	木造 伝日栄上人坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市衣笠栄町 3-77
	木造 伝日静上人坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市衣笠栄町 3-77
22	木造 阿弥陀三尊像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市衣笠町 29-1
	木造 伝毘沙門天立像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市衣笠町 29-1
23	木造 十一面観音菩薩坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市佐島 1 丁目 530
24	木造 日蓮上人坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市太田和 1 丁目 12 - 1
25	木造 日蓮上人坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市長坂 4 丁目 18-7
26	木造 聖観音菩薩坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市長坂 4 丁目 21-18
27	銅造観音菩薩立像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	横須賀市西逸見町 1 丁目 11
28	梵鐘	横須賀市	有形文化財(工芸品)	横須賀市不入斗町 3 丁目 38-3
29	衣笠城跡	横須賀市	記念物(史跡)	横須賀市衣笠町 1161 他
30	一騎塚	横須賀市	記念物民俗有形 (史跡及び有形民俗)	一騎塚
31	三浦枕状溶岩	横須賀市	記念物(天然記念物)	横須賀市平作 6 丁目(衣笠-田浦線高架下)
32	安針塚への道標駅	横須賀市	有形文化財(建造物)	横須賀市西逸見町 3 丁目 80、西逸見町 1 丁目 36、東逸見町 1 丁目 1
33	逸見波止場衛門	横須賀市	有形文化財(建造物)	横須賀市汐入町 1 丁目 1
34	旧横須賀重砲兵連隊営門	横須賀市	有形文化財(建造物)	横須賀市坂本町 1 丁目 19
35	若命家長屋門	横須賀市	有形文化財(建造物)	横須賀市秋谷 2 丁目 14-11
36	立石	横須賀市	記念物(名勝)	横須賀市秋谷 3 丁目 5
37	子産石	横須賀市	民俗文化財(有形)	横須賀市秋谷 5290
38	銅造 阿弥陀三尊像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	逗子市逗子 3 丁目 1-17
	絹本著色 仏涅槃図	横須賀市	有形文化財(絵画)	逗子市逗子 3 丁目 1-17
39	木造 十王及び奪衣婆坐像	横須賀市	有形文化財(彫刻)	逗子市桜山 7 丁目 7-1
40	先祖やぐら横穴	横須賀市	記念物(史跡)	逗子市沼間 2 丁目 23-24
41	石造五輪塔 (猪俣・岡部両将の墓)	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 407
42	石造五輪塔 (平兼盛墓)	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町下山口 595
43	一色前田の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町一色 1028-2
44	栗坪の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 469

注) 表中の番号は、図 3.2-26 に対応する。
資料:「指定文化財一覧」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「逗子市内所在の重要文化財指定物件」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「指定・登録文化財」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-82(3)　指定文化財

No.	名称	指定	種別	所在地
45	玉蔵院の庚申塔（A）	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町一色 2152
	玉蔵院の庚申塔（B）	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町一色 2152
	木造大日如来坐像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町一色 2152
	木造不動明王立像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町一色 2152
	木造虚空蔵菩薩坐像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町一色 2152
	玉蔵院のエノキ・イチョウ	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町一色 2152
46	笠原商店前の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町長柄 482
47	長柄上の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町長柄 1536
48	正吟の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 2356
49	実教寺の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町一色 1355
	「古将の墓」並びに「副葬品」	葉山町	記念物(史跡)	葉山町一色 1355
50	高祖坂の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町木古庭 1514
51	星山の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町下山口 160
52	神明社の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町下山口 1505
53	大沢の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町木古庭 761
54	寺前の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 156-6
55	唐木作の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町上山口 139
56	夜泣石脇の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町一色 1193
57	茅木山の庚申塔	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町下山口 991-1
58	木古庭馬頭観音菩薩座像(道標)	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町木古庭 604
59	堀内牛ヶ谷地蔵菩薩塔（道標）	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町堀内 1808
60	長柄馬頭観音塔（道標）	葉山町	有形文化財(建造物)	葉山町長柄 1461-154
61	木造大黒天	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町木古庭 1662
	古絵図	葉山町	有形文化財(古文書)	葉山町木古庭 1662
62	木造十一面観音菩薩立像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町上山口 2165
63	室内庚申塔	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町下山口 387
64	木造不動明王及び二童子像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町長柄 615
	地蔵十王図	葉山町	有形文化財(絵画)	葉山町長柄 615
65	地蔵菩薩立像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町長柄 1439
66	阿弥陀三尊立像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町上山口 93(西光寺)
	地蔵菩薩立像	葉山町	有形文化財(彫刻)	葉山町上山口 93(西光寺)
67	葉山小学校の青い目の人形メリー	葉山町	有形文化財(歴史資料)	葉山町堀内 2050-1
68	大正天皇崩御・昭和天皇 皇位継承の地	葉山町	記念物(史跡)	葉山町一色 2123-1
69	木古庭永嶋家のカヤノキ	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町木古庭 1301
70	シダレザクラ	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町上山口 1870
71	十二天のビャクシン	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町長柄
72	永津家のカヤノキ	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町上山口 3208
73	ウメの巨木	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町下山口 78
74	モミジ	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町上山口 768
75	木古庭滝不動尊常緑樹林及び 境内樹林	葉山町	記念物(天然記念物)	葉山町木古庭 925

注）表中の番号は、図 3.2-26 に対応する。
資料:「指定文化財一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「逗子市内所在の重要文化財指定物件」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「指定・登録文化財」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）



注）図中の番号は、表 3.2-82 に対応する。
資料：「指定文化財一覧」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「逗子市内所在の重要文化財指定物件」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「指定・登録文化財」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-26　指定文化財

2. 埋蔵文化財

実施区域及び周辺地域の周知の埋蔵文化財包蔵地は、表 3.2-83(1)～(5)及び図 3.2-27 に示すとおりである。240 箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、このうちNo.H-1「馬の背山遺跡」(葉山町木古庭字大沢)は実施区域の鉄塔に隣接している。

なお、表中の番号は各市町にて付番された遺跡番号の重複をさけるため、横須賀市には「Y」、逗子市には「Z」、葉山町には「H」を付した。

表 3.2-83(1)　周知の埋蔵文化財包蔵地

No.	名　称	種　別	所在地	時　代
Y-2	狢遺跡	散布地	横須賀市船越町 7	縄文
Y-5	榎台遺跡	散布地	横須賀市長浦町 2､吉倉町 1	縄文
Y-39	ラッパ山遺跡	散布地	横須賀市不入斗 1 丁目	旧石器、縄文(早、中)、弥生(後)
Y-40	国立病院裏遺跡	散布地	横須賀市不入斗 4-25	縄文(中)
Y-41	大六天社裏遺跡	散布地	横須賀市坂本町 2-27	縄文(中)
Y-42	西来寺遺跡	散布地	横須賀市不入斗町 3-31	縄文(早、中)、弥生、古墳、奈良、平安
Y-43	坂本横穴	横穴墓	横須賀市坂本町 2-13	古墳(後)
Y-44	枇杷山遺跡	散布地	横須賀市汐見台 1-35	弥生(後)
Y-45	小矢部窯跡	土師器窯跡	横須賀市小矢部 2	平安
Y-53	衣笠城跡遺跡	散布地	衣笠町 1161	縄文(早)、弥生、平安
Y-54	大平遺跡	散布地	横須賀市長坂 3 丁目	縄文(早)､弥生､中世
Y-56	芝下遺跡	集落跡・散布地	横須賀市荻野 230､長坂 777	縄文(早、前、後)、弥生(後)、古墳
Y-57	松越遺跡	散布地	横須賀市佐島 1	縄文
Y-63	子産石遺跡	散布地		弥生 (後期)、古墳 (前期)
Y-68	萩ノ台Ｃ遺跡	散布地	横須賀市佐島 3	縄文、奈良、平安
Y-69	佐島横穴・佐島やぐら群	横穴・やぐら	横須賀市佐島 3	古墳・中世
Y-70	乗越遺跡	瓦窯跡、横穴墓	横須賀市秋谷 1	古墳、奈良
Y-78	杉本遺跡	散布地	横須賀市秋谷 3143	縄文(早)､弥生(後)
Y-79	けえね台遺跡	散布地	横須賀市望洋台 26	弥生(後)
Y-80	大明寺裏遺跡	散布地	汐見台 1-9、衣笠栄町 3-78	縄文(早)、弥生(後)、奈良、平安
Y-83	坂の台経塚後	経塚	衣笠 1161－1	平安
Y-88	西谷戸やぐら	やぐら	横須賀市佐島 3	中世
Y-89	衣笠城跡	城館跡	横須賀市衣笠町 1161	平安、中世
Y-94	芦名城跡	城館跡	横須賀市芦名 1	中世
Y-101	大山田遺跡	散布地	横須賀市田浦町 4-87	奈良、平安
Y-108	アラク遺跡	散布地	横須賀市田浦大作町 25、田浦泉町 66	縄文(前､中)､古墳
Y-110	十三峠遺跡	散布地	横須賀市山中町 132	縄文(前)、奈良、平安
Y-111	田の浦浜やぐら群	やぐら	横須賀市長浦町 1	中世
Y-112	安針塚遺跡	散布地	横須賀市西逸見町 3-54	縄文(前)、中世
Y-118	堂山遺跡	散布地	横須賀市池上 5-4498	旧石器、縄文(早、前)、古墳
Y-119	平作城跡	城館跡	横須賀市阿部倉町 1221	中世
Y-121	石井遺跡	集落跡、散布地	横須賀市平作 2 丁目	縄文(中)、古墳(前)、奈良、中世
Y-122	大畑遺跡	散布地	横須賀市衣笠町	奈良、平安
Y-123	善応寺遺跡	散布地	横須賀市太田和 5-280	中世
Y-124	前田遺跡	集落跡	横須賀市秋谷 1､芦名 1	縄文(早)､奈良、平安
Y-150	西ノ浦谷北遺跡	散布地	横須賀市長浦町 5	奈良、平安
Y-158	峰の畑遺跡	散布地	横須賀市武 3-3505	縄文､中世
Y-194	秋谷城山遺跡	散布地	横須賀市秋谷 1	縄文(早)､弥生､平安

資料：「よこすかわが街ガイドオープンデータ」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「埋蔵文化財」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「葉山町内埋蔵文化財包蔵地一覧」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

表 3.2-83(2)　周知の埋蔵文化財包蔵地

No.	名　称	種　別	所在地	時　代
Y-195	御館遺跡	散布地	横須賀市芦名 1	奈良、平安
Y-196	滝遺跡	散布地	横須賀市芦名 2	弥生､奈良、平安
Y-199	亀割やぐら	やぐら	横須賀市衣笠町	中世
Y-200	坂口やぐら	やぐら	横須賀市衣笠町 708	中世
Y-203	住吉遺跡	集落跡	横須賀市衣笠町 74	縄文(早)、弥生(後)、平安、中世
Y-217	西ノ浦谷南遺跡	集落跡	横須賀市長浦町 5	縄文、奈良、平安
Y-218	浜遺跡	貝塚･祭祀	横須賀市芦名 1	弥生、奈良、平安、中世
Y-219	染谷北遺跡	散布地	横須賀市芦名 1	弥生
Y-220	染谷遺跡	散布地	横須賀市芦名 1	奈良、平安
Y-221	萩ノ台Ａ遺跡	散布地	横須賀市佐島 3	縄文、弥生、奈良、平安
Y-222	水尻遺跡	散布地	横須賀市佐島 3	縄文、奈良、平安
Y-223	萩ノ台Ｄ遺跡	散布地	横須賀市佐島 3	縄文、奈良、平安
Y-224	御浦崎横穴群	横穴墓	横須賀市佐島 3	古墳
Y-225	熊野神社やぐら	横穴墓	横須賀市佐島 2	古墳、中世
Y-226	芦名１丁目無名塚	塚	横須賀市芦名 1	
Y-227	唐池遺跡	散布地、集落跡	横須賀市芦名 1 丁目、佐島の丘 1 丁目	旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安
Y-228	一本松遺跡	集落跡、散布地	横須賀市佐島の丘 1 丁目 786-2､2 丁目 1010-1 ほか	旧石器、縄文、奈良、平安、中世
Y-230	高原遺跡	集落跡	横須賀市佐島の丘 1 丁目	縄文、弥生､奈良、平安
Y-231	上ノ山Ａ遺跡	散布地、集落跡	横須賀市佐島の丘 2	縄文、弥生､奈良、平安、中世
Y-232	観音山やぐら	やぐら	佐島 1	中世
Y-233	観音山横穴群	横穴墓	佐島 1 丁目	古墳
Y-234	浜横穴	横穴墓	佐島 2	古墳
Y-235	深田遺跡	集落跡	横須賀市佐島 1 丁目､佐島の丘 1 丁目	縄文～中世
Y-236	長坂やぐら群	やぐら	横須賀市佐島 3	中世、南北朝～室町時代末期
Y-237	松越北遺跡	散布地	横須賀市佐島 1	縄文､奈良、平安
Y-238	松越南遺跡	散布地	横須賀市佐島 1	奈良、平安
Y-239	日谷枝横穴群	横穴墓	横須賀市佐島 354	古墳
Y-240	林三叉路遺跡	散布地	横須賀市太田和 1-1603	奈良、平安
Y-241	溝尾遺跡	集落跡	横須賀市太田和 1-1517	縄文 (早･前)､弥生(後)、古墳(前)､中世
Y-242	太田和城跡	城館跡	横須賀市太田和	中世
Y-264	田の浦遺跡		横須賀市長浦町 5	縄文
Y-265	長善寺やぐら群	やぐら	横須賀市田浦町 2	中世
Y-270	台ノ田遺跡	散布地	横須賀市田浦泉町､長浦町 3･4	縄文、弥生、古墳
Y-271	山中遺跡	散布地	横須賀市山中町 11	古墳
Y-273	本住坊跡	寺院跡・墳墓	横須賀市阿部倉町	中世～近世
Y-276	不入斗横穴群	横穴墓	横須賀市不入斗町 4 丁目	古墳(後)
Y-278	妙蔵寺遺跡	墳墓、墓地	横須賀市池上 4-4495	中世
Y-279	横須賀市№279	散布地	横須賀市池上 4 丁目	中世
Y-280	御嶽神社裏遺跡	散布地	横須賀市佐野町 3 丁目	縄文(中)、弥生(後)
Y-282	舞台遺跡	散布地	横須賀市衣笠栄町 2-56	旧石器
Y-285	坂本中学校遺跡	散布地	横須賀市坂本町 1-19	縄文(早、中)
Y-289	横須賀市№289	散布地	横須賀市衣笠栄町 4 丁目	古墳
Y-290	大明寺遺跡	散布地	横須賀市衣笠栄町 3-77	奈良、平安
Y-291	横須賀市№291	散布地	横須賀市汐見台 3-32	
Y-308	久留和遺跡	散布地	横須賀市秋谷 4407	奈良、平安
Y-310	阿部倉清水遺跡	散布地	横須賀市阿部倉町 156	縄文
Y-310	阿部倉清水遺跡	散布地	横須賀市阿部倉町 156	縄文
Y-311	陣ヶ原遺跡	散布地	横須賀市平作 3-1992	奈良、平安

資料：「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「埋蔵文化財」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「葉山町内埋蔵文化財包蔵地一覧」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-83(3)　周知の埋蔵文化財包蔵地

No.	名　称	種　別	所在地	時　代
Y-312	伝馬場遺跡	散布地	横須賀市平作 7 丁目	平安
Y-313	駿河坂遺跡	散布地	横須賀市平作 3-1995, 4	奈良、平安
Y-314	竹林供養塚	祭祀跡	横須賀市平作 1-3402	－
Y-315	半縄遺跡	散布地	横須賀市小矢部 2 丁目	奈良、平安
Y-340	淡島神社遺跡	散布地	横須賀市芦名 6	中世
Y-341	淡島神社やぐら群	やぐら	芦名 10	中世
Y-342	十二所神社遺跡	集落跡	横須賀市芦名 46	中世
Y-343	中尾遺跡	散布地	横須賀市大矢部 5	中世
Y-347	西福院跡	寺院跡	横須賀市武 2	中世、近世
Y-363	萩ノ台Ｂ遺跡	散布地	横須賀市佐島 1314	縄文(早)、奈良、平安、中世
Y-364	福本寺西遺跡	散布地	横須賀市佐島 705	奈良、平安
Y-365	芝遺跡	墳墓	横須賀市佐島 604	中世
Y-366	上ノ山Ｂ遺跡	散布地	横須賀市佐島 1020	奈良、平安
Y-367	日谷枝遺跡	散布地	横須賀市佐島 360	奈良、平安
Y-368	岩崎山遺跡	散布地	横須賀市御幸浜	縄文(早)
Y-369	鎮守面遺跡	散布地	横須賀市佐島 210	弥生､奈良、平安
Y-380	溝尾やぐら	やぐら	横須賀市太田和 1-14	中世
Y-391	黒岩鼻洞穴	海蝕洞穴	横須賀市箱崎町	縄文、古墳
Y-398	旧国立病院裏横穴	横穴墓	不入斗町 4	古墳(後)、中世
Y-400	御嶽神社遺跡	散布地	横須賀市不入斗町 3-4	古墳(前)
Y-403	郷山遺跡	城館跡	横須賀市平作 2-30	中世
Y-406	福泉寺遺跡	散布地	横須賀市平作 7-2959	奈良、平安
Y-407	峯海道遺跡	やぐら	横須賀市長坂 3-38	中世
Y-409	城ヶ峰遺跡	散布地	横須賀市古矢部 4 丁目ほか	縄文(中)、弥生、中世
Y-411	淡島神社西遺跡	横穴墓・やぐら	秋谷､芦名	古墳(後)､中世、近世
Y-413	深田横穴	横穴墓	横須賀市佐島 1001	古墳～奈良
Y-414	手取遺跡	塚・散布地	横須賀市太田和 4-2216	中世
Y-420	田浦砲台山遺跡	散布地	横須賀市田浦町 4	縄文(早)
Y-422	西逸見１丁目やぐら	やぐら	横須賀市西逸見町 1	
Y-429	海老田遺跡	散布地	横須賀市秋谷 2	古墳、奈良、平安
Y-432	秋谷無名塚 B	塚	横須賀市秋谷	
Y-433	日谷枝北遺跡	散布地	横須賀市佐島 1 丁目	奈良、平安
Y-434	日谷枝南遺跡	散布地	横須賀市佐島	奈良、平安
Y-437	名立遺跡	散布地	横須賀市衣笠町	縄文(前)
Y-438	深山遺跡	散布地	横須賀市衣笠町	縄文
Y-439	日陰山遺跡	散布地	長坂町	
Y-440	大光寺遺跡	散布地	横須賀市平作 1-26	縄文(中)
Y-441	栄地谷遺跡		横須賀市平作 5 丁目	奈良、平安
Y-442	衣笠神社北遺跡	散布地	横須賀市小矢部 4	奈良、平安
Y-443	尾崎山経塚	経塚	衣笠町	中世～近世
Y-444	旗立岩やぐら	やぐら	横須賀市衣笠町 760	中世
Y-445	童子谷遺跡	散布地	横須賀市大矢部 1 丁目	奈良、平安
Y-446	姓名塚	塚	衣笠町字畑中	中世
Y-447	慈願寺やぐら	やぐら	横須賀市衣笠町字畑中	中世
Y-455	唐池西遺跡	包含地	横須賀市佐島	奈良、平安、中世
Y-456	高原北遺跡	集落跡	横須賀市佐島	旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良
Y-460	長坂宮ノ前やぐら群	やぐら	横須賀市長坂 3	中世
Y-472	狢湾横穴墓群	横穴墓、やぐら	横須賀市浦郷 1	古墳、中世
Y-474	大楠中学校内横穴墓	横穴墓	横須賀市芦名 1	古墳
Z-3	山野根横穴群 Ⅰ群	横穴墓	逗子市山の根 1 丁目	古墳（末）
Z-4	山野根横穴群 Ⅱ群	横穴墓	逗子市山の根 2 丁目	古墳（末）
Z-5	山野根横穴群 Ⅲ群	横穴墓	逗子市山の根 2 丁目	古墳（末）

資料：「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「埋蔵文化財」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「葉山町内埋蔵文化財包蔵地一覧」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

表 3.2-83(4)　周知の埋蔵文化財包蔵地

No.	名　称	種　別	所在地	時　代
Z-6	山野根横穴群 Ⅳ群	横穴墓	逗子市山の根２丁目	古墳（末）
Z-7	山野根横穴群 Ⅴ群	横穴墓	逗子市山の根３丁目	古墳（末）
Z-8	山野根横穴群 Ⅵ群	横穴墓	逗子市山の根３丁目	古墳（末）
Z-11	沼間堀内横穴（先祖やぐら）	横穴墓、やぐら	逗子市沼間２丁目	古墳・中世
Z-18	持田遺跡	集落跡	逗子市桜山５丁目	弥生・古墳・奈良(土師(古・新))
Z-22		遺物散布地	逗子市桜山８丁目	縄文(中期)・弥生(後期)
Z-23	亀ケ岡八幡宮周辺遺跡	遺物散布地	逗子市逗子５丁目	古墳
Z-24		遺物散布地	逗子市山の根２丁目	古墳
Z-25	才戸池西側遺跡	遺物散布地	逗子市桜山６丁目	縄文
Z-26	才戸谷遺跡	遺物散布地	逗子市桜山５丁目	古墳（前期）
Z-27	内藤屋敷跡	遺物散布地	逗子市桜山５丁目	弥生(後期)・古墳(前期)(土師(古))
Z-29	地蔵山矢部邸内塚	塚	逗子市桜山５丁目	中世
Z-30	番合谷遺跡	遺物散布地	逗子市桜山５丁目	古墳（前期）
Z-31	台山稲荷下遺跡	遺物散布地	逗子市沼間１丁目	縄文・弥生・奈良・平安
Z-32		遺物散布地	逗子市沼間１丁目	古墳
Z-33	沼間台遺跡	遺物散布地（集落跡）	逗子市沼間１丁目	弥生(中期・後期)・古墳・奈良(土師(古・新))
Z-34	沼間南台遺跡	遺物散布地	逗子市沼間１丁目	弥生
Z-35	沼間台山遺跡	遺物散布地	沼間１丁目	縄文
Z-36	五霊神社南台地遺跡	遺物散布地	逗子市沼間３丁目	古墳（前期）・奈良・平安・中世（鎌倉末期から室町）
Z-37	沼間ポンプ場裏台地遺跡	遺物散布地	逗子市沼間３丁目	縄文(早期)・古墳(前期)・平安(中・後期)
Z-38	小池入・木之間入遺跡	遺物散布地	逗子市沼間５丁目	縄文（早期）
Z-44	池子２丁目遺跡	遺物散布地	逗子市池子２丁目	弥生（後期）・古墳（前期）
Z-45	山野根熊野神社横穴群	横穴墓	逗子市山の根２丁目	古墳（末）
Z-46		遺物散布地	逗子市沼間２丁目	古墳（末）
Z-47	山野根仲の谷横穴	横穴墓	逗子市山の根２丁目	古墳（末）
Z-49	堀ノ内城郭遺構	城址	逗子市沼間２丁目	中世
Z-56		やぐら	逗子市久木２丁目	中世（鎌倉）
Z-57	大山遺跡	遺物散布地	逗子市桜山字大山	縄文
Z-58	沼間やぐら群	やぐら・地下式墳墓	逗子市沼間２丁目	古墳（前期）・中世
Z-59		遺物散布地	逗子市桜山７丁目	古墳
Z-61	堂前遺跡	遺物散布地	逗子市桜山７丁目･逗子４丁目	古墳・奈良・平安(土（新))
Z-65	逗子経塚	経塚	逗子市逗子４丁目	中世
Z-66	牛王松横穴群	横穴墓	逗子市桜山４丁目	古墳（末）・中世（室町）
Z-69	桜山小古瀬遺跡	横穴墓	逗子市桜山６丁目	古墳（末）
Z-72	菅ケ谷台地遺跡	集落跡	逗子市沼間３丁目	縄文(早期・前期)弥生・古墳(後期)・奈良(後期)・平安(後期)・中世
Z-73	神武寺城郭遺構	城跡	逗子市沼間２丁目	中世
Z-83		やぐら	逗子市山３丁目	中世
Z-84	烏川遺跡	遺物散布地	逗子市桜山１丁目	奈良・平安
Z-85		遺物散布地	逗子市桜山２丁目	
Z-86		遺物散布地	逗子市桜山３丁目	

資料：「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和７年７月閲覧）
「埋蔵文化財」（逗子市 HP、令和７年７月閲覧）
「葉山町内埋蔵文化財包蔵地一覧」（葉山町 HP、令和７年７月閲覧）
注）：名称が空欄である箇所は、名称が定められていないことを示す。

表 3.2-83(5)　周知の埋蔵文化財包蔵地

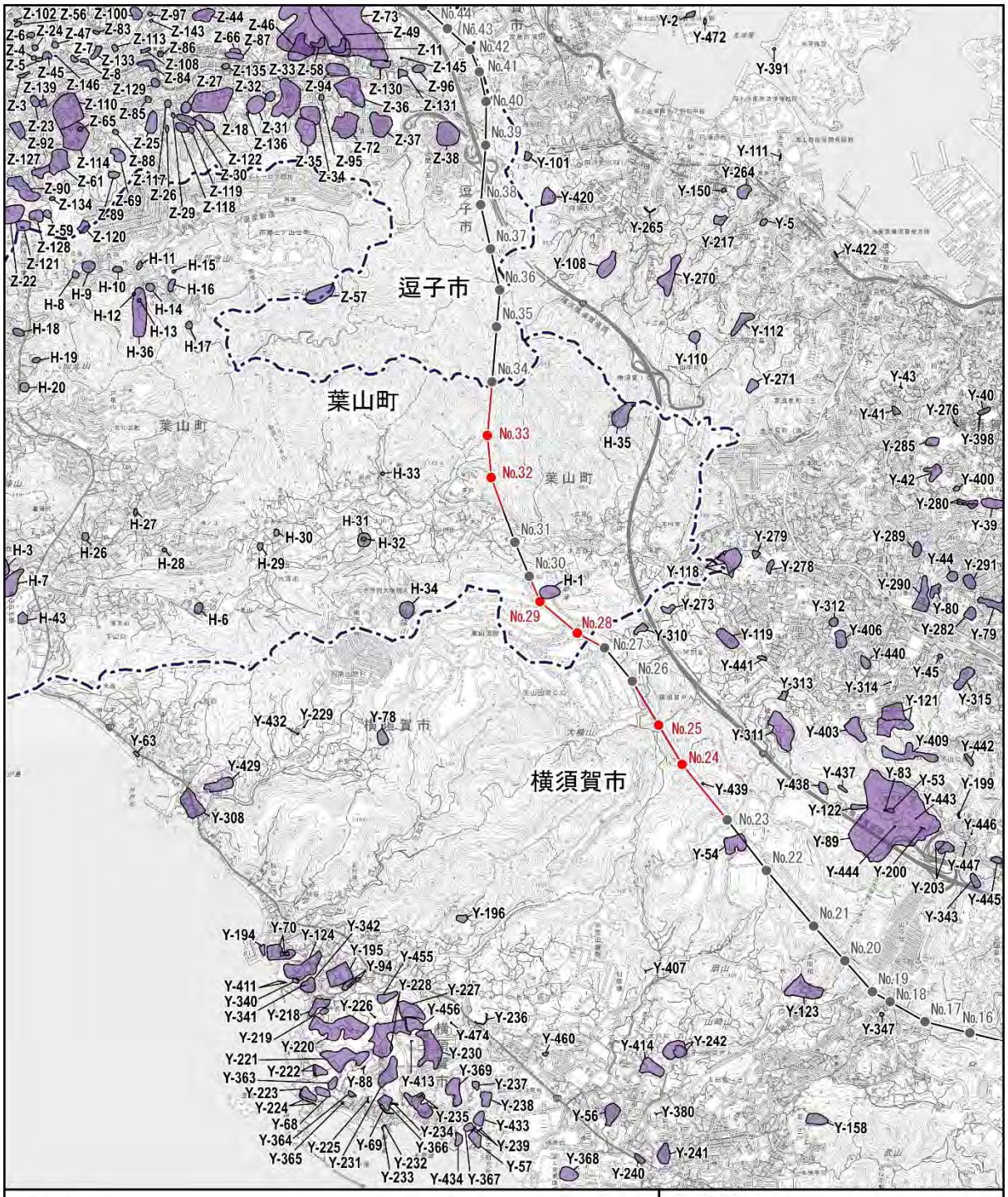
No.	名　称	種　別	所在地	時　代
Z-87		遺物散布地	逗子市桜山 4 丁目	
Z-88		遺物散布地	逗子市桜山 6 丁目	
Z-89		遺物散布地	逗子市桜山 6 丁目	
Z-90	桜山うつき野遺跡	遺物散布地	逗子市桜山 8 丁目	縄文・弥生・古墳(前期)・奈良・平安・中世
Z-92	逗子の大墓	遺物散布地	逗子市逗子 5 丁目	古墳（後期）・中世・近世
Z-94	前田遺跡	遺物散布地	逗子市沼間 2 丁目	奈良・平安・中世
Z-95		遺物散布地	逗子市沼間 3 丁目	
Z-96		遺物散布地	逗子市沼間 4 丁目	
Z-97		遺物散布地	逗子市池子 1 丁目	
Z-100	池子桟敷戸遺跡	遺物散布地、集落跡	逗子市池子字さじき戸	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世
Z-102		遺物散布地	逗子市久木 2 丁目	
Z-108	柳原遺跡		逗子市池子 1 丁目	中世（近世以前）
Z-110	延命寺遺跡	寺院跡	逗子市逗子 3 丁目･4 丁目	奈良・平安・中世・近世
Z-113	松本谷戸遺跡	遺物包含地	逗子市山の根 3 丁目	古墳・奈良・平安・中世
Z-114	蟹田遺跡	集落跡、遺物散布地	逗子市逗子 4 丁目	古墳・奈良・平安
Z-117	地蔵山遺跡	遺物散布地、屋敷跡	逗子市桜山 5 丁目	弥生・古墳・中世他
Z-118		集落跡	逗子市桜山 5 丁目	弥生（後期）・古墳（前期）・中世
Z-119	地蔵山熊野神社遺跡	遺物散布地	逗子市桜山 5 丁目	弥生（後期）・中世（後期）・近世
Z-120	長柄・桜山古墳群第 1 号墳	古墳	逗子市桜山 7 丁目	古墳（前期）
Z-121	長柄・桜山古墳群第 2 号墳	古墳	逗子市桜山 8 丁目	古墳（前期）
Z-122	三枚畑遺跡		逗子市桜山 5 丁目	古墳（前期）・中世・近世
Z-127	柳作遺跡	遺物散布地	逗子市桜山 7 丁目	奈良・平安・中世
Z-128		遺物散布地	逗子市桜山 7 丁目	古墳（前期）
Z-129	塚田遺跡	遺物散布地	逗子市桜山 1 丁目	奈良・平安
Z-130	沼間新屋敷遺跡	遺物散布地	逗子市沼間 4 丁目	古墳
Z-131	沼間八反目遺跡	遺物散布地	逗子市沼間 6 丁目	奈良・平安
Z-133	山の根白山社遺跡	集落跡	逗子市山の根 3 丁目	古墳・奈良・平安・中世
Z-134	井戸ヶ沢遺跡	遺物散布地	逗子市桜山 7 丁目	縄文（前期）・古墳（前期）
Z-135		遺物散布地	逗子市桜山 4 丁目	古代
Z-136		やぐら	逗子市桜山 5 丁目	中世
Z-139		遺物散布地	逗子市逗子 5 丁目	中世
Z-143		その他の遺跡	逗子市池子 1 丁目	奈良・平安・中世
Z-145	沼間上ノ谷前遺跡	遺物散布地	逗子市沼間 4 丁目 1256 番付近	中世
Z-146	山野根仲の谷南横穴群	横穴墓	逗子市山の根 2 丁目付近	古墳
H-1	馬の背山遺跡	遺物散布地	葉山町木古庭字大沢	縄文
H-3	一色公園内遺跡	遺物散布地	葉山町一色字打鯖	弥生、古墳、奈良、平安
H-6	平遺跡	遺物散布地	葉山町下山口字平	中世
H-7	御用邸内遺跡	遺物散布地、古墳、集落跡	葉山町一色字打鯖	古墳、奈良、平安、近世
H-8		遺物散布地	葉山町長柄字芳ヶ久保	古墳、奈良、平安
H-9		遺物散布地	葉山町長柄字芳ヶ久保	古墳、奈良、平安
H-10		遺物散布地	葉山町長柄字芳ヶ久保	古墳、奈良、平安
H-11		遺物散布地	葉山町長柄字松久保	古墳、奈良、平安

資料：「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「埋蔵文化財」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「葉山町内埋蔵文化財包蔵地一覧」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
注）：名称が空欄である箇所は、名称が定められていないことを示す。

表 3.2-83(6)　周知の埋蔵文化財包蔵地

No.	名　称	種　別	所在地	時　代
H-12	福厳寺やぐら	やぐら	葉山町長柄字大山	中世
H-13	義景大明神やぐら、長柄館址	城館址、やぐら	葉山町長柄字大山	中世
H-14		遺物散布地	葉山町長柄字大山	古墳、奈良、平安
H-15	長柄長徳寺やぐら	やぐら	葉山町長柄字大山	中世
H-16		遺物散布地	葉山町長柄字大山	古墳、奈良、平安
H-17		遺物散布地	葉山町長柄字大山	
H-18		遺物散布地	葉山町長柄字下小路	古墳、奈良、平安
H-19		遺物散布地	葉山町堀内字牛ヶ谷	古墳、奈良、平安
H-20		遺物散布地	葉山町堀内字牛ヶ谷	古墳、奈良、平安
H-26	山王塚	塚	葉山町一色字前田	近世
H-27		遺物散布地	葉山町一色字前田	古墳、奈良、平安
H-28	長塚	塚	葉山町一色字日影	近世
H-29		遺物散布地	葉山町上山口字唐木作	古墳、奈良、平安
H-30		遺物散布地	葉山町上山口字唐木作	古墳、奈良、平安
H-31	間門遺跡	遺物散布地、集落跡	葉山町上山口字正吟	古墳、奈良、平安
H-32	稲荷塚	塚	葉山町上山口字正吟	近世
H-33		塚	葉山町上山口字栗坪	近世
H-34	正吟遺跡	遺物散布地	葉山町上山口字正吟	縄文
H-35	畠山城址	城館址	葉山町木古庭字大沢谷	中世
H-36	長江館址	遺物散布地、城館址	葉山町長柄字大山	中世
H-43		遺物散布地	葉山町下山口字白石	近世
H-43		遺物散布地	葉山町下山口字白石	近世

資料：「よこすかわが街ガイドオープンデータ」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「埋蔵文化財」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「葉山町内埋蔵文化財包蔵地一覧」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
注）：名称が空欄である箇所は、名称が定められていないことを示す。



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 周知の埋蔵文化財包蔵地(Y-2～474, Z-3～146, H-1～43)

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注 1)図中の番号は、表 3.2-83 に対応する。
注 2)図中の番号は通し番号ではない。
注 3)資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料:「よこすかわが街ガイド(埋蔵文化財)」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「逗子市遺跡分布地図」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「葉山町埋蔵文化財包蔵地一覧」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

図 3.2-27　周知の埋蔵文化財包蔵地

第 2 節　レクリエーション資源

実施区域及び周辺地域のレクリエーション資源は、表 3.2-84 及び図 3.2-28 に示すとおりである。大楠山ハイキングコースの塚山・阿武倉コースと衣笠コースが実施区域の至近を通過している。

「令和 6 年神奈川県入込観光客調査報告書」（2024 年、神奈川県観光振興対策協議会）によると、実施区域及び周辺地域における主要観光施設・主要観光地点・主要観光行事別の令和 6 年の観光客数は表 3.2-85 に示すとおりである。

表 3.2-84(1)　レクリエーション資源

No.	名　　称	住　　所
1	田浦梅の里	横須賀市田浦泉町 92
2	十三峠	横須賀市田浦町 2 丁目
3	塚山公園(安針塚)	横須賀市西逸見町 3-57
4	ヴェルニー公園	横須賀市汐入町 1-1
5	不入斗公園	横須賀市不入斗町 1-2
6	しょうぶ園	横須賀市阿部倉 18-1
7	衣笠公園	横須賀市平作 1-2712-1
8	衣笠山公園	横須賀市小矢部 4-922
9	太田和つつじの丘	横須賀市太田和 5-2638
10	武山(武山不動)	横須賀市武 1 丁目
11	武山ハイキングコース	横須賀市武
12	西公園	横須賀市武 3-458-1
13	天神島臨海自然教育園	横須賀市佐島 3-7-3
14	秋谷・立石海岸	横須賀市秋谷 3-5
15	久留和海岸	横須賀市秋谷
16	大楠山	横須賀市芦名 3
17	大楠山ハイキングコース	塚山・阿武倉コース
18		衣笠コース
19		湘南国際村コース
20		前田橋コース
21		大楠芦名コース
22	桜山中央公園	逗子市桜山 5-375-11
23	台山緑地	逗子市沼間 1
24	第一運動公園	逗子市池子 1-11
25	五霊神社	逗子市沼間 3-10-34
26	神武寺・高取山ハイキングコース	逗子市沼間
27	二子山回廊コース	逗子市沼間

注）表中の番号は、図 3.2-28 に対応する。

資料:「横須賀市観光情報」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「横須賀市 運動・公園」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「観光」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「葉山町観光協会」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「聞き取り調査」（二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト）

表 3.2-84(2)　レクリエーション資源

No.	名　　称	住　　所
28	南郷上ノ山公園	葉山町長柄 1888-1
29	仙元山ハイキングコース	葉山町堀内
30	湘南国際村グリーンパーク	葉山町上山口 1560-91
31	不動滝	葉山町木古庭
32	二子山山系山道	葉山町上山口

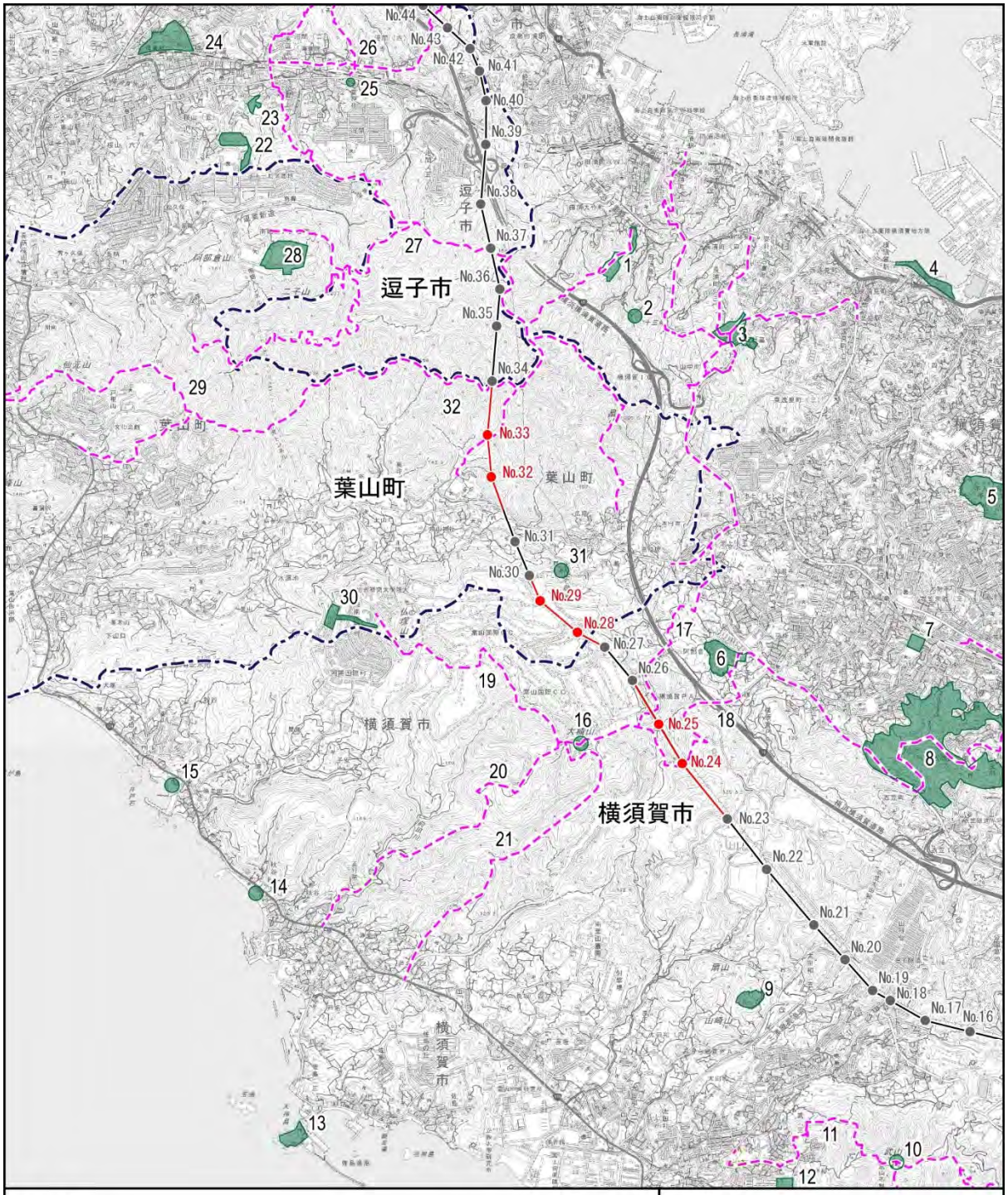
注）表中の番号は、図 3.2-28 に対応する。

資料:「横須賀市観光情報」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「横須賀市 運動・公園」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「観光」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「葉山町観光協会」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「聞き取り調査」（二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト）

表 3.2-85　実施区域及び周辺地域における主要観光施設等の観光客数（令和 6 年推計）

名　称		調査区分	観光客数（千人）
横須賀市	しょうぶ園	施設	71
	田浦梅の里	地点	17
	塚山公園さくら祭	行事	7
	衣笠さくら祭（衣笠山公園）	行事	3
逗子市	二子山自然遊歩道	地点	33

注）表中の地点は「主要観光地点」、施設は「主要観光施設」、行事は「主要観光行事」を示す。
資料：「令和 6 年神奈川県入込観光客調査報告書」（2025 年、神奈川県観光振興対策協議会）



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- レクリエーション資源
- ハイキングコース

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注1) 図中の番号は、表 3.2-84 に対応する。
注2) 資料調査結果の情報を優先するため、実施区域の工事用地は記載していない。
資料:「観光情報」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「観光情報」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「観光」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)

図 3.2-28 レクリエーション資源

第 3 節　地域景観の特性

1. 地域景観の特性

(1) 地域景観の特性

横須賀市は、東京湾、金田湾及び相模湾の海に囲まれ、大楠山、衣笠山、武山及び野比にかけた市域中央部に連なる丘陵地、海岸部及び内陸部の市街地などから構成されている。

また、鎌倉時代の三浦一族の史実や開国期を彩った歴史と文化の資産、多くの外国人の居住による国際的雰囲気と市民レベルで広がる国際交流、横須賀芸術劇場や先端的な研究開発機関の集積などの地域資源がある。

「横須賀市景観計画」（令和元年 11 月 25 日施行）では、景観計画の区域は市域全域となっている。また、良好な景観の形成に関する方針として、「横須賀の自然、歴史等の資源を生かした景観を育むこと」、「横須賀市の特徴である海や緑豊かな丘陵地等への良好な眺望を保全すること」、「地域にふさわしい魅力的な町並みを育むこと」の事項について積極的に取り組むとしている。

逗子市は三方を緑の丘陵に囲まれ、一方は海に向かって開け、両者を繋ぐ田越川がまちの中央を流れるまとまりのある地形と豊かな自然に恵まれた街である。また、いにしえより吾妻鏡などその名にとどめる地であり、明治以来の保養地として歴史的遺産等を受け継ぎながら良好な住宅都市として発展している。

「逗子市景観計画」（令和 4 年 12 月改正）では、景観計画の区域は市域全域となっている。

景観形成の基本理念は、「逗子の自然の特徴である海、川、緑豊かな丘陵地等による景観の保全に努めること」、「逗子の歴史、文化等の資源を生かした景観をはぐくむこと」、「逗子らしい特徴を持った美しい町並みを育てること」、「市民の多様な参加を得て良好な景観を形成すること」としている。

葉山町は、西は海に向かって開け、阿武倉山、二子山、大楠山など三つの山襞の間を森戸川、下山川という二つの川が流れ、その美しい風景を味わえる場所が数多く存在している。また、御用邸に代表される別荘や大規模な民家が数多く建ち並び、独自の景観と文化的環境を形成してきたところである。

「葉山町景観計画」（平成 22 年 7 月 1 日）では、景観計画の区域は町域全域となっている。

また、良好な景観を形成する目的を「まちの各所で、「海とみどりにひろがる交流文化のまち葉山」が実感できる景観を形成する」として、様々な目標を設定している。

なお、実施区域には、「横須賀市景観計画」において眺望景観保全区域、「逗子市景観計画」において景観形成重点地区及び景観重要樹木、「葉山町景観計画」において景観重要樹木の指定はない。

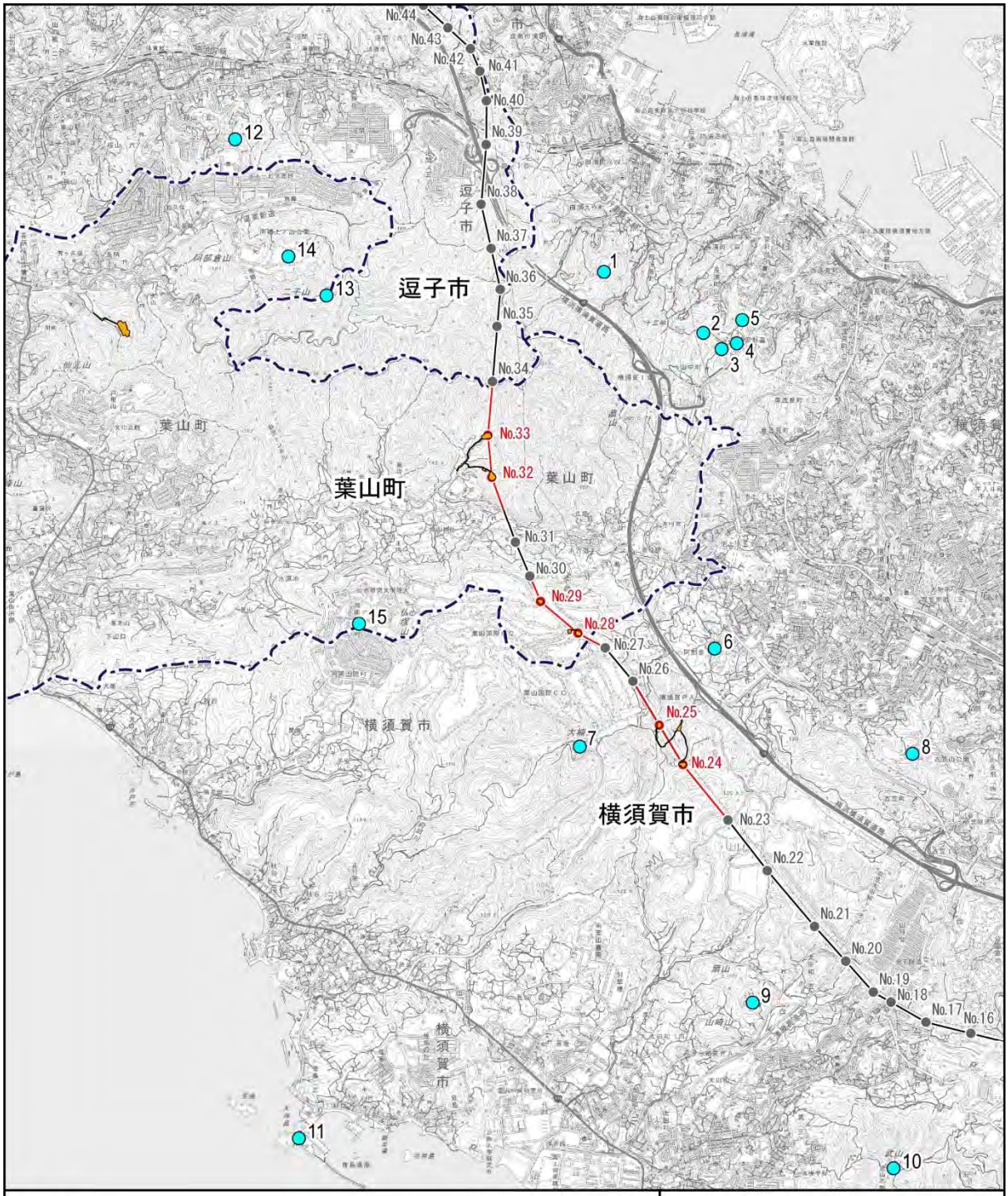
(2) 主要な眺望地点

実施区域及び周辺地域の主要な眺望地点は、表 3.2-86 及び図 3.2-29 に示すとおりであり、主要な眺望地点が 15 箇所存在している。

表 3.2-86　主要な眺望地点

No.	名　　称	住　　所
1	田浦梅の里	横須賀市田浦泉町 92
2	十三峠	横須賀市長浦町 3 丁目
3	富士見台	横須賀市山中町
5	塚山公園 展望デッキ	横須賀市西逸見町 3-57
6	しょうぶ園 展望台	横須賀市阿部倉 18-1
7	大楠山	横須賀市芦名 3
8	衣笠山公園 展望台	横須賀市小矢部 4-922
9	太田和つつじの丘	横須賀市太田和 5-2638
10	武山(武山不動)	横須賀市武 1 丁目
11	天神島臨海自然教育園	横須賀市佐島 3-7-3
12	桜山中央公園	逗子市桜山 5-375-11
13	二子山展望台	逗子市沼間
14	南郷上ノ山公園	葉山町長柄 1888-1
15	湘南国際村グリーンパーク	葉山町上山口 1560-91

注）表中の番号は、図 3.2-29 に対応する。
資料:「観光情報」(横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「観光情報」(逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧)
「観光」(葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧)



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地
- 主要な眺望地点

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

注）図中の番号は、表 3.2-85 に対応する。

資料：「観光情報」（横須賀市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「観光情報」（逗子市 HP、令和 7 年 7 月閲覧）
「観光」（葉山町 HP、令和 7 年 7 月閲覧）

図 3.2-29　主要な眺望地点

別添 4　対象事業の概要

別添 4-1　規模 ····· 4-1-1

別添 4-2　実施方法 ····· 4-2-1

別添 4-3　その他の内容 ····· 4-3-1

別添 4-1　規模

第 1 章　事業計画全体の概要 ····· 4-1-1

第 2 章　実施区域の規模 ····· 4-1-2

第 3 章　工事計画 ····· 4-1-4

第１章　事業計画全体の概要

事業計画全体の概要を表 4.1-1 に示す。

南横須賀変電所（横須賀市）から逗子変電所（逗子市）に至る区間において、20 基の鉄塔の建替及び 21 基の鉄塔の鉄塔補修・基礎補強を計画している。

この区間のうち「逗子・葉山近郊緑地保全区域」及び「衣笠・大楠山近郊緑地保全区域」に含まれる鉄塔 6 基の建替等が、環境影響評価条例の対象事業に該当する。

表 4.1-1　事業計画全体の概要

項　目	設　備　概　要
区　間	南横須賀変電所（横須賀市）～逗子変電所（逗子市）
電　圧	275kV
回線数	2 回線
電　線	アルミ覆鋼心アルミより線 410 ㎟ 4 導体
地　線	鋼心イ号アルミ合金より線 120 ㎟ 2 条
線　幅	約 12m～14m
送電線の延長	16.1 ㎞（うち、3.3㎞が環境影響評価条例の対象事業）
鉄塔平均高さ	約 55m（実施区域内の鉄塔平均高さ約 60m）
鉄塔建替基数	20 基（うち、6 基が環境影響評価条例の対象事業）
鉄塔補修・ 基礎補強基数	21 基（環境影響評価条例の対象外事業）
通過市町村	神奈川県横須賀市、逗子市、葉山町

注）環境影響評価条例の対象・対象外の判断フローは、図 3.1-1 参照。

第 2 章　実施区域の規模

実施区域の規模を表 4.1-2(1)～(2)に、送電線の延長の内訳を表 4.1-3 に示す。東京南線3,4号線の鉄塔用地は6基分、送電線線下用地は延長約3.3km分である。工事用地としては、鉄塔工事用地、運搬設備用地（モノレールルート用地)、資機材積替え用地（運搬設備へ資機材の積替え等を行う用地)、コンクリート圧送用地がある。

また、事業計画の変更に伴い、新たに仮設ヘリポートを設置することから、仮設ヘリポートも同一事業とし、実施区域に該当することとなった。仮設ヘリポートは、工事用地として、ヘリコプターの駐機、運搬設備用地（仮設道路)、資機材積替え用地がある。

実施区域の工事用地面積は表 4.1-4(1)～(2)に、代表的な運搬方法であるモノレール運搬における、施工計画模式図の例は図 4.1-1 に示すとおりである。

表 4.1-2(1)　実施区域の規模（東京南線 3,4 号線）

用　途	内　容
鉄塔用地	鉄塔 6 基
送電線線下用地	延長約 3.3km の送電線線下 （内訳は表 4.1-3 参照）
工事用地	鉄塔工事用地、運搬設備用地（モノレールルート)、 資機材積替え用地、コンクリート圧送用地

表 4.1-2(2)　実施区域の規模（仮設ヘリポート）

用　途	内　容
仮設ヘリポート	ヘリコプターの駐機、運搬設備用地（仮設道路)、 資機材積替え用地

表 4.1-3　送電線延長の内訳

送電線の内訳	送電線の延長
衣笠・大楠山近郊緑地保全区域 （鉄塔 No.23～No.26、No.27～No.30 間の送電線） ・約 2.3km 逗子・葉山近郊緑地保全区域 （鉄塔 No.31～No.34 間の送電線） ・約 1.0km 注 1）送電線の合計は小数点第 2 位を切り上げている 注 2）右表の赤字は実施区域内を示す	鉄塔番号 / 延長 (m) 22 – 23 – 569 24 – 365 25 – 406 26 – 27 – 247 28 – 388 29 – 220 30 – 31 – 270 32 – 335 33 – 428 34 – 合計 – 3.3km

表 4.1-4(1)　工事用地面積（実施区域内の鉄塔 6 基の合計）

用　途	面積（㎡）
鉄塔工事用地（鉄塔用地含む）	12,242
運搬設備用地（モノレールルート）	4,835
資機材積替え用地（モノレール基地）	1,907
コンクリート圧送用地	93
合　計	19,077

表 4.1-4(2)　工事用地面積（仮設ヘリポート）

用　途	面積（㎡）
ヘリコプターの駐機、運搬設備用地（仮設道路）、資機材積替え用地	8,279

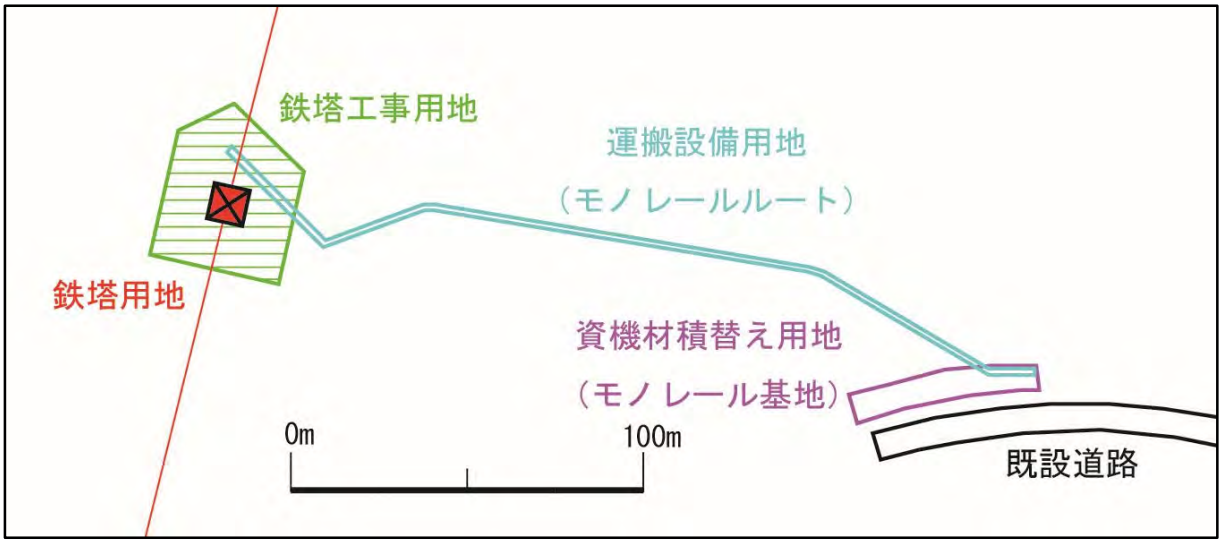


図 4.1-1　施工計画模式図の例

第 3 章　工事計画

実施区域に付随する調査範囲の鉄塔工事用地及び使用面積は表 4.1-5 に、工事計画全体図は図 4.1-2 に、詳細図は図 4.1-3(1)～(7)に示すとおりである。

表 4.1-5　工事用地及び使用面積

鉄塔番号等	改変内容	用途	使用面積（㎡）
No. 24	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,735
		資機材積替え用地（モノレール基地）	1,428
		運搬設備用地（モノレールルート）	1,335
No. 25	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,480
		運搬設備用地（モノレールルート）	1,209
No. 28	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,755
		資機材積替え用地（モノレール基地）	180
		コンクリート圧送用地	93
		運搬設備用地（モノレールルート）	226
No. 29	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,594
No. 32	鉄塔建替	鉄塔工事用地	2,777
		資機材積替え用地（モノレール基地）	299
		運搬設備用地（モノレールルート）	1,347
No. 33	鉄塔建替	鉄塔工事用地	2,901
		運搬設備用地（モノレールルート）	718
仮設ヘリポート	鉄塔建替に付随のため	ヘリコプターの駐機、運搬設備用地（仮設道路）、資機材積替え用地	8,279

注）表中及び図 4.1-3(1)～(6)の鉄塔工事用地は、鉄塔用地も含んでいる。

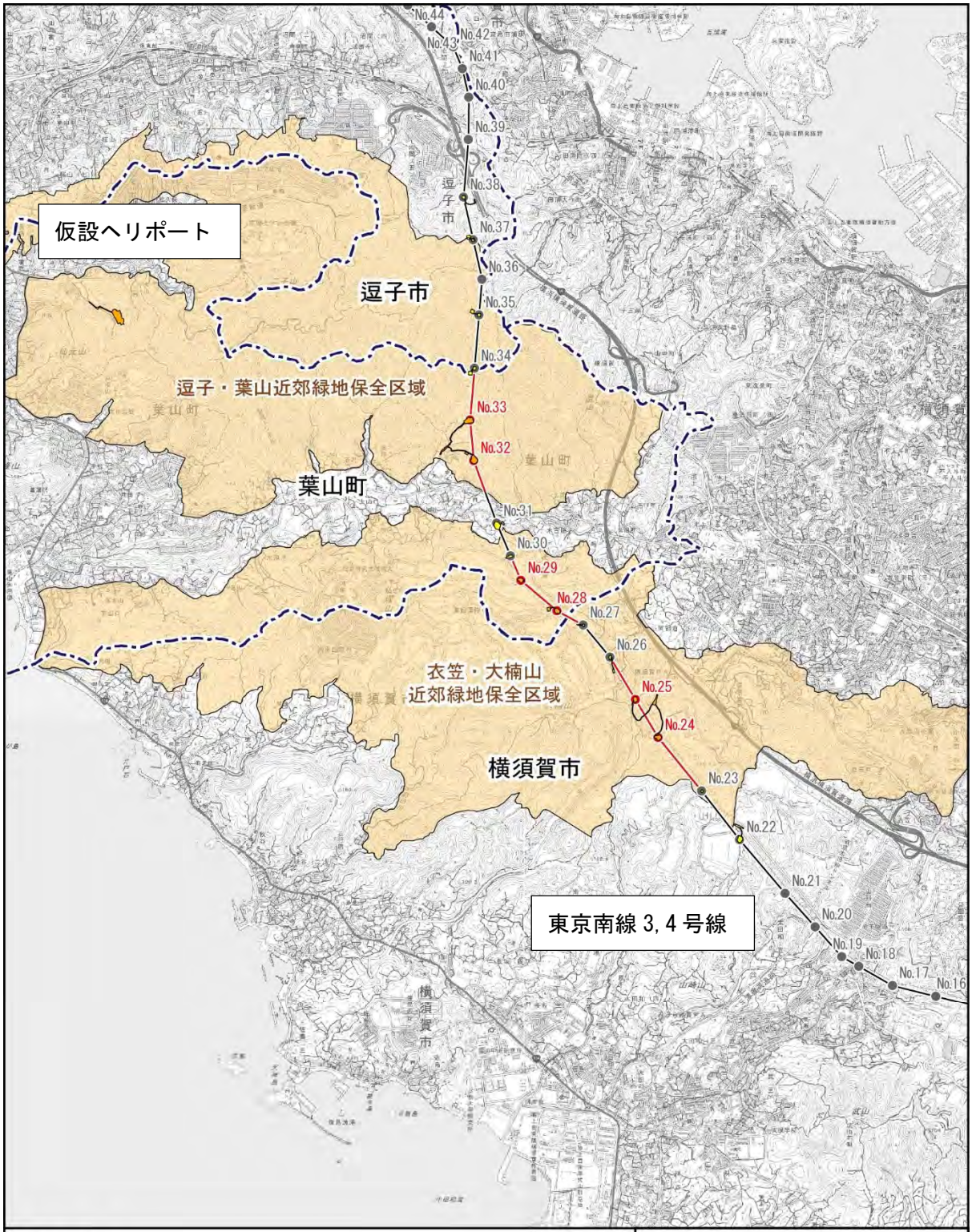
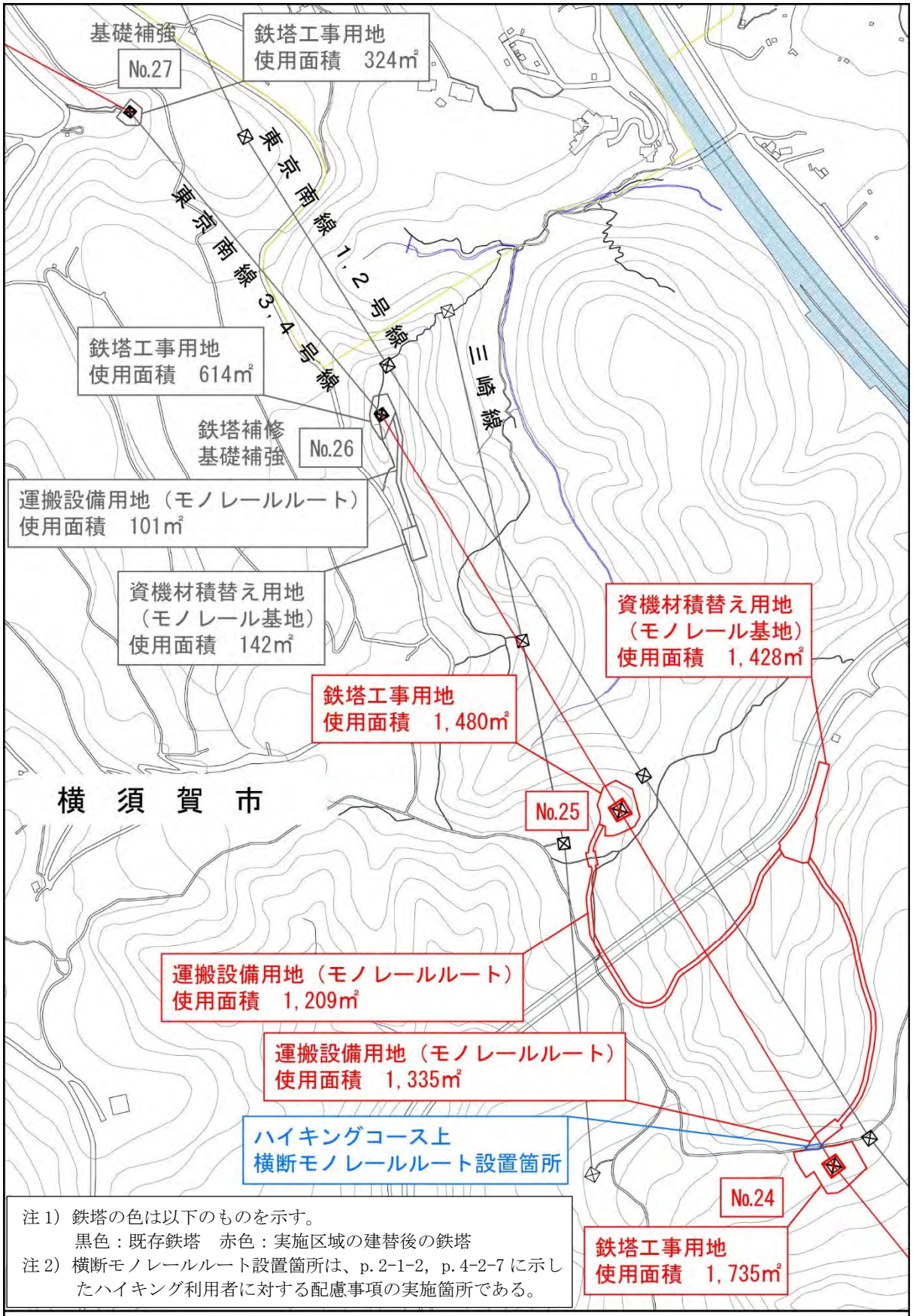


図 4.1-2　工事計画全体図

図 4.1-3(1)　工事計画詳細図
（No.22～No.23 周辺）



注1）鉄塔の色は以下のものを示す。
　　黒色：既存鉄塔　赤色：実施区域の建替後の鉄塔
注2）横断モノレールルート設置箇所は、p.2-1-2，p.4-2-7に示したハイキング利用者に対する配慮事項の実施箇所である。

図4.1-3(2)　工事計画詳細図
（No.24～No.27周辺）

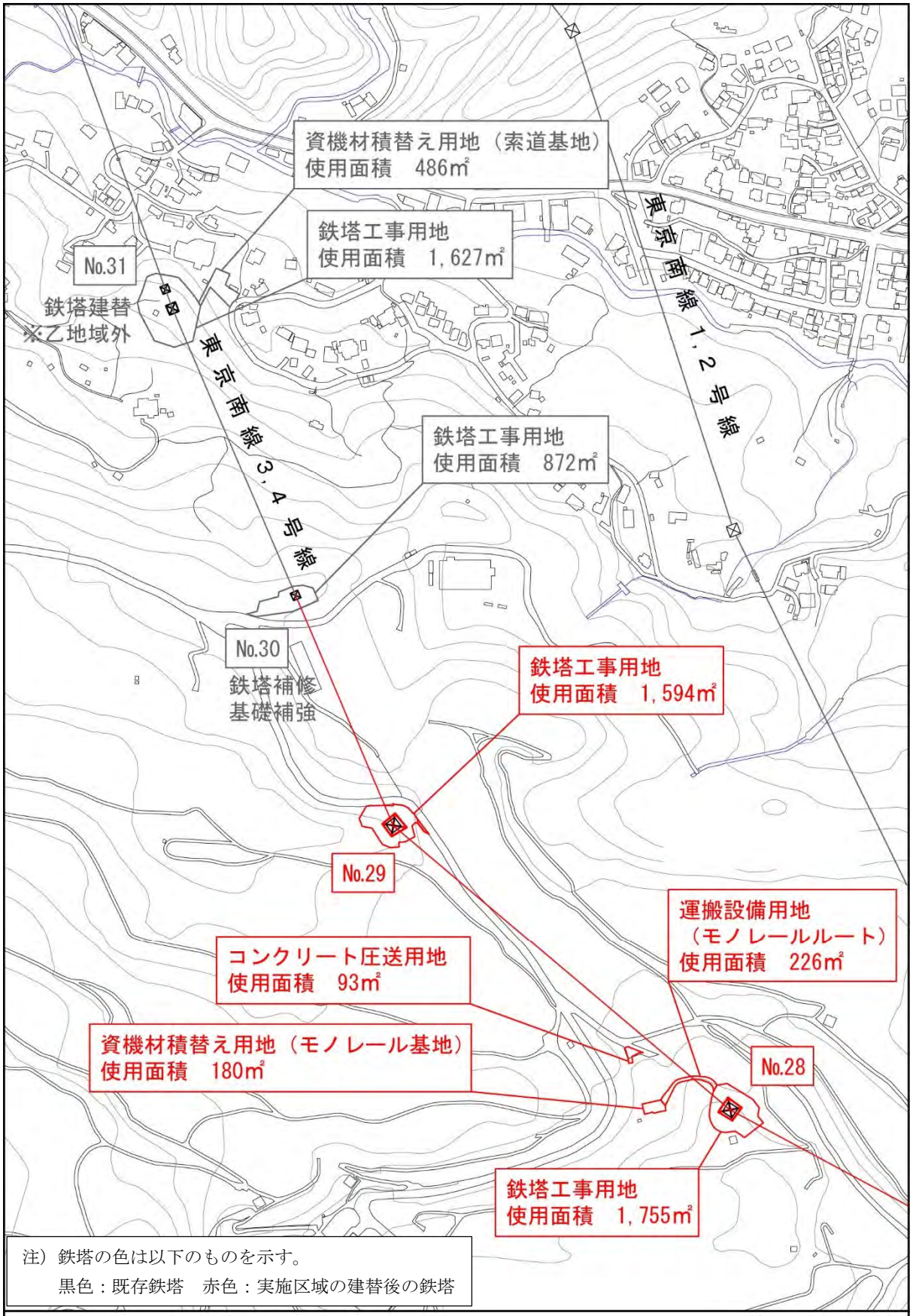


図 4.1-3(3)　工事計画詳細図
（No.28～No.31 周辺）

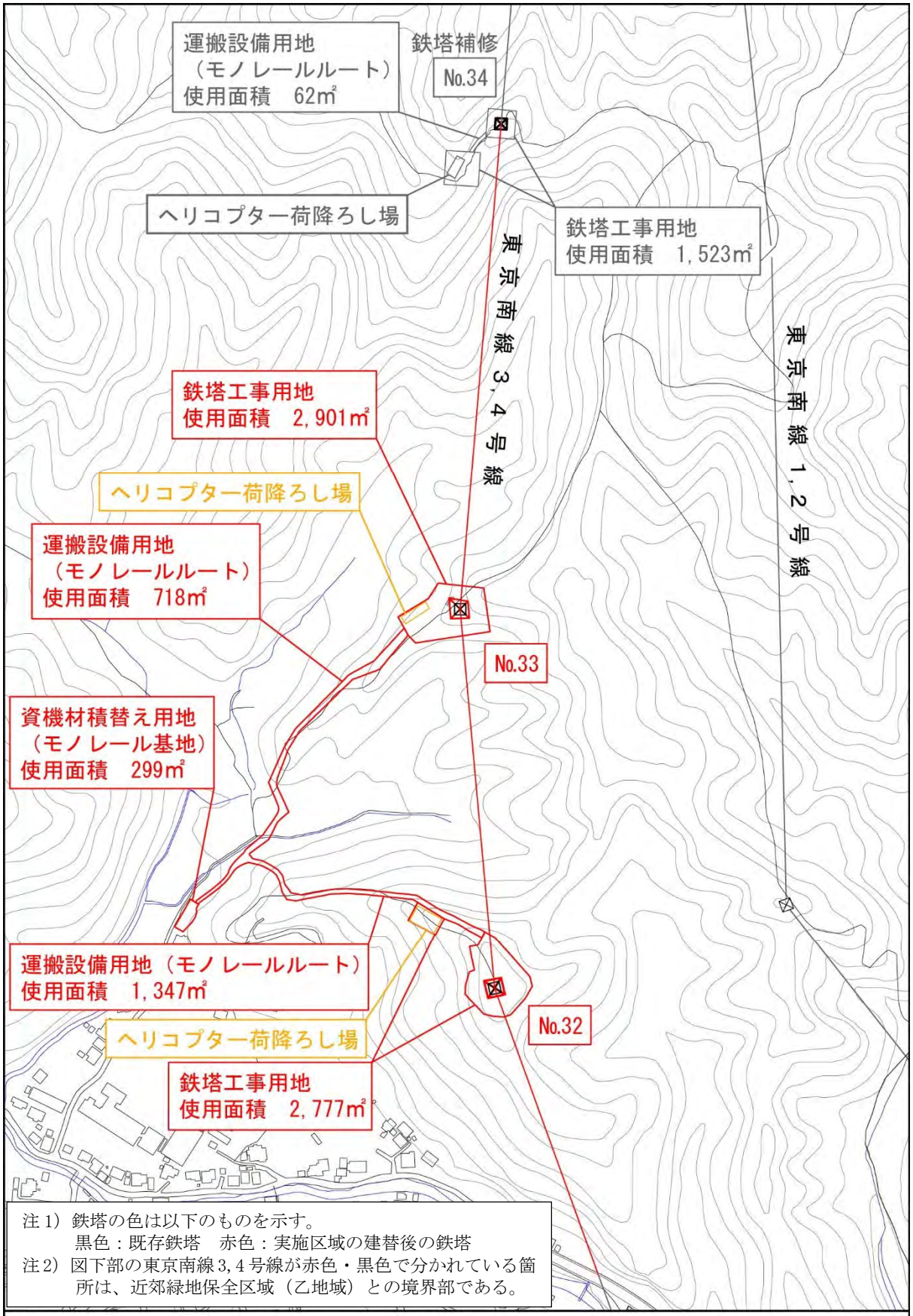


図 4.1-3(4)　工事計画詳細図
（No. 32～No. 34 周辺）

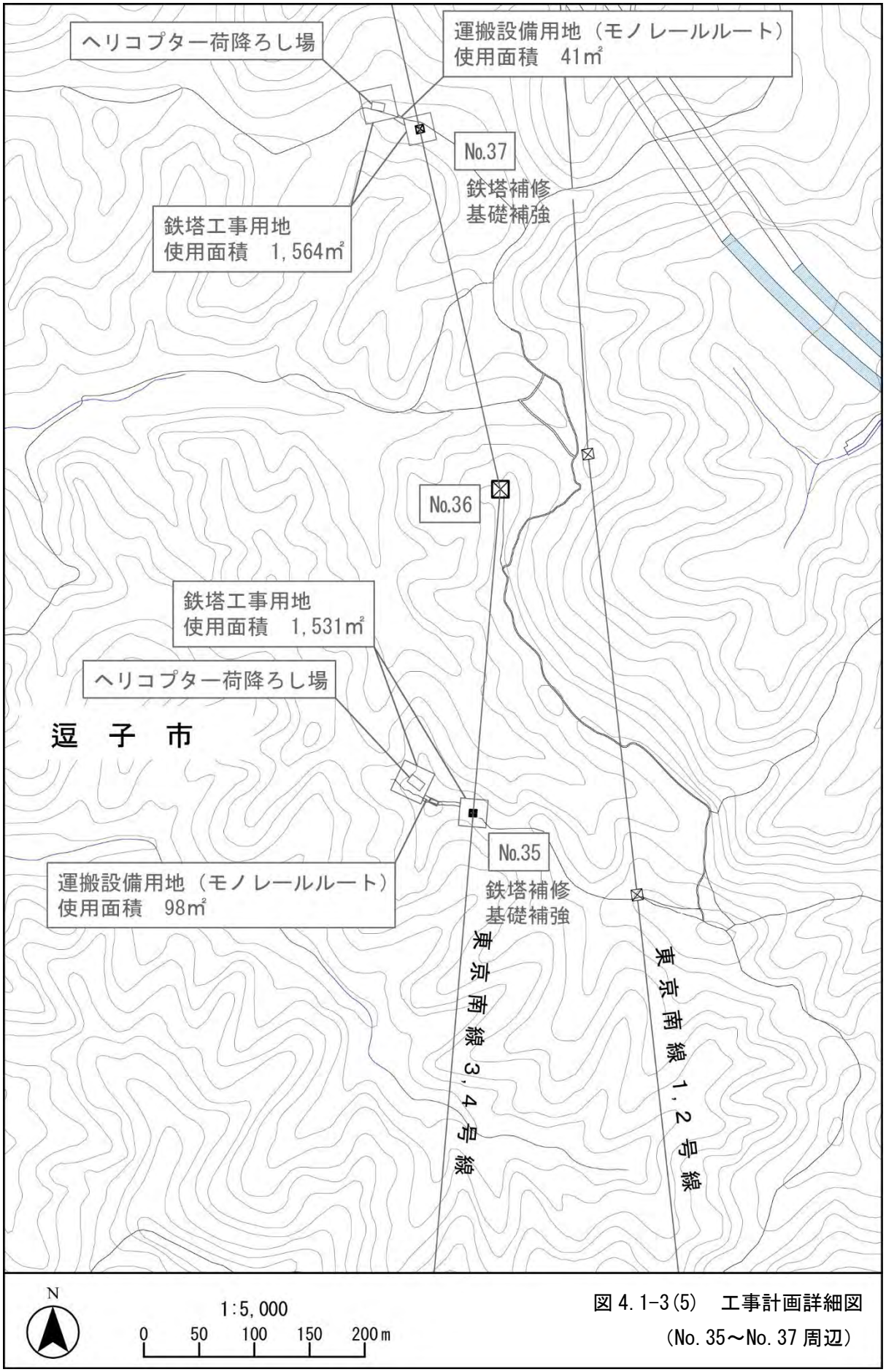


図 4.1-3(5)　工事計画詳細図
（No.35～No.37 周辺）

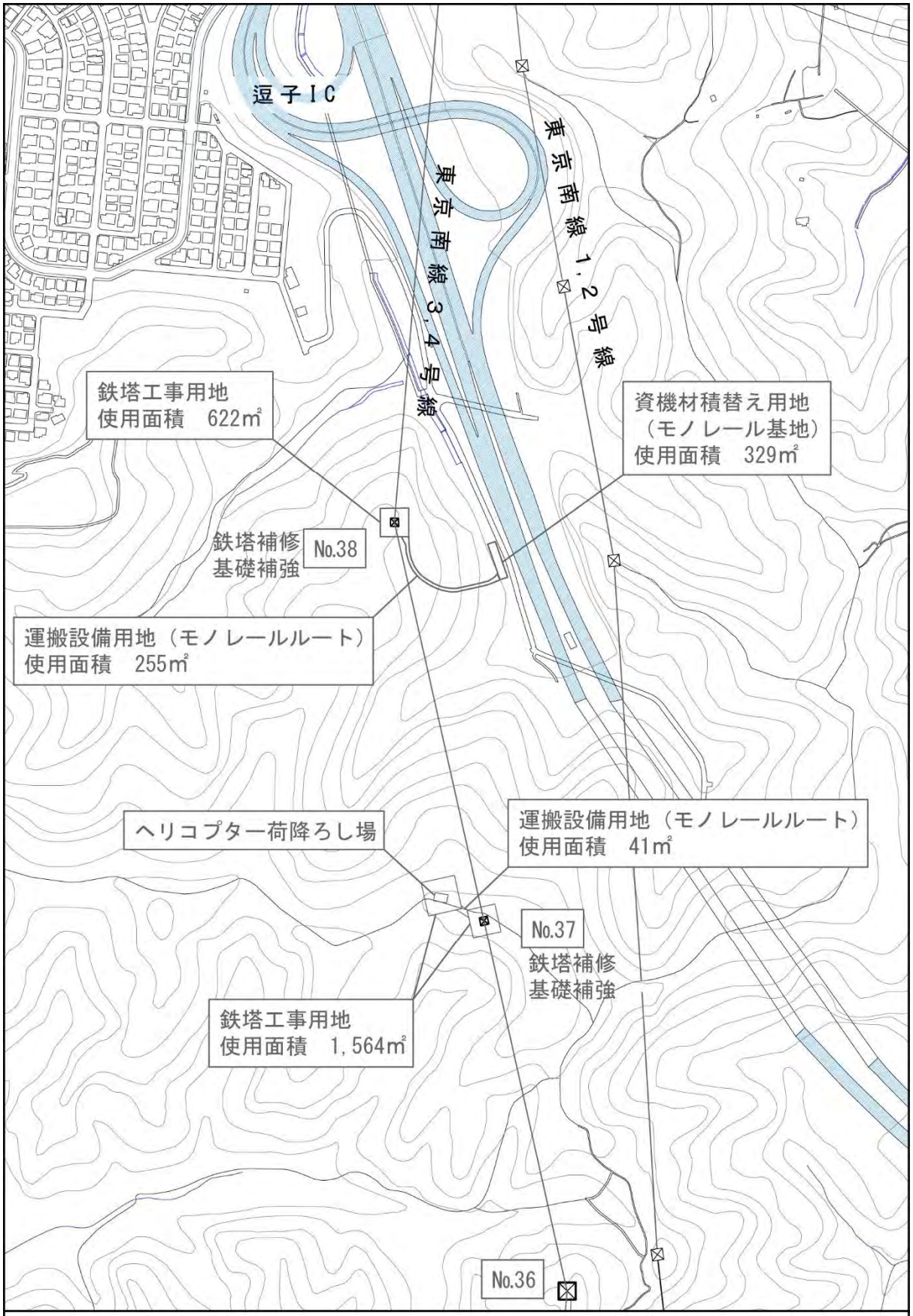
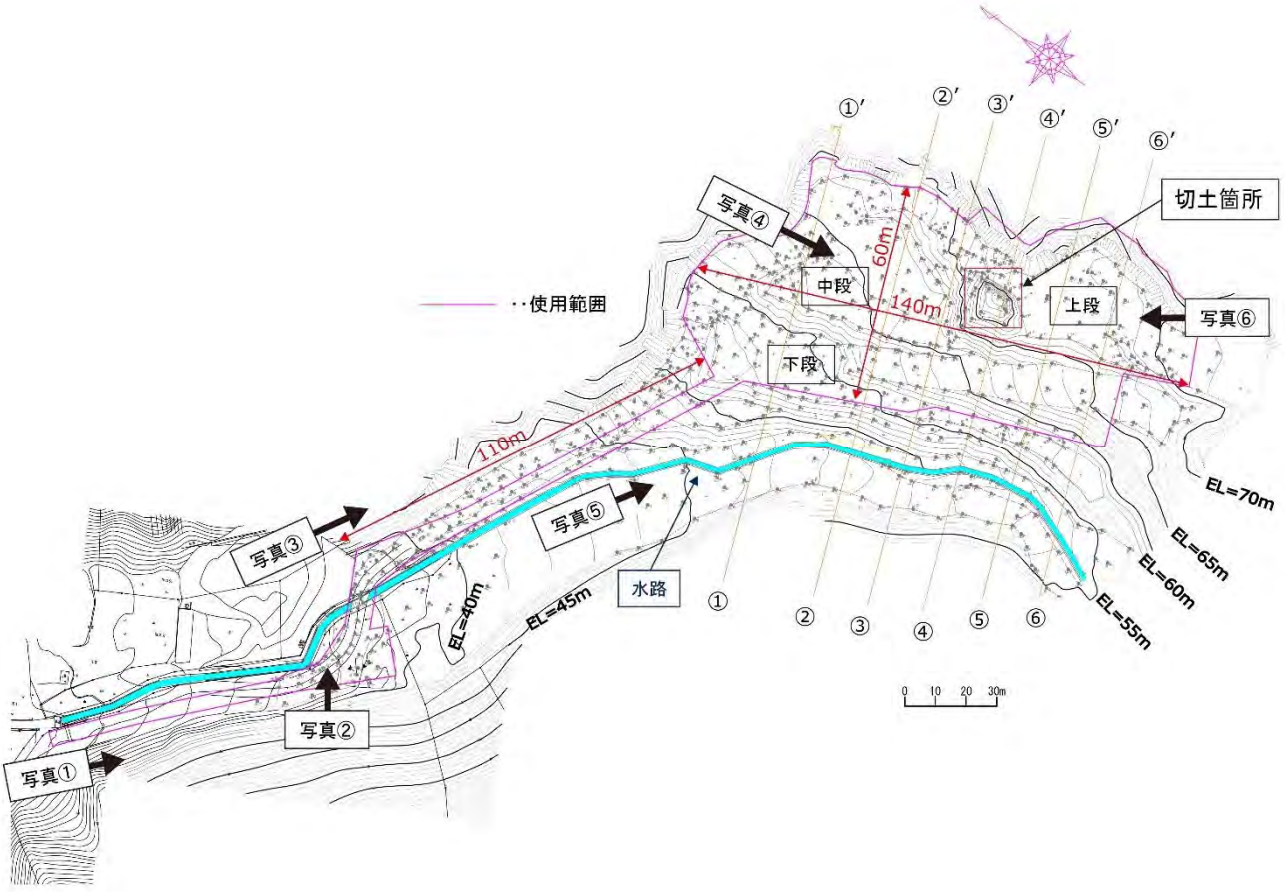
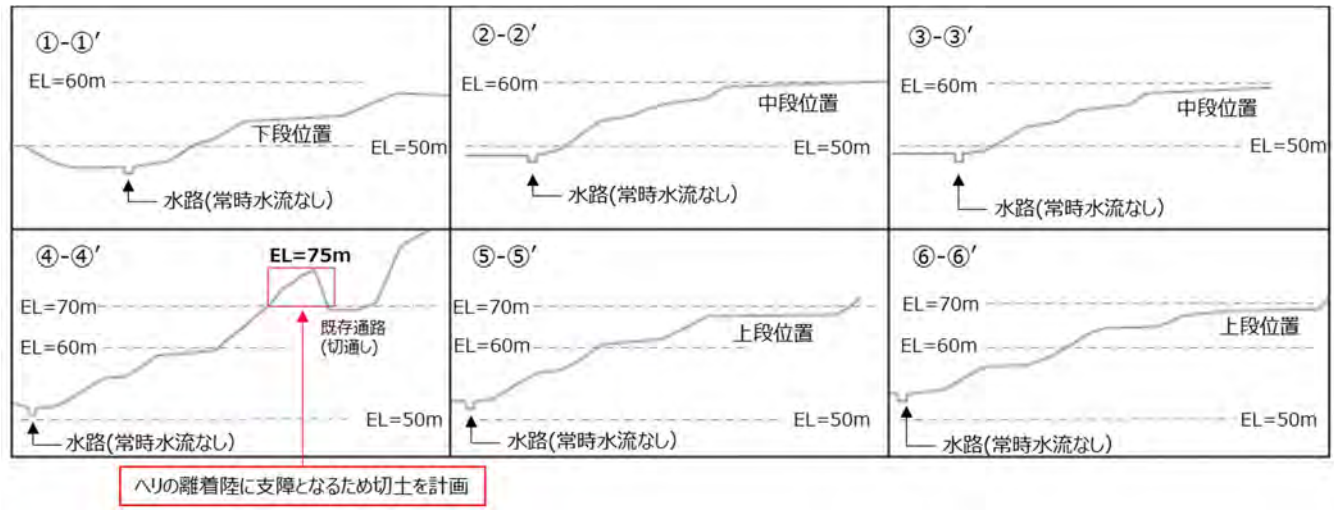


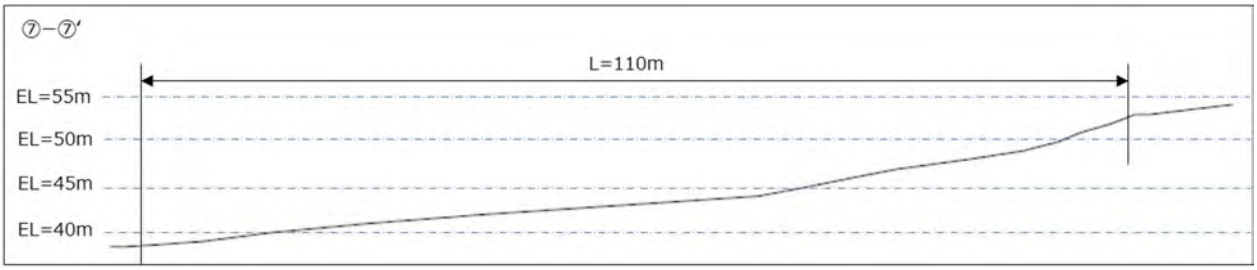
図 4.1-3(6)　工事計画詳細図
（No.37～No.38 周辺）

図 4.1-3(7)　仮設ヘリポート計画地現況図



断面図





現況写真

鉄板にて養生

現況鉄板にて横断のため仮設橋を構築

勾配がきついため通路脇に
仮設スロープを構築し対応

鉄板にて養生

既存通路設置時の切通し箇所（地山部分）
ヘリコプターの離着陸に支障となるため撤去

■仮設ヘリポートは下記条件により設定した。

・ヘリコプター運搬ルートに人家及び重要横断箇所（道路）がないこと

・大規模な造成を必要としないこと

・大型車の進入が可能であること

※本ヘリポートについては過去に造成されているが、現況地盤に合わせて仮設ステージを配置し、作業スペースを確保する。

別添 4-2　実施方法

第 1 章　工事工程 ····· 4-2-1

第 2 章　鉄塔及び基礎の概要 ····· 4-2-3

第 3 章　施工計画 ····· 4-2-4

第 4 章　使用建設機械等 ····· 4-2-19

第１章　工事工程

工事のフローを図 4.2-1 に、鉄塔組み立てのフローを図 4.2-2 に、工事工程を表 4.2-1 に示す。

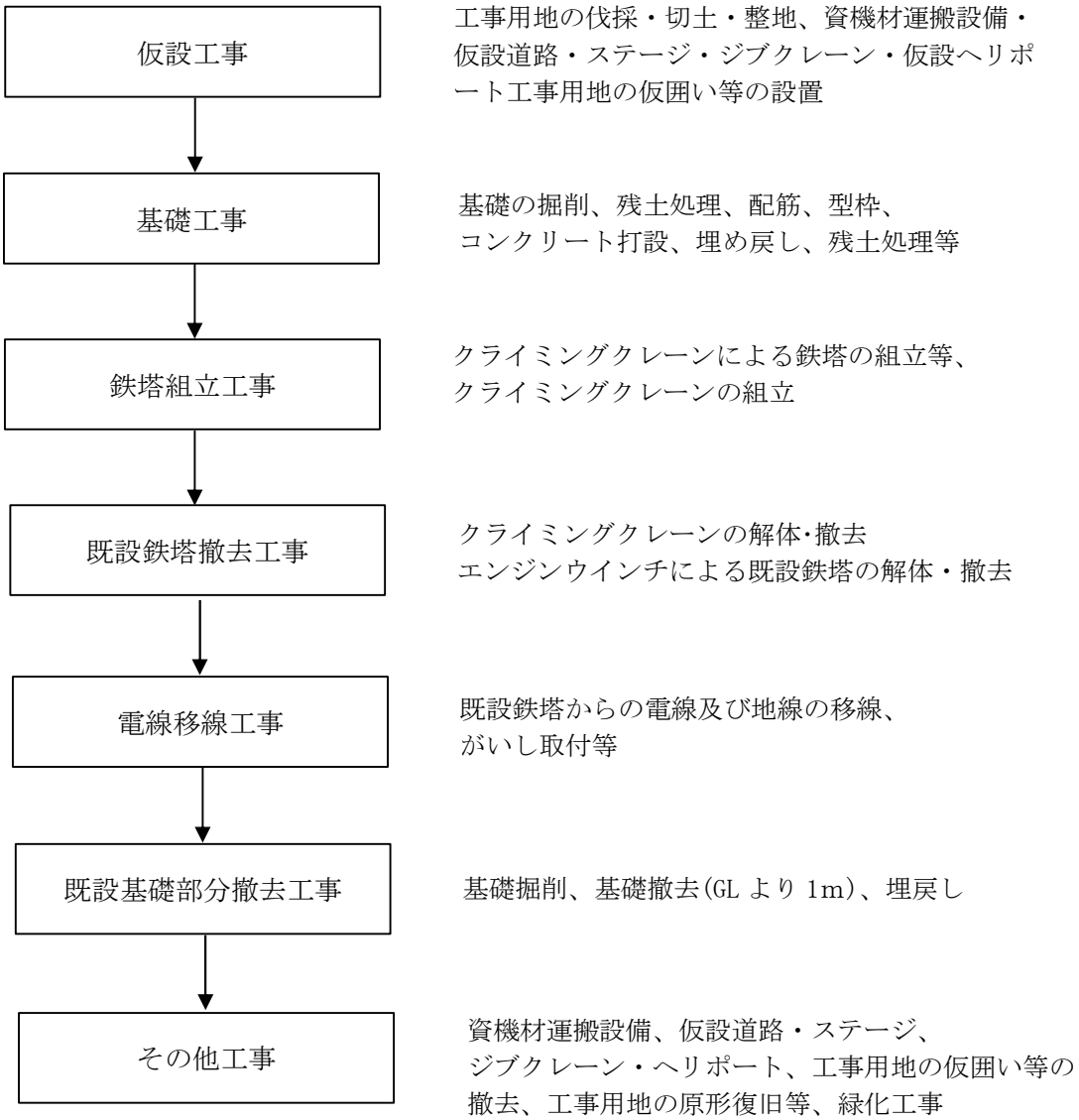


図 4.2-1　工事のフロー

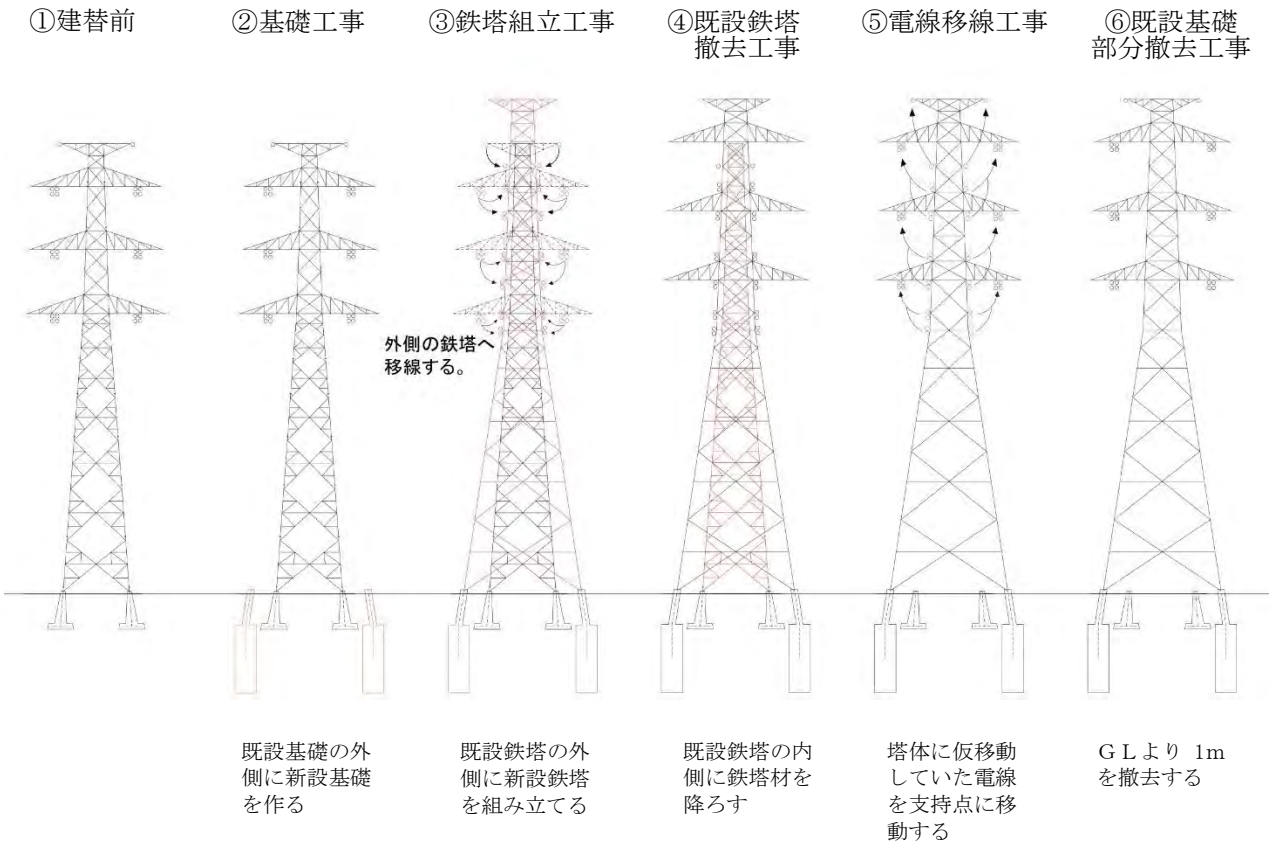
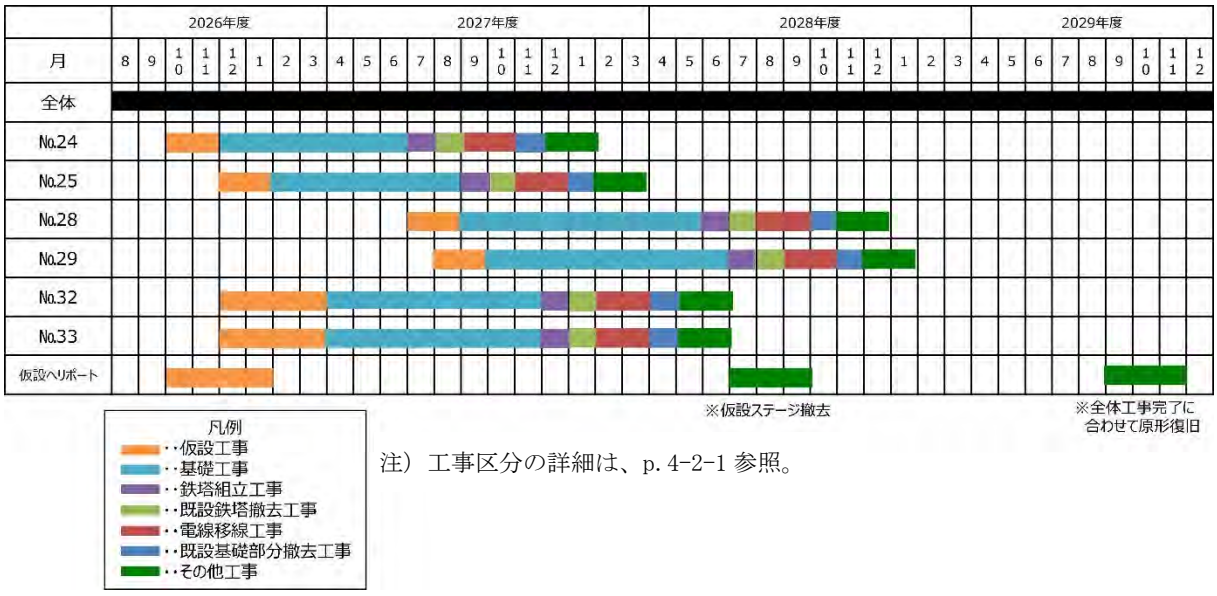


図 4.2-2　鉄塔建替工事のフロー

表 4.2-1　工事工程



注）工事区分の詳細は、p. 4-2-1 参照。

※仮設ヘリポートのその他工事については、仮設工事以降長期間空いているが、表に記載のないその他の鉄塔の工事もその間で行っており、事業全体の全ての工事が完了してからの撤去・原形復旧を計画しているため、このような工程となっている。

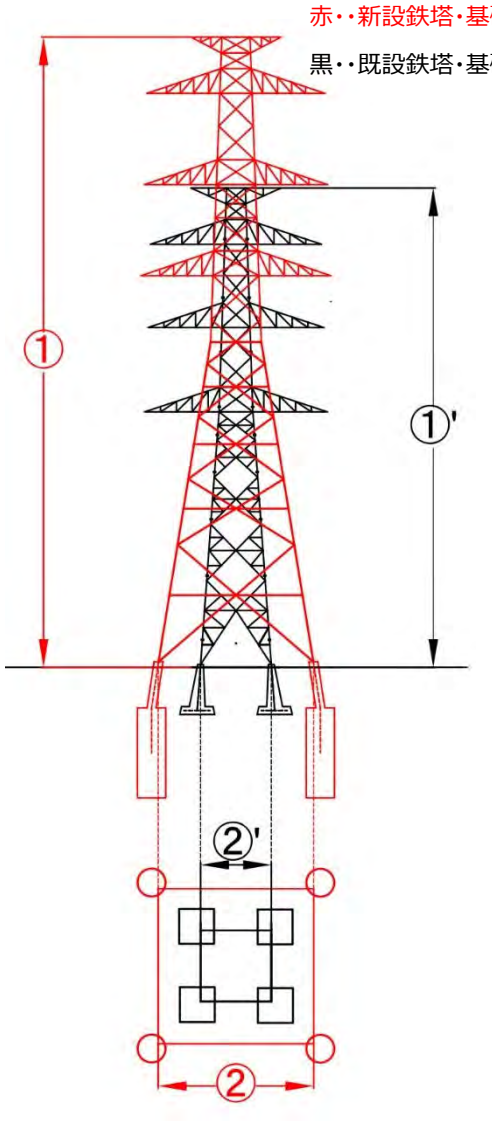
鉄塔及び基礎の概要を図 4.2-3 に示す。

建替は、景観の変化を最小限に抑えるため、既設鉄塔の外側へ新しい鉄塔を建設する「包み込み工法」を計画する。

鉄塔の高さは図に示したとおり、既設鉄塔から新設鉄塔に建替える際、約 13.6m～約 23.5m程度高くなる。なお、鉄塔高さは、想定樹木高（約 15m）と電線との確保すべき離隔距離（約 4m）を考慮し決定した。

基礎は既設鉄塔より約 3.5m～6.4m程度（基礎 1 箇所につき約 1.8m～3.2m程度）外側に新設する。

また、航空法により 60m以上の高さの鉄塔は航空標識（赤白の塗色）が必要となる（既設は 60m以下であるため対象外）。実施区域内では新設鉄塔 2 基(No.25 及び No.33)が対象となるが、2ｋｍ以内に鉄塔頂部より高い山があることから、航空局との協議により免除(塗色不要)となる可能性もある。



＜鉄塔高さと基礎間距離＞

	鉄塔高(m)		基礎間距離(m)	
鉄塔 No.	既設 (①')	新設 (①)	既設 (②')	新設 (②)
24	39.9	53.8	7.4	13.8
25	53.3	73.0	7.6	13.7
28	38.3	58.3	7.1	10.7
29	39.8	53.4	7.4	10.9
32	42.8	59.3	8.2	12.3
33	41.3	64.8	7.8	13.7

■電線については太さ・条数の変更はなし
(高さの変更のみ)
送電線の幅は既設と同様

■新設基礎形状図と既設基礎撤去図

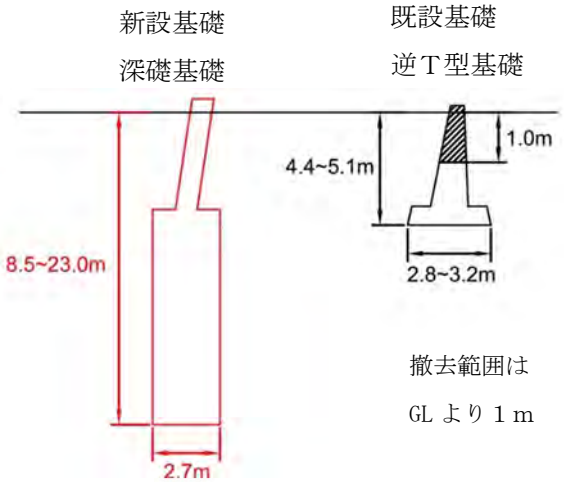


図 4.2-3　鉄塔及び基礎の概要

第 3 章　施工計画

第 1 節　仮設工事

基礎工事に先立ち、バックホウ等を用いて工事用地の伐採・整地（樹木の伐採予定数量は表 4.2-2 参照)、モノレール等の資機材運搬用設備の設置、ジブクレーン等の荷役設備の設置、資機材積替え用地等の工事用地の区画及び仮囲い、工事用仮設道路等の整備を行う。工事用地の区画の仮囲いは、各用地の用途や立地に応じてキャスターゲート、ガードフェンス、ロープ柵等を設置し、周辺に住居が存在する鉄塔 No.32 及び No.33 共用の資機材積替え用地(モノレール基地)では防音パネルを設置する。鉄塔工事用地は、斜面での作業スペース確保のため、ステージを設置する。

また、モノレールルートがハイキングコースを横断する場合は、ハイキングコース上空を横断するモノレール橋を設置する。

仮設ヘリポートでは、切土、仮設道路の設置、ステージの設置等を実施する（p.4-2-8～9 参照)。そのほか、施工例として No.33 鉄塔の仮設計画例を示す（p.4-2-10～11 参照)。

工事用地の伐採・整地（参考）

過去に使用した工事用地(モノレールルート含)を活用し、新規の伐採範囲の縮小化を図る。

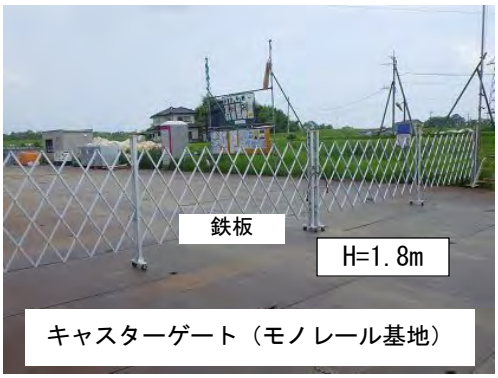
表 4.2-2　工事用地・ヘリポート伐採予定数量表(調査数量)　（単位：本）

	胸高直径	10cm未満	11cm～22cm	23cm～31cm	32cm～40cm	41cm以上	合計
No.24	広葉樹	178	92	26	7	5	308
	針葉樹	0	0	0	0	0	0
No.25	広葉樹	261	139	26	16	12	454
	針葉樹	2	2	2	7	0	13
No.28	広葉樹	204	69	28	7	9	317
	針葉樹	0	2	4	4	2	12
No.29	広葉樹	230	47	4	3	2	286
	針葉樹	0	1	0	0	0	1
No.32	広葉樹	322	338	103	33	39	835
	針葉樹	0	4	23	19	10	56
No.33	広葉樹	88	97	36	19	14	254
	針葉樹	0	9	10	6	0	25
ヘリポート	広葉樹	351	440	42	11	2	846
	針葉樹	2	6	1	0	0	9
合計		1,638	1,246	305	132	95	3,416

伐採木現地置き（施工例）

伐採木は玉切り後整理し現地置きとするが、切株･立木等を活用し転落防止を図る。

仮設道路・仮囲い（施工例）



ロープ柵
（モノレールルート・山間部の
工事用地・迂回路の誘導等）

H=１m

周辺環境・工事用地の使用目的を考慮し工事用地の区間を使い分ける。

仮設ステージ・ジブクレーン（施工例）

ジブクレーン（荷役設備）の準備

仮設ステージ（作業構台）の準備

山間部を主体とする工事用地となることから、斜面での作業スペース確保のため、ステージを設置し斜面の造成を回避する。

ヘリコプター運搬（施工例）

ヘリコプター用ステージ
（離着陸・荷吊り降ろし）

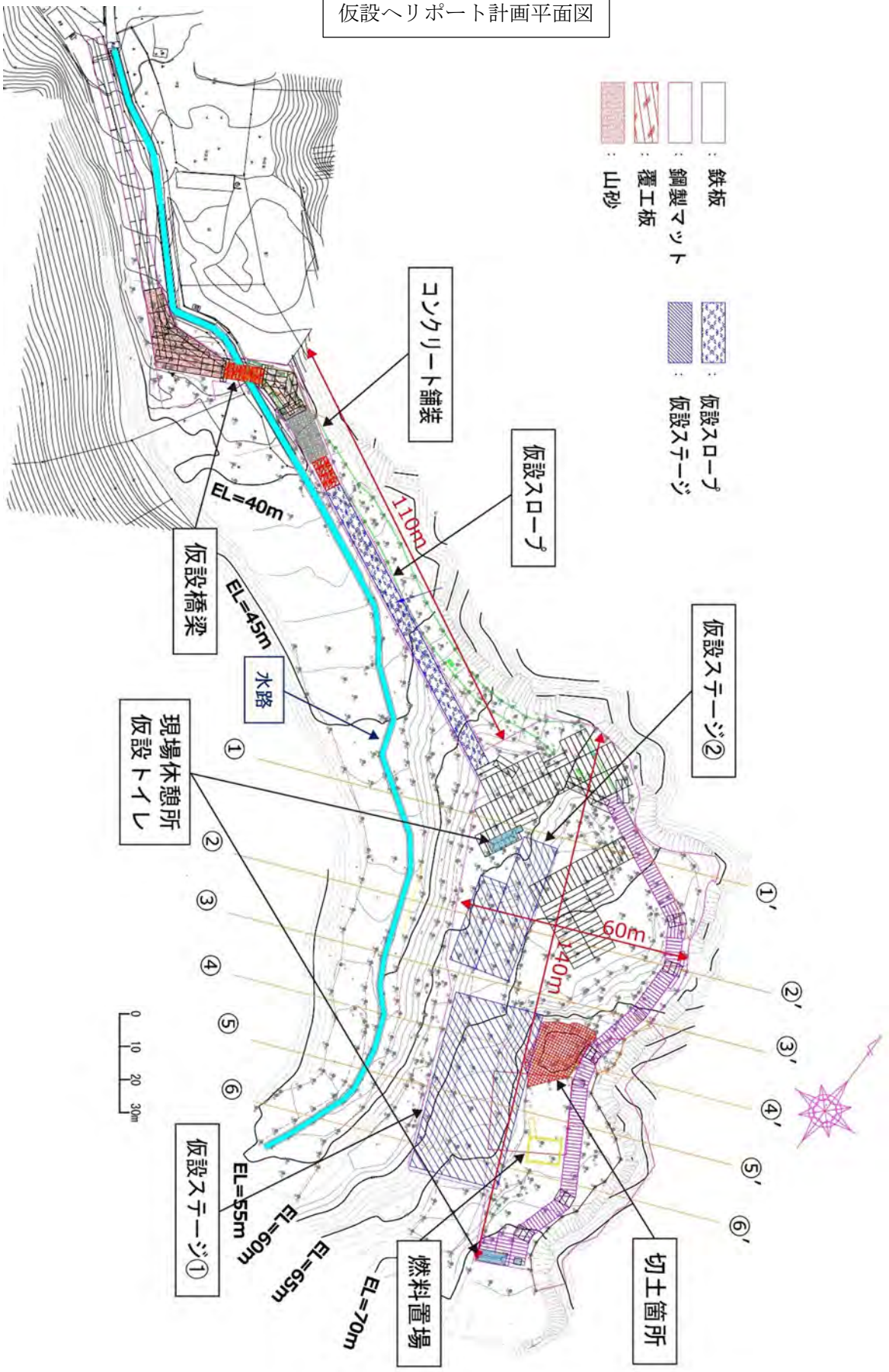
ヘリコプター運搬

モノレール運搬（施工例）

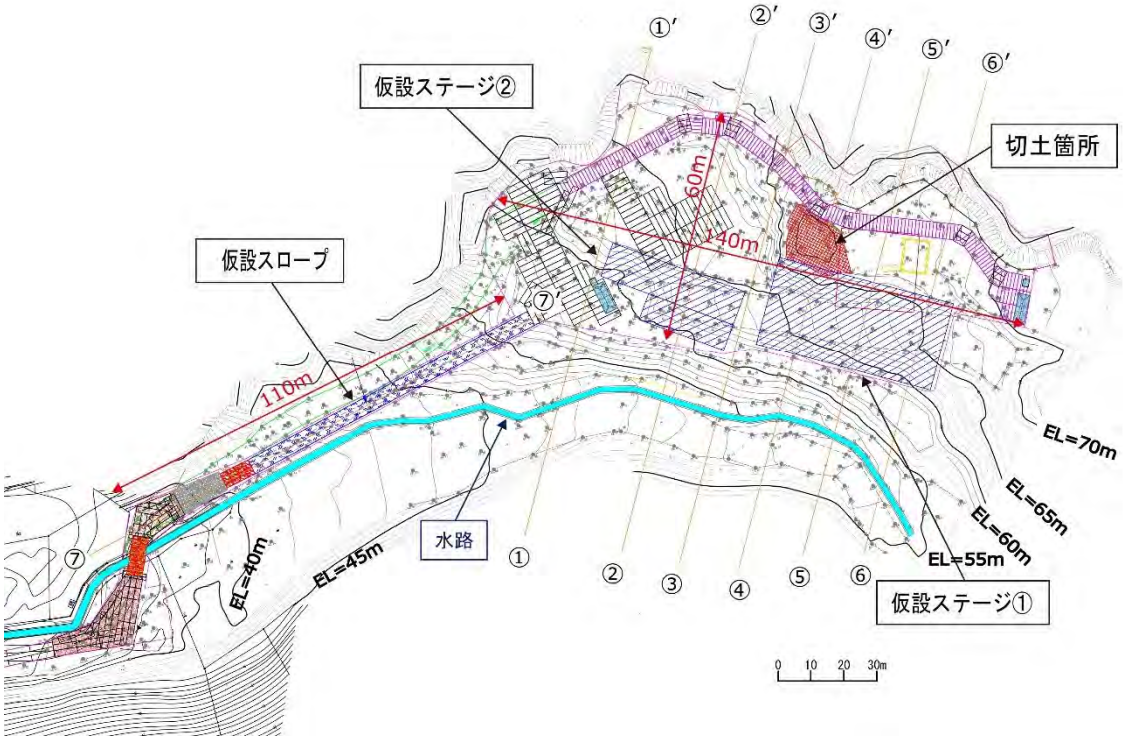
ハイキングコース歩行者への安全確保は以下のとおりとする。

・モノレールルートがハイキングコースを横断する場合は、ハイキングコース上空を横断するモノレール橋を設置する。モノレール橋には落下防護のネットを設置する。
・モノレール運搬時、ハイキングコースに歩行者を確認した場合は、モノレールをハイキングコース手前で停止し、歩行者が通過後に運搬を再開する。
・運搬頻度が多い場合はハイキングコース横断箇所に誘導員を配置し歩行者の誘導を行う。

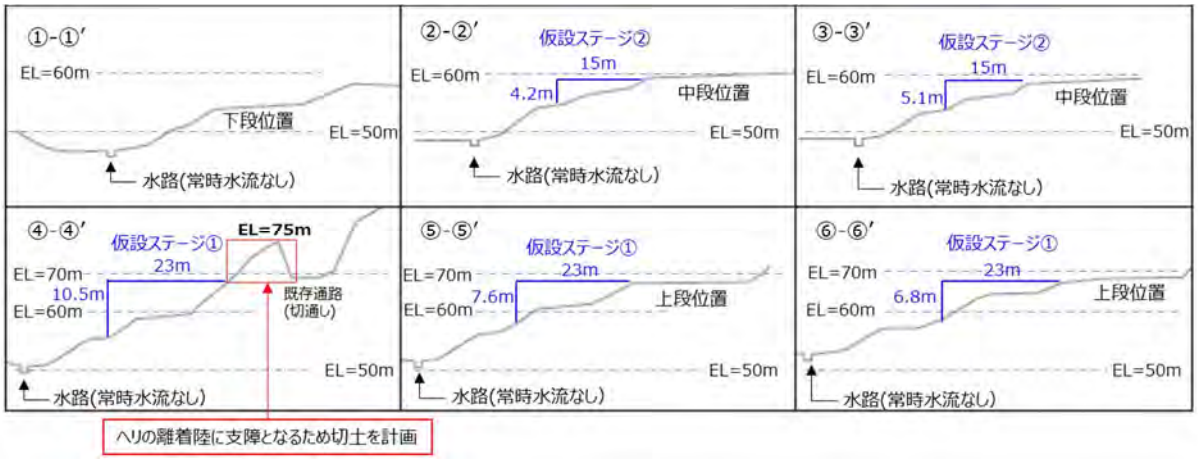
仮設ヘリポート計画平面図

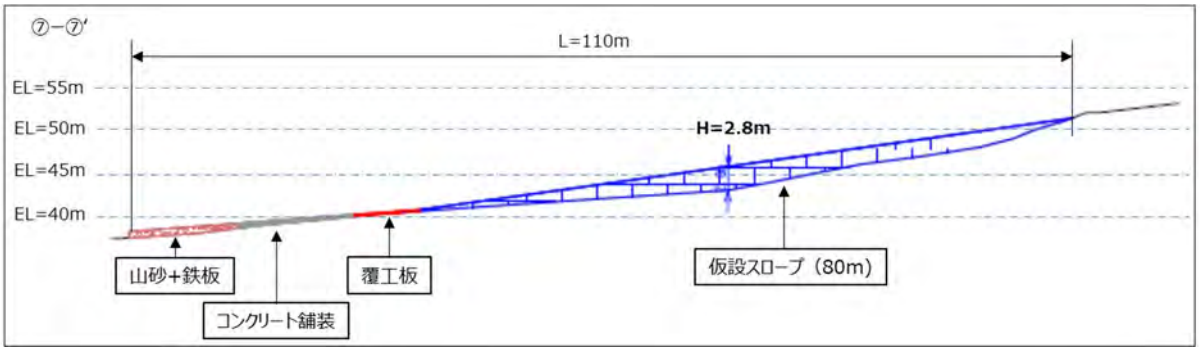


仮設ヘリポート計画平面図

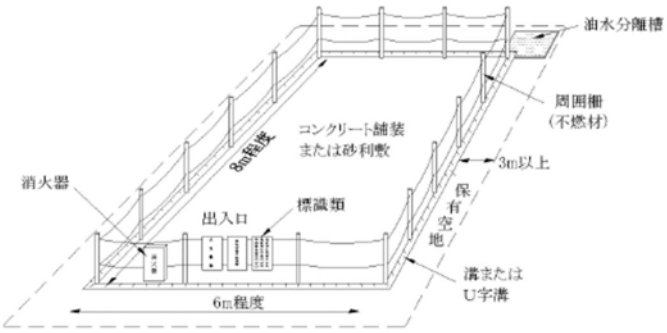


断面図

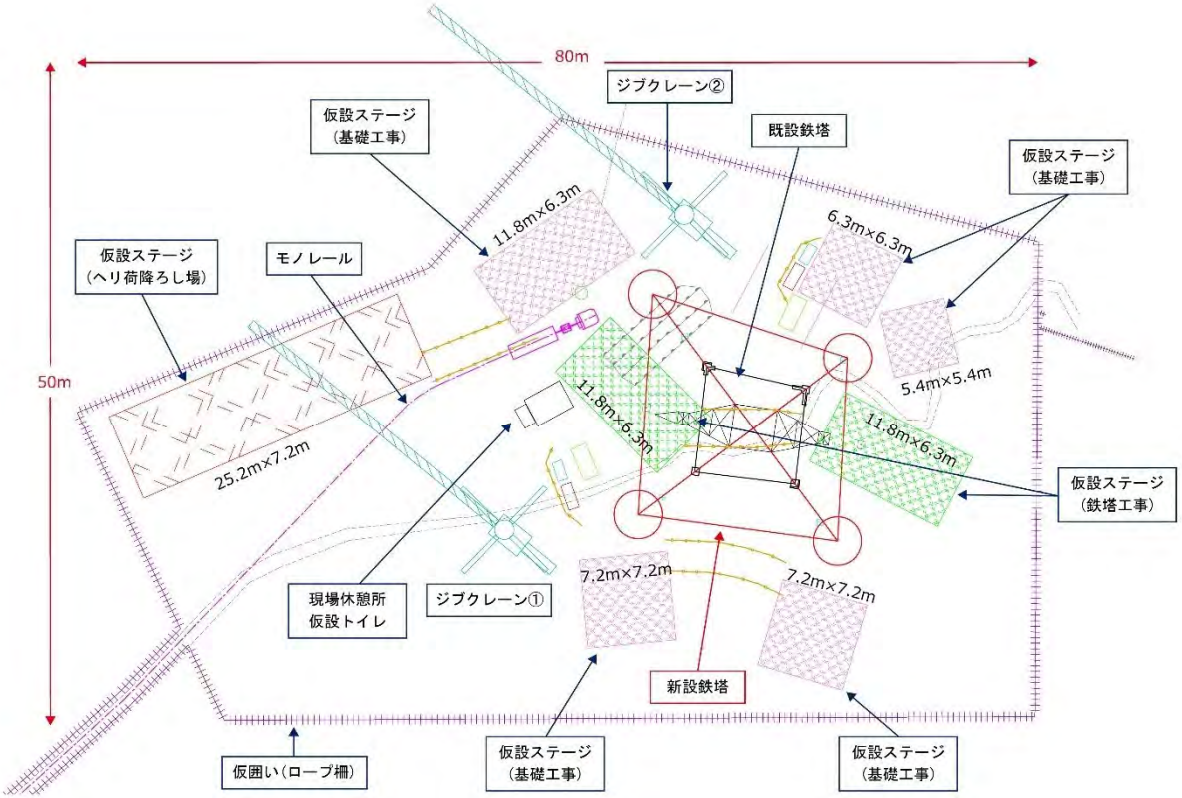




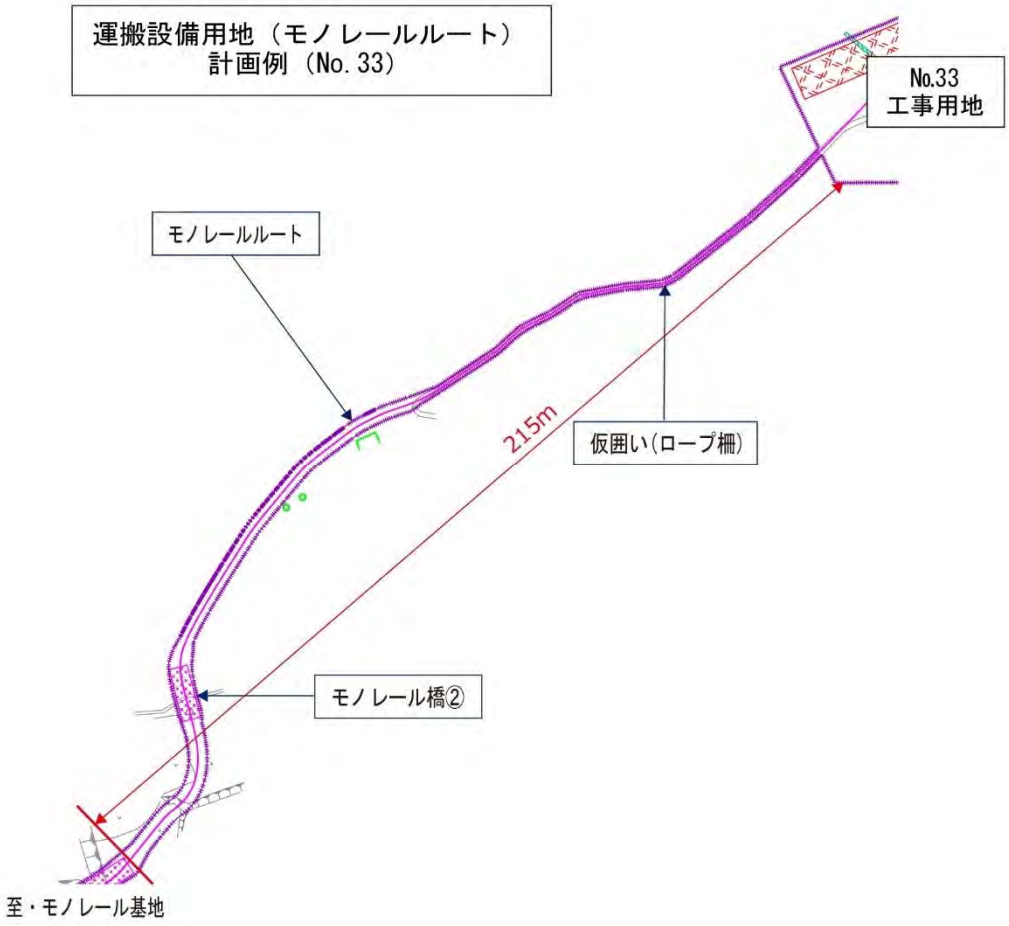
仮設ヘリポート燃料置場（設置例）



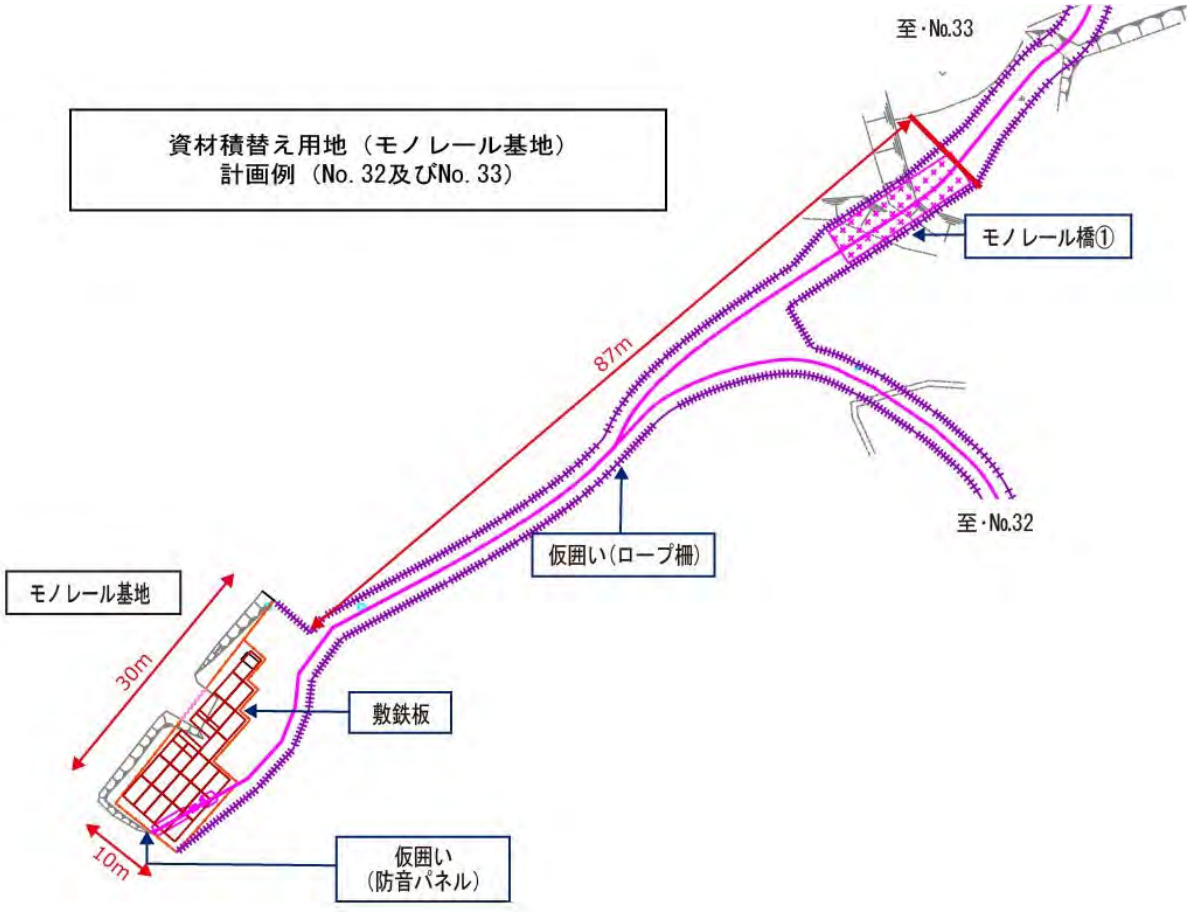
鉄塔工事用地　仮設計画例（No.33）



運搬設備用地（モノレールルート）
計画例（No. 33）



資材積替え用地（モノレール基地）
計画例（No. 32及びNo. 33）



第 2 節　基礎工事

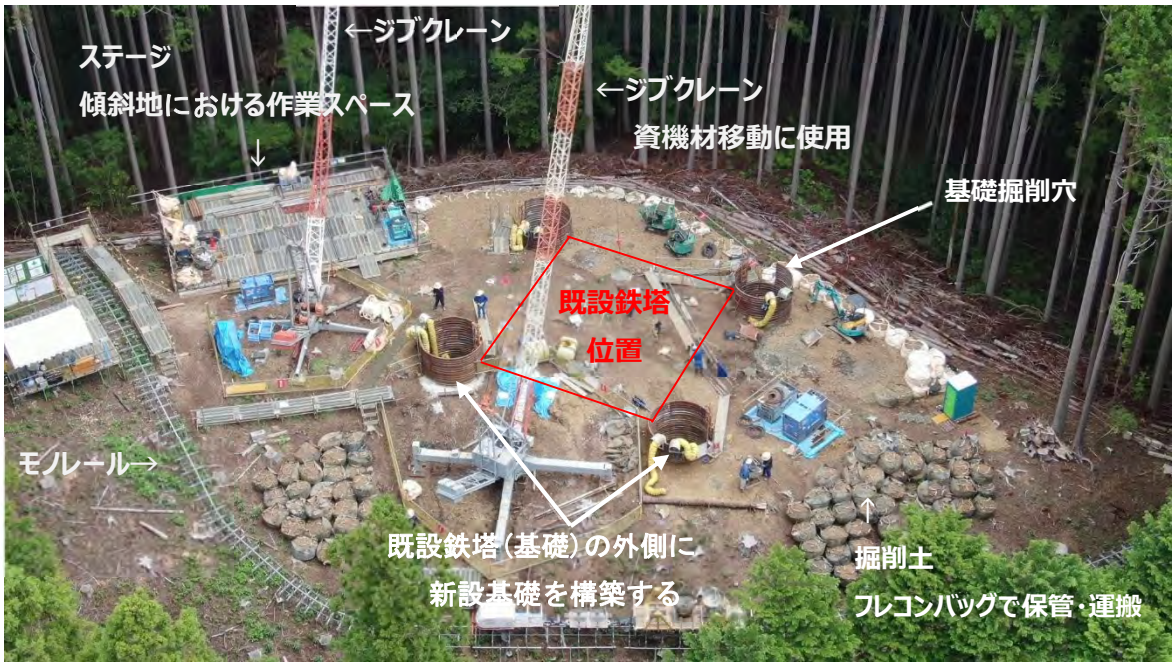
基礎工事は、ライナープレートを設置し土留めをしながら、掘削機と手掘りを併用して掘削を行う。深礎基礎は長さが数十メートルに及ぶことがあり、そのような場合は坑内に小型掘削機（電動バックホウ等）を使用して作業する。

掘削完了後、基礎と鉄塔部材を密接に連結するいかり材を底面に据え付けてから、鉄筋を配筋する。その後、型枠を設置し、コンクリートを打設する。コンクリートの打設は、配管による圧送や、モノレール、ヘリコプターにてコンクリートを運搬する。

コンクリートが固まったら、掘削した土を埋め戻して締め固めるとともに、基礎周辺を整地する。

また、資機材の移動や掘削土の搬出は、現場で組み立てたジブクレーンやカニクレーンを使用して移動を行う。

基礎工事（全景）



掘削工事

基礎の掘削は、ライナープレートによる土留めを設置しながら、人力及び小型掘削機（電動バックホウ）を使用して行う。また、掘削土の搬出や、資材の搬入は、ジブクレーンやカニクレーンにて行う。

鉄筋配筋・コンクリート打設

コンクリートの打設は、配管による圧送や、モノレール、ヘリコプターにてコンクリートを運搬し行う。

第 3 節　鉄塔組立工事

鉄塔組立工事は、山間地であることから、クライミングクレーンを使用し組立を行う。

クライミングクレーンの設置フローを図 4.2-4 に示す。

既設鉄塔の内側にクライミングクレーンの架台部・旋回体部・ジブ部を配置する。（図 4.2-4②）その後、マスト材を挿入しながらクライミングクレーンの旋回体部・ジブ部をせり上げる（図 4.2-4③）。クライミングクレーンが既設鉄塔より高くなった時点で、新設鉄塔の組立を行う（図 4.2-4④）。また、クライミングクレーンは地上に配置し（基礎の構築なし）既設鉄塔へ支線により支持し自立させる。

新設鉄塔は、クライミングクレーンの設置が完了後に、既設鉄塔の外側へ構築する包み込み工法で行う（図 4.2-2③・図 4-2-3）。

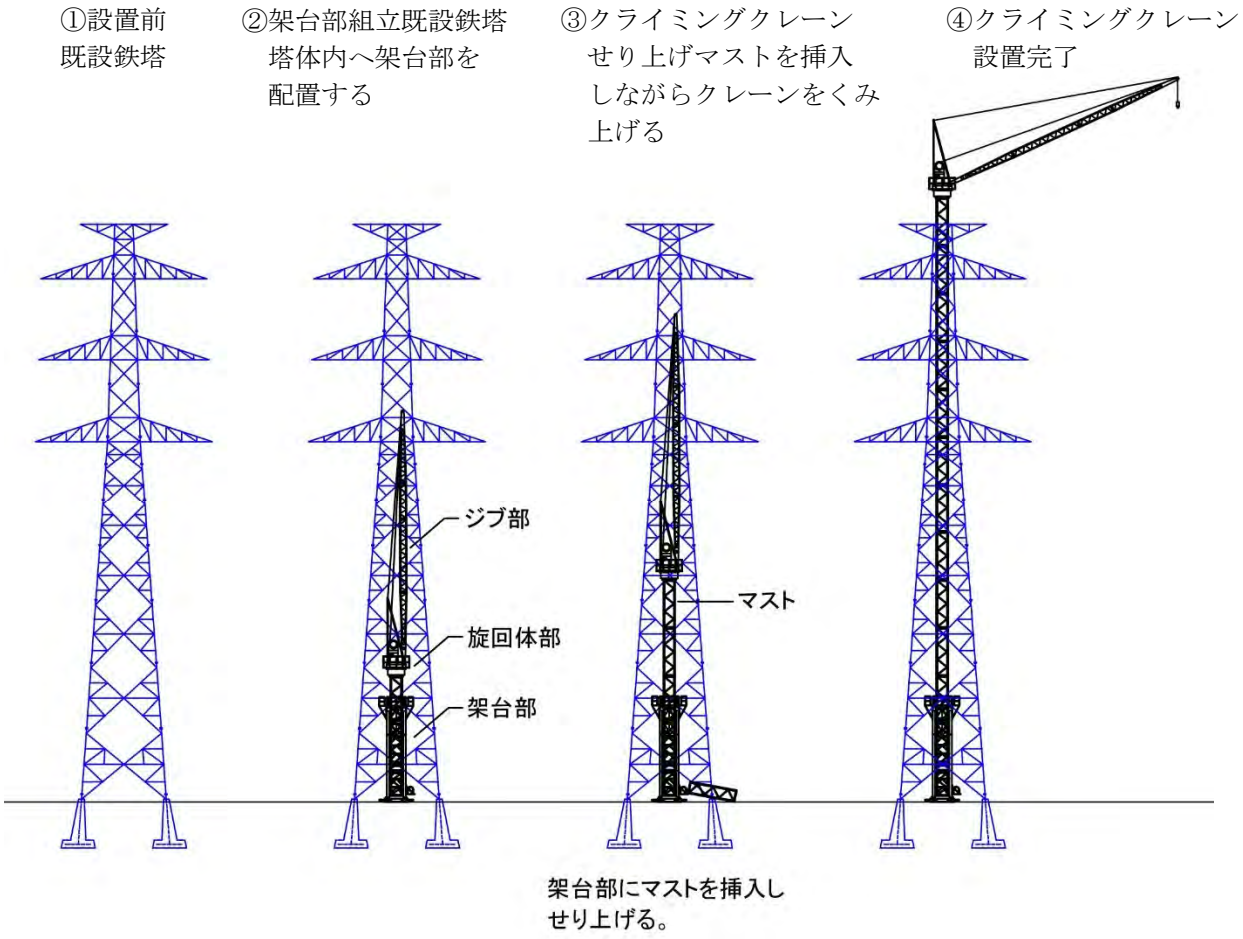


図 4.2-4　クライミングクレーン設置フロー

※補足

ジブ　　‥クレーンのアーム部

マスト　‥クレーンの柱

架台　　‥クレーンの最下部（マストのせり上げ装置部）

旋回体部‥ジブ部を回転させる装置

鉄塔組立工事

山間地での工事のため全てクライミングクレーンで鉄塔の組立を行う。(移動式クレーンの使用なし)

第 4 節　既設鉄塔撤去工事

既設鉄塔の解体・撤去フローは図 4.2-5 に示すとおりである。新設鉄塔組立後、クライミングクレーンの解体･撤去を行う（図 4.2-5②)。その後、既設鉄塔の解体・撤去を行うが、既設鉄塔は新設鉄塔の内側にあることから、既設鉄塔の解体は地上に配置したエンジンウインチにより、解体した鉄塔材をワイヤロープで既設鉄塔の内側に降ろしながら行う。エンジンウインチ及びワイヤロープの配置を図 4-2-5③に示す。

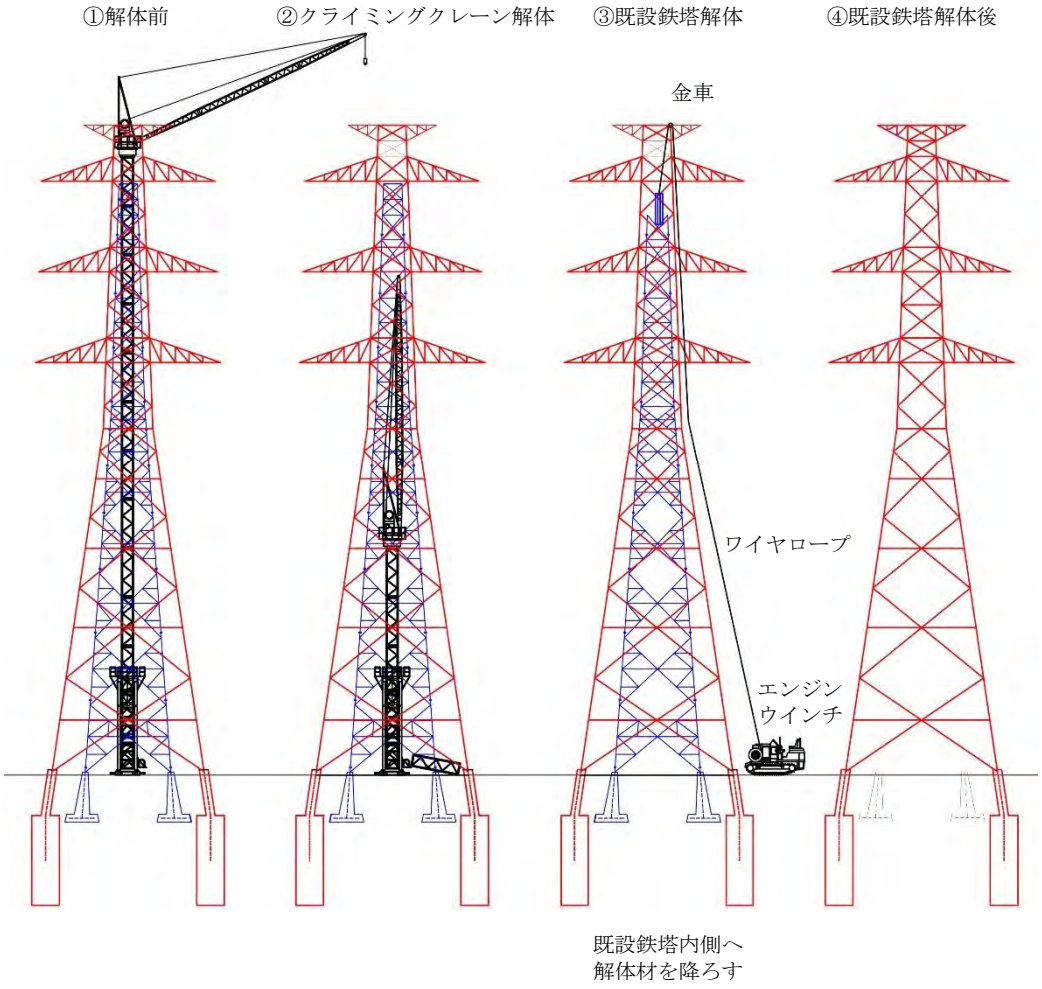
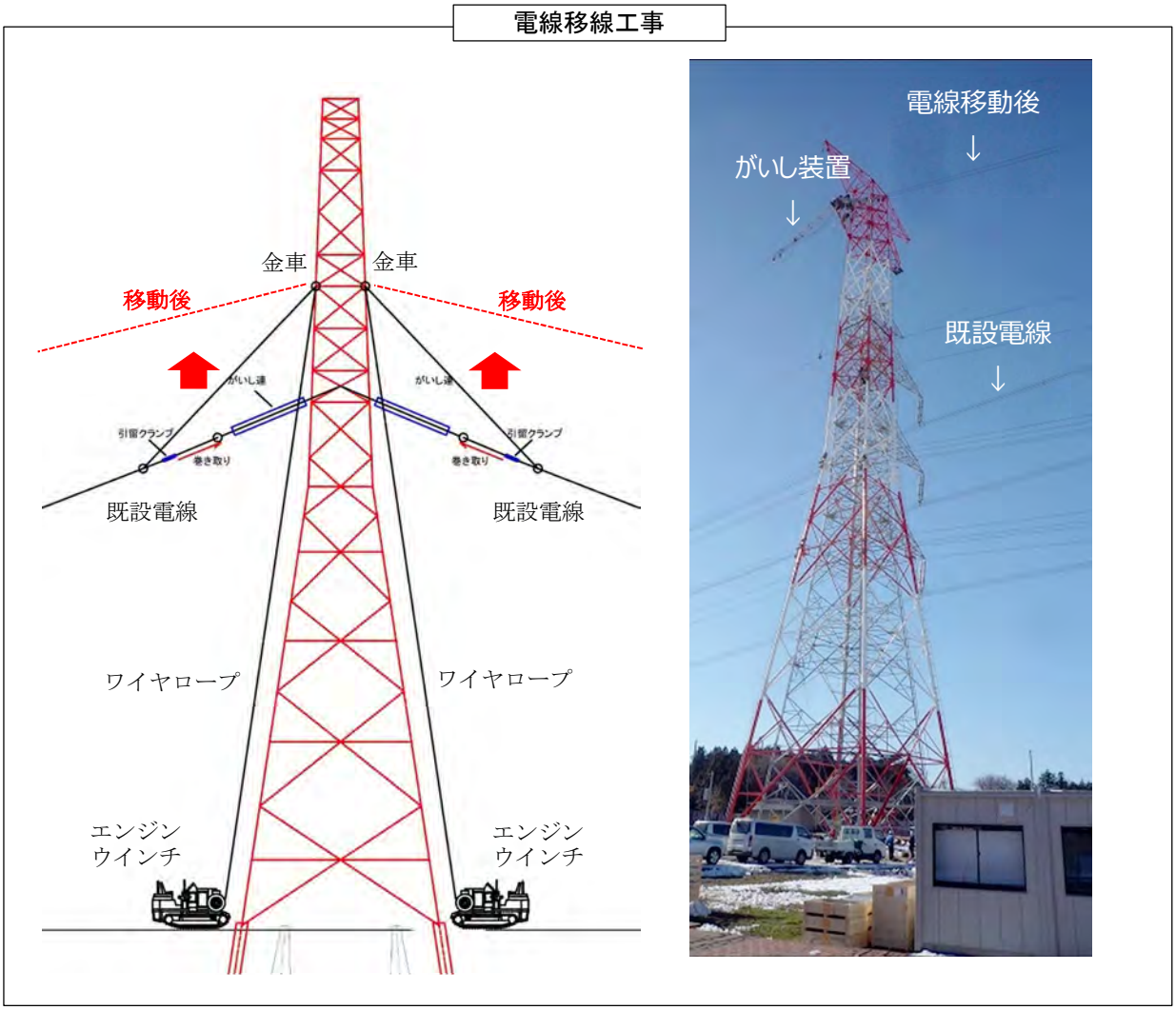


図 4.2-5　クライミングクレーン及び既設鉄塔解体・撤去フロー

第 5 節　電線移設工事

新設鉄塔組立･既設鉄塔撤去完了後、がいし装置を新設鉄塔に取付、塔体に仮留めしてある既設電線を新設鉄塔へ移動する。



注）写真は航空標識対象鉄塔（鉄塔高さ 60m以上）での工事写真である。

第 6 節　既設基礎部分撤去工事

既設基礎部分の撤去フローは図 4.2-6 に示すとおりである。撤去前に既設基礎の周囲の掘削をＧＬより１ｍの深さまで行う（図 4.2-6②）。その後、基礎コンクリートを掘削穴の地際まで撤去する（図 4.2-6③）。基礎コンクリート部撤去後、既設鉄塔の脚材（山形鋼材）をガス切断機により地際で切断する（図 4.2-6④）。ガス切断時は、防炎シート、及び消火器を配置し火災防止を行う。脚材切断後、埋め戻しを行う（図 4.2-6⑤）。

既存基礎は、新設鉄塔の敷地内に存置することとなり、設備の一部として継続管理していくことに加え、周辺地盤と一体的なものとして地盤の安定化に寄与（埋戻しによる地盤の土質・強度の変化による地盤の緩みを回避）していることから、部分撤去とする。

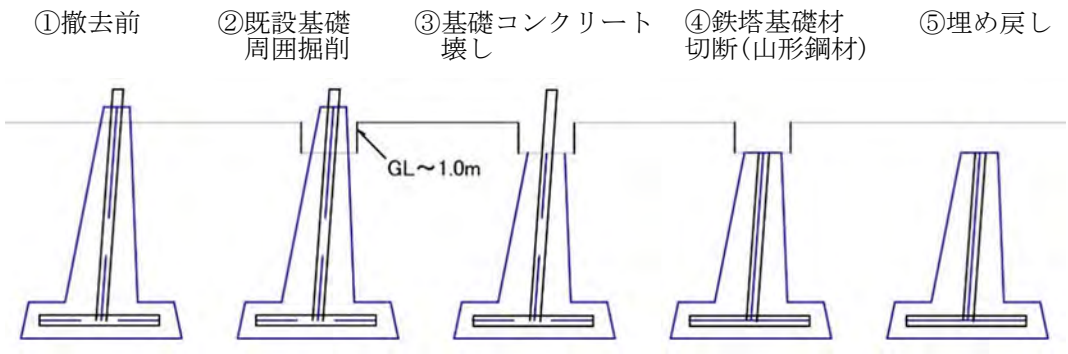


図 4.2-6　既設基礎部分撤去フロー

第 7 節　その他工事

基礎工事、鉄塔組立工事、既設鉄塔撤去工事、電線移線工事、既設基礎部分撤去工事の完了後、資機材運搬用に仮設したモノレール、ステージ、仮設道路、工事用地の仮囲いなどの撤去と原状復帰工事を行う。

原状復帰においては、必要に応じて斜面の安定化のための施工を行う。また、工事用地の原状復帰は基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年間経過しても更新されない場合や裸地化した場合は樹木等の植栽を行う。植栽する種は、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。

なお、実施区域の伐採を行う工事用地はすべて遷移後の二次林であり、人工林は存在しない。

斜面の安定化のための施工例

各工事工程の状況により土嚢やむしろを置き、天然更新を促進するための施工を行う。
（写真は基礎工事後）

樹木の植栽例（ヒノキ林の場合）

原状復帰は基本的に天然更新とするが、状況により植栽による復旧を行う。

第 4 章　使用建設機械等

第 1 節　使用建設機械及び台数等

鉄塔 1 基あたりに使用する建設機械及びその台数等は、表 4.2-3 に示すとおりである。

表 4.2-3　使用建設機械及び台数等（鉄塔 1 基あたり）

工事区分	建設機械	規　格	台数	期　間 (稼働時間)
仮設工事	バックホウ（0.25 ㎥）	機関出力 40kW	1	1～2 ヵ月 (9 時～17 時頃)
基礎工事	ジブクレーン（36t）	機関出力 32.4kW	2	7～8 ヵ月 (9 時～17 時頃)
	カニクレーン（2.9t クラス）	機関出力 15.2kW	2	
	バックホウ（0.25 ㎥）	機関出力 40kW	2	
	発電機	機関出力 60kW	1	
	発電機	機関出力 25kW	1	
	空気圧縮機	機関出力 84kW	1	
鉄塔組立・電線移線工事	ジブクレーン（36tm クラス）	機関出力 32.4kW	2	2～3 ヵ月 (9 時～17 時頃)
	カニクレーン（2.9t クラス）	機関出力 15.2kW	2	
	クライミングクレーン（20tm クラス）	機関出力 10kW	1	
	発電機	機関出力 60kW	1	
	発電機	機関出力 25kW	1	
	エンジンウインチ	機関出力 29kW	10	
既設鉄塔撤去工事	ジブクレーン（36t）	機関出力 32.4kW	1	1～2 ヵ月 (9 時～17 時頃)
	カニクレーン（2.9t クラス）	機関出力 15.2kW	1	
	発電機	機関出力 60kW	1	
	発電機	機関出力 25kW	1	
	エンジンウインチ	機関出力 29kW	1	
既設基礎部分撤去工事	バックホウ（0.25 ㎥）	機関出力 40kW	1	1～2 ヵ月 (9 時～17 時頃)
	空気圧縮機	機関出力 84kW	1	
	ガス切断機	－	1	
通期	モノレール（3t クラス）	機関出力 36.8kW	1	10～11 ヵ月 (9 時～17 時頃)
ヘリポート	バックホウ（0.45 ㎥）	機関出力 60kW	1	2～4 ヵ月 (9 時～17 時頃)

第 2 節　工事用車両

使用する工事用車両及びその台数等は表 4.2-4(1)～(3)に、工事用車両の走行ルートは、図 4.2-7(1)～(4)に示すとおりである。

なお、工事用車両及び台数、期間等は、全体の工事のうち資機材の運搬が最も多くなる期間のものを記載している。

表 4.2-4(1)　工事用車両及び台数等（No.24、No.25、No.28、No.29：鉄塔 1 基あたり）

区分	車種分類	台数/日	期　間 (稼働時間)
大型車	コンクリートポンプ車（10t）	1	作業日数 20 日間 (9 時～17 時頃)
	コンクリートミキサー車（10t）	6	
	ユニックトレーラー車（24t）	2	
	ユニック車（6t）	1	
	ダンプカー（大型）	2	
中型車	ユニック車（4t）	5	
	ダンプカー（4t）	4	
小型車	ダブルキャブ（1t）	2	
	通勤車両	2	

注）資機材の運搬が最も多くなる基礎工事のコンクリート打設時（排土）を記載。

表 4.2-4(2)　ヘリコプター運搬併用箇所の工事用車両及び台数等
（鉄塔 No.32、No.33：鉄塔 1 基あたり）

区分	車種分類	台数/日	期　間 (稼働時間)
小型車	ユニック車（2t）	12	作業日数 20 日間 (9 時～17 時頃)
	ダンプカー（2t）	10	
	通勤車両	2	

注 1）資機材の運搬が最も多くなる基礎工事の（排土）を記載。
注 2）鉄塔 No.32、No.33 の工事用地への道路は、小型車（2t クラス）までしか通行できない狭隘道路であるため、大型車の通行はない。

表 4.2-4(3)　工事用車両及び台数等（仮設ヘリポート）

区分	車種分類	台数/日	期　間 (稼働時間)
大型車	コンクリートポンプ車（10t）	1	作業日数 45 日間 (9 時～17 時頃)
	コンクリートミキサー車（10t）	6	
	ユニックトレーラー車（24t）	2	
	ユニック車（6t）	1	
	ダンプカー（大型）	2	
中型車	ユニック車（4t）	5	
	ダンプカー（4t）	4	
小型車	ダブルキャブ（1t）	2	
	通勤車両	2	

注）資機材の運搬が最も多くなる No.32 及び No.33 の基礎コンクリート打設（ヘリコプター運搬時）を記載。

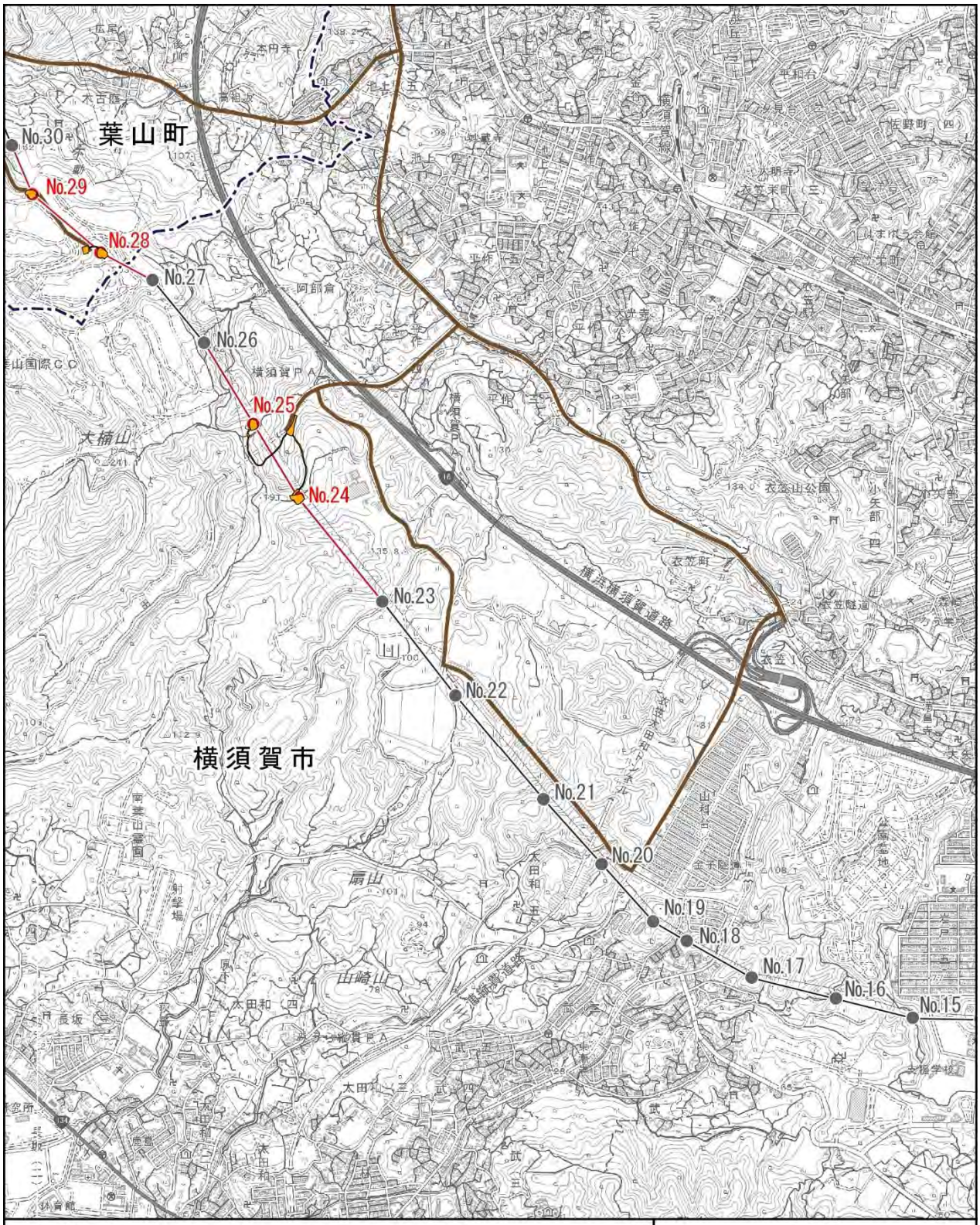


図 4.2-7(1)
工事用車両の走行ルート

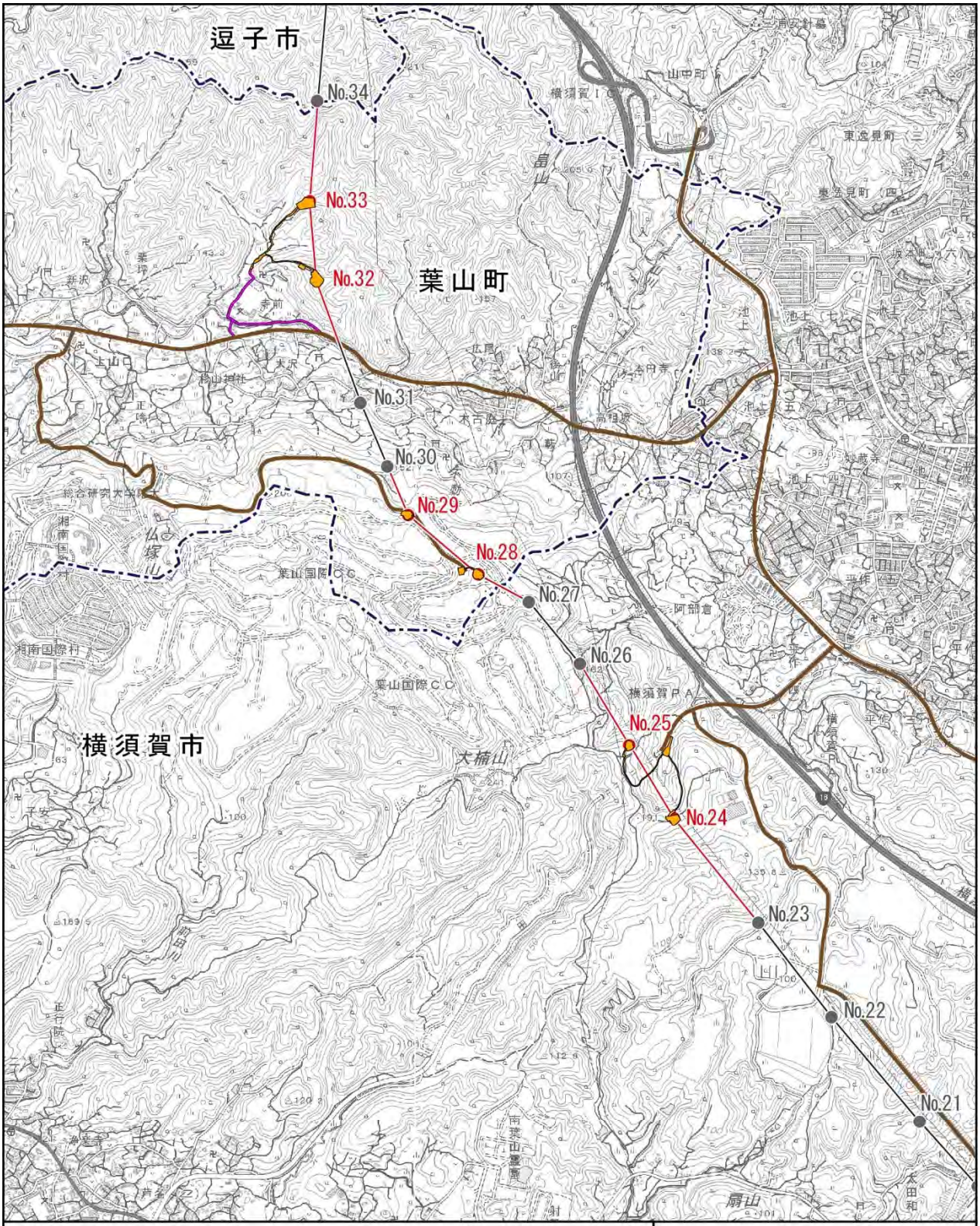


図 4.2-7(2)
工事用車両の走行ルート

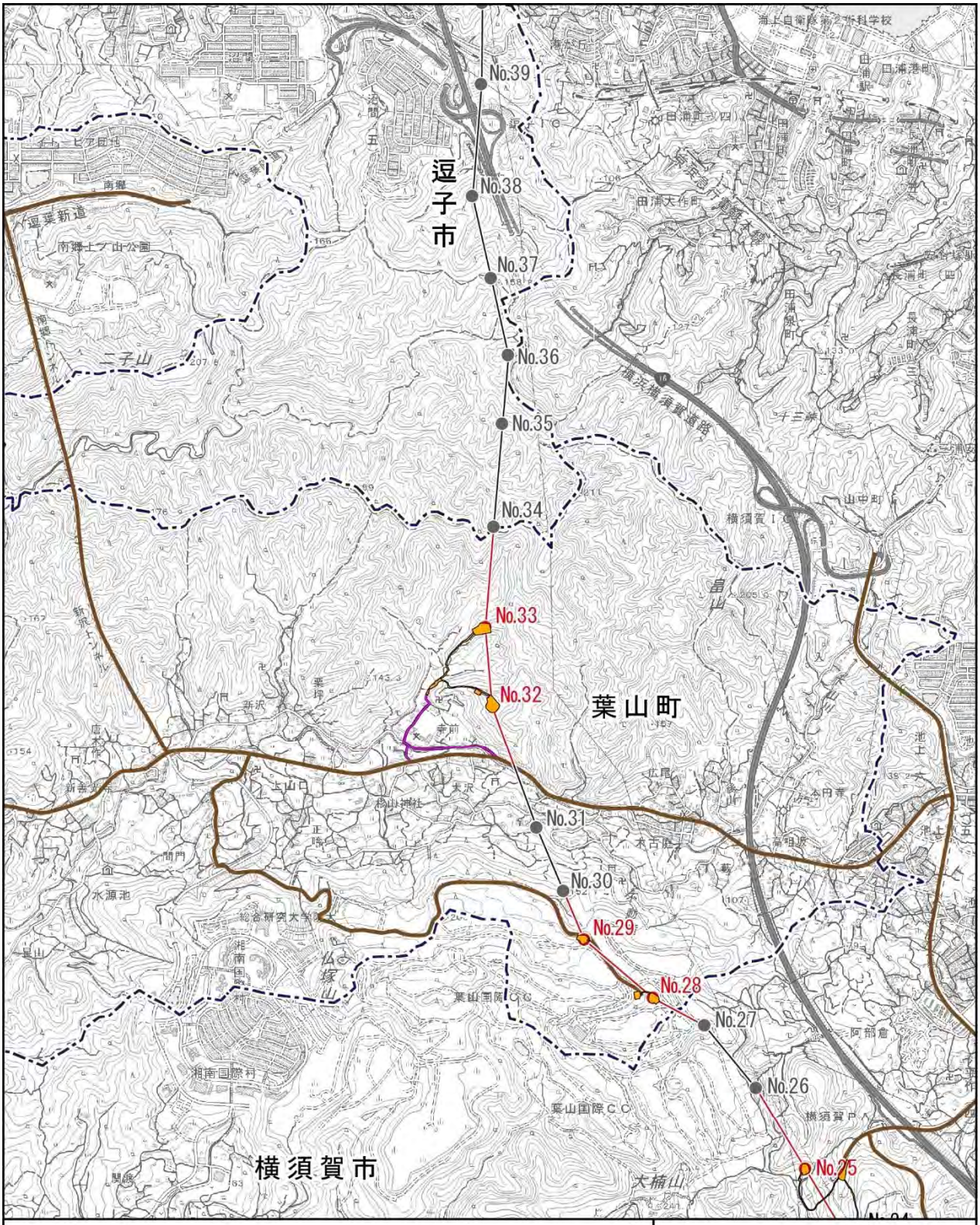


図 4.2-7(3)
工事用車両の走行ルート

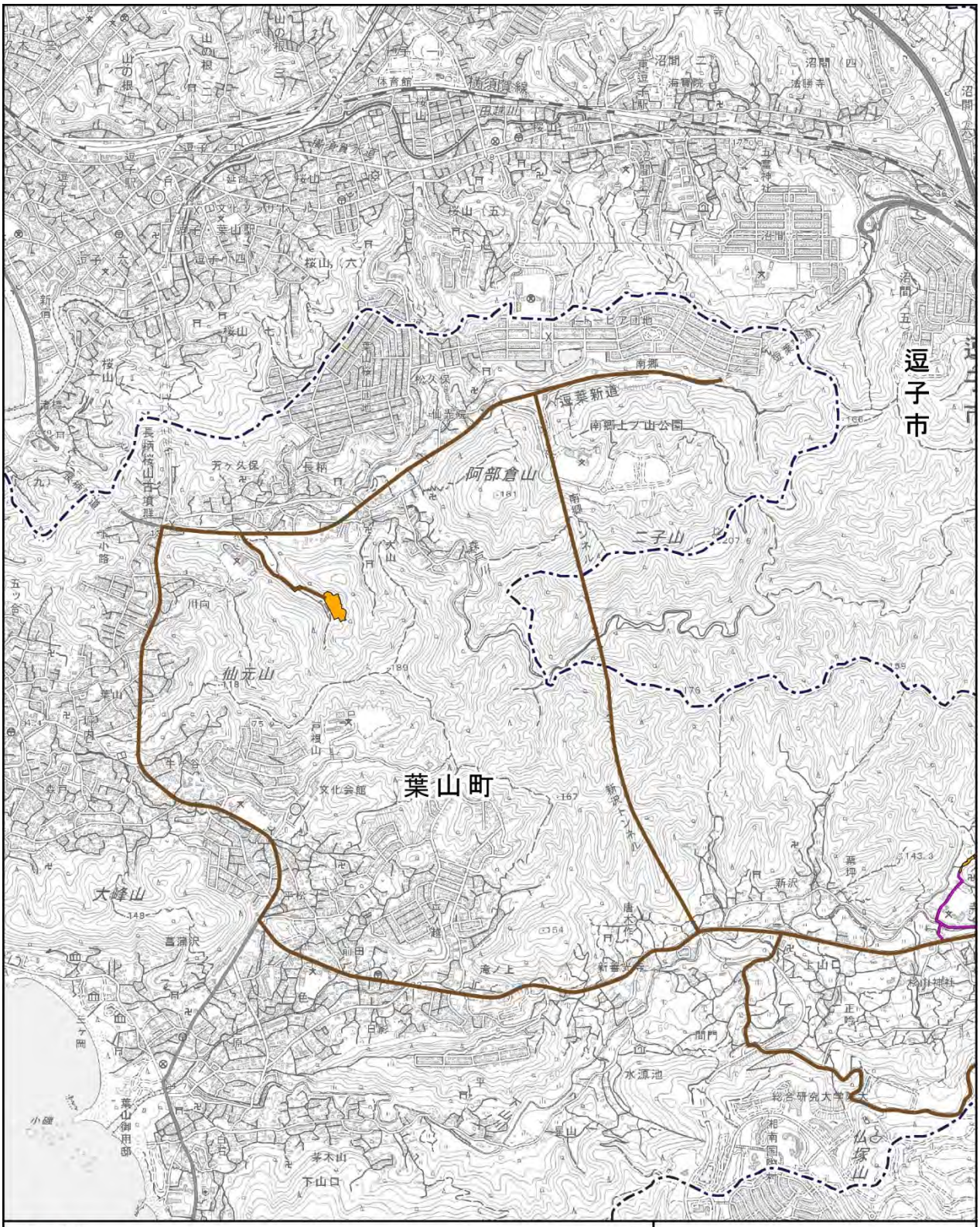


図 4.2-7(4)
工事用車両の走行ルート

第 3 節　資材運搬ヘリコプター

標準的な施工方法で実施した場合の鉄塔 1 基あたりに使用するヘリコプター及びその飛行回数等は表 4.2-5 に示すとおりである。飛行回数は 20～40 回であり、最大 40 回でそれを越えることはない。

飛行方法としては、仮設ヘリポートより飛び立ち、斜面沿いを徐々に上昇して尾根上まで高度を上げたのち、高度を保ったまま飛行する。その後、尾根からヘリコプターの荷降ろし場へ徐々に高度を下げて飛行し、資機材を運搬後、仮設ヘリポートへ同様のルートで飛行する。飛行高度は中間位置（二子山山系の谷上付近）で約250m程度、周辺の尾根付近からは50～100m程度の高さを当日の天候等により自主的に設定して運行する。

資材運搬は、事業区域の鉄塔 2 基（No.32、No.33）及び事業区域外の鉄塔 3 基（No.34、No.35、No.37）の鉄塔 5 基を対象に運行する。

表 4.2-5　ヘリコプターの種別及び飛行回数（鉄塔 1 基あたり）

機　種	ローター翼数		最大吊り下げ重量 (t)	飛行回数/日	期　間 (稼働時間)
	メイン	テール			
エアバス・ヘリコプターズ AS332	4 枚	5 枚	3.0	20～40 回	16 日 (4 時間/日)

ヘリコプターの飛行ルートは、計画当初の飛行ルートも含み図 4.2-8 に示した。

資材運搬ヘリコプターは、過去に使用した南郷上ノ山公園ヘリポートを使用して運行する計画としていたが、物輸量が多く公園使用制限期間が長期となることから、別所に新たに仮設ヘリポートを設置して運行する計画へ変更した。

また、ヘリコプターの飛行ルートを選定するにあたり配慮を行った事項は、表 4.2-6 に示すとおりである。ヘリコプターの飛行ルートの選定にあたっては、住宅地や学校等の公共施設やハイキングコースに配慮したコースを選定したほか、飛行ルートの周辺で重要な動物種の生息場所が確認されたことから、生息場所周辺の飛行を極力避けるコースへ変更を行った。

なお、ヘリポートや飛行ルートの変更に伴い、騒音・低周波音の調査において、予測地域や地点の変更の検討を行った。予測地域や調査地点は、以降の「別添 5-2 環境影響予測評価」の項に示した。

表 4.2-6　ヘリコプターの飛行ルートを選定するにあたり配慮を行った事項

配慮事項	配慮内容
住宅地や学校等の公共施設	住宅地や学校等の公共施設周辺を極力避けたコースを選定し、飛行高度も比較的高い位置として自主的に設定した。
ハイキングコース	主に尾根付近に存在するハイキングコースについて、上空を飛行するルートを可能な限り避け、谷の上空付近を主に通過するコースを選定した。また、ハイキングコース付近を飛行する場合は、可能な限り高度を上げるように自主的に設定した。
重要な動物種の生息場所	実施区域外の重要な動物種の生息場所に配慮した。

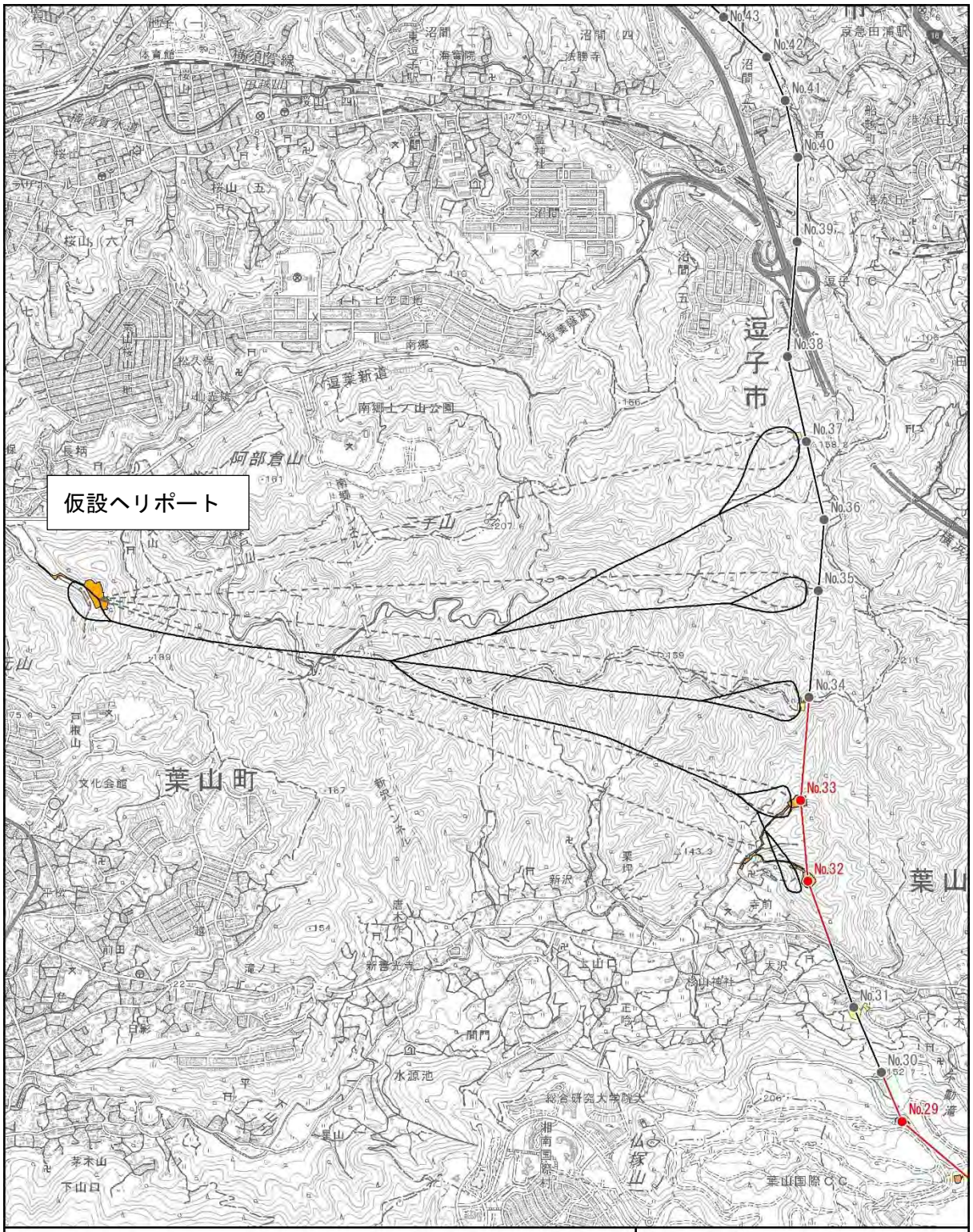


図 4.2-8
ヘリコプターの飛行ルート

第 4 節　運搬する資機材

実施区域の鉄塔へ運搬を行うモノレール及びヘリコプターで運搬する資機材は、表 4.2-7 に示すとおりである。

ヘリコプターの最大吊り下げ量、モノレールの最大積載量は３ｔであることから、資機材は３ｔ以下に分割して運搬を行う。ヘリコプター運搬を併用する鉄塔 No.32 及び No.33 は資機材積替え用地への車両運搬（２ｔ車級で行うため運搬重量 2t 以下長さ 6m 以下）に制約があることから、モノレールでは主に単体重量で２ｔ以下の物品で 6m以下の資機材を運搬し、ヘリコプターでは単体重量で最大吊り下げ重量（３ｔ）を超えない範囲で、2t 以上の物品・6m以上の資機材を運搬する。また、ヘリコプターによる運搬は、荷下ろし箇所でモノレールへ積替え、資機材を鉄塔工事用地へ運搬する。

鉄塔 No.24、No.25、No.29 は全ての資機材をモノレールで運搬する。

表 4.2-7　各運搬方法による運搬する資機材

■ヘリコプター及びモノレール併用箇所（鉄塔 No.32、No.33）

運搬種別	資機材の内容
モノレール	【主に単体重量で２ｔ以下の物品・6m以下の資機材】 鉄塔材、残土、ステージ等の資機材、カニクレーン、コンクリート、架線機械等
ヘリコプター	【単体重量で２ｔ以上の物品・6m以上の資機材】 鉄塔材、がいし装置、架線金具、コンクリート、鉄筋、ライナー、残土、ジブクレーン、掘削機械（バックホウ）、発電機、ステージ等の仮設機材、モノレール機材

注 1）運搬する資機材（２ｔ以上・6m以上の物品を除く）は、重複する場合がある。

■モノレールのみ使用箇所（鉄塔 No.24、No.25、No.29）

運搬種別	資機材の内容
モノレールのみ	鉄塔材、がいし装置、架線金具、コンクリート、鉄筋、ライナープレート、残土、ジブクレーン、掘削機械（バックホウ）、発電機、ステージ等の仮設機材、カニクレーン、エンジンウインチ等

注 2）コンクリートは、配管による圧送を計画する。

別添 4-3　その他の内容

第 1 章　廃棄物 ····· 4-3-1

第 2 章　発生土 ····· 4-3-1

第 1 章　廃棄物

建替により撤去される既設鉄塔の廃棄物量は表 4.3-1 に、仮設ヘリポートの仮設道路及び燃料保管場所付近の舗装の撤去に伴う廃棄物量は表 4.3-2 に示すとおりである。

なお、仮設ヘリポートの仮設材は全てリース品を使用するため、事業者が廃棄するものはない。また、山間地であり伐採木の搬出が容易でないことから、伐採木は現地置き（玉切り）とし、廃棄物処理は計画していない。

表 4.3-1　既設鉄塔の廃棄物量

種　別	廃棄物量（鉄塔別）						合計
	No. 24	No. 25	No. 28	No. 29	No. 32	No. 33	
鉄塔の鋼材（ｔ）	29	33	27	37	35	30	191
基礎コンクリート（ｔ）	5	5	5	7	7	7	36
その他（がいし等）（ｔ）	8	8	8	8	8	8	48

注）鉄塔の鋼材、その他（がいし等）については、産業廃棄物として処分せず、有価物として売却し、再利用している。

表 4.3-2　コンクリート舗装の撤去に伴う廃棄物量（仮設ヘリポート）

種　別	内訳	廃棄物量	合計
コンクリート舗装（ｔ）	仮設道路のコンクリート舗装の撤去	23.7	30.8
	燃料保管場所付近のコンクリート舗装の撤去	7.1	

第 2 章　発生土

標準的な施工方法で実施した場合の鉄塔基礎の掘削に伴う発生土は表 4.3-3 に、仮設ヘリポートの掘削に伴う発生土量は表 4.3-4 に示すとおりである。

発生土はフレコンバック等に入れ、速やかに場外へ搬出し、受け入れ基準の検査をした上で、法令等の基準を満たした受入れ先の基準に基づき適正に処分する。基準を超過した場合には、適切な処分場で処理を行う。

表 4.3-3　鉄塔基礎の掘削に伴う発生土

工事区分	発生土量（鉄塔別：㎥）						合計
	No. 24	No. 25	No. 28	No. 29	No. 32	No. 33	
基礎工事	195	395	630	675	200	245	2,340

表 4.3-4　工事用地の掘削に伴う発生土（仮設ヘリポート）

工事区分	内訳	発生土量（㎥）
仮設工事	地山の切土	約 513

別添 5　調査等の結果等

別添 5-1　評価項目の選定 ····· 5-1-1

別添 5-2　環境影響予測評価 ····· 5-2-1

別添 5-1　評価項目の選定

第 1 章　環境要因の把握 ····· 5-1-1

第 2 章　評価項目の選定 ····· 5-1-2

第１章　環境影響要因の把握

対象事業の実施に伴う環境影響要因は、表 5.1-1 に示すとおりである。

表 5.1-1　環境影響要因

時　期	環境影響要因
工事の実施	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） 仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） 建設機械の稼働 工事用車両の走行 資材運搬ヘリコプターの飛行
土地又は工作物の存在及び供用	送電線路の存在（鉄塔の存在含む） 送電線路の稼働

第 2 章　評価項目の選定

第 1 節　評価項目選定表

別添 3 及び別添 4 に示した対象事業の内容や実施区域周辺の環境特性等及び過去の送電線事業における事例を勘案し、表 5.1-2 に示すとおり評価項目の選定を行った。

表 5.1-2　評価項目選定表

区分			工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用	
環境影響要因 評価項目	評価細目		造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	建設機械の稼働	工事用車両の走行	資材運搬ヘリコプターの飛行	送電線路の存在	送電線路の稼働
大気汚染	大気汚染	二酸化硫黄							
		一酸化炭素							
		浮遊粒子状物質							
		二酸化窒素							
水質汚濁	水質汚濁								
土壌汚染	土壌汚染								
騒音・低周波音	騒音				○	○	○		
	低周波音						○		
振動	振動				○	○			
地盤沈下	地盤沈下								
悪臭	悪臭								
廃棄物・発生土	廃棄物		○	○					
	発生土		○	○					
電波障害	テレビジョン電波障害								
日照障害	日照障害								
反射光（太陽電池）	反射光								
気象	気象								
水象	河川								
	地下水								
	海域								
地象	傾斜地								
	地形・地質								
植物・動物・生態系	植物		○	○					
	動物		○	○	○	○	○		
	水生生物								
	生態系		○	○	○	○	○		
文化財	文化財								
景観	景観							○	
レクリエーション資源	レクリエーション資源		○		○	○	○		
温室効果ガス	温室効果ガス								
地域分断	地域分断								
安全	危険物等		○				○		
	交通								

注）表中の○は、評価項目として選定したことを示す。

第 2 節　評価項目の選定もしくは非選定の理由

表 5.1-2 において評価項目として選定もしくは非選定とした理由は、表 5.1-3(1)～(12)に示すとおりである。

表 5.1-3(1)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
大気汚染	大気汚染 ・二酸化硫黄 ・一酸化炭素 ・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事の実施に伴い、浮遊粒子状物質及び二酸化窒素が排出されるが、稼働台数が少なく、短期間であることから影響は軽微である。そのため、評価項目として選定しない。 なお、使用建設機械及び台数等は表 4.2-3 に、工事用車両及びその台数等は表 4.2-4(1)～(3)示すとおりである。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	ヘリコプターの飛行に伴い、大型車数十台分に相当する遊粒子状物質及び二酸化窒素が排出される。しかし、飛行時間は数時間と短く、かつ、短期間である。また荷物の運搬は、機外吊り下げで行う。連続で運搬するため、燃料を補給する場合を除いて基本的に着陸をしない。そのため、離発着の回数は少ない。 ヘリコプターは上空を高速で飛行するため、大気汚染物質は速やかに拡散され、著しい影響が想定されないことから、評価項目として選定しない。
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い大気汚染物質は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
水質汚濁	水質汚濁	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	既設鉄塔の工事用地から周辺河川への雨水の流入により、水質汚濁のおそれがあるが、各鉄塔の工事は余堀の少ない工法を選定し、仮設ステージで作業面積を確保した結果、改変面積は小さくなり、河川からも約150m以上離れていることから影響は軽微である。また、仮設ヘリポート付近には水路が存在するが、現時点では枯れ沢となっており、降雨があった場合のみ流水がある状況である。仮設ヘリポートも同様に工法を選定した結果、改変面積は小さく、影響は軽微である。これらのことから、評価項目として選定しない。 なお、工事用地の改変面積は表 4.1-5 に示すとおりである。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い水質汚濁は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(2)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
土壌汚染	土壌汚染	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事の施工に伴い土壌汚染物質は発生しない。また、鉄塔資材は工場で塗装済みの資材を現場搬入するため、現場での塗装は行われない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い土壌汚染物質は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
騒音・低周波音	騒音	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	造成等に伴う騒音の発生は、建設機械の稼働によるものであり、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	仮設ヘリポートの設置に伴う騒音の発生は、建設機械の稼働によるものであるが、短期間（45 日間）であり影響は軽微であると考えられるため、評価項目として選定しない。
			建設機械の稼働	○	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い騒音が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあることから、評価項目として選定する。 なお、仮設ヘリポートにおける建設機械の稼働及び工事用車両の走行は、短期間（45 日間）であり影響は軽微であると考えられるため、評価項目として選定しない。
			工事用車両の走行	○	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	○	資材運搬ヘリコプターの飛行に伴い騒音が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあることから、評価項目として選定する。
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い騒音は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(3)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
騒音・低周波音	低周波音	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	発破及び著しい低周波音が発生するコンクリート破砕プラント等を使用する工事は行わないことから低周波音の影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	○	選定の必要性を検討した結果、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがある可能性があることから、評価項目として選定する。
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い低周波は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
振動	振動	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	造成等に伴う振動の発生は、建設機械の稼働によるものであり、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	仮設ヘリポートの設置に伴う振動の発生は、建設機械の稼働によるものであるが、短期間（45 日間）であり影響は軽微であると考えられるため、評価項目として選定しない。
			建設機械の稼働	○	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い振動が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあることから、評価項目として選定する。 なお、仮設ヘリポートにおける建設機械の稼働及び工事用車両の走行は、短期間（45 日間）であり影響は軽微であると考えられるため、評価項目として選定しない。
			工事用車両の走行	○	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	資材運搬ヘリコプターは空中を飛行するため振動は発生しない。そのため、評価項目として選定しない。
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い振動は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(4)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
地盤沈下	地盤沈下	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	各鉄塔及び仮設ヘリポートの改変規模が小さいことから周辺地盤への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い地盤沈下は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
悪臭	悪臭	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事の施工に伴い悪臭は発生しないため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い悪臭は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
廃棄物・発生土	廃棄物	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	既設鉄塔の撤去に伴い廃棄物が発生するため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	○	仮設ヘリポートの仮設道路及び燃料置場のコンクリート舗装の撤去に伴い廃棄物が発生するため、評価項目として選定する。
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働、工事車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う廃棄物はごく少量であるため、評価項目として選定しない。
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い廃棄物は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(5)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
廃棄物・発生土	発生土	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	基礎の掘削に伴い発生土が発生するため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	○	切土に伴い発生土が発生するため、評価項目として選定する。
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働、工事車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行に伴い発生土は発生しないため、評価項目として選定しない。
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い発生土は発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
電波障害	テレビジョン電波障害	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事の施工に伴い電波障害は発生しないため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	本事業は既設鉄塔の建替事業である。既設鉄塔によるテレビジョン電波障害は発生していないことから、テレビジョン電波への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
日照障害	日照障害	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事中に日照障害を生じるような仮設物を設置しないことから周辺環境への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在による周辺環境への日照障害の影響は、鉄塔の大部分が空間であることから想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(6)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
反射光（太陽電池）	反射光	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事中において太陽光パネルの設置を計画していないため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	供用時において太陽光パネルの設置を計画していないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
気象	気象	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事中に風向及び風速に影響を生じるような仮設物を設置しないことから周辺環境への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在による風向及び風速への影響は、鉄塔の大部分が空間であることから想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
水象	河川	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	各鉄塔及び仮設ヘリポートの改変規模が小さいことから水象への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い周辺の河川への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
	地下水	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	各鉄塔及び仮設ヘリポートの改変規模が小さいことから地下水への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い地下水への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(7)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
水象	海域	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	実施区域及びその周辺において、海域は存在しないため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	
			送電線路の稼働	×	
地象	傾斜地	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	実施区域において、一部土砂災害警戒区域等の傾斜地が存在するが、本事業は既設鉄塔の建替事業であり、既設鉄塔及び仮設ヘリポートの傾斜地には、すでに災害防止のための擁壁や法面が設置されている。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	
			送電線路の稼働	×	
	地形・地質	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	実施区域において天然記念物や学術上等から注目される地形・地質は存在しないため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	
			送電線路の稼働	×	
植物・動物・生態系	植物	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	造成等や仮設ヘリポートの設置により、植物の生育環境に影響を与えるおそれがあるため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	○	
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働、工事車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行に伴い植物への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い植物への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(8)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
植物・動物・生態系	動物	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	造成等や仮設ヘリポートの設置により、動物の生息環境に影響を与えるおそれがあるため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	○	
			建設機械の稼働	○	建設機械の稼働、工事車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行により、動物の生息環境に影響を与えるおそれがあるため、評価項目として選定する。
			工事用車両の走行	○	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	○	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路は動物に影響を及ぼす稼働をしない。また、既設鉄塔の建替事業であることから、送電線路の存在により新たな動物への影響は生じないと考えられる。そのため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
	水生生物	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	既設鉄塔の工事用地から周辺河川への雨水の流入により、水質汚濁のおそれがあるが、各鉄塔の工事は余堀の少ない工法を選定し、仮設ステージで作業面積を確保した結果、改変面積は小さくなり、河川からも約150m以上離れていることから影響は軽微である。また、仮設ヘリポート付近には水路が存在するが、現時点では枯れ沢となっており、降雨があった場合のみ流水がある状況である。仮設ヘリポートも同様に工法を選定した結果、改変面積は小さく、影響は軽微である。これらのことから、評価項目として選定しない。 なお、工事用地の改変面積は表 4.1-5 に示すとおりである。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い水生生物への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(9)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
植物・動物・生態系	生態系	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	造成等及び仮設ヘリポートの設置により、生態系への影響を与えるおそれがあるため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	○	
			建設機械の稼働	○	建設機械の稼働、工事車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行により、生態系に影響を与えるおそれがあるため、評価項目として選定する。
			工事用車両の走行	○	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	○	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路は生態系に影響を及ぼす稼働をしない。また、既設鉄塔の建替事業であることから、送電線路の存在により新たな生態系への影響は生じないと考えられる。そのため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
文化財	文化財	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	実施区域において指定文化財は存在しない。また、周知の埋蔵文化財(馬の背山遺跡)が実施区域に近接するため、事前に葉山町へ詳細な位置関係の確認を行ったが、工事用地に含まれていないことを確認した。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(10)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
景観	景観	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	既設鉄塔の撤去に伴い、建替鉄塔よりも高い位置にクライミングクレーンが設置されるものの、その期間は 1 基あたり約 2 か月（建替鉄塔の組立工事も含む）と限定的であるため、併用しない箇所で1基あたり約20日間と限定的であるため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	仮設ヘリポートの設置において、景観を阻害するような仮設物を設置しないことから影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			建設機械の稼働	×	建替鉄塔の組立工事に伴い、建替鉄塔よりも高い位置にクライミングクレーンが設置されるものの、その期間は 1 基あたり約 2 か月（既設鉄塔の撤去も含む）と限定的であるため、評価項目として選定しない。
			工事用車両の走行	×	工事用車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行において、景観を阻害するような仮設物を設置しないことから影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	○	送電線路の存在により、景観が変化することが想定される。そのため、評価項目として選定する。
			送電線路の稼働	×	送電線路は景観に影響を及ぼす稼働をしないため、評価項目として選定しない。
レクリエーション資源	レクリエーション資源	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	レクリエーション資源として「大楠山ハイキングコース」が実施区域の近傍に存在する。工事の実施に伴い、ハイキング利用者に対する影響が想定されるため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	近傍には、影響を受けると考えられるレクリエーション資源が存在しないため、評価項目として選定しない。
			建設機械の稼働	○	レクリエーション資源として「大楠山ハイキングコース」が実施区域の近傍に存在する。工事の実施に伴い、ハイキング利用者に対する影響が想定されるため、評価項目として選定する。
			工事用車両の走行	○	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	○	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴うレクリエーション資源への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(11)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
温室効果ガス	温室効果ガス	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事の施工に伴い温室効果ガスが発生するが、稼働台数が少なく、短期間であることから影響は軽微である。そのため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い温室効果ガスは発生しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
地域分断	地域分断	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	工事中及び供用時において地域や交通経路の分断は発生しないため、評価項目として選定しない。 なお、ハイキングコースへの影響については、レクリエーション資源の項目で予測評価を行う。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	
		供用時	送電線路の存在	×	
			送電線路の稼働	×	

表 5.1-3(12)　評価項目の選定もしくは非選定の理由

評価項目	評価細目	区分	環境影響要因	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
安全	危険物等	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	○	既設鉄塔の撤去等の実施において危険物等を使用することが想定される。そのため、評価項目として選定する。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	仮設ヘリポートの設置、建設機械の稼働及び工事用車両の走行において危険物等は使用しないため、評価項目として選定しない。
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	
			資材運搬ヘリコプターの飛行	○	資材運搬ヘリコプターの飛行において危険物等を使用することが想定される。そのため、評価項目として選定する。
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い危険物等は使用しないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	
	交通	工事中	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	×	造成等、仮設ヘリポートの設置及び建設機械の稼働に伴い交通への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	×	
			建設機械の稼働	×	
			工事用車両の走行	×	工事用車両の走行は 25 台/日程度である。また、工事用車両の運転者には安全教育と安全運転の徹底を行う。なお、上山口小学校至近の道路では、原則登下校時間に工事用車両の通行を行わず、上山口小学校及び長柄小学校至近の道路では、交通誘導員を必要に応じて配置する対策を行うことから、交通安全への影響は想定されない。そのため、評価項目として選定しない。
			資材運搬ヘリコプターの飛行	×	ヘリコプターの飛行に伴う交通安全への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
		供用時	送電線路の存在	×	送電線路の存在及び稼働に伴い交通安全への影響は想定されないため、評価項目として選定しない。
			送電線路の稼働	×	

別添 5-2 環境影響予測評価

別添 5-2-1 調査結果

第 1 章　調査結果 ····· 5-2-1

第 1 節　騒音・低周波音 ····· 5-2-1

1. 騒音・低周波音 ····· 5-2-1

第 2 節　振動 ····· 5-2-10

1. 振動 ····· 5-2-10

第 3 節　廃棄物・発生土 ····· 5-2-16

1. 廃棄物 ····· 5-2-16

2. 発生土 ····· 5-2-18

第 4 節　植物・動物・生態系 ····· 5-2-19

1. 植物 ····· 5-2-19

2. 動物 ····· 5-2-85

3. 生態系 ····· 5-2-223

第 5 節　景観 ····· 5-2-232

1. 景観 ····· 5-2-232

第 6 節　レクリエーション資源 ····· 5-2-267

1. レクリエーション資源 ····· 5-2-267

第 7 節　安全 ····· 5-2-274

1. 危険物等 ····· 5-2-274

第１章　調査結果

第１節　騒音・低周波音

1. 騒音・低周波音

(1) 地形及び地質の状況

① 調査事項

調査事項は騒音及び低周波音の伝搬に係る地形、地表面、工作物の位置及び規模等の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、地形図等の既存資料により、実施区域とその周辺地域における地形、地表面、工作物の位置及び規模等の状況を把握した。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の地形分類図は、「別添 3-2 第 2 章第 3 節地象」（p.3-2-83）に示すとおりである。

実施区域のほとんどは大起伏丘陵地または小起伏山地に位置している。また、周辺地域には騒音及び低周波音の伝搬に影響を及ぼすような建築物や工作物はない。

(2) 土地利用の状況

① 調査事項

調査事項は特に静穏の保持を要する施設等の状況、用途地域の指定状況及びその他の土地利用の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、土地利用現況図等の既存資料により土地利用状況を把握した。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の静穏の保持を要する施設等の状況は「別添 3-2 第 1 章第 7 節環境保全に留意を要する施設」（p. 3-2-19）に、用途地域の指定状況は「別添 3-2 第 1 章第 4 節土地利用」（p. 3-2-6）に示すとおりである。

実施区域は全て市街化調整区域に指定されている。

(3) 騒音及び低周波音の発生源の状況

① 調査事項

ア 既存資料調査

調査事項は実施区域周辺の工場、事業場及び道路、鉄道等の主な騒音及び低周波音の発生源の状況とした。

イ 現地調査

調査事項は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1　道路交通の状況における調査事項

項目	調査事項
道路交通の状況	自動車交通量、走行速度、道路構造

② 調査方法

ア 既存資料調査

調査方法は、地形図、土地利用現況図等の既存資料により工場、事業場及び道路、鉄道等の主要な騒音の発生源の状況について把握した。

イ 現地調査

調査方法は、表 5.2-2 に示すとおりである。

表 5.2-2　道路交通の状況における調査方法

項目	調査方法
自動車交通量	通過台数をハンドカウンターにより時間別・方向別・車種別にカウントする方法（１時間毎）とした。車種分類は３車種（大型車、小型車、二輪車）とした。
走行速度	大型車及び小型車を対象に、方向別に一定区間を走行する時間をストップウォッチにより計測し、走行速度を算出した。
道路構造	交通量の状況を計測する断面における道路の車道、路肩、歩道等の幅員について、メジャー等で計測した。

③ 調査範囲及び地点

ア 既存資料調査

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

イ 現地調査

調査範囲及び地点は、表 5.2-3 に示すとおりである。

表 5.2-3　道路交通の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
自動車交通量	調査範囲及び地点は、図 5.2-2 に示す工事用車両の走行ルート上の 1 断面とした。
走行速度	
道路構造	

④ 調査時期

ア 既存資料調査

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

イ 現地調査

調査時期は表 5.2-4 に示すとおりである。

表 5.2-4　騒音及び低周波音レベルの状況の現地調査時期

項目	調査日
道路交通の状況	令和 6 年 2 月 14 日（水）6：00～22：00

⑤ 調査結果

ア 既存資料調査

実施区域及び周辺地域の土地利用現況図は、「別添 3-2 第 2 章第 4 節土地利用」（p.3-2-6）に、実施区域及び周辺地域における主要な道路及び鉄道の状況は「別添 3-2 第 1 章第 5 節交通」（p.3-2-10）に示すとおりである。

実施区域は山林、民間空地に位置しており、周辺地域に軽工業用地があるものの騒音の発生源となる工場、事業場はない。

主要な道路については、実施区域の東側に一般国道 16 号（横浜横須賀道路）が南北に通り、北側に逗子 IC 及び横須賀 IC、南側に衣笠 IC が位置している。また、東西方向の道路として、実施区域のほぼ中央に横須賀葉山線、南側に横須賀三崎線と三浦縦貫道路が通っている。

鉄道については、実施区域の北から東側にかけて、JR 東日本横須賀線及び京浜急行本線が通っている。鉄道駅は、横須賀線が東逗子、田浦、横須賀、衣笠の 4 駅が、京浜急行本線は、京急田浦、安針塚、逸見、汐入、横須賀中央の 5 駅が位置している。

イ 現地調査

(a) 自動車交通量

調査結果は、表 5.2-5 に示すとおりである。自動車交通量調査地点における大型車の走行台数は 822 台、小型車は 13,330 台で合計 14,152 台であった。また、二輪車の走行台数は 1,208 台であった。

表 5.2-5　自動車交通量調査結果

時間帯	至　木古庭駐在所前					至　不動橋				
	大型車（台）	小型車（台）	合計（台）	二輪車（台）	大型車混入率（%）	大型車（台）	小型車（台）	合計（台）	二輪車（台）	大型車混入率（%）
6:00-7:00	33	434	467	45	7.1	41	259	300	25	13.7
7:00-8:00	30	630	660	91	4.5	52	365	417	66	12.5
8:00-9:00	51	468	519	40	9.8	34	381	415	34	8.2
9:00-10:00	49	395	444	36	11.0	27	390	417	35	6.5
10:00-11:00	42	427	469	32	9.0	24	375	399	32	6.0
11:00-12:00	32	374	406	33	7.9	32	441	473	24	6.8
12:00-13:00	25	491	516	30	4.8	32	419	451	28	7.1
13:00-14:00	29	424	453	38	6.4	28	428	456	32	6.1
14:00-15:00	26	471	497	42	5.2	34	423	457	38	7.4
15:00-16:00	27	460	487	40	5.5	29	512	541	32	5.4
16:00-17:00	15	498	513	30	2.9	23	552	575	41	4.0
17:00-18:00	21	544	565	63	3.7	13	627	640	60	2.0
18:00-19:00	9	471	480	35	1.9	11	562	573	61	1.9
19:00-20:00	9	308	317	27	2.8	6	415	421	40	1.4
20:00-21:00	9	225	234	23	3.8	14	234	248	21	5.6
21:00-22:00	6	147	153	12	3.9	9	180	189	22	4.8
全時間帯合計	413	6,767	7,180	617	5.8	409	6,563	6,972	591	5.9

(b) 走行速度

調査結果は、表 5.2-6 に示すとおりである。

表 5.2-6　走行速度調査結果

調査地点	路線名	方向	平均速度（km/時）
No.A	横須賀葉山線	至　木古庭駐在所前	43.1
		至　不動橋	45.1

(c) 道路構造

調査結果は、図 5.2-1 に示すとおりである。

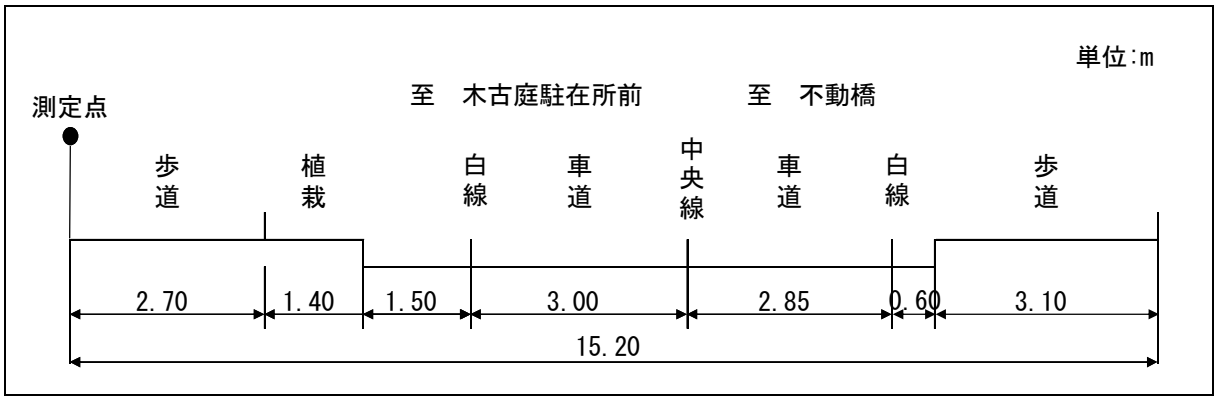


図 5.2-1　道路断面

(4) 騒音及び低周波音レベルの状況

① 調査事項

調査事項は、表 5.2-7 に示すとおりである。

表 5.2-7　騒音及び低周波音の状況における調査事項

項目	調査事項
騒音の状況	環境騒音、道路交通騒音
低周波音の状況	低周波音
道路交通の状況	自動車交通量、走行速度、道路構造

② 調査方法

調査方法は、表 5.2-8～表 5.2-9 に示すとおりである。

表 5.2-8　騒音の状況における調査方法

項目	調査方法
環境騒音	「騒音に係る環境基準について」（最終改正平成 24 年、環境省告示第 54 号）及び「JISZ8731 環境騒音の表示・測定方法」に準拠する方法
道路交通騒音	

表 5.2-9　低周波音の状況における調査方法

項目	調査方法
低周波音	低周波音の調査方法は、「低周波音の測定方法に関するマニュアル」（平成 12 年 10 月、環境庁大気保全局）に準拠する方法

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、表 5.2-10～表 5.2-11 に示すとおりである。

表 5.2-10(1)　騒音の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
環境騒音	調査地点は図 5.2-2 に示す 4 地点（No.1～No.4）とした。
道路交通騒音	調査範囲及び地点は、図 5.2-2 に示す工事用車両の走行ルート上の 1 地点（No.A）とした。

表 5.2-10(2)　環境騒音調査地点と選定根拠

No.	地　点	選定根拠
1	西光寺 （上山口小学校）	対象鉄塔（No.32、33）の付近の環境を代表する地点として、最寄りの環境保全に留意を要する施設（上山口小学校）付近とした。
2	長柄小学校	仮設ヘリポートの最寄りの環境保全に留意を要する施設であるため、選定した。
3	葉山中学校	仮設ヘリポート近くの環境保全に留意を要する施設であるため、選定した。
4	仮設ヘリポート	仮設ヘリポート付近の環境を代表する地点として選定した。

表 5.2-11　低周波音の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
低周波音	調査地点は図 5.2-2 に示す 4 地点（No.1～No.4）とした。

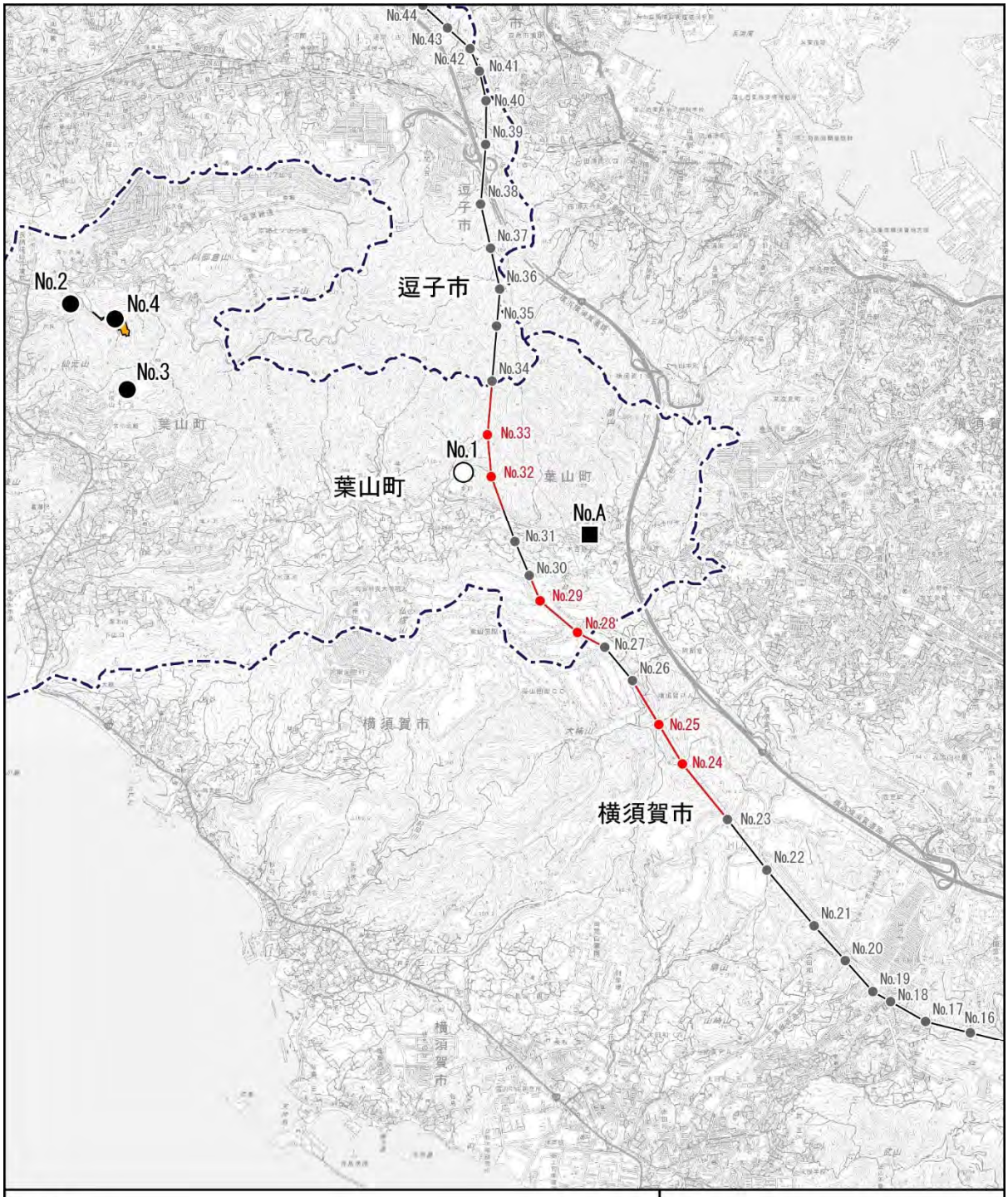
④ 調査時期

調査時期は表 5.2-12 に示すとおりである。

表 5.2-12　騒音及び低周波音レベルの状況の現地調査時期

項目		調査日
騒音の状況	環境騒音（No.1）	令和 6 年 2 月 14 日（水）6：00～22：00
	環境騒音(No.2～No.4)	令和 6 年 10 月 2 日（水）6：00～22：00
	道路交通騒音（No.A）	令和 6 年 2 月 14 日（水）6：00～22：00
低周波音の状況（No.1）		令和 6 年 2 月 14 日（水）6：00～22：00
低周波音の状況(No.2～No.4)		令和 6 年 10 月 2 日（水）6：00～22：00

注）No.2～No.4 地点については、ヘリポート位置の確定後に追加で調査を実施した。



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地（仮設ヘリポート）
- ○ 環境騒音・振動・低周波音調査地点
- ● 環境騒音・低周波音調査地点
- ■ 道路交通騒音・振動・交通量調査地点

N

1:50,000

0 0.5 1 1.5 2km

図 5.2-2 騒音・振動・低周波音調査地点

⑤ 調査結果

ア 騒音の状況

(a) 環境騒音

調査結果は、表 5.2-13 に示すとおりである。

表 5.2-13　環境騒音調査結果

区分	調査地点	騒音レベル L_{Aeq}（dB）
環境騒音	No.1	48
	No.2	54
	No.3	51
	No.4	49

注）表中の値は、昼間（6 時～22 時）の等価騒音レベルの平均値である。

(b) 道路交通騒音

調査結果は、表 5.2-14 に示すとおりである。

表 5.2-14　道路交通騒音調査結果

区分	調査地点	騒音レベル L_{Aeq}（dB）
道路交通騒音	No.A	67

注）表中の値は、昼間（6 時～22 時）の等価騒音レベルの平均値である。

イ 低周波音の状況

(a) 低周波音

調査結果は、表 5.2-15(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2-15(1)　低周波音圧レベル（1/3 オクターブバンド平坦特性）調査結果

調査地点	中心周波数（Hz）																			
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
No.1	60.0	58.9	57.0	55.6	54.3	52.7	51.5	50.1	48.5	47.1	47.6	49.6	49.1	49.7	50.3	48.8	48.5	47.0	46.3	45.8
No.2	74.9	74.1	72.4	71.2	69.8	68.0	66.4	64.7	63.0	61.5	59.5	57.3	55.5	53.6	52.2	52.0	52.1	51.8	51.0	49.5
No.3	70.3	68.8	67.0	65.5	63.5	61.6	59.3	57.2	54.9	53.2	50.5	48.1	45.8	45.3	45.5	46.2	47.2	46.2	46.5	45.7
No.4	67.4	66.6	65.2	63.5	62.4	60.7	59.0	58.3	55.6	54.3	52.8	51.0	51.6	51.0	50.7	51.4	51.9	51.7	51.0	49.3

表 5.2-15(2)　低周波音圧レベル（G 特性音圧レベル）調査結果

地点名	低周波音レベル（L_{Geq}）
No.1	62
No.2	69
No.3	60
No.4	65

第 2 節　振動

1. 振動

(1) 地形及び地質の状況

① 調査事項

調査事項は振動の伝搬に係る地形及び地質の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、地形図等の既存資料により、実施区域とその周辺地域における地形及び地質の状況を把握した。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の地形分類図は、「別添 3-2 第 2 章第 3 節地象」（p.3-2-82）に示すとおりである。

実施区域のほとんどは大起伏丘陵地または小起伏山地に位置している。また、周辺地域には振動の伝搬に影響を及ぼすような建築物や工作物はない。

(2) 土地利用の状況

① 調査事項

調査事項は特に静穏の保持を要する施設等の状況、用途地域の指定状況及びその他の土地利用の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、土地利用現況図等の既存資料により土地利用状況を把握した。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の静穏の保持を要する施設等の状況は「別添 3-2 第 1 章第 7 節 環境保全に留意を要する施設」(p.3-2-19) に、用途地域の指定状況は「別添 3-2 第 1 章第 4 節土地利用」(p.3-2-8) に示すとおりである。

実施区域は全て市街化調整区域に指定されている。

(3) 振動の発生源の状況

① 調査事項

ア 既存資料調査

調査事項は実施区域周辺の事業場及び道路、鉄道等の主な振動発生源の状況とした。

イ 現地調査

調査事項は、表 5-2-1 に示すとおりである。

② 調査方法

ア 既存資料調査

調査方法は、地形図、土地利用現況図等の既存資料により工場、事業場、道路、鉄道等の主要な振動の発生源の状況について把握した。

イ 現地調査

調査事項は、表 5-2-2 に示すとおりである。

③ 調査範囲及び地点

ア 既存資料調査

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

イ 現地調査

調査範囲及び地点は、表 5.2-3 に示すとおりである。

④ 調査時期

ア 既存資料調査

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

イ 現地調査

調査時期は表 5.2-4 に示すとおりである。

⑤ 調査結果

ア 既存資料調査

実施区域及び周辺地域の土地利用現況図は、「別添 3-2 第 2 章第 4 節土地利用」（p. 3-2-6）に、実施区域及び周辺地域における主要な道路及び鉄道の状況は「別添 3-2 第 1 章第 5 節交通」（p. 3-2-10）に示すとおりである。

実施区域は山林、民間空地に位置しており、周辺地域に軽工業用地があるものの振動の発生源となる工場、事業場はない。

主要な道路については、実施区域の東側には一般国道 16 号（横浜横須賀道路）が南北に通り、北側に逗子 IC 及び横須賀 IC、南側に衣笠 IC が位置している。また、東西方向の道路として、実施区域のほぼ中央に横須賀葉山線、南側に横須賀三崎線と三浦縦貫道路が通っている。

鉄道については、実施区域の北から東側にかけて、JR 東日本横須賀線及び京浜急行本線が通っている。鉄道駅は、横須賀線が東逗子、田浦、横須賀、衣笠の 4 駅が、京浜急行本線は、京急田浦、安針塚、逸見、汐入、横須賀中央の 5 駅が位置している。

イ 現地調査

(a) 自動車交通量

調査結果は、「別添 5-2-1 第 1 章第 1 節騒音・低周波音」（p. 5-2-1）に示すとおりである。

(b) 走行速度

調査結果は、「別添 5-2-1 第 1 章第 1 節騒音・低周波音」（p. 5-2-1）に示すとおりである。

(c) 道路構造

調査結果は、「別添 5-2-1 第 1 章第 1 節騒音・低周波音」（p. 5-2-1）に示すとおりである。

(4) 振動レベルの状況

① 調査事項

調査事項は、表 5.2-16 に示すとおりである。

表 5.2-16　振動レベルの状況における調査事項

項目	調査事項
振動の状況	環境振動、道路交通振動

② 調査方法

調査方法は、表 5.2-17 に示すとおりである。

表 5.2-17　振動の状況における調査方法

項目	調査方法
環境振動	「振動規制法施行規則」（昭和 51 年 11 月、総理府令第 58 号）に基づく道路交通の振動の限度に定められている測定法及び「JISZ8735 振動レベル測定方法」に定められている測定方法に準拠する方法
道路交通振動	

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、表 5.2-18 に示すとおりである。

表 5.2-18　振動の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
環境振動	調査地点は図 5.2-2 に示す 1 地点とした。
道路交通振動	調査範囲及び地点は、図 5.2-2 に示す工事用車両の走行ルート上の 1 地点とした。

④ 調査時期

調査時期は表 5.2-19 に示すとおりである。

表 5.2-19　振動レベルの状況の現地調査時期

項目		調査日
振動の状況	環境振動（No.1）	令和 6 年 2 月 14 日（水）6：00～22：00
	道路交通振動（No.A）	令和 6 年 2 月 14 日（水）6：00～22：00

⑤ 調査結果

ア 環境振動

調査結果は、表 5.2-20 に示すとおりである。

表 5.2-20　環境振動調査結果

区分	調査地点	振動レベル L_{10}（dB）
環境振動	環境振動調査地点	12

注）使用した振動レベル計(VM-55)の測定範囲は「25～129dB」なので、25dB 未満は参考値とした。

イ 道路交通振動

調査結果は、表 5.2-21 に示すとおりである。

表 5.2-21　道路交通振動調査結果

区分	調査地点	振動レベル L_{10}（dB）
道路交通振動	道路交通振動調査地点	35

ウ 地盤卓越振動数

調査結果は、表 5.2-22 に示すとおりである。

表 5.2-22　地盤卓越振動数調査結果

区分	調査地点	地盤卓越振動数
道路交通振動	道路交通振動調査地点	16.5

第 3 節　廃棄物・発生土

1. 廃棄物

(1) 再使用・再生利用、中間処理、最終処分の状況

① 調査事項

調査事項は下記に示す項目とした。

・廃棄物の再使用・再生利用及びその活用の状況

・廃棄物の中間処理の状況

・最終処分の状況

② 調査方法

調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査結果

「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）によると、神奈川県における建設工事の建設廃棄物の再資源化率等は表 5.2-23 に示すとおりである。

他の廃棄物の種類と比べ、廃石膏ボード及び廃塩ビ管については搬出量ベースの再資源化率が低い値となっている。

また平成 31 年 3 月 31 日現在における神奈川県の再資源化施設等の設置状況は、表 5.2-24 に示すとおりである。

表 5.2-23　神奈川県における建設廃棄物の再資源化率等

廃棄物	発生量（千 t）						搬出量ベース 再資源化等(縮減を含む)	
		現場内利用量	現場内減量化量	搬出量			量（千 t）	率（%）
				再資源化	減量化（縮減）	最終処分		
ｱｽﾌｧﾙﾄ塊	1,025	5.5	0.0	1,019.4	0.0	0.2	1,019.4	100
ｺﾝｸﾘｰﾄ塊	1,520	234	0.0	1,286	0.0	0.2	1,285.7	100
建設汚泥	551.4	5.1	0.4	445.0	59.8	41.1	504.8	92.5
混合廃棄物	101.3	0.0	0.0	72.7	9.4	19.2	82.1	81.0
廃プラ	21.9	0.0	0.0	12.4	5.3	4.2	17.7	80.7
紙くず	11.1	0.0	0.0	8.4	2.3	0.3	10.7	97.2
金属くず	111.5	0.0	0.0	106.2	0.0	5.3	106.2	95.2
廃石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	42.2	0.0	0.0	27.5	0.0	14.7	27.5	65.3
廃塩ビ管	1.5	0.0	0.0	0.8	0.0	0.6	0.9	58.8
建設発生木材	182.8	8.3	0.0	168.1	1.7	4.7	169.8	97.3

資料）「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）

注 1）建設発生木材は、伐木材・除根材等を含んだ値である。

注 2）四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

表 5.2-24　神奈川県における再資源化施設等の設置状況（平成 31 年 3 月 1 日現在）

設置場所	建設廃材施設		建設汚泥処理施設	建設発生木材処理施設		建設混合廃棄物
	破砕	再生 AS 合材		チップ化	焼却	選別・破砕・圧縮
神奈川県	24	8	1	8	1	5

資料)「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）
注）再生 AS 合材：再生アスファルト合材の製造施設を示す。

2. 発生土

(1) 発生土の処分施設の状況及び発生土の利用先の状況

① 調査事項

発生土の処分施設の状況及び発生土の利用先の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査結果

「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）によると、神奈川県の建設工事における建設発生土は 5,088.2 千 m^3 であり、建設発生土の搬出及び土砂の利用状況率は表 5.2-25 に示すとおりである。

また、神奈川県における建設発生土の利用促進施設は表 5.2-26 に示すとおりである。

表 5.2-25　神奈川県における建設発生土の搬出及び土砂の利用状況

区分	① 場外搬出量（千 m^3）									④現場内利用量（千 m^3）	有効利用率（%）
	② 有効利用量						③ その他				
	公共工事等での利用	売却	他の工事現場（海面）	採石場・砂利採取等跡地復旧	最終処分場覆土	公共工事以外の有効利用	廃棄物最終処分場（覆土以外）	ｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ等再利用無し	土捨場・残土処分場		
建設工事	297.6	0.0	8.9	690.4	16.1	1,590.6	2.7	20.1	471.7	1,990.1	90.3

資料）「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）

注 1）有効利用率の算出方法は下記に示すとおりである。

（（②+④）／（①＋④））×100

注 2）四捨五入の関係上、合計値があわない場合がある。

表 5.2-26　神奈川県における建設発生土の利用促進施設設置状況

設置場所	ストックヤード	土質改良プラント	建設発生土受入地
神奈川県	2	1	6

資料）「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）

第 4 節　植物・動物・生態系

1. 植物

(1) 植物相

① 調査事項

種子植物及びシダ植物とした。

② 調査方法

調査範囲内を踏査して目視観察により確認した植物の種名等を記録した。踏査中に重要な植物種が確認された場合には、種名、確認位置、生育状況等を記録した。また、植物種は移動能力を持っていないため、実施区域内及び外（工事用地の内・外：p.4-1-7～p.4-1-9 参照）で分けて記録して整理した。そのほか、「(2) 植生」の「イ 群落構造」のコドラート調査で確認された種についても、植物相に含めて記録した。

なお、実施区域近辺の二子山山系では、三浦半島の二子山山系の自然を守り、地元住民、利用者、行政、土地所有者、市民団体等が協力し、人と自然のバランスの良い関係を構築し、次世代へ伝えてゆくことを目的として設立された「二子山山系自然保護協議会」が保全活動を行っている。その活動プロジェクトの一環で、実施区域の鉄塔 No.32 及び No.33 周辺に存在する葉山町上山口寺前谷戸地区では、「寺前谷戸復元プロジェクト」を立ち上げて、自然環境の保全活動の一環で、通年動植物の記録を行っている。本事業では事業計画の説明を行う際に、本団体が寺前谷戸地区に生息・生育していると認識している植物及び動物全般について、聞き取り調査を行い、その結果も調査結果として反映した。

③ 調査範囲及び地点、踏査ルート

調査範囲及び地点、踏査ルートは、図 5.2-3(1)～(2)に示すとおりである。東京南線 3,4 号線沿いの実施区域及びその周辺約 500m、仮設ヘリポートの工事用地及びその周辺約 200m の範囲とした。また、植生（p.5-2-45）のコドラート調査地点は各植生が典型的に発達する群落内に複数箇所設定した。そのほか、実施区域外の鉄塔である No.34 から No.37 付近にかけての葉山近郊緑地保全区域（森戸川源流域）を重要な区域として一体的に扱い、調査範囲に追加した。

なお、両実施区域で調査範囲が異なる理由は、以下に示すとおりである。

＜植物の調査範囲の設定理由＞

実施区域	範囲	理由
東京南線 3,4 号線	実施区域及び その周辺約 500m	実施計画書の段階では事業計画が定まっておらず、工事に係る運搬路や基地等が送電線から離れた位置に計画することも想定し、500mとやや広い範囲で設定した。
仮設ヘリポート	実施区域及び その周辺約 200m	ヘリポート候補地として選定した時点で、改変範囲はほぼ定まっており、運搬路も既存の谷内の限定的な面整備であることから、「面整備事業環境影響評価マニュアル（面整備事業環境影響評価研究会　平成 11 年)」を参考にして、植物の調査範囲を 200mとして設定した。

④ 調査時期、期間又は時間帯

植物相の調査実施日は表 5.2-27(1)～(2)に、聞き取り調査実施日は表 5.2-28 に示すとおりである。

表 5.2-27(1)　植物相調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

調査項目	調査時期	調査期日
植物相 （種子植物及びシダ植物）	早春季	令和 6 年 3 月 25 日～27 日、4 月 1 日～2 日
	春季	令和 6 年 5 月 9 日～10 日、15 日～17 日
	夏季	令和 6 年 7 月 8 日～12 日
	秋季	令和 6 年 10 月 7 日～11 日

表 5.2-27(2)　植物相調査時期及び調査期日（仮設ヘリポート）

調査項目	調査時期	調査期日
植物相 （種子植物及びシダ植物）	秋季	令和 6 年 11 月 6 日
	早春季	令和 7 年 3 月 21 日
	春季	令和 7 年 5 月 8 日
	夏季	令和 7 年 7 月 22 日

表 5.2-28　聞き取り調査実施期日

項　目	調査方法	聞き取りを行った団体	期日
植物相	聞き取りによる 生育情報確認	二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト 代表者	令和 6 年 9 月 25 日（水） 14：00～15：40

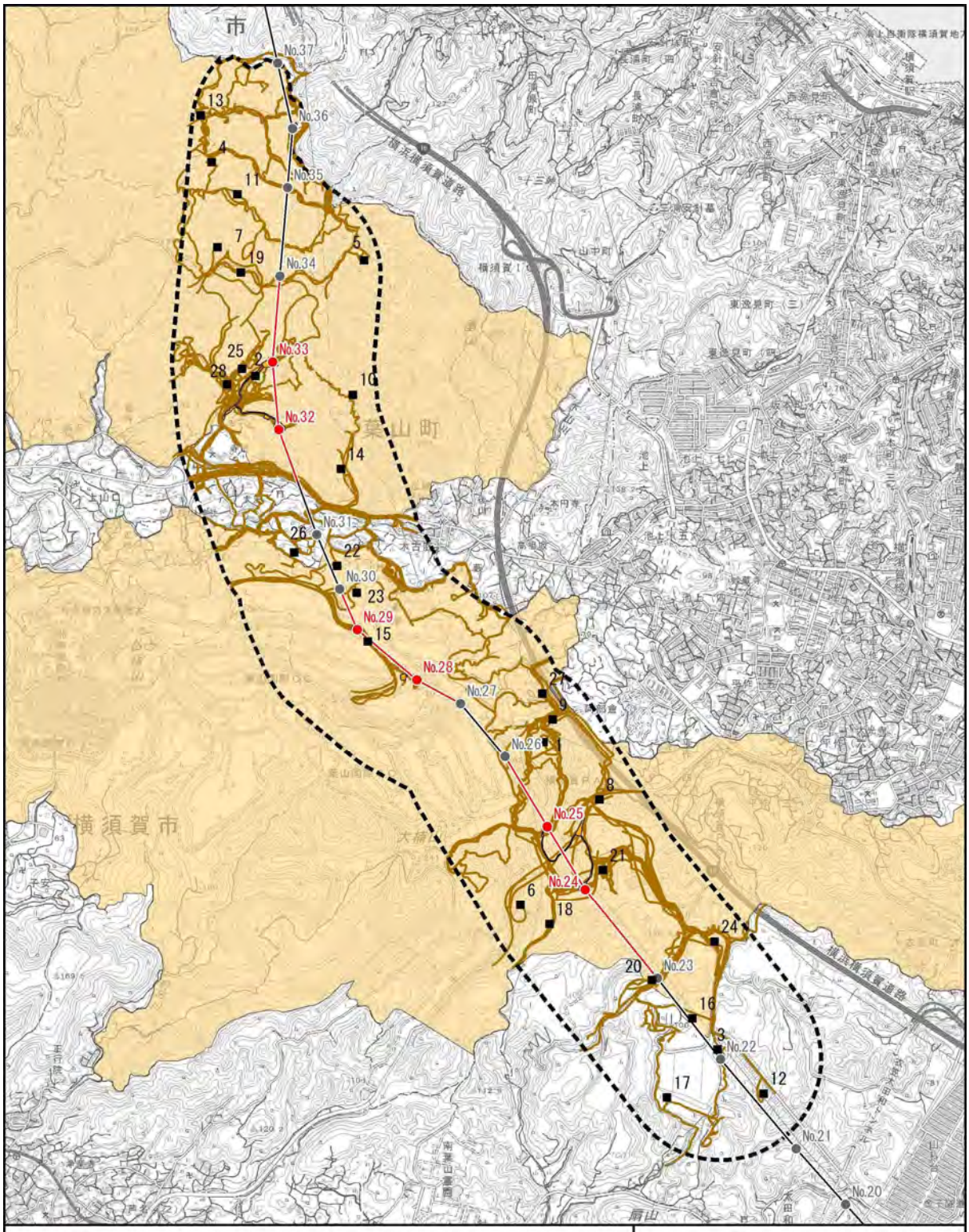


図 5.2-3(1)　植物の調査範囲及び地点、踏査ルート

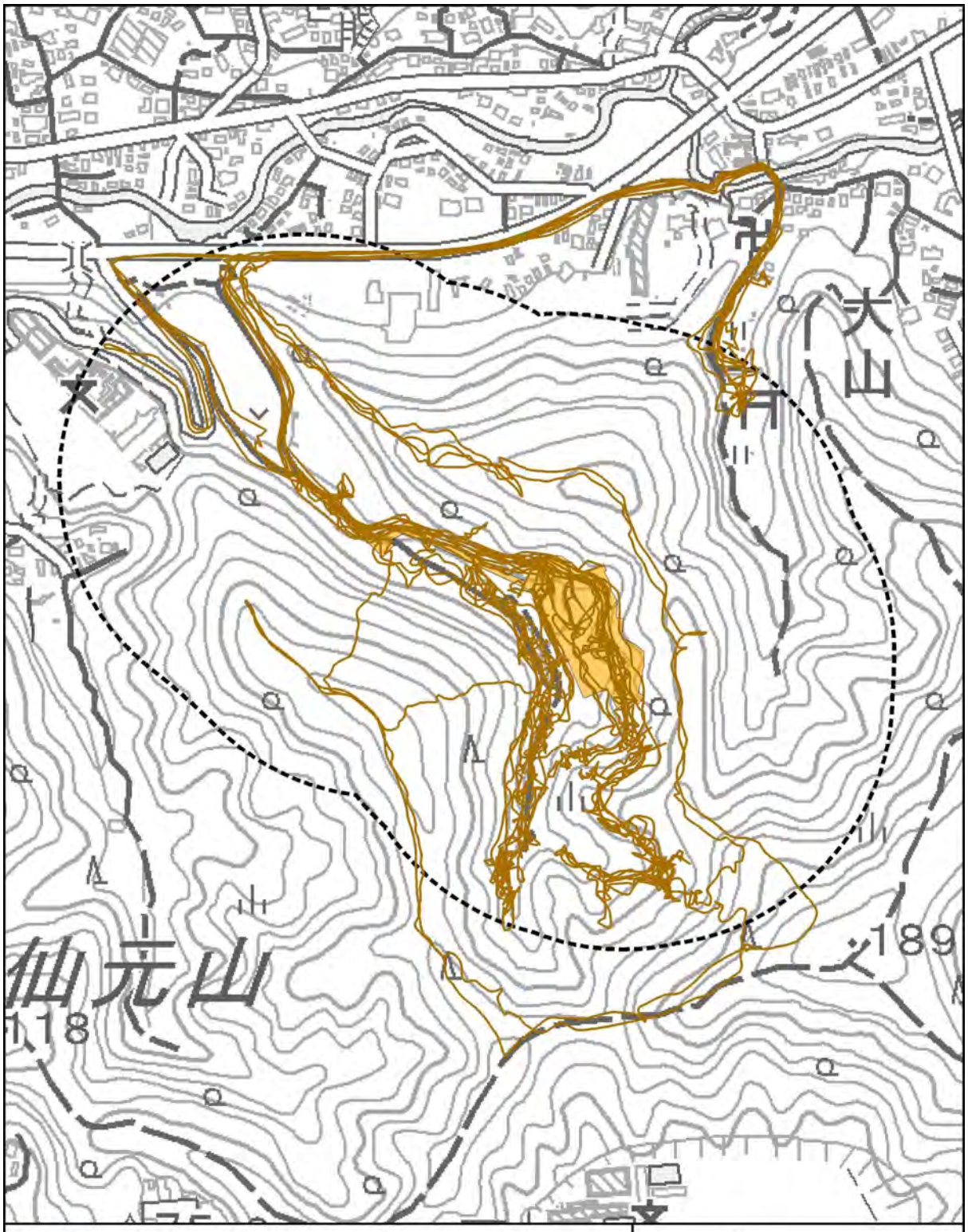


図 5.2-3(2)　植物の調査範囲
及び地点、踏査ルート

⑤ 調査結果（現地調査）

現地調査により確認された植物種の分類別確認種数は表 5.2-29 に、植物種は表 5.2-30(1)～(18)に示すとおりである。

現地調査の結果、135 科 891 種の植物種が確認された。分類別では、シダ植物が 16 科 84 種、裸子植物が 5 科 11 種、被子植物が 114 科 796 種であった。

調査地域は神奈川県東部の三浦半島北部に位置し、標高約 50ｍから約 210ｍまでの地域であり、植生の垂直分布から見ると暖帯低地に相当するが、森戸川源流域、阿部倉周辺や入り組んだ谷では暖帯山地の種も見られた。

調査地域は管理放棄された環境が多く、林床にはリョウメンシダ、アズマネザサ、アオキが繁茂する箇所が目立ったが、オリヅルシダ、オオバイボタ、トベラといった沿海地性の種、森戸川源流域付近ではイワトラノオ、イワギボウシ、ヒメウツギ、イタヤカエデ、ケイワタバコ等の山地性の種が見られるなど、比較的多様の高い植物相であった。

表 5.2-29　植物の分類別確認種数

分類		確認時期								合計	
		早春季		春季		夏季		秋季			
		科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数
シダ植物		13	62	12	62	15	71	15	61	16	84
裸子植物		4	7	5	8	5	11	5	8	5	11
被子植物	基部被子植物	1	2	1	2	1	1	1	2	1	2
	ー	1	1	1	2	1	3	1	1	1	3
	モクレン類	4	9	4	9	4	10	4	9	4	10
	単子葉類	16	77	18	135	21	129	20	119	22	203
	真正双子葉類	65	297	79	420	84	435	82	410	86	575
合計		104 科	455 種	120 科	638 種	131 科	660 種	128 科	610 種	135 科	891 種

注 1）植物の分類体系は、国際基準の分類体系 APGⅢに準拠した。
注 2）表中の「ー」は、被子植物の分類の中で他の分類に属さないもの（センリョウ目）を示す。

表 5.2-30(1)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	ヒロハノトウゲシバ						○		
2		イワヒバ科	イヌカタヒバ		○				○		○
3		トクサ科	スギナ	○	○	○	○	○	○	○	○
4		ハナヤスリ科	オオハナワラビ	○	○	○	○	○	○	○	○
5			フユノハナワラビ		○						○
6		ゼンマイ科	ゼンマイ			○	○	○	○	○	○
7		コケシノブ科	アオホラゴケ		○		○				
8			ウチワゴケ		○				○		○
9			セイタカホラゴケ		○		○		○		○
10		カニクサ科	カニクサ	○	○	○	○	○	○	○	○
11		ホングウシダ科	ホラシノブ								○
12		コバノイシカグマ科	イヌシダ					○			
13			オウレンシダ				○				
14			イワヒメワラビ	○		○	○	○		○	
15			フモトシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
16			ケブカフモトシダ	○							○
17			フモトカグマ		○				○	○	○
18			ワラビ				○				
19		イノモトソウ科	ホウライシダ				○		○		○
20			ハコネシダ		○	○	○		○	○	
21			イヌイワガネソウ	○					○		
22			イワガネゼンマイ		○	○	○		○		○
23			イワガネソウ	○	○	○	○	○	○		○
24			タチシノブ	○	○		○		○	○	○
25			オオバノイノモトソウ	○	○	○	○	○	○		○
26			イノモトソウ		○	○	○	○	○	○	○
27			マツサカシダ	○	○		○		○		○
28			アマクサシダ		○	○			○		
29			オオバノアマクサシダ								○
30			オオバノハチジョウシダ		○		○		○		○
31			ナチシダ		○		○		○		○
32		チャセンシダ科	コバノヒノキシダ				○				○
33			トラノオシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
34			イワトラノオ		○				○		○
35		ヒメシダ科	ヒメワラビ				○	○	○		○
36			ミドリヒメワラビ			○	○	○	○	○	○
37			ゲジゲジシダ（広義）		○	○	○	○	○	○	○
38			ホシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
39			ハシゴシダ		○				○		
40			ハリガネワラビ		○						
41			ヤワラシダ			○		○			
42			ミゾシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
43		シシガシラ科	コモチシダ		○				○		○
44		メシダ科	イヌワラビ	○	○	○	○	○	○	○	○
45			シケチシダ					○	○		
46			ヤマイヌワラビ		○		○				
47			ホソバシケシダ				○	○	○	○	○
48			セイタカシケシダ				○		○		
49			シケシダ		○	○	○	○	○	○	○
50			ヘラシダ		○						

表 5.2-30(2)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
51	シダ植物	メシダ科	フモトシケシダ			○	○	○	○		○
52			ヒカゲワラビ				○		○		○
53			ノコギリシダ				○				
54		オシダ科	ホソバカナワラビ		○		○		○		○
55			ハカタシダ						○		
56			コバノカナワラビ		○				○		
57			リョウメンシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
58			ナガバヤブソテツ	○	○	○	○	○	○		○
59			オニヤブソテツ		○		○	○			○
60			ヤブソテツ	○	○	○	○	○	○		○
61			テリハヤブソテツ	○	○	○	○	○	○	○	○
62			ヤマイタチシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
63			ベニシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
64			ベニオオイタチシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
65			キンキイタチシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
66			オオベニシダ	○	○	○	○		○		○
67			リョウトウイタチシダ	○	○			○			
68			クマワラビ	○	○	○	○	○	○	○	○
69			アイノコクマワラビ	○	○		○				
70			トウゴクシダ	○	○		○	○	○	○	○
71			ヒメイタチシダ		○			○			
72			オクマワラビ	○	○	○	○	○	○		
73			アスカイノデ	○	○	○	○	○	○	○	○
74			オリヅルシダ				○		○		○
75			アイアスカイノデ	○	○		○		○		○
76			ミウライノデ	○	○	○	○	○	○		○
77			オオタニイノデ					○			
78			イノデ	○	○	○	○		○		○
79			ジュウモンジシダ	○	○	○	○		○	○	○
80			ヒメカナワラビ				○		○		○
81		ウラボシ科	マメヅタ	○	○	○	○	○	○		○
82			ノキシノブ	○	○	○	○	○	○		○
83			クリハラン		○		○		○		○
84			ミツデウラボシ		○				○		
85	裸子植物	イチョウ科	イチョウ				○		○		○
86		マツ科	アカマツ	○	○		○	○	○	○	
87			クロマツ					○	○	○	
88		マキ科	イヌマキ		○		○	○	○		○
89		ヒノキ科	ヒノキ		○		○		○		○
90			サワラ						○		
91			スギ	○	○	○	○	○	○	○	○
92			イブキ	○		○		○			
93			カイヅカイブキ						○		
94		イチイ科	イヌガヤ	○	○	○	○	○	○	○	○
95			カヤ	○	○		○	○	○		○
96	基部被子植物	マツブサ科	シキミ		○		○				○
97			サネカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
98	－	センリョウ科	ヒトリシズカ						○		
99			フタリシズカ				○		○		○
100			センリョウ		○		○		○		

表 5.2-30(3)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
101	モクレン類	ドクダミ科	ドクダミ	○	○	○	○	○	○	○	○
102			ハンゲショウ		○				○		
103		コショウ科	フウトウカズラ		○		○		○		○
104		ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	○	○	○	○	○	○	○	○
105			カンアオイ	○	○		○		○	○	○
106		クスノキ科	クスノキ	○	○		○	○	○		○
107			ヤブニッケイ	○	○	○	○	○	○	○	○
108			カゴノキ				○		○		○
109			タブノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
110			シロダモ	○	○	○	○	○	○	○	○
111	単子葉類	ショウブ科	ショウブ	○							
112			セキショウ		○	○	○		○		○
113		サトイモ科	コンニャク						○		
114			カントウマムシグサ			○	○	○	○		
115			ウラシマソウ	○	○	○	○	○	○		○
116			サトイモ		○				○		○
117			ヒメウキクサ				○		○		
118			アオウキクサ			○	○		○		
119			コウキクサ		○		○				
120			カラスビシャク			○	○		○	○	○
121			ウキクサ				○		○		
122		オモダカ科	オモダカ						○		
123		トチカガミ科	オオカナダモ				○				
124			ヒロハトリゲモ						○		
125		ヤマノイモ科	ヤマノイモ			○	○	○	○	○	○
126			ナガイモ			○	○		○		○
127			キクバドコロ				○		○		○
128			ヒメドコロ				○	○	○		○
129			オニドコロ	○		○	○	○	○	○	○
130		イヌサフラン科	ホウチャクソウ		○	○	○	○	○	○	○
131			チゴユリ	○		○					
132		サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○	○	○	○	○	○	○	○
133			シオデ			○	○	○	○	○	○
134		ユリ科	ウバユリ	○	○	○	○		○		○
135			バイモ		○						
136			ヤマユリ		○	○	○	○	○	○	○
137			シンテッポウユリ				○	○	○		○
138			オニユリ						○		
139			ホトトギス		○		○	○	○		○
140			ヤマホトトギス	○	○	○	○	○	○	○	○
141		ラン科	シラン				○		○		○
142			エビネ		○		○		○		○
143			ギンラン				○		○		
144			キンラン				○		○		○
145			ササバギンラン				○		○		
146			サイハイラン	○	○	○	○		○	○	○
147			スルガラン		○				○		
148			シュンラン		○		○		○	○	○
149			マヤラン		○				○		
150			タシロラン						○		

表 5.2-30(4)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
151	単子葉類	ラン科	アキザキヤツシロラン								○
152			クロヤツシロラン								○
153			アケボノシュスラン		○		○		○		○
154			ハチジョウシュスラン		○		○		○	○	○
155			ミヤマウズラ				○		○		
156			コクラン	○	○		○	○	○	○	○
157			ネジバナ						○		
158			カゲロウラン		○		○		○		○
159		アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	○	○	○	○	○	○		○
160			ドイツアヤメ								○
161			シャガ	○	○	○	○	○	○	○	○
162			キショウブ				○				
163			ニワゼキショウ	○	○		○		○		
164			オオニワゼキショウ			○	○	○	○		
165		ススキノキ科	ヤブカンゾウ	○	○	○	○	○	○		○
166		ヒガンバナ科	ノビル	○	○	○	○				○
167			ニラ				○		○		○
168			ハナニラ	○	○						
169			スノーフレーク	○	○						
170			ヒガンバナ	○	○		○			○	○
171			スイセン	○	○		○				
172			ハタケニラ				○				
173		クサスギカズラ科	オランダキジカクシ								○
174			ハラン		○		○		○		○
175			ツルボ	○	○	○	○			○	○
176			イワギボウシ				○		○		○
177			オオバギボウシ				○		○		
178			ヒメヤブラン						○	○	
179			ヤブラン	○	○	○	○	○	○	○	○
180			ノシラン	○	○		○		○		○
181			ジャノヒゲ		○		○	○	○	○	○
182			ナガバジャノヒゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
183			オオバジャノヒゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
184			オオアマナ		○						
185			ナルコユリ		○	○	○	○	○	○	○
186			アマドコロ			○	○				
187			キチジョウソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
188			オモト		○		○		○		○
189		ヤシ科	シュロ	○	○	○	○	○	○	○	○
190		ツユクサ科	マルバツユクサ						○		○
191			ツユクサ	○		○	○	○	○	○	○
192			イボクサ						○		○
193			ヤブミョウガ			○	○	○	○	○	○
194			オオトキワツユクサ				○				○
195			ノハカタカラクサ		○		○		○		○
196			ミドリハカタカラクサ				○		○		○
197			ムラサキツユクサ				○		○		
198		ミズアオイ科	コナギ						○		○
199		カンナ科	ハナカンナ								○
200		ショウガ科	ミョウガ			○	○	○	○		○

表 5.2-30(5)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
201	単子葉類	ガマ科	ヒメガマ							○	
202			ガマ					○			
203		イグサ科	イグサ	○	○	○		○	○		○
204			コゴメイ				○				
205			クサイ			○	○	○	○		○
206			スズメノヤリ		○	○	○				
207		カヤツリグサ科	シラスゲ	○	○	○	○	○	○	○	
208			エナシヒゴクサ			○	○				
209			メアオスゲ			○					
210			ヒメカンスゲ	○	○		○				
211			カサスゲ							○	○
212			ケスゲ	○	○	○	○	○	○		○
213			マスクサ			○	○	○	○		
214			カワラスゲ				○				
215			ヒゴクサ			○	○		○		
216			ヒカゲスゲ		○		○				
217			ナキリスゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
218			アオスゲ				○				
219			コジュズスゲ				○				
220			ヌカスゲ				○				
221			ノゲヌカスゲ				○				
222			カンスゲ		○		○		○		○
223			ホンモンジスゲ		○						
224			ヤブスゲ				○				
225			センダイスゲ								○
226			ヤワラスゲ			○	○				
227			ヒメクグ							○	○
228			タマガヤツリ								○
229			メリケンガヤツリ			○		○	○	○	
230			コゴメガヤツリ						○		
231			カヤツリグサ								○
232			ハマスゲ						○		○
233			マツバイ						○		○
234			ヒデリコ						○		○
235		イネ科	ヌカボ			○	○				
236			コヌカグサ					○	○		
237			スズメノテッポウ		○		○				
238			メリケンカルカヤ				○			○	○
239			コブナグサ				○	○	○	○	○
240			ヤマカモジグサ			○	○		○		○
241			コバンソウ				○		○		
242			ヒメコバンソウ				○		○		
243			イヌムギ			○	○		○		
244			スズメノチャヒキ				○				
245			キツネガヤ					○	○		
246			ノガリヤス			○	○	○		○	○
247			ジュズダマ			○		○	○	○	○
248			ギョウギシバ	○		○	○	○	○		○
249			カモガヤ				○		○		
250			メヒシバ						○	○	○

表 5.2-30(6)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
251	単子葉類	イネ科	コメヒシバ								○
252			アキメヒシバ							○	○
253			イヌビエ						○	○	○
254			ヒメイヌビエ						○		
255			オヒシバ					○	○	○	○
256			アオカモジグサ			○	○	○			
257			カモジグサ			○	○	○	○		
258			シナダレスズメガヤ					○		○	○
259			カゼクサ							○	○
260			ニワホコリ								○
261			ナルコビエ						○	○	○
262			トボシガラ			○	○				
263			ドジョウツナギ			○	○				
264			チガヤ	○	○		○		○	○	○
265			サヤヌカグサ					○	○	○	○
266			ササガヤ	○		○	○	○	○	○	○
267			ネズミムギ			○	○		○		
268			ホソムギ				○				
269			アシボソ					○	○	○	○
270			オギ	○		○	○	○	○	○	○
271			ススキ	○	○	○	○	○	○	○	○
272			コネズミガヤ								○
273			コチヂミザサ	○	○	○	○	○	○	○	○
274			ケチヂミザサ			○	○	○	○	○	○
275			ヌカキビ			○				○	○
276			オオクサキビ							○	○
277			シマスズメノヒエ				○	○	○		○
278			スズメノヒエ				○				
279			タチスズメノヒエ						○	○	○
280			チカラシバ					○		○	○
281			クサヨシ			○	○	○	○		○
282			ヨシ		○	○					○
283			ツルヨシ				○		○		
284			モウソウチク	○	○	○	○		○		○
285			ハチク		○		○				
286			マダケ		○		○		○		○
287			アズマネザサ	○	○	○	○	○	○	○	○
288			キボウシノ						○		
289			シブヤザサ								○
290			メダケ		○						
291			ミゾイチゴツナギ	○		○	○				
292			スズメノカタビラ	○	○	○	○				
293			ツルスズメノカタビラ	○			○				
294			オオイチゴツナギ	○	○						
295			イチゴツナギ			○	○				
296			オオスズメノカタビラ			○	○				
297			ヒエガエリ			○	○	○	○		
298			ヤダケ	○	○						
299			クマザサ		○		○		○		
300			アズマザサ		○						

表 5.2-30(7)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
301	単子葉類	イネ科	オニウシノケグサ		○	○	○	○	○		
302			アキノエノコログサ							○	○
303			コツブキンエノコロ								○
304			キンエノコロ							○	○
305			エノコログサ					○	○		○
306			ムラサキエノコロ						○		○
307			オカメザサ		○				○		○
308			セイバンモロコシ						○		○
309			ネズミノオ							○	○
310			カニツリグサ			○	○				
311			ナギナタガヤ						○		
312			マコモ				○		○		
313			シバ			○	○				○
314	真正双子葉類	ケシ科	クサノオウ				○				
315			キケマン	○	○						
316			ムラサキケマン	○	○	○	○		○		○
317			ミヤマキケマン		○		○		○		
318			タケニグサ			○	○		○		○
319			ナガミヒナゲシ	○	○	○	○				
320		アケビ科	ゴヨウアケビ	○	○	○	○	○	○	○	○
321			アケビ	○	○	○	○	○	○	○	○
322			ミツバアケビ	○	○	○	○	○	○	○	○
323		ツヅラフジ科	アオツヅラフジ		○	○	○	○	○	○	○
324			ツヅラフジ		○		○		○		○
325		メギ科	メギ		○				○		
326			ナンテン		○		○		○		○
327		キンポウゲ科	ツクバトリカブト	○	○	○	○	○	○	○	○
328			ニリンソウ	○	○	○	○				
329			シュウメイギク						○		
330			イヌショウマ		○	○	○	○	○	○	○
331			サラシナショウマ	○	○	○			○		○
332			ボタンヅル	○		○	○	○	○	○	○
333			コボタンヅル			○		○	○		○
334			ハンショウヅル		○	○	○	○	○	○	○
335			センニンソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
336			シロバナハンショウヅル	○	○	○	○	○	○		○
337			キクザキリュウキンカ		○						
338			ケキツネノボタン	○	○	○	○	○	○	○	○
339			トゲミノキツネノボタン				○				
340			タガラシ		○		○		○		○
341			キツネノボタン			○	○				○
342			ヤマキツネノボタン			○	○		○		
343			ヒメウズ	○	○	○	○				
344			アキカラマツ	○	○	○	○	○	○	○	○
345		カツラ科	カツラ						○		
346		ユズリハ科	ヒメユズリハ	○					○		
347		ユキノシタ科	アカショウマ		○				○		
348			ヨツシベヤマネコノメ	○	○		○				
349			ヨゴレネコノメ		○		○				
350			イワボタン		○						

表 5.2-30(8)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
351	真正双子葉類	ユキノシタ科	ムカゴネコノメソウ		○		○				
352			ユキノシタ		○		○		○		○
353		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ		○	○	○		○		○
354			オカタイトゴメ				○		○		
355			オノマンネングサ						○		
356			メキシコマンネングサ		○		○				
357			ツルマンネングサ				○		○		
358			ヨコハママンネングサ						○		○
359		ブドウ科	キレハノブドウ				○	○	○	○	
360			ノブドウ			○	○	○	○	○	○
361			ヤブカラシ		○	○	○	○	○	○	○
362			ツタ	○		○	○	○	○	○	○
363			エビヅル			○	○	○	○	○	○
364		マメ科	ネムノキ			○	○	○	○	○	○
365			イタチハギ				○		○		○
366			ヤブマメ			○	○	○	○	○	○
367			ホドイモ				○				
368			ゲンゲ		○		○				○
369			シロバナゲンゲ		○						
370			ジャケツイバラ				○				
371			ノササゲ			○	○	○	○	○	○
372			ツルマメ				○		○		
373			フジカンゾウ				○		○		
374			ケヤブハギ				○	○	○	○	
375			ヌスビトハギ			○	○	○	○	○	○
376			トウコマツナギ				○		○	○	○
377			コマツナギ				○		○		
378			ヤハズソウ					○	○	○	○
379			ヤマハギ			○	○	○	○		○
380			キハギ				○	○	○		○
381			メドハギ					○	○	○	○
382			マルバハギ							○	
383			ネコハギ				○	○	○	○	○
384			ミヤギノハギ								○
385			ミヤコグサ			○	○	○	○		
386			コメツブウマゴヤシ			○			○		
387			ネバリコメツブウマゴヤシ						○		
388			クズ			○	○	○	○	○	○
389			オオバタンキリマメ		○		○	○	○		○
390			ハリエンジュ				○		○		
391			コメツブツメクサ			○	○	○	○		
392			ムラサキツメクサ	○	○	○		○	○		○
393			シロツメクサ	○	○	○	○	○	○		○
394			スズメノエンドウ				○				
395			ヤハズエンドウ	○	○	○	○		○		
396			カスマグサ		○						
397			ナンテンハギ	○	○		○				○
398			ヤブツルアズキ						○	○	○
399			フジ	○	○	○	○	○	○	○	○
400		グミ科	ツルグミ	○	○	○	○	○	○	○	○

表 5.2-30(9)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
401	真正双子葉類	グミ科	オオバグミ		○	○	○	○	○	○	○
402			アカバグミ				○		○		
403			ナツグミ	○	○	○		○	○		○
404			ナワシログミ			○					○
405			アキグミ		○				○	○	
406		クロウメモドキ科	クマヤナギ					○			○
407			ケンポナシ			○	○	○	○		○
408		ニレ科	ケヤキ	○	○	○	○	○	○	○	○
409		アサ科	ムクノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
410			エノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
411			カナムグラ	○		○	○	○	○	○	○
412		クワ科	ヒメコウゾ			○	○	○	○	○	○
413			クワクサ					○	○	○	
414			イヌビワ	○	○	○	○	○	○	○	○
415			イタビカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
416			マグワ				○				
417			ヤマグワ	○	○	○	○	○	○	○	○
418		イラクサ科	ハマヤブマオ					○	○	○	○
419			カタバヤブマオ					○	○	○	
420			オオバコアカソ					○	○		○
421			ヤブマオ			○	○		○	○	○
422			コヤブマオ						○	○	
423			アオカラムシ				○	○	○	○	
424			カラムシ	○	○	○	○	○	○	○	○
425			メヤブマオ		○	○	○		○		○
426			ナガバヤブマオ						○		
427			コアカソ			○	○	○	○	○	
428			ウワバミソウ		○		○		○		○
429			ムカゴイラクサ					○	○		○
430			カテンソウ	○	○		○			○	
431			ミズ							○	○
432			アオミズ			○	○	○	○	○	○
433			イラクサ	○	○	○	○	○	○	○	○
434		バラ科	ヒメキンミズヒキ					○		○	○
435			キンミズヒキ	○	○	○	○	○	○	○	○
436			ヤマザクラ	○	○	○	○	○	○	○	○
437			オオシマザクラ	○	○	○	○	○	○	○	○
438			クサボケ				○				
439			ビワ		○		○		○		○
440			ダイコンソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
441			ヤマブキ	○	○		○		○		○
442			コゴメウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
443			イヌザクラ			○	○			○	○
444			ウワミズザクラ				○		○		○
445			カナメモチ属				○				
446			ヘビイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
447			ヤブヘビイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	
448			カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○
449			ウメ						○		
450			モモ				○				

表 5.2-30(10)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
451	真正双子葉類	バラ科	カザンデマリ				○				
452			シャリンバイ				○				
453			テリハノイバラ		○		○		○		
454			ノイバラ	○	○	○	○	○	○	○	○
455			アズマイバラ	○	○	○	○	○	○	○	○
456			フユイチゴ	○	○	○	○		○	○	○
457			クサイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
458			モミジイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
459			ナワシロイチゴ		○	○	○		○		○
460			カジイチゴ	○			○		○		
461			ユキヤナギ		○		○		○		○
462		ブナ科	クリ		○				○		
463			スダジイ	○	○	○	○	○	○	○	○
464			マテバシイ	○		○	○	○	○		○
465			アカガシ	○	○	○	○	○	○	○	○
466			クヌギ	○	○	○	○	○	○		○
467			アラカシ	○	○	○	○	○	○		○
468			シラカシ	○	○	○	○	○	○		○
469			ウバメガシ				○		○		○
470			ウラジロガシ		○				○		○
471			コナラ	○	○	○	○	○	○	○	○
472		クルミ科	ヒメグルミ								○
473			オニグルミ		○		○		○		
474		カバノキ科	ヤマハンノキ		○		○		○		
475			ハンノキ					○			○
476			オオバヤシャブシ	○	○		○	○	○	○	
477			クマシデ				○		○		
478			イヌシデ				○	○	○	○	
479		ウリ科	セイヨウカボチャ								○
480			オキナワスズメウリ								○
481			アマチャヅル		○	○	○	○	○	○	○
482			カラスウリ			○	○	○	○	○	○
483			キカラスウリ								○
484			スズメウリ					○	○	○	○
485		ニシキギ科	ツルウメモドキ		○	○	○	○	○	○	○
486			イヌツルウメモドキ				○	○			○
487			オニツルウメモドキ				○				
488			コマユミ								○
489			ツルマサキ		○		○		○		○
490			マサキ	○	○	○	○	○	○	○	○
491			ツルオオバマサキ		○				○		
492			マユミ	○	○	○	○	○	○	○	○
493			カントウマユミ			○					
494		カタバミ科	イモカタバミ			○			○	○	○
495			ハナカタバミ				○				
496			ベニカタバミ		○		○				
497			カタバミ	○	○		○	○	○	○	○
498			ウスアカカタバミ		○	○	○		○		○
499			アカカタバミ	○	○				○		○
500			ムラサキカタバミ				○		○	○	○

表 5.2-30(11)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
501	真正双子葉類	カタバミ科	オッタチカタバミ	○	○	○	○	○	○	○	○
502		トウダイグサ科	エノキグサ				○	○	○	○	○
503			トウダイグサ		○		○				
504			ニシキソウ								○
505			コニシキソウ				○	○	○		○
506			オオニシキソウ						○		○
507			ハイニシキソウ				○		○		○
508			ナツトウダイ	○	○	○	○	○	○		○
509			アカメガシワ	○	○	○	○	○	○	○	○
510			ナンキンハゼ						○		
511			アブラギリ				○	○	○		○
512		コミカンソウ科	コミカンソウ				○		○		
513			ナガエコミカンソウ								○
514		スミレ科	タチツボスミレ	○	○	○	○	○	○	○	○
515			アオイスミレ						○		
516			コスミレ		○		○		○		
517			スミレ				○				○
518			ニオイタチツボスミレ		○						
519		フウロソウ科	アメリカフウロ	○	○	○	○		○		○
520			ゲンノショウコ		○	○	○	○	○	○	○
521		ミソハギ科	ヒメミソハギ						○		
522			ミソハギ		○				○		
523			キカシグサ						○		○
524		アカバナ科	ミズタマソウ			○	○		○		○
525			チョウジタデ						○		○
526			ウスゲチョウジタデ						○		
527			メマツヨイグサ	○	○	○	○	○	○	○	○
528			コマツヨイグサ				○		○		○
529			ユウゲショウ			○	○		○		○
530			ヒルザキツキミソウ				○		○		
531		ミツバウツギ科	ゴンズイ			○	○	○	○	○	○
532		キブシ科	キブシ	○	○	○	○	○	○	○	○
533		ウルシ科	ヌルデ		○	○	○	○	○	○	○
534			ハゼノキ		○	○	○	○	○	○	○
535		ムクロジ科	トウカエデ				○				○
536			カジカエデ						○		
537			イロハモミジ	○	○	○	○	○	○	○	○
538			イタヤカエデ（広義）				○		○		○
539			エンコウカエデ								○
540			オニイタヤ		○						
541		ミカン科	マツカゼソウ				○		○		○
542			ユズ				○				
543			ナツミカン		○		○		○		○
544			コクサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
545			カラスザンショウ	○	○	○	○	○	○	○	○
546			サンショウ	○	○	○	○	○	○	○	○
547			イヌザンショウ			○		○			
548		ニガキ科	ニワウルシ				○		○		○
549			ニガキ		○		○		○		○
550		センダン科	センダン				○		○	○	

表 5.2-30(12)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
551	真正双子葉類	アオイ科	アオギリ	○	○				○		
552			フヨウ				○	○			○
553			ムクゲ				○		○		○
554			ヤノネボンテンカ		○		○		○		○
555		ジンチョウゲ科	オニシバリ	○	○	○	○	○	○		○
556		アブラナ科	ヤマハタザオ				○				
557			カラシナ		○		○				
558			セイヨウアブラナ	○							
559			ナズナ	○	○		○				
560			ミチタネツケバナ	○	○		○				
561			ジャニンジン	○	○	○	○				
562			タネツケバナ	○	○						○
563			オオバタネツケバナ		○	○					
564			ワサビ				○				
565			カラクサナズナ						○		
566			マメグンバイナズナ				○		○		○
567			オランダガラシ		○		○		○		○
568			ショカツサイ		○		○				
569			ダイコン				○				
570			ミチバタガラシ				○				
571			イヌガラシ		○	○	○			○	
572			スカシタゴボウ		○						
573		タデ科	イタドリ	○	○	○	○		○	○	○
574			ケイタドリ					○	○	○	
575			ツルドクダミ		○	○	○	○	○		○
576			ヒメツルソバ		○		○		○		○
577			ミズヒキ		○	○	○	○	○	○	○
578			ギンミズヒキ						○		○
579			シロバナサクラタデ						○	○	○
580			オオイヌタデ						○		○
581			イヌタデ					○	○	○	○
582			サクラタデ								○
583			イシミカワ				○	○	○		○
584			ハナタデ		○			○	○	○	○
585			ボントクタデ							○	
586			ママコノシリヌグイ								○
587			オオミゾソバ						○		
588			ミゾソバ		○	○	○		○	○	○
589			ミチヤナギ						○		○
590			スイバ	○	○	○	○		○		
591			アレチギシギシ	○	○	○	○	○	○		○
592			ナガバギシギシ	○	○	○	○		○		
593			ギシギシ		○		○			○	
594			エゾノギシギシ				○				
595			ノハラダイオウ						○		
596			ヒョウタンギシギシ								○
597		ナデシコ科	ノミノツヅリ				○				
598			オランダミミナグサ	○	○	○	○		○		○
599			ツメクサ		○		○	○	○		
600			ハマツメクサ				○				

表 5.2-30(13)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
601	真正双子葉類	ナデシコ科	シロバナマンテマ				○				
602			イタリーマンテマ						○		
603			マンテマ		○						
604			ウシハコベ	○	○	○	○	○	○	○	○
605			サワハコベ		○		○		○		○
606			コハコベ	○	○	○	○				
607			ミドリハコベ	○	○	○	○		○		
608			ノミノフスマ		○		○		○		○
609		ヒユ科	イノコヅチ				○	○	○	○	○
610			ヒナタイノコヅチ			○	○	○		○	○
611			ホナガアオゲイトウ								○
612			シロザ						○		○
613			アカザ						○		
614			アリタソウ					○	○	○	
615			ゴウシュウアリタソウ								○
616		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ			○	○	○	○	○	○
617		オシロイバナ科	オシロイバナ				○		○		○
618		ザクロソウ科	ザクロソウ								○
619		スベリヒユ科	スベリヒユ				○		○		○
620		ミズキ科	ミズキ		○	○	○	○	○	○	
621			クマノミズキ	○		○	○	○	○	○	○
622		アジサイ科	ウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
623			ヒメウツギ		○		○		○	○	○
624			マルバウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
625			アジサイ		○		○		○		
626			ヤマアジサイ				○		○		○
627			タマアジサイ			○	○	○	○	○	○
628		ツリフネソウ科	ツリフネソウ								○
629		サカキ科	サカキ							○	○
630			ヒサカキ	○	○	○	○	○	○	○	○
631			モッコク				○				
632		カキノキ科	カキノキ		○	○	○		○		○
633			マメガキ						○		
634		サクラソウ科	マンリョウ	○	○	○	○		○		○
635			カラタチバナ	○	○	○	○	○	○	○	○
636			ヤブコウジ	○	○	○	○	○	○	○	○
637			ギンレイカ		○		○		○		○
638			オカトラノオ			○	○		○		○
639			コナスビ	○	○	○	○	○	○	○	○
640			イズセンリョウ		○		○		○		○
641		ツバキ科	ヤブツバキ	○	○	○	○		○	○	○
642			サザンカ		○		○		○		
643			チャノキ		○				○		○
644		エゴノキ科	エゴノキ	○		○	○	○	○	○	○
645		マタタビ科	ウラジロマタタビ			○	○	○	○	○	○
646			キウイフルーツ			○		○	○		○
647			マタタビ				○		○		○
648		ツツジ科	イチヤクソウ		○	○			○		
649			ヤマツツジ		○		○		○		○
650		アオキ科	アオキ	○	○	○	○	○	○	○	○

表 5.2-30(14)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
651	真正双子葉類	アオキ科	フイリアオキ	○	○			○	○		
652		アカネ科	ヒメヨツバムグラ					○	○		○
653			ヤマムグラ		○	○	○		○		○
654			ヤエムグラ	○	○	○	○		○		○
655			ヨツバムグラ		○		○	○	○		○
656			ハシカグサ						○		○
657			ヘクソカズラ	○		○	○	○	○	○	○
658			アカネ	○	○	○	○	○	○	○	○
659		マチン科	ホウライカズラ		○		○		○		○
660		キョウチクトウ科	シタキソウ						○		○
661			キジョラン		○	○	○		○		○
662			ガガイモ			○			○		
663			キョウチクトウ						○		
664			テイカカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
665			ツルニチニチソウ		○	○	○	○	○	○	○
666			ヒメツルニチニチソウ	○	○		○		○	○	
667			オオカモメヅル				○		○		
668		ヒルガオ科	コヒルガオ			○	○	○	○		○
669			ヒルガオ			○	○		○		○
670			ネナシカズラ								○
671			アオイゴケ				○		○		○
672			マルバルコウ								○
673			アメリカアサガオ						○		
674			マルバアメリカアサガオ								○
675			ノアサガオ						○		
676			アサガオ								○
677		ナス科	ヤマホオズキ								○
678			クコ	○	○		○		○		○
679			イガホオズキ					○			○
680			ホオズキ						○		
681			テリミノイヌホオズキ						○		
682			ヒヨドリジョウゴ	○		○	○	○	○	○	○
683			マルバノホロシ					○			○
684			オオイヌホオズキ		○		○	○	○	○	○
685			アメリカイヌホオズキ	○						○	○
686			ハダカホオズキ				○		○	○	○
687		ムラサキ科	ホタルカズラ	○	○	○	○		○		○
688			ハナイバナ	○	○	○	○		○		
689			ヤマルリソウ		○		○		○		○
690			コンフリー				○				
691			キュウリグサ	○	○	○	○		○		○
692		モクセイ科	シナレンギョウ							○	
693			シマトネリコ						○		○
694			マルバアオダモ				○		○		○
695			ネズミモチ	○	○		○		○	○	○
696			トウネズミモチ	○	○	○	○	○	○	○	○
697			イボタノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
698			オカイボタ	○	○	○	○	○	○		○
699			オオバイボタ	○	○		○		○	○	○
700			シナイボタ				○				○

表 5.2-30(15)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
701	真正双子葉類	モクセイ科	ミウライボタ				○		○		○
702			ヒイラギ				○				○
703		イワタバコ科	ケイワタバコ		○				○		○
704		オオバコ科	ツタバウンラン				○		○		
705			ジギタリス				○				
706			オオバコ	○	○	○	○	○	○	○	○
707			ヘラオオバコ		○		○		○		
708			ツボミオオバコ	○	○	○	○				
709			オオカワヂシャ		○				○		
710			タチイヌノフグリ	○		○	○				
711			フラサバソウ	○	○	○	○				
712			ムシクサ		○		○				
713			オオイヌノフグリ	○	○	○	○		○	○	○
714		アゼナ科	アメリカアゼナ						○		○
715			アゼナ						○		○
716			ウリクサ								○
717		シソ科	キランソウ	○	○	○	○		○		○
718			ムラサキシキブ	○	○	○	○	○	○	○	○
719			オオムラサキシキブ				○	○	○	○	○
720			ヤブムラサキ								○
721			タニジャコウソウ				○				○
722			ボタンクサギ				○		○		○
723			クサギ			○	○	○	○	○	○
724			トウバナ	○	○	○	○	○	○	○	○
725			イヌトウバナ								○
726			カキドオシ	○	○	○	○		○	○	○
727			ヤマハッカ			○	○	○	○	○	○
728			ホトケノザ	○	○		○				
729			ヒメオドリコソウ	○	○		○				○
730			コシロネ						○		○
731			ハッカ								○
732			マルバハッカ		○		○		○		○
733			ヒメジソ								○
734			イヌコウジュ					○		○	
735			レモンエゴマ								○
736			アオジソ						○		
737			アカジソ				○		○		
738			エゴマ					○	○	○	○
739			アキノタムラソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
740			オカタツナミソウ			○	○	○			
741			コバノタツナミ		○	○	○	○	○	○	○
742			ツルニガクサ		○	○	○	○	○	○	○
743			カリガネソウ						○		○
744		サギゴケ科	トキワハゼ				○	○			○
745		ハエドクソウ科	ハエドクソウ			○	○	○	○		
746			ナガバハエドクソウ					○	○		○
747		キリ科	キリ				○	○	○		
748		ハマウツボ科	ヤセウツボ				○	○	○		
749			コシオガマ								○
750		キツネノマゴ科	ハアザミ				○		○		

表 5.2-30(16)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
751	真正双子葉類	キツネノマゴ科	キツネノマゴ					○	○	○	○
752		ノウゼンカズラ科	ノウゼンカズラ				○		○		○
753		クマツヅラ科	シチヘンゲ		○				○		○
754			ヒメイワダレソウ				○				
755			ヤナギハナガサ						○		○
756			アレチハナガサ			○	○	○	○		○
757		ハナイカダ科	ハナイカダ	○	○		○	○	○	○	○
758		モチノキ科	イヌツゲ		○	○			○	○	○
759			モチノキ		○	○			○	○	○
760			クロガネモチ	○	○	○	○	○	○	○	○
761		キキョウ科	ツリガネニンジン	○	○	○	○	○	○	○	○
762			ヤマホタルブクロ					○	○		
763			ホタルブクロ	○	○		○	○	○	○	○
764			ツルギキョウ				○		○		○
765			ツルニンジン	○		○	○	○	○		
766			ミゾカクシ				○		○		○
767			タニギキョウ		○		○				
768			ヒナキキョウソウ				○				
769			キキョウソウ				○				
770		ミツガシワ科	アサザ				○		○		
771		キク科	ノブキ		○	○	○		○		○
772			オカダイコン						○		○
773			マルバフジバカマ							○	
774			キッコウハグマ				○		○		
775			ブタクサ					○	○		○
776			オオブタクサ			○	○	○	○	○	○
777			ゴボウ				○				
778			ヨモギ	○	○	○	○	○	○	○	○
779			シロヨメナ	○	○	○	○	○	○	○	○
780			ノコンギク		○		○	○			○
781			アキハギク								○
782			シュウブンソウ	○	○	○	○		○		○
783			カントウヨメナ				○		○	○	○
784			オケラ			○	○		○		○
785			アメリカセンダングサ			○	○	○	○	○	○
786			コセンダングサ		○	○	○	○	○	○	○
787			ヤブタバコ	○	○	○	○	○	○	○	○
788			コヤブタバコ								○
789			ガンクビソウ		○	○	○		○	○	○
790			トキンソウ						○		○
791			リュウノウギク		○		○		○		○
792			イガアザミ							○	○
793			ノアザミ			○	○		○		
794			ノハラアザミ		○						
795			ナンブアザミ					○	○	○	○
796			アメリカオニアザミ		○		○		○		○
797			オオキンケイギク		○		○		○		
798			ハルシャギク	○		○		○	○		○
799			コスモス						○		
800			ベニバナボロギク					○	○	○	○

表 5.2-30(17)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
801	真正双子葉類	キク科	ヤクシソウ	○		○	○	○	○	○	
802			アメリカタカサブロウ					○			○
803			タカサブロウ						○		○
804			ダンドボロギク					○	○		○
805			ヒメジョオン	○	○	○	○	○	○	○	○
806			アレチノギク	○	○		○				
807			ヒメムカシヨモギ	○	○			○		○	○
808			ペラペラヨメナ				○		○		
809			ハルジオン	○	○	○	○	○	○	○	○
810			オオアレチノギク	○	○	○	○	○	○	○	○
811			オオヒヨドリバナ			○	○	○	○	○	○
812			ツワブキ	○	○		○		○		○
813			ハキダメギク				○	○	○	○	○
814			ホソバノチチコグサモドキ				○	○			
815			ウラジロチチコグサ	○	○	○	○	○	○		○
816			チチコグサモドキ				○		○		
817			ウスベニチチコグサ				○				
818			チチコグサ						○		
819			キクイモ				○		○		○
820			キクイモモドキ						○		
821			キツネアザミ			○	○				
822			ブタナ	○		○	○	○	○		
823			オグルマ		○				○		○
824			ニガナ	○		○	○		○	○	○
825			ハナニガナ				○				
826			オオジシバリ	○	○	○	○				○
827			イワニガナ				○		○		○
828			アキノノゲシ	○	○	○	○	○	○	○	○
829			トゲチシャ						○		
830			コオニタビラコ		○						○
831			ヤブタビラコ	○	○	○	○	○	○		○
832			センボンヤリ		○				○		○
833			ノースポールギク						○		
834			ムラサキニガナ	○	○	○	○	○	○		○
835			モミジガサ				○				
836			ナガバノコウヤボウキ				○				○
837			カシワバハグマ								○
838			コウヤボウキ		○	○	○		○		○
839			フキ	○	○	○	○	○	○	○	○
840			コウゾリナ		○		○		○		○
841			ハハコグサ		○				○		○
842			キヌガサギク						○		
843			ノボロギク		○						
844			コメナモミ								○
845			メナモミ								○
846			セイタカアワダチソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
847			オニノゲシ	○	○	○	○		○		○
848			ノゲシ	○	○	○	○	○	○		○
849			ヒロハホウキギク								○
850			セイヨウタンポポ	○	○	○	○	○	○		○

表 5.2-30(18)　現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
851	真正双子葉類	キク科	カントウタンポポ	○	○	○	○				
852			オオオナモミ		○						○
853			アカオニタビラコ	○	○		○				
854			アオオニタビラコ	○	○	○	○		○		○
855		トベラ科	トベラ	○	○	○	○	○	○	○	○
856		ウコギ科	ウド			○	○	○	○	○	
857			タラノキ		○	○	○	○	○	○	○
858			カクレミノ	○	○		○		○		○
859			オカウコギ	○	○	○	○	○	○	○	○
860			ヤマウコギ							○	
861			ヤツデ	○	○	○	○	○	○	○	○
862			カナリーキヅタ				○				○
863			キヅタ	○	○	○	○	○	○	○	○
864			オオバチドメ		○						
865			ノチドメ	○			○	○			○
866			オオチドメ			○	○	○	○	○	○
867			チドメグサ		○		○				○
868			ハリギリ	○	○	○	○	○	○	○	○
869		セリ科	ノダケ		○	○	○				○
870			アシタバ				○				
871			シャク	○	○	○	○				
872			ツボクサ			○		○	○		○
873			ウシミツバ	○	○	○	○				
874			ミツバ	○	○	○	○	○	○	○	○
875			マツバゼリ				○		○		
876			セリ	○	○	○	○	○	○	○	○
877			ヤブニンジン	○	○	○	○		○		
878			ウマノミツバ	○	○	○	○	○	○	○	○
879			ヤブジラミ	○	○	○	○				
880			オヤブジラミ	○	○	○	○				
881		ガマズミ科	ニワトコ	○	○	○	○	○	○	○	○
882			ガマズミ	○	○	○	○	○	○	○	○
883			コバノガマズミ								○
884			サンゴジュ		○		○	○	○		○
885			ヤブデマリ				○		○		
886		スイカズラ科	ツクバネウツギ		○		○		○		○
887			ウグイスカグラ	○	○	○	○	○	○		○
888			スイカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
889			オトコエシ				○	○	○	○	○
890			ツルカノコソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
891			ハコネウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
計	7 分類	135 科	891 種	274 種	423 種	357 種	611 種	340 種	630 種	298 種	575 種

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

⑥ 調査結果（聞き取り調査）

聞き取り調査により確認された植物種は表 5.2-31 に示すとおりである。

聞き取り調査の結果、葉山町上山口寺前谷戸周辺では、2 科 3 種の植物種を聴取した。

表 5.2-31　聞き取り調査により確認された植物種

No.	分類	科名	種名
1	単子葉類	ラン科	シュンラン
2			コクラン
3	真正双子葉類	シソ科	カリガネソウ
計	2 分類	2 科	3 種

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

(2) 植生

① 調査事項

現存植生、群落構造、潜在自然植生とした。

② 調査方法

ア 現存植生

既存資料調査及び現地調査により把握した。植物社会学的手法（ブラウンーブランケの全推定法）により、調査地域の群落単位を決定して植物社会学的な位置づけを明らかにし、航空写真等を参考として現存植生図を作成した。また、「第 2 回自然環境保全基礎調査報告書」環境庁編（1982）及び「(お知らせ) 1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」(生物多様性センター、平成 28 年）に準じて自然度を判定し、植生自然度図も作成した。

イ 群落構造

調査範囲内において、代表的及び保全上注目される特徴的な林分については、調査区内の植物の種類、高さ、胸高直径等を調査し、種構成、階層構造を基に群落断面図を作成して、植物群落の現況や将来的な遷移の方向性を把握した。

なお、仮設ヘリポートについては、東京南線 3,4 号線と同様の植生であり、植物群落の現況や将来的な遷移の方向性も概ね同じであると考えられることから、新たにコドラート地点は設けなかった。

ウ 潜在自然植生

「ア　現存植生」の調査結果を基に、代償植生の中に局所的に残存している自然植生の分布と立地条件を把握して、潜在自然植生図を作成した。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲は、「(1) 植物相」と同様（図 5.2-3(1)～(2)参照）の範囲とした。

④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期及び頻度は、表 5.2-32(1)～(2)に示す期日で 2 回実施した。

表 5.2-32(1)　植生調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

項目	時期	期日
植生 （ア現存植生、イ群落構造、ウ潜在自然植生）	夏季	令和 6 年 7 月 22 日～26 日

表 5.2 表 5.2-32(2)　植生調査時期及び調査期日（仮設ヘリポート）

項目	時期	期日
植生 （ア現存植生、イ群落構造、ウ潜在自然植生）	秋季	令和 6 年 11 月 6 日

⑤　調査結果

ア 現存植生

(a) 現存植生の概況

現地調査の結果を基に、現存植生を分類した。植生の凡例は表 5.2-33 に、現存植生図は図 5.2-4(1)～(2)に示すとおりである。また、植生区分の占有する面積は表 5.2-34 に示すとおりである。

現地調査の結果、調査範囲内の現存植生を 18 区分に分類した。最も占有しているのは「アカメガシワ-カラスザンショウ群落」であり、全体の 25.74%を占めていた。次いで「オオシマザクラ植林」が 14.30%、「ゴルフ場・芝地」が 8.11%、「シイ・カシ二次林」が 7.40%と続いた。実施区域内では、「アカメガシワ-カラスザンショウ群落」が最も大きい面積であったが、全体と比較すると 0.13%程度の面積であった。

表 5.2-33　現存植生図の凡例

図中色	群落名
1	シイ・カシ二次林
2	オニシバリ-コナラ群集
3	アカメガシワ-カラスザンショウ群落
4	ケヤキ群落(Ⅶ)
5	エノキ群落
6	アズマネザサ-ススキ群集
7	スギ・ヒノキ・サワラ植林
8	クロマツ植林
9	その他植林(常緑広葉樹)
10	オオシマザクラ植林
11	竹林
12	ゴルフ場・芝地
13	路傍・空地雑草群落
14	果樹園
15	畑雑草群落
16	水田雑草群落
17	市街地等
18	緑の多い住宅地

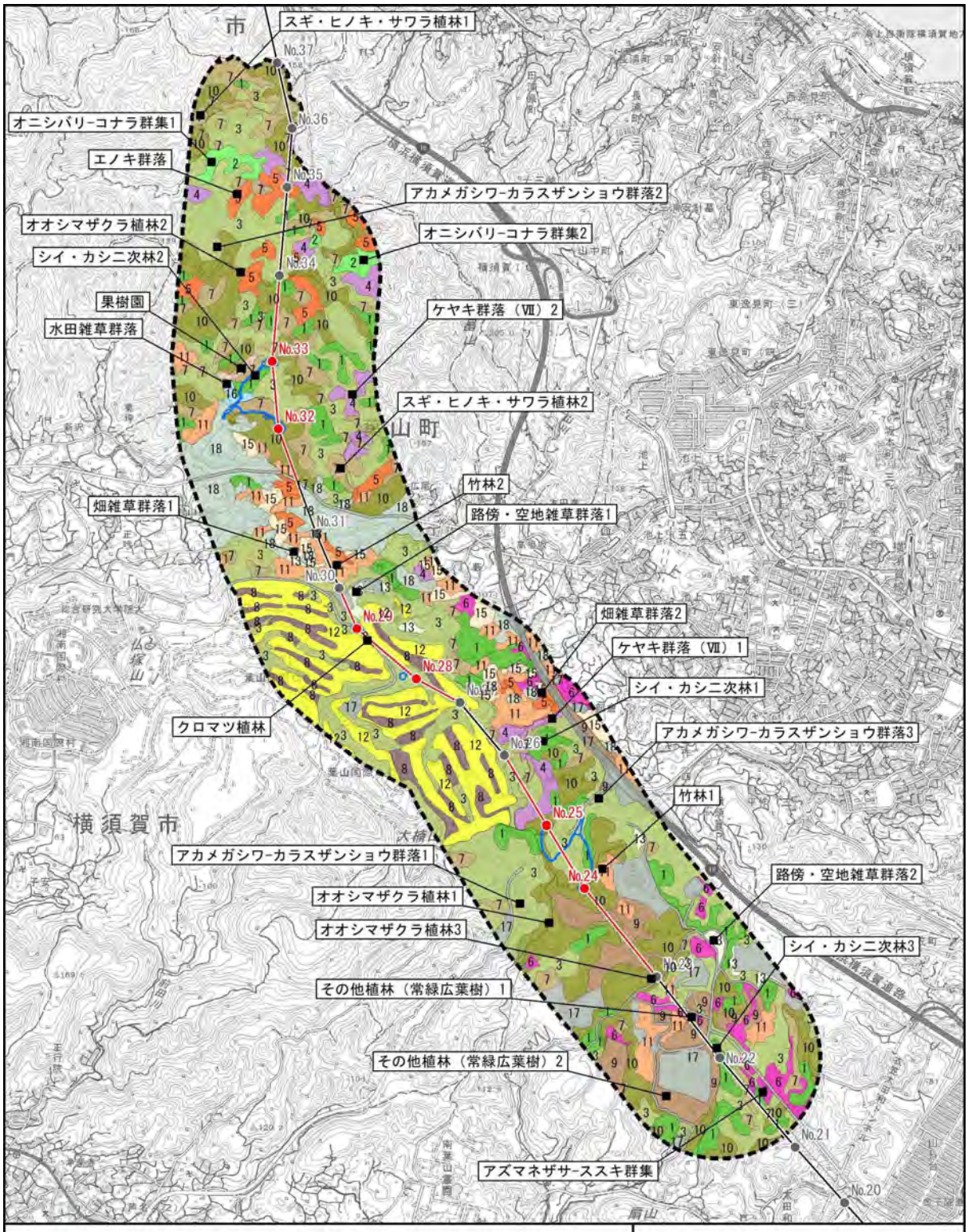

スギ・ヒノキ・サワラ植林1
オニシバリ-コナラ群集1
エノキ群落
アカメガシワ-カラスザンショウ群落2
オオシマザクラ植林2
オニシバリ-コナラ群集2
シイ・カシニ次林2
果樹園
ケヤキ群落（Ⅶ）2
水田雑草群落
スギ・ヒノキ・サワラ植林2
竹林2
畑雑草群落1
路傍・空地雑草群落1
畑雑草群落2
ケヤキ群落（Ⅶ）1
シイ・カシニ次林1
クロマツ植林
アカメガシワ-カラスザンショウ群落3
竹林1
アカメガシワ-カラスザンショウ群落1
路傍・空地雑草群落2
オオシマザクラ植林1
オオシマザクラ植林3
シイ・カシニ次林3
その他植林（常緑広葉樹）1
その他植林（常緑広葉樹）2
アズマネザサ-ススキ群集
No.37
No.36
No.35
No.34
No.33
No.32
No.31
No.30
No.29
No.28
No.27
No.26
No.25
No.24
No.23
No.22
No.21
No.20
横須賀市
山町
凡　例
実施区域の送電線及び鉄塔
実施区域外の送電線及び鉄塔
実施区域の工事用地
植物の調査範囲
植生のコドラート地点
N
1:30,000
0　0.3　0.6　0.9　1.2 km

図 5.2-4(1)　現存植生図

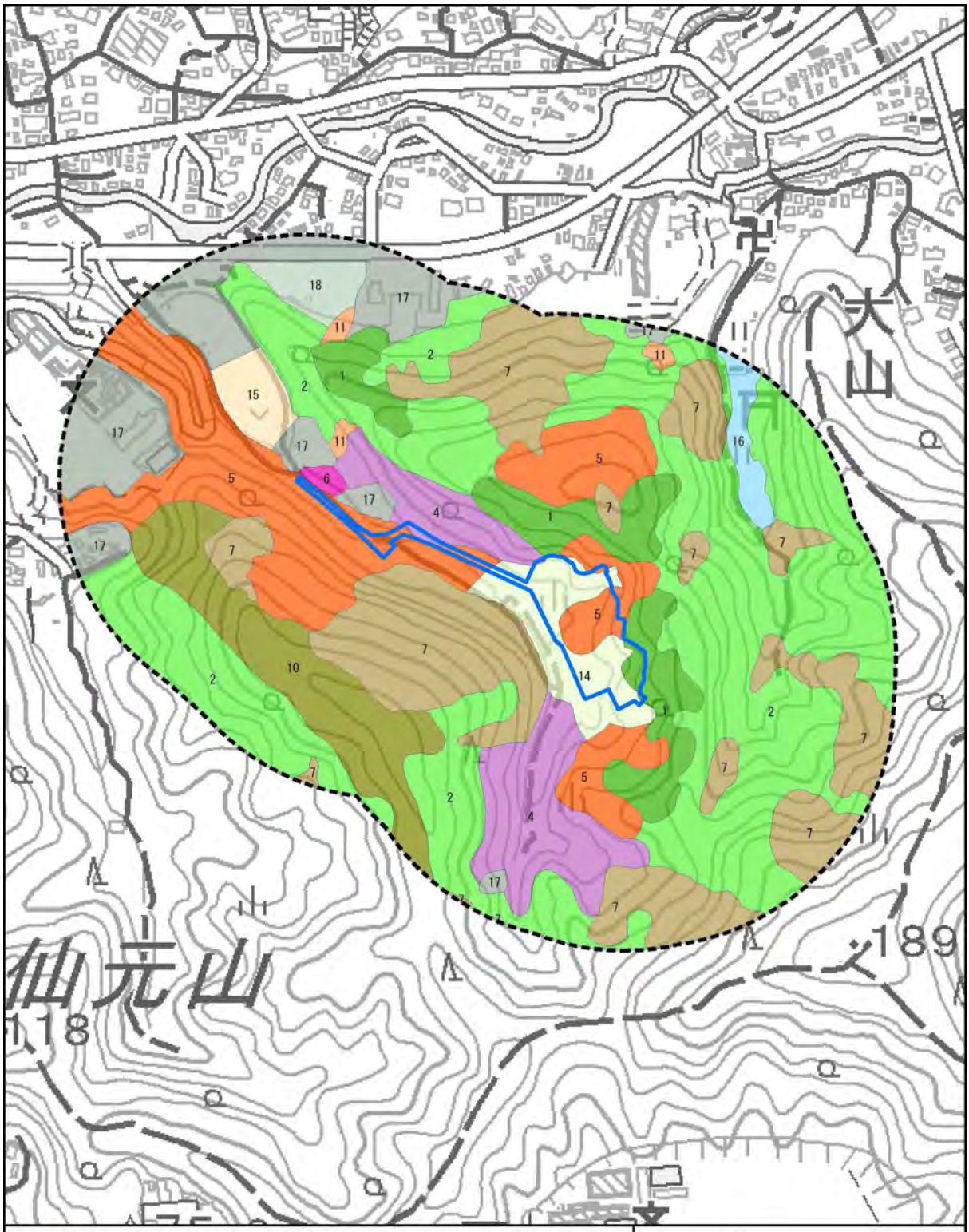


図 5.2-4(2)　現存植生図

表 5.2-34　植生区分別面積

No.	群落名	実施区域				全体	
		内		外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
1	シイ・カシ二次林	0.20	0.03	44.51	7.36	44.71	7.40
2	オニシバリーコナラ群集	0	-	14.92	2.47	14.92	2.47
3	アカメガシワーカラスザンショウ群落	0.80	0.13	154.84	25.61	155.64	25.74
4	ケヤキ群落（Ⅶ）	0.02	<0.01	16.37	2.71	16.40	2.71
5	エノキ群落	0.29	0.05	19.61	3.24	19.90	3.29
6	アズマネザサーススキ群集	0	-	12.10	2.00	12.10	2.00
7	スギ・ヒノキ・サワラ植林	0.18	0.03	45.17	7.47	45.36	7.50
8	クロマツ植林	0	-	16.05	2.66	16.06	2.66
9	その他植林（常緑広葉樹）	0	-	22.90	3.79	22.90	3.79
10	オオシマザクラ植林	0.69	0.11	85.78	14.19	86.47	14.30
11	竹林	0	-	28.20	4.66	28.20	4.66
12	ゴルフ場・芝地	0	-	49.00	8.11	49.00	8.11
13	路傍・空地雑草群落	0.45	0.08	4.28	0.71	4.73	0.78
14	果樹園	0	-	0.84	0.14	0.84	0.14
15	畑雑草群落	0	-	10.28	1.70	10.28	1.70
16	水田雑草群落	0.02	<0.01	1.19	0.20	1.21	0.20
17	市街地等	0.02	<0.01	41.97	6.94	41.99	6.95
18	緑の多い住宅地	0.05	0.01	33.78	5.59	33.83	5.60
	合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注）表中の数値は小数点第三位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

(b) 植生自然度の概要

「第 2 回自然環境保全基礎調査報告書」環境庁編（1982）及び「(お知らせ) 1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」(生物多様性センター、平成 28 年）により、調査範囲の現存植生について植生自然度を区分した。各群落の植生自然度は表 5.2-35 に、植生自然度図は図 5.2-5(1)～(2)に示すとおりである。また、植生自然度の面積は表 5.2-36 に示すとおりである。

現地調査の結果、植生自然度は 8 区分に分類された。最も占有しているのは自然度 6 の「植林地」であり、全体の半分以上を占めていた。次いで自然度 4 の「二次草原（背の低い草原)」が 8.85%、自然度 7 の「二次林」が 8.47%、自然度 2 の「外来種草原農耕地(水田・畑)」が 7.67%と続いた。実施区域内では、自然度 6 の「植林地」が最も大きい面積であったが、全体と比較すると 0.28%程度の面積であった。

表 5.2-35　植生自然度の区分及び凡例

図中色 植生自然度	区分内容	該当する群落名
8	二次林(自然林に近いもの)	シイ・カシ二次林
7	二次林	オニシバリ－コナラ群集
		ケヤキ群落（Ⅶ）
		エノキ群落
6	植林地	アカメガシワ－カラスザンショウ群落
		スギ・ヒノキ・サワラ植林
		クロマツ植林
		その他植林（常緑広葉樹）
		オオシマザクラ植林
5	二次草原(背の高い草原)	アズマネザサ－ススキ群集
4	二次草原(背の低い草原)	ゴルフ場・芝地
		路傍・空地雑草群落
3	外来種植林農耕地(樹園地)	竹林
		果樹園
2	外来種草原農耕地(水田・畑)	畑雑草群落
		水田雑草群落
		緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地等

資料：「(お知らせ) 1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」(生物多様性センター、平成 28 年)

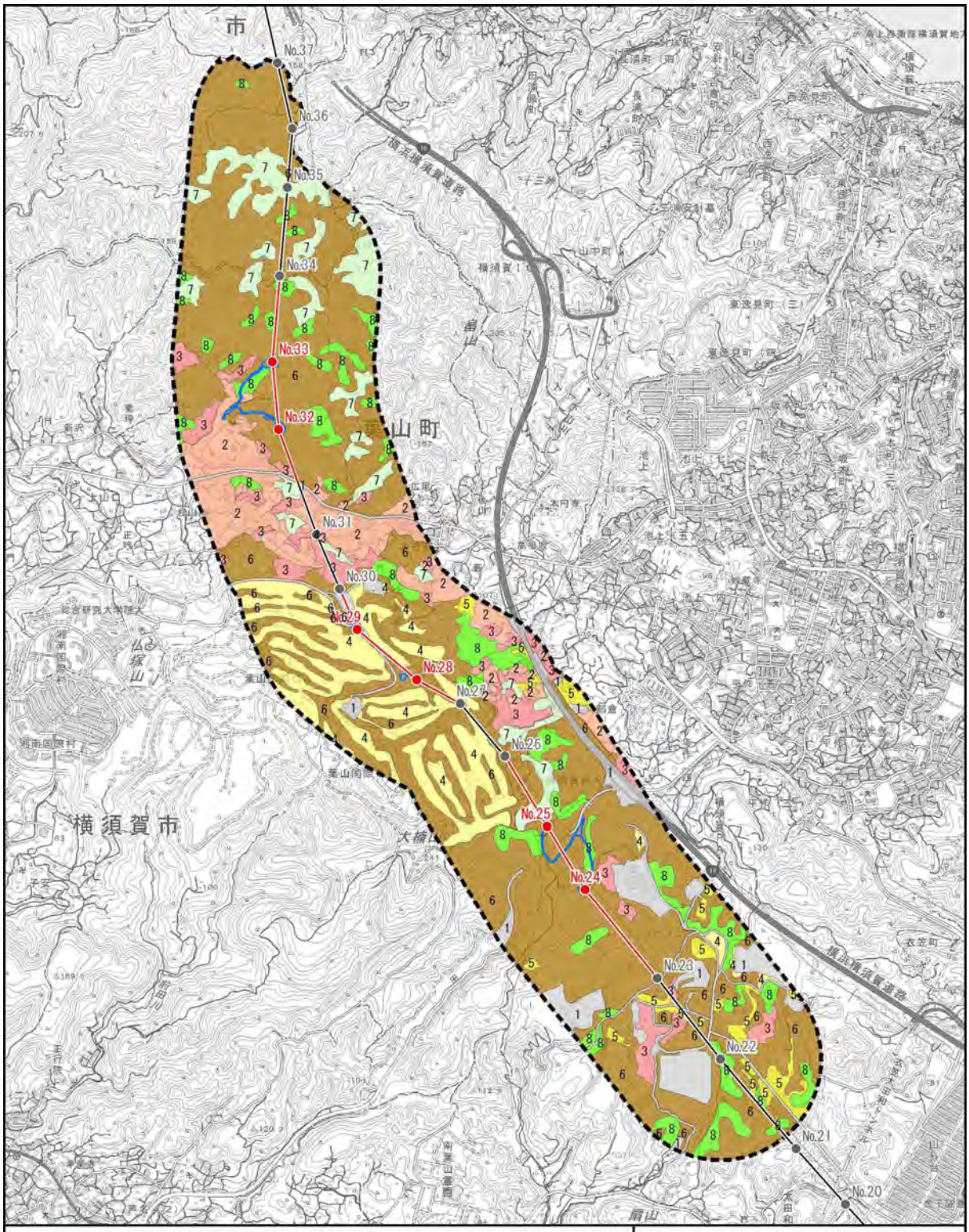


図 5.2-5(1)　植生自然度図

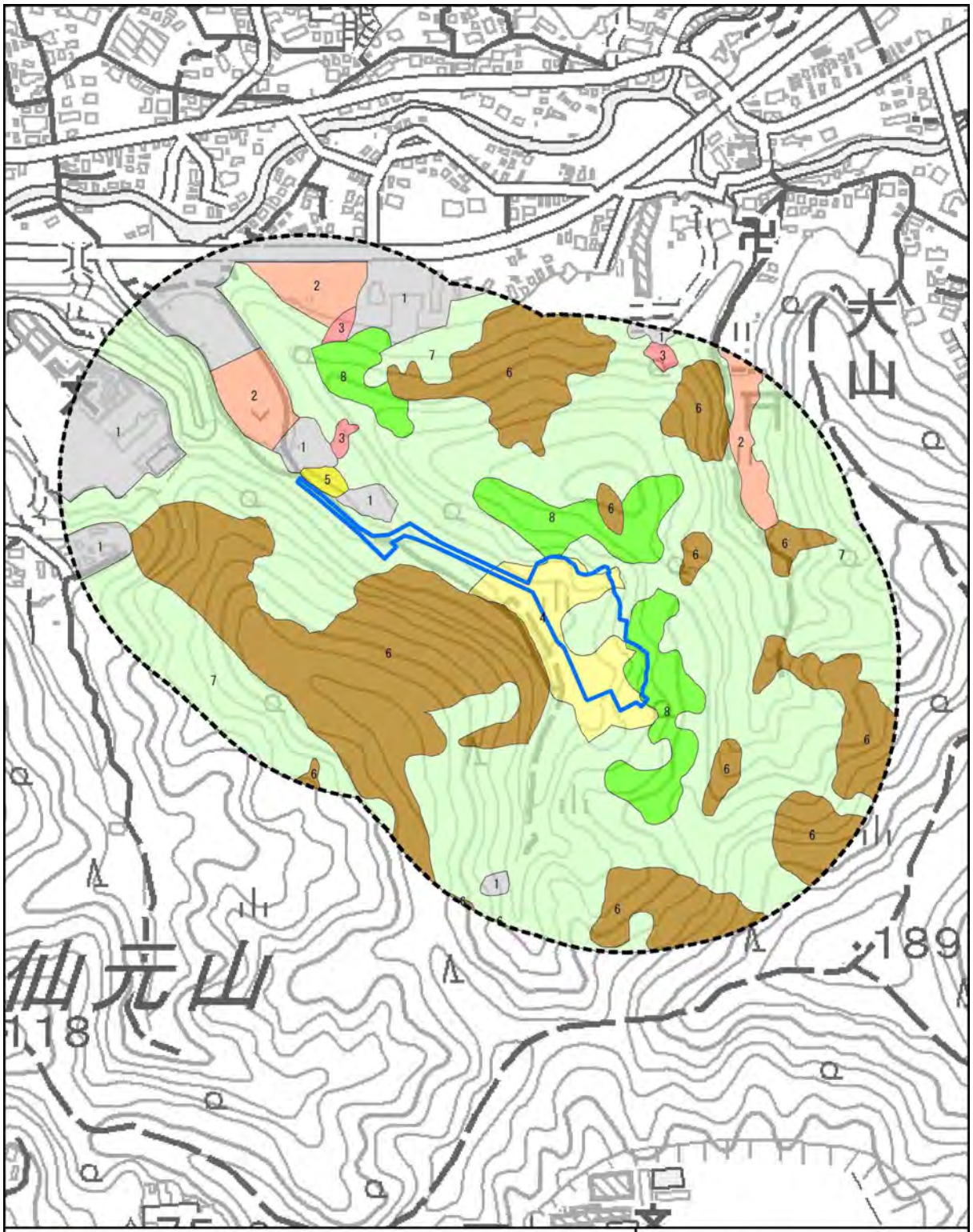


図 5.2-5(2)　植生自然度図

表 5.2-36　植生自然度の占有面積

植生自然度	実施区域				全体	
	内		外			
	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
8	0.20	0.03	44.51	7.36	44.71	7.40
7	0.32	0.05	50.91	8.42	51.22	8.47
6	1.68	0.28	324.74	53.72	326.42	53.99
5	0	-	12.10	2.00	12.10	2.00
4	0.45	0.08	53.04	8.77	53.49	8.85
3	0	-	28.26	4.68	28.26	4.68
2	0.07	0.01	46.28	7.66	46.34	7.67
1	0.02	0.00	41.97	6.94	41.99	6.95
合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注）表中の数値は小数点第三位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

イ 群落構造

調査範囲に分布する群落構造について、群落構造の概要を以下に整理した。また、各群落の断面図は、図 5.2-6(1)～(15)に示すとおりである。

なお、コドラート調査地点における、コドラート調査結果は資料編に示した。

(a) シイ・カシ二次林

主に調査範囲内の尾根及び斜面上部に点在する常緑広葉樹林で、占有率は 7.40%であった。高木の大半が萌芽再生しており、以前は薪炭林として利用されていたと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、単木では 77cm のアカガシ、株立ちでは 52cm、50cm、46cm のアカガシであった。

群落高は 9～20m程度であり、高木層にスダジイ、アカガシ、タブノキ等が優占した。亜高木層は疎らでアカガシ、シロダモ、イヌビワ等が見られた。低木層はシロダモ、アオキ、ヒサカキ、ヤブツバキが混生した。草本層はベニシダ、ヤブラン、テイカカズ等が見られた。低木及び草本層は耐陰性の強い種が多く見られた。

なお、いずれのシイ・カシ二次林もナラ枯れが確認され、立ち枯れや倒木が目立った。

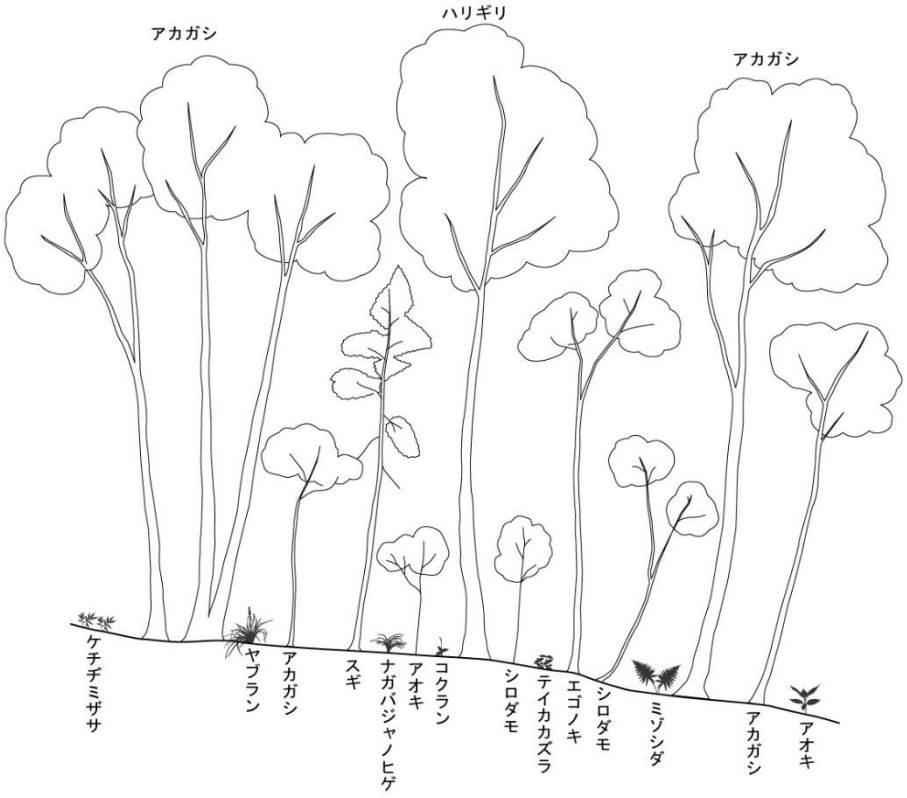


図 5.2-6(1)　シイ・カシ二次林

(b) オニシバリーコナラ群集

主に調査範囲内の森戸川源流域の尾根部から斜面上部に分布する夏緑広葉樹林で、占有率は 2.47%とわずかであった。本来は調査範囲内に広く分布したと考えられるが、ナラ枯れの影響で減少したと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、51cm のコナラであった。

群落高は9～18m程度であり、高木層にコナラ、クヌギが優占した。亜高木層は疎らでヤブニッケイ、オオシマザクラ、コナラ等が見られた。低木層はアオキ、シロダモ、ヤブニッケイ等が優占した。草本層はナガバジャノヒゲ、アズマネザサ、テイカカズ等が優占した。林床が明るいため、低木及び草本層の植被率は高い傾向が見られた。

なお、オニシバリーコナラ群集及び各植生内で見られるコナラ及びクヌギには、全体的にナラ枯れによる立ち枯れや倒木が目立った。

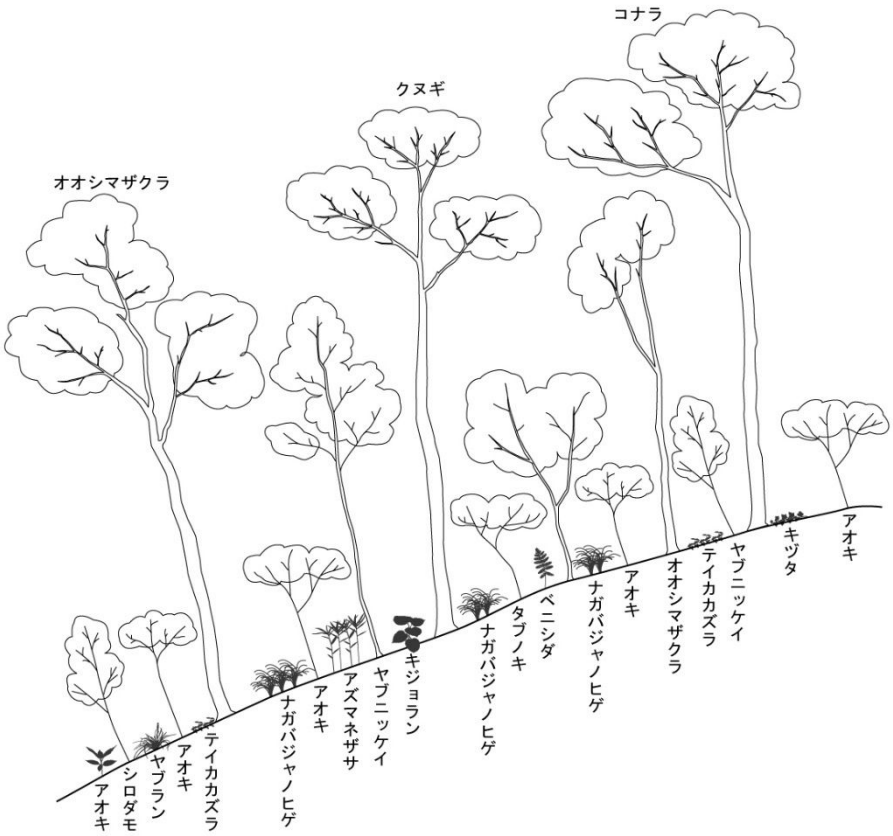


図 5.2-6(2)　オニシバリーコナラ群集

(c) アカメガシワーカラスザンショウ群落

調査範囲内の急傾斜地に広範囲に分布する先駆性の落葉広葉樹林で、占有率は25.74%と最も広く分布した。本来はオニシバリーコナラ群集であった箇所が、ナラ枯れによる影響で優占種が遷移したと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、44cm のカラスザンショウであった。

群落高は4～19m程度であり、高木層にアカメガシワ、カラスザンショウ、ハゼノキ等が優占した。亜高木層は疎らでシロダモ、ヤブニッケイ、ミズキ等が見られた。低木層はアオキ、イヌビワ、キブシ等が見られた。草本層はベニシダ、ヒゴクサ、キチジョウソウ等が見られた。

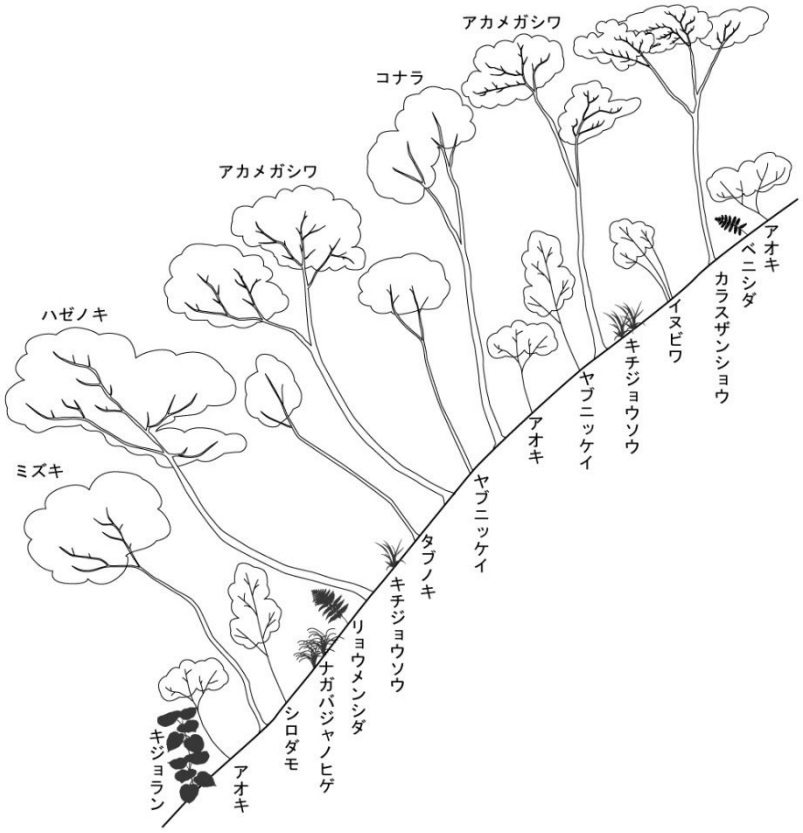


図 5.2-6(3)　アカメガシワーカラスザンショウ群落

(d) ケヤキ群落（Ⅶ）

主に森戸川源流域、大沢谷川及び阿部倉の急傾斜地及び深い谷に点在する夏緑広葉樹林で、占有率は 2.71%とわずかであった。高木の胸高直径の最大は、40cm のケヤキであった。

群落高は 14～16m程度であり、高木層にケヤキ、ムクノキ、エノキ等が優占した。亜高木層は疎らでイロハモミジ、ケヤキ、ムクノキ等が見られた。低木層はアオキ、コクサギ、イヌビワ等が見られた。草本層はリョウメンシダ、ジュウモンジシダ、キチジョウソウ等が見られた。

そのほか、植生調査が実施困難な崖地ではイワギボウシ、イタヤカエデ、ケイワタバコなど山地性の種が多く確認された。

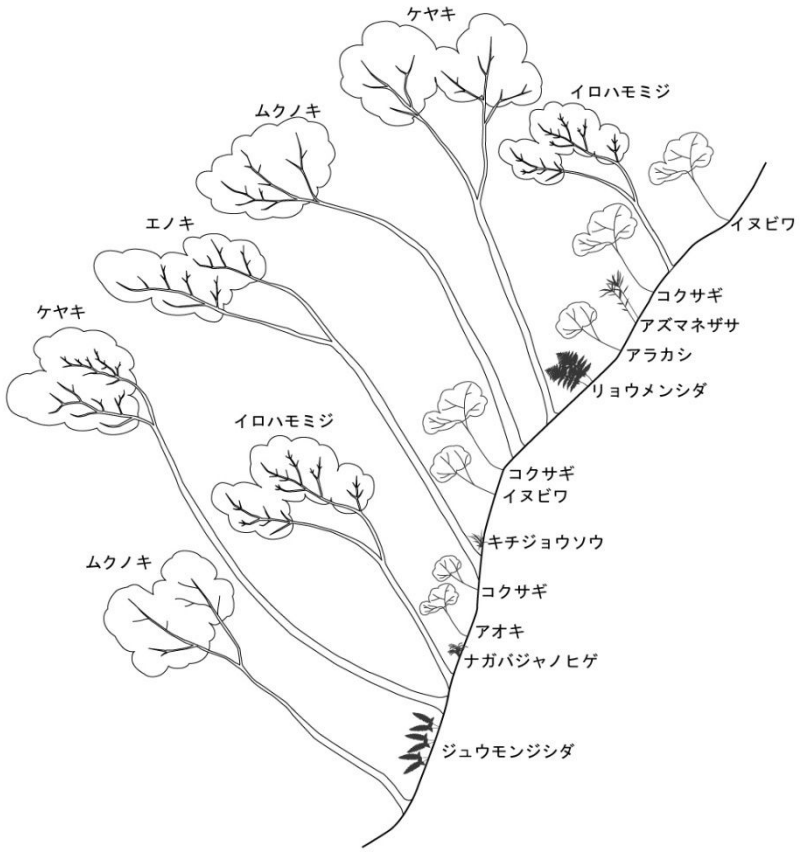


図 5.2-6(4)　ケヤキ群落（Ⅶ）

(e) エノキ群落

主に調査範囲内の北側の急傾斜地に点在して分布する夏緑広葉樹林で、占有率は3.29%とわずかであった。高木の胸高直径の最大は、37cmのエノキであった。

群落高は 10～18m程度であり、高木層にエノキ、ムクノキ、コナラ等が優占した。亜高木層は疎らでシロダモ、ヤブニッケイ、エノキ等が見られた。低木層はアオキ、コクサギ、イヌビワ等が優占した。草本層はナガバジャノヒゲ、キチジョウソウ、テイカカズラ等が疎らに見られた。

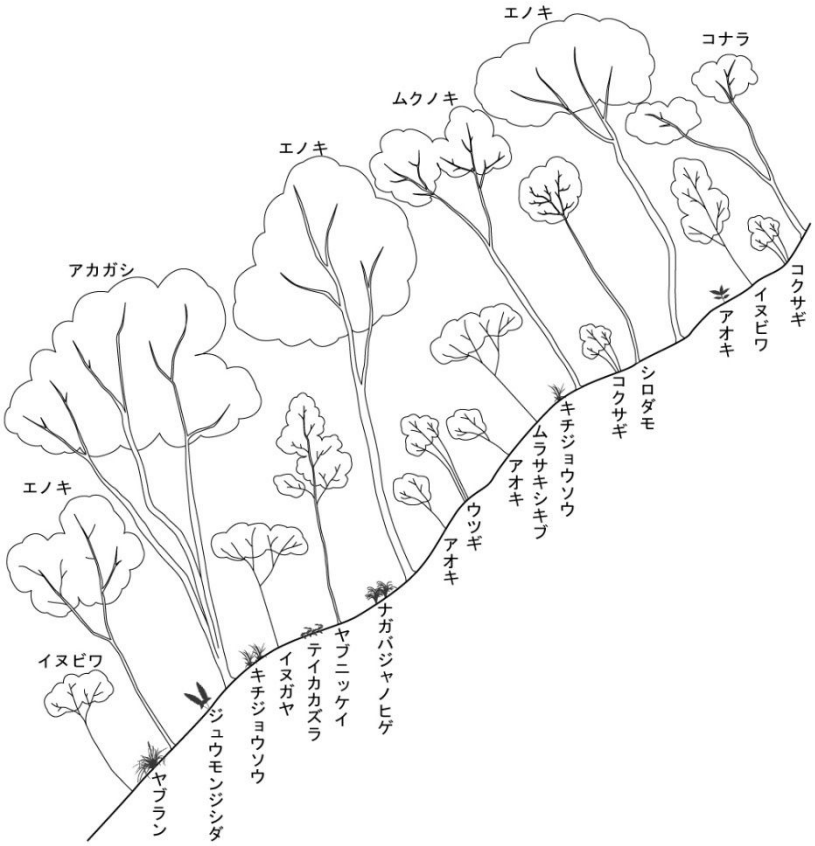


図 5.2-6(5)　エノキ群落

(f) アズマネザサ－ススキ群集

主に調査範囲内の南側に点在して分布する植生で、占有率は 2.00%とわずかであった。以前は放棄畑雑草群落、路傍・空地雑草群落、ススキ群団及び造成地であった環境が遷移したと考えられる。

群落高は 1～6m程度であり、低木層にアズマネザサが優占した。草本層はウラシマソウ、ヤマグワ、アオキ等が僅かに見られたほか、一部ではアズマネザサとススキが混生する箇所が確認された。

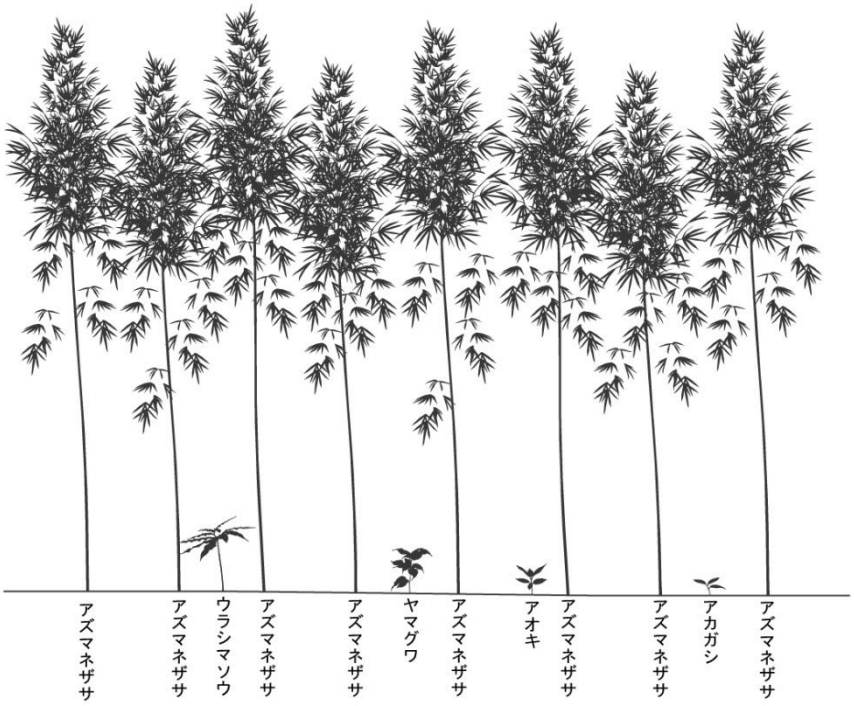


図 5.2-6(6)　アズマネザサ－ススキ群集

(g) スギ・ヒノキ・サワラ植林

主に調査範囲内の谷を中心に点在する常緑針葉樹の植林で、占有率は 7.50%であった。大半はスギの植林であった。

高木の胸高直径の最大は、33cm のヒノキであった。

群落高は 15～20m程度であり、高木層にスギ、ヒノキが優占した。亜高木層は疎らでスギ、ムクノキが見られた。低木層はアオキ、ヒサカキ、イヌビワが混生した。草本層はリョウメンシダ優先して繁茂する箇所が多く、そのほかにヤブミョウガ、ナガバジャノヒゲ等が見られた。低木及び草本層は耐陰性の強い種が多く見られた。

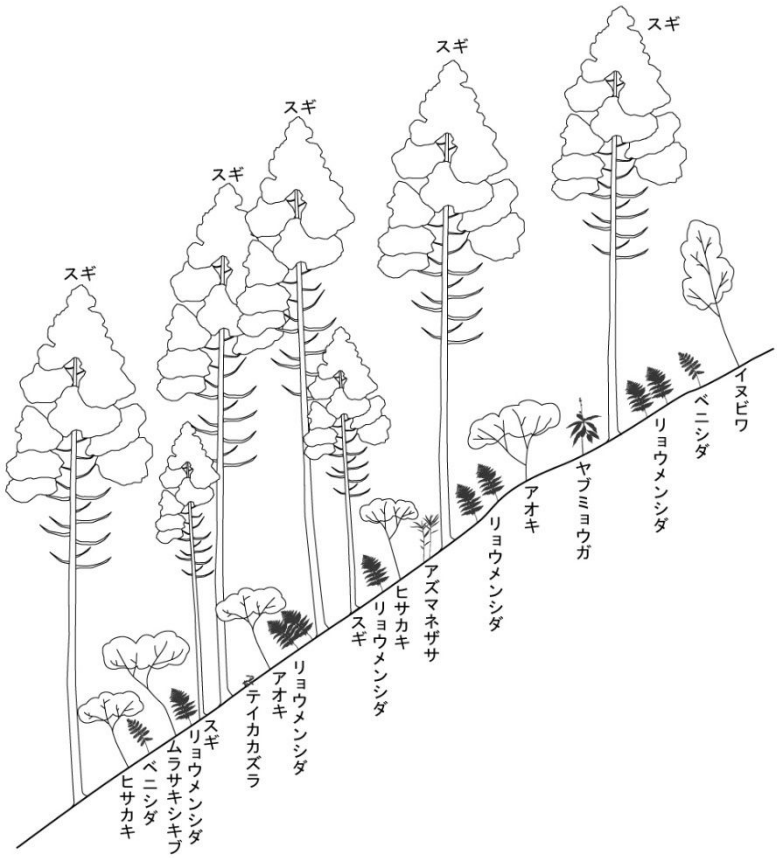


図 5.2-6(7)　スギ・ヒノキ・サワラ植林

(h) クロマツ植林

調査範囲内のゴルフ場内のみに点在するクロマツの植林で、占有率は 2.66%とわずかであった。

高木の胸高直径の最大は、44cm のクロマツであった。

群落高は 12～18m程度であり、高木層にクロマツが優占した。亜高木層は疎らでオオシマザクラ、ミズキが見られた。低木層はヤマグワ、イヌビワ、トベラが混生した。草本層はテイカカズラ、キヅタ等が多く見られた。

本植生はゴルフ場内に存在するため、クロマツのほかにもカイヅカイブキ、ウバメガシ、キョウチクトウといった樹木が植栽され、林床は定期的に管理されていた。

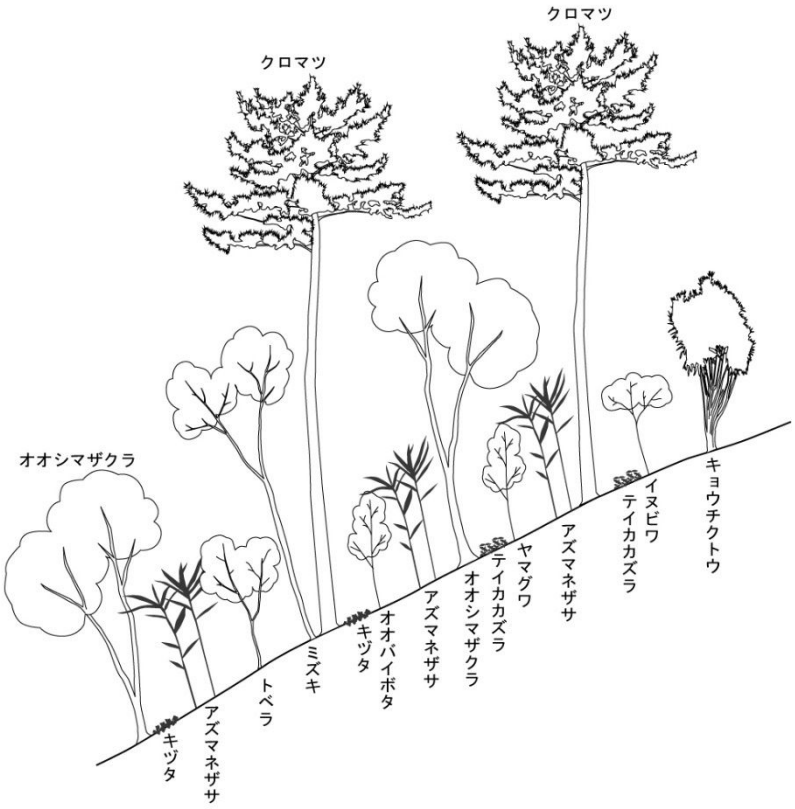


図 5.2-6(8)　クロマツ植林

(i) その他植林（常緑広葉樹）

主に調査範囲内の埋立地及び高速道路の法面に見られる広葉樹の植林で、占有率は3.79%であった。

高木の胸高直径の最大は、20cm のスダジイであった。

群落高は8～12m程度であり、高木層にマテバシイ、スダジイが優占した。亜高木層はアラカシ、スダジイ、カキノキ等が見られた。低木層はわずかにアオキ、ケヤキ、マサキ等が見られた。草本層はスゲ属の一種、アオキ、キヅタ等が見られた。低木及び草本層は耐陰性の強い種が多く見られた。

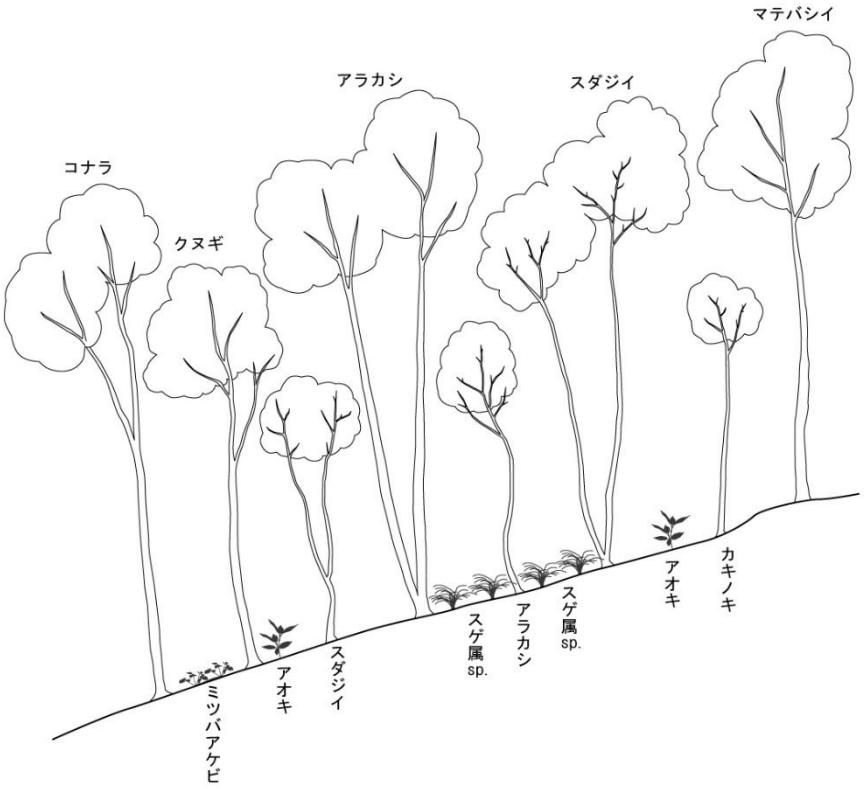


図 5.2-6(9)　その他植林（落葉広葉樹）

(j) オオシマザクラ植林

主に調査範囲内の尾根部から斜面上部を中心に点在するオオシマザクラの植林で、占有率は14.30%であった。シイ・カシ二次林と同様に萌芽再生したものが多く、以前は薪炭林として利用されていたと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、70cm オオシマザクラであった。

群落高は6～15m程度であり、高木層にオオシマザクラが優占したほか、タブノキ、スダジイ等も見られた。亜高木層はシロダモ、ヤブニッケイ、マテバシイ等が見られた。低木層はヤブニッケイ、イヌビワ、アオキが混生した。草本層はヤブラン、ナガバジャノヒゲ、アオキ等が見られた。

そのほか、管理放棄によりアズマネザサの繁茂する箇所が多く見られた。

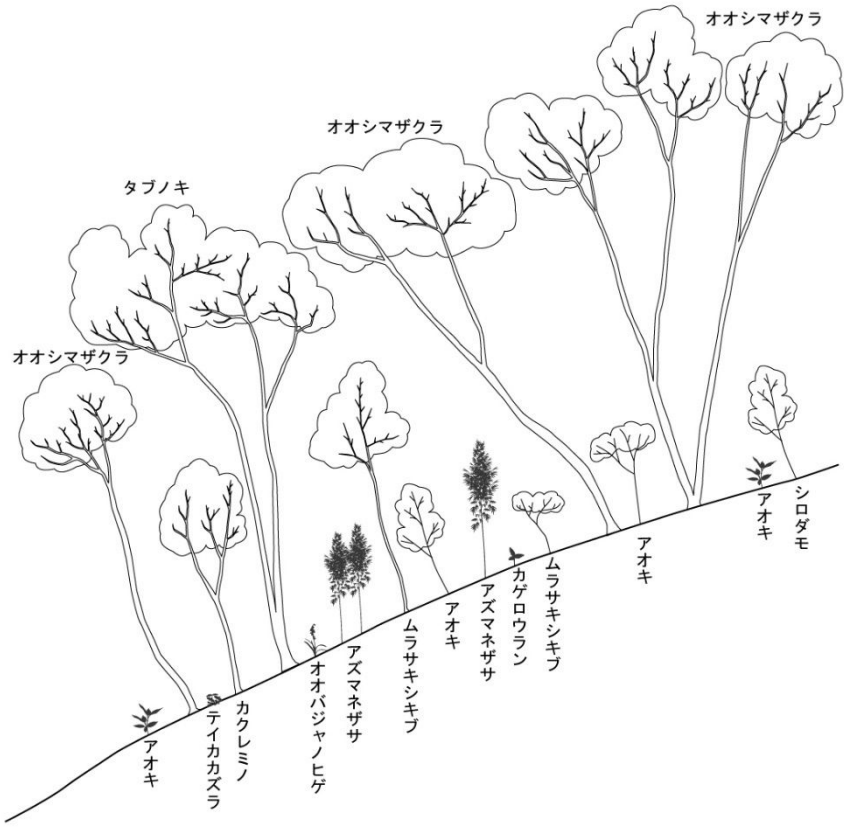


図 5.2-6(10)　オオシマザクラ植林

(k) 竹林

主に森戸川源流域以南の丘陵地の斜面下部から中部にかけて点在する竹林で、占有率は 4.66%であった。管理されなくなった薪炭林等の樹林地及び耕作地への侵入が目立った。

群落高は9～16m程度であり、高木層にモウソウチク、マダケ、ハチクが優占したが、大半はモウソウチクが優占する竹林であった。亜高木層はほとんど見られなかった。低木層は疎らでアオキ、アズマネザサが見られた。草本層は場所によってはドクダミ、キチジョウソウ等が繁茂する箇所が見られたが、疎らな環境が大半であった。

なお、秋季の植物相調査の際にアキザキヤツシロラン及びクロヤツシロランが生育する腐植や落葉層に富んだ竹林も見られた。

図 5.2-6(11)　竹林

(l) ゴルフ場・芝地

調査範囲内のゴルフ場においてコースとして利用されている芝地で、占有率は8.11%であった。

定期的に管理されているため、芝地として利用されている種以外は見られなかった。なお、利用されている芝については、種の特定には至らなかった。

(m) 路傍・空地雑草群落

主に調査範囲内の埋立地及び造成地に見られる草地で、占有率は 0.78%とわずかであった。荒れた環境のため、在来種よりも外来種の占める割合が高かった。

群落高は0.05～1.5m程度であり、アレチハナガサ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ等が優占した。

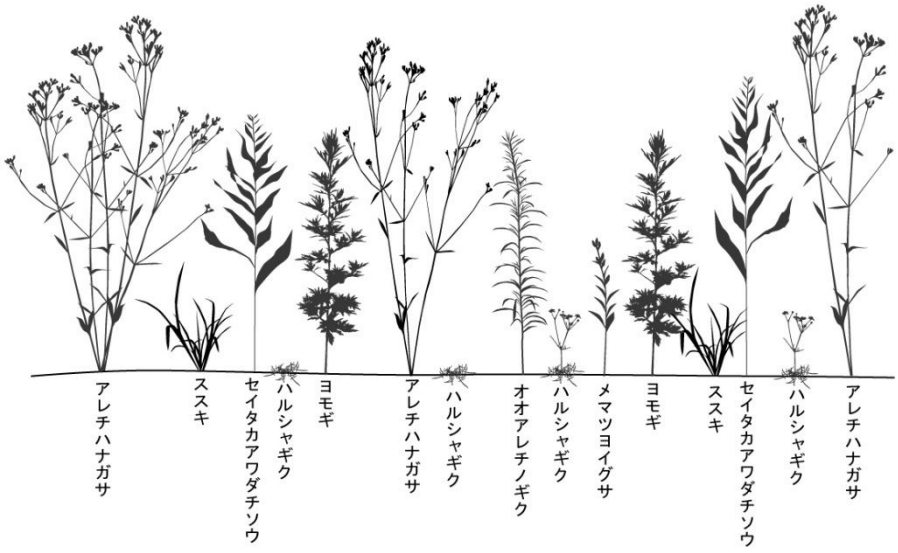


図 5.2-6(12)　路傍・空地雑草群落

(n) 果樹園

以前は水田として利用していた谷戸を再利用した果樹園で、占有率は 0.14%とわずかであった。

群落高は 1～6m程度であり、低木層にウメ、カキノキが優占した。草本層はスゲ属の一種、ヘビイチゴ、キツネノマゴ等の背丈の低い種が混生した。

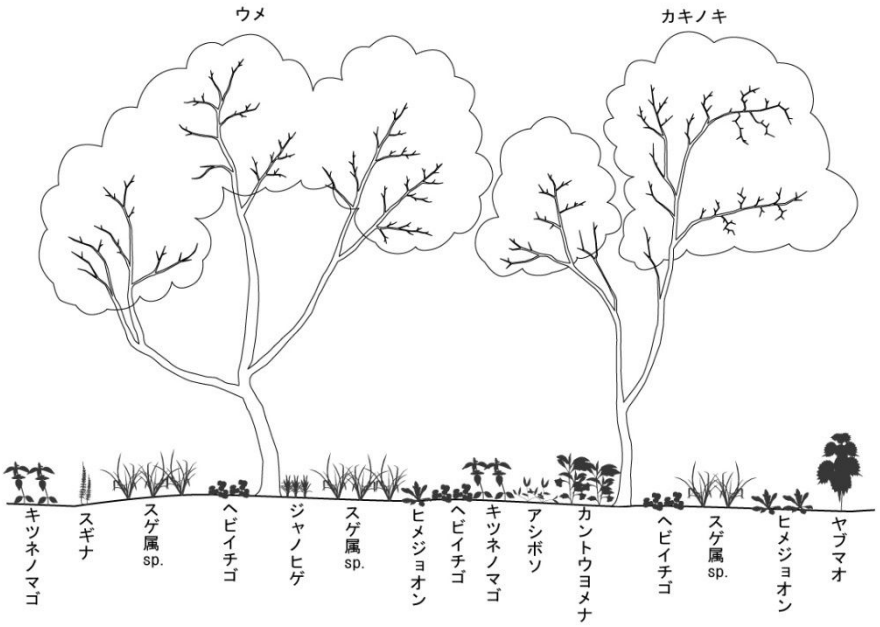


図 5.2-6(13)　果樹園

(o) 畑雑草群落

畑として利用されており、占有率は 1.70%とわずかであった。作物のほかにメヒシバ、ヒメイヌビエ、スベリヒユ等の明るく乾いた環境を好む種が多く確認された。

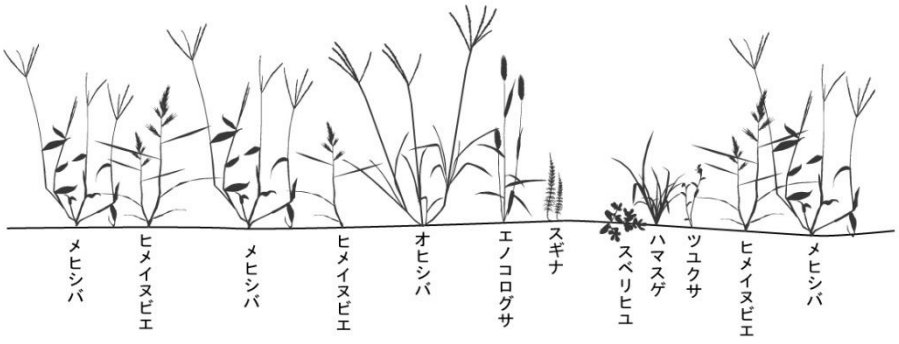


図 5.2-6(14)　畑雑草群落

(p) 水田雑草群落

水田として利用されており、占有率は 0.20%とわずかであった。イネのほかにアゼナ、イボクサ、キカシグサ等の明るく湿った環境を好む種が確認された。

図 5.2-6(15)　水田雑草群落

(q) 市街地等

ごみ焼却施設、ソーラー発電施設及び高速道路等の緑の少ない人工的な環境で、調査範囲内での占有率は 6.95%であった。植生はほとんど見られなかった。

(r) 緑の多い住宅地

下山川及び森戸川周辺に見られる住宅地で、調査範囲内での占有率は 5.60%であった。人工的な環境であるが、市街地に比べ植栽や緑地が多い環境であった。

ウ 潜在自然植生

調査範囲の潜在自然植生は、図5.2-7(1)～(2)に示すとおりである。また、潜在自然植生の面積は表5.2-37に示すとおりである。

「神奈川県潜在自然植生図」（神奈川県教育委員会、昭和 50 年)、「神奈川県の潜在自然植生」（神奈川県教育委員会、昭和 56 年）及び現地調査によって調査範囲の潜在植生は、ヤブツバキクラス域に属する4区分に分類されると推測された。

調査範囲内の潜在自然植生の分布は、山地から丘陵地の尾根、斜面の大部分がヤブコウジースダジイ群集、山地から丘陵地の斜面下部の土壌が厚く堆積する箇所ではイノデータブ群集、山地の渓谷沿いではイロハモミジーケヤキ群集、低地の谷戸及び山川周辺ではハンノキ群落が成立すると考えられる。表層土が失われているゴルフ場、埋め立て地等については、客土により本来の立地を復元できることから、上記の潜在自然植生が成立すると考えられる。

占有面積では、最も占有しているのは「ヤブコウジースダジイ群集」であり、全体の7割程度を占めていた。次いで「イノデータブ群集」が 14.76%、「イロハモミジーケヤキ群集」が 8.39%、「ハンノキ群落」が 6.32%であった。実施区域内では、「ヤブコウジースダジイ群集」が最も大きい面積であったが、全体と比較すると 0.34%程度の面積であった。

表 5.2-37　潜在自然植生の占有面積

No.	潜在自然植生の区分	実施区域				全体	
		内		外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
1	ヤブコウジースダジイ群集	2.07	0.34	424.25	70.18	426.33	70.52
2	イノデータブ群集	0.15	0.03	89.10	14.74	89.25	14.76
3	イロハモミジーケヤキ群集	0	-	50.73	8.39	50.73	8.39
4	ハンノキ群落	0.51	0.08	37.72	6.24	38.23	6.32
	合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注）表中の数値は小数点第三位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

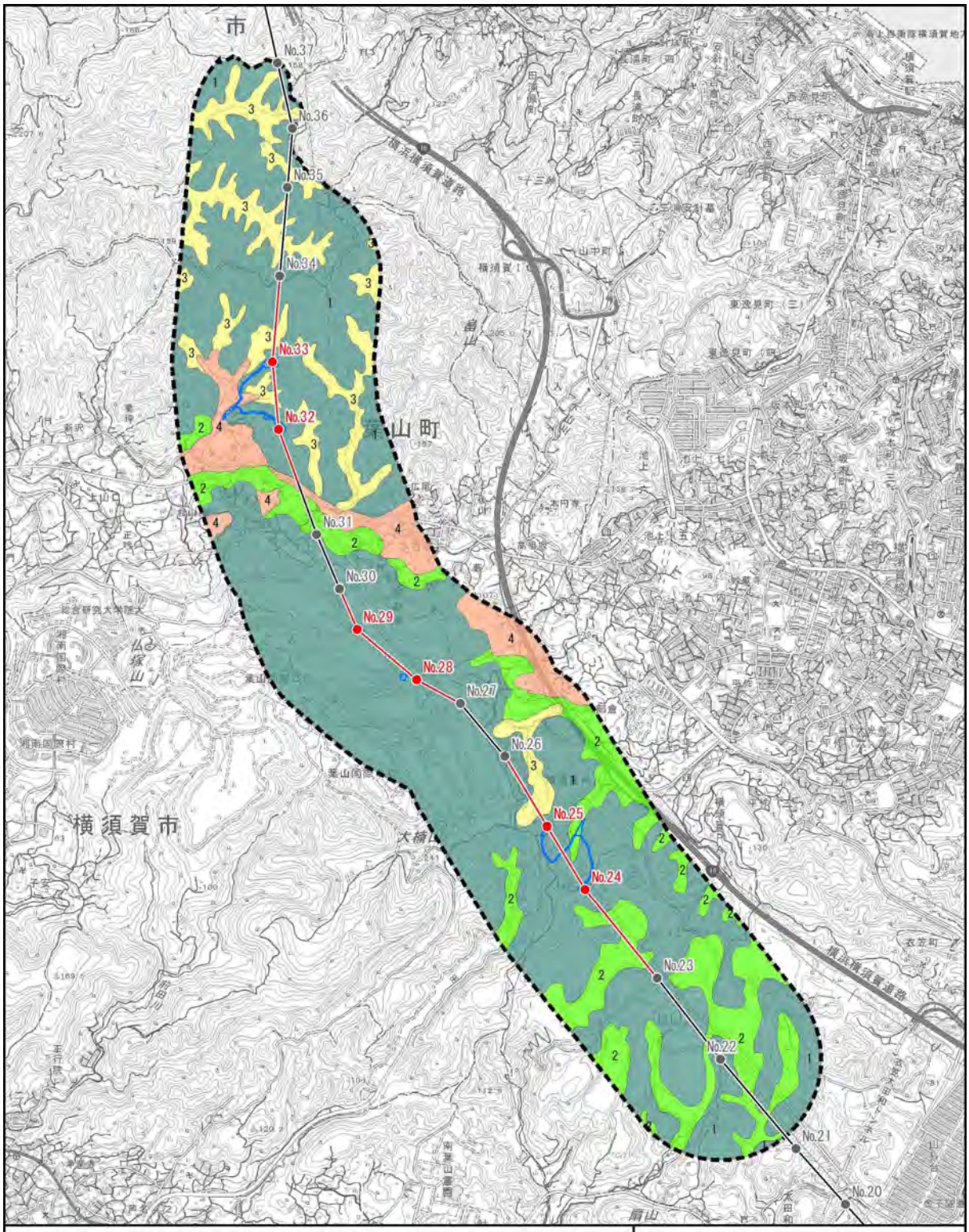


図 5.2-7(1)　潜在自然植生図

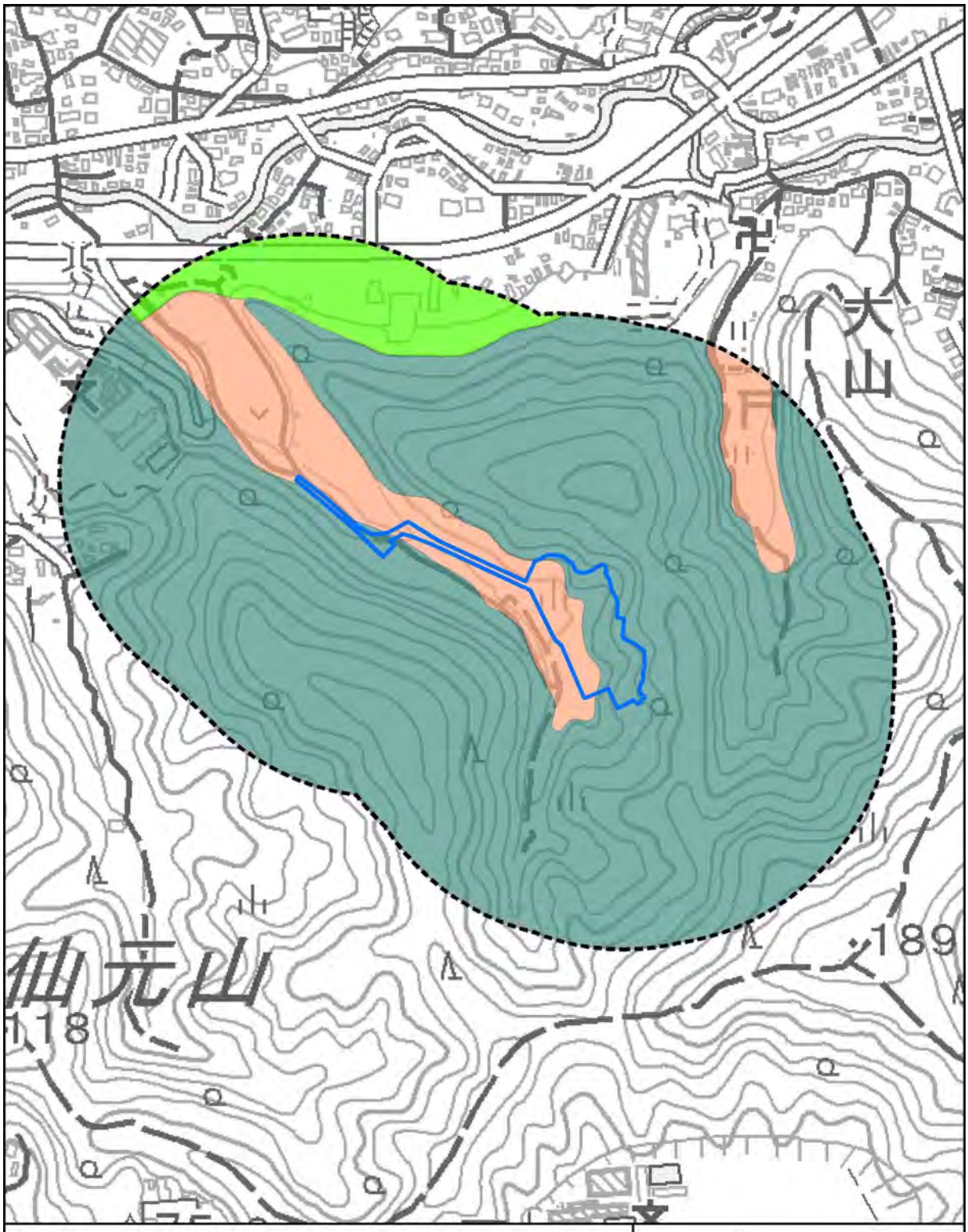


図 5.2-7(2)　潜在自然植生図

(3) 重要な植物種及び植物群落

① 調査事項

重要な植物種及び植物群落の確認地点、生育状況等とした。

② 調査方法

「(1) 植物相」及び「(2) 植生」の調査結果を整理及び解析するとともに、現地調査により確認地点、個体数、生育密度、生育状況、生育環境との関わり等を明らかにした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲は、「(1) 植物相」及び「(2) 植生」と同様（図 5.2-3(1)～(2)参照）の範囲とした。

④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期及び頻度は、「(1) 植物相」及び「(2) 植生」と同様（表 5.2-27(1)～(2)及び表 5.2-32(1)～(2)参照）の期日で実施した。

⑤ 調査結果

ア 重要な植物種

重要な植物種の選定は表 5.2-38 に示す基準により行った。現地調査により確認された重要な植物種は表 5.2-39 に、確認状況は表 5.2-40(1)～(5)に、確認位置は図 5.2-8(1)～(3)に示すとおりである。また、実施区域の工事用地に近い位置で確認された重要な植物種は、図 5.2-9(1)～(2)の拡大図に示した。

現地調査の結果、12 科 20 種の重要種が確認された。確認された重要な植物種は、いずれも実施区域外であり、実施区域から 5m以内の近傍でも確認されなかったが、比較的近い位置に生育している個体が複数確認された。

なお、イブキ、イヌカタヒバ、シラン、スルガラン、ウバメガシの 5 種については、逸出した種であるため重要種から除外した。

表 5.2-38　重要な植物種の選定基準

	法令・文献・資料名	区　分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和 30 年条例第 13 号)、「横須賀市文化財保護条例」(昭和 39 年条例第 41 号)、「葉山町文化財保護条例」(昭和 42 年条例第 7 号)、「逗子市文化財保護条例」(昭和 43 年条例第 11 号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：神奈川県指定天然記念物 横天：横須賀市指定天然記念物 葉天：葉山町指定天然記念物 逗天：逗子市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省第５次レッドリスト（維管束植物)」 (環境省、令和 7 年 3 月)	EX:絶滅。我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 CR:絶滅危惧 IA 類。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN:絶滅危惧 IB 類。IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU:絶滅危惧Ⅱ類。絶滅の危険が増大している種。 NT:準絶滅危惧。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD:情報不足。評価するだけの情報が不足している種。 LP:地域個体群。地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
④	「神奈川県レッドデータブック 2022［植物編］」 (神奈川県、令和 4 年)	EX：県内では、すでに絶滅したと考えられる種。 EW：県内において、過去に生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、本来の自然の生息地ではすでに絶滅したと考えられる種 CR：絶滅危惧 IA 類。県内において、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN：絶滅危惧 IB 類。県内において、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU：絶滅危惧Ⅱ類。県内において、絶滅の危険が増大している種。 NT：準絶滅危惧。県内において、存続基盤が脆弱な種。 DD：情報不足。県内において、評価するだけの情報が不足している種。

表 5.2-39　現地調査により確認された重要な植物種

No.	分類	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準			
				早春季		春季		夏季		秋季						
				内	外	内	外	内	外	内	外		①	②	③	④
1	シダ植物	イノモトソウ科	ナチシダ		○		○		○		○					EN
2	単子	トチカガミ科	ヒロハトリゲモ						○						VU	NT
3	葉類	ラン科	エビネ		○		○		○		○				NT	NT
4			キンラン				○		○		○				VU	NT
5			マヤラン		○				○						VU	
6			タシロラン						○						NT	
7			アケボノシュスラン		○		○		○		○					VU
8			ハチジョウシュスラン		○		○		○		○					EN
9			カゲロウラン		○		○		○		○				NT	VU
10		カヤツリグサ科	センダイスゲ								○					VU
11	真正	ユキノシタ科	ムカゴネコノメソウ		○		○								NT	
12	双子	アカバナ科	ウスゲチョウジタデ						○						NT	
13	葉類	キョウチクトウ科	シタキソウ						○		○					EN
14		ナス科	ヤマホオズキ								○				EN	NT
15		モクセイ科	ミウライボタ				○		○		○					NT
16		シソ科	タニジャコウソウ				○				○				NT	
17			カリガネソウ						○		○	○				VU
18		キキョウ科	ツルギキョウ				○		○		○				VU	VU
19		キク科	アキハギク								○					VU
20			オグルマ		○				○		○					NT
計	3 分類	12 科	20 種	0 種	8 種	0 種	10 種	0 種	15 種	0 種	15 種	1 種	－	－	11 種	15 種
				8 種		10 種		15 種		15 種						

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の記号は、以下の地域・内容を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

注 3）実施区域から約 5m の範囲の生育箇所を実施区域近傍とした。

表 5.2-40(1)　重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	ナチシダ 	【生態など】 本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球球に分布する。山地の湿潤な樹林内に生えるシダ植物。暖地では常緑であるが、北限では冬に枯れる。葉は長さ 1.5m 前後に達する。葉身は鳥足状でほぼ 5 角形、小羽軸付近の脈は網目状になる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体、早春季 1 箇所 2 個体
2	ヒロハトリゲモ 	【生態など】 本州、四国、九州、琉球に分布する。水田などに生える沈水性の 1 年草。葉は長さ 1.5～3cm で小さな鋸歯がある。葉鞘の先は切形または円形で種子は長楕円形で長さ 2.5～3mm、種子表面の模様は 4～6 角形で大きく細胞壁が盛り上がって目立つ。花期は 7 月～9 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 10 個体
3	エビネ 	【生態など】 北海道（西南部以南）、本州、四国、九州、琉球に分布する。主に落葉広葉樹林等の比較的明るい林床に生える常緑性の多年草。手入れされたスギ植林にも多い。葉は 2～3 枚で花茎は高さ 20～40cm。花は通常暗褐色～淡紫褐色で花期は 4 月～5 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 5 箇所 54 個体、春季 3 箇所 5 個体、 夏季 9 箇所 64 個体、秋季 2 箇所 12 個体
4	キンラン 	【生態など】 本州、四国、九州に分布する。山地や丘陵地の疎林内や林縁に生える夏緑性の多年草。茎は高さ 20～70cm。葉は長楕円状披針形で 5～8 枚が互生し、無毛で茎を抱く。黄色い花を 3～12 個を茎頂に上向きにつける。花期は 4 月～5 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 9 個体、秋季 1 箇所 1 個体

表 5.2 表 5.2-40(2)　重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	マヤラン 	【生態など】 本州（栃木県以西）、四国、九州、琉球に分布する。常緑広葉樹林内の腐植質に富んだ林床に生える緑葉のない菌従属栄養植物。花は花茎の上半部に 2～5 個を疎らにつけ、乳白色で太い赤紫色の条斑が入る。花期は 6 月～9 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体
6	タシロラン 	【生態など】 本州（群馬県以南）、四国、九州、琉球に分布する。常緑広葉樹林内に生える菌従属栄養植物。花茎は高さ 20～50cm、淡褐色で膜質の鞘状葉を互生する。花は茎の上部に 5～30 個が垂れて咲き、白色～淡褐色で花期は 6 月～7 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 8 箇所 50 個体
7	アケボノシュスラン 	【生態など】 北海道、本州、四国、九州に分布する。シイ・カシ帯の山地樹林内に生える常緑性多年草。茎は高さ 5～10cm。葉は 4～6 枚が互生し淡緑色の主脈を中心に縦脈 3 本が目立つ。花は淡紅色をおびた白色で花期は 9 月～10 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 2 箇所 16 個体、春季 1 箇所 17 個体、 夏季 2 箇所 10 個体
8	ハチジョウシュスラン 	【生態など】 本州、四国、九州、琉球に分布する。常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草。茎は基部が長めに這い、上部は直立し開花時の高さは 10～25 cm。長さ 3～4 cmの葉が 3～4 枚つき、中肋に沿って白色の帯状斑がある。やや密に多数の花をつける。花期は 9 月～11 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 4 箇所 46 個体、秋季 2 箇所 34 個体

表 5.2 表 5.2-40(3)　重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
9	カゲロウラン 	【生態など】 本州（三浦半島、東京都伊豆大島、静岡県、和歌山県）、四国（愛媛県、高知県）、九州（南部）、琉球に分布する。常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草。茎は直立し、高さ 10～25cm。葉は光沢があり、葉柄の基部は鞘となって茎を抱く。花は茎頂に 2～10 個つけ淡紅褐色。花期は 9 月～10 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 7 箇所 51 個体、夏季 2 箇所 8 個体、 秋季 3 箇所 40 個体
10	センダイスゲ 	【生態など】 本州（岩手県以南）、四国、九州に分布する。沿海地の疎林内や海岸芝地に生える多年草。匍匐根茎を伸ばし、ゆるく叢生し、ときに匐枝を出す。ナキリスゲに比べてやや小型。有花茎は葉より低く、花穂は上部に集まる傾向がある。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 50 個体
11	ムカゴネコノメソウ 	【生態など】 本州（宮城県南部～東海地方）に分布する。沢沿いの樹林内に生育する多年草。走出枝を伸ばし、先にむかごをつける。有花茎は高さ 5～15cm、2～3 対の葉が対生する。葉は卵円形、円い鋸歯が 5～7 個ある。花期は 3 月～4 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 14 箇所 2,130 個体、春季 1 箇所 20 個体
12	ウスゲチョウジタデ 	【生態など】 本州（関東地方以西）、九州、琉球に分布する。水田や湿地、河川敷などに生える一年草。茎と葉にはしばしば細毛が生え、開花期に植物体は赤色とならず、結実期でも紅色の帯び方は弱い。花は通常 5 数性で 7～10mm。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 2 箇所 6 個体

表 5.2 表 5.2-40(4)　重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
13	シタキソウ 	【生態など】 本州（千葉県以西の太平洋側）、四国、九州、琉球に分布する。海岸近くの山林内や林縁に生えるつる性木本。葉は長さ1.5～3cmの柄があり、長さ6～17cm、幅3～12cm、卵形～円状楕円形で基部は心形。花序は集散花序。花は白色でジャスミン様の芳香がある。花期は6月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所1個体
14	ヤマホオズキ 	【生態など】 本州（千葉県以西）、四国、九州に分布する。湿った樹林内に生える多年草。全体に軟弱で無毛。果実を包む萼は稜が肥厚し、そこに刺状の突起がある。花時の萼裂片は長さよりも幅が広い 3 角形で先端はとがらない。花冠は黄白色で花は 8月～9月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季1箇所3個体
15	ミウライボタ 	【生態など】 横須賀市、葉山町、逗子市、鎌倉市などに多く、房総半島にも分布するようである。低地の丘陵に生える低木。上部の葉は細長い。葉は披針形～狭長楕円形で両端やや鋭く、特に先端がえぐれるように尖り、中脈はやや凹み毛はない（稀に多毛の地域がある）。円錐花序はやや細く、稀に下枝の長いものがある。花期は6月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季1箇所1個体、夏季2箇所3個体
16	タニジャコウソウ 	【生態など】 本州（関東地方以西）、四国、九州に分布。シイ・カシ帯～ブナ帯下部までの湿った谷間の樹林内に生える多年草。茎は緩やかな稜形で下向きの毛が生える。葉は対生し基部は心形。花は葉腋からでた花柄の先につく。花期は8月～10月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季1箇所4個体、秋季3箇所28個体

表 5.2-40(5)　重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
17	カリガネソウ 	【生態など】 北海道、本州、四国、九州に分布する。山麓原野に生える多年草。茎は 4 角形、上部で分枝し、高さ 1m に達する。強い臭気がある。花序はまばらに散開し、花冠は 2 唇形で大きく開口する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 50 個体、秋季 1 箇所 20 個体
18	ツルギキョウ 	【生態など】 本州（関東地方以西）、四国九州に分布する。山地～丘陵地に生えるつる性の多年草。全体無毛。葉は互生または対生し、葉身は卵心形で鈍頭、環境によっては大きくなり長さ 3～11cm、質は薄く下面は粉白色を帯びる。花期は 8-10 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 15 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 3 箇所 3 個体
19	アキハギク 	【生態など】 神奈川県、千葉県、静岡県などに分布する。尾根筋の乾いた斜面や岩場に生える多年草。シロヨメナに似るが茎の葉は卵形で明らかな柄がある頭花は径 16㎜ 内外で総苞片は 3 列。舌状花は白色。花期は 10 月～11 月。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 7 個体
20	オグルマ 	【生態など】 北海道、本州、四国、九州に分布する。湿った草地に生える多年草。カセンソウに似るが葉は固く、下面に開出毛がある。茎は直立しやや枝分かれする。葉は広披針形から楕円形。花は夏から秋に咲き、花はややレモンがかった黄色。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 20 個体、秋季 1 箇所 30 個体

(参考文献)
「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」（神奈川県立生命の星･地球博物館、令和 4 年）
「神奈川県植物誌 2018」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 30 年）
「絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ増補改訂新版」（矢原徹一ほか、平成 27 年）
「ネイチャーガイド日本の水草」（角野康郎、平成 26 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(1)　植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(2)　植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(3)　植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(4)　植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-9(1)　植物の重要種
確認位置（拡大図）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-9(2)　植物の重要種
確認位置（拡大図）

イ 重要な植物群落

重要な植物群落の選定は表 5.2-41 に示す基準により行った。現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかった。

表 5.2-41　重要な群落の選定基準

	法令・文献・資料名
①	「自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査（第 2,3,5 回)」 (生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 7 年 7 月閲覧)

2. 動物

(1) 動物相

① 調査事項

哺乳類、鳥類、猛禽類、爬虫類、両生類、昆虫類、陸産貝類、クモ類とした。

② 調査方法

動物相の現地調査による調査方法は、表 5.2-42 に示すとおりである。

また、「1.植物」と同様に、「寺前谷戸復元プロジェクト」への聞き取り調査結果について整理し、調査結果として反映した。そのほか、現地調査で鳥類の重要種であるミゾゴイが確認されたため、神奈川県の環境影響評価技術指針に従い、「ミゾゴイ保護の進め方」（環境省自然環境局野生生物課、平成 28 年）に準拠して、ミゾゴイの生息・繁殖状況の確認ための調査を追加で実施した。

表 5.2-42　動物相項目別調査方法

項目	調査方法
ア 哺乳類	直接観察法、トラップ法（シャーマン型トラップによる、小型哺乳類対象）、無人撮影法、コウモリ類調査（夜間、バットディテクター使用）により生息種を確認する。
イ 鳥類	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法、夜間調査により生息種を確認する。 ミゾゴイについては、日没直後及び日の出前の囀り調査、巣の探索調査により生息状況及び繁殖状況を確認する。
ウ 猛禽類	2ヵ年実施した猛禽類調査の結果から、実施区域の周辺において営巣地が存在する重要な猛禽類（オオタカ）を対象に、行動圏調査（定点調査）、営巣地確認調査（踏査）、繁殖状況調査（巣の観察）を実施し、行動圏及びその内部構造を解析する。
エ 爬虫類	直接観察法により生息種を確認する（個体、抜け殻等）。
オ 両生類	直接観察法により生息種を確認する（個体、卵嚢、鳴き声等）。
カ 昆虫類	直接観察法、ライトトラップ法（ボックスライト）、ベイトトラップ法により生息種を確認する。
キ陸産貝類、クモ類	直接観察法により生息種を確認する。

③ 調査範囲及び地点

猛禽類を除いた動物の調査範囲及び地点は図 5.2-10(1)～(2)に、猛禽類の調査地点及び地点は図 5.2-11 に、動物の踏査ルートは図 5.2-12(1)～(2)に示すとおりである。

調査範囲は各動物群の行動圏、移動能力、地形・植生等、生息環境のまとまり等を考慮して、猛禽類を除いた動物は東京南線 3,4 号線沿いの実施区域及びその周辺約 500m、仮設ヘリポートの工事用地及びその周辺約 200m の範囲とした。また、猛禽類は東京南線 3,4 号線沿いの実施区域及びその周辺約 1.5km の範囲とした。そのほか、実施区域外の鉄塔である No.34 から No.37 付近にかけての葉山近郊緑地保全区域（森戸川源流域）を重要な区域として一体的に扱い、調査範囲に追加した。

なお、両実施区域で猛禽類を除いた動物の調査範囲が異なる理由は、以下に示すとおりである。

調査地点は事前に調査範囲の各環境類型区分の代表的な場所から地点を選定した。仮設ヘリポートについては、東京南線 3,4 号線と同様の環境類型区分（p.5-2-226～p.5-2-227 参照。）であったことから、新たに調査地点等は設けなかった。

＜動物の調査範囲の設定理由＞

実施区域	範囲	理由
東京南線 3,4 号線	実施区域及び その周辺約 500m	実施計画書の段階では事業計画が定まっておらず、工事に係る運搬路や基地等が送電線から離れた位置に計画することも想定し、500mとやや広い範囲で設定した。
仮設ヘリポート	実施区域及び その周辺約 200m	ヘリポート候補地として選定した時点で、改変範囲はほぼ定まっており、運搬路も既存の谷内の限定的な面整備であることから、「面整備事業環境影響評価マニュアル（面整備事業環境影響評価研究会　平成 11 年)」を参考にして、動物の調査範囲を 200mとして設定した。

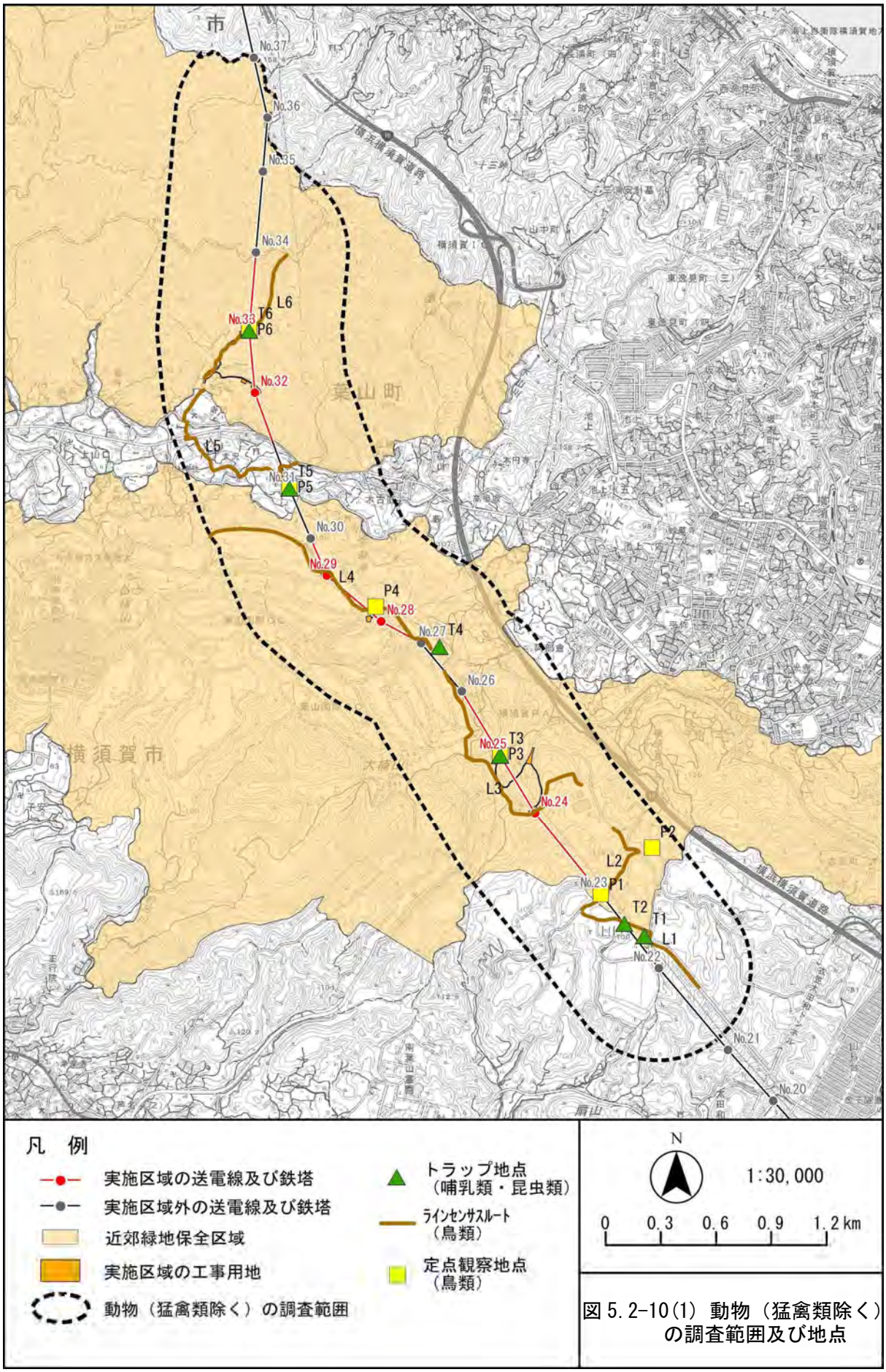
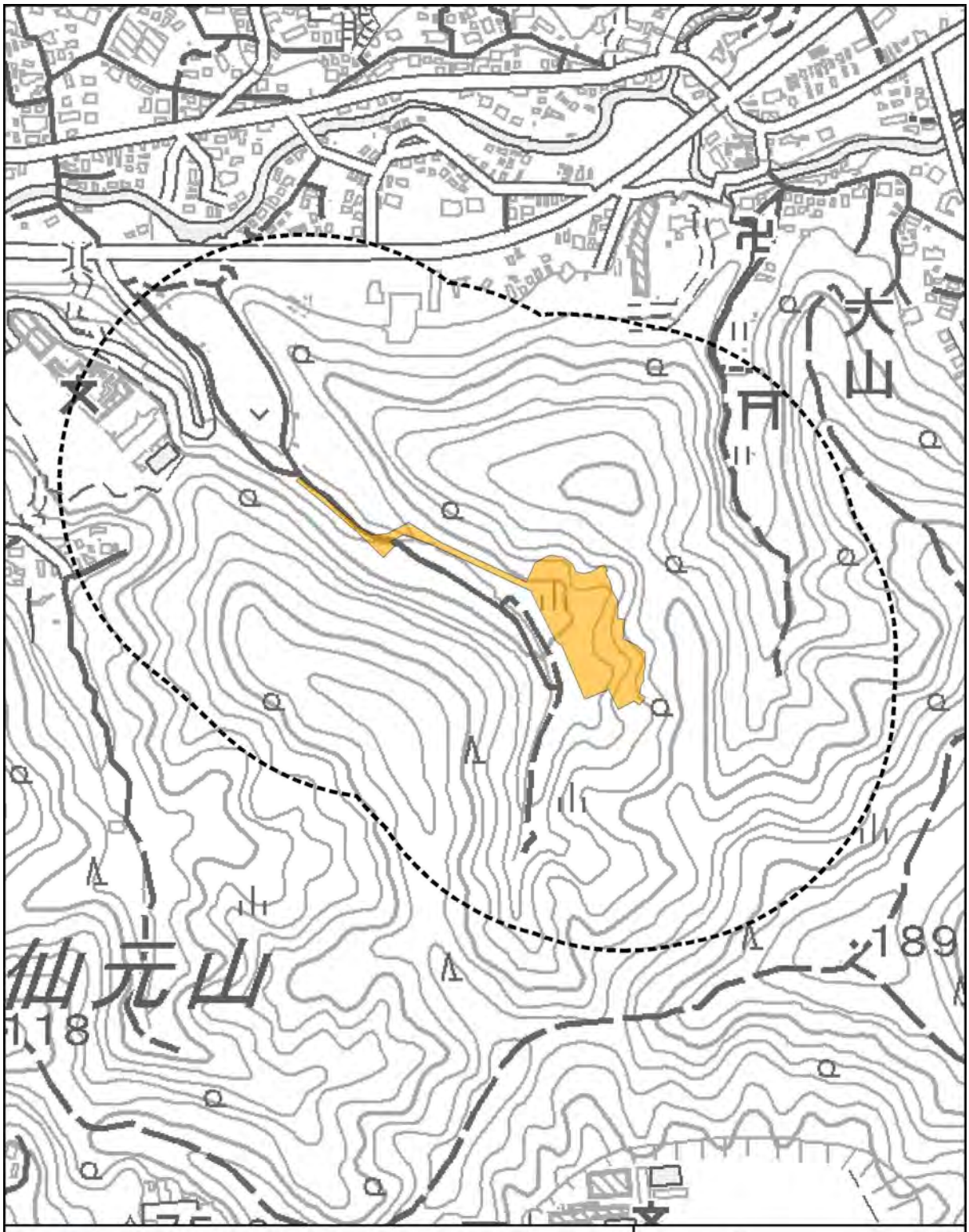


図 5.2-10(1) 動物（猛禽類除く）の調査範囲及び地点



凡　例

実施区域の工事用地

動物（猛禽類除く）の調査範囲

N

1:5,000

0　50　100　150　200 m

図 5.2-10(2) 動物（猛禽類除く）の調査範囲及び地点

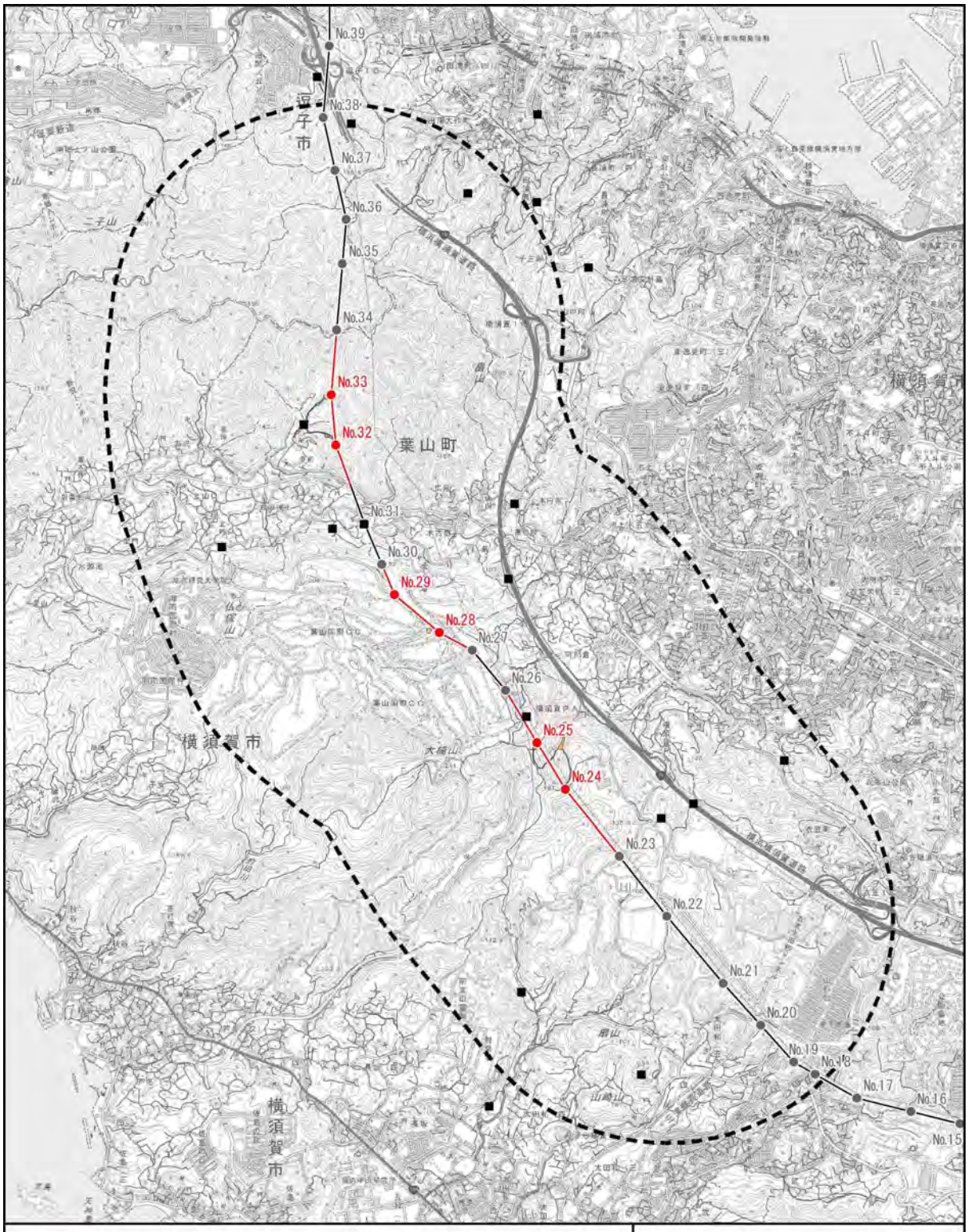


図 5.2-11　動物（猛禽類）の調査範囲及び地点

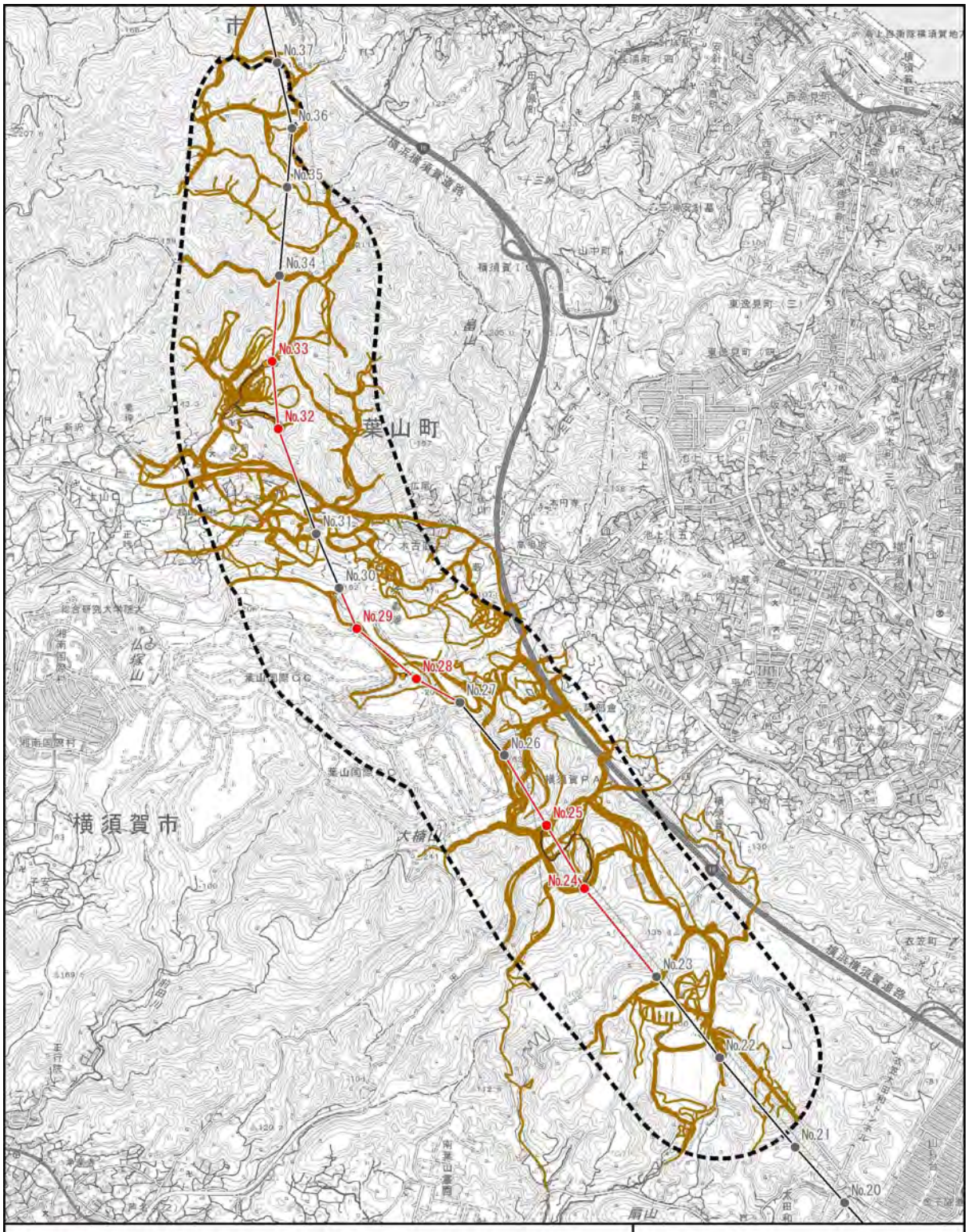


図 5.2-12(1) 動物（猛禽類除く）の踏査ルート

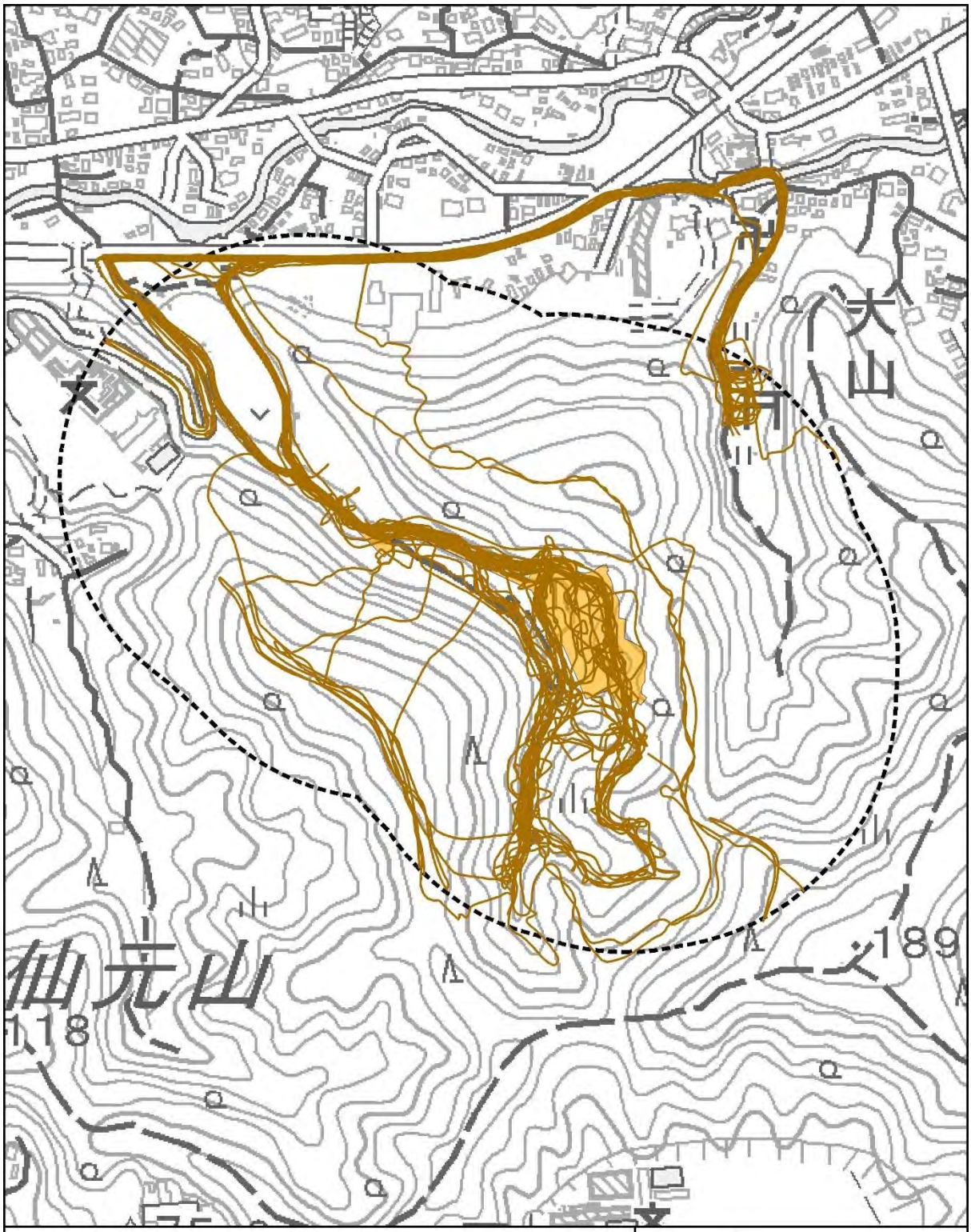


図 5.2-12(2) 動物（猛禽類除く）の踏査ルート

④ 調査時期、期間又は時間帯

動物相の調査実施日は表 5.2-43(1)～(3)に、聞き取り調査実施日は表 5.2-44 に示すとおりである。

調査時期及び回数は基本的に本事業の「環境影響評価実施計画書」に準じて計画し、現地調査での重要種の確認状況等により、適宜調査を追加して実施した。

表 5.2-43(1)　動物相調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

項　目	時期	調査方法	期日
ア 哺乳類	冬季	直接観察法	令和 6 年 1 月 15 日～17 日
		無人撮影法	令和 6 年 1 月 15 日～26 日、2 月 26 日～28 日
	春季	直接観察法、トラップ法	令和 6 年 4 月 15 日～17 日
		コウモリ類調査	令和 6 年 4 月 16 日
		無人撮影法	令和 6 年 4 月 8 日～17 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 7 月 8 日～10 日
		コウモリ類調査	令和 6 年 7 月 9 日
		無人撮影法	令和 6 年 7 月 1 日～10 日
	秋季	直接観察法、トラップ法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日
		無人撮影法	令和 6 年 10 月 1 日～10 日
イ 鳥類	冬季	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 1 月 24 日～26 日、2 月 24 日～28 日
	春季	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 4 月 8 日～10 日、5 月 8 日～10 日
		夜間調査	令和 6 年 5 月 8 日
		囀り調査（日没直後及び日の出前）	令和 6 年 5 月 21～22 日
	繁殖期	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 7 月 1 日～3 日
		夜間調査	令和 6 年 7 月 1 日
	秋季	巣の探索調査	令和 6 年 9 月 11 日～13 日
		ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日
ウ 猛禽類	令和 5 年繁殖期	行動圏調査	令和 5 年 2 月 13 日～14 日、3 月 13 日～14 日、4 月 19 日～20 日、5 月 24 日～25 日、6 月 21 日～22 日、7 月 25 日～26 日
		営巣場所調査	令和 5 年 3 月 21 日～22 日、4 月 26 日～27 日
		繁殖状況調査	令和 5 年 6 月 26 日～27 日、7 月 6 日、8 日
	令和 6 年繁殖期	行動圏調査	令和 6 年 2 月 19 日～20 日、3 月 13 日～14 日、4 月 17 日～18 日、5 月 20 日～21 日、6 月 10 日～11 日、7 月 24 日～25 日
		営巣場所調査	令和 6 年 3 月 18 日、22 日、4 月 22 日、25 日
		繁殖状況調査	令和 6 年 6 月 26 日～27 日、7 月 11 日～12 日
エ 爬虫類	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 15 日～17 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 7 月 8 日～10 日、8 月 14 日～16 日
	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日
オ 両生類	早春季	直接観察法	令和 6 年 3 月 14 日～15 日、25 日
	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 15 日～17 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 7 月 8 日～10 日
	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日

注)「イ 鳥類」の夏季（6 月～8 月）の時期は、以降「繁殖期」として表記した。

表 5.2-43(2)　動物相調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

項　目	時期	調査方法	期日
カ 昆虫類	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 10 日～13 日
		直接観察法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法	令和 6 年 5 月 8 日～10 日
	初夏季	直接観察法	令和 6 年 6 月 4 日～7 日、25 日～28 日
	夏季	直接観察法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法	令和 6 年 8 月 13 日～15、19 日
	秋季	直接観察法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法	令和 6 年 10 月 1 日～4 日
キ 陸産貝類、クモ類	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 10 日～13 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 6 月 4～7 日、8 月 13 日～15 日、19 日
	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 1 日～4 日

表 5.2-43(3)　動物相調査時期及び調査期日（仮設ヘリポート）

項　目	時期	調査方法	期日
ア 哺乳類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	冬季	直接観察法	令和 7 年 2 月 19 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日
イ 鳥類	秋季	任意観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	冬季	任意観察法	令和 7 年 2 月 19 日、3 月 5 日
	春季	任意観察法	令和 7 年 4 月、5 月 16 日、17 日
	繁殖期	任意観察法	令和 7 年 7 月 7 日
エ 爬虫類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日、7 月 28 日
オ 両生類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	早春季	直接観察法	令和 7 年 3 月 5 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日
カ 昆虫類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日、5 月 16 日、17 日
	初夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日、30 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 7 月 19 日
キ 陸産貝類、クモ類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 30 日

表 5.2-44　聞き取り調査実施期日

項　目	調査方法	聞き取りを行った団体	期日
動物相	聞き取りによる生息情報確認	二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト 代表者	令和 6 年 9 月 25 日（水） 14：00～15：40

⑤ 調査結果（現地調査）

ア 哺乳類

現地調査により確認された哺乳類は表 5.2-45 に示すとおりである。

現地調査の結果、6 目 10 科 11 種の哺乳類が確認された。

現地調査ではアズマモグラの塚や坑道、クリハラリスの個体や鳴き声、巣、タヌキの糞が広い範囲で確認された。また、無人撮影ではノウサギ、アライグマ、タヌキ、ハクビシン、イノシシが撮影され、トラップ法ではアカネズミが捕獲された。そのほか、夜間調査ではバットディテクターによりヒナコウモリ科の周波数帯が確認された。

なお、クリハラリス、アライグマ、ハクビシンは、調査地域に自然分布していない種であり、イノシシについては自然分布していない可能性がある種である。

表 5.2-45　現地調査により確認された哺乳類

No.	目名	科名	種名	確認時期				確認内容
				冬季	春季	夏季	秋季	
1	モグラ目	モグラ科	ヒミズ		○			死体
2	（食虫目）		アズマモグラ	○	○	○	○	塚、坑道
3	コウモリ目（翼手目）	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科		○	○		バットディテクター
4	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	○		○	○	目撃、無人撮影、糞
5	ネズミ目	リス科	クリハラリス	○	○	○	○	目撃、無人撮影、鳴き声、樹皮剝ぎ跡、巣
6	（齧歯目）	ネズミ科	アカネズミ		○	○	○	捕獲、死体
7	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	○	○	○	○	無人撮影、足跡
8	（食肉目）	イヌ科	タヌキ	○	○	○	○	無人撮影、糞、足跡
9		イタチ科	ニホンイタチ		○		○	目撃
10		ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○	○	○	目撃、無人撮影、足跡
11	ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	イノシシ	○	○	○	○	無人撮影、糞、足跡、土耕跡、沼田場
計	6 目	10 科	11 種	7 種	10 種	9 種	9 種	－

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

イ 鳥類

現地調査により確認された鳥類は表 5.2-46(1)～(3)に示すとおりである。

現地調査の結果、14 目 35 科 76 種の鳥類が確認された。季節別の確認種数では、冬季が 50 種、春季が 57 種、繁殖期が 43 種、秋季が 42 種であった。

渡り区分別に見ると、キジバト、トビ、シジュウカラ等の留鳥が 42 種と多く、次いで、シロハラ、ツグミ、アオジ等の冬鳥が 19 種と多かった。そのほか、ホトトギス、ツバメ、ヤブサメ等の夏鳥が 14 種、旅鳥であるエゾビタキが 1 種であった。

生活区分別に見るとアオゲラ、ヤマガラ、エナガ等の樹林環境に生息する種が 42 種と多く、次いでカルガモ、カワセミ、キセキレイ等水辺環境に生息する種が 17 種と多かった。そのほか、ハシボソガラス、ムクドリ、ホオジロ等の里地環境に生息する種が 14 種、セッカ、チョウゲンボウ、ビンズイといった草原環境に生息する種が 3 種であった。

そのほか、外来種としてコジュケイ、カワラバト（ドバト)、ガビチョウ、ソウシチョウが確認された。

表 5.2-46(1)　現地調査により確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期				渡り区分	生活区分
				冬季	春季	繁殖期	秋季		
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	○	○	○	○	留鳥	樹林
2			キジ	○	○	○		留鳥	樹林
3	カモ目	カモ科	マガモ		○			冬鳥	水辺
4			カルガモ	○	○	○	○	留鳥	水辺
5			コガモ		○			冬鳥	水辺
6	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	○	○	○	○	留鳥	里地
7			キジバト	○	○	○	○	留鳥	樹林
8			アオバト		○			夏鳥	樹林
9	カツオドリ目	ウ科	カワウ		○			留鳥	水辺
10	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ		○	○	○	夏鳥	樹林
11			ゴイサギ			○		留鳥	水辺
12			アオサギ		○	○	○	留鳥	水辺
13			ダイサギ	○				留鳥	水辺
14			コサギ				○	留鳥	水辺
15	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス			○		夏鳥	樹林
16			カッコウ		○			夏鳥	樹林
17	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	○				留鳥	里地
18	チドリ目	チドリ科	コチドリ			○		夏鳥	水辺
19		シギ科	タシギ	○				冬鳥	水辺
20			イソシギ	○				留鳥	水辺

表 5.2-46(2)　現地調査により確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期				渡り区分	生活区分
				冬季	春季	繁殖期	秋季		
21	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○		○	○	冬鳥	水辺
22		タカ科	トビ	○	○	○	○	留鳥	里地
23			ツミ	○			○	留鳥	樹林
24			ハイタカ	○				冬鳥	樹林
25			オオタカ				○	留鳥	樹林
26			サシバ		○	○	○	夏鳥	樹林
27			ノスリ	○	○		○	冬鳥	里地
28	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	○	○	○	○	留鳥	樹林
29			アオバズク		○			夏鳥	樹林
30	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	○	○	○	○	留鳥	水辺
31	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
32			アカゲラ		○	○		留鳥	樹林
33			アオゲラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
34	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○			○	留鳥	草原
35			ハヤブサ	○			○	冬鳥	水辺
36	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ		○			夏鳥	樹林
37			リュウキュウサンショウクイ	○	○	○	○	留鳥	樹林
38		カササギヒタキ科	サンコウチョウ		○	○		夏鳥	樹林
39		モズ科	モズ	○	○	○	○	留鳥	里地
40		カラス科	オナガ		○			留鳥	里地
41			ハシボソガラス	○	○	○	○	留鳥	里地
42			ハシブトガラス	○	○	○	○	留鳥	里地
43		シジュウカラ科	ヤマガラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
44			シジュウカラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
45		ツバメ科	ツバメ		○	○		夏鳥	里地
46		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	留鳥	樹林
47		ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	留鳥	樹林
48			ヤブサメ		○	○	○	夏鳥	樹林
49		エナガ科	エナガ	○	○	○	○	留鳥	樹林
50		ムシクイ科	センダイムシクイ		○	○		夏鳥	樹林
51		チメドリ科	ガビチョウ	○	○	○	○	留鳥	樹林
52			ソウシチョウ	○	○		○	留鳥	樹林
53		メジロ科	メジロ	○	○	○	○	留鳥	樹林
54		セッカ科	セッカ			○		留鳥	草原
55		ミソサザイ科	ミソサザイ	○				冬鳥	樹林
56		ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	留鳥	里地
57		ヒタキ科	シロハラ	○	○		○	冬鳥	樹林
58			アカハラ	○	○			冬鳥	樹林
59			ツグミ	○	○			冬鳥	樹林
60			ジョウビタキ	○				冬鳥	樹林

表 5.2-46(3)　現地調査により確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期				渡り区分	生活区分
				冬季	春季	繁殖期	秋季		
61	スズメ目	ヒタキ科	イソヒヨドリ	○	○	○	○	留鳥	水辺
62			エゾビタキ				○	旅鳥	樹林
63			キビタキ		○	○	○	夏鳥	樹林
64			オオルリ		○	○		夏鳥	樹林
65		スズメ科	スズメ	○	○	○	○	留鳥	里地
66		セキレイ科	キセキレイ	○	○	○	○	留鳥	水辺
67			ハクセキレイ	○	○	○	○	留鳥	水辺
68			ビンズイ	○	○		○	冬鳥	草原
69		アトリ科	カワラヒワ	○	○	○		留鳥	里地
70			マヒワ	○	○			冬鳥	樹林
71			シメ	○	○			冬鳥	樹林
72			イカル	○				冬鳥	樹林
73		ホオジロ科	ホオジロ	○	○	○	○	留鳥	里地
74			カシラダカ		○			冬鳥	里地
75			アオジ	○	○			冬鳥	樹林
76			クロジ	○	○			冬鳥	樹林
計	14 目	35 科	76 種	50 種	57 種	43 種	42 種	－	－

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）渡り区分は、現地調査の確認状況及び「神奈川の鳥　2011-15　-神奈川県鳥類目録Ⅶ-」（日本野鳥の会神奈川支部、令和 2 年）」を参考にした。

注 3）生活区分は、現地調査の確認状況及び「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編・陸鳥編>」（株式会社保育社、平成 7 年）を参考にした。

ラインセンサス法における季節別の優占種は、図 5.2-13 に示すとおりである。

いずれもハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、スズメといった留鳥の割合が高く、樹林環境や里地環境に生息する種が優占した。また、冬鳥ではアオジが冬季に優占しており、夏鳥は優占した種はいなかった。

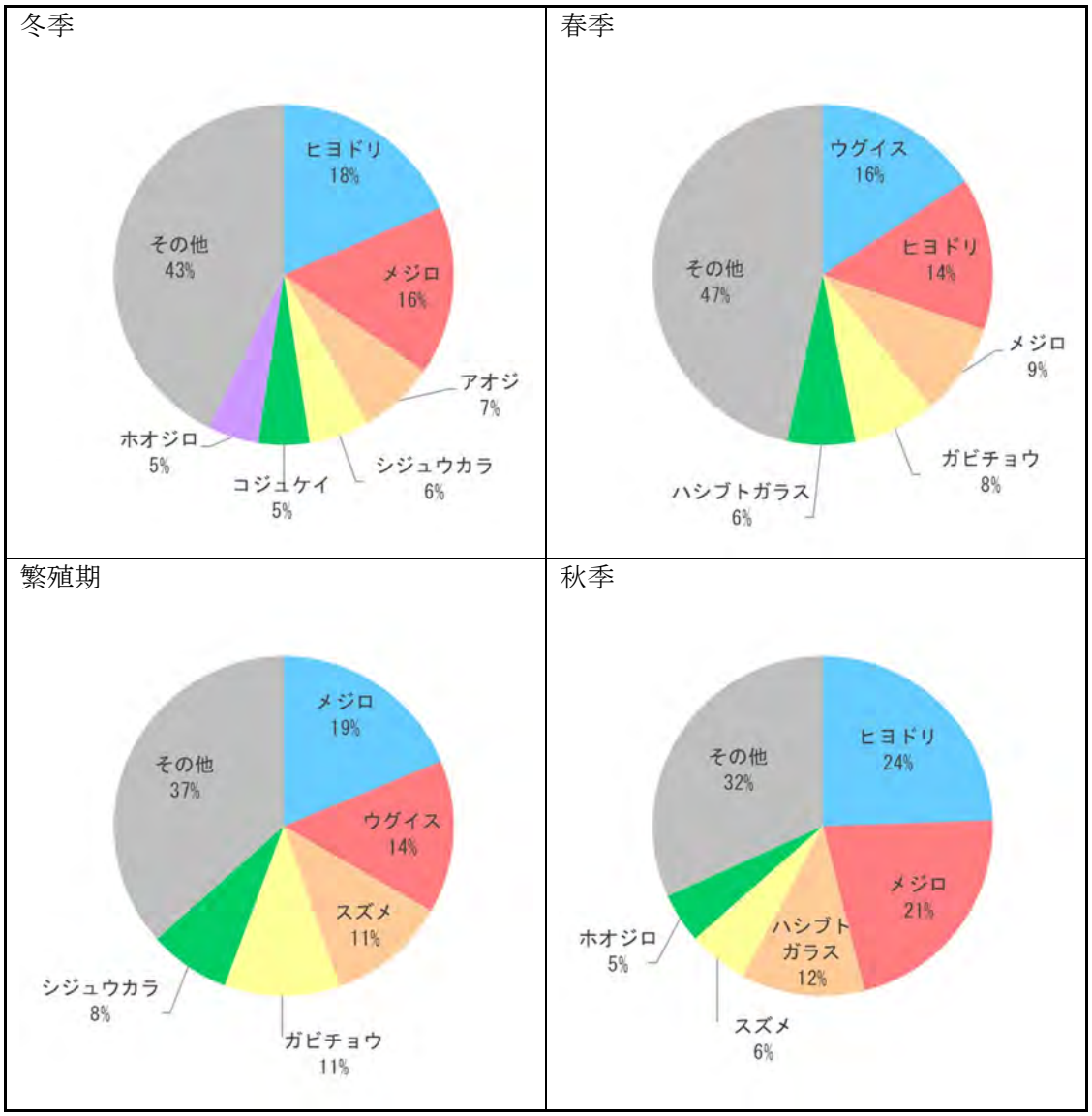


図 5.2-13　ラインセンサス法による優占種（上位 5 種）

定点観察法における季節別の優占種は、図 5.2-14 に示すとおりである。

いずれもハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメといった留鳥が全ての季節で上位を優占しており、樹林環境や里地環境に生息する種が優占した。

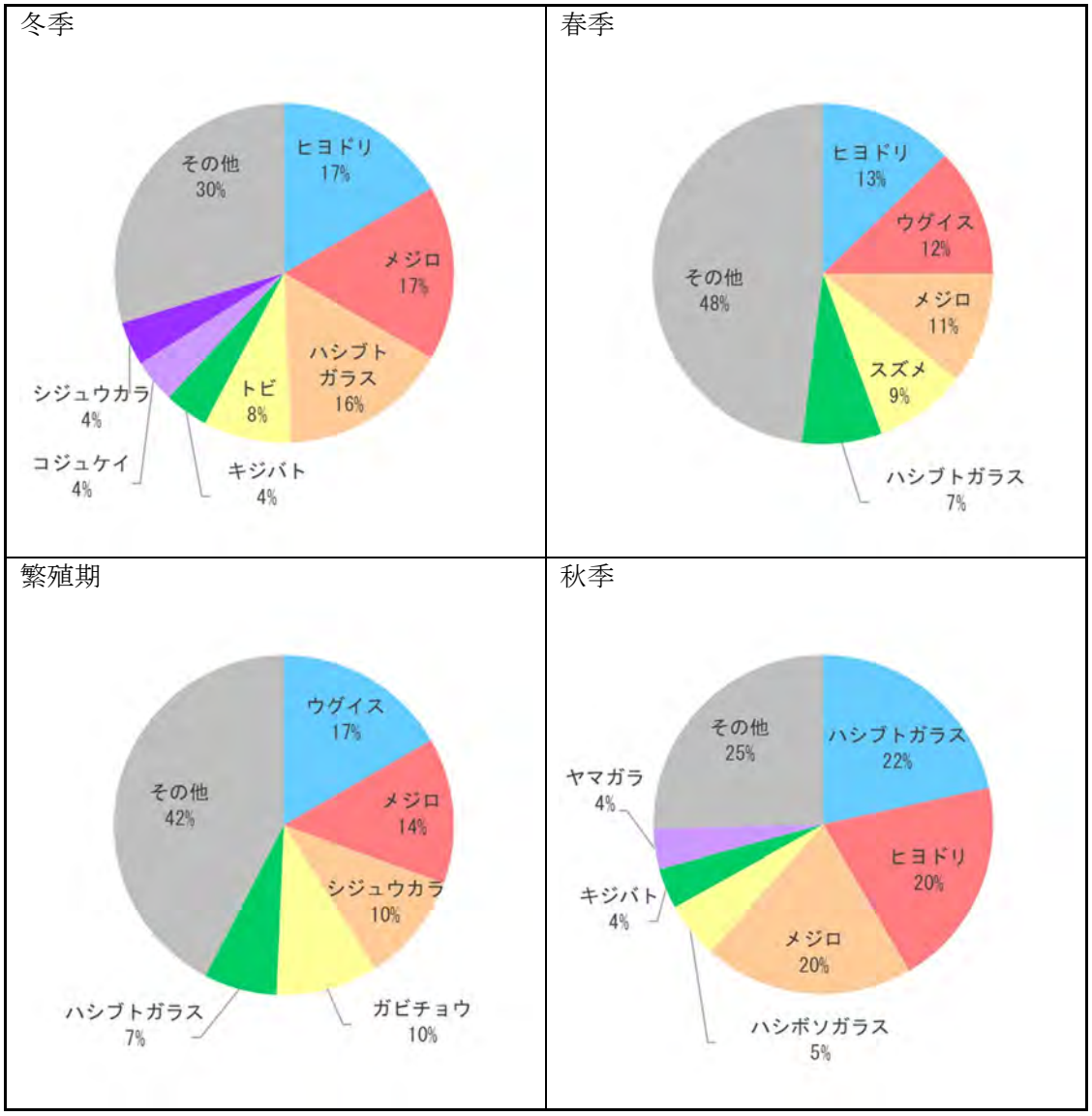


図 5.2-14　定点観察法による優占種（上位 5 種）

ウ 猛禽類

猛禽類調査では、令和 3 年に予備調査を開始し、令和 4 年から令和 6 年にかけて、本調査を実施している。現地調査における猛禽類の確認状況については、令和 3 年及び令和 4 年の結果は「別添 3-2」に示しており、令和 5 年から令和 6 年の結果は表 5.2-47 に示した。

現地調査の結果、8 種の猛禽類が確認され、そのうちオオタカについては営巣地が特定された。

表 5.2-47　現地調査における重要な猛禽類の確認状況

種和名	確認回数			選定基準			
	調査年		合計	①	②	③	④
	令和 5 年	令和 6 年					
ミサゴ	15	33	48			NT	VU
ハチクマ	2	2	4			NT	CR+EN
ツミ	1		1				VU
ハイタカ	4	7	11			NT	DD
オオタカ	57	61	118			NT	VU
サシバ	6	1	7			VU	CR+EN
ノスリ	3	17	20				VU
ハヤブサ	1	4	5		国内	VU	CR+EN

エ 爬虫類

現地調査により確認された爬虫類は表 5.2-48 に示すとおりである。

現地調査の結果、1 目 6 科 10 種の爬虫類が確認された。トカゲ類やヘビ類は関東地方周辺に分布する種の多くが確認された。水域が限定されていることもあり、カメ類は確認されなかった。

表 5.2-48　現地調査により確認された爬虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			確認内容
				春季	夏季	秋季	
1	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	○	○	○	成体、死体、卵殻
2		トカゲ科	ヒガシニホントカゲ	○	○		成体、幼体、死体
3		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	○	○	成体、幼体
4		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	○		○	成体
5		ナミヘビ科	シマヘビ	○	○	○	成体、脱皮殻
6			アオダイショウ	○	○	○	成体、幼体
7			ジムグリ	○	○	○	成体、幼体
8			ヒバカリ	○	○	○	成体、幼体
9			ヤマカガシ	○	○	○	成体、幼体
10		クサリヘビ科	ニホンマムシ		○	○	成体
計	1 目	6 科	10 種	9 種	9 種	9 種	－

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

オ 両生類

現地調査により確認された両生類は表 5.2-49 に示すとおりである。

現地調査の結果、2 目 6 科 8 種の両生類が確認された。

表 5.2-49　現地調査により確認された両生類

No.	目名	科名	種名	確認時期				確認内容
				早春季	春季	夏季	秋季	
1	有尾目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ		○	○		成体、幼体、幼生、卵嚢
2		イモリ科	アカハライモリ			○		成体
3	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	○			○	幼体、幼生、死体
4		アマガエル科	ニホンアマガエル		○	○	○	幼生、鳴き声
5		アカガエル科	ヤマアカガエル	○	○	○	○	成体、幼生、卵塊、鳴き声
6			ムカシツチガエル	○	○	○	○	成体、幼体、幼生、鳴き声
7		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル		○	○		鳴き声
8			モリアオガエル			○	○	成体、幼体、卵塊、鳴き声
計	2 目	6 科	8 種	3 種	5 種	7 種	5 種	－

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

カ 昆虫類

確認された昆虫類の分類別確認種数は表 5.2-50 に、昆虫類は表 5.2-51(1)～(21)に示すとおりである。

現地調査の結果、22 目 225 科 1,037 種の昆虫類が確認された。照葉樹林、針葉樹林等の樹林環境では、モリチャバネゴキブリ、オオホシカメムシ、コジャノメ、コクワガタ、オオスズメバチ等、畑、果樹園等の耕作地や草地環境では、エンマコオロギ、ヒゲナガカメムシ、モンシロチョウ、ホソヒメヒラタアブ、ウリハムシ等、池、河川、水田等の水辺環境では、アジアイトトンボ、ショウジョウトンボ、アメンボ、ミナミカマバエ、コシマゲンゴロウ等、人家周辺や道路周辺等の植栽環境では、カネタタキ、ニイニイゼミ、アゲハ、アオドウガネ、セグロアシナガバチ等が確認された。

表 5.2-50　昆虫類の分類別確認種数

目名	確認時期								合計	
	春季		初夏季		夏季		秋季			
	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数
イシノミ目（古顎目）	1	1	1	1			1	1	1	1
カゲロウ目（蜉蝣目）	1	1							1	1
トンボ目（蜻蛉目）	6	10	6	13	6	12	4	14	8	28
ゴキブリ目（網翅目）	1	3	1	4	1	2	2	6	2	8
カマキリ目（螳螂目）	1	1	1	3	1	2	1	3	1	4
シロアリ目（等翅目）	1	1					1	1	1	1
ハサミムシ目（革翅目）	1	2	1	2	1	2	1	3	1	3
カワゲラ目（セキ翅目）	1	1					1	1	1	1
バッタ目（直翅目）	5	12	12	25	12	37	12	46	13	56
ナナフシ目（竹節虫目）	1	1	1	2	1	3			1	3
チャタテムシ目（噛虫目）			1	1					1	1
カメムシ目（半翅目）	26	75	27	88	27	81	24	68	42	167
ヘビトンボ目	1	1					1	1	1	2
ラクダムシ目			1	1					1	1
アザミウマ目（総翅目）					1	1			1	1
アミメカゲロウ目（脈翅目）			4	5	3	6	1	2	4	8
シリアゲムシ目（長翅目）	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2
トビケラ目（毛翅目）	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4
チョウ目（鱗翅目）	16	51	19	81	20	75	17	54	28	146
ハエ目（双翅目）	18	49	23	53	12	28	13	27	31	95
コウチュウ目（鞘翅目）	39	170	40	219	31	103	27	91	57	382
ハチ目（膜翅目）	14	58	18	68	15	71	14	46	23	122
合計	136 科	440 種	160 科	570 種	134 科	426 種	123 科	367 種	225 科	1,037 種

注 1）配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）右の合計欄は、各確認時期で重複していない科及び種の合計数を示す。

表 5.2-51(1)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
1	イシノミ目（古顎目）	イシノミ科	イシノミ科の一種	○	○		○
2	カゲロウ目（蜉蝣目）	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	○			
3	トンボ目	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ	○			
4	（蜻蛉目）		オオアオイトトンボ				○
5		イトトンボ科	ホソミイトトンボ	○			○
6			キイトトンボ			○	
7			アジアイトトンボ		○	○	○
8		カワトンボ科	ハグロトンボ		○	○	
9			アサヒナカワトンボ	○	○		
10		ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	○	○		
11			ギンヤンマ		○		○
12			ミルンヤンマ	○		○	○
13			ヤブヤンマ			○	
14		サナエトンボ科	ヤマサナエ	○	○		
15			ダビドサナエ	○			
16			コオニヤンマ			○	
17		オニヤンマ科	オニヤンマ			○	
18		エゾトンボ科	オオヤマトンボ		○		
19		トンボ科	ショウジョウトンボ		○	○	
20			シオカラトンボ	○	○	○	○
21			シオヤトンボ	○			
22			オオシオカラトンボ		○	○	○
23			ウスバキトンボ	○	○	○	○
24			コシアキトンボ		○		
25			コノシメトンボ				○
26			ナツアカネ				○
27			マユタテアカネ		○	○	○
28			アキアカネ				○
29			リスアカネ				○
30			ネキトンボ				○
31	ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ				○
32	（網翅目）		ヤマトゴキブリ				○
33		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○	○	○
34			ツチゴキブリ本土亜種				○
35			ウスヒラタゴキブリ本土亜種		○	○	○
36			ヒメクロゴキブリ	○	○		
37			キチャバネゴキブリ	○			○
38			キスジゴキブリ		○		
39	カマキリ目	カマキリ科	ヒナカマキリ				○
40	（螳螂目）		ハラビロカマキリ		○	○	
41			コカマキリ		○		○
42			オオカマキリ	○	○	○	○
43	シロアリ目（等翅目）	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ	○			○
44	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	○	○	○	○
45	（革翅目）		コバネハサミムシ	○		○	○
46			ハマベハサミムシ		○		○
47	カワゲラ目（セキ翅目）	オナシカワゲラ科	Nemoura 属の一種	○			○
48	バッタ目	ツユムシ科	セスジツユムシ			○	○
49	（直翅目）		サトクダマキモドキ			○	○
50			ヤマクダマキモドキ			○	○

表 5.2-51(2)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
51	バッタ目	ツユムシ科	ツユムシ		○	○	○
52	（直翅目）		ヒメクダマキモドキ			○	○
53		キリギリス科	ウスイロササキリ				○
54			オナガササキリ				○
55			コバネササキリ				○
56			ホシササキリ				○
57			クロスジコバネササキリモドキ		○		
58			ヒメギス	○	○		
59			クビキリギス	○			○
60			ハヤシノウマオイ			○	○
61			クサキリ		○	○	
62			ヤブキリ	○	○	○	
63		ケラ科	ケラ		○	○	○
64		マツムシ科	クチキコオロギ	○		○	○
65			ヒロバネカンタン			○	
66			アオマツムシ		○	○	○
67		コオロギ科	ヒメコオロギ				○
68			ミツカドコオロギ			○	○
69			モリオカメコオロギ			○	○
70			クマコオロギ				○
71			タンボコオロギ		○		○
72			クマスズムシ			○	○
73			エンマコオロギ		○		○
74			ツヅレサセコオロギ			○	○
75		カネタタキ科	カネタタキ		○	○	○
76		アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ				○
77			サトアリツカコオロギ				○
78		ヒバリモドキ科	ウスグモスズ		○	○	○
79			マダラスズ	○	○	○	○
80			キンヒバリ	○	○		○
81			ヒゲシロスズ			○	○
82			シバスズ			○	○
83			ヤチスズ		○		○
84			クサヒバリ			○	○
85			キアシヒバリモドキ		○		
86		バッタ科	ショウリョウバッタ		○	○	○
87			クルマバッタ			○	○
88			ヒナバッタ		○	○	○
89			ショウリョウバッタモドキ			○	○
90			トノサマバッタ		○	○	○
91			クルマバッタモドキ			○	
92			イボバッタ			○	
93		イナゴ科	コバネイナゴ			○	○
94			メスアカフキバッタ			○	○
95			ツチイナゴ	○	○	○	○
96		オンブバッタ科	オンブバッタ		○	○	○
97		ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ	○	○	○	○
98			ハネナガヒシバッタ		○		○
99			コバネヒシバッタ	○	○	○	○
100			ハラヒシバッタ	○		○	○

表 5.2-51(3)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
101	バッタ目	ヒシバッタ科	ヤセヒシバッタ	○			
102	（直翅目）		ヒメヒシバッタ	○	○		○
103		ノミバッタ科	ノミバッタ		○	○	
104	ナナフシ目	ナナフシ科	トゲナナフシ		○	○	
105	（竹節虫目）		ナナフシモドキ	○	○	○	
106			タイワントビナナフシ			○	
107	チャタテムシ目（噛虫目）	チャタテ科	スジチャタテ		○		
108	カメムシ目	コガシラウンカ科	ナワコガシラウンカ			○	
109	（半翅目）	ヒシウンカ科	ヤナギカワウンカ		○		
110			キガシラヒシウンカ	○			
111			イボタヒシウンカ	○		○	
112			ヨモギヒシウンカ			○	
113			ヒシウンカ			○	
114		ウンカ科	ゴマフウンカ				○
115			コブウンカ			○	
116		テングスケバ科	ツマグロスケバ			○	
117		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ			○	○
118			トビイロハゴロモ			○	
119		マルウンカ科	マルウンカ	○	○		
120		シマウンカ科	シマウンカ				○
121		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ			○	
122		グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ			○	○
123			ヒラタグンバイウンカ			○	○
124		セミ科	クマゼミ			○	
125			アブラゼミ			○	
126			ミンミンゼミ			○	
127			ツクツクボウシ			○	○
128			ニイニイゼミ		○	○	
129			ヒグラシ			○	
130		ツノゼミ科	トビイロツノゼミ		○		
131		アワフキムシ科	シロオビアワフキ	○			
132		コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ		○	○	
133		トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ	○			
134		ヨコバイ科	キウィヒメヨコバイ		○	○	
135			トバヨコバイ				○
136			ツマグロオオヨコバイ	○		○	○
137			オオヨコバイ	○	○		○
138			ウスアカイチモンジヨコバイ				○
139			クロミャクイチモンジヨコバイ				○
140			サジヨコバイ			○	
141			アライヒシモンヨコバイ	○			
142			Pagaronia 属の一種	○	○		
143			クロヒラタヨコバイ	○	○		
144			クロサジヨコバイ		○		
145			モモヒメヨコバイ			○	
146			オサヨコバイ			○	
147			イグチホシヨコバイ	○			
148			クワキジラミ		○		
149		キジラミ科	クストガリキジラミ	○			
150		アブラムシ科	エンドウヒゲナガアブラムシ	○	○		

表 5.2-51(4)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
151	カメムシ目	アブラムシ科	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	○	○		
152	（半翅目）	ワタフキカイガラムシ科	オオワラジカイガラムシ		○		
153		サシガメ科	ヨコヅナサシガメ	○			○
154			アカサシガメ	○			○
155			ビロウドサシガメ		○		○
156			クビグロアカサシガメ	○	○		
157			アカシマサシガメ	○			○
158			アシマダラアカサシガメ				○
159			コゲヒメトビサシガメ		○		
160			トビイロサシガメ			○	○
161			クロトビイロサシガメ				○
162			クロモンサシガメ		○		○
163			シマサシガメ	○	○		
164			ヤニサシガメ	○			
165		グンバイムシ科	ウチワグンバイ	○			○
166			エグリグンバイ			○	
167			アワダチソウグンバイ	○	○	○	○
168			ヤブガラシグンバイ	○	○		
169			キクグンバイ			○	
170			チャイログンバイ		○		
171			クスグンバイ		○		
172			ヤブニッケイグンバイ		○		
173			ツツジグンバイ	○	○	○	○
174			マツムラグンバイ	○			
175		カスミカメムシ科	ブチヒゲクロカスミカメ		○		
176			ツマグロアオカスミカメ	○	○		○
177			ツマグロハギカスミカメ		○	○	
178			シイノキクロカスミカメ	○			
179			ヒメセダカカスミカメ		○	○	○
180			ガマカスミカメ		○		
181			アカホシカスミカメ				○
182			メンガタカスミカメ	○	○	○	
183			ハギメンガタカスミカメ	○	○		
184			ズアカシダカスミカメ		○	○	
185			ヒョウタンカスミカメ		○	○	
186			クロヒョウタンカスミカメ				○
187			アカスジカスミカメ		○		○
188		マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ	○			
189			ハネナガマキバサシガメ			○	○
190		ヒラタカメムシ科	クロヒラタカメムシ		○		
191			トビイロオオヒラタカメムシ	○			
192		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ		○	○	○
193			ヒメホシカメムシ		○	○	○
194		ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ			○	
195			クロホシカメムシ	○		○	○
196		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ			○	○
197			ニセヒメクモヘリカメムシ			○	
198			ホソヘリカメムシ	○	○	○	
199		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	○	○	○	○
200			ホソハリカメムシ	○	○	○	○

表 5.2-51(5)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
201	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ハリカメムシ	○	○	○	
202	（半翅目）		ホシハラビロヘリカメムシ	○	○	○	○
203			ツマキヘリカメムシ	○	○	○	
204			キバラヘリカメムシ		○	○	
205		ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ		○		
206			アカヒメヘリカメムシ	○		○	
207			コブチヒメヘリカメムシ	○		○	
208			ブチヒメヘリカメムシ		○		
209		イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ			○	
210			イトカメムシ			○	
211		ナガカメムシ科	セスジナガカメムシ		○		
212			ヒョウタンナガカメムシ	○			○
213			ヒメコバネナガカメムシ	○			
214			ニッポンコバネナガカメムシ				○
215			コバネナガカメムシ				○
216			オオメナガカメムシ		○	○	○
217			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	○	○	○	○
218			サビヒョウタンナガカメムシ		○		
219			キベリヒョウタンナガカメムシ				○
220			ホソコバネナガカメムシ	○	○		
221			オオモンシロナガカメムシ	○	○	○	○
222			チャイロナガカメムシ		○	○	
223			ヒメナガカメムシ	○	○	○	○
224			ヒゲナガカメムシ	○	○	○	○
225			クロスジヒゲナガカメムシ	○	○		
226			モンシロナガカメムシ			○	
227			シロヘリナガカメムシ	○	○		○
228			チャモンナガカメムシ	○	○		
229			クロアシホソナガカメムシ			○	○
230			イシハラナガカメムシ	○	○		
231			コバネヒョウタンナガカメムシ	○	○	○	○
232		メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	○	○	○	○
233		ツノカメムシ科	オオツノカメムシ		○	○	
234			ベニモンツノカメムシ		○		
235			アオモンツノカメムシ		○		
236			エサキモンキツノカメムシ	○	○	○	
237		ツチカメムシ科	ミツボシツチカメムシ	○			
238			ヒメツヤツチカメムシ	○	○		
239			ヒメツチカメムシ		○		
240			コツチカメムシ	○			
241			ツチカメムシ		○		
242		カメムシ科	ウズラカメムシ	○		○	
243			ウシカメムシ		○		
244			シロヘリクチブトカメムシ				○
245			ブチヒゲカメムシ			○	
246			ハナダカカメムシ	○	○		
247			キマダラカメムシ				○
248			ナガメ		○	○	
249			トゲシラホシカメムシ			○	
250			ムラサキシラホシカメムシ	○	○	○	

表 5.2-51(6)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
251	カメムシ目	カメムシ科	シラホシカメムシ	○		○	○
252	（半翅目）		ツヤアオカメムシ	○		○	○
253			エビイロカメムシ	○		○	
254			クサギカメムシ	○	○	○	○
255			トホシカメムシ		○		
256			ミナミアオカメムシ			○	○
257			イネカメムシ				○
258			チャバネアオカメムシ	○	○	○	○
259			イネクロカメムシ				○
260		マルカメムシ科	タデマルカメムシ	○	○		
261			マルカメムシ	○	○	○	○
262		キンカメムシ科	オオキンカメムシ		○	○	○
263		アメンボ科	オオアメンボ	○	○		
264			アメンボ	○	○	○	○
265			ヒメアメンボ	○	○	○	○
266			コセアカアメンボ	○	○	○	○
267			ヤスマツアメンボ	○	○	○	○
268			シマアメンボ		○	○	○
269		ミズムシ科（昆）	コミズムシ類		○		○
270		メミズムシ科	メミズムシ	○	○		○
271		コオイムシ科	コオイムシ				○
272		タイコウチ科	タイコウチ	○			
273		マツモムシ科	コマツモムシ				○
274			マツモムシ	○	○		
275	アザミウマ目（総翅目）	クダアザミウマ科	クダアザミウマ科の一種			○	
276	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	○			
277			ヘビトンボ				○
278	ラクダムシ目	ラクダムシ科	ラクダムシ		○		
279	アミメカゲロウ目	ヒロバカゲロウ科	ヤマトヒロバカゲロウ		○		
280	（脈翅目）	クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ			○	○
281			クモンクサカゲロウ			○	
282			ヨツボシクサカゲロウ		○		
283			スズキクサカゲロウ		○	○	○
284			セボシクサカゲロウ			○	
285		ヒメカゲロウ科	チャバネヒメカゲロウ		○	○	
286		ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ		○	○	
287	シリアゲムシ目	ガガンボモドキ科	ガガンボモドキ		○		
288	（長翅目）	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	○	○	○	○
289	トビケラ目	シマトビケラ科	シマトビケラ科の一種			○	
290	（毛翅目）	アシエダトビケラ科	コバントビケラ		○	○	○
291		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○			
292		カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ科の一種	○	○		○
293	チョウ目	コウモリガ科	コウモリガ		○		
294	（鱗翅目）	ミノガ科	クロツヤミノガ		○		
295			チャミノガ		○		
296			オオミノガ		○		
297		ヒロズコガ科	マダラマルハヒロズコガ	○			○
298		キバガ科	キバガ科の一種	○		○	○
299		ヒゲナガキバガ科	ゴマフシロキバガ		○		
300			フタクロボシキバガ			○	

表 5.2-51(7)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
301	チョウ目	マルハキバガ科	ホソオビキマルハキバガ			○	
302	（鱗翅目）	ハマキガ科	チャノコカクモンハマキ		○	○	○
303			トビモンコハマキ				○
304			ヨモギネムシガ		○	○	
305			コホソスジハマキ	○		○	○
306			バラシロヒメハマキ	○			
307		セミヤドリガ科	セミヤドリガ			○	
308		イラガ科	クロシタアオイラガ			○	
309		マダラガ科	キスジホソマダラ	○			
310			リンゴハマキクロバ		○		
311			ホタルガ		○		○
312		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	○	○	○	
313			イチモンジセセリ			○	○
314			チャバネセセリ		○	○	○
315			キマダラセセリ		○	○	
316			コチャバネセセリ	○	○	○	
317		シジミチョウ科	ムラサキツバメ		○	○	○
318			ムラサキシジミ	○	○	○	○
319			ルリシジミ	○	○	○	○
320			クロマダラソテツシジミ				○
321			ウラギンシジミ		○	○	○
322			ツバメシジミ	○	○	○	○
323			アカシジミ		○		
324			ウラナミシジミ		○	○	○
325			ベニシジミ	○	○	○	○
326			ミドリシジミ		○		
327			トラフシジミ	○			
328			ヤマトシジミ本土亜種	○	○	○	○
329		タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン			○	
330			アカボシゴマダラ		○	○	○
331			ルリタテハ本土亜種			○	
332			クロヒカゲ本土亜種		○		
333			ヒカゲチョウ		○	○	○
334			テングチョウ日本本土亜種	○	○	○	
335			イチモンジチョウ			○	
336			クロコノマチョウ	○	○		○
337			ジャノメチョウ		○		
338			コジャノメ	○	○	○	○
339			ヒメジャノメ		○		○
340			サトキマダラヒカゲ	○	○	○	
341			コミスジ本州以南亜種	○	○	○	○
342			キタテハ	○	○	○	○
343			アカタテハ	○	○		○
344			ヒメウラナミジャノメ	○	○	○	○
345		アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種	○	○	○	
346			アオスジアゲハ	○	○	○	○
347			カラスアゲハ本土亜種	○	○	○	○
348			モンキアゲハ	○	○	○	
349			キアゲハ	○	○	○	
350			ナガサキアゲハ	○	○	○	○

表 5.2-51(8)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
351	チョウ目	アゲハチョウ科	クロアゲハ本土亜種	○	○	○	
352	（鱗翅目）		アゲハ	○	○	○	○
353		シロチョウ科	ツマキチョウ本土亜種	○			
354			モンキチョウ		○	○	
355			キタキチョウ	○	○	○	○
356			スジグロシロチョウ	○	○	○	
357			モンシロチョウ	○	○	○	
358		トリバガ科	トリバガ科の一種			○	○
359		ツトガ科	ツトガ			○	
360			アカウスグロノメイガ				○
361			マメノメイガ				○
362			マエアカスカシノメイガ	○			○
363			コガタシロモンノメイガ			○	
364			キムジノメイガ				○
365			シロオビノメイガ				○
366			クロスジノメイガ		○	○	
367		メイガ科	アカマダラメイガ		○		
368			トビイロフタスジシマメイガ		○		
369		マドガ科	マドガ	○		○	
370		カギバガ科	ウコンカギバ		○		○
371		シャクガ科	ユウマダラエダシャク	○			
372			チャマダラエダシャク		○		
373			クロクモエダシャク	○	○		
374			トンボエダシャク		○		
375			オオハガタナミシャク	○			
376			シロジマエダシャク		○		
377			キアミメナミシャク		○		
378			セスジナミシャク		○	○	
379			キマダラオオナミシャク		○		○
380			キバラヒメアオシャク			○	
381			オオバナミガタエダシャク			○	
382			シャンハイオエダシャク			○	
383			ウスクモエダシャク			○	
384			ヒメカギバアオシャク		○		
385			ウスキツバメエダシャク		○		○
386			ホシミスジエダシャク		○		
387			ウスキクロテンヒメシャク	○			
388			マエキヒメシャク	○			
－			Scopula 属の一種		○		○
389			ウンモンオオシロヒメシャク	○			
390			ハグルマエダシャク	○			
391			キマダラツバメエダシャク		○		
392			シタコバネナミシャク	○			
393		イボタガ科	イボタガ	○			
394		ヤママユガ科	ヒメヤママユ		○		
395		スズメガ科	オオスカシバ		○		○
396			トビイロスズメ			○	
397			ヒメクロホウジャク	○			
398			ホシホウジャク		○	○	○
399			キイロスズメ				○

表 5.2-51(9)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
400	チョウ目	スズメガ科	セスジスズメ			○	○
401	（鱗翅目）	シャチホコガ科	ツマジロシャチホコ			○	
402			ウスキシャチホコ			○	
403			オオエグリシャチホコ			○	
404		ヒトリガ科	カノコガ		○	○	
405			キシタホソバ		○		
406			クワゴマダラヒトリ	○			○
407			ヨツボシホソバ		○		
408			キハラゴマダラヒトリ		○		
409		ドクガ科	チャドクガ			○	
410			マイマイガ		○		
411			ヒメシロモンドクガ		○		
412			ゴマフリドクガ日本本土・奄美亜種			○	○
413			モンシロドクガ			○	
414		ヤガ科	ホソアオバヤガ				○
415			ナカジロシタバ				○
416			ネスジシラクモヨトウ	○			
417			フクラスズメ		○	○	○
418			ハマオモトヨトウ			○	
419			キシタバ			○	
420			スジボソサンカククチバ				○
421			シマフコヤガ		○		○
422			ウスヅマクチバ		○	○	
423			モンムラサキクチバ		○		
424			アカテンクチバ		○	○	
425			トビスジアツバ				○
426			オオシラナミアツバ			○	
427			ソトウスグロアツバ		○	○	
428			クロキシタアツバ				○
429			タイワンキシタアツバ	○			
430			カバフヒメクチバ			○	
431			ムラサキヒメクチバ	○			
432			シロスジトモエ			○	
433			フタホシコヤガ	○			
434			ウンモンクチバ	○			
435			スジシロキヨトウ		○		
436			ヒメエグリバ			○	
437			マダラエグリバ			○	
438			ハスモンヨトウ		○		
439	ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	ヒメガガンボ科の一種	○	○	○	
440		ガガンボ科	ホリカワクシヒゲガガンボ		○		
441			マドガガンボ		○		
－			Tipula 属の一種	○	○		
442		チョウバエ科	チョウバエ科の一種				○
443		ユスリカ科	ユスリカ科の一種	○	○		
444		カ科	ヒトスジシマカ	○	○	○	○
445		タマバエ科	エノキトガリタマバエ		○		
446			シロダモタマバエ		○		
447		キノコバエ科	キノコバエ科の一種	○	○		
448		シギアブ科	シギアブ科の一種	○			

表 5.2-51(10)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
449	ハエ目（双翅目）	ミズアブ科	Beris 属の一種	○			
450			アメリカミズアブ		○	○	
451			Microchrysa 属の一種		○	○	
452			コウカアブ			○	○
453			ハキナガミズアブ		○	○	
454			Sargus 属の一種		○		
455			ミズアブ			○	
456		アブ科	ウシアブ			○	
457		ムシヒキアブ科	コムライシアブ			○	
458			ハラボソムシヒキ		○		
459			オオイシアブ	○	○		
460			ナミマガリケムシヒキ	○	○		
461			シオヤアブ		○		
462		ツリアブ科	コウヤツリアブ		○		
463			ビロウドツリアブ	○			
464			クロバネツリアブ		○	○	
465			スキバツリアブ			○	
466		アシナガバエ科	ウデゲヒメホソアシナガバエ		○		
467			Dolichopus 属の一種	○	○	○	○
468			マダラアシナガバエ	○	○	○	
469		オドリバエ科	Empis 属の一種	○			
－			オドリバエ科の一種	○			
470		アタマアブ科	アタマアブ科の一種				○
471		ハナアブ科	ツマグロコシボソハナアブ		○		
472			オオヒメヒラタアブ	○			
473			クロヒラタアブ	○			
474			Brachyopa 属の一種	○			
475			ハラアカハラナガハナアブ	○			
476			Cheilosia 属の一種	○			
477			Criorhina 属の一種	○			
478			ヨコジマオオヒラタアブ				○
479			Epistrophe 属の一種		○		
480			ホソヒラタアブ	○	○	○	○
481			キゴシハナアブ				○
482			ナミハナアブ	○			○
483			Eumerus 属の一種	○		○	○
484			ナミホシヒラタアブ	○	○	○	
485			フタホシヒラタアブ	○			
486			スズキフタモンハナアブ	○			
487			アシブトハナアブ	○			○
488			カクモンハラブトハナアブ	○	○		
489			ニッポンミケハラブトハナアブ	○			
490			マツムラハラブトハナアブ	○			
491			ツヤヒラタアブ	○			○
492			スイセンハナアブ	○			
493			シマアシブトハナアブ			○	
494			フタオビアリノスアブ		○		
495			キンアリノスアブ	○			
496			アリノスアブ	○			
497			シロスジナガハナアブ		○		

表 5.2-51(11)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
498	ハエ目（双翅目）	ハナアブ科	ハチモドキハナアブ		○		
499			キアシマメヒラタアブ	○	○	○	
500			オオハナアブ	○	○		○
501			Platycheirus 属の一種	○			
502			ホソヒメヒラタアブ	○	○	○	○
503			マガイヒラタアブ	○	○		
504			クロベッコウハナアブ		○	○	
505			シロスジベッコウハナアブ				○
506			ナミルリイロハラナガハナアブ	○	○	○	○
507		ハモグリバエ科	ハモグリバエ科の一種		○		
508		メバエ科	オオマエグロメバエ	○	○		
509		ショウジョウバエ科	Drosophila 属の一種	○	○		○
510		ミギワバエ科	ミナミカマバエ				○
511		シマバエ科	ヒラヤマシマバエ	○	○		○
512			ヤブクロシマバエ		○	○	
513		フトモモホソバエ科	Texara 属の一種		○		
514		マルズヤセバエ科	マルズヤセバエ科の一種		○		
515		ナガズヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ				○
516		ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ		○		○
517		ツヤホソバエ科	ヒトテンツヤホソバエ		○		
518		ミバエ科	ハルササハマダラミバエ		○		
519		クロバエ科	オオクロバエ	○	○		○
520			タカネクロバエ				
521			オビキンバエ	○	○		
522			ホホグロオビキンバエ	○		○	○
523			Lucilia 属の一種		○	○	
524			ツマグロキンバエ		○		○
525		イエバエ科	イエバエ科の一種	○			
526		ニクバエ科	ジョセフニクバエ			○	
527			カガニクバエ		○		
528			ヒメニクバエ		○	○	
529			ナミニクバエ		○	○	
530		ヤドリバエ科	Cylindromyia 属の一種				○
531			Exorista 属の一種	○			
532			ルリハリバエ	○			○
533			Tachina 属の一種	○	○	○	○
534	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ	○		○	
535	（鞘翅目）	オサムシ科	トゲアトキリゴミムシ		○		
536			セスジヒラタゴミムシ				○
537			マルガタゴミムシ		○		
538			ナガマルガタゴミムシ	○			
539			オオホシボシゴミムシ		○		
540			ヒメゴミムシ	○	○		
541			キベリゴモクムシ		○		○
542			アトモンミズギワゴミムシ				○
543			マイマイカブリ関東・中部地方亜種	○			
544			アオオサムシ	○	○	○	○
545			コキベリアオゴミムシ				○
546			ヒメキベリアオゴミムシ		○		○
547			ニセコガシラアオゴミムシ	○	○		

表 5.2-51(12)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
548	コウチュウ目	オサムシ科	アトボシアオゴミムシ			○	○
549	（鞘翅目）		キボシアオゴミムシ		○	○	○
550			ムナビロアトボシアオゴミムシ		○	○	
551			コキノコゴミムシ		○		
552			ハギキノコゴミムシ	○	○		
553			オオスナハラゴミムシ	○			○
554			セアカヒラタゴミムシ	○	○		○
555			クビボソゴミムシ			○	○
556			スジアオゴミムシ	○	○		
557			ヒロゴモクムシ	○			
558			ケウスゴモクムシ				○
559			ヒメケゴモクムシ	○			○
560			クロゴモクムシ				○
561			ニセクロゴモクムシ		○		○
562			ウスアカクロゴモクムシ	○			○
563			フタホシアトキリゴミムシ	○			
564			ホシハネビロアトキリゴミムシ	○	○		
565			コルリアトキリゴミムシ	○	○		○
566			クビナガゴミムシ				○
567			ウスオビコミズギワゴミムシ			○	○
568			フタホシスジバネゴミムシ			○	○
569			チビミズギワゴミムシ			○	
570			トックリナガゴミムシ	○			
571			コガシラナガゴミムシ	○	○		
572			ホソヒョウタンゴミムシ		○		○
573			ミドリマメゴモクムシ		○		
574			ツヤマメゴモクムシ	○	○		○
575			クリイロコミズギワゴミムシ	○	○		
576			ヨツモンコミズギワゴミムシ			○	
577			ヒメツヤゴモクムシ				○
578			クビアカツヤゴモクムシ		○		
579			オオイクビツヤゴモクムシ	○			
580			アカガネオオゴミムシ				○
581			ルイスオオゴミムシ				○
582		ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ		○	○	
583			コハンミョウ			○	
584			ナミハンミョウ	○	○	○	
585		ゲンゴロウ科	マメゲンゴロウ	○			○
586			ハイイロゲンゴロウ		○	○	○
587			コシマゲンゴロウ			○	○
588			チビゲンゴロウ		○		
589			モンキマメゲンゴロウ	○			
590			ヒメゲンゴロウ				○
591		ガムシ科	トゲバゴマフガムシ				○
592			セマルガムシ	○			○
593			セマルケシガムシ				○
594			キベリヒラタガムシ	○	○	○	○
595			キイロヒラタガムシ	○			
596			スジヒラタガムシ	○			
597			Laccobius 属の一種	○			

表 5.2-51(13)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
598	コウチュウ目	ガムシ科	マメガムシ		○		○
599	（鞘翅目）		ヒメガムシ	○		○	○
600		タマキノコムシ科	タマキノコムシ科の一種	○			
601		シデムシ科	オオヒラタシデムシ	○	○	○	○
602			ヨツボシモンシデムシ	○			○
603		ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ	○	○		○
604			Astenus 属の一種	○			
605			ハイイロハネカクシ		○		
606			クロズトガリハネカクシ			○	○
607			アカバヒメホソハネカクシ			○	
608			クロサビイロマルズオオハネカクシ	○	○		
609			キンボシマルズオオハネカクシ	○			○
610			Othius 属の一種		○		
611			アオバアリガタハネカクシ	○			○
612			Philonthus 属の一種		○	○	○
613			ヤマトデオキノコムシ	○			
614			Stenus 属の一種	○			○
615			シンニセユミセミゾハネカクシ			○	○
616			モンクロアリノスハネカクシ		○		
617		センチコガネ科	センチコガネ	○	○	○	○
618		クワガタムシ科	コクワガタ	○	○	○	○
619			スジクワガタ		○	○	
620			ヒラタクワガタ本土亜種	○			
621			ミヤマクワガタ		○	○	○
622			ノコギリクワガタ		○	○	○
623		コガネムシ科	コイチャコガネ	○	○		
624			アオドウガネ			○	○
625			ツヤコガネ		○		
626			アオハナムグリ		○	○	
627			ヒメアシナガコガネ		○		
628			セマダラコガネ		○		
629			コアオハナムグリ		○	○	
630			クロハナムグリ		○		
631			クロコガネ	○	○		
632			アカビロウドコガネ			○	
633			ビロウドコガネ	○	○		
634			スジコガネ		○		
635			ハラグビロウドコガネ	○			
636			ヒラタハナムグリ		○		
637			コブマルエンマコガネ		○		
638			マメコガネ		○	○	
639			シロテンハナムグリ		○	○	○
640			カナブン			○	
641			クロカナブン			○	○
642			Sericania 属の一種	○			
643			カブトムシ			○	○
644		ヒメドロムシ科	キスジミゾドロムシ				○
645		ナガハナノミ科	エダヒゲナガハナノミ		○		
646			ヒゲナガハナノミ	○			
647		タマムシ科	オオウグイスナガタマムシ		○	○	

表 5.2-51(14)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
648	コウチュウ目	タマムシ科	ヒシモンナガタマムシ	○	○		
649	（鞘翅目）		マサキナガタマムシ		○		
650			ムネアカナガタマムシ		○		
651			ケヤキナガタマムシ		○		
652			ウグイスナガタマムシ	○	○		
653			ヒメヒラタタマムシ		○		
654			ウバタマムシ		○		
655			タマムシ		○	○	○
656			マスダクロホシタマムシ		○		
657			ムネアカチビナカボソタマムシ		○		
658			クズノチビタマムシ		○	○	
659			コウゾチビタマムシ		○	○	○
660			ナミガタチビタマムシ		○	○	
661			ウメチビタマムシ		○		
662			サシゲチビタマムシ	○	○	○	○
663			ヤノナミガタチビタマムシ		○	○	
664		コメツキムシ科	シモフリコメツキ	○			
665			サビキコリ		○	○	○
666			ムナビロサビキコリ	○		○	
667			ヒメサビキコリ	○			○
668			ヒメクロコメツキ	○			
669			ドウガネヒラタコメツキ	○			
670			オオハナコメツキ	○			
671			コナガコメツキ			○	○
672			クロツヤクシコメツキ	○			
673			クシコメツキ	○	○		
674			ヒゲナガコメツキ	○	○		
675			オオナガコメツキ			○	
676			コハナコメツキ	○	○		○
677			ヒゲコメツキ	○			
678			マダラチビコメツキ				○
679			クチブトコメツキ		○	○	
680		コメツキダマシ科	コメツキダマシ科の一種		○		
681		ジョウカイボン科	Asiopodabrus 属の一種	○	○		
682			ヒメジョウカイ	○			
683			ジョウカイボン	○			
684			セボシジョウカイ	○	○		
685			クロスジツマキジョウカイ	○			
686			マルムネジョウカイ	○			
687			アオジョウカイ		○		
688			キベリコバネジョウカイ		○		
689		ホタル科	ムネクリイロボタル	○	○		
690			カタモンミナミボタル		○		
691			オバボタル	○			
692			ゲンジボタル			○	
693			ヘイケボタル			○	
694		ベニボタル科	フトベニボタル		○		
695			クロハナボタル		○	○	
696		カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ	○			
697			カマキリタマゴカツオブシムシ		○		

表 5.2-51(15)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
698	コウチュウ目	ナガシンクイムシ科	カキノフタトゲナガシンクイ	○			
699	（鞘翅目）	カッコウムシ科	ムナグロナガカッコウムシ		○		
700			ツマグロツツカッコウムシ		○		
701		ジョウカイモドキ科	ホソヒメジョウカイモドキ		○		
702			クロアオケシジョウカイモドキ	○			
703			ヒロオビジョウカイモドキ		○	○	
704			ツマキアオジョウカイモドキ	○			
705		ヒゲボソケシキスイ科	キイロチビハナケシキスイ	○			
706		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ				○
707			ナナホシテントウ	○	○	○	○
708			トホシテントウ		○		
709			ナミテントウ	○	○	○	
710			ニジュウヤホシテントウ		○		
711			ルイヨウマダラテントウ	○	○		
712			キイロテントウ	○			
713			アトホシヒメテントウ	○			
714			モンクチビルテントウ		○	○	
715			ヒメカメノコテントウ	○	○	○	○
716			ベニヘリテントウ	○			
717			クロヘリヒメテントウ		○		
718			クロヒメテントウ		○		
719			カワムラヒメテントウ		○		
720			コクロヒメテントウ		○		
721			Vibidia 属の一種		○		
722		キスイムシ科	クロモンキスイ	○			
723			マルガタキスイ	○			○
724		ヒラタムシ科	オオキバチビヒラタムシ			○	
725			モンチビヒラタムシ			○	
726		ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ				○
727		テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ	○		○	○
728			ルリテントウダマシ	○			
729		オオキノコムシ科	ヒメオビオオキノコムシ		○		○
730			キアシチビオオキノコムシ	○			
731			クロチビオオキノコムシ		○		
732		オオキスイムシ科	ヨツボシオオキスイ			○	
733		コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ	○			
734			ルイスコメツキモドキ		○		
735		ヒメマキムシ科	ウスチャケシマキムシ		○		
736		ネスイムシ科	オバケデオネスイ	○			
737		ケシキスイ科	コクロムクゲケシキスイ	○			
738			クロハナケシキスイ	○	○	○	○
739			ヒメヒラタケシキスイ		○		
740			モンチビヒラタケシキスイ	○			
741			マメヒラタケシキスイ	○			
742			ヨツボシケシキスイ			○	
743			クロヒラタケシキスイ	○			
744		ヒメハナムシ科	トビイロヒメハナムシ	○			
745		ホソヒラタムシ科	マルムネホソヒラタムシ		○		
746		アリモドキ科	ケオビアリモドキ				○
747			クロホソアリモドキ			○	

表 5.2-51(16)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
748	コウチュウ目	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ	○	○	○	○
749	（鞘翅目）		キアシクビボソムシ	○	○	○	
750			タナカホソアリモドキ				○
751			ヨツボシホソアリモドキ				○
752		ホソカタムシ科	ベニモンヒメヒラタホソカタムシ			○	
753		ナガクチキムシ科	ヒメホソナガクチキ		○		
754		ツチハンミョウ科	マメハンミョウ				○
755		ハナノミ科	オオオビハナノミ		○		
756			ハナノミ科の一種		○	○	
757		コキノコムシ科	ヒゲブトコキノコムシ			○	
758			コマダラコキノコムシ				○
759		カミキリモドキ科	カトウカミキリモドキ	○	○		
760			モモブトカミキリモドキ	○	○		
761		アカハネムシ科	ムナビロアカハネムシ	○			
762		ハナノミダマシ科	コフナガタハナノミ		○		
763			クロフナガタハナノミ	○	○		
764		ゴミムシダマシ科	ナミウスイロクチキムシ		○	○	
765			ホンドトビイロクチキムシ		○		
766			ヒメナガニジゴミムシダマシ	○	○		
767			ルリゴミムシダマシ		○	○	○
768			コスナゴミムシダマシ		○		
769			カクスナゴミムシダマシ			○	
770			アカツヤバネクチキムシ		○		
771			フナガタクチキムシ		○		
772			オオメキバネハムシダマシ		○		
773			ヒゲブトゴミムシダマシ		○		
774			フジナガハムシダマシ	○			
775			ニホンキマワリ本土亜種		○		○
776			ホンドニジゴミムシダマシ		○		
777			ホンドクロオオクチキムシ		○		
778		カミキリムシ科	トガリバアカネトラカミキリ	○	○		
779			ゴマダラカミキリ		○	○	
780			クワカミキリ		○	○	
781			シナノクロフカミキリ	○	○		
782			ルリカミキリ		○		
783			シロスジカミキリ			○	
784			ミドリカミキリ		○		
785			エグリトラカミキリ	○			
786			フタオビミドリトラカミキリ		○		
787			ヨツスジトラカミキリ	○		○	
788			ヒナルリハナカミキリ	○			
789			ヤツメカミキリ		○		
790			キッコウモンケシカミキリ		○		
791			シラホシカミキリ		○		
792			キイロトラカミキリ		○		
793			ツマグロハナカミキリ	○	○		
794			ヨツスジハナカミキリ		○	○	
795			ヘリグロリンゴカミキリ		○	○	
796			リンゴカミキリ		○		
797			ラミーカミキリ	○	○	○	

表 5.2-51(17)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
798	コウチュウ目	カミキリムシ科	キクスイカミキリ	○			
799	（鞘翅目）		ノコギリカミキリ		○		
800			キボシカミキリ		○	○	○
801			ワモンサビカミキリ			○	
802			アトモンサビカミキリ	○			
803			アトジロサビカミキリ		○		
804			ヘリグロベニカミキリ	○			
805			ベニカミキリ	○	○		
806			ヒメクロトラカミキリ	○			
807			アオカミキリ		○		
808			ケシカミキリ		○		
809			アメイロカミキリ	○			
810			トラフカミキリ		○		
811		ハムシ科	カミナリハムシ	○			
812			アカバナカミナリハムシ			○	○
813			ツブノミハムシ	○	○	○	
814			サメハダツブノミハムシ		○	○	○
815			ヘリグロテントウノミハムシ		○		
816			ムナグロツヤハムシ		○		
817			ウリハムシモドキ		○	○	
818			ウリハムシ	○	○	○	○
819			クロウリハムシ	○	○	○	○
820			ウスイロサルハムシ		○		
821			ハラグロヒメハムシ		○		
822			キバラヒメハムシ		○		
823			ムシクソハムシ	○	○	○	
824			ヨモギハムシ		○		
825			イモサルハムシ		○		
826			チビルリツツハムシ	○	○		
827			キボシツツハムシ		○	○	
828			クロボシツツハムシ	○			
829			マダラカサハラハムシ	○			○
830			カサハラハムシ	○			
831			クワハムシ	○	○		
832			イタドリハムシ	○	○		
833			コガタルリハムシ	○			
834			フジハムシ	○			
835			キバネマルノミハムシ		○		
836			ヒゲナガルリマルノミハムシ		○		
837			ドウガネサルハムシ	○	○	○	
838			ヨツモンカメノコハムシ	○	○	○	
839			キバラルリクビボソハムシ	○	○		
840			トホシクビボソハムシ	○	○		
841			アカクビボソハムシ		○		
842			クズクビボソハムシ		○	○	
843			ヤマイモハムシ		○		
844			クビアカトビハムシ		○	○	
845			ニホンケブカサルハムシ	○	○		
846			ホタルハムシ			○	
847			イチモンジハムシ		○		

表 5.2-51(18)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
848	コウチュウ目	ハムシ科	ルリマルノミハムシ		○		
849	（鞘翅目）		コマルノミハムシ		○		
850			ドウガネツヤハムシ	○	○		
851			ブタクサハムシ			○	
852			ムネアカキバネサルハムシ			○	
853			マルキバネサルハムシ		○		
854			アトボシハムシ		○		
855			フタホシオオノミハムシ	○			
856			ナスナガスネトビハムシ			○	
857			サンゴジュハムシ		○		
858			ニレハムシ		○	○	
859			アカタデハムシ	○	○		
860			キボシルリハムシ		○		
861			キイロナガツツハムシ	○	○		
862			ムネアカタマノミハムシ		○		
863			キイロタマノミハムシ				○
864			ガマズミトビハムシ	○			
865		ヒゲナガゾウムシ科	タマカイガラヒゲナガゾウムシ				○
866			エグリバネヒゲナガゾウムシ		○		
867			マダラヒゲナガゾウムシ		○		
868			シロヒゲナガゾウムシ		○		
869		ホソクチゾウムシ科	マメホソクチゾウムシ	○			
870			ケブカホソクチゾウムシ		○		
871		オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ	○	○		
872			ヌルデケシツブチョッキリ	○			
873			エゴツルクビオトシブミ		○		
874			ルリイクビチョッキリ	○			
875			カシルリオトシブミ	○	○	○	
876			ゴマダラオトシブミ		○		
877			アシナガオトシブミ	○			
878			カシルリチョッキリ	○			
879		ゾウムシ科	ケブカヒメカタゾウムシ	○			
880			ツヤツチゾウムシ	○			
881			クロシギゾウムシ	○	○		
882			タバゲササラゾウムシ		○		
883			ヒメシロコブゾウムシ	○			
884			マダラアシゾウムシ	○			
885			シロコブゾウムシ		○		
886			コフキゾウムシ	○	○	○	
887			クロトゲサルゾウムシ	○			
888			カナムグラトゲサルゾウムシ		○	○	
889			ハコベタコゾウムシ	○			
890			ツメクサタコゾウムシ	○			
891			アルファルファタコゾウムシ	○			
892			ヤサイゾウムシ				○
893			ハスジカツオゾウムシ		○		
894			カツオゾウムシ	○	○		
895			トゲハラヒラセクモゾウムシ	○			
896			クワヒメゾウムシ		○		
897			チビヒョウタンゾウムシ	○			

表 5.2-51(19)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
898	コウチュウ目	ゾウムシ科	カシワクチブトゾウムシ	○	○		
899	（鞘翅目）		オジロアシナガゾウムシ	○	○		○
900			カントウヒゲボソゾウムシ	○			
901			クスアナアキゾウムシ	○			
902			カグヤヒメキクイゾウムシ		○		
903			ヒレルクチブトゾウムシ			○	○
904			アカアシクチブトサルゾウムシ		○		
905			サビヒョウタンゾウムシ	○	○		○
906			チビコフキゾウムシ	○			
907			マツクチブトキクイゾウムシ	○			
908			ホソゲチビツチゾウムシ	○			
909		オサゾウムシ科	スギキクイサビゾウムシ		○		
910		イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ		○		
911		ナガキクイムシ科	カシノナガキクイムシ		○	○	○
912		キクイムシ科	ミカドキクイムシ	○			
913			ツヅミキクイムシ				○
914			クスノオオキクイムシ			○	
915			トドマツオオキクイムシ	○			
－			キクイムシ科の一種	○		○	
916	ハチ目（膜翅目）	ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジ	○			
917			ルリチュウレンジ	○	○		
918		ハバチ科	ハグロハバチ	○	○	○	○
919			セグロカブラハバチ	○	○	○	
920			ニホンカブラハバチ	○			
921			イヌノフグリハバチ	○			
922			カブラハバチ				○
923			サクラヒメハバチ	○			
924			ヒラアシハバチ		○		
925			オオクロハバチ	○			
926			シオンキモンハバチ	○			
927			セリシマキモンハバチ	○			
928			Profenusa japonica	○			
929			キコシホソハバチ	○			
930		ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ			○	
931		コマユバチ科	パーキンスコウラコマユバチ		○		○
932		ヒメバチ科	エゾオナガバチ		○		
933			キオビコシブトヒメバチ			○	○
934			マツケムシヒラタヒメバチ	○			
935			ミノオキイロヒラタヒメバチ			○	
936		コンボウヤセバチ科	オオコンボウヤセバチ		○		
937		ハラビロクロバチ科	クサビタマゴクロバチ				○
938		アシブトコバチ科	キアシブトコバチ		○		
939			モンキアシブトコバチ		○		
940		アリガタバチ科	ムカシアリガタバチ	○	○		
941		アリ科	アシナガアリ	○	○	○	○
942			オオハリアリ	○	○	○	○
943			ナカスジハリアリ	○	○	○	○
944			イトウオオアリ		○		
945			クロオオアリ	○	○	○	○
946			ミカドオオアリ			○	○

表 5.2-51(20)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
947	ハチ目（膜翅目）	アリ科	ヨツボシオオアリ	○	○	○	○
948			ウメマツオオアリ	○	○	○	○
949			ハリブトシリアゲアリ	○	○	○	○
950			キイロシリアゲアリ	○	○	○	○
951			テラニシシリアゲアリ	○	○		
952			シベリアカタアリ	○			
953			クロヤマアリ	○	○	○	○
954			キイロケアリ	○			○
955			トビイロケアリ	○	○	○	○
956			カワラケアリ		○		
957			ヒラアシクサアリ	○	○	○	○
958			ヒメアリ	○	○	○	○
959			キイロヒメアリ	○		○	○
960			アメイロアリ	○	○	○	○
961			アギトアリ			○	○
962			サクラアリ	○	○		○
963			アズマオオズアリ	○		○	○
964			アミメアリ	○	○	○	○
965			ムネボソアリ	○	○	○	○
966			トビイロシワアリ	○	○	○	○
967		スズメバチ科	オオフタオビドロバチ本土亜種			○	
968			フタスジスズバチ			○	
969			ミカドトックリバチ		○	○	○
970			ムモントックリバチ			○	
971			ミカドドロバチ本土亜種		○		
972			エントツドロバチ		○		
973			スズバチ		○	○	
974			ムモンホソアシナガバチ			○	
975			ヤマトアシナガバチ		○	○	○
976			セグロアシナガバチ本土亜種	○	○	○	
977			キボシアシナガバチ		○	○	○
978			キアシナガバチ本土亜種		○	○	
979			コアシナガバチ			○	
980			カタグロチビドロバチ			○	
981			コガタスズメバチ	○	○	○	○
982			モンスズメバチ			○	○
983			ヒメスズメバチ		○	○	
984			チャイロスズメバチ			○	○
985			オオスズメバチ	○	○	○	○
986			キイロスズメバチ	○	○	○	○
987			クロスズメバチ		○	○	
988		クモバチ科	オオモンクロクモバチ			○	
989			ベッコウクモバチ		○	○	
990			Dipogon 属の一種		○	○	
991			Priocnemis 属の一種	○	○		○
992		アリバチ科	ムネアカアリバチ			○	
993			フタホシアリバチ			○	○
994			ルイスヒトホシアリバチ	○		○	
995			ヤマトアリバチモドキ		○	○	
996		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ本土亜種	○	○	○	○

表 5.2-51(21)　現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
997	ハチ目（膜翅目）	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ		○		○
998			キオビツチバチ		○	○	
999		ギングチバチ科	シロスジギングチ		○	○	
1000			ヒメコオロギバチ本土亜種			○	
1001			ナミコオロギバチ本土琉球亜種	○			○
1002			ヤマトジガバチモドキ		○		
1003			オオジガバチモドキ		○		
1004		ドロバチモドキ科	ヤマトドロバチモドキ			○	
1005		フシダカバチ科	ナミツチスガリ		○		
1006		アナバチ科	ヤマトルリジガバチ		○		
1007			ミカドジガバチ		○	○	
1008			コクロアナバチ		○		
1009			アメリカジガバチ			○	
1010			クロアナバチ本土亜種			○	○
1011		ヒメハナバチ科	アブラナヒメハナバチ	○	○		
1012		ミツバチ科	スジボソフトハナバチ			○	
1013			ニホンミツバチ	○	○		○
1014			セイヨウミツバチ	○	○	○	
1015			コマルハナバチ本土亜種	○	○		
1016			トラマルハナバチ本土亜種			○	
1017			キオビツヤハナバチ		○		
1018			シロモンムカシハナバチヤドリ		○		
1019			ニッポンヒゲナガハナバチ	○			
1020			シロスジヒゲナガハナバチ	○			
1021			エサキキマダラハナバチ	○			
1022			ハリマキマダラハナバチ	○			
1023			ダイミョウキマダラハナバチ	○			
1024			ナミルリモンハナバチ			○	
1025			キムネクマバチ	○	○		
1026		ムカシハナバチ科	アシブトムカシハナバチ				○
1027			スミスメンハナバチ				○
1028			ニッポンメンハナバチ			○	
1029		コハナバチ科	アカガネコハナバチ		○	○	○
1030			ニセキオビコハナバチ	○		○	
1031			ニッポンカタコハナバチ	○	○		○
1032			シロスジカタコハナバチ		○	○	
1033			ミズホヤドリコハナバチ		○	○	
1034		ハキリバチ科	ヤノトガリハナバチ			○	
1035			バラハキリバチ本土亜種	○		○	
1036			オオハキリバチ			○	
1037			ツツハナバチ	○			
計	22 目	225 科	1,037 種	440 種	570 種	426 種	367 種

注 1）種名及び配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の「-」は、他種と同種である可能性があるため、種数としてカウントしないことを示す。

キ 陸産貝類、クモ類

(a) 陸産貝類

現地調査により確認された陸産貝類は表 5.2-52(1)～(2)に示すとおりである。

現地調査の結果、3 目 14 科 49 種の陸産貝類が確認された。落葉広葉樹林の落葉層や朽木周辺では、ミジンナタネ、ヒメベッコウ、コシタカシタラ、カサキビ等といった微小種やオオケマイマイなどの中型種が主に確認され、常緑広葉樹林のやや薄い落葉や落枝混じりのリター層では、ムシオイ、ゴマガイ、アズキガイ、ヒメハリマキビ等といったやや湿った環境を好む微小種が多く見られた。そのほか、コンクリート壁面や人家の塀等ではキセルモドキ、ナミギセル、チャコウラナメクジ、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ等が、倒木や朽木周辺にはハコネギセル、ヒカリギセル、ヤマナメクジといった中型から大型種の陸産貝類が見られた。

表 5.2-52(1)　現地調査により確認された陸産貝類

No.	目名	科名	種名	確認時期		
				春季	夏季	秋季
1	ヤマタニシ目	ヤマタニシ科	ムシオイ	○	○	○
2			サドヤマトガイ		○	
3			ミジンヤマタニシ	○	○	
4		ゴマガイ科	ゴマガイ	○	○	○
5		アズキガイ科	アズキガイ	○	○	○
6	オカミミガイ目	オカミミガイ科	ニホンケシガイ		○	
7	マイマイ目	アフリカマイマイ科	オカチョウジガイ	○	○	○
8			ホソオカチョウジガイ		○	○
9			サツマオカチョウジガイ	○	○	○
10			トクサオカチョウジガイ	○	○	○
11		タワラガイ科	タワラガイ	○	○	○
12		ナタネガイ科	ミジンナタネ	○	○	○
13			ハリマナタネ	○	○	○
14			ナタネガイ類似種	○	○	○
15		キセルモドキ科	キセルモドキ	○	○	○
16		キセルガイ科	ハコネギセル	○	○	○
17			チュウゼンジギセル	○	○	○
18			スルガギセル	○	○	○
19			ヒクギセル			○
20			ナミギセル	○	○	○
21			ナミコギセル	○		
22			ヒカリギセル	○	○	○
23		コウラナメクジ科	チャコウラナメクジ	○		○
24		シタラ科	タカキビ	○	○	○
25			ヒメベッコウ	○	○	○
26			マギレヒメベッコウ			○
27			キビガイ	○	○	○
28			レンズガイ	○	○	○
29			ハリマキビ	○		
30			ヒゼンキビ	○	○	○

表 5.2-52(2)　現地調査により確認された陸産貝類

No.	目名	科名	種名	確認時期		
				春季	夏季	秋季
31	マイマイ目	シタラ科	ヒメハリマキビ	○	○	○
32			ウスイロシタラ	○		
33			マルシタラ	○	○	○
34			コシタカシタラ	○	○	○
35			ウメムラシタラ	○	○	○
36			カサキビ	○	○	○
37			オオウエキビ	○	○	○
38			ヒメカサキビ	○	○	
39		ベッコウマイマイ科	ウラジロベッコウ	○	○	○
40		ナメクジ科	ナメクジ		○	
41			ヤマナメクジ	○	○	○
42		ナンバンマイマイ科	ウスカワマイマイ	○		○
43			エンスイマイマイ		○	
44			オオケマイマイ	○	○	○
45			オナジマイマイ	○	○	○
46			ミスジマイマイ	○	○	○
47			ヒダリマキマイマイ	○	○	○
48			キヌビロウドマイマイ	○	○	○
49			ニッポンマイマイ	○	○	○
計	3 目	14 科	49 種	42 種	42 種	40 種

注）種名及び配列は分類・配列は福田（2021）に準拠し、和名・学名は亀田（2018）や MolluscaBase 等を参考にした。

・福田宏（2021）Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. Molluscan Diversity 6(2): 89-180.

・亀田勇一（2018）. 陸・淡水産腹足類日本固有種目録(2018 年 3 月版).https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/endemic_list/

・MolluscaBase　https://www.molluscabase.org/

(b) クモ類

現地調査により確認されたクモ類は表 5.2-53(1)～(3)に示すとおりである。

現地調査の結果、23 科 83 種のクモ類が確認された。

表 5.2-53(1)　現地調査により確認されたクモ類

No.	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
1	ジグモ科	ジグモ	○		
2	カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ	○	○	○
3	トタテグモ科	キノボリトタテグモ	○	○	○
4		キシノウエトタテグモ	○	○	
5	ウズグモ科	マネキグモ			○
6		ヤマウズグモ	○	○	
7	ヒメグモ科	シロカネイソウロウグモ			○
8		オナガグモ			○
9		シモフリミジングモ	○		
10		カグヤヒメグモ		○	
11		オオヒメグモ	○	○	○
12		シモフリヒメグモ		○	
13	サラグモ科	ザラアカムネグモ			○
14		ニセアカムネグモ	○	○	
15		チビアカサラグモ	○		
16		シロブチサラグモ	○		
17		ユノハマサラグモ	○		
18		Ummeliata 属の一種		○	
19	アシナガグモ科	オオシロカネグモ	○	○	○
20		ジョロウグモ		○	○
21		トガリアシナガグモ		○	○
22		アシナガグモ		○	○
23	コガネグモ科	オニグモ		○	
24		ハラビロミドリオニグモ	○		
25		コガネグモ		○	
26		ナガコガネグモ		○	○
27		コガタコガネグモ	○	○	○
28		ギンメッキゴミグモ	○	○	○
29		ヤマゴミグモ			○
30		ゴミグモ	○	○	

表 5.2-53(2)　現地調査により確認されたクモ類

No.	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
31	コガネグモ科	シロオビトリノフンダマシ		○	
32		スズミグモ		○	
33		サガオニグモ	○		○
34		カラフトオニグモ	○	○	
35		トガリオニグモ		○	
36		ワキグロサツマノミダマシ	○	○	
37		コゲチャオニグモ		○	
38		ヤマシロオニグモ	○	○	
39		サツマノミダマシ		○	
40		ウヅキコモリグモ	○	○	
41		ハリゲコモリグモ	○	○	○
42		キクヅキコモリグモ			○
43		イモコモリグモ	○	○	○
44		ヒノマルコモリグモ	○	○	○
45		アライトコモリグモ	○		
46	キシダグモ科	イオウイロハシリグモ	○	○	○
47	ササグモ科	ササグモ	○	○	○
48	シボグモ科	シボグモ		○	○
49	タナグモ科	コクサグモ		○	○
50	ガケジグモ科	メガネヤチグモ	○		
51	ウエムラグモ科	イタチグモ	○	○	○
52	フクログモ科	カバキコマチグモ		○	
53		Clubiona 属の一種		○	○
54	ネコグモ科	オビジガバチグモ			○
55	ホウシグモ科	ドウシグモ	○	○	
56	ワシグモ科	クロチャケムリグモ	○	○	
57	アシダカグモ科	コアシダカグモ			○
58	エビグモ科	ヤマトヤドカリグモ			○
59	カニグモ科	コハナグモ	○	○	
60		ハナグモ	○	○	○
61		ワカバグモ		○	
62		アズチグモ		○	
63		ヤミイロカニグモ	○	○	○
64	ハエトリグモ科	ネコハエトリ	○	○	○
65		マミジロハエトリ	○	○	○
66		ウデブトハエトリ	○	○	
67		Helicius 属の一種		○	
68		Heliophanus 属の一種			○
69		オスクロハエトリ		○	○
70		ヤハズハエトリ		○	○

表 5.2-53(3)　現地調査により確認されたクモ類

No.	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
71	ハエトリグモ科	シラヒゲハエトリ		○	
72		ヤガタアリグモ	○	○	○
73		ヤサアリグモ		○	
74		アリグモ	○	○	○
75		メガネアサヒハエトリ		○	
76		メスジロハエトリ		○	
77		デーニッツハエトリ			○
78		チャスジハエトリ		○	○
79		ミスジハエトリ			○
80		カラスハエトリ		○	
81		キレワハエトリ			○
82		アオオビハエトリ	○	○	○
83		シラホシコゲチャハエトリ			○
計	23 科	83 種	40 種	60 種	44 種

注）配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

⑥ 調査結果（聞き取り調査）

聞き取り調査より確認された動物は表 5.2-54 に示すとおりである。

聞き取り調査の結果、葉山町上山口寺前谷戸周辺（鉄塔No.32及びNo.33周辺）では、鳥類が13種、爬虫類が2種、両生類が3種、昆虫類が12種の計30種の動物を聴取した。

表 5.2-54　聞き取り調査により確認された動物

No.	項目	目名	科名	種名
1	鳥類	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ
2		タカ目	タカ科	ハイタカ
3				オオタカ
4				ノスリ
5		フクロウ目	フクロウ科	フクロウ
6				アオバズク
7		スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ
8			モズ科	モズ
9			ウグイス科	ウグイス
10				ヤブサメ
11			ヒタキ科	キビタキ
12			ホオジロ科	アオジ
13				クロジ
14	爬虫類	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ
15			カナヘビ科	ニホンカナヘビ
16	両生類	有尾目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ
17			イモリ科	アカハライモリ
18		無尾目	アカガエル科	ヤマアカガエル
19	昆虫類	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ
20			イトトンボ科	ホソミイトトンボ
21			ヤンマ科	マルタンヤンマ
22				ヤブヤンマ
23				サラサヤンマ
24			サナエトンボ科	コオニヤンマ
25				ウチワヤンマ
26			オニヤンマ科	オニヤンマ
27			エゾトンボ科	タカネトンボ
28		カメムシ目（半翅目）	コオイムシ科	コオイムシ
29		コウチュウ目（鞘翅目）	ホタル科	ゲンジボタル
30				ヘイケボタル
計	4項目	10目	21科	30種

注）配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和6年度版）」(河川環境データベースHP)に従った。

(2) 重要な種、個体群及びその生息地

① 調査事項

重要な動物の生息箇所、個体数、密度、分布、繁殖行動、食性、他種との関係等

② 調査方法

動物相の調査結果を整理及び解析するとともに、現地調査に置いて確認地点、個体数、生息密度、生息状況、生息環境との関わり等を明らかにした。

③ 調査結果

重要な動物の選定は表 5.2-55 に示す基準により行い、各項目における重要種の確認状況を以下に整理した。

表 5.2-55　重要種の選定基準（動物）

	法令・文献・資料名	区　分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）、「神奈川県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 13 号）、「横須賀市文化財保護条例」（昭和 39 年条例第 41 号）、「葉山町文化財保護条例」（昭和 42 年条例第 7 号）、「逗子市文化財保護条例」（昭和 43 年条例第 11 号）	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：神奈川県指定天然記念物 横天：横須賀市指定天然記念物 葉天：葉山町指定天然記念物 逗天：逗子市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成 4 年法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020」 （環境省、令和 2 年 3 月）	EX:絶滅。我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 CR:絶滅危惧 IA 類。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN:絶滅危惧 IB 類。IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU:絶滅危惧Ⅱ類。絶滅の危険が増大している種。 NT:準絶滅危惧。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD:情報不足。評価するだけの情報が不足している種。 LP:地域個体群。地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」 （神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年）	EX：県内では、すでに絶滅したと考えられる種。 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類。県内において、絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧 IA 類。県内において、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN：絶滅危惧 IB 類。県内において、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU：絶滅危惧Ⅱ類。県内において、絶滅の危険が増大している種。 NT：準絶滅危惧。県内において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD：情報不足。県内において、評価するだけの情報が不足している種。 減少：減少種。かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種。 希少：希少種。生息域が狭域であるなど生息環境が脆弱なもののうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地の環境悪化によっては絶滅が危惧される種。 要注意：要注意種。前回、減少種又は希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地又は生息個体数が明らかに減少傾向にある種。 注目：注目種。生息環境が特殊なもののうち、県内における衰退は目立たないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種。 不明種：過去に不確実な記録だけが残されている種。

ア 哺乳類

現地調査により確認された重要な哺乳類は表 5.2-56 に、確認状況は表 5.2-57 に、確認位置は図 5.2-15 に示すとおりである。

現地調査の結果、1 目 1 科 1 種の重要種が確認された。

表 5.2-56　現地調査により確認された重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	確認時期								選定基準			
				冬季		春季		夏季		秋季					
				内	外	内	外	内	外	内	外	①	②	③	④
1	ネコ目（食肉目）	イタチ科	ニホンイタチ				○				○				NT
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	－	－	－	1 種
				0 種		1 種		0 種		1 種					

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

表 5.2-57　重要な哺乳類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	ニホンイタチ 【現地写真なし】	【生態など】 県内では平野部から山麓まで県内全域に広く分布するが、密度は低いと考えられる。水辺環境を好み、水田・河川敷などを主な生息地とする。ネズミ・鳥・カエルなどを食べるほか、水中にもぐっての捕食も行う。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-15　哺乳類の重要種確認位置

イ 鳥類

現地調査により確認された重要な鳥類は表 5.2-58 に、確認状況は表 5.2-59(1)～(7)に、確認位置は図 5.2-16(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査の結果、8 目 20 科 27 種の重要種が確認された。

表 5.2-58　現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準				
				冬季		春季		繁殖期		秋季						④	
				内	外	内	外	内	外	内	外		①	②	③	非繁殖	繁殖
1	ハト目	ハト科	アオバト				○				○					注目	注目
2	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ			○	○		○		○	○			VU		CR+EN
3	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ				○										VU
4	チドリ目	チドリ科	コチドリ						○								注目
5		シギ科	タシギ		○											注目	
6			イソシギ		○											注目	希少
7	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ		○				○		○				NT	NT	VU
8		タカ科	ツミ		○						○					希少	VU
9			ハイタカ		○							○			NT	希少	DD
10			オオタカ								○	○			NT	希少	VU
11			サシバ				○		○		○				VU		CR+EN
12			ノスリ		○		○				○	○				希少	VU
13	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ		○		○		○			○					NT
14			アオバズク				○					○					VU
15	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		○						○			国内	VU	希少	CR+EN
16	スズメ目	ｻﾝｼｮｳｸｲ科	サンショウクイ				○								VU		VU
17		ｶｻｻｷﾋﾀｷ科	サンコウチョウ				○		○			○					VU
18		モズ科	モズ				○		○			○					減少
19		ツバメ科	ツバメ			○	○	○	○								減少
20		ウグイス科	ヤブサメ				○		○			○					NT
21		ムシクイ科	ｾﾝﾀﾞｲﾑｼｸｲ				○		○								NT
22		セッカ科	セッカ						○							減少	減少
23		ヒタキ科	キビタキ				○		○			○					減少
24			オオルリ				○		○								NT
25		セキレイ科	キセキレイ				○		○								減少
26		アトリ科	カワラヒワ				○		○								減少
27		ホオジロ科	クロジ		○		○					○				減少	CR+EN
計	8 目	20 科	27 種	0 種	9 種	2 種	18 種	1 種	15 種	0 種	8 種	11 種	－	1 種	7 種	11 種	26 種
				9 種		18 種		15 種		8 種							

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

注 3）選定基準の④については、確認時期のうち、各種の生態等を考慮した上で非繁殖期、繁殖期の時期に該当するもののみ、重要種として扱った。

表 5.2-59(1)　重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	アオバト 【現地写真なし】	【生態など】 県内の丘陵地から山地の森林に夏鳥として渡来するが、一部は越冬する。丹沢山地と箱根山地で多くみられる。おもに樹林で樹木の芽や実などを採餌する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体、春季 3 箇所 3 個体
2	ミゾゴイ 	【生態など】 夏鳥として渡来するが、繁殖の確実な記録はまれで、鎌倉市の例のほか、近年三浦半島で記録された。春の渡りの季節の記録がほとんどである。丘陵地から低山地の良く茂った広葉樹林に渡来し、4 月～7 月に高木の枝上に営巣し、3 卵を産む。沢沿いで採餌し、サワガニ・カエル類などを好んで捕える。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 3 箇所 3 個体 ○実施区域外 春季 8 箇所 8 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、 秋季 2 箇所 2 個体、巣 1 箇所
3	カッコウ 【現地写真なし】	【生態など】 夏鳥として、丘陵地の低山のひらけた林や高原、ゴルフ場などに渡来する。4 月下旬から 9 月下旬まで観察されるが、5 月から 7 月に最もよくみられる。托卵性で、ホオジロやモズ、オオヨシキリ、オナガなどに托卵する。おもに昆虫をエサとし、チョウ類の幼虫を好んで食べるという報告がある。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体
4	コチドリ 	【生態など】 県内では全域の平地に夏鳥として渡来するが、関東地方以西では少数は冬期もみられる。河川中流から下流にかけての河川敷に生息する。特に植物のまばらな砂礫地に好んで営巣するが、造成直後の裸地や駐車場などを代替環境として利用することもある。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 繁殖期 2 箇所 3 個体

表 5.2-59(2)　重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	タシギ 【現地写真なし】	【生態など】 県内では冬鳥または旅鳥として渡来する。大小河川、遊水池、休耕田、冬季の水田、用水路等で休息、越冬する。身を潜める草などがある水辺環境を好み、越冬個体は常時、水が枯れない湿地環境を探して生息している。夜活動することが多く、昼間は物陰でじっとしている。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体
6	イソシギ 	【生態など】 県内では留鳥として生息し、県北部と山間部を除く全域の大小河川でみられる。河川や湖沼の草地に営巣し、4 月から 3～4 卵を雌雄交代で約 23 日間抱卵する。ヒナは、半日から 2 日くらいの間に巣を離れ、約 1 ヶ月で独立する。酒匂川中流域では、比較的繁殖記録は多いが、全体としては少ない。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体
7	ミサゴ 	【生態など】 県内ではおもに冬鳥として渡来し、相模川などの大きな河川や丹沢湖などの湖沼に生息する。空中高くからダイビングして魚を捕える。繁殖期には、断崖の岩棚や大木の上に枯れ枝などを組み合わせて巣を作り、普通 2～3 卵を産む。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 2 箇所 2 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、 秋季 4 箇所 4 個体
8	ツミ 	【生態など】 一年を通して各地で観察される。夏鳥または留鳥として生息し、小鳥類を捕える。山地の樹林にも生息する一方で、都市公園・人家の庭などの小規模の都市緑地でも繁殖する。クロマツなどの高木に営巣し、普通 3～5 卵を産む。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体

表 5.2-59(3)　重要な鳥類の確認状況

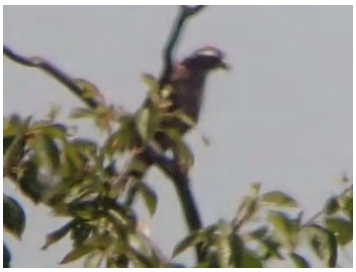
No.	種名	生態・確認状況
9	ハイタカ 	【生態など】 県内ではおもに冬鳥として渡来し、丘陵地から農耕地にかけて観察される。山地から丘陵地の森林に生息し、林内を飛翔しておもに小鳥類を捕える。高木に営巣し、普通 4～5 卵を産む。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体
10	オオタカ 	【生態など】 丘陵地から山麓に留鳥として生息する。丘陵地や大規模な公園などの樹林で営巣しているが、近年では市街地の中に孤立した緑地で営巣するような例も現れている。おもに中・小型の鳥類を捕える。スギ・マツ類などの針葉樹の高木に営巣することが多く、普通 3～4 卵を産む。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体
11	サシバ 	【生態など】 県内では県西部の丘陵地などわずかな地域で繁殖しているのみである。4 月頃夏鳥として渡来し、丘陵地や低山地に生息する。秋の渡りの季節には、横須賀市武山、南足柄市足柄峠などで多数の個体が西に渡るのが観察される。特に谷戸地形を好み、ある程度以上の面積を持つ水田と樹林地がセットで存在することが生息のための条件となっている。水辺でカエルやヘビをよく捕える。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、 秋季 1 箇所 1 個体
12	ノスリ 	【生態など】 県内では繁殖期におもに丹沢山麓から大磯丘陵にかけて局所的に生息している。非繁殖期には県内全域の丘陵地から平地でみられる。繁殖期には、森林で営巣するが、採餌には伐採地や牧場、畑のような開けた環境をよく利用する。非繁殖期には、河川、農耕地のような草原的環境にも生息する。上空を帆翔しながら獲物を探し、モグラ・ネズミなどの小型哺乳類を多く捕食することが知られている。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 10 箇所 11 個体、春季 2 箇所 2 個体、 秋季 4 箇所 6 個体

表 5.2-59(4)　重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
13	フクロウ 【現地写真なし】	【生態など】 留鳥として平地から低山の大木のある林に生息する。各地の洞のある大木などで営巣、繁殖しているが多くはない。夜行性で日中は薄暗い林や社寺林などで休んでいる。夕方から活動をはじめ、樹林に接した農耕地など開けた場所でネズミ類や鳥類、爬虫類、両生類などを捕食する。おもに大木の樹洞に営巣するが、土の壁の横穴や人家の屋根裏、巣箱や人工構造物などもよく利用する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体、春季 9 箇所 10 個体、 繁殖期 1 箇所 1 個体
14	アオバズク 	【生態など】 夏鳥として平地から山地の森林や社寺林、公園などに渡来する。4 月上旬から 10 月中旬に記録されている。夏鳥として平地から低山にかけての大きい樹林のある林、社寺林、公園、庭園などに渡来し、おもに樹洞を利用して繁殖する。夜行性で、おもにセミ類や甲虫類、鱗翅類などの昆虫類をエサとするが、カエルや小鳥類なども捕えることがある。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体
15	ハヤブサ 	【生態など】 おもに冬鳥として渡来し、沿岸部や大きな河川の周辺で観察されるが、内陸部に渡来することもある。留鳥または冬鳥として、断崖のある海岸に生息する。高速で飛行し、ハト類などの鳥類を飛びながらとらえる。断崖に営巣し、普通 3～4 卵を産む。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 2 個体
16	サンショウクイ 【現地写真なし】	【生態など】 県内では県北部・県西部・県央部の丘陵地に夏鳥として渡来する。明るい落葉広葉樹林を好む。樹冠近くの枝にとまり、飛翔昆虫やクモなどを見つけると飛びついて捕えるほか、ホバリングしながらの捕食も行う。繁殖期間は 5 月～7 月。樹林内の高木層に椀型の巣を作るが、繁殖の確認例は少ない。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 2 個体

表 5.2-59(5)　重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
17	サンコウチョウ 	【生態など】 夏鳥として山地から丘陵地の暗い常緑広葉樹林やスギ・ヒノキ林に渡来する。樹上生活がおもで飛翔中に昆虫類を採食する。繁殖は沢沿いの林で確認されており、スギやヒノキ、落葉広葉樹などの樹上に、お椀型の巣を作る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 4 個体、繁殖期 4 箇所 5 個体
18	モズ 	【生態など】 留鳥としてほぼ全域でみられるが、山間部での観察が比較的少ない。低地の林、河原、農耕地、公園などで単独で生活する。昆虫類をはじめとした無脊椎動物や小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類などを食べ、はやにえを作る習性がある。繁殖は 2 月から 9 月上旬まで確認されているが、3 月から 5 月に多い。おもにオスが他の鳥の鳴きまねをすることが知られている。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 5 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
19	ツバメ 	【生態など】 県内全域の集落、都市に夏鳥として渡来する。繁殖は人間の居住空間と密接に結びつき、人間が出入りする建物の軒下に、泥や草を唾液で固めた椀型の巣を作る。高層の建物であっても、巣の位置は人間の行動圏に接した低い場所に限られる。繁殖期の後半から河川のヨシ群落などに集団ねぐらを作り、数千～数万羽の集結がみられる。飛びながら飛翔昆虫を捕える。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体 ○実施区域外 春季 6 箇所 15 個体、繁殖期 4 箇所 13 個体
20	ヤブサメ 【現地写真なし】	【生態など】 夏鳥として山地から丘陵地の下生えの茂った暗い林内に生息する。林床の湿ったところに多くみられる。灌木林や落葉広葉樹林の地上に営巣し、巣は草や樹木の根元などにあることが多い。藪に潜むことが多く、姿を見ることは難しい。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 11 箇所 14 個体、繁殖期 4 箇所 4 個体

表 5.2-59(6)　重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
21	センダイムシクイ 	【生態など】 夏鳥として丘陵地から山地にかけての林へ渡来する。縄張りの中を動き回り、昆虫類やクモ類を捕食する。渡りの季節には、都市公園や街路樹などでもみられる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 2 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
22	セッカ 	【生態など】 留鳥として河原や水田周辺の草原に生息する。電線にとまったり、草の間をくぐったり、地上を歩きながらエサを採る。草の茎や葉の間に巣を作る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 繁殖期 2 箇所 4 個体
23	キビタキ 	【生態など】 夏鳥として、山地から丘陵地のよく茂った落葉広葉樹林に渡来する。枝から枝に渡り採食することが多い。繁殖は、落葉広葉樹、針広混交林で行われる。巣は茂みの中や枝のまた、樹洞を利用して作る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 11 箇所 11 個体、繁殖期 4 箇所 4 個体
24	オオルリ 	【生態など】 夏鳥として、山地から丘陵地の沢沿いの林に渡来する。オスは、巣の近くの見通しのよい枝先や梢で囀ることが多い。枝先から飛んで昆虫を捕える。繁殖は崖地や渓流近くの落葉広葉樹林で行い、岩または土の崖地に巣を作る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、繁殖期 2 箇所 2 個体

表 5.2-59(7)　重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
25	キセキレイ 	【生態など】 留鳥または漂鳥として平地から低山の水路や河川、水田、農耕地に生息する。常に尾を上下に振りながら、おもに水辺を歩き、水生昆虫等を捕食する。また、水辺の石や流木にとまり、飛ぶ虫に向かってフライングキャッチをしたりもする。4 月～7 月に繁殖記録があり、人家の屋根や橋桁、樹木などにお椀型の巣を作る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 5 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
26	カワラヒワ 	【生態など】 留鳥としてほぼ全域でみられる。繁殖記録は平野部に多く山間部にはほとんどみられない。市街、村落、道路付近などの林や独立樹などに営巣する。巣は 3～7m の高さの枝上にある。秋冬には、河原や農耕地に群を作る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 13 箇所 26 個体、繁殖期 6 箇所 15 個体
27	クロジ 	【生態など】 県内ではおもに冬鳥として渡来する。丹沢山地で繁殖が確認されているが、個体数は少なく局所的である。巣はハンノキやヤナギなどの灌木から地上 1m 以下の高さの枝上にある。非繁殖期には丘陵地や低山の林でみられるほか、都市公園や人家の庭でも記録がある。暗い林床の落ち葉をかき分けて、おもに草や木の実を食べる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 6 箇所 14 個体、春季 1 箇所 2 個体

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-16(1)　鳥類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-16(2)　鳥類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-16(3)　鳥類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-16(4)　鳥類の重要種確認位置

ウ 猛禽類

現地調査により確認された猛禽類について、以下に整理した。

なお、猛禽類は令和3年から事前調査を行っており、調査結果は令和4年から令和6年にかけての調査結果を記載した。

(a) オオタカの確認状況

調査地域におけるオオタカの確認状況は表 5.2-60 に、調査地区別のオオタカの確認状況は表 5.2-61～63 に、確認位置は図 5.2-17～19 に示すとおりである。

なお、重要種の保護の観点から、オオタカの確認状況や確認位置は非公開とする。

表 5.2-60　地区別のオオタカの確認状況

地区名				
A 地区				
B 地区	重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。			
C 地区				
D 地区				

表 5.2-61　オオタカの確認状況（A 地区）

調査年	確認状況
令和 4 年	
令和 5 年	重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。
令和 6 年	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-17(1)　オオタカの
確認位置（A 地区：令和 4 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-17(2)　オオタカの
確認位置（A 地区：令和 5 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-17(3)　オオタカの
確認位置（A 地区：令和 6 年）

表 5.2-62　オオタカの確認状況（B 地区）

調査年	確認状況
令和 4 年	
令和 5 年	重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。
令和 6 年	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-18(1)　オオタカの
確認位置（B 地区：令和 4 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-18(2)　オオタカの
確認位置（B 地区：令和 5 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-18(3)　オオタカの
確認位置（B 地区：令和 6 年）

表 5.2-63　オオタカの確認状況（C 地区、D 地区）

調査年	確認状況
令和 4 年	
令和 5 年	重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。
令和 6 年	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-19(1)　オオタカの確認位置（C 地区：令和 4 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-19(2)　オオタカの
確認位置（D 地区：令和 5 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-19(3)　オオタカの
確認位置（D 地区：令和 6 年）

(b) オオタカの行動圏解析

表 5.2-64 に示す解析方法により行動圏の解析を行った。

表 5.2-64　オオタカの解析方法

	重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

行動圏解析の結果は、図 5.2-20～22 に示すとおりである。また、対象事業の鉄塔との位置関係について、表 5.2-65 に示した。

なお、重要種の保護の観点から、オオタカの行動圏解析の結果は非公開とする。

表 5.2-65　行動圏解析結果と対象事業の鉄塔との位置関係

調査地区					
A 地区					
B 地区					
C 地区					
D 地区					

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-20　行動圏解析結果
（A 地区）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-21　行動圏解析結果
（C 地区）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-22　行動圏解析結果
（D 地区）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-23 確認位置と工事用地の関係（D 地区）

(c) その他の猛禽類

令和 4 年から令和 6 年にかけての現地調査の結果、オオタカを除いた猛禽類は 7 種確認された。

各猛禽類の経年の確認状況は、以下に整理した。

① ミサゴの確認状況

ミサゴの確認状況は表 5.2-66 に、確認位置は図 5.2-24 に示すとおりである。

冬季の確認が多く、主に冬鳥として調査地域に渡来しているものと考えられた。令和5年までは全体的に確認回数は少なく、繁殖期は若鳥のみの確認であった。令和 6 年は確認回数が多くなり、繁殖期にも成鳥の複数個体の飛翔やとまりが確認されたが、繁殖に係る行動は一度も確認されておらず、繁殖を行っている可能性は低いと考えられた。

なお、本種の餌の運搬が確認されているが、いずれも冬季の確認であり、繁殖に係る行動ではないと考えられた。

表 5.2-66　ミサゴの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス	2						2
	オス	1						1
	若鳥					1		1
	幼鳥							0
	不明	3	1	1				5
合計		6	1	1	0	1	0	9
令和 5 年	メス		1					1
	オス		1	1				2
	若鳥					1		1
	幼鳥							0
	不明	3	1	1				5
合計		3	3	2	0	1	0	9
令和 6 年	メス		2	1	1	3		7
	オス	2	3	3	1	3		12
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	3	1	1				5
合計		5	6	5	2	6	0	24

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-24　ミサゴの確認位置
（令和 4 年～6 年）

②ハチクマの確認状況

ハチクマの確認状況は表 5.2-67 に、確認位置は図 5.2-25 に示すとおりである。

いずれの年も確認回数は非常に少なく、春の渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-67　ハチクマの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス					1		1
	オス				1			1
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	0	0	0	1	1	0	0
合計								2
令和 5 年	メス							0
	オス					2		2
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	0	2	0	2
令和 6 年	メス							0
	オス				1	1		2
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	1	1	0	2

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-25　ハチクマの確認位置
（令和 4 年～6 年）

③ツミの確認状況

ツミの確認状況は表 5.2-68 に、確認位置は図 5.2-26 に示すとおりである。

確認回数は非常に少なく、主に春の渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-68　ツミの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス			1				1
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	1	0	0	0	1
令和 5 年	メス							0
	オス							0
	若鳥				1			1
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	1	0	0	1
令和 6 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	0	0	0	0

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-26　ツミの確認位置
（令和 4 年～6 年）

④ハイタカの確認状況

ハイタカの確認状況は表 5.2-69 に、確認位置は図 5.2-27 に示すとおりである。

いずれの年も 2 月から 4 月までの期間のみの確認である。越冬個体や春の渡り途中に通過した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-69　ハイタカの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス			1				1
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	3						3
合計		3	0	1	0	0	0	4
令和 5 年	メス			1				1
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	3						3
合計		3	0	1	0	0	0	4
令和 6 年	メス	1		1				2
	オス		2					2
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	2	1					3
合計		3	3	1	0	0	0	7

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-27　ハイタカの確認位置
（令和 4 年～6 年）

⑤サシバの確認状況

サシバの確認状況は表 5.2-70 に、確認位置は図 5.2-28 に示すとおりである。

4 月から 7 月にかけての期間で確認された。全体的に確認回数は少なく、春の渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体、巣立ち後に分散した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-70　サシバの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明			1				1
合計		0	0	1	0	0	0	1
令和 5 年	メス							0
	オス			1				1
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明				1	4		5
合計		0	0	1	1	4	0	6
令和 6 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥						1	1
	不明							0
合計		0	0	0	0	0	1	1

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-28　サシバの確認位置
（令和 4 年～6 年）

⑥ノスリの確認状況

ノスリの確認状況は表 5.2-71 に、確認位置は図 5.2-29 に示すとおりである。

いずれの年も 2 月から 4 月の期間で確認された。越冬個体や春の渡り途中に通過した個体、偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-71　ノスリの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス							0
	オス							0
	若鳥	1						1
	幼鳥							0
	不明	8	2	1				11
合計		9	2	1	0	0	0	12
令和 5 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	2	1					3
合計		2	1	0	0	0	0	3
令和 6 年	メス		1					1
	オス		1					1
	若鳥	1	2					3
	幼鳥							0
	不明	6	4	1				11
合計		9	8	1	0	0	0	18

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-29　ノスリの確認位置
（令和 4 年～6 年）

⑦ハヤブサの確認状況

ハヤブサの確認状況は表 5.2-72 に、確認位置は図 5.2-30 に示すとおりである。

いずれの年も確認回数は少なく、冬季から春季にかけての確認が主であり、越冬個体や偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-72　ハヤブサの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス	2						2
	オス			1				1
	若鳥		1					1
	幼鳥							0
	不明	2			1		1	4
合計		4	1	1	1	0	1	8
令和 5 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明		1					1
合計		0	1	0	0	0	0	1
令和 6 年	メス							0
	オス							0
	若鳥	2						2
	幼鳥							0
	不明	1			1			2
合計		3	0	0	1	0	0	4

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-30　ハヤブサの確認位置
（令和 4 年～6 年）

エ 爬虫類

現地調査により確認された重要な爬虫類は表 5.2-73 に、確認状況は表 5.2-74(1)～(2)に、確認位置は図 5.2-31(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査及び聞き取り調査の結果、1 目 3 科 6 種の重要種が確認された。

表 5.2-73　現地調査により確認された重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期						聞き取り	選定基準			
				春季		夏季		秋季						
				内	外	内	外	内	外		①	②	③	④
1	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ		○		○			○				要注意
2		ナミヘビ科	シマヘビ		○		○		○					要注意
3			アオダイショウ		○		○		○					要注意
4			ヒバカリ		○		○		○					NT
5			ヤマカガシ	○			○		○					要注意
6		クサリヘビ科	ニホンマムシ				○		○					要注意
計	1 目	3 科	6 種	1 種	4 種	0 種	6 種	0 種	5 種	1 種	－	－	－	6 種
				5 種		6 種		5 種						

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

表 5.2-74(1)　重要な爬虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	ヒガシニホントカゲ 	【生態など】 日当たりの良い石の下や石垣の隙間、土手の斜面の穴などにすみ、ミミズやクモ、昆虫などを捕食する。幼体の尾は鮮やかなコバルトブルーだが、この色は成長と共に消える。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 4 箇所 4 個体、夏季 14 箇所 14 個体
2	シマヘビ 	【生態など】 開けた平地から山地の林縁部など、明るい環境を好む。動きは俊敏で、カエルを多く食べるが、他にもネズミ、鳥類の卵やヒナ、ヘビ、トカゲなど様々な動物を捕食する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体
3	アオダイショウ 	【生態など】 山地の林から平野部まで様々な環境にすみ、日本では古くから最も身近なヘビとして知られる。成蛇は人家や倉庫などにもすみ着き、ネズミをよく捕食するので、「家の主」として大切に扱う地域も多い。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、夏季 7 箇所 7 個体、秋季 1 箇所 1 個体
4	ヒバカリ 	【生態など】 湿地や水田、水路脇など湿った環境を好み、カエルやミミズ、水中に入ってオタマジャクシや小魚などを捕食する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 3 箇所 3 個体、秋季 4 箇所 5 個体

表 5.2-74(2)　重要な爬虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	ヤマカガシ 	【生態など】 平地から山地の水田や小川、湿地などに多い。動きは活発で主としてカエルを食べるが、水にも入り、オタマジャクシや小魚なども捕食する。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体 ○実施区域外 夏季 6 箇所 6 個体、秋季 1 箇所 1 個体
6	ニホンマムシ 	【生態など】 夜行性の毒蛇で、林や藪などの林床や田畑の畔、水辺などに生息し、ネズミやカエルを主とし、ヘビ、トカゲ、小鳥、魚など小型の脊椎動物を捕食する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 4 箇所 4 個体、秋季 1 箇所 1 個体

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-31(1)　爬虫類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-31(2)　爬虫類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-31(3)　爬虫類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-31(4)　爬虫類の重要種確認位置

オ 両生類

現地調査及び聞き取り調査により確認された重要な両生類は表 5.2-75 に、現地調査での確認状況は表 5.2-76 に、確認位置は図 5.2-32(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査及び聞き取り調査の結果、2 目 5 科 5 種の重要種が確認された。

表 5.2-75　現地調査により確認された重要な両生類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準			
				早春季		春季		夏季		秋季						
				内	外	内	外	内	外	内	外		①	②	③	④
1	有尾目	ｻﾝｼｮｳｳｵ科	ﾄｳｷｮｳｻﾝｼｮｳｳｵ				○		○			○		特二	VU	CR+EN
2		イモリ科	アカハライモリ						○			○			NT	CR+EN
3	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル		○						○					要注意
4		アカガエル科	ムカシツチガエル		○		○		○		○					要注意
5		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル				○		○							要注意
計	2 目	5 科	5 種	0 種	2 種	0 種	3 種	0 種	4 種	0 種	2 種	2 種	－	1 種	2 種	5 種
				2 種		3 種		4 種		2 種						

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

表 5.2-76　重要な両生類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	トウキョウサンショウウオ 	【生態など】 丘陵地や低山地の雑木林の落ち葉や倒木の下などにひそみ、夜行性でミミズや昆虫などを捕食する。早春に水田や湧水、沢の淀みなどの止水域に雌雄が集まり、バナナ状の一対の卵塊を水中にある枯れ枝や落ち葉などに産みつける。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 7 箇所 16 個体、卵嚢 6 個、夏季 6 箇所 25 個体
2	アカハライモリ 	【生態など】 平地から丘陵地の池や沼、水田、水路等に生息し、腹面が鮮やかな赤色をしている。春から初夏にかけて、粘着性のある卵を水中の草や枯葉に産み付ける。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 3 個体、夏季 1 箇所 2 個体
3	アズマヒキガエル 	【生態など】 平地から山地までの林床に広範囲に棲息し、社寺や人家の庭にも住み着いている。早春の産卵期には、多数の個体が産卵場所に集まって集団産卵する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 早春季 3 箇所 102 個体、秋季 1 箇所 1 個体
4	ムカシツチガエル 	【生態など】 平地から低山地にかけての水田や池、河川などの水辺に生息する。水辺から離れることはなく、幼生のまま越冬し、翌年の初夏に変態・上陸する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 早春季 2 箇所 5 個体、春季 2 箇所 2 個体、 夏季 6 箇所 13 個体、秋季 4 箇所 9 個体
5	シュレーゲルアオガエル 【現地写真なし】	【生態など】 平地から山地の主として広葉樹の林に生息する緑色のカエルで、繁殖期には湿地の岸辺や水田の畔などの土中に、泡に包まれた卵塊を産み、孵化した幼生は水中に泳ぎだして成長する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 30 個体、夏季 2 箇所 3 個体

（参考文献）

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-32(1)　両生類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-32(2)　両生類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-32(3)　両生類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-32(4)　両生類の重要種確認位置

カ 昆虫類

現地調査及び聞き取り調査により確認された重要な昆虫類は表 5.2-77(1)～(2)に、現地調査での確認状況は表 5.2-78(1)～(11)に、確認位置は図 5.2-33(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査及び聞き取り調査の結果、7 目 31 科 42 種の重要種が確認された。

表 5.2-77(1)　現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準			
				春季		初夏季		夏季		秋季						
				内	外	内	外	内	外	内	外		①	②	③	④
1	トンボ目	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ		○							○				要注意
2	(蜻蛉目)	イトトンボ科	ホソミイトトンボ		○						○	○				DD
3			キイトトンボ						○							EN
4		カワトンボ科	ハグロトンボ				○		○							要注意
5		ヤンマ科	ミルンヤンマ		○				○		○					要注意
6			サラサヤンマ									○				要注意
7		サナエトンボ科	ヤマサナエ		○		○									要注意
8		エゾトンボ科	タカネトンボ									○				要注意
9		トンボ科	シオヤトンボ		○											要注意
10			ナツアカネ								○					要注意
11			マユタテアカネ				○		○		○					要注意
12			リスアカネ								○					要注意
13	バッタ目	キリギリス科	オナガササキリ								○					要注意
14	(直翅目)	ケラ科	ケラ				○		○		○					要注意
15		マツムシ科	ヒロバネカンタン						○							NT
16		バッタ科	ショウリョウバッタモドキ						○		○					要注意
17	カメムシ目	サシガメ科	アシマダラアカサシガメ								○					DD
18	(半翅目)	グンバイムシ科	ヤブガラシグンバイ		○		○									DD
19		カメムシ科	イネカメムシ								○					DD
20		アメンボ科	オオアメンボ		○		○									NT
21		ミズムシ科 (昆)	コミズムシ類				○				○					DD
22		コオイムシ科	コオイムシ								○	○			NT	EN
23	チョウ目	ミノガ科	オオミノガ				○									VU
24	(鱗翅目)	シジミチョウ科	ミドリシジミ				○									NT
25		ヤガ科	ハマオモトヨトウ						○							NT
26	ハエ目 (双翅目)	アブ科	ウシアブ						○							DD
27	コウチュウ目	ガムシ科	スジヒラタガムシ		○										NT	
28	(鞘翅目)	クワガタムシ科	ヒラタクワガタ本土亜種	○												VU
29			ミヤマクワガタ				○				○					要注意
30		タマムシ科	ウバタマムシ				○									NT

表 5.2-77(2)　現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準			
				春季		初夏季		夏季		秋季						
				内	外	内	外	内	外	内	外		①	②	③	④
31	ｺｳﾁｭｳ目	タマムシ科	タマムシ				○	○	○		○					要注意
32	(鞘翅目)	ホタル科	ヘイケボタル						○			○				NT
33		ﾂﾁﾊﾝﾐｮｳ科	マメハンミョウ								○					要注意
34		カミキリムシ科	ルリカミキリ				○									VU
35			シロスジカミキリ						○							要注意
36			ミドリカミキリ				○									NT
37			キイロトラカミキリ				○									要注意
38			トラフカミキリ				○									要注意
39	ハチ目	ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ						○						DD	
40	(膜翅目)	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ				○		○		○				DD	VU
41			モンスズメバチ						○		○				DD	
42		ミツバチ科	ナミルリモンハナバチ						○			○			DD	
計	7 目	31 科	42 種	1 種	8 種	0 種	17 種	1 種	16 種	0 種	17 種	7 種	－	－	6 種	36 種
				8 種		17 種		16 種		17 種						

注 1）種名及び配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。
注 2）表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
　　内：実施区域内　　外：実施区域外
注 3）コミズムシ類は、捕獲した個体がメスのみだったため種まで同定できていない。選定基準④において、「コミズムシ類」の名称で記載されているため、該当文献に合わせてコミズムシ類として種名を記載した。

表 5.2-78(1)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	ホソミオツネントンボ 	【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。水田や開放的な池沼に生息するが、ときには狭小な水域でみられる。6 月頃羽化し、性成熟しないまま成虫で越冬、翌年5月～6月頃に生殖活動に至る。産卵は植物の生体組織内に行われる。幼虫の成長は早く、孵化後その年の初夏には羽化に至るようである。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 2 個体
2	ホソミイトトンボ 	【生態など】 丘陵地の池や湿地に見られる。成虫越冬する種であり、西日本ではとくに珍しい種ではないが、分布北限となる関東地方での記録は散発的である。秋に羽化して越冬するものは地色が淡褐色、黒斑の発達はわるく、とくに翅胸前面正中線は細い褐色。越冬後これが地色淡青色で背部は黒色に変わり、交尾産卵する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 4 個体、秋季 3 箇所 3 個体

表 5.2-78(2)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
3	キイトトンボ 	【生態など】 県内全域から広く記録されている。ただし、県北、県西部からの記録はごく少ない。休耕田が主で、池沼や水田などからも記録されている。いずれも水生植物の多い環境良好な水域である。成虫期は 5 月～10 月で 7 月～8 月に多い。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体
4	ハグロトンボ 	【生態など】 アオハダトンボ属 3 種の中で最も下流域を分布の中心とする種類で、県内でも河川中下流域に記録が集中している。生息域は水辺に草本類の生える流水で、アオハダトンボに比べると水質汚染に耐性を持ち、生活排水などでやや汚染されている厚木市戸田より下流の相模川や中村川水系にも生息している。成虫は 5 月下旬から 11 月下旬にかけて出現する。最盛期は 7 月～8 月である。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 5 箇所 15 個体、夏季 5 箇所 15 個体
5	ミルンヤンマ 	【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。幼虫の生息域は、河川源流域～上流域で、コシボソヤンマとはかなり明瞭に棲み分ける。8 月頃を中心に羽化し、成熟成虫は 9 月から 10 月頃まで出現する。黄昏活動性が強いが、秋以降その時間帯が日中に移行する。産卵は流域の倒木、流木中などに行われる。幼虫期間は長く、県内では孵化から羽化に至るまでに 2～4 年を経ると推定される。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 3 個体
7	ヤマサナエ 	【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。河川上流域に生息し、同属のキイロサナエに比較すると上流寄り、軽流域で川トンボと同所的に生息する例が多い。4 月下旬から 5 月上旬に斉一的に羽化し、成熟成虫は 5、6 月を中心に出現する。産卵は流水面に直接打水して行われる。幼虫期間は長く、県内では孵化から羽化に至るまでに 2～4 年を経ると推定される。幼虫は汚染されていない砂泥底に、ほぼ完全に潜って生活する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、初夏季 5 箇所 5 個体

表 5.2-78(3)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
9	シオヤトンボ 	【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。平野部・低山地の休耕田・湿地・水深の浅い池沼・湿地に生息するが、同属他種と比較して生息域はより限定され、都市化にも弱いようである。4 月頃に羽化し、成熟成虫は5月～6月に出現、盛夏までに没姿する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体
10	ナツアカネ 	【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。平野部から低山地における溜め池、湿田、湿地、河川敷の水溜まりなど、広域な止水域に生息する。羽化は7月～8月を中心に行われ、その後成熟成虫は 11 月頃までみられる。交尾は水域周辺に静止して行われ、産卵は連結または単独で、水際などで打泥・挿泥するか、ごく浅い水面を打水するなどしてなされる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体
11	マユタテアカネ 	【生態など】 県内ほぼ全域に記録があるが、横浜市北部沿岸地域は分布の空白域。平野部から低山地における溜め池、湿田、湿地、河川敷の水溜まりなど、広域な止水域に生息する。羽化は 7 月～8 月を中心に行われ、その後成熟成虫は 11 月頃までみられる。交尾は水域周辺に静止して行われ、産卵は連結または単独で、水際などで打泥・挿泥するか、ごく浅い水面を打水するなどしてなされる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 2 個体、 秋季 4 箇所 12 個体
12	リスアカネ 	【生態など】 丘陵地を中心とする県内各地の止水域に分布する。主たる生息地は丘陵地などの木立に囲まれた池であるが、河川敷等の開放的な場所でみられることもある。人工的な護岸を施された池は、好まない傾向にあるようである。交尾の終了時に水域へ下降し、多くは岸辺の泥土上で連結したまま打空産卵に移行するが、その連結は長時間連続せずほぼ 5 分以内に終了、連結を解きメスは単独の産卵に移る。成虫は 7 月中旬から 11 月上旬にかけてみられる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 3 個体

表 5.2-78(4)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
13	オナガササキリ 【現地写真なし】	【生態など】 県内では平地から丘陵地にかけて分布する。チガヤなどの茂った土手など、イネ科草本からなる草地に生息し、河原や水田でも姿を見られる。「シュリッ・シュリッ・・・」とはっきりした区切り鳴きをする。年 1 化で秋に成虫が出現する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体
14	ケラ 	【生態など】 県内では低地に広く分布する。湿地に穴を掘ってすむ種で、水田付近に多く、円筒型の体系、細かい毛の密生、前足の発達など穴居に適した形態を備えている。オスはブーーーという単調な声で鳴く。雌も短い発音をするという。飛ぶことができ、灯火に飛来する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体、夏季 4 箇所 5 個体、 秋季 2 箇所 2 個体
15	ヒロバネカンタン 	【生態など】 近年では横須賀市のみで記録されている。ススキ・ヨモギ・クズなどの茂った草原に生息し、西日本の沿岸部に多い。埋立地などの荒れ地にもみられることから、外来種とする意見もあるが、市川（2004）は自然分布として推定している。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体
16	ショウリョウバッタモドキ 	【生態など】 県内では丘陵地に分布しているが、減少傾向にある。丘陵地のチガヤなどの茂る土堤に見られ、葉の裏に身を伏せるようにとまっているので見つかりにくい。飛ぶことはほとんどない。年 1 化で秋に成虫が出現する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 2 箇所 7 個体、秋季 4 箇所 7 個体

表 5.2-78(5)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
17	アシマダラアカサシガメ 	【生態など】 県内では横浜市緑区で記録がある。本種と同属のアカシマサシガメは、植物の根際や石の下、放置された廃材の下などで主にヤスデ類を食しているので、本種も同様の生態をしていると思われる。体長 11.5－14 ㎜で頭部、前胸背、小楯板は赤色である。前翅は黒色で革質部の前縁と基部、中央の横帯は赤色を呈する。脚も赤色で、各節に黒帯がある。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 4 個体
18	ヤブガラシグンバイ 	【生態など】 普通に産すると思われる種であるが、なぜか神奈川県での採集記録は少ない。ヤブガラシの葉裏に時に群生に採集されるが、ヤブガラシ群生地であっても採集できる株は少ない。秋の初めに多く採集できる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 2 個体、初夏季 4 箇所 7 個体
19	イネカメムシ 	【生態など】 イネ科植物上で見つかるが、よく似ている近縁のシロヘリカメムシに比べて非常に少なく、特に神奈川県の東部での記録は 70 年前の藤沢の記録があるのみである。名前の通り稲の害虫として知られるが、神奈川県では本種によると思われる被害は聞かない。7 月～8 月ごろ産卵し、10 月ごろ新成虫があらわれ、成虫で越冬する。年 1 化。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 2 箇所 3 個体
20	オオアメンボ 	【生態など】 県下に広く分布していた種と考えられる。国内では最大のアメンボで、他種との区別は容易である。とくに近年相模川以東での減少が激しく、川崎市麻布区のため池と三浦半島森戸川上流くらいしか最近の記録がない。水質の良い小川やため池に生息する。秋に個体が多い。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 4 個体、初夏季 2 箇所 5 個体

表 5.2-78(6)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
21	コミズムシ類 	【生態など】 県内では、各地から「コミズムシ」として多くの記録があるが、これらは複数の種を含んでいるものと考えられる。県下からは、この属としてアサヒナコミズムシ、ヒメコミズムシ、ハラグロコミズムシ、エサキコミズムシ、コミズムシの記録があるが、このような状況下であり、各種の状況も不明である。県下の水辺環境から考えて、危機的状況にある種も含まれるものと考えられる。各種、水域に生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 2 箇所 7 個体、秋季 1 箇所 10 個体
22	コオイムシ 	【生態など】 かつては県下に広く分布していたものと考えられる。水田をおもな生息地としていたと考えられ、農薬の大量使用がなされた 1960 年代に激減したものと考えられる。その後の圃場整備による乾田化も追い打ちをかけている。丘陵地の水生植物豊富な水田や水路に生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体
23	オオミノガ 	【生態など】 平地から低山地まで広く生息していた。幼虫はきわめて多食性で、各種の樹木や灌木につき、各地の公園や街路樹、庭木にそのミノを見ることが出来た。年 1 化、6 月～7 月に出現する。幼虫越冬するので、冬季に樹木の枝にぶらさがる蓑を発見しやすい。食樹は、バラ科、クワ科など多くの植物が知られている。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体
24	ミドリシジミ 【現地写真なし】	【生態など】 県内全域に分布する。幼虫は低地では主にハンノキ、丹沢などの山間部ではヤマハンノキを食樹とする。低地ではハンノキの自生する湿地や雑木林が生息地。成虫は低地で 6 月から、山地では 7 月から見られる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 2 箇所 2 個体

表 5.2-78(7)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
25	ハマオモトヨトウ 	【生態など】 県内では横須賀市、三浦市、逗子市、横浜市鶴見区で確認されている。幼虫はハマオモトの葉肉に食入し、春から秋に何回か発生が繰り返される。ただ、食草については最近スイセン、タマスダレ、ヒガンバナ、アマリリス、ナツズイセンなどが報告され、ハマオモト以外のヒガンバナ科の植物への依存により、分布を拡大していることが指摘されている。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 2 個体
26	ウシアブ 	【生態など】 県内では横須賀市、相模原市、厚木市、小田原市で確認されている。牛馬の厩舎付近を主たる生息環境とする。山間部での酪農地では少数ながら生息しているようだ。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 6 箇所 10 個体
27	スジヒラタガムシ 	【生態など】 国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。丘陵地や山間部のため池や水田、湿地に生息する。メスは腹部に卵を付着させて保護し、繁殖期も長く、生息地での個体数は多い。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 4 個体
28	ヒラタクワガタ本土亜種 	【生態など】 県内に広く分布する。雄の体長は大あごを含めて 30 ～ 60 ㎜前後で変異が大きく、雌は普通やや小さい。本州以南に分布するが温暖地に多い。夏季を中心に雑木林・屋敷林・社寺林等の広葉樹林に出現し、クヌギ・シラカシなどの樹液に見つかり、灯火にも来る。河川敷のヤナギ林などにも生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体 ○実施区域外 確認なし

表 5.2-78(8)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
29	ミヤマクワガタ 	【生態など】 県内に広く分布する。平地では雑木林のクヌギなどの樹液に成虫が集まる。電灯にも飛来する。幼虫はブナ科植物などの枯れ木の中を食べ進んでトンネルをあける。卵から成虫までの期間は 2～3 年と思われる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 3 個体
30	ウバタマムシ 	【生態など】 県内全域に分布する。アカマツ、クロマツなどに発生する。市街地ではほとんど見られなくなった。成虫は6月～8月に多い。マツの弱った木や枯れ木に産卵する。幼虫は材部の奥深くまで食べ進む。卵から成虫までの期間は 2～3 年と思われる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体
31	タマムシ 	【生態など】 県内全域に分布する。エノキ、ケヤキ、サクラ類、カキ、クワ、ニセアカシアなどをホストとする。夏にエノキやサクラの樹上を旋回する。幼虫は枯れ木の中にトンネルをあけて食べ進む。気温や枯れ木の状態で幼虫期間に長短があるが、2～3 年後の初夏に枯れ木の中で蛹化、約 2～3 週間で成虫となり、枯れ木から出現する。 【確認状況】 ○実施区域内 夏季 2 箇所 4 個体 ○実施区域外 初夏季 3 箇所 4 個体、夏季 6 箇所 6 個体、 秋季 1 箇所 1 個体
32	ヘイケボタル 	【生態など】 県内全域の低標高地に分布する。主として流れの穏やかな川や水田に生息し、幼虫は水性の巻貝を食し、幼虫で越冬する。成虫は 6 月～8 月に発生するが、個体数の多いのは、7 月中旬～8 月上旬頃である。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 4 箇所 10 個体

表 5.2-78(9)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
33	マメハンミョウ 	【生態など】 県内全域に分布する。幼虫はイナゴ、バッタなどの卵塊に寄生する。成虫は畠や草地などに多く見られ、種々の葉を食べるので、害虫とされることもある。成虫は8月～9月頃に出現し、大豆や野菜類の葉を食し、土中に産卵する。幼虫は地面を歩行し、イナゴの卵塊にたどりつく。幼虫はイナゴの卵を食して生育する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体
34	ルリカミキリ 	【生態など】 県内では津久井を除くほぼ全域に分布する。主に低地の夏緑林に生息するが、ときに住宅地でも発生する。カマツカ（ウシコロシ）やカイドウ、ヒメリンゴなどバラ科を寄主植物とする。成虫は4月～5月に出現し、寄主植物の葉を主脈を後食する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 3 個体
35	シロスジカミキリ 	【生態など】 県内では高標高地を除くほぼ全域に分布する。主に低地の夏緑林やクリ園に生息するが、ときに公園や住宅地でも発生する。クリ、クヌギ、コナラ、アカガシ、スダジイなどブナ科を好むが、クワ科、シナノキ科なども寄主植物とする。成虫は5月～8月に出現、寄主植物の枝の樹皮を後食し、夜間に交尾・産卵を行う。産卵は幹の低い位置に樹皮を、樹皮を浅く円状に直径 1～1.5 cmほど削った部分の中央に 1 卵ずつ行い、それを環状に繰り返していく習性があるので、その産卵痕からも遠目にもすぐ加害木の存在がわかる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季産卵痕 1 箇所
36	ミドリカミキリ 	【生態など】 県内ではほぼ全域に分布する。山地から低地まで夏緑林に生息する。各種広葉樹・針葉樹の枯死・衰弱した材を寄主植物とし、成虫は5月～7月に出現、各種の伐採木・薪や花に集まる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体

表 5.2-78(10)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
37	キイロトラカミキリ 【現地写真なし】	【生態など】 県内ではほぼ全域に分布する。山地にも生息するが、むしろ低地や山間地の夏緑林に多く生息する。ケヤキを寄主植物とし、成虫は5月～8月に出現、伐採・枯死木に集まる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体
38	トラフカミキリ 	【生態など】 山地を除くほぼ全域に分布する。低地の夏緑林やクワ畑に生息し、ときに公園や住宅地でも発生する。古木となったクワ類を寄主植物とし、成虫は7月～8月に出現、寄主植物の幹上を徘徊する。行動時はスズメバチ類に似るので、それをモデルとした擬態者として知られる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体
39	トサヤドリキバチ 	【生態など】 本州、四国に分布する日本固有種。成虫は6月～9月に出現し、低地では少なくとも年 2 回発生すると考えられる。ハバチ亜目に属しながら寄生性というハチ亜目への「進化の橋渡し」的な生態を持ち、甲虫類（タマムシやカミキリムシ）の幼虫に寄生するといわれるが、詳細は不明。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所1個体
40	ヤマトアシナガバチ 	【生態など】 北海道から南西諸島にかけて分布する中型のアシナガバチ。草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣する。神奈川県には古い記録は鎌倉市くらいしかなく内陸部での以前の状況がわからないが、現在では鎌倉市でも見られず、三浦半島の沿岸付近の地域でのみ見られ明らかに減少している。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季3箇所3個体、夏季4箇所4個体、 秋季1箇所1個体

表 5.2-78(11)　重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
41	モンスズメバチ 	【生態など】 北海道から九州まで広く分布する日本固有亜種。樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣し、おもにセミを狩る。他種と違い夜間にも活動する習性がある。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 3 箇所 5 個体、秋季 2 箇所 2 個体
42	ナミルリモンハナバチ 	【生態など】 本州から屋久島にかけて分布する。夏に出現し、センダングサ、マリーゴールドなどに訪花する。コシブトハナバチ類に寄生する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 2 箇所 3 個体

(参考文献)
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)
「東京都レッドデータブック 2023　－東京都の保全上重要な野生生物種（本土部）解説版－」(東京都環境局、令和 5 年)
「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」(栃木県環境森林部自然環境課、平成 31 年)
「レッドデータブック 2014　－日本の絶滅の恐れのある野生生物－ 5 昆虫類」(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室、平成 27 年)
「学研生物図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫」(株式会社学習研究社、平成 2 年)
「学研生物図鑑 昆虫Ⅲ バッタ・ハチ・セミ・トンボほか」(株式会社学習研究社、平成 2 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-33(1)　昆虫類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-33(2)　昆虫類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-33(3)　昆虫類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-33(4)　昆虫類の重要種確認位置

キ 陸産貝類、クモ類

(a) 陸産貝類

現地調査により確認された重要な陸産貝類は表 5.2-79 に、確認状況は表 5.2-80(1)～(3)に、確認位置は図 5.2-34(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査の結果、2 目 4 科 11 種の重要種が確認された。

表 5.2-79　現地調査により確認された重要な陸産貝類

No.	目名	科名	種名	確認時期						選定基準		
				春季		夏季		秋季				
				内	外	内	外	内	外	①	②	③
1	ヤマタニシ目	ヤマタニシ科	サドヤマトガイ				○					NT
2	マイマイ目	キセルガイ科	チュウゼンジギセル		○		○		○			NT
3			スルガギセル	○	○	○	○		○			NT
4		シタラ科	タカキビ	○	○	○	○		○			NT
5			レンズガイ		○		○		○			VU
6			ヒゼンキビ		○		○		○			NT
7			ヒメハリマキビ	○	○	○	○		○			NT
8			ウメムラシタラ	○	○	○	○		○			NT
9			オオウエキビ	○	○		○		○			DD
10			ヒメカサキビ		○		○					NT
11		ナンバンマイマイ科	キヌビロウドマイマイ		○		○		○			NT
計	2 目	4 科	11 種	5 種	9 種	4 種	11 種	0 種	9 種	－	－	11 種
				10 種		11 種		9 種				

注 1) 種名及び配列は分類・配列は福田 (2021) に準拠し、和名・学名は亀田 (2018) や MolluscaBase 等を参考にした。

・福田宏 (2021) Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. Molluscan Diversity 6(2): 89-180.

・亀田勇一 (2018). 陸・淡水産腹足類日本固有種目録(2018 年 3 月版).https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/endemic_list/

・MolluscaBase https://www.molluscabase.org/

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内　　外：実施区域外

表 5.2-80(1)　重要な陸産貝類の確認状況

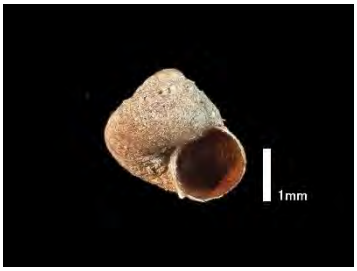
No.	種名	生態・確認状況
1	サドヤマトガイ 	【生態など】 本州（関東甲信越以西）、四国、九州に分布し、主に広葉樹林の落葉下の礫や色腐葉土間に生息する。生時は地表の泥土に紛れて発見しにくい。分布は広いが多産はせず、乾燥にも多湿のどちらにも弱く、適度な湿度が保たれた環境に見られる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体
2	チュウゼンジギセル 	【生態など】 関東山地北部から西部、千葉県、三浦半島に分布し、自然度の高い樹林の落葉下のリター層や礫間に生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 9 個体、夏季 3 箇所 9 個体、秋季 1 箇所 8 個体
3	スルガギセル 	【生態など】 千葉県、神奈川県、静岡県のそれぞれ一部に分布し、自然度の高い樹林の落葉下のリター層や倒木下などに生息する。一般に個体密度が低く、1 ヵ所で確認される個体数は少ないことが多い。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体、夏季 2 箇所 3 個体 ○実施区域外 春季 4 箇所 4 個体、夏季 2 箇所 3 個体、秋季 6 箇所 8 個体
4	タカキビ 	【生態など】 関東地方以南の本州，四国、九州まで広く分布し、自然度の高い広葉樹林や隣接する杉植林の林床の落葉層に生息するほか、アオキなどの常緑低木の葉にも登っているのが見られることもある。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 2 箇所 4 個体、夏季 1 箇所 2 個体 ○実施区域外 春季 2 箇所 3 個体、夏季 4 箇所 6 個体、秋季 4 箇所 16 個体

表 5.2-80(2)　重要な陸産貝類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	レンズガイ 	【生態など】 関東地方南部、中部地方、九州にそれぞれ分布するが、各分布域は飛び離れている。関東地方内でも限られた地域に分布し、自然度の高い樹林の林床に生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 8 個体
6	ヒゼンキビ 	【生態など】 本州（東北地方以南）から九州かけて分布し、平野部から山地までの自然林、あるいはそれに準ずる良好な森林の落葉下や岩上の蘚苔類の間などに生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、夏季 8 箇所 11 個体、秋季 2 箇所 2 個体
7	ヒメハリマキビ 	【生態など】 本州（関東北部以南）、四国、九州に分布し、主に自然度の高い森林の倒木や落葉下に生息する。一般に個体密度は低く、一回に確認される個体数は少ないことが多い。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 2 個体、夏季 1 箇所 2 個体 ○実施区域外 春季 8 箇所 16 個体、夏季 2 箇所 2 個体、 秋季 5 箇所 23 個体
8	ウメムラシタラ 	【生態など】 本州（関東地方以南）、四国、九州、南西諸島、韓国の巨文島などに分布し、主に山地から丘陵部の樹林内や林縁部の落葉下に生息する。原生林にはあまり見られず、里山的な環境に多く見られる。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 3 個体 ○実施区域外 春季 9 箇所 15 個体、夏季 13 箇所 27 個体、 秋季 18 箇所 101 個体

表 5.2-80(3)　重要な陸産貝類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
9	オオウエキビ 	【生態など】 本州（関東北部及び佐渡島以南）、四国、九州に広く分布し、里山から山地にかけての広葉樹林や杉植林までの幅広い森林環境で、落葉下やリター層に生息する。個体密度はさほど高くないが、関東地方でかなり普通に見られる。 【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 2 個体 ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 3 箇所 4 個体、秋季 2 箇所 2 個体
10	ヒメカサキビ 	【生態など】 本州（東北地方南部以南）、四国、九州、沖縄に分布し、主に低山地や丘陵地など、比較的標高の低い場所の広葉樹林の落葉下などに生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 2 個体、夏季 1 箇所 1 個体
11	キヌビロウドマイマイ 	【生態など】 関東地方西部から中部地方東端部にかけての地域のみに分布し、自然度の高い樹林の倒木下などに生息する。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 2 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 3 箇所 5 個体

（参考文献）

「千葉県の保護上重要な野生生物 －千葉県レッドデータブック－動物編 2011 年改訂版」（千葉県環境生活部、平成 23 年）

「東京都レッドデータブック 2023 －東京都の保全上重要な野生生物種（本土部）解説版－」（東京都環境局、令和 5 年）

「岡山県版レッドデータブック 2020 動物編」（岡山県環境文化部、令和 2 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-34(1) 陸産貝類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-34(2) 陸産貝類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-34(3) 陸産貝類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-34(4) 陸産貝類の重要種確認位置

(b) クモ類

現地調査により確認された重要な陸産貝類は表 5.2-81 に、確認状況は表 5.2-82 に、確認位置は図 5.2-35(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査の結果、1 目 4 科 5 種の重要種が確認された。

表 5.2-81　現地調査により確認された重要なクモ類

No.	目名	科名	種名	確認時期						選定基準			
				春季		夏季		秋季					
				内	外	内	外	内	外	①	②	③	④
1	クモ目	カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ		○		○		○			NT	
2		トタテグモ科	キノボリトタテグモ		○		○		○			NT	
3			キシノウエトタテグモ		○		○					NT	
4		コガネグモ科	コガネグモ				○						要注意
5		ホウシグモ科	ドウシグモ		○		○					DD	NT
計	1 目	4 科	5 種	0 種	4 種	0 種	5 種	0 種	2 種	－	－	4 種	2 種
				4 種		5 種		2 種					

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　(令和 6 年度版)」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。
内：実施区域内　　外：実施区域外

表 5.2-82(1)　重要なクモ類の確認状況

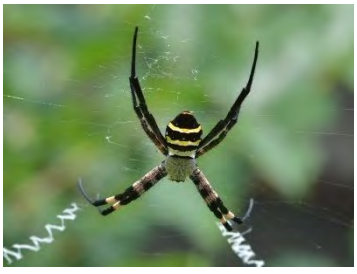
No.	種名	生態・確認状況
1	カネコトタテグモ 	【生態など】 日本固有種で、本州（青森県～兵庫県）に分布する。雌の背甲及び歩脚は暗褐色、腹部は淡紫褐色あるいはベージュ。雄はやや暗色。鋏角は大きく前方に突出する。平地から低山地の樹林に生息し、地中に、糸で裏打ちされた管状の巣を作り、開口部に両開きの戸をつける。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 18 箇所 56 個体、古巣 1 個、夏季 3 箇所 5 個体、 秋季 3 箇所 5 個体
2	キノボリトタテグモ 	【生態など】 日本固有種で、北海道を除く全国に分布するが稀産。雌雄とも背甲及び歩脚は黒色、腹部は黒褐色あるいは紫褐色。鋏角は大きい。樹幹（樹種、樹齢を選ばない）の樹皮の割れ目や苔むした岩の上などに、長さ数 cm の袋状の巣を作り、開口部に円形の扉をつける。生育に数年かかる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 1 個体、古巣 26 個、夏季 1 箇所古巣 1 個、 秋季 1 箇所古巣 1 個
3	キシノウエトタテグモ 	【生態など】 本州から九州にかけて分布する。雌雄とも背甲及び歩脚は褐色ないし黒褐色、腹部は褐色ないし紫褐色で、矢筈状の白斑のある個体がある。鋏角は大きい。地中に長さ数 cm の管状の巣を作り、開口部に円形の扉をつける。生育に数年かかる。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 7 個体、夏季 1 箇所 1 個体
4	コガネグモ 	【生態など】 本州から南西諸島にかけて広く分布する。腹部背面に黄色と黒色の太い横縞模様があり、非常に目立つ種である。平地から山地の自然環境や里山に生息し、草原や林縁の下草、河川や池沼、田畑の周囲にあるいわゆる藪の空間の低い位置に大きい円網を張る。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体

表 5.2-82(2)　重要なクモ類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	ドウシグモ 	【生態など】 北海道から南西諸島にかけて分布する。体は全体的に黒色で、光沢があり、腹部背面にはっきりとした白斑がある。狩猟性で、平地～山地の自然林、人工林の比較的樹齢の高い樹木の樹幹、樹皮下に生活する。アリ専食で、しばしばアリを咥えているところが観察される。 【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体

（参考文献）
「東京都レッドデータブック 2023 －東京都の保全上重要な野生生物種（本土部）解説版－」（東京都環境局、令和 5 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-35(1)　クモ類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-35(2)　クモ類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-35(3)　クモ類の重要種確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-35(4)　クモ類の重要種確認位置

3. 生態系

(1) 生態系

① 調査事項

ア 環境類型区分

地象、水象、植物及び動物の調査結果、及び次項の「イ　注目種・群集等の状況」の結果に基づく環境類型区分とした。

イ 注目種・群集等の状況

複数の注目種・群集等の生態、他の動植物との関係、生息・生育環境の状況とした。

② 調査方法

ア 環境類型区分

植物及び動物の調査結果、並びに「イ　注目種・群集等の状況」の調査結果に基づき、調査地域を特徴づける生態系を環境類型区分ごとに区分した。

イ 注目種・群集等の状況

植物及び動物の調査結果に基づき、上位性、典型性及び特殊性の観点から、複数の注目種・群集等を選定した。

③ 調査範囲及び地点

植物及び動物の調査範囲と同じとした（図 5.2-3(1)～(2)及び図 5.2-10(1)～(2)、図 5.2-11 参照)。

④ 調査時期、期間又は時間帯

植物及び動物と同じとした。

⑤ 調査結果

ア 環境類型区分

生態系を構成する要素の概要を表 5.2-83 に示した。これらの要素から調査地域の環境類型を区分し、調査地域全体、東京南線3,4号線、仮設ヘリポートの3区分で整理した。その結果、「山地の樹林」、「丘陵地－低地の湿地」、「丘陵地－低地の草地」の 3 タイプに区分した。環境類型区分図は図 5.2-36(1)～(2)に示すとおりである。

また、環境類型区分別の占有面積を表 5.2-84 に示した。調査地域全体の占有面積では、「Ⅰ 山地の樹林」が全体の7割程度を占めており、「Ⅱ 丘陵地－低地の湿地」が 0.20%、「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」が 22.97%であった。実施区域別の比較では、東京南線 3,4 号線の実施区域外は、「Ⅰ 山地の樹林」が 68.87%を占め、「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」が 23.83%であり、「Ⅱ 丘陵地－低地の湿地」は 0.16%とわずかであった。仮設ヘリポートの実施区域外では「Ⅰ 山地の樹林」が 83.23%と多くを占めており、「Ⅱ 丘陵地－低地の湿地」は 1.01%、「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」は 4.27%と小規模であった。

実施区域内では、東京南線 3,4 号線で「Ⅰ 山地の樹林」が 1.82ha（0.32%）、仮設ヘリポートで「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」が 0.45ha（1.55%）と最も大きい面積であったが、全体と比較すると 2%未満の小規模の面積であった。

各環境類型区分の主な構成種は表 5.2-85 に示すとおりである。なお、市街地等は環境類型区分から除外した。

表 5.2-83 生態系を構成する要素の概要

要素	概要
地象	・地形の多くは大起伏丘陵地や小起伏山地で構成されており、標高約 50m～約 210m 程度の低山から山地である。また、市街地や河川周辺は、扇状地性低地で構成されている。 ・地質は砂岩・泥岩・凝灰岩互層と砂岩・泥岩互層で構成され、一部に礫岩もみられる。
水象	・二級河川として下山川が存在しその支川として深谷川、猪俣川、大沢などが分布する。 ・そのほか普通河川として、森戸川、松越川、萩野川の支川などの水量が少ない河川が分布する。
植物	・現地調査の結果、植物相では 135 科 891 種の植物が確認された。 ・現存植生は 19 区分、植生自然度は 8 区分、潜在自然植生は 4 区分に分類された。
動物	・現地調査の結果、哺乳類 10 科 11 種、鳥類 35 科 76 種、猛禽類 3 科 8 種、爬虫類 6 科 10 種、両生類 6 科 8 種、昆虫類 225 科 1,037 種、陸産貝類 14 科 49 種、クモ類 23 科 83 種の合計 319 科 1,275 種の動物が確認された。
注目種・群落等の状況	・現地調査の結果から、上位性としてタヌキ、オオタカ、アオダイショウの計 3 種を選定した。 ・現地調査の結果から、典型性としてアカメガシワーカラスザンショウ群落、ノウサギ、ヒヨドリ、ニホンカナヘビ、ヤマアカガエルの 1 群落、計 4 種を選定した。

表 5.2-84　環境類型区分別の占有面積

No.	群落名	東京南線 3,4 号線				仮設ヘリポート				全体	
		実施区域内		実施区域外		実施区域内		実施区域外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
Ⅰ	山地の樹林	1.82	0.32	396.06	68.83	0.37	1.28	24.22	83.23	422.47	69.88
Ⅱ	丘陵地－低地の湿地	0.02	<0.01	0.90	0.16	0	－	0.30	1.01	1.21	0.20
Ⅲ	丘陵地－低地の草地	0.05	0.01	137.12	23.83	0.45	1.55	1.24	4.27	138.86	22.97
－	人工地等	0.02	<0.01	39.45	6.86	0	－	2.51	8.63	41.99	6.95
	合計	1.91	0.33	573.53	99.67	0.83	2.84	28.28	97.16	604.54	100.00

表 5.2-85　各類型区分の主な構成種

区分／分類	Ⅰ　山地の樹林	Ⅱ　丘陵地－低地の湿地	Ⅲ　丘陵地－低地の草地
植生	シイ・カシ二次林、アカメガシワ－カラスザンショウ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、オオシマザクラ植林等	水田雑草群落	アズマネザサ－ススキ群集、路傍・空地雑草群落、果樹園、ゴルフ場・芝地、畑雑草群落、緑の多い住宅地等
哺乳類	ヒミズ、アズマモグラ、ヒナコウモリ科、ノウサギ、タヌキ等	アズマモグラ、ノウサギ、タヌキ、ニホンイタチ等	アズマモグラ、ノウサギ、ニホンイタチ等
鳥類	アオバト、ホトトギス、オオタカ、フクロウ、アオゲラ、オオルリ、クロジ等	ツバメ、ハクセキレイ等	ノスリ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ムクドリ、ツグミ等
爬虫類	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、ニホンマムシ等	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ等	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ等
両生類	トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、ムカシツチガエル等	トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル等	－
昆虫類	メスアカフキバッタ、オオツノカメムシ、トホシカメムシ、ミヤマクワガタ、チャイロスズメバチ等	ギンヤンマ、アキアカネ、タンボコオロギ、ヒメアメンボ、チャバネセセリ、ヒゲナガヤチバエ、ナムハンミョウ、ハイイロゲンゴロウ等	シオカラトンボ、ヒナバッタ、チャバネセセリ、ヒトスジシマカ、ナミテントウ、クロウリハムシ等
陸産貝類	ムシオイ、ゴマガイ、ハコネギセル、スルガギセル、カサキビ、ヤマナメクジ、オオケマイマイ等	－	オカチョウジガイ、ナミコギセル、ナメクジ、オナジマイマイ、ヒダリマキマイマイ等
クモ類	カネコトタテグモ、オナガグモ、ユノハマサラグモ、ハラビロミドリオニグモ、ヤマゴミグモ等	アシナガグモ、キクヅキコモリグモ、イモコモリグモ、イオウイロハシリグモ、オスクロハエトリ、ヤハズハエトリ等	ジグモ、コガネグモ、ギンメッキゴミグモ、ハリゲコモリグモ、ハナグモ、ネコハエトリ等

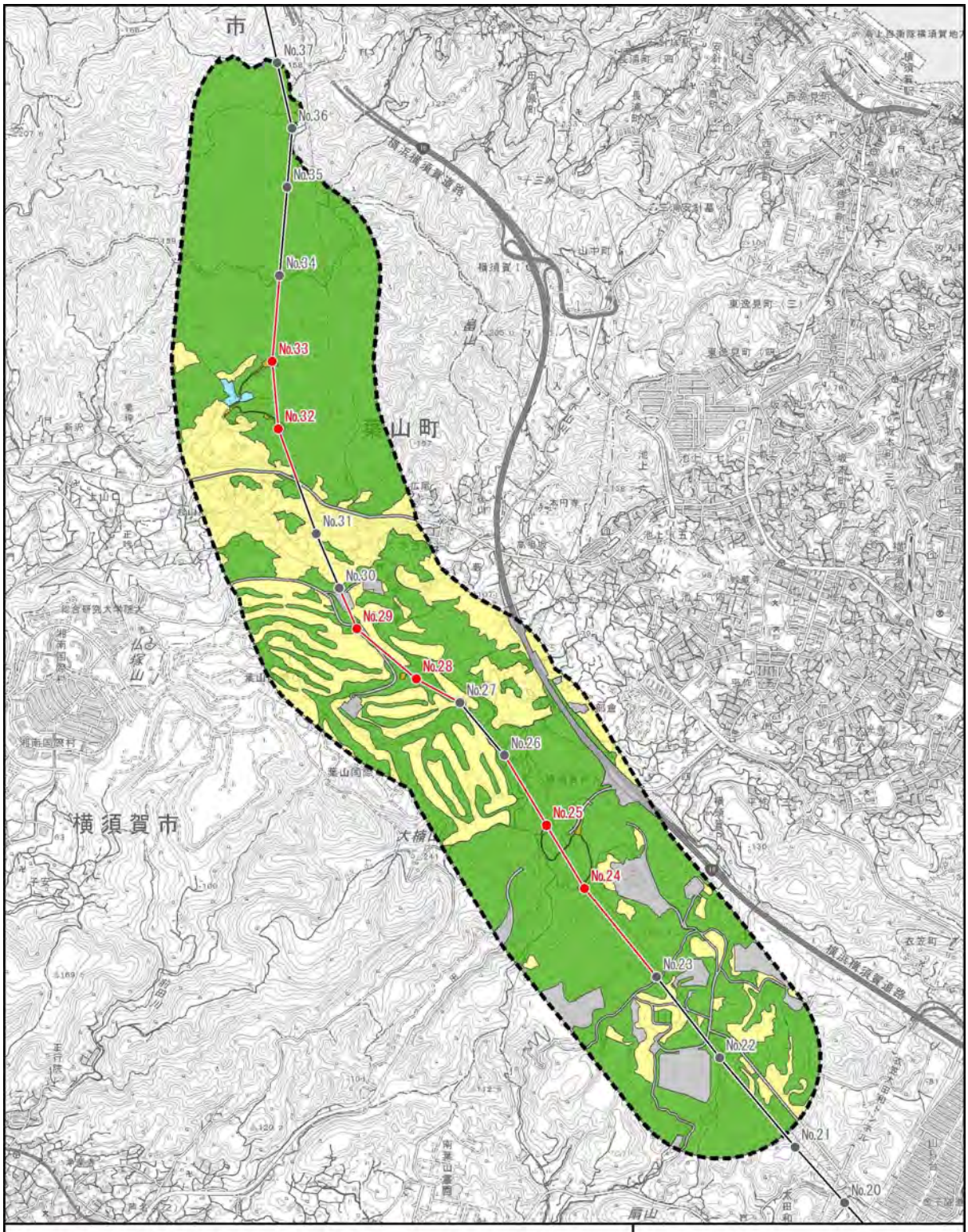


図 5.2-36(1)　環境類型区分図

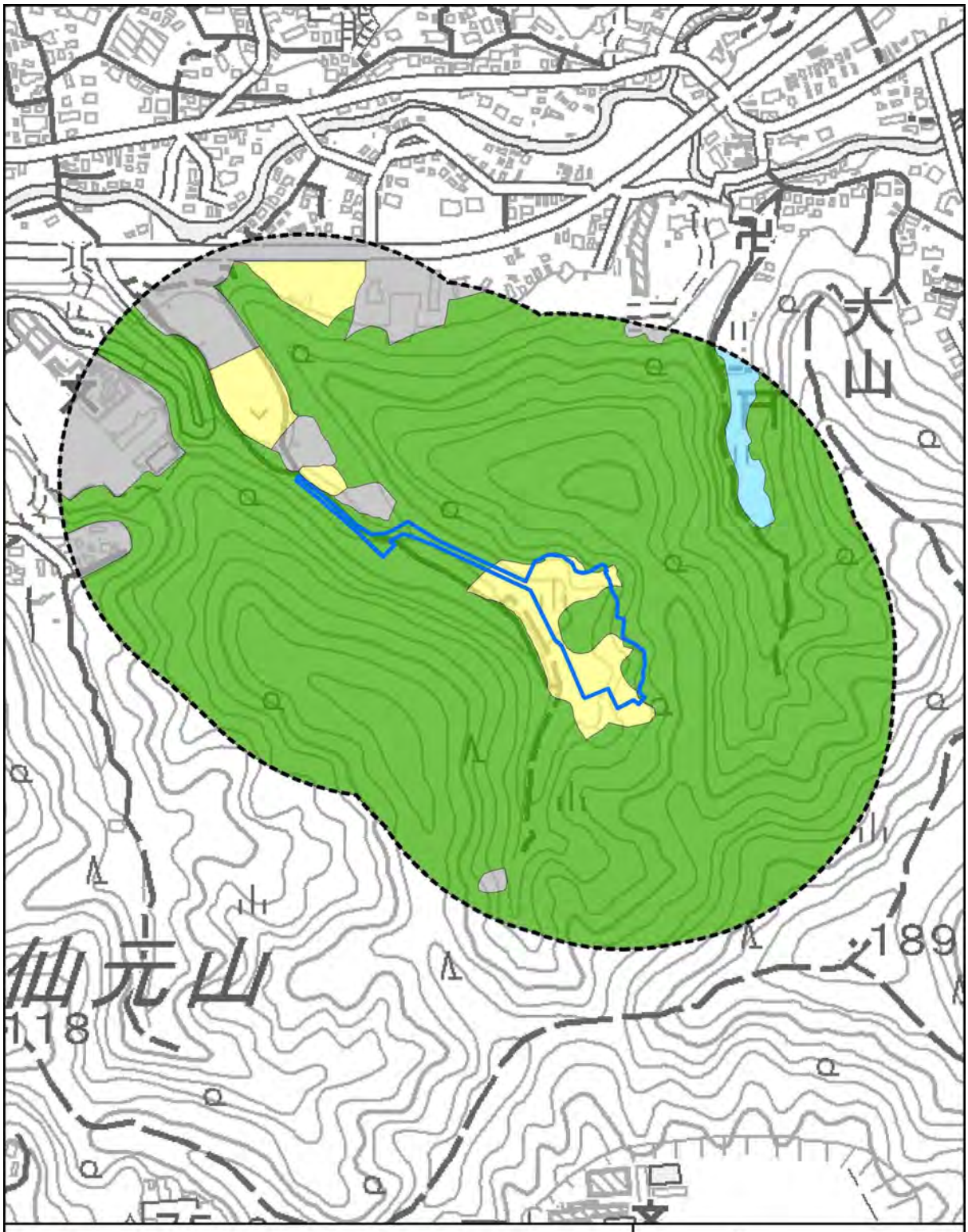


図 5.2-36(2)　環境類型区分図

イ 注目種・群集等の状況

現地調査で確認された調査地域における動植物相を基に、地域の生態系を解析する上で重要と考えられる種について、表 5.2-86 に示す上位性、典型性、特殊性の観点から該当する指標種を選定した。

表 5.2-86　上位性・典型性・特殊性における選定の観点

性質	選定の観点
上位性	生態系を形成する生物集団の中で、ある種及び群集が栄養段階の上位に位する。
典型性	ある種及び群集が、生態系の中で現存量や占有面積の多い植物種または、個体数が多い動物種であるなど、重要な役割を担い、生態系の特徴を顕著に表している。
特殊性	ある種及び群集が、占有面積は比較的小規模であっても、特殊な環境に生育・生息すること、または特殊な環境の指標となっている。

(a) 指標種の選定状況

上位性及び典型性の選定結果は表 5.2-87(1)～(2)に示し、指標種の生態等については表 5.2-88(1)～(2)に示した。なお、現地調査では、特殊性に該当する種は確認されなかった。

表 5.2-87(1)　指標種の選定結果

性質	指標種 (分類)	環境類型区分			選定の理由
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
上位性	タヌキ (哺乳類)	○	○	○	・昆虫や果実等、幅広く動植物を食する雑食性の中型哺乳類である。 ・現地調査の結果、在来種の中型哺乳類の中で確認頻度が最も高い種であったことから選定した。
	オオタカ (鳥類)	○			・主に中小型の鳥類を捕食する生態系の上位種である。 ・現地調査の結果、複数のつがいの生息が確認されたことから選定した。
	アオダイショウ (爬虫類)		○	○	・主に鳥類や小型哺乳類、両生類等を捕食するヘビ類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高いヘビ類であったことから選定した。

表 5.2-87(2)　指標種の選定結果

性質	指標種（分類）	環境類型区分			選定の理由
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
典型性	アカメガシワ－カラスザンショウ群落（植物）	○			・調査地域では、主に森戸川源流域の尾根部から斜面上部に分布する夏緑広葉樹林である。 ・植生面積の占有率は 25.74%と最も広く分布することから選定した。
	ノウサギ（哺乳類）	○	○	○	・草本性の植物や樹皮等を食する草食性の中型哺乳類である。 ・現地調査では 5 箇所のみの確認であったが、調査地域の草地や樹林に広く生息していると考えられることから選定した。
	ヒヨドリ（鳥類）	○	○	○	・果実や新芽、昆虫類等の小動物を食する鳥類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高い鳥類であったことから選定した。
	ニホンカナヘビ（爬虫類）	○	○	○	・主に昆虫やクモを捕食するトカゲ類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高いトカゲ類であったことから選定した。
	ヤマアカガエル（両生類）	○	○		・主に昆虫やクモ、ミミズ等を捕食するカエル類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高いカエル類であったことから選定した。

表 5.2-88(1)　指標種の生態

性質	指標種（分類）	項目	生態の内容
上位性	タヌキ（哺乳類）	生態など	・郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息するが、亜高山帯以上に生息することは少ない。鳥類、ノネズミ類等の小型動物、昆虫、野生果実類等を採食する。親子あるいは家族が近い距離に集まり生活、行動する。春に 3～5 頭を出産する。
		現地調査での確認状況	・冬季に 11 個体、春季に 4 個体、夏季に 4 個体、秋季に 7 個体が確認された。
	オオタカ（鳥類）	生態など	・丘陵地から山麓に留鳥として生息する。丘陵地や大規模な公園などの樹林で営巣しているが、近年では市街地の中に孤立した緑地で営巣するような例も現れている。おもに中・小型の鳥類を捕える。スギ・マツ類などの針葉樹の高木に営巣することが多く、普通 3～4 卵を産む。
		現地調査での確認状況	・猛禽類調査では、令和 4 年繁殖期に 60 回、令和 5 年繁殖期に 57 回確認、令和 6 年繁殖期に 61 回確認され、3 つがいの営巣地も特定された。 ・鳥類調査では、冬季 1 箇所 1 個体確認された。
	アオダイショウ（爬虫類）	生態など	・低地から山地の森林にかけて幅広く生息する。森林内だけでなく田畑、草地、水辺、人家とその周辺など様々な環境に適応する。幼体時は主にカエル類やトカゲ類を好み、成長するに従い鳥類や小型哺乳類を捕食する。普通 4 月～6 月に交尾し、6 月～8 月に産卵する。
		現地調査での確認状況	・春季に 3 個体、夏季に 7 個体、秋季に 1 個体が確認された。

表 5.2-88(2)　指標種の生態

性質	指標種 （分類）	項目	生態の内容
典型性	アカメガシワー カラスザンショウ 群落 （植物）	現地調査での 確認状況	・調査範囲内の急傾斜地に広範囲に分布する先駆性の落葉広葉樹林で、占有率は 25.74%と最も広く分布した。本来はオニシバリーコナラ群集であった箇所が、ナラ枯れによる影響で優占種が遷移したと考えられる。
	ノウサギ （哺乳類）	生態など	・低地から亜高山帯までの森林や草原など様々な環境に見られるが、低山から山地帯に多い。植物食性で、様々な植物の葉、芽、樹皮を採食する。春から夏まで連続して 3～5 回の出産を繰り返す。
		現地調査での 確認状況	・冬季に 1 個体、夏季に 2 個体、秋季に 3 個体が確認された。
	ヒヨドリ （鳥類）	生態など	・低地や低山帯の雑木林、マツ林、落葉広葉樹等様々なタイプの樹林に生息するが、特にヤブツバキが優占する常緑広葉樹林に多い。庭木の多い人家周辺や樹木の多い公園等でも繁殖する。夏は主に昆虫を食べ、冬は果実や種子を食べる。5 月～7 月頃に繁殖し、3～4 個産卵する。
		現地調査での 確認状況	・冬季に 108 個体、春季に 180 個体、繁殖期に 20 個体、秋季に 110 個体が確認された。
	ニホンカナヘビ （爬虫類）	生態など	・低地から低山地の林縁部や草地に生息し、人家の庭やその周辺等でも見かける。小型の昆虫類や幼虫類等の無脊椎動物を捕食する。時には熟れて落下した果実も舐める。3 月～5 月ごろに繁殖し、8 月初旬まで続く。産卵は 1 年に複数回行われ 1 度に 2～6 個産卵する。
		現地調査での 確認状況	・春季に 6 個体、夏季に 9 個体、秋季に 4 個体が確認された。
	ヤマアカガエル （両生類）	生態など	・平地から山地の林縁部やその周辺の水田、溝、湿地等に生息する。主に山地に多く標高 1900m 以上の高地にまで見かける。ミミズやナメクジ等の小型の徘徊性無脊椎動物を捕食する。繁殖期は 2 月～4 月で 1000～1900 個の卵を卵塊として産卵する。
		現地調査での 確認状況	・早春季に 259 個体、春季に 420 個体、夏季に 7 個体、秋季に 5 個体確認された。

（参考文献）
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年）
「東京都レッドデータブック 2023　－東京都の保全上重要な野生生物種（本土部）解説版－」（東京都環境局、令和 5 年）
「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（栃木県環境森林部自然環境課、平成 31 年）
「レッドデータブック 2014　－日本の絶滅の恐れのある野生生物－ 5 昆虫類」（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室、平成 27 年）
「日本の哺乳類[改訂 2 版]」（東海大学出版会、平成 20 年）
「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（株式会社保育社、平成 7 年）
「原色爬虫類・両生類検索図鑑」（株式会社北隆館、平成 23 年）
「学研生物図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫」（株式会社学習研究社、平成 2 年）
「学研生物図鑑 昆虫Ⅲ バッタ・ハチ・セミ・トンボほか」（株式会社学習研究社、平成 2 年）

(b) 生態系の構成状況

調査地域の生態系の模式図は図 5.2-37 に示すとおりである。

樹林、湿地、草地を主な生息・生育基盤としており、樹林ではアカメガシワ－カラスザンショウ群落、群落湿地では水田雑草群落、草地ではアズマネザサ－ススキ群集や畑雑草群落等が主な生産者となっていた。

一次消費者としては、それらを食する昆虫類やクモ類、貝類が位置し、二次消費者としてアカネズミ等の哺乳類、ムクドリ等の鳥類、ニホンカナヘビ等の爬虫類、ヤマアカガエル等の両生類が位置する。さらに上位消費者としてオオタカ等の猛禽類、雑食性のタヌキや肉食性のニホンイタチ等の哺乳類、アオダイショウ等の爬虫類が位置する。

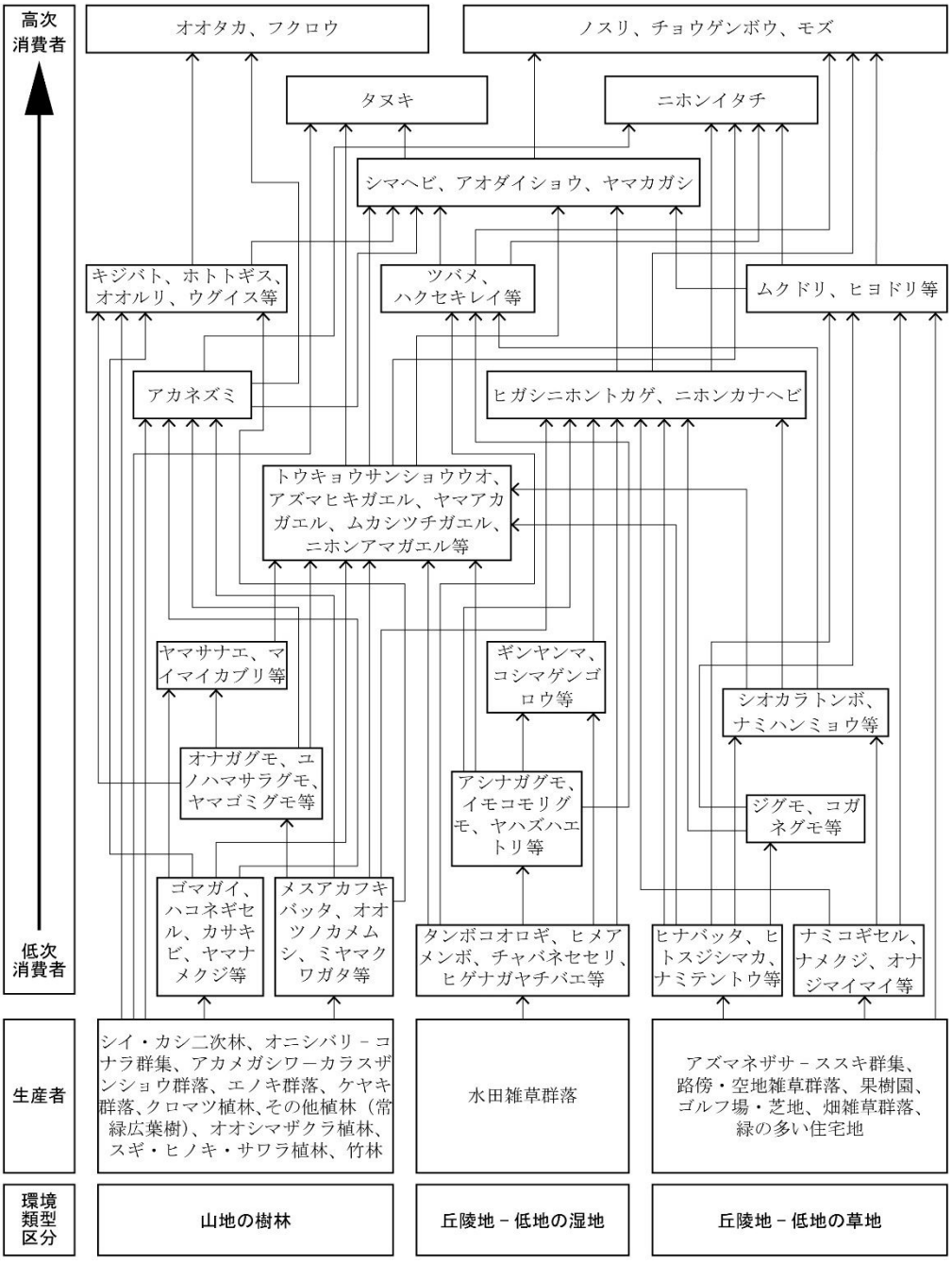


図 5.2-37　生態系の模式図

第 5 節　景観

1. 景観

(1) 主要な眺望点及び主要で身近な視点の状況

① 調査事項

実施区域周辺の主要な眺望地点（不特定多数の人々が利用する公共的な場所で、景観が眺望できる地点のうち主要なものをいう。以下同じ。）及び実施区域周辺の主要で身近な視点（不特定多数の人々または周辺の住民が利用する場所で身近な景観が望める主要で身近な視点をいう。以下同じ。）の位置、種類及び利用状況並びにそれぞれの主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の構成要素、可視領域等の状況とした。

② 調査方法

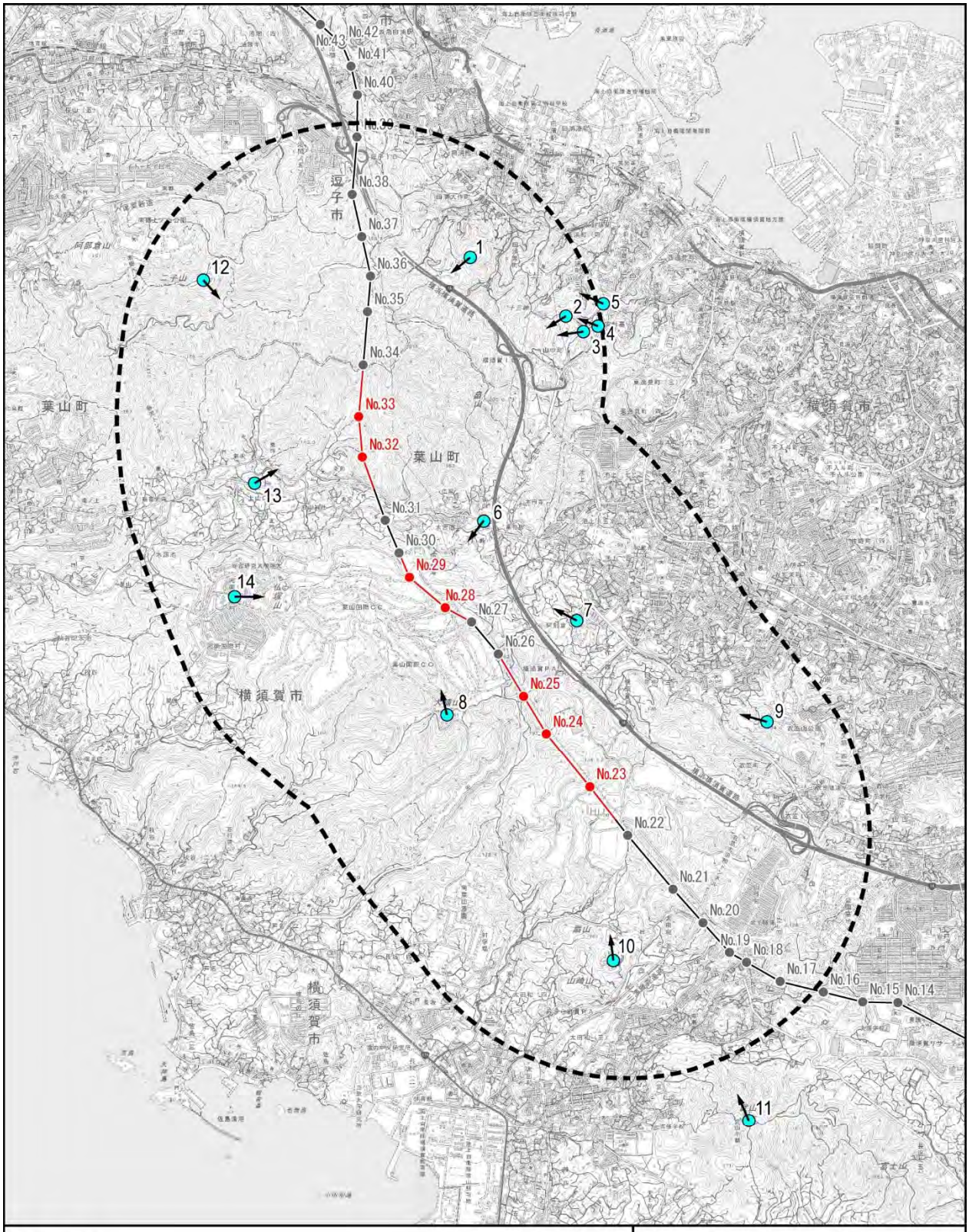
調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、図 5.2-38 に示す実施区域周辺約 2km の範囲において、事業により景観に影響を受けることが想定される 14 地点を候補とした。

④ 調査結果

調査結果は表 5.2-89(1)～(2)に示すとおりである。



凡　例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 景観の調査範囲
- 景観調査地点
- 撮影方向

N

1:50,000

0　500　1,000　1,500　2,000m

図 5.2-38　景観調査地点

表 5.2-89（1）　主要な眺望地点及び主要で身近な視点の状況の調査結果

No.	調査地点	最寄りの実施区域の鉄塔からの距離(m)	状　況
1	田浦梅の里展望塔	約 1,630	約 2,000 本以上のウメが咲きほこる梅の名所であり、「かながわ花の名所 100 選」にも選ばれている。面積は約 6,000㎡あり、三浦半島でただひとつの梅林として知られている。12 月から 3 月にはスイセンの花、5 月頃には展望台付近でツツジがみられる。
2	鹿島台	約 1,910	県立塚山公園内にある展望台。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
3	富士見台	約 2,000	県立塚山公園内にある展望台。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
4	塚山公園　見晴台	約 2,140	県立塚山公園内にある展望台。 遠くは房総半島や横浜、眼下には横須賀港、猿島などが見渡すことができる。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
5	塚山公園　展望デッキ	約 2,260	県立塚山公園内にある展望デッキ。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
6	木古庭会館	約 790	葉山町木古庭に位置する集会所。児童館との複合施設。
7	しょうぶ園　展望台	約 840	全国有数の規模を誇るしょうぶ苑は、5 月下旬～6 月下旬になると、412 品種、14 万株のハナショウブが 3.8ha の敷地に咲き競う。ハナショウブの他にも、11 品種、250 本の「フジ苑」や「しゃくなげ苑」等が設けられ 1 年を通して花を楽しむことができる。
8	大楠山	約 650	大楠山は、三浦半島の最高峰(241m)であり、この山を頂点として東西に延びる丘陵は風致地区として保護され、自然が豊かに残っている。山頂広場からは、富士山や東京湾を望むことができる。
9	衣笠山公園　展望台	約 1,560	桜樹 2,000 本を誇る県内屈指の桜の名所で、大楠山へと続くハイキングコースもあり、三浦半島の自然が楽しめる。
10	太田和つつじの丘	約 1,420	大楠山から続く丘陵地帯の一画で、4 月下旬から 5 月上旬まで、約 5 万本のツツジが斜面に咲く。
11	武山（武山不動）	約 3,020	標高は 200 メートル、武山～砲台山・三浦富士にかけてハイキングコースが整備されている。展望台からは、東京湾、相模湾を一望でき、天気がよければ富士山を見ることもできる。
12	二子山展望台	約 1,700	逗子市と葉山町の境にある山で、頂上には小さな展望台があり、東京湾方面を眺めると、横浜ランドマークタワーや房総半島、丹沢や相模湾が一望できる。

資料:「観光情報」（横須賀市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「風景と周辺情報」（県立塚山公園 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光情報」（逗子市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光」（葉山町 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「葉山町公共施設白書」（平成 26 年 3 月、葉山町）

表 5.2-89（2）　主要な眺望地点及び主要で身近な視点の状況の調査結果

No.	調査地点	最寄りの実施区域の鉄塔からの距離（m）	状　況
13	上山口会館	約 910	葉山町上山口に位置する集会所。児童館との複合施設。
14	湘南国際村ｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸ	約 1,470	葉山町と横須賀市にまたがる「湘南国際村」の高台にある公園。芝生広場が広がる展望広場からは、相模湾や気象条件が良ければ富士山を一望できる。

資料:「観光情報」（横須賀市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「風景と周辺情報」（県立塚山公園 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光情報」（逗子市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光」（葉山町 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「葉山町公共施設白書」（平成 26 年 3 月、葉山町）

(2) 景観資源の状況

① 調査事項

実施区域周辺における景観資源の状況及びこれらにより形成される地域景観の特性とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、図 5.2-38 に示す実施区域周辺約 2km の範囲とした。

④ 調査結果

景観資源の状況は表 5.2-90 に示すとおりである。実施区域周辺には、1 ヶ所の景観資源が分布している。

表 5.2-90　景観資源の状況

No.	名　称	自然景観資源名	景観資源の状況
1	鷹取山尾根道	特徴的な稜線	横須賀市との境にある海抜 139m の山。明治から昭和初期まで行われていた石切り場があり、断崖絶壁の景観が個性的。

資料:「第 3 回自然景観資源調査」（平成元年、環境庁）
「神武寺・鷹取山ハイキングコース」（逗子市観光協会 HP）

(3) 主要な眺望景観及び身近な景観の状況

① 調査事項

主要な眺望景観及び身近な景観の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、主要な眺望地点及び身近な視点から眺望できる景観の状況について、写真撮影により把握した。撮影条件は表 5.2-91 に示すとおりである。

表 5.2-91　撮影条件

項　目	撮影条件
使用カメラ	Canon EOS Kiss X5、Canon EOS 7D Mark II
使用レンズ	Canon EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS STM
焦点距離	29mm（35mm 換算）
撮影高さ	地上　1.5 m

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、図 5.2-38 に示す実施区域周辺約 2km の範囲において、事業により景観に影響を受けることが想定される 14 地点を候補とした。

④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期は春季、夏季、秋季、冬季の 4 回とし、各季の調査日は表 5.2-92 に示すとおりである。

表 5.2-92　主要な眺望点及び主要で身近な視点の状況の現地調査時期

調査時期	調査日
春　季	令和 6 年 4 月 11 日、13 日、15 日
夏　季	令和 6 年 7 月 3 日、4 日、5 日、6 日、8 月 5 日
秋　季	令和 6 年 10 月 19 日、20 日、21 日
冬　季	令和 5 年 12 月 13 日、14 日、18 日、令和 6 年 2 月 7 日、8 日、14 日

⑤ 調査結果

主要な眺望地点及び身近な視点 14 地点からの眺望の状況は、表 5.2-93(1)～(2)及び写真 5.2-1～写真 5.2-14 に示すとおりである。

これら 14 地点のうち実施区域及び建替え前の鉄塔が眺望できたのは 7 地点であった。

表 5.2-93(1)　主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の状況

No.	調査地点	実施区域からの距離(m)	景観の状況	眺望の有無	視認できる対象鉄塔
1	田浦梅の里展望塔	約 1,630	田浦梅の里展望塔から実施区域方向をみると、建替え対象ではない鉄塔（No.35）が正面に見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
2	鹿島台	約 1,910	鹿島台から実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
3	富士見台	約 2,000	富士見台から実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
4	塚山公園　見晴台	約 2,140	塚山公園見晴台から実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔と建替え対象ではない鉄塔（No.37 以降）が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
5	塚山公園　展望デッキ	約 2,260	塚山公園展望デッキから実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔と建替え対象ではない鉄塔（No.37 以降）が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
6	木古庭会館	約 790	木古庭会館から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔（No.27～30）が視認できる。このうち建替え対象鉄塔はNo.28 及びNo.29 である。	○	28、29
7	しょうぶ園　展望台	約 840	しょうぶ園展望台から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔（No.27～28）が視認できる。このうち建替え対象鉄塔はNo.28 である。	○	28
8	大楠山	約 650	大楠山山頂から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔（No.28～31）が視認できる。このうち建替え対象鉄塔はNo.28 及びNo.29 である。	○	28、29
9	衣笠山公園　展望台	約 1,560	衣笠山公園展望台から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔（No.23～33）が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No.23～25、No.28～No.29 及びNo.32～33 である。	○	23、24、25、28、29、32、33
10	太田和つつじの丘	約 1,420	太田和つつじの丘から実施区域方向をみると、樹木で遮蔽されており、建替え前の鉄塔が視認できない。	×	－
11	武山（武山不動）	約 3,020	武山の頂上付近から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔（No.18～No.24）が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No.23 及び No.24 である。	○	23、24

注)「眺望の有無」欄の記号は以下のとおりとする。
○：建替え前の鉄塔が視認できる。
×：建替え前の鉄塔が視認できない。

表 5.2-93(2)　主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の状況

No.	調査地点	実施区域からの距離(m)	景観の状況	眺望の有無	視認できる対象鉄塔
12	二子山展望台	約 1,700	二子山展望台から実施区域方向をみると、二子山山頂付近の樹木により一部遮蔽されるものの、建替え前の対象鉄塔（No.32）が視認できる。	○	32
13	上山口会館	約 910	上山口会館から実施区域方向をみると、建替え前の対象鉄塔（No.32～33）が視認できる。	○	32、33
14	湘南国際村ｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸ	約 1,470	湘南国際村ｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸから実施区域方向をみると、湘南国際村の施設、住宅地等により遮蔽されており、建替え前の鉄塔が視認できない。	×	－

注)「眺望の有無」欄の記号は以下のとおりとする。
○：建替え前の鉄塔が視認できる。
×：建替え前の鉄塔が視認できない。

春季

撮影：令和 6 年 4 月 15 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 5 日

写真 5.2-1(1)　景観撮影結果（田浦梅の里展望塔）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 7 日

写真 5.2-1(2)　景観撮影結果（田浦梅の里展望塔）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 3 日

写真 5.2-2(1)　景観撮影結果（鹿島台）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 8 日

写真 5.2-2(2)　景観撮影結果（鹿島台）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 3 日

写真 5.2-3(1)　景観撮影結果（富士見台）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 8 日

写真 5.2-3(2)　景観撮影結果（富士見台）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 3 日

写真 5.2-4(1)　景観撮影結果（塚山公園　見晴台）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 8 日

写真 5.2-4(2)　景観撮影結果（塚山公園　見晴台）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 3 日

写真 5.2-5(1)　景観撮影結果（塚山公園　展望デッキ）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 8 日

写真 5.2-5(2)　景観撮影結果（塚山公園　展望デッキ）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 4 日

写真 5.2-6(1)　景観撮影結果（木古庭会館）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 12 月 18 日

写真 5.2-6(2)　景観撮影結果（木古庭会館）

春季

撮影：令和６年４月 11 日

夏季

撮影：令和６年７月４日

写真 5.2-7(1)　景観撮影結果（しょうぶ園　展望台）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 8 日

写真 5.2-7(2)　景観撮影結果（しょうぶ園　展望台）

春季

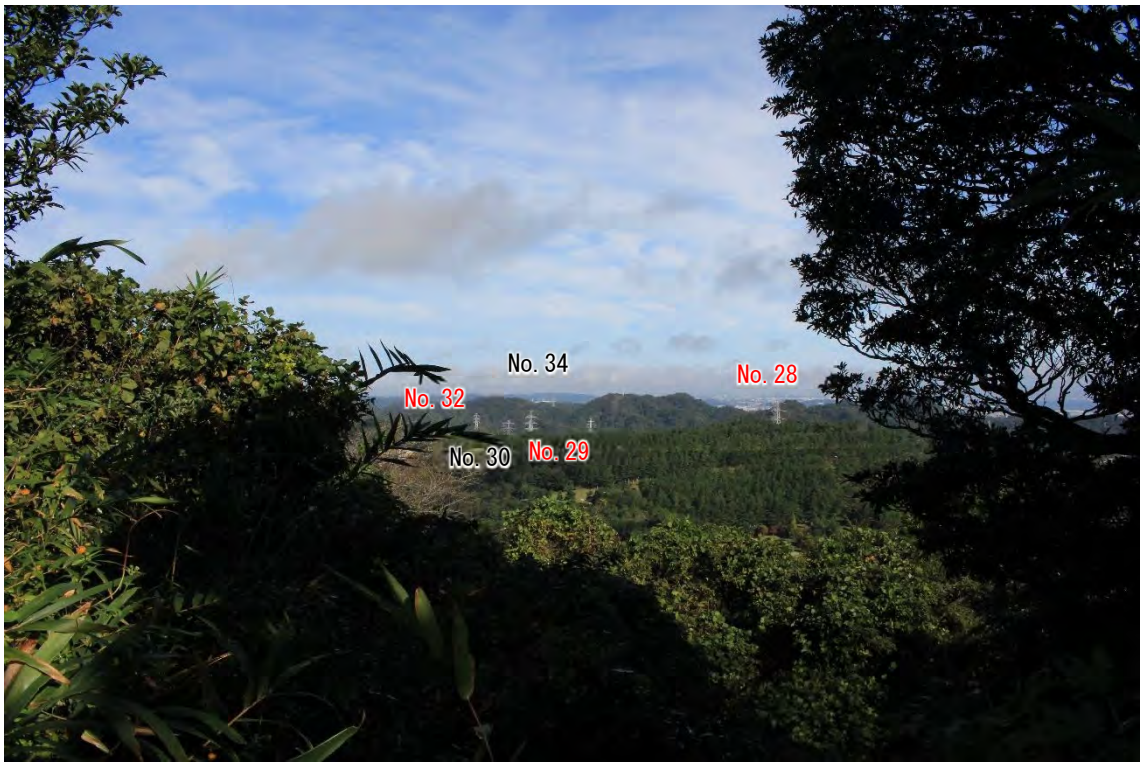
撮影：令和 6 年 4 月 13 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 6 日

写真 5.2-8(1)　景観撮影結果（大楠山）

秋季



撮影：令和 6 年 10 月 19 日

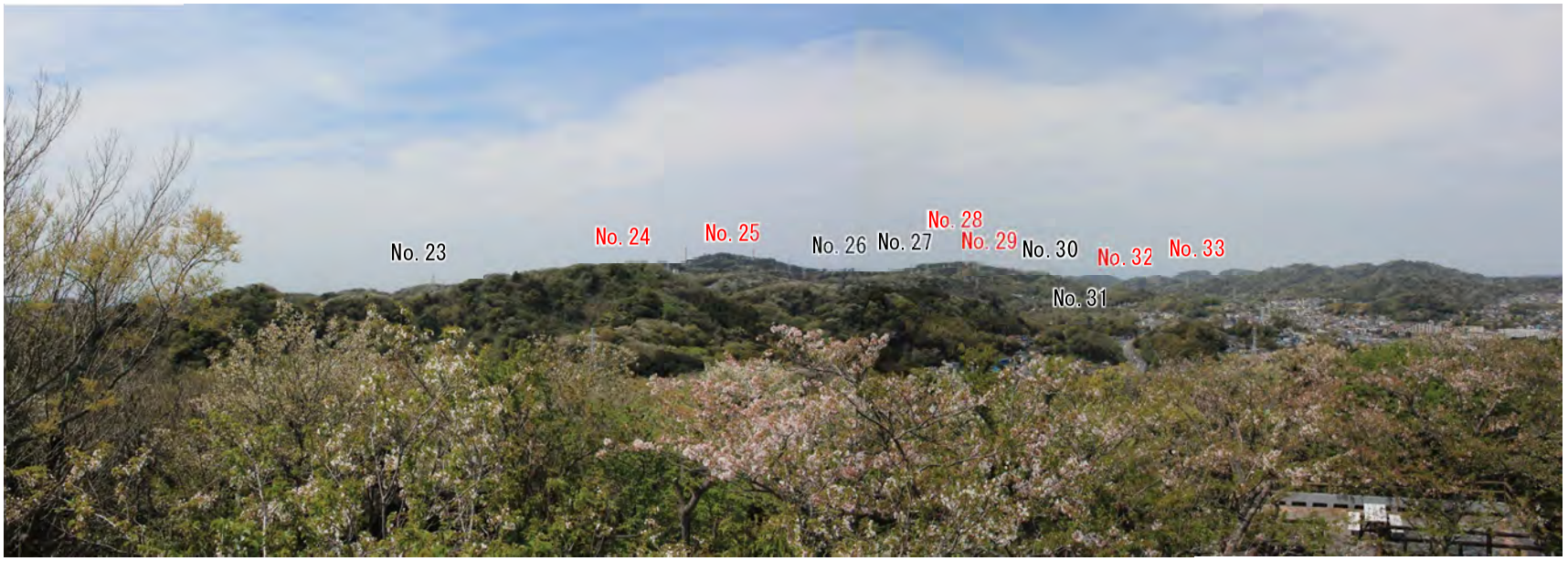
冬季

撮影：令和 6 年 2 月 8 日

写真 5.2-8(2)　景観撮影結果（大楠山）

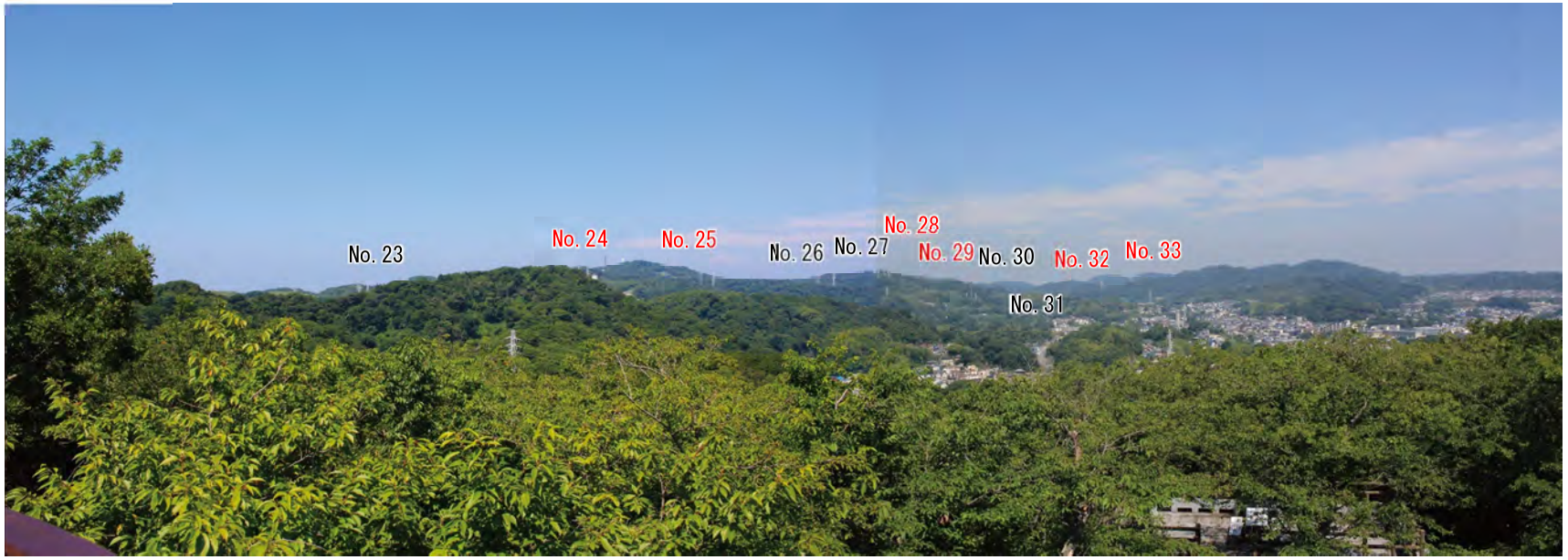
写真 5.2-9(1)　景観撮影結果（衣笠山公園　展望台）

春季



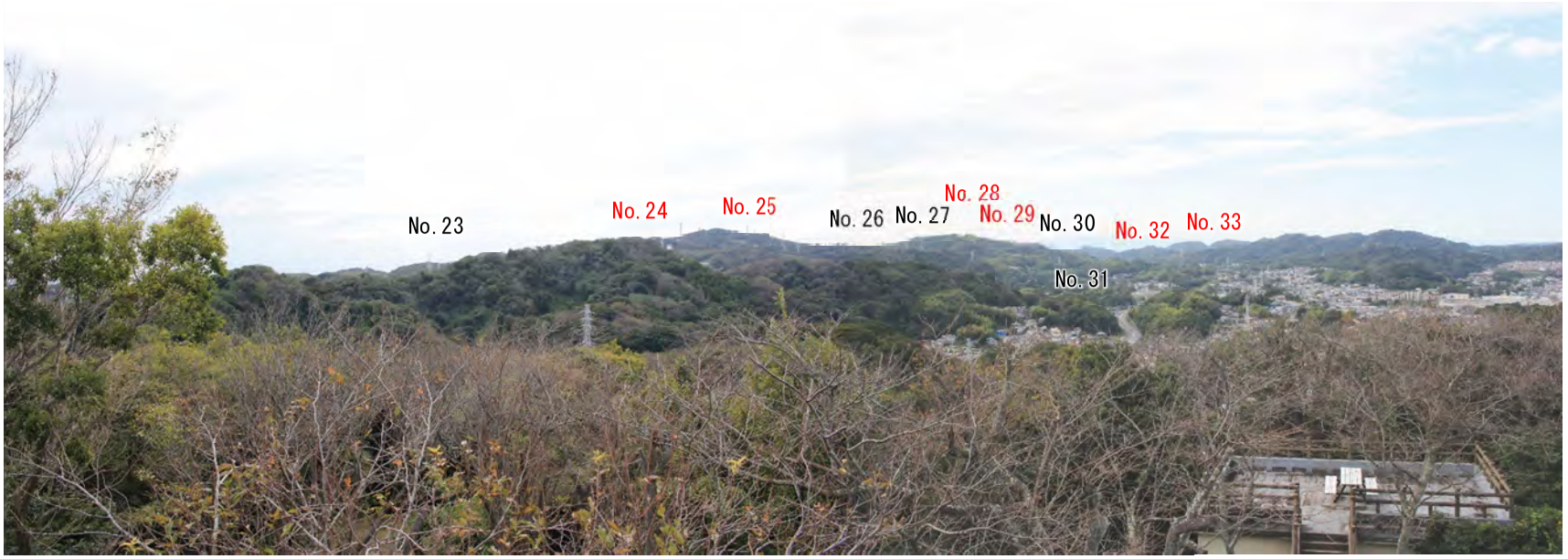
撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季



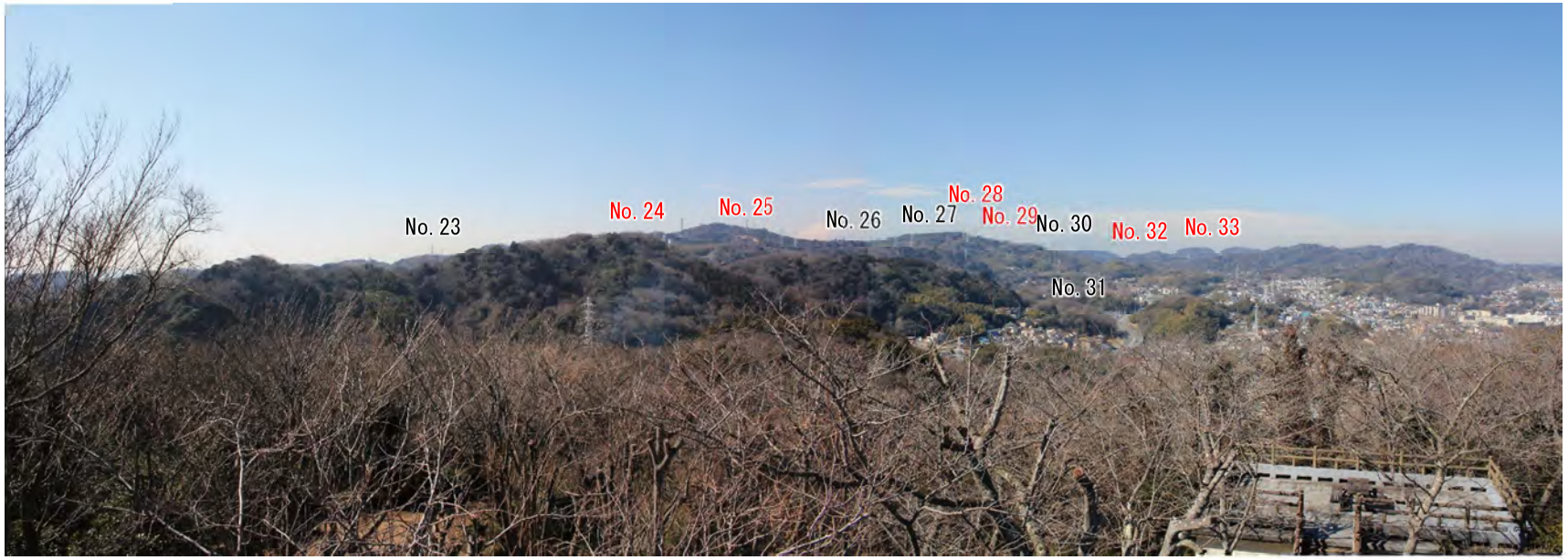
撮影：令和 6 年 7 月 4 日

秋季



撮影：令和 6 年 10 月 20 日

冬季



撮影：令和 6 年 2 月 14 日

写真 5.2-9(2)　景観撮影結果（衣笠山公園　展望台）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 3 日

写真 5.2-10(1)　景観撮影結果（太田和つつじの丘）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 5 年 12 月 14 日

写真 5.2-10(2)　景観撮影結果（太田和つつじの丘）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 15 日

夏季

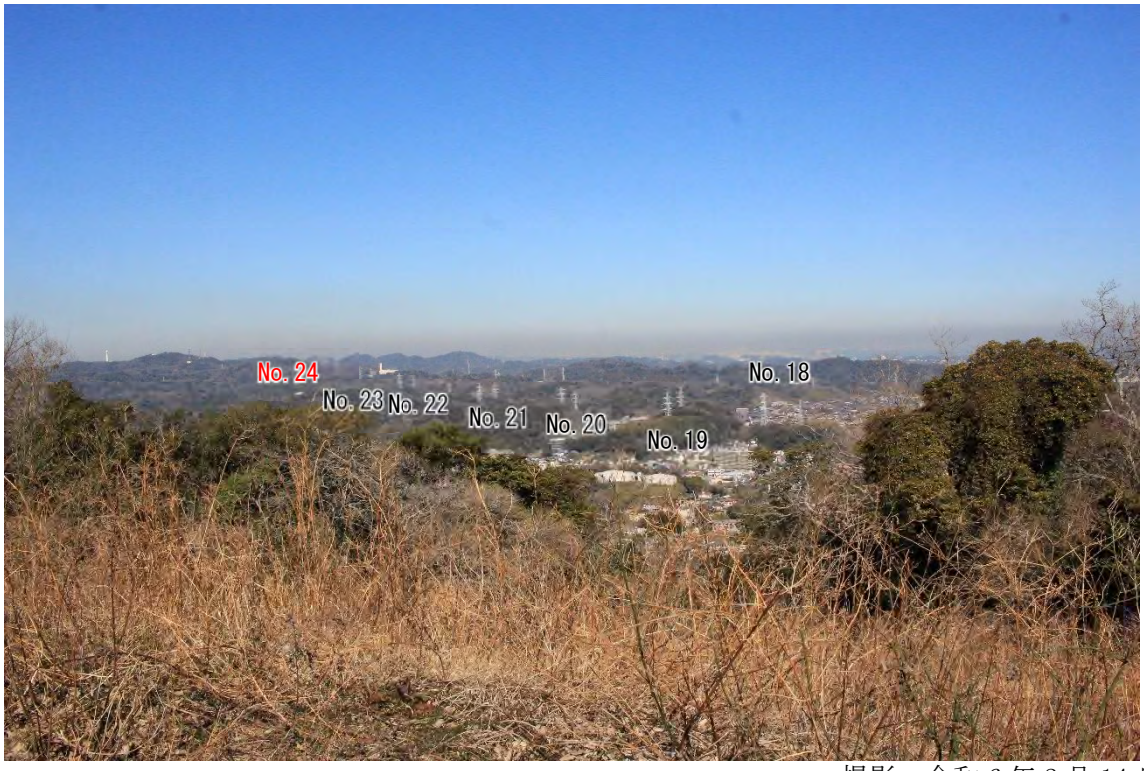
撮影：令和 6 年 4 月 15 日

写真 5.2-11(1)　景観撮影結果（武山（武山不動））

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 21 日

冬季



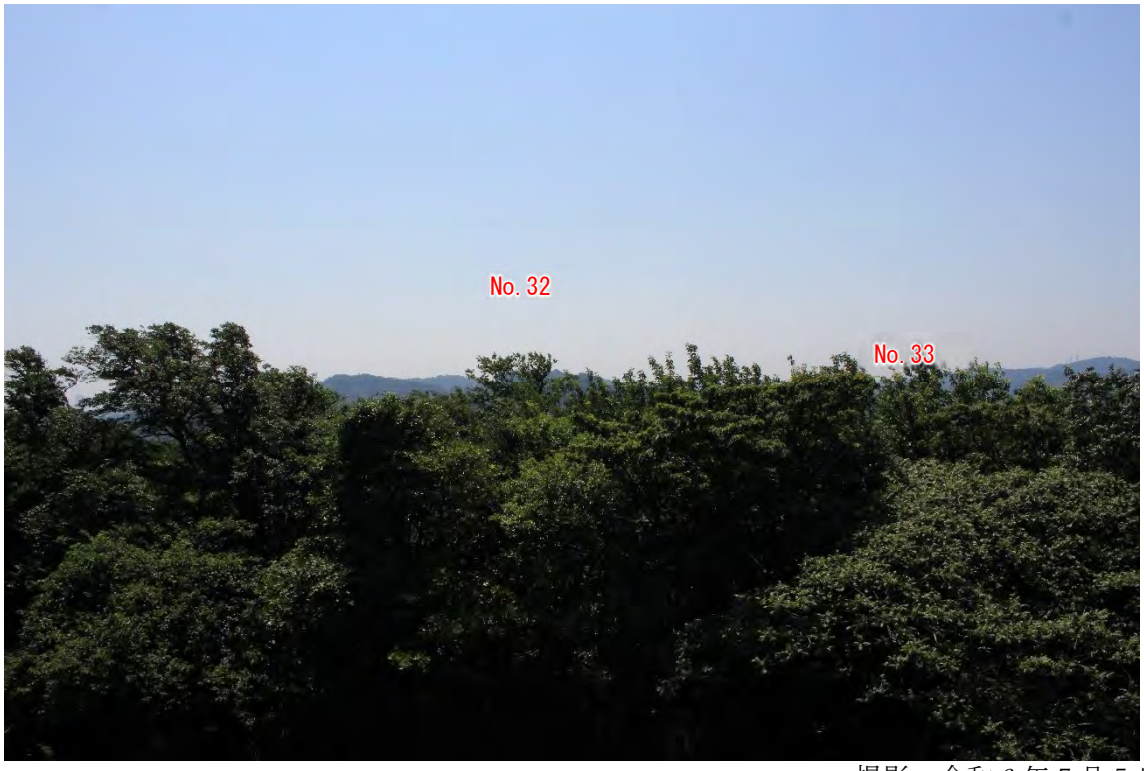
撮影：令和 6 年 2 月 14 日

写真 5.2-11(2)　景観撮影結果（武山（武山不動））

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季



撮影：令和 6 年 7 月 5 日

写真 5.2-12(1)　景観撮影結果（二子山展望台）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 20 日

冬季

撮影：令和 6 年 2 月 7 日

写真 5.2-12(2)　景観撮影結果（二子山展望台）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 11 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 4 日

写真 5.2-13(1)　景観撮影結果（上山口会館）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 5 年 12 月 18 日

写真 5.2-13(2)　景観撮影結果（上山口会館）

春季

撮影：令和 6 年 4 月 13 日

夏季

撮影：令和 6 年 7 月 6 日

写真 5.2-14(1)　景観撮影結果（湘南国際村グリーンパーク）

秋季

撮影：令和 6 年 10 月 19 日

冬季

撮影：令和 6 年 12 月 13 日

写真 5.2-14(2)　景観撮影結果（湘南国際村グリーンパーク）

第 6 節 レクリエーション資源

1. レクリエーション資源

(1) 土地利用の状況

① 調査事項

対象事業の実施区域等の土地利用の状況とした。

② 調査方法

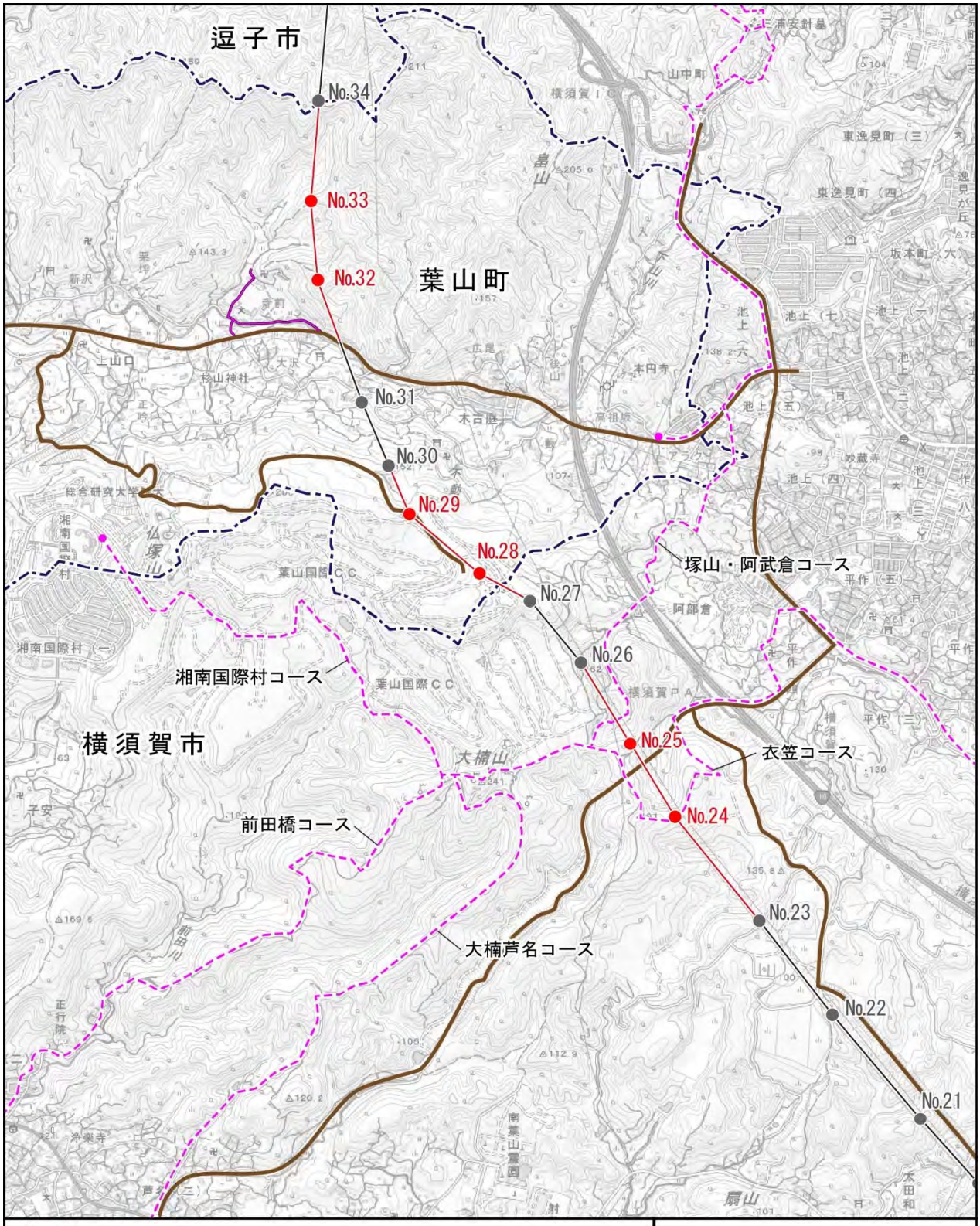
調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲は、図 5.2-39 に示す事業の実施により影響を受けることが想定されるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）とした。具体的には大楠山ハイキングコースのうち、塚山・阿武倉コース及び衣笠コースが造成等、建設機械の稼働、工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行の影響を受けると想定し、調査範囲として選定した。

④ 調査結果

神奈川県土地利用現況図（図 5.2-40 参照）によると、影響を受けることが想定されるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）は、住宅地、集合住宅用地、文教・厚生用地、公共空地等にあたる。



凡 例

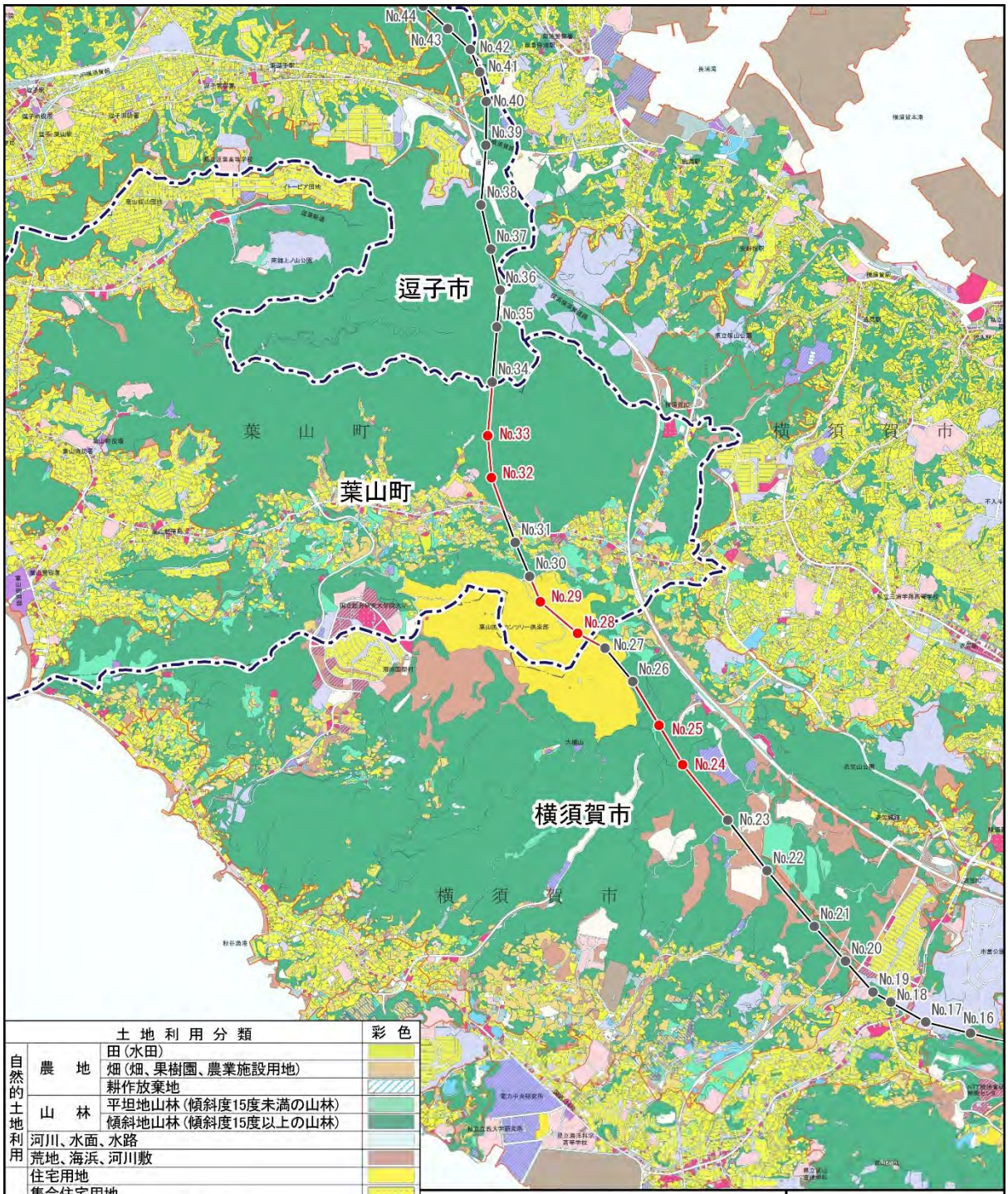
- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 大楠山ハイキングコース
- 搬入路（大型車・中型車）
- 搬入路（小型車：2t 車級）

N

1:25,000

0 250 500 750 1000m

図 5.2-39　レクリエーション資源調査地点



土地利用分類			彩色
自然的土地利用	農地	田(水田)	
		畑(畑、果樹園、農業施設用地)	
		耕作放棄地	
	山林	平坦地山林(傾斜度15度未満の山林)	
		傾斜地山林(傾斜度15度以上の山林)	
	河川、水面、水路		
	荒地、海浜、河川敷		
都市的土地利用	住宅用地		
	集合住宅用地		
	併用住宅用地	店舗併用住宅用地	
		作業所併用住宅用地	
	併用集合住宅用地		
	業務施設用地		
	商業用地		
	宿泊娯楽施設用地		
	重化学工業用地		
	軽工業用地		
	運輸施設用地		
	公共用地		
	供給処理施設用地		
	文教・厚生用地(学校、病院、図書館、公民館、寺院)		
	公共空地(都市公園、広場、緑地、運動場等)		
	民間空地(ゴルフ場、企業・大学等のグラウンド、民地の広場等)		
	その他の空地(未建築宅地、用途改変中の土地、屋外利用地)		
	防衛施設(自衛隊、米軍提供施設)		
	道路用地(駅前広場、道路(私道、農道、林道を含む))		
	鉄道用地		
農振農用地			
市街化区域と市街化調整区域の境界			

凡例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界

N

1:50,000

0 0.5 1km

図 5.2-40　土地利用現況図

資料：「神奈川県土地利用現況図（DVD）」（神奈川県県土整備局、令和 2 年）

(2) レクリエーション資源の状況

① 調査事項

対象事業の実施により影響を受けることが想定されるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）の位置、種類、規模、特性等、利用状況及び周辺の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料の収集・整理、利用者への聞き取り調査とした。

具体的には大楠山山頂にて利用者の聞き取り調査を実施した。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲は、図 5.2-39 に示す対象事業の実施により影響を受けることが想定されるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）とした。

④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期は春季、夏季、秋季の 3 回とし、各季の調査日は表 5.2-94 に示すとおりである。

表 5.2-94　レクリエーション資源の現地調査時期

調査時期	調査日
春　季	令和 6 年 4 月 13 日（土）　7 時～16 時
夏　季	令和 6 年 7 月 6 日（土）　7 時～16 時
秋　季	令和 6 年 10 月 19 日（土）　7 時～16 時

⑤ 調査結果

ア 既存資料調査

「令和 6 年神奈川県入込観光客調査報告書」（2024 年、神奈川県観光振興対策協議会）、「令和 5 年神奈川県入込観光客調査報告書」（2023 年、神奈川県観光振興対策協議会）及び「モニタリング結果報告書（令和 5 年度）」（神奈川県ホームページ、令和 7 年 11 月閲覧）によると、調査対象である大楠山ハイキングコースのかかる主要観光施設・主要観光地点・主要観光行事別の観光客数推計値は表 5.2-95 に示すとおりである。

表 5.2-95　実施区域及び周辺地域における主要観光施設等の観光客数

名　称		調査区分	観光客数(人)	資料
横須賀市	しょうぶ園	施設	71,000	①
	塚山公園	地点	41,090	③
	衣笠さくら祭（衣笠山公園）	行事	3,000	①
	大楠山	地点	27,000	②

注）表中の地点は「主要観光地点」、施設は「主要観光施設」、行事は「主要観光行事」を示す。

資料：①「令和 6 年神奈川県入込観光客調査報告書」（2025 年、神奈川県観光振興対策協議会）

②「令和 5 年神奈川県入込観光客調査報告書」（2024 年、神奈川県観光振興対策協議会）

③「モニタリング結果報告書（令和 5 年度）」（神奈川県ホームページ、令和 7 年 11 月閲覧）

イ 聞き取り調査

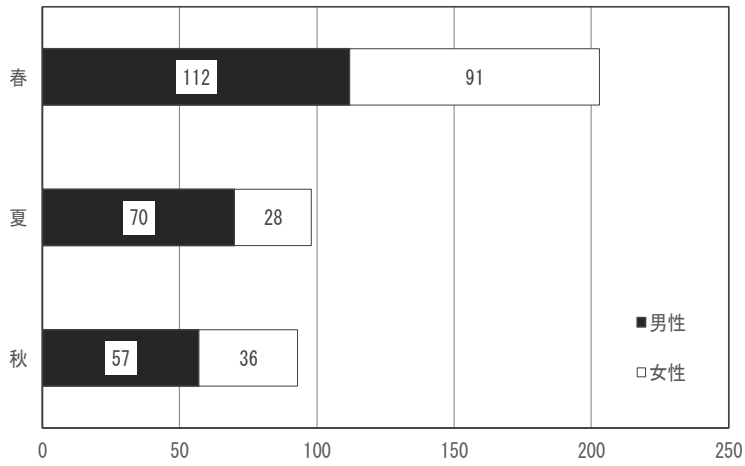
調査結果は図 5.2-41(1)～(3)に示すとおりである。調査期間中に大楠山山頂をおとずれた利用者（春季：203 名、夏季：98 名、秋季：93 名）に対し、聞き取り調査をおこなった。いずれの日も天候は晴れの日に実施し、春季調査日の平均気温は 16.1℃、夏季調査日の平均気温は 27.9℃、秋季調査日の平均気温は 24.4℃であった。

大楠山ハイキングコースの利用者の属性は、いずれの季節においても男性の方が多かった。年代は幅広い年代がハイキングコースを利用していた。横須賀市及び葉山町外からの利用者が多かった。

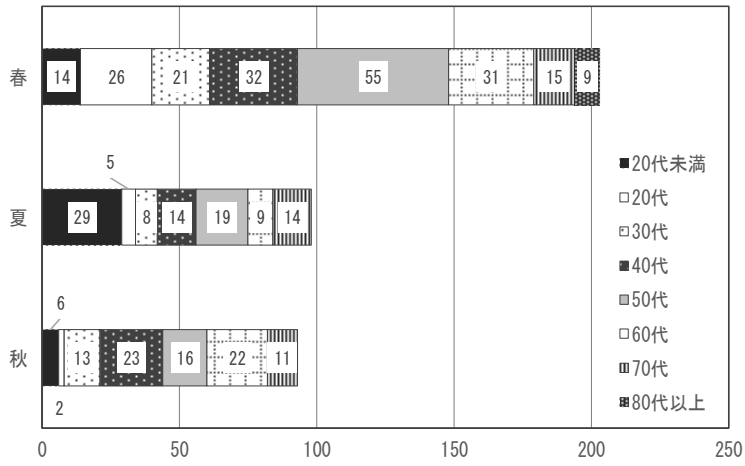
利用されるハイキングコースは大楠芦名口コース、前田橋コースが 3 季を通して多く、その他のコースについては大きく差異は無かった。対象事業により影響を受ける可能性のある塚山・阿部倉コース及び衣笠コースについては、3 季を通して全体の約 10～20%の利用割合であった。

利用頻度については、それぞれ調査を行った時期の利用が多いといった回答になった。

【性別】



【年代】



【住まい】

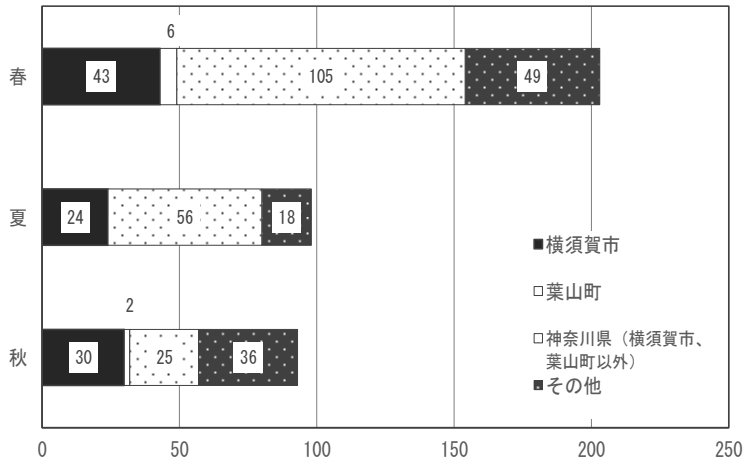
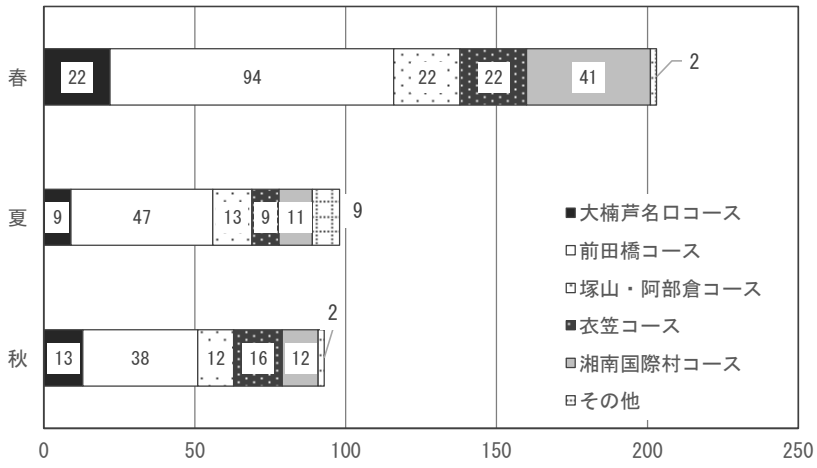


図 5.2-41(1)　聞き取り調査結果（大楠山ハイキングコースの利用者属性）

【登山ルート（ハイキングコース）】



【下山ルート（ハイキングコース）】

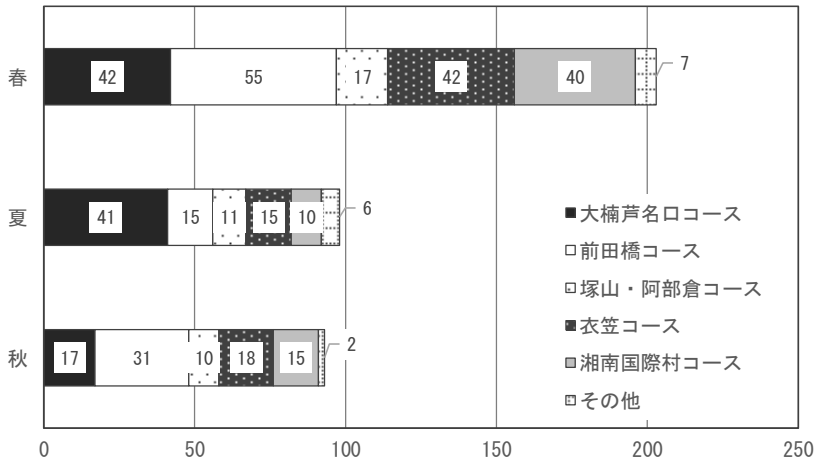


図 5.2-41(2)　聞き取り調査結果（大楠山ハイキングコースの利用）

【利用頻度】

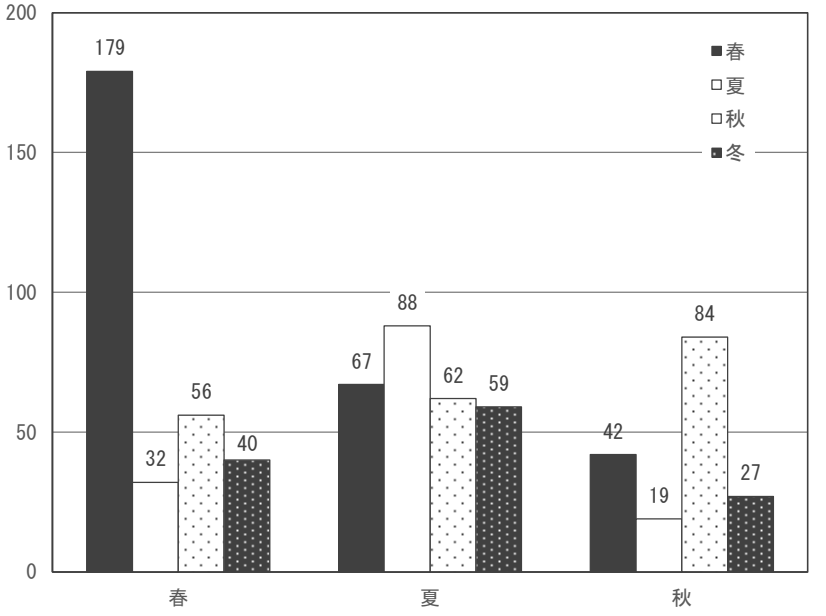


図 5.2-41(3)　聞き取り調査結果（大楠山ハイキングコースの利用頻度）

第 7 節 安全（危険物等）

1. 危険物等

対象事業においては、造成等においてアセチレンガス、資材運搬ヘリコプター飛行においてケロシン系ジェット燃料の使用を想定している。

(1) 規制基準の状況

① 調査事項

調査事項は、アセチレンガス及びケロシン系ジェット燃料における遵守すべき消防法等個別法の技術基準、市町村及び県の定める基準、指針等の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料の収集・整理とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査結果

ア 遵守すべき消防法等個別法の技術基準

アセチレンガス及びケロシン系ジェット燃料に関連する法令はアセチレンガスについては高圧ガス保安法（昭和 26 年法律第 204 号）及び消防法（昭和 23 年法律第 186 号)、ケロシン系ジェット燃料については消防法が挙げられる。

アセチレンガスは、高圧ガス保安法により高圧ガスの製造、貯蔵、販売、移動その他の取扱及び消費並びに容器の製造及び取扱が規制されている。規制内容については、表 5.2-96(1)～(3)に示すとおりである。また、アセチレンガスはその種類によって消防法第 9 条の 3 に該当し、管轄の消防署への届け出が必要となる。

ケロシン系ジェット燃料は、消防法における危険物第 4 類　第 2 石油類にあたり、指定数量（1,000L）を超えて貯蔵・取り扱う場合は消防法の規制をうける。規制内容については、表 5.2-97(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2-96(1)　アセチレンガスの高圧ガス保安法における規制内容

規制内容	
容器置場及び充塡容器等の基準	・充塡容器等は、充塡容器及び残ガス容器にそれぞれ区分して容器置場に置くこと。 ・可燃性ガス、毒性ガス、特定不活性ガス及び酸素の充塡容器等は、それぞれ区分して容器置場に置くこと。 ・容器置場には、計量器等作業に必要な物以外の物を置かないこと。 ・容器置場の周囲二メートル以内においては、火気の使用を禁じ、かつ、引火性又は発火性の物を置かないこと。ただし、容器と火気又は引火性若しくは発火性の物の間を有効に遮る措置を講じた場合は、この限りでない。 ・充塡容器等は、常に温度四十度又は低温容器にあつては、容器内のガスの常用の温度のうち最高のもの。 ・充塡容器等（内容積が五リットル以下のものを除く。）には、転落、転倒等による衝撃及びバルブの損傷を防止する措置を講じ、かつ、粗暴な取扱いをしないこと。 ・可燃性ガスの容器置場には、携帯電燈以外の燈火を携えて立ち入らないこと。
貯蔵の方法に係る技術上の基準	容器により貯蔵する場合にあつては、次に掲げる基準に適合すること。 ・可燃性ガス又は毒性ガスの充塡容器等により貯蔵する場合は、通風の良い場所ですること。 ・容器置場及び充塡容器等の基準に適合すること。 ・貯蔵は、船、車両若しくは鉄道車両に固定し、又は積載した容器によりしないこと。 ・一般複合容器又は圧縮水素運送自動車用容器であつて当該容器の刻印等において示された年月から十五年を経過したものを高圧ガスの貯蔵に使用しないこと。

資料：「高圧ガス保安法」（昭和 26 年法律第 204 号）
「一般ガス高圧ガス保安規則」（昭和 41 年通商産業省令第 53 号）

表 5.2-96(2)　アセチレンガスの高圧ガス保安法における規制内容

規制内容	
移動に係る技術上の基準等	・充塡容器等を車両に積載して移動するときは、当該車両の見やすい箇所に警戒標を掲げること。 ・充塡容器等は、その温度を常に四十度以下に保つこと。 ・一般複合容器であつて当該容器の刻印等により示された年月から十五年を経過したものを高圧ガスの移動に使用しないこと。 ・充塡容器等には、転落、転倒等による衝撃及びバルブの損傷を防止する措置を講じ、かつ、粗暴な取扱いをしないこと。 ・次に掲げるものは、同一の車両に積載して移動しないこと。 ①　充塡容器等と消防法第二条第七項に規定する危険物 ②　塩素の充塡容器等とアセチレン、アンモニア又は水素の充塡容器等 ・可燃性ガスの充塡容器等と酸素の充塡容器等とを同一の車両に積載して移動するときは、これらの充塡容器等のバルブが相互に向き合わないようにすること。 ・毒性ガスの充塡容器等には、木枠又はパッキンを施すこと。 ・可燃性ガス、特定不活性ガス、酸素又は三フッ化窒素の充塡容器等を車両に積載して移動するときは、消火設備並びに災害発生防止のための応急措置に必要な資材及び工具等を携行すること。ただし、容器の内容積が二十五リットル以下である充塡容器等のみを積載した車両であつて、当該積載容器の内容積の合計が五十リットル以下である場合にあつては、この限りでない。 ・毒性ガスの充塡容器等を車両に積載して移動するときは、当該毒性ガスの種類に応じた防毒マスク、手袋その他の保護具並びに災害発生防止のための応急措置に必要な資材、薬剤及び工具等を携行すること。 ・充塡容器等を車両に積載して移動する場合において、駐車するときは、当該充塡容器等の積み卸しを行うときを除き、第一種保安物件の近辺及び第二種保安物件が密集する地域を避けるとともに、交通量が少ない安全な場所を選び、かつ、移動監視者又は運転者は食事その他やむを得ない場合を除き、当該車両を離れないこと。ただし、容器の内容積が二十五リットル以下である充塡容器等のみを積載した車両であつて、当該積載容器の内容積の合計が五十リットル以下である場合にあつては、この限りでない。
廃棄に係る技術上の基準	・廃棄は、容器とともに行わないこと。 ・可燃性ガス又は特定不活性ガスの廃棄は、火気を取り扱う場所又は引火性若しくは発火性の物をたい積した場所及びその付近を避け、かつ、大気中に放出して廃棄するときは、通風の良い場所で少量ずつ放出すること。 ・毒性ガスを大気中に放出して廃棄するときは、危険又は損害を他に及ぼすおそれのない場所で少量ずつすること。 ・可燃性ガス、毒性ガス又は特定不活性ガスを継続かつ反復して廃棄するときは、当該ガスの滞留を検知するための措置を講じてすること。 ・廃棄した後は、バルブを閉じ、容器の転倒及びバルブの損傷を防止する措置を講ずること。 ・充塡容器等のバルブは、静かに開閉すること。 ・充塡容器等、バルブ又は配管を加熱するときは、次に掲げるいずれかの方法により行うこと。 ①　熱湿布を使用すること。 ②　温度四十度以下の温湯その他の液体を使用すること。 ③　空気調和設備を使用すること。

資料：「高圧ガス保安法」（昭和 26 年法律第 204 号）
「一般ガス高圧ガス保安規則」（昭和 41 年通商産業省令第 53 号）

表 5.2-96(3)　アセチレンガスの高圧ガス保安法における規制内容

規制内容	
危険時の措置	・充塡容器等が危険な状態になつたときは、直ちに、応急の措置を行うとともに、充塡容器等を安全な場所に移し、この作業に特に必要な作業員のほかは退避させること。 ・上記に掲げる措置を講ずることができないときは、従業者又は必要に応じ付近の住民に退避するよう警告すること。 ・充塡容器等が外傷又は火災を受けたときは、充塡されている高圧ガスを放出し、又はその充塡容器等とともに損害を他に及ぼすおそれのない水中に沈め、若しくは地中に埋めること。

資料：「高圧ガス保安法」（昭和 26 年法律第 204 号）
「一般ガス高圧ガス保安規則」（昭和 41 年通商産業省令第 53 号）

表 5.2-97(1)　危険物第 4 類 第 2 石油類の消防法における規制内容

規制内容	
貯蔵所の位置、構造及び設備の基準	・屋外貯蔵所のうち危険物を容器に収納して貯蔵し、又は取り扱うものの位置、構造及び設備の技術上の基準は、次のとおりとする。 ① 屋外貯蔵所は、湿潤でなく、かつ、排水のよい場所に設置すること。 ② 危険物を貯蔵し、又は取り扱う場所の周囲には、さく等を設けて明確に区画すること。 ③ さく等の周囲には、次の表に掲げる区分に応じそれぞれ同表に定める幅の空地を保有すること。 区分：指定数量の倍数が十以下の屋外貯蔵所 ／ 空地の幅：3m 以上 ・屋外貯蔵所には、総務省令で定めるところにより、見やすい箇所に屋外貯蔵所である旨を表示した標識及び防火に関し必要な事項を掲示した掲示板を設けること。
積載方法の技術上の基準	・運搬容器に収納して積載すること。 ・運搬容器の外部に、危険物の品名、数量等を表示して積載すること。 ・当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒し、若しくは破損しないように積載すること。 ・運搬容器は、収納口を上方に向けて積載すること。 ・日光の直射又は雨水の浸透を防ぐため有効に被覆する等当該危険物の性質に応じて総務省令で定める措置を講じて積載すること。 ・危険物は、類を異にするその他の危険物又は災害を発生させるおそれのある物品と混載しないこと。 ・危険物を収納した運搬容器を積み重ねる場合においては、総務省令で定める高さ以下で、積載すること。

資料：「消防法」（昭和 23 年法律第 186 号）
「危険物の規制に関する政令」（昭和 34 年政令第 306 号）

表 5.2-97(2)　危険物第 4 類 第 2 石油類の消防法における規制内容

規制内容	
運搬方法の技術上の基準	・危険物又は危険物を収納した運搬容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬すること。 ・指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合には、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げること。 ・指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合において、積替、休憩、故障等のため車両を一時停止させるときは、安全な場所を選び、かつ、運搬する危険物の保安に注意すること。 ・指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合には、規定する消火設備のうち当該危険物に適応するものを備えること。 ・危険物の運搬中危険物が著しくもれる等災害が発生するおそれのある場合は、災害を防止するため応急の措置を講ずるとともに、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 ・品名又は指定数量を異にする二以上の危険物を運搬する場合において、当該運搬に係るそれぞれの危険物の数量を当該危険物の指定数量で除し、その商の和が一以上となるときは、指定数量以上の危険物を運搬しているものとみなす。

資料：「消防法」（昭和 23 年法律第 186 号）
「危険物の規制に関する政令」（昭和 34 年政令第 306 号）

イ 市町村及び県の定める基準、指針等の状況

横須賀市には火災予防条例（平成 28 年横須賀市条例第 52 号)、逗子市には逗子市火災予防条例（昭和 37 年逗子市条例第 14 号)、葉山町には葉山町火災予防条例（昭和 37 年葉山町条例第 8 号）が制定されており、指定数量未満の危険物の貯蔵及び取扱いの技術上の基準等が定められている。本事業において使用するケロシン系ジェット燃料は、消防法における危険物第 4 類　第 2 石油類にあたり、指定数量（1,000L）を超えることが想定されるため、各条例の基準等にはあたらない。

(2) 類似施設の状況

① 調査事項

同様の工事の実施時の事故、トラブルの状況等類似事例の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料の収集・整理とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、全国とした。

④ 調査結果

神奈川県内で発生した高圧ガス事故の報告件数は表 5.2-98 に、神奈川県内で発生した危険物災害の発生件数は表 5.2-99 に示すとおりである。

また、航空事故の統計（運輸安全委員会ホームページ、令和 7 年 9 月閲覧）によると 2015 年～2024 年におけるヘリコプターの事故は 11 件であり、そのうち燃料や保管庫に関連する事故はない。

表 5.2-98　高圧ガス事故の発生状況

単位：(件)

区分	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
高圧ガス事故 （うち喪失、盗難を除く）	70 (69)	92 (91)	105 (104)	105 (103)	109 (105)

資料：「工業保安関係事故のページ　事故の発生状況 2025 年 2 月 14 日現在」
（神奈川県ホームページ、令和 7 年 9 月閲覧）

表 5.2-99　危険物災害の発生件数

危険物規制対象の区分	発生件数（件）	
	火災等	事故
製造所	5	9
屋外タンク貯蔵所	1	13
屋内タンク貯蔵所	－	－
移動タンク貯蔵所	－	2
地下タンク貯蔵所	－	1
給油取扱所	2	11
一般取扱所	19	15
移送取扱所	－	2
運搬	－	1
分類無し	－	－
その他		－
計	27	54

資料：「令和 5 年版消防統計」（令和 5 年 4 月現在、神奈川県くらし安全防災局防災部消防保安課）

(3) 土地利用の状況

① 調査事項

対象事業の実施区域等の学校、病院、住宅等の保安物件の分布の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料の収集・整理とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査結果

実施区域及び周辺地域の保安物件の分布の状況は「別添 3-2 第 1 章第 7 節環境保全に留意を要する施設」(p. 3-2-19) に示すとおりである。

(4) 気象の状況

① 調査事項

対象事業の周辺地域において危険物等の漏洩を想定した場合の拡散に影響を及ぼす風向及び風速の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料の収集・整理とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査結果

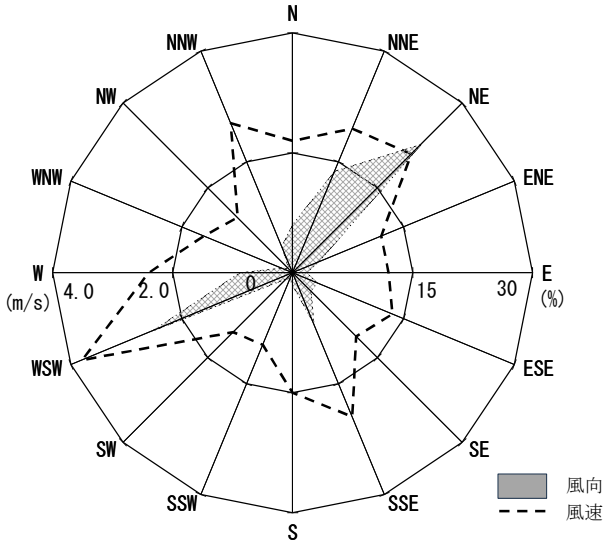
最寄りの気象官署である横浜地方気象台（横浜市中区山手町 99）における観測結果は、表 5.2-100 に示すとおりである。また、西行政センター測定局、池上コミュニティセンター測定局における年間風配図は、図 5.2-42 に示すとおりである。

表 5.2-100　横浜地方気象台における風向及び風速の状況

年	平均風速（m/s）	最多風向
令和 2 年	3.6	北
令和 3 年	3.5	北
令和 4 年	3.4	北
令和 5 年	3.6	北
令和 6 年	3.5	北

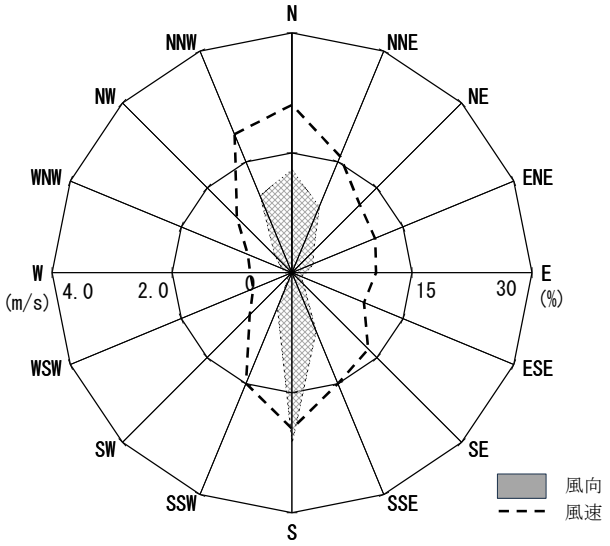
注 1)最多風向の下線は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。
資料：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ、令和 7 年 9 月閲覧）

西行政センター測定局



静穏：3.8%　平均風速：2.6 m/s　データ数：8780

池上コミュニティセンター測定局



静穏：15.6%　平均風速：1.9 m/s　データ数：8783

資料：「大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境展望台ホームページ、令和 7 年 9 月閲覧）

図 5.2-42　一般環境大気測定局における年間風配図（令和 5 年度）

(5) 地形及び工作物の状況

① 調査事項

対象事業の周辺地域において危険物等の漏洩を想定した場合の拡散に影響を及ぼす地形及び工作物の位置、規模等の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、既存資料の収集・整理とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

④ 調査結果

実施区域及び周辺地域の地形分類図は、「別添 3-2 第 2 章第 3 節地象」（p.3-2-82）に示すとおりである。

実施区域のほとんどは大起伏丘陵地または小起伏山地に位置している。また、周辺地域には危険物等の漏洩を想定した場合の拡散に影響を及ぼすような建築物や工作物はない。

別添 5-2-2　予測評価

第 1 章　予測評価 ····· 5-2-284

第 1 節　騒音・低周波音 ····· 5-2-284

1. 騒音（建設機械の稼働に伴う騒音） ····· 5-2-284

2. 騒音（工事用車両の走行に伴う騒音） ····· 5-2-290

3. 騒音（資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音） ····· 5-2-296

4. 低周波音（資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音） ····· 5-2-302

第 2 節　振動 ····· 5-2-308

1. 振動（建設機械の稼働に伴う振動） ····· 5-2-308

2. 振動（工事用車両の走行に伴う振動） ····· 5-2-312

第 3 節　廃棄物・発生土 ····· 5-2-318

1. 廃棄物 ····· 5-2-318

2. 発生土 ····· 5-2-321

第 4 節　植物・動物・生態系 ····· 5-2-323

1. 植物 ····· 5-2-323

2. 動物 ····· 5-2-332

3. 生態系 ····· 5-2-380

第 5 節　景観 ····· 5-2-392

1. 景観 ····· 5-2-392

第 6 節　レクリエーション資源 ····· 5-2-404

1.　レクリエーション資源 ····· 5-2-404

第 7 節　安全 ····· 5-2-408

1. 危険物等 ····· 5-2-408

第 1 章　予測評価

第 1 節　騒音・低周波音

1. 騒音（建設機械の稼働に伴う騒音）

(1) 予測事項

建設機械の稼働に伴う騒音レベルとした。

(2) 予測方法

① 予測手順

予測手順は、図 5.2-43 に示すとおりである。

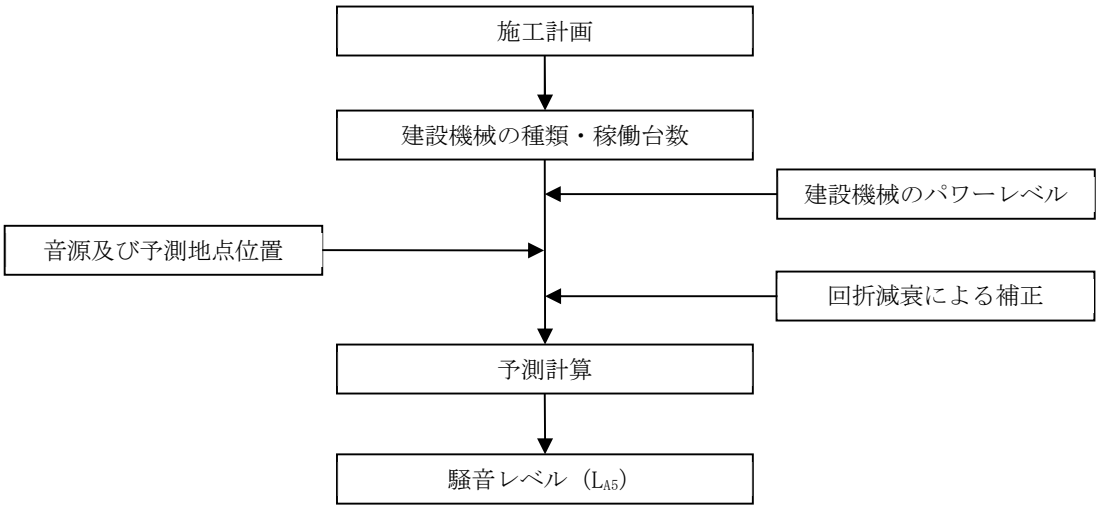


図 5.2-43　建設機械の稼働に伴う騒音の予測手順

② 予測式

予測式は、点音源の伝播理論式を用いた。

$$L_i = L_w - 8 - 20log_{10}r - R$$

L_i ：予測地点における音源（i）ごとの騒音レベル（dB）
L_w ：音源のパワーレベル（dB）
r ：音源（i）から予測地点までの距離（m）

また、予測地点における騒音レベルは、以下に示す複数音源による騒音レベルの合成式より算出した。

$$L = 10\log_{10}\left(\sum_{i=1}^{n} 10^{\frac{L_i}{10}}\right)$$

L ：予測地点における合成騒音レベル（dB）
L_i ：予測地点における音源ごとの騒音レベル（dB）
n ：音源の数

③ 予測条件

ア 建設機械の種類・稼働台数・パワーレベル

予測対象時期における建設機械の種類・稼働台数・パワーレベルは、表 5.2-101 に示すとおりである。

表 5.2-101　建設機械の種類・稼働台数・パワーレベル

工種	種　類	規　格	稼働台数（台）	パワーレベル（dB）	資　料
基礎	ジブクレーン	36tm	2	102	①
	カニクレーン	2.9t	2	102	①
	バックホウ	0.25 ㎥	2	102	①
	発電機	機関出力　60kW	1	112	①
	発電機	機関出力　25kW	1	112	①
	空気圧縮機	機関出力　84kW	1	113	①
	ユニック車	2t	1	100	②
	ダンプカー	2t	1	89	①
組立・電線移線	ジブクレーン	36tm	2	102	①
	カニクレーン	2.9t	2	102	①
	クライミングクレーン	20tm	1	102	①
	発電機	機関出力　60kW	1	112	①
	発電機	機関出力　25kW	1	112	①

注1）バックホウ、発電機、空気圧縮機は低騒音型とした。
注2）ジブクレーンは、電動機を動力源とするため、騒音が問題となることはほとんどないが、安全側に予測するため、クローラークレーン（低騒音型）のデータを用いた。
注3）カニクレーンは、クローラークレーン（低騒音型）のデータを用いた。
資料：①「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック　第３版」（平成 13 年２月、（社）日本建設機械化協会）
②「建設工事騒音の予測モデル　“ASJ CN-Model 2007”」（2008 年４月、日本音響学会誌 64 巻４号）

イ 建設機械の配置

建設機械の配置は、図 5.2-44 に示すとおりである。

また、予測にあたっては、実施区域周辺への影響が大きくなる場合を想定し、すべての建設機械が同時に稼働していることとした。

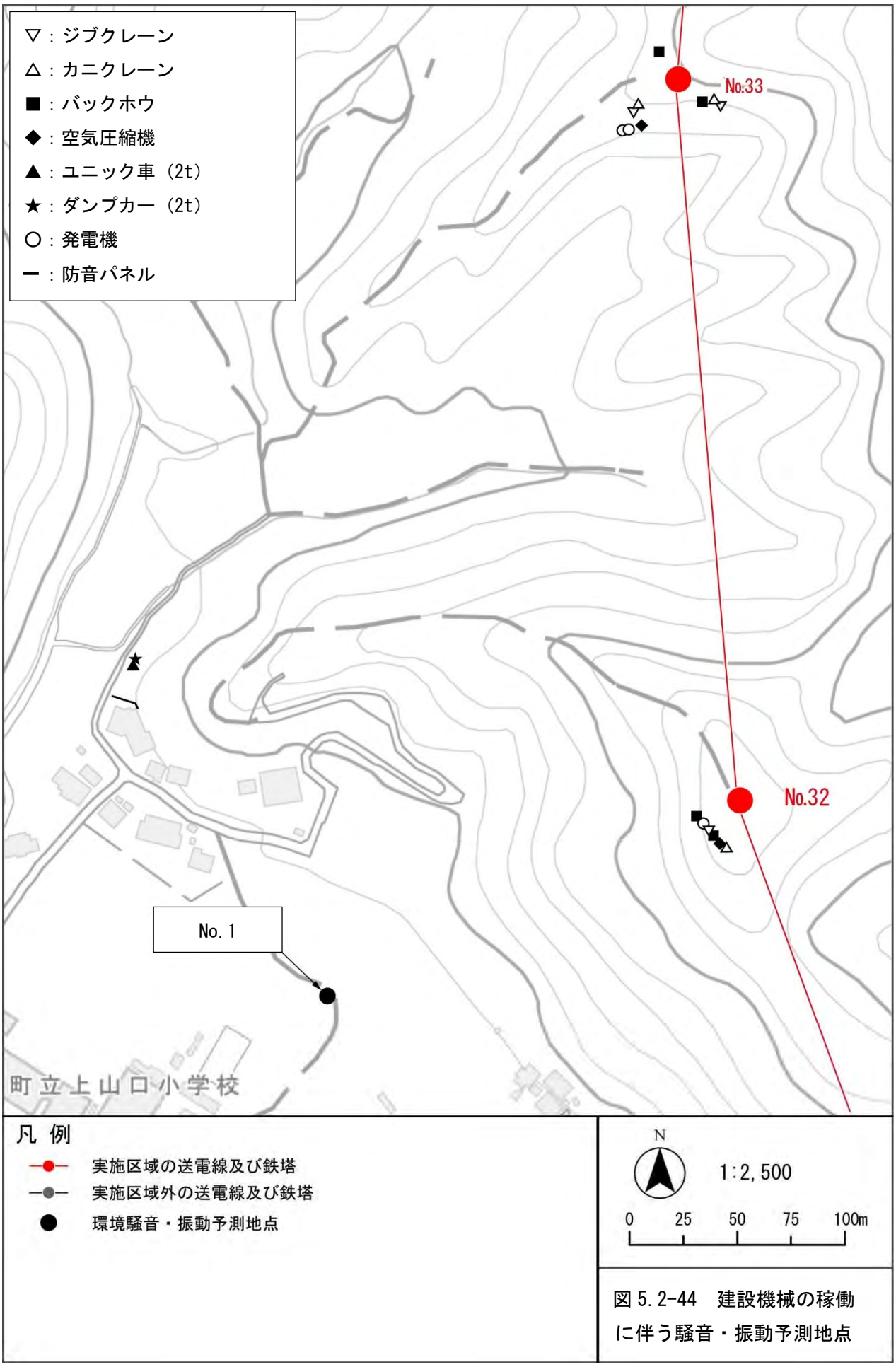


図 5.2-44　建設機械の稼働に伴う騒音・振動予測地点

(3) 予測地域及び地点

予測地域は「上山口小学校」に近接する鉄塔 No.32 及び No.33 の周辺地域とし、予測地点は、上山口小学校とした（図 5.2-44 参照)。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象時期は、建設機械の稼働による影響が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

建設機械の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、表 5.2-102 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う将来予測騒音レベルは、62dB である。

表 5.2-102　建設機械の稼働に伴う騒音の予測結果

予測地点	騒音レベル（L_{A5}） (dB)	規制基準 (dB)
No.1	62	85

(6) 評価

① 評価手法

ア 建設機械の稼働

(a) 建設機械の稼働に伴う騒音レベル

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

建設機械の稼働に伴う騒音の影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

表 5.2-103 に示す「騒音規制法」（昭和 43 年法律第 98 号）に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」と予測結果との比較を行い、整合が図られているかを明らかにした。

表 5.2-103　建設機械の稼働に伴う騒音係る整合を図るべき基準

項　目	整合を図るべき基準等
騒　音	特定建設作業の騒音が、特定建設作業の場所の敷地の境界線において 85dB を超える大きさのものでないこと。 「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年、厚生省・建設省告示第１号）

② 評価結果

ア 建設機械の稼働

(a) 建設機械の稼働に伴う騒音

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

建設機械の稼働に伴う騒音レベルを低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

・工事時間はゴルフ場に立地する鉄塔（No.28、No.29）の周辺を除き 9 時から 17 時とする。

・ゴルフ場に立地する鉄塔（No.28、No.29）は、来場者の車両通行及び駐車に支障を与えることを回避するため、資機材の搬入を 17 時から 22 時の間で行う。

・建設機械は日々点検整備を行う。

・工事用車両及び建設機械のアイドリングストップの遵守を徹底する。

・施工方法や工程を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。

・最新規格の低騒音・低振動型建設機械を採用するよう努める。

・工事用地周辺に住居が存在する鉄塔 No.32 及び No.33 共用の資機材積替え用地(モノレール基地)は防音パネルを設置する。

以上の対策を講じることから、建設機械の稼働に伴う騒音レベルは実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

建設機械の稼働に伴う騒音の評価結果は、表 5.2-104 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う騒音の予測結果は、規制基準（整合を図るべき基準等）に適合すると予測する。

以上のことから、整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていると評価する。

表 5.2-104　建設機械の稼働に伴う騒音の評価の結果

予測地点	騒音レベル（L_{Aeq}） (dB)	規制基準 (dB)
No.1	62	85

2. 騒音（工事用車両の走行に伴う騒音）

(1) 予測事項

工事用車両の走行に伴う騒音レベルとした。

(2) 予測方法

① 予測手順

予測手順は、図 5.2-45 に示すとおりである。

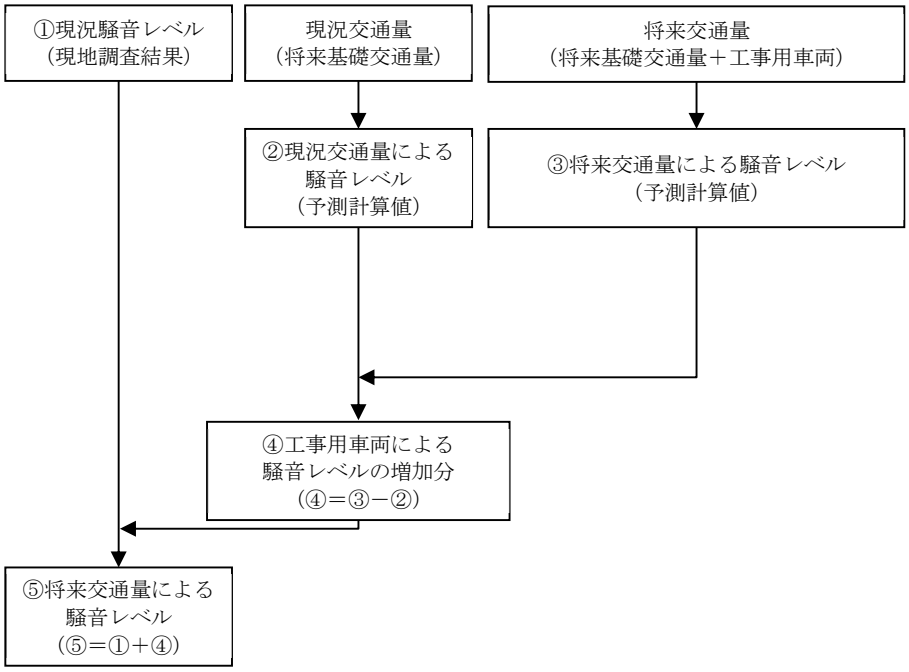


図 5.2-45　工事用車両の走行に伴う騒音の予測手順

② 予測式

予測式は、(社)日本音響学会による道路交通騒音の予測モデル「ASJ RTN-Model 2023」を用いた。

予測にあたっては、まず１台の自動車が道路上を単独で走行するときの、予測地点におけるＡ特性音圧レベルの時間変化を求め、この時間積分値（単発騒音暴露レベル：$L_{AE,j}$）を算出した。

$$L_{AE,j} = 10\,log_{10}\left(\frac{1}{T_0}\sum_i 10^{L_{pA,i}/10}\cdot \Delta t_i\right)$$

$L_{AE,j}$　：単発騒音暴露レベル（dB）
$L_{pA,i}$　：i番目の点音源から予測地点に到達する騒音レベル（dB）
Δt_i　：$\Delta \ell_i / v$　（秒）
$\Delta \ell_i$　：離散的に設定した点音源の間隔（m）
v　：走行速度（m/秒）
T_0　：基準時間（１秒）

点音源から予測地点に到達する騒音レベル$L_{pA,i}$は、以下の基本式により算出した。

$$L_{PA,i} = L_{WA,i} - 8 - 20\log_{10} r_i + \Delta L_{d,i} + \Delta L_{g,i}$$

$L_{pA,i}$　：A特性音圧レベル（dB）
$L_{WA,i}$　：自動車走行騒音のA特性パワーレベル（dB）
r_i　：点音源から予測地点までの距離（m）
$\Delta L_{d,i}$　：回折効果による補正量（dB）
遮音壁などの設置されていない平坦道路なので$\Delta L_{d,i}=0$
$\Delta L_{g,i}$　：地表面効果による補正量（dB）
コンクリート、アスファルトの場合$\Delta L_{g,i}=0$

自動車走行騒音のA特性パワーレベルは、走行速度及び車種により次式で求めた。

＜一般道路の非定常走行区間　10km/時≦V≦60km/時＞
大型車類　：$L_{WA}=88.8+10\log_{10}V$
小型車類　：$L_{WA}=82.3+10\log_{10}V$

この結果に、対象とする1時間当たりの交通量（N_j：台/3600 秒）を考慮し、その時間のエネルギー平均レベルである等価騒音レベル$L_{Aeq,j}$を算出した。

$$L_{Aeq,j} = 10\,log_{10}\left(10^{L_{AE,j}/10}\frac{N_j}{3600}\right)$$
$$= L_{AE,j} + 10\,log_{10}N_j - 35.6$$

以上の計算を車線別・車種別に行い、それらの結果から、以下の合成式を用いてレベル合成値を算出して、予測地点における道路全体からの騒音のL_{Aeq}とした。

$$L_{Aeq} = 10\log_{10}\left[\sum_{j=1}^{n} 10^{\frac{L_{Aeq,j}}{10}}\right]$$

L_{Aeq}　：予測地点における予測対象時間帯の等価騒音レベル（dB）
$L_{Aeq,j}$：予測地点における車線別・車種別の予測対象時間帯の等価騒音レベル（dB）

③ 予測条件

ア 将来交通量

将来交通量は、表 5.2-105 に示すとおりである。

表 5.2-105　工事中における将来交通量

予測地点	路線名	車種	現況(台)[注1] ①	工事用車両(台)[注2] ②	将来交通量(台) ③　=①+②
No.A	横須賀葉山線	大型車	822	318	1,140
		小型車	13,330	28	13,358
		合　計	14,152	346	14,498

注1) 現況の交通量については、表 5.2-5 自動車交通量調査結果の 16 時間の上下線の走行車両台数を足した値である。
大型車：413＋409=822(台)　　小型車：6,767＋6,563=13,330（台）
注2) 工事用車両の台数については表 5.2-105～108 に示すとおりである。
注3) 工事用車両の台数については、全ての工事が同時に実施される場合を想定した。

表 5.2-106　工事用車両の台数（鉄塔 No.24、No.25、No.28、No.29）

車両分類	鉄塔 1 基あたり		鉄塔 4 基	
	大型車 (台・往復/日)	小型車 (台・往復/日)	大型車 (台・往復/日)	小型車 (台・往復/日)
コンクリートポンプ車（10t）	2	－	8	－
コンクリートミキサー車（10t）	12	－	48	－
ユニックトレーラー車（24t）	4	－	16	－
ユニック車（6t）	2	－	8	－
ダンプカー（大型）	4	－	16	－
ユニック車（4t）	10	－	40	－
ダンプカー（4t）	8	－	32	－
ダブルキャブ（1t）	4	－	16	－
通勤車両	－	4	－	16
合　計			184	16

表 5.2-107　工事用車両の台数（鉄塔 No.32、No.33）

車両分類	鉄塔 1 基あたり		鉄塔 2 基あたり	
	大型車 (台・往復/日)	小型車 (台・往復/日)	大型車 (台・往復/日)	小型車 (台・往復/日)
ユニック車（2t）	24	－	48	－
ダンプカー（2t）	20	－	40	－
通勤車両	－	4	－	8
合　計			88	8

表 5.2-108　工事用車両の台数（仮設ヘリポート）

車両分類	大型車(台・往復/日)	小型車(台・往復/日)
コンクリートポンプ車（10t）	2	－
コンクリートミキサー車（10t）	12	－
ユニックトレーラー車（24t）	4	－
ユニック車（6t）	2	－
ダンプカー（大型）	4	－
ユニック車（4t）	10	－
ダンプカー（4t）	8	－
ダブルキャブ（1t）	4	－
通勤車両	－	4
合　計	46	4

表 5.2-109　工事用車両の台数

工事区域	大型車(台・往復/日)	小型車(台・往復/日)
鉄塔 No.24、No.25、No.28、No.29	184	16
鉄塔 No.32、No.33	88	8
仮設ヘリポート	46	4
合　計	318	28

イ 走行速度

走行速度は、表 5.2-110 に示す制限速度とした。

表 5.2-110　走行速度

予測地点	路線名	走行速度 (km/h)
No.A	横須賀葉山線	40

ウ 音源、予測一及び道路条件

音源の位置は図 5.2-46 に示すとおり、(社)日本音響学会による道路交通騒音の予測モデル「ASJ　RTN-Model　2023」に準拠して、上下車線の各中央に配置し、道路に対する予測地点からの垂線と車線の交点を中心として±20ℓ（ℓ：計算車線から予測地点までの最短距離）の範囲にℓ以下の間隔で離散的に配置した。また、音源の高さは路面上とした。

予測位置は、道路両側の道路端とした。

道路断面図は、図 5.2-47 に示すとおりである。

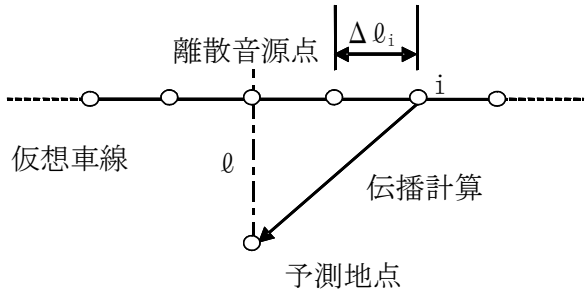


図 5.2-46　音源の位置

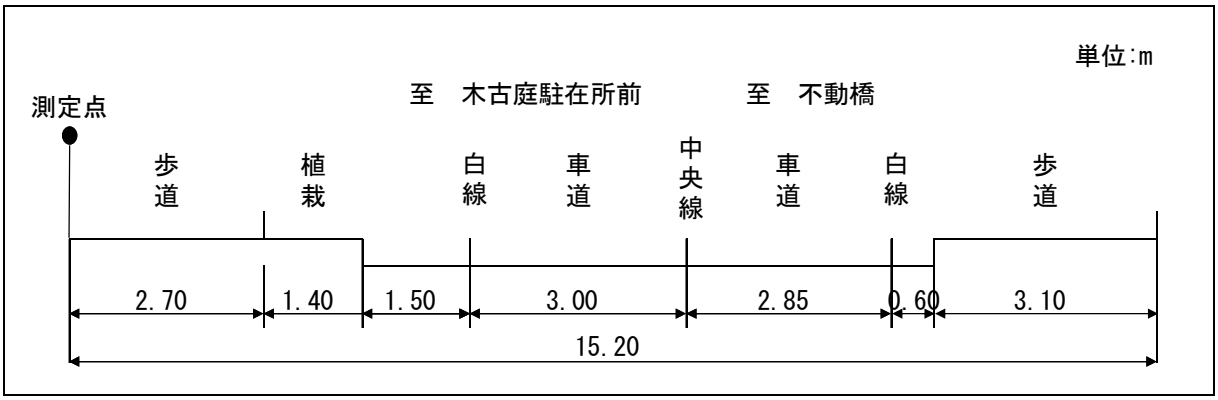


図 5.2-47　道路断面図

(3) 予測地域及び地点

予測地域は工事用車両ルートの沿道地域とし、予測地点は、現地調査地点と同じ位置とした（図 5.2-50 p.5-2-299 参照）。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象時期は、工事用車両の走行による影響が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

工事用車両の走行に伴う騒音レベルの予測結果は、表 5.2-111 に示すとおりである。

工事用車両の走行に伴う将来予測騒音レベルは、68dB である。

表 5.2-111　工事用車両の走行に伴う騒音の予測結果

予測地点	現況騒音レベル（L_{Aeq}）（dB）	工事用車両による騒音レベルの増加分（dB）	将来交通量による騒音レベル（L_{Aeq}）（dB）	要請限度（dB）
No.A	67	0.6	68	70

(6) 評価

① 評価手法

ア 工事用車両の走行

(a) 工事用車両の走行に伴う騒音レベル

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事用車両の走行に伴う騒音の影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

表 5.2-112 に示す「騒音規制法」（昭和 43 年 6 月、法律第 98 号）に基づく「自動車要請限度」と予測結果との比較を行い、整合が図られているかを明らかにした。

表 5.2-112　工事用車両の走行に伴う騒音に係る整合を図るべき基準

項　目	整合を図るべき基準等
騒　音	「騒音規制法」（昭和 43 年 6 月、法律第 98 号）に基づく「自動車要請限度」の第 2 種区域　70dB（昼間）

② 評価結果

ア 工事用車両の走行

(a) 工事用車両の走行に伴う騒音

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事用車両の走行に伴う騒音レベルを低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

・工事用車両が集中しないよう、通勤車両と資機材運搬車両の時間別の運行（資機材運搬は通勤・通学時間を回避した時間帯で計画）を計画し、運行時間の分散化に努める。

・鉄塔 No.32 及び No.33 への通行路は、道路幅員が狭いことから小型車（２ｔ車以下）で資機材積替え用地（モノレール基地）へ運搬を行い、仮設道路の構築や既存道路の拡幅を回避する。また、ヘリコプター運搬と、モノレール運搬（小型車による資機材運搬）を併用し、ヘリコプターの飛行回数と工事車両の通行回数の削減を計画する。

・工事用車両は規制速度・法定速度を遵守するとともに、急発進を行わないなどエコドライブを推進する。

・上山口小学校至近の工事車両の通行は、9時から13時までと16時以降とする。また、資機材の運搬で通行頻度が多くなる場合は、学校周辺に交通誘導員を配置し交通安全に努める。

・長柄小学校至近の道路で資機材の運搬で通行頻度が多くなる場合は、仮設ヘリポート進入路入口に交通誘導員を配置し交通安全に努める。

・工事用地周辺に住居が存在する鉄塔 No.32 及び No.33 共用の資機材積替え用地(モノレール基地)は防音パネルを設置する。

以上の対策を講じることから、工事用車両の走行に伴う騒音レベルは実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

工事用車両の走行に伴う騒音の評価結果は、表 5.2-113 に示すとおりである。

工事用車両の走行に伴う騒音の予測結果は、「騒音規制法」（昭和 43 年 6 月、法律第 98 号）に基づく「自動車要請限度」（整合を図るべき基準等）に適合すると予測する。

以上のことから、整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていると評価する。

表 5.2-113　工事用車両の走行に伴う騒音の評価の結果

予測地点	騒音レベル（L_{Aeq}） (dB)	要請限度 (dB)
No.A	68	70

3. 騒音（資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音）

(1) 予測事項

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音レベルとした。

(2) 予測方法

① 予測手順

予測手順は、図 5.2-48 に示すとおりである。使用予定のヘリコプターの騒音レベルを基に、騒音の理論伝搬式等を用いて時間帯補正等価騒音レベル（L_{den}）を予測した。予測結果は、予測地点ごとに時間帯補正等価騒音レベルを求めた。

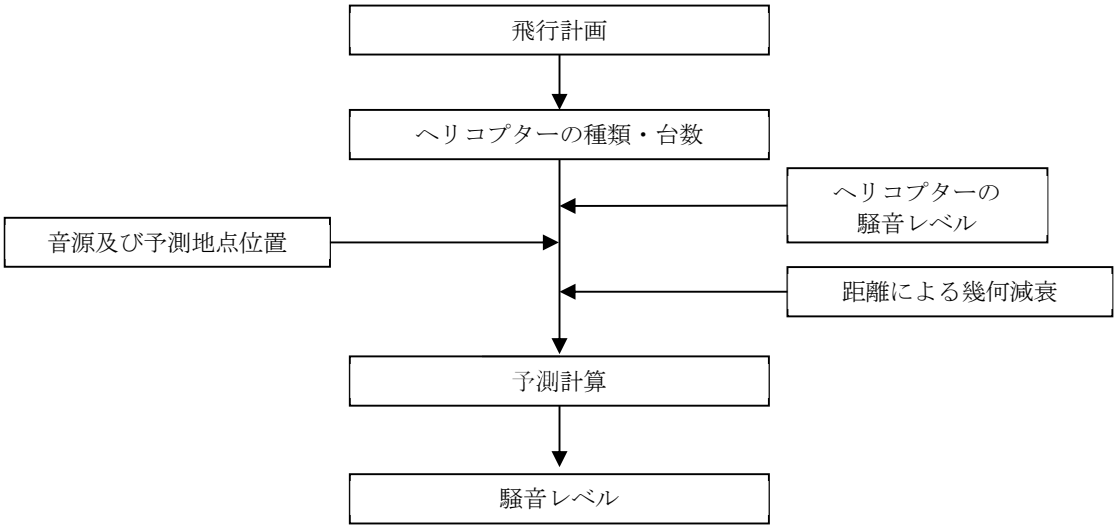


図 5.2-48　資材運搬ヘリコプターの飛行伴う騒音の予測手順

② 予測式

予測式は、騒音の理論伝搬式を用いた。

$$L_A = L_w - 20log_{10}r - 11$$

L_A　：予測地点における航空機騒音のピークレベル（dB）
L_w　：音源のパワーレベル（dB）
r　　：音源から予測地点までの距離（m）

③ 予測条件

ア ヘリコプターの種類・パワーレベル

予測対象時期におけるヘリコプターの種類・航行回数・パワーレベルは表 5.2-114 に示すとおりである。

表 5.2-114　ヘリコプターの種類・航行回数・パワーレベル

機　種	航行回数（回/日）	音響パワーレベル（dB）	
		飛行	ホバリング
エアバス・ヘリコプターズ AS332	40	138	139

注）ヘリコプターの音響パワーレベルは、実測にて求めた。

イ 飛行ルートと飛行高度

計画中のヘリコプターの飛行ルートは図 5.2-49 に示すとおりである。飛行高度については、地上から 50～100m程度の高さを当日の天候等により自主的に設定して運行することから、50mと設定した。

ウ その他の予測条件

本予測計算において、地形の影響として標高差は考慮した。

なお、安全側を考慮して、地形等による回折減衰、及び地表面の状態や大気による減衰等はすべて除外して予測計算を行った。

(3) 予測地域及び地点

予測地域は「上山口小学校」に近接する№32 及び№33 鉄塔の周辺地域及びヘリの離発着基地周辺地域とし、予測地点は、表 5.2-115 及び図 5.2-50 に示す 4 地点とした。

表 5.2-115　騒音の予測地点

No.	地　点
1	上山口小学校
2	長柄小学校
3	葉山中学校
4	仮設ヘリポート

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象時期は、ヘリコプターによる工事資材の運搬が最大となる時期とした。

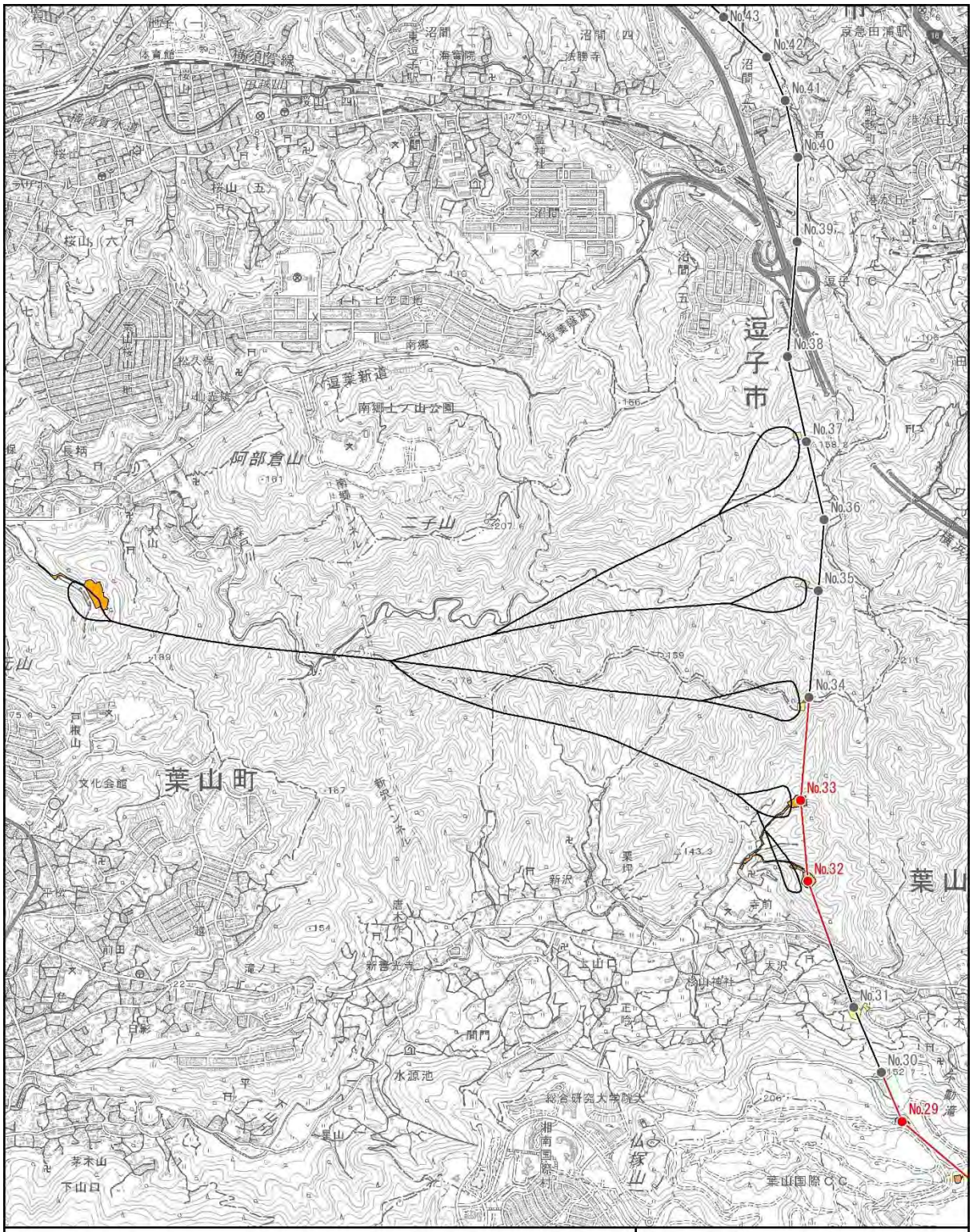
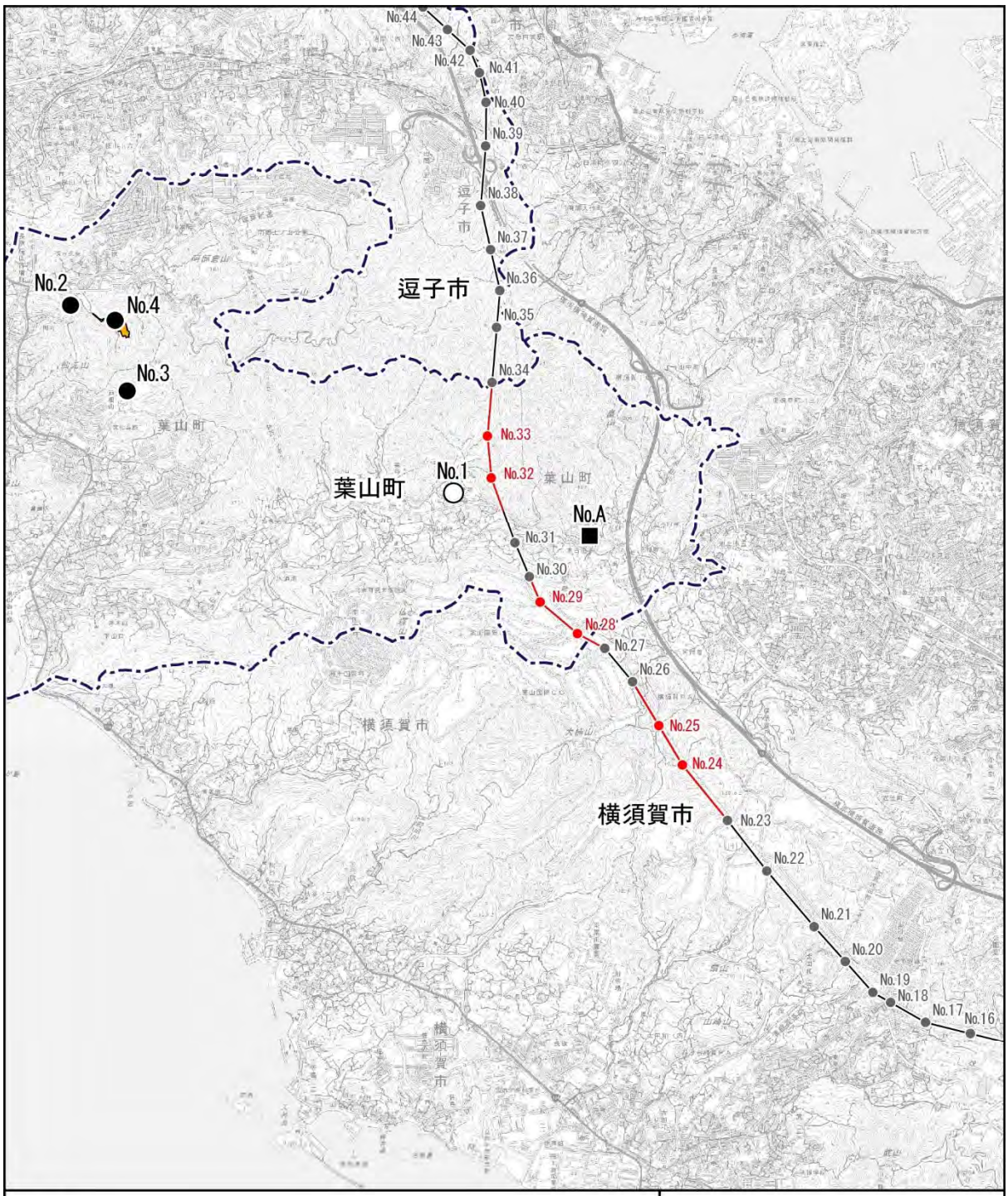


図 5.2-49　ヘリコプターの飛行ルート



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地（仮設ヘリポート）
- ○ 環境騒音・振動・低周波音予測地点
- ● 環境騒音・低周波音予測地点
- ■ 道路交通騒音・振動予測地点

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2km

図 5.2-50　騒音・振動・低周波音予測地点図

(5) 予測結果

工事資材の運搬に伴うヘリコプターによる航空機騒音の予測結果は、表 5.2-116 に示すとおりである。

表 5.2-116　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音レベルの予測結果

予測地点	航空機騒音予測結果(L_{den}) (dB)	(参考) ピークレベル予測結果 (dB)
No.1	41	74
No.2	46	79
No.3	43	76
No.4	61	94

(6) 評価

① 評価手法

ア 資材運搬ヘリコプターの飛行

(a) 資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音の影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

表 5.2-117 に示す基準と予測結果との比較を行い、整合が図られているかを明らかにした。

表 5.2-117　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音に係る整合を図るべき基準

項　目	整合を図るべき基準等
騒音	航空機騒音に係る環境基準（昭和 48 年 12 月、環境庁告示第 154 号）

② 評価結果

ア 資材運搬ヘリコプターの飛行

(a) 資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音を低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

なお、環境保全対策の検討過程において、ヘリコプターの機種の変更も検討を行ったが、保有機種の制約により選択の余地がなかった。しかしながら、今後も検討を重ねる予定である。

・鉄塔 No.32 及び No.33 への通行路は、道路幅員が狭いことから小型車（２ｔ車以下）で資機材積替え用地（モノレール基地）へ運搬を行い、仮設道路の構築や既存道路の拡幅を回避する。また、ヘリコプター運搬と、モノレール運搬（小型車による資機材運搬）を併用し、ヘリコプターの飛行回数と工事車両の通行回数の削減を計画する。

・ヘリコプターの飛行は飛行時間帯を 10 時から 16 時までのうち、4 時間前後の飛行とし、早朝・夕方の時間帯を回避する。

・ヘリコプターの運行前にテスト飛行（令和 8 年 12 月～令和 9 年 1 月予定）を行い、騒音・低周波音調査を自主的に実施する。その結果を踏まえて、各学校(上山口小学校・長柄小学校・葉山中学校)において、窓を閉め切る等の対応を行う場合は、空気清浄機のリースなどの対策を検討し実施する。

・ヘリコプターの使用期間は事前に周辺地域に周知する。

以上の対策を講じることから、資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音レベルは実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音の評価結果は、表 5.2-118 に示すとおりである。

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音の予測結果は、整合を図るべき基準に適合すると予測する。

以上のことから、整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていると評価する。

表 5.2-118　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う騒音の評価の結果

予測地点	騒音レベル（L_{den}） (dB)	整合を図るべき基準[注)] (dB)
No.1	41	57
No.2	46	
No.3	43	
No.4	61	62

注）整合を図るべき基準は、No.1～No.3 を航空機騒音に係る環境基準の地域類型 1（専ら住居の用に供される地域）、No.4 を地域類型Ⅱ（1 以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域）の値とした。

4. 低周波音（資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音）

(1) 予測事項

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音とした。

(2) 予測方法

① 予測手順

予測手順は、図 5.2-51 に示すとおりである。使用予定のヘリコプターの低周波音を基に、騒音の理論伝搬式等を用いて航空機による低周波音レベルを予測した。予測結果は、予測地点ごとに低周波音レベルを求めた。

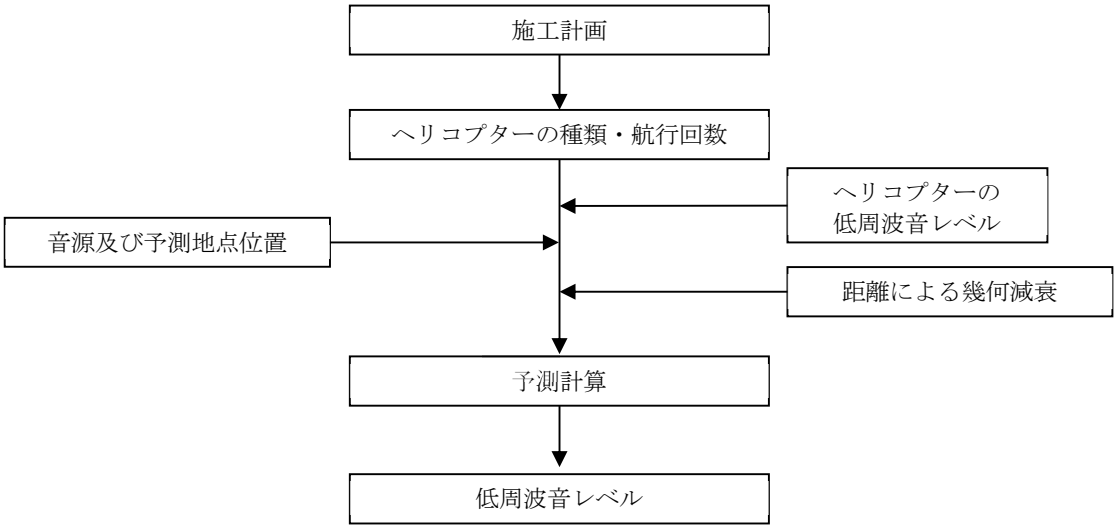


図 5.2-51　資材運搬ヘリコプターの飛行伴う低周波音の予測手順

② 予測式

予測式は、点音源の伝播理論式を用いた。

$$L_A = L_w - 20log_{10}r - 11$$

L_A　：予測地点における航空機による低周波音の最大値（dB）
L_w　：音源の低周波音のパワーレベル（dB）
r　：音源から予測地点までの距離（m）

③ 予測条件

ア ヘリコプターの種類・航行回数・低周波音圧レベル

予測対象時期におけるヘリコプターの種類・航行回数は表 5.2-119 に、低周波音圧レベルは表 5.2-120(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2-119　ヘリコプターの種類・航行回数

機　種	航行回数（回/日）
エアバス・ヘリコプターズ AS332	40

表 5.2-120(1)　ヘリコプターの低周波音圧レベル（1/3 オクターブバンド平坦特性）

単位：dB

種　類	低周波音圧レベル 中心周波数（Hz）																			
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
ﾎﾊﾞﾘﾝｸﾞ	137.9	139.4	141.9	141.9	143.9	143.4	144.4	142.9	142.4	140.9	138.9	137.9	139.9	138.4	132.4	131.9	130.9	131.4	127.9	129.9
飛行	131.6	131.9	133.9	137.9	136.9	140.3	138.6	138.3	137.9	137.3	136.3	135.3	138.3	138.9	132.9	133.9	132.9	132.9	128.9	129.6

注）ヘリコプターの低周波音圧レベル（1/3オクターブバンド平坦特性）は、実測した結果より求めた。

表 5.2-120(2)　ヘリコプターの低周波音圧レベル（G特性音圧レベル）

単位：dB

種　類	低周波音圧レベル
ホバリング	151.7
飛行	150.9

注）ヘリコプターの低周波音圧レベル（G特性音圧レベル）は、実測した結果より求めた。

イ 飛行ルートと飛行高度

計画中のヘリコプターの飛行ルートは図 5.2-49 に示すとおりである。飛行高度については、地上から 50～100m程度の高さを当日の天候等により自主的に設定して運行することから、50mと設定した。

ウ その他の予測条件

本予測計算において、地形の影響として標高差は考慮した。

なお、安全側を考慮して、地形等による回折減衰及び地表面の状態や大気による減衰等はすべて除外して予測計算を行った。

(3) 予測地域及び地点

予測地域は「上山口小学校」に近接する No.32 及び No.33 鉄塔の周辺地域及びヘリの離発着基地周辺地域とし、予測地点は、表 5.2-115 及び図 5.2-50 とした。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象時期は、ヘリコプターによる工事資材の運搬が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

① 1/3 オクターブバンド平坦特性音圧レベル

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音（1/3 オクターブバンド平坦特性音圧レベル）の予測結果は、表 5.2-121 及び図 5.2-51 に示すとおりである。

表 5.2-121　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音圧レベル（1/3 オクターブバンド平坦特性）の予測結果

予測地点	中心周波数（Hz）																			
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
No. 1	78.4	78.7	80.7	84.7	83.7	87.1	85.4	85.1	84.7	84.1	83.1	82.1	85.1	85.7	79.7	80.7	79.7	79.7	75.7	76.4
No. 2	83.9	84.2	86.2	90.2	89.2	92.6	90.9	90.6	90.2	89.6	88.6	87.6	90.6	91.2	85.2	86.2	85.2	85.2	81.2	81.9
No. 3	80.6	80.9	82.9	86.9	85.9	89.3	87.6	87.3	86.9	86.3	85.3	84.3	87.3	87.9	81.9	82.9	81.9	81.9	77.9	78.6
No. 4	103.9	105.4	107.9	107.9	109.9	109.4	110.4	108.9	108.4	106.9	104.9	103.9	105.9	104.4	98.4	97.9	96.9	97.4	93.9	95.9

② G 特性音圧レベル

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音（G 特性音圧レベル）の予測結果は、表 5.2-122 及び図 5.2-52 に示すとおりである。

表 5.2-122　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音（G 特性音圧レベル）の予測結果

予測地点	将来予測低周波音レベル（dB）
No. 1	97.7
No. 2	103.2
No. 3	99.9
No. 4	117.7

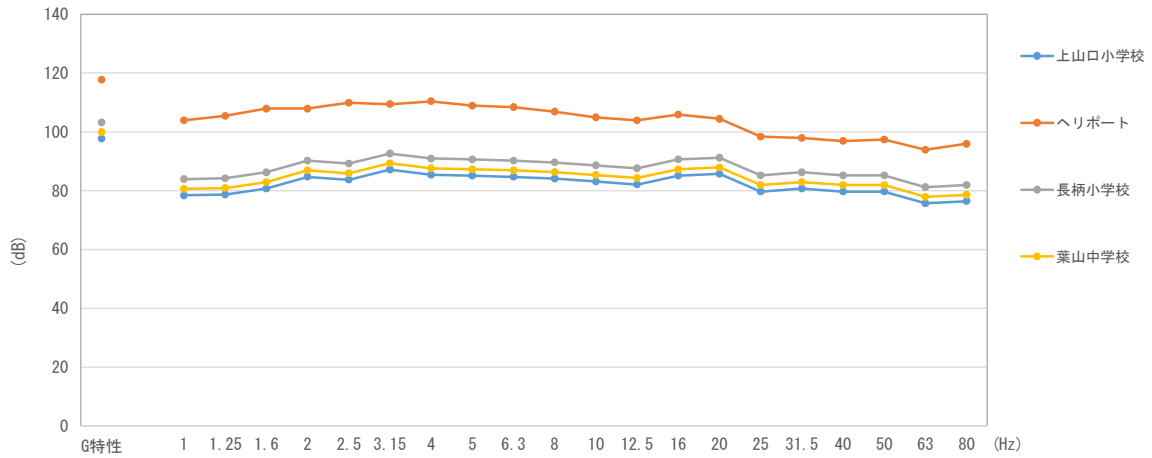


図 5.2-52　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の予測結果

(6) 評価

① 評価手法

ア 資材運搬ヘリコプターの飛行

(a) 資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

表 5.2-123 に示す基準と予測結果との比較を行い、整合が図られているかを明らかにした。

表 5.2-123　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音に係る整合を図るべき基準

項　目	整合を図るべき基準等
低周波音	・「低周波音防止対策事例集」に示される「低周波音及び可聴音の不快さを感じる感覚（中村らの実験結果)」(心理的影響) ・「低周波音防止対策事例集」に示される「低周波音により建具ががたつきはじめる値」(物理的影響)

② 評価結果

ア 資材運搬ヘリコプターの飛行

(a) 資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音を低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

なお、環境保全対策の検討過程において、ヘリコプターの機種の変更も検討を行ったが、保有機種の制約により選択の余地がなかった。しかしながら、今後も検討を重ねる予定である。

・鉄塔 No.32 及び No.33 への通行路は、道路幅員が狭いことから小型車（２ｔ車以下）で資機材積替え用地（モノレール基地）へ運搬を行い、仮設道路の構築や既存道路の拡幅を回避する。また、ヘリコプター運搬と、モノレール運搬（小型車による資機材運搬）を併用し、ヘリコプターの飛行回数と工事車両の通行回数の削減を計画する。

・ヘリコプターの飛行は飛行時間帯を 10 時から 16 時までのうち、4 時間前後の飛行とし、早朝・夕方の時間帯を回避する。

・ヘリコプターの運行前にテスト飛行（令和 8 年 12 月～令和 9 年 1 月予定）を行い、騒音・低周波音調査を自主的に実施する。その結果を踏まえて、各学校（上山口小学校・長柄小学校・葉山中学校）において、窓を閉め切る等の対応を行う場合は、空気清浄機のリースなどの対策を検討し実施する。

・ヘリコプターの使用期間は事前に周辺地域に周知する。

以上の対策を講じることから、資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音は実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の評価結果は、表 5.2-124(1)～(2)及び図 5.2-53 に示すとおりである。

資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の予測結果は、心理的影響の参考値（整合を図るべき基準等）と比較した場合、No.2、No.3 及び No.4 地点において圧迫感、振動感を感じるとされる 40Hz 付近で基準を超えると予測する。

また、資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の予測結果は、物理的影響の参考値（整合を図るべき基準等）と比較した場合、No.2、No.3 及び No.4 地点において「建具のガタつき始める値」の閾値を 5～50Hz 付近で基準を超えると予測する。

以上のことから、No.2、No.3 及び No.4 地点において整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていないと評価する。

予測結果においては、整合を図るべき基準等を超える地点があるものの、ヘリコプターの飛行時間を限定、削減する、また、運用前にテスト飛行を実施しその結果から各地点における対策を検討し実施する等の保全対策を実施することで周辺の環境影響を低減するよう努める。

表 5.2-124（1）　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の評価の結果（心理的影響）

予測地点	G 特性	中心周波数（Hz）																			
		1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
No.1	97.7	78.4	78.7	80.7	84.7	83.7	87.1	85.4	85.1	84.7	84.1	83.1	82.1	85.1	85.7	79.7	80.7	79.7	79.7	75.7	76.4
No.2	103.2	83.9	84.2	86.2	90.2	89.2	92.6	90.9	90.6	90.2	89.6	88.6	87.6	90.6	91.2	85.2	86.2	85.2	85.2	81.2	81.9
No.3	99.9	80.6	80.9	82.9	86.9	85.9	89.3	87.6	87.3	86.9	86.3	85.3	84.3	87.3	87.9	81.9	82.9	81.9	81.9	77.9	78.6
No.4	117.7	103.9	105.4	107.9	107.9	109.9	109.4	110.4	108.9	108.4	106.9	104.9	103.9	105.9	104.4	98.4	97.9	96.9	97.4	93.9	95.9
心理的影響	－	－	－	－	－	－	－	－	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84

注）▭は整合を図るべき基準を超えた周波数を示す。

表 5.2-124（2）　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の評価の結果（物理的影響）

予測地点	G 特性	中心周波数（Hz）																			
		1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
No.1	97.7	78.4	78.7	80.7	84.7	83.7	87.1	85.4	85.1	84.7	84.1	83.1	82.1	85.1	85.7	79.7	80.7	79.7	79.7	75.7	76.4
No.2	103.2	83.9	84.2	86.2	90.2	89.2	92.6	90.9	90.6	90.2	89.6	88.6	87.6	90.6	91.2	85.2	86.2	85.2	85.2	81.2	81.9
No.3	99.9	80.6	80.9	82.9	86.9	85.9	89.3	87.6	87.3	86.9	86.3	85.3	84.3	87.3	87.9	81.9	82.9	81.9	81.9	77.9	78.6
No.4	117.7	103.9	105.4	107.9	107.9	109.9	109.4	110.4	108.9	108.4	106.9	104.9	103.9	105.9	104.4	98.4	97.9	96.9	97.4	93.9	95.9
物理的影響	－	－	－	－	－	－	－	－	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99	－	－

注）▭は整合を図るべき基準を超えた周波数を示す。

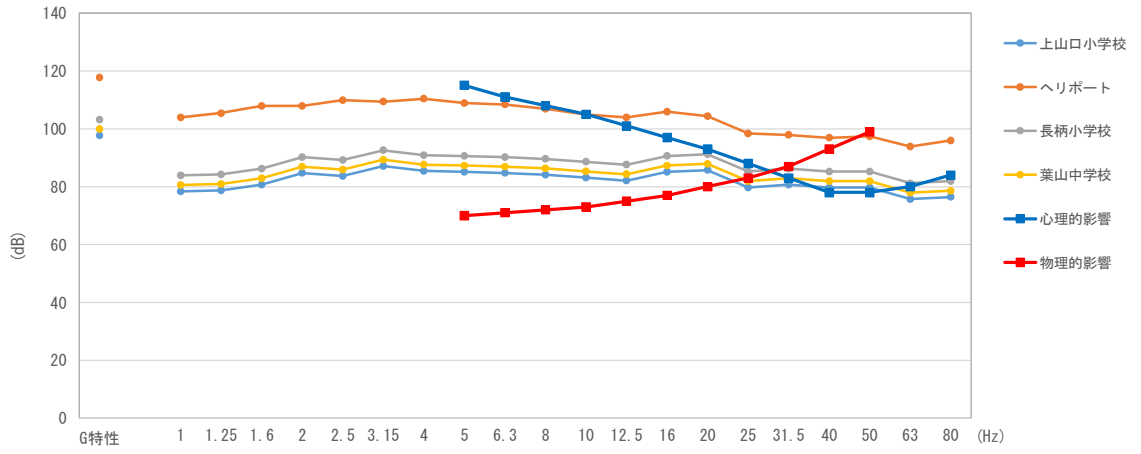


図 5.2-53　資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の評価

第 2 節 振動

1. 振動（建設機械の稼働に伴う振動）

(1) 予測事項

建設機械の稼働に伴う振動レベルとした。

(2) 予測方法

① 予測手順

予測手順は、図 5.2-54 に示すとおりである。

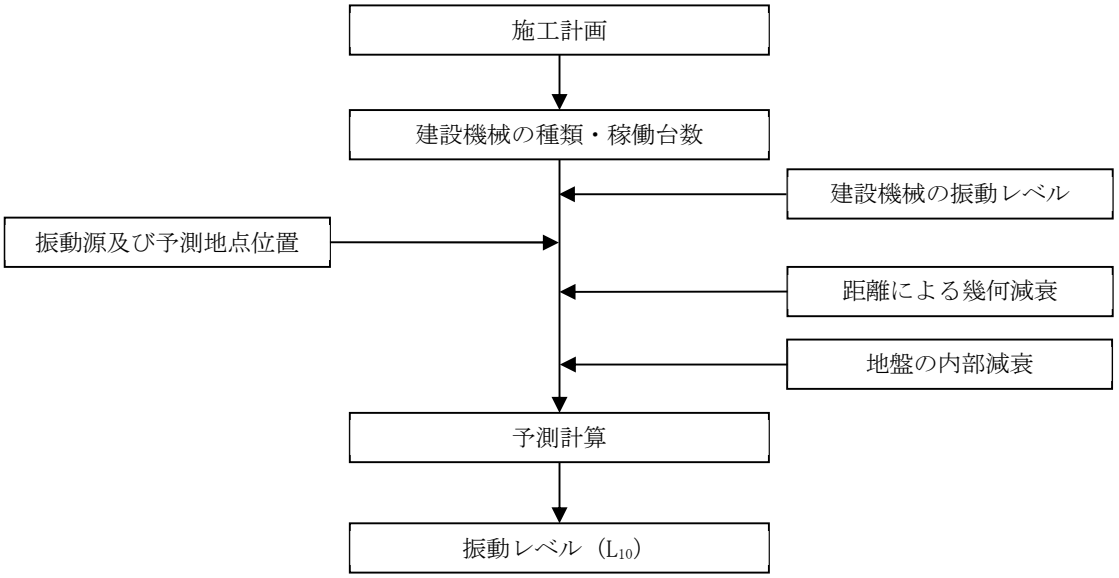


図 5.2-54　建設機械の稼働に伴う振動の予測手順

② 予測式

予測式は、振動の伝播理論式を用いた。予測は、距離による幾何減衰及び地盤の内部減衰を考慮して行った。

$$VL_i = VL_0 - 20n \cdot \log_{10}(r/r_0) - 8.68(r - r_0) \cdot \lambda$$

VL_i ：予測地点における振動源（i）ごとの振動レベル（dB）
VL_0 ：基準点における振動レベル（dB）
r　：振動源から予測地点までの距離（m）
r_0　：振動源から基準点までの距離（m）
n　：幾何減衰定数（n＝0.5：表面波）
λ　：地盤の内部減衰定数（λ＝0.01）

また、予測地点における振動レベルは、以下に示す複数振動源による振動レベルの合成式より算出した。

$$VL = 10\log_{10}\left(\sum_{i=1}^{n} 10^{\frac{VL_i}{10}}\right)$$

VL ：予測地点における合成振動レベル（dB）
VL_i ：予測地点における振動源ごとの振動レベル（dB）
n ：振動源の数

③ 予測条件

ア 建設機械の種類・稼働台数・振動レベル

予測対象時期における建設機械の種類・稼働台数・振動レベルは、表 5.2-125 に示すとおりである。

表 5.2-125　建設機械の種類・稼働台数・振動レベル

工種	種　類	規　格	稼働台数（台）	基準点(7m)における振動レベル（dB）	資　料
基礎	ジブクレーン	36tm	2	68	①
	カニクレーン	2.9t	2	68	①
	バックホウ	0.25 m³	2	57	②
	発電機	機関出力　60kW	1	68	①
	発電機	機関出力　25kW	1	68	①
	空気圧縮機	機関出力　84kW	1	68	①
	コンクリートミキサー車	-		67	①
	ダンプトラック	10 t		67	①
組立・架線	ジブクレーン	36tm	2	68	①
	カニクレーン	2.9t	2	78	①
	クライミングクレーン	20tm	1	68	①

資料：①「建設作業振動対策マニュアル」（平成６年４月、(社)日本建設機械化協会）
②「建設騒音及び振動の防止並びに排除に関する調査試験報告書」
（昭和 54 年 10 月、建設省土木研究所）

イ 建設機械の配置

建設機械の配置は、図 5.2-44 に示したとおりである。

また、予測にあたっては、実施区域周辺への影響が大きくなる場合を想定し、すべての建設機械が同時に稼働していることとした。

(3) 予測地域及び地点

予測地域は「上山口小学校」に近接する No.32 及び No.33 鉄塔の周辺地域とし、予測地点は、No.1(上山口小学校)とした（図 5.2-44 p.5-2-287 参照)。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象時期は、建設機械の稼働による影響が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

建設機械の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、表 5.2-126 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う将来予測振動レベルは、41dB である。

表 5.2-126　建設機械の稼働に伴う振動の予測結果

予測地点	振動レベル（L_{10}） (dB)	規制基準 (dB)
No.1	41	75

(6) 評価

① 評価手法

ア 建設機械の稼働

(a) 建設機械の稼働に伴う振動レベル

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

建設機械の稼働に伴う振動の影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

表 5.2-127 に示す「振動規制法」（昭和 51 年、法律第 64 号）に基づく「特定建設作業の規則に関する基準」と予測結果との比較を行い、整合が図られているかを明らかにした。

表 5.2-127　建設機械の稼働に伴う振動に係る整合を図るべき基準

項　目	整合を図るべき基準等
振　動	特定建設作業の振動が、特定建設作業の場所の敷地の境界線において 75dB を超える大きさのものでないこと。 「振動規制法」（昭和 51 年、法律第 64 号）

② 評価結果

ア 建設機械の稼働

(a) 建設機械の稼働に伴う振動レベル

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

建設機械の稼働に伴う振動レベルを低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

・工事時間はゴルフ場に立地する鉄塔（No.28、No.29）の周辺を除き 9 時から 17 時とする。

・ゴルフ場に立地する鉄塔（No.28、No.29）は、来場者の車両通行及び駐車に支障を与えることを回避するため、資機材の搬入を 17 時から 22 時の間で行う。

・建設機械は日々点検整備を行う。

・工事用車両及び建設機械のアイドリングストップの遵守を徹底する。

・施工方法や工程を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。

・最新規格の低騒音・低振動型建設機械を採用するよう努める。

・工事用地周辺に住居が存在する鉄塔 No.32 及び No.33 共用の資機材積替え用地(モノレール基地)は防音パネルを設置する。

以上の対策を講じることから、建設機械の稼働に伴う振動レベルは実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

建設機械の稼働に伴う振動の評価結果は、表 5.2-128 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う振動の予測結果は、規制基準（整合を図るべき基準等）に適合すると予測する。

以上のことから、整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていると評価する。

表 5.2-128　建設機械の稼働に伴う振動の評価の結果

予測地点	振動レベル（L_{10}） (dB)	規制基準 (dB)
No.1	41	75

2. 振動（工事用車両の走行に伴う振動）

(1) 予測事項

工事用車両の走行に伴う振動レベルとした。

(2) 予測方法

① 予測手順

予測手順は、図 5.2-55 に示すとおりである。

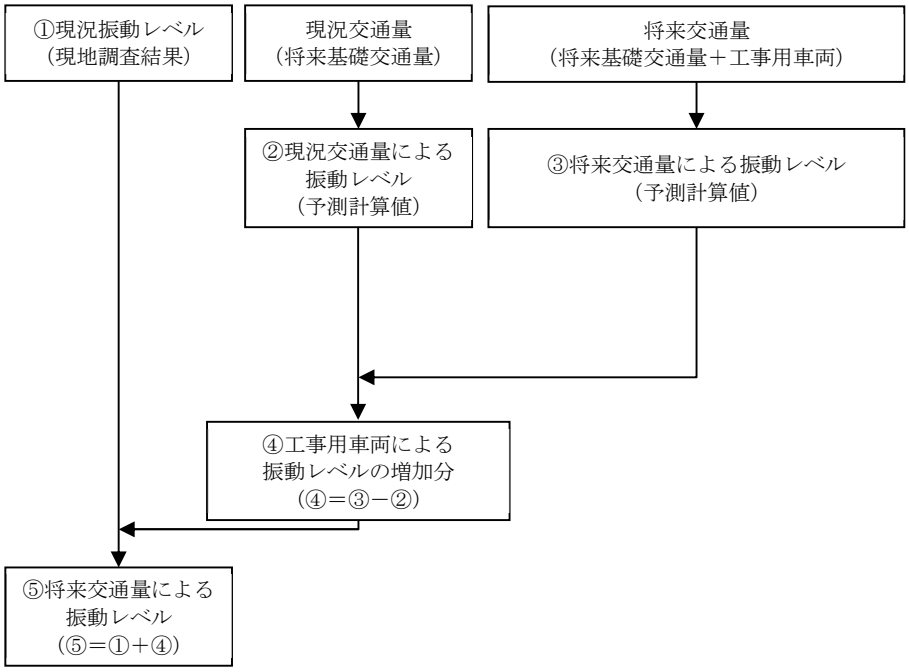


図 5.2-55　工事用車両の走行に伴う振動の予測手順

② 予測式

予測式は、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」（平成 25 年３月、国土交通省国土技術政策研究所　独立行政法人土木研究所）に基づく予測式を用いた。

$$L_{10} = a \log_{10}(\log_{10} Q) + b \log_{10} V + c \log_{10} M + d + \alpha_\sigma + \alpha_f + \alpha_s - \alpha_l$$

L_{10}　：振動レベルの 80％レンジの上端値の予測値（dB）

Q　：500 秒間の１車線あたりの等価交通量（台/500 秒/車線）

$$Q = \frac{500}{3600} \times \frac{1}{M} \times (Q_1 + KQ_2)$$

Q_1　：小型車時間交通量（台/時）

Q_2　：大型車時間交通量（台/時）

V　：平均走行速度（km/h）

M　：上下線合計の車線数

K　：大型車の小型車への変換係数（V ≦100km/h の場合：K ＝13）

a, b, c, d　：道路構造によって定める定数

α_σ　：路面の平坦性による補正値（dB）

α_f　：地盤卓越振動数による補正値（dB）

α_s　：道路構造による補正値（dB）

α_l　：距離減衰値（dB）

道路構造によって定める定数（a, b, c, d）は、平面道路に適用される以下の値を用いた。

a=47、b=12、c=3.5、d=27.3

路面の平坦性による補正値（α_σ）は、平面道路のアスファルト舗装に適用される補正値を用いた。

$$\alpha_\sigma = 8.2 \log_{10} \sigma$$

σ　：路面平坦性標準偏差（mm）　σ ＝５mm

地盤卓越振動数による補正値（α_f）は、平面道路に適用される補正値を用いた。地盤卓越振動数（f）は、調査結果を用いた。

$\alpha_f = -17.3 \log_{10} f$　（f ≧８Hz）

f　：地盤卓越振動数（Hz）

道路構造による補正値（α_s）は、平面道路に適用される補正値を用いた。

$$\alpha_s = 0$$

距離減衰値（α_l）は、平面道路の粘土地盤に適用される値を用いた。

$$\alpha_l = \beta \frac{\log_{10}(r/5+1)}{\log_{10} 2}$$

r　　：予測基準点から予測地点までの距離（m）

β　　：平面道路で粘土地盤の場合

$$\beta = 0.068\left(a \log_{10}(\log_{10} Q) + b \log_{10} V + c \log_{10} M + d + \alpha_\sigma + \alpha_f + \alpha_s\right) - 2.0$$

なお、予測基準点は「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」に準拠し、最外側車線の中心より 5mとした。

③ 予測条件

ア 将来交通量

将来交通量は、表 5.2-105（p. 5-2-292 参照）に示したとおりである。

イ 走行速度

走行速度は、表 5.2-110（p. 5-2-293 参照）に示したとおり、規制速度とした。

ウ 道路条件

道路断面図は、図 5.2-47（p. 5-2-293 参照）に示したとおりである。

(3) 予測地域及び地点

予測地域は工事用車両ルートの沿道地域とし、予測地点は、現地調査地点と同じ位置とした（図 5.2-50 p. 5-2-299 参照）。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象時期は、工事用車両の走行による影響が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

工事用車両の走行に伴う振動レベルの予測結果は、表 5.2-129 に示すとおりである。

工事用車両の走行に伴う将来予測振動レベルは、37dB である。

表 5.2-129　工事用車両の走行に伴う振動の予測結果

予測地点	現況振動レベル (L_{10}) (dB)	工事用車両による振動レベルの増加分 (dB)	将来交通量による振動レベル (L_{10}) (dB)	規制基準 (dB)
No.A	36	1.1	37	70

(6) 評価

① 評価手法

ア 工事用車両の走行

(a) 工事用車両の走行に伴う振動レベル

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事用車両の走行に伴う振動の影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

表 5.2-130 に示す「振動規制法」（昭和 51 年、法律第 64 号）に基づく「自動車要請限度」と予測結果との比較を行い、整合が図られているかを明らかにした。

自動車交通の発生に伴う振動の予測結果は、すべての予測地点及び時間区分で要請限度（整合を図るべき基準等）に適合すると予測する。

表 5.2-130　工事用車両の走行に伴う振動に係る整合を図るべき基準

項　目	整合を図るべき基準等
振　動	「振動規制法」（昭和 51 年、法律第 64 号）に基づく「自動車要請限度」の第 2 種区域　70dB（昼間）

② 評価結果

ア 工事用車両の走行

(a) 工事用車両の走行に伴う振動

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事用車両の走行に伴う振動レベルを低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

・工事用車両が集中しないよう、通勤車両と資機材運搬車両の時間別の運行（資機材運搬は通勤・通学時間を回避した時間帯で計画）を計画し、運行時間の分散化に努める。

・鉄塔 No.32 及び No.33 への通行路は、道路幅員が狭いことから小型車（２ｔ車以下）で資機材積替え用地（モノレール基地）へ運搬を行い、仮設道路の構築や既存道路の拡幅を回避する。また、ヘリコプター運搬と、モノレール運搬（小型車による資機材運搬）を併用し、ヘリコプターの飛行回数と工事車両の通行回数の削減を計画する。

・工事用車両は規制速度・法定速度を遵守するとともに、急発進を行わないなどエコドライブを推進する。

・上山口小学校至近の工事車両の通行は、9時から13時までと16時以降とする。また、資機材の運搬で通行頻度が多くなる場合は、学校周辺に交通誘導員を配置し交通安全に努める。

・長柄小学校至近の道路で資機材の運搬で通行頻度が多くなる場合は、ヘリポート進入路入口に交通誘導員を配置し交通安全に努める。

・工事用地周辺に住居が存在する鉄塔 No.32 及び No.33 共用の資機材積替え用地(モノレール基地)は防音パネルを設置する。

以上の対策を講じることから、工事用車両の走行に伴う振動レベルは実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

工事用車両の走行に伴う振動の評価結果は、表 5.2-131 に示すとおりである。

工事用車両の走行に伴う振動の予測結果は、整合を図るべき基準に適合すると予測する。

以上のことから、整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていると評価する。

表 5.2-131　工事用車両の走行に伴う振動の評価の結果

予測地点	振動レベル（L_{10}） (dB)	整合を図るべき基準 (dB)
No.A	37	70

第 3 節 廃棄物・発生土

1. 廃棄物

(1) 予測事項

工事の実施（造成等）による廃棄物の発生量、リサイクル量、最終処分量とした。

(2) 予測方法

事業計画の状況及び環境保全対策等を考慮して、廃棄物の処理、処分方法、減量化の方法の検討により予測した。

(3) 予測地域及び地点

予測地域及び地点は、実施区域内とした。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

工事による影響が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

工事の実施（造成等）により発生する廃棄物の種類と量は表 5.2-132～134 に示すとおりである。廃棄物発生量はコンクリートガラのみで約 67t と予測される。

これらの廃棄物は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成 12 年法律第 104 号）及び「建設工事等から生ずる廃棄物の適正処理について」等に基づき、積極的に発生抑制や減量化に努めるとともに、分別・再資源化を図る。再資源化の目標としては、「神奈川県における特定建設資材に係る分別解体及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等の実施に関する指針」（平成 14 年、神奈川県告示第 366 号）に基づきコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、100%とする。また、工事に伴い発生する産業廃棄物の保管にあたっては、適切な場所に保管し、飛散・流出の防止を図る。

なお、金属くず、陶磁器くずについては、産業廃棄物として処分せず有価物として売却し、再利用する。

表 5.2-132　既設鉄塔の撤去に伴い発生する廃棄物

種　別	廃棄物量（鉄塔別）						合計
	No. 24	No. 25	No. 28	No. 29	No. 32	No. 33	
金属くず（鉄塔材）（ｔ）	29	33	27	37	35	30	191
コンクリートガラ（ｔ）	5	5	5	7	7	7	36
陶磁器くず（がいし等）（ｔ）	8	8	8	8	8	8	48

注）金属くず、陶磁器くずについては、産業廃棄物として処分せず有価物として売却し、再利用している。

表 5.2-133　コンクリート舗装の撤去に伴い発生する廃棄物（仮設ヘリポート）

種　別	廃棄物量	
コンクリートガラ（ｔ）	仮設道路のコンクリート舗装の撤去	23.7
	燃料保管場所付近のコンクリート舗装の撤去	7.1

表 5.2-134　工事の実施に伴い発生する廃棄物

種　別	コンクリートガラ（ｔ）
既設鉄塔の撤去	36
仮設道路のコンクリート舗装の撤去	23.7
燃料保管場所付近のコンクリート舗装の撤去	7.1
合　計	66.8

(6) 評価

① 評価手法

ア 工事の実施

(a) 工事の実施（造成等）に伴う廃棄物

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事の実施（造成等）に伴う廃棄物の発生が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

廃棄物処理施設の建設工事により発生する廃棄物の再資源化の基準等は、「神奈川県における特定建設資材に係る分別解体及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等の実施に関する指針」（平成 14 年、神奈川県告示第 366 号）に基づき、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、100％の再資源化率と予測結果との間に整合が図られているかを明らかにした。

② 評価結果

ア 工事の実施

(a) 工事の実施（造成等）に伴う廃棄物

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

廃棄物処理施設の建設工事により発生する廃棄物の排出を低減するため、以下の環境保全対策を講じる。

・「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成 12 年法律第 104 号）及び「建設工事等から生ずる廃棄物の適正処理について」等に基づき、積極的に発生抑制や減量化に努めるとともに、分別・再資源化を図る。

・再資源化が困難な廃棄物は、産業廃棄物の運搬・処分の許可を得た業者に委託し、適正な処理を行う。

・工事に伴い発生する産業廃棄物の保管にあたっては、適切な場所に保管し、飛散・流出の防止を図る。

・現場で使用する油類については保管場所を決め取り扱いには十分注意するとともに、廃棄する場合には適正な処分計画で実施する。

以上の対策を講じることから、工事の実施（造成等）により発生する廃棄物の排出は実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

b. 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

工事の実施（造成等）により発生する廃棄物の再資源化の基準等としては、「神奈川県における特定建設資材に係る分別解体及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等の実施に関する指針」（平成 14 年、神奈川県告示第 366 号）に基づき、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については 100％とする。

以上のことから、廃棄物の発生について環境保全に対する基準等との整合が図られていると評価する。

2. 発生土

(1) 予測事項

工事の実施（造成等）による発生土の搬出量及び利用量とした。

(2) 予測方法

事業計画の状況及び環境保全対策等を考慮して、発生土の処理、処分方法及び減量化の方法の検討により予測した。

① 予測手順

鉄塔基礎の掘削に伴う発生土は、各対象鉄塔の床板に掘削深度を乗じることにより求められる発生量に土量の変化率を乗じて求めることにより算出する方法を用いた。

工事用地の掘削に伴う発生土は、工事用地の面積に掘削深度を乗じることにより求められる発生量に土量の変化率を乗じて求めることにより算出する方法を用いた。

② 予測条件

鉄塔基礎の掘削に伴う発生土は、各対象鉄塔の床板に掘削深度を乗じることにより求められる発生量に土量の変化率を乗じて求めることにより算出する方法を用いた。

ア 土量の変化率

鉄塔基礎の掘削に伴う発生土及び工事用地の掘削に伴う発生土の発生量の算出に必要な土量の変化率は表 5.2-135 に示すとおり、粘性土の変化率とした。

表 5.2-135　土量の変化率

分類名称	変化率 L
粘性土	1.25

資料：「施工パッケージ型積算基準」（平成 27 年３月、国土交通省）

(3) 予測地域及び地点

予測地域及び地点は、実施区域内とした。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測時期は、着手から竣工までの期間とした。

(5) 予測結果

工事の実施（造成等）による発生土量は表 5.2-136 及び表 5.2-137 に示すとおりである。鉄塔の基礎工事による発生土量は約 2,340 ㎥であり、仮設ヘリポートの仮設備工事による発生土量は約 513 ㎥である。発生土はフレコンバック等に入れ、速やかに場外へ搬出し、法令等の基準を満たした受入れ先の基準に基づき適正に処理、処分する。

表 5.2-136　鉄塔基礎の掘削に伴う発生土

工事区分	発生土量（鉄塔別：㎥）						合計
	No.24	No.25	No.28	No.29	No.32	No.33	
基礎工事	195	395	630	675	200	245	2,340

表 5.2-137　工事用地の掘削に伴う発生土（仮設ヘリポート）

工事区分	内訳	発生土量（㎥）
仮設工事	地山の切土	約 513

(6) 評価

① 評価手法

ア 工事の実施

(a) 工事の実施（造成等）に伴う発生土

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事の実施（造成等）に伴う発生土の搬出が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

② 評価結果

ア 工事の実施

(a) 工事の実施（造成等）に伴う廃棄物

a. 環境影響の回避・低減に係る評価

工事の実施（造成等）に伴う発生土の搬出は、実施区域内においてできる限り有効利用を図り、基礎工事及び仮設備工事に伴い発生する土は、法令等の基準を満たした受入れ先の基準に基づき適正に処理、処分する。

発生土の搬出及び埋立等にあたっては、「盛土規制法」及び「神奈川県土砂の適正処理に関する条例」を遵守する。

以上のことから、発生土については、実行可能な範囲内でできる限り低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

第 4 節　植物・動物・生態系

植物・動物・生態系の予測評価について、以下に整理を行った。なお、実施区域外の鉄塔のうち、森戸川源流部周辺に存在する鉄塔 No.34～No.37 付近については、環境配慮の必要性を別途検討し、自主的に実施する環境保全対策を資料編に示した。

1. 植物

(1) 予測事項

対象事業の実施により変化する、植物の生育地の変化の程度とした。

(2) 予測方法

植物の生育環境と事業計画を重ね合わせることにより、生育地が変化する程度を定量的に把握し予測した。

予測の基本的な考え方は図 5.2-56 に示すとおりである。

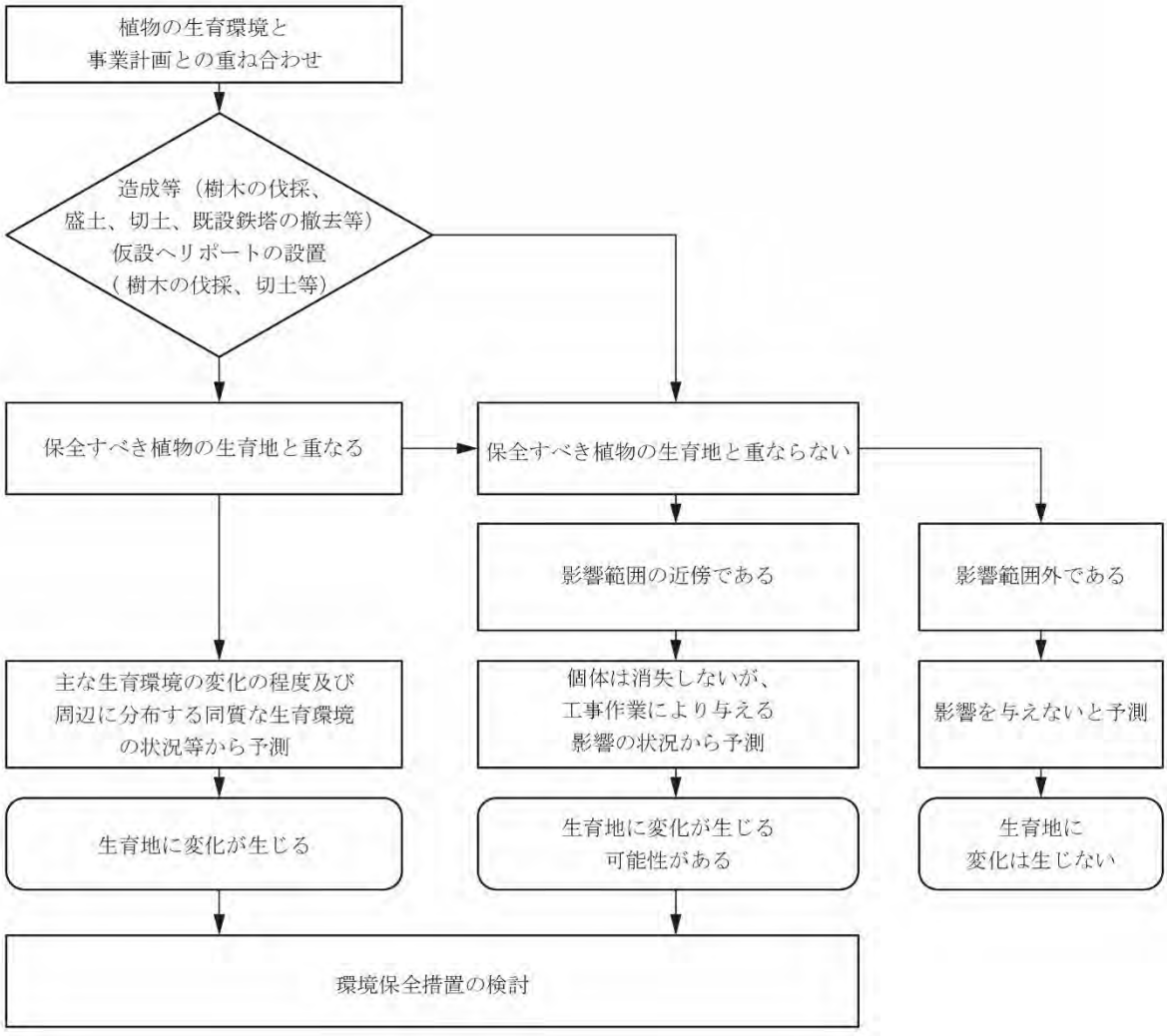


図 5.2-56　予測の基本的な考え方（植物）

(3) 予測地域及び地点

調査地域と同じとした（図 5.2-3(1)～(2) p.5-2-21～22 参照）。

なお、実施区域である東京南線 3,4 号線及び仮設ヘリポートの調査範囲は、やや離れた場所にあることから、予測結果については実施区域ごとに整理して予測した。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

工事による影響が最大となる時期（基礎工事～組立工事施工時）とした。

(5) 予測結果

① 重要な植物種の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な植物種の予測結果を表 5.2-138(1)～(5)に示す。

表 5.2-138(1)　重要な植物種の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ナチシダ （イノモトソウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体、早春季 1 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-79, p5-2-81
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で計 2 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・1 箇所で計 1 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
ヒロハトリゲモ （トチカガミ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 10 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 10 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
エビネ （ラン科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・早春季 5 箇所 54 個体、春季 3 箇所 5 個体、夏季 9 箇所 64 個体、秋季 2 箇所 12 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78～p5-2-81
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・15 箇所で合計 104 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・4 箇所で合計 31 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
キンラン （ラン科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 9 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78～p5-2-79, p5-2-82
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・4 箇所で合計 10 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-138(2)　重要な植物種の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
マヤラン （ラン科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 1 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
タシロラン （ラン科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 8 箇所 50 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78～p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・8 箇所で合計 50 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
アケボノシュスラン （ラン科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・早春季 2 箇所 16 個体、春季 1 箇所 17 個体、夏季 2 箇所 10 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78, p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・5 箇所で合計 43 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
ハチジョウシュスラン （ラン科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB 類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・早春季 4 箇所 46 個体、秋季 2 箇所 34 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・6 箇所で合計 80 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-138(3)　重要な植物種の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
カゲロウラン （ラン科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・早春季 7 箇所 51 個体、夏季 2 箇所 8 個体、秋季 3 箇所 40 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78～p5-2-79
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・12 箇所で合計 99 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
センダイスゲ （カヤツリグサ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 50 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80, p5-2-83
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 50 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に直接的な変化は生じないと予測される。 ・生育地は実施区域外ではあるが、工事用車両の走行ルートの脇に生育していることから、作業員の立入り等によって生育状況に変化が生じる可能性が考えられる。
ムカゴネコノメソウ （ユキノシタ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・早春季 14 箇所 2,130 個体、春季 1 箇所 20 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・14 箇所で合計 2,150 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
ウスゲチョウジタデ （アカバナ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 2 箇所 6 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80～p5-2-81
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 3 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・1 箇所で 3 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-138(4)　重要な植物種の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
シタキソウ (キョウチクトウ科)	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 1 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
ヤマホオズキ (ナス科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠB類 神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 3 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
ミウライボタ (モクセイ科)	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 2 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78, p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・3 箇所で合計 4 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
タニジャコウソウ (シソ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 4 個体、秋季 3 箇所 28 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78～p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・4 箇所で合計 32 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-138(5)　重要な植物種の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
カリガネソウ （シソ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 50 個体、秋季 1 箇所 20 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・2 箇所で合計 70 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
ツルギキョウ （キキョウ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 5 箇所 15 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 3 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-78, p5-2-78
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・10 箇所で合計 20 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
アキハギク （キキョウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 7 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・1 箇所で 7 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。
オグルマ （キク科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域近傍の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 20 個体、秋季 1 箇所 30 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-80
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・2 箇所で合計 50 個体が確認されたが、実施区域外であり、個体及び生育環境は消失せず、生育地に変化は生じないと予測される。

② 重要な群落の予測結果

調査地域では重要な植物群落は確認されなかったため、予測は行っていない。

(6) 環境保全対策の検討及び検討結果

① 環境保全対策を検討する重要な植物種

予測の結果、生育地に変化が生じる又は変化が生じる可能性があり、環境保全対策の検討が必要とされた植物種を表 5.2-139 に示す。

なお、センダイスゲは実施区域から離れた場所にあるものの、工事用車両の走行ルート脇に生育していることから、間接的に影響を受ける可能性が考えられたため、環境保全対策を検討した。

表 5.2-139　環境保全対策を検討する重要な植物種

種名	実施区域内
センダイスゲ	1 箇所 50 個体

② 植物に係る環境保全対策

予測の結果、生育地に変化が生じる又は変化が生じる可能性があり、環境保全対策の検討が必要とされた植物種を表 5.2-140 に示す。

表 5.2-140　植物に係る環境保全対策

種名	保全対象個体	環境保全対策 対策の内容	種類
センダイスゲ	1 箇所 50 個体	・目印としてカラーテープ、仮保護柵等を事前に設置するとともに、作業員への情報周知等により、工事による生育地の改変を回避する。	回避
植物全般		・工事用地のうち、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育環境を保全するための植樹（緑化）を行う。植栽する種は、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。	最小化

注）環境保全対策の種類

回　避：ある行為の全部又は一部を行わないことにより、環境影響をできる限り回避すること。

最小化：ある行為の実施規模又は程度の制限、若しくは影響を受けた環境を修復、再生あるいは復元することにより環境への影響をできる限り最小化すること。（環境影響を矯正することや軽減することを含む）

③ 事業の計画段階における配慮事項

事業の計画段階において、葉山町上山口の寺前谷戸では重要な植物種が確認されており、地元の自然保護団体「寺前復元プロジェクト」と協議を行って工事用地を選定し、影響の回避を行った。また、ハチジョウシュスランの生育地 1 箇所が工事用地と重なっていたことから、計画の見直しを行い、運搬設備用地（モノレールルート）のルート変更を行った。その結果、影響は回避された。

植物の事業計画段階における保全対策は表 5.2-141 に示すとおりである。

表 5.2-141　植物の事業計画段階における環境保全対策

種名	保全対象個体	環境保全対策 対策の内容	種類
カリガネソウ	1 箇所 50 個体	地元保護団体との協議により、生育地を工事用地の選定場所から除外した。	回避
ハチジョウシュスラン	1 箇所 9 個体	事業計画の見直しにより、運搬設備用地（モノレールルート）のルート変更を行った。	回避

注）環境保全対策の種類

回　避：ある行為の全部又は一部を行わないことにより、環境影響をできる限り回避すること。

(7) 評価

① 評価の手法

工事の実施（造成等、仮設ヘリポートの設置）による植物への影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避若しくは低減されているかを検討し、環境保全についての配慮が適正になされているかを評価した。

② 評価結果

・センダイスゲ

生育地に変化が生じる可能性があると予測されたため、環境保全対策として、仮保護柵等の事前設置及び情報周知等による回避を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると評価する。

・植物全般

植物全般への環境保全措置として、必要に応じて伐採区域への植樹（緑化）による影響の最小化を行うこととしたほか、事業の計画段階において影響の回避を行った。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると評価する。

2. 動物

(1) 予測事項

対象事業の実施により変化する、動物の生息地の変化の程度とした。

(2) 予測方法

動物の生息環境と事業計画を重ね合わせることにより、生息地が変化する程度を定量的に把握し予測した。また、定量的に把握することが困難な場合は、生態等に関する知見や類似事例を参考にする方法等を用いて定性的に予測した。

予測の基本的な考え方は図 5.2-57 に示すとおりである。

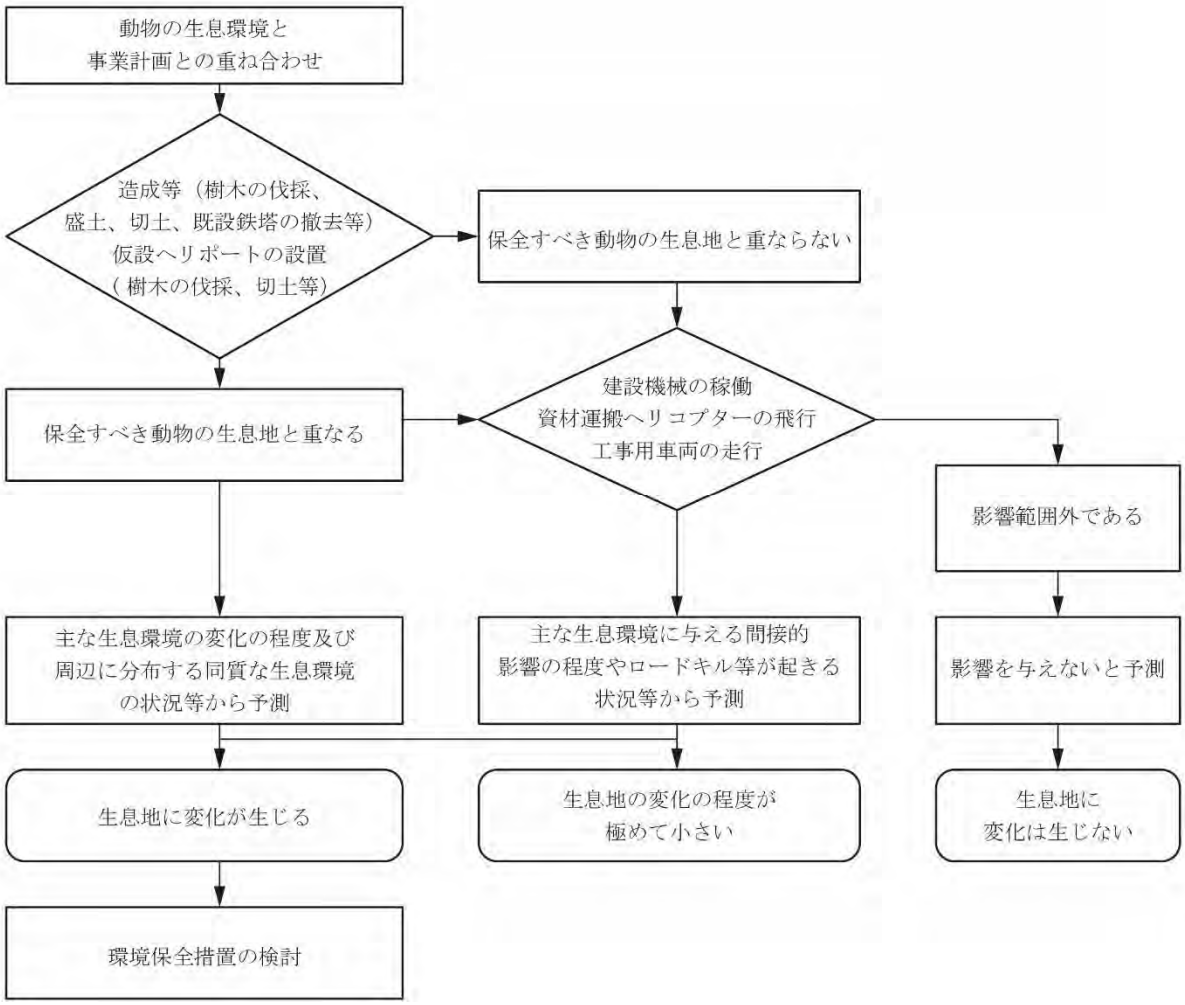


図 5.2-57　予測の基本的な考え方（動物）

(3) 予測地域及び地点

調査地域と同じとした（図 5.2-10(1)～(2) p.5-2-87～88 及び図 5.2-11 p.5-2-89 参照）。

なお、実施区域である東京南線 3,4 号線及び仮設ヘリポートの調査範囲は、やや離れた場所にあることから、予測結果については実施区域ごとに整理して予測した。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

工事による影響が最大となる時期（基礎工事～組立工事施工時）とした。

(5) 予測結果

① 動物相

ア 哺乳類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な哺乳類の予測結果を表 5.2-142 に示す。

表 5.2-142　重要な哺乳類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ニホンイタチ （イタチ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-133
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ，Ⅲ　全体面積：140.07ha（23.17%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の主な生息環境は草地及び水辺環境と考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域の草地及び水辺環境のうち、実施区域が占める面積は 0.07ha（0.05%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 138.02ha と広く存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種が確認された草地及び水辺環境は工事と直接影響がある場所ではないことから影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は小さいと予測される。

イ 鳥類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な鳥類の予測結果を表 5.2-143(1)～(11)に示す。

表 5.2-143(1)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
アオバト (ハト科)	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：注目種、繁殖期：注目種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体、春季 3 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-144～p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・秋季及び春季に確認され、渡り途中と考えられる個体が一時的に確認されたものであり、予測地域では繁殖していないと考えられ、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。
ミゾゴイ (サギ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・春季 3 箇所 3 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 8 箇所 8 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 2 個体、巣 1 個
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季に鳴き声の確認が集中した谷戸周辺では、繁殖地が存在する可能性があった。聞き取り調査及び追加調査の結果、巣が 1 箇所特定され、実施区域とは重ならなかった。 ・繁殖地は建設機械の稼働する工事用地、工事用車両が通行する道路、資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから尾根を介在して離れており、影響範囲外であった。 ・そのほかの確認位置では、いずれも継続して個体は確認されておらず、周辺に巣も存在しなかったため、渡り途中に通過した個体等であると考えられた。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-143(2)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
カッコウ （カッコウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-143
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・秋季及び春季に確認され、渡り途中と考えられる個体が一時的に確認されたものであり、予測地域では繁殖していないと考えられ、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。
コチドリ （チドリ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：注目種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・繁殖期 2 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ，Ⅲ　全体面積：140.07ha（23.17%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・繁殖期に砂礫地で 1 つがいを含む 3 個体が確認され周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地から離れている（約 300m 以上）。 ・工事用車両が通行する道路からは近い場所があるが（約 15m）、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから離れており（約 2km 以上）、影響範囲外である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
タシギ （シギ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：注目種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【仮設ヘリポート】 ・冬季に確認され、予測地域では冬鳥として生息している。 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田等であり、実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路、資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからも尾根を介在して離れており、影響範囲外である。 ・これらのことから、生息地の変化は生じないと予測される。

表 5.2-143(3)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
イソシギ （シギ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・冬季に河川で 1 個体確認されたのみであり、予測地域では冬鳥として生息していると考えられる。 ・本種の生息環境は主に河川であり、実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地からは離れており（約 250m 以上）、影響範囲外である。 ・工事用車両が通行する道路とは隣接しているが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから離れており（約 300m 以上）、影響範囲外である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ミサゴ （ミサゴ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：準絶滅危惧、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 2 箇所 2 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、秋季 4 箇所 4 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142,p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	・本種は「ウ　猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ　猛禽類の予測結果」に集約した。
ツミ （タカ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-143,p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	・本種は「ウ　猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ　猛禽類の予測結果」に集約した。

表 5.2-143(4)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ハイタカ （タカ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	・本種は「ウ 猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ 猛禽類の予測結果」に集約した。
オオタカ （タカ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	・本種は「ウ 猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ 猛禽類の予測結果」に集約した。
サシバ （タカ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142,p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	・本種は「ウ 猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ 猛禽類の予測結果」に集約した。	・本種は「ウ 猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ 猛禽類の予測結果」に集約した。

表 5.2-143(5)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ノスリ （タカ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 10 箇所 11 個体、春季 2 箇所 2 個体、秋季 4 箇所 6 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	・本種は「ウ　猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ　猛禽類の予測結果」に集約した。
フクロウ （フクロウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 1 箇所 1 個体、春季 9 箇所 10 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・冬季から春季に複数箇所で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地に隣接する箇所があるが、周辺はハイキングコースとして整備され、登山者が頻繁に往来する場所であることから、付近に繁殖地が存在する可能性は低いと考えられる。 ・工事用車両が通行する道路から一定の距離離離れており（約 60m 以上）、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからやや近い箇所もあるが（約 30m）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・繁殖期に確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、実施区域とは重ならない。 ・工事用車両が通行する道路からは離れており（約 170m 以上）、影響範囲外である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからやや近いが（約 40m）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-143(6)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
アオバズク （フクロウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-143～p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季に複数箇所で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地から一定の距離離れている（約 60m 以上）。 ・工事用車両が通行する道路からは離れており（約 140m 以上）、影響範囲外である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから一定の距離離れており（約 100m 以上）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ハヤブサ （ハヤブサ科）	指定・選定状況		種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 非繋殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-143
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	・本種は「ウ　猛禽類」の調査対象種でもあり、本種の予測結果は、「ウ　猛禽類の予測結果」に集約した。
サンショウクイ （サンショウクイ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-143
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季の渡り途中の個体が 2 回確認されたのみであり、予測地域では繁殖していないと考えられ、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-143(7)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
サンコウチョウ (カササギヒタキ科)	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 4 個体、繁殖期 4 箇所 5 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142,p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に沢地や河川周辺の樹林で鳴き声が確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路から離れており（約 300m 以上）、影響範囲外である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからやや近い箇所もあるが（約 20m）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
モズ (モズ科)	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：減少種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 5 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に草地環境や樹林環境で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地から一定の距離離れている（約 80m 以上）。 ・工事用車両が通行する道路からは離れており（約 140m 以上）、影響範囲外である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからやや近い箇所もあるが（約 100m）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ツバメ (ツバメ科)	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：減少種
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 6 箇所 15 個体、繁殖期 4 箇所 13 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-143,p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ，Ⅲ　全体面積：140.07ha（23.17%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・春季から繁殖期に主に人家周辺で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路、資材運搬ヘリコプターの飛行ルートに隣接する箇所もあるが、付近に本種の繁殖地（建物の軒下等）は存在しないため、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-143(8)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヤブサメ （ウグイス科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 11 箇所 14 個体、繁殖期 4 箇所 4 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に樹林環境で確認され、周辺の樹林内に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路、資材運搬ヘリコプターの飛行ルートに隣接する箇所があるが、周辺はハイキングコースとして整備され、登山者が頻繁に往来する場所であることから、付近に繁殖地が存在する可能性は低いと考えられる。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
センダイムシクイ （ムシクイ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 2 個体、繋殖期 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-143～p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に樹林環境で確認され、周辺の樹林内に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路からは離れており（約 300m 以上）、影響範囲外である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからやや近い箇所もあるが（約 60m）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
セッカ （セッカ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：減少種、繁殖期：減少種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・繁殖期 2 箇所 4 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に草地環境で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地から離れており（約 700m 以上）、影響範囲外である。 ・工事用車両が通行する道路とは近い場所があるが（約 20m）、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから離れており（約 3km 以上）、影響範囲外である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-143(9)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
キビタキ （ヒタキ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：減少種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 11 箇所 11 個体、繁殖期 4 箇所 4 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に樹林環境で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路、資材運搬ヘリコプターの飛行ルートに隣接する箇所があるが、周辺はハイキングコースとして整備され、登山者が頻繁に往来する場所であることから、付近に繁殖地が存在する可能性は低いと考えられる。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・春季から繁殖期に樹林環境で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地及び工事用車両が通行する道路から一定の距離離れている（約 40m 以上）。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから一定の距離離れており（約 80m 以上）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
オオルリ （ヒタキ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 3 個体、繁殖期 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142,p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に樹林環境で確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地から一定の距離離れている（約 50m 以上）。 ・工事用車両が通行する道路からは離れており（約 250m 以上）、影響範囲外である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートから一定の距離離れており（約 120m 以上）、鉄塔 1 基当たりの運搬期間は一時的（4 時間/16 日）であり、影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-143(10)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
キセキレイ （セキレイ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：減少種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 5 箇所 5 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-143～p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に河川沿い確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地からは離れており（約 220m 以上）、影響範囲外である。 ・工事用車両が通行する道路に隣接する場所があるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・資材運搬ヘリコプターの飛行ルートからは離れており（約 200m 以上）、影響範囲外である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
カワラヒワ （アトリ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 繁殖期：減少種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 13 箇所 26 個体、繁殖期 6 箇所 15 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-145
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・春季から繁殖期に確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、いずれも実施区域とは重ならない。 ・建設機械が稼働する工事用地や工事用車両が通行する道路、資材運搬ヘリコプターの飛行ルートに隣接する箇所があるが、周辺はハイキングコースや道路として整備され、登山者が頻繁に往来する場所であることから、付近に繁殖地が存在する可能性は低いと考えられる。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・春季に確認され、周辺に繁殖地が存在する可能性があるが、実施区域とは重ならない。 ・確認場所は工事用車両が通行する道路に隣接しているが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 45 日）であり影響は軽微である。 ・建設機械が稼働する工事用地や資材運搬ヘリコプターの飛行ルートとは離れており、影響範囲外である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-143(11)　重要な鳥類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
クロジ （ホオジロ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：減少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・冬季 6 箇所 14 個体、春季 1 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-142,p5-2-144
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・冬季から春季に樹林環境で確認され、予測地域では冬鳥として生息している。 ・本種の生息環境は、樹林環境であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域の樹林環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布している同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

ウ 猛禽類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な猛禽類の予測結果を表 5.2-144(1)～(5)に示す。

表 5.2-144(1)　重要な猛禽類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ミサゴ (ミサゴ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：準絶滅危惧、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 9 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 9 回確認されている。 ・令和 6 年繁殖期に 24 回確認されている。 ・鳥類調査では、冬季 2 箇所 2 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、秋季 4 箇所 4 個体確認されている。
	確認位置記載ページ		p5-2-142, p5-2-144, p5-2-166
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・主に冬季に確認され、多くの個体が冬鳥として生息し、予測地域では繁殖していないと考えられる。 ・本種の行動範囲は広く、予測地域全体を利用していると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ハチクマ (タカ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 2 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 2 回確認されている。 ・令和 6 年繁殖期に 2 回確認されている。
	確認位置記載ページ		p5-2-168
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・確認回数は非常に少なく、渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられ、予測地域では繁殖していないと考えられる。また、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-144(2)　重要な猛禽類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ツミ (タカ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：情報不足
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 1 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 1 回確認されている。 ・鳥類調査では、冬季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体、確認されている。
	確認位置記載ページ		p5-2-143,p5-2-145,p5-2-170
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・確認回数は非常に少なく、渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられ、予測地域では繁殖していないと考えられる。また、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・冬季のみの確認であり、偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられ、予測地域では繁殖していないと考えられる。また、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。
ハイタカ (タカ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 4 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 4 回確認されている。 ・令和 6 年繁殖期に 7 回確認されている。 ・鳥類調査では、冬季1箇所1個体確認された。
	確認位置記載ページ		p5-2-141,p5-2-171
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・冬季のみ確認され、予測地域では冬鳥として生息している。 ・本種の行動範囲は広く、予測地域全体を利用していると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-144(3)　重要な猛禽類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
オオタカ （タカ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期から令和 6 年繁殖期かけての調査で、4 地区で生息が確認され、うち 3 つがいの営巣地が特定された。 ・鳥類調査では、冬季 1 箇所 1 個体確認された。
	確認位置記載ページ		p5-2-144, p5-2-148～p5-2-150, p5-2-152～p5-2-154, p5-2-156～p5-2-158
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・4 つがいの生息地が予測地域に存在した。 ・営巣地は実施区域と重ならない。 ・営巣地が特定されている 3 つがいの営巣中心域は実施区域と重ならないが、1 つがいについては実施区域外の工事用地と重なる。 ・3 つがいの高利用域の一部と実施区域及び実施区域外の工事用地が重なるが、それぞれ 9 メッシュ（6.5%）、10 メッシュ（8.3%）、7 メッシュ（6.1%）とわずかであり、周辺には重ならない高利用域が広く存在する。 ・工事中のヘリコプターの飛行は、2 つがいは影響範囲外であるが、1 つがいは飛行ルートから近く、生息環境に影響が生じる可能性が考えられる。 ・これらのことから、生息地に変化が生じる可能性があると予測される。
サシバ （タカ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 1 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 6 回確認されている。 ・令和 6 年繁殖期に 1 回確認されている。 ・鳥類調査では、春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体確認されている。
	確認位置記載ページ		p5-2-142, p5-2-144, p5-2-174
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・全体的に確認回数は少なく、渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体、巣立ち後に分散した個体が確認されたものと考えられ、予測地域では繁殖していないと考えられる。また、主要な利用域にもなっていない。このため、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-144(4)　重要な猛禽類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ノスリ （タカ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 12 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 3 回確認されている。 ・令和 6 年繁殖期に 18 回確認されている。 ・鳥類調査では、冬季 10 箇所 11 個体、春季 2 箇所 2 個体、秋季 4 箇所 6 個体確認されている。
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-145, p5-2-176
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・主に秋季から春季にかけて、越冬個体や渡り途中に通過した個体、偶発的に飛来した個体が確認され、予測地域では繁殖していないと考えられる。 ・本種の行動範囲は広く、予測地域全体を利用していると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・秋季及び春季に越冬個体と考えられる個体が確認され、予測地域では繁殖していないと考えられる。 ・本種の行動範囲は広く、予測地域全体を利用していると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-144(5)　重要な猛禽類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ハヤブサ （ハヤブサ科）	指定・選定状況		種の保存法：国内野生動植物種 環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック 非繁殖期：希少種、繁殖期：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域及び周辺の確認状況		・令和 4 年繁殖期に 4 回確認されている。 ・令和 5 年繁殖期に 1 回確認されている。 ・令和 6 年繁殖期に 2 回確認されている。 ・鳥類調査では、冬季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 2 個体確認されている。
	確認位置記載ページ		p5-2-142～p5-2-143,p5-2-178
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・主に秋季から春季にかけて、越冬個体や偶発的に飛来した個体が確認され、予測地域では繁殖していないと考えられる。 ・本種の行動範囲は広く、予測地域の全体を利用していると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息状況の変化の程度は極めて小さいと予測される。

エ 爬虫類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な爬虫類の予測結果を表 5.2-145(1)～(4)に示す。

表 5.2-145(1)　重要な爬虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヒガシニホントカゲ（トカゲ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 4 箇所 4 個体、夏季 14 箇所 14 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-182～p5-2-185
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は幅広く、予測地域全体に分布すると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は幅広く、予測地域全体に分布すると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 45 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-145(2)　重要な爬虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
シマヘビ （ナミヘビ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-183
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は幅広く、予測地域全体に分布すると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
アオダイショウ （ナミヘビ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 3 個体、夏季 7 箇所 7 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-182～p5-2-184
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は幅広く、予測地域全体に分布すると考えられ、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-145(3)　重要な爬虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヒバカリ （ナミヘビ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 3 箇所 3 個体、秋季 4 箇所 5 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-182,p5-2-184
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の主な生息環境は、湿地環境の水田や樹林環境等であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ヤマカガシ （ナミヘビ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体
	実施区域外の確認状況		・夏季 6 箇所 6 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-182～p5-2-185
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の主な生息環境は、湿地環境の水田や樹林環境等であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の主な生息環境は、湿地環境の水田や樹林環境等であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 45 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-145(4)　重要な爬虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ニホンマムシ （クサリヘビ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 4 箇所 4 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-182～p5-2-184
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ　全体面積：562.55ha（93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の主な生息環境は、樹林環境の沢地や湿地環境の水田であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

オ 両生類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な両生類の予測結果を表 5.2-146(1)～(2)に示す。

表 5.2-146(1)　重要な両生類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
トウキョウサンショウウオ（サンショウウオ科）	指定・選定状況		種の保存法：特定第二種国内希少野生動植物種 環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類 神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 7 箇所 16 個体、卵嚢 6 個、夏季 6 箇所 25 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-189～p5-2-190
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田や湿地、林床等であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・聞き取り調査の結果、実施区域周辺の生息地が判明したが、地元の自然保護団体との協議の結果、生息地を避けて工事用地を選定したため、生息地は変化しない。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
アカハライモリ（イモリ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅰ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 3 個体、夏季 1 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-191
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田や湿地であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・聞き取り調査の結果、実施区域周辺の生息地が判明したが、地元の自然保護団体との協議の結果、生息地を避けて工事用地を選定したため、生息地は変化しない。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田や湿地であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・生息環境の周辺に工事用車両の走行する道路は存在しないため、ロードキルは発生しない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-146(2)　重要な両生類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
アズマヒキガエル（ヒキガエル科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-188～p5-2-190
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、樹林環境の溜め池や湿地であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ムカシツチガエル（アカガエル科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・早春季 2 箇所 5 個体、春季 2 箇所 2 個体、夏季 6 箇所 13 個体、秋季 4 箇所 9 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-190～p5-2-191
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、樹林環境の溜め池や湿地であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・生息環境の周辺に工事用車両の走行する道路は存在しないため、ロードキルは発生しない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は、樹林環境の溜め池や湿地であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・生息環境の周辺に工事用車両の走行する道路は存在しないため、ロードキルは発生しない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
シュレーゲルアオガエル（アオガエル科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 30 個体、夏季 2 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-191
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田や湿地であり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならない。 ・生息環境の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 45 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

カ 昆虫類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な昆虫類の予測結果を表 5.2-147(1)～(14)に示す。

表 5.2-147(1)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ホソミオツネントンボ（アオイトトンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田や湿地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ホソミイトトンボ（イトトンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 4 個体、秋季 3 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204, p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、湿地環境の水田や湿地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
キイトトンボ（イトトンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、湿地環境の池沼や湿地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(2)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ハグロトンボ （カワトンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 5 箇所 15 個体、夏季 5 箇所 15 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206～p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は主に河川周辺であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は主に河川周辺であり、生息環境の一部と実施区域が重ならない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ミルンヤンマ （ヤンマ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204, p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ, Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は主に山地の河川源流から上流であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.84ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.95ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(3)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヤマサナエ （サナエトンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 3 個体、初夏季 5 箇所 5 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204, p5-2-206～p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は主に丘陵地から山地の河川であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.84ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.95ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は主に丘陵地から山地の河川であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.37ha（1.50%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 24.52ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
シオヤトンボ （トンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は、湿地環境の池沼や湿地、水田であるが、確認場所周辺の生息環境と実施区域とは重ならない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ナツアカネ （トンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、湿地環境の池沼や湿地、水田であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(4)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
マユタテアカネ （トンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 2 個体、秋季 4 箇所 12 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は、平地から山地の湿地、水田であるが、確認場所周辺の生息環境と実施区域とは重ならない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
リスアカネ （トンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、平地から山地の池沼であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
オナガササキリ （キリギリス科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、平地から丘陵地にかけての草地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.05ha（0.03%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 137.12ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(5)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ケラ （ケラ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体、夏季 4 箇所 5 個体、秋季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-205～p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、低地の湿地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は、低地の湿地であるが、確認場所周辺の生息環境と実施区域とは重ならない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ヒロバネカンタン （マツムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、平地から丘陵地にかけての草地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.05ha（0.03%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 137.12ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ｼｮｳﾘｮｳﾊﾞｯﾀﾓﾄﾞｷ （バッタ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 2 箇所 7 個体、秋季 4 箇所 7 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204～p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、平地から丘陵地にかけての草地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.05ha（0.03%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 137.12ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(6)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
アシマダラアカサシガメ（サシガメ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 4 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、丘陵地及び低山の樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ヤブガラシグンバイ（グンバイムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 2 個体、初夏季 4 箇所 7 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204～p5-2-205, p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・本種はつる植物であるヤブカラシに依存し、ヤブカラシが生育する環境が生息地となる。本種の確認箇所はすべて実施区域外であるため、生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
イネカメムシ（カメムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 2 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、平地から丘陵地にかけての草地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.05ha（0.03%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 137.12ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(7)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
オオアメンボ （アメンボ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 4 個体、初夏季 2 箇所 5 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅱ　全体面積：423.68ha（70.08%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、丘陵地から山間部の周辺を樹林に囲まれた池沼などであり、現地調査で確認された場所は実施区域とは重ならないことから、生息地の変化の程度は生じないと予測される。
コミズムシ類 （ミズムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 2 箇所 7 個体、秋季 1 箇所 10 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206～p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は。主に池沼、水田などの止水域であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は。主に池沼、水田などの止水域であるが、確認場所周辺の生息環境と実施区域とは重ならない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
コオイムシ （コオイムシ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧 神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は。主に池沼、水田などの止水域であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(8)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
オオミノガ （ミノガ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ミドリシジミ （シジミチョウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種は幼虫の食草であるハンノキに依存し、ハンノキが生育する環境が生息地となる。ハンノキの確認箇所は実施区域外であるため、生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
ハマオモトヨトウ （ヤガ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-205
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種はハマオモト等のヒガンバナ科の植物に依存し、これらの植物が生育する環境が生息地となる。本種の確認箇所は実施区域外であるため、生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-147(9)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ウシアブ （アブ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 6 箇所 10 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204, p5-2-206～p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.37ha（1.52%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 24.22ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
スジヒラタガムシ （ガムシ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 4 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は。主に池沼、水田などの止水域であるが、確認場所周辺の生息環境と実施区域とは重ならない。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ヒラタクワガタ本土亜種 （クワガタムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体
	実施区域外の確認状況		・なし
	確認位置記載ページ		p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.37ha（1.52%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 24.22ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(10)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ミヤマクワガタ （クワガタムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204, p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ウバタマムシ （タマムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-205
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種はアカマツ、クロマツ等のマツ類に依存し、これらの植物が生育する環境が生息地となる。本種の確認箇所は実施区域外のクロマツ植林であるため、生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
タマムシ （タマムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・夏季 2 箇所 4 個体
	実施区域外の確認状況		・初夏季 3 箇所 4 個体、夏季 6 箇所 6 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204～p5-2-207
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.37ha（1.52%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 24.22ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(11)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヘイケボタル （ホタル科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 4 箇所 10 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅱ　全体面積：1.21ha（0.20%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、流れの緩やかな河川や水田であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.02ha（2.19%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 0.90ha である。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
マメハンミョウ （ツチハンミョウ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は、宿主であるバッタ類が生息する草地環境が生息地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.05ha（0.03%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 137.12ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ルリカミキリ （カミキリムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-205
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(12)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
シロスジカミキリ（カミキリムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季産卵痕 1 箇所
	確認位置記載ページ		p5-2-205
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ミドリカミキリ（カミキリムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-205
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
キイロトラカミキリ（カミキリムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(13)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
トラフカミキリ（カミキリムシ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・初夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
トサヤドリキバチ（ヤドリキバチ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ヤマトアシナガバチ（スズメバチ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足 神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・夏季 2 箇所 2 個体
	実施区域外の確認状況		・初夏季 3 箇所 3 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204～p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅲ　全体面積：561.34ha（92.85%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地及び草地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.86ha（0.35%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 533.18ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-147(14)　重要な昆虫類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
モンスズメバチ（スズメバチ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 3 箇所 5 個体、秋季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204, p5-2-206
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は樹林地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 396.06ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ナミルリモンハナバチ（ミツバチ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 2 箇所 3 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-204～p5-2-205
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の生息環境は草地や農耕地であり、生息環境の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息環境のうち、実施区域が占める面積は 0.05ha（0.03%）とわずかであり、周辺に分布する同質の環境は 137.12ha と広く存在する。 ・これらのことから、生息地の変化の程度は極めて小さいと予測される。

キ 陸産貝類、クモ類の予測結果

(a) 陸産貝類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要な陸産貝類の予測結果を表 5.2-148(1)～(4)に示す。

表 5.2-148(1)　重要な陸産貝類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
サドヤマトガイ（ヤマタニシ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-214
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
チュウゼンジギセル（キセルガイ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 5 箇所 9 個体、夏季 3 箇所 9 個体、秋季 1 箇所 8 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212,p5-2-214
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
スルガギセル（キセルガイ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 2 箇所 3 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 4 箇所 4 個体、夏季 2 箇所 3 個体、秋季 6 箇所 8 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212,p5-2-214～p5-2-215
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・工事の実施により個体及び生息環境が一部消失し、生息地に変化が生じるが、実施区域外に生息地が広く存在すること、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであることから、生息地の変化の程度は小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-148(2)　重要な陸産貝類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
タカキビ （シタラ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・春季 2 箇所 4 個体、夏季 1 箇所 2 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 3 個体、夏季 4 箇所 6 個体、秋季 4 箇所 16 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212～p5-2-213
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・工事の実施により個体及び生息環境が一部消失し、生息地に変化が生じるが、実施区域外に生息地が広く存在すること、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであることから、生息地の変化の程度は小さいと予測される。
レンズガイ （シタラ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 8 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
ヒゼンキビ （シタラ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 3 箇所 3 個体、夏季 8 箇所 11 個体、秋季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212～p5-2-215
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-148(3)　重要な陸産貝類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヒメハリマキビ（シタラ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 2 個体、夏季 1 箇所 2 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 8 箇所 16 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 5 箇所 23 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212～p5-2-215
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・工事の実施により個体及び生息環境が一部消失し、生息地に変化が生じるが、実施区域外に生息地が広く存在すること、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであることから、生息地の変化の程度は小さいと予測される。
ウメムラシタラ（シタラ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 3 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 9 箇所 15 個体、夏季 13 箇所 27 個体、秋季 18 箇所 101 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212～p5-2-215
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・工事の実施により個体及び生息環境が一部消失し、生息地に変化が生じるが、実施区域外に生息地が広く存在すること、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであることから、生息地の変化の程度は小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
オオウエキビ（シタラ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足
	実施区域内の確認状況		・春季 1 箇所 2 個体
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 3 箇所 4 個体、秋季 2 箇所 2 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212～p5-2-215
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・工事の実施により個体及び生息環境が一部消失し、生息地に変化が生じるが、実施区域外に生息地が広く存在すること、実施区域が占める面積は 1.82ha（0.46%）とわずかであることから、生息地の変化の程度は小さいと予測される。

表 5.2-148(4)　重要な陸産貝類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
ヒメカサキビ (シタラ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 2 個体、夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
キヌビロウドマイマイ (ナンバンマイマイ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 2 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 3 箇所 5 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-212～p5-2-214
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。

(b) クモ類の予測結果

工事の実施による影響に係る重要なクモ類の予測結果を表 5.2-149(1)～(2)に示す。

表 5.2-149(1)　重要なクモ類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
カネコトタテグモ (カネコトタテグモ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 18 箇所 56 個体、古巣 1 個、夏季 3 箇所 5 個体、秋季 3 箇所 5 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-219～p5-2-222
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
キノボリトタテグモ (トタテグモ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 5 箇所 1 個体、古巣 26 個、夏季 1 箇所古巣 1 個、秋季 1 箇所古巣 1 個
	確認位置記載ページ		p5-2-219～p5-2-222
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】、【仮設ヘリポート】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
キシノウエトタテグモ (トタテグモ科)	指定・選定状況		環境省レッドリスト：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 2 箇所 7 個体、夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-220
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ，Ⅲ　全体面積：561.34ha（92.85%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。

表 5.2-149(2)　重要なクモ類の予測結果

種名（科名）	予測等の結果		
コガネグモ （コガネグモ科）	指定・選定状況		神奈川県レッドデータブック：要注意種
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-221
	生息環境（環境類型区分）		Ⅲ　全体面積：138.86ha（22.97%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。
ドウシグモ （ホウシグモ科）	指定・選定状況		環境省レッドリスト：情報不足 神奈川県レッドデータブック：準絶滅危惧
	実施区域内の確認状況		・なし
	実施区域外の確認状況		・春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体
	確認位置記載ページ		p5-2-221
	生息環境（環境類型区分）		Ⅰ　全体面積：422.47ha（69.88%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・生息地は実施区域外であり、個体及び生息環境は消失せず、生息地に変化は生じないと予測される。

(6) 環境保全対策の検討及び検討結果

① 環境保全対策を検討する重要な動物種

予測の結果、生息地に変化が生じる又は変化が生じる可能性があり、環境保全対策の検討が必要とされた動物を表 5.2-150 に示す。

なお、重要な陸産貝類の 5 種は予測の結果、生息地の変化の程度は小さいと予測されたが、個体及び生息環境が一部消失することから、環境保全対策の検討を行った。

表 5.2-150　環境保全対策の検討内容

分類群	種名	実施区域周辺における生息状況
鳥類及び猛禽類	オオタカ	・高利用域の一部が実施区域と重なる。 ・営巣中心域の一部、高利用域の一部が実施区域外の工事用地と重なる。 ・このことから、生息地に変化が生じる可能性がある。
陸産貝類	スルガギセル	・工事の実施により個体及び生息環境が一部消失し、生息地に変化が生じる
	タカキビ	
	ヒメハリマキビ	
	ウメムラシタラ	
	オオウエキビ	

② 動物に係る環境保全対策

動物に係る環境保全対策を表 5.2-151 に示す。

表 5.2-151　動物に係る環境保全対策

種名	環境保全対策 対策の内容	種類
オオタカ	営巣中心域に含まれる実施区域外の鉄塔工事用地について、以下の対策を実施する。 ・影響が大きい工種（基礎工事、組立工事等）は、可能な限り繁殖期（1 月～7 月）を避け、非繁殖期（8 月～12 月）に実施する。 ・樹木の伐採範囲は最小化するとともに、伐採時期は繁殖期（1 月～7 月）を避け、非繁殖期（8 月～12 月）に実施する。 ・影響が大きいと考えられるヘリコプター運搬については、代わりの運搬方法（モノレール運搬等）を検討し実施する。 ・施工箇所の地形等の関係から、やむを得ずヘリコプター運搬を選択する場合には、繁殖期（1 月～7 月）を避け、非繁殖期（8 月～12 月）に実施する。	最小化
	高利用域に含まれる実施区域内の鉄塔工事用地及び実施区域外の鉄塔工事用地について、以下の対策を実施する。 ・低騒音型機械を使用して作業を行う。 ・施工方法や工程を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。	最小化
重要な陸産貝類	・生息地に変化が生じないようにするため、林縁部における資材置場の最小化や作業員の不要な立ち入りを制限すること等により、林縁部を保全する。	最小化
	・林縁部の保全が困難な場合は、林縁部での倒木の残置や落ち葉の集積等により、生息環境の創出を行う。	代償
動物全般	・工事用地のうち、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う。植栽する種は、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。	最小化

注）環境保全対策の種類

最小化：ある行為の実施規模又は程度の制限、若しくは影響を受けた環境を修復、再生あるいは復元することにより環境への影響をできる限り最小化すること。（環境影響を矯正することや軽減することを含む）

代　償：代用的な資源又は環境を置き換え、若しくは提供することにより環境影響を代償すること。

③ 事業の計画段階における配慮事項

事業の計画段階において、葉山町上山口の寺前谷戸では重要な植物種が確認されており、地元の自然保護団体「寺前復元プロジェクト」と協議を行って工事用地を選定し、影響の回避を行った。

動物の事業計画段階における保全対策は表 5.2-152 に示すとおりである。

表 5.2-152　動物の事業計画段階における環境保全対策

保全対象の動物	環境保全対策 対策の内容	種類
・トウキョウサンショウウオ ・アカハライモリ ・重要な昆虫類等	地元保護団体との協議により、重要な動物の産卵環境及び生息環境を工事用地の選定場所から除外した。	回避

注）環境保全対策の種類

回　避：ある行為の全部又は一部を行わないことにより、環境影響をできる限り回避すること。

(7) 評価

① 評価の手法

工事の実施（造成等、仮設ヘリポートの設置、建設機械の稼働、工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行）による動物への影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避若しくは低減されているかを検討し、環境保全についての配慮が適正になされているかを評価した。

② 評価結果

・オオタカ

生息地に変化が生じる可能性があると予測されたため、環境保全対策として、繁殖期に配慮した工事作業・ヘリコプター運搬の制限、樹林の伐採範囲の最小化、影響の小さい運搬方法の採用、低騒音機械の使用、建設機械の集中稼働の抑制といった影響の最小化を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・スルガギセル

生息地に変化が生じると予測されたため、環境保全対策として、林縁部における資材置場の最小化や作業員の不要な立ち入りを制限すること等による林縁部の保全といった最小化、林縁部での倒木の残置や落ち葉の集積等による生息環境の創出といった代償を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・タカキビ

生息地に変化が生じると予測されたため、環境保全対策として、林縁部における資材置場の最小化や作業員の不要な立ち入りを制限すること等による林縁部の保全といった最小化、林縁部での倒木の残置や落ち葉の集積等による生息環境の創出といった代償を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・ヒメハリマキビ

生息地に変化が生じると予測されたため、環境保全対策として、林縁部における資材置場の最小化や作業員の不要な立ち入りを制限すること等による林縁部の保全といった最小化、林縁部での倒木の残置や落ち葉の集積等による生息環境の創出といった代償を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・ウメムラシタラ

生息地に変化が生じると予測されたため、環境保全対策として、林縁部における資材置場の最小化や作業員の不要な立ち入りを制限すること等による林縁部の保全といった最小化、林縁部での倒木の残置や落ち葉の集積等による生息環境の創出といった代償を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・オオウエキビ

生息地に変化が生じると予測されたため、環境保全対策として、林縁部における資材置場の最小化や作業員の不要な立ち入りを制限すること等による林縁部の保全といった最小化、林縁部での倒木の残置や落ち葉の集積等による生息環境の創出といった代償を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・動物全般

動物全般への環境保全対策として、必要に応じて伐採区域への植樹（緑化）による影響の最小化を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると評価する。

3. 生態系

(1) 予測事項

対象事業の実施により変化する、環境類型区分ごとに変化する生物相及び生育・生息環境と生態系との関係。また、選定した指標種及びその生育・生息環境の変化と生態系との関係とした。

(2) 予測方法

事業計画を重ね合わせることにより、環境類型区分ごとに変化する植物相、動物相及び生育・生息環境と生態系との関係について、定量的に予測した。また、上位性、典型性及び特殊性の観点から選定した複数の注目種・群集等の状況等については、生育・生息環境と生態系との関係について、類似事例を参考にする方法等を用いて予測した。

予測の基本的な考え方は図 5.2-58 に示すとおりである。

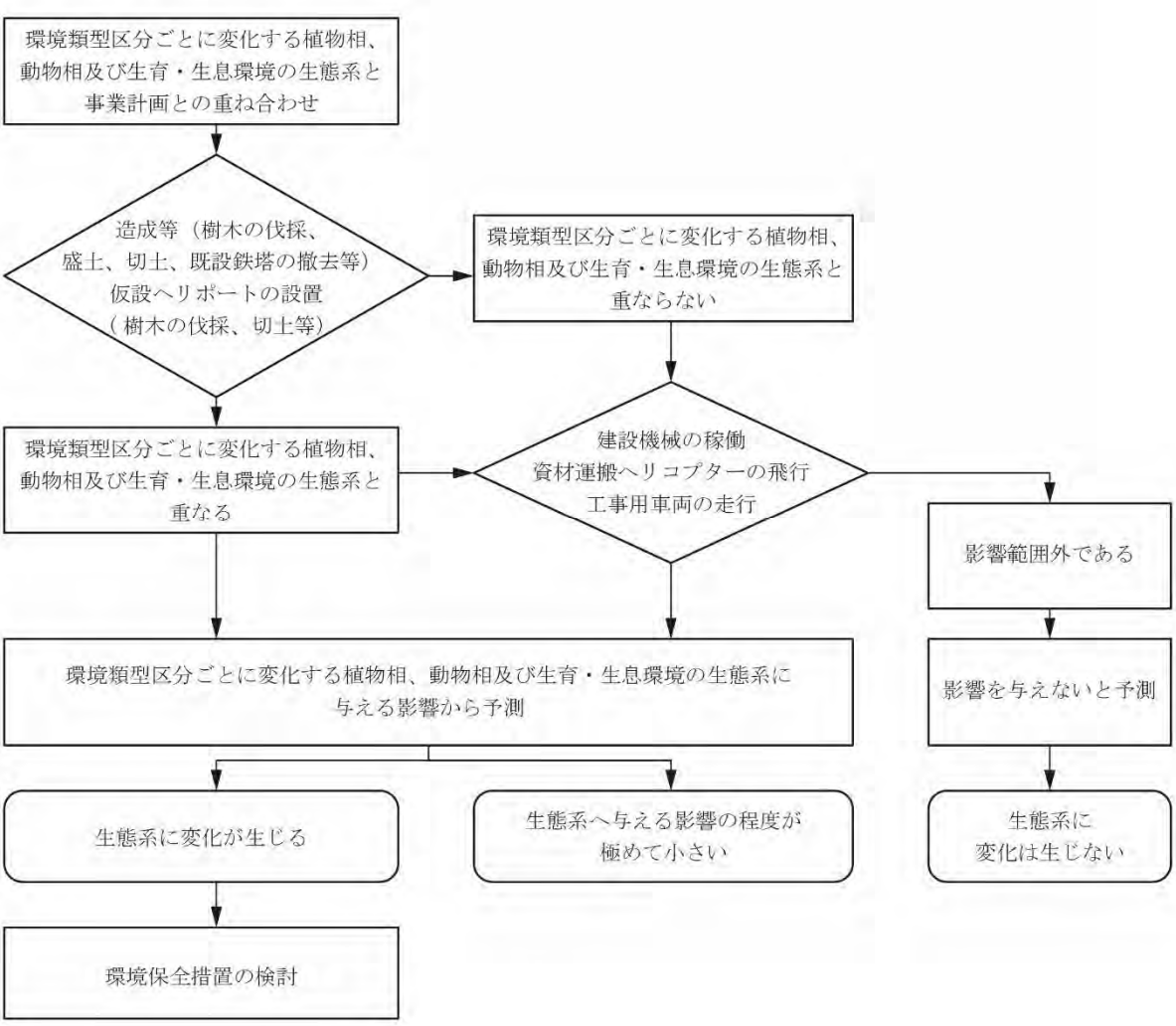


図 5.2-58　予測の基本的な考え方（生態系）

(3) 予測地域及び地点

調査地域と同じとした（図 5.2-3(1)～(2) p.5-2-21～22 及び図 5.2-10(1)～(2) p.5-2-87～88、図 5.2-11 p.5-2-89 参照)。

なお、実施区域である東京南線 3,4 号線及び仮設ヘリポートの調査範囲は、やや離れた場所にあることから、予測結果については実施区域ごとに整理して予測した。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

工事による影響が最大となる時期（基礎工事～組立工事施工時）とした。

(5) 予測結果

① 環境類型区分の変化

工事の実施により変化する環境類型区別の面積を表 5.2-153(1)～(2)に示し、環境類型区分ごとの変化について以下に整理した。

表 5.2-153(1) 工事の実施により変化する環境類型区分別の占有面積（実施区域別）

No.	群落名	東京南線 3,4 号線				仮設ヘリポート				全体	
		実施区域内		実施区域外		実施区域内		実施区域外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
Ⅰ	山地の樹林	1.82	0.32 (0.46)	396.06	68.83 (99.54)	0.37	1.28 (1.52)	24.22	83.23 (98.48)	422.47	69.88
Ⅱ	丘陵地－低地の湿地	0.02	<0.01 (2.19)	0.90	0.16 (97.81)	0	－	0.30	1.01 (100.00)	1.21	0.20
Ⅲ	丘陵地－低地の草地	0.05	0.01 (0.03)	137.12	23.83 (99.97)	0.45	1.55 (26.74)	1.24	4.27 (73.26)	138.86	22.97
－	人工地等	0.02	<0.01 (0.06)	39.45	6.86 (99.94)	0	－	2.51	8.63 (100.00)	41.99	6.95
	合計	1.91	0.33	573.53	99.67	0.83	2.84	28.28	97.16	604.54	100.00

注）比率の括弧箇所については、各事業区域の群落ごとの比率を示している。

表 5.2-153(2) 工事の実施により変化する環境類型区分別の占有面積（全体）

No.	群落名	実施区域（全体）				全体	
		内		外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
Ⅰ	山地の樹林	2.19	0.36 (0.52)	420.28	69.52 (99.48)	422.47	69.88
Ⅱ	丘陵地－低地の湿地	0.02	<0.01 (1.65)	1.19	0.20 (98.35)	1.21	0.20
Ⅲ	丘陵地－低地の草地	0.50	0.08 (0.36)	138.36	22.89 (99.64)	138.86	22.97
－	人工地等	0.02	<0.01 (0.05)	41.97	6.94 (99.95)	41.99	6.95
	合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注）比率の括弧箇所については、群落ごとの比率を示している。

ア 山地の樹林

山地のアカメガシワーカラスザンショウ群落やオニシバリーコナラ群集、スギ・ヒノキ・サワラ群落等の植林により構成されており、山地まで広く利用する哺乳類、樹林性の鳥類、猛禽類、爬虫類が見られ、湿地や沢地等には山地系の両生類が生息し、林床を好む陸産貝類も多く生息する場所である。全体の面積では、422.47ha（69.88%）と 7 割程度と広範囲を占めている。

工事の実施により、東京南線 3,4 号線では 1.82ha（0.46%）、仮設ヘリポートでは 0.37ha（1.52%）、全体では 2.19ha が消失するが全体の比率では 0.52%であり、わずかである。また、周辺には同質の樹林環境が 420.28ha と広く分布する。工事用地としては、鉄塔工事用地 1.11ha（0.28%）、資機材積替え用地（モノレール基地）0.24ha（0.06%）、運搬設備用地（モノレールルート）0.46ha（0.12%）、仮設ヘリポート 0.37ha（1.52%）が含まれる。工事により一部の生物の生育・生息環境は消失するが、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育・生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う対策を実施することにより、生育・生息環境は回復するため、生態系への影響は軽微であると考えられる。

このことから、山地の樹林における生物の生育・生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

イ 丘陵地－低地の湿地

谷戸環境の水田雑草群落により構成されており、動物は水辺環境を広く利用する哺乳類、鳥類、爬虫類等のほか、カエル類やサンショウウオ類等の両生類、トンボ類やバッタ類、水生甲虫等の昆虫類が見られ、水辺を好む多種多様な動物が生息している場所である。全体の面積では、1.21ha（0.20%）と非常に面積が小さいが、数少ない湿地性の群落である。

工事の実施により、当群落が存在する東京南線 3,4 号線では 0.02ha（2.19%）が消失するが全体の比率では 1.65%とわずかである。また、東京南線 3,4 号線の工事用地近辺の既存の水田（鉄塔 No.32 及び No.33 周辺）は改変が及ばないため、群落全体は現状のまま保全される。工事用地としては、運搬設備用地（モノレールルート）0.02ha（2.19%）が含まれる。工事により一部の生物の生育・生息環境は消失するが、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育・生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う対策を実施することにより、生育・生息環境は回復するため、生態系への影響は軽微であると考えられる。

このことから、丘陵地－低地の湿地における生物の生育・生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

ウ 丘陵地－低地の草地

アズマネザサースススキ群集や路傍・空地雑草群落等の二次的に遷移した植生のほか、ゴルフ場・芝地等の人工地により構成されている草地で、動物は哺乳類草地系の鳥類、爬虫類等のほか、草地環境に生息する昆虫類、クモ類等が多く生息する群落である。全体の面積では、138.86ha（22.97%）と2割程度を占めている。

工事の実施により、東京南線 3,4 号線では 0.05ha（0.03%）、仮設ヘリポートでは0.45ha（26.74%）、全体では0.50haが消失するが全体の比率では0.36%であり、わずかである。また、周辺には同質の草地環境が 138.36ha と広く分布する。工事用地としては、資機材積替え用地（モノレール基地）0.05ha（0.03%）、仮設ヘリポート 0.45ha（26.74%）が含まれる。工事により一部の生物の生育・生息環境は消失するが、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育・生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う対策を実施することにより、生育・生息環境は回復するため、生態系への影響は軽微であると考えられる。

このことから、丘陵地－低地の草地における生物の生育・生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

② 生態系（上位性）

工事の実施による影響に係る生態系（上位性）の予測結果を表5.2-154(1)～(2)に示す。

表5.2-154(1)　生態系（上位性）の予測結果

種名 （科名）	予測等の結果		
タヌキ （哺乳類）	予測地域における生息地		・本種は郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息する。調査の結果、多様な環境で確認されており、予測地域全体に広く生息していると考えられる。そのため、予測地域における生息地は山地の樹林環境、低地-丘陵地の湿地、低地-丘陵地の草地とした。 （全体面積：562.55ha 93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線3,4号線】 ・本種の予測地域における生息地は 535.96ha（93.14%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は534.07haと広く存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていることや生息地が広く存在することから影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の予測地域における生息地は 26.59ha（91.37%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は25.76ha存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていることや生息地が広く存在することから影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-154(2)　生態系（上位性）の予測結果

種名 （科名）	予測等の結果		
オオタカ （鳥類）	予測地域における生息地		・令和 4 年繁殖期から令和 6 年繁殖期かけての調査で、4 つがいの生息が確認され、うち 3 つがいの営巣地が特定された。3 つがいについて、営巣中心域及び高利用域の解析を行い、予測地域における生息地とした。 （全体面積：562.55ha 93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・4 つがいの生息地が予測地域に存在した。 ・営巣地は実施区域と重ならない。 ・営巣地が特定されている 3 つがいの営巣中心域は実施区域と重ならないが、1 つがいについては実施区域外の工事用地と重なる。 ・3 つがいの高利用域の一部と実施区域及び実施区域外の工事用地が重なるが、それぞれ 9 メッシュ（6.5%）、10 メッシュ（8.3%）、7 メッシュ（6.1%）とわずかであり、周辺には重ならない高利用域が広く存在する。 ・工事中の資材運搬ヘリコプターの飛行は、2 つがいは影響範囲外であるが、1 つがいは飛行ルートから近く、生息環境に影響が生じる可能性が考えられる。 ・これらのことから、生態系に変化が生じる可能性があると予測される。
アオダイショウ （爬虫類）	予測地域における生息地		・本種は低地から山地の森林、田畑、草地等の様々な環境に広く生息する。調査の結果、低地から山地にかけて確認され、予測地域全体に広く生息していると考えられる。そのため、予測地域における生息地は山地の樹林環境、低地-丘陵地の湿地、低地-丘陵地の草地とした。（全体面積：562.55ha 93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の予測地域における生息地は 535.96ha（93.14%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息地の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の予測地域における生息地は 26.59ha（91.37%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・生息地の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台(約 45 日)であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。

③ 生態系（典型性）

工事の実施による影響に係る生態系（典型性）の予測結果を表5.2-155(1)～(4)に示す。

表 5.2-155(1)　生態系（典型性）の予測結果

種名 （科名）	予測等の結果		
アカメガシワ－カラスザンショウ群落 （植物）	予測地域における分布		・本群落は予測地域の中で最も広く分布する。
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の予測地域における生育地は 155.64ha（27.05%）であり、生育地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生育地のうち、実施区域が占める面積は 0.70ha（0.12%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 154.94ha と広く分布する。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。
ノウサギ （哺乳類）	予測地域における生息地		・本種は低地から山地の森林や草原等に広く生息する。調査の結果、多様な環境で確認されており、予測地域全体に広く生息していると考えられる。そのため、予測地域における生息地は山地の樹林環境、低地-丘陵地の湿地、低地-丘陵地の草地とした。 （全体面積：562.55ha 93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の予測地域における生息地は 535.96ha（93.14%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていることや生息地が広く存在することから影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の予測地域における生息地は 26.59ha（91.37%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていることや生息地が広く存在することから影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-155(2)　生態系（典型性）の予測結果

種名 （科名）	予測等の結果		
ヒヨドリ （鳥類）	予測地域における生息地		・本種は低地や山地の森林に多く、人家近くの樹林や公園等にも生息する。調査の結果、多様な環境で確認されており、予測地域全体に広く生息していると考えられる。そのため、予測地域における生息地は山地の樹林環境、低地-丘陵地の湿地、低地-丘陵地の草地とした。（全体面積：562.55ha 93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の予測地域における生息地は 535.96ha（93.14%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていることや生息地が広く存在することから影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の予測地域における生息地は 26.59ha（91.37%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・建設機械の稼働や工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により、実施区域周辺の利用の忌避が生じると考えられるが、本種は移動能力を持ち合わせていることや生息地が広く存在することから影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-155(3)　生態系（典型性）の予測結果

種名 （科名）	予測等の結果		
ニホンカナヘビ （爬虫類）	予測地域における生息地		・本種は低地から山地の林縁部や草地に生息する。調査の結果、人家に近い場所の草地や林、山地の林縁部等で主に確認され、予測地域全体に広く生息していると考えられる。そのため、予測地域における生息地は山地の樹林環境、低地-丘陵地の湿地、低地-丘陵地の草地とした。（全体面積：562.55ha 93.05%）
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の予測地域における生息地は 535.96ha（93.14%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 1.88ha（0.35%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 534.07ha と広く存在する。 ・生息地の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 20 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の予測地域における生息地は 26.59ha（91.37%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 0.83ha（3.11%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 25.76ha 存在する。 ・生息地の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 45 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。

表 5.2-155(4)　生態系（典型性）の予測結果

種名 （科名）	予測等の結果		
ヤマアカガエル （両生類）	予測地域における生息地		・本種は平地から山地にかけての林縁部、水田、湿地等に生息する。予測地域では、水田周辺や山地の登山道上等で確認され、山地から水辺環境周辺に広く生息していると考えられる。そのため、予測地域における生息地は山地の樹林環境、低地-丘陵地の湿地とした。
	予測結果	工事の実施による影響 ・造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等） ・仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等） ・建設機械の稼働 ・工事用車両の走行 ・資材運搬ヘリコプターの飛行	【東京南線 3,4 号線】 ・本種の予測地域における生息地は 398.79ha（69.30%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 1.84ha（0.46%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 396.95ha と広く存在する。 ・生息地の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、鉄塔 1 基当たりの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復25台（約20日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。 【仮設ヘリポート】 ・本種の予測地域における生息地は 24.89ha（85.53%）であり、生息地の一部と実施区域が重なる。 ・予測地域全体に分布する生息地のうち、実施区域が占める面積は 0.37ha（1.50%）とわずかである。また、周辺に分布する同質の環境は 24.52ha 存在する。 ・生息地の一部で工事用車両の走行によるロードキルの影響が考えられるが、仮設ヘリポートへの稼働台数は最も多い時期で 1 日当たり往復 25 台（約 45 日）であり影響は軽微である。 ・これらのことから、生態系の変化の程度は極めて小さいと予測される。

(6) 環境保全対策の検討及び検討結果

① 環境保全対策を検討する指標種

予測の結果、生息地に変化が生じる可能性があり、環境保全対策の検討が必要とされた指標種を表 5.2-156 に示す。

表 5.2-156　環境保全対策の検討内容

性質	種名	実施区域周辺における生息状況
上位性	オオタカ	・高利用域の一部が実施区域と重なる。 ・営巣中心域の一部、高利用域の一部が実施区域外の工事用地と重なる。 ・このことから、生息地に変化が生じる可能性がある。

② 生態系に係る環境保全対策

生態系に係る環境保全対策を表 5.2-157 に示す。

表 5.2-157　生態系に係る環境保全対策

種名（性質）	環境保全対策 対策の内容	種類
オオタカ （上位性）	営巣中心域に含まれる実施区域外の鉄塔工事用地について、以下の対策を実施する。 ・影響が大きい工種（基礎工事、組立工事等）は、可能な限り繁殖期（1 月～7 月）を避け、非繁殖期（8 月～12 月）に実施する。 ・樹木の伐採範囲は最小化するとともに、伐採時期は繁殖期（1 月～7 月）を避け、非繁殖期（8 月～12 月）に実施する。 ・影響が大きいと考えられるヘリコプター運搬については、代わりの運搬方法（モノレール運搬等）を検討し実施する。 ・施工箇所の地形等の関係から、やむを得ずヘリコプター運搬を選択する場合には、繁殖期（1 月～7 月）を避け、非繁殖期（8 月～12 月）に実施する。	最小化
	高利用域に含まれる実施区域内の鉄塔工事用地及び実施区域外の鉄塔工事用地について、以下の対策を実施する。 ・低騒音型機械を使用して作業を行う。 ・施工方法や工程を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。	最小化
生態系全般	・工事用地のうち、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育・生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う。植栽する種は、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。	最小化

注）環境保全対策の種類

最小化：ある行為の実施規模又は程度の制限、若しくは影響を受けた環境を修復、再生あるいは復元することにより環境への影響をできる限り最小化すること。（環境影響を矯正することや軽減することを含む）

(7) 評価

① 評価の手法

工事の実施（造成等、仮設ヘリポートの設置、建設機械の稼働、工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行）による生態系への影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避若しくは低減されているかを検討し、環境保全についての配慮が適正になされているかを評価した。

② 評価結果

・オオタカ

生息地に変化が生じる可能性があると予測されたため、環境保全対策として、繁殖期に配慮した工事作業・ヘリコプター運搬の制限、樹林の伐採範囲の最小化、影響の小さい運搬方法の採用、低騒音機械の使用、建設機械の集中稼働の抑制といった影響の最小化を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。

・生態系全般

生態系全般への環境保全対策として、必要に応じて伐採区域への植樹（緑化）による影響の最小化を行うこととした。環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると評価する。

第 5 節　景観

1. 景観

(1) 予測事項

対象事業により景観が受ける影響の内容及び程度とした。

(2) 予測方法

予測方法は、調査結果をもとに、事業計画を考慮してフォトモンタージュによる完成予想図を作成する方法により予測した。

(3) 予測地域及び地点

予測地域及び地点は、実施区域及び工作物が視認できる表 5.2-158 及び図 5.2-38（p.5-2-233）に示す 7 地点とした。

表 5.2-158　主要な眺望地点からの景観の予測地点

No.	名　称
6	木古庭会館
7	しょうぶ園　展望台
8	大楠山
9	衣笠山公園　展望台
11	武山（武山不動）
12	二子山展望台
13	上山口会館

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象とする時期は、鉄塔の建て替え完了後とし、季節は落葉により見通しの良くなる冬季とした。

(5) 予測結果

フォトモンタージュ法による予測結果は、表 5.2-159(1)～(2)及び図 5.2-59(1)～(7)に示すとおりである。

表 5.2-159(1)　主要な眺望点からの景観の変化の状況

予測地点	最寄りの鉄塔までの距離(m)	垂直視野角	景観の変化の状況
No.6　木古庭会館	約 800	3.4°	建替鉄塔は、正面上側に 2 基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、視野を占める割合は大きくないため、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は 3.4° であり、比較的細部まで見えるものの、圧迫感を受けるほどではない。
No.7　しょうぶ園　展望台	約 1,060	2.9°	建替鉄塔は、正面上側に 1 基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、視野を占める割合は大きくないため、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は 2.9° であり、比較的細部まで見えるものの、圧迫感を受けるほどではない。
No.8　大楠山	約 890	3.5°	建替鉄塔は、正面に2基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、視野を占める割合は大きくないため、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は 3.5° であり、比較的細部まで見えるものの、圧迫感を受けるほどではない。
No.9　衣笠山公園　展望台	約 1,820	2.1°	建替鉄塔は、正面に7基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、視野を占める割合は大きくないため、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は 2.1° であり、光線の加減によっては見えないことがある。
No.11　武山（武山不動）	約 3,600	1.1°	建替鉄塔は、左側奥に2基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、視野を占める割合は大きくないため、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は 1.1° であり、光線の加減によっては見えないことがある。

表 5.2-159(2)　主要な眺望点からの景観の変化の状況

予測地点	最寄りの鉄塔までの距離(m)	垂直視野角	景観の変化の状況
No.12　二子山展望台	約 2,140	1.5°	建替鉄塔は、正面に1基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、二子山山頂付近の樹木によって大部分が隠れていることから、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は1.5°であり、光線の加減によっては見えないことがある。
No.13　上山口会館	約 900	3.3°	建替鉄塔は、正面に1基、右上側に1基視認できる。建替鉄塔は既存の鉄塔よりも高くなるため、現況よりも工作物の占める割合は増加するが、視野を占める割合は大きくないため、景観の変化は小さいものと予測される。 垂直視野角は3.3°であり、比較的細部まで見えるものの、圧迫感を受けるほどではない。

注 1)垂直視野角とは、評価する地点から見える対象の下端から上端までの仰角の差を示す。

【現状】

【建設完了後】

図 5.2-59(1)　景観の変化の状況（No. 6　木古庭会館：冬季）

【現状】

【建設完了後】

図 5.2-59(2)　景観の変化の状況（No. 7　しょうぶ園　展望台：冬季）

【現状】

【建設完了後】

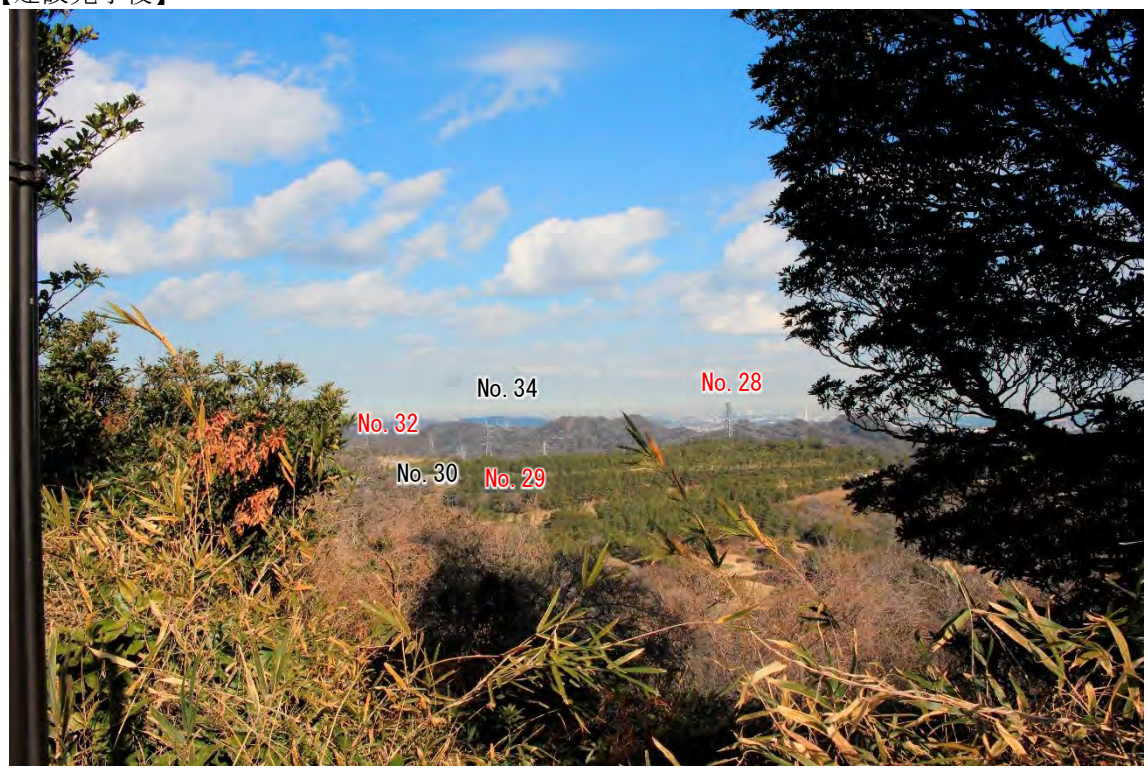


図 5.2-59(3)　景観の変化の状況（No. 8　大楠山：冬季）

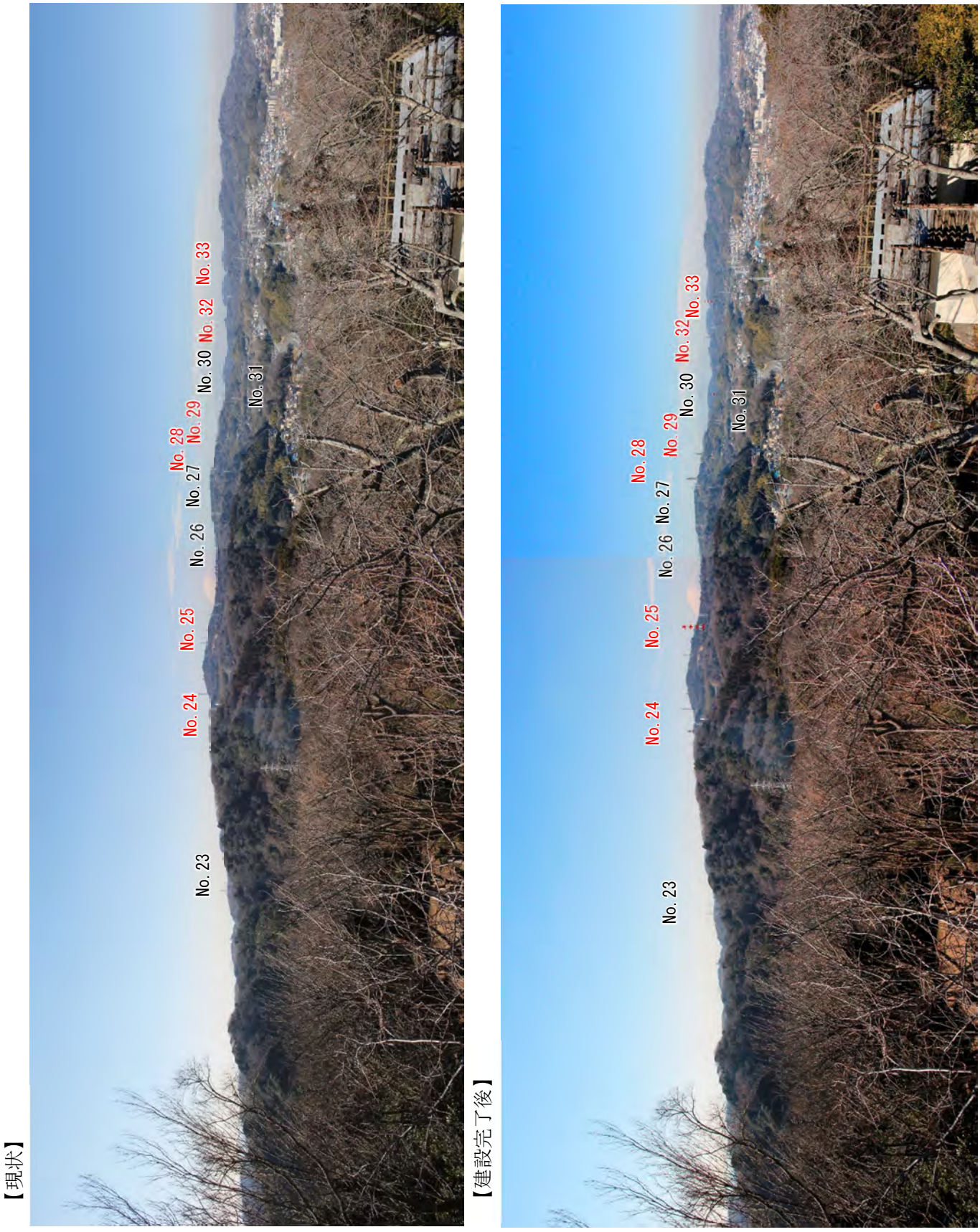
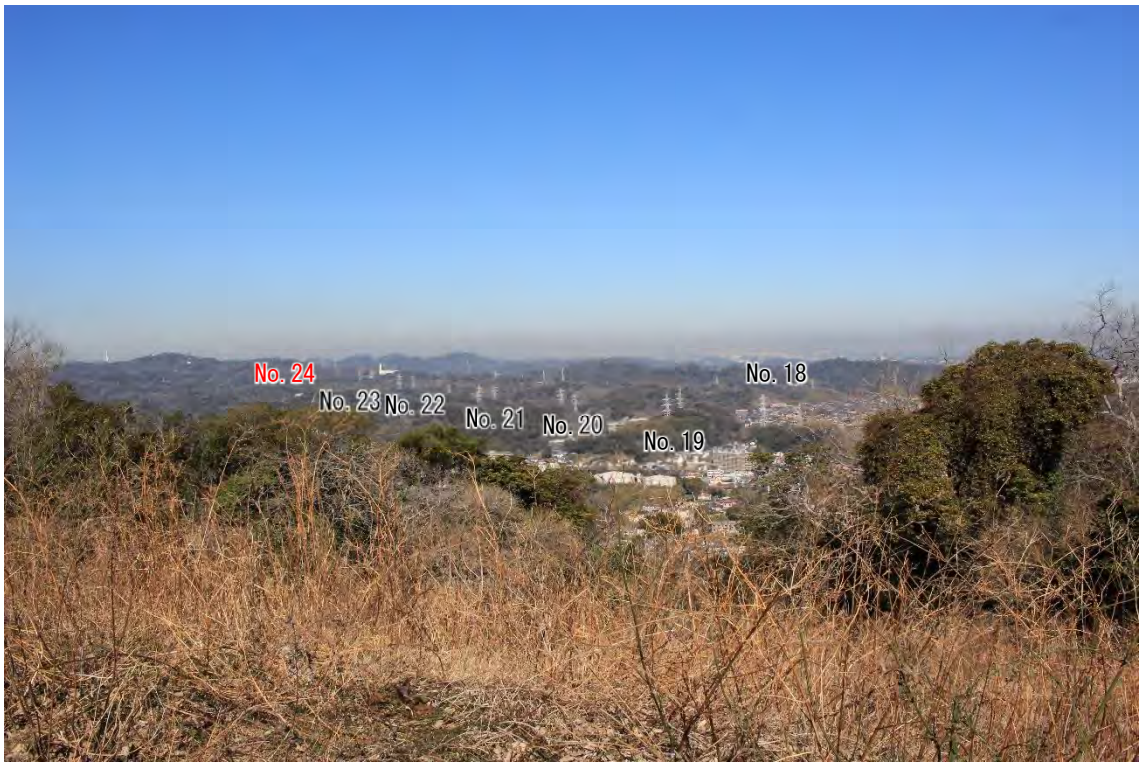


図 5.2-59(4)　景観の変化の状況（No.9　衣笠山公園　展望台：冬季）

【現状】



【建設完了後】

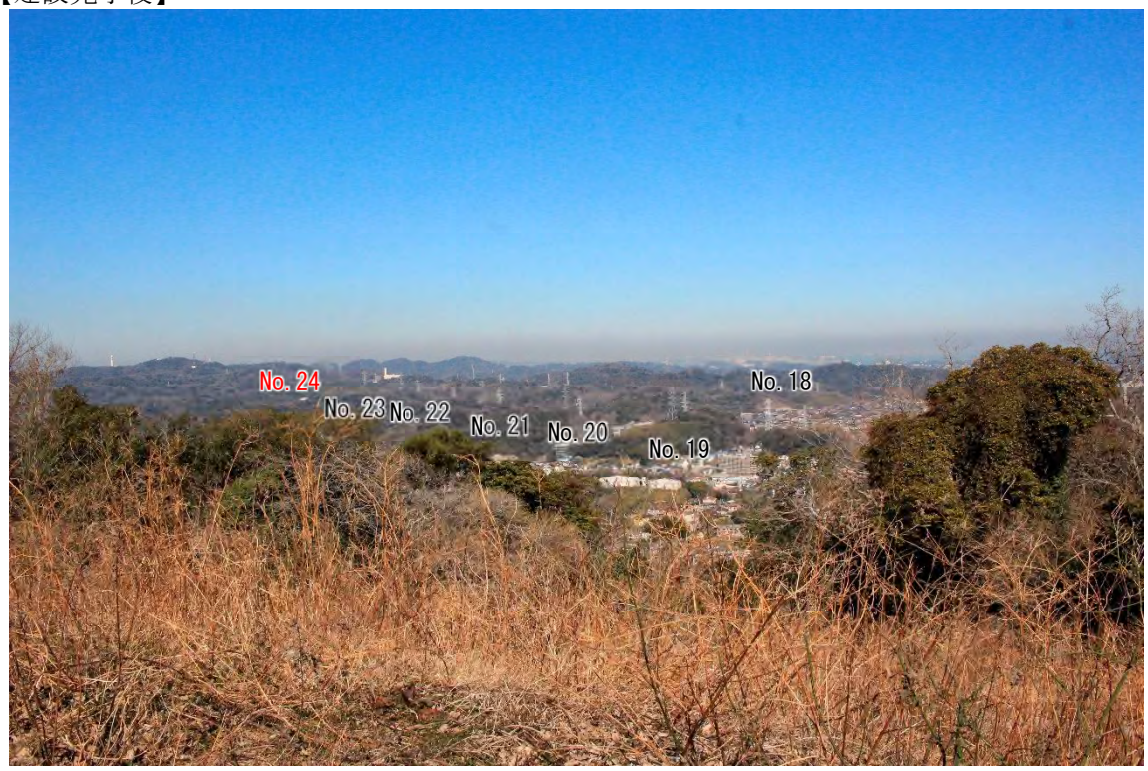


図 5.2-59(5)　景観の変化の状況（No.11　武山（武山不動）：冬季）

【現状】

【建設完了後】

図 5.2-59(6)　景観の変化の状況（No. 12　二子山展望台：冬季）

【現状】

【建設完了後】

図 5.2-59(7)　景観の変化の状況（No.13　上山口会館：冬季）

(6) 評価

① 評価手法

ア 環境影響の回避・低減に係る評価

工作物の存在及び供用に伴う景観への影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

イ 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

「横須賀市景観計画」（令和元年 11 月、横須賀市）、「逗子市景観条例」（平成 18 年 3 月、逗子市条例第 6 号）に基づく「逗子市景観計画」（平成 22 年 3 月、逗子市）逗子市及び「葉山町景観計画」（平成 22 年 6 月、葉山町）の地域別景観特性との整合が図られているかを明らかにした。

② 評価結果

ア 環境影響の回避・低減に係る評価

建替鉄塔の供用に伴う景観への影響を低減するために、以下の環境保全対策を講じる。

・建替鉄塔の外部意匠や色彩について、横須賀市、逗子市、葉山町の景観計画等の基準を遵守し、景観への影響を低減する。

・６０m以上の鉄塔(No.25 及び No.33)は、航空法による航空標識（赤白塗色）が必要となるが、鉄塔周囲２km 以内に鉄塔頂部より高い山があるため、航空標識設置の免除を協議する。

以上の対策を講じることから、建替鉄塔の供用に伴う景観への影響は実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

イ 環境保全に関する基準等との整合性に係る評価

「横須賀市景観計画」では、景観計画の区域は横須賀市全域とされており、建築行為を行おうとするものは、当該建築行為等を基本指針に適合させるものとされている。なお、実施区域は当該計画において定められる景観保全区域及び景観推進地区には該当しない。

「葉山町景観計画」では、景観計画の区域は葉山町全域とされており、良好な景観の形成に影響を及ぼす行為に対する方針に対し、届出制度や認定制度を定めている。

「逗子市景観計画」では、景観計画の区域は逗子市全域とされており、良好な景観の形成に関する方針を定めている。また、景観特性毎に商業・業務地、住宅地、丘陵地・緑地に類型し、良好な景観の形成に関する方針が分かれている。実施区域は丘陵地・緑地にあたる。なお、実施区域は当該計画において定められる景観形成重点地区には該当しない。

対象事業においては、建替鉄塔の外観への配慮や維持管理することで良好な景観の形成に努める。

以上のことから、建替鉄塔による周辺環境への影響について環境保全に対する基準等との整合が図られていると評価する。

第 6 節 レクリエーション資源

1. レクリエーション資源（造成等、建設機械の稼働、工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行）

(1) 予測事項

工事の実施によりレクリエーション資源が受ける影響の内容及び程度とした。

(2) 予測方法

予測方法は、調査結果をもとに、工事計画と環境保全対策等を考慮して予測した。

(3) 予測地域及び地点

予測地域及び地点は、調査地域及び地点と同じとした（図 5.2-39 p.5-2-268 参照）。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象とする時期は、工事の実施によりレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）への影響が最大となる時期とした。

(5) 予測結果

工事用車両の走行ルートと影響を受けることが想定されるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）の位置は図 5.2-60 に示すとおりである。

工事用車両の走行により影響を受けるハイキングコースは塚山・阿武倉コース、衣笠コースがあげられる。当該コースについては、聞き取り調査の結果から春、夏、秋の三季において一定数の利用があることが分かっている（p.5-2-272)。

工事用車両の走行ルートと塚山・阿武倉コースが重なる横須賀葉山線の昼間 12 時間（午前 7 時から午後 7 時）の交通量は 12,170 台（大型車 890 台、小型車 11,280 台）であり（表 3.2-10　p.3-2-11 参照)、本事業による工事用車両の交通量は最大時（対象鉄塔 6 基全ての工事を同時に実施した場合）で 350 台程度（大型車 318 台/日、小型車 28 台/日）予定しており（表 5.2-109　p.5-2-293 参照)、その寄与率は 2.8%である。また、横須賀インター前交差点から横須賀インター入口交差点、横須賀インター入口交差点から大楠山登山口交差点まではガードレールや縁石で歩道が整備されており、車道と分離されていることから塚山・阿武倉コースが受ける影響は小さいと考えられる。

工事用車両の走行ルートと衣笠コースが重なるしょうぶ園前交差点から平作 4 丁目交差点、平作 4 丁目交差点からエコミルトンネルまでの横須賀市道 7566 号線は、ガードレールや縁石で歩道が整備されており、車道と分離されていることから塚山・阿武倉コースが受ける影響は小さいと考えられる。

環境保全対策として、市道 7732 号線はハイキング利用者、横須賀ごみ処理施設「エコミル」利用者等が通行し交通量が比較的多いため、時間帯を考慮して工事車両の通行を制限するなどを検討することで周辺環境への影響を低減する。また、工事関係者への交通規制及び安全運転等の指導を徹底する。

以上のことから工事用車両の走行及び資材運搬ヘリコプターの飛行によるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）への影響は小さいと予測する。

大楠山ハイキングコースの一部である衣笠コースは、No.24 鉄塔への工事用資材の運搬のためのモノレールが横断するため、造成等、建設機械の稼働に伴う影響を受けるものの、モノレールをハイキングコースの上空を通過させることでハイキングコースへの影響を低減する。

以上のことから造成等、建設機械の稼働によるレクリエーション資源（大楠山ハイキングコース）への影響は小さいと予測する。

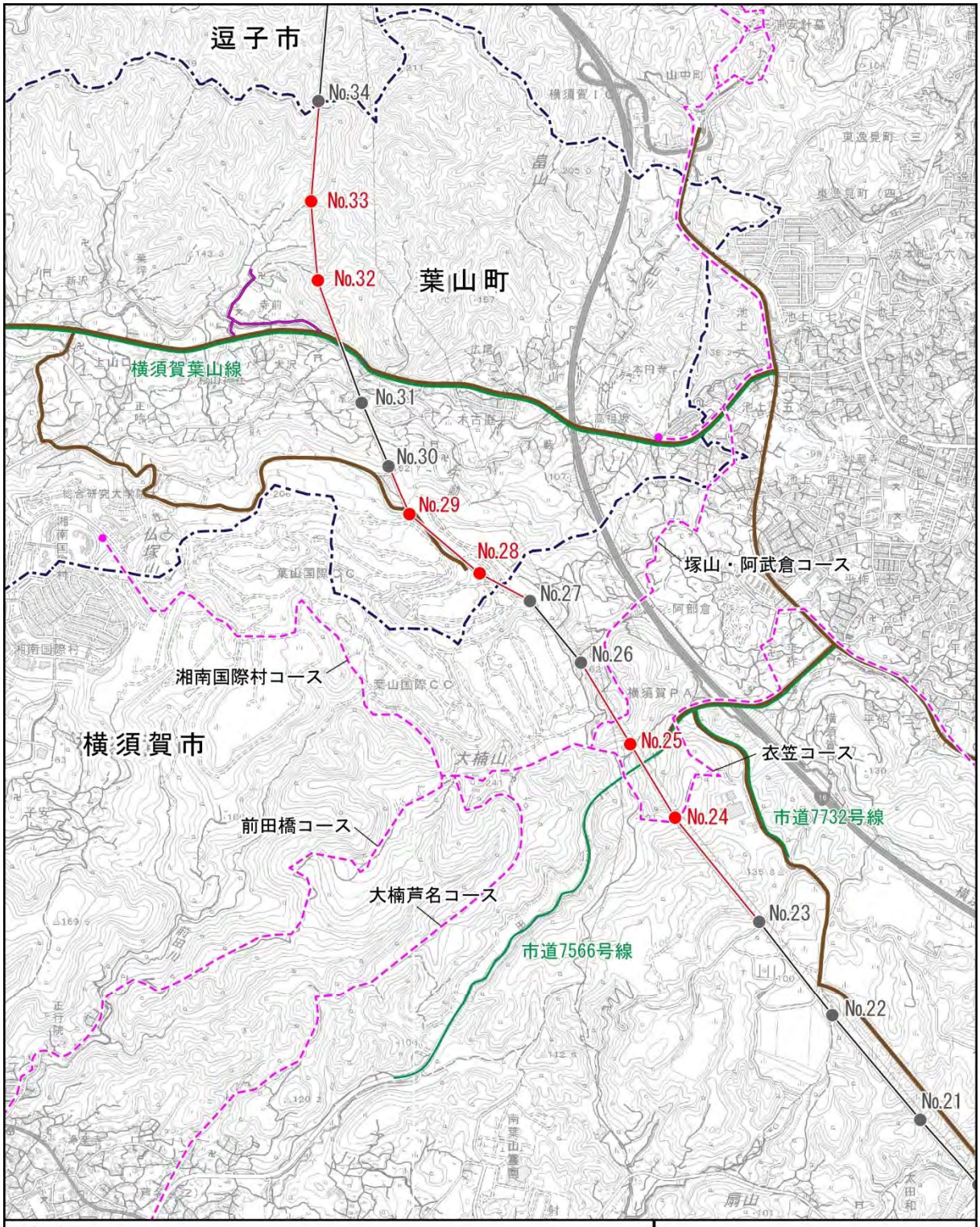


図 5.2-60　レクリエーション資源調査地点

(6) 評価

① 評価手法

ア 環境影響の回避・低減に係る評価

造成等、建設機械の稼働、工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により大楠山ハイキングコースに受ける影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

② 評価結果

ア 環境影響の回避・低減に係る評価

造成等、建設機械の稼働、工事用車両の走行、資材運搬ヘリコプターの飛行により大楠山ハイキングコースに受ける影響は小さいものと予測される。また、周辺環境への影響を低減するために、以下の環境保全対策を講じる。

- 「大楠山ハイキングコース」を横断するモノレール（No.24）は、ハイキングコースの上空を横過させ、ハイキングコース利用者に対する影響を回避する。
- 「大楠山ハイキングコース」を横断するモノレール（No.24）では、モノレール橋には落下防護のネットを設置する。また、モノレール運搬時、ハイキングコースに歩行者を確認した場合は、モノレールをハイキングコースの手前で停止し、歩行者が通過後に運搬を再開する。運搬頻度が多い場合は、横断箇所に誘導員を配置し歩行者の誘導を行う。
- 市道 7732 号線はハイキング利用者、横須賀ごみ処理施設「エコミル」利用者等が通行し交通量が比較的多いため、時間帯を考慮して工事車両の通行を制限するなどを検討する。
- 工事用車両は規制速度・法定速度を遵守する。

以上の対策を講じることから、工事用車両の走行により大楠山ハイキングコースに受ける影響は実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

第 7 節 安全

1. 危険物等

(1) 予測事項

造成等、資材運搬ヘリコプターの飛行による危険物等に係る安全性への影響の内容及び程度とした。

(2) 予測方法

事業内容、災害予防及び災害拡大防止に係る環境保全対策の内容を基に予測した。

① 予測条件

ア 取り扱う危険物等の種類、特性、量、処理条件

危険物の種類、特性及び量の計画は、表 5.2-160 に示すとおりである。

表 5.2-160　危険物等の種類、特性及び量の計画

影響要因	種　類	貯蔵量	貯蔵場所	保管方法	「毒物及び劇物取締法」による指定	「消防法」上の指定数量
既存鉄塔の撤去	アセチレンガス	約 15kg	屋外	ボンベ	－	－
ヘリコプターの飛行	ケロシン系ジェット燃料	約 1,000L	屋外	ドラム缶	－	1,000L

注）消防法上の指定数量とは、「危険物についてその危険性を勘案して政令で定める数量」である。

イ 危険物を取り扱う場所

アセチレンガスは、既存鉄塔の撤去での使用を予定している。保管は直射日光を避け、通風が良く 40℃以下に保たれた場所に立てて保管する。

ケロシン系ジェット燃料は、ヘリコプターの飛行での使用を予定しており、保管は消防法の「貯蔵所の位置、構造及び設備の基準」を満たす燃料置場に保管する。燃料置場の例は、図 5.2-61 に示すとおりである。

詳細は、今後の工事計画の詳細（施工業者等）が決まり次第、決定する。

図 5.2-61　燃料置場の参考事例

ウ 災害予防、災害拡大防止のための措置、保安の向上のため事業者自ら定める基準、規定等

災害予防の措置として、下記の事項について注意する。

・火気の取扱いには注意し、電気設備は防爆性能を有する構造のものを使用する。
・機器、配管はアースを取る等、静電気を除去する措置を講ずる。
・5m以内では、他の火気を使用しないこと。
・保管場所には取り扱う危険物以外の引火性、発火性の物を置かない。
・容器は粗暴な取扱いをしない。
・保管場所には作業に必要なもの以外は置かない。
・ガス切断時は、防炎シート、及び消火器を配置し火災防止を行う。

災害拡大防止の措置として、下記の事項について注意する。

・危険物の使用時、保管に異常が見られた場合は、ただちに作業を停止し、状況の把握を行う。
・保管場所には法に定められた消火設備を設ける。

詳細は、施工業者等が決まり次第、さらなる検討を重ねる。

(3) 予測地域及び地点

予測地域及び地点は、工事実施区域及び仮設ヘリポートとした。

(4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

予測の対象とする時期は造成等の工事期間及びヘリコプターの使用期間とした。

(5) 予測結果

造成等及び資材運搬ヘリコプターの飛行における危険物を貯蔵し又は取り扱う計画については、「(2) 予測方法　①予測条件」に示すとおりである。

危険物等の取扱い及び保管にあたっては、高圧ガス保安法（昭和 26 年法律第 204 号）及び消防法（昭和 23 年法律第 186 号）等を遵守し、消防署等、関係機関と協議の上、実施することとする。

以上のことから危険物等の漏洩に伴う火災、爆発等に係る安全性は確保されるものと予測する。

(6) 評価

① 評価手法

ア 環境影響の回避・低減に係る評価

造成等、資材運搬ヘリコプターの飛行による危険物等に係る安全性が、実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減が図られ、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮されているかを明らかにした。

② 評価結果

ア 環境影響の回避・低減に係る評価

造成等、資材運搬ヘリコプターの飛行による危険物等に係る安全性は、確保されているものと予測される。また、周辺環境への影響を低減するために、以下の環境保全対策を講じる。

・危険物等の取扱い及び保管にあたっては、高圧ガス保安法（昭和 26 年法律第 204 号）及び消防法（昭和 23 年法律第 186 号）等を遵守し、消防署等、関係機関と協議の上、実施することとする。

以上の対策を講じることから、造成等、資材運搬ヘリコプターの飛行による危険物等に係る安全性は実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価する。

別添 5-3　配慮事項の選定及び環境保全上の見地から講じようとする措置

第 1 章　配慮事項の選定 ····· 5-3-1

第 2 章　環境保全上の見地から講じようとする措置 ····· 5-3-1

第１章　配慮事項の選定及び環境保全上の見地から講じようとする措置

配慮事項の選定にあたっては、表 5.3-1 に示す理由により選定を行った。

表 5.3-1　配慮事項の選定結果

配慮事項	選定・非選定	選定した理由、又は選定しなかった理由
電磁波の漏洩防止措置	×	「電気設備に関する技術基準を定める省令（平成９年通商産業省令第五十二号)」第２７条（静電誘導作用による感電の防止）及び第２７条の２（電磁誘導作用による人の健康影響の防止）について各基準を満たす設計（地上から電線までの高さを確保することで基準を満たす）となっているため。 （計算値） 静電誘導作用（地上１ｍにおける電界強度） 1kV/m＜3kV/m(制限値) 電磁誘導作用（建造物保安距離(6.6m)における磁束密度 110μT＜200μT(制限値)
有害化学物質の排出抑制措置	×	造成等や建設機械の稼働において、人体に有害な化学物質を排出する要因はない。
光害の抑制措置	×	事業計画において、光害が発生する照明機器等は設置しない。
遺伝子汚染防止措置	×	事業計画において、生態系に影響を及ぼすような遺伝子組換え行為を行う施設は建設せず、遺伝子汚染が発生する要因はない。
地震等の自然災害による二次災害の防止措置	×	工事用地の法面や鉄塔用地、建替鉄塔については耐震を十分に考慮した設計であり、強度を確保するなど、地震による崩壊等を防止する設計となっている。
ヒートアイランド現象の緩和に寄与する措置	×	鉄塔用地及び工事用地は山間部であり、地表面も人工物で覆う計画はない。そのため、ヒートアイランド現象の要因はない。

第２章　環境保全上の見地から講じようとする措置

配慮事項の選定結果では、いずれも非選定となったことから、環境保全上の見地から講じようとする措置は実施しない。

別添 5-4　事後調査計画

第 1 章　事後調査項目の選定 ····· 5-4-1

第 2 章　事後調査の計画 ····· 5-4-2

第 3 章　事後調査報告書の提出時期 ····· 5-4-8

第１章　事後調査計画の選定

事後調査の選定にあたっては、表 5.4-1 に示す理由により選定を行った。

表 5.4-1　事後調査の選定結果

区分		工事中					供用時		事後調査項目の選定又は非選定の理由
環境影響要因 / 評価項目	評価細目	造成等（樹木の伐採、盛土、切土、既設鉄塔の撤去等）	仮設ヘリポートの設置（樹木の伐採、切土等）	建設機械の稼働	工事用車両の走行	資材運搬ヘリコプターの飛行	送電線路の存在	送電線路の稼働	
騒音・低周波音	騒音	－	－	○	○	○	－	－	下記アに該当するため、事後調査を実施する。
	低周波音	－	－	－	－	○	－	－	下記アに該当するため、事後調査を実施する。
振動	振動	－	－	○	○	－	－	－	下記アに該当するため、事後調査を実施する。
廃棄物・発生土	廃棄物	×	－	－	－	－	－	－	下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。
	発生土	×	×	－	－	－	－	－	下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。
植物・動物・生態系	植物	○	×	－	－	－	○	－	モニタリング対象個体が下記イに該当し、植物全般（伐採箇所）が下記ア、イに該当するため、事後調査を実施する。 その他の植物については、下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。
	動物	○	×	○	○	○	○	－	オオタカ及び動物全般（伐採箇所）が下記ア、イに該当するため、事後調査を実施する。 その他の動物については、下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。
	生態系	○	×	○	○	○	○	－	オオタカ及び生態系全般（伐採箇所）が下記ア、イに該当するため、事後調査を実施する。 その他の生態系については、下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。
景観	景観	－	－	－	－	－	○	－	下記ウに該当するため、事後調査を実施する。
レクリエーション資源	レクリエーション資源	×	×	×	×	×	－	－	下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。
安全	危険物	×	－	－	－	×	－	－	下記ア、イ、ウのいずれにも該当しない。

注 1）工事中・供用時の記号
　○：事後調査を実施する項目を示す。　×：事後調査を実施しない項目を示す。
　－：予測評価を実施していない項目を示す。

注 2）事後調査項目の選定又は非選定の理由
　ア：予測の精度が十分でなく、検証を要するもの。
　イ：効果が出現するのに時間を要するか又は効果に係る知見が不十分な環境保全対策を講ずるもの。
　ウ：工事の実施中及び供用後において環境保全対策の内容をより詳細なものにするもの及び将来において周辺状況に変化が生じることが予想され、事後調査の結果に基づく環境保全対策の修正等があらかじめ見込まれるもの。

第 2 章　事後調査の計画

第 1 節　騒音・低周波音

1. 騒音

騒音の事後調査内容は、表 5.4-2 に示すとおりである。

表 5.4-2　騒音の事後調査内容

項　目	内　容
調査方法	「騒音に係る環境基準について」（最終改正平成 24 年、環境省告示第 54 号）及び JIS Z8731:2019「環境騒音の表示・測定方法」に定められている測定方法に準拠する。 道路交通騒音調査においては、交通量調査も併せて実施する。
調査地域及び地点	ア 建設機械の稼働 特に静穏の保持を要する施設「上山口小学校」付近 1 地点 （事後調査時に上山口小学校付近で選定。） イ 工事用車両の走行 主な工事用車両の走行ルートの横須賀葉山線の 1 地点 （図 5.2-2 No.A 地点。） ウ 資材運搬ヘリコプターの飛行 特に静穏の保持を要する施設「上山口小学校」、「長柄小学校」、「葉山中学校」付近各 1 地点 仮設ヘリポート付近 1 地点 （図 5.2-2 p.5-2-8 No.2～No.4 地点と上山口小学校付近で選定。）
調査時期、期間又は時間帯	工事中（ア 建設機械の稼働） 基礎工事　8 時～18 時　平日 1 回 工事中（イ 工事用車両の走行） 基礎工事　6 時～22 時　平日 1 回 工事中（ウ 資材運搬ヘリコプターの飛行） 基礎工事　8 時～17 時　平日 1 回
検証方法	予測の結果及び事後調査の結果を比較して検証する。

2. 低周波音

低周波音の事後調査内容は、表 5.4-3 に示すとおりである。

表 5.4-3　低周波音の事後調査内容

項　目	内　容
調査方法	「低周波音の測定方法に関するマニュアル」（平成 12 年 10 月、環境庁大気保全局）に準拠する。
調査地域及び地点	ア 資材運搬ヘリコプターの飛行 特に静穏の保持を要する施設「上山口小学校」、「長柄小学校」、「葉山中学校」付近各 1 地点 ヘリコプター地点付近 1 地点 （図 5.2-2 p.5-2-8 No.2～No.4 地点と上山口小学校付近で選定。）
調査時期、期間又は時間帯	工事中（ア 資材運搬ヘリコプターの飛行） 基礎工事　8 時～17 時　平日 1 回
検証方法	予測の結果及び事後調査の結果を比較して検証する。

第 2 節　振動

1. 振動

振動の事後調査内容は、表 5.4-4 に示すとおりである。

表 5.4-4　振動の事後調査内容

項　目	内　容
調査方法	「振動規制法施行規則」（昭和 51 年 11 月、総理府令第 58 号）に基づく道路交通の振動の限度に定められている測定方法及び JIS Z8735:1981「振動レベル測定方法」に定められている測定方法に準拠する。なお、道路交通振動調査においては、地盤卓越振動数の調査も併せて実施する。
調査地域及び地点	ア 建設機械の稼働 騒音と同じ特に静穏の保持を要する施設「上山口小学校」付近 1 地点。 （事後調査時に上山口小学校付近で選定。） イ 工事用車両の走行 騒音と同じ主な工事用車両の走行ルートの横須賀葉山線の 1 地点。 （図 5.2-2 p.5-2-8 No.A 地点。）
調査時期、期間又は時間帯	工事中（ア 建設機械の稼働） 基礎工事　8 時～18 時　平日 1 回 工事中（イ 工事用車両の走行） 基礎工事　8 時～19 時　平日 1 回
検証方法	予測の結果及び事後調査の結果を比較して検証する。

第 3 節　植物・動物・生態系

1. 植物

植物の事後調査内容は、表 5.4-5(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.4-5(1)　植物の事後調査内容

項　目	内　容
調査対象種	センダイスゲ
調査方法	環境保全対策を実施した個体について、生育状況を確認するための調査を実施する。
調査地域及び地点	生育地 1 箇所 （図 5.2-8(3) p.5-2-80、図 5.2-9(2) p.5-2-83。）
調査時期、期間又は時間帯	工事中（電線移線工事までの主要な工事期間） 本種の果期である 9 月～11 月　年 1 回
検証方法	モニタリング調査により環境保全対策の効果を検証する。

表 5.4-5(2)　植物の事後調査内容

項　目	内　容
調査対象	伐採された工事用地の樹木の更新状況（工事中の伐採箇所）
調査方法	樹木の伐採が行われた実施区域の工事用地（地域森林計画対象民有林に該当する箇所）について、5 年後に天然更新が行われているかの確認調査を実施する。確認調査では、現地踏査により調査範囲内（工事用地）を踏査して、生育している樹木の樹種、樹高、本数等を記録して、各市町の森林整備計画書等に基づいて、天然更新が正常に行われているか、各市町との協議を実施した上で判断する。天然更新が正常に行われていないと判断された場合は、樹種や植樹の時期、本数等を選定し植樹を行う。
調査地域及び地点	図 5.4-1 に示した地域森林計画対象民有林の範囲に含まれる樹木の伐採が行われた実施区域の工事用地（No.24、No.25、No.28、No.29、No.32、No.33、仮設ヘリポート）
調査時期、期間又は時間帯	供用時 工事区域の伐採を行った時期から 5 年後　各箇所 1 回
検証方法	確認調査により天然更新の状況を検証し、必要に応じてその後植樹を計画する。

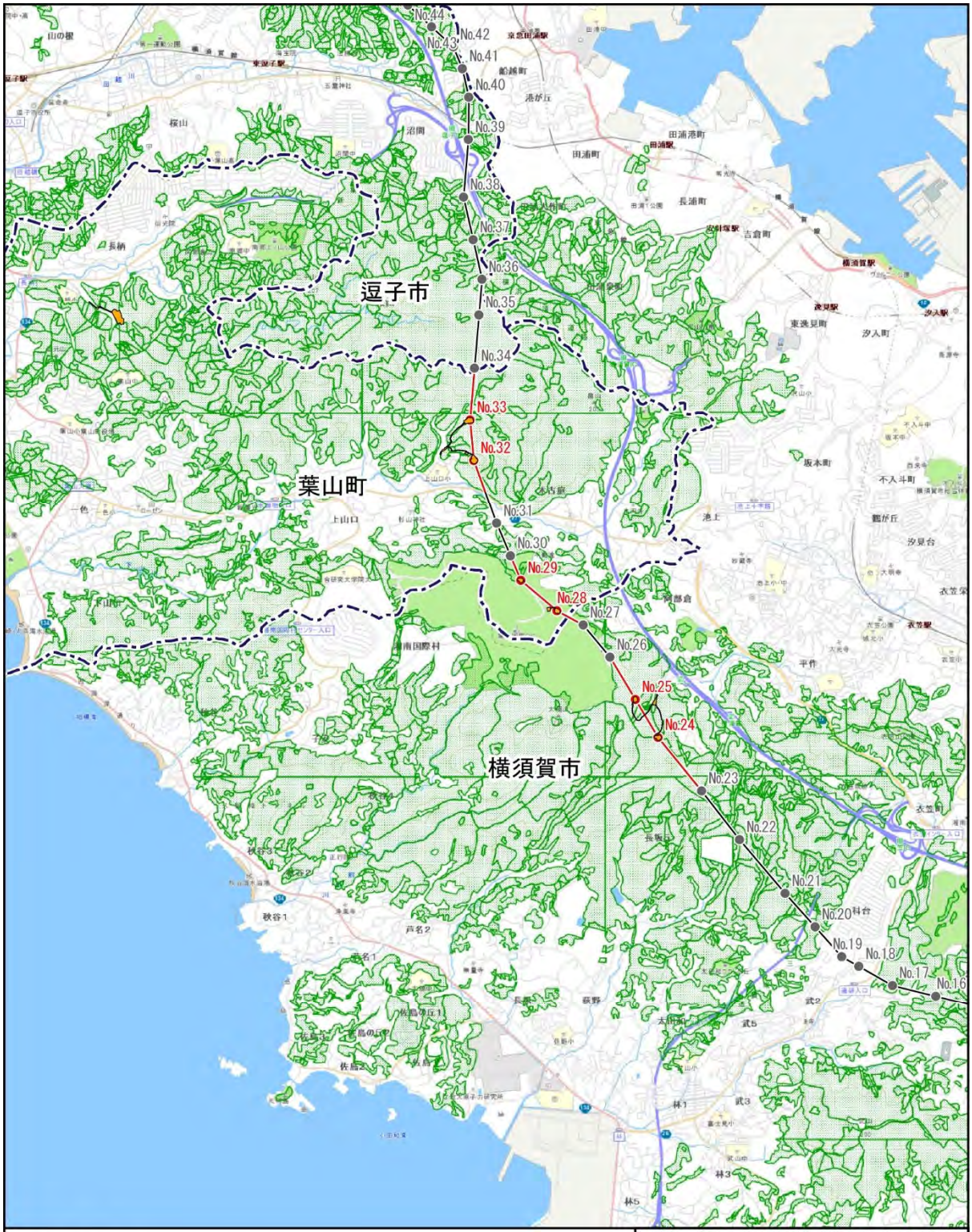


図 5.4-1　地域森林計画対象民有林の範囲

2. 動物

動物の事後調査内容は、表 5.4-6(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.4-6(1)　動物の事後調査内容

項　目	内　容
調査対象種	オオタカ
調査方法	工事に対する忌避行動の有無や利用域の変化の有無を確認するための定点調査を実施する。また、営巣地や繁殖状況を把握するための林内踏査を実施する。
調査地域及び地点	3 地区のつがい　各 2 地点 （図 5.2-11 p.5-2-89、その他確認状況等に応じて適宜設定。）
調査時期、期間又は時間帯	工事中（電線移線工事までの主要な工事期間） 繁殖期のうち 2 月～7 月　年 6 回以上
検証方法	事後調査の結果及び解析結果等により環境保全対策の効果を検証する。

表 5.4-6(2)　動物の事後調査内容

項　目	内　容
調査対象	伐採された工事用地の樹木の更新状況（工事中の伐採箇所）
調査方法	植物と同様である（表 5.4-5(2)参照）。
調査地域及び地点	植物と同様である（表 5.4-5(2)参照）。
調査時期、期間又は時間帯	植物と同様である（表 5.4-5(2)参照）。
検証方法	確認調査により天然更新の状況を検証し、必要に応じてその後植樹を計画する。

3. 生態系

生態系の事後調査内容は、表 5.4-7(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.4-7(1)　生態系の事後調査内容

項　目	内　容
調査対象種	オオタカ
調査方法	動物と同様である（表 5.4-6(1)参照）。
調査地域及び地点	動物と同様である（表 5.4-6(1)参照）。
調査時期、期間又は時間帯	動物と同様である（表 5.4-6(1)参照）。
検証方法	事後調査の結果及び解析結果等により環境保全対策の効果を検証する。

表 5.4-7(2)　生態系の事後調査内容

項　目	内　容
調査対象	伐採された工事用地の樹木の更新状況（工事中の伐採箇所）
調査方法	植物と同様である（表 5.4-5(2)参照）。
調査地域及び地点	植物と同様である（表 5.4-5(2)参照）。
調査時期、期間又は時間帯	植物と同様である（表 5.4-5(2)参照）。
検証方法	確認調査により天然更新の状況を検証し、必要に応じてその後植樹を計画する。

第 4 節　景観

1. 景観

景観の事後調査内容は、表 5.4-8 に示すとおりである。

表 5.4-8　景観の事後調査内容

項　目	内　容
調査方法	写真撮影等の現地調査により把握する。
調査地域及び地点	予測地点と同様の下記の 7 地点で実施する。 ・木古庭会館 ・しょうぶ園　展望台 ・大楠山 ・衣笠山公園　展望台 ・武山（武山不動） ・二子山展望台 ・上山口会館 （図 5.2-38 p.5-2-233。）
調査時期、期間又は時間帯	供用時（電線移線工事完了後、通電時） 冬季　1 回
検証方法	予測の結果及び事後調査の結果を比較して検証する。

第 3 章　事後調査報告書の提出時期

事後調査報告書の提出時期は、表 5.4-9 に示すとおりである。

表 5.4-9　事後調査報告書の提出時期

事後調査の時期	項　目	提出時期
工事中	騒音	事後調査を実施し、基礎工事がすべて完了した段階で調査結果を整理して提出する。 なお、事後調査報告の内容は、下記の植物・動物・生態系とまとめて提出する。
	低周波音	
	振動	
	植物	各年の事後調査結果を整理し、調査年の 12 月に各項目の調査結果をまとめ、年 1 回提出する。
	動物	
	生態系	
供用時	植物	伐採後 5 年経過した工事用地の樹木を対象に事後調査を実施し、すべての調査が終了した年の 12 月に調査結果をまとめ、1 回提出する。
	動物	
	生態系	
	景観	送電線の通電を開始した年に事後調査を実施し、1 回提出する。

別添 5-5　審査意見書に基づく実施計画書の変更内容又は変更しない場合は、その理由

第 1 章　審査意見書に基づく実施計画書の変更内容又は変更しない場合は、その理由‥ 5-5-1

第 1 章　審査意見書に基づく実施計画書の変更内容又は変更しない場合は、その理由

神奈川県影響評価条例第 12 条第 1 項の規定に基づき、令和 5 年 4 月 28 日に事業者へ通知された実施計画審査意見書の意見内容について、実施計画の変更内容又は変更しない場合は、その理由を表 5.5-1 に示した。

表 5.5-1　審査意見書に基づく実施計画書の変更内容又は変更しない場合は、その理由

審査意見書の内容	審査意見書に基づく環境影響予測評価実施計画書の内容変更又は変更しない場合はその理由
Ⅲ 意見 対象事業は、送電線にかかる既設の鉄塔の建替を行うものであるが、対象事業実施区域及びその周辺は衣笠・大楠山近郊緑地保全区域及び逗子・葉山近郊緑地保全区域でまとまりのある丘陵状の緑地が広がっており、モザイク状の植生構造となっている。また、鉄塔が尾根に設置され、工事車両がアクセスすることが難しい鉄塔が多いことから、鉄塔まで樹林等を伐開してモノレールや索道を敷設、若しくはヘリコプターを使用して資材を搬入する計画としているが、詳細な工事計画は未確定であるとしており、土地の改変の場所や小学校等への影響など明らかではない点もある。 こうした立地特性や事業特性を踏まえ、計画を具体化するに当たっては、適宜、関係住民等に丁寧に説明すること。 また、事業による影響を可能な限り低減する観点から、詳細な工事計画を踏まえて評価項目や調査方法を改めて精査し、これらを反映させた適切な調査、予測及び評価を行うこと。	本事業の計画・実施にあたっては、以下に示すように関係各所へ適切な対応を行った上で、具体化した詳細な工事計画を踏まえて評価項目や調査方法を改めて精査し、適切な調査、予測及び評価を行いました。また、実施区域の変更を計画した際には、評価項目や調査方法を改めて精査し、現地調査及び関係図書に反映しました。 【関係住民】 本事業の近隣に居住する住民の方々へは、住民説明会を実施して丁寧に説明を行いました。また、各自治会の代表者には、計画の詳細がある程度定まった段階で、事業計画の工事内容、スケジュール等を丁寧に説明し、ご理解いただきました。そのほか、ヘリコプターの運搬ルート付近に位置する上山口小学校、長柄小学校、葉山中学校では、事前に影響の予測地点において調査を行った騒音についての予測結果を説明しています。 【各地権者等】 本事業の実施にあたり、必要となる工事用地について、各地権者へ工事内容の説明を行い、工事のご協力と、該当土地への立入の了解を頂き調査を進めています。 【自然保護団体】 鉄塔 No.32、No.33 周辺の谷戸で保全活動を行っている「寺前谷戸復元プロジェクト」へは、本事業の詳細を丁寧に説明し、ご理解をいただきました。また、周辺に生息・生育する動植物について聞き取り調査を行い、協議を行った上で、重要な動植物の生息・生育地を避けて工事用地を選定しました。

別添 6　対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容

第 1 章　対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容 ····· 6-1-1

第１章　対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容

対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容は、表 6.1-1 に示すとおりである。

表 6.1-1　対象事業を実施するにつき必要な許可等の種類及び内容

許可等の種類	根拠法令の名称及び条項	許認可権者等
航空障害灯・昼間障害標識設置免除申請	航空法第 51 条	東京航空局長
航空障害灯設置届出 昼間障害標識設置届出	航空法施行規則第 238 条	東京航空局長
土木工事等のための埋蔵文化財の発掘に関する届出	文化財保護法第 93 条	文化庁長官
農地の転用の制限	農地法第 4 条	都道府県知事又は 農林水産大臣
農用地区域内における開発行為の制限	農業振興地域の整備に関する法律第 15 条の 2	都道府県知事
森林の土地の所有者となった旨の届出等	森林法第 10 条の 7 の 2	市町村長
伐採及び伐採後の造林の届出	森林法第 10 条の 8	市町村長
保安林指定（解除）申請	森林法第 27 条第 1 項	農林水産大臣又は 都道府県知事
保安林内立木伐採許可申請	森林法第 34 条第 1 項	都道府県知事
保安林内作業許可申請	森林法第 34 条第 2 項	都道府県知事
保安林内立木伐採届出 （立木の伐採の許可を要しない場合の届出）	森林法施行規則第 60 条の 8	都道府県知事
道路の占用の許可	道路法第 32 条	道路管理者
土地の占用の許可申請	河川法第 24 条	河川管理者
行為の規制等	景観法第 16 条	景観行政団体の長
行為の届出	逗子市景観条例第 16 条	逗子市長
届出を要する行為	葉山町景観法施行条例第 5 条	葉山町長
	横須賀市景観条例 （景観法第 16 条 1 項）	横須賀市長
風致地区内の行為の許可	横須賀市風致地区条例第 2 条	横須賀市長
	葉山町風致地区条例第 2 条	葉山町長
近郊緑地保全区域の行為の届出	首都圏近郊緑地保全法第 7 条	都道府県知事
建設リサイクル法届出書	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第 10 条第 1 項	都道府県知事
一定の規模以上の土地の形質の変更届出書	土壌汚染対策法第 4 条第 1 項	都道府県知事
処理計画の届出 土砂埋立行為の許可	神奈川県土砂の適正処理に関する条例第 42 号	神奈川県知事

資 料 編

資料編　目次

1.　騒音レベル調査結果 ····· 資料-1

2.　振動レベル調査結果 ····· 資料-5

3.　植物調査結果 ····· 資料-7

(1)植物相調査結果 ····· 資料-7

(2)植生調査結果 ····· 資料-36

4.　動物調査結果 ····· 資料-65

(1)哺乳類調査結果 ····· 資料-65

(2)鳥類調査結果 ····· 資料-66

(3)昆虫類調査結果 ····· 資料-78

(4)底生生物調査結果 ····· 資料-146

5.　自主的に実施する環境保全対策 ····· 資料-150

(1)植物の環境保全対策 ····· 資料-150

(2)動物の環境保全対策 ····· 資料-150

(3)生態系の環境保全対策 ····· 資料-150

(4)オオタカの環境保全対策 ····· 資料-151

1. 騒音レベル測定結果

騒音レベルの測定結果を表 1.1-1(1)～(4)に示す。

表 1.1-1(1)　騒音レベル測定結果一覧

騒　音　レ　ベ　ル　測　定　結　果　一　覧

【地　点】 No.1

【年月日】 令和6年2月14日(水)　　単位：dB

区分	時　間	LAeq	LA5	LA10	LA50	LA90	LA95	LAmax	LAmin
昼間	6 :00 ～ 7 :00	50.1	52	48	45	41	39	75	34
↓	7 :00 ～ 8 :00	51.3	53	49	46	42	41	75	36
↓	8 :00 ～ 9 :00	47.2	51	47	44	41	41	74	37
↓	9 :00 ～ 10 :00	45.0	49	46	43	39	38	68	34
↓	10 :00 ～ 11 :00	49.8	53	49	43	39	38	72	32
↓	11 :00 ～ 12 :00	45.0	47	45	41	38	37	68	34
↓	12 :00 ～ 13 :00	46.9	47	45	42	39	38	74	33
↓	13 :00 ～ 14 :00	50.5	56	54	44	40	39	75	35
↓	14 :00 ～ 15 :00	50.4	51	48	44	41	40	76	35
↓	15 :00 ～ 16 :00	46.3	51	48	43	40	39	70	34
↓	16 :00 ～ 17 :00	47.8	52	49	43	40	39	70	34
↓	17 :00 ～ 18 :00	45.1	49	47	44	41	40	64	36
↓	18 :00 ～ 19 :00	45.1	47	45	43	40	39	73	34
↓	19 :00 ～ 20 :00	45.3	49	48	45	41	40	62	37
↓	20 :00 ～ 21 :00	44.7	48	47	44	40	38	62	31
↓	21 :00 ～ 22 :00	42.5	46	45	41	37	36	59	32
昼　間 (6時～22時)	平　均	48	50	48	43	40	39	70	34
	最　大	51.3	56	54	46	42	41	76	37
	最　小	42.5	46	45	41	37	36	59	31
夜　間 (22時～翌6時)	平　均	－	－	－	－	－	－	－	－
	最　大	－	－	－	－	－	－	－	－
	最　小	－	－	－	－	－	－	－	－
全　時　間	平　均	48	50	48	43	40	39	70	34
	最　大	51.3	56	54	46	42	41	76	37
	最　小	42.5	46	45	41	37	36	59	31

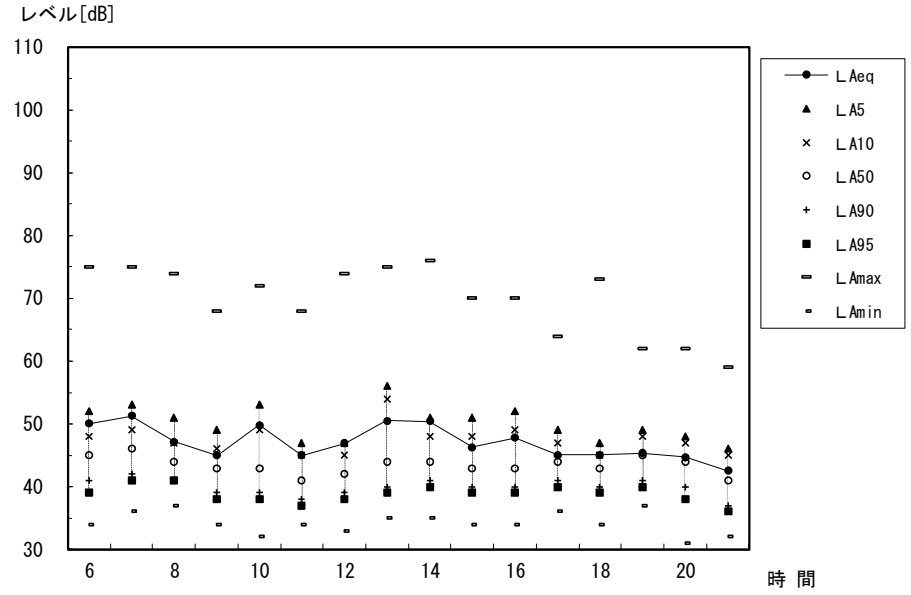


表 1.1-1(2)　騒音レベル測定結果一覧

騒　音　レ　ベ　ル　測　定　結　果　一　覧

【地　点】 No.2

【年月日】 令和6年10月2日(水) ～ 10月3日(木)　　単位：dB

区分	時　間	LAeq	LA5	LA10	LA50	LA90	LA95	LAmax	LAmin
昼間	6 :00 ～ 7 :00	53.6	55	55	53	52	51	72	49
↓	7 :00 ～ 8 :00	52.4	55	54	52	50	49	70	46
↓	8 :00 ～ 9 :00	51.2	55	54	50	45	44	69	41
↓	9 :00 ～ 10 :00	49.2	54	52	46	43	42	73	39
↓	10 :00 ～ 11 :00	54.3	60	58	47	43	42	77	39
↓	11 :00 ～ 12 :00	49.0	54	52	47	43	43	67	40
↓	12 :00 ～ 13 :00	50.8	56	53	46	42	41	72	39
↓	13 :00 ～ 14 :00	57.5	63	61	50	44	43	78	39
↓	14 :00 ～ 15 :00	50.4	57	54	46	42	41	67	37
↓	15 :00 ～ 16 :00	47.7	53	50	43	40	39	79	36
↓	16 :00 ～ 17 :00	46.8	50	49	46	43	42	62	40
↓	17 :00 ～ 18 :00	51.8	58	56	48	46	45	65	42
↓	18 :00 ～ 19 :00	59.0	61	60	59	57	56	63	51
↓	19 :00 ～ 20 :00	56.9	62	61	55	50	50	65	48
↓	20 :00 ～ 21 :00	53.9	58	57	53	50	50	61	48
↓	21 :00 ～ 22 :00	52.9	57	55	52	50	49	61	47
昼　間 (6時～22時)	平　均	54	57	55	50	46	45	69	43
	最　大	59.0	63	61	59	57	56	79	51
	最　小	46.8	50	49	43	40	39	61	36
夜　間 (22時～翌6時)	平　均	55	58	57	54	52	51	60	49
	最　大	56.2	60	59	56	54	54	63	51
	最　小	53.4	55	55	53	49	47	58	44
全　時　間	平　均	54	57	56	51	48	47	66	45
	最　大	59.0	63	61	59	57	56	79	51
	最　小	46.8	50	49	43	40	39	58	36

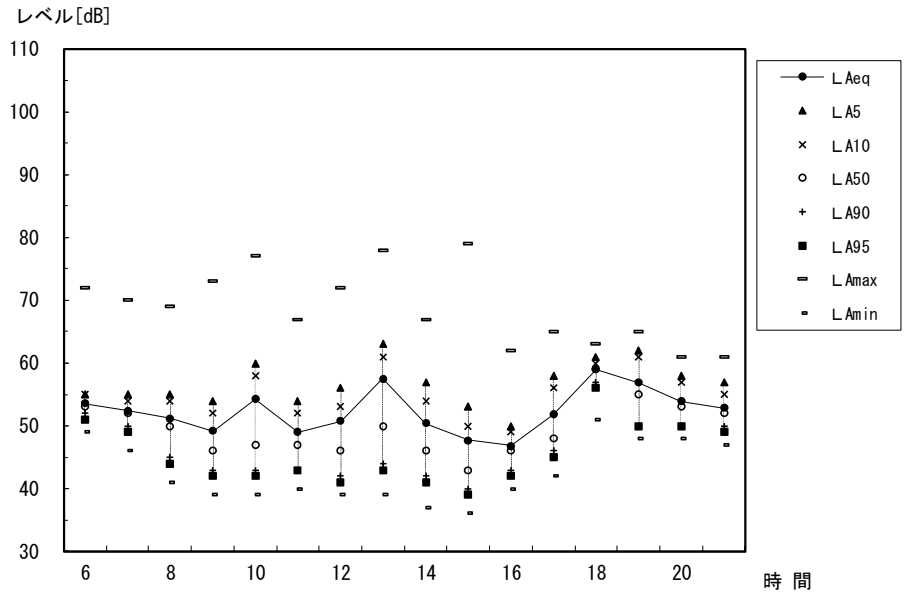


表 1.1-1(3)　騒音レベル測定結果一覧

騒　音　レ　ベ　ル　測　定　結　果　一　覧

【地　点】 No.3

【年月日】 令和6年10月2日(水) ～ 10月3日(木)　　単位：dB

区分	時　間	LAeq	LA5	LA10	LA50	LA90	LA95	LAmax	LAmin
昼間	6 :00 ～ 7 :00	36.7	37	37	37	37	37	37	37
↓	7 :00 ～ 8 :00	41.9	42	42	42	42	42	42	42
↓	8 :00 ～ 9 :00	42.7	43	43	43	43	43	43	43
↓	9 :00 ～ 10 :00	48.6	49	49	49	49	49	49	49
↓	10 :00 ～ 11 :00	43.0	43	43	43	43	43	43	43
↓	11 :00 ～ 12 :00	47.9	48	48	48	48	48	48	48
↓	12 :00 ～ 13 :00	43.0	43	43	43	43	43	43	43
↓	13 :00 ～ 14 :00	47.9	48	48	48	48	48	48	48
↓	14 :00 ～ 15 :00	43.7	44	44	44	44	44	44	44
↓	15 :00 ～ 16 :00	38.7	39	39	39	39	39	39	39
↓	16 :00 ～ 17 :00	41.3	41	41	41	41	41	41	41
↓	17 :00 ～ 18 :00	37.7	38	38	38	38	38	38	38
↓	18 :00 ～ 19 :00	54.8	55	55	55	55	55	55	55
↓	19 :00 ～ 20 :00	59.7	60	60	60	60	60	60	60
↓	20 :00 ～ 21 :00	50.4	50	50	50	50	50	50	50
↓	21 :00 ～ 22 :00	53.6	54	54	54	54	54	54	54
昼　間 (6時～22時)	平　均	51	46	46	46	46	46	46	46
	最　大	59.7	60	60	60	60	60	60	60
	最　小	36.7	37	37	37	37	37	37	37
夜　間 (22時～翌6時)	平　均	51	45	45	45	45	45	45	45
	最　大	56.6	57	57	57	57	57	57	57
	最　小	32.8	33	33	33	33	33	33	33
全　時　間	平　均	51	46	46	46	46	46	46	46
	最　大	59.7	60	60	60	60	60	60	60
	最　小	32.8	33	33	33	33	33	33	33

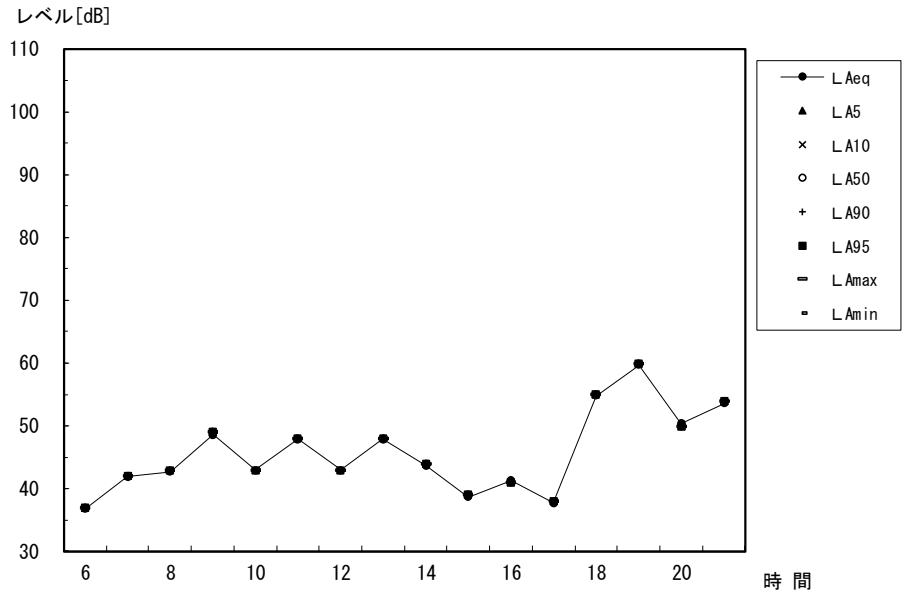


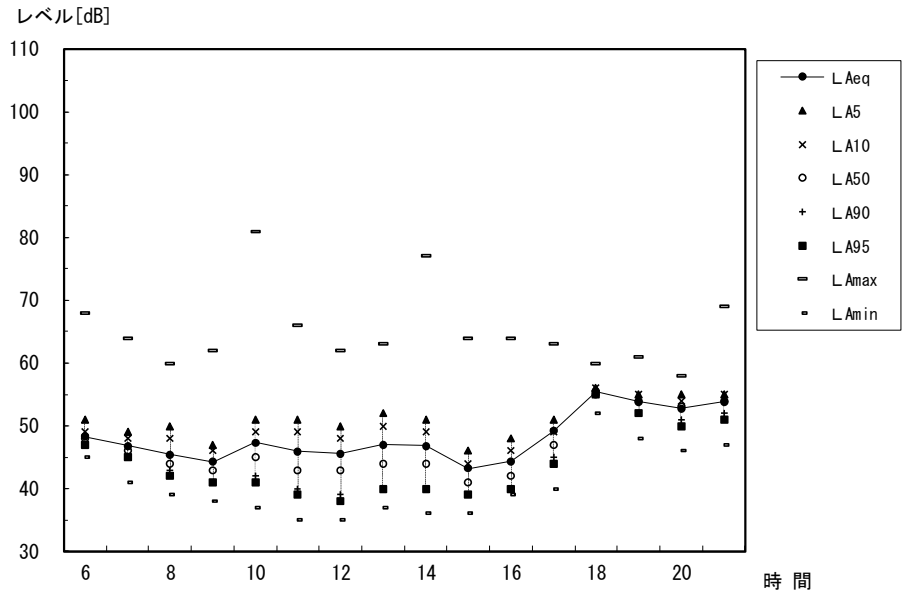
表 1.1-1(4)　騒音レベル測定結果一覧

騒　音　レ　ベ　ル　測　定　結　果　一　覧

【地　点】 No.4

【年月日】 令和6年10月2日(水) ～ 10月3日(木)　　単位：dB

区分	時　間	LAeq	LA5	LA10	LA50	LA90	LA95	LAmax	LAmin
昼間	6 :00 ～ 7 :00	48.3	51	49	48	47	47	68	45
↓	7 :00 ～ 8 :00	46.8	49	48	46	45	45	64	41
↓	8 :00 ～ 9 :00	45.4	50	48	44	43	42	60	39
↓	9 :00 ～ 10 :00	44.3	47	46	43	41	41	62	38
↓	10 :00 ～ 11 :00	47.3	51	49	45	42	41	81	37
↓	11 :00 ～ 12 :00	45.9	51	49	43	40	39	66	35
↓	12 :00 ～ 13 :00	45.6	50	48	43	39	38	62	35
↓	13 :00 ～ 14 :00	47.0	52	50	44	40	40	63	37
↓	14 :00 ～ 15 :00	46.8	51	49	44	40	40	77	36
↓	15 :00 ～ 16 :00	43.2	46	44	41	39	39	64	36
↓	16 :00 ～ 17 :00	44.4	48	46	42	40	40	64	39
↓	17 :00 ～ 18 :00	49.2	51	49	47	45	44	63	40
↓	18 :00 ～ 19 :00	55.5	56	56	55	55	55	60	52
↓	19 :00 ～ 20 :00	53.8	55	55	54	52	52	61	48
↓	20 :00 ～ 21 :00	52.8	55	54	53	51	50	58	46
↓	21 :00 ～ 22 :00	53.8	55	55	54	52	51	69	47
昼　間 (6時～22時)	平　均	50	51	50	47	44	44	65	41
	最　大	55.5	56	56	55	55	55	81	52
	最　小	43.2	46	44	41	39	38	58	35
夜　間 (22時～翌6時)	平　均	52	53	53	51	50	49	57	46
	最　大	53.3	55	55	53	51	51	63	48
	最　小	48.0	50	49	48	47	46	51	44
全　時　間	平　均	51	52	51	48	46	46	63	43
	最　大	55.5	56	56	55	55	55	81	52
	最　小	43.2	46	44	41	39	38	51	35



2. 振動レベル測定結果

振動レベルの測定結果を表 2.1-1(1)～(2)に示す。

表 2.1-1(1)　振動レベル測定結果一覧

振　動　レ　ベ　ル　測　定　結　果　一　覧

【地　点】　No.1

【年月日】　令和6年2月14日(水)　　単位：dB

区分	時　間		L5	L10	L50	L90	L95	Lmax	Lmin
夜間	6 :00 ～ 6 :10		11	10	8	7	6	15	4
↓	7 :00 ～ 7 :10		12	12	10	8	8	26	5
昼間	8 :00 ～ 8 :10		11	10	9	8	7	13	6
↓	9 :00 ～ 9 :10		14	13	10	8	8	32	6
↓	10 :00 ～ 10 :10		10	10	9	7	7	14	5
↓	11 :00 ～ 11 :10		12	12	9	8	8	18	6
↓	12 :00 ～ 12 :10		12	12	10	8	8	22	6
↓	13 :00 ～ 13 :10		20	14	10	8	8	31	6
↓	14 :00 ～ 14 :10		15	13	11	9	9	19	7
↓	15 :00 ～ 15 :10		12	11	9	8	7	18	6
↓	16 :00 ～ 16 :10		15	12	9	8	7	30	5
↓	17 :00 ～ 17 :10		13	12	10	8	7	16	6
↓	18 :00 ～ 18 :10		11	11	9	7	7	24	5
昼　間 (8時～19時)		平　均	13	12	10	8	8	22	6
		最　大	20	14	11	9	9	32	7
		最　小	10	10	9	7	7	13	5
夜　間 (19時～翌8時)		平　均	12	11	9	7	7	21	5
		最　大	14	12	10	8	8	29	5
		最　小	11	10	8	7	6	15	4
全 時 間		平　均	13	12	9	8	7	22	6
		最　大	20	14	11	9	9	32	7
		最　小	10	10	9	7	6	13	4

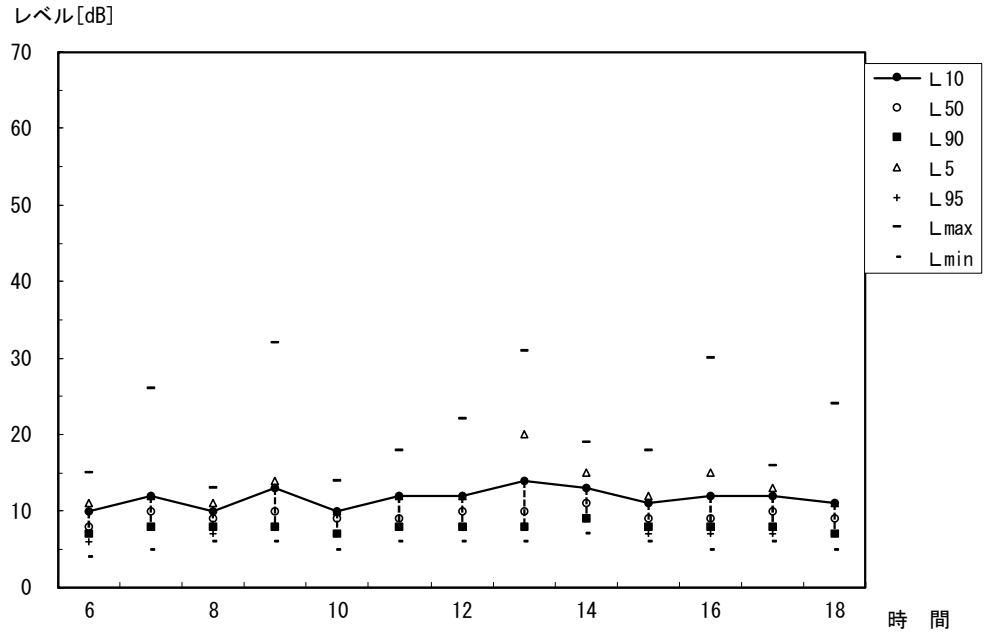


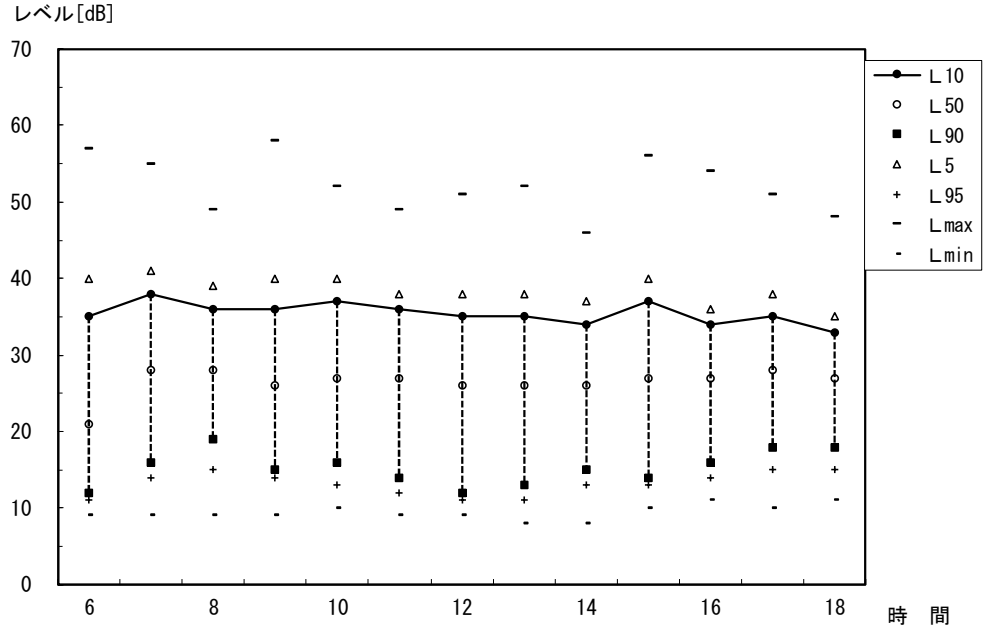
表 2.1-1(2)　振動レベル測定結果一覧

振　動　レ　ベ　ル　測　定　結　果　一　覧

【地　点】　No.A

【年月日】　令和6年2月14日(水)　　単位：dB

区分	時　間		L5	L10	L50	L90	L95	Lmax	Lmin
夜間	6 :00 ～ 6 :10		40	35	21	12	11	57	9
↓	7 :00 ～ 7 :10		41	38	28	16	14	55	9
昼間	8 :00 ～ 8 :10		39	36	28	19	15	49	9
↓	9 :00 ～ 9 :10		40	36	26	15	14	58	9
↓	10 :00 ～ 10 :10		40	37	27	16	13	52	10
↓	11 :00 ～ 11 :10		38	36	27	14	12	49	9
↓	12 :00 ～ 12 :10		38	35	26	12	11	51	9
↓	13 :00 ～ 13 :10		38	35	26	13	11	52	8
↓	14 :00 ～ 14 :10		37	34	26	15	13	46	8
↓	15 :00 ～ 15 :10		40	37	27	14	13	56	10
↓	16 :00 ～ 16 :10		36	34	27	16	14	54	11
↓	17 :00 ～ 17 :10		38	35	28	18	15	51	10
↓	18 :00 ～ 18 :10		35	33	27	18	15	48	11
昼　間 (8時～19時)		平　均	38	35	27	15	13	51	9
		最　大	40	37	28	19	15	58	11
		最　小	35	33	26	12	11	46	8
夜　間 (19時～翌8時)		平　均	37	34	23	12	11	55	8
		最　大	41	38	28	16	14	57	9
		最　小	35	31	20	10	9	51	8
全 時 間		平　均	38	35	26	14	13	53	9
		最　大	41	38	28	19	15	58	11
		最　小	35	31	20	10	9	46	8



3. 植物調査結果

(1) 植物相調査結果

既存資料により確認された植物種を表 3.1-1(1)～(29)に示す。

表 3.1-1(1)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	トウゲシバ（広義）	*Huperzia serrata*				
2			ヒカゲノカズラ	*Lycopodium clavatum* var. *nipponicum*				
3		イワヒバ	カタヒバ	*Selaginella involvens*				
4			イヌカタヒバ	*Selaginella moellendorffii*			VU	
5			タチクラマゴケ	*Selaginella nipponica*				
6			クラマゴケ	*Selaginella remotifolia*				
7			コンテリクラマゴケ	*Selaginella uncinata*				
8		トクサ	スギナ	*Equisetum arvense*				
9			オクエゾスギナ	*Equisetum arvense* f. *boreale*				
10			トクサ	*Equisetum hyemale*				
11			イヌスギナ	*Equisetum palustre*				
12			イヌドクサ	*Equisetum ramosissimum* ssp. *ramosissimum*				
13		ハナヤスリ	シチトウハナワラビ	*Botrychium atrovirens*				NT
14			オオハナワラビ	*Botrychium japonicum*				
15			アカハナワラビ	*Botrychium nipponicum*				
16			ナガホノナツノハナワラビ	*Botrychium strictum*				
17			アカフユノハナワラビ	*Botrychium ternatum* var. *pseudoternatum*				
18			フユノハナワラビ	*Botrychium ternatum* var. *ternatum*				
19			ナツノハナワラビ	*Botrychium virginianum*				
20			コヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum petiolatum*				NT
21			ハマハナヤスリ	*Ophioglossum thermale*				
22			ヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum vulgatum*				
23		マツバラン	マツバラン	*Psilotum nudum*			NT	NT
24		ゼンマイ	オオバヤシャゼンマイ	*Osmunda* x *intermedia*				
25			ゼンマイ	*Osmunda japonica*				
26		コケシノブ	アオホラゴケ	*Crepidomanes latealatum*				
27			ウチワゴケ	*Crepidomanes minutum*				
28			ホソバコケシノブ	*Hymenophyllum polyanthos*				
29			セイタカホラゴケ	*Vandenboschia* × *quelpaertensis*				
30			コケシノブ	*Hymenophyllum wrightii*				VU
31			ホクリクハイホラゴケ	*Vandenboschia hokurikuensis*				CR
32			ハイホラゴケ	*Vandenboschia kalamocarpa*				
33			アイハイホラゴケ	*Vandenboschia kalamocarpa* × *V. nipponica* × *V. striata*				
34			ミウラハイホラゴケ	*Vandenboschia miuraensis*			EN	EN
35			イズハイホラゴケ	*Vandenboschia orientalis*				CR
36			コハイホラゴケ	*Vandenboschia* x *stenosiphon*				
37		ウラジロ	コシダ	*Dicranopteris linearis*				
38			ウラジロ	*Diplopterygium glaucum*				
39		カニクサ	カニクサ	*Lygodium japonicum* var. *japonicum*				
40		デンジソウ	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia*			VU	VU
41		サンショウモ	アメリカオオアカウキクサ	*Azolla caroliniana*				
42			オオアカウキクサ	*Azolla japonica*			EN	VU
43			サンショウモ	*Salvinia natans*			VU	CR
44		キジノオシダ	オオキジノオ	*Plagiogyria euphlebia*				NT
45			キジノオシダ	*Plagiogyria japonica*				NT
46		ホングウシダ	ホラシノブ	*Odontosoria chinensis*				
47			ハマホラシノブ	*Sphenomeris biflora*				EN
48		コバノイシカグマ	イヌシダ	*Dennstaedtia hirsuta*				
49			コバノイシカグマ	*Dennstaedtia scabra*				
50			オウレンシダ	*Dennstaedtia wilfordii*				
51			イワヒメワラビ	*Hypolepis punctata*				
52			クジャクフモトシダ	*Microlepia x bipinnata*				
53			フモトシダ	*Microlepia marginata*				
54			ケブカフモトシダ	*Microlepia marginata* f. *yakusimensis*				
55			フモトカグマ	*Microlepia pseudostrigosa*				
56			イシカグマ	*Microlepia strigosa*				VU
57			ウスバイシカグマ	*Microlepia substrigosa*			NT	CR
58			ワラビ	*Pteridium aquilinum* ssp. *japonicum*				
59		イノモトソウ	ホウライシダ	*Adiantum capillus-veneris*				
60			ハコネシダ	*Adiantum monochlamys*				

表 3.1-1(2)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
61	シダ植物	イノモトソウ	クジャクシダ	*Adiantum pedatum*				
62			タキミシダ	*Antrophyum obovatum*			EN	EN
63			ヒメミズワラビ	*Ceratopteris gaudichaudii* var. *vulgaris*				NT
64			ミズワラビ	*Ceratopteris thalictroides*				
65			イヌイワガネソウ	*Coniogramme* x *fauriei*				
66			イワガネゼンマイ	*Coniogramme intermedia*				
67			ウラゲイワガネ	*Coniogramme intermedia* f. *villosa*				
68			イワガネソウ	*Coniogramme japonica*				
69			タチシノブ	*Onychium japonicum*				
70			オオバノイノモトソウ	*Pteris cretica*				
71			ハチジョウシダ	*Pteris fauriei*				EN
72			イノモトソウ	*Pteris multifida*				
73			マツサカシダ	*Pteris nipponica*				
74			ハチジョウシダモドキ	*Pteris oshimensis*				VU
75			アイイノモトソウ	*Pteris* x *pseudosefuricola*				
76			アマクサシダ	*Pteris semipinnata*				
77			オオバノアマクサシダ	*Pteris terminalis* var. *fauriei*				
78			オオバノハチジョウシダ	*Pteris terminalis* var. *terminalis*				
79		チャセンシダ	コバノヒノキシダ	*Asplenium anogrammoides*				
80			トラノオシダ	*Asplenium incisum*				
81			ヌリトラノオ	*Asplenium normale*				CR
82			クモノスシダ	*Asplenium ruprechtii*				
83			コタニワタリ	*Asplenium scolopendrium*				NT
84			イワトラノオ	*Asplenium tenuicaule*				
85			チャセンシダ	*Asplenium trichomanes* ssp. *quadrivalens*				VU
86			ホウビシダ	*Hymenasplenium hondoense*				VU
87		ヒメシダ	ヒメワラビ	*Macrothelypteris torresiana* var. *calvata*				
88			ミドリヒメワラビ	*Macrothelypteris viridifrons*				
89			ゲジゲジシダ（広義）	*Phegopteris decursivepinnata*				
90			ホシダ	*Thelypteris acuminata* var. *acuminata*				
91			コハシゴシダ	*Thelypteris angustifrons*				
92			イヌケホシダ	*Thelypteris dentata*				
93			ハシゴシダ	*Thelypteris glanduligera*				
94			ハリガネワラビ	*Thelypteris japonica*				
95			ヤワラシダ	*Thelypteris laxa*				
96			イワハリガネワラビ	*Thelypteris musashiensis*				EN
97			ヒメシダ	*Thelypteris palustris*				
98			ケホシダ	*Thelypteris parasitica*				EN
99			ミゾシダ	*Thelypteris pozoi* ssp. *mollissima*				
100		イワデンダ	イワデンダ	*Woodsia polystichoides*				
101		コウヤワラビ	イヌガンソク	*Onoclea orientalis*				
102			コウヤワラビ	*Onoclea sensibilis* var. *interrupta*				
103			クサソテツ	*Onoclea struthiopteris*				
104		シシガシラ	オサシダ	*Blechnum amabile*				NT
105			シシガシラ	*Blechnum niponicum*				
106			コモチシダ	*Woodwardia orientalis*				
107			ハチジョウカグマ	*Woodwardia prolifera*				CR
108		メシダ	イヌワラビ	*Anisocampium niponicum*				
109			ホクリクイヌワラビ	*Anisocampium* x *saitoanum*				
110			カラクサイヌワラビ	*Athyrium clivicola*				
111			シケチシダ	*Athyrium decurrentialatum*				
112			ホソバイヌワラビ	*Athyrium iseanum* var. *iseanum*				
113			ニシキシダ	*Athyrium niponicum*				
114			タニイヌワラビ	*Athyrium otophorum*				NT
115			ヤマイヌワラビ	*Athyrium vidalii*				
116			ヒロハイヌワラビ	*Athyrium wardii*				
117			ヘビノネゴザ	*Athyrium yokoscense*				
118			サツマシケシダ	*Deparia* x *birii*				
119			ホソバシケシダ	*Deparia conilii*				
120			セイタカシケシダ	*Deparia dimorphophylla*				
121			セイタカナチシケシダ	*Deparia dimorphophylla* x *D. petersenii*				
122			シケシダ	*Deparia japonica*				
123			タマシケシダ	*Deparia japonica* x *D. pseudoconilii* var. *pseudoconilii*				
124			ムクゲシケシダ	*Deparia kiusiana*				VU
125			ヘラシダ	*Deparia lancea*				
126			ムサシシケシダ	*Deparia* x *musashiensis*				
127			オオヒメワラビ	*Deparia okuboana*				
128			ナチシケシダ	*Deparia petersenii*				
129			コシケシダ	*Deparia petersenii* var. *grammitoides*				
130			フモトシケシダ	*Deparia pseudoconilii*				

表 3.1-1(3)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
131	シダ植物	メシダ	ハクモウイノデ	*Deparia pycnosora* var. *albosquamata*				
132			ヒカゲワラビ	*Diplazium chinense*				
133			シロヤマシダ	*Diplazium hachijoense*				
134			オニヒカゲワラビ	*Diplazium nipponicum*				VU
135			キヨタキシダ	*Diplazium squamigerum*				
136			コクモウクジャク	*Diplazium virescens*				VU
137			ノコギリシダ	*Diplazium wichurae* var. *wichurae*				
138		オシダ	オオカナワラビ	*Arachniodes amabilis* var. *fimbriata*				
139			ホソバナライシダ	*Arachniodes borealis*				
140			オニカナワラビ	*Arachniodes chinensis*				
141			ホソバカナワラビ	*Arachniodes exilis*				
142			ジンムジカナワラビ	*Arachniodes* x *jinmujiensis*				
143			ミドリカナワラビ	*Arachniodes nipponica*				VU
144			ハカタシダ	*Arachniodes simplicior*				
145			コバノカナワラビ	*Arachniodes sporadosora*				
146			リョウメンシダ	*Arachniodes standishii*				
147			メヤブソテツ	*Cyrtomium caryotideum*				
148			ナガバヤブソテツ	*Cyrtomium devexiscapulae*				
149			オニヤブソテツ	*Cyrtomium falcatum* ssp. *falcatum*				
150			ヒメオニヤブソテツ	*Cyrtomium falcatum* ssp. *littorale*				
151			ヤマヤブソテツ	*Cyrtomium fortunei* var. *clivicola*				
152			ヤブソテツ	*Cyrtomium fortunei* var. *fortunei*				
153			テリハヤブソテツ	*Cyrtomium laetevirens*				
154			ヒロハヤブソテツ	*Cyrtomium macrophyllum*				VU
155			ミヤコヤブソテツ	*Cyrtomium yamamotoi*				
156			イワヘゴ	*Dryopteris atrata*				
157			ヤマイタチシダ	*Dryopteris bissetiana*				
158			ハチジョウベニシダ	*Dryopteris caudipinna*				VU
159			サイゴクベニシダ	*Dryopteris championii*				
160			ミサキカグマ	*Dryopteris chinensis*				
161			オシダ	*Dryopteris crassirhizoma*				
162			イヌイワヘゴ	*Dryopteris cycadina*				
163			ベニシダ	*Dryopteris erythrosora*				
164			ミドリベニシダ	*Dryopteris erythrosora* f. *viridisora*				
165			ベニオオイタチシダ	*Dryopteris erythrovaria*				
166			マルバベニシダ	*Dryopteris fuscipes*				
167			サクライカグマ	*Dryopteris gymnophylla*				
168			キンキイタチシダ	*Dryopteris hikonensis*				
169			オオベニシダ	*Dryopteris hondoensis*				
170			ギフベニシダ	*Dryopteris kinkiensis*				
171			キノクニベニシダ	*Dryopteris kinokuniensis*				
172			クマワラビ	*Dryopteris lacera*				
173			キヨスミヒメワラビ	*Dryopteris maximowicziana*				
174			アイノコクマワラビ	*Dryopteris* x *mituii*				
175			ミヤマベニシダ	*Dryopteris monticola*				CR
176			トウゴクシダ	*Dryopteris nipponensis*				
177			ミヤマイタチシダ	*Dryopteris sabaei*				
178			ヒメイタチシダ	*Dryopteris sacrosancta*				
179			ナガバノイタチシダ	*Dryopteris sparsa* var. *sparsa*				
180			タニヘゴ	*Dryopteris tokyoensis*				EN
181			オクマワラビ	*Dryopteris uniformis*				
182			ドウリョウイノデ	*Polystichum* x *anceps*				
183			ツルデンダ	*Polystichum craspedosorum*				
184			アスカイノデ	*Polystichum fibrillosopaleaceum*				
185			オリヅルシダ	*Polystichum lepidocaulon*				
186			アイアスカイノデ	*Polystichum longifrons*				
187			カタイノデ	*Polystichum makinoi*				
188			オオキヨズミシダ	*Polystichum mayebarae*				
189			ミウライノデ	*Polystichum* x *miuranum*				
190			オオタニイノデ	*Polystichum* x *ohtanii*				
191			ツヤナシイノデ	*Polystichum ovatopaleaceum* var. *ovatopaleaceum*				
192			イノデ	*Polystichum polyblepharon*				
193			サカゲイノデ	*Polystichum retrosopaleaceum*				
194			イノデモドキ	*Polystichum tagawanum*				
195			ジュウモンジシダ	*Polystichum tripteron*				
196			ヒメカナワラビ	*Polystichum tsus-simense*				
197		タマシダ	タマシダ	*Nephrolepis cordifolia*				
198		シノブ	シノブ	*Davallia mariesii*				
199			トキワシノブ	*Davallia tyermannii*				
200		ウラボシ	マメヅタ	*Lemmaphyllum microphyllum* var. *microphyllum*				

表 3.1-1(4)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
201	シダ植物	ウラボシ	ヒメノキシノブ	*Lepisorus onoei*				
202			ノキシノブ	*Lepisorus thunbergianus*				
203			クリハラン	*Neolepisorus ensatus*				
204			ヒトツバ	*Pyrrosia lingua*				
205			ミツデウラボシ	*Selliguea hastata*				
206	裸子植物	イチョウ	イチョウ	*Ginkgo biloba*				
207		マツ	モミ	*Abies firma*				
208			カラマツ	*Larix kaempferi*				
209			アカマツ	*Pinus densiflora*				
210			クロマツ	*Pinus thunbergii*				
211		マキ	ナギ	*Nageia nagi*				
212			イヌマキ	*Podocarpus macrophyllus*				
213			ラカンマキ	*Podocarpus macrophyllus* 'Maki'				
214		ヒノキ	ヒノキ	*Chamaecyparis obtusa*				
215			サワラ	*Chamaecyparis pisifera*				
216			スギ	*Cryptomeria japonica* var. *japonica*				
217			コウヨウザン	*Cunninghamia lanceolata*				
218			イブキ	*Juniperus chinensis* var. *chinensis*				EN
219			ハイネズ	*Juniperus conferta*				CR
220			ネズミサシ	*Juniperus rigida*				NT
221			オキナワハイネズ	*Juniperus taxifolia* var. *lutchuensis*				CR
222			ヌマスギ	*Taxodium distichum*				
223			アスナロ	*Thujopsis dolabrata* var. *dolabrata*				
224		イチイ	イヌガヤ	*Cephalotaxus harringtonia*				
225			カヤ	*Torreya nucifera* var. *nucifera*				
226	基部被子植物	スイレン	コウホネ	*Nuphar japonica*				CR
227			ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* var. *angusia*				EX
228			スイレン	*Nymphaea cvs.*				
229		マツブサ	シキミ	*Illicium anisatum*				
230			サネカズラ	*Kadsura japonica*				
231			マツブサ	*Schisandra repanda*				
232	-	センリョウ	ヒトリシズカ	*Chloranthus quadrifolius*				
233			フタリシズカ	*Chloranthus serratus*				
234			センリョウ	*Sarcandra glabra*				
235			キミノセンリョウ	*Sarcandra glabra* f. *flava*				
236	モクレン類	ドクダミ	ドクダミ	*Houttuynia cordata*				
237			ハンゲショウ	*Saururus chinensis*				
238		コショウ	フウトウカズラ	*Piper kadsura*				
239		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	*Aristolochia debilis*				
240			オオバウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi*				
241			カンアオイ	*Asarum nipponicum* var. *nipponicum*				
242		モクレン	オガタマノキ	*Magnolia compressa*				
243			コブシ	*Magnolia kobus*				
244			シモクレン	*Magnolia liliiflora*				
245			ホオノキ	*Magnolia obovata*				
246		ロウバイ	ロウバイ	*Chimonanthus praecox*				
247		クスノキ	クスノキ	*Cinnamomum camphora*				
248			ニッケイ	*Cinnamomum sieboldii*			NT	
249			ヤブニッケイ	*Cinnamomum yabunikkei*				
250			ゲッケイジュ	*Laurus nobilis*				
251			ヤマコウバシ	*Lindera glauca*				
252			ダンコウバイ	*Lindera obtusiloba*				
253			アブラチャン	*Lindera praecox* var. *praecox*				
254			クロモジ	*Lindera umbellata* var. *umbellata*				
255			カゴノキ	*Litsea coreana*				
256			タブノキ	*Machilus thunbergii*				
257			シロダモ	*Neolitsea sericea* var. *sericea*				
258	単子葉類	ショウブ	ショウブ	*Acorus calamus*				
259			セキショウ	*Acorus gramineus* var. *gramineus*				
260		サトイモ	ホソバテンナンショウ	*Arisaema angustatum*				
261			マムシグサ	*Arisaema japonicum*				
262			カントウマムシグサ	*Arisaema serratum*				
263			ウラシマソウ	*Arisaema thunbergii* ssp. *urashima*				
264			アオウキクサ	*Lemna aoukikusa* ssp. *aoukikusa*				
265			コウキクサ	*Lemna minor*				
266			カラスビシャク	*Pinellia ternata*				
267			オオハンゲ	*Pinellia tripartita*				
268			ウキクサ	*Spirodela polyrhiza*				
269		オモダカ	ヘラオモダカ	*Alisma canaliculatum*				
270			アギナシ	*Sagittaria aginashi*			NT	CR

表 3.1-1(5)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
271	単子葉類	オモダカ	ナガバオモダカ	*Sagittaria graminea*				
272			ウリカワ	*Sagittaria pygmaea*				
273			オモダカ	*Sagittaria trifolia*				
274		トチカガミ	ヤナギスブタ	*Blyxa japonica*				CR
275			オオカナダモ	*Egeria densa*				
276			コカナダモ	*Elodea nuttallii*				
277			ヤマトウミヒルモ	*Halophila nipponica*				CR
278			ウミヒルモ	*Halophila ovalis*			NT	
279			トチカガミ	*Hydrocharis dubia*			NT	EX
280			アマゾントチカガミ	*Limnobium laevigatum*				
281			ヒロハトリゲモ	*Najas chinensis*			VU	NT
282			イトトリゲモ	*Najas gracillima*			NT	NT
283			トリゲモ	*Najas minor*			VU	CR
284			ミズオオバコ	*Ottelia alismoides*			VU	VU
285		アマモ	エビアマモ	*Phyllospadix japonicus*			NT	VU
286			オオアマモ	*Zostera asiatica*			VU	
287			タチアマモ	*Zostera caulescens*			VU	VU
288			コアマモ	*Zostera japonica*				VU
289			アマモ	*Zostera marina*				
290		ヒルムシロ	エビモ	*Potamogeton crispus*				
291			ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus*				
292			リュウノヒゲモ	*Stuckenia pectinata*			NT	VU
293			イトクズモ	*Zannichellia palustris*			VU	EX
294		キンコウカ	ソクシンラン	*Aletris spicata*				CR
295		ヤマノイモ	ニガカシュウ	*Dioscorea bulbifera*				
296			ヤマノイモ	*Dioscorea japonica*				
297			ナガイモ	*Dioscorea polystachya*				
298			カエデドコロ	*Dioscorea quinquelobata*				
299			キクバドコロ	*Dioscorea septemloba*				
300			ヒメドコロ	*Dioscorea tenuipes*				
301			オニドコロ	*Dioscorea tokoro*				
302		ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	*Sciaphila nana*			VU	EX
303		イヌサフラン	ホウチャクソウ	*Disporum sessile*				
304			チゴユリ	*Disporum smilacinum*				
305		サルトリイバラ	サルトリイバラ	*Smilax china* var. *china*				
306			トキワサルトリイバラ	*Smilax china* var. *yanagitai*				
307			シオデ	*Smilax riparia*				
308		ユリ	ウバユリ	*Cardiocrinum cordatum* var. *cordatum*				
309			キバナノアマナ	*Gagea nakaiana*				EX
310			ヤマユリ	*Lilium auratum*				
311			シンテッポウユリ	*Lilium* x *formolongo*				
312			タカサゴユリ	*Lilium formosanum*				
313			スカシユリ	*Lilium maculatum* var. *maculatum*				
314			ヤマジノホトトギス	*Tricyrtis affinis*				EN
315			タイワンホトトギス	*Tricyrtis formosana*			CR	
316			ホトトギス	*Tricyrtis hirta*				
317			ヤマホトトギス	*Tricyrtis macropoda*				
318			アマナ	*Tulipa edulis*				NT
319		ラン	ムギラン	*Bulbophyllum inconspicuum*			NT	EN
320			エビネ	*Calanthe discolor*			NT	NT
321			キンセイラン	*Calanthe nipponica*			VU	CR
322			ギンラン	*Cephalanthera erecta*				
323			キンラン	*Cephalanthera falcata*			VU	NT
324			ササバギンラン	*Cephalanthera longibracteata*				
325			クゲヌマラン	*Cephalanthera longifolia*			VU	
326			ユウシュンラン	*Cephalanthera subaphylla*			VU	EN
327			ヒメノヤガラ	*Chamaegastrodia sikokiana*			VU	VU
328			サイハイラン	*Cremastra variabilis*				
329			シュンラン	*Cymbidium goeringii*				
330			マヤラン	*Cymbidium macrorhizon*			VU	
331			ナギラン	*Cymbidium nagifolium*			VU	VU
332			サガミラン	*Cymbidium nipponicum*			EN	NT
333			クマガイソウ	*Cypripedium japonicum*			VU	VU
334			ハマカキラン	*Epipactis papillosa* var. *sayekiana*			VU	
335			カキラン	*Epipactis thunbergii*				VU
336			タシロラン	*Epipogium roseum*			NT	
337			アキザキヤツシロラン	*Gastrodia confusa*				
338			クロヤツシロラン	*Gastrodia pubilabiata*				
339			ベニシュスラン	*Goodyera biflora*				NT
340			アケボノシュスラン	*Goodyera foliosa* var. *laevis*				VU

表 3.1-1(6)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
341	単子葉類	ラン	ハチジョウシュスラン	*Goodyera hachijoensis* var. *hachijoensis*				EN
342			ミヤマウズラ	*Goodyera schlechtendaliana*				
343			シュスラン	*Goodyera velutina*				VU
344			オオハクウンラン	*Kuhlhasseltia fissa*			VU	CR
345			ムヨウラン	*Lecanorchis japonica*				VU
346			クロムヨウラン	*Lecanorchis nigricans* var. *nigricans*				
347			トサノクロムヨウラン	*Lecanorchis nigricans* var. *patipetala*				NT
348			ジガバチソウ	*Liparis krameri*				CR
349			クモキリソウ	*Liparis kumokiri*				
350			コクラン	*Liparis nervosa*				
351			フウラン	*Neofinetia falcata*			VU	EN
352			ムカゴサイシン	*Nervilia nipponica*			EN	EN
353			ヨウラクラン	*Oberonia japonica*				VU
354			コケイラン	*Oreorchis patens*				CR
355			サギソウ	*Pecteilis radiata*			NT	
356			オオバノトンボソウ	*Platanthera minor*				
357			コバノトンボソウ	*Platanthera nipponica*				EX
358			ネジバナ	*Spiranthes sinensis* var. *amoena*				
359			クモラン	*Taeniophyllum glandulosum*				CR
360			カヤラン	*Thrixspermum japonicum*				NT
361			カゲロウラン	*Zeuxine agyokuana*			NT	VU
362			キヌラン	*Zeuxine strateumatica*				
363		アヤメ	ヒメヒオウギズイセン	*Crocosmia* x *crocosmiiflora*				
364			ヒオウギ	*Iris domestica*				VU
365			シャガ	*Iris japonica*				
366			キショウブ	*Iris pseudacorus*				
367			アヤメ	*Iris sanguinea*				EX
368			ルリニワゼキショウ	*Sisyrinchium angustifolium*				
369			ニワゼキショウ	*Sisyrinchium rosulatum*				
370			オオニワゼキショウ	*Sisyrinchium* sp.				
371		ススキノキ	ノカンゾウ	*Hemerocallis fulva* var. *disticha*				
372			ヤブカンゾウ	*Hemerocallis fulva* var. *kwanso*				
373			ハマカンゾウ	*Hemerocallis fulva* var. *littorea*				
374		ヒガンバナ	ノビル	*Allium macrostemon*				
375			タマムラサキ	*Allium pseudojaponicum*				EN
376			イズアサツキ	*Allium schoenoprasum* var. *idzuense*			EN	CR
377			ヤマラッキョウ	*Allium thunbergii*				
378			ニラ	*Allium tuberosum*				
379			ハマオモト	*Crinum asiaticum* var. *japonicum*				EN
380			ハナニラ	*Ipheion uniflorum*				
381			ヒガンバナ	*Lycoris radiata*				
382			キツネノカミソリ	*Lycoris sanguinea*				
383			スイセン	*Narcissus tazetta* var. *chinensis*				
384			ハタケニラ	*Nothoscordum gracile*				
385			タマスダレ	*Zephyranthes candida*				
386			サフランモドキ	*Zephyranthes carinata*				
387		クサスギカズラ	クサスギカズラ	*Asparagus cochinchinensis*				
388			オランダキジカクシ	*Asparagus officinalis*				
389			キジカクシ	*Asparagus schoberioides*				VU
390			ハラン	*Aspidistra elatior*				
391			ツルボ	*Barnardia japonica*				
392			スズラン	*Convallaria majalis* var. *manshurica*				
393			キヨスミギボウシ	*Hosta kiyosumiensis*				CR
394			イワギボウシ	*Hosta longipes* var. *longipes*				
395			オオバギボウシ	*Hosta sieboldiana*				
396			コバギボウシ	*Hosta sieboldii*				
397			ヒメヤブラン	*Liriope minor*				
398			ヤブラン	*Liriope muscari*				
399			ノシラン	*Ophiopogon jaburan*				
400			ジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus*				
401			ナガバジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus* var. *umbrosus*				
402			オオバジャノヒゲ	*Ophiopogon planiscapus*				
403			ホソバオオアマナ	*Ornithogalum orthophyllum*				
404			オオアマナ	*Ornithogalum umbellatum*				
405			ナルコユリ	*Polygonatum falcatum*				
406			ミヤマナルコユリ	*Polygonatum lasianthum*				
407			オオナルコユリ	*Polygonatum macranthum*				
408			アマドコロ	*Polygonatum odoratum* var. *pluriflorum*				
409			ヤマアマドコロ	*Polygonatum odoratum* var. *thunbergii*				NT
410			キチジョウソウ	*Reineckea carnea*				

表 3.1-1(7)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
411	単子葉類	クサスギカズラ	オモト	*Rohdea japonica*				
412		ヤシ	シュロ	*Trachycarpus fortunei*				
413			トウジュロ	*Trachycarpus wagnerianus*				
414		ツユクサ	マルバツユクサ	*Commelina benghalensis*				
415			シロバナツユクサ	*Commelina communis* f. *albiflora*				
416			ツユクサ	*Commelina communis* var. *communis*				
417			ケツユクサ	*Commelina communis* f. *ciliata*				
418			イボクサ	*Murdannia keisak*				
419			ヤブミョウガ	*Pollia japonica*				
420			オオトキワツユクサ	*Tradescantia albiflora*				
421			ノハカタカラクサ	*Tradescantia fluminensis*				
422			シロフハカタカラクサ	*Tradescantia fluminensis* ‘Variegata‘				
423			ムラサキツユクサ	*Tradescantia ohiensis*				
424		ミズアオイ	ホテイアオイ	*Eichhornia crassipes*				
425			コナギ	*Monochoria vaginalis*				
426		カンナ	ダンドク	*Canna indica*				
427		ショウガ	ハナミョウガ	*Alpinia japonica*				
428			ハナシュクシャ	*Hedychium coronarium*				
429			ミョウガ	*Zingiber mioga*				
430		ガマ	ミクリ	*Sparganium erectum*			NT	NT
431			ヒメミクリ	*Sparganium subglobosum*			VU	CR
432			ヒメガマ	*Typha domingensis*				
433			ガマ	*Typha latifolia*				
434			コガマ	*Typha orientalis*				
435			アイノコガマ	*Typha* x *suwensis*				
436		ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ	*Eriocaulon alpestre*				NT
437		イグサ	ハナビゼキショウ	*Juncus alatus*				
438			ヒメコウガイゼキショウ	*Juncus bufonius*				VU
439			イグサ	*Juncus decipiens*				
440			タチコウガイゼキショウ	*Juncus krameri*				
441			アオコウガイゼキショウ	*Juncus papillosus*				
442			コウガイゼキショウ	*Juncus prismatocarpus* ssp. *leschenaultii*				
443			ホソイ	*Juncus setchuensis*				
444			クサイ	*Juncus tenuis*				
445			ハリコウガイゼキショウ	*Juncus wallichianus*				
446			スズメノヤリ	*Luzula capitata*				
447			ヤマスズメノヒエ	*Luzula multiflora*				
448			ヌカボシソウ	*Luzula plumosa*				
449		カヤツリグサ	ウキヤガラ	*Bolboschoenus fluviatilis* ssp. *yagara*				
450			コウキヤガラ	*Bolboschoenus koshevnikovii*				
451			イセウキヤガラ	*Bolboschoenus planiculmis*				EN
452			ハタガヤ	*Bulbostylis barbata*				
453			トダスゲ	*Carex aequialta*			CR	
454			シラスゲ	*Carex alopeculoides* var. *chlorostacya*				
455			シロイトスゲ	*Carex alterniflora*				
456			エナシヒゴクサ	*Carex aphanolepis*				
457			クロカワズスゲ	*Carex arenicola*				NT
458			ヒゲスゲ	*Carex boottiana*				
459			コゴメスゲ	*Carex brunnea*				
460			メアオスゲ	*Carex candolleana*				
461			ハリガネスゲ	*Carex capillacea*				VU
462			ミヤマシラスゲ	*Carex confertiflora*				
463			ヒメカンスゲ	*Carex conica*				
464			ナルコスゲ	*Carex curvicollis*				
465			オニスゲ	*Carex dickinsii*				
466			アゼナルコ	*Carex dimorpholepis*				
467			カサスゲ	*Carex dispalata*				
468			ケスゲ	*Carex duvaliana*				
469			ハマアオスゲ	*Carex fibrillosa*				
470			マスクサ	*Carex gibba*				
471			ホソバヒカゲスゲ	*Carex humilis* var. *nana*				
472			カワラスゲ	*Carex incisa*				
473			ジュズスゲ	*Carex ischnostachya*				
474			オキナワジュズスゲ	*Carex ischnostachya* var. *fastigiata*				
475			ヒゴクサ	*Carex japonica*				
476			テキリスゲ	*Carex kiotensis*				
477			コウボウムギ	*Carex kobomugi*				
478			ヒカゲスゲ	*Carex lanceolata*				
479			ナキリスゲ	*Carex lenta*				
480			アオスゲ	*Carex leucochlora*				

表 3.1-1(8)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
481	単子葉類	カヤツリグサ	オオアオスゲ	*Carex lonchophora*				
482			コジュズスゲ	*Carex macroglossa*				
483			ゴウソ	*Carex maximowiczii*				
484			イソアオスゲ	*Carex meridiana*				
485			ヌカスゲ	*Carex mitrata*				
486			ノゲヌカスゲ	*Carex mitrata* var. *aristata*				
487			ヒメシラスゲ	*Carex mollicula*				
488			カンスゲ	*Carex morrowii*				
489			コミヤマカンスゲ	*Carex multifolia* var. *toriiana*				
490			シバスゲ	*Carex nervata*				
491			アワボスゲ	*Carex nipposinica*				EN
492			オオシマカンスゲ	*Carex oshimensis*				
493			ホンモンジスゲ	*Carex pisiformis*				
494			タカネマスクサ	*Carex planata*				
495			アイノコシラスゲ	*Carex pseudoaphanolepis*				CR
496			コウボウシバ	*Carex pumila*				
497			シラコスゲ	*Carex rhizopoda*				
498			ヤブスゲ	*Carex rochebrunii*				
499			シオクグ	*Carex scabrifolia*				NT
500			センダイスゲ	*Carex sendaica*				VU
501			アゼスゲ	*Carex thunbergii*				
502			ヤワラスゲ	*Carex transversa*				
503			モエギスゲ	*Carex tristachya*				
504			ヒトモトススキ	*Cladium jamaicense* ssp. *chinense*				VU
505			シュロガヤツリ	*Cyperus alternifolius*				
506			チャガヤツリ	*Cyperus amuricus*				
507			アイダクグ	*Cyperus brevifolius*				
508			ヒメクグ	*Cyperus brevifolius* var. *leiolepis*				
509			クグガヤツリ	*Cyperus compressus*				
510			イヌクグ	*Cyperus cyperoides*				
511			タマガヤツリ	*Cyperus difformis*				
512			ホソミキンガヤツリ	*Cyperus engelmannii*				
513			メリケンガヤツリ	*Cyperus eragrostis*				
514			ショクヨウガヤツリ	*Cyperus esculentus*				
515			ヒメアオガヤツリ	*Cyperus extremiorientalis*				CR
516			ヒメムツオレガヤツリ	*Cyperus ferruginescens*				
517			ヒナガヤツリ	*Cyperus flaccidus*				
518			アゼガヤツリ	*Cyperus flavidus*				
519			ヌマガヤツリ	*Cyperus glomeratus*				
520			ツルナシコアゼガヤツリ	*Cyperus haspan* var. *microhaspan*				VU
521			コゴメガヤツリ	*Cyperus iria*				
522			カヤツリグサ	*Cyperus microiria*				
523			アオガヤツリ	*Cyperus nipponicus*				
524			キンガヤツリ	*Cyperus odoratus*				
525			ウシクグ	*Cyperus orthostachyus*				
526			シロガヤツリ	*Cyperus pacificus*				VU
527			オニガヤツリ	*Cyperus pilosus*				EX
528			イガガヤツリ	*Cyperus polystachyos*				
529			ハマスゲ	*Cyperus rotundus*				
530			カワラスガナ	*Cyperus sanguinolentus*				
531			ミズガヤツリ	*Cyperus serotinus*				
532			コガネガヤツリ	*Cyperus strigosus*				
533			マツバイ	*Eleocharis acicularis* var. *longiseta*				
534			セイタカハリイ	*Eleocharis attenuata*				VU
535			ハリイ	*Eleocharis congesta* var. *japonica*				VU
536			イヌクログワイ	*Eleocharis dulcis*				EX
537			ヒメハリイ	*Eleocharis kamtschatica*				EX
538			クログワイ	*Eleocharis kuroguwai*				
539			シカクイ	*Eleocharis wichurae*				NT
540			ヒメヒラテンツキ	*Fimbristylis autumnalis*				
541			クグテンツキ	*Fimbristylis dichotoma* var. *diphylla*				EN
542			テンツキ	*Fimbristylis dichotoma* var. *tentsuki*				
543			アオテンツキ	*Fimbristylis dipsacea*				CR
544			ヒデリコ	*Fimbristylis littoralis*				
545			ナガボテンツキ	*Fimbristylis longispica*				EN
546			ヤリテンツキ	*Fimbristylis ovata*			NT	CR
547			ビロードテンツキ	*Fimbristylis sericea*				EN
548			イソヤマテンツキ	*Fimbristylis sieboldii*				
549			アゼテンツキ	*Fimbristylis squarrosa*				VU
550			ヤマイ	*Fimbristylis subbispicata*				

表 3.1-1(9)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
551	単子葉類	カヤツリグサ	メアゼテンツキ	*Fimbristylis velata*				VU
552			ヒンジガヤツリ	*Lipocarpha microcephala*				
553			ホタルイ	*Schoenoplectiella hotarui*				
554			イヌホタルイ	*Schoenoplectiella juncoides*				
555			ヒメホタルイ	*Schoenoplectiella lineolata*				EN
556			カンガレイ	*Schoenoplectiella triangulata*				
557			フトイ	*Schoenoplectus tabernaemontani*				
558			サンカクイ	*Schoenoplectus triqueter*				
559			マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus*				
560			アブラガヤ	*Scirpus wichurae*				
561		イネ	ヤマヌカボ	*Agrostis clavata*				
562			ヌカボ	*Agrostis clavata var. nukabo*				
563			バケヌカボ	*Agrostis x fouilladei*				
564			コヌカグサ	*Agrostis gigantea*				
565			クロコヌカグサ	*Agrostis nigra*				
566			ハイコヌカグサ	*Agrostis stolonifera*				
567			ヌカススキ	*Aira caryophyllea*				
568			ハナヌカススキ	*Aira elegantissima*				
569			ノハラスズメノテッポウ	*Alopecurus aequalis*				
570			スズメノテッポウ	*Alopecurus aequalis* var. *amurensis*				
571			セトガヤ	*Alopecurus japonicus*				
572			オオスズメノテッポウ	*Alopecurus pratensis*				
573			メリケンカルカヤ	*Andropogon virginicus*				
574			ハルガヤ	*Anthoxanthum odoratum*				
575			オオカニツリ	*Arrhenatherum elatius*				
576			コブナグサ	*Arthraxon hispidus*				
577			トダシバ	*Arundinella hirta*				
578			ケトダシバ	*Arundinella hirta* var. *hirta*				
579			オニトダシバ	*Arundinella hirta* var. *hondana*				
580			ダンチク	*Arundo donax*				
581			カラスムギ	*Avena fatua*				
582			マカラスムギ	*Avena sativa*				
583			ホウライチク	*Bambusa multiplex*				
584			カズノコグサ	*Beckmannia syzigachne*				
585			ヤマカモジグサ	*Brachypodium sylvaticum*				
586			コバンソウ	*Briza maxima*				
587			ヒメコバンソウ	*Briza minor*				
588			ヤクナガイヌムギ	*Bromus carinatus*				
589			イヌムギ	*Bromus catharticus*				
590			ムクゲチャヒキ	*Bromus commutatus*				
591			ヒゲナガスズメノチャヒキ	*Bromus diandrus*				
592			スズメノチャヒキ	*Bromus japonicus*				
593			キツネガヤ	*Bromus remotiflorus*				
594			ノガリヤス	*Calamagrostis brachytricha* var. *brachytricha*				
595			ヤマアワ	*Calamagrostis epigeios*				
596			ヒメノガリヤス	*Calamagrostis hakonensis*				
597			ヒメアブラススキ	*Capillipedium parviflorum*				
598			シホウチク	*Chimonobambusa quadrangularis*				
599			アフリカヒゲシバ	*Chloris gayana*				
600			オヒゲシバ	*Chloris virgata*				
601			チョウセンガリヤス	*Cleistogenes hackelii*				
602			ジュズダマ	*Coix lacryma-jobi*				
603			オガルカヤ	*Cymbopogon tortilis* var. *goeringii*				
604			ギョウギシバ	*Cynodon dactylon*				
605			ヒゲガヤ	*Cynosurus echinatus*				
606			カモガヤ	*Dactylis glomerata*				
607			メヒシバ	*Digitaria ciliaris*				
608			コメヒシバ	*Digitaria radicosa*				
609			アラゲコメヒシバ	*Digitaria radicosa* var. *hirsuta*				
610			アキメヒシバ	*Digitaria violascens*				
611			カリマタガヤ	*Dimeria ornithopoda* var. *tenera*				
612			ハキダメガヤ	*Dinebra retroflexa*				
613			アブラススキ	*Eccoilopus cotulifer*				
614			イヌビエ	*Echinochloa crus-galli*				
615			ケイヌビエ	*Echinochloa crus-galli* var. *aristata*				
616			ヒメタイヌビエ	*Echinochloa crus-galli* var. *formosensis*				
617			ヒメイヌビエ	*Echinochloa crus-galli* var. *praticola*				
618			ヒエ	*Echinochloa esculenta*				
619			タイヌビエ	*Echinochloa oryzicola*				
620			オヒシバ	*Eleusine indica*				

表 3.1-1(10)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
621	単子葉類	イネ	アオカモジグサ	*Elymus racemifer*				
622			タチカモジ	*Elymus racemifer* var. *japonensis*				
623			カモジグサ	*Elymus tsukushiensis* var. *transiens*				
624			スズメガヤ	*Eragrostis cilianensis*				VU
625			シナダレスズメガヤ	*Eragrostis curvula*				
626			カゼクサ	*Eragrostis ferruginea*				
627			ノハラカゼクサ	*Eragrostis intermedia*				
628			コスズメガヤ	*Eragrostis minor*				
629			ニワホコリ	*Eragrostis multicaulis*				
630			オオニワホコリ	*Eragrostis pilosa*				
631			チャボウシノシッペイ	*Eremochloa ophiuroides*				
632			ナルコビエ	*Eriochloa villosa*				
633			アイヒロハノウシノケグサ	*Festuca* × *aschersonianus*				
634			ウシノケグサ	*Festuca ovina*				VU
635			トボシガラ	*Festuca parvigluma*				
636			オオウシノケグサ	*Festuca rubra*				
637			ムツオレグサ	*Glyceria acutiflora* ssp. *japonica*				
638			ドジョウツナギ	*Glyceria ischyroneura*				
639			ハリノホ	*Hainardia cylindrica*				
640			ウシノシッペイ	*Hemarthria sibirica*				
641			シラゲガヤ	*Holcus lanatus*				
642			ホソノゲムギ	*Hordeum jubatum*				
643			ムギクサ	*Hordeum murinum*				
644			オオムギ	*Hordeum vulgare*				
645			ヤバネオオムギ	*Hordeum vulgare* var. *distichon*				
646			ケナシチガヤ	*Imperata cylindrica*				
647			チガヤ	*Imperata cylindrica* var. *koenigii*				
648			チゴザサ	*Isachne globosa*				
649			ハイチゴザサ	*Isachne nipponensis*				NT
650			ケカモノハシ	*Ischaemum anthephoroides*				VU
651			カモノハシ	*Ischaemum aristatum* var. *crassipes*				EN
652			ハヤマカモノハシ	*Ischaemum aristatum* var. *momiyamae*				
653			ノレンガヤ	*Lamarckia aurea*				
654			アシカキ	*Leersia japonica*				
655			エゾノサヤヌカグサ	*Leersia oryzoides*				
656			サヤヌカグサ	*Leersia sayanuka*				
657			ササガヤ	*Leptatherum japonicum*				
658			アゼガヤ	*Leptochloa chinensis*				
659			ニセアゼガヤ	*Leptochloa fusca* ssp. *uninerva*				
660			テンキグサ	*Leymus mollis*				
661			ネズミホソムギ	*Lolium* x *hybridum*				
662			ネズミムギ	*Lolium multiflorum*				
663			ホソムギ	*Lolium perenne*				
664			ボウムギ	*Lolium rigidum*				
665			ドクムギ	*Lolium temulentum*				
666			アシボソ	*Microstegium vimineum*				
667			ヒメアシボソ	*Microstegium vimineum* f. *willdenowianum*				
668			ハチジョウススキ	*Miscanthus condensatus*				
669			オギ	*Miscanthus sacchariflorus*				
670			ススキ	*Miscanthus sinensis*				
671			ネズミガヤ	*Muhlenbergia japonica*				
672			オオネズミガヤ	*Muhlenbergia longistolon*				
673			キダチノネズミガヤ	*Muhlenbergia ramosa*				VU
674			コネズミガヤ	*Muhlenbergia schreberi*				
675			コチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var. *japonicus*				
676			ケチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var. *undulatifolius*				
677			ヌカキビ	*Panicum bisulcatum*				
678			ハナクサキビ	*Panicum capillare*				
679			オオクサキビ	*Panicum dichotomiflorum*				
680			ギネアキビ	*Panicum maximum*				
681			スズメノナギナタ	*Parapholis incurva*				
682			シマスズメノヒエ	*Paspalum dilatatum*				
683			キシュウスズメノヒエ	*Paspalum distichum*				
684			アメリカスズメノヒエ	*Paspalum notatum*				
685			スズメノヒエ	*Paspalum thunbergii*				
686			タチスズメノヒエ	*Paspalum urvillei*				
687			チカラシバ	*Pennisetum alopecuroides*				
688			アオチカラシバ	*Pennisetum alopecuroides* f. *viridescens*				
689			ファウンテングラス	*Pennisetum setaceum*				
690			アイアシ	*Phacelurus latifolius*				VU

表 3.1-1(11)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
691	単子葉類	イネ	クサヨシ	*Phalaris arundinacea*				
692			カナリークサヨシ	*Phalaris canariensis*				
693			アワガエリ	*Phleum paniculatum*				EX
694			オオアワガエリ	*Phleum pratense*				
695			ヨシ	*Phragmites australis*				
696			ツルヨシ	*Phragmites japonicus*				
697			セイタカヨシ	*Phragmites karka*				NT
698			ホテイチク	*Phyllostachys aurea*				
699			モウソウチク	*Phyllostachys edulis*				
700			タイワンマダケ	*Phyllostachys makinoi*				
701			ハチク	*Phyllostachys nigra* var. *henonis*				
702			マダケ	*Phyllostachys reticulata*				
703			ネザサ	*Pleioblastus argenteostriatus*				
704			オロシマチク	*Pleioblastus argenteostriatus* 'Distichus'				
705			アズマネザサ	*Pleioblastus chino*				
706			アオネザサ	*Pleioblastus humilis*				
707			キボウシノ	*Pleioblastus kodzumae*				
708			リュウキュウチク	*Pleioblastus linearis*				
709			ヨコハマダケ	*Pleioblastus matsunoi*				EN
710			メダケ	*Pleioblastus simonii*				
711			カムロザサ	*Pleioblastus viridistriatus* f. *viridistriatus*				
712			ミゾイチゴツナギ	*Poa acroleuca*				
713			スズメノカタビラ	*Poa annua*				
714			ツクシスズメノカタビラ	*Poa crassinervis*				
715			ヤマミゾイチゴツナギ	*Poa hisauchii*				
716			オオイチゴツナギ	*Poa nipponica*				
717			ナガハグサ	*Poa pratensis*				
718			ホソバナガハグサ	*Poa pratensis* ssp. *angustifolia* var. *angustifolia*				
719			ミスジナガハグサ	*Poa pratensis* ssp. *irrigua*				
720			イチゴツナギ	*Poa sphondylodes*				
721			オオスズメノカタビラ	*Poa trivialis*				
722			イタチガヤ	*Pogonatherum crinitum*				
723			ヒエガエリ	*Polypogon fugax*				
724			ハマヒエガエリ	*Polypogon monspeliensis*				VU
725			ヤダケ	*Pseudosasa japonica*				
726			ワセオバナ	*Saccharum spontaneum* var. *arenicola*				VU
727			ハイヌメリグサ	*Sacciolepis spicata*				
728			スズダケ	*Sasa borealis*				
729			ミアケザサ	*Sasa miakeana*				
730			ケスズ	*Sasa shikokiana*				CR
731			クマザサ	*Sasa veitchii*				
732			オニウシノケグサ	*Schedonorus phoenix*				
733			ヒロハノウシノケグサ	*Schedonorus pratensis*				
734			ウシクサ	*Schizachyrium brevifolium*				
735			ナリヒラダケ	*Semiarundinaria fastuosa*				
736			イヌアワ	*Setaria chondrachne*				
737			アキノエノコログサ	*Setaria faberi*				
738			アワ	*Setaria italica*				
739			コツブキンエノコロ	*Setaria pallidefusca*				
740			フシネキンエノコロ	*Setaria parviflora*				
741			キンエノコロ	*Setaria pumila*				
742			オオエノコロ	*Setaria* x *pycnocoma*				
743			エノコログサ	*Setaria viridis* var. *minor*				
744			カタバエノコログサ	*Setaria viridis* var. *minor* f. *japonica*				
745			ムラサキエノコロ	*Setaria viridis* var. *minor* f. *misera*				
746			ハマエノコロ	*Setaria viridis* var. *pachystachys*				
747			オカメザサ	*Shibataea kumasaca*				
748			トウチク	*Sinobambusa tootsik*				
749			ヒメモロコシ	*Sorghum halepense*				
750			セイバンモロコシ	*Sorghum propinquum*				
751			オオアブラススキ	*Spodiopogon sibiricus*				
752			スズメヒゲシバ	*Sporobolus cryptandrus*				
753			ネズミノオ	*Sporobolus fertilis* var. *fertilis*				
754			ムラサキネズミノオ	*Sporobolus fertilis* var. *purpureosuffusus*				
755			ヒゲシバ	*Sporobolus japonicus*				
756			イヌシバ	*Stenotaphrum secundatum*				
757			メガルカヤ	*Themeda barbata*				
758			カニツリグサ	*Trisetum bifidum*				
759			コムギ	*Triticum aestivum*				
760			ニクキビ	*Urochloa subquadripara*				

表 3.1-1(12)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
761	単子葉類	イネ	ナギナタガヤ	*Vulpia myuros* var. *myuros*				
762			マコモ	*Zizania latifolia*				
763			シバ	*Zoysia japonica*				
764			オニシバ	*Zoysia macrostachya*				VU
765			コウシュンシバ	*Zoysia matrella*				
766			コウライシバ	*Zoysia pacifica*				
767			ナガミノオニシバ	*Zoysia sinica* var. *nipponica*				EN
768	真正双子葉類	ケシ	クサノオウ	*Chelidonium majus* ssp. *asiaticum*				
769			ジロボウエンゴサク	*Corydalis decumbens*				
770			キケマン	*Corydalis heterocarpa* var. *japonica*				
771			ムラサキケマン	*Corydalis incisa*				
772			ミヤマキケマン	*Corydalis pallida* var. *tenuis*				
773			シラユキゲシ	*Eomecon chionantha*				
774			ハナビシソウ	*Eschscholzia californica*				
775			タケニグサ	*Macleaya cordata*				
776			ケナシチャンパギク	*Macleaya cordata* f. *glabra*				
777			ナガミヒナゲシ	*Papaver dubium*				
778			トゲミゲシ	*Papaver hybridum*				
779			アツミゲシ	*Papaver somniferum* ssp. *setigerum*				
780		アケビ	ゴヨウアケビ	*Akebia* x *pentaphylla* var. *pentaphylla*				
781			アケビ	*Akebia quinata*				
782			ミツバアケビ	*Akebia trifoliata* ssp. *trifoliata*				
783			ムベ	*Stauntonia hexaphylla*				
784		ツヅラフジ	アオツヅラフジ	*Cocculus trilobus*				
785			コウモリカズラ	*Menispermum dauricum*				
786			ツヅラフジ	*Sinomenium acutum*				
787		メギ	ヒイラギナンテン	*Berberis japonica*				
788			メギ	*Berberis thunbergii*				
789			イカリソウ	*Epimedium grandiflorum* var. *thunbergianum*				
790			ナンテン	*Nandina domestica*				
791		キンポウゲ	ヤマトリカブト	*Aconitum japonicum* ssp. *japonicum*				
792			ツクバトリカブト	*Aconitum japonicum* ssp. *maritimum* var. *maritimum*				
793			ニリンソウ	*Anemone flaccida* var. *flaccida*				
794			シュウメイギク	*Anemone hupehensis* var. *japonica*				
795			イヌショウマ	*Cimicifuga biternata*				
796			オオバショウマ	*Cimicifuga japonica* var. *macrophylla*				VU
797			キケンショウマ	*Cimicifuga japonica* var. *peltata*				
798			サラシナショウマ	*Cimicifuga simplex*				
799			ボタンヅル	*Clematis apiifolia* var. *apiifolia*				
800			コボタンヅル	*Clematis apiifolia* var. *biternata*				
801			ハンショウヅル	*Clematis japonica*				
802			クサボタン	*Clematis stans* var. *stans*				
803			センニンソウ	*Clematis terniflora*				
804			シロバナハンショウヅル	*Clematis williamsii*				
805			セリバヒエンソウ	*Delphinium anthriscifolium*				
806			キクザキリュウキンカ	*Ficaria verna*				
807			スハマソウ	*Hepatica nobilis* var. *japonica* f. *variegata*			NT	EN
808			ケキツネノボタン	*Ranunculus cantoniensis*				
809			ヒキノカサ	*Ranunculus extorris* var. *extorris*			VU	CR
810			ウマノアシガタ	*Ranunculus japonicus*				
811			トゲミノキツネノボタン	*Ranunculus muricatus*				
812			ハイキンポウゲ	*Ranunculus repens* var. *major*				
813			タガラシ	*Ranunculus sceleratus*				
814			キツネノボタン	*Ranunculus silerifolius*				
815			ヒメウズ	*Semiaquilegia adoxoides*				
816			アキカラマツ	*Thalictrum minus* var. *hypoleucum*				
817		アワブキ	アワブキ	*Meliosma myriantha*				
818			ヤマビワ	*Meliosma rigida*				
819		ハス	ハス	*Nelumbo nucifera*				
820		ヤマグルマ	ヤマグルマ	*Trochodendron aralioides*				
821		ツゲ	フッキソウ	*Pachysandra terminalis*				
822		マンサク	イスノキ	*Distylium racemosum*				
823			マンサク	*Hamamelis japonica* var. *japonica*				
824		カツラ	カツラ	*Cercidiphyllum japonicum*				
825		ユズリハ	ユズリハ	*Daphniphyllum macropodum* var. *macropodum*				
826			ヒメユズリハ	*Daphniphyllum teijsmannii*				
827			スルガヒメユズリハ	*Daphniphyllum teijsmannii* var. *hisautii*				DD
828		ユキノシタ	チダケサシ	*Astilbe microphylla*				
829			アカショウマ	*Astilbe thunbergii* var. *thunbergii*				
830			ネコノメソウ	*Chrysosplenium grayanum*				

表 3.1-1(13)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
831	真正双子葉類	ユキノシタ	ヤマネコノメソウ	*Chrysosplenium japonicum*				
832			ヨゴレネコノメ	*Chrysosplenium macrostemon* var. *atrandrum*				
833			イワボタン	*Chrysosplenium macrostemon* var. *macrostemon*				
834			ムカゴネコノメソウ	*Chrysosplenium maximowiczii*			NT	
835			イズノシマダイモンジソウ	*Saxifraga fortunei* var. *jotanii*				EX
836			ユキノシタ	*Saxifraga stolonifera*				
837		ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ	*Hylotelephium verticillatum* var. *verticillatum*				EN
838			キリンソウ	*Phedimus aizoon* var. *floribundus*				
839			コモチマンネングサ	*Sedum bulbiferum*				
840			メノマンネングサ	*Sedum japonicum* ssp. *japonicum* var. *japonicum*				EN
841			タイトゴメ	*Sedum japonicum* ssp. *oryzifolium*				
842			オカタイトゴメ	*Sedum japonicum* ssp. *oryzifolium* var. *pumilum*				
843			オノマンネングサ	*Sedum lineare*				
844			マルバマンネングサ	*Sedum makinoi*				
845			メキシコマンネングサ	*Sedum mexicanum*				
846			ツルマンネングサ	*Sedum sarmentosum*				
847			ヒメレンゲ	*Sedum subtile*				
848			ヨコハママンネングサ	*Sedum* sp.				
849		タコノアシ	タコノアシ	*Penthorum chinense*			NT	
850		アリノトウグサ	アリノトウグサ	*Gonocarpus micranthus*				
851			オオフサモ	*Myriophyllum aquaticum*				
852		ブドウ	キレハノブドウ	*Ampelopsis glandulosa*				
853			テリハノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *hancei*				
854			ノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*				
855			ヤブカラシ	*Cayratia japonica*				
856			ツタ	*Parthenocissus tricuspidata*				
857			エビヅル	*Vitis ficifolia*				
858			サンカクヅル	*Vitis flexuosa*				
859			ウスゲサンカクヅル	*Vitis flexuosa* var. *tsukubana*				
860		ハマビシ	ハマビシ	*Tribulus terrestris*			EN	EX
861		マメ	クサネム	*Aeschynomene indica*				
862			ネムノキ	*Albizia julibrissin* var. *julibrissin*				
863			イタチハギ	*Amorpha fruticosa*				
864			ヤブマメ	*Amphicarpaea edgeworthii*				
865			ホドイモ	*Apios fortunei*				
866			ゲンゲ	*Astragalus sinicus*				
867			ジャケツイバラ	*Caesalpinia decapetala*				
868			ハマナタマメ	*Canavalia lineata*				CR
869			カワラケツメイ	*Chamaecrista nomame*				
870			フジキ	*Cladrastis platycarpa*				
871			アレチヌスビトハギ	*Desmodium paniculatum*				
872			ノササゲ	*Dumasia truncata*				
873			ノアズキ	*Dunbaria villosa*				VU
874			サイカチ	*Gleditsia japonica*				
875			ツルマメ	*Glycine max* ssp. *soja*				
876			フジカンゾウ	*Hylodesmum oldhamii*				
877			ケヤブハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *fallax*				
878			ヌスビトハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *japonicum*				
879			ヤブハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *mandshuricum*				
880			マルバヌスビトハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *podocarpum*				
881			トウコマツナギ	*Indigofera bungeana* var. *bungeana*				
882			コマツナギ	*Indigofera pseudotinctoria*				
883			マルバヤハズソウ	*Kummerowia stipulacea*				
884			ヤハズソウ	*Kummerowia striata*				
885			イタチササゲ	*Lathyrus davidii*				EN
886			ハマエンドウ	*Lathyrus japonicus*				
887			レンリソウ	*Lathyrus quinquenervius*				EN
888			ヤマハギ	*Lespedeza bicolor* var. *bicolor*				
889			キハギ	*Lespedeza buergeri*				
890			メドハギ	*Lespedeza cuneata* var. *cuneata*				
891			ハイメドハギ	*Lespedeza cuneata* var. *serpens*				
892			マルバハギ	*Lespedeza cyrtobotrya*				
893			オクタマハギ	*Lespedeza* x *cyrtobuergeri*				
894			サガミメドハギ	*Lespedeza hisauchii*			EX	EX
895			ツクシハギ	*Lespedeza homoloba*				
896			ネコハギ	*Lespedeza pilosa* var. *pilosa*				
897			ミヤギノハギ	*Lespedeza thunbergii*				
898			ビッチュウヤマハギ	*Lespedeza thunbergii* f. *angustifolia*				
899			イヌハギ	*Lespedeza tomentosa*			VU	VU
900			マキエハギ	*Lespedeza virgata*				

表 3.1-1(14)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
901	真正双子葉類	マメ	セイヨウミヤコグサ	*Lotus corniculatus* ssp. *corniculatus*				
902			ミヤコグサ	*Lotus corniculatus* ssp. *japonicus*				
903			ニシキミヤコグサ	*Lotus corniculatus* ssp. *japonicus* f. *versicolor*				
904			ワタリミヤコグサ	*Lotus tenuis*				
905			イヌエンジュ	*Maackia amurensis*				
906			コメツブウマゴヤシ	*Medicago lupulina*				
907			コウマゴヤシ	*Medicago minima*				
908			ウマゴヤシ	*Medicago polymorpha*				
909			ムラサキウマゴヤシ	*Medicago sativa*				
910			コシナガワハギ	*Melilotus indicus*				
911			シロバナシナガワハギ	*Melilotus officinalis* ssp. *albus*				
912			シナガワハギ	*Melilotus officinalis* ssp. *suaveolens*				
913			エンドウ	*Pisum sativum*				
914			クズ	*Pueraria lobata* ssp. *lobata*				
915			オオバタンキリマメ	*Rhynchosia acuminatifolia*				
916			タンキリマメ	*Rhynchosia volubilis*				
917			ハリエンジュ	*Robinia pseudoacacia*				
918			エビスグサ	*Senna obtusifolia*				
919			クララ	*Sophora flavescens*				
920			シャグマハギ	*Trifolium arvense*				
921			クスダマツメクサ	*Trifolium campestre*				
922			コメツブツメクサ	*Trifolium dubium*				
923			タチオランダゲンゲ	*Trifolium hybridum*				
924			ベニバナツメクサ	*Trifolium incarnatum*				
925			ムラサキツメクサ	*Trifolium pratense*				
926			シロバナアカツメクサ	*Trifolium pratense* f. *albiflorum*				
927			シロツメクサ	*Trifolium repens*				
928			モモイロシロツメクサ	*Trifolium repens* f. *roseum*				
929			ハリエニシダ	*Ulex europaeus*				
930			ツルフジバカマ	*Vicia amoena*				
931			スズメノエンドウ	*Vicia hirsuta*				
932			ヒロハクサフジ	*Vicia japonica*				
933			ヤハズエンドウ	*Vicia sativa* ssp. *nigra*				
934			ホソバヤハズエンドウ	*Vicia sativa* ssp. *nigra* var. *minor*				
935			ツルナシヤハズエンドウ	*Vicia sativa* ssp. *nigra* f. *normalis*				
936			オオヤハズエンドウ	*Vicia sativa* ssp. *sativa*				
937			カスマグサ	*Vicia tetrasperma*				
938			ナンテンハギ	*Vicia unijuga*				
939			ナヨクサフジ	*Vicia villosa* ssp. *varia*				
940			ヤブツルアズキ	*Vigna angularis* var. *nipponensis*				
941			ヤマフジ	*Wisteria brachybotrys*				
942			フジ	*Wisteria floribunda*				
943			ナツフジ	*Wisteria japonica*				
944		ヒメハギ	ハリヒメハギ	*Polygala ambigua*				
945			ヒメハギ	*Polygala japonica*				
946			クルマバヒメハギ	*Polygala verticillata*				
947		グミ	ツルグミ	*Elaeagnus glabra*				
948			オオバグミ	*Elaeagnus macrophylla*				
949			ナツグミ	*Elaeagnus multiflora*				
950			トウグミ	*Elaeagnus multiflora* var. *hortensis*				
951			ナワシログミ	*Elaeagnus pungens*				
952			オオバツルグミ	*Elaeagnus* x *submacrophylla*				
953			マルバアキグミ	*Elaeagnus umbellata* var. *rotundifolia*				
954			アキグミ	*Elaeagnus umbellata* var. *umbellata*				
955		クロウメモドキ	オオクマヤナギ	*Berchemia magna*				
956			クマヤナギ	*Berchemia racemosa*				
957			ケンポナシ	*Hovenia dulcis*				
958			ナツメ	*Ziziphus jujuba* var. *inermis*				
959			サネブトナツメ	*Ziziphus jujuba* var. *spinosa*				
960		ニレ	アキニレ	*Ulmus parvifolia*				
961			ケヤキ	*Zelkova serrata*				
962			メゲヤキ	*Zelkova serrata* f. *stipulacea*				
963		アサ	ムクノキ	*Aphananthe aspera*				
964			アサ	*Cannabis sativa*				
965			エノキ	*Celtis sinensis*				
966			カラハナソウ	*Humulus lupulus* var. *cordifolius*				
967			カナムグラ	*Humulus scandens*				
968		クワ	コウゾ	*Broussonetia* x *kazinoki*				
969			ヒメコウゾ	*Broussonetia monoica*				
970			クワクサ	*Fatoua villosa*				

表 3.1-1(15)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
971	真正双子葉類	クワ	イヌビワ	*Ficus erecta* var. *erecta*				
972			ホソバイヌビワ	*Ficus erecta* var. *erecta* f. *sieboldii*				
973			オオイタビ	*Ficus pumila*				
974			イタビカズラ	*Ficus sarmentosa* ssp. *nipponica*				
975			アコウ	*Ficus subpisocarpa*				
976			ヒメイタビ	*Ficus thunbergii*				
977			マグワ	*Morus alba*				
978			ヤマグワ	*Morus australis*				
979			ハチジョウグワ	*Morus kagayamae*				
980		イラクサ	ハマヤブマオ	*Boehmeria arenicola*				
981			トウゴクヤブマオ	*Boehmeria biloba* x *japonica*				
982			カタバヤブマオ	*Boehmeria* x *dura*				
983			シマナガバヤブマオ	*Boehmeria egregia*				
984			クサコアカソ	*Boehmeria gracilis*				
985			オオバコアカソ	*Boehmeria gracilis* x *Boehmeria spicata*				
986			ニオウヤブマオ	*Boehmeria holosericea*				
987			ヤブマオ	*Boehmeria japonica* var. *longispica*				
988			ツクシヤブマオ	*Boehmeria kiusiana*				
989			コヤブマオ	*Boehmeria minor*				
990			カラムシ	*Boehmeria nivea* var. *concolor*				
991			ナンバンカラムシ	*Boehmeria nivea* var. *nivea*				
992			メヤブマオ	*Boehmeria platanifolia*				
993			ナガバヤブマオ	*Boehmeria sieboldiana*				
994			コアカソ	*Boehmeria spicata*				
995			ラセイタソウ	*Boehmeria splitgerbera*				
996			クマヤブマオ	*Boehmeria villigera*				
997			ヤナギイチゴ	*Debregeasia orientalis*				
998			トキホコリ	*Elatostema densiflorum*			VU	VU
999			ウワバミソウ	*Elatostema involucratum*				
1000			ムカゴイラクサ	*Laportea bulbifera*				
1001			カテンソウ	*Nanocnide japonica*				
1002			ミズ	*Pilea hamaoi*				
1003			ヤマミズ	*Pilea japonica*				
1004			コケミズ	*Pilea peploides*				
1005			アオミズ	*Pilea pumila*				
1006			イラクサ	*Urtica thunbergiana*				
1007		バラ	ヒメキンミズヒキ	*Agrimonia nipponica*				
1008			キンミズヒキ	*Agrimonia pilosa* var. *japonica*				
1009			マメザクラ	*Cerasus incisa* var. *incisa*				
1010			エドヒガン	*Cerasus itosakura* f. *ascendens*				NT
1011			ヤマザクラ	*Cerasus jamasakura* var. *jamasakura*				
1012			サトザクラ	*Cerasus Sato-zakura*				
1013			オオシマザクラ	*Cerasus speciosa*				
1014			ソメイヨシノ	*Cerasus* x *yedoensis*				
1015			クサボケ	*Chaenomeles japonica*				
1016			ビワ	*Eriobotrya japonica*				
1017			シモツケソウ	*Filipendula multijuga* var. *multijuga*				
1018			シロバナシモツケ	*Filipendula multijuga* f. *albiflora*				
1019			オランダイチゴ	*Fragaria* x *ananassa*				
1020			オオダイコンソウ	*Geum aleppicum*				VU
1021			ダイコンソウ	*Geum japonicum*				
1022			コダイコンソウ	*Geum japonicum* f. *iyoanum*				
1023			ヤマブキ	*Kerria japonica*				
1024			リンボク	*Laurocerasus spinulosa*				CR
1025			ズミ	*Malus toringo* var. *toringo*				
1026			オオウラジロノキ	*Malus tschonoskii*				
1027			コゴメウツギ	*Neillia incisa*				
1028			イヌザクラ	*Padus buergeriana*				
1029			ウワミズザクラ	*Padus grayana*				
1030			オヘビイチゴ	*Potentilla anemonifolia*				
1031			キジムシロ	*Potentilla fragarioides*				
1032			ミツバツチグリ	*Potentilla freyniana*				
1033			ヘビイチゴ	*Potentilla hebiichigo*				
1034			ヤブヘビイチゴ	*Potentilla indica*				
1035			ヒロハノカワラサイコ	*Potentilla niponica*			VU	VU
1036			オオヘビイチゴ	*Potentilla recta*				
1037			オキジムシロ	*Potentilla supina*				
1038			カマツカ	*Pourthiaea villosa* var. *laevis*				
1039			ワタゲカマツカ	*Pourthiaea villosa* var. *villosa*				
1040			ケカマツカ	*Pourthiaea villosa* var. *zollingeri*				

表 3.1-1(16)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1041	真正双子葉類	バラ	ウメ	*Prunus mume*				
1042			タチバナモドキ	*Pyracantha angustifolia*				
1043			トキワサンザシ	*Pyracantha coccinea*				
1044			カザンデマリ	*Pyracantha crenulata*				
1045			ヤマナシ	*Pyrus pyrifolia*				
1046			シャリンバイ	*Rhaphiolepis indica* var. *umbellata*				
1047			テリハノイバラ	*Rosa luciae*				
1048			ノイバラ	*Rosa multiflora* var. *multiflora*				
1049			アズマイバラ	*Rosa onoei* var. *oligantha*				
1050			セイヨウヤブイチゴ	*Rubus armeniacus*				
1051			フユイチゴ	*Rubus buergeri*				
1052			ミヤマフユイチゴ	*Rubus hakonensis*				
1053			クサイチゴ	*Rubus hirsutus*				
1054			バライチゴ	*Rubus illecebrosus*				
1055			ヒメカジイチゴ	*Rubus* x *medius*				
1056			ニガイチゴ	*Rubus microphyllus*				
1057			モミジイチゴ	*Rubus palmatus*				
1058			ナガバモミジイチゴ	*Rubus palmatus* var. *palmatus*				
1059			ナワシロイチゴ	*Rubus parvifolius*				
1060			カジイチゴ	*Rubus trifidus*				
1061			トヨラクサイチゴ	*Rubus* x *toyorensis*				
1062			エノシマキイチゴ	*Rubus* x *yenosimanus*				
1063			ワレモコウ	*Sanguisorba officinalis*				
1064			ウラゲワレモコウ	*Sanguisorba officinalis* f. *pilosella*				
1065			シモツケ	*Spiraea japonica* var. *japonica*				
1066			ユキヤナギ	*Spiraea thunbergii*				
1067		ブナ	クリ	*Castanea crenata*				
1068			ツブラジイ	*Castanopsis cuspidata*				DD
1069			スダジイ	*Castanopsis sieboldii* ssp. *sieboldii*				
1070			マテバシイ	*Lithocarpus edulis*				
1071			アカガシ	*Quercus acuta*				
1072			クヌギ	*Quercus acutissima*				
1073			ナラガシワ	*Quercus aliena*				
1074			カシワ	*Quercus dentata*				
1075			アラカシ	*Quercus glauca*				
1076			シラカシ	*Quercus myrsinifolia*				
1077			ウバメガシ	*Quercus phillyreoides*				CR
1078			ウラジロガシ	*Quercus salicina*				
1079			コナラ	*Quercus serrata* ssp. *serrata* var. *serrata*				
1080			テリハコナラ	*Quercus serrata* f. *donarium*				
1081			ツクバネガシ	*Quercus sessilifolia*				
1082			コガシワ	*Quercus* x *takatorensis*				
1083		ヤマモモ	ヤマモモ	*Morella rubra*				
1084		クルミ	オニグルミ	*Juglans mandshurica* var. *sachalinensis*				
1085		カバノキ	ケヤマハンノキ	*Alnus hirsuta*				
1086			ヤマハンノキ	*Alnus hirsuta* f. *sibirica*				
1087			ハンノキ	*Alnus japonica*				
1088			オオバヤシャブシ	*Alnus sieboldiana*				
1089			クマシデ	*Carpinus japonica*				
1090			アカシデ	*Carpinus laxiflora*				
1091			イヌシデ	*Carpinus tschonoskii*				
1092		ドクウツギ	ドクウツギ	*Coriaria japonica*				
1093		ウリ	アマチャヅル	*Gynostemma pentaphyllum* var. *pentaphyllum*				
1094			アレチウリ	*Sicyos angulatus*				
1095			カラスウリ	*Trichosanthes cucumeroides*				
1096			キカラスウリ	*Trichosanthes kirilowii* var. *japonica*				
1097			スズメウリ	*Zehneria japonica*				
1098		ニシキギ	ツルウメモドキ	*Celastrus orbiculatus* var. *orbiculatus*				
1099			イヌツルウメモドキ	*Celastrus orbiculatus* var. *orbiculatus* f. *papillosus*				
1100			ニシキギ	*Euonymus alatus*				
1101			コマユミ	*Euonymus alatus* f. *ciliatodentatus*				
1102			ツルマサキ	*Euonymus fortunei* var. *fortunei*				
1103			マサキ	*Euonymus japonicus*				
1104			ツルオオバマサキ	*Euonymus japonicus* var. *radicifer*				
1105			ツリバナ	*Euonymus oxyphyllus*				
1106			マユミ	*Euonymus sieboldianus*				
1107			モクレイシ	*Microtropis japonica*				
1108			ウメバチソウ	*Parnassia palustris* var. *palustris*				EN
1109		カタバミ	イモカタバミ	*Oxalis articulata*				
1110			ハナカタバミ	*Oxalis bowieana*				

表 3.1-1(17)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1111	真正双子葉類	カタバミ	ベニカタバミ	*Oxalis brasiliensis*				
1112			カタバミ	*Oxalis corniculata*				
1113			ウスアカカタバミ	*Oxalis corniculata* f. *atropurpurea*				
1114			アカカタバミ	*Oxalis corniculata* f. *rubrifolia*				
1115			ムラサキカタバミ	*Oxalis corymbosa*				
1116			オッタチカタバミ	*Oxalis dillenii*				
1117			オオキバナカタバミ	*Oxalis pes-caprae*				
1118			エゾタチカタバミ	*Oxalis stricta*				
1119		ホルトノキ	ホルトノキ	*Elaeocarpus zollingeri* var. *zollingeri*				
1120		トウダイグサ	エノキグサ	*Acalypha australis*				
1121			ビロードエノキグサ	*Acalypha australis* f. *velutina*				
1122			ショウジョウソウ	*Euphorbia cyathophora*				
1123			トウダイグサ	*Euphorbia helioscopia*				
1124			ニシキソウ	*Euphorbia humifusa*				
1125			イワタイゲキ	*Euphorbia jolkinii*				CR
1126			タカトウダイ	*Euphorbia lasiocaula*				
1127			ハマタカトウダイ	*Euphorbia lasiocaula* f. *maritima*				
1128			コニシキソウ	*Euphorbia maculata*				
1129			オオニシキソウ	*Euphorbia nutans*				
1130			ハイニシキソウ	*Euphorbia prostrata*				
1131			ナツトウダイ	*Euphorbia sieboldiana*				
1132			アカメガシワ	*Mallotus japonicus*				
1133			ヤマアイ	*Mercurialis leiocarpa*				
1134			シラキ	*Neoshirakia japonica*				
1135			ナンキンハゼ	*Triadica sebifera*				
1136			アブラギリ	*Vernicia cordata*				
1137		コミカンソウ	ヒトツバハギ	*Flueggea suffruticosa*				
1138			コミカンソウ	*Phyllanthus lepidocarpus*				
1139			ナガエコミカンソウ	*Phyllanthus tenellus*				
1140			ヒメミカンソウ	*Phyllanthus ussuriensis*				
1141		ミゾハコベ	ミゾハコベ	*Elatine triandra*				
1142		ヤナギ	ヤマナラシ	*Populus tremula* var. *sieboldii*				
1143			シダレヤナギ	*Salix babylonica*				
1144			ウンリュウヤナギ	*Salix babylonica* ‘Tortuosa‘				
1145			バッコヤナギ	*Salix caprea*				
1146			マルバヤナギ	*Salix chaenomeloides*				
1147			ジャヤナギ	*Salix eriocarpa*				
1148			ネコヤナギ	*Salix gracilistyla*				
1149			イケノヤナギ	*Salix* x *ikenoana*				
1150			イヌコリヤナギ	*Salix integra*				
1151			シバヤナギ	*Salix japonica*				
1152			コリヤナギ	*Salix koriyanagi*				
1153			カワヤナギ	*Salix miyabeana* ssp. *gymnolepis*				
1154			キヌヤナギ	*Salix schwerinii* ‘Kinuyanagi‘				
1155			タチヤナギ	*Salix triandra*				
1156		スミレ	アリアケスミレ	*Viola betonicifolia* var. *albescens*				
1157			ナガバノスミレサイシン	*Viola bissetii*				
1158			ナンザンスミレ	*Viola chaerophylloides* var. *chaerophylloides*				
1159			ツクシスミレ	*Viola diffusa*				
1160			シロバナタチツボスミレ	*Viola grypoceras* f. *albiflora*				
1161			オトメスミレ	*Viola grypoceras* f. *purpurellocalcarata*				
1162			タチツボスミレ	*Viola grypoceras* var. *grypoceras*				
1163			アオイスミレ	*Viola hondoensis*				
1164			ヒメスミレ	*Viola inconspicua* ssp. *nagasakiensis*				
1165			コスミレ	*Viola japonica*				
1166			マルバスミレ	*Viola keiskei*				
1167			スミレ	*Viola mandshurica* var. *mandshurica*				
1168			アツバスミレ	*Viola mandshurica* var. *triangularis*				
1169			ニオイタチツボスミレ	*Viola obtusa*				
1170			ケナシニオイタチツボスミレ	*Viola obtusa* f. *nuda*				
1171			ニオイスミレ	*Viola odorata*				
1172			アカネスミレ	*Viola phalacrocarpa*				
1173			オカスミレ	*Viola phalacrocarpa* f. *glaberrima*				
1174			アメリカスミレサイシン	*Viola sororia*				
1175			ヒナスミレ	*Viola tokubuchiana* var. *takedana*				
1176			サンシキスミレ	*Viola tricolor*				
1177			ツボスミレ	*Viola verecunda* var. *verecunda*				
1178			ノジスミレ	*Viola yedoensis* var. *yedoensis*				
1179			ヒカゲスミレ	*Viola yezoensis*				NT
1180		アマ	アマ	*Linum usitatissimum*				

表 3.1-1(18)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1181	真正双子葉類	オトギリソウ	トモエソウ	*Hypericum ascyron*				
1182			オトギリソウ	*Hypericum erectum*				
1183			ハマオトギリ	*Hypericum erectum* var. *arenicolum*				EN
1184			コケオトギリ	*Hypericum laxum*				
1185			ビヨウヤナギ	*Hypericum monogynum*				
1186			キンシバイ	*Hypericum patulum*				
1187			コゴメバオトギリ	*Hypericum perforatum* ssp. *chinense*				
1188		フウロソウ	オランダフウロ	*Erodium cicutarium*				
1189			アメリカフウロ	*Geranium carolinianum*				
1190			ヒメフウロ	*Geranium robertianum*				
1191			ゲンノショウコ	*Geranium thunbergii*				
1192			ベニバナゲンノショウコ	*Geranium thunbergii* f. *thunbergii*				
1193		ミソハギ	ホソバヒメミソハギ	*Ammannia coccinea*				
1194			ヒメミソハギ	*Ammannia multiflora*				
1195			ミソハギ	*Lythrum anceps*				
1196			エゾミソハギ	*Lythrum salicaria*				
1197			キカシグサ	*Rotala indica*				
1198			ミズキカシグサ	*Rotala rosea*			VU	EX
1199			ヒメビシ	*Trapa incisa*			VU	
1200			ヒシ	*Trapa jeholensis*				VU
1201		アカバナ	タニタデ	*Circaea erubescens*				
1202			ミズタマソウ	*Circaea mollis*				
1203			アカバナ	*Epilobium pyrricholophum*				
1204			ヤマモモソウ	*Gaura lindheimeri*				
1205			チョウジタデ	*Ludwigia epilobioides* ssp. *epilobioides*				
1206			ウスゲチョウジタデ	*Ludwigia epilobioides* ssp. *greatrexii*			NT	
1207			ミズユキノシタ	*Ludwigia ovalis*				CR
1208			ミズキンバイ	*Ludwigia peploides* ssp. *stipulacea*			VU	VU
1209			アメリカミズユキノシタ	*Ludwigia repens*				
1210			メマツヨイグサ	*Oenothera biennis*				
1211			オオマツヨイグサ	*Oenothera glazioviana*				
1212			コマツヨイグサ	*Oenothera laciniata*				
1213			アレチマツヨイグサ	*Oenothera parviflora*				
1214			ヒナマツヨイグサ	*Oenothera perennis* var. *perennis*				
1215			ユウゲショウ	*Oenothera rosea*				
1216			ヒルザキツキミソウ	*Oenothera speciosa* var. *speciosa*				
1217			マツヨイグサ	*Oenothera stricta*				
1218			ツキミソウ	*Oenothera tetraptera*				
1219		ミツバウツギ	ゴンズイ	*Euscaphis japonica*				
1220			ミツバウツギ	*Staphylea bumalda*				
1221		キブシ	キブシ	*Stachyurus praecox*				
1222		ウルシ	ヌルデ	*Rhus javanica* var. *chinensis*				
1223			ツタウルシ	*Toxicodendron orientale* ssp. *orientale*				
1224			ハゼノキ	*Toxicodendron succedaneum*				
1225			ヤマハゼ	*Toxicodendron sylvestre*				
1226			ヤマウルシ	*Toxicodendron trichocarpum*				
1227			ウルシ	*Toxicodendron vernicifluum*				
1228		ムクロジ	オオモミジ	*Acer amoenum* var. *amoenum*				
1229			ヤマモミジ	*Acer amoenum* var. *matsumurae*				
1230			トウカエデ	*Acer buergerianum*				
1231			ミツデカエデ	*Acer cissifolium*				
1232			ウリカエデ	*Acer crataegifolium*				
1233			イロハモミジ	*Acer palmatum*				
1234			イタヤカエデ（広義）	*Acer pictum*				
1235			エンコウカエデ	*Acer pictum* ssp. *dissectum*				
1236			ウラゲエンコウカエデ	*Acer pictum* ssp. *dissectum* f. *connivens*				
1237			ウリハダカエデ	*Acer rufinerve*				
1238			トチノキ	*Aesculus turbinata*				
1239			フウセンカズラ	*Cardiospermum halicacabum*				
1240			ムクロジ	*Sapindus mukorossi*				
1241		ミカン	マツカゼソウ	*Boenninghausenia albiflora* var. *japonica*				
1242			カラタチ	*Citrus trifoliata*				
1243			コクサギ	*Orixa japonica*				
1244			ツルシキミ	*Skimmia japonica* var. *intermedia*				
1245			ミヤマシキミ	*Skimmia japonica* var. *japonica*				
1246			ゴシュユ	*Tetradium ruticarpum*				
1247			カラスザンショウ	*Zanthoxylum ailanthoides* var. *ailanthoides*				
1248			フユザンショウ	*Zanthoxylum armatum* var. *subtrifoliatum*				
1249			サンショウ	*Zanthoxylum piperitum*				
1250			イヌザンショウ	*Zanthoxylum schinifolium* var. *schinifolium*				

表 3.1-1(19)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1251	真正双子葉類	ニガキ	ニワウルシ	*Ailanthus altissima*				
1252			ニガキ	*Picrasma quassioides*				
1253		センダン	センダン	*Melia azedarach*				
1254		アオイ	イチビ	*Abutilon theophrasti*				
1255			カラスノゴマ	*Corchoropsis crenata*				
1256			アオギリ	*Firmiana simplex*				
1257			ハマボウ	*Hibiscus hamabo*				EN
1258			フヨウ	*Hibiscus mutabilis*				
1259			ゼニアオイ	*Malva mauritiana*				
1260			ゼニバアオイ	*Malva neglecta*				
1261			ウサギアオイ	*Malva parviflora*				
1262			ナガエアオイ	*Malva pusilla*				
1263			フユアオイ	*Malva verticillata*				
1264			キクノハアオイ	*Modiola caroliniana*				
1265			ヤノネボンテンカ	*Pavonia hastata*				
1266			キンゴジカ	*Sida rhombifolia* ssp. *rhombifolia*				
1267			アメリカキンゴジカ	*Sida spinosa*				
1268			ボダイジュ	*Tilia miqueliana*				
1269		ジンチョウゲ	ジンチョウゲ	*Daphne odora*				
1270			オニシバリ	*Daphne pseudomezereum* var. *pseudomezereum*				
1271			コガンピ	*Diplomorpha ganpi*				VU
1272			ミツマタ	*Edgeworthia chrysantha*				
1273		モクセイソウ	キバナモクセイソウ	*Reseda lutea*				
1274		フウチョウソウ	アフリカフウチョウソウ	*Cleome rutidosperma*				
1275		アブラナ	ハクサンハタザオ	*Arabidopsis halleri* ssp. *gemmifera* var. *senanensis*				EX
1276			シロイヌナズナ	*Arabidopsis thaliana*				
1277			ヤマハタザオ	*Arabis hirsuta*				
1278			ハマハタザオ	*Arabis stelleri* var. *japonica*				EX
1279			セイヨウワサビ	*Armoracia rusticana*				
1280			キバナクレス	*Barbarea verna*				
1281			ハルザキヤマガラシ	*Barbarea vulgaris*				
1282			カラシナ	*Brassica juncea*				
1283			セイヨウアブラナ	*Brassica napus*				
1284			アブラナ（広義）	*Brassica rapa*				
1285			ナズナ	*Capsella bursa-pastoris*				
1286			ルベラナズナ	*Capsella rubella*				
1287			タチタネツケバナ	*Cardamine fallax*				
1288			ミチタネツケバナ	*Cardamine hirsuta*				
1289			ジャニンジン	*Cardamine impatiens*				
1290			コンロンソウ	*Cardamine leucantha*				VU
1291			タネツケバナ	*Cardamine occulta*				
1292			オオバタネツケバナ	*Cardamine scutata*				
1293			マルバコンロンソウ	*Cardamine tanakae*				
1294			ロボウガラシ	*Diplotaxis tenuifolia*				
1295			オハツキガラシ	*Erucastrum gallicum*				
1296			アレチガラシ	*Erucastrum incanum*				
1297			ワサビ	*Eutrema japonicum*				
1298			ユリワサビ	*Eutrema tenue*				
1299			トキワマガリバナ	*Iberis sempervirens*				
1300			キレハマメグンバイナズナ	*Lepidium bonariense*				
1301			カラクサナズナ	*Lepidium didymum*				
1302			アコウグンバイ	*Lepidium draba*				
1303			コシミノナズナ	*Lepidium perfoliatum*				
1304			マメグンバイナズナ	*Lepidium virginicum*				
1305			ニワナズナ	*Lobularia maritima*				
1306			ゴウダソウ	*Lunaria annua*				
1307			オランダガラシ	*Nasturtium officinale*				
1308			ショカツサイ	*Orychophragmus violaceus* var. *violaceus*				
1309			セイヨウノダイコン	*Raphanus raphanistrum*				
1310			ハマダイコン	*Raphanus sativus* f. *raphanistroides*				
1311			ミヤガラシ	*Rapistrum rugosum* var. *venosum*				
1312			ミミイヌガラシ	*Rorippa austriaca*				
1313			ヒメイヌガラシ	*Rorippa* x *brachyceras*				
1314			ミチバタガラシ	*Rorippa dubia*				
1315			イヌガラシ	*Rorippa indica*				
1316			スカシタゴボウ	*Rorippa palustris*				
1317			キレハイヌガラシ	*Rorippa sylvestris*				
1318			ハタザオガラシ	*Sisymbrium altissimum*				
1319			カキネガラシ	*Sisymbrium officinale*				
1320			イヌカキネガラシ	*Sisymbrium orientale*				

表 3.1-1(20)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1321	真正双子葉類	アブラナ	グンバイナズナ	*Thlaspi arvense*				
1322			ハタザオ	*Turritis glabra*				
1323		ビャクダン	ヒノキバヤドリギ	*Korthalsella japonica*				
1324			カナビキソウ	*Thesium chinense*				
1325			ヤドリギ	*Viscum album* ssp. *coloratum*				
1326		タデ	シャクチリソバ	*Fagopyrum dibotrys*				
1327			ソバ	*Fagopyrum esculentum*				
1328			ソバカズラ	*Fallopia convolvulus*				
1329			イタドリ	*Fallopia japonica* var. *japonica*				
1330			ツルドクダミ	*Fallopia multiflora*				
1331			ヒメツルソバ	*Persicaria capitata*				
1332			ツルソバ	*Persicaria chinensis*				
1333			ミズヒキ	*Persicaria filiformis*				
1334			ギンミズヒキ	*Persicaria filiformis* f. *albiflora*				
1335			ヤナギタデ	*Persicaria hydropiper*				
1336			シロバナサクラタデ	*Persicaria japonica* var. *japonica*				
1337			サナエタデ	*Persicaria lapathifolia* var. *incana*				
1338			オオイヌタデ	*Persicaria lapathifolia* var. *lapathifolia*				
1339			イヌタデ	*Persicaria longiseta*				
1340			シロバナイヌタデ	*Persicaria longiseta* f. *albiflora*				
1341			ハルタデ	*Persicaria maculosa* ssp. *hirticaulis* var. *pubescens*				
1342			ヤノネグサ	*Persicaria muricata*				
1343			シンミズヒキ	*Persicaria neofiliformis*				
1344			タニソバ	*Persicaria nepalensis*				
1345			サクラタデ	*Persicaria odorata* ssp. *conspicua*				
1346			オオケタデ	*Persicaria orientalis*				
1347			イシミカワ	*Persicaria perfoliata*				
1348			ハナタデ	*Persicaria posumbu*				
1349			ナガボハナタデ	*Persicaria posumbu* var. *stenophylla*				
1350			ボントクタデ	*Persicaria pubescens*				
1351			アキノウナギツカミ	*Persicaria sagittata* var. *sibirica*				
1352			ウナギツカミ	*Persicaria sagittata* var. *sibirica* f. *aestiva*				
1353			ママコノシリヌグイ	*Persicaria senticosa*				
1354			ヌカボタデ	*Persicaria taquetii*			VU	EX
1355			オオミゾソバ	*Persicaria thunbergii* var. *stoloniferum*				
1356			ミゾソバ	*Persicaria thunbergii* var. *thunbergii*				
1357			アイ	*Persicaria tinctoria*				
1358			ネバリタデ	*Persicaria viscofera* var. *viscofera*				
1359			ミチヤナギ	*Polygonum aviculare* ssp. *aviculare*				
1360			ハイミチヤナギ	*Polygonum aviculare* ssp. *depressum*				
1361			アキノミチヤナギ	*Polygonum polyneuron*				VU
1362			スイバ	*Rumex acetosa*				
1363			ヒメスイバ	*Rumex acetosella* ssp. *pyrenaicus*				
1364			アレチギシギシ	*Rumex conglomeratus*				
1365			ナガバギシギシ	*Rumex crispus*				
1366			ギシギシ	*Rumex japonicus*				
1367			エゾノギシギシ	*Rumex obtusifolius*				
1368		ナデシコ	オオヤマフスマ	*Arenaria lateriflora*				
1369			ノミノツヅリ	*Arenaria serpyllifolia* var. *serpyllifolia*				
1370			ミミナグサ	*Cerastium fontanum* ssp. *vulgare* var. *angustifolium*				
1371			オランダミミナグサ	*Cerastium glomeratum*				
1372			ノハラナデシコ	*Dianthus armeria*				
1373			ハマナデシコ	*Dianthus japonicus*				
1374			カワラナデシコ	*Dianthus superbus* var. *longicalycinus*				
1375			ヌカイトナデシコ	*Gypsophila muralis*				
1376			ヨツバハコベ	*Polycarpon tetraphyllum*				
1377			イトツメクサ	*Sagina apetala*				
1378			キヌイトツメクサ	*Sagina decumbens*				
1379			ツメクサ	*Sagina japonica*				
1380			ハマツメクサ	*Sagina maxima*				
1381			アライトツメクサ	*Sagina procumbens*				
1382			ムシトリナデシコ	*Silene armeria*				
1383			ナンバンハコベ	*Silene baccifera* var. *japonica*				
1384			マンテマモドキ	*Silene dichotoma*				
1385			フシグロ	*Silene firma*				
1386			ケフシグロ	*Silene firma* f. *pubescens*				
1387			シロバナマンテマ	*Silene gallica* var. *gallica*				
1388			イタリーマンテマ	*Silene gallica* var. *giraldii*				
1389			マンテマ	*Silene gallica* var. *quinquevulnera*				
1390			マツヨイセンノウ	*Silene latifolia* ssp. *alba*				

表 3.1-1(21)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1391	真正双子葉類	ナデシコ	フシグロセンノウ	*Silene miqueliana*				VU
1392			ツキミマンテマ	*Silene nocturna*				
1393			ノハラツメクサ	*Spergula arvensis* var. *arvensis*				
1394			オオツメクサ	*Spergula arvensis* var. *sativa*				
1395			ウシオハナツメクサ	*Spergularia bocconii*				
1396			ウシハコベ	*Stellaria aquatica*				
1397			サワハコベ	*Stellaria diversiflora* var. *diversiflora*				
1398			コハコベ	*Stellaria media*				
1399			ミドリハコベ	*Stellaria neglecta*				
1400			イヌコハコベ	*Stellaria pallida*				
1401			ミヤマハコベ	*Stellaria sessiliflora*				
1402			ノミノフスマ	*Stellaria uliginosa* var. *undulata*				
1403			ドウカンソウ	*Vaccaria hispanica*				
1404		ヒユ	イノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *japonica*				
1405			ヒナタイノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *tomentosa*				
1406			ナガエツルノゲイトウ	*Alternanthera philoxeroides*				
1407			ヒメシロビユ	*Amaranthus albus*				
1408			イヌビユ	*Amaranthus blitum*				
1409			ハイビユ	*Amaranthus deflexus*				
1410			ホソアオゲイトウ	*Amaranthus hybridus*				
1411			オオホナガアオゲイトウ	*Amaranthus palmeri*				
1412			ホナガアオゲイトウ	*Amaranthus powellii*				
1413			アオゲイトウ	*Amaranthus retroflexus*				
1414			ハリビユ	*Amaranthus spinosus*				
1415			ホナガイヌビユ	*Amaranthus viridis*				
1416			ホソバハマアカザ	*Atriplex patens*				VU
1417			ホコガタアカザ	*Atriplex prostrata*				
1418			ハマアカザ	*Atriplex subcordata*				EX
1419			イソホウキギ	*Bassia scoparia*				
1420			ノゲイトウ	*Celosia argentea*				
1421			ケイトウ	*Celosia cristata*				
1422			カワラアカザ	*Chenopodium acuminatum* var. *vachelii*				CR
1423			シロザ	*Chenopodium album* var. *album*				
1424			アカザ	*Chenopodium album* var. *centrorubrum*				
1425			コアカザ	*Chenopodium ficifolium*				
1426			ホソバアカザ	*Chenopodium stenophyllum*				
1427			アリタソウ	*Dysphania ambrosioides*				
1428			ゴウシュウアリタソウ	*Dysphania pumilio*				
1429			ウラジロアカザ	*Oxybasis glauca*				
1430			オカヒジキ	*Salsola komarovii*				
1431			ハママツナ	*Suaeda maritima* ssp. *asiatica*				EN
1432		ハマミズナ	ツルナ	*Tetragonia tetragonoides*				
1433		ヤマゴボウ	ヤマゴボウ	*Phytolacca acinosa*				
1434			ヨウシュヤマゴボウ	*Phytolacca americana*				
1435			マルミノヤマゴボウ	*Phytolacca japonica*				
1436		オシロイバナ	オシロイバナ	*Mirabilis jalapa*				
1437		ザクロソウ	クルマバザクロソウ	*Mollugo verticillata*				
1438			ザクロソウ	*Trigastrotheca stricta*				
1439		ハゼラン	ハゼラン	*Talinum paniculatum*				
1440		スベリヒユ	スベリヒユ	*Portulaca oleracea*				
1441			ヒメマツバボタン	*Portulaca pilosa*				
1442		ミズキ	ウリノキ	*Alangium platanifolium* f. *macrophyllum*				
1443			ミズキ	*Cornus controversa* var. *controversa*				
1444			ヤマボウシ	*Cornus kousa* ssp. *kousa*				
1445			クマノミズキ	*Cornus macrophylla*				
1446		アジサイ	クサアジサイ	*Cardiandra alternifolia* var. *alternifolia*				
1447			ウツギ	*Deutzia crenata* var. *crenata*				
1448			ヒメウツギ	*Deutzia gracilis* var. *gracilis*				
1449			マルバウツギ	*Deutzia scabra* var. *scabra*				
1450			アジサイ	*Hortensia macrophylla* f. *macrophylla*				
1451			ガクアジサイ	*Hortensia macrophylla* f. *normalis*				
1452			ガクウツギ	*Hortensia scandens*				
1453			ヤマアジサイ	*Hortensia serrata* var. *serrata*				
1454			バイカウツギ	*Philadelphus satsumi*				
1455			タマアジサイ	*Platycrater involucrata* var. *involucrata*				
1456			イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides*				
1457		ツリフネソウ	ホウセンカ	*Impatiens balsamina*				
1458			キツリフネ	*Impatiens noli-tangere*				
1459			ツリフネソウ	*Impatiens textorii*				
1460		サカキ	サカキ	*Cleyera japonica*				

表 3.1-1(22)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1461	真正双子葉類	サカキ	ヒサカキ	*Eurya japonica*				
1462			モッコク	*Ternstroemia gymnanthera*				
1463		カキノキ	リュウキュウマメガキ	*Diospyros japonica*				
1464			カキノキ	*Diospyros kaki* var. *kaki*				
1465			ヤマガキ	*Diospyros kaki* var. *sylvestris*				
1466			マメガキ	*Diospyros lotus*				
1467		サクラソウ	アカバナルリハコベ	*Anagallis arvensis* f. *arvensis*				
1468			マンリョウ	*Ardisia crenata*				
1469			カラタチバナ	*Ardisia crispa* var. *crispa*				
1470			ヤブコウジ	*Ardisia japonica* var. *japonica*				
1471			ギンレイカ	*Lysimachia acroadenia*				
1472			オカトラノオ	*Lysimachia clethroides*				
1473			ヌマトラノオ	*Lysimachia fortunei*				VU
1474			コナスビ	*Lysimachia japonica*				
1475			ハマボッス	*Lysimachia mauritiana* var. *mauritiana*				
1476			イズセンリョウ	*Maesa japonica*				
1477			タイミンタチバナ	*Myrsine seguinii*				EX
1478		ツバキ	ヤブツバキ	*Camellia japonica*				
1479			サザンカ	*Camellia sasanqua*				
1480			カンツバキ	*Camellia sasanqua* ‘Shishigashira‘				
1481			チャノキ	*Camellia sinensis* var. *sinensis*				
1482		ハイノキ	ミミズバイ	*Symplocos glauca*				
1483			サワフタギ	*Symplocos sawafutagi*				
1484		エゴノキ	エゴノキ	*Styrax japonicus*				
1485			ハクウンボク	*Styrax obassia*				
1486		マタタビ	サルナシ	*Actinidia arguta* var. *arguta*				
1487			ウラジロマタタビ	*Actinidia arguta* var. *hypoleuca*				
1488			キウイフルーツ	*Actinidia deliciosa*				
1489			マタタビ	*Actinidia polygama*				
1490		リョウブ	リョウブ	*Clethra barbinervis*				
1491		ツツジ	ウメガサソウ	*Chimaphila japonica*				
1492			シャクジョウソウ	*Hypopitys monotropa*				NT
1493			ギンリョウソウモドキ	*Monotropa uniflora*				
1494			ギンリョウソウ	*Monotropastrum humile*				
1495			アセビ	*Pieris japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*				
1496			イチヤクソウ	*Pyrola japonica* var. *japonica*				
1497			ミツバツツジ	*Rhododendron dilatatum* var. *dilatatum*				
1498			ヤマツツジ	*Rhododendron kaempferi* var. *kaempferi*				
1499			ヒカゲツツジ	*Rhododendron keiskei* var. *keiskei*				EN
1500			レンゲツツジ	*Rhododendron molle* ssp. *japonicum*				EX
1501			ハコネコメツツジ	*Rhododendron tsusiophyllum*			VU	VU
1502			トウゴクミツバツツジ	*Rhododendron wadanum*				
1503			シャシャンボ	*Vaccinium bracteatum*				CR
1504		アオキ	アオキ	*Aucuba japonica* var. *japonica*				
1505		アカネ	ミサオノキ	*Aidia henryi*				
1506			アリドオシ	*Damnacanthus indicus*				
1507			オオアリドオシ	*Damnacanthus indicus* var. *major*				
1508			ジュズネノキ	*Damnacanthus macrophyllus*				
1509			メリケンムグラ	*Diodia virginiana*				
1510			コメツブヤエムグラ	*Galium divaricatum*				
1511			ヒメヨツバムグラ	*Galium gracilens*				
1512			キクムグラ	*Galium kikumugura*				
1513			ヤブムグラ	*Galium niewerthii*			VU	VU
1514			ヤマムグラ	*Galium pogonanthum*				
1515			オオバノヤエムグラ	*Galium pseudoasprellum*				
1516			ヤエムグラ	*Galium spurium* var. *echinospermon*				
1517			ヨツバムグラ	*Galium trachyspermum*				
1518			ホソバノヨツバムグラ	*Galium trifidum* ssp. *columbianum*				VU
1519			カワラマツバ	*Galium verum* ssp. *asiaticum* f. *lacteum*				
1520			オオフタバムグラ	*Hexasepalum teres*				
1521			ルリミノキ	*Lasianthus japonicus*				
1522			ソナレムグラ	*Leptopetalum coreanum* var. *coreanum*				
1523			ツルアリドオシ	*Mitchella undulata*				
1524			ハシカグサ	*Neanotis hirsuta*				
1525			フタバムグラ	*Oldenlandia brachypoda*				
1526			ヘクソカズラ	*Paederia foetida*				
1527			ハマサオトメカズラ	*Paederia scandens* var. *maritima*				
1528			アカネ	*Rubia argyi*				
1529			ハナヤエムグラ	*Sherardia arvensis*				
1530		リンドウ	リンドウ	*Gentiana scabra* var. *buergeri*				

表 3.1-1(23)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1531	真正双子葉類	リンドウ	コケリンドウ	*Gentiana squarrosa*				VU
1532			フデリンドウ	*Gentiana zollingeri*				
1533			アケボノソウ	*Swertia bimaculata*				
1534			センブリ	*Swertia japonica*				
1535			ムラサキセンブリ	*Swertia pseudochinensis*			NT	EN
1536		マチン	ホウライカズラ	*Gardneria nutans*				
1537			アイナエ	*Mitrasacme pygmaea*				VU
1538		キョウチクトウ	サカキカズラ	*Anodendron affine*				CR
1539			コイケマ	*Cynanchum wilfordii*				VU
1540			シタキソウ	*Jasminanthes mucronata*				EN
1541			キジョラン	*Marsdenia tomentosa*				
1542			ガガイモ	*Metaplexis japonica*				
1543			キョウチクトウ	*Nerium oleander* var. *indicum*				
1544			テイカカズラ	*Trachelospermum asiaticum*				
1545			ツルニチニチソウ	*Vinca major*				
1546			オオカモメヅル	*Vincetoxicum aristolochioides*				
1547			コカモメヅル	*Vincetoxicum floribundum*				EN
1548			イヨカズラ	*Vincetoxicum japonicum*				
1549			スズサイコ	*Vincetoxicum pycnostelma*			NT	VU
1550			コバノカモメヅル	*Vincetoxicum sublanceolatum*				
1551			ジョウシュウカモメヅル	*Vincetoxicum sublanceolatum* var. *auriculatum*				
1552		ヒルガオ	コヒルガオ	*Calystegia hederacea*				
1553			ヒルガオ	*Calystegia pubescens*				
1554			ハマヒルガオ	*Calystegia soldanella*				
1555			セイヨウヒルガオ	*Convolvulus arvensis*				
1556			アメリカネナシカズラ	*Cuscuta campestris*				
1557			ネナシカズラ	*Cuscuta japonica*				
1558			カロリナアオイゴケ	*Dichondra carolinensis*				
1559			アオイゴケ	*Dichondra micrantha*				
1560			マルバルコウ	*Ipomoea coccinea*				
1561			アメリカアサガオ	*Ipomoea hederacea*				
1562			マルバアメリカアサガオ	*Ipomoea hederacea* var. *integriuscula*				
1563			ノアサガオ	*Ipomoea indica*				
1564			マメアサガオ	*Ipomoea lacunosa*				
1565			アサガオ	*Ipomoea nil*				
1566			グンバイヒルガオ	*Ipomoea pes-caprae*				
1567			マルバアサガオ	*Ipomoea purpurea*				
1568			ホシアサガオ	*Ipomoea triloba*				
1569		ナス	ヤマホオズキ	*Archiphysalis chamaesarachoides*			EN	NT
1570			チョウセンアサガオ	*Datura metel*				
1571			ヨウシュチョウセンアサガオ	*Datura stramonium*				
1572			ケチョウセンアサガオ	*Datura wrightii*				
1573			クコ	*Lycium chinense*				
1574			オオセンナリ	*Nicandra physalodes*				
1575			イガホオズキ	*Physaliastrum echinatum*				
1576			ホオズキ	*Physalis alkekengi* var. *franchetii*				
1577			ヒロハフウリンホオズキ	*Physalis angulata*				
1578			センナリホオズキ	*Physalis angulata* var. *angulata*				
1579			ショクヨウホオズキ	*Physalis grisea*				
1580			ヒメセンナリホオズキ	*Physalis pubescens*				
1581			ハコベホオズキ	*Salpichroa origanifolia*				
1582			カザリナス	*Solanum aethiopicum*				
1583			テリミノイヌホオズキ	*Solanum americanum*				
1584			ワルナスビ	*Solanum carolinense*				
1585			ヒヨドリジョウゴ	*Solanum lyratum*				
1586			マルバノホロシ	*Solanum maximowiczii*				
1587			オオイヌホオズキ	*Solanum nigrescens*				
1588			イヌホオズキ	*Solanum nigrum*				
1589			ヒメケイヌホオズキ	*Solanum physalifolium* var. *nitidibaccatum*				
1590			タマサンゴ	*Solanum pseudocapsicum*				
1591			アメリカイヌホオズキ	*Solanum ptychanthum*				
1592			ケイヌホオズキ	*Solanum sarrachoides*				
1593			ハダカホオズキ	*Tubocapsicum anomalum*				
1594		ムラサキ	ホタルカズラ	*Aegonychon zollingeri*				
1595			ワルタビラコ	*Amsinckia lycopsoides*				
1596			ルリヂシャ	*Borago officinalis*				
1597			ハナイバナ	*Bothriospermum zeylanicum*				
1598			イヌムラサキ	*Buglossoides arvensis*				
1599			スナビキソウ	*Heliotropium japonicum*				CR
1600			ヤマルリソウ	*Nihon japonicum*				

表 3.1-1(24)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1601	真正双子葉類	ムラサキ	ヒレハリソウ	*Symphytum officinale*				
1602			コンフリー	*Symphytum* x *uplandicum*				
1603			キュウリグサ	*Trigonotis peduncularis*				
1604		モクセイ	ケアオダモ	*Fraxinus lanuginosa* f. *lanuginosa*				
1605			アオダモ	*Fraxinus lanuginosa* f. *serrata*				
1606			マルバアオダモ	*Fraxinus sieboldiana*				
1607			ネズミモチ	*Ligustrum japonicum* var. *japonicum*				
1608			トウネズミモチ	*Ligustrum lucidum*				
1609			イボタノキ	*Ligustrum obtusifolium* ssp. *obtusifolium*				
1610			オカイボタ	*Ligustrum ovalifolium* var. *hisauchii*				
1611			オオバイボタ	*Ligustrum ovalifolium* var. *ovalifolium*				
1612			ミウライボタ	*Ligustrum tschonoskii* var. *kiyozumianum* f. *epile*				NT
1613			ミヤマイボタ	*Ligustrum tschonoskii* var. *tschonoskii*				
1614			ヒイラギ	*Osmanthus heterophyllus*				
1615		イワタバコ	ケイワタバコ	*Conandron ramondioides* var. *pilosus*				
1616			イワタバコ	*Conandron ramondioides* var. *ramondioides*				
1617		オオバコ	キンギョソウ	*Antirrhinum majus*				
1618			アワゴケ	*Callitriche japonica*				
1619			ミズハコベ	*Callitriche palustris*				
1620			アメリカアワゴケ	*Callitriche terrestris*				
1621			ツタバウンラン	*Cymbalaria muralis*				
1622			シソクサ	*Limnophila aromatica*				VU
1623			キクモ	*Limnophila sessiliflora*				NT
1624			ムラサキウンラン	*Linaria bipartita*				
1625			ウンラン	*Linaria japonica*				EN
1626			ホソバウンラン	*Linaria vulgaris*				
1627			マツバウンラン	*Nuttallanthus canadensis*				
1628			オオバコ	*Plantago asiatica* var. *asiatica*				
1629			トウオオバコ	*Plantago japonica*				VU
1630			ヘラオオバコ	*Plantago lanceolata*				
1631			セイヨウオオバコ	*Plantago major*				
1632			ツボミオオバコ	*Plantago virginica*				
1633			オオカワヂシャ	*Veronica anagallis-aquatica*				
1634			タチイヌノフグリ	*Veronica arvensis*				
1635			フラサバソウ	*Veronica hederifolia*				
1636			ムシクサ	*Veronica peregrina*				
1637			オオイヌノフグリ	*Veronica persica*				
1638			イヌノフグリ	*Veronica polita*			VU	VU
1639			カワヂシャ	*Veronica undulata*			NT	
1640		ゴマノハグサ	フサフジウツギ	*Buddleja davidii*				
1641			フジウツギ	*Buddleja japonica*				
1642			オオヒナノウスツボ	*Scrophularia kakudensis*				
1643			ビロードモウズイカ	*Verbascum thapsus*				
1644			アレチモウズイカ	*Verbascum virgatum*				
1645		アゼナ	エダウチスズメノトウガラシ	*Bonnaya grandiflora*				
1646			ヒメアメリカアゼナ	*Lindernia anagallidea*				
1647			タケトアゼナ	*Lindernia dubia* ssp. *dubia*				
1648			アメリカアゼナ	*Lindernia dubia* ssp. *major*				
1649			アゼナ	*Lindernia procumbens*				
1650			ウリクサ	*Torenia crustacea*				
1651			ハナウリクサ	*Torenia fournieri*				
1652			アゼトウガラシ	*Vandellia micrantha*				
1653		ツノゴマ	ツノゴマ	*Proboscidea louisianica*				
1654		シソ	カワミドリ	*Agastache rugosa*				
1655			キランソウ	*Ajuga decumbens*				
1656			セイヨウジュウニヒトエ	*Ajuga reptans*				
1657			ケブカツルカコソウ	*Ajuga shikotanensis* f. *hirsuta*			VU	
1658			ツクバキンモンソウ	*Ajuga yesoensis* var. *tsukubana*				
1659			コムラサキ	*Callicarpa dichotoma*				
1660			ムラサキシキブ	*Callicarpa japonica* var. *japonica*				
1661			オオムラサキシキブ	*Callicarpa japonica* var. *luxurians*				
1662			ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis*				
1663			イヌムラサキシキブ	*Callicarpa* x *shirasawana*				
1664			タニジャコウソウ	*Chelonopsis longipes*			NT	
1665			ボタンクサギ	*Clerodendrum bungei*				
1666			シマクサギ	*Clerodendrum izuinsulare*				EN
1667			クサギ	*Clerodendrum trichotomum*				
1668			ビロードクサギ	*Clerodendrum trichotomum* f. *ferrugineum*				
1669			ヤマクルマバナ	*Clinopodium chinense* ssp. *glabrescens*				
1670			クルマバナ	*Clinopodium coreanum* ssp. *coreanum*				

表 3.1-1(25)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1671	真正双子葉類	シソ	トウバナ	*Clinopodium gracile*				
1672			イヌトウバナ	*Clinopodium micranthum* var. *micranthum*				
1673			ナギナタコウジュ	*Elsholtzia ciliata*				
1674			フトボナギナタコウジュ	*Elsholtzia nipponica*				
1675			カキドオシ	*Glechoma hederacea* ssp. *grandis*				
1676			ヤマハッカ	*Isodon inflexus*				
1677			ヒキオコシ	*Isodon japonicus*				
1678			ホトケノザ	*Lamium amplexicaule*				
1679			シロバナホトケノザ	*Lamium amplexicaule* f. *albiflorum*				
1680			キバナオドリコソウ	*Lamium galeobdolon*				
1681			ヒメオドリコソウ	*Lamium purpureum*				
1682			メハジキ	*Leonurus japonicus*				
1683			キセワタ	*Leonurus macranthus*			VU	CR
1684			マネキグサ	*Loxocalyx ambiguus*			NT	EN
1685			コシロネ	*Lycopus cavaleriei*				
1686			シロネ	*Lycopus lucidus*				EX
1687			ヒメシロネ	*Lycopus maackianus*				
1688			ヒメサルダヒコ	*Lycopus ramosissimus*				
1689			コウスイハッカ	*Melissa officinalis*				
1690			ヨウシュハッカ	*Mentha arvensis*				
1691			ハッカ	*Mentha canadensis*				
1692			アメリカハッカ	*Mentha* x *gentilis*				
1693			ミドリハッカ	*Mentha spicata*				
1694			オランダハッカ	*Mentha spicata*				
1695			マルバハッカ	*Mentha suaveolens*				
1696			ヒメジソ	*Mosla dianthera*				
1697			イヌコウジュ	*Mosla scabra*				
1698			レモンエゴマ	*Perilla citriodora*				
1699			シソ	*Perilla frutescens* var. *crispa*				
1700			エゴマ	*Perilla frutescens* var. *frutescens*				
1701			トラノオジソ	*Perilla hirtella*				
1702			ハナトラノオ	*Physostegia virginiana*				
1703			ウツボグサ	*Prunella vulgaris* ssp. *asiatica*				
1704			アキノタムラソウ	*Salvia japonica*				
1705			ケブカアキノタムラソウ	*Salvia japonica* f. *lanuginosa*				
1706			ナツノタムラソウ	*Salvia lutescens* var. *intermedia*				
1707			キバナアキギリ	*Salvia nipponica* var. *nipponica*				
1708			ミゾコウジュ	*Salvia plebeia*			NT	
1709			オカタツナミソウ	*Scutellaria brachyspica*				
1710			ヒメナミキ	*Scutellaria dependens*				VU
1711			タツナミソウ	*Scutellaria indica* var. *indica*				
1712			コバノタツナミ	*Scutellaria indica* var. *parvifolia*				
1713			ヤマタツナミソウ	*Scutellaria pekinensis* var. *transitra*				
1714			イヌゴマ	*Stachys aspera* var. *hispidula*				
1715			ニガクサ	*Teucrium japonicum*				
1716			ツルニガクサ	*Teucrium viscidum* var. *miquelianum*				
1717			カリガネソウ	*Tripora divaricata*				VU
1718			クサニンジンボク	*Vitex negundo* var. *incisa*				
1719			ハマゴウ	*Vitex rotundifolia*				
1720		サギゴケ	ムラサキサギゴケ	*Mazus miquelii*				
1721			トキワハゼ	*Mazus pumilus*				
1722		ハエドクソウ	ミゾホオズキ	*Mimulus nepalensis*				
1723			ハエドクソウ	*Phryma nana*				
1724			ナガバハエドクソウ	*Phryma oblongifolia*				
1725		キリ	キリ	*Paulownia tomentosa*				
1726		ハマウツボ	ナンバンギセル	*Aeginetia indica*				
1727			オオナンバンギセル	*Aeginetia sinensis*				
1728			ハマウツボ	*Orobanche coerulescens* f. *coerulescens*			VU	EX
1729			キバナヤセウツボ	*Orobanche minor* var. *flava*				
1730			ヤセウツボ	*Orobanche minor* var. *minor*				
1731			キヨスミウツボ	*Phacellanthus tubiflorus*				
1732			コシオガマ	*Phtheirospermum japonicum*				
1733			ヒキヨモギ	*Siphonostegia chinensis*				VU
1734		キツネノマゴ	キツネノマゴ	*Justicia procumbens* var. *procumbens*				
1735			ハグロソウ	*Peristrophe japonica*				
1736		ノウゼンカズラ	アメリカキササゲ	*Catalpa bignonioides*				
1737			キササゲ	*Catalpa ovata*				
1738		クマツヅラ	ヒメビジョザクラ	*Glandularia tenella*				
1739			シチヘンゲ	*Lantana camara* ssp. *aculeata*				
1740			イワダレソウ	*Phyla nodiflora*				

表 3.1-1(26)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1741	真正双子葉類	クマツヅラ	ヒメイワダレソウ	*Phyla nodiflora* var. *minor*				
1742			ヤナギハナガサ	*Verbena bonariensis*				
1743			アレチハナガサ	*Verbena brasiliensis*				
1744			ダキバアレチハナガサ	*Verbena incompta*				
1745			クマツヅラ	*Verbena officinalis*				
1746		ハナイカダ	ハナイカダ	*Helwingia japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*				
1747		モチノキ	イヌツゲ	*Ilex crenata* var. *crenata*				
1748			モチノキ	*Ilex integra*				
1749			タラヨウ	*Ilex latifolia*				
1750			アオハダ	*Ilex macropoda*				
1751			クロガネモチ	*Ilex rotunda*				
1752			ウメモドキ	*Ilex serrata*				
1753		キキョウ	ツリガネニンジン	*Adenophora triphylla* var. *japonica*				
1754			ハマシャジン	*Adenophora triphylla* var. *japonica* f. *glabra*				VU
1755			ヤマホタルブクロ	*Campanula punctata* var. *hondoensis*				
1756			ホタルブクロ	*Campanula punctata* var. *punctata*				
1757			ツルギキョウ	*Codonopsis javanica* ssp. *japonica*			VU	VU
1758			ツルニンジン	*Codonopsis lanceolata*				
1759			バアソブ	*Codonopsis ussuriensis*			VU	VU
1760			ミゾカクシ	*Lobelia chinensis*				
1761			タニギキョウ	*Peracarpa carnosa* var. *carnosa*				
1762			キキョウ	*Platycodon grandiflorus*			VU	EN
1763			ヒナキキョウソウ	*Triodanis biflora*				
1764			キキョウソウ	*Triodanis perfoliata*				
1765			ヒナギキョウ	*Wahlenbergia marginata*				VU
1766		ミツガシワ	ガガブタ	*Nymphoides indica*			NT	EX
1767			アサザ	*Nymphoides peltata*			NT	EX
1768		キク	ノコギリソウ	*Achillea alpina* ssp. *alpina* var. *longiligulata*				EN
1769			セイヨウノコギリソウ	*Achillea millefolium*				
1770			ノコギリソウモドキ	*Achillea* x *stricta*				
1771			ヌマツルギク	*Acmella oppositifolia*				
1772			ノブキ	*Adenocaulon himalaicum*				
1773			ヌマダイコン	*Adenostemma lavenia*				VU
1774			オカダイコン	*Adenostemma madurense*				
1775			マルバフジバカマ	*Ageratina altissima*				
1776			カッコウアザミ	*Ageratum conyzoides*				
1777			キッコウハグマ	*Ainsliaea apiculata*				
1778			ブタクサ	*Ambrosia artemisiifolia*				
1779			オオブタクサ	*Ambrosia trifida*				
1780			ヤマハハコ	*Anaphalis margaritacea* ssp. *margaritacea* var. *margaritacea*				VU
1781			カワラハハコ	*Anaphalis margaritacea* ssp. *margaritacea* var. *yedoensis*				VU
1782			キヅメカミツレ	*Anthemis arvensis*				
1783			カミツレモドキ	*Anthemis cotula*				
1784			ワタゲハナグルマ	*Arctotheca calendula*				
1785			ワタゲツルハナグルマ	*Arctotheca prostrata*				
1786			カワラヨモギ	*Artemisia capillaris*				
1787			イワヨモギ	*Artemisia gmelinii*			VU	
1788			ヨモギ	*Artemisia indica* var. *maximowiczii*				
1789			イナムラヨモギ	*Artemisia indica* var. *maximowiczii* x *A. momiyamae*				
1790			オトコヨモギ	*Artemisia japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*				
1791			ヒメヨモギ	*Artemisia lancea*				
1792			ユキヨモギ	*Artemisia momiyamae*			EN	EN
1793			ハイイロヨモギ	*Artemisia sieversiana*				
1794			タテヤマギク	*Aster dimorphophyllus*			NT	
1795			ヒメシオン	*Aster fastigiatus*				EN
1796			ユウガギク	*Aster iinumae*				
1797			カワラノギク	*Aster kantoensis*			VU	EN
1798			シロヨメナ	*Aster leiophyllus* var. *leiophyllus*				
1799			ハマコンギク	*Aster microcephalus* var. *littoricola*				
1800			ノコンギク	*Aster microcephalus* var. *ovatus*				
1801			ミヤマヨメナ	*Aster savatieri* var. *savatieri*				
1802			シラヤマギク	*Aster scaber*				
1803			イナカギク	*Aster semiamplexicaulis*				
1804			アキハギク	*Aster sugimotoi*				VU
1805			シオン	*Aster tataricus*			VU	
1806			シュウブンソウ	*Aster verticillatus*				
1807			カントウヨメナ	*Aster yomena* var. *dentatus*				
1808			ヨメナ	*Aster yomena* var. *yomena*				VU
1809			オケラ	*Atractylodes ovata*				
1810			キンバイタウコギ	*Bidens aurea*				

表 3.1-1(27)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1811	真正双子葉類	キク	コバノセンダングサ	*Bidens bipinnata*				
1812			センダングサ	*Bidens biternata*				
1813			アメリカセンダングサ	*Bidens frondosa*				
1814			アイノコセンダン	*Bidens pilosa* var. *intermedia*				
1815			コシロノセンダングサ	*Bidens pilosa* var. *minor*				
1816			コセンダングサ	*Bidens pilosa* var. *pilosa*				
1817			オオバナノセンダングサ	*Bidens pilosa* var. *radiata*				
1818			タウコギ	*Bidens tripartita*				
1819			ヒメキンセンカ	*Calendula arvensis*				
1820			ヤブタバコ	*Carpesium abrotanoides*				
1821			コヤブタバコ	*Carpesium cernuum*				
1822			ホソバガンクビソウ	*Carpesium divaricatum* var. *abrotanoides*				VU
1823			ガンクビソウ	*Carpesium divaricatum* var. *divaricatum*				
1824			サジガンクビソウ	*Carpesium glossophyllum*				
1825			ヒメガンクビソウ	*Carpesium rosulatum*				
1826			ヤグルマギク	*Centaurea cyanus*				
1827			イガヤグルマギク	*Centaurea solstitialis*				
1828			トキンソウ	*Centipeda minima*				
1829			リュウノウギク	*Chrysanthemum makinoi*				
1830			ハナイソギク	*Chrysanthemum* x *marginatum*				
1831			イソギク	*Chrysanthemum pacificum*				
1832			セイヨウトゲアザミ	*Cirsium arvense*				
1833			イガアザミ	*Cirsium comosum* var. *comosum*				
1834			ノアザミ	*Cirsium japonicum* var. *japonicum*				
1835			ハマアザミ	*Cirsium maritimum*				CR
1836			ノハラアザミ	*Cirsium oligophyllum* var. *oligophyllum*				
1837			タカアザミ	*Cirsium pendulum*				EN
1838			ナンブアザミ	*Cirsium tonense*				
1839			アメリカオニアザミ	*Cirsium vulgare*				
1840			オオキンケイギク	*Coreopsis lanceolata*				
1841			ハルシャギク	*Coreopsis tinctoria*				
1842			マメカミツレ	*Cotula australis*				
1843			ベニバナボロギク	*Crassocephalum crepidioides*				
1844			ヤクシソウ	*Crepidiastrum denticulatum*				
1845			アゼトウナ	*Crepidiastrum keiskeanum*				
1846			ヤクシワダン	*Crepidiastrum* x *nakaii*				
1847			ワダン	*Crepidiastrum platyphyllum*				VU
1848			アレチニガナ	*Crepis setosa* f.				
1849			ヤネタビラコ	*Crepis tectorum*				
1850			アメリカタカサブロウ	*Eclipta alba*				
1851			タカサブロウ	*Eclipta thermalis*				
1852			ダンドボロギク	*Erechtites hieraciifolius* var. *hieraciifolius*				
1853			ヒメジョオン	*Erigeron annuus*				
1854			アレチノギク	*Erigeron bonariensis*				
1855			ヒメムカシヨモギ	*Erigeron canadensis*				
1856			ペラペラヨメナ	*Erigeron karvinskianus*				
1857			ハルジオン	*Erigeron philadelphicus*				
1858			ヤナギバヒメジョオン	*Erigeron pseudoannuus*				
1859			ケナシヒメムカシヨモギ	*Erigeron pusillus*				
1860			ヘラバヒメジョオン	*Erigeron strigosus*				
1861			オオアレチノギク	*Erigeron sumatrensis*				
1862			ヨツバヒヨドリ	*Eupatorium glehnii*				
1863			フジバカマ	*Eupatorium japonicum*			NT	EX
1864			サワヒヨドリ	*Eupatorium lindleyanum*				EN
1865			ハマサワヒヨドリ	*Eupatorium lindleyanum* var. *yasushii*			VU	CR
1866			ヒヨドリバナ（広義）	*Eupatorium makinoi*				
1867			オオヒヨドリバナ	*Eupatorium makinoi* var. *oppositifolium*				
1868			ミツバヒヨドリバナ	*Eupatorium tripartitum*				
1869			ツワブキ	*Farfugium japonicum* var. *japonicum*				
1870			テンニンギク	*Gaillardia pulchella*				
1871			ハキダメギク	*Galinsoga quadriradiata*				
1872			ホソバノチチコグサモドキ	*Gamochaeta calviceps*				
1873			ウラジロチチコグサ	*Gamochaeta coarctata*				
1874			チチコグサモドキ	*Gamochaeta pensylvanica*				
1875			ウスベニチチコグサ	*Gamochaeta purpurea*				
1876			チチコグサ	*Gnaphalium japonicum*				
1877			シロタエヒマワリ	*Helianthus argophyllus*				
1878			イヌキクイモ	*Helianthus strumosus*				
1879			キクイモ	*Helianthus tuberosus*				
1880			キツネアザミ	*Hemisteptia lyrata*				

表 3.1-1(28)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1881	真正双子葉類	キク	ブタナ	*Hypochaeris radicata*				
1882			オグルマ	*Inula britannica* ssp. *japonica*				NT
1883			カセンソウ	*Inula salicina* var. *asiatica*				VU
1884			ニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *dentatum*				
1885			ハイニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *dentatum* f. *stoloniferum*				
1886			ハナニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *nipponicum* var. *albiflorum*				
1887			オオジシバリ	*Ixeris japonica*				
1888			ハマニガナ	*Ixeris repens*				VU
1889			イワニガナ	*Ixeris stolonifera*				
1890			アキノノゲシ	*Lactuca indica* var. *indica*				
1891			ヤマニガナ	*Lactuca raddeana* var. *elata*				
1892			トゲチシャ	*Lactuca serriola*				
1893			コオニタビラコ	*Lapsanastrum apogonoides*				
1894			ヤブタビラコ	*Lapsanastrum humile*				
1895			センボンヤリ	*Leibnitzia anandria*				
1896			フランスギク	*Leucanthemum vulgare*				
1897			ヤマタバコ	*Ligularia angusta*			CR	CR
1898			カミツレ	*Matricaria chamomilla*				
1899			ネコノシタ	*Melanthera prostrata*				
1900			ムラサキニガナ	*Paraprenanthes sororia*				
1901			モミジガサ	*Parasenecio delphiniifolius*				
1902			ナガバノコウヤボウキ	*Pertya glabrescens*				
1903			カシワバハグマ	*Pertya robusta*				
1904			コウヤボウキ	*Pertya scandens*				
1905			フキ	*Petasites japonicus* var. *japonicus*				
1906			コウゾリナ	*Picris hieracioides* ssp. *japonica* var. *japonica*				
1907			ハマコウゾリナ	*Picris hieracioides* ssp. *japonica* var. *japonica* f. *maritima*				
1908			コウリンタンポポ	*Pilosella aurantiaca*				
1909			ハハコグサ	*Pseudognaphalium affine*				
1910			セイタカハハコグサ	*Pseudognaphalium luteoalbum*				
1911			キヌガサギク	*Rudbeckia hirta*				
1912			オオハンゴンソウ	*Rudbeckia laciniata*				
1913			キクアザミ	*Saussurea ussuriensis*				EN
1914			ノボロギク	*Senecio vulgaris*				
1915			タムラソウ	*Serratula coronata* ssp. *insularis*				
1916			コメナモミ	*Sigesbeckia glabrescens*				
1917			ツクシメナモミ	*Sigesbeckia orientalis*				
1918			メナモミ	*Sigesbeckia pubescens*				
1919			セイタカアワダチソウ	*Solidago altissima*				
1920			オオアワダチソウ	*Solidago gigantea* ssp. *serotina*				
1921			トキワアワダチソウ	*Solidago sempervirens*				
1922			アキノキリンソウ	*Solidago virgaurea* ssp. *asiatica* var. *asiatica*				
1923			ハマアキノキリンソウ	*Solidago virgaurea* ssp. *leiocarpa* var. *ovata*				EN
1924			メリケントキンソウ	*Soliva sessilis*				
1925			オニノゲシ	*Sonchus asper*				
1926			アイノゲシ	*Sonchus asper* x *S. oleraceus*				
1927			ハチジョウナ	*Sonchus brachyotus*				VU
1928			ノゲシ	*Sonchus oleraceus*				
1929			オオホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *elongatum*				
1930			ヒロハホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *squamatum*				
1931			ホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *subulatum*				
1932			ヤブレガサ	*Syneilesis palmata*				
1933			センジュギク	*Tagetes erectra*				
1934			シオザキソウ	*Tagetes minuta*				
1935			シロバナタンポポ	*Taraxacum albidum*				
1936			アカミタンポポ	*Taraxacum laevigatum*				
1937			セイヨウタンポポ	*Taraxacum officinale*				
1938			カントウタンポポ	*Taraxacum platycarpum* var. *platycarpum*				
1939			イヌカミツレ	*Tripleurospermum maritimum* ssp. *inodorum*				
1940			ウラギク	*Tripolium pannonicum*			NT	EN
1941			オオオナモミ	*Xanthium occidentale*				
1942			イガオナモミ	*Xanthium orientale* ssp. *italicum*				
1943			オナモミ	*Xanthium strumarium* ssp. *sibiricum*			VU	EN
1944			オニタビラコ（広義）	*Youngia japonica*				
1945			アカオニタビラコ	*Youngia japonica* ssp. *elstonii*				
1946			アオオニタビラコ	*Youngia japonica* ssp. *japonica*				
1947		トベラ	トベラ	*Pittosporum tobira*				
1948		ウコギ	ウド	*Aralia cordata*				
1949			タラノキ	*Aralia elata*				
1950			メダラ	*Aralia elata* f. *subinermis*				

表 3.1-1(29)　既存資料により確認された植物種

No.	分類	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1951	真正双子葉類	ウコギ	カクレミノ	*Dendropanax trifidus*				
1952			オカウコギ	*Eleutherococcus spinosus* var. *japonicus*				
1953			ヤマウコギ	*Eleutherococcus spinosus* var. *spinosus*				
1954			ミヤマウコギ	*Eleutherococcus trichodon*				
1955			ヤツデ	*Fatsia japonica* var. *japonica*				
1956			セイヨウキヅタ	*Hedera helix*				
1957			キヅタ	*Hedera rhombea*				
1958			オオバチドメ	*Hydrocotyle javanica*				
1959			ノチドメ	*Hydrocotyle maritima*				
1960			オオチドメ	*Hydrocotyle ramiflora*				
1961			チドメグサ	*Hydrocotyle sibthorpioides*				
1962			ウチワゼニクサ	*Hydrocotyle verticillata* var. *triradiata*				
1963			ヒメチドメ	*Hydrocotyle yabei*				
1964			ハリギリ	*Kalopanax septemlobus* ssp. *septemlobus*				
1965			カミヤツデ	*Tetrapanax papyrifer*				
1966		セリ	イワミツバ	*Aegopodium podagraria*				
1967			ノダケ	*Angelica decursiva*				
1968			ハマウド	*Angelica japonica*				
1969			アシタバ	*Angelica keiskei*				
1970			シラネセンキュウ	*Angelica polymorpha*				
1971			シシウド	*Angelica pubescens* var. *pubescens*				
1972			シャク	*Anthriscus sylvestris*				
1973			ミシマサイコ	*Bupleurum falcatum*			VU	CR
1974			ホタルサイコ	*Bupleurum longiradiatum* var. *breviradiatum*				CR
1975			ツキヌキサイコ	*Bupleurum rotundifolium*				
1976			ツボクサ	*Centella asiatica*				
1977			セントウソウ	*Chamaele decumbens*				
1978			ハマゼリ	*Cnidium japonicum*				
1979			コエンドロ	*Coriandrum sativum*				
1980			ミツバ	*Cryptotaenia japonica*				
1981			マツバゼリ	*Cyclospermum leptophyllum*				
1982			ノラニンジン	*Daucus carota* ssp. *carota*				
1983			ウイキョウ	*Foeniculum vulgare*				
1984			ハマボウフウ	*Glehnia littoralis*				
1985			ハナウド	*Heracleum sphondylium* ssp. *sphondylium* var. *nipponicum*				
1986			イブキボウフウ	*Libanotis coreana*				EN
1987			セリ	*Oenanthe javanica* ssp. *javanica*				
1988			ヤブニンジン	*Osmorhiza aristata* var. *aristata*				
1989			ヤマゼリ	*Ostericum sieboldii*				
1990			パセリ	*Petroselinum crispum*				
1991			ボタンボウフウ	*Peucedanum japonicum*				
1992			ウマノミツバ	*Sanicula chinensis*				
1993			ヤブジラミ	*Torilis japonica*				
1994			オヤブジラミ	*Torilis scabra*				
1995		ガマズミ	ソクズ	*Sambucus chinensis* var. *chinensis*				
1996			ニワトコ	*Sambucus racemosa* ssp. *sieboldiana* var. *sieboldiana*				
1997			ガマズミ	*Viburnum dilatatum*				
1998			コバノガマズミ	*Viburnum erosum*				
1999			ハクサンボク	*Viburnum japonicum*				
2000			サンゴジュ	*Viburnum odoratissimum* var. *awabuki*				
2001			ヤブデマリ	*Viburnum plicatum* var. *tomentosum*				
2002		スイカズラ	ツクバネウツギ	*Abelia spathulata* var. *spathulata*				
2003			ウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *glabra*				
2004			ヤマウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *gracilipes*				
2005			スイカズラ	*Lonicera japonica*				
2006			ツキヌキニンドウ	*Lonicera sempervirens*				
2007			キンレイカ	*Patrinia palmata*				
2008			オミナエシ	*Patrinia scabiosifolia*				
2009			オトコエシ	*Patrinia villosa*				
2010			マツムシソウ	*Scabiosa japonica*				EN
2011			ソナレマツムシソウ	*Scabiosa japonica* var. *lasiophylla*			VU	
2012			ツルカノコソウ	*Valeriana flaccidissima*				
2013			ノヂシャ	*Valerianella locusta*				
2014			シロノヂシャ	*Valerianella radiata*				
2015			ハコネウツギ	*Weigela coraeensis*				
2016			ニシキウツギ	*Weigela decora*				
計	7分類	384科	2,016種		0種	0種	84種	247種

(2) 植生調査結果

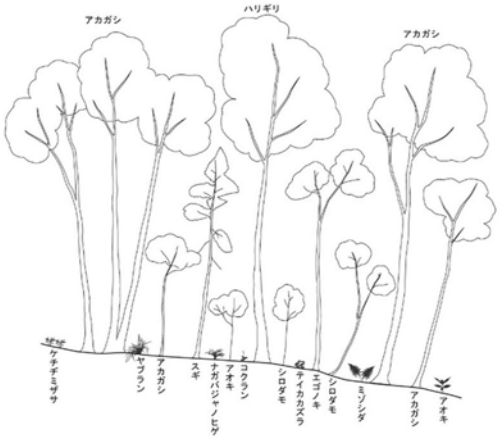
現地調査によるコドラート調査結果を表 3.2-1(1)～(28)に示す。

表 3.2-1(1)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市阿部倉
地　形	山頂：尾根：斜面（上）・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・（褐森）・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他（　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	W
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	40 °
土　湿	乾・（適）・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 19.1″
面　積	20 × 20 ㎡	東　経	E139° 38′ 05.4″
海　抜	136 m	出現種数	37 種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	アカガシ	12 ～ 20	80	48	3
(T2)亜高木層	スギ	6 ～ 12	20	15	5
(S1)低 木 層	シロダモ	1 ～ 6	50	5	7
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	ケチヂミザサ	0.1 ～ 1	40	—	32
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：シイ・カシ二次林1　　調査日：2024.7.22　　調査者：北川

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	4・4		ｱｶｶﾞｼ	H1	1・2		ｹﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ				
	1・1		ﾊﾘｷﾞﾘ		1・2		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
	+		ﾌｼﾞ		1・2		ﾐｿﾞｼﾀﾞ				
					1・2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
					1・2		ｱｵｷ				
					1・1		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
					+		ﾌｼﾞ				
					+		ﾊﾘｷﾞﾘ				
					+		ｲﾇﾋﾞﾜ				
					+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
T2	1・2		ｽｷﾞ		+		ｼｵﾃﾞ				
	1・2		ｱｶｶﾞｼ		+		ｺﾅﾗ				
	1・1		ｴｺﾞﾉｷ		+		ﾔﾏｲﾀﾁｼﾀﾞ				
	1・1		ﾊｾﾞﾉｷ		+		ｱｵﾂﾂﾞﾗﾌｼﾞ				
	+		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ		+		ｱｶｶﾞｼ				
					+		ｴｺﾞﾉｷ				
					+		ｵﾆﾄﾞｺﾛ				
					+		ﾏﾃﾊﾞｼｲ				
					+		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ				
					+		ﾋﾒﾄﾞｺﾛ				
S1	2・2		ｼﾛﾀﾞﾓ		+		ｸｻｷﾞ				
	2・2		ｱｵｷ		+		ﾔﾏｸﾞﾜ				
	1・1		ｽﾀﾞｼﾞｲ		+		ｹﾝﾎﾟﾅｼ				
	1・1		ﾋｻｶｷ		+		ﾑｸﾉｷ				
	+		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ		+		ｾﾝﾀﾞﾝ				
	+		ｲﾇﾋﾞﾜ		+		ﾔﾏﾉｲﾓ				
	+		ｽｷﾞ		+		ｺｸﾗﾝ				
					+		ｶﾗｽｳﾘ				
					+		ﾊｾﾞﾉｷ				
					+		ﾅﾙｺﾕﾘ				
					+		ﾈﾑﾉｷ				
					+		ｶﾝﾄｳﾏﾑｼｸﾞｻ				

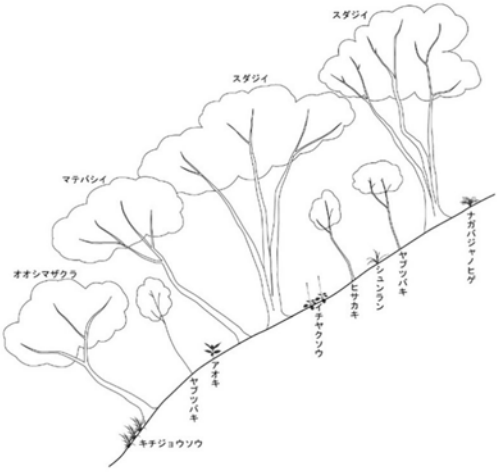
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(2)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	山頂：尾根：斜面（上）・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・その他（　　）

風　当	強・中・弱	傾斜方向	SW
日　当	陽・中陰・陰	傾 斜 度	27　°
土　湿	乾・適・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 18.0″
面　積	15 × 15　㎡	東　経	E139° 37′ 08.6″
海　抜	98　m	出現種数	21　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	スダジイ	6 ～ 15	100	36	4
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層	ヤブツバキ	1 ～ 6	50	6.5	5
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	キチジョウソウ	0.1 ～ 1	<10	—	15
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：シイ・カシ二次林2　　調査日：2024.7.24　　調査者：北川

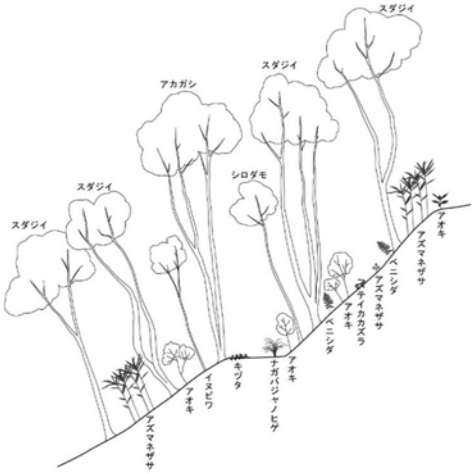
S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	4·4		ｽﾀﾞｼﾞｲ								
	2·2		ﾏﾃﾊﾞｼｲ								
	1·2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ								
	+		ﾌｼﾞ								
S1	3·3		ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ								
	1·1		ﾋｻｶｷ								
	1·1		ｱｵｷ								
	+		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	+		ｱﾗｶｼ								
H1	+·2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ								
	+·2		ｲﾁﾔｸｿｳ								
	+		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	+		ｱｵｷ								
	+		ﾌｼﾞ								
	+		ｼｭﾝﾗﾝ								
	+		ｱｶｶﾞｼ								
	+		ﾔﾌﾞﾗﾝ								
	+		ｷﾝｷｲﾀﾁｼﾀﾞ								
	+		ﾔﾌﾞｺｳｼﾞ								
	+		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ								
	+		ﾔﾏｲﾀﾁｼﾀﾞ								
	+		ｷﾂﾞﾀ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(3)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面（上）中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他（　　）

風　当	強・（中）・弱	傾斜方向	SW
日　当	陽・（中陰）・陰	傾 斜 度	40 °
土　湿	乾・（適）・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 29.5″
面　積	20 × 20 ㎡	東　経	E139° 38′ 39.7″
海　抜	110 m	出現種数	26 種



階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	スダジイ	15 ～ 17	90	45	3
(T2)亜高木層	イヌビワ	6 ～ 9	30	16	3
(S1)低 木 層	アオキ	1.6 ～ 3	65	—	8
(S2)		～			
(H1)草 本 層	テイカカズラ	0.1 ～ 0.8	40	—	21
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	

群落名：シイ・カシ二次林3　　調査日：2024.7.22　　調査者：大塚

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	3·2		ｽﾀﾞｼﾞｲ	H1	2·2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
	2·2		ｱｶｶﾞｼ		2·1		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
	1·1		ﾀﾌﾞﾉｷ		1·1		ｷﾂﾞﾀ				
					+·2		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ				
					+·2		ｱｵｷ				
					+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
					+		ｼﾛﾀﾞﾓ				
					+		ﾀﾌﾞﾉｷ				
					+		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
					+		ｻﾈｶｽﾞﾗ				
T2	2·1		ｲﾇﾋﾞﾜ		+		ｵｵﾊﾅﾜﾗﾋﾞ				
	1·1		ｼﾛﾀﾞﾓ		+		ﾔﾏｲﾀﾁｼﾀﾞ				
	1·1		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ		+		ﾌｼﾞ				
					+		ﾐｳﾗｲﾉﾃﾞ				
					+		ﾈｽﾞﾐﾓﾁ				
					+		ｲﾇﾋﾞﾜ				
					+		ｱｵｷ				
					+		ﾃﾘﾊﾉﾌﾞｿﾃﾂ				
					+		ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｼﾀﾞ				
					+		ﾎｼﾀﾞ				
S1	2·2		ｱｵｷ		+		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ				
	2·2		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
	1·1		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	1·1		ｽﾀﾞｼﾞｲ								
	+		ﾋｻｶｷ								
	+		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ								
	+		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	+		ﾔﾂﾃﾞ								

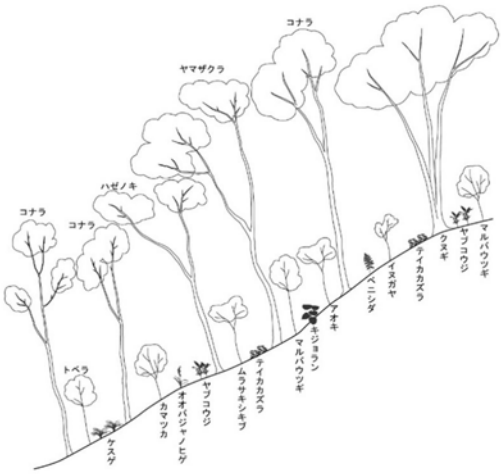
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(4)　植生調査票

調査地	神奈川県逗子市桜山
地　形	山頂：尾根：斜面・(上)・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	SSW
日　当	陽・(中陰)・陰	傾斜度	19　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 37.3″
面　積	20 × 20　㎡	東　経	E139° 37′ 28.9″
海　抜	190　m	出現種数	35　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	クヌギ	10 ～ 18	60	39	
(T2)亜高木層	ヤブニッケイ	10 ～ 7	40	9	
(S1)低 木 層	アオキ	5 ～ 1	80	—	
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	ナガバジャノヒゲ	0.1 ～ 0	80	—	
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：　オニシバリ－コナラ群集1　　調査日：2024.7.25　　調査者：　北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
T1	3･3		ｸﾇｷﾞ	H1	4･4		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	2･2		ｺﾅﾗ		3･3		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ				
	2･2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ		1･2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
	＋		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ		＋･2		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
	＋		ｷﾂﾞﾀ		＋･2		ｷﾂﾞﾀ				
					＋･2		ﾔﾌﾞｺｳｼﾞ				
					＋		ｻｲﾊｲﾗﾝ				
					＋		ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ				
					＋		ｱｵｷ				
					＋		ｸｻｷﾞ				
T2	2･2		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ		＋		ｲﾎﾞﾀﾉｷ				
	2･2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ		＋		ﾏﾝﾘｮｳ				
	1･2		ｺﾅﾗ		＋		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
	＋		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ		＋		ﾍｸｿｶｽﾞﾗ				
	＋		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ		＋		ｲﾇｶﾞﾔ				
	1･1		ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ		＋		ﾅｷﾘｽｹﾞ				
	1･1		ｳﾜﾐｽﾞｻﾞｸﾗ		＋		ｼｭﾛ				
					＋		ｺﾅﾗ				
					＋		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ				
					＋		ｺｸﾗﾝ				
S1	4･4		ｱｵｷ		＋		ｷｼﾞｮﾗﾝ				
	2･2		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ		＋		ｻﾝｼｮｳ				
	1･2		ｼﾛﾀﾞﾓ		＋		ｵｵﾊﾅﾜﾗﾋﾞ				
	1･1		ｲﾇｶﾞﾔ		＋		ｶﾗﾀﾁﾊﾞﾅ				
	1･1		ﾀﾌﾞﾉｷ		＋		ﾄﾍﾞﾗ				
	＋		ﾏﾕﾐ		＋		ﾏﾙﾊﾞｸﾞﾐ				
	＋		ｺﾅﾗ								
	＋		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ								
	＋		ｲﾇﾋﾞﾜ								

D(被度)…ｒ：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(5)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	(山頂)：尾根：斜面（上・中・下・凹・凸）：谷：平地
土　壌	ポド性（褐森）・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・(その他　　)

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	W
日　当	(陽)・中陰・陰	傾斜度	29 °
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 52.″
面　積	15 × 15 ㎡	東　経	E139° 36′ 59.6″
海　抜	142 m	出現種数	種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	コナラ	9 ～ 14	70	51	
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層	アオキ	1 ～ 3	60	—	
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	テイカカズラ	0.1 ～ 1	50	—	
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	

群落名：オニシバリ－コナラ群集2　　調査日：2024.7.26　　調査者：北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
I	3･3		ｺﾅﾗ	IV	2･2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
	2･1		ｸﾇｷﾞ		2･2		ﾔﾌﾞｺｳｼﾞ				
	1･1		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ		2･2		ｹｽｹﾞ				
	1･1		ｸﾛｶﾞﾈﾓﾁ		1･2		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
	1･1		ｱｶｶﾞｼ		+		ｺﾅﾗ				
	1･1		ﾊｾﾞﾉｷ		+		ｽｲｶｽﾞﾗ				
	+		ﾂﾂﾞﾗﾌｼﾞ		+		ｷﾂﾞﾀ				
	+		ｳﾗｼﾞﾛﾏﾀﾀﾋﾞ		+		ﾅｷﾘｽｹﾞ				
	+		ﾌｼﾞ		+		ｺｳﾔﾎﾞｳｷ				
					+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
					+		ｴﾉｷ				
					+		ｲﾇﾋﾞﾜ				
					+		ｳｸﾞｲｽｶｸﾞﾗ				
					+		ｻﾝｼｮｳ				
					+		ｸﾏﾜﾗﾋﾞ				
III	2･2		ｱｵｷ		+		ｵｵﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	2･2		ﾏﾙﾊﾞｳﾂｷﾞ		+		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ				
	1･2		ｶﾏﾂｶ		+		ﾋﾒﾉｶﾞﾘﾔｽ				
	1･2		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ		+		ｼﾛﾊﾞﾅｻﾝｼｮｳﾂﾞﾙ				
	1･1		ﾄﾍﾞﾗ		+		ｶﾔ				
	1･1		ｼﾛﾀﾞﾓ		+		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ				
	1･1		ｲﾇｶﾞﾔ		+		ﾌｼﾞ				
	+･2		ﾂｸﾊﾞﾈｳﾂｷﾞ		+		ｲﾉｺﾂﾞﾁ				
	+		ｽﾀﾞｼﾞｲ		+		ｷｼﾞｮﾗﾝ				
	+		ｻﾝｼｮｳ		+		ｵｵﾊﾞｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ				
	+		ｲﾎﾞﾀﾉｷ		+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	+		ｷﾌﾞｼ		+		ｲﾜｷﾞﾎﾞｳｼ				
	+		ｻﾝｼｮｳ		+		ﾏﾕﾐ				
	+		ｶﾞﾏｽﾞﾐ		+		ｼﾛﾖﾒﾅ				
	+		ｷｼﾞｮﾗﾝ		+		ﾅﾂｸﾞﾐ				
					+		ﾔﾏﾕﾘ				
					+		ﾔﾏﾊｷﾞ				
					+		ﾔﾏｶﾓｼﾞｸﾞｻ				

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(6)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面：上・(中)・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	SW
日　当	(陽)・中陰・陰	傾斜度	27　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 52.8″
面　積	20 × 20　㎡	東　経	E139° 38′ 00.9″
海　抜	120　m	出現種数	41　種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	カラスザンショウ	12 ～ 19	80	44	5
(T2)亜高木層	シロダモ	6 ～ 10	50	19	9
(S1)低木層	アオキ	1 ～ 6	80	—	11
(S2)		～		—	
(H1)草本層	ベニシダ	0.1 ～ 1	20	—	24
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	

群落名：カラスザンショウ－アカメガシワ群落1　　調査日：2024.7.23　　調査者：北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
T1	3･2		ｶﾗｽｻﾞﾝｼｮｳ	S1	+		ﾌｼﾞ				
	2･2		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ								
	2･2		ｴﾉｷ								
	2･2		ｸﾏﾉﾐｽﾞｷ								
	1･2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ								
				H1	1･2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ				
					+･2		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
					+･2		ｲﾀﾋﾞｶｽﾞﾗ				
					+･2		ｱｵｷ				
					+		ｷﾂﾞﾀ				
T2	2･2		ｼﾛﾀﾞﾓ		+		ﾌﾓﾄｼﾀﾞ				
	2･2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ		+		ﾐﾂﾞｼﾀﾞ				
	1･2		ｲﾇﾋﾞﾜ		+		ｼﾛﾀﾞﾓ				
	1･2		ﾔﾏｸﾞﾜ		+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	1･1		ﾀﾌﾞﾉｷ		+		ﾂﾙｳﾒﾓﾄﾞｷ				
	1･1		ｽﾀﾞｼﾞｲ		+		ｼｭﾛ				
	+		ｶｸﾚﾐﾉ		+		ｺｸｻｷﾞ				
	+		ｷﾂﾞﾀ		+		ﾎｳﾁｬｸｿｳ				
	+		ﾌｼﾞ		+		ｱｶｶﾞｼ				
	+		ﾋｻｶｷ		+		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ				
	+		ｶｸﾚﾐﾉ		+		ﾔﾌﾞｺｳｼﾞ				
					+		ｵｵﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
					+		ｼｭﾝﾗﾝ				
					+		ｶｸﾚﾐﾉ				
					+		ﾔﾏｲﾀﾁｼﾀﾞ				
S1	5･5		ｱｵｷ		+		ｸﾏﾜﾗﾋﾞ				
	1･2		ｲﾇｶﾞﾔ		+		ｵｵﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
	1･2		ｷﾌﾞｼ		+		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ				
	1･1		ｵｵﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ		+		ｵｵﾊﾞｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ				
	+		ﾔﾂﾃﾞ								
	+		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ								
	+		ｺｸｻｷﾞ								
	+		ﾄﾍﾞﾗ								
	+		ﾂﾙｳﾒﾓﾄﾞｷ								
	+		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ								

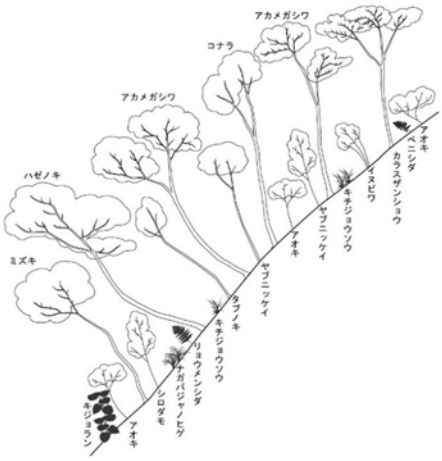
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(7)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	山頂：尾根：斜面（上）中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	W
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	41 °
土　湿	乾・（適）・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 38.1″
面　積	15 × 15 ㎡	東　経	E139° 37′ 03.1″
海　抜	180 m	出現種数	49 種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	アカメガシワ	8 ～ 13	70	34	6
(T2)亜高木層	ヤブニッケイ	5 ～ 8	30	15	7
(S1)低木層	アオキ	1 ～ 4	60	5	14
(S2)		～		—	
(H1)草本層	キチジョウソウ	0.1 ～ 1	10	—	36
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	



群落名：カラスザンショウーアカメガシワ群落2　　調査日：2024.7.25　　調査者：北川

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	3・3		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ	S1	+		ﾀﾌﾞﾉｷ	H1	+		ｳﾗｼﾏｿｳ
	2・2		ｶﾗｽｻﾞﾝｼｮｳ		+		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ		+		ｼﾛﾖﾒﾅ
	1・2		ﾊｾﾞﾉｷ		+		ﾔﾂﾃﾞ		+		ｺﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ
	1・1		ｺﾅﾗ		+		ﾑｸﾉｷ		+		ｲﾎﾞﾀﾉｷ
	1・1		ﾑｸﾉｷ		+		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ		+		ﾑｸﾉｷ
	+		ﾌｼﾞ		+		ﾈｽﾞﾐﾓﾁ		+		ｵｵﾊﾞﾉｲﾉﾓﾄｿｳ
					+		ﾌｼﾞ		+		ﾔﾂﾃﾞ
					+		ﾂﾙｳﾒﾓﾄﾞｷ		+		ﾔﾏｸﾞﾜ
					+		ﾋﾒｺｳｿﾞ		+		ﾋﾒｺｳｿﾞ
									+		ｹﾔｷ
									+		ﾂﾀ
									+		ｼｵﾃﾞ
									+		ﾐｳﾗｲﾉﾃﾞ
									+		ﾑﾗｻｷﾆｶﾞﾅ
									+		ﾅﾙｺﾕﾘ
T2	2・2		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ	H1	1・2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ		+		ｵｵﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ
	1・1		ﾀﾌﾞﾉｷ		1・2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	1・1		ﾐｽﾞｷ		+・2		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ				
	+		ｷﾂﾞﾀ		+		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ				
	+		ｷｼﾞｮﾗﾝ		+		ｱｵｷ				
	+		ﾔﾏｸﾞﾜ		+		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
	+		ﾌｼﾞ		+		ﾔﾏﾉｲﾓ				
					+		ﾂﾕｸｻ				
					+		ｷｼﾞｮﾗﾝ				
					+		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ				
					+		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
					+		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ				
					+		ﾆｶﾞｷ				
					+		ﾔﾌﾞｿﾃﾂ				
					+		ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｼﾀﾞ				
S1	3・3		ｱｵｷ		+		ﾊﾝｼｮｳﾂﾞﾙ				
	2・2		ｼﾛﾀﾞﾓ		+		ｽｲｶｽﾞﾗ				
	2・2		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ		+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
	1・2		ｲﾇﾋﾞﾜ		+		ｲﾇｶﾞﾔ				
	+		ｵｵﾊﾞﾏｻｷ		+		ｸﾏﾜﾗﾋﾞ				

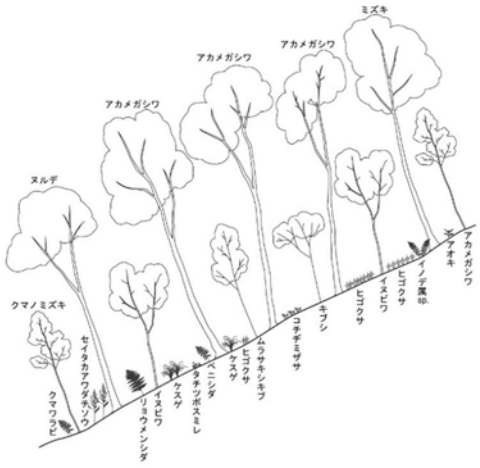
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(8)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市平作
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・(下)・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・(その他　　)

風　当	強・(中)・弱	傾斜方向	NE
日　当	陽・(中陰)・陰	傾 斜 度	32　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 09.8″
面　積	10 × 10　㎡	東　経	E139° 38′ 16.4″
海　抜	73　m	出現種数	31　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層	アカメガシワ	4 ～ 6	85	—	3
(S2)	キブシ	1.8 ～ 3	70	—	7
(H1)草 本 層	ヒゴクサ	0.1 ～ 0.5	75	—	24
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：アカメガシワ－カラスザンショウ群落　調査日：2024.7.23　調査者：大塚

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
S1	4・3		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ	H1	+		ｲﾉﾃﾞ属sp.				
	1・1		ﾇﾙﾃﾞ		+		ｷﾂﾈｶﾞﾔ				
	1・1		ﾐｽﾞｷ		+		ﾔﾏｸﾞﾜ				
					+		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ				
					+		ｲﾇﾋﾞﾜ				
					+		ｱｵｷ				
					+		ﾇﾙﾃﾞ				
					+		ｸﾏﾜﾗﾋﾞ				
					+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
					+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
S2	3・2		ｷﾌﾞｼ		+		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ				
	2・2		ｲﾇﾋﾞﾜ		+		ﾐｿﾞｼﾀﾞ				
	1・1		ｸﾏﾉﾐｽﾞｷ		+		ﾋｻｶｷ				
	1・1		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ		+		ﾋﾒｺｳｿﾞ				
	1・1		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	1・1		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ								
	+		ｹﾔｷ								
H1	3・3		ﾋｺﾞｸｻ								
	2・2		ｺﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ								
	1・1		ｹｽｹﾞ								
	1・1		ｶﾗﾑｼ								
	1・1		ﾔﾌﾞﾏｵ								
	1・1		ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ								
	1・1		ｽｹﾞ属sp.								
	+・2		ﾀﾁﾂﾎﾞｽﾐﾚ								
	+・2		ﾍｸｿｶｽﾞﾗ								
	+		ﾃﾘﾊﾔﾌﾞｿﾃﾂ								

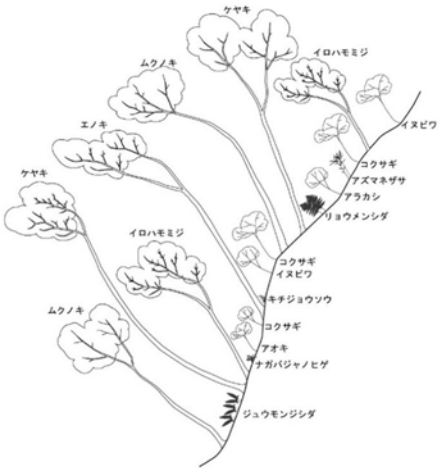
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(9)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市阿部倉
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸・(谷)：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・(その他(　　))

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	SE
日　当	(陽)・中陰・陰	傾斜度	70 °
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 23.5″
面　積	10 × 20 ㎡	東　経	E139° 38′ 07.2″
海　抜	74 m	出現種数	18 種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	ケヤキ	14 ～ 16	70	40	3
(T2)亜高木層	イロハモミジ	8 ～ 10	40	25	2
(S1)低木層	コクサギ	2 ～ 5	60	—	5
(S2)		～			
(H1)草本層	ジュウモンジシダ	0.1 ～ 0.6	30	—	10
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	



群落名：ケヤキ群落(Ⅶ)1　　調査日：2024.7.23　　調査者：大塚

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	3・2		ｹﾔｷ	H1	+		ﾃﾘﾊﾉﾌﾞｿﾃﾂ				
	1・1		ﾑｸﾉｷ		+		ｽｹﾞ属sp.				
	1・1		ｴﾉｷ		+		ｺｱｶｿ				
					+		ﾎｳﾁｬｸｿｳ				
					+		ｺｸｻｷﾞ				
T2	2・2		ｲﾛﾊﾓﾐｼﾞ								
	1・1		ﾑｸﾉｷ								
S1	3・2		ｺｸｻｷﾞ								
	2・2		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	1・1		ｱﾗｶｼ								
	1・1		ｱｵｷ								
	1・1		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
H1	2・1		ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｼﾀﾞ								
	1・1		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ								
	+・2		ｶﾗﾑｼ								
	+・2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ								
	+・2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								

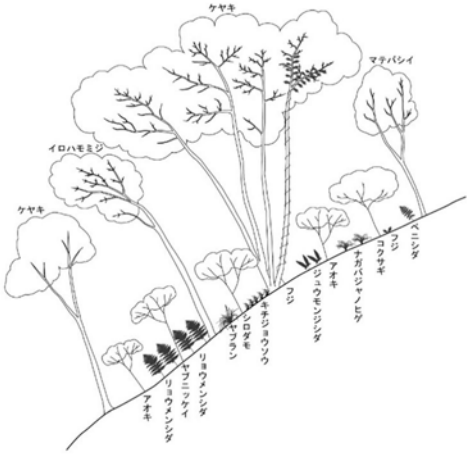
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(10)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市上山口
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸 (谷) 平地
土　壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	強・(中)・弱	傾斜方向	SE
日　当	陽・(中陰)・陰	傾斜度	51 °
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 15.1″
面　積	10 × 20 ㎡	東　経	E139° 37′ 27.7″
海　抜	60 m	出現種数	23 種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	ケヤキ	14 ～ 16	70	90	2
(T2)亜高木層	イロハモミジ	7 ～ 10	50	60	4
(S1)低木層	アオキ	～	70	—	4
(S2)		～			
(H1)草本層	リョウメンシダ	0.1 ～ 1	60	—	16
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	



群落名：ケヤキ群落(Ⅶ)2　　調査日：2024.7.24　　調査者：大塚

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	4·1		ｹﾔｷ	H1	+		ｸﾏﾜﾗﾋﾞ				
	1·1		ﾌｼﾞ		+		ﾃﾘﾊﾉﾌﾞｿﾃﾂ				
					+		ｲﾜｶﾞﾈｿｳ				
					+		ｵｵﾊﾝﾉｷｿｳ				
					+		ﾔﾏｲﾀﾁｼﾀﾞ				
					+		ｲﾛﾊﾓﾐｼﾞ				
					+		ｲﾇｶﾞﾔ				
					+		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
					+		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ				
					+		ﾍﾞﾆｵｵｲﾀﾁｼﾀﾞ				
T2	3·1		ｲﾛﾊﾓﾐｼﾞ		+		ｲﾉﾃﾞ属sp.				
	2·1		ﾏﾃﾊﾞｼｲ		+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	1·1		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	1·1		ｹﾔｷ								
S1	3·2		ｱｵｷ								
	2·2		ｺｸｻｷﾞ								
	1·1		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	1·1		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ								
H1	3·2		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ								
	2·2		ｷﾁｼﾞｮｳｿﾞｳ								
	1·1		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ								
	1·1		ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｼﾀﾞ								
	+·2		ﾌｼﾞ								

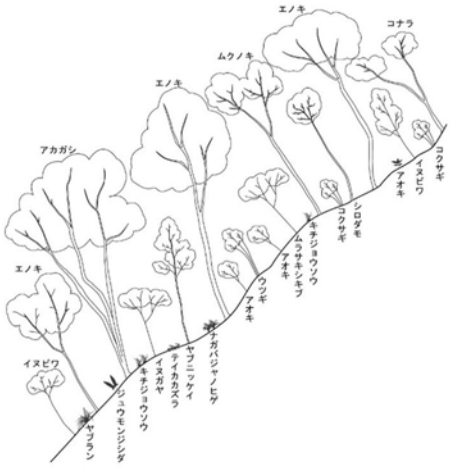
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(11)　植生調査票

調査地	神奈川県逗子市桜山
地　形	山頂：尾根：斜面：上 (中)・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	強・中・(弱)	傾斜方向	SW
日　当	陽・中陰・(陰)	傾斜度	46　°
土　湿	乾・適・(湿)・過湿	北　緯	N 35° 16′ 46.8″
面　積	20 × 20　㎡	東　経	E139° 37′ 04.7″
海　抜	m	出現種数	30　種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	エノキ	10 ～ 18	70	37	
(T2)亜高木層	エノキ	6 ～ 10	30	12	
(S1)低木層	イヌビワ	3 ～ 6	40	—	
(S2)	アオキ	1 ～ 3	60	—	
(H1)草本層	キチジョウソウ	0.1 ～ 1	10	—	
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	



群落名：エノキ群落　　調査日：2024.7.26　　調査者：北川

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	3・3		ｴﾉｷ	H1	1・2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ				
	2・2		ﾑｸﾉｷ		1・2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
	1・1		ｺﾅﾗ		1・2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
	1・1		ｱｶｶﾞｼ		＋		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
	＋		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ		＋		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
	＋		ﾌｼﾞ		＋		ﾔﾌﾞｿﾃﾂ				
					＋		ﾔﾏｲﾀﾁｼﾀﾞ				
					＋		ｺｸｻｷﾞ				
					＋・2		ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｼﾀﾞ				
					＋		ｸﾏﾜﾗﾋﾞ				
T2	1・2		ｴﾉｷ		＋		ﾔﾏﾌﾞｷ				
	1・1		ｼﾛﾀﾞﾓ		＋		ｺﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ				
	＋		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ		＋		ｸｻｷﾞ				
	1・1		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ		＋		ﾂﾂﾞﾗﾌｼﾞ				
					＋		ｲﾇｶﾞﾔ				
					＋		ｱｽｶｲﾉﾃﾞ				
					＋		ﾍﾞﾆｵｵｲﾀﾁｼﾀﾞ				
					＋		ﾌｼﾞ				
					＋		ｻｲﾊｲﾗﾝ				
					＋		ｲﾜｶﾞﾈｿｳ				
S1	2・2		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	1・2		ｳﾂｷﾞ								
	1・2		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ								
	1・2		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	1・1		ｲﾇｶﾞﾔ								
S2	4・4		ｱｵｷ								
	2・2		ｺｸｻｷﾞ								
	1・1		ﾔﾏﾌﾞｷ								

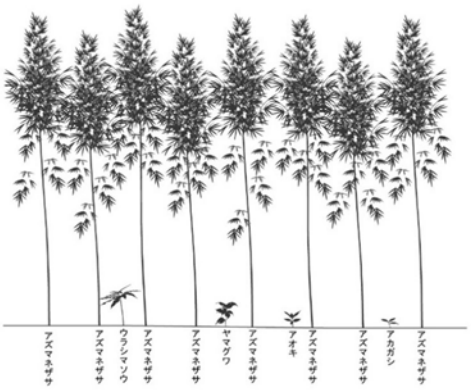
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(12)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市太田和
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷・(平地)
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・(その他　　)

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	－
日　当	(陽)・中陰・陰	傾斜度	－　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 22.5″
面　積	10 × 10 ㎡	東　経	E139° 38′ 48.7″
海　抜	108 m	出現種数	6 種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低木層	アズマネザサ	1 ～ 6	100	－	1
(S2)		～		－	
(H1)草本層	なし	0.1 ～ 1		－	5
(H2)		～		－	
(M)コケ層		～		－	



群落名：アズマネザサ群落　　調査日：2024.7.25　　調査者：北川

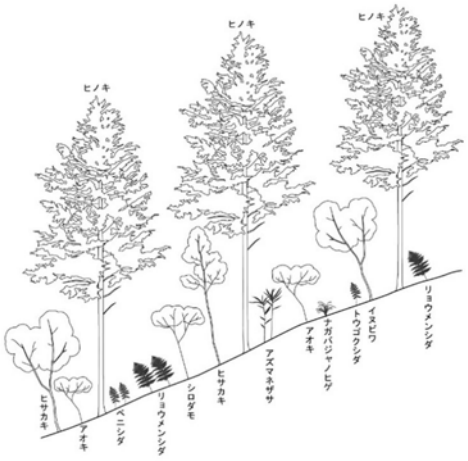
S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
S1	5·5		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
H1	＋		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	＋		ｱｵｷ								
	＋		ｳﾗｼﾏｿｳ								
	＋		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	＋		ｱｶｶﾞｼ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(13)　植生調査票

調査地	神奈川県逗子市桜山
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩層・水面下・黒ボク・その他（　　）

風　当	強・中・弱	傾斜方向	SE
日　当	陽・中陰・陰	傾 斜 度	19 °
土　湿	乾・適・湿・過湿	北　緯	N 35°
面　積	20 × 20 ㎡	東　経	E139°
海　抜	99 m	出現種数	38 種



階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	ヒノキ	15 ～ 20	80	33	3
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層	ヒサカキ	1 ～ 6	70	6	8
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	リョウメンシダ	0.1 ～ 1	30	—	34
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	

群落名：スギ・ヒノキ・サワラ植林1　　調査日：2024.7.25　　調査者：北川

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	5・5		ヒノキ	H1	+		トウゴクシダ				
	+		フジ		+		ミヤライノデ				
	+		テイカカズラ		+		イヌガヤ				
					+		ムラサキニガナ				
					+		イヌビワ				
					+		ナガバジャノヒゲ				
					+		アオツヅラフジ				
					+		ヤマグワ				
					+		コナラ				
					+		オオバウマノスズクサ				
S1	2・2		ヒサカキ		+		ヤブラン				
	2・2		イヌビワ		+		ミツシダ				
	2・2		アオキ		+		ノブドウ				
	2・2		シロダモ		+		フモトシダ				
	1・2		ムラサキシキブ		+		オモト				
	+・2		アズマネザサ		+		ヤマイタチシダ				
	+		ツルグミ		+		サネカズラ				
	+		テイカカズラ		+		フジ				
					+		アカガシ				
					+		タチツボスミレ				
					+		ナキリスゲ				
					+		イボタノキ				
					+		エゴノキ				
					+		タブノキ				
H1	2・2		リョウメンシダ								
	2・2		ベニシダ								
	+・2		テイカカズラ								
	+・2		アズマネザサ								
	+		ヤブニッケイ								
	+		アオキ								
	+		ケヤキ								
	+		イワガネゼンマイ								
	+		トウゲシバ								
	+		ヒサカキ								

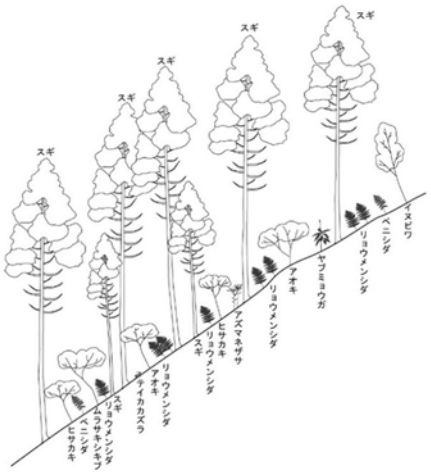
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(14)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市上山口
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・(下)・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	強・(中)・弱	傾斜方向	NE
日　当	陽・(中陰)・陰	傾 斜 度	52　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 03.1″
面　積	20 × 20　㎡	東　経	E139° 37′ 25.4″
海　抜	59　m	出現種数	29　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	スギ	18 ～ 20	70	30	1
(T2)亜高木層	スギ	10 ～ 12	30	16	2
(S1)低 木 層	アオキ	2 ～ 6	50	—	5
(S2)		～			
(H1)草 本 層	リョウメンシダ	0.1 ～ 1	75	—	22
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：スギ・ヒノキ・サワラ植林2　　調査日：2024.7.24　　調査者：大塚

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	4・4		ｽｷﾞ	H1	+・2		ﾐﾂﾞｼﾀﾞ				
					+・2		ｼｹｼﾀﾞ				
					+・2		ﾂﾕｸｻ				
					+・2		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
					+		ﾊﾀﾞｶﾎｵｽﾞｷ				
					+		ｵｵﾊﾞﾉｲﾉﾓﾄｿｳ				
					+		ｺｱｶｿ				
					+		ﾌﾓﾄｼﾀﾞ				
					+		ｷﾗﾝｿｳ				
					+		ﾑﾗｻｷﾆｶﾞﾅ				
T2	2・2		ｽｷﾞ		+		ｲﾜｶﾞﾈｿｳ				
	1・1		ﾑｸﾉｷ		+		ﾉﾌﾞﾄﾞｳ				
					+		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ				
					+		ｹﾞｼﾞｹﾞｼﾞｼﾀﾞ				
					+		ｵｵﾊﾞｷﾞﾎﾞｳｼ				
					+		ﾑﾗｻｷｹﾏﾝ				
					+		ｶﾀﾊﾞﾐ				
S1	2・2		ｱｵｷ								
	2・1		ﾏﾃﾊﾞｼｲ								
	2・1		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	1・1		ﾋﾒｺｳｿﾞ								
	1・1		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	+		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ								
H1	3・3		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ								
	2・2		ﾔﾌﾞﾐｮｳｶﾞ								
	1・1		ｺﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ								
	1・1		ﾄﾞｸﾀﾞﾐ								
	1・1		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上

S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状

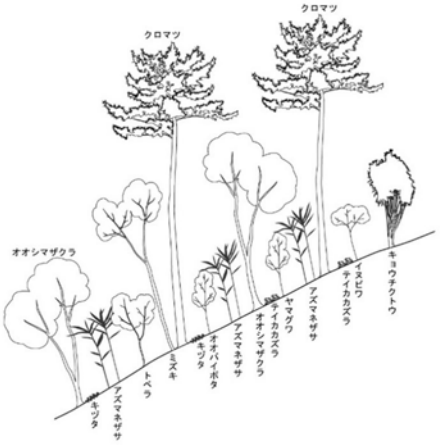
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(15)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町木古庭
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩層・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	N
日　当	陽・（中陰）・陰	傾斜度	21 °
土　湿	乾・適・（湿）・過湿	北　緯	N 35° 15′ 35.3″
面　積	10 × 20 ㎡	東　経	E139° 37′ 30.8″
海　抜	155 m	出現種数	28 種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	クロマツ	12 ～ 18	70	44	2
(T2)亜高木層	オオシマザクラ	8 ～ 12	30	21	4
(S1)低木層	アズマネザサ	1 ～ 6	60	—	13
(S2)		～		—	
(H1)草本層	キヅタ	0.1 ～ 1	30	—	13
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	



群落名：クロマツ植林　　調査日：2024.7.23　　調査者：北川

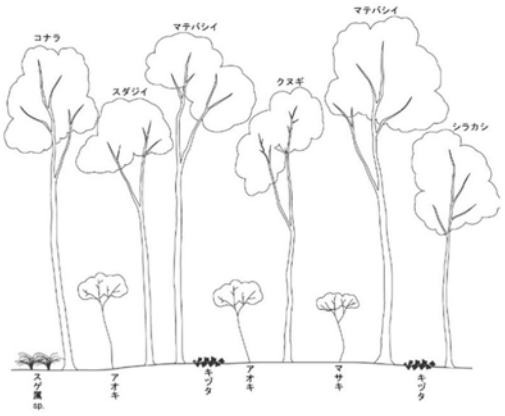
S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	4·3		ｸﾛﾏﾂ	H1	2·2		ｷﾂﾞﾀ				
	+		ﾂﾀ		2·2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
					+·2		ﾔﾏｶﾓｼﾞｸﾞｻ				
					+		ﾂﾙｳﾒﾓﾄﾞｷ				
					+		ﾑｸﾉｷ				
					+		ﾂﾀ				
					+		ｲﾎﾞﾀﾉｷ				
					+		ｼﾛﾖﾒﾅ				
					+		ﾔﾂﾃﾞ				
					+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
T2	2·2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ		+		ﾐｳﾗｲﾉﾃﾞ				
	1·1		ﾐｽﾞｷ		+		ﾈｽﾞﾐﾓﾁ				
	+		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ		+		ｺﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ				
	+		ﾂﾀ		+		ｲﾀﾄﾞﾘ				
					+		ﾍｸｿｶｽﾞﾗ				
					+		ﾅﾝﾌﾞｱｻﾞﾐ				
S1	3·3		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
	2·2		ﾄﾍﾞﾗ								
	1·2		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	1·2		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	1·2		ｷｮｳﾁｸﾄｳ								
	1·1		ｵｵﾊﾞｲﾎﾞﾀ								
	+		ﾊｾﾞﾉｷ								
	+		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ								
	+		ｱｵｷ								
	+		ｽｲｶｽﾞﾗ								
	+		ｳﾊﾞﾒｶﾞｼ								
	+		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	+		ﾈｽﾞﾐﾓﾁ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(16)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	－　°
土　湿	乾・（適）・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 34.7″
面　積	10 × 10 ㎡	東　経	E139° 38′ 35.0″
海　抜	101 m	出現種数	26 種



階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	マテバシイ	8 ～ 12	90	17	8
(T2)亜高木層		～			
(S1)低木層	アオキ	1 ～ 3	20	－	7
(S2)		～		－	
(H1)草本層	キヅタ	0.1 ～ 1	<5	－	14
(H2)		～		－	
(M)コケ層		～		－	

群落名：その他植林（常緑広葉樹）1　　調査日：2024.7.25　　調査者：北川

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	3·3		ﾏﾃﾊﾞｼｲ	H1	+		ｽｲｶｽﾞﾗ				
	2·2		ｽﾀﾞｼﾞｲ		+		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
	1·2		ｼﾗｶｼ		+		ｼﾛﾀﾞﾓ				
	1·2		ｱﾗｶｼ		+		ｲﾇﾏｷ				
	1·1		ｸﾇｷﾞ		+		ﾌｲﾘｱｵｷ				
	1·1		ｺﾅﾗ		+		ｸｽﾞ				
	1·1		ﾔﾏｻﾞｸﾗ		+		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ				
	+		ﾂﾙｳﾒﾓﾄﾞｷ		+		ﾔﾂﾃﾞ				
					+		ﾏｻｷ				
S1	2·2		ｱｵｷ								
	+·2		ﾏｻｷ								
	+		ﾏﾃﾊﾞｼｲ								
	+		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	+		ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ								
	+		ｱﾗｶｼ								
	+		ｲﾎﾞﾀﾉｷ								
H1	1·2		ｷﾂﾞﾀ								
	1·2		ｽｹﾞ属sp.								
	+		ﾂﾀ								
	+		ｵｵﾊﾞｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ								
	+		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ								

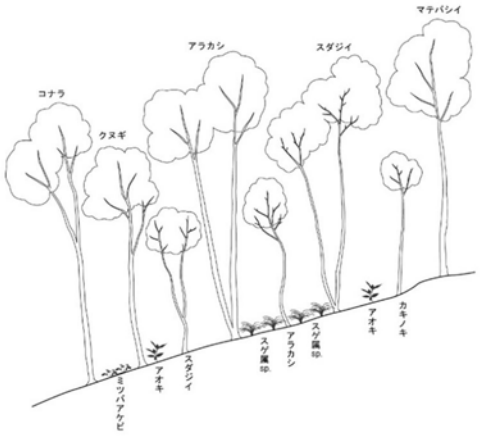
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(17)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面（上）中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他（　　）

風　当	強・（中）・弱	傾斜方向	SW
日　当	陽（中陰）・陰	傾 斜 度	14　°
土　湿	乾・（適）湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 21.8″
面　積	15 × 15　㎡	東　経	E139° 38′ 29.7″
海　抜	88　m	出現種数	19　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	スダジイ	10 ～ 12	90	20	6
(T2)亜高木層	アラカシ	5 ～ 7	40	12	4
(S1)低 木 層	アオキ	0.8 ～ 1.2	5	—	2
(S2)		～			
(H1)草 本 層	スゲ属sp.	0.1 ～ 0.3	20	—	13
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：その他植林（常緑広葉樹）2　　調査日：2024.7.22　　調査者：大塚

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	2·2		ｽﾀﾞｼﾞｲ	H1	2·2		ｽｹﾞ属sp.				
	2·2		ｱﾗｶｼ		1·1		ｱｵｷ				
	2·2		ﾏﾃﾊﾞｼｲ		+·2		ﾍｸｿｶｽﾞﾗ				
	2·2		ｼﾗｶｼ		+·2		ｷﾂﾞﾀ				
	2·2		ｳﾗｼﾞﾛｶﾞｼ		+·2		ｺﾞﾖｳｱｹﾋﾞ				
	2·1		ｸﾇｷﾞ		+·2		ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ				
	1·1		ｺﾅﾗ		+		ｼﾗｶｼ				
					+		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ				
					+		ｺﾅﾗ				
					+		ｸｽﾞ				
					+		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
					+		ﾂﾙﾏｻｷ				
					+		ｼﾛﾀﾞﾓ				
T2	2·2		ｱﾗｶｼ								
	2·2		ｽﾀﾞｼﾞｲ								
	1·1		ｶｷﾉｷ								
	1·1		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ								
S1	1·1		ｱｵｷ								
	+		ｶｷﾉｷ								

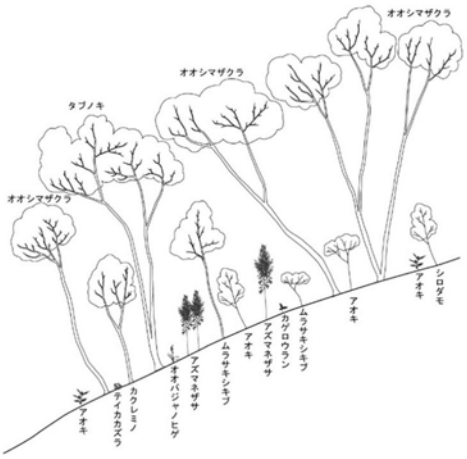
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(18)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面（上）・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・（褐森）・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 固岩層・水面下・黒ボク・その他（　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	NW
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	19　°
土　湿	乾・（適）・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 49.7″
面　積	15 × 15　㎡	東　経	E139° 38′ 06.6″
海　抜	180　m	出現種数	25　種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	オオシマザクラ	6 ～ 15	80	35	5
(T2)亜高木層		～			
(S1)低木層	ムラサキシキブ	3 ～ 6	30	7	5
(S2)	アズマネザサ	1 ～ 3	60	—	5
(H1)草本層	アオキ	0.1 ～ 1	60	—	17
(H2)		～		—	
(M)コケ層		～		—	



群落名：オオシマザクラ植林1　　調査日：2024.7.22　　調査者：北川

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1	4·4		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ	H1	+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
	1·2		ﾀﾌﾞﾉｷ		+		ｷﾂﾞﾀ				
	1·1		ﾔﾏｸﾞﾜ		+		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
	+		ｷﾂﾞﾀ		+		ﾔﾏﾉｲﾓ				
	+		ﾌｼﾞ		+		ｲﾎﾞﾀﾉｷ				
					+		ｼｵﾃﾞ				
					+		ﾐﾂﾞｼﾀﾞ				
					+		ｶｹﾞﾛｳﾗﾝ				
					+		ｼﾛﾀﾞﾓ				
					+		ﾉｻｻｹﾞ				
S1	2·2		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ		+		ﾎｳﾁｬｸｿｳ				
	1·2		ｼﾛﾀﾞﾓ		+		ｻﾈｶｽﾞﾗ				
	1·1		ｶｸﾚﾐﾉ								
	1·1		ｴｺﾞﾉｷ								
	+		ｷﾂﾞﾀ								
S2	3·3		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
	2·2		ｱｵｷ								
	1·1		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	1·1		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ								
	+		ｸｽﾞ								
H1	1·2		ｱｵｷ								
	1·2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	1·1		ｵｵﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	1·1		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
	+·2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ								

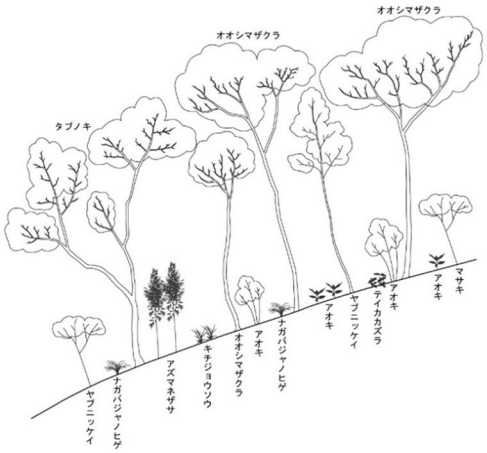
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(19)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	(山頂)：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩層・水面下・黒ボク・(その他　　)

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	SW
日　当	(陽)・中陰・陰	傾 斜 度	18　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 34.6″
面　積	15 × 15　㎡	東　経	E139° 37′ 05.7″
海　抜	244　m	出現種数	18　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	オオシマザクラ	6 ～ 14	80	31	5
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層	ヤブニッケイ	1 ～ 6	60	12	10
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	ナガバジャノヒゲ	0.1 ～ 1	30	—	13
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：オオシマザクラ植林2　　調査日：2024.7.25　　調査者：北川

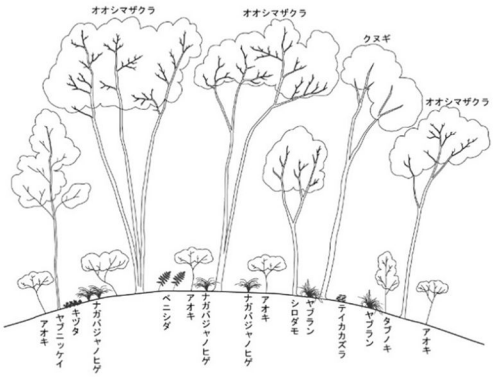
S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
T1	4・4		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ	H1	+		ｵｵﾊﾅﾜﾗﾋﾞ				
	2・2		ﾀﾌﾞﾉｷ		+		ｱｶﾒｶﾞｼﾜ				
	2・2		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ		+		ﾀﾌﾞﾉｷ				
	+		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ								
	+		ｷﾂﾞﾀ								
S1	3・3		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ								
	2・2		ｱｵｷ								
	2・2		ﾏｻｷ								
	2・2		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	2・1		ﾀﾌﾞﾉｷ								
	1・2		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
	+		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ								
	+		ｷｼﾞｮｳﾗﾝ								
	+		ｲﾇｶﾞﾔ								
	+		ｲﾇﾋﾞﾜ								
H1	2・2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	2・2		ｱｵｷ								
	+・2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ								
	+・2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ								
	+		ｷﾂﾞﾀ								
	+		ｲﾇｶﾞﾔ								
	+		ﾔﾌﾞﾗﾝ								
	+		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	+		ﾏｻｷ								
	+		ｵｵﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(20)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂・(尾根)・斜面：上・中・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ
	擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑
	固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	強・(中)・弱	傾斜方向	－
日　当	陽・(中陰)・陰	傾斜度	0　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 40.7″
面　積	20 × 20 ㎡	東　経	E139° 38′ 26.7″
海　抜	122 m	出現種数	22 種



階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	オオシマザクラ	11 ～ 14	85	70	3
(T2)亜高木層	シロダモ	6 ～ 8	50	17	5
(S1)低 木 層	アオキ	1.8 ～ 4	75	－	5
(S2)		～			
(H1)草 本 層	ナガバジャノヒゲ	0.1 ～ 0.5	60	－	15
(H2)		～		－	
(M)コ ケ 層		～		－	

群落名：　オオシマザクラ植林3　　調査日：2024.7.22　　調査者：　大塚

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
T1	4･3		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ	H1	+･2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
	1･1		ｽﾀﾞｼﾞｲ		+		ｺﾅﾗ				
	1･1		ｸﾇｷﾞ		+		ｵｵﾊﾞｸﾞﾐ				
					+		ｸｻｷﾞ				
					+		ｼﾛﾀﾞﾓ				
					+		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ				
					+		ｵｵﾊﾞｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ				
					+		ﾔﾂﾃﾞ				
					+		ﾏﾃﾊﾞｼｲ				
					+		ｲﾇﾂｹﾞ				
T2	2･2		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	1･1		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ								
	1･1		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	1･1		ﾀﾌﾞﾉｷ								
	1･1		ﾏﾃﾊﾞｼｲ								
S1	3･3		ｱｵｷ								
	1･1		ﾀﾌﾞﾉｷ								
	+		ｽﾀﾞｼﾞｲ								
	+		ｲﾇｶﾞﾔ								
	+		ｴｺﾞﾉｷ								
H1	3･2		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	2･1		ﾔﾌﾞﾗﾝ								
	1･1		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ								
	+･2		ﾌｼﾞ								
	+･2		ｷﾂﾞﾀ								

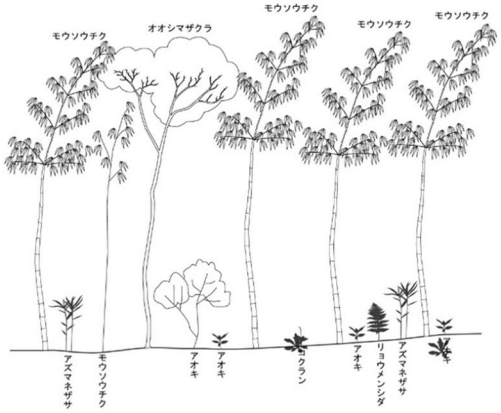
D(被度)…ｒ：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(21)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩層・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	陽・（中陰）・陰	傾斜度	－　°
土　湿	乾・適・（湿）・過湿	北　緯	N 35° 14′ 58.5″
面　積	20 × 20 ㎡	東　経	E139° 38′ 17.0″
海　抜	147 m	出現種数	28 種

階　層	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層	モウソウチク	9 ～ 15	80	15	2
(T2)亜高木層		～		－	
(S1)低木層	アオキ	1 ～ 4	20	－	2
(S2)		～		－	
(H1)草本層	アオキ	0.1 ～ 1	10	－	25
(H2)		～		－	
(M)コケ層		～		－	



群落名：竹林1　　調査日：2024.7.22　　調査者：北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
T1	5･5		ﾓｳｿｳﾁｸ	H1	＋		ｶｹﾞﾛｳﾗﾝ				
	2･2		ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ		＋		ｺｸﾗﾝ				
					＋		ｵｵﾊﾞｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ				
					＋		ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ				
					＋		ｼｵﾃﾞ				
					＋		ｹﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ				
					＋		ｱｵﾂﾂﾞﾗﾌｼﾞ				
					＋		ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ				
					＋		ﾍｸｿｶｽﾞﾗ				
					＋		ｷﾂﾞﾀ				
S1	2･2		ｱｵｷ								
	1･2		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
H1	2･2		ｱｵｷ								
	＋		ｵｵﾊﾅﾜﾗﾋﾞ								
	＋		ﾅｶﾞﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	＋		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ								
	＋		ｵｵﾊﾞｸﾞﾐ								
	＋		ｼﾛﾀﾞﾓ								
	＋		ｱｶｶﾞｼ								
	＋		ﾑｸﾉｷ								
	＋		ﾌｼﾞ								
	＋		ﾔﾌﾞﾗﾝ								
	＋		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	＋		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ								
	＋		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	＋		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ								
	＋		ﾔﾌﾞﾆｯｹｲ								

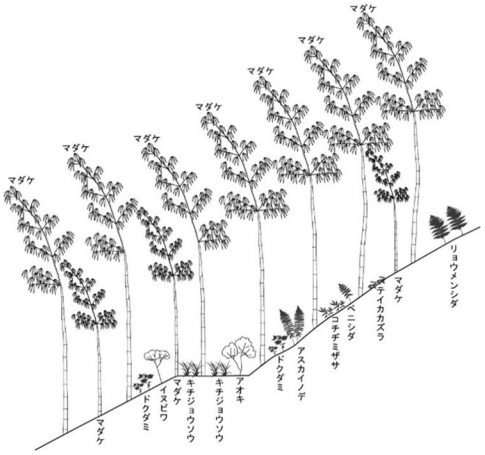
D(被度)…ｒ：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(22)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市木古庭
地　形	山頂：尾根：斜面：上 (中)・下・凹・凸：谷：平地
土　壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ
	擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑
	固岩層・水面下・黒ボク・その他(　　)

風　当	強・(中)・弱	傾斜方向	NE
日　当	陽・(中陰)・陰	傾 斜 度	32　°
土　湿	乾・(適)・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 49.3″
面　積	20 × 20　㎡	東　経	E139° 37′ 24.6″
海　抜	88　m	出現種数	29　種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層	マダケ	14 ～ 16	90	10	1
(T2)亜高木層	マダケ	6 ～ 8	30	—	1
(S1)低 木 層	アオキ	1.5 ～ 2	10	—	3
(S2)		～			
(H1)草 本 層	ドクダミ	0.1 ～ 0.5	70	—	25
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：竹林2　　調査日：2024.7.24　　調査者：大塚

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
T1			ﾏﾀﾞｹ	H1	1·1		ﾘｮｳﾒﾝｼﾀﾞ				
					1·1		ﾂﾀ				
					1·1		ﾔﾏｱｼﾞｻｲ				
					+·2		ﾃｲｶｶｽﾞﾗ				
					+·2		ﾔﾌﾞｺｳｼﾞ				
					+		ﾔﾌﾞﾗﾝ				
					+		ｺｸﾗﾝ				
					+		ﾅｶﾞﾊﾞﾉｴﾄﾞｸｿｳ				
					+		ﾐｮｳｶﾞ				
					+		ｲﾇﾜﾗﾋﾞ				
T2	3·2		ﾏﾀﾞｹ		+		ﾔﾏｸﾞﾜ				
					+		ﾍﾞﾆｼﾀﾞ				
					+		ﾔﾌﾞﾐｮｳｶﾞ				
					+		ｱｽｶｲﾉﾃﾞ				
					+		ﾌｭｲﾁｺﾞ				
					+		ﾅﾝﾃﾝ				
					+		ｷﾂﾞﾀ				
					+		ｵﾆﾄﾞｺﾛ				
					+		ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ				
					+		ｵｵﾊﾞｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ				
S1	1·1		ｱｵｷ								
	1·1		ｲﾇﾋﾞﾜ								
	+		ｼｭﾛ								
H1	3·2		ﾄﾞｸﾀﾞﾐ								
	2·2		ｷﾁｼﾞｮｳｿｳ								
	2·1		ｺﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ								
	1·1		ｳﾗｼﾏｿｳ								
	1·1		ﾎｳﾁｬｸｿｳ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上

S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状

S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(23)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町木古庭
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩層・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	陽・（中陰）・陰	傾斜度	－　°
土　湿	（乾）・適・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 42.7″
面　積	1 × 1　㎡	東　経	E139° 37′ 28.7″
海　抜	135　m	出現種数	14　種

階　層	優 占 種	高さ (cm)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層		～		—	
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	コセンダングサ	5 ～ 60	60	—	14
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	

群落名：路傍･空地雑草群落1　　調査日：2024.7.23　　調査者：北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
H1	3･3		ｺｾﾝﾀﾞﾝｸﾞｻ								
	1･2		ｴﾉｺﾛｸﾞｻ								
	1･2		ｵﾋｼﾊﾞ								
	1･2		ｷﾞｮｳｷﾞｼﾊﾞ								
	＋		ﾑﾗｻｷｴﾉｺﾛ								
	＋		ｱﾒﾘｶｾﾝﾀﾞﾝｸﾞｻ								
	＋		ｺﾆｼｷｿｳ								
	＋		ﾒﾏﾂﾖｲｸﾞｻ								
	＋		ｱｶｻﾞ								
	＋		ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ								
	＋		ｺﾒﾂﾌﾞｳﾏｺﾞﾔｼ								
	＋		ﾖﾓｷﾞ								
	＋		ﾋﾒｼﾞｮｵﾝ								
	＋		ｸｽﾞ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(24)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市長坂
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	－　°
土　湿	乾・（適）・湿・過湿	北　緯	N 35° 14′ 46.7″
面　積	2 × 2　㎡	東　経	E139° 38′ 38.2″
海　抜	98　m	出現種数	11　種

階　層	優占種	高さ (cm)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低木層		～		－	
(S2)		～		－	
(H1)草本層	アレチハナガサ	70 ～ 150	80	－	5
(H2)	ススキ	1 ～ 70	50	－	8
(M)コケ層		～		－	

群落名：路傍･空地雑草群落2　　調査日：2024.7.25　　調査者：北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
H1	4･4		ｱﾚﾁﾊﾅｶﾞｻ								
	2･2		ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ								
	1･2		ｽｽｷ								
	1･2		ﾖﾓｷﾞ								
	1･2		ｵｵｱﾚﾁﾉｷﾞｸ								
H2	2･2		ｽｽｷ								
	2･2		ﾊﾙｼｬｷﾞｸ								
	1･2		ﾑﾗｻｷﾂﾒｸｻ								
	1･1		ﾒﾏﾂﾖｲｸﾞｻ								
	+･2		ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ								
	+		ﾔﾏｸﾞﾜ								
	+		ｱｷﾉﾉｹﾞｼ								
	+		ｴﾉｺﾛｸﾞｻ								

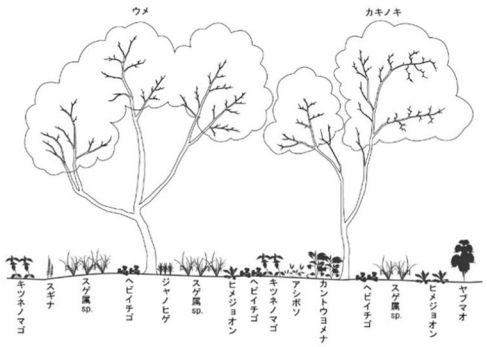
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(25)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	－　°
土　湿	乾・（適）湿・過湿	北　緯	N 35° 16′ 19.1″
面　積	10 × 10 ㎡	東　経	E139° 37′ 05.9″
海　抜	55 m	出現種数	33 種

階　層	優 占 種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層	ウメ	1 ～ 6	70	20	3
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	スゲ属sp.	0.1 ～ 0.5	90	—	30
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：果樹園　　調査日：2024.7.24　　調査者：北川

S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
S1	3･3		ｳﾒ	H1	＋		ｵｵﾊﾞｺ				
	3･3		ｶｷﾉｷ		＋		ｲﾇﾜﾗﾋﾞ				
	＋		ﾉｷｼﾉﾌﾞ		＋		ｹﾞﾝﾉｼｮｳｺ				
					＋		ｵﾆﾄﾞｺﾛ				
					＋		ﾅﾝﾌﾞｱｻﾞﾐ				
H1	3･3		ｽｹﾞ属sp.								
	3･3		ﾍﾋﾞｲﾁｺﾞ								
	2･2		ﾋﾒｼﾞｮｵﾝ								
	2･2		ｶﾗﾑｼ								
	2･2		ｶﾝﾄｳﾖﾒﾅ								
	2･2		ｷﾂﾈﾉﾏｺﾞ								
	1･2		ｱｷﾉﾀﾑﾗｿｳ								
	1･2		ｱｼﾎﾞｿ								
	1･2		ｼﾞｬﾉﾋｹﾞ								
	＋		ｽｷﾞﾅ								
	＋		ｽｲﾊﾞ								
	＋		ｹｷﾂﾈﾉﾎﾞﾀﾝ								
	＋		ｶｷﾄﾞｵｼ								
	＋		ｹﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ								
	＋		ﾀﾞｲｺﾝｿｳ								
	＋		ｹﾔﾌﾞﾊｷﾞ								
	＋		ｵｯﾀﾁｶﾀﾊﾞﾐ								
	＋		ﾔﾏﾉｲﾓ								
	＋		ｼｹｼﾀﾞ								
	＋		ﾄｳﾊﾞﾅ								
	＋		ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ								
	＋		ｱｵﾐｽﾞ								
	＋		ﾂﾒｸｻ								
	＋		ﾔﾌﾞｶﾗｼ								
	＋		ﾐｿﾞｿﾊﾞ								

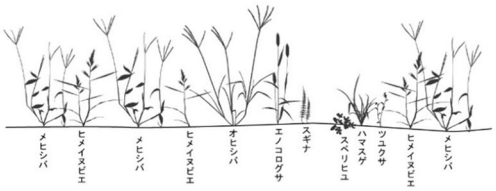
D(被度)…ｒ：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(26)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	－　°
土　湿	（乾）・適・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 49.1″
面　積	1 × 1　㎡	東　経	E139° 37′ 15.6″
海　抜	115　m	出現種数	8　種

階　層	優 占 種	高さ (cm)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層		～		—	
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	メヒシバ	1 ～ 50	70	—	8
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：畑雑草群落1　　調査日：2024.7.24　　調査者：北川

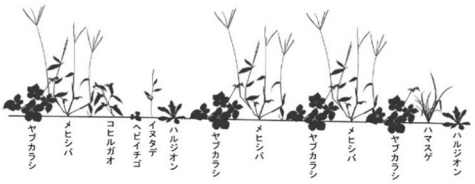
S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.	S	D･S	V	SPP.
H1	3･3		ﾒﾋｼﾊﾞ								
	2･2		ﾋﾒｲﾇﾋﾞｴ								
	+･2		ｴﾉｺﾛｸﾞｻ								
	+･2		ｵﾋｼﾊﾞ								
	+･2		ﾊﾏｽｹﾞ								
	+		ｽﾍﾞﾘﾋﾕ								
	+		ｽｷﾞﾅ								
	+		ﾂﾕｸｻ								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D･S：被度･群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(27)　植生調査票

調査地	神奈川県横須賀市阿部倉
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷：(平地)
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・(その他　　)

風　当	(強)・中・弱	傾斜方向	－
日　当	(陽)・中陰・陰	傾斜度	0　°
土　湿	(乾)・適・湿・過湿	北　緯	N 35° 15′ 26.6″
面　積	1 × 1　㎡	東　経	E139° 38′ 05.6″
海　抜	80　m	出現種数	9　種



階　層	優占種	高さ (cm)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高木層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低木層		～			
(S2)		～			
(H1)草本層	ヤブカラシ	10 ～ 30	100	－	9
(H2)		～		－	
(M)コケ層		～		－	

群落名：畑雑草群落2　　調査日：2024.7.23　　調査者：大塚

S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.	S	D・S	V	SPP.
H1	3・3		ﾔﾌﾞｶﾗｼ								
	2・2		ﾒﾋｼﾊﾞ								
	2・2		ﾊﾙｼﾞｵﾝ								
	2・2		ﾊﾏｽｹﾞ								
	1・1		ｺﾋﾙｶﾞｵ								
	1・1		ｲﾇﾀﾃﾞ								
	+・2		ﾍﾋﾞｲﾁｺﾞ								
	+		ｹｷﾂﾈﾉﾎﾞﾀﾝ								
	+		ｵｵｲﾇﾉﾌｸﾞﾘ								

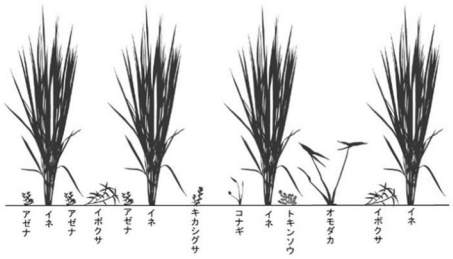
D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D・S：被度・群度 SPP.種名 V：活力

表 3.2-1(28)　植生調査票

調査地	神奈川県三浦郡葉山町上山口
地　形	山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷（平地）
土　壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 固岩屑・水面下・黒ボク・（その他　　）

風　当	（強）・中・弱	傾斜方向	－
日　当	（陽）・中陰・陰	傾斜度	－　°
土　湿	乾・適・湿・（過湿）	北　緯	N 35° 16′ 16.8″
面　積	1 × 1　㎡	東　経	E139° 37′ 0.2.2″
海　抜	41　m	出現種数	9　種

階　層	優 占 種	高さ (cm)	植被率 (%)	胸高 (cm)	種数
(T1)高 木 層		～			
(T2)亜高木層		～			
(S1)低 木 層		～		—	
(S2)		～		—	
(H1)草 本 層	イネ	1 ～ 80	80	—	9
(H2)		～		—	
(M)コ ケ 層		～		—	



群落名：水田雑草群落　　調査日：2024.7.24　　調査者：北川

S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.	S	D·S	V	SPP.
H1	5·5		イネ								
	+·2		アゼナ								
	+·2		イボクサ								
	+		キカシグサ								
	+		オモダカ								
	+		コナギ								
	+		ヒデリコ								
	+		トキンソウ								
	+		タデ属sp.								

D(被度)…r：極希，＋：1%以下，1：10%以下，2：10～25%，3：25～50%，4：50～75%，5：75%以上
S(群度)…1：単生，2：少群状，3：小群の斑紋状，4：大きい斑紋状(ｶｰﾍﾟｯﾄのあちこちに穴がある状態)，5：一面ｶｰﾍﾟｯﾄ状
S:階層 D·S：被度·群度 SPP.種名 V：活力

4. 動物調査結果

(1) 哺乳類調査結果

現地調査におけるトラップ法の調査結果を表 4.1-1 に、自動撮影法調査結果を表 4.1-2 に示す。

表 4.1-1　トラップ法（シャーマントラップ）調査結果

時期	計測日	地点	種名	全長 (mm)	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	後肢長 (mm)	体重 (g)	性別	捕獲後の処置	備考
春季	2025年4月16日	T1	アカネズミ	205.0	110.0	95.0	22.5	52.3	メス	放獣	
秋季	2025年10月10日	T1	アカネズミ	175.0	127.0	48.0	24.0	61.0	オス	放獣	尾切れ
秋季	2025年10月10日	T1	アカネズミ	203.0	105.0	98.0	23.0	47.5	メス	放獣	
秋季	2025年10月10日	T2	アカネズミ	182.0	110.0	72.0	23.5	46.3	メス	放獣	尾切れ
秋季	2025年10月10日	T3	アカネズミ	180.0	98.0	82.0	23.5	47.4	オス	放獣	

表 4.1-2　自動撮影法調査結果

時期	撮影日	地点	種名	個体数	備考
冬季	2024年1月19日	T1	ノウサギ	1	
冬季	2024年1月19日	T3	アライグマ	1	
冬季	2024年1月20日	T3	アライグマ	1	
冬季	2024年1月21日	T3	タヌキ	1	
冬季	2024年1月22日	T3	タヌキ	1	
冬季	2024年1月23日	T3	アライグマ	1	
冬季	2024年1月25日	T4	タヌキ	1	
冬季	2024年1月23日	T5	タヌキ	1	
冬季	2024年1月22日	T6	タヌキ	1	
冬季	2024年1月23日	T6	イノシシ	1	
冬季	2024年1月24日	T6	タヌキ	1	
夏季	2024年7月2日	T1	アライグマ	1	
夏季	2024年7月1日	T2	ハクビシン	1	
夏季	2024年7月2日	T2	ハクビシン	1	
夏季	2024年7月2日	T2	アライグマ	1	
夏季	2024年7月7日	T2	タヌキ	1	
夏季	2024年7月7日	T2	アライグマ	1	
夏季	2024年7月7日	T2	ハクビシン	1	
夏季	2024年7月8日	T2	アライグマ	1	
夏季	2024年7月8日	T2	ハクビシン	1	
夏季	2024年7月5日	T3	アライグマ	1	
夏季	2024年7月5日	T3	アライグマ	1	
夏季	2024年7月6日	T3	アライグマ	1	
夏季	2024年7月4日	T4	タヌキ	1	
夏季	2024年7月6日	T5	アライグマ	3	親仔
夏季	2024年7月8日	T5	タヌキ	1	
秋季	2024年10月6日	T1	アライグマ	1	
秋季	2024年10月4日	T2	アライグマ	1	
秋季	2024年10月7日	T5	アライグマ	1	
秋季	2024年10月7日	T5	タヌキ	1	
秋季	2024年10月9日	T5	ノウサギ	1	
秋季	2024年10月4日	T6	アライグマ	1	
秋季	2024年10月9日	T6	ハクビシン	1	

注）春季に哺乳類は撮影されなかった。

(2) 鳥類調査結果

現地調査によるラインセンサス法の調査結果を表 4.2-1(1)～(6)に、定点観察法の調査結果を表 4.2-2(1)～(6)示す。

表 4.2-1(1)　ラインセンサス法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	L1 2024年1月26日 8:15～8:45		L2 2024年1月26日 8:00～8:42		L3 2024年1月25日 8:39～9:28		L4 2024年1月25日 10:10～11:00		L5 2024年1月24日 8:26～8:53		L6 2024年1月25日 4:40～5:02	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ			4	7.1%					7	11.9%	4	19.0%
2	ハト目	ハト科	キジバト	1	3.7%					3	7.0%	1	1.7%		
3	タカ目	タカ科	トビ							2	4.7%				
4	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ			1	1.8%	2	3.3%						
5			アオゲラ	1	3.7%										
6	スズメ目	モズ科	モズ							1	2.3%				
7		カラス科	ハシボソガラス							2	4.7%	1	1.7%	1	4.8%
8			ハシブトガラス			1	1.8%			3	7.0%				
9		シジュウカラ科	ヤマガラ	1	3.7%	1	1.8%	2	3.3%					3	14.3%
10			シジュウカラ	2	7.4%	2	3.6%	4	6.7%	3	7.0%	2	3.4%	1	4.8%
11		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	5	18.5%	18	32.1%	16	26.7%	11	25.6%	17	28.8%	2	9.5%
12		ウグイス科	ウグイス	3	11.1%	3	5.4%	1	1.7%	2	4.7%			4	19.0%
13		エナガ科	エナガ			2	3.6%								
14		チメドリ科	ガビチョウ	2	7.4%	8	14.3%	2	3.3%			1	1.7%		
15		メジロ科	メジロ	5	18.5%	13	23.2%	15	25.0%	11	25.6%	7	11.9%	3	14.3%
16		ムクドリ科	ムクドリ									5	8.5%		
17		ヒタキ科	シロハラ	3	11.1%			4	6.7%			2	3.4%		
18			アカハラ							1	2.3%				
19			ツグミ	1	3.7%					1	2.3%	1	1.7%		
20			ジョウビタキ									1	1.7%		
21		スズメ科	スズメ									6	10.2%		
22		セキレイ科	キセキレイ									1	1.7%		
23			ハクセキレイ									2	3.4%		
24		アトリ科	カワラヒワ					6	10.0%						
25			シメ									2	3.4%		
26		ホオジロ科	ホオジロ	2	7.4%	3	5.4%	2	3.3%					3	14.3%
27			アオジ	1	3.7%			2	3.3%	3	7.0%	3	5.1%		
28			クロジ					4	6.7%						
計	5目	18科	種数	12	100.0%	11	100.0%	12	100.0%	12	100.0%	16	100.0%	8	100.0%
			個体数	27		56		60		43		59		21	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-1(2)　ラインセンサス法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	L1 2024年2月26日 9:10～9:40		L2 2024年2月26日 9:10～9:54		L3 2024年2月27日 7:48～8:54		L4 2024年2月27日 9:50～10:35		L5 2024年2月28日 8:20～9:00		L6 2024年2月28日 8:10～9:11	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	2	10.5%					2	5.1%	2	4.3%		
2	ハト目	ハト科	キジバト							4	10.3%			2	10.0%
3	タカ目	タカ科	トビ	1	5.3%	1	7.1%			1	2.6%	3	6.4%		
4			ノスリ									1	2.1%		
5	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ									1	2.1%		
6	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					1	3.8%	2	5.1%			1	5.0%
7			アオゲラ					1	3.8%					2	10.0%
8	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ									3	6.4%		
9		モズ科	モズ			1	7.1%								
10		カラス科	ハシボソガラス							2	5.1%	4	8.5%		
11			ハシブトガラス	3	15.8%	2	14.3%	4	15.4%	2	5.1%			1	5.0%
12		シジュウカラ科	ヤマガラ					1	3.8%					4	20.0%
13			シジュウカラ					4	15.4%	4	10.3%	3	6.4%		
14		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	2	10.5%					1	2.6%	7	14.9%	1	5.0%
15		ウグイス科	ウグイス			1	7.1%	1	3.8%			2	4.3%	1	5.0%
16		エナガ科	エナガ					4	15.4%	2	5.1%				
17		チメドリ科	ガビチョウ	2	10.5%							3	6.4%		
18		メジロ科	メジロ			3	21.4%	3	11.5%	3	7.7%	3	6.4%	3	15.0%
19		ムクドリ科	ムクドリ									1	2.1%		
20		スズメ科	スズメ									7	14.9%		
21		セキレイ科	キセキレイ									1	2.1%		
22			ハクセキレイ							2	5.1%	2	4.3%		
23			ビンズイ							4	10.3%				
24		アトリ科	カワラヒワ	3	15.8%			3	11.5%						
25		ホオジロ科	ホオジロ	1	5.3%	2	14.3%			5	12.8%	2	4.3%	1	5.0%
26			アオジ	5	26.3%	4	28.6%	4	15.4%	5	12.8%	2	4.3%	2	10.0%
27			クロジ											2	10.0%
計	6目	19科	種数	8	100.0%	7	100.0%	10	100.0%	14	100.0%	17	100.0%	11	100.0%
			個体数	19		14		26		39		47		20	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-1(3)　ラインセンサス法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	L1 2024年4月8日 6:10～6:40		L2 2024年4月8日 8:45～9:13		L3 2024年4月8日 7:33～8:45		L4 2024年4月9日 10:10～11:50		L5 2024年4月8日 8:45～9:13		L6 2024年4月10日 5:23～6:27	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	2	3.8%	3	8.3%	2	2.0%	3	5.7%	1	2.9%	1	1.9%
2			キジ			1	2.8%			2	3.8%				
3	カモ目	カモ科	カルガモ											2	3.8%
4	ハト目	ハト科	キジバト					2	2.0%	1	1.9%				
5	タカ目	タカ科	トビ							4	7.5%				
6	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ									1	2.9%	1	1.9%
7	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					2	2.0%						
8			アカゲラ			1	2.8%	1	1.0%						
9			アオゲラ											1	1.9%
10	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ										0.0%	1	1.9%
11		カラス科	ハシボソガラス							12	22.6%	1	2.9%		
12			ハシブトガラス	3	5.7%			8	8.0%			2	5.9%	8	15.1%
13		シジュウカラ科	ヤマガラ					7	7.0%	1	1.9%			3	5.7%
14			シジュウカラ	1	1.9%	1	2.8%	3	3.0%	1	1.9%	4	11.8%	2	3.8%
15		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	11	20.8%	12	33.3%	28	28.0%	9	17.0%	5	14.7%	4	7.5%
16		ウグイス科	ウグイス	23	43.4%	3	8.3%	4	4.0%	8	15.1%	4	11.8%	5	9.4%
17			ヤブサメ											5	9.4%
18		エナガ科	エナガ					4	4.0%	3	5.7%			2	3.8%
19		チメドリ科	ガビチョウ	2	3.8%	2	5.6%	7	7.0%	1	1.9%	3	8.8%	8	15.1%
20			ソウシチョウ											1	1.9%
21		メジロ科	メジロ	4	7.5%	4	11.1%	12	12.0%	6	11.3%			2	3.8%
22		ヒタキ科	ツグミ			3	8.3%	2	2.0%						
23			キビタキ							1	1.9%				
24		スズメ科	スズメ									12	35.3%		
25		セキレイ科	ビンズイ					2	2.0%						
26		アトリ科	カワラヒワ					2	2.0%						
27			シメ			2	5.6%	1	1.0%						
28		ホオジロ科	ホオジロ	6	11.3%	3	8.3%	4	4.0%			1	2.9%	5	9.4%
29			カシラダカ											1	1.9%
30			アオジ	1	1.9%	1	2.8%	9	9.0%	1	1.9%			1	1.9%
計	7目	19科	種数	9	100.0%	12	100.0%	18	100.0%	14	100.0%	10	100.0%	18	100.0%
			個体数	53		36		100		53		34		53	

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）L4 の調査時間のうち、10:50～11:20 は P4 の定点観察を行った。

表 4.2-1(4)　ラインセンサス法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	L1 2024年5月8日 5:10～5:40		L2 2024年5月8日 5:03～5:25		L3 2024年5月9日 5:04～5:53		L4 2024年5月9日 9:55～11:05		L5 2024年5月10日 4:50～5:25		L6 2024年5月10日 5:03～5:49	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	5	7.6%	2	5.6%	1	3.6%			3	4.1%	4	7.5%
2			キジ	1	1.5%	1	2.8%			1	2.0%				
3	カモ目	カモ科	カルガモ											1	1.9%
4	ハト目	ハト科	キジバト	3	4.5%					3	6.0%	3	4.1%	3	5.7%
5	カツオドリ目	ウ科	カワウ	1	1.5%										
6	ペリカン目	サギ科	アオサギ	1	1.5%										
7	タカ目	タカ科	トビ							4	8.0%				
8	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ									1	1.4%		
9	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	2	3.0%							2	2.7%	1	1.9%
10			アカゲラ			1	2.8%								
11			アオゲラ	1	1.5%										
12	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス					1	3.6%	3	6.0%	2	2.7%		
13			ハシブトガラス	3	4.5%	8	22.2%	4	14.3%	1	2.0%	2	2.7%	2	3.8%
14		シジュウカラ科	ヤマガラ			1	2.8%	4	14.3%			1	1.4%	2	3.8%
15			シジュウカラ	6	9.1%	4	11.1%	2	7.1%	7	14.0%	5	6.8%	4	7.5%
16		ツバメ科	ツバメ							6	12.0%				
17		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	8	12.1%	1	2.8%			1	2.0%	6	8.2%	7	13.2%
18		ウグイス科	ウグイス	14	21.2%	5	13.9%	5	17.9%	11	22.0%	11	15.1%	7	13.2%
19			ヤブサメ					1	3.6%					1	1.9%
20		エナガ科	エナガ	1	1.5%					3	6.0%			1	1.9%
21		チメドリ科	ガビチョウ	9	13.6%	3	8.3%	1	3.6%	1	2.0%	5	6.8%	8	15.1%
22			ソウシチョウ					1	3.6%						
23		メジロ科	メジロ	6	9.1%	5	13.9%	2	7.1%	5	10.0%	3	4.1%	7	13.2%
24		ヒタキ科	アカハラ			1	2.8%	2	7.1%						
25			ツグミ					1	3.6%						
26			キビタキ											1	1.9%
27			オオルリ											2	3.8%
28		スズメ科	スズメ							1	2.0%	22	30.1%		
29		セキレイ科	キセキレイ									1	1.4%		
30			ハクセキレイ							1	2.0%	1	1.4%		
31		アトリ科	カワラヒワ					1	3.6%	1	2.0%	1	1.4%		
32		ホオジロ科	ホオジロ	5	7.6%	4	11.1%	2	7.1%	1	2.0%	4	5.5%	2	3.8%
計	9目	21科	種数	15	100.0%	12	100.0%	14	100.0%	16	100.0%	17	100.0%	16	100.0%
			個体数	66		36		28		50		73		53	

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）L4 の調査時間のうち、10:25～10:55 は P4 の定点観察を行った。

表 4.2-1(5)　ラインセンサス法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	L1 2024年7月1日 4:55～5:25		L2 2024年7月1日 4:46～5:05		L3 2024年7月2日 5:47～6:45		L4 2024年7月2日 9:30～10:47		L5 2024年7月2日 5:30～6:07		L6 2024年7月3日 5:05～6:25	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	3	5.8%	1	5.6%	2	3.5%	1	1.7%	1	1.3%	1	2.2%
2	カモ目	カモ科	カルガモ											2	4.4%
3	ハト目	ハト科	キジバト			1	5.6%	1	1.8%			3	3.9%	2	4.4%
4	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	1	1.9%			1	1.8%					2	4.4%
5	タカ目	タカ科	トビ							2	3.3%				
6	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					1	1.8%	5	8.3%	2	2.6%	1	2.2%
7			アカゲラ											1	2.2%
8	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	2	3.8%										
9			ハシブトガラス	1	1.9%	4	22.2%	1	1.8%	4	6.7%	5	6.5%	4	8.9%
10		シジュウカラ科	ヤマガラ					2	3.5%			10	13.0%		
11			シジュウカラ	3	5.8%	1	5.6%	3	5.3%	2	3.3%	8	10.4%	7	15.6%
12		ツバメ科	ツバメ							1	1.7%				
13		ヒヨドリ科	ヒヨドリ			2	11.1%	1	1.8%	1	1.7%	3	3.9%	4	8.9%
14		ウグイス科	ウグイス	12	23.1%	1	5.6%	6	10.5%	9	15.0%	10	13.0%	7	15.6%
15			ヤブサメ					1	1.8%						
16		チメドリ科	ガビチョウ	5	9.6%	2	11.1%	16	28.1%	4	6.7%	4	5.2%	3	6.7%
17		メジロ科	メジロ	5	9.6%	5	27.8%	18	31.6%	11	18.3%	13	16.9%	6	13.3%
18		セッカ科	セッカ	3	5.8%										
19		ムクドリ科	ムクドリ					2	3.5%						
20		ヒタキ科	キビタキ											1	2.2%
21			オオルリ											1	2.2%
22		スズメ科	スズメ	11	21.2%					10	16.7%	14	18.2%		
23		アトリ科	カワラヒワ	2	3.8%			1	1.8%	6	10.0%			1	2.2%
24		ホオジロ科	ホオジロ	4	7.7%	1	5.6%	1	1.8%	4	6.7%	4	5.2%	2	4.4%
計	7目	19科	種数	12	100.0%	9	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	12	100.0%	16	100.0%
			個体数	52		18		57		60		77		45	

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）L4 の調査時間のうち、10:05～10:35 は P4 の定点観察を行った。

注 3）L6 の調査時間のうち、5:30～6:00 は P6 の定点観察を行った。

表 4.2-1(6)　ラインセンサス法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	L1 2024年10月10日 6:00～6:25		L2 2024年10月10日 5:43～6:01		L3 2024年10月10日 7:12～8:16		L4 2024年10月10日 10:25～11:45		L5 2024年10月11日 9:35～10:12		L6 2024年10月11日 6:00～6:50	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ											4	5.2%
2	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)									4	5.4%		
3			キジバト	3	8.6%							2	2.7%	1	1.3%
4	ペリカン目	サギ科	アオサギ											1	1.3%
5	タカ目	タカ科	トビ	1	2.9%					3	8.6%	3	4.1%		
6			ノスリ									3	4.1%		
7	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	1	2.9%	2	6.1%	1	1.6%					2	2.6%
8			アオゲラ									1	1.4%	1	1.3%
9	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ											2	2.6%
10		モズ科	モズ									1	1.4%	1	1.3%
11		カラス科	ハシボソガラス							5	14.3%	2	2.7%		
12			ハシブトガラス	4	11.4%	2	6.1%	12	19.7%	12	34.3%	3	4.1%	4	5.2%
13		シジュウカラ科	ヤマガラ											7	9.1%
14			シジュウカラ			7	21.2%	4	6.6%					2	2.6%
15		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	7	20.0%	12	36.4%	18	29.5%	6	17.1%	22	29.7%	12	15.6%
16		ウグイス科	ウグイス					1	1.6%	1	2.9%			5	6.5%
17			ヤブサメ					1	1.6%						
18		エナガ科	エナガ			1	3.0%							6	7.8%
19		チメドリ科	ガビチョウ	4	11.4%	2	6.1%	2	3.3%	1	2.9%			4	5.2%
20		メジロ科	メジロ	5	14.3%	7	21.2%	20	32.8%	5	14.3%	11	14.9%	20	26.0%
21		ムクドリ科	ムクドリ									6	8.1%		
22		スズメ科	スズメ							1	2.9%	13	17.6%	4	5.2%
23		セキレイ科	ハクセキレイ							1	2.9%	1	1.4%		
24		ホオジロ科	ホオジロ	10	28.6%			2	3.3%			2	2.7%	1	1.3%
計	6目	18科	種数	8	100.0%	7	100.0%	9	100.0%	9	100.0%	14	100.0%	17	100.0%
			個体数	35		33		61		35		74		77	

注 1）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）L4 の調査時間のうち、10:50～11:20 は P4 の定点観察を行った。

表 4.2-2(1)　定点観察法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	P1 2024年1月26日 9:00～9:30		P2 2024年1月26日 9:40～10:10		P3 2024年1月25日 11:30～12:00		P4 2024年1月25日 11:10～11:40		P5 2024年1月24日 12:45～13:15		P6 2024年1月24日 12:10～12:40	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	2	9.5%			1	6.3%					1	5.6%
2	ハト目	ハト科	キジバト			1	5.6%			2	12.5%				
3	タカ目	タカ科	トビ	2	9.5%	1	5.6%			2	12.5%	1	4.3%	2	11.1%
4			ノスリ	1	4.8%							1	4.3%	1	5.6%
5	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ											1	5.6%
6			アオゲラ			1	5.6%								
7	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス							1	6.3%	2	8.7%		
8			ハシブトガラス	5	23.8%	2	11.1%	3	18.8%	2	12.5%	2	8.7%	2	11.1%
9		シジュウカラ科	ヤマガラ							1	6.3%				
10			シジュウカラ					2	12.5%						
11		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	6	28.6%	4	22.2%	3	18.8%	3	18.8%	5	21.7%	2	11.1%
12		ウグイス科	ウグイス			1	5.6%	1	6.3%			1	4.3%		
13		チメドリ科	ガビチョウ	1	4.8%							1	4.3%	1	5.6%
14		メジロ科	メジロ	4	19.0%	5	27.8%	6	37.5%	3	18.8%	3	13.0%	2	11.1%
15		ヒタキ科	ツグミ							1	6.3%	1	4.3%		
16			ジョウビタキ									1	4.3%		
17		セキレイ科	ハクセキレイ			1	5.6%			1	6.3%				
18		アトリ科	カワラヒワ									4	17.4%		
19			イカル											6	33.3%
20		ホオジロ科	ホオジロ			2	11.1%								
21			アオジ									1	4.3%		
計	5目	14科	種数	7	100.0%	9	100.0%	6	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	9	100.0%
			個体数	21		18		16		16		23		18	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-2(2)　定点観察法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	P1 2024年2月26日 9:45～10:15		P2 2024年2月26日 10:07～10:37		P3 2024年2月27日 11:50～12:20		P4 2024年2月27日 11:00～11:30		P5 2024年2月28日 9:50～10:20		P6 2024年2月28日 11:55～12:25	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1	14.3%							2	10.0%		
2	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)									3	15.0%		
3			キジバト					1	14.3%	3	25.0%				
4	タカ目	タカ科	トビ	1	14.3%	1	25.0%	1	14.3%	1	8.3%	1	5.0%	1	16.7%
5			ノスリ			1	25.0%					2	10.0%		
6	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ							1	8.3%				
7	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス							1	8.3%	2	10.0%		
8			ハシブトガラス	2	28.6%	2	50.0%			2	16.7%	1	5.0%	4	66.7%
9		シジュウカラ科	ヤマガラ							1	8.3%				
10			シジュウカラ					3	42.9%	2	16.7%				
11		ヒヨドリ科	ヒヨドリ									5	25.0%		
12		ウグイス科	ウグイス	1	14.3%										
13		チメドリ科	ガビチョウ											1	16.7%
14		メジロ科	メジロ					2	28.6%	1	8.3%	2	10.0%		
15		スズメ科	スズメ									2	10.0%		
16		ホオジロ科	アオジ	2	28.6%										
計	5目	12科	種数	5	100.0%	3	100.0%	4	100.0%	8	100.0%	9	100.0%	3	100.0%
			個体数	7		4		7		12		20		6	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-2(3)　定点観察法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	P1 2024年4月8日 6:45～7:15		P2 2024年4月8日 6:42～7:12		P3 2024年4月8日 9:15～9:45		P4 2024年4月9日 10:50～11:20		P5 2024年4月8日 9:37～10:07		P6 2024年4月10日 9:25～9:55	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	3	9.1%	1	5.6%					1	1.6%		
2			キジ	1	3.0%	1	5.6%								
3	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)									2	3.3%		
4			キジバト							1	4.5%				
5	タカ目	タカ科	トビ							1	4.5%	1	1.6%	3	8.8%
6	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					1	5.6%						
7	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ					3	16.7%					1	2.9%
8		カラス科	ハシボソガラス							2	9.1%	6	9.8%	4	11.8%
9			ハシブトガラス	4	12.1%	2	11.1%			1	4.5%	5	8.2%	6	17.6%
10		シジュウカラ科	ヤマガラ					3	16.7%	1	4.5%				
11			シジュウカラ			1	5.6%	1	5.6%	3	13.6%			2	5.9%
12		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	2	6.1%	4	22.2%	2	11.1%	1	4.5%	20	32.8%	2	5.9%
13		ウグイス科	ウグイス	10	30.3%	1	5.6%	4	22.2%	1	4.5%	3	4.9%	4	11.8%
14		エナガ科	エナガ			2	11.1%			4	18.2%				
15		チメドリ科	ガビチョウ	2	6.1%	2	11.1%			1	4.5%	2	3.3%		
16		メジロ科	メジロ	3	9.1%	2	11.1%	3	16.7%	3	13.6%			10	29.4%
17		ヒタキ科	ツグミ			2	11.1%								
18		スズメ科	スズメ	3	9.1%							20	32.8%		
19		アトリ科	カワラヒワ					1	5.6%	3	13.6%				
20			マヒワ									1	1.6%		
21		ホオジロ科	ホオジロ											2	5.9%
22			アオジ	5	15.2%										
計	5目	16科	種数	9	100.0%	10	100.0%	8	100.0%	12	100.0%	10	100.0%	9	100.0%
			個体数	33		18		18		22		61		34	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-2(4)　定点観察法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	P1 2024年5月8日 5:45～6:15		P2 2024年5月8日 5:45～6:15		P3 2024年5月9日 6:23～6:53		P4 2024年5月9日 10:25～10:55		P5 2024年5月10日 6:05～6:35		P6 2024年5月10日 8:40～9:10	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	4	10.8%	3	11.1%	1	16.7%			2	8.7%	1	4.2%
2			キジ	1	2.7%	1	3.7%			1	3.8%				
3	ハト目	ハト科	キジバト	1											
4	ペリカン目	サギ科	アオサギ	3	8.1%	3	11.1%								
5	タカ目	タカ科	トビ	1	2.7%									4	16.7%
6	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ			3	11.1%			1	3.8%				
7			アカゲラ											1	4.2%
8			アオゲラ	1	2.7%							1	4.3%		
9	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ							2	7.7%				
10			リュウキュウサンショウクイ					1	16.7%						
11		カラス科	ハシボソガラス	1	2.7%					2	7.7%				
12			ハシブトガラス	2	5.4%	2	7.4%					1	4.3%	2	8.3%
13		シジュウカラ科	ヤマガラ	1	2.7%										
14			シジュウカラ	2	5.4%			1	16.7%	4	15.4%			1	4.2%
15		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	3	8.1%	4	14.8%			1	3.8%			3	12.5%
16		ウグイス科	ウグイス	6	16.2%	3	11.1%	2	33.3%	1	3.8%	3	13.0%	2	8.3%
17			ヤブサメ	1	2.7%										
18		エナガ科	エナガ	3	8.1%					2	7.7%			2	8.3%
19		チメドリ科	ガビチョウ	5	13.5%	2	7.4%	1	16.7%	1	3.8%	2	8.7%	1	4.2%
20		メジロ科	メジロ	2	5.4%	4	14.8%					3	13.0%	5	20.8%
21		ヒタキ科	キビタキ									1	4.3%	1	4.2%
22		スズメ科	スズメ									6	26.1%		
23		セキレイ科	ハクセキレイ							2	7.7%				
24		アトリ科	カワラヒワ							8	30.8%			1	4.2%
25		ホオジロ科	ホオジロ			2	7.4%			1	3.8%	4	17.4%		
計	6目	18科	種数	16	100.0%	10	100.0%	5	100.0%	12	100.0%	9	100.0%	12	100.0%
			個体数	37		27		6		26		23		24	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-2(5)　定点観察法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	P1 2024年7月1日 5:35～6:05		P2 2024年7月1日 5:22～5:52		P3 2024年7月2日 7:20～7:50		P4 2024年7月2日 10:05～10:35		P5 2024年7月2日 7:05～7:35		P6 2024年7月3日 5:30～6:00	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1	5.9%					1	3.0%	2	4.8%	1	4.8%
2			キジ							1	3.0%				
3	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)									2	4.8%		
4			キジバト									1	2.4%		
5	ペリカン目	サギ科	アオサギ			1	7.1%								
6	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス			1	7.1%	1	5.9%			1	2.4%	1	4.8%
7	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ			1	7.1%								
8		タカ科	トビ							6	18.2%				
9	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					2	11.8%	2	6.1%	2	4.8%		
10			アカゲラ											1	4.8%
11	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	1	5.9%					2	6.1%				
12			ハシブトガラス	1	5.9%	2	14.3%	2	11.8%	1	3.0%	2	4.8%	2	9.5%
13		シジュウカラ科	ヤマガラ							1	3.0%	2	4.8%		
14			シジュウカラ	2	11.8%			4	23.5%	2	6.1%	3	7.1%	4	19.0%
15		ツバメ科	ツバメ									4	9.5%		
16		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	1	5.9%					2	6.1%	3	7.1%	2	9.5%
17		ウグイス科	ウグイス	4	23.5%	3	21.4%	2	11.8%	6	18.2%	6	14.3%	3	14.3%
18		チメドリ科	ガビチョウ	2	11.8%	2	14.3%	2	11.8%	1	3.0%	4	9.5%	3	14.3%
19		メジロ科	メジロ	3	17.6%	2	14.3%	3	17.6%	4	12.1%	4	9.5%	4	19.0%
20		スズメ科	スズメ									6	14.3%		
21		アトリ科	カワラヒワ							4	12.1%				
22		ホオジロ科	ホオジロ	2	11.8%	2	14.3%	1	5.9%						
計	7目	17科	種数	9	100.0%	8	100.0%	8	100.0%	13	100.0%	14	100.0%	9	100.0%
			個体数	17		14		17		33		42		21	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.2-2(6)　定点観察法調査結果

No.	目　名	科　名	種　名	P1 2024年10月10日 6:35～6:45		P2 2024年10月10日 6:15～6:45		P3 2024年10月10日 8:46～9:16		P4 2024年10月10日 10:50～11:20		P5 2024年10月11日 11:25～11:55		P6 2024年10月11日 7:40～8:10	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1	5.0%	1	3.7%					1	8.0%		
2	ハト目	ハト科	キジバト					1	12.5%			2	8.0%	2	7.1%
3	タカ目	タカ科	トビ							1	4.5%	2	8.0%	1	3.6%
4			オオタカ											1	3.6%
5	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	1	5.0%									1	3.6%
6			アオゲラ			1	3.7%								
7	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ					1	12.5%	1	4.5%				
8	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ											1	3.6%
9		モズ科	モズ			1	3.7%					1	8.0%	1	3.6%
10		カラス科	ハシボソガラス			1	3.7%			3	13.6%	3	12.0%		
11			ハシブトガラス	1	5.0%	2	7.4%	4	50.0%	12	54.5%	6	24.0%	3	10.7%
12		シジュウカラ科	ヤマガラ	2	10.0%	3	11.1%								
13			シジュウカラ	3	15.0%										
14		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	5	25.0%	6	22.2%			2	9.1%	6	8.0%	7	25.0%
15		ウグイス科	ウグイス	1	5.0%									1	3.6%
16		チメドリ科	ガビチョウ											2	7.1%
17		メジロ科	メジロ	6	30.0%	8	29.6%	2	25.0%	2	9.1%			8	28.6%
18		スズメ科	スズメ									2	8.0%		
19		セキレイ科	ハクセキレイ			3	11.1%			1	4.5%				
20		ホオジロ科	ホオジロ			1	3.7%					2	8.0%		
計	6目	16科	種数	8	100.0%	10	100.0%	4	100.0%	7	100.0%	9	100.0%	11	100.0%
			個体数	20		27		8		22		25		28	

注）種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

(3) 昆虫類調査結果

既存資料により確認された昆虫類を表 4.3-1(1)～(64)に、現地調査のライトトラップ法により確認された昆虫類を表 4.3-2(1)～(2)に、ベイトトラップ法で確認された昆虫類を表 4.3-3(1)～(3)に示す。

表 4.3-1(1)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1	トビムシ目（粘管目）	ヒメトビムシ科	キノボリヒラタトビムシ	*Xenylla brevispina*				
2		イボトビムシ科	オオアオイボトビムシ	*Morulina gigantea*				
3			Pseudachorutes longisetis	*Pseudachorutes longisetis*				
4		アヤトビムシ科	ザウテルアヤトビムシ	*Homidia sauteri*				
5			ミヤコアヤトビムシ	*Entomobrya pulcherrima*				
6			ヨリメシロアヤトビムシ	*Sinella subquadrioculata*				
7			Willowsia japonica	*Willowsia japonica*				
8		ツチトビムシ科	ウチノミイソツチトビムシ	*Archisotoma utinomii*				
9			ホソゲツチトビムシ	*Desoria gracilliseta*				
10			マキゲトビムシ	*Desoria sensibilis*				
11			ベソッカキトビムシ	*Folsomia octoculata*				
12			フタツメフォルソムトビムシ	*Folsomia quadrioculata*				
13			コガタドウナガツチトビムシ	*Folsomides parvulus*				
14			コドウナガツチトビムシ	*Folsomides pusillus*				
15		ムラサキトビムシ科	アミメムラサキトビムシ	*Hypogastrura reticulata*				
16			ニッポンシロトビム	*Paronychiurus japonicus*				
17			ウシオヒラタトビムシ	*Xenylla litoralis*				
18		キヌトビムシ科	カギキヌトビムシ	*Harlomillsia oculata*				
19		ハゴロモトビムシ科	ヒメカギヅメハゴロモトビムシ	*Pseudosinella tridentifera*				
20		トゲトビムシ科	クロヒゲトゲトビムシ	*Tomocerus (Tomocerus) violaceus*				
21		ミジントビムシ科	ケシトビムシ	*Megalothorax minimus*				
22		マルトビムシ科	オニマルトビムシ	*Sphyrotheca multifasciata*				
23	カマアシムシ目	カマアシムシ科	アサヒカマアシムシ	*Eosentomon asahi*				
24			オオカマアシムシ	*Eosentomon asakawaense*				
25			クメカマアシムシ	*Eosentomon kumei*				
26			カマアシムシ	*Eosentomon sakura*				
27			クロシオカマアシムシ	*Eosentomon tokiokai*				
28			ウダガワカマアシムシ	*Eosentomon udagawai*				
29			サトカマアシムシ	*Paranisentomon tuxeni*				
30		クシカマアシムシ科	モリカワカマアシムシ	*Baculentulus morikawai*				
31			トサカマアシムシ	*Baculentulus tosanus*				
32			タカナワカマアシムシ	*Filientomon takanawanum*				
33			フタフシカマアシムシ	*Kenyentulus japonicus*				
34			ヨシイムシ	*Nipponentomon nippon*				
35			ウエノカマアシムシ	*Nipponentomon uenoi paucisetosum*				
36			ヤマトカマアシムシ	*Yamatentomon yamato*				
37	イシノミ目（古顎目）	イシノミ科	オカジマイシノミ	*Pedetontus okajimae*				
38		シミ科	セスジシミ	*Ctenolepisma lineata pilifera*				
39	カゲロウ目（蜉蝣目）	トビイロカゲロウ科	ウェストントビイロカゲロウ	*Paraleptophlebia westoni*				
－			トビイロカゲロウ属	*Paraleptophlebia* sp.				
40			ウスグロトゲエラカゲロウ	*Thraulus fatuus*				
41		カワカゲロウ科	カワカゲロウ科	Potamanthidae				
42		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	*Ephemera japonica*				
－			モンカゲロウ属	*Ephemera* sp.				
43		ヒメシロカゲロウ科	ヒメシロカゲロウ属	*Caenis* sp.				
44		マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ	*Cincticostella elongatula*				
45			ヨシノマダラカゲロウ	*Drunella ishiyamana*				
46			シリナガマダラカゲロウ	*Ephacerella longicaudata*				
－			マダラカゲロウ属	*Ephemerella* sp.				
47			アカマダラカゲロウ	*Teloganopsis punctisetae*				
48		ヒメフタオカゲロウ科	マエグロヒメフタオカゲロウ	*Ameletus costalis*				
49			ヒメフタオカゲロウ	*Ameletus montanus montanus*				
－			ヒメフタオカゲロウ属	*Ameletus* sp.				
50		コカゲロウ科	ミジカオフタバコカゲロウ	*Acentrella sibirica*				
51			ヨシノコカゲロウ	*Alainites yoshinensis*				
52			サホコカゲロウ	*Baetis sahoensis*				
53			フタモンコカゲロウ	*Baetis taiwanensis*				
54			シロハラコカゲロウ	*Baetis thermicus*				
－			コカゲロウ属	*Baetis* sp.				
55			フタバカゲロウ	*Cloeon dipterum*				
56			タマリフタバカゲロウ	*Cloeon ryogokuense*				
－			フタバカゲロウ属	*Cloeon* sp.				
57			ウスイロフトヒゲコカゲロウ	*Labiobaetis atrebatinus orientalis*				
58			ヒメウスバコカゲロウ属	*Procloeon* sp.				
59			ウデマガリコカゲロウ	*Tenuibaetis flexifemora*				

表 4.3-1(2)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
－	カゲロウ目（蜉蝣目）	コカゲロウ科	コカゲロウ科	Baetidae				
60		フタオカゲロウ科	オオフタオカゲロウ	*Siphlonurus binotatus*				
－			フタオカゲロウ属	*Siphlonurus* sp.				
61		チラカゲロウ科	チラカゲロウ	*Isonychia valida*				
62		ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	*Ecdyonurus yoshidae*				
－			タニガワカゲロウ属	*Ecdyonurus* sp.				
63			ナミヒラタカゲロウ	*Epeorus ikanonis*				
－			ヒラタカゲロウ科	Heptageniidae				
64	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ	*Indolestes peregrinus*				要注意
65			アオイトトンボ	*Lestes sponsa*				
66			オオアオイトトンボ	*Lestes temporalis*				
67			オツネントンボ	*Sympecma paedisca*				VU
68		イトトンボ科	ホソミイトトンボ	*Aciagrion migratum*				DD
69			キイトトンボ	*Ceriagrion melanurum*				EN
70			ベニイトトンボ	*Ceriagrion nipponicum*			NT	CR
71			アジアイトトンボ	*Ischnura asiatica*				
72			アオモンイトトンボ	*Ischnura senegalensis*				
73			クロイトトンボ	*Paracercion calamorum calamorum*				要注意
74			セスジイトトンボ	*Paracercion hieroglyphicum*				要注意
75			ムスジイトトンボ	*Paracercion melanotum*				
76			オオイトトンボ	*Paracercion sieboldii*				CR
77		モノサシトンボ科	モノサシトンボ	*Copera annulata*				NT
78		カワトンボ科	ハグロトンボ	*Atrocalopteryx atrata*				要注意
79			アオハダトンボ	*Calopteryx japonica*			NT	VU
80			ニホンカワトンボ	*Mnais costalis*				NT
81			アサヒナカワトンボ	*Mnais pruinosa*				
82		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*			NT	CR
83			マルタンヤンマ	*Anaciaeschna martini*				
84			オオギンヤンマ	*Anax guttatus*				
85			クロスジギンヤンマ	*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*				
86			ギンヤンマ	*Anax parthenope julius*				
87			コシボソヤンマ	*Boyeria maclachlani*				要注意
88			カトリヤンマ	*Gynacantha japonica*				NT
89			ヒメギンヤンマ	*Hemianax ephippiger*				
90			ミルンヤンマ	*Planaeschna milnei milnei*				要注意
91			ヤブヤンマ	*Polycanthagyna melanictera*				
92			サラサヤンマ	*Sarasaeschna pryeri*				EN
－			ヤンマ科	Aeschnidae				
93		サナエトンボ科	ヤマサナエ	*Asiagomphus melaenops*				要注意
94			キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*			NT	CR
95			ダビドサナエ	*Davidius nanus*				
96			タイワンウチワヤンマ	*Ictinogomphus pertinax*				DD
97			ヒメクロサナエ	*Lanthus fujiacus*				
98			ホンサナエ	*Shaogomphus postocularis*				VU
99			コオニヤンマ	*Sieboldius albardae*				
100			ウチワヤンマ	*Sinictinogomphus clavatus*				
101			コサナエ	*Trigomphus melampus*				EN
－			サナエトンボ科	Gomphidae				
102		オニヤンマ科	オニヤンマ	*Anotogaster sieboldii*				
103		エゾトンボ科	オオヤマトンボ	*Epophthalmia elegans*				
104			コヤマトンボ	*Macromia amphigena amphigena*				NT
105			ハネビロエゾトンボ	*Somatochlora clavata*			VU	EX
106			タカネトンボ	*Somatochlora uchidai*				要注意
107		トンボ科	ショウジョウトンボ	*Crocothemis servilia mariannae*				
108			コフキトンボ	*Deielia phaon*				要注意
109			ヨツボシトンボ	*Libellula quadrimaculata asahinai*				VU
110			ハラビロトンボ	*Lyriothemis pachygastra*				要注意
111			シオカラトンボ	*Orthetrum albistylum speciosum*				
112			シオヤトンボ	*Orthetrum japonicum*				要注意
113			オオシオカラトンボ	*Orthetrum melania melania*				
114			ウスバキトンボ	*Pantala flavescens*				
115			コシアキトンボ	*Pseudothemis zonata*				
116			チョウトンボ	*Rhyothemis fuliginosa*				EN
117			ナツアカネ	*Sympetrum darwinianum*				要注意
118			マユタテアカネ	*Sympetrum eroticum eroticum*				要注意
119			アキアカネ	*Sympetrum frequens*				
120			ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*				
121			マイコアカネ	*Sympetrum kunckeli*				DD
122			ヒメアカネ	*Sympetrum parvulum*				要注意
123			ミヤマアカネ	*Sympetrum pedemontanum elatum*				NT

表 4.3-1(3)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
124	トンボ目（蜻蛉目）	トンボ科	リスアカネ	*Sympetrum risi risi*				要注意
125			ネキトンボ	*Sympetrum speciosum speciosum*				
126			アメイロトンボ	*Tholymis tillarga*				
127			ハネビロトンボ	*Tramea virginia*				
－			トンボ科	Libellulidae				
128	ゴキブリ目（網翅目）	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	*Blattella nipponica*				
129			キスジゴキブリ	*Symploce striata striata*				
130			ウスヒラタゴキブリ	*Onychostylus pallidiolus*				
131		マダラゴキブリ科	サツマゴキブリ	*Opisthoplatia orientalis*				
132	カマキリ目（螳螂目）	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ	*Acromantis japonica*				
133		カマキリ科	ヒナカマキリ	*Amantis nawai*				
134			ハラビロカマキリ	*Hierodula patellifera*				
135			コカマキリ	*Statilia maculata*				
136			チョウセンカマキリ	*Tenodera angustipennis*				
137			オオカマキリ	*Tenodera sinensis*				
138	シロアリ目（等翅目）	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ名義タイプ亜種	*Reticulitermes speratus speratus*				
139		レイビシロアリ科	アメリカカンザイシロアリ	*Incisitermes minor*				
140	ハサミムシ目（革翅目）	マルムネハサミムシ科	キアシハサミムシ	*Euborellia plebeja*				
141		オオハサミムシ科	オオハサミムシ	*Labidura riparia*				
142	カワゲラ目（セキ翅目）	クロカワゲラ科	クロカワゲラ科	Capniidae				
143		ホソカワゲラ科	モンホソカワゲラ	*Paraleuctra cercia*				
144		オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属	*Amphinemura* sp.				
145			アサカワオナシカワゲラ	*Nemoura longicercia*				
146			イワミスジオナシカワゲラ	*Nemoura trivittata Shimizu*				
－			オナシカワゲラ属	*Nemoura* sp.				
147		カワゲラ科	ヤマトフタツメカワゲラ	*Neoperla niponensis*				
－			フタツメカワゲラ属	*Neoperl*a sp.				
148			オオヤマカワゲラ	*Oyamia lugubris*				
149	バッタ目（直翅目）	コロギス科	ハネナシコロギス	*Nippancistroger testaceus*				
150			コロギス	*Prosopogryllacris japonica*				
151		カマドウマ科	クラズミウマ	*Diestrammena asynamora*				
152			マダラカマドウマ	*Diestrammena japonica*				
153		クツワムシ科	クツワムシ	*Mecopoda niponensis*				要注意
154		ツユムシ科	セスジツユムシ	*Ducetia japonica*				
155			サトクダマキモドキ	*Holochlora japonica*				
156			ヤマクダマキモドキ	*Holochlora longifissa*				
157			エゾツユムシ	*Kuwayamaea sapporensis*				
158			ツユムシ	*Phaneroptera falcata*				
159			アシグロツユムシ	*Phaneroptera nigroantennata*				
160			ヒメクダマキモドキ	*Phaulula macilenta*				
161		キリギリス科	コバネヒメギス	*Chizuella bonneti*				
162			ウスイロササキリ	*Conocephalus chinensis*				
163			オナガササキリ	*Conocephalus exemptus*				要注意
164			コバネササキリ	*Conocephalus japonicus*				
165			ホシササキリ	*Conocephalus maculatus*				
166			クロスジコバネササキリモドキ	*Cosmetura ficifolia*				
167			ヒメギス	*Eobiana engelhardti subtropica*				
168			クビキリギス	*Euconocephalus varius*				
169			ヒガシキリギリス	*Gampsocleis mikado*				要注意
170			ハヤシノウマオイ	*Hexacentrus hareyamai*				
171			ササキリモドキ	*Kuzicus suzukii*				希少
172			ヒサゴクサキリ	*Palaeoagraecia lutea*				
173			カヤキリ	*Pseudorhynchus japonicus*				
174			クサキリ	*Ruspolia lineosa*				
175			ヤブキリ	*Tettigonia orientalis*				
176			シブイロカヤキリ	*Xestophrys javanicus*				
177		ケラ科	ケラ	*Gryllotalpa orientalis*				要注意
178		マツムシ科	クチキコオロギ	*Duolandrevus ivani*				
179			スズムシ	*Meloimorpha japonica*				要注意
180			ヒロバネカンタン	*Oecanthus euryelytra*				NT
181			カンタン	*Oecanthus longicauda*				
182			アオマツムシ	*Truljalia hibinonis*				
183			マツムシ	*Xenogryllus marmoratus marmoratus*				要注意
184		コオロギ科	ハラオカメコオロギ	*Loxoblemmus campestris*				
185			ミツカドコオロギ	*Loxoblemmus doenitzi*				
186			モリオカメコオロギ	*Loxoblemmus sylvestris*				
187			クマコオロギ	*Mitius minor*				
188			タンボコオロギ	*Modicogryllus siamensis*				
189			クマスズムシ	*Sclerogryllus puctatus*				
190			エンマコオロギ	*Teleogryllus emma*				

表 4.3-1(4)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
191	バッタ目（直翅目）	コオロギ科	ツヅレサセコオロギ	*Velarifictorus micado*				
192		カネタタキ科	アシジマカネタタキ	*Ectatoderus tamna*				CR+EN
193			イソカネタタキ	*Ornebius bimaculatus*				NT
194			カネタタキ	*Ornebius kanetataki*				
195		ヒバリモドキ科	ウスグモスズ	*Amusurgus genji*				
196			ウミコオロギ	*Caconemobius sazanami*				VU
197			ウスモンウミコオロギ	*Caconemobius takarai*				CR+EN
198			ハマスズ	*Dianemobius csikii*				
199			マダラスズ	*Dianemobius nigrofasciatus*				
200			ヤマトヒバリ	*Homoeoxipha obliterata*				
201			キンヒバリ	*Natula matsuurai*				
202			カヤヒバリ	*Natula pallidula*				
203			ヒゲシロスズ	*Polionemobius flavoantennalis*				
204			シバスズ	*Polionemobius mikado*				
205			ヒメスズ	*Pteronemobius nigrescens*				希少
206			ヤチスズ	*Pteronemobius ohmachii*				
207			クサヒバリ	*Svistella bifasciata*				
208			キアシヒバリモドキ	*Trigonidium japonicum*				
209		バッタ科	ショウリョウバッタ	*Acrida cinerea*				
210			マダラバッタ	*Aiolopus thalassinus tamulus*				
211			カワラバッタ	*Eusphingonotus japonicus*				CR+EN
212			クルマバッタ	*Gastrimargus marmoratus*				
213			ヒナバッタ	*Glyptobothrus maritimus maritimus*				
214			ショウリョウバッタモドキ	*Gonista bicolor*				要注意
215			トノサマバッタ	*Locusta migratoria*				
216			イナゴモドキ	*Mecostethus parapleurus*				NT
217			ナキイナゴ	*Mongolotettix japonicus*				
218			クルマバッタモドキ	*Oedaleus infernalis*				
219			ツマグロバッタ	*Stethophyma magister*				NT
220			イボバッタ	*Trilophidia japonica*				
221		イナゴ科	コバネイナゴ	*Oxya yezoensis*				
222			メスアカフキバッタ	*Parapodisma tenryuensis*				
223			ヤマトフキバッタ	*Parapodisma setouchiensis*				
224			ツチイナゴ	*Patanga japonica*				
225		オンブバッタ科	オンブバッタ	*Atractomorpha lata*				
226		ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ	*Criotettix japonicus*				
227			コバネヒシバッタ	*Formosatettix larvatus*				
228			ハラヒシバッタ	*Tetrix japonica*				
229		ノミバッタ科	ノミバッタ	*Xya japonica*				
230	ナナフシ目（竹節虫目）	ナナフシ科	ニホントビナナフシ	*Micadina phluctainoides*				
231			トゲナナフシ	*Neohirasea japonica*				
232			エダナナフシ	*Phraortes elongatus*				
233			ナナフシモドキ	*Ramulus mikado*				
234			タイワントビナナフシ	*Sipyloidea sipylus*				
235	カジリムシ目（咀顎目）	フトゲシラミ科	アカネズミジラミ	*Hoplopleura akanezumi*				
236		ホソゲシラミ科	Neohaematopinus callosciuri	*Neohaematopinus callosciuri*				
237			ハツカネズミジラミ	*Polyplax serrata*				
238	カメムシ目（半翅目）	コガシラウンカ科	ウチワコガシラウンカ	*Catanidia sobrina*				
239		ヒシウンカ科	オビカワウンカ	*Andes harimaensis*				
240			イボタヒシウンカ	*Kuvera ligustri*				
241			オオヒシウンカ	*Oliarus subnubilus*				
242		ウンカ科	クロモンヒラアシウンカ	*Cemus sauteri*				
243			ハコネホソウンカ	*Sogata hakonensis*				
244			セジロウンカ	*Sogatella furcifera*				
245			セジロウンカモドキ	*Sogatella kolophon*				
246			シロウズウンカ	*Toya propinqua*				
247			シダスケバモドキ	*Ugyops vittatus*				
248		ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ	*Diostrombus politus*				
249			アヤヘリハネナガウンカ	*Losbanosia hibarensis*				
250			キスジハネビロウンカ	*Rhotana satsumana*				
251			アカメガシワハネビロウンカ	*Vekunta malloti*				
252		テングスケバ科	テングスケバ	*Dictyophara patruelis*				
253			ツマグロスケバ	*Orthopagus lunulifer*				
254		アオバハゴロモ科	キノカワハゴロモ	*Atracis formosana*				
255			アオバハゴロモ	*Geisha distinctissima*				
256			トビイロハゴロモ	*Mimophantia maritima*				
257		マルウンカ科	マルウンカ	*Gnezdilovius variabilis*				
258		ハゴロモ科	スケバハゴロモ	*Euricania fascialis*				
259			ベッコウハゴロモ	*Orosanga japonicus*				
260			アミガサハゴロモ	*Pochazia albomaculata*				

表 4.3-1(5)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
261	カメムシ目（半翅目）	グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ	*Kallitaxila sinica*				
262			ヒラタグンバイウンカ	*Ossoides lineatus*				
263		セミ科	クマゼミ	*Cryptotympana facialis*				
264			アブラゼミ	*Graptopsaltria nigrofuscata*				
265			ミンミンゼミ	*Hyalessa maculaticollis*				
266			ツクツクボウシ	*Meimuna opalifera*				
267			ニイニイゼミ	*Platypleura kaempferi*				
268			ヒグラシ	*Tanna japonensis*				
269			ハルゼミ	*Terpnosia vacua*				要注意
270		ツノゼミ科	トビイロツノゼミ	*Machaerotypus sibiricus*				
271		アワフキムシ科	マツアワフキ	*Aphrophora flavipes*				
272			シロオビアワフキ	*Aphrophora intermedia*				
273			モンキアワフキ	*Aphrophora major*				
274			ハマベアワフキ	*Aphrophora maritima*				
275			ヒメシロオビアワフキ	*Aphrophora obliqua*				
276			ヒメモンキアワフキ	*Aphrophora rugosa*				
277			ホシアワフキ	*Aphrophora stictica*				
278			クロスジアワフキ	*Aphrophora vittata*				
279		コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ	*Eoscarta assimilis*				
280		トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ	*Hindoloides bipunctata*				
281		ヨコバイ科	フタテンヒメヨコバイ	*Arboridia apicalis*				
282			ミドリカスリヨコバイ	*Balclutha incisa*				
283			アオミャクミドリヨコバイ	*Balclutha viridinervis*				
284			ヒメアオズキンヨコバイ	*Batracomorphus diminutus*				
285			ツマグロオオヨコバイ	*Bothrogonia ferruginea*				
286			オオヨコバイ	*Cicadella viridis*				
287			ヨツモンコヒメヨコバイ	*Empoascanara limbata*				
288			クロミャクイチモンジヨコバイ	*Exitianus indicus*				
289			クスサジヨコバイ	*Favintiga camphorae*				
290			フクロクヨコバイ	*Glossocratus fukuroki*			NT	
291			ヒトツメヒメヨコバイ	*Ishiharella polyphemus*				
292			シダヨコバイ	*Japanagallia pteridis*				
293			マエジロオオヨコバイ	*Kolla atramentaria*				
294			ミミズク	*Ledra auditura*				
295			コミミズク	*Ledropsis discolor*				
296			チャイロヨコバイ	*Matsumurella praesul*				
297			オビヒメヨコバイ	*Naratettix zonatus*				
298			シロズオオヨコバイ	*Oniella honesta*				
299			クワキヨコバイ	*Pagaronia guttigera*				
300			ホシサジヨコバイ	*Parabolopona guttata*				
301			シロミャクイチモンジヨコバイ	*Paramesodes albinervosus*				
302			クルミヒロズヨコバイ	*Pediopsoides kogotensis*				
303			クロヒラタヨコバイ	*Penthimia nitida*				
304			クロサジヨコバイ	*Planaphrodes nigricans*				
305			マダラヨコバイ	*Psammotettix striatus*				
306			クロスジホソサジヨコバイ	*Sophonia orientalis*				
307			イネヒラタヨコバイ	*Stroggylocephalus agrestis*				
308			Takagiella tezuyae	*Takagiella tezuyae*				
309			イグチホシヨコバイ	*Xestocephalus iguchii*				
310		キジラミ科	ヤマトキジラミ	*Accizia jamatonica*				
311			ヒゲナガヤマトキジラミ	*Accizia sasakii*				
312			クワキジラミ	*Anomoneura mori*				
313			オビキジラミ	*Aphalara fasciata*				
314			イタドリマダラキジラミ	*Aphalara itadori*				
315			モントベラキジラミ	*Cacopsylla bibari*				
316			ヒメグミキジラミ	*Cacopsylla elaeagnicola*				
317			ツクシキジラミ	*Cacopsylla kiushuensis*				
318			ミズキクロスジキジラミ	*Cacopsylla nopeunsanicola*				
319			ヒトスジヒゲブトキジラミ	*Caenohomotoma unifasciata*				
320			セグロヒメキジラミ	*Calophya nigridorsalis*				
321			ムツボシキジラミ	*Cyamophila hexastigma*				
322			オオトガリキジラミ	*Epitrioza mizuhonica*				
323			タブトガリキジラミ	*Heterotrioza machilicola*				
324			センダンコクロキジラミ	*Metapsylla uei*				
325			ベニキジラミ	*Psylla coccinea*				
326			ヤツデキジラミ	*Psylla fatsiae*				
327			イナズマキジラミ	*Psylla fulguraris*				
328			ハコネキジラミ	*Psylla hakonensis*				
329			ブチミャクキジラミ	*Psylla multipunctata*				
330			サツマキジラミ	*Psylla satsumensis*				

表 4.3-1(6)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
331	カメムシ目（半翅目）	キジラミ科	トベラキジラミ	*Psylla tobirae*				
332			クマヤナギトガリキジラミ	*Trioza berchemiae*				
333			エノキトガリキジラミ	*Trioza brevifrons*				
334			クストガリキジラミ	*Trioza camphorae*				
335			ニッケイトガリキジラミ	*Trioza cinnamoni*				
336			クロトガリキジラミ	*Trioza nigra*				
337			ムクノキトガリキジラミ	*Trioza usubai*				
338		アブラムシ科	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	*Acyrthosiphon solani*				
339			Aphis (Aphis) clerodendri clerodendri	*Aphis (Aphis) clerodendri clerodendri*				
340			Aphis (Aphis) forbesi	*Aphis (Aphis) forbesi*				
341			マメアブラムシ	*Aphis craccivora craccivora*				
342			キョウチクトウアブラムシ	*Aphis nerii*				
343			アザミクギケアブラムシ	*Capitophorus cirsiiphagus*				
344			ノアザミヤマクギケアブラムシ	*Capitophorus montanus*				
345			マテバシイケクダアブラムシ	*Eutrichosiphum heterotrichum*				
346			タッタカケクダアブラムシ	*Eutrichosiphum tattakanum*				
347			Greenidea (Trichosiphum) myricae	*Greenidea (Trichosiphum) myricae*				
348			オカジマケクダアブラムシ	*Greenidea (Trichosiphum) okajimai*				
349			ニホンケクダアブラムシ	*Greenidea nipponica*				
350			ノゲシフクレアブラムシ	*Hyperomyzus carduellinus*				
351			Hyperomyzus lactucae	*Hyperomyzus lactucae*				
352			ヘクソカズラノヒゲナガアブラムシ	*Pseudomegoura nipponicum*				
353			ヒエツノアブラムシ	*Pseudoregma panicola*				
354			ナシアブラムシ	*Ryoichitakahashia piricola*				
355			ヤノクチナガオオアブラムシ	*Stomaphis yanonis*				
356			イソスゲトビアブラムシ	*Thripsaphis (Thripsaphis) caespitosae*				
357			ハゼアブラムシ	*Toxoptera odinae*				
358			スイカズラヒゲナガアブラムシ	*Trichosiphonaphis (Trichosiphonaphis) lonicerae*				
359			ニホントゲマダラアブラムシ	*Tuberculatus (Acanthocallis) japonicus*				
360			カシワトゲマダラアブラムシ	*Tuberculatus (Orientuberculoides) yokoyamai*				
361			ゴボウヒゲナガアブラムシ	*Uroleucon gobonis*				
362			セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	*Uroleucon nigrotuberculatum*				
363			ニシヤワタアブラムシ	*Watabura nishiyae*				
364		コナジラミ科	イシガキコナジラミ	*Aleurotrachelus ishigakiensis*				
365			アオキコナジラミ	*Aleurotuberculatus aucubae*				
366			カタバミコナジラミ	*Aleyrodes shizuokensis*				
367		カタカイガラモドキ科	タケカタカイガラモドキ	*Aclerda tokionis*				
368			ビワコカタカイガラモドキ	*Nipponaclerda biwakoensis*				
369		フサカイガラムシ科	コナラフサカイガラムシ	*Asterodiaspis alba*				
370			ナラフサカイガラムシ	*Asterodiaspis japonicum*				
371			ハンエンフサカイガラムシ	*Bambusaspis hemsphaerica*				
372		カタカイガラムシ科	ツノロウムシ	*Ceroplastes ceriferus*				
373			ツバキワタカイガラモドキ	*Leptopulvinaria kawaii*				
374			ミズキカタカイガラムシ	*Parthenolecanium corni*				
375			チャノカタカイガラムシ	*Parthenolecanium persicae*				
376			フカヤカタカイガラムシ	*Protopulvinaria fukayai*				
377			ミカンワタカイガラムシ	*Pulvinaria aurantii*				
378			イヌガヤワタカイガラムシ	*Pulvinaria torreyae*				
379		マルカイガラムシ科	ハムグリカキカイガラムシ	*Andaspis crawii*				
380			カシカキカイガラムシ	*Andaspis kashicola*				
381			ナラカキカイガラムシ	*Andaspis naracola*				
382			トウキョウカキカイガラムシ	*Andaspis tokyoensis*				
383			マキアカマルカイガラムシ	*Aonidiella taxus*				
384			ウスイロマルカイガラムシ	*Aspidiotus destructor*				
385			シロダモシロカイガラムシ	*Aulacaspis alisiana*				
386			カズラシロカイガラムシ	*Aulacaspis kadsurae*				
387			ススキシロカイガラ	*Aulacaspis kuzunoi*				
388			タブシロカイガラムシ	*Aulacaspis machili*				
389			バラシロカイガラムシ	*Aulacaspis rosae*				
390			シオデシロカイガラムシ	*Aulacaspis spinosa*				
391			ヤブニッケイシロカイガラムシ	*Aulacaspis yabunikkei*				
392			フジシロナガカイガラムシ	*Chionaspis wistariae*				
393			トビイロマルカイガラムシ	*Chrysomphalus bifasciculatus*				
394			スギクロホシカイガラムシ	*Cryptoparlatorea leucaspis*				
395			ヤブニッケイマルカイガラムシ	*Diaonidia yabunikkei*				
396			クリマルカイガラムシ	*Diaspidiotus cryptoxanthus*				
397			サカキマルカイガラムシ	*Diaspidiotus degeneratus*				
398			ナラマルカイガラムシ	*Diaspidiotus naracola*				
399			カシマルカイガラムシ	*Diaspidiotus paraphyses*				
400			イヌツゲマルカイガラムシ	*Diaspidiotus spiraspinae*				

表 4.3-1(7)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
401	カメムシ目（半翅目）	マルカイガラムシ科	ススキシロナガカイガラムシ	*Duplachionaspis divergens*				
402			イヌガヤコノハカイガラムシ	*Fiorinia cephalotaxi*				
403			ビャクシンコノハカイガラムシ	*Fiorinia pinicola*				
404			シャシャンボコノハカイガラムシ	*Fiorinia vacciniae*				
405			ツバキマルカイガラムシ	*Hemiberlesia rapax*				
406			タンザワシロナガカイガラムシ	*Kuwanaspis tanzawensis*				
407			ツバキカキカイガラムシ	*Lepidosaphes camelliae*				
408			ミズキカキカイガラムシ	*Lepidosaphes corni*				
409			モチカキカイガラムシ	*Lepidosaphes dorsalis*				
410			カシナガカキカイガラムシ	*Lepidosaphes glaucae*				
411			カマクラカキカイガラムシ	*Lepidosaphes kamakurensis*				
412			ヒメナガカキカイガラムシ	*Lepidosaphes pallida*				
413			マキカキカイガラムシ	*Lepidosaphes piniphila*				
414			タブカキカイガラムシ	*Lepidosaphes pinnaeformis*				
415			クロカキカイガラムシ	*Lepidosaphes tubulorum*				
416			ケヤキカキカイガラムシ	*Lepidosaphes zelkovae*				
417			クワカキカイガラムシ	*Lepidoscaphes kuwacola*				
418			クロホシマルカイガラムシ	*Lindingaspis setiger*				
419			ナシシロナガカイガラムシ	*Lopholeucaspis japonica*				
420			シロナガカキカイガラムシ	*Neopinnaspis harperi*				
421			カタマルカイガラムシ	*Octaspidiotus stauntoniae*				
422			ミナミタケシロマルカイガラムシ	*Odonaspis arcusnotata*				
423			タケトビイロマルカイガラムシ	*Odonaspis bambusarum*				
424			タケシロマルカイガラムシ	*Odonaspis secreta*				
425			ツバキクロホシカイガラムシ	*Parlatoria camelliae*				
426			ヒノキクロホシカイガラムシ	*Parlatoria cupressi*				
427			ヒサカキクロホシカイガラムシ	*Parlatoria sexlobata*				
428			チャクロホシカイガラムシ	*Parlatoria theae*				
429			ハランナガカイガラムシ	*Pinnaspis aspidistrae*				
430			スギヒメシロカイガラムシ	*Pinnaspis chamaecyparidis*				
431			ヒコサンホソカイガラムシ	*Pinnaspis hikosana*				
432			ミカンマルカイガラムシ	*Pseudaonidia duplex*				
433			チャノマルカイガラムシ	*Pseudaonidia paeoniae*				
434			エノキシロカイガラムシ	*Pseudaulacaspis celtis*				
435			アオキシロカイガラムシ	*Pseudaulacaspis cockerelli*				
436			クワシロカイガラムシ	*Pseudaulacaspis pentagona*				
437			ウメシロカイガラムシ	*Pseudaulacaspis prunicola*				
438			ササシロナガカイガラムシ	*Unachionaspis bambusae*				
439			マサキナガカイガラムシ	*Unaspis euonymi*				
440		フクロカイガラムシ科	ケヤキフクロカイガラムシ	*Acanthococcus abeliceae*				
441			タケフクロカイガラムシ	*Eriococcus onukii*				
442		ワタフキカイガラムシ科	イセリヤカイガラムシ	*Icerya purchasi*				
443			キイロワタフキカイガラムシ	*Icerya seychellarum*				
444		ハマカイガラムシ科	ヤスシハマカイガラムシ	*Orthezia yasushii*				
445		コナカイガラムシ科	スギヒメコナカイガラムシ	*Atrococcus flavidus*				
446			シバコナカイガラムシ	*Balanococcus takahashii*				
447			シイコナカイガラムシ	*Eurycoccus esakii*				
448			コゴメウツギコナカイガラムシ	*Fonscolombia rotunda*				
449			ヤブコウジコナカイガラムシ	*Heliococcus ardisiae*				
450			ススキコナカイガラムシ	*Miscanthicoccus miscanthi*				
451			ササノコギリカイガラムシ	*Porisaccus sasae*				
452		アカカイガラムシ科	カシノアカカイガラムシ	*Kuwania quercus*				
453		ニセタマカイガラムシ科	カシニセタマカイガラムシ	*Psoraleococcus quercus*				
454		クビナガカメムシ科	ヒメクビナガカメムシ	*Hoplitocoris lewisi*				
455			クロクビナガカメムシ	*Stenopirates japonicus*				DD
456		サシガメ科	ヨコヅナサシガメ	*Agriosphodrus dohrni*				
457			アカサシガメ	*Cydnocoris russatus*				
458			ビロウドサシガメ	*Ectrychotes andreae*				
459			ヒメマダラカモドキサシガメ	*Empicoris minutus*				
460			クビグロアカサシガメ	*Haematoloecha delibuta*				
461			アカシマサシガメ	*Haematoloecha nigrorufa*				
462			アシマダラアカサシガメ	*Haematoloecha rubescens*				DD
463			オオトビサシガメ	*Isyndus obscurus*				
464			クロバアカサシガメ	*Labidocoris insignis*				
465			トビイロサシガメ	*Oncocephalus assimilis*				
466			モモブトトビイロサシガメ	*Oncocephalus femoratus*				
467			クロサシガメ	*Peirates cinctiventris*				
468			クロモンサシガメ	*Peirates turpis*				
469			トゲサシガメ	*Polididus armatissimus*				
470			ホソサシガメ	*Pygolampis bidentata*				

表 4.3-1(8)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
471	カメムシ目（半翅目）	サシガメ科	アカヘリサシガメ	*Rhynocoris rubromarginatus*				DD
472			ヒゲナガサシガメ	*Serendiba staliana*				
473			キイロサシガメ	*Sirthenea flavipes*				
474			シマサシガメ	*Sphedanolestes impressicollis*				
475			ヒメトビサシガメ	*Staccia diluta*				
476			ヤニサシガメ	*Velinus nodipes*				
477		グンバイムシ科	ウチワグンバイ	*Cantacader lethierryi*				
478			プラタナスグンバイ	*Corythucha ciliata*				
479			アワダチソウグンバイ	*Corythucha marmorata*				
480			ヤブガラシグンバイ	*Cysteochila consueta*				DD
481			キクグンバイ	*Galeatus affinis*				
482			タブグンバイ	*Stephanitis aperta*				
483			ナシグンバイ	*Stephanitis nashi*				
484			ツツジグンバイ	*Stephanitis pyrioides*				
485			トサカグンバイ	*Stephanitis takeyai*				
486			ヒメグンバイ	*Uhlerites debilis*				
487			クルミグンバイ	*Uhlerites latiorus*				
488		ハナカメムシ科	モリモトヤサハナカメムシ	*Amphiareus morimotoi*				
489			ヤサハナカメムシ	*Amphiareus obscuriceps*				
490			チビクロハナカメムシ	*Anthocoris chibi*				
491			クロハナカメムシ	*Anthocoris japonicus*				
492			キモンクロハナカメムシ	*Anthocoris miyamotoi*				
493			ヒメダルマハナカメムシ	*Bilia japonica*				
494		トコジラミ科	トコジラミ	*Cimex lectularis*				DD
495		カスミカメムシ科	ブチヒゲクロカスミカメ	*Adelphocoris triannulatus*				
496			フタモンカスミカメ	*Adelphocoris variabilis*				
497			クロバカスミカメ	*Apolygopsis nigritulus*				
498			フタモンアカカスミカメ	*Apolygus hilaris*				
499			コアオカスミカメ	*Apolygus lucorum*				
500			ウスイロツヤマルカスミカメ	*Apolygus pulchellus*				
501			ツマグロハギカスミカメ	*Apolygus subpulchellus*				
502			クヌギカスミカメ	*Castanopsides kerzhneri*				
503			ヒメセダカカスミカメ	*Charagochilus angusticollis*				
504			アカホシカスミカメ	*Creontiades coloripes*				
505			マダラカスミカメ	*Cyphodemidea saundersi*				
506			カワヤナギツヤカスミカメ	*Deraeocoris claspericapilatus*				
507			メンガタカスミカメ	*Eurystylus coelestialium*				
508			ハナグロミドリメクラガメ	*Lygocoris nigronasutaus*				
509			ズアカシダカスミカメ	*Monalocoris filicis*				
510			モンキマキバカスミカメ	*Orthops scutellatus*				
511			ホソヒョウタンカスミカメ	*Pilophorus erraticus*				
512			ヨモギヒョウタンカスミカメ	*Pilophorus okamotoi*				
513			クロヒョウタンカスミカメ	*Pilophorus typicus*				
514			オオクロセダカカスミカメ	*Proboscidocoris varicornis*				
515			アカミャクカスミカメ	*Stenodema rubrinervis*				
516			ナガムギカスミカメ	*Stenodema sibirica*				
517			アカスジカスミカメ	*Stenotus rubrovittatus*				
518			グンバイカスミカメ	*Stethoconus japonicus*				
519			ヒコサンテングカスミカメ	*Termatophylum hikosanum*				
520			イネホソミドリカスミカメ	*Trigonotylus caelestialium*				
521		マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ	*Gorpis brevilineatus*				
522			ハネナガマキバサシガメ	*Nabis stenoferus*				
523			アシブトマキバサシガメ	*Prostemma hilgendorfii*				
524		ヒラタカメムシ科	ヒメヒラタカメムシ	*Aneurus macrotylus*				
525			ノコギリヒラタカメムシ	*Aradus orientalis*				
526			オオヒラタカメムシ	*Mezira scabrosa*				
527			トビイロオオヒラタカメムシ	*Neuroctenus castaneus*				
528			イボヒラタカメムシ	*Usingerida verrucigera*				
529		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	*Physopelta gutta*				
530			ヒメホシカメムシ	*Physopelta parviceps*				
531		ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ	*Pyrrhocoris sibiricus*				
532		ホソヘリカメムシ科	ホソクモヘリカメムシ	*Leptocorisa acuta*				
533			クモヘリカメムシ	*Leptocorisa chinensis*				
534			ヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius unicolor*				
535			ホソヘリカメムシ	*Riptortus pedestris*				
536		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	*Acanthocoris sordidus*				
537			ホソハリカメムシ	*Cletus punctiger*				
538			ハリカメムシ	*Cletus schmidti*				
539			ヒメハリカメムシ	*Cletus trigonus*				
540			ヒメトゲヘリカメムシ	*Coriomeris scabricornis*				

表 4.3-1(9)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
541	カメムシ目（半翅目）	ヘリカメムシ科	ハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus dilatatus*				
542			アズキヘリカメムシ	*Homoeocerus marginiventris*				DD
543			オオクモヘリカメムシ	*Homoeocerus striicornis*				
544			ホシハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus unipunctatus*				
545			オオツマキヘリカメムシ	*Hygia lativentris*				
546			ツマキヘリカメムシ	*Hygia opaca*				
547			マツヘリカメムシ	*Leptoglossus occidentalis*				
548			オオヘリカメムシ	*Molipteryx fuliginosa*				
549			ミナミトゲヘリカメムシ	*Paradasynus spinosus*				DD
550			キバラヘリカメムシ	*Plinachtus bicoloripes*				
551		ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ	*Liorhyssus hyalinus*				
552			アカヒメヘリカメムシ	*Rhopalus maculatus*				
553			コブチヒメヘリカメムシ	*Stictopleurus minutus*				
554			ブチヒメヘリカメムシ	*Stictopleurus punctatonervosus*				
555		イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ	*Metacanthus pulchellus*				
556			イトカメムシ	*Yemma exilis*				
557		ナガカメムシ科	セスジナガカメムシ	*Arocatus melanostoma*				
558			アカヘリナガカメムシ	*Arocatus sericans*				
559			スナコバネナガカメムシ	*Blissus hirtulus*				
560			ヤスマツチビナガカメムシ	*Botocudo yasumatsui*				
561			カンシャコバネナガカメムシ	*Cavelerius saccharivorus*				
562			ヒメヒラタナガカメムシ	*Cymus aurescens*				
563			ヒメコバネナガカメムシ	*Dimorphopterus bicoloripes*				
564			ニッポンコバネナガカメムシ	*Dimorphopterus japonicus*				
565			コバネナガカメムシ	*Dimorphopterus pallipes*				
566			ヒメネジロツヤナガカメムシ	*Diniella pallipes*				
567			クロナガカメムシ	*Drymus marginatus*				
568			マツヒラタナガカメムシ	*Gastrodes grossipes japonicus*				
569			ヒメオオメナガカメムシ	*Geocoris proteus*				
570			オオメナガカメムシ	*Geocoris varius*				
571			ヒメマダラナガカメムシ	*Graptostethus servus*				DD
572			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	*Gyndes pallicornis*				
573			サビヒョウタンナガカメムシ	*Horridipamera inconspicua*				
574			キベリヒョウタンナガカメムシ	*Horridipamera lateralis*				
575			クロツヤナガカメムシ	*Lamproplax membranea*				
576			ホソコバネナガカメムシ	*Macropes obnubilus*				
577			オオモンシロナガカメムシ	*Metochus abbreviatus*				
578			オオチャイロナガカメムシ	*Neolethaeus assamensis*				
579			チャイロナガカメムシ	*Neolethaeus dallasi*				
580			ルイスチャイロナガカメムシ	*Neolethaeus lewisi*				
581			ヒサゴナガカメムシ	*Neomizaldus lewisi*				
582			エチゴヒメナガカメムシ	*Nysius expressus*				
583			ヒメナガカメムシ	*Nysius plebeius*				
584			ヒラタヒョウタンナガカメムシ	*Pachybrachius luridus*				
585			ヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha antennata*				
586			クロスジヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha similis*				
587			スコットヒョウタンナガカメムシ	*Pamerana scotti*				
588			モンシロナガカメムシ	*Panaorus albomaculatus*				
589			アムールシロヘリナガカメムシ	*Panaorus csikii*				
590			シロヘリナガカメムシ	*Panaorus japonicus*				
591			チャモンナガカメムシ	*Paradieuches dissimilis*				
592			アカアシホソナガカメムシ	*Paromius gracilis*				
593			クロアシホソナガカメムシ	*Paromius jejunus*				
594			コガシラコバネナガカメムシ	*Pirkimerus japonicus*				
595			ムラサキナガカメムシ	*Pylorgus colon*				
596			ウスチャヒョウタンナガカメムシ	*Remaudiereana flavipes*				
597			イチゴチビナガカメムシ	*Stigmatonotum geniculatum*				
598			コバネヒョウタンナガカメムシ	*Togo hemipterus*				
599			ヒメジュウジナガカメムシ	*Tropidothorax sinensis*				
600		メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	*Chauliops fallax*				
601		ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	*Acanthosoma denticaudum*				
602			オオツノカメムシ	*Acanthosoma firmatum*				
603			ハサミツノカメムシ	*Acanthosoma labiduroides*				
604			ベニモンツノカメムシ	*Elasmostethus humeralis*				
605			アオモンツノカメムシ	*Elasmostethus nubilus*				
606			セグロヒメツノカメムシ	*Elasmucha signoreti*				
607			エサキモンキツノカメムシ	*Sastragala esakii*				
608			モンキツノカメムシ	*Sastragala scutellata*				
609			ミツボシツチカメムシ	*Adomerus triguttulus*				
610			ヨコヅナツチカメムシ	*Adrisa magna*				

表 4.3-1(10)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
611	カメムシ目（半翅目）	ツノカメムシ科	ハマベツチカメムシ	*Byrsinus varians*				
612			ヒメツヤツチカメムシ	*Chilocoris nigricans*				
613			ヒメツチカメムシ	*Fromundus pygmaeus*				
614			コツチカメムシ	*Macroscytus fraterculus*				
615			ツチカメムシ	*Macroscytus japonensis*				
616			マルツチカメムシ	*Microporus nigrita*				
617		ノコギリカメムシ科	ノコギリカメムシ	*Megymenum gracilicorne*				
618		カメムシ科	ウズラカメムシ	*Aelia fieberi*				
619			シロヘリカメムシ	*Aenaria lewisi*				
620			アヤナミカメムシ	*Agonoscelis femoralis*				注目
621			ウシカメムシ	*Alcimocoris japonensis*				
622			シロヘリクチブトカメムシ	*Andrallus spinidens*				
623			チャイロクチブトカメムシ	*Arma custos*				
624			ブチヒゲカメムシ	*Dolycoris baccarum*				
625			ハナダカカメムシ	*Dybowskyia reticulata*				
626			キュウシュウクチブトカメムシ	*Eocanthecona kyushuensis*				注目
627			キマダラカメムシ	*Erthesina fullo*				
628			ナガメ	*Eurydema rugosa*				
629			トゲシラホシカメムシ	*Eysarcoris aeneus*				
630			ムラサキシラホシカメムシ	*Eysarcoris annamita*				
631			マルシラホシカメムシ	*Eysarcoris guttigerus*				
632			シラホシカメムシ	*Eysarcoris ventralis*				
633			ツヤアオカメムシ	*Glaucias subpunctatus*				
634			エビイロカメムシ	*Gonopsis affinis*				
635			アカスジカメムシ	*Graphosoma rubrolineatum*				
636			クサギカメムシ	*Halyomorpha halys*				
637			フタテンカメムシ	*Laprius gastricus*				DD
638			トホシカメムシ	*Lelia decempunctata*				
639			スコットカメムシ	*Menida disjecta*				
640			ツマジロカメムシ	*Menida violacea*				
641			アオクサカメムシ	*Nezara antennata*				
642			イネカメムシ	*Niphe elongata*				DD
643			エゾアオカメムシ	*Palomena angulosa*				
644			イチモンジカメムシ	*Piezodorus hybneri*				
645			チャバネアオカメムシ	*Plautia stali*				
646			オオクロカメムシ	*Scotinophara horvathi*				
647			イネクロカメムシ	*Scotinophara lurida*				
648			ヒメクロカメムシ	*Scotinophara scottii*				
649			ルリクチブトカメムシ	*Zicrona caerulea*				
650		マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ	*Coptosoma biguttulum*				
651			タデマルカメムシ	*Coptosoma parvipictum*				
652			マルカメムシ	*Megacopta punctatissima*				
653		キンカメムシ科	アカギカメムシ	*Cantao ocellatus*				
654			オオキンカメムシ	*Eucorysses grandis*				
655			アカスジキンカメムシ	*Poecilocoris lewisi*				
656		クヌギカメムシ科	ヘラクヌギカメムシ	*Urostylis annulicornis*				
657			クヌギカメムシ	*Urostylis westwoodii*				
658		アメンボ科	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*				NT
659			アメンボ	*Aquarius paludum paludum*				
660			ウミアメンボ	*Halobates japonicus*				
661			エサキアメンボ	*Limnoporus esakii*			NT	CR
662			ババアメンボ	*Gerris babai*			NT	EN
663			ヒメアメンボ	*Gerris latiabdominis*				
664			ハネナシアメンボ	*Gerris nepalensis*				CR
665			コセアカアメンボ	*Gerris gracilicornis*				
666			シマアメンボ	*Metrocoris histrio*				
667		イトアメンボ科	イトアメンボ	*Hydrometra albolineata*			VU	CR
668			オキナワイトアメンボ	*Hydrometra okinawana*				
669			ヒメイトアメンボ	*Hydrometra procera*				
670		ミズカメムシ科	ムモンミズカメムシ	*Mesovelia miyamotoi*				
671			ヘリグロミズカメムシ	*Mesovelia thermalis*				
672			ウミミズカメムシ	*Speovelia maritima*				
673		カタビロアメンボ科	ケシウミアメンボ	*Halovelia septentrionalis*				DD
674			ケシカタビロアメンボ	*Microvelia douglasi*				
675			ホルバートケシカタビロアメンボ	*Microvelia horvathi*				
676		ミズギワカメムシ科	モンシロミズギワカメムシ	*Chartoscirta elegantula longicornis*				
677			コミズギワカメムシ	*Micracanthia ornatula*				
678		ミズムシ科（昆）	ミズムシ（昆）	*Hesperocorixa distanti distanti*				
679			アサヒナコミズムシ	*Sigara maikoensis*				
680			エサキコミズムシ	*Sigara septemlineata*				

表 4.3-1(11)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
681	カメムシ目（半翅目）	ミズムシ科（昆）	コミズムシ	*Sigara substriata*				
682			ミヤケミズムシ	*Xenocorixa vittipennis*			NT	CR
－			ミズムシ科（昆）	Corixidae				
683		メミズムシ科	メミズムシ	*Ochterus marginatus*				
684		コオイムシ科	コオイムシ	*Appasus japonicus*			NT	EN
685			タガメ	*Kirkaldyia deyrolli*		特二	VU	EX
686		タイコウチ科	タイコウチ	*Laccotrephes japonensis*				
687			ミズカマキリ	*Ranatra chinensis*				
688		マツモムシ科	コマツモムシ	*Anisops ogasawarensis*				
689			マツモムシ	*Notonecta triguttata*				
690		マルミズムシ科	マルミズムシ	*Paraplea japonica*				
691	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	*Parachauliodes japonicus*				
692			ヘビトンボ	*Protohermes grandis*				
693		センブリ科	ネグロセンブリ	*Sialis japonica*				
－			センブリ属	*Sialis* sp.				
694	ラクダムシ目	ラクダムシ科	ラクダムシ	*Inocellia japonica*				
695	アザミウマ目（総翅目）	シマアザミウマ科	ヒゲブトアザミウマ	*Chirothrips manicatus*				
696			マメハナアザミウマ	*Megaleurothrips distalis*				
697			ナシアザミウマ	*Taeniothrips inconsequens*				
698			ビワハナアザミウマ	*Thrips coloratus*				
699			キイロハナアザミウマ	*Thrips flavus*				
700			ハナアザミウマ	*Thrips hawaiiensis*				
701		クダアザミウマ科	オオトゲクダアザミウマ	*Bactrothrips honoris*				
702			シイマルクダアザミウマ	*Litotetothrips pasaniae*				
703			オオコブクダアザミウマ	*Oidanothrips frontalis*				
704		メロアザミウマ科	フロリダメロアザミウマ	*Merothrips floridensis*				
705			スベスベメロアザミウマ	*Merothrips laevis*				
706		アザミウマ科	Anisopilothrips venustulus	*Anisopilothrips venustulus*				
707			Astrothrips aucubae	*Astrothrips aucubae*				
708			Copidothrips octarticulatus	*Copidothrips octarticulatus*				
709			Helionothrips aino	*Helionothrips aino*				
710			クロトンアザミウマ	*Heliothrips haemorhoidalis*				
711			Monilothrips kempi	*Monilothrips kempi*				
712			Pseudodendrothrips bhattii	*Pseudodendrothrips bhattii*				
713			Pseudodendrothrips maculatus	*Pseudodendrothrips maculatus*				
714			ハラオビアザミウマ	*Hydatothrips abdominalis*				
715			Neohydatothrips gracilicornis	*Neohydatothrips gracilicornis*				
716			Aptinothrips rufus	*Aptinothrips rufus*				
717			Bolacothrips yasuakii	*Bolacothrips yasuakii*				
718			Chaetanaphothrips machili	*Chaetanaphothrips machili*				
719			Ernothrips lobatus	*Ernothrips lobatus*				
720			サトウキビチビアザミウマ	*Fulmekiola serrata*				
721			Indusiothrips nakaharai	*Indusiothrips nakaharai*				
722			Mycterothrips egonoki	*Mycterothrips egonoki*				
723			Mycterothrips fasciatus	*Mycterothrips fasciatus*				
724			Parascirtothrips fagaceae	*Parascirtothrips fagaceae*				
725			Salpingothrips aimotofus	*Salpingothrips aimotofus*				
726			Scirtothrips albidus	*Scirtothrips albidus*				
727			チャノキイロアザミウマ	*Sciritothrips dorsalis*				
728			Stenchaetothrips pleioblasti	*Stenchaetothrips pleioblasti*				
729			オモトアザミウマ	*Taeniothrips eucharii*				
730			Tenothrips frici	*Tenothrips frici*				
731			Thrips floreus	*Thrips floreus*				
732			Thrips griseus	*Thrips griseus*				
733			Thrips trehernei	*Thrips trehernei*				
734			Thrips urticae	*Thrips urticae*				
735			Trichromothrips elegans	*Trichromothrips elegans*				
736			Trichromothrips formosus	*Trichromothrips formosus*				
737			Trichromothrips fragilis	*Trichromothrips fragilis*				
738		クダアザミウマ科	ノグチクダアザミウマモドキ	*Acallurothrips nogutii*				
739			Acallurothrips spinurus	*Acallurothrips spinurus*				
740			Allothrips brasilianus	*Allothrips brasilianus*				
741			Bactorothrips pictipes	*Bactorothrips pictipes*				
742			ツノオオアザミウマ	*Bactorothrips brevitubus*				
743			ホルロクダアザミウマ	*Holurothrips morikawai*				
744			Megalothrips curvidens	*Megalothrips curvidens*				
745			ハレギクダアザミウマ	*Adraneothrips russatus*				
746			Adraneothrips setosus	*Adraneothrips setosus*				
747			Aleurodothrips fasciapennis	*Aleurodothrips fasciapennis*				
748			Apelaunothrips madrasensis	*Apelaunothrips madrasensis*				

表 4.3-1(12)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
749	アザミウマ目（総翅目）	クダアザミウマ科	Apterygothrips semiflavus	*Apterygothrips semiflavus*				
750			Ecacanthothrips inarmatus	*Ecacanthothrips inarmatus*				
751			アカメガシワクダアザミウマ	*Haplothrips brevitubus*				
752			Haplothrips ganglbaueri	*Haplothrips ganglbaueri*				
753			Haplothrips nipponicus	*Haplothrips nipponicus*				
754			Holothrips latidentis	*Holothrips latidentis*				
755			Hoplandrothrips ochraceus	*Hoplandrothrips ochraceus*				
756			Holothrips yurikoae	*Holothrips yurikoae*				
757			Hoplothrips asper	*Hoplothrips asper*				
758			Hoplothrips cortices	*Hoplothrips cortices*				
759			Hoplothrips flavafemora	*Hoplothrips flavafemora*				
760			Hoplothrips fungi	*Hoplothrips fungi*				
761			Hoplothrips persimilis	*Hoplothrips persimilis*				
762			Hoplothrips ruber	*Hoplothrips ruber*				
763			Hoplothrips rugosus	*Hoplothrips rugosus*				
764			Hoplothrips ulmi	*Hoplothrips ulmi*				
765			Hydiothrips japonicus	*Hydiothrips japonicus*				
766			Karnyothrips acer	*Karnyothrips acer*				
767			Karnyothrips flavipes	*Karnyothrips flavipes*				
768			シイオナガクダアザミウマ	*Leeuwenia pasanii*				
769			Liothrips kusunoki	*Liothrips kusunoki*				
770			Liothrips mayumi	*Liothrips mayumi*				
771			Liothrips shii	*Liothrips shii*				
772			フウトウカズラクダアザミウマ	*Liothirps kuwanai*				
773			フウトウカズラヤドリクダアザミウマ	*Liothirps piperinus*				
774			Litotetothrip rotundus	*Litotetothrip rotundus*				
775			Paramystrothrips ophthalmus	*Paramystrothrips ophthalmus*				
776			Paramystrothrips orieantalis	*Paramystrothrips orieantalis*				
777			ゴカククダアザミウマ	*Pentagonothrips antennalis*				
778			オチバクダアザミウマ	*Psalidothrips lewisi*				
779			Psalidothrips simplus	*Psalidothrips simplus*				
780			Psephenothrips leptoceras	*Psephenothrips leptoceras*				
781			Psephenothrips cinnamomi	*Psephenothrips cinnamomi*				
782			Psephenothrips machili	*Psephenothrips machili*				
783			Sophiothrips nigrus	*Sophiothrips nigrus*				
784			オナガクダアザミウマ	*Stephanothrips japonicus*				
785			Temenothrips flavillus	*Temenothrips flavillus*				
786			Terthrothrips apterus	*Terthrothrips apterus*				
787			Thlibothrips antennalis	*Thlibothrips antennalis*				
788			ミキオクダアザミウマ	*Veerabahuthrips fruticola*				
789	アミメカゲロウ目（脈翅目）	コナカゲロウ科	キバラコナカゲロウ	*Coniopteryx abdominalis*				
790			シロコナカゲロウ	*Semidalis albata*				
791		ヒロバカゲロウ科	スカシヒロバカゲロウ	*Osmylus hyalinatus*				
792			キマダラヒロバカゲロウ	*Spilosmylus flavicornis*				
793			カスリヒロバカゲロウ	*Spilosmylus nipponensis*				
794		カマキリモドキ科	キカマキリモドキ	*Eumantispa harmandi*				
795		クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ	*Apochrysa matsumurae*				
796			ヤマトクサカゲロウ	*Chrysoperla nipponensis*				
797			スズキクサカゲロウ	*Chrysoperla suzukii*				
798			カオマダラクサカゲロウ	*Mallada boninensis*				
799			イツホシアカマダラクサカゲロウ	*Pseudomallada cognatellus*				
800			クロヒゲフタモンクサカゲロウ	*Pseudomallada ussuriensis*				
801			マツムラクサカゲロウ	*Semachrysa matsumurae*				
802		ヒメカゲロウ科	ミヤマヒメカゲロウ	*Hemerobius humulinus*				
803			ヤマトヒメカゲロウ	*Hemerobius japonicus*				
804			アシマダラヒメカゲロウ	*Micromus calidus*				
805			ホソバヒメカゲロウ	*Micromus multipunctatus*				
806			チャバネヒメカゲロウ	*Micromus numerosus*				
807			ミドリヒメカゲロウ	*Notiobiella subolivacea*				
808		ツノトンボ科	ツノトンボ	*Ascalohybris subjacens*				
809		ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ	*Baliga micans*				
810			コカスリウスバカゲロウ	*Distoleon contubernalis*				
811			コマダラウスバカゲロウ	*Gatzara jezoensis*				
812			ホシウスバカゲロウ	*Paraglenurus japonicus*				
813	シリアゲムシ目（長翅目）	ガガンボモドキ科	ガガンボモドキ	*Bittacus nipponicus*				
814		シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	*Panorpa japonica*				
815	ノミ目（隠翅目）	ヒトノミ科	ネコノミ	*Ctenocephalides felis felis*				
816		ナガノミ科	ヤマトネズミノミ	*Ceratophyllus anisus*				
817	トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	ナミコガタシマトビケラ	*Cheumatopsyche infascia*				
818			ウルマーシマトビケラ	*Hydropsyche orientalis*				

表 4.3-1(13)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
－	トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	シマトビケラ属	*Hydropsyche* sp.				
819		カワトビケラ科	ツダコタニガワトビケラ	*Chimarra tsudai*				
820		イワトビケラ科	ミヤマイワトビケラ属	*Plectrocnemia* sp.				
821			マリツキイワトビケラ	*Polyplectropus malickyi*				
822		クダトビケラ科	ヒガシヤマクダトビケラ	*Tinodes higashiyamanus*				
823		キブネクダトビケラ科	クロクダトビケラ	*Melanotrichia forficula*				
824		ヒメトビケラ科	ミギヒメトビケラ	*Hydroptila asymmetrica*				
825			マツイヒメトビケラ	*Hydroptila phenianica*				
826			オグラヒメトビケラ	*Hydroptila oguranis*				
－			ヒメトビケラ属	*Hydroptila* sp.				
827		ナガレトビケラ科	キヨスミナガレトビケラ	*Rhyacophila kiyosumiensis*				
828		コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ	*Apatania aberrans*				
－			コエグリトビケラ属	*Apatania* sp.				
829		カクスイトビケラ科	ニイガタツツトビケラ	*Eobrachycentrus niigatai*				
830			ハナセマルツツトビケラ	*Micrasema hanasense*				
831		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	*Goera japonica*				
832		カタツムリトビケラ科	カタツムリトビケラ	*Helicopsyche yamadai*				
833		カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ	*Lepidostoma japonicum*				
－			カクツツトビケラ属	*Lepidostoma* sp.				
834		ヒゲナガトビケラ科	ナガツノヒゲナガトビケラ	*Ceraclea complicata*				
－			タテヒゲナガトビケラ属	*Ceraclea* sp.				
835			アオヒゲナガトビケラ	*Mystacides azurea*				
－			アオヒゲナガトビケラ属	*Mystacides* sp.				
836			ハモチクサツミトビケラ	*Oecetis hamochiensis*				
837			ゴマダラヒゲナガトビケラ	*Oecetis nigropunctata*				
838			トウヨウクサツミトビケラ	*Oecetis tsudai*				
839			ミサキツノトビケラ	*Triplectides misakianus*				EX
840		エグリトビケラ科	セグロトビケラ	*Limnephilus fuscovittatus*				
841			トビイロトビケラ	*Nothopsyche pallipes*				
842			ホタルトビケラ	*Nothopsyche ruficollis*				
843		ケトビケラ科	トウヨウグマガトビケラ	*Gumaga orientalis*				
844	チョウ目（鱗翅目）	コウモリガ科	コウモリガ	*Endoclita excrescens*				
845			キマダラコウモリ	*Endoclita sinensis*				
846		マガリガ科	ウスキヒゲナガ	*Nematopogon distincta*				
847			ホソオビヒゲナガ	*Nemophora aurifera*				
848			キオビクロヒゲナガ	*Nemophora umbripennis*				
849		ミノガ科	チャミノガ	*Eumeta minuscula*				
850			オオミノガ	*Eumeta variegata japonica*				VU
851		ヒロズコガ科	クシヒゲキヒロズコガ	*Euplocamus hierophanta*				
852			マダラマルハヒロズコガ	*Hypophrictis conspersa*				
853			マエモンクロヒロズコガ	*Monopis pavlovskii*				
854			アトモンヒロズコガ	*Morophaga bucephala*				
855			モトキメンコガ	*Opogona thiadelta*				
856			イガ	*Tinea translucens*				
857			クロスジキヒロズコガ	*Tineovertex melanochryseus*				
858		カザリバガ科	カザリバ	*Cosmopterix fulminellx*				
859			ギンスジトガリホソガ	*Stagmotophora niphostica*				
860		キバガ科	サクラキバガ	*Anacampsis anisogramma*				
861			カバイロキバガ	*Carbatina picrocarpa*				
862			ウバメガシハマキキバガ	*Concubina trigonalis*				
863			フジフサキバガ	*Dichomeris oceanis*				
864			ソバカスキバガ	*Gelechia acanthopis*				
865			ナラクロオビキバガ	*Telphusa incognitella*				
866		ヒゲナガキバガ科	クロカクバネヒゲナガキバガ	*Athymoris martialis*				
867			オビカクバネヒゲナガキバガ	*Deltoplastis apostatis*				
868			キベリハイヒゲナガキバガ	*Homaloxestis myeloxesta*				
869			カクバネヒゲナガキバガ	*Lecitholaxa thiodora*				
870			ゴマフシロキバガ	*Scythropiodes leucostola*				
871			ムモンヒロバキバガ	*Scythropiodes lividula*				
872		マルハキバガ科	ネズミエグリヒラタマルハキバガ	*Acria ceramitis*				
873			ミツボシキバガ	*Autosticha modicella*				
874			ホソオビキマルハキバガ	*Cryptolechia malacobyrsa*				
875			シロスジベニマルハキバガ	*Promalactis enopisema*				
876			カレハヒメマルハキバガ	*Pseudodoxia achlyphanes*				
877			クロモンベニマルハキバガ	*Schiffermuelleria imogena*				
878			カレハチビマルハキバガ	*Tyrolimnas anthraconesa*				
879		キヌバコガ科	ヨツモンキヌバコガ	*Scythris sinensis*				
880		ニセマイコガ科	セグロベニトゲアシガ	*Atkinsonia ignipicta*				
881			クロコマイコガ	*Hieromantis kurokoi*				
882			カキノヘタムシガ	*Stathmopoda masinissa*				

表 4.3-1(14)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
883	チョウ目（鱗翅目）	ニジュウシトリバガ科	マダラニジュウシトリバ	*Pterotopteryx spilodesma*				
884		ホソハマキモドキガ科	コホソハマキモドキ	*Glyphipterix alpha*				
885			ツマキホソハマキモドキ	*Lepidotarphius perornatella*				
886		スガ科	コナガ	*Plutella xylostella*				
887			マサキスガ	*Yponomeuta meguronis*				
888		ハマキモドキガ科	コウゾハマキモドキ	*Choreutis hyligenes*				
889			イヌビワハマキモドキ	*Choreutis japonica*				
890		スカシバガ科	モモブトスカシバ	*Macroscelesia japona*				
891			シタキモモブトスカシバ	*Melittia inouei*				
892			ヒメアトスカシバ	*Nokona pernix*				
893			ブドウスカシバ	*Nokona regalis*				
894			コスカシバ	*Synanthedon hector*				
895			カシコスカシバ	*Synanthedon quercus*				
896			ヒメコスカシバ	*Synanthedon tenuis*				
897		ボクトウガ科	ボクトウガ	*Yakudza vicarious*				
898			ゴマフボクトウ	*Zeuzera multistrigata leuconota*				
899		ハマキガ科	プライヤハマキ	*Acleris affinitana*				
900			ニセヤナギハマキ	*Acleris albiscapulana*				
901			ナカジロハマキ	*Acleris japonica*				
902			ギンヨスジハマキ	*Acleris leechi*				
903			チャノコカクモンハマキ	*Adoxophyes honmai*				
904			リンゴコカクモンハマキ	*Adoxophyes orana fasciata*				
905			チャモンヒメハマキ	*Apotomis cuphostra*				
906			アトキハマキ	*Archips audax*				
907			ミダレカクモンハマキ	*Archips fuscocupreanus*				
908			クロシオハマキ	*Archips peratratus*				
909			ウスアトキハマキ	*Archips semistrctus*				
910			フタモントガリバヒメハマキ	*Bactra hostilis*				
911			ビロードハマキ	*Cerace xanthocosma*				
912			ヘリオビヒメハマキ	*Cryptaspasma marginifasciata*				
913			アシブトヒメハマキ	*Cryptophlebia ombrodelta*				
914			サンカクモンヒメハマキ	*Cydia glandicolana*				
915			トビモンコハマキ	*Diplocalyptis congruentana*				
916			ヨモギネムシガ	*Epiblema foenella*				
917			スギヒメハマキ	*Epiblema sugii*				
918			クロマダラシロヒメハマキ	*Epinotia exquisitana*				
919			ニレコヒメハマキ	*Epinotia ulmicola*				
920			モッコクヒメハマキ	*Eucoenogenes ancyrota*				
921			ヤマモモヒメハマキ	*Eudemis gyrotis*				
922			ブドウホソハマキ	*Eupoecilia ambiguella*				
923			アカオビホソハマキ	*Eupoecilia kobeana*				
924			ヨツスジヒメシンクイ	*Grapholita quadristriana*				
925			グミオオウスツマヒメハマキ	*Hedya auricristana*				
926			シロモンヒメハマキ	*Hedya dimidiana*				
927			オオサザナミヒメハマキ	*Hedya inornata*				
928			オオウスヅマヒメハマキ	*Hedya semiassana*				
929			チャハマキ	*Homona magnanima*				
930			アトボシハマキ	*Hoshinoa longicellana*				
931			コシロアシヒメハマキ	*Hystrichosolus spathanum*				
932			センダンヒメハマキ	*Loboschiza koenigana*				
933			バラシロヒメハマキ	*Notocelia rosaecolana*				
934			クリオビキヒメハマキ	*Olethreutes obovata*				
935			コクリオビクロヒメハマキ	*Olethreutes orthocosma*				
936			アカトビハマキ	*Pandemis cinnamomeana*				
937			スネブトヒメハマキ	*Phaecadophora fimbriata*				
938			オオシロアシヒメハマキ	*Phaecasiophora fernaldana*				
939			シロテンシロアシヒメハマキ	*Phaecasiophora obraztsovi*				
940			ヨモギオオホソハマキ	*Phtheochroides clandestina*				
941			ヒロバクロヒメハマキ	*Proschistis marmaropa*				
942			オオギンスジハマキ	*Ptycholoma lecheana circumclusana*				
943			タブノヒメハマキ	*Sorolopha plinthograpta*				
944			ハスオビヒメハマキ	*Sorolopha sphaerocopa*				
945			クロゲハイイロヒメハマキ	*Spilonota melanocopa*				
946			リンゴシロヒメハマキ	*Spilonota ocellana*				
947			ミドリモンヒメハマキ	*Zeiraphera subcorticana*				
948		セミヤドリガ科	セミヤドリガ	*Epipomponia nawai*				
949			ハゴロモヤドリガ	*Epiricania hagoromo*				
950		イラガ科	クロフテングイラガ	*Microleon longipalpis*				
951			イラガ	*Monema flavescens*				
952			ナシイラガ	*Narosoideus flavidorsalis*				

表 4.3-1(15)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
953	チョウ目（鱗翅目）	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	*Parasa lepida lepida*				
954			クロシタアオイラガ	*Parasa hilarula*				
955			アカイラガ	*Phrixolepia sericea*				
956			ヒメクロイラガ	*Scopelodes contracta*				
957		マダラガ科	キスジホソマダラ	*Balataea gracilis*				
958			タケノホソクロバ	*Fuscartona martini*				
959			ブドウスカシクロバ	*Hedina tenuis*				
960			ウメスカシクロバ	*Illiberis rotundata*				
961			ホタルガ	*Pidorus atratus*				
962			ミノウスバ	*Pryeria sinica*				
963		セセリチョウ科	アオバセセリ本土亜種	*Choaspes benjaminii japonicus*				要注意
964			ダイミョウセセリ	*Daimio tethys tethys*				
965			ミヤマセセリ	*Erynnis montana montana*				
966			ホソバセセリ	*Isoteinon lamprospilus lamprospilus*				VU
967			ギンイチモンジセセリ	*Leptalina unicolor*			NT	NT
968			イチモンジセセリ	*Parnara guttata guttata*				
969			チャバネセセリ	*Pelopidas mathias oberthueri*				
970			オオチャバネセセリ	*Polytremis pellucida pellucida*				VU
971			キマダラセセリ	*Potanthus flavus flavus*				
972			コチャバネセセリ	*Praethoressa varia*				
973		テングチョウ科	テングチョウ	*Libythea celtis*				
974		シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ	*Antigius attilia attilia*				
975			ウラゴマダラシジミ	*Artopoetes pryeri pryeri*				
976			ムラサキツバメ	*Arhopala bazalus turbata*				
977			ムラサキシジミ	*Arhopala japonica*				
978			コツバメ	*Callophrys ferrea ferrea*				
979			ルリシジミ	*Celastrina argiolus ladonides*				
980			クロマダラソテツシジミ	*Chilades pandava*				
981			ウラギンシジミ	*Curetis acuta paracuta*				
982			ツバメシジミ	*Everes argiades argiades*				
983			オオミドリシジミ	*Favonius orientalis*				
984			アカシジミ	*Japonica lutea lutea*				
985			ウラナミアカシジミ	*Japonica saepestriata saepestriata*				
986			ウラナミシジミ	*Lampides boeticus*				
987			ベニシジミ	*Lycaena phlaeas chinensis*				
988			ミドリシジミ	*Neozephyrus japonicus japonicus*				NT
989			トラフシジミ	*Rapala arata*				
990			ゴイシシジミ	*Taraka hamada hamada*				
991			タッパンルリシジミ	*Udara dilecta dilecta*				
992			ヤマトシジミ本土亜種	*Zizeeria maha argia*				
993			シルビアシジミ	*Zizina emelina emelina*			EN	CR
994		タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	*Argynnis paphia tsushimana*				
995			ツマグロヒョウモン	*Argyreus hyperbius hyperbius*				
996			ウラギンスジヒョウモン	*Argyronome laodice japonica*			VU	EN
997			オオウラギンスジヒョウモン	*Argyronome ruslana*				NT
998			ヒョウモンチョウ本州中部亜種	*Brenthis daphne rabdia*			VU	
999			クビワチョウ	*Calinaga buddha*				
1000			メスグロヒョウモン	*Damora sagana liane*				
1001			カバマダラ	*Danaus chrysippus chrysippus*				
1002			スジグロカバマダラ	*Danaus genutia genutia*				
1003			スミナガシ本土亜種	*Dichorragia nesimachus nesiotes*				要注意
1004			ツマムラサキマダラ	*Euploea mulciber barsine*				
1005			ウラギンヒョウモン	*Fabriciana adippe pallescens*				VU
1006			アカボシゴマダラ	*Hestina assimilis assimilis*				
1007			ゴマダラチョウ本土亜種	*Hestina persimilis japonica*				
1008			リュウキュウムラサキ	*Hypolimnas bolina*				
1009			メスアカムラサキ	*Hypolimnas misippus*				
1010			クジャクチョウ	*Inachis io geisha*				VU
1011			ルリタテハ本土亜種	*Kaniska canace nojaponicum*				
1012			ヒカゲチョウ	*Lethe sicelis*				
1013			テングチョウ日本本土亜種	*Libythea lepita celtoides*				
1014			イチモンジチョウ	*Limenitis camilla japonica*				
1015			アサマイチモンジ	*Limenitis glorifica*				VU
1016			ウスイロコノマチョウ	*Melanitis leda leda*				
1017			クロコノマチョウ	*Melanitis phedima oitensis*				
1018			ジャノメチョウ	*Minois dryas bipunctata*				
1019			コジャノメ	*Mycalesis francisca perdiccas*				
1020			ヒメジャノメ	*Mycalesis gotama fulginia*				
1021			サトキマダラヒカゲ	*Neope goschkevitschii*				
1022			クモガタヒョウモン	*Nephargynnis anadyomene ella*				EN

表 4.3-1(16)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1023	チョウ目（鱗翅目）	タテハチョウ科	コミスジ本州以南亜種	*Neptis sappho intermedia*				
1024			キベリタテハ	*Nymphalis antiopa*				
1025			ヒオドシチョウ	*Nymphalis xanthomelas japonica*				
1026			アサギマダラ	*Parantica sita niphonica*				
1027			キタテハ	*Polygonia c-aureum c-aureum*				
1028			オオムラサキ	*Sasakia charonda charonda*			NT	NT
1029			ヒメアカタテハ	*Vanessa cardui*				
1030			アカタテハ	*Vanessa indica indica*				
1031			ヒメウラナミジャノメ	*Ypthima argus argus*				
1032		アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種	*Atrophaneura alcinous alcinous*				
1033			ミカドアゲハ本土亜種	*Graphium doson albidum*				
1034			アオスジアゲハ	*Graphium sarpedon nipponum*				
1035			カラスアゲハ本土亜種	*Papilio dehaanii dehaanii*				
1036			メスグロトラフアゲハ	*Papilio glaucus*				
1037			モンキアゲハ	*Papilio helenus nicconicolens*				
1038			ミヤマカラスアゲハ	*Papilio maackii*				
1039			キアゲハ	*Papilio machaon hippocrates*				
1040			オナガアゲハ	*Papilio macilentus macilentus*				
1041			ナガサキアゲハ	*Papilio memnon thunbergii*				
1042			シロオビアゲハ	*Papilio polytes polytes*				
1043			クロアゲハ本土亜種	*Papilio protenor demetrius*				
1044			オオトラフアゲハ	*Papilio rutulus*				
1045			アゲハ	*Papilio xuthus*				
1046		シロチョウ科	ツマキチョウ本土亜種	*Anthocharis scolymus scolymus*				
1047			モンキチョウ	*Colias erate poliographa*				
1048			ツマグロキチョウ	*Eurema laeta betheseba*			EN	EX
1049			キタキチョウ	*Eurema mandarina*				
1050			スジグロシロチョウ	*Pieris melete*				
1051			ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種	*Pieris nesis japonica*				
1052			モンシロチョウ	*Pieris rapae crucivora*				
1053		トリバガ科	クロマダラトリバ	*Amblyptilia sythoffi*				
1054			ヒルガオトリバ	*Emmelina argoteles*				
1055			ヨモギトリバ	*Hellinsia hirosakianus*				
1056			キスジカマトリバ	*Hellinsia lecteolus*				
1057			クロカマトリバ	*Hellinsia nigridactylus*				
1058			ブドウトリバ	*Nippoptilia vitis*				
1059			コブドウトリバ	*Nippotilia minor*				
1060		ツトガ科	ウスムラサキノメイガ	*Agrotera nemoralis*				
1061			ウスヒメトガリノメイガ	*Anania albeoverbascalis*				
1062			ヒメトガリノメイガ	*Anania verbascalis*				
1063			ツトガ	*Ancylolomia japonica*				
1064			フチムラサキノメイガ	*Aurorobotys aurorina*				
1065			シロモンノメイガ	*Bocchoris inspersalis*				
1066			タイワンウスキノメイガ	*Botyodes diniasalis*				
1067			オオキノメイガ	*Botyodes principalis*				
1068			アカウスグロノメイガ	*Bradina angustalis pryeri*				
1069			シロテンウスグロノメイガ	*Bradina atopalis erectalis*				
1070			ヒメアカウスグロノメイガ	*Bradina trigonalis*				
1071			キベリスカシノメイガ	*Callibotys wilemani*				
1072			ハナダカノメイガ	*Camptomastix hisbonalis*				
1073			オオシロモンノメイガ	*Chabula telphusalis*				
1074			ニカメイガ	*Chilo suppressalis*				
1075			キベリハネボソノメイガ	*Circobotys aurealis*				
1076			カギバノメイガ	*Circobotys nycterina*				
1077			モンキシロノメイガ	*Cirrhochrista brizoalis*				
1078			ナカアカクルマメイガ	*Clupeosoma pryeri*				
1079			コブノメイガ	*Cnaphalocrocis medinalis*				
1080			ハネナガコブノメイガ	*Cnaphalocrocis pilosa*				
1081			マツノゴマダラノメイガ	*Conogethes pinicolalis*				
1082			モモノゴマダラノメイガ	*Conogethes punctiferalis*				
1083			クロスカシトガリノメイガ	*Cotachena alysoni*				
1084			スカシトガリノメイガ	*Cotachena pubescens*				
1085			シロスジツトガ	*Crambus argyrophorus*				
1086			ケブカノメイガ	*Crocidolomia pavonana*				
1087			タケノメイガ	*Crypsiptya coclesalis*				
1088			ツゲノメイガ	*Cydalima perspectalis*				
1089			トガリキノメイガ	*Demobotys pervulgalis pervulgalis*				
1090			ワタヘリクロノメイガ	*Diaphania indica*				
1091			キアヤヒメノメイガ	*Diasemia accalis*				
1092			シロアヤヒメノメイガ	*Diasemia reticularis*				

表 4.3-1(17)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1093	チョウ目（鱗翅目）	ツトガ科	マエシロモンノメイガ	*Diathraustodes amoenialis*				
1094			ハイイロホソバノメイガ	*Dolicharthria bruguieralis*				
1095			マダラミズメイガ	*Elophila interruptalis interruptalis*				
1096			ヒメマダラミズメイガ	*Elophila turbata*				
1097			アヤナミノメイガ	*Eurrhyparodes accessalis*				
1098			ナニセノメイガ	*Evergestis forficalis*				
1099			フタホシノメイガ	*Glyphodes bipunctalis*				
1100			チビスカシノメイガ	*Glyphodes duplicalis*				
1101			シロマダラノメイガ	*Glyphodes onychinalis*				
1102			スカシノメイガ	*Glyphodes pryeri*				
1103			クワノメイガ	*Glyphodes pyloalis*				
1104			クロヘリキノメイガ	*Goniorhynchus butyrosus*				
1105			トビヘリキノメイガ	*Goniorhynchus clausalis*				
1106			クロズノメイガ	*Goniorhynchus exemplaris*				
1107			ワタノメイガ	*Haritalodes derogatus*				
1108			ハイマダラノメイガ	*Hellula undalis*				
1109			オオモンシロルリノメイガ	*Hemopsis dissipatalis*				
1110			ウスオビクロノメイガ	*Herpetogramma fuscescens*				
1111			モンキクロノメイガ	*Herpetogramma luctuosale zelleri*				
1112			マエキノメイガ	*Herpetogramma rude*				
1113			ナカオビノメイガ	*Hydriris ornatalis*				
1114			ミツテンノメイガ	*Mabra charonialis*				
1115			マメノメイガ	*Maruca vitrata*				
1116			シロテンキノメイガ	*Nacoleia commixta*				
1117			サツマキノメイガ	*Nacoleia satsumalis*				
1118			クロフタオビツトガ	*Neopediasia mixtalis*				
1119			ホシオビホソノメイガ	*Nomis albopedalis*				
1120			ワモンノメイガ	*Nomophila noctuella*				
1121			ヒメクロミスジノメイガ	*Omiodes miserus*				
1122			キバラノメイガ	*Omiodes noctescens*				
1123			クロミスジノメイガ	*Omiodes similis*				
1124			シロアシクロノメイガ	*Omiodes tristrialis*				
1125			アワノメイガ	*Ostrinia furnacalis*				
1126			ユウグモノメイガ	*Ostrinia palustralis memnialis*				
1127			アズキノメイガ本州・四国・九州亜種	*Ostrinia scapulalis subpacifica*				
1128			フキノメイガ	*Ostrinia zaguliaevi*				
1129			フタマタノメイガ	*Pagyda arbiter*				
1130			ヨスジノメイガ	*Pagyda quadrilineata*				
1131			マタスジノメイガ	*Pagyda quinquelineata*				
1132			ヘリジロキンノメイガ	*Paliga auratalis*				
1133			マエベニノメイガ	*Paliga minnehaha*				
1134			ヒメシロノメイガ	*Palpita inusitata*				
1135			マエアカスカシノメイガ	*Palpita nigropunctalis*				
1136			ヒロバウスグロノメイガ	*Paranacoleia lophophoralis*				
1137			シバツトガ	*Parapediasia teterella*				
1138			ウスオビキノメイガ	*Paratalanta jessica*				
1139			フチグロノメイガ	*Paratalanta ussurialis*				
1140			モンキノメイガ	*Pelena sericea*				
1141			キイロノメイガ	*Perinephela lancealis honshuensis*				
1142			クビシロノメイガ	*Piletocera aegimiusalis*				
1143			コガタシロモンノメイガ	*Piletocera sodalis*				
1144			クロスジキンノメイガ	*Pleuroptya balteata*				
1145			ホソミスジノメイガ	*Pleuroptya chlorophanta*				
1146			シロハラノメイガ	*Pleuroptya deficiens*				
1147			ウスイロキンノメイガ	*Pleuroptya punctimarginalis*				
1148			ウコンノメイガ	*Pleuroptya ruralis*				
1149			ツマグロシロノメイガ	*Polythlipta liquidalis*				
1150			ナカキトガリノメイガ	*Preneopogon catenalis*				
1151			キムジノメイガ	*Prodasycnemis inornata*				
1152			ミカエリソウノメイガ	*Pronomis delicatalis*				
1153			クロオビノメイガ	*Pycnarmon pantherata*				
1154			トモンノメイガ	*Pyrausta limbata*				
1155			カクモンノメイガ	*Rehimena surusalis*				
1156			ナカキノメイガ	*Sameodes aptalis usitata*				
1157			タテシマノメイガ	*Sclerocona acutella*				
1158			シロオビノメイガ	*Spoladea recurvalis*				
1159			シロスジエグリノメイガ	*Sufetula sunidesalis*				
1160			オオツチイロノメイガ	*Syllepte fuscoinvalidalis*				
1161			クロヘリノメイガ	*Syllepte fuscomarginalis*				
1162			モンシロクロノメイガ	*Syllepte segnalis*				

表 4.3-1(18)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1163	チョウ目（鱗翅目）	ツトガ科	タイワンモンキノメイガ	*Syllepte taiwanalis*				
1164			ヨツボシノメイガ	*Talanga quadrimaculalis*				
1165			セスジノメイガ	*Torulisquama evenoralis*				
1166			フタオビモンメイガ	*Trichophysetis cretacea*				
1167			クロスジノメイガ	*Tyspanodes striatus striatus*				
1168			コマルモンノメイガ	*Udea montensis*				
1169			クロモンキノメイガ	*Udea testacea*				
1170			モンシロルリノメイガ	*Uresiphita tricolor*				
1171			ウスオビノメイガ	*Xanthopsamma pseudocrocealis*				
1172		メイガ科	ウスグロツヅリガ	*Achroia innotata*				
1173			ウスアカマダラメイガ	*Acrobasis encaustella*				
1174			アカフマダラメイガ	*Acrobasis ferruginella*				
1175			オオアカオビマダラメイガ	*Acrobasis frankella*				
1176			ギンマダラメイガ	*Acrobasis rubrizonella*				
1177			ホソアカオビマダラメイガ	*Acrobasis rufizonella*				
1178			ツツマダラメイガ	*Acrobasis squalidella*				
1179			ウスアカムラサキマダラメイガ	*Addyme confusalis*				
1180			コメシマメイガ	*Aglossa dimidiata*				
1181			フタテンツヅリガ	*Aphomia sapozhnikovi*				
1182			ツマグロシマメイガ	*Arippara indicator*				
1183			マエジロクロマダラメイガ	*Assara funerella*				
1184			フタテンアカオビマダラメイガ	*Conobathra tricolorella*				
1185			マツノマダラメイガ	*Dioryctria abietella*				
1186			マツアカマダラメイガ	*Dioryctria pryeri*				
1187			マツノシンマダラメイガ	*Dioryctria sylvestrella*				
1188			ウスオビトガリメイガ	*Endotricha consocia*				
1189			キベリトガリメイガ	*Endotricha minialis*				
1190			ウスベニトガリメイガ	*Endotricha olivacealis*				
1191			カバイロトガリメイガ	*Endotricha theonalis*				
1192			ハスジフトメイガ	*Epilepia dentata*				
1193			ネアカマダラメイガ	*Etielloides bipartitellus*				
1194			フタスジツヅリガ	*Eulophopalpia pauperalis*				
1195			シロマダラメイガ	*Euzopherodes oberleae*				
1196			フタグロマダラメイガ	*Furcata dichromella*				
1197			トビネマダラメイガ	*Furcata hollandella*				
1198			ヤマトフタグロマダラメイガ	*Furcata nipponella*				
1199			ハチノスツヅリガ	*Galleria mellonella*				
1200			アカヘリシマメイガ	*Herculia drabicilialis*				
1201			アカシマメイガ	*Herculia pelasgalis*				
1202			モモイロシマメイガ	*Hypsopygia mauritialis*				
1203			トビイロシマメイガ	*Hypsopygia regina*				
1204			キイフトメイガ	*Lepidogma kiiensis*				
1205			コネアオフトメイガ	*Lepidogma melanobasis*				
1206			ナカムラサキフトメイガ	*Lista ficki*				
1207			トサカフトメイガ	*Locastra muscosalis*				
1208			クシヒゲマダラメイガ	*Mussidia pectinicornella*				
1209			アカマダラメイガ	*Oncocera semirubella*				
1210			ナカトビフトメイガ	*Orthaga achatina*				
1211			アオフトメイガ	*Orthaga olivacea*				
1212			ネアオフトメイガ	*Orthaga onerata*				
1213			フタスジシマメイガ	*Orthopygia glaucinalis*				
1214			ツマアカシマメイガ	*Orthopygia nannodes*				
1215			ツヅリガ	*Paralipsa gularis*				
1216			トビスジマダラメイガ	*Patagoniodes nipponellus*				
1217			ノシメマダラメイガ	*Plodia interpunctella*				
1218			カシノシマメイガ	*Pyralis farinalis*				
1219			ネグロシマメイガ	*Pyralis pictalis*				
1220			クシヒゲシマメイガ	*Sacada approximans*				
1221			オオクシヒゲシマメイガ	*Sacada fasciata*				
1222			ミサキクシヒゲシマメイガ	*Sacada misakiensis*				CR+EN
1223			オオフトメイガ	*Salma amica*				
1224			ミカドマダラメイガ	*Sciota mikadella*				
1225			トビイロフタスジシマメイガ	*Stemmatophora valida*				
1226			ネグロフトメイガ	*Stericta kogii*				
1227			マエモンシマメイガ	*Tegulifera bicoloralis*				
1228			ナカジロフトメイガ	*Termioptycha margarita*				
1229		マドガ科	ヒメマダラマドガ	*Rhodoneura hyphaema*				
1230			ウスマダラマドガ	*Rhodoneura pallida*				
1231			マダラマドガ	*Rhodoneura vittula*				
1232			アカジママドガ	*Striglina cancellata*				

表 4.3-1(19)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1233	チョウ目（鱗翅目）	マドガ科	アミメマドガ	*Striglina suzukii*				
1234			マドガ	*Thyris usitata*				
1235		カギバガ科	ヒトツメカギバ	*Auzata superba superba*				
1236			ホシボシトガリバ	*Demopsestis punctigera*				
1237			フタテンシロカギバ	*Ditrigona virgo*				
1238			ニッコウトガリバ	*Epipsestis nikkoensis*				
1239			オビカギバ	*Drepana curvatula acuta*				
1240			オオアヤトガリバ	*Habrosyne fraterna japonica*				
1241			アヤトガリバ	*Habrosyne pyritoides derasoides*				
1242			アカウラカギバ	*Hypsomadius insignis*				
1243			スカシカギバ	*Macrauzata maxima*				
1244			マユミトガリバ	*Neoploca arctipennis*				
1245			ヤマトカギバ	*Nordstromia japonica*				
1246			オキナワカギバ	*Oreta loochooana loochooana*				
1247			アシベニカギバ	*Oreta pulchripes*				
1248			クロスジカギバ	*Oreta turpis*				
1249			ウスジロトガリバ	*Parapsestis albida*				
1250			ギンモントガリバ	*Parapsestis argenteopicta argenteopicta*				
1251			オオバトガリバ	*Tethea ampliata ampliata*				
1252			ウコンカギバ	*Tridrepana crocea*				
1253		アゲハモドキガ科	アゲハモドキ	*Epicopeia hainesii hainesii*				
1254		シャクガ科	ヒトスジマダラエダシャク	*Abraxas latifasciata*				
1255			ユウマダラエダシャク	*Abraxas miranda miranda*				
1256			ヒメマダラエダシャク	*Abraxas niphonibia*				
1257			ルリオビナミシャク	*Acasis viretata*				
1258			オオノコメエダシャク	*Acrodontis fumosa*				
1259			ハンノトビスジエダシャク	*Aethalura ignobilis*				
1260			チズモンアオシャク	*Agathia carissima carissima*				
1261			アシブトチズモンアオシャク	*Agathia visenda curvifiniens*				
1262			ナカウスエダシャク	*Alcis angulifera*				
1263			シロオビフユシャク	*Alsophila japonensis*				
1264			ウスイロオオエダシャク	*Amraica superans superans*				
1265			マルバトビスジエダシャク	*Anaboarmia aechmeessa*				
1266			オカモトトゲエダシャク	*Apochima juglansiaria*				
1267			クロクモエダシャク	*Apocleora rimosa*				
1268			キシタエダシャク	*Arichanna melanaria fraterna*				
1269			ヨモギエダシャク本州以南亜種	*Ascotis selenaria cretacea*				
1270			ヨスジアカエダシャク	*Astygisa morosa morosa*				
1271			キエダシャク	*Auaxa sulphurea*				
1272			キオビゴマダラエダシャク	*Biston panterinaria sychnospilas*				
1273			トビモンオオエダシャク本土亜種	*Biston robustum robustum*				
1274			ツマトビキエダシャク	*Bizia aexaria*				
1275			ナミガタシロナミシャク	*Callabraxas compositata compositata*				
1276			ヒロバトガリナミシャク	*Carige irrorata*				
1277			ホソバトガリナミシャク	*Carige scutilimbata*				
1278			フタモンクロナミシャク	*Catarhoe obscura obscura*				
1279			フタテンオエダシャク	*Chiasmia defixaria*				
1280			ウスオエダシャク	*Chiasmia hebesata*				
1281			ホソバハラアカアオシャク	*Chlorissa anadema*				
1282			ウスハラアカアオシャク	*Chlorissa inornata*				
1283			コウスアオシャク	*Chlorissa obliterata*				
1284			クロスジアオナミシャク	*Chloroclystis v-ata*				
1285			シロテンエダシャク	*Cleora leucophaea leucophaea*				
1286			フトスジエダシャク	*Cleora repulsaria*				
1287			カバエダシャク	*Colotois pennaria ussuriensis*				
1288			ギンスジアオシャク	*Comibaena argentataria*				
1289			ヨツテンアオシャク	*Comibaena diluta*				
1290			ヨツモンマエジロアオシャク	*Comibaena procumbaria*				
1291			アカホシヒメアオシャク	*Comostola rubripunctata*				
1292			コヨツメアオシャク	*Comostola subtiliaria nympha*				
1293			ヒメウコンエダシャク	*Corymica arnearia*				不明種
1294			ヘリグロキエダシャク	*Corymica deducta deducta*				
1295			ウコンエダシャク	*Corymica pryeri*				
1296			アカアシアオシャク	*Culpinia diffusa*				
1297			セブトエダシャク	*Cusiala stipitaria stipitaria*				
1298			トンボエダシャク	*Cystidia stratonice*				
1299			ヒロオビトンボエダシャク	*Cystidia truncangulata*				
1300			マツオオエダシャク	*Deileptenia ribeata*				
1301			ハスオビエダシャク	*Descoreba simplex*				
1302			ツマキナカジロナミシャク	*Dysstroma citrata nyiwonis*				

表 4.3-1(20)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1303	チョウ目（鱗翅目）	シャクガ科	オオハガタナミシャク	*Ecliptopera umbrosaria umbrosaria*				
1304			シロズエダシャク	*Ecpetelia albifrontaria*				
1305			ウストビスジエダシャク	*Ectropis aigneri*				
1306			フトフタオビエダシャク	*Ectropis crepuscularia*				
1307			オオトビスジエダシャク	*Ectropis excellens*				
1308			ウスジロエダシャク	*Ectropis obliqua*				
1309			ツマキリエダシャク	*Endropiodes abjecta abjecta*				
1310			サラサエダシャク	*Epholca arenosa*				
1311			アトスジグロナミシャク	*Epilobophora obscuraria*				
1312			マダラヒゲブトナミシャク	*Episteira eupena*				
1313			ウスミドリナミシャク	*Episteira nigrilinearia*				
1314			チャバネフユエダシャク	*Erannis golda*				
1315			ヘリスジナミシャク	*Eschatarchia lineata lineata*				
1316			ヨコジマナミシャク	*Eulithis convergenata*				
1317			ウストビモンナミシャク	*Eulithis ledereri*				
1318			モンウスカバナミシャク	*Eupithecia clavifera*				
1319			クロテンヤスジカバナミシャク	*Eupithecia interpunctaria*				
1320			マエナミカバナミシャク	*Eupithecia niphonaria*				
1321			ウスカバナミシャク	*Eupithecia proterva*				
1322			ソトカバナミシャク	*Eupithecia signigera*				
1323			ナカアオナミシャク	*Eupithecia sophia*				
1324			ナカオビカバナミシャク	*Eupithecia subbreviata*				
1325			アキカバナミシャク	*Eupithecia subfumosa*				
1326			ハラキカバナミシャク	*Eupithecia subtacincta*				
1327			スジグロカバナミシャク	*Eupithecia supercastigata*				
1328			トシマカバナミシャク	*Eupithecia tenuisquama*				
1329			シロテンカバナミシャク	*Eupithecia tripunctaria*				
1330			アザミカバナミシャク	*Eupithecia virgaureata invisa*				
1331			シロジマエダシャク	*Euryobeidia languidata languidata*				
1332			キアミメナミシャク	*Eustroma japonica*				
1333			セスジナミシャク	*Evecliptopera illitata illitata*				
1334			キガシラオオナミシャク	*Gandaritis agnes agnes*				
1335			キマダラオオナミシャク	*Gandaritis fixseni*				
1336			ツマキシロナミシャク	*Gandaritis whitelyi whitelyi*				
1337			カギシロスジアオシャク	*Geometra dieckmanni*				
1338			ケブカチビナミシャク	*Gymnoscelis esakii*				
1339			ヘリクロテンアオシャク	*Hemistola dijuncta*				
1340			コシロスジアオシャク	*Hemistola veneta*				
1341			キバラヒメアオシャク	*Hemithea aestivaria*				
1342			アオスジアオシャク	*Hemithea marina*				
1343			ヘリグロヒメアオシャク	*Hemithea tritonaria*				
1344			ナミガタエダシャク	*Heterarmia charon charon*				
1345			ウラベニエダシャク	*Heterolocha aristonaria*				
1346			コウスグモナミシャク	*Heterophleps confusa confusa*				
1347			サザナミオビエダシャク	*Heterostegane hyriaria*				
1348			フトオビエダシャク	*Hypomecis crassestrigata*				
1349			オオバナミガタエダシャク	*Hypomecis lunifera*				
1350			ウスバミスジエダシャク	*Hypomecis punctinalis conferenda*				
1351			ハミスジエダシャク	*Hypomecis roboraria displicens*				
1352			ウスキヒメシャク	*Idaea biselata*				
1353			クロモンチビヒメシャク	*Idaea crassipuncta*				CR+EN
1354			オイワケヒメシャク	*Idaea invalida invalida*				
1355			サクライキヒメシャク	*Idaea sakuraii*				
1356			ウスクロテンヒメシャク	*Idaea salutaria*				
1357			ナミスジコアオシャク	*Idiochlora ussuriaria*				
1358			モンキキナミシャク	*Idiotephria amelia*				
1359			ギフウスキナミシャク	*Idiotephria debilitata*				希少
1360			ナカモンキナミシャク	*Idiotephria evanescens*				
1361			ウスバフユシャク	*Inurois fletcheri*				
1362			クロテンフユシャク	*Inurois membranaria*				
1363			ウスネズミエダシャク	*Isturgia vapulata*				
1364			チャノウンモンエダシャク	*Jankowskia fuscaria fuscaria*				
1365			ナミガタウスキアオシャク	*Jodis lactearia*				
1366			コガタヒメアオシャク	*Jodis orientalis*				
1367			ヒメウスアオシャク	*Jodis putata*				
1368			ウスキヒメアオシャク	*Jodis urosticta*				
1369			ツマジロエダシャク	*Krananda latimarginaria*				
1370			スカシエダシャク	*Krananda semihyalina*				
1371			フタオビシロエダシャク	*Lamprocabera candidaria*				
1372			アトクロナミシャク	*Lampropteryx minna*				

表 4.3-1(21)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1373	チョウ目（鱗翅目）	シャクガ科	ヒロバフユエダシャク	*Larerannis miracula*				
1374			ホソスジナミシャク	*Lobogonodes complicata complicata*				
1375			フタホシシロエダシャク	*Lomographa bimaculata subnotata*				
1376			クロズウスキエダシャク	*Lomographa simplicior simplicior*				
1377			バラシロエダシャク	*Lomographa temerata*				
1378			ズグロツバメアオシャク	*Maxates fuscofrons*				
1379			ハガタツバメアオシャク	*Maxates grandificaria*				
1380			ヒメツバメアオシャク	*Maxates protrusa*				
1381			チャエダシャク	*Megabiston plumosaria*				
1382			ナカジロナミシャク	*Melanthia procellata inquinata*				
1383			ウスクモエダシャク	*Menophra senilis*				
1384			ヒメカギバアオシャク	*Mixochlora vittata prasina*				
1385			キマエアオシャク	*Neohipparchus vallata*				
1386			ウチムラサキヒメエダシャク	*Ninodes splendens*				
1387			マエキトビエダシャク	*Nothomiza formosa*				
1388			オオマエキトビエダシャク	*Nothomiza oxygoniodes*				
1389			エグリヅマエダシャク	*Odontopera arida arida*				
1390			ナミスジフユナミシャク	*Operophtera brunnea*				
1391			イチモジフユナミシャク	*Operophtera rectipostmediana*				
1392			クロオビフユナミシャク	*Operophtera relegata*				
1393			シロモンウスチャヒメシャク	*Organopoda carnearia*				
1394			トビスジヒメナミシャク	*Orthonama obstipata*				
1395			シロツバメエダシャク	*Ourapteryx maculicaudaria*				
1396			ウスキツバメエダシャク	*Ourapteryx nivea*				
1397			コガタツバメエダシャク	*Ourapteryx obtusicauda*				
1398			クロスジフユエダシャク	*Pachyerannis obliquaria*				
1399			アトジロエダシャク	*Pachyligia dolosa*				
1400			ヘリアカトガリアオシャク	*Pamphlebia rubrolimbraria*				
1401			ウスアオエダシャク	*Parabapta clarissa*				
1402			ツマキリウスキエダシャク	*Pareclipsis gracilis*				
1403			ウラモンアカエダシャク	*Parepione grata*				
1404			クロフウスアオナミシャク	*Pasiphila chloerata*				
1405			ソトシロオビナミシャク	*Pasiphila excisa*				
1406			ハラアカウスアオナミシャク	*Pasiphila obscura*				
1407			リンゴアオナミシャク	*Pasiphila rectangulata*				
1408			クスアオシャク	*Pelagodes subquadraria*				
1409			ヤマトエダシャク	*Peratostega deletaria hypotaenia*				
1410			シモフリトゲエダシャク	*Phigalia sinuosaria*				
1411			ネグロウスベニナミシャク	*Photoscotosia atrostrigata*				
1412			クワエダシャク	*Phthonandria atrilineata atrilineata*				
1413			トビネオオエダシャク	*Phthonosema invenustaria invenustaria*				
1414			リンゴツノエダシャク	*Phthonosema tendinosaria*				
1415			ヒロバトガリエダシャク	*Planociampa antipala*				
1416			マエキオエダシャク	*Plesiomorpha flaviceps*				
1417			モンオビオエダシャク	*Plesiomorpha punctilinearia*				
1418			オレクギエダシャク	*Protoboarmia simpliciaria*				
1419			フタナミトビヒメシャク	*Pylargosceles steganioides steganioides*				
1420			ホシミスジエダシャク	*Racotis boarmiaria*				
1421			シロミャクオエダシャク	*Rhynchobapta eburnivena*				
1422			ウスキトガリヒメシャク	*Scopula confusa*				
1423			ギンバネヒメシャク	*Scopula epiorrhoe*				
1424			ヤスジマルバヒメシャク	*Scopula floslactata claudata*				
1425			ウスキクロテンヒメシャク	*Scopula ignobilis*				
1426			ハイイロヒメシャク	*Scopula impersonata macescens*				
1427			ウスウラナミヒメシャク	*Scopula longicerata*				
1428			マエキヒメシャク	*Scopula nigropunctata imbella*				
1429			サザナミシロヒメシャク	*Scopula nupta*				
1430			ナミスジチビヒメシャク	*Scopula personata*				
1431			ウラクロスジシロヒメシャク	*Scopula prouti*				
1432			ヨツボシウスキヒメシャク	*Scopula superciliata*				
1433			キナミシロヒメシャク	*Scopula superior*				
1434			フタテンエダシャク	*Seleniopsis evanescens*				
1435			ビロードナミシャク	*Sibatania mactata*				
1436			ウンモンオオシロヒメシャク	*Somatina indicataria morata*				
1437			ツマトビシロエダシャク	*Spilopera debilis*				
1438			クロハグルマエダシャク	*Synegia esther*				
1439			ハグルマエダシャク	*Synegia hadassa hadassa*				
1440			マルハグルマエダシャク	*Synegia ichinosawana*				
1441			カギバアオシャク	*Tanaorhinus reciprocata confuciaria*				
1442			テンヅマナミシャク	*Telenomeuta punctimarginaria punctimarginaria*				

表 4.3-1(22)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1443	チョウ目（鱗翅目）	シャクガ科	キマダラツバメエダシャク	*Thinopteryx crocoptera striolata*				
1444			フトベニスジヒメシャク	*Timandra apicirosea*				
1445			コベニスジヒメシャク	*Timandra comptaria*				
1446			ウスベニスジヒメシャク	*Timandra dichela*				
1447			ベニスジヒメシャク	*Timandra recompta prouti*				
1448			ウスアカモンナミシャク	*Trichopterigia consobrinaria*				
1449			シロシタコバネナミシャク	*Trichopteryx fastuosa*				
1450			シタコバネナミシャク	*Trichopteryx hemana*				
1451			チャオビコバネナミシャク	*Trichopteryx terranea*				
1452			ホソバナミシャク	*Tyloptera bella bella*				
1453			ニトベエダシャク	*Wilemania nitobei*				
1454			ナカシロスジナミシャク	*Xanthorhoe biriviata angularia*				
1455			フタトビスジナミシャク	*Xanthorhoe hortensiaria*				
1456			ツマグロナミシャク	*Xanthorhoe muscicapata*				
1457			ヨスジナミシャク	*Xanthorhoe quadrifasciata ignobilis*				
1458			フトジマナミシャク	*Xanthorhoe saturata*				
1459			モンシロツマキリエダシャク	*Xerodes albonotaria albonotaria*				
1460			ミスジツマキリエダシャク	*Xerodes rufescentaria*				
1461			トガリエダシャク	*Xyloscia subspersata*				
1462		ツバメガ科	ギンツバメ	*Acropteris iphiata*				
1463			キスジシロフタオ	*Dysaethria cretacea*				
1464			ハガタフタオ	*Dysaethria flavistriga*				
1465			クロホシフタオ	*Dysaethria moza*				
1466		イカリモンガ科	イカリモンガ	*Pterodecta felderi*				
1467		カイコガ科	クワコ	*Bombyx mandarina*				
1468		イボタガ科	イボタガ	*Brahmaea japonica*				
1469		オビガ科	オビガ	*Apha aequalis*				
1470		カレハガ科	マツカレハ	*Dendrolimus spectabilis*				
1471			ツガカレハ	*Dendrolimus superans*				
1472			タケカレハ	*Euthrix albomaculata directa*				
1473			カレハガ	*Gastropacha orientalis*				
1474			ホシカレハ	*Gastropacha populifolia angustipennis*				
1475			クヌギカレハ	*Kunugia undans flaveola*				
1476			ヤマダカレハ	*Kunugia yamadai*				
1477			オビカレハ	*Malacosoma neustrium testacea*				
1478			リンゴカレハ	*Odonestis pruni japonensis*				
1479		ヤママユガ科	オオミズアオ本土亜種	*Actias aliena aliena*				
1480			オナガミズアオ本土亜種	*Actias gnoma gnoma*			NT	
1481			ヤママユ本土亜種	*Antheraea yamamai yamamai*				
1482			ウスタビガ本土亜種	*Rhodinia fugax fugax*				
1483			クスサン本土亜種	*Rinaca japonica japonica*				
1484			ヒメヤママユ	*Rinaca jonasii*				
1485			シンジュサン本州以西亜種	*Samia cynthia pryeri*				
1486		スズメガ科	クロメンガタスズメ	*Acherontia lachesis*				
1487			ブドウスズメ	*Acosmeryx castanea*				
1488			ハネナガブドウスズメ	*Acosmeryx naga*				
1489			エビガラスズメ	*Agrius convolvuli*				
1490			ホソバスズメ	*Ambulyx ochracea*				
1491			クルマスズメ本土亜種	*Ampelophaga rubiginosa rubiginosa*				
1492			ウンモンスズメ	*Callambulyx tatarinovii gabyae*				
1493			オオスカシバ	*Cephonodes hylas hylas*				
1494			トビイロスズメ	*Clanis bilineata tsingtauica*				
1495			ベニスズメ	*Deilephila elpenor lewisii*				
1496			サザナミスズメ	*Dolbina tancrei*				
1497			クロスキバホウジャク	*Hemaris affinis*				
1498			スキバホウジャク	*Hemaris radians*			VU	
1499			ノコギリスズメ	*Laothoe amurensis amurensis*				
1500			ヒメクロホウジャク	*Macroglossum bombylans*				
1501			ホシホウジャク	*Macroglossum pyrrhosticta*				
1502			クロホウジャク	*Macroglossum saga*				
1503			ホウジャク	*Macroglossum stellatarum*				
1504			モモスズメ	*Marumba gaschkewitschii echephron*				
1505			クチバスズメ	*Marumba sperchius sperchius*				
1506			ホシヒメホウジャク	*Neogurelca himachala sangaica*				
1507			シモフリスズメ	*Psilogramma increta*				
1508			ビロードスズメ	*Rhagastis mongoliana*				
1509			ミスジビロードスズメ	*Rhagastis trilineata*				
1510			ウチスズメ	*Smerinthus planus planus*				
1511			コウチスズメ	*Smerinthus tokyonis*				
1512			クロスズメ	*Sphinx caliginea caliginea*				

表 4.3-1(23)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1513	チョウ目（鱗翅目）	スズメガ科	コエビガラスズメ	*Sphinx constricta*				
1514			コスズメ	*Theretra japonica*				
1515			キイロスズメ	*Theretra nessus nessus*				
1516			セスジスズメ	*Theretra oldenlandiae oldenlandiae*				
1517		シャチホコガ科	ツマアカシャチホコ	*Clostera anachoreta anachoreta*				
1518			キシャチホコ	*Cutuza straminea*				
1519			ヤスジシャチホコ	*Epodonta lineata*				
1520			セダカシャチホコ	*Euhampsonia cristata*				
1521			ホソバシャチホコ	*Fentonia ocypete ocypete*				
1522			ナカグロモクメシャチホコ	*Furcula furcula sangaica*				
1523			ギンシャチホコ	*Harpyia umbrosa ginkakuji*				
1524			カバイロモクメシャチホコ	*Hupodonta corticalis*				
1525			クロスジシャチホコ	*Lophocosma sarantuja*				
1526			プライヤエグリシャチホコ	*Lophontosia pryeri*				
1527			ウスキシャチホコ	*Mimopydna pallida*				
1528			ナカキシャチホコ	*Peridea gigantea*				
1529			ルリモンシャチホコ	*Peridea oberthueri oberthueri*				
1530			モンクロシャチホコ	*Phalera flavescens*				
1531			オオトビモンシャチホコ	*Phalerodonta manleyi manleyi*				
1532			スズキシャチホコ	*Pheosiopsis cinerea cinerea*				
1533			オオエグリシャチホコ	*Pterostoma gigantinum*				
1534			カバイロシャチホコ	*Ramesa tosta*			NT	
1535			クビワシャチホコ	*Shaka atrovittatus atrovittatus*				
1536			シャチホコガ	*Stauropus fagi persimilis*				
1537			アオシャチホコ	*Syntypistis japonica*				
1538			アオバシャチホコ	*Zaranga permagna*				
1539		ヒトリガ科	マエアカヒトリ	*Aloa lactinea*			NT	CR+EN
1540			カノコガ	*Amata fortunei fortunei*				
1541			ハガタベニコケガ	*Barsine aberrans aberrans*				
1542			スジベニコケガ	*Barsine striata striata*				
1543			シロヒトリ	*Chionarctia nivea*				
1544			キシタホソバ	*Collita vetusta aegrota*				
1545			アカスジシロコケガ	*Cyana hamata hamata*				
1546			ヤネホソバ	*Eilema fuscodorsalis*			NT	
1547			クロテンハイイロコケガ	*Eugoa grisea grisea*				
1548			キベリネズミホソバ	*Ghoria gigantea gigantea*				
1549			アメリカシロヒトリ	*Hyphantria cunea*				
1550			ツマキホソバ	*Katha laevis*				
1551			クワゴマダラヒトリ	*Lemyra imparilis*				
1552			カクモンヒトリ	*Lemyra inaequalis inaequalis*				
1553			ヨツボシホソバ	*Lithosia quadra*				
1554			ベニヘリコケガ	*Miltochrista miniata rosaria*				
1555			キマエホソバ	*Minolea japonica japonica*				
1556			ニセキマエホソバ	*Minolea nankingica*				
1557			スカシコケガ	*Nudaria ranruna*				
1558			モンシロモドキ	*Nyctemera adversata*				
1559			クロスジホソバ	*Pelosia noctis*				
1560			チャオビチビコケガ	*Philenora latifasciata*				
1561			コベニシタヒトリ	*Rhyparioides metelkana flavida*				
1562			ベニシタヒトリ	*Rhyparioides nebulosa*				
1563			スジモンヒトリ	*Spilarctia seriatopunctata seriatopunctata*				
1564			オビヒトリ	*Spilarctia subcarnea*				
1565			キハラゴマダラヒトリ	*Spilosoma lubricipedum*				
1566			アカハラゴマダラヒトリ	*Spilosoma punctarium*				
1567			クロスジチビコケガ	*Stictane rectilinea chinesica*				
1568			ゴマダラキコケガ	*Stigmatophora leacrita*				
1569		ドクガ科	ヒメシロドクガ	*Arctornis chichibense*				
1570			チャドクガ	*Arna pseudoconspersa*				
1571			ドクガ	*Artaxa subflava*				
1572			スギドクガ	*Calliteara argentata*				
1573			アカヒゲドクガ	*Calliteara lunulata lunulata*				
1574			リンゴドクガ	*Calliteara pseudabietis pseudabietis*				
1575			マメドクガ	*Cifuna locuples confusa*				
1576			ゴマフリドクガ	*Euproctis pulverea*				
1577			ブドウドクガ	*Ilema eurydice*				
1578			キアシドクガ	*Ivela auripes*				
1579			キドクガ	*Kidokuga piperita*				
1580			スゲドクガ	*Laelia coenosa sangaica*			NT	
1581			マイマイガ	*Lymantria dispar japonica*				
1582			カシワマイマイ本土亜種	*Lymantria mathura aurora*				

表 4.3-1(24)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1583	チョウ目（鱗翅目）	ドクガ科	マエグロマイマイ	*Lymantria xylina xylina*				
1584			フタホシドクガ	*Nygmia staudingeri*				
1585			ヒメシロモンドクガ	*Orgyia thyellina*				
1586			ウチジロマイマイ	*Parocneria furva*				
1587			モンシロドクガ	*Sphrageidus similis*				
1588			ニワトコドクガ	*Topomesoides jonasii*				
1589		ヤガ科	ニシキキンウワバ	*Acanthoplusia ichinosei*				
1590			フタテンヒメヨトウ	*Acosmetia biguttula*				
1591			リンゴケンモン	*Acronicta intermedia*				
1592			アサケンモン	*Acronicta pruinosa*				
1593			シロハラケンモン	*Acronicta pulverosa*				
1594			ナシケンモン	*Acronicta rumicis*				
1595			コモクメヨトウ	*Actinotia intermediata*				
1596			フジロアツバ	*Adrapsa notigera*				
1597			シラナミクロアツバ	*Adrapsa simplex*				
1598			ナカジロシタバ	*Aedia leucomelas*				
1599			フサヒゲオビキリガ	*Agrochola evelina*				
1600			タマナヤガ	*Agrotis ipsilon*				
1601			カブラヤガ	*Agrotis segetum*				
1602			オオカブラヤガ	*Agrotis tokionis*				
1603			オオウスヅマカラスヨトウ	*Amphipyra erebina*				
1604			ナンカイカラスヨトウ	*Amphipyra horiei*				
1605			カラスヨトウ	*Amphipyra livida corvina*				
1606			オオシマカラスヨトウ	*Amphipyra monolitha surnia*				
1607			ヒメシロテンヤガ	*Amyna axis*				
1608			サビイロヤガ	*Amyna stellata*				
1609			ウスベリケンモン	*Anacronicta nitida*				
1610			モモイロキンウワバ	*Anadevidia hebetata*				
1611			ウリキンウワバ	*Anadevidia peponis*				
1612			カバマダラヨトウ	*Anapamea cuneatoides*				
1613			アオバヤガ	*Anaplectoides prasina*				
1614			ナミグルマアツバ	*Anatatha lignea*				NT
1615			ホソバキリガ	*Anorthoa angustipennis*				
1616			スモモキリガ	*Anorthoa munda*				
1617			アオフシラクモヨトウ	*Antapamea conciliata*				
1618			アオバハガタヨトウ	*Antivaleria viridimacula*				
1619			ギンボシキンウワバ	*Antoculeora locuples*				
1620			アカモクメヨトウ	*Apamea aquila discrepans*				
1621			ヒメハガタヨトウ	*Apamea commixta*				
1622			ネスジシラクモヨトウ	*Apamea hampsoni*				
1623			シロミミハイイロヨトウ	*Apamea sordens*				DD
1624			シロホソコヤガ	*Araeopteron flaccidum*				
1625			マダラホソコヤガ	*Araeopteron fragmentum*				
1626			ウスグロホソコヤガ	*Araeopteron nebulosum*				
1627			フクラスズメ	*Arcte coerula*				
1628			ヒメクルマコヤガ	*Ataboruza divisa*				
1629			シロテンウスグロヨトウ	*Athetis albisignata*				
1630			テンウスイロヨトウ	*Athetis dissimilis*				
1631			ヒメウスグロヨトウ	*Athetis lapidea*				
1632			シロモンオビヨトウ	*Athetis lineosa*				
1633			ヒメサビスジヨトウ	*Athetis stellata*				
1634			ギシギシヨトウ	*Atrachea nitens*				
1635			ガマキンウワバ	*Autographa gamma*				
1636			タマナギンウワバ	*Autographa nigrisigna*				
1637			クロハナコヤガ	*Aventiola pusilla*				
1638			オオトウウスグロクチバ	*Avitta fasciosa*				
1639			ウスグロクチバ	*Avitta puncta*				
1640			モクメヤガ	*Axylia putris*				
1641			ハジマヨトウ	*Bambusiphila vulgaris*				
1642			フタスジアツバ	*Bertula bistrigata*				
1643			シロスジアツバ	*Bertula spacoalis*				
1644			コウンモンクチバ	*Blasticorhinus unduligera*				
1645			ムラクモアツバ	*Bomolocha melanica*				
1646			ホシムラサキアツバ	*Bomolocha nigrobasalis*				
1647			ハングロアツバ	*Bomolocha squalida*				
1648			ヤマガタアツバ	*Bomolocha stygiana*				
1649			ハマオモトヨトウ	*Brithys crini crini*				NT
1650			イチモジキノコヨトウ	*Bryophila granitalis*				
1651			ウスアオモンコヤガ	*Bryophilina mollicula*				
1652			シロスジツマキリヨトウ	*Callopistria albolineola*				

表 4.3-1(25)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1653	チョウ目（鱗翅目）	ヤガ科	ヒメツマキリヨトウ	*Callopistria duplicans*				
1654			キスジツマキリヨトウ	*Callopistria japonibia*				
1655			マダラツマキリヨトウ	*Callopistria repleta*				
1656			オオエグリバ	*Calyptra gruesa*				
1657			ベニシタバ	*Catocala electa zalmunna*				
1658			キシタバ	*Catocala patala*				
1659			コガタキシタバ	*Catocala praegnax obliterata*				
1660			カギモンヤガ	*Cerastis pallescens*				
1661			チビクロアツバ	*Chibidokuga hypenodes*				
1662			エゾコヤガ	*Chorsia noloides*				
1663			イチジクキンウワバ	*Chrysodeixis eriosoma*				
1664			カクモンキシタバ	*Chrysorithrum amatum*				
1665			ハナオイアツバ	*Cidariplura gladiata*				
1666			オオホシミミヨトウ	*Condica illecta*				
1667			ホシオビキリガ	*Conistra albipuncta*				
1668			カシワオビキリガ	*Conistra ardescens*				
1669			ゴマダラキリガ	*Conistra castaneofasciata*				
1670			ミヤマオビキリガ	*Conistra grisescens*				
1671			ナワキリガ	*Conistra nawae*				
1672			カバイロシマコヤガ	*Corgatha argillacea*				
1673			シロスジシマコヤガ	*Corgatha dictaria*				
1674			フタスジシマコヤガ	*Corgatha marumoi*				
1675			シマフコヤガ	*Corgatha nitens*				
1676			シマキリガ	*Cosmia achatina*				
1677			ニレキリガ	*Cosmia affinis*				
1678			シラオビキリガ	*Cosmia camptostigma*				
1679			シマケンモン	*Craniophora fasciata*				
1680			キノコヨトウ	*Cryphia mitsuhashi*				
1681			マダラキノコヨトウ	*Cryphia sugitanii*				
1682			ミツモンキンウワバ	*Ctenoplusia agnata*				
1683			エゾギクキンウワバ	*Ctenoplusia albostriata*				
1684			ホソバセダカモクメ	*Cucullia pustulata fraterna*				
1685			ハガタクチバ	*Daddala lucilla*				
1686			ケンモンミドリキリガ	*Daseochaeta viridis*				
1687			オオバコヤガ	*Diarsia canescens*				
1688			コウスチャヤガ	*Diarsia deparca*				
1689			アカフヤガ	*Diarsia pacifica*				
1690			ウスイロアカフヤガ	*Diarsia ruficauda*				
1691			キミャクヨトウ	*Dictyestra dissecta*				
1692			ウスヅマクチバ	*Dinumma deponens*				
1693			ムラサキアツバ	*Diomea cremata*				
1694			ナカオビキリガ	*Dryobotodes intermissa*				
1695			プライヤオビキリガ	*Dryobotodes pryeri*				
1696			クロモクメヨトウ	*Dypterygia caliginosa*				
1697			モンオビヒメヨトウ	*Dysmilichia gemella*				
1698			シロズアツバ	*Ectogonia butleri*				
1699			オオシラホシアツバ	*Edessena hamada*				
1700			シラホシコヤガ	*Enispa bimaculata*				
1701			シロモンコヤガ	*Erastroides fentoni*				
1702			モンムラサキクチバ	*Ercheia umbrosa*				
1703			オオトモエ	*Erebus ephesperis*				
1704			ウスムラサキクチバ	*Ericeia pertendens*				
1705			アカテンクチバ	*Erygia apicalis*				
1706			セアカキンウワバ	*Erythroplusia pyropia*				
1707			ヒメアケビコノハ	*Eudocima phalonia*				
1708			アケビコノハ	*Eudocima tyrannus*				
1709			モモイロツマキリコヤガ	*Eugnathia pulcherrima*				
1710			ホソバミドリヨトウ	*Euplexidia angusta*				
1711			ヨスジノコメキリガ	*Eupsilia quadrilinea*				
1712			ヨスジキリガ	*Eupsilia strigifera*				
1713			ミツボシキリガ	*Eupsilia tripunctata*				
1714			コフサヤガ	*Eutelia adulatricoides*				
1715			フサヤガ	*Eutelia geyeri*				
1716			プライヤキリバ	*Goniocraspidum pryeri*				
1717			ソトウスアツバ	*Hadennia obliqua*				
1718			ナカジロアツバ	*Harita belinda tetrasticta*				
1719			オオタバコガ	*Helicoverpa armigera armigera*				
1720			ショウブオオヨトウ	*Helotropha leucostigma*				
1721			シマアツバ	*Hepatica linealis*				
1722			クロスジアツバ	*Herminia grisealis*				

表 4.3-1(26)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1723	チョウ目（鱗翅目）	ヤガ科	シラナミアツバ	*Herminia innocens*				
1724			トビスジアツバ	*Herminia tarsicrinalis*				
1725			クロクモヤガ	*Hermonassa cecilia*				
1726			オオシラナミアツバ	*Hipoepa fractalis*				
1727			シロエグリコヤガ	*Holocryptis ussuriensis*				CR+EN
1728			ニジオビベニアツバ	*Homodes vivida*				
1729			ツマテンコヤガ	*Honeyania ragusana*				
1730			ソトウスグロアツバ	*Hydrillodes lentalis*				
1731			クロキシタアツバ	*Hypena amica*				
1732			ヒトスジクロアツバ	*Hypena furva*				
1733			トビモンアツバ	*Hypena indicatalis*				
1734			オオトビモンアツバ	*Hypena occata*				
1735			タイワンキシタアツバ	*Hypena trigonalis*				
1736			カキバトモエ	*Hypopyra vespertilio*				
1737			シロマダラヒメヨトウ	*Iambia japonica*				
1738			シロホシクロアツバ	*Idia curvipalpis*				
1739			ルリモンクチバ	*Lacera procellosa*				
1740			トビフタスジアツバ	*Leiostola mollis*				
1741			コマエアカシロヨトウ	*Leucapamea askoldis*				
1742			カシワキボシキリガ	*Lithophane pruinosa*				
1743			ハンノキリガ	*Lithophane ustulata*				
1744			キマダラアツバ	*Lophomilia polybapta*				
1745			ニセミカドアツバ	*Lophomilia takao*				
1746			チビアツバ	*Luceria fletcheri*				
1747			ナニワクビグロクチバ	*Lygephila lilacina*				
1748			クビグロクチバ	*Lygephila maxima*				
1749			ギンモンシロウワバ	*Macdunnoughia purissima*				
1750			ヒメエビイロアツバ	*Maguda suffusa*				
1751			ヒメオビコヤガ	*Maliattha arefacta*				
1752			ネジロコヤガ	*Maliattha chalcogramma*				
1753			ベニモンコヤガ	*Maliattha rosacea*				
1754			ヒメネジロコヤガ	*Maliattha signifera*				
1755			ヨトウガ	*Mamestra brassicae*				
1756			カバフヒメクチバ	*Mecodina cineracea*				
1757			シャクドウクチバ	*Mecodina nubiferalis*				
1758			ムラサキヒメクチバ	*Mecodina subviolacea*				
1759			ミドリハガタヨトウ	*Meganephria extensa*				
1760			シラホシヨトウ	*Melanchra persicariae*				
1761			ツマオビアツバ	*Mesoplectra griselda*				
1762			シロスジトモエ	*Metopta rectifasciata*				
1763			シロヒシモンコヤガ	*Micardia argentata*				
1764			フタホシコヤガ	*Micardia pulchra*				
1765			スジモンコヤガ	*Microxyla confusa*				
1766			ニセウンモンクチバ	*Mocis ancilla*				
1767			ウンモンクチバ	*Mocis annetta*				
1768			オオウンモンクチバ	*Mocis undata*				
1769			フサキバアツバ	*Mosopia sordidum*				
1770			クロテンキヨトウ	*Mythimna chosenicola*				
1771			マダラキヨトウ	*Mythimna flavostigma*				
1772			ウラギンキヨトウ	*Mythimna hamifera*				
1773			クサシロキヨトウ	*Mythimna loreyi*				
1774			クロシタキヨトウ	*Mythimna placida*				
1775			ウスベニキヨトウ	*Mythimna pudorina*				
1776			フタテンキヨトウ	*Mythimna radiata*				
1777			カバフクロテンキヨトウ	*Mythimna salebrosa*				
1778			アワヨトウ	*Mythimna separata*				
1779			マメチャイロキヨトウ	*Mythimna stolida*				
1780			スジシロキヨトウ	*Mythimna striata*				
1781			フタオビキヨトウ	*Mythimna turca*				
1782			フタオビコヤガ	*Naranga aenescens*				
1783			シロフクロケンモン	*Narcotica niveosparsa*				
1784			チャオビヨトウ	*Niphonyx segregata*				
1785			ヒゲブトクロアツバ	*Nodaria tristis*				
1786			オオチャバネヨトウ	*Nonagria puengeleri*			VU	CR+EN
1787			マエジロヤガ	*Ochropleura plecta glaucimacula*				
1788			ウスモモイロアツバ	*Olulis ayumiae*				
1789			ソトハガタアツバ	*Olulis puncticinctalis*				
1790			アカエグリバ	*Oraesia excavata*				
1791			ノコメセダカヨトウ	*Orthogonia sera*				
1792			アカバキリガ	*Orthosia carnipennis*				

表 4.3-1(27)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1793	チョウ目（鱗翅目）	ヤガ科	ヨモギキリガ	*Orthosia ella*				
1794			カバキリガ	*Orthosia evanida*				
1795			クロテンキリガ	*Orthosia fausta*				
1796			クロミミキリガ	*Orthosia lizetta*				
1797			チャイロキリガ	*Orthosia odiosa*				
1798			ブナキリガ	*Orthosia paromoea*				
1799			ムラサキツマキリアツバ	*Pangrapta curtalis*				
1800			キモンツマキリアツバ	*Pangrapta flavomacula*				
1801			リンゴツマキリアツバ	*Pangrapta obscurata*				
1802			ウンモンツマキリアツバ	*Pangrapta perturbans*				
1803			シロツマキリアツバ	*Pangrapta porphyrea*				
1804			ミツボシツマキリアツバ	*Pangrapta vasava*				
1805			オオトウアツバ	*Panilla petrina*				
1806			ホソナミアツバ	*Paracolax fentoni*				
1807			シロテンムラサキアツバ	*Paracolax pryeri*				
1808			ミスジアツバ	*Paracolax trilinealis*				
1809			チャバネキボシアツバ	*Paragabara ochreipennis*				
1810			アシブトクチバ	*Parallelia stuposa*				
1811			ホソオビアシブトクチバ	*Parallelia arctotaenia*				
1812			ニセタマナヤガ	*Peridroma saucia*				
1813			モクメクチバ	*Perinaenia accipiter*				
1814			シラオビアカガネヨトウ	*Phlogophora illustrata*				
1815			ヨモギコヤガ	*Phyllophila obliterata cretacea*				
1816			マダラエグリバ	*Plusiodonta casta*				
1817			シロフコヤガ	*Protodeltote pygarga*				
1818			フタスジヨトウ	*Protomiselia bilinea*				
1819			キタバコガ	*Pyrrhia umbra*				
1820			マエホシヨトウ	*Pyrrhidivalva sordida*				
1821			クロチャマダラキリガ	*Rhynchaglaea fuscipennis*				
1822			チャマダラキリガ	*Rhynchaglaea scitula*				
1823			マエシロモンアツバ	*Rivula curvifera*				
1824			フタテンアツバ	*Rivula inconspicua*				
1825			オオアカキリバ	*Rusicada privata*				
1826			サッポロチャイロヨトウ	*Sapporia repetita*				
1827			トビイロトラガ	*Sarbanissa subflava*				
1828			シロシタヨトウ	*Sarcopolia illoba*				
1829			ワイギンモンウワバ	*Sclerogenia jessica*				
1830			イネヨトウ	*Sesamia inferens*				
1831			テンオビヨトウ	*Sesamia turpis*				
1832			フサクビヨトウ	*Sideridis honeyi*				
1833			ヒメムラサキヨトウ	*Sideridis unica*				
1834			オオアカマエアツバ	*Simplicia niphona*				
1835			アカマエアツバ	*Simplicia rectalis*				
1836			ニセアカマエアツバ	*Simplicia xanthoma*				
1837			ウスイロカバスジヤガ	*Sineugraphe bipartita*				
1838			カバスジヤガ	*Sineugraphe exusta*				
1839			オオカバスジヤガ	*Sineugraphe oceanica*				
1840			ハグルマトモエ	*Spirama helicina*				
1841			オスグロトモエ	*Spirama retorta*				
1842			スジキリヨトウ	*Spodoptera depravata*				
1843			ハスモンヨトウ	*Spodoptera litura*				
1844			アカマダラヨトウ	*Spodoptera picta*				
1845			ウスアオキノコヨトウ	*Stenoloba clara*				
1846			シロスジキノコヨトウ	*Stenoloba jankowskii*				
1847			ウンモンキノコヨトウ	*Stenoloba manleyi manleyi*				
1848			ニセシロフコヤガ	*Sugia erastroides*				
1849			ネモンシロフコヤガ	*Sugia idiostygia*				
1850			ウスシロフコヤガ	*Sugia stygia*				
1851			スギタニモンキリガ	*Sugitania lepida*				
1852			シラフクチバ	*Sypnoides picta*				
1853			チョウセンツマキリアツバ	*Tamba corealis*				
1854			ウスキトガリキリガ	*Telorta acuminata*				
1855			ノコメトガリキリガ	*Telorta divergens*				
1856			キトガリキリガ	*Telorta edentata*				
1857			ムクゲコノハ	*Thyas juno*				
1858			キクキンウワバ	*Thysanoplusia intermixta*				
1859			シロスジアオヨトウ	*Trachea atriplicis*				
1860			ウスグロアツバ	*Traudinges fumosa*				
1861			キイロアツバ	*Treitschkendia helva*				
1862			ヒメコブヒゲアツバ	*Treitschkendia tarsipennalis*				

表 4.3-1(28)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1863	チョウ目（鱗翅目）	ヤガ科	アミメギンウワバ	*Trichoplusia daubei*				
1864			イラクサギンウワバ	*Trichoplusia ni*				
1865			キバラケンモン	*Trichosea champa*				
1866			シロホシキシタヨトウ	*Triphaenopsis lucilla*				
1867			ニセトガリヨトウ	*Virgo confusa*			NT	
1868			トガリヨトウ	*Virgo datanidia*				
1869			フタトガリアオイガ	*Xanthodes transversa*				
1870			シロモンヤガ	*Xestia c-nigrum c-nigrum*				
1871			ウスチャヤガ	*Xestia dilatata*				
1872			マエキヤガ	*Xestia stupenda*				
1873			キバラモクメキリガ	*Xylena formosa*				
1874			ハネナガモクメキリガ	*Xylena nihonica*				
1875			ホンドコブヒゲアツバ	*Zanclognatha curvilinea*				
1876			コブヒゲアツバ	*Zanclognatha lunalis*				
1877			ヤクシマコブヒゲアツバ	*Zanclognatha yakushimalis*				
1878			アヤナミアツバ	*Zekelita plusioides*				
1879		コブガ科	キノカワガ	*Blenina senex*				
1880			サラサリンガ	*Camptoloma interioratum*				NT
1881			ミドリリンガ	*Clethrophora distincta*				
1882			ベニモンアオリンガ	*Earias roseifera*				
1883			リンゴコブガ	*Evonima mandschuriana*				
1884			ハイイロリンガ	*Gabala argentata*				
1885			ネスジキノカワガ	*Garella ruficirra*				
1886			クロオビリンガ	*Gelastocera kotschubeji*				
1887			ツクシアオリンガ	*Hylophilodes tsukusensis*				
1888			カマフリンガ	*Macrochthonia fervens*				
1889			ソトジロコブガ	*Manoba fasciatus*				
1890			ヨシノコブガ	*Manoba melancholica*				
1891			クロスジコブガ	*Meganola fumosa*				
1892			イナズマコブガ	*Meganola triangulalis*				
1893			ネジロキノカワガ	*Negritothripa hampsoni*				
1894			シタジロコブガ	*Nola infralba*				
1895			マエシロモンキノカワガ	*Nycteola costalis*				
1896			アオスジアオリンガ	*Pseudoips prasinanus*				
1897			アカスジアオリンガ	*Pseudoips sylpha*				
1898			トビイロリンガ	*Siglophora ferreilutea*				
1899			アミメリンガ	*Sinna extrema*				
1900	ハエ目（双翅目）	オビヒメガガンボ科	ウスキシマヘリガガンボ	*Nipponomyia kuwanai*				
1901		ヒメガガンボ科	Adelphomyia pilifera	*Adelphomyia pilifera*				
1902			Antocha (Antocha) bifida	*Antocha (Antocha) bifida*				
－			ウスバガガンボ属	*Antocha* sp.				
1903			Atarba (Atarbodes) minuticornis	*Atarba (Atarbodes) minuticornis*				
1904			Austrolimnophila	*Austrolimnophila*				
1905			ホソバネヒメガガンボ	*Dicranomyia longipennis*				
1906			ヒトエグサガガンボ	*Dicranomyia monostromia*				DD
1907			ハネナガヒメガガンボ	*Dicranoptycha yamata*				
1908			ヒメクチナガガガンボ	*Elephantomyia dietziana dietziana*				
1909			クチナガガガンボ	*Elephantomyia hokkaidensis*				
1910			ギフヒゲナガガガンボ	*Hexatoma gifuensis*				
1911			ヒゲナガガガンボ	*Hexatoma moriokana*				
－			ヒゲナガガガンボ属	*Hexatoma* sp.				
1912			ホシヒメガガンボ	*Hoplolabis asiatica*				
1913			Idiocera (Idiocera) nigrilobata	*Idiocera (Idiocera) nigrilobata*				
1914			カスリヒメガガンボ	*Limnophila japonica*				
－			カスリヒメガガンボ属	*Limnophila* sp.				
1915			Limonia esakii	*Limonia esakii*				
1916			Molophilus (Molophilus) longistylus	*Molophilus (Molophilus) longistylus*				
1917			ハネビロヒメガガンボ	*Ormosia takeuchii*				
－			Ormosia sp.	*Ormosia* sp.				
1918			ホソヒメガガンボ	*Pseudolimnophila inconcussa*				
1919			Styringomyia formosana	*Styringomyia formosana*				
1920		シリブトガガンボ科	クワナシリブトガガンボ	*Triogma kuwanai kuwanai*				
1921		ガガンボ科	Atypopjthalmus (Atypopjthalmus) multisetosus	*Atypopjthalmus (Atypopjthalmus) multisetosus*				
1922			イシハラクシヒゲガガンボ	*Ctenophora ishiharai*				
1923			スネブトクシヒゲガガンボ	*Ctenophora nohirae*				
1924			Dicranomyia (Idioglochina) tokunagana	*Dicranomyia (Idioglochina) tokunagana*				
1925			ベッコウガガンボ	*Dictenidia pictipennis fasciata*				
1926			キマダラヒメガガンボ	*Epiphragma trichomera*				
1927			ミカドガガンボ	*Holorusia mikado*				
1928			マエキガガンボ	*Indotipula yamata yamata*				

表 4.3-1(29)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1929	ハエ目（双翅目）	ガガンボ科	Limonia japonica	*Limonia japonica*				
1930			Nephrotoma contrasta	*Nephrotoma contrasta*				
1931			エゾホソガガンボ	*Nephrotoma cornicina*				
1932			Nephrotoma flammeola	*Nephrotoma flammeola*				
1933			Nephrotoma flavonata	*Nephrotoma flavonata*				
1934			Nephrotoma geminata	*Nephrotoma geminata*				
1935			Nephrotoma leeuweni	*Nephrotoma leeuweni*				
1936			Nephrotoma palloris	*Nephrotoma palloris*				
1937			オオマキバガガンボ	*Nephrotoma pullata*				
1938			キイロホソガガンボ	*Nephrotoma virgata*				
1939			ホリカワクシヒゲガガンボ	*Pselliophora bifascipennis*				
1940			キリウジガガンボ	*Tipula aino*				
1941			カスリガガンボ	*Tipula bubo*				
1942			マダラガガンボ	*Tipula coquilletti*				
1943			モイワガガンボ	*Tipula moiwana*				
1944			マドガガンボ	*Tipula nova*				
1945			クロキリウジガガンボ	*Tipula patagiata*				
1946			Tipula (Acutipula) bulfifera	*Tipula (Acutipula) bulfifera*				
1947			Tipula (Acutipula) tokionis	*Tipula (Acutipula) tokionis*				
1948			Tipula (incertae sedis) yusou	*Tipula (incertae sedis) yusou*				
1949			Tipula (Platytipula) ecaudata	*Tipula (Platytipula) ecaudata*				
1950			Tipula (Pterelachisus) autumna	*Tipula (Pterelachisus) autumna*				
1951			マエグロノコギリガガンボ（ヤチガガンボ）	*Tipula (Vestiplex) nigricostata*				
1952			ヤチノコギリガガンボ（ヤチガガンボ）	*Tipula (Vestiplex) serricauda*				
1953			Tipula (Nippotipula) sp.	*Tipula （Nippotipula）* sp.				
－			ヤマトティプラ亜属	*Tipula(Yamatotipula)* sp.				
－			ガガンボ科	Tipulidae				
1954		チョウバエ科	オオケチョウバエ	*Clogmia albipunctata*				
1955			Pericoma sp.	*Pericoma* sp.				
1956			チョウバエ属	*Psychoda* sp.				
1957			Telmatoscopus sp.	*Telmatoscopus* sp.				
1958			ホシチョウバエ	*Tinearia alternata*				
1959		コシボソガガンボ科	オビコシボソガガンボ	*Ptychoptera japonica*				
－		ヌカカ科	ヌカカ科	*Ceratopogonidae*				
1960			イソヌカカ	*Culicoides (Beltranmyia) circumscriptus*				
1961			オオモンヌカカ	*Culicoides (Culicoides) dubius*				
1962		ユスリカ科	ダンダラヒメユスリカ属	*Ablabesmyia* sp.				
1963			ケブカエリユスリカ属	*Brillia* sp.				
1964			ハダカユスリカ属	*Cardiocladius* sp.				
1965			セスジユスリカ	*Chironomus yoshimatsui*				
－			ユスリカ属	*Chironomus* sp.				
1966			エダゲヒゲユスリカ属	*Cladotanytarsus* sp.				
1967			コナユスリカ属	*Corynoneura* sp.				
1968			クロツヤエリユスリカ	*Cricotopus rufiventris*				
－			ツヤユスリカ属	*Cricotopus* sp.				
1969			カマガタユスリカ属	*Cryptochironomus* sp.				
1970			スジカマガタユスリカ属	*Demicryptochironomus* sp.				
1971			ホソミユスリカ属	*Dicrotendipes* sp.				
1972			フタエユスリカ属	*Diplocladius* sp.				
1973			テンマクエリユスリカ属	*Eukiefferiella* sp.				
1974			セボリユスリカ属	*Glyptotendipes* sp.				
1975			ケナガエリユスリカ属	*Gymnometriocnemus* sp.				
1976			ナガスネユスリカ属	*Micropsectra* sp.				
1977			ツヤムネユスリカ属	*Microtendipes* sp.				
1978			コガタエリユスリカ属	*Nanocladius* sp.				
1979			コヒメユスリカ属	*Nilotanypus* sp.				
1980			エリユスリカ属	*Orthocladius* sp.				
－			エリユスリカ亜科	Orthocladiinae				
1981			ニセトゲアシエリユスリカ属	*Parachaetocladius* sp.				
1982			ニセナガレツヤユスリカ属	*Paracricotopus* sp.				
1983			ニセケバネエリユスリカ属	*Parametriocnemus* sp.				
1984			カワリユスリカ属	*Paratendipes* sp.				
1985			クロツヤエリユスリカ属	*Paratrichocladius* sp.				
－			ヤマトヒメユスリカ族	Pentaneurini				
1986			ハモンユスリカ属	*Polypedilum* sp.				
1987			アカムシユスリカ	*Propsilocerus akamusi*				
1988			Pseudosmittia bifurcata	*Pseudosmittia bifurcata*				
1989			ナガレツヤユスリカ属	*Rheocricotopus* sp.				
1990			ウスギヌヒメユスリカ属	*Rheopelopia* sp.				
1991			ナガレユスリカ属	*Rheotanytarsus* sp.				

表 4.3-1(30)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1992	ハエ目（双翅目）	ユスリカ科	アシマダラユスリカ属	*Stictochironomus* sp.				
1993			ヒゲユスリカ属	*Tanytarsus* sp.				
1994			ヌカユスリカ属	*Thienemanniella* sp.				
1995			トクナガエリユスリカ属	*Tokunagaia* sp.				
1996			ニセテンマクエリユスリカ属	*Tvetenia* sp.				
－			ユスリカ亜科	Chironominae				
－			ユスリカ科	Chironomidae				
1997		カ科	キンイロヤブカ	*Aedimorphus vexans nipponii*				
1998			ヤマトハマダラカ	*Anopheles lindesayi japonicus*				
1999			シナハマダラカ	*Anopheles sinensis*				
2000			オオクロヤブカ	*Armigeres subalbatus*				
2001			アカイエカ	*Culex pipiens pallens*				
2002			コガタアカイエカ	*Culex tritaeniorhynchus*				
2003			シロカタヤブカ	*Downsiomyia nipponicus*				
2004			ヤマトヤブカ	*Hulecoeteomyia japonica japonica*				
2005			ヒトスジシマカ	*Stegomyia albopicta*				
2006			ヤマダシマカ	*Stegomyia flavopicta flavopictus*				
2007			トウゴウヤブカ	*Tanakaius togoi*				
2008			キンパラナガハシカ	*Tripteroides bambusa bambusa*				
2009			フタクロホシチビカ	*Uranotaenia novobscura novoscura*				
－			ナミカ亜科	Culicinae				
2010		ホソカ科	マダラホソカ	*Dixa longistyla*				
2011			ニッポンホソカ	*Dixa nipponica*				
－			ホソカ属	*Dixa* sp.				
2012		ブユ科	ミエミヤマブユ	*Eusimulium mie*				
2013			アシマダラブユ	*Simulium japonicum*				
2014			オオイタツメトゲブユ	*Simulium oitanum*				
2015			ウチダツノマユブユ	*Simulium uchidai*				
2016			ミエツノマユブユ	*Simulium (Nevermannia) mie*				
－			アシマダラブユ属	*Simulium* sp.				
2017		ケバエ科	メスアカケバエ	*Bibio japonica*				
2018			ハグロケバエ	*Bibio tenebrosus*				
2019			ヒメセアカケバエ	*Penthetria japonica*				
2020			ヒメセグロケバエ	*Penthetria velutina*				
2021		タマバエ科	ノブドウミタマバエ	*Asphondylia baca*				
2022			マサキタマバエ	*Masakimyia pustulae*				
2023		クロバネキノコバエ科	ホンクロバネキノコバエ	*Sciara hemerobioides*				
2024		クサアブ科	Allognosta flavifemoralis	*Allognosta flavifemoralis*				
2025			イワタシギクサアブ	*Dialysis iwatai*				
2026		シギアブ科	キアシキンシギアブ	*Chrysopilus ditissimis*				
2027			キイロシギアブ	*Rhagio flavimedius*				
2028			ヤマトシギアブ	*Rhagio japonucus*				
2029		ミズアブ科	キアシホソルリミズアブ	*Actina diadema*				
2030			エゾホソルリミズアブ	*Actina jezoensis*				
2031			キバラトゲナシミズアブ	*Allognosta japonica*				
2032			ハラビロミズアブ	*Clitellaria obtusa*				
2033			ネグロミズアブ	*Craspedometopon frontale*				
2034			アメリカミズアブ	*Hermetia illucens*				
2035			ハラキンミズアブ	*Microchrysa flaviventris*				
2036			コガタミズアブ	*Odontomyia garatas*				DD
2037			キイロコウカアブ	*Ptecticus aurifer*				
2038			ヒメルリミズアブ	*Ptecticus matsumurae*				
2039			コウカアブ	*Ptecticus tenebrifer*				
2040			ハキナガミズアブ	*Rhaphiocerina hakiensis*				
2041			ルリミズアブ	*Sargus niphonensis*				
2042			ミズアブ	*Stratiomys japonica*				
－			ミズアブ科	Stratiomyidae				
2043		アブ科	クロキンメアブ	*Chrysops japonicus*				
2044			アカウシアブ	*Tabanus chrysurus*				
2045			ヤマトアブ	*Tabanus rufidens*				
2046			シロフアブ	*Tabanus trigeminus*				
2047			ウシアブ	*Tabanus trigonus*				DD
2048		キアブモドキ科	トラキアブモドキ	*Xylomya shikokuana*				
2049		ムシヒキアブ科	トラフムシヒキ	*Astochia virgatipes*				
2050			イッシキイシアブ	*Choerades isshikii*				
2051			アオメアブ	*Cophinopoda chinensis*				
2052			ハラボソムシヒキ	*Dioctria nakanensis*				
2053			チャイロムシヒキ	*Eutolmus brevistylus*				
2054			アイノヒゲボソムシヒキ	*Grypoctonus aino*				
2055			ハタケヤマヒゲボソムシヒキ	*Grypoctonus hatakeyamae*				

表 4.3-1(31)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2056	ハエ目（双翅目）	ムシヒキアブ科	オオイシアブ	*Laphria mitsukurii*				
2057			チャイロオオイシアブ	*Laphria rufa*				
2058			ホソムシヒキ	*Leptogaster basilaris*				
2059			アシナガムシヒキ	*Molobratia japonica*				
2060			ナミマガリケムシヒキ	*Neoitamus angusticornis*				
2061			トゲツヤイシアブ	*Pogonosoma funebre*				
2062			シオヤアブ	*Promachus yesonicus*				
2063			ハマベコムシヒキ	*Stichopogon infuscatus*				
2064		ツリアブ科	コウヤツリアブ	*Anthrax aygulus*				
2065			ビロウドツリアブ	*Bombylius major*				
2066			ヒロクキツルギアブ	*Cliorismia latiphalangis*				
2067			クロバネツリアブ	*Ligyra tantalus*				
2068			スキバツリアブ	*Villa limbata*				
2069		ツルギアブ科	ナギサツルギアブ	*Acrosathe stylata*				希少
2070			シロツルギアブ	*Spiriverpa argentata*				
2071		アシナガバエ科	マダラアシナガバエ	*Mesorhaga nebulosus*				
－			アシナガバエ科	Dolichopodidae				
2072		アタマアブ科	Eudorylas luteiventris	*Eudorylas luteiventris*				
2073		ハナアブ科	ツマグロコシボソハナアブ	*Allobaccha apicalis*				
2074			オオヒメヒラタアブ	*Allograpta iavana*				
2075			ナガヒラタアブ	*Asarkina porcina*				
2076			マダラコシボソハナアブ	*Baccha maculata*				
2077			ニッポンクロヒラタアブ	*Betasyrphus nipponensis*				
2078			クロヒラタアブ	*Betasyrphus serarius*				
2079			キアシハラナガハナアブ	*Brachypalpoides simplex*				
2080			フタイロハラナガハナアブ	*Chalcosyrphus dicolor*				
2081			ハラアカハラナガハナアブ	*Chalcosyrphus frontalis*				
2082			クロアシハラナガハナアブ	*Chalcosyrphus nigricans*				
2083			ニッポンクロハナアブ	*Cheilosia japonica*				
2084			キスネクロハナアブ	*Cheilosia ochripes*				
2085			オカザキタマヒラタアブ	*Chrysogaster okazakii*				
2086			ミツオビヒゲナガハナアブ	*Chrysotoxum coreanum*				DD
2087			フタスジヒラタアブ	*Dasysyrphus bilineatus*				
2088			ヘリヒラタアブ	*Didea alneti*				
2089			マルヒラタアブ	*Didea fasciata*				
2090			ツマキオオヒラタアブ	*Dideoides coquilletti*				
2091			ヨコジマオオヒラタアブ	*Dideoides latus*				
2092			アイノオビヒラタアブ	*Epistrophe aino*				
2093			ノラヒラタアブ	*Epistrophe griseofasciata*				
2094			ホソヒラタアブ	*Episyrphus balteatus*				
2095			キゴシハナアブ	*Eristalinus quinquestriatus*				
2096			ホシメハナアブ	*Eristalinus tarsalis*				
2097			シマハナアブ	*Eristalis cerealis*				
2098			キョウコシマハナアブ	*Eristalis kyokoae*				
2099			ナミハナアブ	*Eristalis tenax*				
2100			ナミホシヒラタアブ	*Eupeodes bucculatus*				
2101			フタホシヒラタアブ	*Eupeodes corollae*				
2102			アシブトハナアブ	*Helophilus eristaloideus*				
2103			ルリハナアブ	*Kertesziomyia viridis*				
2104			カクモンハラブトハナアブ	*Mallota abdominalis*				
2105			タカサゴハラブトハナアブ	*Mallota takasagensis*				
2106			ニセクロオビハラブトハナアブ	*Mallota yakushimana*				
2107			ホソツヤヒラタアブ	*Melanostoma mellinum*				
2108			オビホソヒラタアブ	*Meliscaeva cinctella*				
2109			カオグロオビホソヒラタアブ	*Meliscaeva omogensis*				
2110			シマアシブトハナアブ	*Mesembrius peregrinus*				
2111			キンアリノスアブ	*Microdon auricomus*				
2112			アリノスアブ	*Microdon japonicus*				
2113			シロスジナガハナアブ	*Milesia undulata*				
2114			ハチモドキハナアブ	*Monoceromyia pleuralis*				
2115			Paragus (Paragus) clausseni	*Paragus (Paragus) clausseni*				
2116			キアシマメヒラタアブ	*Paragus haemorrhous*				
2117			ノヒラマメヒラタアブ	*Paragus quadrifasciatus*				
2118			クチグロヒラタアブ	*Parasyrphus punctulatus*				
2119			オオハナアブ	*Phytomia zonata*				
2120			ウスモンコヒラタアブ	*Pipiza bimaclata*				
2121			クロツヤヒラアシヒラタアブ	*Platycheirus urakawensis*				
2122			ハナダカハナアブ	*Rhingia laevigata*				
2123			ハナナガモモブトハナアブ	*Rhinotropidia rostrata*				
2124			コマバムツホシヒラタアブ	*Scaeva komabensis*				

表 4.3-1(32)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2193	ハエ目（双翅目）	ミバエ科	フチモンハマダラミバエ	*Nemoriludia fusca*				
2194			ヨモギマルフシミバエ	*Oedaspis japonica*				
2195			ハルササハマダラミバエ	*Paragastrozona japonica*				
2196			ツワブキケブカミバエ	*Paratephritis fukaii*				
2197			クロホソスジハマダラミバエ	*Philophylla fossata*				
2198			ミツボシハマダラミバエ	*Proanoplomus japonicus*				
2199			オウトウハマダラミバエ	*Rhacochlaena japonica*				
2200			ミカドハマダラミバエ	*Staurella mikado*				DD
2201			ツマホシケブカミバエ	*Trupanea convergens*				
2202			ミスジハマダラミバエ	*Trypeta trifasciata*				
2203			ミサキオナガミバエ	*Urophora misakiana*				VU
2204		ハナバエ科	クロオビハナバエ	*Anthomyia illocata*				
2205			タネバエ	*Delia platura*				
2206			ノトツマグロイソバエ	*Fucellia apicalis*				
2207			アカザモグリハナバエ	*Pegomya exilis*				
2208		クロバエ科	ケブカクロバエ	*Aldrichina grahami*				
2209			オオクロバエ	*Calliphora nigribarbis*				
2210			オビキンバエ	*Chrysomya megacephala*				
2211			ホホグロオビキンバエ	*Chrysomya pinguis*				
2212			トウキョウキンバエ	*Hemipyrellia ligurriens*				
2213			コガネキンバエ	*Lucilia ampullacea*				
2214			キンバエ	*Lucilia caesar*				
2215			ヒツジキンバエ	*Lucilia cuprina*				
2216			ミドリキンバエ	*Lucilia illustris*				
2217			ミヤマキンバエ	*Lucilia papuensis*				
2218			スネアカキンバエ	*Lucilia porphyrina*				
2219			ヒロズキンバエ	*Lucilia sericata*				
2220			ハイイロバエ	*Polleniopsis mongolica*				
2221			ツマグロキンバエ	*Stomorhina obsoleta*				
2222			シリブトミドリバエ	*Strongyloneura prasina*				
2223			フタオクロバエ	*Triceratopyga calliphoroides*				
2224			クモマトラフバエ	*Xanthotryxus mongol*				
2225		ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ	*Fannia canicularis*				
2226			ホリヒメイエバエ	*Fannia horii*				
2227			ヤマトヒメイエバエ	*Fannia japonica japonica*				
2228			ウスズミヒメイエバエ	*Fannia prisca*				
2229			ホホヒゲヒメイエバエ	*Fannia vernalis*				
2230		イエバエ科	カガハナゲバエ	*Dichaetomyia bibax*				
2231			セマダライエバエ	*Graphomya maculata*				
2232			ヒメセマダライエバエ	*Graphomya rufitibia*				
2233			チャバネヒメクロバエ	*Hydrotaea chalcogaster*				
2234			ヒメクロバエ	*Hydrotaea ignava*				
2235			シナホソカトリバエ	*Lispe leucospila sinica*				
2236			イエバエ	*Musca domestica*				
2237			モモグロオオイエバエ	*Muscina angustifrons*				
2238			オオイエバエ	*Muscina stabulans*				
2239			ヘリグロハナレメイエバエ	*Orchisia costata*				
2240			スネアカトゲアシイエバエ	*Phaonia angelicae fuscitibia*				
2241			キヒゲトゲアシイエバエ	*Phaonia fuscipalpis*				
2242			シリモチハナレメイエバエ	*Pygophora confusa*				
–			イエバエ科	Muscidae				
2243		ニクバエ科	ハマベハヤトビバエ	*Leptocerinae fuscipennis*				
2244			ハチノスヤドリニクバエ	*Macronychia polydon*				
2245			タイワンヤドリニクバエ	*Metopia sauteri*				
2246			ゲンロクニクバエ	*Sarcophaga albiceps*				
2247			イソニクバエ	*Sarcophaga brevicornis*				
2248			モトミセラニクバエ	*Sarcophaga dux*				
2249			ホクリクニクバエ	*Sarcophaga hokurikuensis*				
2250			ホリニクバエ	*Sarcophaga horii*				
2251			カガニクバエ	*Sarcophaga kagaensis*				
2252			シリグロニクバエ	*Sarcophaga melanura*				
2253			キヒゲミセラニクバエ	*Sarcophaga misera*				
2254			ムサシノニクバエ	*Sarcophaga musashinensis*				
2255			センチニクバエ	*Sarcophaga peregrina*				
2256			ナミニクバエ	*Sarcophaga similis*				
2257			ツシマニクバエ	*Sarcophaga tsushimae*				
2258			フィールドニクバエ	*Sarcophaga uniseta*				
2259		フンバエ科	キアシフンバエ	*Scathophaga mellipes*				
2260			ヒメフンバエ	*Scathophaga stercoraria*				
2261		ヤドリバエ科	Chaetexorista diacalis	*Chaetexorista diacalis*				

表 4.3-1(33)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2262	ハエ目（双翅目）	ヤドリバエ科	ノコギリハリバエ	*Compsilura concinnata*				
2263			ヒョウタンハリバエ	*Cylindromyia (Malayocyptera) pandulata*				
2264			シナヒラタヤドリバエ	*Ectophasia rotundiventris*				
2265			Euvespivora decipiens	*Euvespivora decipiens*				
2266			ブランコヤドリバエ	*Exorista japonica*				
2267			オオズクロスジハリバエ	*Gonia chinensis*				
2268			マルボシヒラタハナバエ	*Gymnosoma rotundatum*				
2269			カイコノクロウジバエ	*Pales pavida*				
2270			Pentatomophaga latifascia	*Pentatomophaga latifascia*				
2271			オオズハイイロハリバエ	*Pseudogonia rufifrons*				
2272			キナコハリバエ	*Senometopia excisa*				
2273			Senometopia prima	*Senometopia prima*				
2274			マダラヤドリバエ	*Sturmia bella*				
2275			Sumpigaster sumatrensis	*Sumpigaster sumatrensis*				
2276			Tachina amurensis	*Tachina amurensis*				
2277			ヨコジマオオハリバエ	*Tachina jakovlevi*				
2278			Tachina micado	*Tachina micado*				
2279			アシナガハリバエ	*Thelaira nigripes*				
2280			Trigonospila ludio	*Trigonospila ludio*				
2281			シロオビハリバエ	*Trigonospila transvittata*				
2282			Trigonospila vittigera	*Trigonospila vittigera*				
2283		フンコバエ科	ハマベフトゲフンコバエ	*Rachispoda fuseipennis*				
2284	コウチュウ目（鞘翅目）	ホソクビゴミムシ科	ヒメホソクビゴミムシ	*Brachinus incomptus*				VU
2285			オオホソクビゴミムシ	*Brachinus scotomedes*				
2286			コホソクビゴミムシ	*Brachinus stenoderus*				
2287			ミイデラゴミムシ	*Pheropsophus jessoensis*				
2288		オサムシ科	キイロチビゴモクムシ	*Acupalpus inornatus*				
2289			ニッポンヨツボシゴミムシ	*Adischissus japonicus*				
2290			オオヨツボシゴミムシ	*Dischissus mirandus*				VU
2291			トゲアトキリゴミムシ	*Aephnidius adelioides*				
2292			アオグロヒラタゴミムシ	*Agonum chalcomum*				
2293			セスジヒラタゴミムシ	*Agonum daimio*				
2294			タンゴヒラタゴミムシ	*Agonum leucopus*				
2295			アシミゾヒメヒラタゴミムシ	*Agonum thoreyi nipponicum*				NT
2296			キアシマルガタゴミムシ	*Amara ampliata*				
2297			マルガタゴミムシ	*Amara chalcites*				
2298			コアオマルガタゴミムシ	*Amara chalcophaea*				
2299			ニセマルガタゴミムシ	*Amara congrua*				
2300			オオマルガタゴミムシ	*Amara gigantea*				
2301			ナガマルガタゴミムシ	*Amara macronota ovalipennis*				
2302			ヒメツヤマルガタゴミムシ	*Amara nipponica*				
2303			コマルガタゴミムシ	*Amara simplicidens*				
2304			ホシボシゴミムシ	*Anisodactylus punctatipennis*				
2305			オオホシボシゴミムシ	*Anisodactylus sadoensis*				
2306			ゴミムシ	*Anisodactylus signatus*				
2307			ヒメゴミムシ	*Anisodactylus tricuspidatus tricuspidatus*				
2308			キボシアトキリゴミムシ	*Anomotarus stigmula*				
2309			キベリゴモクムシ	*Anoplogenius cyanescens*				
2310			スジミズアトキリゴミムシ	*Apristus grandis*				
2311			キアシヌレチゴミムシ	*Archipatrobus flavipes*				
2312			メダカチビカワゴミムシ	*Asaphidion semilucidum*				
2313			チャイロホソモリヒラタゴミムシ	*Atranodes kyushuense hondonum*				
2314			クロズカタキバゴミムシ	*Badister nigriceps*				NT
2315			ヨツモンカタキバゴミムシ	*Badister pictus*				NT
2316			オオフタモンミズギワゴミムシ	*Bembidion bandotaro*				
2317			アオミズギワゴミムシ	*Bembidion chloreum*				
2318			ホソトビミズギワゴミムシ	*Bembidion chloropus*				
2319			ガロアミズギワゴミムシ	*Bembidion galloisi*				
2320			アオヘリミズギワゴミムシ	*Bembidion leucolenum*				NT
2321			オオアオミズギワゴミムシ	*Bembidion lissonotum*				
2322			ハコネミズギワゴミムシ	*Bembidion lucillum*				
2323			ヨツボシミズギワゴミムシ	*Bembidion morawitzi*				
2324			アトモンミズギワゴミムシ	*Bembidion niloticum batesi*				
2325			クロミズギワゴミムシ	*Bembidion oxyglymma*				
2326			オオズミズギワゴミムシ	*Bembidion quadriimpressum*				DD
2327			ミヤマミズギワゴミムシ	*Bembidion sanatum*				
2328			キモンナガミズギワゴミムシ	*Bembidion scopulinum*				
2329			ハマベミズギワゴミムシ	*Bembidion semiluitum semiluitum*				NT
2330			フタモンミズギワゴミムシ	*Bembidion semilunium*				
2331			ウミミズギワゴミムシ	*Bembidion umi*			NT	VU

表 4.3-1(34)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2332	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	マルヒメゴモクムシ	*Bradycellus fimbriatus*				
2333			ニセオオズヒメゴモクムシ	*Bradycellus koltzei*				
2334			アカクビヒメゴモクムシ	*Bradycellus laeticolor*				
2335			チビヒメゴモクムシ	*Bradycellus subditus*				
2336			ムネミゾマルゴミムシ	*Caelostomus picipes japonicus*				
2337			キガシラアオアトキリゴミムシ	*Calleida lepida*				
2338			アオアトキリゴミムシ	*Calleida onoha*				
2339			クロカタビロオサムシ	*Calosoma maximowiczi*				
2340			エゾカタビロオサムシ	*Campalita chinense*				
2341			クロオサムシ関東地方北西部亜種	*Carabus albrechti esakianus*				
2342			マイマイカブリ関東・中部地方亜種	*Carabus blaptoides oxuroides*				
2343			アオオサムシ	*Carabus insulicola insulicola*				
2344			クロナガオサムシ	*Carabus procerulus procerulus*				
2345			アカガネアオゴミムシ	*Chlaenius abstersus*				NT
2346			コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus*				
2347			キベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumductus*				
2348			ヒトツメアオゴミムシ	*Chlaenius deliciolus*			NT	EX
2349			コアトワアオゴミムシ	*Chlaenius hamifer*				NT
2350			ヒメキベリアオゴミムシ	*Chlaenius inops*				
2351			ニセコガシラアオゴミムシ	*Chlaenius kurosawai*				
2352			オオアトボシアオゴミムシ	*Chlaenius micans*				
2353			アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius naeviger*				
2354			クロヒゲアオゴミムシ	*Chlaenius ocreatus*				
2355			アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes*				
2356			キボシアオゴミムシ	*Chlaenius posticalis*				
2357			ムナビロアオゴミムシ	*Chlaenius sericimicans*				
2358			ムナビロアトボシアオゴミムシ	*Chlaenius tetragonoderus*				
2359			コガシラアオゴミムシ	*Chlaenius variicornis*				
2360			アトワアオゴミムシ	*Chlaenius virgulifer*				
2361			ツヤヒメヒョウタンゴミムシ	*Clivina castanea*				DD
2362			クロヒメヒョウタンゴミムシ	*Clivina lewisi*				NT
2363			ヒメヒョウタンゴミムシ	*Clivina niponensis*				
2364			コヒメヒョウタンゴミムシ	*Clivina vulgivaga*				
2365			クロモリヒラタゴミムシ	*Colpodes atricomes*				
2366			オオアオモリヒラタゴミムシ	*Colpodes buchanani*				
2367			ハラアカモリヒラタゴミムシ	*Colpodes japonicus*				
2368			イクビモリヒラタゴミムシ	*Colpodes modestior*				
2369			クビアカモリヒラタゴミムシ	*Colpodes rubriolus*				
2370			ハギキノコゴミムシ	*Coptodera subapicalis*				
2371			ヒラタマルゴミムシ	*Cosmodiscus platynotus*				
2372			オサムシモドキ	*Craspedonotus tibialis*				VU
2373			ヒメマイマイカブリ	*Damaster blaptoides oxuroides*				
2374			ミズギワアトキリゴミムシ	*Demetrias marginicollis*				
2375			オオアオホソゴミムシ	*Desera geniculata*				CR+EN
2376			キベリチビゴモクムシ	*Dicheirotrichus tenuimanus*				
2377			ルリヒラタゴミムシ	*Dicranoncus femoralis*				
2378			オオスナハラゴミムシ	*Diplocheila zeelandica*				
2379			カワチゴミムシ	*Diplous caligatus*				
2380			ヤセアトキリゴミムシ	*Dolichoctis luctuosus*				
2381			コヨツボシアトキリゴミムシ	*Dolichoctis striatus striatus*				
2382			セアカヒラタゴミムシ	*Dolichus halensis*				
2383			ベーツホソアトキリゴミムシ	*Dromius batesi*				
2384			ホソアトキリゴミムシ	*Dromius prolixus*				
2385			イクビホソアトキリゴミムシ	*Dromius quadraticollis*				
2386			アオヘリホソゴミムシ	*Drypta japonica*				
2387			ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ	*Dyschirius ovicollis*				
2388			キイロマルコミズギワゴミムシ	*Elaphropus latissimus*				
2389			セダカコミズギワゴミムシ	*Elaphropus nipponicus*				
2390			コハンミョウモドキ	*Elaphrus punctatus*			EN	VU
2391			オオキベリアオゴミムシ	*Epomis nigricans*				
2392			クビボソゴミムシ	*Galerita orientalis*				
2393			スジアオゴミムシ	*Haplochlaenius costiger*				
2394			マルゴモクムシ	*Harpalus （Harpalus） bungii*				
2395			トゲアシゴモクムシ	*Harpalus calceatus*				
2396			オオゴモクムシ	*Harpalus capito*				
2397			ツヤアオゴモクムシ	*Harpalus chalcentus*				
2398			ヒロゴモクムシ	*Harpalus corporosus*				
2399			ハコダテゴモクムシ	*Harpalus discrepans*				
2400			オオズケゴモクムシ	*Harpalus eous*				
2401			ケウスゴモクムシ	*Harpalus griseus*				

表 4.3-1(35)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2402	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	ヒメケゴモクムシ	*Harpalus jureceki*				
2403			クロゴモクムシ	*Harpalus niigatanus*				
2404			ヒラタゴモクムシ	*Harpalus platynotus*				
2405			ケブカゴモクムシ	*Harpalus （Pseudoophonus） pseudophonoides*				
2406			ニセクロゴモクムシ	*Harpalus simplicidens*				
2407			ウスアカクロゴモクムシ	*Harpalus sinicus*				
2408			アカアシマルガタゴモクムシ	*Harpalus tinctulus*				
2409			コゴモクムシ	*Harpalus tridens*				
2410			ケゴモクムシ	*Harpalus vicarius*				
2411			クロモンヒラナガゴミムシ	*Hexagonia insignis*				
2412			ヤマトトックリゴミムシ	*Lachnocrepis japonica*				
2413			トックリゴミムシ	*Lachnocrepis prolixa*				
2414			キクビアオアトキリゴミムシ	*Lachnolebia cribricollis*				
2415			フタホシアトキリゴミムシ	*Lebia bifenestrata*				
2416			ホシハネビロアトキリゴミムシ	*Lebia calycophora*				
2417			ハネビロアトキリゴミムシ	*Lebia duplex*				
2418			アトグロジュウジアトキリゴミムシ	*Lebia idae*				
2419			ジュウジアトキリゴミムシ	*Lebia retrofasciata*				
2420			コルリアトキリゴミムシ	*Lebia viridis*				
2421			ヤホシゴミムシ	*Lebidia octoguttata*				
2422			オオゴミムシ	*Lesticus magnus*				
2423			ヤノホソコミズギワゴミムシ	*Lymnastis yanoi*				DD
2424			イマイチビアトキリゴミムシ	*Microlestes imaii*				DD
2425			チビアトキリゴミムシ	*Microlestes minutulus*				
2426			キベリマルクビゴミムシ	*Nebria livida angulata*			EN	CR+EN
2427			チャバネクビナガゴミムシ	*Odacantha aegrota*				
2428			ナカグロキバネクビナガゴミムシ	*Odacantha puziloi*				VU
2429			ニセトックリゴミムシ	*Oodes helopioides tokyoensis*				
2430			オオトックリゴミムシ	*Oodes vicarius*			NT	NT
2431			キアシクロゴモクムシ	*Ophonus tschiliensis*				
2432			メダカアトキリゴミムシ	*Orionella lewisii*				
2433			クビナガゴモクムシ	*Oxycentrus argutoroides*				
2434			ヨツボシゴミムシ	*Panagaeus japonicus*				NT
2435			クロオビコミズギワゴミムシ	*Paratachys fasciatus uenoi*				
2436			ウスイロコミズギワゴミムシ	*Paratachys pallescens*				
2437			ウスオビコミズギワゴミムシ	*Paratachys sericans*				
2438			トカラコミズギワゴミムシ	*Paratachys troglophilus*				DD
2439			ヒラタアトキリゴミムシ	*Parena cavipennis*				
2440			オオヒラタアトキリゴミムシ	*Parena laesipennis*				
2441			アオヘリアトキリゴミムシ	*Parena latecincta*				
2442			ヒトツメアトキリゴミムシ	*Parena monostigma*				
2443			クロヘリアトキリゴミムシ	*Parena nigrolineata nipponensis*				
2444			オオヨツアナアトキリゴミムシ	*Parena perforata*				
2445			カドツブゴミムシ	*Pentagonica angulosa*				
2446			クロツブゴミムシ	*Pentagonica subcordicollis*				
2447			クロズホナシゴミムシ	*Perigona nigriceps*				
2448			ホソチビゴミムシ	*Perileptus japonicus*				
2449			オオホソチビゴミムシ	*Perileptus laticeps laticeps*				DD
2450			ツヤホソチビゴミムシ	*Perileptus naraensis*				
2451			イグチケブカゴミムシ	*Peronomerus auripilis*			NT	NT
2452			キイロアトキリゴミムシ	*Philorhizus optimus*				
2453			フタホシスジバネゴミムシ	*Planetes puncticeps*				
2454			カラカネゴモクムシ	*Platymetopus flavilabris*				
2455			オオヒラタゴミムシ	*Platynus magnus*				
2456			コヒラタゴミムシ	*Platynus protensus*				
2457			チビミズギワゴミムシ	*Polyderis microscopicus*				
2458			ホソヒラタゴミムシ	*Pristosia aeneola*				
2459			オオナガゴミムシ	*Pterostichus fortis*				NT
2460			トックリナガゴミムシ	*Pterostichus haptoderoides japanensis*				
2461			コホソナガゴミムシ	*Pterostichus longinquus*				NT
2462			コガシラナガゴミムシ	*Pterostichus microcephalus*				
2463			ノグチナガゴミムシ	*Pterostichus noguchii*				
2464			ヒメホソナガゴミムシ	*Pterostichus rotundangulus*				
2465			アシミゾナガゴミムシ	*Pterostichus sulcitarsis*				NT
2466			タカオヒメナガゴミムシ	*Pterostichus takaosanus*				
2467			ヨリトモナガゴミムシ	*Pterostichus yoritomus*				
2468			ホソヒョウタンゴミムシ	*Scarites acutidens*				
2469			ヒョウタンゴミムシ	*Scarites aterrimus*				VU
2470			ナガヒョウタンゴミムシ	*Scarites terricola pacificus*				
2471			ナガマメゴモクムシ	*Stenolophus agonoides*				

表 4.3-1(36)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2472	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	アサカワマメゴモクムシ	*Stenolophus asakawaensis*				
2473			セグロマメゴモクムシ	*Stenolophus connotatus*				NT
2474			ミドリマメゴモクムシ	*Stenolophus difficilis*				
2475			マメゴモクムシ	*Stenolophus fulvicornis*				
2476			ツヤマメゴモクムシ	*Stenolophus iridicolor*				
2477			カラサワマメゴモクムシ	*Stenolophus karasawai*				
2478			クロサマメゴモクムシ	*Stenolophus kurosai*				NT
2479			ムネアカマメゴモクムシ	*Stenolophus propinquus*				
2480			イツホシマメゴモクムシ	*Stenolophus quinquepustulatus*				
2481			タオマメゴモクムシ	*Stenolophus taoi*				NT
2482			マルガタツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus arcuaticollis*				
2483			ホソツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus atricolor*				
2484			キアシツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus callitheres callitheres*				NT
2485			シラハタクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus crocatus*				
2486			クロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus cycloderus*				
2487			ヒメツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus dulcigradus*				
2488			オオクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus nitidus*				
2489			タンザワツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus tanzawanus*				
2490			クロチビカワゴミムシ	*Tachyta nana*				
2491			オビモンコミズギワゴミムシ	*Tachyura ceylanica*				NT
2492			クリイロコミズギワゴミムシ	*Tachyura fumicata*				
2493			ウスモンコミズギワゴミムシ	*Tachyura fuscicauda*				
2494			ヨツモンコミズギワゴミムシ	*Tachyura laetifica*				
2495			クビナガヨツボシゴミムシ	*Tinoderus singularis*			DD	VU
2496			ミウラメクラチビゴミムシ	*Trechiama terraenovae*				CR+EN
2497			ヒラタキイロチビゴミムシ	*Trechus ephippiatus*				
2498			ヒメツヤゴモクムシ	*Trichotichnus congruus*				
2499			チャバネクビアカツヤゴモクムシ	*Trichotichnus kantoonus*				
2500			コバヤシツヤゴモクムシ	*Trichotichnus kobayashie*				VU
2501			クビアカツヤゴモクムシ	*Trichotichnus longitarsis*				
2502			ハネグロツヤゴモクムシ	*Trichotichnus lucidus*				
2503			オオイクビツヤゴモクムシ	*Trichotichnus nipponicus*				
2504			ヒコサンツヤゴモクムシ	*Trichotichnus noctuabundus*				
2505			イクビツヤゴモクムシ	*Trichotichnus orientalis*				
2506			ムラサキオオゴミムシ	*Trigonognatha coreana*				
2507			アカガネオオゴミムシ	*Trigonognatha cuprescens*				
2508			ルイスオオゴミムシ	*Trigonotoma lewisii*				
2509		ハンミョウ科	シロヘリハンミョウ	*Callytron yuasai yuasai*			NT	VU
2510			カワラハンミョウ	*Chaetodera laetescripta*			EN	EX
2511			ニワハンミョウ	*Cicindela japana*				
2512			コニワハンミョウ	*Cicindela transbaicalica japanensis*				
2513			エリザハンミョウ	*Cylindera elisae elisae*				
2514			トウキョウヒメハンミョウ	*Cylindera kaleea yedoensis*				
2515			コハンミョウ	*Myriochile specularis*				
2516			ナミハンミョウ	*Sophiodela japonica*				
2517		ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ	*Agabus conspicuus*				VU
2518			マメゲンゴロウ	*Agabus japonicus*				
2519			チャイロチビゲンゴロウ	*Allodessus megacephalus*				
2520			キボシケシゲンゴロウ	*Allopachria flavomaculata*			DD	EN
2521			ホソセスジゲンゴロウ	*Copelatus weymarni*				
2522			クロゲンゴロウ	*Cybister brevis*			NT	CR
2523			ゲンゴロウ	*Cybister chinensis*		特二	VU	EX
2524			ハイイロゲンゴロウ	*Eretes griseus*				
2525			マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii*		特二	VU	CR
2526			シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*			NT	EN
2527			コシマゲンゴロウ	*Hydaticus grammicus*				
2528			ウスイロシマゲンゴロウ	*Hydaticus rhantoides*				DD
2529			チビゲンゴロウ	*Hydroglyphus japonicus*				
2530			ケシゲンゴロウ	*Hyphydrus japonicus*			NT	CR
2531			ヒメケシゲンゴロウ	*Hyphydrus laeviventris laeviventris*			VU	EX
2532			ツブゲンゴロウ	*Laccophilus difficilis*				EX
2533			コウベツブゲンゴロウ	*Laccophilus kobensis*			NT	DD
2534			ルイスツブゲンゴロウ	*Laccophilus lewisius*			VU	EX
2535			モンキマメゲンゴロウ	*Platambus pictipennis*				
2536			ヒメゲンゴロウ	*Rhantus suturalis*				
－			ゲンゴロウ科	Dytiscidae				
2537		ミズスマシ科	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis*			NT	CR
2538			コミズスマシ	*Gyrinus curtus*			EN	VU
2539			ミズスマシ	*Gyrinus japonicus*			VU	NT
2540			オナガミズスマシ	*Orectochilus regimbarti regimbarti*				

表 4.3-1(37)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
－	コウチュウ目（鞘翅目）	ミズスマシ科	オナガミズスマシ属	*Orectochilus* sp.				
－			ミズスマシ科	Gyrinidae				
2541		コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ	*Haliplus eximius*			VU	EX
2542			カミヤコガシラミズムシ	*Haliplus kamiyai*			EN	EX
2543			マダラコガシラミズムシ	*Haliplus sharpi*			VU	DD
2544			コガシラミズムシ	*Peltodytes intermedius*				EN
2545		コツブゲンゴロウ科	コツブゲンゴロウ	*Noterus japonicus*				VU
2546		カワラゴミムシ科	カワラゴミムシ	*Omophron aequalis*				VU
2547		ヒゲブトオサムシ科	エグリゴミムシ	*Eustra japonica*				
2548		ナガヒラタムシ科	ナガヒラタムシ	*Tenomerga mucida*				
2549		ダルマガムシ科	クロコブセスジダルマガムシ	*Neochthebius granulosus*				NT
2550		ガムシ科	ツヤヒラタガムシ	*Agraphydrus narusei*				
2551			タマガムシ	*Amphiops mater mater*				EN
2552			オオヤマトオカツヤガムシ	*Armostus ohyamatensis*				
2553			ゴマフガムシ	*Berosus punctipennis*				
2554			ヒメケシガムシ	*Cercyon algarus*				
2555			コケシガムシ	*Cercyon aptus*				
2556			フチトリケシガムシ	*Cercyon dux*				
2557			ウスモンケシガムシ	*Cercyon laminatus*				
2558			クロズケシガムシ	*Cercyon nigriceps*				
2559			アカケシガムシ	*Cercyon olibrus*				
2560			キバネケシガムシ	*Cercyon quisquilius*				
2561			ケシガムシ	*Cercyon ustus*				
2562			セマルガムシ	*Coelostoma stultum*				
2563			セマルケシガムシ	*Cryptopleurum subtile*				
2564			チビヒラタガムシ	*Enochrus esuriens*				DD
2565			キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus*				
2566			キイロヒラタガムシ	*Enochrus simulans*				
2567			ルイスヒラタガムシ	*Helochares pallens*				DD
2568			マルガムシ	*Hydrocassis lacustris*				
2569			コガムシ	*Hydrochara affinis*			DD	NT
2570			ガムシ	*Hydrophilus acuminatus*			NT	CR
2571			セマルマグソガムシ	*Magasternum gibbulum*				
2572			マグソガムシ	*Pachysternum haemorrhoum*				
2573			ホソケシガムシ	*Paroosternum sorex*				
2574			コウセンマルケシガムシ	*Peratogonus reversus*				
2575			マメガムシ	*Regimbartia attenuata*				
2576			ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes*				
－			ガムシ科	Hydrophilidae				
2577		エンマムシ科	ツブエンマムシ	*Anapleus semen*				
2578			ムナクボエンマムシ	*Atholus depistor*				
2579			コツヤエンマムシ	*Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus*				
2580			ツヤマルエンマムシ	*Atholus pirithous*				
2581			コアカツブエンマムシ	*Bacanius mikado*				
2582			アカツブエンマムシ	*Bacanius niponicus*				
2583			チュウジョウチビエンマムシ	*Baconia chujoi*				
2584			クロチビエンマムシ	*Carcinops pumilio*				
2585			ツヤハマベエンマムシ	*Eopachylopus ripae*				CR+EN
2586			アリノスコブエンマムシ	*Eucurtiopsis ohtanii*				
2587			ヤマトエンマムシ	*Hister japonicus*				
2588			ヒメハマベエンマムシ	*Hypocacculus asticus*				CR+EN
2589			カラカネハマベエンマムシ	*Hypocaccus lewisii*				CR+EN
2590			ニセハマベエンマムシ	*Hypocaccus sinae*				
2591			ハマベエンマムシ	*Hypocaccus varians varians*				
2592			ニセヒメエンマムシ	*Margarinotus agnatus*				
2593			コエンマムシ	*Margarinotus niponicus*				
2594			ヒメエンマムシ	*Margarinotus weymarni*				
2595			エンマムシ	*Merohister jekeli*				
2596			ヒメホソエンマムシ	*Niponius osorioceps*				
2597			オオセスジエンマムシ	*Onthophilus ostreatus*				
2598			ハスジチビヒラタエンマムシ	*Pachylomalus musculus*				
2599			ヒメナガエンマムシ	*Platysoma celatum*				
2600			ナガエンマムシ	*Platysoma lineicollis*				
2601			ニセヒメナガエンマムシ	*Platysoma rasile*				
2602			ルリエンマムシ	*Saprinus splendens*				VU
2603		タマキノコムシ科	ツヤマルタマキノコムシ	*Agathidium sublaevigatum*				
2604			ヒレルチビシデムシ	*Catops hilleri*				
2605			セマルタマキノコムシ	*Cyrtoplastus seriepunctatus*				
2606			オチバヒメタマキノコムシ	*Dermatohomoeus terrena*				
2607			アカオオタマキノコムシ	*Leiodes lucens*				

表 4.3-1(38)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2608	コウチュウ目（鞘翅目）	タマキノコムシ科	ホソムネコチビシデムシ	*Mesocatops japonicus*				
2609			ハギニセチビシデムシ	*Ptomaphagus kuntzeni*				
2610			チャイロメナシタマキノコムシ	*Typhlocolenis fusca*				
2611		ムクゲキノコムシ科	コゲチャムクゲキノコムシ	*Acrotrichis pumila*				
2612		シデムシ科	ベッコウヒラタシデムシ	*Eusilpha brunneicollis*				
2613			オオヒラタシデムシ	*Eusilpha japonica*				
2614			モモブトシデムシ	*Necrodes nigricornis*				
2615			クロシデムシ	*Nicrophorus concolor*				
2616			ヤマトモンシデムシ	*Nicrophorus japonicus*			NT	VU
2617			ヨツボシモンシデムシ	*Nicrophorus quadripunctatus*				
2618			コクロシデムシ	*Ptomascopus morio*				
2619			ヒメヒラタシデムシ	*Thanatophilus sinuatus*				VU
2620		ハネカクシ科	カマクラウシオヒメハネカクシ	*Adota madida*				
2621			オオヒゲブトハネカクシ	*Aleochara clavigera*				
2622			ナカアカヒゲブトハネカクシ	*Aleochara curtula*				
2623			ツヤケシヒゲブトハネカクシ	*Aleochara fucicola*				
2624			コクロヒゲブトハネカクシ	*Aleochara parens*				
2625			フトツヤケシヒゲブトハネカクシ	*Aleochara squalithorax*				
2626			ホソセスジヒゲブトハネカクシ	*Aleochara trisulcata*				
2627			フタモンヒゲブトハネカクシ	*Aleochara verna*				
2628			ニセセスジヒゲブトハネカクシ	*Aleochara zerchei*				
2629			ニセツヤケシヒゲブトハネカクシ	*Aleochara （Emplenota） segregata*				
2630			ムネビロハネカクシ	*Algon grandicollis*				
2631			カタモンブチヒゲハネカクシ	*Anisolinus picticornis*				
2632			コバネアシベセスジハネカクシ	*Anotylus amicus*				
2633			セスジハネカクシ	*Anotylus cognatus*				
2634			ヒラタセスジハネカクシ	*Anotylus japonicus*				
2635			ルイスツヤセスジハネカクシ	*Anotylus lewisius*				
2636			シワバネセスジハネカクシ	*Anotylus mimulus*				
2637			トビイロセスジハネカクシ	*Anotylus vicinus*				
2638			ホソヒメアリヅカムシ	*Aphilia longicollis*				
2639			マルムネアリヤドリ	*Aspidobactrus claviger*				
2640			ヒメシリグロハネカクシ	*Astenus brevipes*				
2641			ヤマトシリグロハネカクシ	*Astenus chloroticus*				
2642			キアシシリグロハネカクシ	*Astenus latifrons*				
2643			フタホシシリグロハネカクシ	*Astenus maculipennis*				
2644			オオシリグロハネカクシ	*Astenus suffusus*				
2645			チャムネハラホソハネカクシ	*Atanygnathus terminalis*				
2646			ナミバラヒメハネカクシ	*Atheta subcrenulata*				
2647			トキオカヒメハネカクシ	*Atheta tokiokai*				
2648			チビドウガネツツガタハネカクシ	*Aulacocypus parvulus*				
2649			オオマメデオキノコムシ	*Baeocera frater*				
2650			ハケスネアリヅカムシ	*Batriscenaulax modestus*				
2651			ハコネトゲアリヅカムシ	*Batrisodes rugicollis*				
2652			ケムネチイロアリヅカムシ	*Batrisus trichothorax*				
2653			チャイロニセコガシラハネカクシ	*Bisnius germanus*				
2654			ツマグロカワベハネカクシ	*Bledius lucidus*				
2655			チャバネニセキノコハネカクシ	*Bolitobius princeps*				
2656			トサオノヒゲアリヅカムシ	*Bryaxis gracilipalpis*				
2657			アルマンオノヒゲアリヅカムシ	*Bryaxis harmandi*				
2658			コフンオノヒゲアリヅカムシ	*Bryaxis kofun*				
2659			ウスアカナギサハネカクシ	*Bryothinusa algarum*				
2660			ホソナギサハネカクシ	*Bryothinusa minuta*				
2661			ナカネナギサハネカクシ	*Bryothinusa nakanei*				
2662			ヒメアバタウミベハネカクシ	*Cafius algarum*				
2663			ホソアバタウミベハネカクシ	*Cafius histrio*				
2664			ヒラタアバタウミベハネカクシ	*Cafius mimulus*				
2665			アカバアバタウミベハネカクシ	*Cafius rufescens*				
2666			オオアバタウミベハネカクシ	*Cafius vestitus*				
2667			チビツツニセユミセミゾハネカクシ	*Carpelimus exiguus*				
2668			オオハネカクシ	*Creophilus maxillosus*				
2669			コヤマトヒゲブトアリヅカムシ	*Diartiger fossulatus fossulatus*				
2670			アオキツツムネウミハネカクシ	*Diaulota aokii*				
2671			ホソツツムネウミハネカクシ	*Diaulota pacifica*				
2672			シリブトウミハネカクシ	*Diaulota uenoi*				
2673			マルズハネカクシ	*Domene crassicornis*				
2674			コマルズハネカクシ	*Domene curtipennis*				
2675			スジツヤチビハネカクシ	*Edaphus carinicollis*				
2676			ハイイロハネカクシ	*Eucibdelus japonicus*				
2677			シリブトヒメコケムシ	*Euconnus fustiger*				

表 4.3-1(39)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2678	コウチュウ目（鞘翅目）	ハネカクシ科	ルイスハナムグリヨツメハネカクシ	*Eusphalerum lewisi*				
2679			オフィオンホソコガシラハネカクシ	*Gabrius ophion*				
2680			ツヤケシイソハネカクシ	*Halorhadinus kawashimai*				
2681			ツマグロムネスジハネカクシ	*Hesperus tiro*				
2682			ホソチビツヤムネハネカクシ	*Heterothops cognatus*				
2683			オオメチビツヤムネハネカクシ	*Heterothops rotundiceps*				
2684			ヤマトナガエハネカクシ	*Homaeotarsus japonicus*				
2685			ヤマトオオメツヤムネハネカクシ	*Indoquedius juno*				
2686			ヤマトイクビハネカクシ	*Ischnosoma discoidale*				
2687			ニセトガリハネカクシ	*Isocheilus staphylinoides*				
2688			ナガハネカクシ	*Lathrobium dignum*				
2689			ネアカヒメミズギワヨツメハネカクシ	*Lesteva plagiata*				
2690			オオズウミハネカクシ	*Liparocephalus tokunagai*			EN	NT
2691			クロズトガリハネカクシ	*Lithocharis nigriceps*				
2692			カタモンハネカクシ	*Liusus hilleri*				CR+EN
2693			ウミベトガリハネカクシ	*Medon prolixus*				
2694			ヨコモントガリハネカクシ	*Medon submaculatus*				
2695			キバネナガハネカクシ	*Megalinus suffusus*				
2696			キタザワハバビロハネカクシ	*Megarthrus constrictus*				
2697			セマルハバビロハネカクシ	*Megarthrus convexus*				
2698			ハバビロハネカクシ	*Megarthrus japonicus*				
2699			ムツバハバビロハネカクシ	*Megarthrus parallelus*				
2700			サワダハバビロハネカクシ	*Megarthrus sawadai*				
2701			ナガクチキツツハネカクシ	*Mimogonellus japonicus*				
2702			トウカイマメアリヅカムシ	*Morana elegans*				
2703			アメイロセミゾハネカクシ	*Myrmecocephalus concinnus*				
2704			ウミセミゾハネカクシ	*Myrmecopora algarum*				
2705			ウスアカウミセミゾハネカクシ	*Myrmecopora rufescens*				
2706			タカオアバタコバネハネカクシ	*Nazeris ohkurai*				
2707			ツヤケシヒメハネカクシ	*Nehemitropia lividipennis*				
2708			アカバヒメホソハネカクシ	*Neobisnius pumilus*				
2709			カワベナガエハネカクシ	*Ochthephilum cuneatum*				
2710			クロサビイロマルズオオハネカクシ	*Ocypus lewisius*				
2711			キンボシマルズオオハネカクシ	*Ocypus weisei*				
2712			クロバネアリガタハネカクシ	*Oedichirus lewisius*				
2713			ヤマトハネナガヨツメハネカクシ	*Olophrum japonicum*				
2714			フトツツハネカクシ	*Osorius angustulus*				
2715			ウスアカバホソハネカクシ	*Othius medius*				
2716			キバネセスジハネカクシ	*Oxytelus piceus*				
2717			タカハシセスジハネカクシ	*Oxytelus takahashii*				
2718			アオバアリガタハネカクシ	*Paederus fuscipes*				
2719			エゾアリガタハネカクシ	*Paederus parallelus*				
2720			マメトガリハネカクシ	*Panscopaeus lithocharoides*				
2721			クロツヤクサアリハネカクシ	*Pella comes*				
2722			ネアカクサアリハネカクシ	*Pella japonica*				
2723			ニセヒゲブトムネトゲアリヅカムシ	*Petaloscapus shirokanensis*				
2724			タカクワムネトゲアリヅカムシ	*Petaloscapus takakuwai*				
2725			キバネヨツミゾナガハネカクシ	*Phacophallus flavipennis*				
2726			ツヤキアシコガシラハネカクシ	*Philonthus albilabris*				
2727			ドウバネコガシラハネカクシ	*Philonthus cunctator*				
2728			チャバネコガシラハネカクシ	*Philonthus gastralis*				
2729			オオドウガネコガシラハネカクシ	*Philonthus lewisius*				
2730			ツヤウミベコガシラハネカクシ	*Philonthus nudus*				
2731			キアシチビコガシラハネカクシ	*Philonthus numata*				
2732			カクコガシラハネカクシ	*Philonthus rectangulus*				
2733			オオアカバコガシラハネカクシ	*Philonthus spinipes*				
2734			キヌコガシラハネカクシ	*Philonthus sublucanus*				
2735			ヘリアカバコガシラハネカクシ	*Philonthus tardus*				
2736			ニセヒゲナガコガシラハネカクシ	*Philonthus wuesthoffi*				
2737			ツヤケシアカバウミベハネカクシ	*Phucobius simulator*				
2738			ルイスクビブトハネカクシ	*Pinophilus lewisius*				
2739			フジヤマダルマアリヅカムシ	*Plagiophorus fujiyamai*				
2740			アカバトガリオオズハネカクシ	*Platydracus brevicornis*				
2741			クロガネトガリオオズハネカクシ	*Platydracus inornatus*				
2742			カラカネトガリオオズハネカクシ	*Platydracus sharpi*				
2743			クロヒメカワベハネカクシ	*Platystethus operosus*				
2744			チビハバビロハネカクシ	*Proteinus crassicornis*				
2745			ヒゲナガヒメハネカクシ	*Psammostiba hilleri*				
2746			ムネスジコガシラハネカクシ	*Pseudohesperus rutiliventris*				
2747			ツマグロスジナガハネカクシ	*Pseudolathra unicolor*				

表 4.3-1(40)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2748	コウチュウ目（鞘翅目）	ハネカクシ科	アカバツヤムネハネカクシ	*Quedius japonicus*				
2749			ホソチャバネコガシラハネカクシ	*Rabigus inconstans*				
2750			クビボソハネカクシ	*Rugilus rufescens*				
2751			エグリデオキノコムシ	*Scaphidium emarginatum*				
2752			ヤマトデオキノコムシ	*Scaphidium japonum*				
2753			アシブトケシデオキノコムシ	*Scaphisoma crassipes*				
2754			ツマキケシデオキノコムシ	*Scaphisoma haemorrhoidale*				
2755			アカホソホテイケシデオキノコムシ	*Scaphobaeocera gracilis*				
2756			アバタヒメハネカクシ	*Schistogenia crenicollis*				
2757			ヒメクビボソハネカクシ	*Scopaeus currax*				
2758			ムクゲヒメキノコハネカクシ	*Sepedophilus germanus*				
2759			ムナビロフタモンヒメキノコハネカクシ本土亜種	*Sepedophilus glabratus glabratus*				
2760			クロヒメキノコハネカクシ	*Sepedophilus varicornis*				
2761			アカモンヒラタハネカクシ	*Siagonium haroldi*				
2762			ホソフタホシメダカハネカクシ	*Stenus alienus*				
2763			ハヤシメダカハネカクシ	*Stenus asyura*				
2764			アシマダラカワベメダカハネカクシ	*Stenus cicindeloides*				
2765			Stenus fulvivestis	*Stenus fulvivestis*				
2766			ニホンヒメメダカハネカクシ	*Stenus japonicus*				
2767			ルイスナガメダカハネカクシ	*Stenus lewisius*				
2768			コクロメダカハネカクシ	*Stenus melanarius*				
2769			キアシホソメダカハネカクシ	*Stenus rugipennis*				
2770			タチゲクビボソハネカクシ	*Sunesta setigera*				
2771			キベリマルクビハネカクシ	*Tachinus mimulus*				
2772			クロズマルクビハネカクシ	*Tachinus nigriceps*				
2773			クロズシリホソハネカクシ	*Tachyporus celatus*				
2774			テングアリヅカムシ	*Tenguobythus nasalis*				
2775			ショウジョウハネカクシ	*Thamiaraea diffinis*				
2776			ヤマトニセユミセミゾハネカクシ	*Thinodromus japonicus*				
2777			シロアリハネカクシ	*Trichopsenius japonicus*				
2778			マルムネアリヅカムシ	*Triomicrus protervus*				
2779			ガロアフサヒゲアリヅカムシ	*Trisinus galloisi*				
2780			ナミエンマアリヅカムシ	*Trissemus alienus*				
2781			タイリクモリアリヅカムシ	*Tychus dichotomus*				
2782			カクツヤケシアバタハネカクシ	*Tympanophorus sauteri*				
2783			コケアリヅカムシ	*Tyrus japonicus*				
2784			コモンクロアリノスハネカクシ	*Zyras optatus*				
2785			クビアカアリノスハネカクシ	*Zyras pictus*				
2786		タマキノコムシモドキ科	マルタマキノコムシモドキ	*Clambus formosanus japonicus*				
2787		マルハナノミダマシ科	ツマアカマルハナノミダマシ	*Eucinetus haemorrhoidalis*				
2788		マルハナノミ科	クロチビマルハナノミ	*Contacyphon mizoro*				
2789			アカチャチビマルハナノミ	*Herthania japonicola*				
2790			ウスチャチビマルハナノミ	*Herthania sasagawai*				
2791			ヒメキムネマルハナノミ	*Sacodes minima*				
2792			コキムネマルハナノミ	*Sacodes nakanei*				
2793			キムネマルハナノミ	*Sacodes protecta*				
2794			トビイロマルハナノミ	*Scirtes japonicus*				
2795		センチコガネ科	センチコガネ	*Phelotrupes laevistriatus*				
2796		クワガタムシ科	ネブトクワガタ本土亜種	*Aegus laevicollis subnitidus*				EX
2797			オオクワガタ	*Dorcus hopei binodulosus*			VU	CR+EN
2798			コクワガタ	*Dorcus rectus rectus*				
2799			スジクワガタ	*Dorcus striatipennis striatipennis*				
2800			アカアシクワガタ	*Dorcus rubrofemoratus rubrofemoratus*				
2801			ヒラタクワガタ本土亜種	*Dorcus titanus pilifer*				VU
2802			ミヤマクワガタ	*Lucanus maculifemoratus maculifemoratus*				要注意
2803			ノコギリクワガタ	*Prosopocoilus inclinatus inclinatus*				
2804		アカマダラセンチコガネ科	アカマダラセンチコガネ	*Ochodaeus maculatus*				NT
2805		コガネムシ科	コイチャコガネ	*Adoretus tenuimaculatus*				
2806			アオドウガネ	*Anomala albopilosa albopilosa*				
2807			ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea*				
2808			サクラコガネ	*Anomala daimiana*				
2809			ヒメサクラコガネ	*Anomala geniculata*				
2810			ヤマトアオドウガネ	*Anomala japonica*				
2811			ツヤコガネ	*Anomala lucens*				
2812			ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea*				
2813			チビサクラコガネ	*Anomala schoenfeldti*				
2814			アカマダラハナムグリ	*Anthracophora rusticola*			DD	NT
2815			オオフタホシマグソコガネ	*Aphodius elegans elegans*				NT
2816			セマダラマグソコガネ	*Aphodius nigrotessellatus*				
2817			フチケマグソコガネ	*Aphodius postpilosus*				

表 4.3-1(41)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2818	コウチュウ目（鞘翅目）	コガネムシ科	コマグソコガネ	*Aphodius pusillus*				
2819			オオマグソコガネ	*Aphodius quadratus*				
2820			マグソコガネ	*Aphodius rectus*				
2821			ヨツボシマグソコガネ	*Aphodius sordidus*				
2822			ヒメキイロマグソコガネ	*Aphodius sturmi*			NT	VU
2823			ウスイロマグソコガネ	*Aphodius sublimbatus*				
2824			ヒメカンショコガネ	*Apogonia amida*				
2825			カタモンコガネ	*Blitopertha conspurcata*				
2826			マエカドコエンマコガネ	*Caccobius jessoensis*				
2827			ナミハナムグリ	*Cetonia pilifera*				
2828			アオハナムグリ	*Cetonia roelofsi roelofsi*				
2829			ヒメアシナガコガネ	*Ectinohoplia obducta*				
2830			コカブトムシ	*Eophileurus chinensis chinensis*				
2831			セマダラコガネ	*Exomala orientalis*				
2832			コアオハナムグリ	*Gametis jucunda*				
2833			コヒゲシマビロウドコガネ	*Gastroserica brevicornis*				
2834			ナガチャコガネ	*Heptophylla picea*				
2835			クロコガネ	*Holotrichia kiotonensis*				
2836			オオクロコガネ	*Holotrichia parallela*				
2837			コクロコガネ	*Holotrichia picea*				
2838			アシナガコガネ	*Hoplia communis*				
2839			ヒメトラハナムグリ本土亜種	*Lasiotrichius succinctus tokushimus*				
2840			ヤマトケシマグソコガネ	*Leiopsammodius japonicus*				NT
2841			アカビロウドコガネ	*Maladera castanea*				
2842			ビロウドコガネ	*Maladera japonica*				
2843			カミヤビロウドコガネ	*Maladera kamiyai*				
2844			ヒメビロウドコガネ	*Maladera orientalis*				
2845			マルガタビロウドコガネ	*Maladera secreta*				
2846			オオコフキコガネ	*Melolontha frater*				
2847			コフキコガネ	*Melolontha japonica*				
2848			オオスジコガネ	*Mimela costata*				
2849			ツヤスジコガネ	*Mimela dificilis*				
2850			ヒメスジコガネ	*Mimela flavilabris*				
2851			コガネムシ	*Mimela splendens*				
2852			スジコガネ	*Mimela testaceipes*				
2853			コケシマグソコガネ	*Myrhessus samurai*				
2854			ハラゲビロウドコガネ	*Nipponoserica pubiventris*				
2855			ヒラタハナムグリ	*Nipponovalgus angusticollis angusticollis*				
2856			クロマルエンマコガネ	*Onthophagus ater*				
2857			コブマルエンマコガネ	*Onthophagus atripennis*				
2858			カドマルエンマコガネ	*Onthophagus lenzii*				
2859			マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus*				CR+EN
2860			マメダルマコガネ	*Panelus parvulus*				
2861			ツヤエンマコガネ	*Parascatonomus nitidus*				
2862			ハイイロビロウドコガネ	*Paraserica gricea*				
2863			ウスチャコガネ	*Phyllopertha diversa*				
2864			アオウスチャコガネ	*Phyllopertha intermixta*				
2865			シロスジコガネ	*Polyphylla albolineata*				VU
2866			ヒゲコガネ	*Polyphylla laticollis laticollis*				VU
2867			マメコガネ	*Popillia japonica*				
2868			ナラノチャイロコガネ	*Proagopertha pubicollis*				
2869			シラホシハナムグリ	*Protaetia brevitarsis brevitarsis*				EX
2870			ムラサキツヤハナムグリ	*Protaetia cataphracta*				VU
2871			シロテンハナムグリ	*Protaetia orientalis submarmorea*				
2872			セマルケシマグソコガネ	*Psammodius convexus*				
2873			カナブン	*Pseudotrynorrhina japonica*				
2874			アイヌケシマグソコガネ	*Rakovicius ainu*				NT
2875			クロカナブン	*Rhomborhina polita*				
2876			セスジカクマグソコガネ	*Rhyparus azumai*				
2877			クロツツマグソコガネ	*Saprosites japonicus*				
2878			ヒメツツマグソコガネ	*Saprosites narae*				
2879			ホソヒゲナガビロウドコガネ本州・四国亜種	*Serica nitididorsis opacidorsis*				
2880			ナエドコチャイロコガネ	*Sericania mimica*				
2881			ホソケシマグソコガネ	*Trichiorhyssemus asperulus*				
2882			トラハナムグリ	*Trichius japonicus*				CR+EN
2883			カブトムシ	*Trypoxylus dichotomus septentrionalis*				
2884		マルトゲムシ科	ミナミケモンマルトゲムシ	*Microchaetes* sp.				
2885			シラフチビマルトゲムシ	*Simplocaria bicolor*				
2886		ドロムシ科	ムナビロツヤドロムシ	*Elmomorphus brevicornis*				
2887		ヒメドロムシ科	ツヤナガアシドロムシ	*Grouvellinus nitidus*				

表 4.3-1(42)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2888	コウチュウ目（鞘翅目）	ヒメドロムシ科	キスジミゾドロムシ	*Ordobrevia foveicollis*				
2889			ゴトウミゾドロムシ	*Ordobrevia gotoi*				
2890			ミゾツヤドロムシ	*Zaitzevia rivalis*				
2891			ヒメツヤドロムシ	*Zaitzeviaria brevis*				
2892			ホソヒメツヤドロムシ	*Zaitzeviaria gotoi*				
－			ヒメドロムシ科	Elmidae				
2893		ナガドロムシ科	ナガドロムシ	*Heterocerus asiaticus*				
2894		チビドロムシ科	ババチビドロムシ	*Babalimnichus masamii*				
2895		ヒラタドロムシ科	チビヒゲナガハナノミ	*Ectopria opaca opaca*				
2896			クシヒゲマルヒラタドロムシ	*Eubrianax granicollis*				
2897			ヒラタドロムシ	*Mataeopsephus japonicus*				
2898		ナガハナノミ科	ヒゲナガハナノミ	*Paralichas pectinatus*				
－			ナガハナノミ科	Ptilodactylidae				
2899		タマムシ科	クロナガタマムシ	*Agrilus cyaneoniger*				
2900			シラホシナガタマムシ	*Agrilus decoloratus*				
2901			ヒシモンナガタマムシ	*Agrilus discalis*				
2902			マサキナガタマムシ	*Agrilus euonymi*				
2903			ヒメアサギナガタマムシ	*Agrilus hattorii*				
2904			ムネアカナガタマムシ	*Agrilus imitans*				
2905			ブドウナガタマムシ	*Agrilus marginicollis*				
2906			アサギナガタマムシ	*Agrilus moerens*				
2907			ツヤケシナガタマムシ	*Agrilus nipponigena*				
2908			シラケナガタマムシ	*Agrilus pilosovittatus*				
2909			ホソアシナガタマムシ	*Agrilus ribbei*				
2910			ケヤキナガタマムシ	*Agrilus spinipennis*				
2911			タゾエナガタマムシ	*Agrilus tazoei*				
2912			ミツボシナガタマムシ	*Agrilus trinotatus*				
2913			アオグロナガタマムシ	*Agrilus viridiobscurus*				
2914			コクロナガタマムシ	*Agrilus yamawakii*				
2915			ヒメヒラタタマムシ	*Anthaxia proteus*				
2916			クロタマムシ	*Buprestis haemorrhoidalis japanensis*				
2917			ウバタマムシ	*Chalcophora japonica japonica*				NT
2918			ムツボシタマムシ	*Chrysobothris succedanea*				
2919			タマムシ	*Chrysochroa fulgidissima fulgidissima*				要注意
2920			シロオビナカボソタマムシ	*Coraebus quadriundulatus*				
2921			ルイスナカボソタマムシ	*Coraebus rusticanus rusticanus*				
2922			マスダクロホシタマムシ	*Lamprodila vivata*				
2923			ムネアカチビナカボソタマムシ	*Nalanda rutilicollis rutilicollis*				
2924			クロマダラタマムシ	*Nipponobuprestis querceti*				EX
2925			アヤムナビロタマムシ	*Sambus quadricolor quadricolor*				VU
2926			クリタマムシ	*Toxoscelus auriceps auriceps*				
2927			クズノチビタマムシ	*Trachys auricollis*				
2928			コウゾチビタマムシ	*Trachys broussonetiae*				
2929			ナミガタチビタマムシ	*Trachys griseofasciatus*				
2930			ウメチビタマムシ	*Trachys inconspicuus*				
2931			マメチビタマムシ	*Trachys reitteri*				
2932			サシゲチビタマムシ	*Trachys robustus*				
2933			アカガネチビタマムシ	*Trachys tsushimae*				
2934			ヤノナミガタチビタマムシ	*Trachys yanoi*				
2935		コメツキムシ科	ミヤマフトヒラタコメツキ	*Actenicerомorphus kurofunei*				
2936			シモフリコメツキ	*Actenicerus pruinosus*				
2937			ヒメホソキコメツキ	*Agaripenthes helvolus*				
2938			サビキコリ	*Agrypnus binodulus binodulus*				
2939			ムナビロサビキコリ	*Agrypnus cordicollis*				
2940			ホソサビキコリ	*Agrypnus fuliginosus*				
2941			イズヒメサビキコリ	*Agrypnus miyamotoi ishiharai*				VU
2942			ヒメサビキコリ	*Agrypnus scrofa scrofa*				
2943			ハマベオオヒメサビキコリ	*Agrypnus tsukamotoi tsukamotoi*				
2944			ヒメクロコメツキ	*Ampedus carbunculus*				
2945			アカハラクロコメツキ	*Ampedus hypogastricus hypogastricus*				
2946			クロツヤヒラタコメツキ	*Calambus japonicus*				
2947			クロハナコメツキ	*Cardiophorus pinguis*				
2948			ドウガネヒラタコメツキ	*Corymbitodes gratus*				
2949			ウバタマコメツキ	*Cryptalaus berus*				NT
2950			クロスジヒメコメツキ	*Dalopius patagiatus*				
2951			アカアシハナコメツキ	*Dicronychus adjutor adjutor*				
2952			オオハナコメツキ	*Dicronychus nothus*				
2953			キバネホソコメツキ	*Dolerosomus gracilis*				
2954			ヨツキボシコメツキ	*Ectinoides insignitus insignitus*				
2955			キアシクロムナボソコメツキ	*Ectinus insidiosus*				

表 4.3-1(43)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
2956	コウチュウ目（鞘翅目）	コメツキムシ科	ムネナガカバイロコメツキ	*Ectinus longicollis*				
2957			カバイロコメツキ	*Ectinus sericeus sericeus*				
2958			ヨツモンミズギワコメツキ	*Fleutiauxellus quadrillum*				
2959			キバネクチボソコメツキ	*Glyphonyx bicolor bicolor*				
2960			クロスジクチボソコメツキ	*Glyphonyx dalopioides*				
2961			チャイロコメツキ	*Haterumelater bicarinatus bicarinatus*				
2962			ホソキコメツキ	*Hayekpenthes pallidus pallidus*				
2963			クロツヤハダコメツキ	*Hemicrepidius secessus secessus*				
2964			ルリツヤハダコメツキ	*Hemicrepidius subcyaneus*				
2965			コガタノサビコメツキ	*Lacon parallelus parallelus*				
2966			ニセクチブトコメツキ	*Lanecarus palustris*				
2967			タテスジカネコメツキ	*Limoniscus vittatus*				
2968			ホソツヤヒラタコメツキ	*Liotrichus affinis hypocrita*				
2969			ムネアカツヤケシコメツキ	*Megapenthes opacus*				
2970			クロツヤクシコメツキ	*Melanotus annosus*				
2971			ヒラタクロクシコメツキ	*Melanotus correctus correctus*				
2972			コガタクシコメツキ	*Melanotus erythropygus erythropygus*				
2973			マルクビクシコメツキ	*Melanotus fortnumi fortnumi*				
2974			クシコメツキ	*Melanotus legatus legatus*				
2975			ルイスクシコメツキ	*Melanotus lewisi lewisi*				
2976			クロクシコメツキ	*Melanotus senilis senilis*				
2977			ナガチャクシコメツキ	*Melanotus spernendus spernendus*				
2978			スナサビキコリ	*Meristhus niponensis*				
2979			ヒゲナガコメツキ	*Mulsanteus junior junior*				
2980			オオナガコメツキ	*Nipponoelater sieboldi sieboldi*				
2981			カントウツヤミズギワコメツキ	*Oedostethus kanmiyai*				
2982			コハナコメツキ	*Paracardiophorus pullatus pullatus*				
2983			アカアシコハナコメツキ	*Paracardiophorus sequens sequens*				
2984			ヒゲコメツキ	*Pectocera hige hige*				
2985			クリイロニセコメツキ	*Podeonius aquilus aquilus*				
2986			マダラチビコメツキ	*Prodrasterius agnatus*				
2987			ニホンチビマメコメツキ	*Quasimus japonicus*				
2988			アラハダチャイロコメツキ	*Reitterelater rugipennis*				
2989			トラフコメツキ	*Selatosomus onerosus*				
2990			クチブトコメツキ	*Silesis musculus musculus*				
2991			アカアシオオクシコメツキ	*Spheniscosomus cete cete*				
2992			ハネナガオオクシコメツキ	*Spheniscosomus japonicus*				
2993			ヒラタクシコメツキ	*Spheniscosomus koikei*				
2994			オオツヤハダコメツキ	*Stenagostus umbratilis*				
2995			オオクシヒゲコメツキ	*Tetrigus lewisi*				
2996		コメツキダマシ科	ムナクボミゾコメツキダマシ	*Dirhagus foveolatus*				
2997			スジヒメミゾコメツキダマシ	*Dromaeolus japonensis*				
2998			ヒメチャイロコメツキダマシ	*Fornax consobrinus*				
2999			オニコメツキダマシ	*Hylochares harmandi*				
3000		ヒゲブトコメツキ科	ナガヒゲブトコメツキ	*Aulonothroscus longulus*				
3001			ニセナガヒゲブトコメツキ	*Aulonothroscus sp. 2*				
3002			ミカドヒゲブトコメツキ	*Trixagus micado micado*				
3003		ジョウカイボン科	ヤトウスイロクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus bilineatus oisoanus*				
3004			ミヤマクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus lictorius*				
3005			クロヒメクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus malthinoides malthinoides*				
3006			ウスイロクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus temporalis*				
3007			コバネチビジョウカイ	*Caccodes niponicus*				
3008			クビボソジョウカイ	*Hatchiana heydeni*				
3009			ムネアカクロジョウカイ	*Lycocerus adusticollis*				
3010			ウスチャジョウカイ	*Lycocerus insulsus insulsus*				
3011			ヒメジョウカイ	*Lycocerus japonicus*				
3012			ニセヒメジョウカイ	*Lycocerus lineatipennis*				
3013			オカベセボシジョウカイ	*Lycocerus okabei okabei*				
3014			ジョウカイボン	*Lycocerus suturellus suturellus*				
3015			セボシジョウカイ	*Lycocerus vitellinus*				
3016			ヤトセスジジョウカイ	*Lycocerus yato*				
3017			フタイロチビジョウカイ	*Malthinellus bicolor*				
3018			クロツマキジョウカイ	*Malthinus japonicus*				
3019			クロスジツマキジョウカイ	*Malthinus mucoreus*				
3020			ムネミゾクロチビジョウカイ	*Malthodes sulcicollis*				
3021			マルムネジョウカイ	*Prothemus ciusianus*				
3022			ヒガシマルムネジョウカイ	*Prothemus reini*				
3023			アオジョウカイ	*Themus cyanipennis*				
3024			キベリコバネジョウカイ	*Trypherus niponicus*				
3025		ホタル科	ムネクリイロボタル	*Cyphonocerus ruficollis*				

表 4.3-1(44)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3026	コウチュウ目（鞘翅目）	ホタル科	カタモンミナミボタル	*Drilaster axillaris*				
3027			オバボタル	*Lucidina biplagiata*				
3028			ゲンジボタル	*Luciola cruciata*				
3029			ヘイケボタル	*Luciola lateralis*				NT
3030			スジグロボタル	*Pristolycus sagulatus sagulatus*				NT
3031			クロマドボタル	*Pyrocoelia fumosa*				
3032		ベニボタル科	ミスジヒシベニボタル	*Benibotarus spinicoxis*				
3033			テングベニボタル	*Erotides nasuta*				
3034			ムネアカテングベニボタル	*Konoplatycis otome*				
3035			コクロハナボタル	*Libnetis granicollis*				
3036			ベニボタル	*Lycostomus modestus*				
3037			ヒメベニボタル	*Lyponia delicatula*				
3038			カクムネベニボタル	*Lyponia quadricollis*				
3039			ホソベニボタル	*Mesolycus atrorufus*				
3040			クロハナボタル	*Plateros coracinus*				
3041			ニセクロハナボタル	*Plateros hasegawai*				
3042		ホタルモドキ科	ホソホタルモドキ	*Drilonius striatulus*				
3043		カツオブシムシ科	チビマルカツオブシムシ	*Anthrenus japonicus*				
3044			シロオビマルカツオブシムシ	*Anthrenus nipponensis*				
3045			ヒメマルカツオブシムシ	*Anthrenus verbasci*				
3046			ヒメカツオブシムシ	*Attagenus unicolor japonicus*				
3047			トビカツオブシムシ	*Dermestes ater*				
3048			カドムネカツオブシムシ	*Dermestes coarctatus*				
3049			カドマルカツオブシムシ	*Dermestes haemorrhoidalis*				
3050			ハラジロカツオブシムシ	*Dermestes maculatus*				
3051			ケアカカツオブシムシ	*Dermestes tessellatocollis tessellatocollis*				
3052			ベニモンチビカツオブシムシ	*Orphinus japonicus*				
3053			ヨツモンチビカツオブシムシ	*Orphinus quadrimaculatus*				
3054			クロヒゲブトカツオブシムシ	*Thaumaglossa hilleri*				
3055			カマキリタマゴカツオブシムシ	*Thaumaglossa rufocapillata*				
3056			チビケカツオブシムシ	*Trinodes rufescens*				
3057		シバンムシ科	ヒメトサカシバンムシ	*Anhedobia capucina*				
3058			クリイロタマキノコシバンムシ	*Byrrhodes nipponicus*				
3059			ヒメホコリタケシバンムシ	*Caenocara rufitarse*				
3060			ヒトクチタケシバンムシ	*Dorcatoma polypori*				
3061			マツザイシバンムシ	*Ernobius mollis*				
3062			ツツガタシバンムシ	*Gastrallus affinis*				
3063			フルホンシバンムシ	*Gastrallus immarginatus*				
3064			Hyperisus pacificus	*Hyperisus pacificus*				
3065			タバコシバンムシ	*Lasioderma serricorne*				
3066			オオナガシバンムシ	*Priobium cylindricum*				
3067			ジンサンシバンムシ	*Stegobium paniceum*				
3068			トサカシバンムシ	*Trichodesma fasciculare*				
3069		ナガシンクイムシ科	ニホンタケナガシンクイ	*Dinoderus japonicus*				
3070			ヒラタキクイムシ	*Lyctus brunneus*				
3071			カキノフタトゲナガシンクイ	*Sinoxylon japonicum*				
3072			カラフトヒラタナガシンクイ	*Stephanopachys sachalinensis*				
3073			ガロアヒメナガシンクイ	*Xylopsocus galloisi*				
3074		ヒョウホンムシ科	カバイロヒョウホンムシ	*Pseudeurostus hilleri*				
3075			ナガヒョウホンムシ	*Ptinus japonicus*				
3076		カッコウムシ科	ヤマトヒメメダカカッコウムシ	*Neohydnus hozumii*				VU
3077			ムナグロナガカッコウムシ	*Opilo niponicus*				
3078			クロダンダラカッコウムシ	*Stigmatium nakanei*				
3079			ダンダラカッコウムシ	*Stigmatium pilosellum*				
3080			ツマグロツツカッコウムシ	*Tenerus hilleri*				
3081			ネアカヒメカッコウムシ	*Tilloidea notata*				
3082			イガラシカッコウムシ	*Tillus igarashii*				
3083		ジョウカイモドキ科	クギヌキヒメジョウカイモドキ	*Ebaeus oblongulus*				
3084			ヒロオビジョウカイモドキ	*Intybia historio*				
3085			クロキオビジョウカイモドキ	*Intybia niponicus*				VU
3086			キアシオビジョウカイモドキ	*Intybia pellegrini pellegrini*				
3087			ルリキオビジョウカイモドキ	*Intybia takaraensis*				NT
3088			イソジョウカイモドキ	*Laius asahinai*			DD	VU
3089			ツマキアオジョウカイモドキ	*Malachius prolongatus*				
3090			ヒメジョウカイモドキ	*Nepachys japonicus*				
3091		コクヌスト科	ハロルドヒメコクヌスト	*Ancyrona haroldi*				
3092			オオマダラコクヌスト	*Kolibacia tibialis*				
3093		ムクゲキスイムシ科	ムナビロムクゲキスイ	*Biphyllus aequalis*				
3094			アカグロムクゲキスイ	*Biphyllus lewisi*				
3095			ハスモンムクゲキスイ	*Biphyllus rufopictus*				

表 4.3-1(45)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3096	コウチュウ目（鞘翅目）	ムクゲキスイムシ科	クリイロムクゲキスイ	*Biphyllus throscoides*				
3097		ヒゲボソケシキスイ科	キイロチビハナケシキスイ	*Heterhelus scutellaris*				
3098		キスイモドキ科	ズグロキスイモドキ	*Byturus atricollis*				
3099		カクホソカタムシ科	ムネビロカクホソカタムシ	*Cautomus hystriculus*				
3100			アナムネカクホソカタムシ	*Thyroderus porcatus*				
3101		ツツキノコムシ科	トウホクツツキノコムシ	*Cis fukudai*				
3102			ゴマフツツキノコムシ	*Cis hieroglyphicus*				
3103			ミヤマツツキノコムシ	*Cis nipponicus*				
3104			キタツツキノコムシ	*Cis seriatopilosus*				
3105			キムネツツキノコムシ	*Cis subrobustus*				
3106			チュウジョウエグリツツキノコムシ	*Ennearthron chujoi*				
3107			ツヤツツキノコムシ	*Octotemnus laminifrons*				
3108			マダラホソツツキノコムシ	*Orthocis ornatus*				
3109		テントウムシ科	カメノコテントウ	*Aiolocaria hexaspilota*				
3110			ジュウクホシテントウ	*Anisosticta kobensis*				
3111			ミスジキイロテントウ	*Brumoides ohtai*				
3112			ハラグロオオテントウ	*Callicaria superba*				
3113			ムーアシロホシテントウ	*Calvia muiri*				
3114			シロジュウシホシテントウ	*Calvia quatuordecimguttata*				
3115			ヒメアカホシテントウ	*Chilocorus kuwanae*				
3116			アカホシテントウ	*Chilocorus rubidus*				
3117			ナナホシテントウ	*Coccinella septempunctata*				
3118			フタモンクロテントウ	*Cryptogonus orbiculus*				
3119			トホシテントウ	*Epilachna admirabilis*				
3120			ナミテントウ	*Harmonia axyridis*				
3121			ニジュウヤホシテントウ	*Henosepilachna vigintioctopunctata*				
3122			ルイヨウマダラテントウ	*Henosepilachna yasutomii*				
3123			ジュウサンホシテントウ	*Hippodamia tredecimpunctata*				
3124			フタスジヒメテントウ	*Horniolus fortunatus*				
3125			フタホシテントウ	*Hyperaspis japonica*				
3126			キイロテントウ	*Kiiro koebelei koebelei*				
3127			ダンダラテントウ	*Menochilus sexmaculatus*				
3128			オシマヒメテントウ	*Nephus oshimensis*				
3129			セスジヒメテントウ	*Nephus patagiatus*				
3130			アトホシヒメテントウ	*Nephus phosphorus*				
3131			ヨツモンヒメテントウ	*Nephus yotsumon*				
3132			ウスキホシテントウ	*Oenopia hirayamai*				
3133			ヨツボシテントウ	*Phymatosternus lewisii*				
3134			ヒメカメノコテントウ	*Propylea japonica*				
3135			ベダリアテントウ	*Rodolia cardinalis*				
3136			アカイロテントウ	*Rodolia concolor*				
3137			ベニヘリテントウ	*Rodolia limbata*				
3138			ハレヤヒメテントウ	*Sasajiscymnus hareja*				
3139			オオヒメテントウ	*Sasajiscymnus pilicrepus*				
3140			クビアカヒメテントウ	*Sasajiscymnus sylvaticus*				
3141			ツガヒメテントウ	*Sasajiscymnus tsugae*				
3142			ババヒメテントウ	*Scymnus babai*				
3143			チュウジョウヒメテントウ	*Scymnus chujoi*				
3144			ツマアカヒメテントウ	*Scymnus dorcatomoides*				
3145			オニヒメテントウ	*Scymnus giganteus*				
3146			クロヘリヒメテントウ	*Scymnus hoffmanni*				
3147			クロヒメテントウ	*Scymnus japonicus*				
3148			カワムラヒメテントウ	*Scymnus kawamurai*				
3149			オトヒメテントウ	*Scymnus otohime*				
3150			コクロヒメテントウ	*Scymnus posticalis*				
3151			ニセツマアカヒメテントウ	*Scymnus rectoides*				
3152			キイロヒメテントウ	*Scymnus syoitii*				
3153			ヤマトヒメテントウ	*Scymnus yamato*				NT
3154			クロツヤテントウ	*Serangium japonicum japonicum*				
3155			キアシクロヒメテントウ	*Stethorus japonicus*				
3156			ムツボシテントウ	*Sticholotis punctata*				
3157			クロテントウ	*Telsimia nigra*				
3158			シロホシテントウ	*Vibidia duodecimguttata*				
3159		ミジンムシ科	チャイロミジンムシ	*Alloparmulus rugosus*				
3160			ナカグロミジンムシ	*Arthrolips lewisii*				
3161			マエキミジンムシ	*Arthrolips oblongus*				
3162			ベニモンツヤミジンムシ	*Parmulus politus*				
3163			ムクゲミジンムシ	*Sericoderus lateralis*				
3164		キスイムシ科	キイロセマルキスイ	*Atomaria lewisi*				
3165			クロモンキスイ	*Cryptophagus decoratus*				

表 4.3-1(46)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3166	コウチュウ目（鞘翅目）	キスイムシ科	コガタキスイ	*Cryptophagus pumilus*				
3167			カワリキスイ	*Cryptophagus varians*				
3168			マルガタキスイ	*Curelius japonicus*				
3169			ダエンキスイ	*Dernostea tanakai*				
3170			ガマキスイ	*Telmatophilus orientalis*				
3171		ヒラタムシ科	ヒゲナガヒメヒラタムシ	*Dendrophagus longicornis*				
3172			ヒゲナガホソチビヒラタムシ	*Leptophloeus abei*				
3173			グルーベルホソチビヒラタムシ	*Leptophloeus convexiusculus*				
3174			カギヒゲチビヒラタムシ	*Microbrontes laemophloeoides*				VU
3175			オオキバチビヒラタムシ	*Nipponophloeus dorcoides*				
3176			モンチビヒラタムシ	*Notolaemus cribratus*				
3177			ルイスチビヒラタムシ	*Notolaemus lewisi*				
3178			ウスリーチビヒラタムシ	*Notolaemus ussuriensis*				
3179			クロムネキカワヒラタムシ	*Pediacus japonicus*				
3180			カドムネチビヒラタムシ	*Placonotus testaceus*				
3181			ヒメヒラタムシ	*Uleiota arboreus*				
3182			セマルチビヒラタムシ	*Xylolestes laevior*				
3183		ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ	*Aphanocephalus hemisphericus*				
3184		テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ	*Ancylopus pictus asiaticus*				
3185			クロモンケブカテントウダマシ	*Ectomychus musculus*				
3186			ルリテントウダマシ	*Endomychus gorhami gorhami*				
3187			ホソムネツヤテントウダマシ	*Lycoperdina hiranoi*				
3188			キボシテントウダマシ	*Mycetina amabilis*				
3189			イカリモンテントウダマシ	*Mycetina ancoriger*				
3190			チャバネムクゲテントウダマシ	*Stenotarsus chrysomelinus*				
3191		オオキノコムシ科	アシグロチビオオキノコムシ	*Aporotritoma atripes*				
3192			カタモンオオキノコムシ	*Aulacochilus japonicus*				
3193			ルリオオキノコムシ	*Aulacochilus sibiricus*				
3194			ニホンホソオオキノコムシ	*Dacne japonica*				
3195			セモンホソオオキノコムシ	*Dacne picta*				
3196			ヒメオビオオキノコムシ	*Episcapha fortunei*				
3197			アカハバビロオオキノコムシ	*Neotriplax lewisii*				
3198			キアシチビオオキノコムシ	*Triplax canalicollis*				
3199			セモンチビオオキノコムシ	*Triplax discicollis*				
3200			ホソチビオオキノコムシ	*Triplax japonica*				
3201			シベリアチビオオキノコムシ	*Triplax sibirica connectens*				
3202			ベニモンチビオオキノコムシ	*Tritoma sobrina*				
3203		オオキスイムシ科	ヨツボシオオキスイ	*Helota gemmata*				
3204		コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ	*Anadastus atriceps*				
3205			ツマグロヒメコメツキモドキ	*Anadastus praeustus*				
3206			ヒラタコメツキモドキ	*Cathartocrypyus hiranoi*				
3207			ルイスコメツキモドキ	*Languriomorpha lewisi*				
3208			ナラコメツキモドキ	*Languriomorpha nara*				
3209			ケシコメツキモドキ	*Microlanguria jansoni*				
3210			ケナガマルキスイ	*Toramus glisonothoides*				
3211		ヒメマキムシ科	オビケシマキムシ	*Corticaria fasciata*				
3212			ニセクロオビケシマキムシ	*Corticaria geisha*				
3213			ウスキケシマキムシ	*Corticaria japonica*				
3214			ナカネケシマキムシ	*Corticaria nakanei*				
3215			クロオビケシマキムシ	*Corticaria ornata*				
3216			ノコヒメマキムシ	*Corticaria serrata*				
3217			ウスチャケシマキムシ	*Cortinicara gibbosa*				
3218			ムナボソヒメマキムシ	*Stephostethus angusticollis*				
3219			ヒメマキムシ	*Stephostethus chinensis*				
3220		ネスイムシ科	アナバケデオネスイ	*Mimemodes cribratus*				
3221			コバケデオネスイ	*Mimemodes japonus*				
3222			トビイロデオネスイ	*Monotoma picipes*				
3223		マルテントウダマシ科	コマルガタテントウダマシ	*Idiophyes niponensis*				
3224			ダエンテントウダマシ	*Mychothenus asiaticus*				
3225		ケシキスイ科	ドウイロムクゲケシキスイ	*Aethina aeneipennis*				
3226			クロモンムクゲケシキスイ	*Aethina flavicollis*				
3227			ナガコゲチャケシキスイ	*Amphicrossus lewisi*				
3228			クロハナケシキスイ	*Carpophilus chalybeus*				
3229			クリヤケシキスイ	*Carpophilus hemipterus*				
3230			クリイロデオキスイ	*Carpophilus marginellus*				
3231			ハラグロデオキスイ	*Carpophilus sibiricus*				
3232			ルイスコオニケシキスイ	*Cryptarcha lewisi*				
3233			ナミモンコケシキスイ	*Cryptarcha strigata*				
3234			ヒゲブトヒラタケシキスイ	*Epuraea aestiva*				
3235			ツバキヒラタケシキスイ	*Epuraea commutata*				

表 4.3-1(47)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3236	コウチュウ目（鞘翅目）	ケシキスイ科	ツヤチビヒラタケシキスイ	*Epuraea concolor*				
3237			ヒメヒラタケシキスイ	*Epuraea domina*				
3238			ムナクボヒラタケシキスイ	*Epuraea foveicollis*				
3239			キバナガヒラタケシキスイ	*Epuraea mandibularis*				
3240			ホソキヒラタケシキスイ	*Epuraea oblonga*				
3241			モンチビヒラタケシキスイ	*Epuraea ocularis*				
3242			マメヒラタケシキスイ	*Epuraea paulula*				
3243			ナミヒラタケシキスイ	*Epuraea pellax*				
3244			セコブヒラタケシキスイ	*Epuraea terminalis*				
3245			コヨツボシケシキスイ	*Glischrochilus ipsoides*				
3246			ヨツボシケシキスイ	*Glischrochilus japonicus*				
3247			マルガタカクケシキスイ	*Hebasculinus japonus*				
3248			コクロヒラタケシキスイ	*Ipidia sibirica*				
3249			クロヒラタケシキスイ	*Ipidia variolosa variolosa*				
3250			エチゴチビケシキスイ	*Meligethes astacus*				
3251			キベリチビケシキスイ	*Meligethes violaceus*				
3252			ネアカマルケシキスイ	*Neopallodes inermis*				
3253			ツヤマルケシキスイ	*Neopallodes vicinus*				
3254			キボシヒラタケシキスイ	*Omosita colon*				
3255			ヘリグロヒラタケシキスイ	*Omosita discoidea*				
3256			アカマダラケシキスイ	*Phenolia picta*				
3257			ヒメアカマダラケシキスイ	*Phenolia sadanarii*				
3258			キノコヒラタケシキスイ	*Physoronia explanata*				
3259			アミモンヒラタケシキスイ	*Physoronia hilleri*				
3260			ウスオビカクケシキスイ	*Pocadites dilatimanus*				
3261			クロモンカクケシキスイ	*Pocadius nobilis*				
3262			キマダラケシキスイ	*Soronia grisea*				
3263			クロキマダラケシキスイ	*Soronia lewisi*				
3264			マルキマダラケシキスイ	*Stelidota multiguttata*				
3265			カタベニデオキスイ	*Urophorus humeralis*				
3266		ツツヒラタムシ科	ツツヒラタムシ	*Ancistria apicalis*				
3267		ヒメハナムシ科	エムモンチビヒメハナムシ	*Acylomus polygramma*				
3268			ベニモンアシナガヒメハナムシ	*Augasmus coronatus*				
3269			キイロアシナガヒメハナムシ	*Augasmus nipponicus*				
3270			チャイロズマルヒメハナムシ	*Litostilbus festivus*				NT
3271			トビイロヒメハナムシ	*Olibrus consanguineus*				
3272			フタスジヒメハナムシ	*Olibrus particeps*				
3273		ホソヒラタムシ科	ノコギリヒラタムシ	*Oryzaephilus surinamensis*				
3274			ニセミツモンセマルヒラタムシ	*Psammoecus triguttatus*				
3275			ミツモンセマルヒラタムシ	*Psammoecus trimaculatus*				
3276			マルムネホソヒラタムシ	*Silvanolomus inermis*				
3277			ホソムネホソヒラタムシ	*Silvanoprus angusticollis*				
3278			ブナホソヒラタムシ	*Silvanoprus fagi*				
3279			ホソミツカドホソヒラタムシ	*Silvanoprus grouvellei*				
3280			ホホビロホソヒラタムシ	*Silvanoprus longicollis*				
3281			ミツカドコナヒラタムシ	*Silvanoprus scuticollis*				
3282		ヒメキノコムシ科	マルヒメキノコムシ	*Aspidiphorus japonicus*				
3283			サカイマルヒメキノコムシ	*Aspidiphorus sakaii*				
3284			ウエノマルヒメキノコムシ	*Aspidiphorus uenoi*				
3285			クリイロヒメキノコムシ	*Sphindus castaneipennis*				
3286		クチキムシ科	クチキムシ	*Allecula melanaria*				
3287		アリモドキ科	ケオビアリモドキ	*Anthelephila cribriceps*				
3288			アトグロホソアリモドキ	*Anthicus floralis*				
3289			ヒゲブトホソアリモドキ	*Anthicus monstrosicornis*				VU
3290			クロオビホソアリモドキ	*Anthicus protensus*				
3291			ホソクビアリモドキ	*Formicomus braminus coiffaiti*				
3292			キアシクビボソムシ	*Macratria japonica*				
3293			ウスモンホソアリモドキ	*Omonadus confucii confucii*				
3294			ハネグロホソアリモドキ	*Omonadus formicarius formicarius*				
3295			ミツヒダアリモドキ	*Pseudoleptaleus trigibber*				
3296			アカモンホソアリモドキ	*Sapintus marseuli*				
3297			アカホソアリモドキ	*Stricticomus fugiens*				
3298			タナカホソアリモドキ	*Stricticomus tobias*				
3299			ヨツボシホソアリモドキ	*Stricticomus valgipes*				
3300		ホソカタムシ科	ヒサゴホソカタムシ	*Glyphocryptus brevicollis*				
3301			ツヤケシヒメホソカタムシ	*Microprius opacus*				
3302			ツヤナガヒラタホソカタムシ	*Pycnomerus vilis*				
3303			ベニモンヒメヒラタホソカタムシ	*Synchita rufosignata*				
3304		ニセクビボソムシ科	ヤマトニセクビボソムシ	*Pseudolotelus japonicus*				
3305			セグロニセクビボソムシ	*Syzeton brunnidorsis*				

表 4.3-1(48)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3306	コウチュウ目（鞘翅目）	ナガクチキムシ科	ハガタホソナガクチキ	*Dircaea dentatomaculata*				
3307			ヒゲブトナガクチキ	*Dircaeomorpha elegans*				NT
3308			アヤモンヒメナガクチキ	*Holostrophus orientalis*				
3309			ミゾボソノミナガクチキ	*Lederina angusticanalis*				
3310			トゲノミナガクチキ	*Lederina narukawai*				
3311			フタモンヒメナガクチキ	*Microtonus dimidiatus*				
3312			ハネナシナガクチキ	*Nipponomarolia kobensis*				
3313			カバイロニセハナノミ	*Orchesia ocularis*				
3314			オオクロホソナガクチキ	*Phloeotrya bellicosa*				
3315			クロホソナガクチキ	*Phloeotrya rugicollis*				
3316			カツオガタナガクチキ	*Synstrophus macrophthalmus*				
3317		ツチハンミョウ科	マメハンミョウ	*Epicauta gorhami*				要注意
3318			ツマグロキゲンセイ	*Zonitis cothurnata cothurnata*				
3319			キイロゲンセイ	*Zonitis japonica*				
3320		ハナノミ科	ナミアカヒメハナノミ	*Falsomordellina luteoloides*				
3321			サトウヒメハナノミ	*Falsomordellistena satoi*				
3322			ヨシダヒメハナノミ	*Falsomordellistena yoshidai*				
3323			チャイロヒメハナノミ	*Glipostenoda rosseola*				
3324			クリゲヒメハナノミ	*Glipostenoda trichophora*				
3325			クリイロヒゲハナノミ	*Higehananomia palpalis*				
3326			オナガクロハナノミ	*Mordella onaga*				
3327			アマミヒメハナノミ	*Mordellina amamiensis*				
3328			チビヒメハナノミ	*Mordellina chibi*				
3329			コイケヒメハナノミ	*Mordellina koikei*				
3330			カタモンヒメハナノミ	*Mordellina pseudohumeralis*				
3331			フタオビヒメハナノミ	*Mordellina signatella*				
3332			クロヒメハナノミ	*Mordellistena comes*				
3333			フジヤマクロヒメハナノミ	*Mordellistena fujiyamai*				
3334			アトグロヒメハナノミ	*Mordellistena fuscoapicalis*				
3335			オオスミヒメハナノミ	*Mordellistenoda ohsumiana*				
3336			ナガトヒゲヒメハナノミ	*Tolidostena japonica*				
3337			キンオビハナノミ	*Variimorda flavimana*				
3338		コキノコムシ科	フタオビヒメコキノコムシ	*Litargus antennatus*				
3339			コモンヒメコキノコムシ	*Litargus japonicus*				
3340			ヒゲブトコキノコムシ	*Mycetophagus antennatus*				
3341			ヒレルコキノコムシ	*Mycetophagus hillerianus*				
3342			コマダラコキノコムシ	*Mycetophagus pustulosus*				
3343			チャイロコキノコムシ	*Typhaea stercorea*				
3344		カミキリモドキ科	ハイイロカミキリモドキ	*Eobia cinereipennis cinereipennis*				
3345			サタカミキリモドキ	*Indasclera japonica japonica*				VU
3346			アオグロカミキリモドキ	*Ischnomera nigrocyanea nigrocyanea*				
3347			キイロカミキリモドキ	*Nacerdes hilleri*				
3348			カトウカミキリモドキ	*Nacerdes katoi*				
3349			キバネカミキリモドキ	*Nacerdes luteipennis*				
3350			アオカミキリモドキ	*Nacerdes waterhousei*				
3351			モモブトカミキリモドキ	*Oedemera lucidicollis*				
3352			キアシカミキリモドキ	*Oedemera manicata*				
3353		アカハネムシ科	ミゾアカハネムシ	*Pseudopyrochroa brevitarsis*				
3354		チビキカワムシ科	モンシロハネカクシダマシ	*Inopeplus quadrinotatus*				
3355			クリイロチビキカワムシ	*Lissodema dentatum*				
3356			ツヤチビキカワムシ	*Lissodema laevipenne*				
3357			ムネアカチビキカワムシ	*Lissodema unifasciatum*				
3358		ハナノミダマシ科	クロフナガタハナノミ	*Anaspis marseuli*				
3359		ヒラタナガクチキムシ科	ヒメコメツキガタナガクチキ	*Synchroa melanotoides*				
3360		ゴミムシダマシ科	ハロルドアオバクチキムシ	*Allecula aeneipennis*				
3361			ナミウスイロクチキムシ	*Allecula bilamellata*				
3362			ホソクロクチキムシ	*Allecula noctivaga*				
3363			クリノウスイロクチキムシ	*Allecula simiola*				
3364			ホンドホソアカクチキムシ	*Allecula tenuis*				
3365			ヒメゴミムシダマシ	*Alphitobius laevigatus*				
3366			フタオビツヤゴミムシダマシ	*Alphitophagus bifasciatus*				
3367			コマルキマワリ	*Amarygmus curvus*				
3368			ヤマトオサムシダマシ	*Blaps japonensis*			NT	EX
3369			クリイロクチキムシ	*Borboresthes acicularis*				
3370			ホンドトビイロクチキムシ	*Borboresthes cruralis*				
3371			オオマルチビゴミムシダマシ	*Caedius maderi*				VU
3372			マルチビゴミムシダマシ	*Caedius marinus*				
3373			ヒメナガニジゴミムシダマシ	*Ceropria induta*				
3374			フトナガニジゴミムシダマシ	*Ceropria laticollis*				
3375			ホソナガニジゴミムシダマシ	*Ceropria striata*				

表 4.3-1(49)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3376	コウチュウ目（鞘翅目）	ゴミムシダマシ科	アメイロホソゴミムシダマシ	*Corticeus gentilis*				
3377			ルリゴミムシダマシ	*Derosphaerus subviolaceus*				
3378			モンキゴミムシダマシ	*Diaperis lewisi lewisi*				
3379			ヒガシズビロキマワリモドキ	*Gnesis fujitai*				
3380			コスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum coriaceum*				
3381			ムネビロスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum japanum japanum*				
3382			シナスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum klappericki*				CR+EN
3383			ヒメスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum persimile*				
3384			オオスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum pubens*				
3385			カクスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum recticolle*				
3386			スジコガシラゴミムシダマシ	*Heterotarsus carinula*				
3387			アカツヤバネクチキムシ	*Hymenalia rufipennis*				
3388			ハマヒョウタンゴミムシダマシ	*Idisia ornata*				
3389			ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ	*Idisia vestita*				
3390			フナガタクチキムシ	*Isomira oculata*				
3391			ホンドチビヒサゴゴミムシダマシ	*Laena rotundicollis*				
3392			オオメキバネハムシダマシ	*Lagria rufipennis*				
3393			アラメヒゲブトゴミムシダマシ	*Luprops cribrifrons*				
3394			ヒゲブトゴミムシダマシ	*Luprops orientalis*				
3395			フジナガハムシダマシ	*Macrolagria rufobrunnea*				
3396			オオツヤホソゴミムシダマシ	*Menephilus arciscelis*				
3397			ヒメホソハマベゴミムシダマシ	*Micropedinus pallidipennis*				
3398			ホソハマベゴミムシダマシ	*Micropedinus pallulus*				
3399			ヒガシツヤヒサゴゴミムシダマシ	*Misolampidius imasakai*				
3400			キアシヒメクチキムシ	*Mycetochara flavipes*				
3401			クロゴミムシダマシ	*Neatus picipes*				
3402			コヒメコクヌストモドキ	*Palorus subdepressus*				
3403			アオツヤキノコゴミムシダマシ	*Platydema maruseuli*				
3404			ツノボソキノコゴミムシダマシ	*Platydema recticornis*				
3405			ベニモンキノコゴミムシダマシ	*Platydema subfascia subfascia*				
3406			ニホンキマワリ本土亜種	*Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus*				
3407			クロツヤキマワリ	*Plesiophthalmus spectabilis*				
3408			サトユミアシゴミムシダマシ	*Promethis valgipes*				
3409			ルリツヤヒメキマワリモドキ	*Simalura coerulea*				
3410			ホンドクビカクシゴミムシダマシ	*Stenochinus bacillus bacillus*				
3411			セスジナガキマワリ本土亜種	*Strongylium cultellatum cultellatum*				
3412			ハネナシセスジナガキマワリ	*Strongylium marseuli*				DD
3413			ノコアシマルムネゴミムシダマシ	*Tarpela cordicollis*				
3414			チャイロコメノゴミムシダマシ	*Tenebrio molitor*				
3415			ホンドニジゴミムシダマシ	*Tetraphyllus paykullii*				
3416			オニツノゴミムシダマシ	*Toxicum funginum*				
3417			ミツノゴミムシダマシ	*Toxicum tricornutum*				
3418			ニセマグソコガネダマシ	*Trachyscelis sabuleti*				CR+EN
3419			コクヌストモドキ	*Tribolium castaneum*				
3420			モトヨツコブエグリゴミムシダマシ	*Uloma bonzica*				
3421			マルセルエグリゴミムシダマシ本土亜種	*Uloma marseuli marseuli*				
3422			ホンドクロオオクチキムシ	*Upinella fuliginosa*				
3423			ナミクチキムシ	*Upinella melanaria*				
3424		キノコムシダマシ科	アカバコキノコムシダマシ	*Pisenus insignis*				
3425		カミキリムシ科	ヒメビロウドカミキリ	*Acalolepta degener*			NT	CR+EN
3426			ビロウドカミキリ	*Acalolepta fraudatrix fraudatrix*				
3427			チャイロヒゲビロウドカミキリ	*Acalolepta kusamai*				
3428			センノキカミキリ	*Acalolepta luxuriosa luxuriosa*				
3429			ニセビロウドカミキリ	*Acalolepta sejuncta sejuncta*				
3430			ヒゲナガモモブトカミキリ	*Acanthocinus orientalis*				NT
3431			ウスバカミキリ	*Aegosoma sinicum sinicum*				
3432			キマダラミヤマカミキリ	*Aeolesthes chrysothrix chrysothrix*				
3433			トゲヒゲトビイロカミキリ	*Allotraeus rufescens*				希少
3434			トビイロカミキリ	*Allotraeus sphaerioninus*				
3435			トガリバアカネトラカミキリ	*Anaglyptus niponensis*				
3436			スギノアカネトラカミキリ	*Anaglyptus subfasciatus*				
3437			ツヤケシハナカミキリ	*Anastrangalia scotodes*				
3438			ミヤマクロハナカミキリ	*Anoplodera excavata*				
3439			ゴマダラカミキリ	*Anoplophora malasiaca*				
3440			カノコサビカミキリ	*Apomecyna naevia naevia*				
3441			クワカミキリ	*Apriona japonica*				
3442			サビカミキリ	*Arhopalus coreanus*				
3443			シナノクロフカミキリ	*Asaperda agapanthina*				
3444			コブスジサビカミキリ	*Atimura japonica*				
3445			タテジマカミキリ	*Aulaconotus pachypezoides*				

表 4.3-1(50)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3446	コウチュウ目（鞘翅目）	カミキリムシ科	ルリカミキリ	*Bacchisa fortunei japonica*				VU
3447			シロスジカミキリ	*Batocera lineolata*				要注意
3448			アカネトラカミキリ	*Brachyclytus singularis*				NT
3449			ハンノキカミキリ	*Cagosima sanguinolenta*				VU
3450			ヒメスギカミキリ	*Callidiellum rufipenne*				
3451			ケブトハナカミキリ	*Caraphia lepturoides lepturoides*				希少
3452			ツシマムナクボカミキリ	*Cephalallus unicolor*				
3453			リュウキュウヒメカミキリ	*Ceresium fuscum fuscum*				
3454			テツイロヒメカミキリ	*Ceresium sinicum sinicum*				
3455			アカアシオオアオカミキリ	*Chloridolum japonicum*				CR+EN
3456			オオアオカミキリ	*Chloridolum thaliodes*				DD
3457			ミドリカミキリ	*Chloridolum viride*				NT
3458			タケトラカミキリ	*Chlorophorus annularis*				
3459			クロトラカミキリ	*Chlorophorus diadema inhirsutus*				VU
3460			エグリトラカミキリ	*Chlorophorus japonicus*				
3461			フタオビミドリトラカミキリ	*Chlorophorus muscosus*				
3462			ヨツスジトラカミキリ	*Chlorophorus quinquefasciatus*				
3463			ハスオビヒゲナガカミキリ	*Cleptometopus bimaculatus*				
3464			キンケトラカミキリ	*Clytus auripilis*				
3465			シラケトラカミキリ	*Clytus melaenus*				
3466			キスジトラカミキリ	*Cyrtoclytus caproides caproides*				
3467			トゲヒゲトラカミキリ	*Demonax transilis*				
3468			ホタルカミキリ	*Dere thoracica*				
3469			ヒナルリハナカミキリ	*Dinoptera minuta*				
3470			ホソカミキリ	*Distenia gracilis gracilis*				
3471			ニイジマチビカミキリ	*Egesina bifasciana bifasciana*				
3472			ヨツキボシカミキリ	*Epiglenea comes comes*				
3473			ホシベニカミキリ	*Eupromus ruber*				
3474			ベーツヒラタカミキリ	*Eurypoda batesi*				VU
3475			ヤツメカミキリ	*Eutetrapha ocelota*				
3476			クモガタケシカミキリ	*Exocentrus fasciolatus*				
3477			ガロアケシカミキリ	*Exocentrus galloisi*				
3478			シラオビゴマフケシカミキリ	*Exocentrus guttulatus*				
3479			アトモンマルケシカミキリ	*Exocentrus lineatus*				
3480			キッコウモンケシカミキリ	*Exocentrus testudineus*				
3481			シロオビゴマフカミキリ	*Falsomesosella gracilior*				
3482			コジマヒゲナガコバネカミキリ	*Glaphyra kojimai*				
3483			シラホシカミキリ	*Glenea relicta relicta*				
3484			キイロトラカミキリ	*Grammographus notabilis notabilis*				要注意
3485			ナカバヤシモモブトカミキリ	*Leiopus guttatus*				VU
3486			ゴマダラモモブトカミキリ	*Leiopus stillatus*				
3487			ヤツボシハナカミキリ	*Leptura annularis mimica*				
3488			ムネアカクロハナカミキリ	*Leptura dimorpha*				NT
3489			ツマグロハナカミキリ	*Leptura modicenotata*				
3490			ヨツスジハナカミキリ	*Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata*				
3491			オニグルミノキモンカミキリ	*Menesia flavotecta*				
3492			キモンカミキリ	*Menesia sulphurata*				
3493			カタシロゴマフカミキリ	*Mesosa hirsuta hirsuta*				
3494			ゴマフカミキリ	*Mesosa japonica*				
3495			ナガゴマフカミキリ	*Mesosa longipennis*				
3496			ヘリグロチビコブカミキリ	*Miccolamia takakuwai*				
3497			チビコブカミキリ	*Miccolamia verrucosa*				
3498			ヒシカミキリ	*Microlera ptinoides*				
3499			コゲチャサビカミキリ	*Mimectatina meridiana ohirai*				希少
3500			マツノマダラカミキリ	*Monochamus alternatus endai*				
3501			ヒメヒゲナガカミキリ	*Monochamus subfasciatus subfasciatus*				
3502			ミヤマカミキリ	*Neocerambyx raddei*				
3503			ハイイロヤハズカミキリ	*Niphona furcata*				
3504			ヘリグロリンゴカミキリ	*Nupserha marginella*				
3505			ホソキリンゴカミキリ	*Oberea infranigrescens*				
3506			リンゴカミキリ	*Oberea japonica*				
3507			シラハタリンゴカミキリ	*Oberea shirahatai*				
3508			ヒゲナガゴマフカミキリ	*Palimna liturata*				
3509			シロトラカミキリ	*Paraclytus excultus*				
3510			ラミーカミキリ	*Paraglenea fortunei*				
3511			ベニバハナカミキリ	*Paranaspia anaspidoides*				
3512			チャイロホソヒラタカミキリ	*Phymatodes testaceus*				
3513			キクスイカミキリ	*Phytoecia rufiventris*				
3514			アカネカミキリ	*Poecilium maaki viarius*				
3515			ノコギリカミキリ	*Prionus insularis insularis*				

表 4.3-1(51)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3516	コウチュウ目（鞘翅目）	カミキリムシ科	キボシカミキリ	*Psacothea hilaris hilaris*				
3517			コバネカミキリ	*Psephactus remiger remiger*				
3518			チャボハナカミキリ	*Pseudalosterna misella*				
3519			ドウボソカミキリ	*Pseudocalamobius japonica*				
3520			マルモンサビカミキリ	*Pterolophia angusta*				
3521			ワモンサビカミキリ	*Pterolophia annulata*				
3522			トガリシロオビサビカミキリ	*Pterolophia caudata caudata*				
3523			アトモンサビカミキリ	*Pterolophia granulata*				
3524			ナカジロサビカミキリ	*Pterolophia jugosa jugosa*				
3525			ヒメナガサビカミキリ	*Pterolophia leiopodina*				
3526			アトジロサビカミキリ	*Pterolophia zonata*				
3527			ヘリグロベニカミキリ	*Purpuricenus spectabilis*				
3528			ベニカミキリ	*Purpuricenus temminckii*				
3529			クスベニカミキリ	*Pyrestes nipponicus*				
3530			ヘリウスハナカミキリ	*Pyrrhona laeticolor laeticolor*				
3531			ホンドニセハイイロハナカミキリ	*Rhagium （Rhagium） femorale*				
3532			ヒメクロトラカミキリ	*Rhaphuma diminuta diminuta*				
3533			ホソトラカミキリ	*Rhaphuma xenisca*				
3534			セミスジコブヒゲカミキリ	*Rhodopina lewisii lewisii*				
3535			ヒトオビアラゲカミキリ	*Rhopaloscelis unifasciatus*				
3536			トゲバカミキリ	*Rondibilis saperdina*				
3537			アオカミキリ	*Schwarzerium quadricollis*				
3538			ケシカミキリ	*Sciades tonsus*				
3539			スギカミキリ	*Semanotus japonicus*				
3540			イボタサビカミキリ	*Sophronica obrioides*				
3541			クロカミキリ	*Spondylis buprestoides*				
3542			カッコウメダカカミキリ	*Stenhomalus cleroides*				
3543			タイワンメダカカミキリ	*Stenhomalus taiwanus*				
3544			フタコブルリハナカミキリ	*Stenocorus caeruleipennis*				
3545			アメイロカミキリ	*Stenodryas clavigera clavigera*				
3546			ヨツボシカミキリ	*Stenygrinum quadrinotatum*			EN	CR+EN
3547			アカハナカミキリ	*Stictoleptura succedanea*				
3548			シロオビチビカミキリ	*Sybra subfasciata subfasciata*				
3549			トラフホソバネカミキリ	*Thranius variegatus variegatus*				
3550			アサカミキリ	*Thyestilla gebleri*			VU	CR+EN
3551			モモグロハナカミキリ	*Toxotinus reinii*				NT
3552			マルクビケマダラカミキリ	*Trichoferus campestris*				NT
3553			ヤハズカミキリ	*Uraecha bimaculata bimaculata*				
3554			チャボヒゲナガカミキリ	*Xenicotela pardalina*				
3555			トラフカミキリ	*Xylotrechus chinensis*				要注意
3556			ウスイロトラカミキリ	*Xylotrechus cuneipennis*				
3557			ニイジマトラカミキリ	*Xylotrechus emaciatus*				
3558			ムネマダラトラカミキリ	*Xylotrechus greyii greyii*				NT
3559			ブドウトラカミキリ	*Xylotrechus pyrrhoderus pyrrhoderus*				NT
3560			アオスジカミキリ	*Xystrocera globosa*				VU
3561		ハムシ科	アカガネサルハムシ	*Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii*				
3562			タマツツハムシ	*Adiscus lewisii*				
3563			ハンノキハムシ	*Agelastica coerulea*				
3564			ヒメカミナリハムシ	*Altica caerulescens*				
3565			ミズタマソウカミナリハムシ	*Altica circaeae*				
3566			ヒメアザミカミナリハムシ	*Altica cirsicola*				
3567			カミナリハムシ	*Altica aenea*				
3568			スジカミナリハムシ本州以南亜種	*Altica latericosta subcostata*				DD
3569			アカバナカミナリハムシ	*Altica oleracea*				
3570			コカミナリハムシ	*Altica viridicyanea*				
3571			アヤメツブノミハムシ	*Aphthona interstitialis*				
3572			ツブノミハムシ	*Aphthona perminuta*				
3573			キアシツブノミハムシ	*Aphthona semiviridis*				
3574			サメハダツブノミハムシ	*Aphthona strigosa*				
3575			ホソルリトビハムシ	*Aphthonaltica angustata*				
3576			フタイロセマルトビハムシ	*Aphthonomorpha collaris*				
3577			テントウノミハムシ	*Argopistes biplagiatus*				
3578			ヘリグロテントウノミハムシ	*Argopistes coccinelliformis*				
3579			ヒメテントウノミハムシ	*Argopistes tsekooni*				
3580			オオキイロマルノミハムシ	*Argopus balyi*				
3581			クラークマルノミハムシ	*Argopus clarki*				
3582			オオアカマルノミハムシ	*Argopus clypeatus*				
3583			アカイロマルノミハムシ	*Argopus punctipennis*				
3584			ムナグロツヤハムシ	*Arthrotus niger*				
3585			ジンガサハムシ	*Aspidimorpha indica*				

表 4.3-1(52)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3586	コウチュウ目（鞘翅目）	ハムシ科	スキバジンガサハムシ	*Aspidimorpha transparipennis*				
3587			ウリハムシモドキ	*Atrachya menetriesi*				
3588			ウリハムシ	*Aulacophora indica*				
3589			クロウリハムシ	*Aulacophora nigripennis nigripennis*				
3590			アオバネサルハムシ	*Basilepta fulvipes*				
3591			ウスイロサルハムシ	*Basilepta pallidula*				
3592			チャバラマメゾウムシ	*Borowiecius ademptus*				
3593			サムライマメゾウムシ	*Bruchidius japonicus*				
3594			ヒゲナガマメゾウムシ	*Bruchidius lautus*				
3595			ネムノキマメゾウムシ	*Bruchidius terrenus*				
3596			シリアカマメゾウムシ	*Bruchidius urbanus*				
3597			クロマメゾウムシ	*Bruchus maculipes*				VU
3598			エンドウゾウムシ	*Bruchus pisorum*				
3599			アズキマメゾウムシ	*Callosobruchus chinensis*				
3600			セモンジンガサハムシ	*Cassida crucifera*				
3601			ヒメジンガサハムシ	*Cassida fuscorufa*				
3602			イノコヅチカメノコハムシ	*Cassida japana*				
3603			カメノコハムシ	*Cassida nebulosa*				
3604			ヒメカメノコハムシ	*Cassida piperata*				
3605			アオカメノコハムシ	*Cassida rubiginosa*				
3606			コガタカメノコハムシ	*Cassida vespertina*				
3607			フタイロヒサゴトビハムシ	*Chaetocnema bicolorata*				
3608			ヒメドウガネトビハムシ	*Chaetocnema concinnicollis*				
3609			テンサイトビハムシ	*Chaetocnema picipes*				
3610			ハラマダラヒメハムシ	*Charaea akkoae*				
3611			ニセキバラヒメハムシ	*Charaea chujoi*				
3612			ハラグロヒメハムシ	*Charaea cyaneus*				
3613			キバラヒメハムシ	*Charaea flaviventre*				
3614			ミズキムシクソハムシ	*Chlamisus interjectus*				
3615			ツツジムシクソハムシ	*Chlamisus laticollis*				
3616			ムシクソハムシ	*Chlamisus spilotus*				
3617			ヨモギハムシ	*Chrysolina aurichalcea*				
3618			ヒトミヒメサルハムシ	*Cleoporus variabilis*				
3619			クロアシヒメツツハムシ	*Coenobius piceipes*				
3620			イモサルハムシ	*Colasposoma dauricum*				
3621			ルリツツハムシ	*Cryptocephalus aeneoblitus*				
3622			バラルリツツハムシ	*Cryptocephalus approximatus*				
3623			チビルリツツハムシ	*Cryptocephalus confusus*				
3624			キアシルリツツハムシ	*Cryptocephalus fortunatus*				
3625			タテスジキツツハムシ	*Cryptocephalus nigrofasciatus*				
3626			ヨツモンクロツツハムシ	*Cryptocephalus nobilis*				
3627			キボシツツハムシ	*Cryptocephalus perelegans perelegans*				
3628			カシワツツハムシ	*Cryptocephalus scitulus*				
3629			クロボシツツハムシ	*Cryptocephalus signaticeps*				
3630			ヒメキベリトゲハムシ	*Dactylispa angulosa*				
3631			キベリトゲハムシ	*Dactylispa masonii*				
3632			カタビロトゲハムシ	*Dactylispa subquadrata*				
3633			チビカサハラハムシ	*Demotina decorata*				
3634			マダラカサハラハムシ	*Demotina fasciculata*				
3635			カサハラハムシ	*Demotina modesta*				
3636			ヒメカサハラハムシ	*Demotina vernalis*				
3637			イネネクイハムシ	*Donacia provostii*				VU
3638			クワハムシ	*Fleutiauxia armata*				
3639			ジュンサイハムシ	*Galerucella nipponensis*				CR+EN
3640			イチゴハムシ	*Galerucella vittaticollis*				
3641			イタドリハムシ	*Gallerucida bifasciata*				
3642			クルミハムシ	*Gastrolina depressa*				
3643			コガタルリハムシ	*Gastrophysa atrocyanea*				
3644			ヤツボシハムシ	*Gonioctena nigroplagiata*				
3645			フジハムシ	*Gonioctena rubripennis*				
3646			ヨツキボシハムシ	*Hamushia eburata*				
3647			キバネマルノミハムシ	*Hemipyxis flavipennis*				
3648			ヒゲナガルリマルノミハムシ	*Hemipyxis plagioderoides*				
3649			ドウガネサルハムシ	*Heteraspis lewisii*				
3650			クロトゲハムシ	*Hispellinus moerens*				
3651			クロオビカサハラハムシ	*Hyperaxis fasciata*				
3652			キベリクビボソハムシ	*Lema adamsii*				
3653			ルリクビボソハムシ	*Lema cirsicola*				
3654			キバラルリクビボソハムシ	*Lema concinnipennis*				
3655			トゲアシクビボソハムシ	*Lema coronata*				

表 4.3-1(53)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3656	コウチュウ目（鞘翅目）	ハムシ科	トホシクビボソハムシ	*Lema decempunctata*				
3657			キオビクビボソハムシ	*Lema delicatula*				
3658			アカクビボソハムシ	*Lema diversa*				
3659			ヤマイモハムシ	*Lema honorata*				
3660			ホソクビナガハムシ	*Lilioceris parvicollis*				
3661			キイロクビナガハムシ	*Lilioceris rugata*				
3662			アカクビナガハムシ	*Lilioceris subpolita*				
3663			サシゲトビハムシ	*Lipromima minuta*				
3664			ナガトビハムシ	*Liprus punctatostriatus*				
3665			クロボシトビハムシ	*Longitarsus bimaculatus*				
3666			オオアシナガトビハムシ	*Longitarsus nitidus*				
3667			オオバコトビハムシ	*Longitarsus scutellaris*				
3668			ヨモギアシナガトビハムシ	*Longitarsus succineus*				
3669			クワノミハムシ	*Luperomorpha funesta*				
3670			クビアカトビハムシ	*Luperomorpha pryeri*				
3671			キアシノミハムシ	*Luperomorpha tenebrosa*				
3672			クロウスバハムシ	*Luperus moorii*				
3673			コフキケブカサルハムシ	*Lypesthes ater*				
3674			セアカケブカサルハムシ	*Lypesthes fulvus*				
3675			ニホンケブカサルハムシ	*Lypesthes japonicus*				
3676			ルイスケブカサルハムシ	*Lypesthes lewisi*				
3677			スイバトビハムシ	*Mantura clavareaui*				DD
3678			フタスジヒメハムシ	*Medythia nigrobilineata*				
3679			ホタルハムシ	*Monolepta dichroa*				
3680			ムネアカウスイロハムシ	*Monolepta kurosawai*				
3681			キイロクワハムシ	*Monolepta pallidula*				
3682			イチモンジハムシ	*Morphosphaera japonica*				
3683			トガリカクムネトビハムシ	*Neocrepidodera acuminata*				
3684			カクムネトビハムシ	*Neocrepidodera laevicollis*				
3685			オオキイロノミハムシ	*Neocrepidodera obscuritarsis*				
3686			アカガネチビサルハムシ	*Nodina chalcosoma*				
3687			ルリマルノミハムシ	*Nonarthra cyanea*				
3688			コマルノミハムシ	*Nonarthra tibialis*				
3689			ドウガネツヤハムシ	*Oomorphoides cupreatus*				
3690			アオグロツヤハムシ	*Oomorphoides nigrocaeruleus*				
3691			ブタクサハムシ	*Ophraella communa*				
3692			セスジクビボソハムシ	*Oulema atrosuturalis*				NT
3693			キアシクビボソハムシ	*Oulema tristis*				CR+EN
3694			ムネアカキバネサルハムシ	*Pagria consimile*				
3695			ツヤキバネサルハムシ	*Pagria grata*				
3696			アトボシハムシ	*Paridea angulicollis*				
3697			ヨツボシハムシ	*Paridea quadriplagiata*				
3698			ダイコンサルハムシ	*Phaedon brassicae*				
3699			タマアシトビハムシ	*Philopona vibex*				
3700			チャバネツヤハムシ	*Phygasia fulvipennis*				
3701			チュウジョウキスジノミハムシ	*Phyllotreta chujoe*				
3702			キスジノミハムシ	*Phyllotreta striolata*				
3703			ヤナギルリハムシ	*Plagiodera versicolora*				
3704			フタホシオオノミハムシ	*Pseudodera xanthospila*				
3705			クビボソトビハムシ	*Pseudoliprus hirtus*				
3706			アラメクビボソトビハムシ	*Pseudoliprus nigritus nigritus*				
3707			アサトビハムシ	*Psylliodes attenuata*				
3708			ルリナガスネトビハムシ	*Psylliodes brettinghami*				
3709			ナトビハムシ	*Psylliodes punctifrons*				
3710			ダイコンナガスネトビハムシ	*Psylliodes subrugosa*				
3711			ナスナガスネトビハムシ	*Psylliodes viridana*				
3712			サンゴジュハムシ	*Pyrrhalta lineatipes*				
3713			ニレハムシ	*Pyrrhalta maculicollis*				
3714			アカタデハムシ	*Pyrrhalta semifulva*				
3715			オオサクラケブカハムシ	*Pyrrhalta takeii*				
3716			エノキハムシ	*Pyrrhalta tibialis*				
3717			クロルリトゲハムシ	*Rhadinosa nigrocyanea*				
3718			カタクリハムシ	*Sangariola punctatostriata*				
3719			キボシルリハムシ	*Smaragdina aurita*				
3720			キイロナガツツハムシ	*Smaragdina nipponensis*				
3721			アケビタマノミハムシ	*Sphaeroderma akebiae*				
3722			ツマキタマノミハムシ	*Sphaeroderma apicale*				
3723			ムネアカタマノミハムシ	*Sphaeroderma placidum*				
3724			ヌカキビタマトビハムシ	*Sphaeroderma seriatum*				
3725			キイロタマノミハムシ	*Sphaeroderma unicolor*				

表 4.3-1(54)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3726	コウチュウ目（鞘翅目）	ハムシ科	ヒゲナガウスバハムシ	*Stenoluperus nipponensis*				
3727			ザウテルマメゾウムシ	*Sulcobruchus sauteri*				
3728			アラハダトビハムシ	*Trachyaphthona lewisi*				
3729			ガマズミトビハムシ	*Trachyaphthona obscura*				
3730			ヒゲナガアラハダトビハムシ	*Trachyaphthona sordida*				
3731			キカサハラハムシ	*Xanthonia placida*				
3732			シリダコグミトビハムシ	*Zipanginia tuberosa*				DD
3733		ヒゲナガゾウムシ科	シリジロヒゲナガゾウムシ	*Androceras flavellicorne*				
3734			イボタロウヒゲナガゾウムシ	*Anthribus niveovariegatus*				
3735			キスジヒゲナガゾウムシ	*Aphaulimia debilis*				
3736			アカアシヒゲナガゾウムシ	*Araecerus tarsalis*				
3737			スネアカヒゲナガゾウムシ	*Autotropis distinguenda*				
3738			シバンガタノミヒゲナガゾウムシ	*Choragus anobioides*				
3739			ゴマノミヒゲナガゾウムシ	*Choragus cissoides*				
3740			ムネアカノミヒゲナガゾウムシ	*Choragus cryphaloides*				
3741			セスジノミヒゲナガゾウムシ	*Choragus mundulus*				
3742			キノコヒゲナガゾウムシ	*Euparius oculatus oculatus*				
3743			イトヒゲナガゾウムシ	*Exillis japonicola*				
3744			アカミヒゲナガゾウムシ	*Litocerus securus*				
3745			ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	*Ozotomerus japonicus japonicus*				
3746			ササセマルヒゲナガゾウムシ	*Phloeobius stenus*				
3747			シロヒゲナガゾウムシ	*Platystomos sellatus sellatus*				
3748			カオジロヒゲナガゾウムシ	*Sphinctotropis laxa*				
3749			キマダラヒゲナガゾウムシ	*Tropideres naevulus*				
3750			ケチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ	*Valenfriesia wollastoni*				
3751		ホソクチゾウムシ科	アカクチホソクチゾウムシ	*Microconapion pallidirostre*				
3752			ケブカホソクチゾウムシ	*Sergiola griseopubescens*				
3753			ヒレルホソクチゾウムシ	*Sergiola hilleri*				
3754			ヒメケブカホソクチゾウムシ	*Sergiola praecaria*				
3755		オトシブミ科	チャイロチョッキリ	*Aderorhinus crioceroides*				
3756			ウスモンオトシブミ	*Apoderus balteatus*				
3757			ヒメクロオトシブミ	*Apoderus erythrogaster*				
3758			オトシブミ	*Apoderus jekelii*				
3759			ヌルデケシツブチョッキリ	*Auletobius fumigatus*				
3760			クロケシツブチョッキリ	*Auletobius uniformis*				
3761			ブドウハマキチョッキリ	*Byctiscus lacunipennis*				
3762			ドロハマキチョッキリ	*Byctiscus puberulus*				
3763			イタヤハマキチョッキリ	*Byctiscus venustus*				
3764			エゴツルクビオトシブミ	*Cycnotrachelus roelofsi*				
3765			ハイイロチョッキリ	*Cyllorhynchites ursulus*				
3766			チビイクビチョッキリ	*Deporaus minimus*				
3767			コナライクビチョッキリ	*Deporaus unicolor*				
3768			ホソチョッキリ	*Eugnamptus aurifrons*				
3769			コブルリオトシブミ	*Euops pustulosus*				
3770			カシルリオトシブミ	*Euops splendidus*				
3771			サクライクビチョッキリ	*Exrhynchites septemtrionalis*				
3772			リュイスアシナガオトシブミ	*Henicolabus lewisii*				
3773			ヒメケブカチョッキリ	*Involvulus pilosus*				
3774			クチナガチョッキリ	*Involvulus plumbeus*				
3775			クチブトチョッキリ	*Lasiorhynchites brevirostris*				
3776			ゴマダラオトシブミ	*Paroplapoderus pardalis*				
3777			ヒメゴマダラオトシブミ	*Paroplapoderus vanvolxemi*				
3778			アシナガオトシブミ	*Phialodes rufipennis*				
3779			カシルリチョッキリ	*Rhodocyrtus assimilis*				
3780			セアカチョッキリ	*Rhodocyrtus sanguinipennis*				
3781			モモチョッキリ	*Rhynchites heros*				
3782		ゾウムシ科	クロカレキゾウムシ	*Acicnemis albofasciata*				
3783			ウスモンカレキゾウムシ	*Acicnemis palliata*				
3784			シバタカレキゾウムシ	*Acicnemis shibatai*				
3785			ナカスジカレキゾウムシ	*Acicnemis suturalis*				
3786			オビモンヒョウタンゾウムシ	*Amystax fasciatus*				
3787			イチゴハナゾウムシ	*Anthonomus bisignifer*				
3788			オオクマハナゾウムシ	*Anthonomus okumai*				
3789			ナシハナゾウムシ	*Anthonomus pomorum*				
3790			オビモンハナゾウムシ	*Anthonomus rectirostris*				
3791			ユアサハナゾウムシ	*Anthonomus yuasai*				
3792			レロフチビシギゾウムシ	*Archarius roelofsi*				
3793			ケブカヒメカタゾウムシ	*Arrhaphogaster pilosa*				
3794			ツヤツチゾウムシ	*Asphalmus japonicus*				
3795			ニセヒシガタヒメゾウムシ	*Barinomorphoides similaris*				

表 4.3-1(55)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3796	コウチュウ目（鞘翅目）	ゾウムシ科	エゾヒメゾウムシ	*Baris ezoana*				
3797			オオハッカヒメゾウムシ	*Baris pilosa*				
3798			マダラヒメゾウムシ	*Baris scolopacea*				
3799			ヘリアカナガハナゾウムシ	*Bradybatus limbatus*				
3800			メナガクチブトゾウムシ	*Calomycterus setarius*				
3801			サビクチブトゾウムシ	*Canoixus japonicus*				
3802			コゲチャツツゾウムシ	*Carcilia tenuistriata*				
3803			カナムグラサルゾウムシ	*Cardipennis shaowuensis*				
3804			ムネミゾサルゾウムシ	*Cardipennis sulcithorax*				
3805			ボウサンクチカクシゾウムシ	*Catabonops monachus*				
3806			クロクチカクシゾウムシ	*Catagmatus japonicus*				
3807			ツヤチビヒメゾウムシ	*Centrinopsis nitens*				
3808			ダイコンサルゾウムシ	*Ceutorhynchus albosuturalis*				
3809			エゴニセサルゾウムシ	*Ceutorhynchoides styracis*				
3810			ハスジゾウムシ	*Cleonis japonicus japonicus*				
3811			チャイロアカサルゾウムシ	*Coeliodinus brunneus*				
3812			ワモントゲトゲゾウムシ	*Colobodes ornatus*				
3813			ヒゲブトシギゾウムシ	*Curculio breviscapus*				
3814			ツバキシギゾウムシ	*Curculio camelliae*				
3815			セダカシギゾウムシ	*Curculio convexus*				
3816			コナラシギゾウムシ	*Curculio dentipes*				
3817			クロシギゾウムシ	*Curculio distinguendus*				
3818			ナツグミシギゾウムシ	*Curculio elaeagni*				
3819			イヌビワシギゾウムシ	*Curculio funebris*				
3820			ハチジョウシギゾウムシ	*Curculio hachijoensis*				
3821			シイシギゾウムシ	*Curculio hilgendorfi*				
3822			モリモトシギゾウムシ	*Curculio morimotoi*				
3823			クリシギゾウムシ	*Curculio sikkimensis*				
3824			ヤノシギゾウムシ	*Curculio yanoi*				
3825			クリイロクチブトゾウムシ	*Cyrtepistomus castaneus*				
3826			ダルマクチカクシゾウムシ	*Darumazo distinctus*				
3827			チビクチカクシゾウムシ	*Deiradocranus setosus*				
3828			マルモンササラゾウムシ	*Demimaea circula*				
3829			タバゲササラゾウムシ	*Demimaea fascicularis*				
3830			ヨツボシヒメゾウムシ	*Dendrobaris flavosignata*				
3831			ヨツホシハナコブヒメゾウムシ	*Dendrobaris insularis*				CR+EN
3832			チャイロヒメゾウムシ	*Dendrobaris maculata*				
3833			シュロゾウムシ	*Derelomus uenoi*				
3834			ヒメシロコブゾウムシ	*Dermatoxenus caesicollis*				
3835			オオタコゾウムシ	*Donus punctatus*				
3836			ハマベキクイゾウムシ	*Dryotribus mimeticus*				NT
3837			マダラアシゾウムシ	*Ectatorhinus adamsii*				
3838			クロホシタマクモゾウムシ	*Egiona picta*				
3839			キイロアシブトゾウムシ	*Endaeus flavidus*				
3840			シロコブゾウムシ	*Episomus turritus turritus*				
3841			コフキゾウムシ	*Eugnathus distinctus*				
3842			アオヒゲナガクチブトゾウムシ	*Eumyllocerus gratiosus*				
3843			アシナガオニゾウムシ	*Gasterocercus longipes*				
3844			ウエノヒョウタンクチカクシゾウムシ	*Hyotanzo uenoi*				
3845			ハコベタコゾウムシ	*Hypera basalis*				
3846			アルファルファタコゾウムシ	*Hypera postica*				
3847			チビアオクチブトゾウムシ	*Hyperstylus pallipes*				
3848			スベリビユサルゾウムシ	*Hypurus bertrandi*				
3849			クチブトノミゾウムシ	*Imachra decipiens*				
3850			ハマベゾウムシ	*Isonycholips gotoi*				
3851			アカコブコブゾウムシ	*Kobuzo rectirostris*				
3852			チャバネキクイゾウムシ	*Kojimazo lewisi*				
3853			クヌギチビシギゾウムシ	*Koreoculio kunugi*				
3854			シラクモゴボウゾウムシ	*Larinus griseopilosus*				
3855			ケブカクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes fumosus*				
3856			コカシワクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes griseoides*				
3857			クロホシクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes nigromaculatus*				
3858			ヤサイゾウムシ	*Listroderes costirostris*				
3859			ハスジカツオゾウムシ	*Lixus acutipennis*				
3860			カツオゾウムシ	*Lixus impressiventris*				
3861			マツオオキクイゾウムシ	*Macrorhyncolus crassiusculus*				
3862			ホホジロアシナガゾウムシ	*Merus erro*				
3863			カシアシナガゾウムシ	*Merus piceus*				
3864			トゲハラヒラセクモゾウムシ	*Metialma cordata*				
3865			ケシクチカクシゾウムシ	*Microcryptorhynchus nipponicus*				

表 4.3-1(56)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3866	コウチュウ目（鞘翅目）	ゾウムシ科	クワヒメゾウムシ	*Moreobaris deplanata*				
3867			タテスジアカヒメゾウムシ	*Moreobaris rubricata*				
3868			ウスグロアシブトゾウムシ	*Morimotozo obscurus*				
3869			チビヒョウタンゾウムシ	*Myosides seriehispidus*				
3870			サメハダヒメゾウムシ	*Nespilobaris nipponica*				
3871			チビアナアキゾウムシ	*Nipponiphades foveolatus*				
3872			カシワクチブトゾウムシ	*Nothomyllocerus griseus*				
3873			ムネスジノミゾウムシ	*Orchestes amurensis*				
3874			ヒラセノミゾウムシ	*Orchestes dorsoplanatus*				
3875			ガロアノミゾウムシ	*Orchestes galloisi*				
3876			エノキノミゾウムシ	*Orchestes horii*				
3877			ヤドリノミゾウムシ	*Orchestes hustachei*				
3878			カシワノミゾウムシ	*Orchestes japonicus*				
3879			アカアシノミゾウムシ	*Orchestes sanguinipes*				
3880			オジロアシナガゾウムシ	*Ornatalcides trifidus*				
3881			タカオマルクチカクシゾウムシ	*Orochlesis takaosana*				
3882			イワワキオチバゾウムシ	*Otibazo morimotoi*				
3883			オオナガキクイゾウムシ	*Oxydema longula*				
3884			マルメクチブトサルゾウムシ	*Pelenomus roelofsi*				
3885			オオミスジマルゾウムシ	*Phaeopholus major*				
3886			ミスジマルゾウムシ	*Phaeopholus ornatus*				
3887			ワシバナヒメキクイゾウムシ	*Phloeophagosoma curvirostre*				
3888			メダカケブカキクイゾウムシ	*Pholidoforus squamosus*				
3889			ツノヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius incomptus*				
3890			ヒラズネヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius intrusus*				
3891			ハダカヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius subnudus*				
3892			オオクチブトゾウムシ	*Phyllolytus variabilis*				
3893			ヤマトサルゾウムシ	*Phytobius japonicus*				
3894			ホソアナアキゾウムシ	*Pimelocerus elongatus*				
3895			クリアナアキゾウムシ	*Pimelocerus exsculptus*				
3896			オリーブアナアキゾウムシ	*Pimelocerus perforatus*				
3897			スグリゾウムシ	*Pseudocneorhinus bifasciatus*				
3898			カキスグリゾウムシ	*Pseudocneorhinus obesus*				
3899			カグヤヒメキクイゾウムシ	*Pseudocossonus brevitarsis*				
3900			ヒレルクチブトゾウムシ	*Pseudoedophrys hilleri*				
3901			カナムグラヒメゾウムシ	*Psilarthroides czerskyi*				
3902			ハチジョウノミゾウムシ	*Rhamphus hisamatsui*				
3903			リンゴノミゾウムシ	*Rhamphus pulicarius*				
3904			アラハダクチカクシゾウムシ	*Rhadinopus sulcatostriatus*				
3905			アカアシクチブトサルゾウムシ	*Rhinoncus cribricollis*				
3906			コブナシクチブトサルゾウムシ	*Rhinoncus nigrotibialis*				
3907			タデノクチブトサルゾウムシ	*Rhinoncus sibiricus*				
3908			トビイロヒョウタンゾウムシ	*Scepticus griseus*				
3909			サビヒョウタンゾウムシ	*Scepticus insularis*				
3910			キイチゴトゲサルゾウムシ	*Scleropteroides hypocrita*				
3911			ニセマツノシラホシゾウムシ	*Shirahoshizo rufescens*				
3912			アラムネヒサゴクチカクシゾウムシ	*Simulatacalles pustulosus*				
3913			ヒサゴクチカクシゾウムシ	*Simulatacalles simulator*				
3914			ケマンサルゾウムシ	*Sirocalodes umbrinus*				
3915			ケチビコフキゾウムシ	*Sitona hispidulus*				
3916			チビコフキゾウムシ	*Sitona japonicus*				
3917			マツクチブトキクイゾウムシ	*Stenoscelis gracilitarsis*				
3918			アカネニセクチブトキクイゾウムシ	*Stenoscelodes hayashii*				
3919			ヒメクチカクシゾウムシ	*Syrotelus umbrosus*				
3920			ダルマカレキゾウムシ	*Trachodes subfasciatus*				
3921			アキヨシチビツチゾウムシ	*Trachyphilus troglodytes*				
3922			ナミツチゾウムシ	*Trachyphilus vulgaris*				
3923			ホソゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma advena*				
3924			オオギンスジゾウムシ	*Tychius iwatensis*				
3925			コギンスジゾウムシ	*Tychius ovalis*				
3926		オサゾウムシ科	トホシオサゾウムシ	*Aplotes roelofsi*				
3927			ササコクゾウムシ	*Diocalandra sasa*				
3928			スギキクイサビゾウムシ	*Dryophthorus japonicus*				
3929			ヤシオオオサゾウムシ	*Rhynchophorus ferrugineus*				
3930			オオゾウムシ	*Sipalinus gigas gigas*				
3931			コクゾウムシ	*Sitophilus zeamais*				
3932			シバオサゾウムシ	*Sphenophorus venatus vestitus*				
3933		イネゾウムシ科	イネゾウムシ	*Echinocnemus bipunctatus*				
3934			イネミズゾウムシ	*Lissorhoptrus oryzophilus*				
3935			オオミズゾウムシ	*Tanysphyrus major*				

表 4.3-1(57)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
3936	コウチュウ目（鞘翅目）	チビゾウムシ科	ヒシチビゾウムシ	*Nanophyes japonicus*				VU
3937			モンチビゾウムシ	*Nanophyes pallipes*				
3938			ウスイロチビゾウムシ	*Nanophyes usuironis*				
3939		キクイムシ科	クワノコキクイムシ	*Cryphalus exiguus*				
3940			カラマツヤツバキクイムシ	*Ips cembrae*				
3941			ハルニレノキクイムシ	*Neopteleobius scutulatus*				
3942			マツノツノキクイムシ	*Orthotomicus angulatus*				
3943			ユメノキクイムシ	*Phloeosinus pulchellus*				
3944			クリノミキクイムシ	*Poecilips cardamomi*				
3945			ツルノコキクイムシ	*Pseudocosmoderes attenuatus*				
3946			ビローシマコキクイムシ	*Scolytogenes birosimensis*				NT
3947			タブノコキクイムシ	*Scolytogenes expers*				
3948			ミカドキクイムシ	*Scolytoplatypus mikado*				
3949			ニレカワノキクイムシ	*Scolytus frontalis*				
3950			ニイシマキクイムシ	*Sueus niisimai*				
3951			コーヒーキクイムシ	*Taphrorychus coffeae*				
3952			ツヅミキクイムシ	*Xyleborus amputatus*				
3953			クワノキクイムシ	*Xyleborus atratus*				
3954			サクセスキクイムシ	*Xyleborus saxeseni*				
3955			トドマツオオキクイムシ	*Xyleborus validus*				
3956			ハンノキキクイムシ	*Xylosandrus germanus*				
3957	ハチ目（膜翅目）	ヒラタハバチ科	サクラヒラタハバチ	*Neurotoma iridescens*				
3958			シマヒラタハバチ	*Pamphilius volatilis*				
3959		ミフシハバチ科	ニレチュウレンジ	*Arge captiva*				
3960			シリグロチュウレンジ	*Arge indicura*				
3961			リンゴチュウレンジ	*Arge mali*				
3962			アカスジチュウレンジ	*Arge nigronodosa*				
3963			チュウレンジハバチ	*Arge pagana*				
3964			ルリチュウレンジ	*Arge similis*				
3965			サクラクワガタハバチ	*Sterictiphora pruni*				
3966		コンボウハバチ科	アケビコンボウハバチ	*Abia akebiae*				
3967			ルリコンボウハバチ	*Abia japonica*				
3968			ヒメコンボウハバチ	*Abia lewisii*				
3969			フトオビコンボウハバチ	*Abia triangularis*				
3970			ホシアシブトハバチ	*Agenocimbex maculatus*			DD	
3971			ナシアシブトハバチ	*Palaeocimbex carinulata*				
3972		ハバチ科	ウラシマソウハバチ	*Aglaostigma albicinctum*				
3973			ハグロハバチ	*Allantus luctifer*				
3974			オオシロオビクロハバチ	*Allantus meridionalis*				
3975			バラクキハバチ	*Ardis brunniventris*				
3976			ウツギハバチ	*Asiemphytus deutziae*				
3977			ツノジロホソハバチ	*Asiemphytus vexator*				
3978			セグロカブラハバチ	*Athalia infumata*				
3979			ニホンカブラハバチ	*Athalia japonica*				
3980			イヌノフグリハバチ	*Athalia kashmirensis*				
3981			カブラハバチ	*Athalia rosae ruficornis*				
3982			アメイロハバチモドキ	*Beleses satonis*				
3983			オカトラノオハバチ	*Birka carinifrons*				
3984			サクラヒメハバチ	*Cladius takeuchii*				
3985			フトコシジロハバチ	*Corymbas nipponica*				
3986			カタアカスギナハバチ本州四国九州亜種	*Loderus genucinctus insulicola*				
3987			オスグロハバチ	*Dolerus japonicus*				
3988			スギナハバチ	*Dolerus subfasciatus*				
3989			マドハバチ	*Empria quadrimaculata*				
3990			シロアシマルハバチ	*Eriocampa albipes*				
3991			ムモンムネアカハバチ	*Eutomostethus hyalinus*				
3992			アカナナフシハバチ	*Heptamelus ochroleucus*				
3993			クロムネハバチ	*Lagidina irritans*				
3994			ヒゲナガハバチ	*Lagidina platycerus*				
3995			ツマジロクロハバチ	*Macrophya apicalis*				
3996			クロハバチ	*Macrophya coxalis*				
3997			マルクロハバチ	*Macrophya falsifica*				
3998			マライセクロハバチ	*Macrophya malaisei malaisei*				
3999			コクロハバチ	*Macrophya timida*				
4000			コブシハバチ	*Megabeleses crassitarsis*				
4001			キイロハバチ	*Monophadnus nigriceps*				
4002			チャイロハバチ	*Nesotaxonus flavescens*				
4003			ムネアカキアシハバチ	*Paracharactus leucopodus*				
4004			アジサイハバチ	*Perineura okutanii*				
4005			ヒゲナガマルハバチ	*Phymatoceropsis japonica*				

表 4.3-1(58)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4006	ハチ目（膜翅目）	ハバチ科	オオコシアカハバチ	*Siobla ferox*				
4007			マダラシダハバチ	*Strongylogaster macula*				
4008			ナガゼンマイハバチ	*Strongylogaster secunda*				
4009			ツノキクロハバチ	*Taxonus fluvicornis*				
4010			コシアキハバチ	*Tenthredo gifui*				
4011			ハラナガハバチ	*Tenthredo hilaris*				
4012			キコシホソハバチ	*Tenthredo mortivaga*				
4013			クロムネアオハバチ	*Tenthredo nigropicta*				
4014			オオツマグロハバチ	*Tenthredo providens*				
4015			フタオビハバチ	*Tenthredo sibirica*				
4016			トガリハチガタハバチ	*Tenthredo smithii*				
4017		クビナガキバチ科	キアシヒラタクビナガキバチ	*Platyxiphydria flavipes*				
4018			ヒラタクビナガキバチ	*Platyxiphydria tiphiiformis*				
4019		クキバチ科	バラクキバチ	*Syrista similis*				
4020		コマユバチ科	Acampsis chinensis	*Acampsis chinensis*				
4021			Aleiodes (Chelonorhogas) convexus	*Aleiodes (Chelonorhogas) convexus*				
4022			サッポロカモドキバチ	*Aleiodes (Chelonorhogas) sapporensis*				
4023			マツムラベッコウコマユバチ	*Braunsia matsumurai*				
4024			ヒメコウラコマユバチ	*Chelonus pectinophorae*				
4025			クロヒゲアカコマユバチ	*Cremnops atricornis*				
4026			スマトラカモドキバチ	*Macrostomion sumatranum*				
4027			キイロコウラコマユバチ	*Phanerotoma flava*				
4028			ヨコハママダラコマユバチ	*Pseudoshirakia yokohamensis*				
4029			スズメヤドリコマユバチ	*Snellenius theretrae*				
4030			ヨコハマコマユバチ	*Tropobracon jokohamensis*				
4031			オオハラボソコマユバチ	*Zele albiditarsus*				
4032			ムネアカトゲコマユバチ	*Zombrus bicolor*				
4033		ヒメバチ科	シロスジヒメバチ	*Achaius oratorius albizonellus*				
4034			キマダラフシオナガヒメバチ	*Acropimpla leucostoma*				
4035			クロヒゲフシオナガヒメバチ	*Acropimpla persimilis*				
4036			キアシオナガトガリヒメバチ	*Acroricnus ambulator ambulator*				
4037			シロテントガリヒメバチ	*Agrothereutes lanceolatus*				
4038			エダトガリヒメバチ	*Agrothereutes ramellaris*				
4039			クロウスマルヒメバチ	*Alloplasta longipetiolaris*				
4040			クロヒメバチ	*Amblyjoppa cognatoria*				
4041			アシマダラヒメバチ	*Amblyjoppa forticornis maculifemorata*				
4042			イヨヒメバチ	*Amblyjoppa proteus satanas*				
4043			クロアミメコンボウアメバチ	*Anomalon nigribase*				
4044			キマダラアシナガヤドリトガリヒメバチ	*Arthura flavofasciata*				
4045			コブフタオヒメバチ	*Astiphomma dorsale*				
4046			エゾフタオヒメバチ	*Astiphromma jezoensis*				
4047			ホシフタオヒメバチ	*Astiphromma punctatum*				
4048			Barichneumon constrictus	*Barichneumon constrictus*				
4049			Barichneumon fuscatus	*Barichneumon fuscatus*				
4050			ニッコウクモヒメバチ	*Brachyzapus nikkoensis*				
4051			Caenocryptoides tarsalis	*Caenocryptoides tarsalis*				
4052			ハキヒメバチ	*Callajoppa exaltatoria mikado*				
4053			クロハラヒメバチ	*Callajoppa pepsoides*				
4054			Campoplex shikotsensis	*Campoplex shikotsensis*				
4055			トサチビアメバチ	*Campoplex tosensis*				
4056			サキブトチビアメバチ	*Casinaria albibasalis*				
4057			クロエナガチビアメバチ	*Casinaria daitojimensis*				
4058			ホウネンタワラチビアメバチ	*Charops bicolor*				
4059			ヤマガタヒメバチ	*Chasmias major*				
4060			キスジクチキヒメバチ	*Cnastis vulgaris*				
4061			シロモンヒラタヒメバチ	*Coccygomimus alboannulatus*				
4062			マイマイヒラタヒメバチ	*Coccygomimus luctuosus*				
4063			チビキアシヒラタヒメバチ	*Coccygomimus nipponicus*				
4064			フタシロオビヒメバチ	*Cratichneumon bifasciatus*				
4065			Cratichneumon labiatus	*Cratichneumon labiatus*				
4066			コガタウスマルヒメバチ	*Cryptopimpla brevigena*				
4067			クロモンアメバチ	*Dicamptus nigropictus*				
4068			Dichrogaster liostylus	*Dichrogaster liostylus*				
4069			ムラサキウスアメバチ	*Dictyonotus purpurascens*				
4070			Diplazon laetatorius	*Diplazon laetatorius*				
4071			Diplazon scutatorius	*Diplazon scutatorius*				
4072			Diplazon tetragonus	*Diplazon tetragonus*				
4073			クロコブフシヒメバチ	*Dolichomitus macropunctatus*				
4074			オオチビアメバチ	*Dusona bicoloripes*				
4075			Dusona erythra	*Dusona erythra*				

表 4.3-1(59)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4076	ハチ目（膜翅目）	ヒメバチ科	Dusona indistinctor	*Dusona indistinctor*				
4077			Dusona pugillator	*Dusona pugillator*				
4078			Dusona xenocampta	*Dusona xenocampta*				
4079			Dusona yamanakai	*Dusona yamanakai*				
4080			Enicospilus concentralis	*Enicospilus concentralis*				
4081			Enicospilus javanus	*Enicospilus javanus*				
4082			マルヤマホシアメバチ	*Enicospilus maruyamanus*				
4083			Enicospilus nigribasalis	*Enicospilus nigribasalis*				
4084			Enicospilus nigropectus	*Enicospilus nigropectus*				
4085			リンゴドクガアメバチ	*Enicospilus pudibundae*				
4086			シコクホシアメバチ	*Enicospilus shikokuensis*				
4087			タイワンミスジホシヒメバチ	*Enicospilus signativentris*				
4088			コキアシヒラタヒメバチ	*Ephialtes capulifera*				
4089			サッポロオナガバチ	*Epirhyssa sapporensis*				
4090			ガルガワコンボウアメバチ	*Erigorgus garugawensis*				
4091			ヒラヤマコンボウアメバチ	*Erigorgus hirayamaea*				
4092			Euceros pectinis	*Euceros pectinis*				
4093			Euceros sensibus	*Euceros sensibus*				
4094			Eugalta albimarginalis	*Eugalta albimarginalis*				
4095			ヨトウウスマルヒメバチ	*Exetastes atrator*				
4096			イシカワウスマルヒメバチ	*Exetastes ishikawensis*				
4097			ヤスマツヒメアシブトヒメバチ	*Exochus yasumatsui*				
4098			ハラアカヒメバチ	*Fileanta caterythra*				
4099			ヤドリハネナシヒメバチ	*Gelis areator*				
4100			キマダラコシホソトガリヒメバチ	*Gotra octocincta*				
4101			コンボウアメバチ	*Habronyx insidiator*				VU
4102			Hadrodactylus orientalis	*Hadrodactylus orientalis*				
4103			カラフトコンボウアメバチ	*Heteropelma amictum*				
4104			Hypsicera incarinata	*Hypsicera incarinata*				
4105			Hypsicera nigribasis	*Hypsicera nigribasis*				
4106			Hypsicera rugosa	*Hypsicera rugosa*				
4107			シロテンアカヤガヒメバチ	*Ichneumon molitorius*				
4108			キアシホソヒメバチ	*Ichneumon niphonicus*				
4109			マツケムシヒラタヒメバチ	*Itoplectis alternans spectabilis*				
4110			Jezarotes tamanukii	*Jezarotes tamanukii*				
4111			ヤクハバチヒメバチ	*Kristomerus yakui*				
4112			アシナガヤドリトガリヒメバチ	*Latibulus nigrinotum*				
4113			ジングウホソウスマルヒメバチ	*Lissonota terebrans*				
4114			オオホシオナガバチ	*Megarhyssa praecellens*				
4115			コクロオナガトガリヒメバチ	*Mesostenus funebris*				
4116			キオビコシブトヒメバチ	*Metopius browni*				
4117			ムラサキメンガタヒメバチ	*Metopius dissectorius*				
4118			アリジゴクトガリヒメバチ	*Myrmeleonostenus babai*				
4119			マダラホソトガリヒメバチ	*Nematopodius oblongs*				
4120			アカアメバチモドキ	*Netelia (Netelia) melanula*				
4121			イシヤマチビヒメバチ	*Oronotus ishiyamanus*				
4122			フトタマバチヤドリヒメバチ	*Orthopelma simile*				
4123			チュウフシオナガヒメバチ	*Paraperithous chui*				
4124			Paraphylax agelenae	*Paraphylax agelenae*				
4125			Parmortha microstriatella	*Parmortha microstriatella*				
4126			フトヒゲアシブトヒメバチ	*Periope hoerhammeri*				
4127			Pleolophus funereoides	*Pleolophus funereoides*				
4128			ケンチビトガリヒメバチ	*Polytribax penetrator*				
4129			マダラヒメバチ	*Pterocormus generosus*				
4130			シンムシヤドリフシヒメバチ	*Scambus (Ateleophadnus) vulgaris*				
4131			アカズマルヒメバチ	*Scolobates ruficeps*				
4132			ミノガフシヒメバチ	*Sericopimpla erythromerus*				
4133			マダラオオアメバチ	*Stauropoctonus bombycivorus variegatus*				
4134			クロチビマルヒメバチ	*Stilbops coeloclypeus*				
4135			クロハラヒラタマルヒメバチ	*Sympherta nigritor*				
4136			Sympherta townesi	*Sympherta townesi*				
4137			シロスジアブヒメバチ	*Syrphoctonus tarsatorius*				
4138			キモンチビアブヒメバチ	*Syrphophilus tricinctorius tricinctorius*				
4139			ミナミカワナガハマキヒメバチ	*Teleutaea minamikawai*				
4140			キマダラツヤヒラタヒメバチ	*Theronia zebra diluta*				
4141			シロスジトゲヒメバチ	*Togea albofasciata*				
4142			アシブトクロトガリヒメバチ	*Torbda uchidai*				
4143			キョウトマルヒメバチ	*Trematopygus ruficornis*				
4144			ガロアオナガバチ	*Triancyra galloisi*				
4145			キアシヒダアシブトヒメバチ	*Triclistus aitkeni*				

表 4.3-1(60)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4146	ハチ目（膜翅目）	ヒメバチ科	アゲハヒメバチ	*Trogus mactator*				
4147			ニッポンクモフシヒメバチ	*Tromatobia nipponica*				
4148			Uchidella okamotoi	*Uchidella okamotoi*				
4149			オオシラホシヒメバチ	*Virgichneumon albilineatus*				
4150			シロイタヒメバチ	*Vulgichneumon saturatorius albivalvus*				
4151			アシナガアブヒメバチ	*Woldstedtius flavolineatus flavolineatus*				
4152			ミノオキイロヒラタヒメバチ	*Xanthopimpla clavata*				
4153			クロマルズヒメバチ	*Xorides investigator*				
4154			イワテマルズヒメバチ	*Xorides iwatensis*				
4155			チシマケンヒメバチ	*Yamatarotes chishimensis*				
4156			クロヒゲナガヒョウモンヒメバチ	*Zanthojoppa speciosa*				
4157			マダラコブクモヒメバチ	*Zatypota albicoxa*				
4158		セダカヤセバチ科	クロシオセダカヤセバチ	*Pristaulacus insularis*				
4159			ホシセダカヤセバチ	*Pristaulacus intermedius*				
4160		コンボウヤセバチ科	オオコンボウヤセバチ	*Gasteruption thomsoni*				
4161		アシブトコバチ科	アシアカツヤアシブトコバチ	*Antrocephalus dividens*				
4162			チビツヤアシブトコバチ	*Antrocephalus japonicus*				
4163			チビアシブトコバチ	*Brachymeria excarinata*				
4164			キアシブトコバチ	*Brachymeria lasus*				
4165			オニアシブトコバチ	*Dirhinus hesperidum*				
4166			ヒゲブトムネトゲアシブトコバチ	*Haltichella clavicornis*				
4167		ヒメコバチ科	Chrysocharis ujiyei	*Chrysocharis ujiyei*				
4168			Chrysocharis viridis	*Chrysocharis viridis*				
4169			Diglyphus minoeus	*Diglyphus minoeus*				
4170			Sympiesis hirticura	*Sympiesis hirticura*				
4171		ナガコバチ科	シロオビタマゴバチ	*Pseudanastatus albitarsis*				
4172		カタビロコバチ科	モウソウタマコバチ	*Aiolomorphus rhopaloides*				
4173			タマヤドリカタビロコバチ	*Eurytoma brunniventris*				
4174			Eurytoma goidanichi	*Eurytoma goidanichi*				
4175		シリアゲコバチ科	シリアゲコバチ	*Leucospis japonica*				
4176			オキナワシリアゲコバチ	*Leucospis sinensis*				
4177		コガネコバチ科	ケブカアブラコガネコバチ	*Asaphes pubescens*				
4178			Miscogasteriella sulcata	*Miscogasteriella sulcata*				
4179			ヒラタアブコガネコバチ	*Pachyneuron formosum*				
4180			アオムシコマユコバチ	*Trichomalopsis apanteloctena*				
4181		オナガコバチ科	ムシダマモンオナガコバチ	*Bootanomyia habui*				
4182		アリガタバチ科	キバナガアリガタバチ	*Allobethylus tomoae*				
4183			クシヒゲアリガタバチ	*Calyoza formosus*				
4184			ツヤムカシアリガタバチ	*Eleganesia minuta*				
4185			ヤマトヒメアリガタバチ	*Epyris yamatonis*				
4186			ハマキアリガタバチ	*Goniozus japonicus*				
4187			カマキリカツオアリガタバチ	*Laelius naniwaensis*				
4188			キアシアリガタバチ	*Laelius yamatonis*				
4189			ムカシアリガタバチ	*Pristepyris japonicus*				
4190			アタミアリガタバチ	*Rysepyris atamensis*				
4191		セイボウ科	ムツバセイボウ	*Chrysis fasciata daphne*				
4192			クロバネセイボウ	*Chrysis fuscipennis murasaki*				
4193			ナミハセイボウ	*Chrysis japonica*				
4194			ツマムラサキセイボウ	*Chrysis splendidula*				
4195			ミドリセイボウ	*Praestochrysis lusca*				
4196			オオセイボウ	*Stilbum cyanurum*			DD	
4197		アリ科	アシナガアリ	*Aphaenogaster famelica*				
4198			イソアシナガアリ	*Aphaenogaster osimensis*				
4199			オオハリアリ	*Brachyponera chinensis*				
4200			イトウオオアリ	*Camponotus itoi*				
4201			クロオオアリ	*Camponotus japonicus*				
4202			クサオオアリ	*Camponotus keihitoi*				
4203			ミカドオオアリ	*Camponotus kiusiuensis*				
4204			ナワヨツボシオオアリ	*Camponotus nawai*				
4205			ヒラズオオアリ	*Camponotus nipponicus*				
4206			ヨツボシオオアリ	*Camponotus quadrinotatus*				
4207			トゲハダカアリ	*Cardiocondyla itsukii*				
4208			コツノアリ	*Carebara yamatonis*				
4209			ハリブトシリアゲアリ	*Crematogaster matsumurai*				
4210			キイロシリアゲアリ	*Crematogaster osakensis*				
4211			テラニシシリアゲアリ	*Crematogaster teranishii*				
4212			トゲズネハリアリ	*Cryptopone sauteri*				
4213			シベリアカタアリ	*Dolichoderus sibiricus*				
4214			ケブカハリアリ	*Euponera pilosior*				
4215			ハヤシクロヤマアリ	*Formica hayashi*				

表 4.3-1(61)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4216	ハチ目（膜翅目）	アリ科	クロヤマアリ	*Formica japonica (s. l.)*				
4217			クロニセハリアリ	*Hypoponera nubatama*				
4218			ニセハリアリ	*Hypoponera sauteri*				
4219			ハヤシケアリ	*Lasius hayashi*				
4220			トビイロケアリ	*Lasius japonicus*				
4221			ヒラアシクサアリ	*Lasius spathepus*				
4222			アメイロケアリ	*Lasius umbratus*				
4223			クロナガアリ	*Messor aciculatus*				
4224			ヒメアリ	*Monomorium intrudens*				
4225			カドフシアリ	*Myrmecina nipponica*				
4226			アメイロアリ	*Nylanderia flavipes*				
4227			ルリアリ	*Ochetellus glaber*				
4228			サクラアリ	*Paraparatrechina sakurae*				
4229			アズマオオズアリ	*Pheidole fervida*				
4230			オオズアリ	*Pheidole nodus*				
4231			サムライアリ	*Polyergus samurai*				
4232			ヒメハリアリ	*Ponera japonica*				
4233			テラニシハリアリ	*Ponera scabra*				
4234			アミメアリ	*Pristomyrmex punctatus*				
4235			イトウカギバラアリ	*Proceratium itoi*				
4236			ヤマトカギバラアリ	*Proceratium japonicum*				
4237			トフシアリ	*Solenopsis japonica*				
4238			ノコギリハリアリ	*Stigmatomma silvestrii*				
4239			イガウロコアリ	*Strumigenys benten*				
4240			キタウロコアリ	*Strumigenys kumadori*				
4241			ウロコアリ	*Strumigenys lewisi*				
4242			コヌカアリ	*Tapinoma saohime*				
4243			ムネボソアリ	*Temnothorax congruus*				
4244			トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae*				
4245			ウメマツアリ	*Vollenhovia emeryi*				
4246		ドロバチ科	ミカドドロバチ	*Euodynerus niponicus*				
4247			ムナグロチビドロバチ	*Stenodynerus tokyanus*				
4248		スズメバチ科	アトボシキタドロバチ	*Allodynerus delphinalis delphinalis*				
4249			ケブカスジドロバチ	*Ancistrocerus densepilosellus*				
4250			ヤマトスジドロバチ	*Ancistrocerus japonicus*				
4251			オオフタオビドロバチ本土亜種	*Anterhynchium flavomarginatum micado*				
4252			スミスクロクモバチ	*Anoplius consangineus*				
4253			フタスジスズバチ	*Discoelius zonalis*				
4254			キボシトックリバチ	*Eumenes fraterculus*				
4255			ミカドトックリバチ	*Eumenes micado*				
4256			キアシトックリバチ	*Eumenes rubrofemoratus*				
4257			ムモントックリバチ	*Eumenes rubronotatus*				
4258			ミカドドロバチ本土亜種	*Euodynerus nipanicus nipanicus*				
4259			エントツドロバチ	*Orancistrocerus drewseni*				
4260			スズバチ	*Oreumenes decoratus*				
4261			ムモンホソアシナガバチ	*Parapolybia crocea*				
4262			ヒメホソアシナガバチ	*Parapolybia varia*				
4263			ナミカバフドロバチ	*Pararrhynchium ornatum*				
4264			フタモンアシナガバチ本土亜種	*Polistes chinensis antennalis*				
4265			ヤマトアシナガバチ	*Polistes japonicus*			DD	VU
4266			セグロアシナガバチ本土亜種	*Polistes jokahamae jokahamae*				
4267			キボシアシナガバチ	*Polistes nipponensis*				
4268			キアシナガバチ本土亜種	*Polistes rothneyi iwatai*				
4269			コアシナガバチ	*Polistes snelleni*				
4270			フカイオオドロバチ本土亜種	*Rhynchium quinquecinctum fukaii*				
4271			カタグロチビドロバチ	*Stenodynerus chinensis kalinowskii*				
4272			キオビチビドロバチ	*Stenodynerus frauenfeldi*				
4273			サイジョウハムシドロバチ	*Symmorphus apiciornatus*				
4274			クチビロハムシドロバチ	*Symmorphus decens*				
4275			コガタスズメバチ	*Vespa analis*				
4276			モンスズメバチ	*Vespa crabro*			DD	
4277			ヒメスズメバチ	*Vespa ducalis*				
4278			チャイロスズメバチ	*Vespa dybowskii*				
4279			オオスズメバチ	*Vespa mandarinia*				
4280			キイロスズメバチ	*Vespa simillima*				
4281			クロスズメバチ	*Vespula flaviceps*				
4282		ベッコウバチ科	ミヤコヒメベッコウ	*Auplopus kyotensis*				
4283		クモバチ科	イシカワクモバチ	*Agenioideus ishikawai*				
4284			マエアカクモバチ	*Agenioideus lascivus*				
4285			オオモンクロクモバチ	*Anoplius samariensis*				

表 4.3-1(62)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4286	ハチ目（膜翅目）	クモバチ科	ムツボシクモバチ	*Anoplius viaticus*			NT	EX
4287			ナミヒメクモバチ	*Auplopus carbonarius (s. l.)*				
4288			ハナナガヒメクモバチ	*Auplopus constructor*				
4289			キオビクモバチ	*Batozonellus annulatus*				CR+EN
4290			モンクモバチ	*Batozonellus maculifrons*				
4291			シラキトゲアシクモバチ	*Caliadurgus ussuriensis*				
4292			ヒゲボソトゲアシクモバチ	*Ctenopriocnemis filicornis*				
4293			ベッコウバチ	*Cyphononyx dorsalis*				
4294			ベッコウクモバチ	*Cyphononyx fulvognathus*				
4295			ペレエヒゲクモバチ	*Dipogon conspersus*				
4296			コシボソヒゲクモバチ	*Dipogon immarginatus*				
4297			ニッポンヒゲクモバチ	*Dipogon nipponicus*				
4298			シロオビヒゲクモバチ	*Dipogon sperconsus*				
4299			オオシロフクモバチ	*Episyron arrogans*				
4300			フタモンクモバチ	*Parabatozonus jankowskii*			NT	VU
4301			アオスジクモバチ	*Paracyphononyx alienus*			DD	
4302			キバネトゲアシクモバチ	*Platydialepis ryoheii*				
4303			ツヤムネジワクモバチ	*Poecilagenia sculpturata*				
4304			コトゲアシクモバチ	*Priocnemis atropos*				
4305			トゲアシオオクモバチ	*Priocnemis irritabilis*				
4306			クモリトゲアシクモバチ	*Priocnemis japonica*				
4307			アカゴシトゲアシクモバチ	*Priocnemis kunashirensis*				
4308			ナガセトゲアシクモバチ	*Priocnemis nagasei*				
4309			ツマアカクモバチ	*Tachypompilus analis*				
4310		アリバチ科	トゲムネアリバチ	*Bischoffitilla ardescens*				
4311			ミカドアリバチ	*Mutilla mikado*				
4312			アリバチモドキ	*Myrmosa nigrofasciata*				
4313			フタホシアリバチ	*Neotrogaspidia pustulata*				
4314			ヒトホシアリバチ	*Smicromyrme rufipes*				
4315			セヅノアリバチ	*Yamanetilla nipponica*				
4316		コツチバチ科	ハヤコツチバチ	*Tiphia agilis*				
4317			ヒゴコツチバチ	*Tiphia higoensis*				
4318			マメコガネコツチバチ	*Tiphia popilliavora*				
4319			ダイテンコツチバチ	*Tiphia punctata*				
4320			アカハコツチバチ本土沖縄亜種	*Tiphia rufomandibulata rufomandibulata*				
4321			ニカコツチバチ	*Tiphia sternata*				
4322		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ本土亜種	*Campsomeriella annulata annulata*				
4323			アカスジツチバチ	*Carinoscolia melanosoma*				
4324			オオハラナガツチバチ	*Megacampsomeris grossa matsumurai*				
4325			キンケハラナガツチバチ	*Megacampsomeris prismatica*				
4326			シロオビハラナガツチバチ	*Megacampsomeris schulthessi*				
4327			コモンツチバチ	*Scolia decorata ventralis*				
4328			アカスジツチバチ本土亜種	*Scolia fascinata fascinata*				
4329			オオモンツチバチ	*Scolia histrionica japonica*				
4330			キオビツチバチ	*Scolia oculata*				
4331		セナガアナバチ科	サトセナガアナバチ	*Ampulex dissector*				
4332			クロユビギングチバチ	*Ectemnius nigritarsus munakatai*				
4333		ギングチバチ科	アムールギングチ	*Crossocerus amurensis*				
4334			エグレギングチ	*Crossocerus emarginatus*				
4335			ガガンボギングチ	*Crossocerus vagabundus esakii*				
4336			ナミギングチ	*Ectemnius continuus*				
4337			シロスジギングチ	*Ectemnius iridifrons*				
4338			クララギングチ	*Ectemnius rubicola nipponis*				
4339			イワタギングチ本土奄美亜種	*Ectemnius schlettereri japonicus*				
4340			クビワギングチ	*Lestica collaris*				
4341			クラマギングチ	*Lestica reiteri*				
4342			リュウキュウコオロギバチ	*Liris deplanata binghami*				
4343			ヒメコオロギバチ本土亜種	*Liris festinans japonicus*				
4344			ナミコオロギバチ本土琉球亜種	*Liris subtessellatus subtessellatus*				
4345			ヤマトトゲアナバチ	*Oxybelus strandi*				
4346			エゾギングチ	*Rhopalum jessonicum*				
4347			トゲジガバチモドキ	*Trypoxylon errans*				
4348			ケシジガバチモドキ	*Trypoxylon exiguum exiguum*				
4349			ヒメジガバチモドキ	*Trypoxylon fronticorne japonense*				
4350			オオジガバチモドキ	*Trypoxylon malaisei*				
4351			コシブトジガバチモドキ	*Trypoxylon pacificum*				
4352			ナミジガバチモドキ	*Trypoxylon petiolatum*				
4353		ドロバチモドキ科	オオトゲアワフキバチ	*Argogorytes mystaceus grandis*				
4354			ヤマトスナハキバチ本土亜種	*Bembecinus hungaricus japonicus*			DD	
4355			ニッポンハナダカバチ	*Bembix niponica*			VU	VU

表 4.3-1(63)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4356	ハチ目（膜翅目）	ドロバチモドキ科	コイケアワフキバチ	*Eogorytes fulvohirtus*				
4357			ミスジアワフキバチ	*Gorytes tricinctus*				
4358			ヒメドロバチモドキ	*Nysson trimaculatus japonicus*				
4359			キアシハナダカバチモドキ	*Stizus perrisi*			VU	CR+EN
4360		アリマキバチ科	オオエンモンバチ	*Carinostigmus filippovi*				
4361			エグレアリマキバチ	*Pemphredon krombeini*				
4362			カオキンヨコバイバチ	*Psen aurifrons*				
4363			ジンムヨコバイバチ	*Psen dzimm*				
4364			コウライヨコバイバチ	*Psen koreanus*				
4365		フシダカバチ科	ヒメツチスガリ	*Cerceris carinalis*				
4366			ナミツチスガリ	*Cerceris hortivaga*				
4367			マルモンツチスガリ	*Cerceris japonica*				
4368			ソボツチスガリ	*Cerceris sobo*				
4369		アナバチ科	ヤマジガバチ	*Ammophila infesta*				
4370			サトジガバチ	*Ammophila vagabunda*				
4371			ヤマトルリジガバチ	*Chalybion japonicum*				
4372			ミカドジガバチ	*Hoplammophila aemulans*				
4373			アルマンアナバチ	*Isodontia harmandi*				
4374			コクロアナバチ	*Isodontia nigella*				
4375			アメリカジガバチ	*Sceliphron caementarium*				
4376			モンキジガバチ本土亜種	*Sceliphron deforme nipponicum*				
4377			キゴシジガバチ	*Sceliphron madraspatanum*				
4378			クロアナバチ本土亜種	*Sphex argentatus fumosus*				
4379			クロアナバチ	*Sphex argentatus*				
4380			オオハヤバチ	*Tachytes sinensis*				
4381			ジガバチモドキ	*Trypoxylon obsonator*				
4382		ヒメハナバチ科	トゲホホヒメハナバチ	*Andrena (Hoplandrena) dentata*				
4383			ヤヨイヒメハナバチ	*Andrena hebes*				
4384			ヒコサンマメヒメハナバチ	*Andrena hikosana*				
4385			ミツクリフシダカヒメハナバチ	*Andrena japonica*				
4386			カグヤマメヒメハナバチ	*Andrena kaguya*				
4387			キバナヒメハナバチ	*Andrena knuthi*				
4388			シロヤヨイヒメハナバチ	*Andrena luridiloma*				
4389			マメヒメハナバチ	*Andrena minutula*				
4390			ナカヒラアシヒメハナバチ	*Andrena opacifovea*				
4391			ムネアカハラビロヒメハナバチ	*Andrena parathoracica*				
4392			アブラナマメヒメハナバチ	*Andrena semirugosa brassicae*				
4393			コガタウツギヒメハナバチ	*Andrena tsukubana*				
4394			ワタセヒメハナバチ	*Andrena watasei*				
4395			ヤマトヒメハナバチ	*Andrena yamato*				
4396		ミツバチ科	スジボソフトハナバチ	*Amegilla florea*				
4397			ニホンミツバチ	*Apis cerana japonica*				
4398			セイヨウミツバチ	*Apis mellifera*				
4399			コマルハナバチ本土亜種	*Bombus ardens ardens*				
4400			トラマルハナバチ本土亜種	*Bombus diversus diversus*				
4401			オオマルハナバチ本土亜種	*Bombus hypocrita hypocrita*				
4402			クロマルハナバチ	*Bombus ignitus*			NT	EX
4403			キオビツヤハナバチ	*Ceratina flavipes*				
4404			ヤマトツヤハナバチ	*Ceratina japonica*				
4405			サトウチビツヤハナバチ	*Ceratina satoi*				
4406			シロモンムカシハナバチヤドリ	*Epeolus melectiformis*				
4407			ニッポンヒゲナガハナバチ	*Eucera nipponensis*				
4408			シロスジヒゲナガハナバチ	*Eucera spurcatipes*				
4409			アスワキマダラハナバチ	*Nomada aswensis*				
4410			ヤマトキマダラハナバチ	*Nomada calloptera*				
4411			ウシヅノキマダラハナバチ	*Nomada comparata*				
4412			ケーベルキマダラハナバチ	*Nomada fervens*				
4413			ヒメキマダラハナバチ	*Nomada flavoguttata*				
4414			ギンランキマダラハナバチ	*Nomada ginran*				
4415			ヒゲナガキマダラハナバチ	*Nomada hakonensis*				
4416			ハリマキマダラハナバチ	*Nomada harimensis*				
4417			ダイミョウキマダラハナバチ	*Nomada japonica*				
4418			ミヤマキマダラハナバチ	*Nomada montverna*				
4419			ニッポンキマダラハナバチ	*Nomada nipponica*				
4420			シラキキマダラハナバチ	*Nomada shirakii*				
4421			ミツクリヒゲナガハナバチ	*Tetraloniella mitsukurii*				
4422			ナミルリモンハナバチ	*Thyreus decorus*			DD	
4423			キムネクマバチ	*Xylocopa appendiculata circumvolans*				
4424		ムカシハナバチ科	ババムカシハナバチ	*Colletes babai*				
4425			エサキムカシハナバチ	*Colletes esakii*				

表 4.3-1(64)　既存資料により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
4426	ハチ目（膜翅目）	ムカシハナバチ科	アシブトムカシハナバチ	*Colletes patellatus*				
4427			スミスメンハナバチ	*Hylaeus floralis*				
4428			マツムラメンハナバチ	*Hylaeus matsumurai*				
4429		コハナバチ科	アカガネコハナバチ	*Halictus aerarius*				
4430			ズマルコハナバチ	*Lasioglossum affine*				
4431			ニジイロコハナバチ	*Lasioglossum apristum*				
4432			シオカワコハナバチ	*Lasioglossum baleicum*				
4433			ホクダイコハナバチ	*Lasioglossum duplex*				
4434			ニッポンチビコハナバチ	*Lasioglossum japonicum*				
4435			サビイロカタコハナバチ	*Lasioglossum mutilum*				
4436			シロスジカタコハナバチ	*Lasioglossum occidens*				
4437			オバケチビコハナバチ	*Lasioglossum pallilomum*				
4438			ハルノツヤコハナバチ	*Lasioglossum primavera*				
4439			ズマルツヤコハナバチ	*Lasioglossum proximatum*				
4440			コビトチビハナバチ	*Lasioglossum pumilum*				
4441			フタモンカタコハナバチ	*Lasioglossum scitulum*				
4442			キオビコハナバチ	*Lasioglossum sibiriacum*				
4443			ヒラタチビコハナバチ	*Lasioglossum taeniolellum*				
4444			ハネダチビコハナバチ	*Lasioglossum transpositum*				
4445			ズナガチビコハナバチ	*Lasioglossum (Evylaeus) zunaga*				
4446			アオスジハナバチ	*Nomia incerta*				
4447			エサキヒメハナバチヤドリ	*Sphecodes esakii*				
4448			ナンブヤドリコハナバチ	*Sphecodes nambui*				
4449			ヤマトヤドリコハナバチ	*Sphecodes nipponicus*				
4450			ミズホヤドリコハナバチ	*Sphecodes scabricollis*				
4451		ハキリバチ科	ヒロバトガリハナバチ	*Coelioxys hiroba*				
4452			ヤノトガリハナバチ	*Coelioxys yanonis*				
4453			ハラアカヤドリハキリバチ	*Euaspis basalis*				
4454			シロオビキホリハナバチ	*Lithurgus collaris*				
4455			スミスハキリバチ	*Megachile humilis*				
4456			キヌゲハキリバチ	*Megachile kobensis*				
4457			バラハキリバチ本土亜種	*Megachile nipponica nipponica*				
4458			クズハキリバチ	*Megachile pseudomonticola*			DD	
4459			サカガミハキリバチ	*Megachile remota sakagamii*				
4460			オオハキリバチ	*Megachile sculpturalis*				
4461			ヒメハキリバチ	*Megachile spissula*				
4462			ヒメツツハキリバチ	*Megachile subalbuta*				
4463			スミゾメハキリバチ	*Megachile sumizome*				
4464			ツルガハキリバチ	*Megachile tsurugensis*				
4465			キバラハキリバチ	*Megachile xanthothrix*			NT	
4466			ヤスマツハキリバチ	*Megachile yasumatsui*				
4467			シロオビツツハナバチ	*Osmia exavata*				
4468			ツツハナバチ	*Osmia taurus*				
計	25目	384科	4,468種		0種	3種	76種	270種

注）配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和６年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.3-2(1)　現地調査（ライトトラップ法）により確認された昆虫類

No.	科名	種名	ライトトラップ（個体数）																	
			T1			T2			T3			T4			T5			T6		
			春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
1	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ		3																
2	カマキリ科	コカマキリ						1												
3	ツユムシ科	サトクダマキモドキ																		1
4	イナゴ科	コバネイナゴ						1												
5	ヒシバッタ科	コバネヒシバッタ															1			
6	ウンカ科	ゴマフウンカ															1			1
7	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ									1									
8	ヨコバイ科	キウィヒメヨコバイ					1													
9	カスミカメムシ科	ツマグロアオカスミカメ						1												
10	マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ																		1
11	オオホシカメムシ科	ヒメホシカメムシ						1												
12	ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ		1																
13	シマトビケラ科	シマトビケラ科の一種					3													
14	キバガ科	キバガ科の一種				2	1							2			1	2	2	
15	ヒゲナガキバガ科	フタクロボシキバガ																	1	
16	マルハキバガ科	ホソオビキマルハキバガ					1									1				
17	ハマキガ科	チャノコカクモンハマキ								1										
18		トビモンコハマキ			1															
19		ヨモギネムシガ		1			1													
20		コホソスジハマキ						1	1	1										
21	ツトガ科	ツトガ											1							
22		キムジノメイガ			1															
23		シロオビノメイガ									1									
24	シャクガ科	ユウマダラエダシャク							1											
25		クロクモエダシャク							1											
26		シャンハイオエダシャク											1							
27		マエキヒメシャク							1											
28		ウンモンオオシロヒメシャク							1											
29	シャチホコガ科	ウスキシャチホコ											1							
30	ヤガ科	ホソアオバヤガ						1												
31		ネスジシラクモヨトウ							2			1								
32		シマフコヤガ			1															
33		トビスジアツバ			1			1			1						1			
34		オオシラナミアツバ														1				
35		ソトウスグロアツバ								1										
36		ウンモンクチバ							2											
37	ヒメガガンボ科	ヒメガガンボ科の一種								1										
38	キノコバエ科	キノコバエ科の一種				1														
39	ハナアブ科	Eumerus属の一種		1																
40	シマバエ科	ヒラヤマシマバエ	1																	
41	オサムシ科	アトモンミズギワゴミムシ						1												
42		アオオサムシ					2													
43		コルリアトキリゴミムシ						1												
44		ウスオビコミズギワゴミムシ		1			3	3												
45		チビミズギワゴミムシ								1										
46		ヨツモンコミズギワゴミムシ					1													
47		ヒメツヤゴモクムシ			1			2			3			1			5			4
48	ハンミョウ科	ナミハンミョウ																	1	
49	ガムシ科	トゲバゴマフガムシ															1			
50		セマルケシガムシ						2												
51	シデムシ科	ヨツボシモンシデムシ							1		1									1
52	ハネカクシ科	クロズトガリハネカクシ					1	2		1						2				
53		アカバヒメホソハネカクシ					1													
54		Philonthus属の一種														1				
55		シンニセユミセミゾハネカクシ			4		5	14											1	
56	クワガタムシ科	コクワガタ			3															
57		ミヤマクワガタ		1																
58		ノコギリクワガタ		3																
59	コガネムシ科	アオドウガネ					3			1						1				
60		アカビロウドコガネ					1													
61		ハラゲビロウドコガネ	7																	
62		カブトムシ		2																
63	ヒメドロムシ科	キスジミゾドロムシ												1						
64	コメツキムシ科	コナガコメツキ								2										1
65		クシコメツキ	7						1											
66		ヒゲナガコメツキ							3											
67		オオナガコメツキ								1										
68	ベニボタル科	クロハナボタル																	1	
69	テントウムシ科	キイロテントウ							1											
70	キスイムシ科	マルガタキスイ						2										1		

表 4.3-2(2)　現地調査（ライトトラップ法）により確認された昆虫類

No.	科名	種名	ライトトラップ（個体数）																	
			T1			T2			T3			T4			T5			T6		
			春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
71	ヒラタムシ科	オオキバチビヒラタムシ																	1	
72	ネスイムシ科	オバケデオネスイ													1					
73	ケシキスイ科	クロハナケシキスイ															1			
74		モンチビヒラタケシキスイ													1					
75	アリモドキ科	クロホソアリモドキ					1													
76		タナカホソアリモドキ						1												
77	ホソカタムシ科	ベニモンヒメヒラタホソカタムシ								1										
78	コキノコムシ科	ヒゲブトコキノコムシ																	1	
79	ゴミムシダマシ科	ルリゴミムシダマシ			1															
80	カミキリムシ科	ワモンサビカミキリ																	1	
81	ハムシ科	サメハダツブノミハムシ											1							
82		ウリハムシ	1																	
83		カサハラハムシ	2																	
84	キクイムシ科	ツヅミキクイムシ												1						
85		クスノオオキクイムシ								1										
86		キクイムシ科の一種				1			1				8		2			1		
87	アリ科	オオハリアリ														1				
88		ナカスジハリアリ																	2	
89		ヨツボシオオアリ					1													
90		ハリブトシリアゲアリ			1															
91		キイロシリアゲアリ								1										
92		トビイロケアリ													1					
93		ヒメアリ						1												
94		アメイロアリ				2					1									
95		サクラアリ																1		
96		アミメアリ						1												
97	スズメバチ科	モンスズメバチ		2																
98	クモバチ科	Dipogon属の一種								1										
計	50科	98種	18	15	14	6	26	37	16	14	8	1	12	5	5	7	11	5	11	9

注）配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

表 4.3-3(1)　現地調査（ベイトトラップ法）により確認された昆虫類

No.	科名	種名	ベイトトラップ（個体数）																	
			T1			T2			T3			T4			T5			T6		
			春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
1	イシノミ科	イシノミ科の一種			2									1						
2	ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ									1									
3	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	61	11	41	13	11	30	1	24	24		20	2	1				72	15
4		ツチゴキブリ本土亜種						10												
5		キチャバネゴキブリ			1	8		2												
6	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ					1													
7		コバネハサミムシ														4	3			
8	マツムシ科	クチキコオロギ						1												
9	コオロギ科	ヒメコオロギ																		1
10		ミツカドコオロギ																		5
11		モリオカメコオロギ									1						1			
12		クマスズムシ			2		1	11		1	2									
13		ツヅレサセコオロギ											1	1		2				
14	カネタタキ科	カネタタキ																		1
15	アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ						1												
16	ヒバリモドキ科	マダラスズ															3	1		
17		ヒゲシロスズ											17	7					1	
18		シバスズ												1		1				1
19	ヒシバッタ科	コバネヒシバッタ							2				1							
20		ハラヒシバッタ															1			
21		ヤセヒシバッタ																1		
22	ヒシウンカ科	ヒシウンカ														1				
23	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ											1							
24	ヨコバイ科	トバヨコバイ																		1
25	サシガメ科	トビイロサシガメ			1											1				
26		クロトビイロサシガメ			1															
27	グンバイムシ科	ウチワグンバイ						1												
28	ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ														1				
29		クロホシカメムシ				1		2												
30	ナガカメムシ科	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ													2		1			1
31		オオモンシロナガカメムシ	1			3								1						
32	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ														1				
33	ツチカメムシ科	ヒメツヤツチカメムシ							1											
34		コツチカメムシ													1					
35	カメムシ科	シラホシカメムシ															1			
36	キノコバエ科	キノコバエ科の一種							2											
37	ショウジョウバエ科	Drosophila属の一種			72				1		6			10			44			5
38	シマバエ科	ヒラヤマシマバエ												1						
39	クロバエ科	オオクロバエ						1												
40	イエバエ科	イエバエ科の一種							8											
41	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ				1	1													
42	オサムシ科	ヒメゴミムシ							1											
43		アオオサムシ				1	1	2					1						2	
44		アトボシアオゴミムシ					1			3	1		4							
45		キボシアオゴミムシ											3							1
46		ムナビロアトボシアオゴミムシ											1							
47		オオスナハラゴミムシ						1	1											
48		セアカヒラタゴミムシ															5	1		25
49		クビボソゴミムシ					1	1		1									3	
50		スジアオゴミムシ																1		
51		ヒメケゴモクムシ																1		14
52		クロゴモクムシ									2						13			
53		ニセクロゴモクムシ																		19
54		フタホシスジバネゴミムシ			4														1	1
55		ツヤマメゴモクムシ							2			1								
56		クリイロコミズギワゴミムシ																1		
57		オオイクビツヤゴモクムシ				1														
58	タマキノコムシ科	タマキノコムシ科の一種				1														
59	シデムシ科	オオヒラタシデムシ			1	1									3					
60	ハネカクシ科	クロサビイロマルズオオハネカクシ	1																	
61	センチコガネ科	センチコガネ												3				1		
62	クワガタムシ科	コクワガタ			1															
63	コメツキムシ科	サビキコリ			1															
64		ヒメサビキコリ	1														3			
65	ヒラタムシ科	モンチビヒラタムシ											3							
66	テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ														3	1			
67	ケシキスイ科	モンチビヒラタケシキスイ																2		
68	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ			1															
69	ゴミムシダマシ科	カクスナゴミムシダマシ					2									3				
70	ハムシ科	マダラカサハラハムシ										1								

表 4.3-3(2)　現地調査（ベイトトラップ法）により確認された昆虫類

No.	科名	種名	ベイトトラップ（個体数）																	
			T1			T2			T3			T4			T5			T6		
			春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
71	ゾウムシ科	ケブカヒメカタゾウムシ							2											
72		ツヤツチゾウムシ				1														
73		チビヒョウタンゾウムシ							2											
74		サビヒョウタンゾウムシ							3											
75		ホソゲチビツチゾウムシ							1			1								
76	キクイムシ科	キクイムシ科の一種								1										
77	アリガタバチ科	ムカシアリガタバチ				1														
78	アリ科	アシナガアリ													1	6	5	1		
79		オオハリアリ				1	2	3				2	19	33		1				
80		ナカスジハリアリ							9	7	25									
81		クロオオアリ							10	3	2		36	5	29			4		
82		ヨツボシオオアリ					2													
83		キイロシリアゲアリ		1		18		2	300	14	162	54	27	63	5	55	14	2		
84		クロヤマアリ							79	12	6	8	29	15	61	3	15	15	396	45
85		トビイロケアリ	12	1	4	150	9	600	101			96			4					
86		ヒメアリ		720	360		252	4		2			8	24	10	3	8	105	2	
87		キイロヒメアリ	11			12										1	7	1	5	
88		アメイロアリ	18	84	84	276	7	24	544	40	246	42	16	16	180	21		8	108	5
89		アズマオオズアリ							7				1		60	5	63	4		
90		アミメアリ	1	5	10	66	7		5			18		1	3	2	6	7	18	4
91		トビイロシワアリ				330	23	2	44						3	102		14	60	11
計	43科	91種	106	822	586	885	321	698	1126	108	478	223	188	184	363	216	194	170	668	155

注）配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

(4) 底生生物調査結果

既存資料により確認された底生生物を表 4.4-1(1)～(4)に示す。

表 4.4-1(1)　既存資料により確認された底生生物

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
1	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	*Dugesia japonica*				
2			アメリカツノウズムシ	*Girardia dorotocephala*				
3	テムノケファーラ目	ヤドリフタツノムシ科	エビヤドリツノムシ	*Scutariella japonica*				
4	新生腹足目	タニシ科	マルタニシ	*Cipangopaludina chinensis laeta*			VU	
5			オオタニシ	*Heterogen japonica*			NT	
6			ヒメタニシ	*Sinotaia histrica*				
7		カワニナ科	カワニナ	*Semisulcospira libertina*				
8		カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサガイ	*Solenomphala debilis*				
9		エゾマメタニシ科	マメタニシ	*Parafossarulus manchouricus japonicus*			CR	
10	汎有肺目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ	*Galba cf. truncatula*			DD	
11			ヒメモノアラガイ	*Orientogalba ollula*				
12			モノアラガイ	*Radix auricularia japonica*			NT	
13			モノアラガイ科	Lymnaeidae				
14		サカマキガイ科	サカマキガイ	*Physella acuta*				
15		ヒラマキガイ科	カワコザラガイ	*Ferrissia nipponica*			CR	
16			ヒラマキガイモドキ	*Polypylis hemisphaerula*			NT	
17	イシガイ目	イシガイ科	マツカサガイ北東固有種	*Pronodularia cf. japanensis 3*				
－			イシガイ科	Unionidae				
18	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	*Corbicula fluminea*				
19		ドブシジミ科	ドブシジミ	*Musculium japonicum*				
20			マメシジミ	*Pisidium japonicum*				
－			マメシジミ属	*Pisidium* sp.				
21	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科	Lumbriculidae				
22	イトミミズ目	ヒメミミズ科	ヒメミミズ科	Enchytraeidae				
23		ミズミミズ科	エラオイミズミミズ	*Branchiodrilus hortensis*				
24			エラミミズ	*Branchiura sowerbyi*				
－			ミズミミズ亜科	Naidinae				
－			イトミミズ亜科	Tubificinae				
25	厚環帯目	ツリミミズ科	ツリミミズ科	Lumbricidae				
26	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	*Dina lineata*				
27			ビロウドイシビル	*Erpobdella testacea*				
28	ダニ目	アオイダニ科	アオイダニ属	Lebertia sp.				
29	ヨコエビ目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ	*Platorchestia joi*				
30		マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	*Crangonyx floridanus*				
31	ワラジムシ目	ミズムシ科（甲）	ミズムシ（甲）	*Asellus hilgendorfi hilgendorfi*				
32		ニセウオノエ科	エビノコバン	*Tachea chinensis*				
33	エビ目	ヌマエビ科	ミゾレヌマエビ	*Caridina leucosticta*				
34			トゲナシヌマエビ	*Caridina typus*				
35			ヌマエビ	*Paratya compressa*				
36			ヌカエビ	*Paratya improvisa*				
37		テナガエビ科	ミナミテナガエビ	*Macrobrachium formosense*				
38			ヒラテテナガエビ	*Macrobrachium japonicum*				
39			テナガエビ	*Macrobrachium nipponense*				
40			スジエビ	*Palaemon paucidens*				
41		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	*Procambarus clarkii*				
42		サワガニ科	サワガニ	*Geothelphusa dehaani*				
43		モクズガニ科	モクズガニ	*Eriocheir japonica*				
44			オオヒライソガニ	*Varuna litterata*				
45	カゲロウ目（蜉蝣目）	カワカゲロウ科	カワカゲロウ科	Potamanthidae				
46		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	*Ephemera japonica*				
－			モンカゲロウ属	*Ephemera* sp.				
47		ヒメシロカゲロウ科	ヒメシロカゲロウ属	*Caenis sp.*				
48		マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ	*Cincticostella elongatula*				
49			シリナガマダラカゲロウ	*Ephacerella longicaudata*				
－			マダラカゲロウ属	*Ephemerella* sp.				
50			アカマダラカゲロウ	*Teloganopsis punctisetae*				
51		コカゲロウ科	サホコカゲロウ	*Baetis sahoensis*				
52			フタモンコカゲロウ	*Baetis taiwanensis*				
53			シロハラコカゲロウ	*Baetis thermicus*				
－			コカゲロウ属	*Baetis* sp.				

表 4.4-1(2)　既存資料により確認された底生生物

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
55	カゲロウ目（蜉蝣目）	コカゲロウ科	タマリフタバカゲロウ	*Cloeon ryogokuense*				
－			フタバカゲロウ属	*Cloeon* sp.				
56			ヒメウスバコカゲロウ属	*Procloeon* sp.				
57			ウデマガリコカゲロウ	*Tenuibaetis flexifemora*				
－			コカゲロウ科	Baetidae				
58		フタオカゲロウ科	フタオカゲロウ属	*Siphlonurus* sp.				
59		チラカゲロウ科	チラカゲロウ	*Isonychia valida*				
60		ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	*Ecdyonurus yoshidae*				
－			タニガワカゲロウ属	*Ecdyonurus* sp.				
－			ヒラタカゲロウ科	Heptageniidae				
61	トンボ目（蜻蛉目）	イトトンボ科	キイトトンボ	*Ceriagrion melanurum*				EN
62			アオモンイトトンボ	*Ischnura senegalensis*				
63		カワトンボ科	ハグロトンボ	*Atrocalopteryx atrata*				要注意
64			ニホンカワトンボ	*Mnais costalis*				NT
65		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*			NT	CR
66			マルタンヤンマ	*Anaciaeschna martini*				
67			クロスジギンヤンマ	*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*				
68			ギンヤンマ	*Anax parthenope julius*				
69			コシボソヤンマ	*Boyeria maclachlani*				要注意
70			カトリヤンマ	*Gynacantha japonica*				NT
71			ミルンヤンマ	*Planaeschna milnei milnei*				要注意
72			サラサヤンマ	*Sarasaeschna pryeri*				EN
－			ヤンマ科	Aeschnidae				
73		サナエトンボ科	ヤマサナエ	*Asiagomphus melaenops*				要注意
74			ダビドサナエ	*Davidius nanus*				
75			ホンサナエ	*Shaogomphus postocularis*				VU
76			コオニヤンマ	*Sieboldius albardae*				
77			コサナエ	*Trigomphus melampus*				EN
－			サナエトンボ科	Gomphidae				
78		オニヤンマ科	オニヤンマ	*Anotogaster sieboldii*				
79		エゾトンボ科	オオヤマトンボ	*Epophthalmia elegans*				
80			コヤマトンボ	*Macromia amphigena amphigena*				NT
81		トンボ科	ショウジョウトンボ	*Crocothemis servilia mariannae*				
82			コフキトンボ	*Deielia phaon*				要注意
83			シオカラトンボ	*Orthetrum albistylum speciosum*				
84			オオシオカラトンボ	*Orthetrum melania melania*				
85			ウスバキトンボ	*Pantala flavescens*				
86			コシアキトンボ	*Pseudothemis zonata*				
87			アキアカネ	*Sympetrum frequens*				
－			トンボ科	Libellulidae				
88	カワゲラ目（セキ翅目）	カワゲラ科	ヤマトフタツメカワゲラ	*Neoperla niponensis*				
－			フタツメカワゲラ属	*Neoperla* sp.				
89			オオヤマカワゲラ	*Oyamia lugubris*				
90	カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*				NT
91			アメンボ	*Aquarius paludum paludum*				
92			ババアメンボ	*Gerris babai*			NT	EN
93			ハネナシアメンボ	*Gerris nepalensis*				CR
94			コセアカアメンボ	*Gerris gracilicornis*				
95			シマアメンボ	*Metrocoris histrio*				
96		ミズムシ科（昆）	ミズムシ（昆）	*Hesperocorixa distanti distanti*				
97			ミヤケミズムシ	*Xenocorixa vittipennis*			NT	CR
－			ミズムシ科（昆）	Corixidae				
98		コオイムシ科	コオイムシ	*Appasus japonicus*			NT	EN
99		タイコウチ科	タイコウチ	*Laccotrephes japonensis*				
100			ミズカマキリ	*Ranatra chinensis*				
101		マツモムシ科	コマツモムシ	*Anisops ogasawarensis*				
102			マツモムシ	*Notonecta triguttata*				
103	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	*Parachauliodes japonicus*				
104			ヘビトンボ	*Protohermes grandis*				
105	トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	*Cheumatopsyche brevilineata*				

表 4.4-1(3)　既存資料により確認された底生生物

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
106	トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	ナミコガタシマトビケラ	*Cheumatopsyche infascia*				
107			ウルマーシマトビケラ	*Hydropsyche orientalis*				
－			シマトビケラ属	*Hydropsyche* sp.				
108		ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	*Hydroptila* sp.				
109		コエグリトビケラ科	コエグリトビケラ属	*Apatania* sp.				
110		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	*Goera japonica*				
111		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ属	*Mystacides* sp.				
112		エグリトビケラ科	ホタルトビケラ	*Nothopsyche ruficollis*				
113		ケトビケラ科	トウヨウグマガトビケラ	*Gumaga orientalis*				
114	ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	ウスバガガンボ属	*Antocha* sp.				
115			ヒトエグサガガンボ	*Dicranomyia monostromia*				DD
116			Ormosia sp.	*Ormosia* sp.				
117		ガガンボ科	ヤマトティプラ亜属	*Tipula(Yamatotipula)* sp.				
－			ガガンボ科	Tipulidae				
118		チョウバエ科	チョウバエ属	*Psychoda* sp.				
119			Telmatoscopus sp.	*Telmatoscopus* sp.				
120		ユスリカ科	ケブカエリユスリカ属	*Brillia* sp.				
121			ハダカユスリカ属	*Cardiocladius* sp.				
122			セスジユスリカ	*Chironomus yoshimatsui*				
123			ユスリカ属	*Chironomus* sp.				
124			エダゲヒゲユスリカ属	*Cladotanytarsus* sp.				
125			ツヤユスリカ属	*Cricotopus* sp.				
126			カマガタユスリカ属	*Cryptochironomus* sp.				
127			スジカマガタユスリカ属	*Demicryptochironomus* sp.				
128			ホソミユスリカ属	*Dicrotendipes* sp.				
129			ケナガエリユスリカ属	*Gymnometriocnemus* sp.				
130			ナガスネユスリカ属	*Micropsectra* sp.				
131			ツヤムネユスリカ属	*Microtendipes* sp.				
132			コガタエリユスリカ属	*Nanocladius* sp.				
133			エリユスリカ属	*Orthocladius* sp.				
134			ニセケバネエリユスリカ属	*Parametriocnemus* sp.				
135			クロツヤエリユスリカ属	*Paratrichocladius* sp.				
－			ヤマトヒメユスリカ族	Pentaneurini				
136			ハモンユスリカ属	*Polypedilum* sp.				
137			ナガレツヤユスリカ属	*Rheocricotopus* sp.				
138			ウスギヌヒメユスリカ属	*Rheopelopia* sp.				
139			ナガレユスリカ属	*Rheotanytarsus* sp.				
140			ヒゲユスリカ属	*Tanytarsus* sp.				
141			ヌカユスリカ属	*Thienemanniella* sp.				
142			トクナガエリユスリカ属	*Tokunagaia* sp.				
143			ニセテンマクエリユスリカ属	*Tvetenia* sp.				
－			ユスリカ科	Chironomidae				
－		カ科	ナミカ亜科	Culicinae				
144		ブユ科	アシマダラブユ属	*Simulium* sp.				
145		ミズアブ科	ミズアブ科	Stratiomyidae				
146		アブ科	ウシアブ	*Tabanus trigonus*				DD
147		ミギワバエ科	ミギワバエ科	Ephydridae				
148		イエバエ科	イエバエ科	Muscidae				
149	コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ	*Agabus conspicuus*				VU
150			キボシケシゲンゴロウ	*Allopachria flavomaculata*			DD	EN
151			クロゲンゴロウ	*Cybister brevis*			NT	CR
152			ハイイロゲンゴロウ	*Eretes griseus*				
153			マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii*		特二	VU	CR
154			ウスイロシマゲンゴロウ	*Hydaticus rhantoides*				DD
155			ケシゲンゴロウ	*Hyphydrus japonicus*			NT	CR
156			ヒメケシゲンゴロウ	*Hyphydrus laeviventris laeviventris*			VU	EX
157			ツブゲンゴロウ	*Laccophilus difficilis*				EX
158			ルイスツブゲンゴロウ	*Laccophilus lewisius*			VU	EX
159			モンキマメゲンゴロウ	*Platambus pictipennis*				
160			ヒメゲンゴロウ	*Rhantus suturalis*				

表 4.4-1(4)　既存資料により確認された底生生物

No.	目名	科名	種名	学名	選定基準			
					①	②	③	④
－	コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ科	Dytiscidae				
161		ミズスマシ科	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis*			NT	CR
162			コミズスマシ	*Gyrinus curtus*			EN	VU
163			ミズスマシ	*Gyrinus japonicus*			VU	NT
164			オナガミズスマシ	*Orectochilus regimbarti regimbarti*				
－			オナガミズスマシ属	*Orectochilus* sp.				
－			ミズスマシ科	Gyrinidae				
165		コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ	*Haliplus eximius*			VU	EX
166			カミヤコガシラミズムシ	*Haliplus kamiyai*			EN	EX
167			マダラコガシラミズムシ	*Haliplus sharpi*			VU	DD
168		コツブゲンゴロウ科	コツブゲンゴロウ	*Noterus japonicus*				VU
169		ダルマガムシ科	クロコブセスジダルマガムシ	*Neochthebius granulosus*				NT
170		ガムシ科	タマガムシ	*Amphiops mater mater*				EN
171			セマルガムシ	*Coelostoma stultum*				
172			ルイスヒラタガムシ	*Helochares pallens*				DD
－			ガムシ科	Hydrophilidae				
173		ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ科	Elmidae				
174		ヒラタドロムシ科	クシヒゲマルヒラタドロムシ	*Eubrianax granicollis*				
175		ホタル科	ゲンジボタル	*Luciola cruciata*				
176			ヘイケボタル	*Luciola lateralis*				NT
177	ハネコケムシ目	カラクサコケムシ科	カラクサコケムシ科	Fredericellidae				
計	23目	76科	177種		0種	1種	23種	40種

注 1）種名及び配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2）表中の「-」は、他種と同種である可能性があるため、種数としてカウントしないことを示す。

5. 自主的に実施する環境保全対策

森戸川源流部（鉄塔 No.34～No.37）付近において確認された動植物及び生態系について、環境配慮の必要性を検討した結果、以下に示す環境保全対策を自主的に実施する。

(1) 植物の環境保全対策

植物について自主的に実施する環境保全対策は、表 5.1-1 に示すとおりである。

表 5.1-1　自主的に実施する植物の環境保全対策

環境保全対策の内容
・工事用地のうち、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育環境を保全するための植樹（緑化）を行う。また、伐採地が人工林の場合は、伐採後に植樹を行う。植栽する種は、人工林の場合は樹林を構成している樹種（スギやヒノキ）とし、人工林ではない樹林では、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。

(2) 動物の環境保全対策

動物について自主的に実施する環境保全対策は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1　自主的に実施する動物の環境保全対策

環境保全対策の内容
・工事用地のうち、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う。また、伐採地が人工林の場合は、伐採後に植樹を行う。植栽する種は、人工林の場合は樹林を構成している樹種（スギやヒノキ）とし、人工林ではない樹林では、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。

(3) 生態系の環境保全対策

生態系について自主的に実施する環境保全対策は、表 5.3-1 に示すとおりである。

表 5.3-1　自主的に実施する生態系の環境保全対策

環境保全対策の内容
・工事用地のうち、鉄塔用地以外の区域の伐採を行った場所については基本的に天然更新（萌芽更新）とするが、5 年経過して正常に更新が行われない場合や裸地化した場合は、生育・生息環境を保全するための植樹（緑化）を行う。また、伐採地が人工林の場合は、伐採後に植樹を行う。植栽する種は、人工林の場合は樹林を構成している樹種（スギやヒノキ）とし、人工林ではない樹林では、神奈川県が制定している「みどりの協定実施要綱」（昭和 51 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 10 月 1 日改正施行）に示されている「神奈川県土に適している高木・中木・低木及び芝等」表に記載されている樹種から選定して植栽する。

(4) オオタカの環境保全対策

実施区域外のオオタカについて、自主的に実施する環境保全対策は、表 5.4-1 及び図 5.4-1 に示すとおりである。

表 5.4-1　自主的に実施するオオタカの環境保全対策

対策を実施する範囲	環境保全対策の内容
重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.4-1　実施するオオタカの保全対策